

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集

だい たらう

台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

分 冊 I

盛 岡 市
(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集

だい たらう

台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

分 冊 I

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達の創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺構が消滅することはまことに惜しいことではあります、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。

このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、(財)岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置を取って参りました。

本報告書は、盛岡南新都市計画整備事業に関連して、平成11年度に調査した台太郎遺跡第23次調査結果をまとめたものであります。調査によって奈良～平安時代を中心とした集落跡をはじめ、中世の大規模な土坑墓群などが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました盛岡市開発部盛南開発課・盛岡市教育委員会をはじめ、関係各位に心より謝意を表します。

平成14年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例 言

1. 本報告書は、盛岡市向中野字向中野16-15ほかに所在する、台太郎遺跡第23次調査の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と盛岡市・地域振興整備公団の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号は次の通りである。
LE16-2269・ODT-99-23
4. 発掘調査期間は、平成11年4月16日～11月15日、発掘調査面積は27,800㎡である。
室内整理期間は、平成11年11月1日～平成12年3月31日、
平成12年6月1日～8月31日である。
野外調査担当：杉沢昭太郎・阿部眞澄・北村忠昭・山口俊規・吉田里和
小原眞一・溜浩二郎・熊谷佳恵
室内整理担当：杉沢昭太郎・阿部眞澄・北村忠昭・山口俊規・吉田里和
5. 本報告書の執筆は、Iを高橋與右衛門が、それ以外を杉沢・阿部・北村・山口が担当し、編集は杉沢が行った。
6. 遺物等の分析・鑑定は次の方々へ依頼した。
 - ・石質鑑定…花崗岩研究会
 - ・樹種同定…高橋利彦(木工舎ゆい)
 - ・種実同定…椿坂恭代(北海道大学埋蔵文化財調査室)
 - ・人骨鑑定…百々幸雄(東北大学大学院医学系研究科人体構造学講座)
7. 座標点の測量、空中写真撮影並びに地形図トレースは、次の機関に委託した。
 - ・座標点の測量……(株)吉田測量設計
 - ・空中写真撮影……(株)シン技術コンサル
 - ・地形図トレース…(株)ハイマーテック
8. 発掘調査において、次の機関の協力を得た。
盛岡市教育委員会・盛岡市開発部盛南開発課・地域振興整備公団
9. 野外調査や整理・報告書の作成には次の方々の協力・指導を頂いた。(50音順・敬称略)
井上雅孝(滝沢村教育委員会) 宇部則保(八戸市教育委員会)
長島栄一・松本知彦(仙台市教育委員会) 村田晃一(宮城県教育庁)
10. 野外調査では盛岡市・滝沢村をはじめとする地元の方々の協力をいただいた。
11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

[本文目次]

序

例言

I 調査に至る経過	5	10 出土遺物	351
II 遺跡の位置と立地	5	(1) 土師器・須恵器	351
1 遺跡の位置と地形・地質	5	(2) 中世陶磁器	406
2 遺跡の立地	5	(3) かわらけ	406
3 基本層序	7	(4) 木製品	410
4 周辺の遺跡と歴史的環境	8	(5) 金属製品	410
III 調査の方法と室内整理	13	(6) 土製品	425
1 野外調査の方法	13	(7) 石器・石製品	425
2 室内整理	15	(8) 近世陶磁器	447
IV 検出された遺構と遺物	29	V まとめ	472
1 古墳時代末から		遺構	472
平安時代の竪穴住居跡	29	VI 鑑定・分析	489
2 中世の竪穴建物跡	120	土坑類観察表	228
3 竪穴状遺構	132	焼土・炉跡観察表	246
4 掘立柱建物跡	144	溝・堀跡観察表	256
5 墓壙（中世）および土坑	157	土師器・須恵器観察表	453
6 焼土・炉跡	246	陶磁器観察表	463
7 堀・溝跡	255	木製品観察表	466
8 井戸跡	290	金属製品観察表	467
9 その他の遺構	295	銭貨観察表	468
(1) 円形周溝	295	土製品観察表	469
(2) 炭窯跡	301	台太郎23次かわらけ観察表	469
(3) 性格不明遺構	302	台太郎23次石器類観察表	470
(4) 柱穴群	311		

[図版目次]

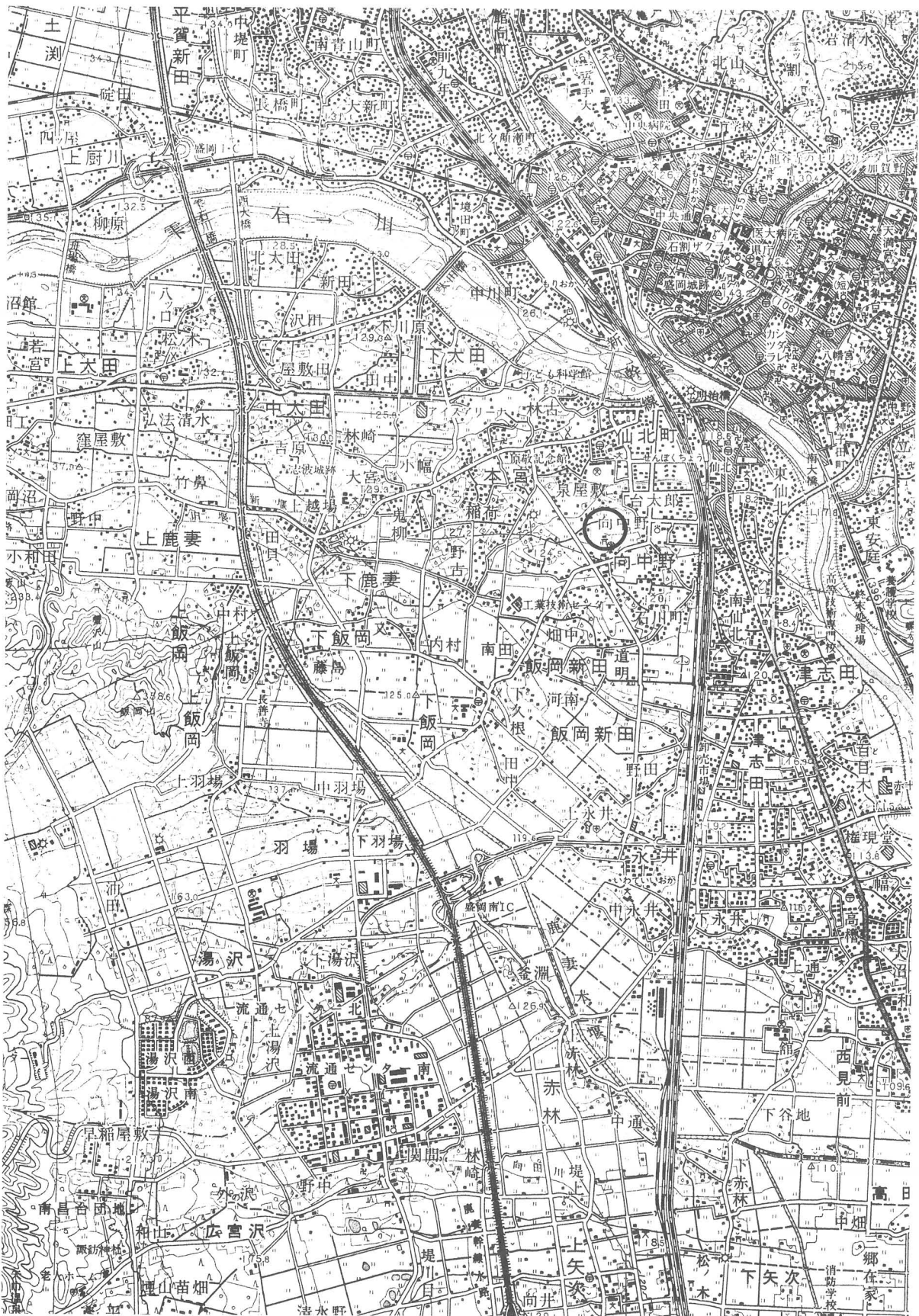
第1図 岩手県図に見る遺跡の位置	1	第17図 遺構配置図（6）	24
第2図 遺跡の位置	2	第18図 遺構配置図（7）	25・26
第3図 遺跡周辺地形図	3・4	第19図 遺構配置図（8）	27・28
第4図 遺跡周辺地形分類図	6	第20図 R A 174竪穴住居跡	30
第5図 基本土層柱状図	7	第21図 R A 201竪穴住居跡	31
第6図 周辺の遺跡分布図（古代）	9	第22図 R A 202竪穴住居跡	33
第7図 周辺の遺跡分布図（中・近世）	12	第23図 R A 203竪穴住居跡	35
第8図 グリッド配置図	14	第24図 R A 204竪穴住居跡（1）	36
第9図 凡例	15	第25図 R A 204竪穴住居跡（2）	37
第10図 周辺地形と遺構配置図（1）	16	第26図 R A 205竪穴住居跡	38
第11図 周辺地形と遺構配置図（2）	17・18	第27図 R A 206竪穴住居跡（1）	40
第12図 遺構配置図（1）	19	第28図 R A 206竪穴住居跡（2）	41
第13図 遺構配置図（2）	20	第29図 R A 207竪穴住居跡	42
第14図 遺構配置図（3）	21	第30図 R A 209竪穴住居跡	44
第15図 遺構配置図（4）	22	第31図 R A 210竪穴住居跡	45
第16図 遺構配置図（5）	23	第32図 R A 211竪穴住居跡	46

第33图	R A 219竖穴住居迹 (1)·····	47	第83图	R A 291竖穴住居迹 (3)·····	110
第34图	R A 219竖穴住居迹 (2)·····	48	第84图	R A 292竖穴住居迹·····	111
第35图	R A 223竖穴住居迹 (1)·····	49	第85图	R A 293竖穴住居迹 (1)·····	113
第36图	R A 223竖穴住居迹 (2)·····	50	第86图	R A 293竖穴住居迹 (2)·····	114
第37图	R A 225竖穴住居迹·····	51	第87图	R A 294竖穴住居迹 (1)·····	115
第38图	R A 226·245竖穴住居迹·····	53	第88图	R A 294竖穴住居迹 (2)·····	116
第39图	R A 230竖穴住居迹 (1)·····	54	第89图	R A 295竖穴住居迹·····	117
第40图	R A 230竖穴住居迹 (2)·····	55	第90图	R A 296竖穴住居迹·····	118
第41图	R A 231竖穴住居迹·····	56	第91图	R A 297竖穴住居迹·····	119
第42图	R A 233竖穴住居迹·····	58	第92图	R A 224竖穴建物迹·····	120
第43图	R A 234竖穴住居迹 (1)·····	59	第93图	R A 227竖穴建物迹·····	121
第44图	R A 234竖穴住居迹 (2)·····	60	第94图	R A 228竖穴建物迹·····	121
第45图	R A 235竖穴住居迹·····	62	第95图	R A 229竖穴建物迹·····	122
第46图	R A 236竖穴住居迹·····	63	第96图	R A 232竖穴建物迹·····	123
第47图	R A 237竖穴住居迹·····	64	第97图	R A 241竖穴建物迹·····	124
第48图	R A 238竖穴住居迹·····	65	第98图	R A 242竖穴建物迹·····	125
第49图	R A 239竖穴住居迹·····	66	第99图	R A 243竖穴建物迹·····	126
第50图	R A 240竖穴住居迹·····	68	第100图	R A 248竖穴建物迹·····	127
第51图	R A 244竖穴住居迹·····	69	第101图	R A 249竖穴建物迹·····	128
第52图	R A 246竖穴住居迹·····	70	第102图	R A 280竖穴建物迹·····	129
第53图	R A 247竖穴住居迹·····	71	第103图	R A 298竖穴建物迹·····	131
第54图	R A 273竖穴住居迹 (1)·····	73	第104图	R A 299竖穴建物迹·····	131
第55图	R A 273竖穴住居迹 (2)·····	74	第105图	R E 024·025·033竖穴状遺構·····	132
第56图	R A 274竖穴住居迹·····	75	第106图	R E 029竖穴状遺構·····	133
第57图	R A 275竖穴住居迹·····	76	第107图	R E 034竖穴状遺構·····	134
第58图	R A 276竖穴住居迹·····	77	第108图	R E 035竖穴状遺構·····	135
第59图	R A 277竖穴住居迹·····	78	第109图	R E 036竖穴状遺構·····	136
第60图	R A 278竖穴住居迹·····	80	第110图	R E 037竖穴状遺構·····	137
第61图	R A 279竖穴住居迹·····	81	第111图	R E 038·039竖穴状遺構·····	138
第62图	R A 208竖穴住居迹·····	82	第112图	R E 040竖穴状遺構·····	139
第63图	R A 212竖穴住居迹·····	83	第113图	R E 041·042竖穴状遺構·····	140
第64图	R A 213·214竖穴住居迹·····	85	第114图	R E 043·044竖穴状遺構·····	141
第65图	R A 215竖穴住居迹·····	86	第115图	R E 044·045竖穴状遺構·····	143
第66图	R A 216竖穴住居迹·····	86	第116图	R B 019掘立柱建物迹·····	144
第67图	R A 217竖穴住居迹·····	87	第117图	R B 022掘立柱建物迹·····	145
第68图	R A 218竖穴住居迹·····	89	第118图	R B 023掘立柱建物迹·····	147·148
第69图	R A 220竖穴住居迹·····	90	第119图	R B 024掘立柱建物迹·····	149
第70图	R A 281竖穴住居迹·····	91	第120图	R B 025掘立柱建物迹·····	150
第71图	R A 282竖穴住居迹·····	92	第121图	R B 026掘立柱建物迹·····	151
第72图	R A 283竖穴住居迹·····	93	第122图	R B 027掘立柱建物迹·····	152
第73图	R A 284竖穴住居迹·····	96	第123图	R B 029掘立柱建物迹·····	154
第74图	R A 285竖穴住居迹·····	97	第124图	R B 028掘立柱建物迹·····	155·156
第75图	R A 286竖穴住居迹·····	99	第125图	R D 266~271·275土坑·····	159
第76图	R A 287竖穴住居迹·····	100	第126图	R D 272~274·276~279·284·319土坑·····	160
第77图	R A 288竖穴住居迹·····	101	第127图	R D 280~283·285~287土坑·····	161
第78图	R A 288竖穴住居迹·····	102	第128图	R D 288~295·297土坑·····	162
第79图	R A 289竖穴住居迹·····	103	第129图	R D 296·298~301·305~307·480土坑·····	163
第80图	R A 290竖穴住居迹·····	105	第130图	R D 302~304·308~312·315土坑·····	164
第81图	R A 291竖穴住居迹 (1)·····	107·108	第131图	R D 313·314·316~318·324·325土坑·····	165
第82图	R A 291竖穴住居迹 (2)·····	109	第132图	R D 320~323·326土坑·····	166

第133图	R D 327~332土坑	167	第178图	R D 774~777 · 780 · 781土坑	212
第134图	R D 333~340土坑	168	第179图	R D 778 · 779 · 782~785 · 790土坑	213
第135图	R D 341~350土坑	169	第180图	R D 786~788 · 791~794土坑	214
第136图	R D 351~356 · 371 · 372 · 387 · 539土坑	170	第181图	R D 789土坑 (1)	215
第137图	R D 357~359 · 361~363 · 368 · 447 · 719 · 720土坑	171	第182图	R D 789 (2) · 795 · 797土坑	216
第138图	R D 364~367 · 369 · 370 · 373~377土坑	172	第183图	R D 798~801 · 808土坑	217
第139图	R D 378 · 380 · 381 · 383土坑	173	第184图	R D 809 · 812 · 815~817土坑	218
第140图	R D 382 · 384~386 · 388 · 389 · 689 · 722土坑	174	第185图	R D 818 · 821 · 824土坑 · 近世墓	219
第141图	R D 390~396 · 399土坑	175	第186图	R D 600~602 · 604 · 605土坑	220
第142图	R D 397 · 398 · 400 · 403 · 406~408 · 729 · 730土坑	176	第187图	R D 606 · 608 · 609 · 614 · 615 · 811土坑	221
第143图	R D 401 · 402 · 414~416 · 418 · 420 · 751土坑	177	第188图	R D 616~620土坑	222
第144图	R D 404 · 405 · 409 · 417 · 419 · 670土坑	178	第189图	R D 621 · 623~626土坑	223
第145图	R D 421~427 · 662 · 664土坑	179	第190图	R D 379 · 622 · 624 · 627 · 628 · 641 · 813 · 814土坑	224
第146图	R D 428~435 · 576土坑	180	第191图	R D 629~633 · 635土坑	225
第147图	R D 436~446 · 449 · 551土坑	181	第192图	R D 636~639 · 642 · 646土坑	226
第148图	R D 448 · 450~455土坑	182	第193图	R D 647~649土坑	227
第149图	R D 456 · 457 · 461~463 · 676土坑	183	第194图	R F 023 · 026 · 027 · 029 · 041 · 043~045 · 048 · 049烧土 · 炉跡	248
第150图	R D 458~460 · 721 · 731 · 735 · 736土坑	184	第195图	R F 025 · 028 · 030 · 031烧土 · 炉跡	249
第151图	R D 464~468 · 470土坑	185	第196图	R F 032~034烧土 · 炉跡	250
第152图	R D 469 · 471 · 472土坑	186	第197图	R F 035~037 · 039烧土 · 炉跡	251
第153图	R D 473~478 · 482土坑	187	第198图	R F 038 · 040烧土 · 炉跡	252
第154图	R D 479 · 481 · 483~487 · 489 · 492土坑	188	第199图	R F 042 · 046 · 047烧土 · 炉跡	253
第155图	R D 488 · 490 · 491 · 494~498土坑	189	第200图	R F 050 · 051烧土 · 炉跡	254
第156图	R D 499 · 531~537土坑	190	第201图	R G 溝 · 堀跡 (1)	260
第157图	R D 538 · 540~547土坑	191	第202图	R G 溝 · 堀跡 (2)	261 · 262
第158图	R D 549 · 552~555 · 595 · 690土坑	192	第203图	R G 溝 · 堀跡 (3)	263
第159图	R D 548 · 550 · 556 · 558~561 · 663土坑	193	第204图	R G 溝 · 堀跡 (4)	264
第160图	R D 557 · 562~569 · 573土坑	194	第205图	R G 溝 · 堀跡 (5)	265 · 266
第161图	R D 570~572 · 574 · 575 · 577~581土坑	195	第206图	R G 溝 · 堀跡 (6)	267 · 268
第162图	R D 582~585 · 587 · 590土坑	196	第207图	R G 溝 · 堀跡 (7)	269
第163图	R D 588 · 589 · 591~594 · 596土坑	197	第208图	R G 溝 · 堀跡 (8)	270
第164图	R D 597~599 · 650 · 651 · 657 · 661 · 665土坑	198	第209图	R G 溝 · 堀跡 (9)	271 · 272
第165图	R D 652~656 · 666 · 668 · 669土坑	199	第210图	R G 溝 · 堀跡 (10)	273 · 274
第166图	R D 658~660 · 667 · 671~673土坑	200	第211图	R G 溝 · 堀跡 (11)	275 · 276
第167图	R D 674 · 675 · 677~680 · 714~716土坑	201	第212图	R G 溝 · 堀跡 (12)	277
第168图	R D 681~688 · 691 · 693 · 694土坑	202	第213图	R G 溝 · 堀跡 (13)	278
第169图	R D 695~702土坑	203	第214图	R G 溝 · 堀跡 (14)	279
第170图	R D 703~712土坑	204	第215图	R G 溝 · 堀跡 (15)	280
第171图	R D 713 · 717 · 718 · 723 · 725~727土坑	205	第216图	R G 溝 · 堀跡 (16)	281
第172图	R D 724 · 728 · 732~734 · 735 · 761土坑	206	第217图	R G 溝 · 堀跡 (17)	281
第173图	R D 737~740 · 742土坑	207	第218图	R G 溝 · 堀跡 (18)	282
第174图	R D 741 · 743~747土坑	208	第219图	R G 溝 · 堀跡 (19)	283
第175图	R D 748~750 · 752 · 759 · 760 · 762土坑	209	第220图	R G 溝 · 堀跡 (20)	284
第176图	R D 763~767土坑	210	第221图	R G 溝 · 堀跡 (21)	285
第177图	R D 768~773土坑	211	第222图	R G 溝 · 堀跡 (22)	286
			第223图	R G 溝 · 堀跡 (23)	287
			第224图	R G 溝 · 堀跡 (24)	288
			第225图	R G 溝 · 堀跡 (25)	289

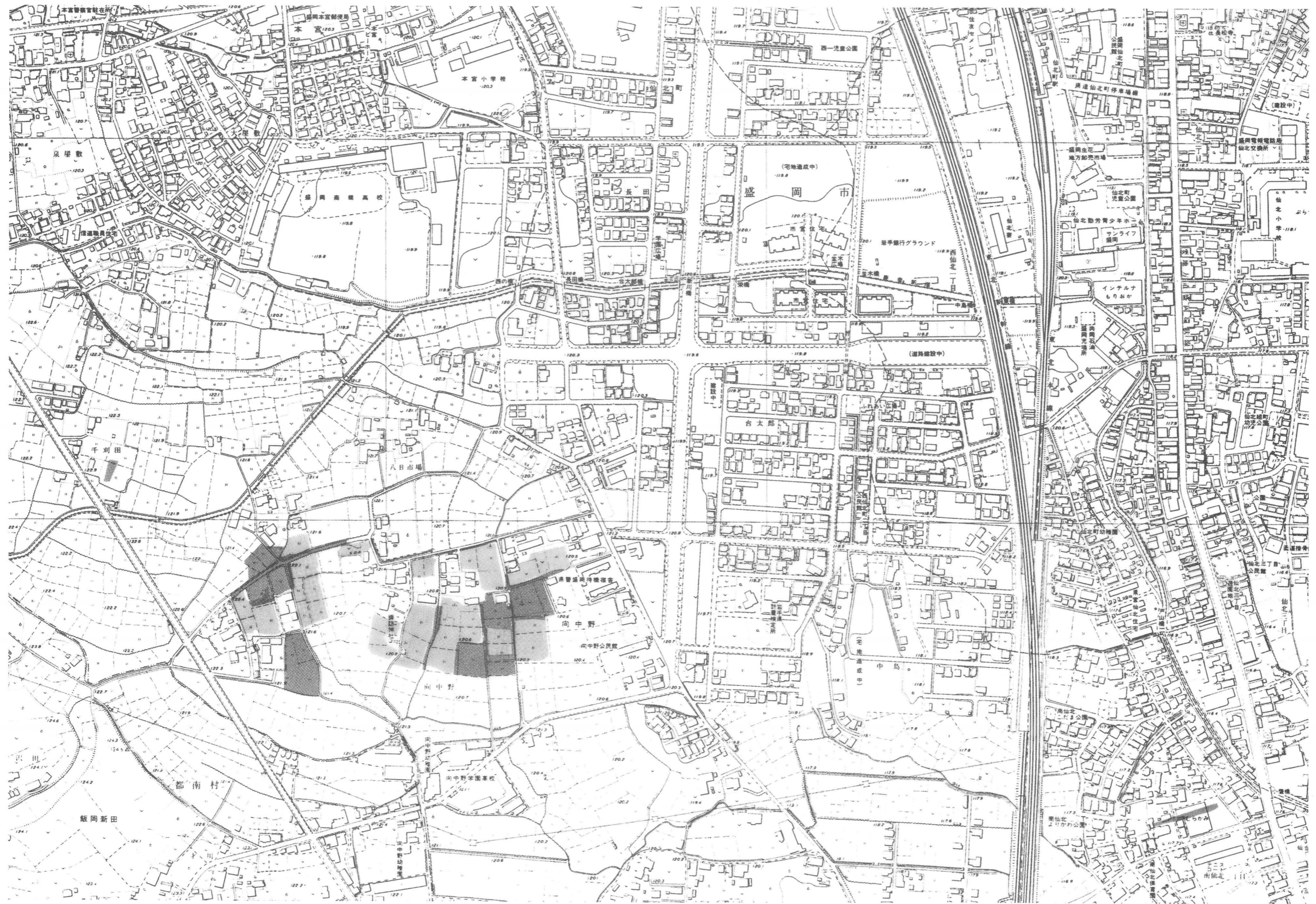
第226図	R G溝・堀跡 (26) ……………	290	第276図	土師器・須恵器 (5) ……………	357
第227図	R I井戸跡 (1) ……………	291	第277図	土師器・須恵器 (6) ……………	358
第228図	R I井戸跡 (2) ……………	292	第278図	土師器・須恵器 (7) ……………	359
第229図	R I井戸跡 (3) ……………	294	第279図	土師器・須恵器 (8) ……………	360
第230図	R Z 010円形周溝 ……………	295	第280図	土師器・須恵器 (9) ……………	361
第231図	R Z 013・015円形周溝 ……………	296	第281図	土師器・須恵器 (10) ……………	362
第232図	R Z 017円形周溝 ……………	297	第282図	土師器・須恵器 (11) ……………	363
第233図	R Z 018円形周溝 (1) ……………	298	第283図	土師器・須恵器 (12) ……………	364
第234図	R Z 018円形周溝 (2) ……………	299	第284図	土師器・須恵器 (13) ……………	365
第235図	R Z 019円形周溝 ……………	300	第285図	土師器・須恵器 (14) ……………	366
第236図	R Z 005炭窯跡 ……………	301	第286図	土師器・須恵器 (15) ……………	367
第237図	R Z 001性格不明遺構 ……………	302	第287図	土師器・須恵器 (16) ……………	368
第238図	R Z 002・003性格不明遺構 ……………	303	第288図	土師器・須恵器 (17) ……………	369
第239図	R Z 004・008・009性格不明遺構 ……	305	第289図	土師器・須恵器 (18) ……………	370
第240図	R Z 006・007・012性格不明遺構 ……	307	第290図	土師器・須恵器 (19) ……………	371
第241図	R Z 011性格不明遺構 (1) ……………	308	第291図	土師器・須恵器 (20) ……………	372
第242図	R Z 011性格不明遺構 (2) ……………	309	第292図	土師器・須恵器 (21) ……………	373
第243図	R Z 016性格不明遺構 ……………	310	第293図	土師器・須恵器 (22) ……………	374
第244図	柱穴群 (1) ……………	312	第294図	土師器・須恵器 (23) ……………	375
第245図	柱穴群 (2) ……………	313	第295図	土師器・須恵器 (24) ……………	376
第246図	柱穴群 (3) ……………	314	第296図	土師器・須恵器 (25) ……………	377
第247図	柱穴群 (4) ……………	315・316	第297図	土師器・須恵器 (26) ……………	378
第248図	柱穴群 (5) ……………	317・318	第298図	土師器・須恵器 (27) ……………	379
第249図	柱穴群 (6) ……………	319	第299図	土師器・須恵器 (28) ……………	380
第250図	柱穴群 (7) ……………	320	第300図	土師器・須恵器 (29) ……………	381
第251図	柱穴群 (8) ……………	321	第301図	土師器・須恵器 (30) ……………	382
第252図	柱穴群 (9) ……………	322	第302図	土師器・須恵器 (31) ……………	383
第253図	柱穴群 (10) ……………	323	第303図	土師器・須恵器 (32) ……………	384
第254図	柱穴群 (11) ……………	324	第304図	土師器・須恵器 (33) ……………	385
第255図	柱穴群 (12) ……………	325	第305図	土師器・須恵器 (34) ……………	386
第256図	柱穴群 (13) ……………	326	第306図	土師器・須恵器 (35) ……………	387
第257図	柱穴群 (14) ……………	327	第307図	土師器・須恵器 (36) ……………	388
第258図	柱穴群 (15) ……………	328	第308図	土師器・須恵器 (37) ……………	389
第259図	柱穴群 (16) ……………	329・330	第309図	土師器・須恵器 (38) ……………	390
第260図	柱穴群 (17) ……………	331・332	第310図	土師器・須恵器 (39) ……………	391
第261図	柱穴群 (18) ……………	333・334	第311図	土師器・須恵器 (40) ……………	392
第262図	柱穴群 (19) ……………	335・336	第312図	土師器・須恵器 (41) ……………	393
第263図	柱穴群 (20) ……………	337	第313図	土師器・須恵器 (42) ……………	394
第264図	柱穴群 (21) ……………	338	第314図	土師器・須恵器 (43) ……………	395
第265図	柱穴群 (22) ……………	339	第315図	土師器・須恵器 (44) ……………	396
第266図	柱穴群 (23) ……………	340	第316図	土師器・須恵器 (45) ……………	397
第267図	柱穴群 (24) ……………	341・342	第317図	土師器・須恵器 (46) ……………	398
第268図	柱穴群 (25) ……………	343・344	第318図	土師器・須恵器 (47) ……………	399
第269図	柱穴群 (26) ……………	345・346	第319図	土師器・須恵器 (48) ……………	400
第270図	柱穴群 (27) ……………	347・348	第320図	土師器・須恵器 (49) ……………	401
第271図	柱穴群 (28) ……………	349・350	第321図	土師器・須恵器 (50) ……………	402
第272図	土師器・須恵器 (1) ……………	353	第322図	土師器・須恵器 (51) ……………	403
第273図	土師器・須恵器 (2) ……………	354	第323図	土師器・須恵器 (52) ……………	404
第274図	土師器・須恵器 (3) ……………	355	第324図	土師器・須恵器 (53) ……………	405
第275図	土師器・須恵器 (4) ……………	356	第325図	中世の陶磁器 (1) ……………	407

第326図	中世の陶磁器 (2)	408	第350図	石器・石製品 (8)	435
第327図	かわらけ	409	第351図	石器・石製品 (9)	436
第328図	木製品 (1)	411	第352図	石器・石製品 (10)	437
第329図	木製品 (2)	412	第353図	石器・石製品 (11)	438
第330図	木製品 (3)	413	第354図	石器・石製品 (12)	439
第331図	木製品 (4)	414	第355図	石器・石製品 (13)	440
第332図	木製品 (5)	415	第356図	石器・石製品 (14)	441
第333図	金属製品 (1)	416	第357図	石器・石製品 (15)	442
第334図	金属製品 (2)	417	第358図	石器・石製品 (16)	443
第335図	金属製品 (3)	418	第359図	石器・石製品 (17)	444
第336図	銭貨 (1)	419	第360図	石器・石製品 (柱穴・遺構外) (18)	445
第337図	銭貨 (2)	420	第361図	石器・石製品 (遺構外) (19)	446
第338図	銭貨 (3)	421	第362図	近世の陶磁器 (1)	448
第339図	銭貨 (4)	422	第363図	近世の陶磁器 (2)	449
第340図	銭貨 (5)	423	第364図	近世の陶磁器 (3)	450
第341図	銭貨 (6)	424	第365図	近世の陶磁器 (4)	451
第342図	土製品	427	第366図	近世の陶磁器 (5)	452
第343図	石器・石製品 (1)	428	第367図	住居跡床面積・軸方向分布図 (1)	473
第344図	石器・石製品 (2)	429	第368図	住居跡床面積・軸方向分布図 (2)	476
第345図	石器・石製品 (3)	430	第369図	明治前半頃の絵図	479・480
第346図	石器・石製品 (4)	431	第370図	中世墓壙の軸方向分布図 (1)	486
第347図	石器・石製品 (5)	432	第371図	中世墓壙の軸方向分布図 (2)	487
第348図	石器・石製品 (6)	433			
第349図	石器・石製品 (7)	434	付 図 1	台太郎遺跡15・18・23・26次遺構配置図	



1 : 50,000 盛岡

第2図 遺跡の位置



第3図 遺跡周辺地形図 (1:5,000)

(濃いトーン：26次調査、薄いトーン：23次調査)

I 調査に至る経過

盛岡南新都市開発計画は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市を目指して、現在の既成市街地の他に南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都心を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、平成2年9月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が、地域振興整備公団に対して事業申請を行い、これを受けて公団は実施計画を作成した。平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成3年度から平成17年度までの15年間で事業予定期間とし、面積313haを対象とした土地区画整理事業が実施される事となった。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取扱いに付いても協議が重ねられた。その結果、盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、本調査を必要とする範囲を確定し、本調査は（財）岩手県文化振興事業団の受託事業とすることになった。

当遺跡については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果平成11年の事業として確定した。これを受けて、平成11年4月1日に（財）岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長の間で委託契約を締結し発掘調査を実施する事となった。台太郎遺跡の23次調査は平成11年4月16日に開始され、同年11月15日に終了した。

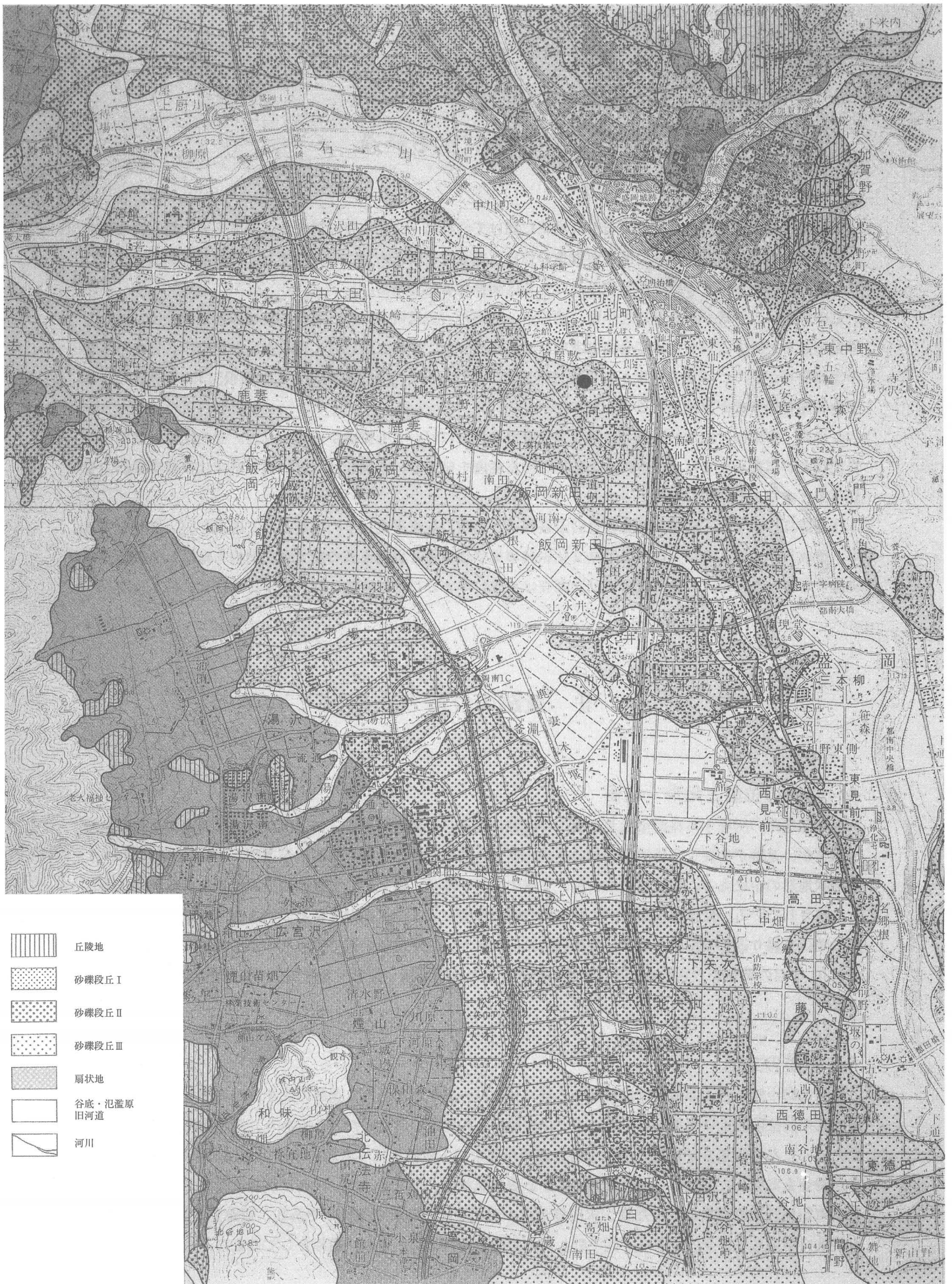
II 遺跡の位置と立地

1 遺跡の位置と地形・地質

台太郎遺跡の所在する盛岡市は北上川の中流域に発達した都市である。第4図に盛岡市周辺の地形分類図を示すが、遺跡が存在する盛岡市南部は奥羽山脈から供給された土砂を雫石川が運び、下流に平野を形成する扇状地の中にある。扇状地の形成後、支流の開析が及び、結果として遺跡周辺の現地形は低位段丘面として残されている。低位段丘面の下には支流の河川堆積による沖積面が広がっているが、度重なる氾濫と流路の変化を繰り返した結果、しばしば部分的に旧川床が沼地や湿地の形で残ったのがこの地域の地形的特徴であり、今回の調査からも大小に及んでその影響と思われる堆積・地形・地質変化の痕跡が確認されている。

2 遺跡の立地

盛岡市向中野の台太郎地区は街道筋から見て仙北町の裏手にあたり、遺跡の北を流れる雫石川によって形成された低位段丘上に立地している。古くは流路がこの場所を貫流したこともあり、堆積物によって地味が肥えていたため近年まで同様の環境を持つ盛岡西部太田・飯岡地区へと続く水田・畑作地帯の一角を成し、今回調査を実施した区域の現況も田畑が広がる農村風景の一部であった。現在は調査の原因でもある盛南開発新市街地区域の対象となった為、水田等からの開発造成が随所で進行中であり、遺跡名である「台太郎」も平成11年をもって全て字名を「向中野」内の町名に統合・廃止され、通称として残るのみとなっている。

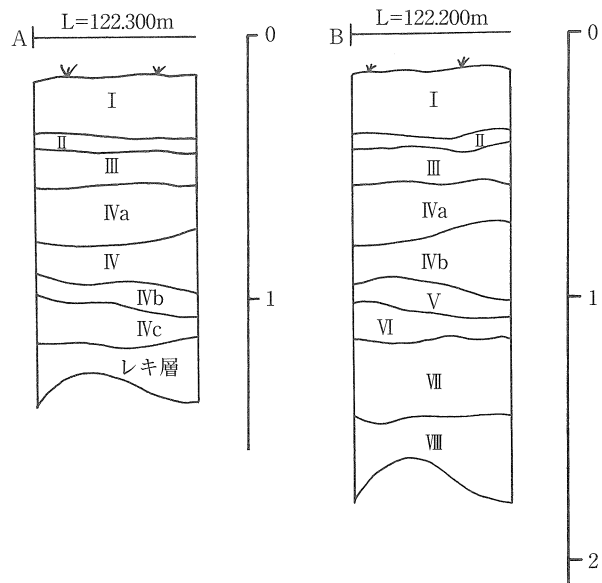


第4図 遺跡周辺地形分類図

3 基本層序

調査区は遺跡全体の中で中央から南側半分を部分的に調査する形となり、東から西へとなだらかに高くなっている。また旧地表面に関しては、これも河川の削剥によって北側から南側へ緩やかに下がっている。しかしながら全体的に耕地整備により地形改変を受ける箇所も少なくなく、各所にその影響は現れていた他、調査区の面積が28,000㎡強と広大なため、表土下の地層には部分的な個所でのみ含まれる層も存在し、決して一様ではない。その中で第5図はそれぞれ調査区東側4Eグリッドと西側3-Dグリッドで記録した代表的な基本層序を柱状模式図であらわしたものである。

- I層：黒褐色～暗褐色土。現在の表土層で休耕田及び畑地の耕作土である。層厚は10～30cmである。
- II層：褐色粘土で、層厚は3～4cm前後を測る。旧水田面の床土で下部には赤褐色の水酸化鉄の集積が顕著に見られる。
- III層：黒褐色シルト質土。上層の黒褐色土と下層の漸移層である。層厚は0～20cmで遺物を包含する。
- IVa層：褐色シルト質土。層厚は10～60cmで本遺跡における遺構検出面である。全体に堅く締まり粘性がある。
- IVb層：黄褐色シルト質土。締まりがあり粘性もある。層厚は10～30cm。
- IVc層：黄褐色砂質シルト。層厚は0～30cmで遺跡内では部分的に確認される。
- V層：黒褐色シルト質土。粘性・締まりやや有り。部分的にIV層内に見られ層厚は10～20cmを測る。
- VI層：段丘の基盤をなす砂礫層である。層厚は確認していない。遺跡南側の4A区等ではIV層を挟まないでIII層の次に現れる。砂や礫の堆積状況により細分可能である。下部には径10～30cm大の礫が見られる。



第5図 基本土層柱状図

4 周辺の遺跡と歴史的環境

(1) 古代

過去の調査を含めて台太郎遺跡からは古代の遺構・遺物が多数出土している。第6図は盛岡市南部、雫石川南・西岸で古代に属する遺跡を大凡の範囲で示したものであるが、地図上約2,260haには75もの遺跡が分布している。この中には台太郎遺跡より西方約2.5km、昭和51・52年東北自動車道建設に伴う発掘調査から、及びその後の範囲確認により所在地が明らかとなった国指定遺跡「志波城」(第6図上22)も存在しており、そのことからこの地域が古代に於いて重要な行政・生活域であったことが伺える。

(2) 中世

盛岡市の北部、北上川と雫石川の合流点近くには康平5年(1062)、前九年の役において安倍一族が籠城した厨川の柵、姫戸柵跡と目される安倍館(第7図・12)と里館遺跡が存在し、昭和61・62年に盛岡市教育委員会によって一部調査が実施されている。

台太郎遺跡南約150mの地点には平成10年度、県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われた中世城館、向中野館跡(第7図・2)が存在している。向中野館は「志和軍戦記」によれば飯岡氏の勢力域東方の押さえとされた館であり、発掘調査からは館主は特定できないものの、それ自体は幅約5mもの堀を構えた本格的な城館である。天文3年(1534)、それまで斯波郡に支配地域を置いていた斯波氏の北進によって滅亡に追いやられる飯岡氏だが、往時向中野館の他、北に太田館(現盛岡市太田)・南に大館(現盛岡市湯沢)、そして西に本城である飯岡館(現盛岡市飯岡山)と複数の城館を構えていたという。その領地の範囲から見て、仮に文献通りであれば中世において台太郎遺跡を含めこの地域一帯に影響力を持った有力な豪族であったと言えるだろう。

周辺を支配していた斯波氏は鎌倉時代から高水寺城(現紫波町日詰内郡山)に居館を構え、紫波御所とも称され奥州探題大崎氏の分流にあたり、足利将軍家とも遠縁となる名家であったが、天正16年(1588)三戸南部氏に攻め込まれ、家臣らのまとまりも欠き呆気なく滅亡する。戦いの中から南部氏の元へ出奔する者もあり、中野館(第7図・6)はその一人で九戸政実の弟とされる中野修理直康が入った館と伝えられている。

三戸南部氏を嗣いだ信直はこの後、天正18年、豊臣秀吉の奥州仕置、天正19年の九戸政実の乱を経てこの地域の支配を確立する。ここに及ぶ中世の期間には雫石川を挟んで当遺跡東西丘陵沿いの拠点に複数の城館が分布しており、その事は当地方の支配権を巡る争いが活発だったことを如実に物語っている。

(3) 近世・近代

天正18年に豊臣秀吉から本領安堵を受け、徳川幕府の元で南部藩を成した南部氏だが、祖は甲州清和流甲斐源氏とされている。鎌倉時代に甲斐より下向しその後この地方に土着したが、下向の際同行した譜代家臣の中に福士氏・三上氏がいた。盛岡城(第7図10)は天正年間には福士氏、福士慶善や福士(不来方)淡路が館を構えた場所であるが、領主南部信直が交通・防御の要所としてこの場所へ盛岡城築城を指示、文禄元年(1592)拠点工事を開始、慶長年間から寛永10年(1633)の完成を経て以後明治維新までの南部藩本城となった。それと同時期には三上氏が現在盛岡天満宮のある場所に居館しており、留守居の押を任されていたという。

築城より南部藩の城下町として確立した盛岡には幕府命により街道整備も行われた。慶長9年(1604)城下中心部鍛冶町には「奥州道中」139番目の一里塚が置かれ(第7図8)、これが領内一里塚全ての「元塚」



第6図 周辺の遺跡分布図（古代）

となった。奥州道中は台太郎遺跡の東側現仙北町中心街を通る、より盛岡城に近い道程へ切り替えられ地名向中野はこの街道沿いに商人街である仙北町・同心町の仙北組町、周辺部仙北町村、外辺部向中野村の4つに区分された。

台太郎地区はこのとき仙北村、ないしは向中野村いずれかに含まれていたと思われるが、天和2年(1682)の資料「封内貢賦記」によれば「向中野村 三つ七分七り九毛(年貢率) 高千百四十四石壺斗二合(石高1144石1斗2合)」「仙北町村 二つ一分一り五毛(年貢率) 同貳百四十壺五斗八舛五合(石高241石5斗8升5合)」の記載が見え、また「封内郷村志」では「向中野村縣向中野村、高千百十七石七斗余 馬百六疋 民戸六十六軒 此内十軒齊川…」とある。これらからはこの地域で江戸期において多くの農業生産があったことが判る。南部藩の版画「盛岡城下鳥●図会」(川井鶴亭筆)には当時の向中野・仙北町村地区と思しき場所が画面上に描かれているが、仙北・仙北組町に立ち並ぶ商家・民家の裏手には広大な水田と点在する民家・集落という当時の典型的な農村の姿が見てとれる。

「台太郎」という地名が登場するのは、明治8年より編纂された「岩手県管轄地誌」内の「陸中国岩手郡向中野村」の頁である。「千刈田 八日市場 向中野 台太郎…」と記され、ここで始めて正式に台太郎が向中野・仙北町村と分離した。これらの文献資料に加え今回の調査からは近世民家や井戸跡も多数発見されており、遺跡周辺には近世・近代には既に街道部と商業・農業を担った盛岡の外縁域として現在に続く姿があったと思われる。

(山口俊規)

周辺の遺跡一覧表(古代)

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
1	台太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・陶磁器・古銭・鉄器・木製品・石製品・羽口、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝・堀跡・井戸跡・炉跡
2	向中野館	城館跡・集落跡	古代・中世	土師器・陶磁器、竪穴住居跡・土坑・堀・土塁・溝跡
3	飯岡沢田	集落跡	古代	竪穴住居跡・古墳
4	飯岡才川	集落跡	縄文・古代	土師器、陥し穴・溝跡
5	細谷地	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
6	矢盛	散布地	古代	土師器
7	本宮熊堂A	集落跡	古代	土師器
8	本宮熊堂B	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
9	稲荷	集落跡	古代	土師器
10	野古A	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
11	野古B	散布地	古代	土師器
12	宮沢	集落跡	古代	土師器
13	小幡	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡・溝跡・土坑・円形周溝
14	鬼柳A	集落跡	古代	土師器
15	鬼柳B	集落跡	古代	土師器
16	鬼柳C	集落跡	古代	土師器
17	八ツ口	散布地	古代	土師器
18	八掛	集落跡	古代	土師器、土坑・竪穴住居跡
19	田中	散布地	古代	土師器
20	林崎	集落跡	古代	土師器・須恵器、竪穴住居跡・掘立柱建物跡
21	小沼	集落跡	古代	土師器・緑釉陶器、竪穴住居跡
22	志波城	城柵跡	古代	土師器・須恵器、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・門跡・築地・堀跡・大溝
23	大宮北	集落跡	古代	土師器

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
24	大宮	集落跡	古代・中世	土師器、竪穴住居跡
25	鬼柳一里塚	塚跡	近世	
26	新堰端	城柵跡	縄文・古代	縄文土器（晩期）・土師器、土坑・大溝・竪穴住居跡
27	竹花前	集落跡	古代	土師器・緑釉陶器、竪穴住居跡
28	田貝	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
29	石仏	集落跡	古代	土師器
30	水門	集落跡	古代	土師器
31	上越場A	集落跡	古代	土師器
32	上越場B	集落跡	古代	土師器
33	堤	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器
34	高館古墳跡	古墳	古代	蕨手刀・切子玉・土師器
35	大柳I	集落跡	古代	土師器・須恵器
36	大柳II	散布地	古代？	土師器？
37	辻屋敷	集落跡	古代	土師器
38	藤島I	集落跡	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器
39	藤島II	散布地	平安	土師器
40	二又	散布地	古代	土師器・須恵器
41	西田A	集落跡	古代	土師器
42	西田B	集落跡	古代	土師器・須恵器
43	内村	集落跡	古代	土師器・須恵器
44	前田	集落跡	古代	土師器
45	中屋敷	散布地	古代	土師器
46	遺跡名不明	散布地	古代	土師器・須恵器
47	飯岡林崎II	集落跡	古代	土師器・須恵器・硯、竪穴住居跡
48	飯岡林崎I	集落跡	古代	土師器
49	深淵I	集落跡	古代	竪穴住居跡
50	深淵II	集落跡	古代	竪穴住居跡
51	高屋敷I	散布地	古代	須恵器
52	高屋敷II	散布地	古代	土師器・須恵器
53	上新田	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
54	熊堂I	集落跡	縄文・古代	縄文土器・石器・土師器、竪穴住居跡
55	熊堂III	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡
56	熊堂II	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡
57	西	集落跡	古代	土師器、竪穴住居跡
58	下久根I	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器
59	下久根II	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器
60	石持	散布地	古代	土師器・須恵器
61	夕覚	散布地	古代	土師器
62	法領権現塚	祭祀跡		
63	南谷地	集落跡	古代	土師器・須恵器・竪穴住居跡
64	田中	集落跡	古代	土師器・須恵器・打製石器・石斧
65	松島	集落跡	古代	土師器・須恵器
66	葛本	散布地	古代	土師器・打製石器
67	横屋	集落跡	古代	土師器・須恵器
68	陣当	集落跡	古代	
69	長沼	散布地	古代	
70	境田	散布地	古代	土師器
71	赤坂II	散布地	平安？	土師器
72	砂子塚	散布地	古代	塚
73	隠幡	散布地	縄文・古代	縄文土器・土師器・須恵器
74	新井田I	散布地	古代	土師器・須恵器
75	新井田II	散布地	古代	土師器・須恵器
76	新田	集落跡	古代	土師器・須恵器



第7図 周辺の遺跡分布図(中・近世)

周辺の遺跡一覧表（中・近世）

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物など
2	向中野館	城館跡・集落跡	平安・中世	土師器・陶磁器、竪穴住居跡・土坑・堀・土塁・溝跡
1	台太郎	集落跡	古代・中世・近世	土師器・須恵器・陶磁器・古銭・鉄器・木製品・石製品・羽口、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝・堀跡・井戸跡・炉跡
8	鍛冶町一里塚	一里塚	近世	塚残存せず
4	花垣館 (花坂館)	城館跡	中世	郭
5	中野館	城館跡	中世	
6	新山館	城館跡・集落跡	古代・中世・近世	土師器、竪穴住居跡・井戸・藩校跡
7	葛西館	城館跡	縄文～古代・中世	縄文土器、郭・腰郭
5	安庭館	城館跡・散布地	縄文～中世	縄文土器（中・後期）・土師器、郭・腰郭
12	安倍館 (厨川城)	城館跡・散布地	縄文～中世	縄文土器（早期）・陶磁器、郭・堀跡
10	宿田南	集落跡	中世・近世	陶磁器・建物跡
7	愛宕山	寺院跡	近世	寺院基壇跡
10	盛岡城	城館跡	中世・近世	かわらけ・陶磁器・瓦、石垣・堀・柵跡
10	慶善館 (不来方北館)	城館跡	中・近世	
10	淡路館 (不来方南館)	城館跡	中・近世	

Ⅲ 調査の方法と室内整理

1 野外調査の方法

(1) グリッドの設定と遺構名

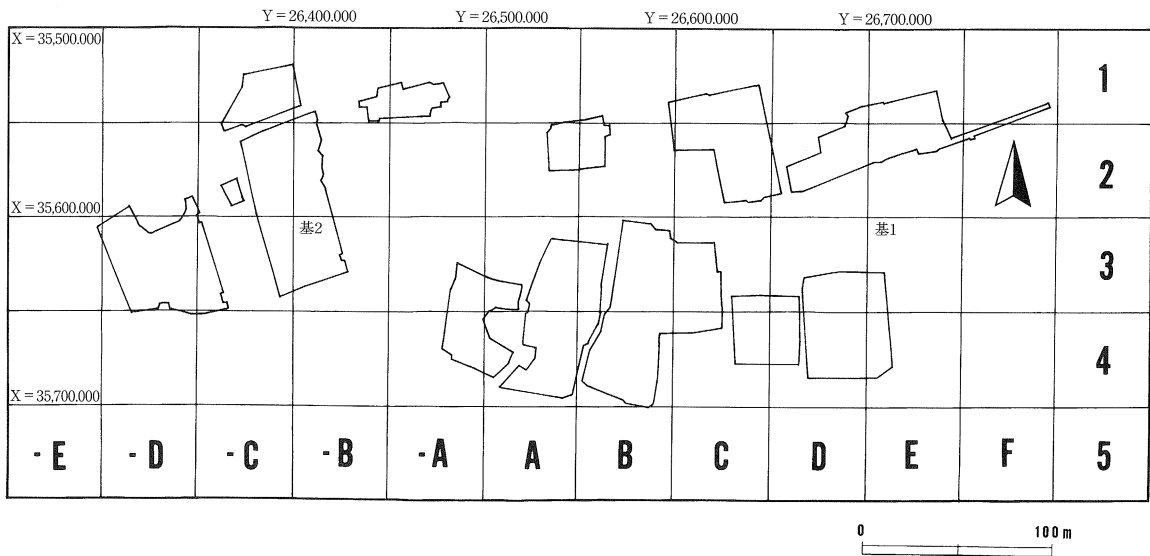
グリッドは平面直角座標（第X系）に合わせた。本遺跡のこれまでの調査で用いられたグリッドと同じ方式である。調査区内に基点を数ヶ所設け、これを東西及び南北方向に結んで基準線を設定した。基準線を延長して大グリッドは一辺が50m、小グリッドは大グリッドの各辺を25等分して一辺2mとしている。大グリッドは原点から南方向には1・2・3…の番号、東方向にはA・B・C…のアルファベットを付して1A・2Aと呼称した。さらに小グリッドも北から1～25、西からa～yを付し1A1a・1B3d等の基本グリッドを設定した。23次調査の基準杭の座標は以下の通りである。

基1 X = -35,600.000 Y = 26,700.000 H = 120.504m

基2 X = -35,600.000 Y = 26,400.000 H = 120.552m

(2) 粗掘り・遺構検出

雑物撤去後に調査区内にトレンチを設定し遺物の包含状況、層位の検討、遺構の確認面を把握した。現況が休耕田・畑地であったために調査区の大部分では古代・中世の生活面は残存しておらず、多くは遺構確認面まで重機を用いて表土及び耕作土を除去した。ただ遺物を多く包含する層は人力によって表土を除去した。遺構の確認は表土を除去した面を芝ジョレン、両刃鎌で平滑にしプランを確認するようにした。



第8図 グリッド配置図

(3) 遺構の命名

検出された遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に従い、次の通りに行っている。各遺構の番号は昨年度調査からの通し番号と欠番となっていたもの等で付した。

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 竪穴住居跡……R A〇〇 | 掘立柱建物跡……R B〇〇 | 柱穴列 ……R C〇〇 |
| 土 坑……R D〇〇 | 竪穴状遺構 ……R E〇〇 | 炉・焼土……R F〇〇 |
| 溝跡・堀跡……R G〇〇 | 井戸跡 ……R I〇〇 | その他 ……R Z〇〇 |

(4) 遺構の精査と遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構を4分法、土坑類・焼土については2分法を原則として精査を行ったが、必要に応じてその他の方法も併用した。記録として必要な図面及び写真の撮影は、精査の各段階において適宜これを行った。遺構の平面実測にあたっては原則として簡易遣り方測量で1m方眼に細分したメッシュを用いて行った。また平板測量も用いた。実測図は原則として1/20の縮尺を用い、平面図と断面図を作成した。なお、カマド・焼土・炉については1/10の縮尺を用いた。遺構内出土の遺物は、埋土の場合上層・下層に分けて取り上げ、床面及び床面直上の遺物は、必要に応じて番号を付け、写真撮影、図面作成後に取り上げた。遺構外出土遺物については、調査区毎に出土した層位を記して取り上げた。

(5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ2台(モノクロ)と35mm判カメラ4～6台(モノクロ、カラー・リバーサル)を使用した。この他にボラロイドカメラを補助的に用いた。また各遺跡の調査終了直前にはラジコンヘリによる空中写真を撮影した。

(6) その他

現地説明会を平成11年10月3日に開催した。また、盛岡市立飯岡中学校生徒2名の職場体験学習に協力した。その他、個人や団体の見学希望があった場合はすべてに応じ、各遺跡の様子、出土遺物の説明をした。

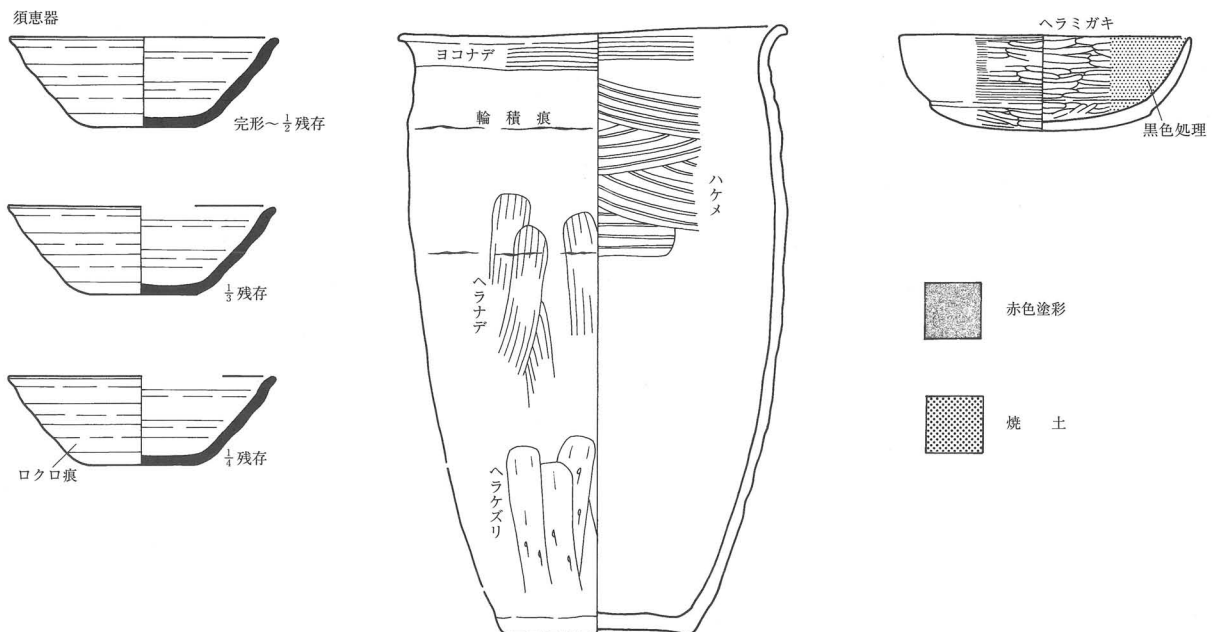
2. 室内整理

(1) 遺構

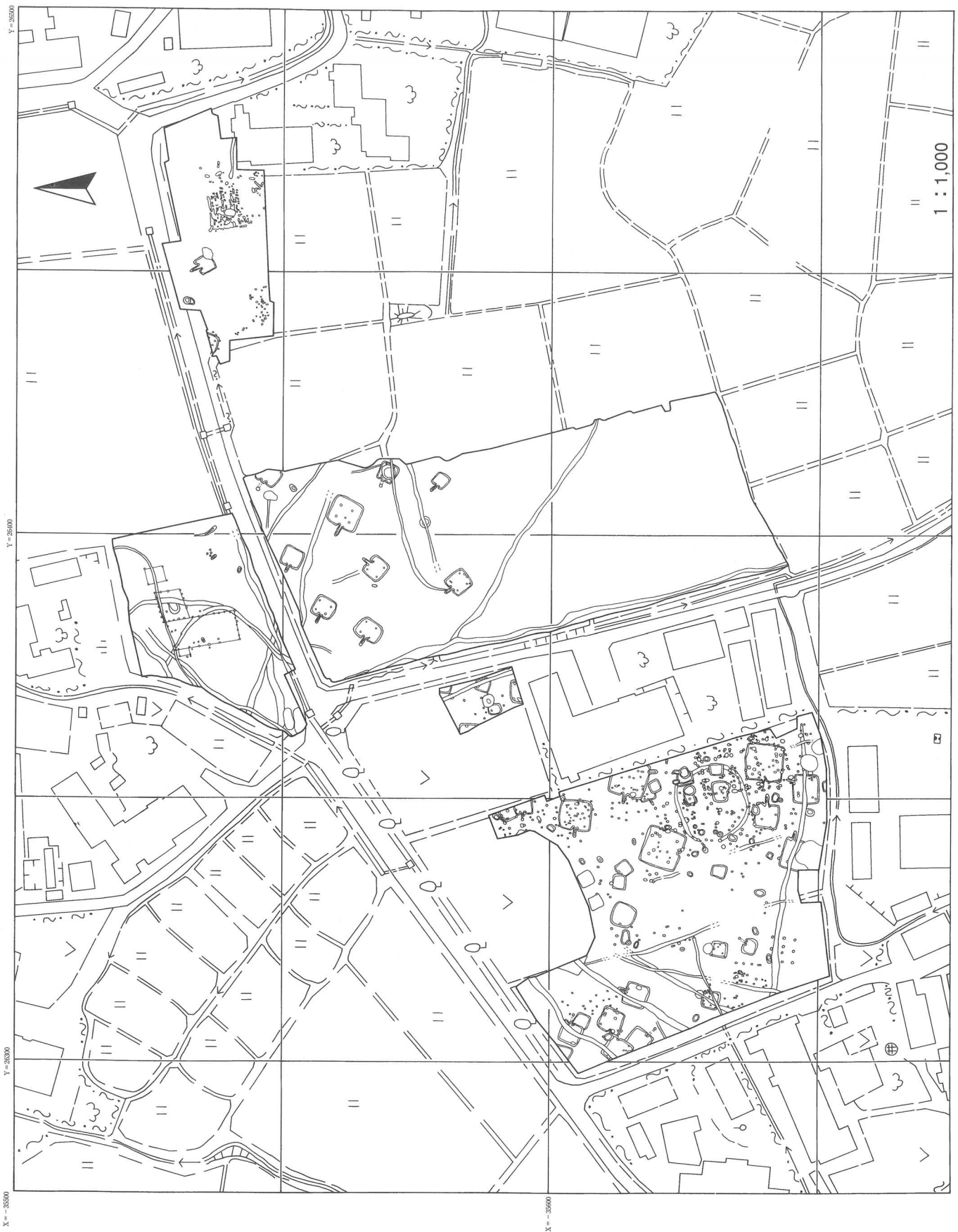
遺構配置図は1/1000・500で掲載した。各遺構図面は以下の縮尺を原則としたが、一部に変更もあり、図面にはそれぞれスケールを付した。竪穴住居跡・竪穴状遺構・井戸跡・その他の遺構…1/60、掘立柱建物跡…1/100、焼土・炉・土坑…1/50、溝跡…平面1/300、断面1/40、柱穴…1/150。竪穴住居跡や掘立柱建物跡の軸方向は、座標軸からの角度で、平面図における北印も座標北を示す（調査区の基準点1における真北方向角は0度11分55秒西偏する）。竪穴住居跡の床面積は、壁面の下端をデジタル式のプランニメーター（エリアカーブメーター）によって3回計測し、その平均値を記載した。

(2) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なもの（口縁・底部が1/4以上残存）に限ったが、一部は平面実測して掲載した。また、須恵器や銭貨などは拓本を用いた。掲載遺物の縮尺率は下記の通りであるが、これらにも一部変更があり図版には縮尺率を付けた。土器・礫石器・拓本…1/3、大型の土器・石器…1/4・1/5、その他の遺物…1/2・1/3。遺物写真の縮尺については、概ね実測図に準じている。また、実測図版中に土器の調整技法の表現や、使用したスクリントーンの指示については以下に示した。



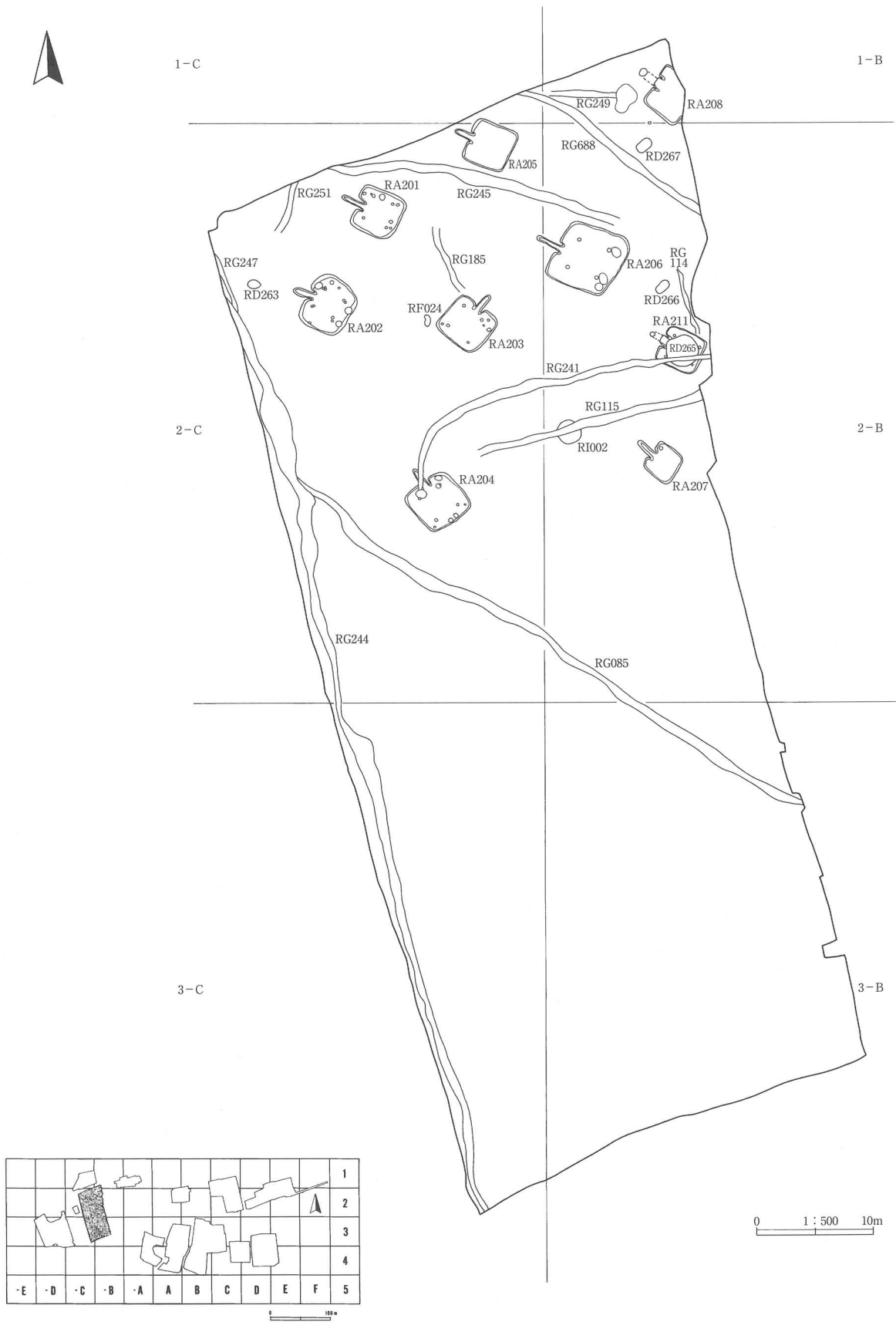
第9図 凡例



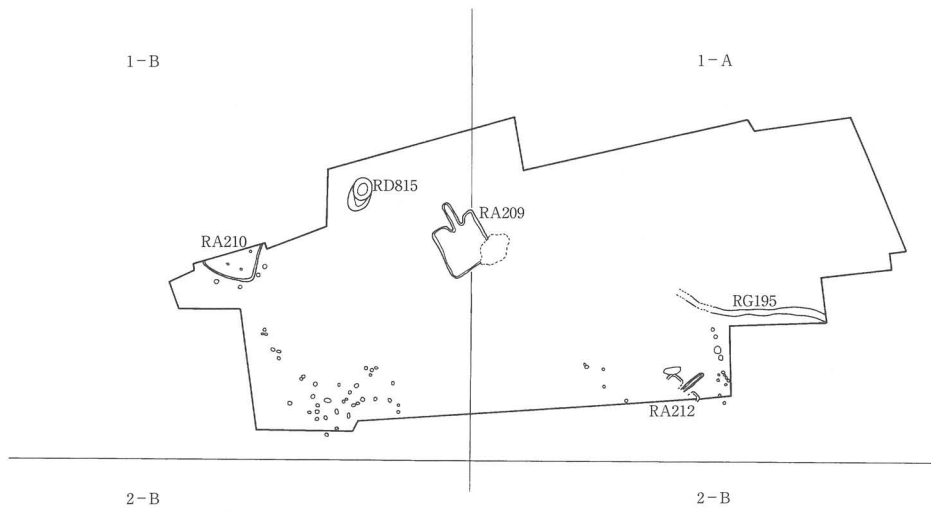
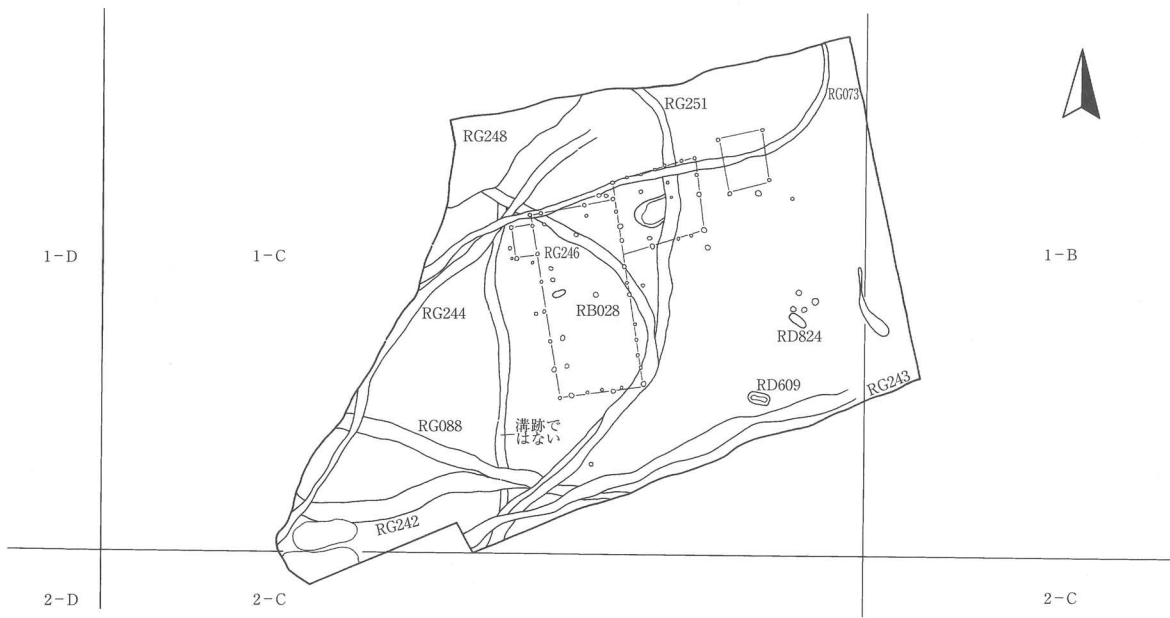
第10図 周辺地形と遺構配置図(1)



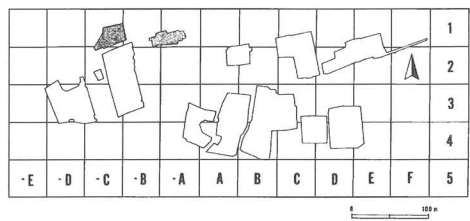
第11図 周辺地形と遺構配置図(2)



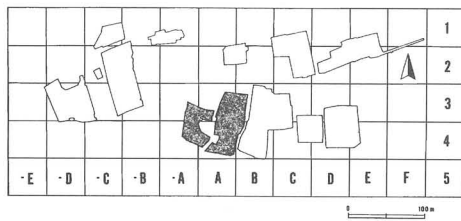
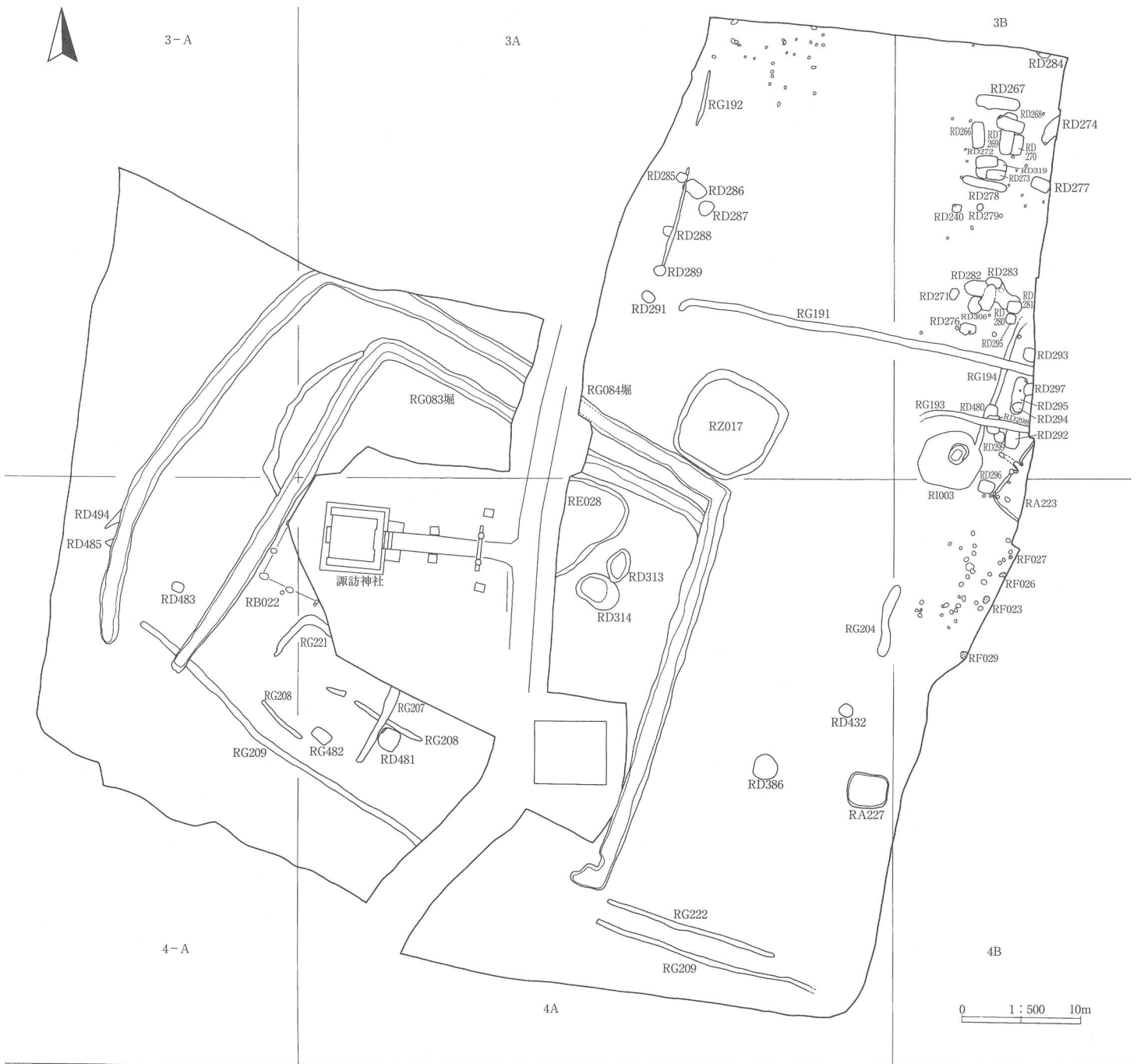
第13図 遺構配置図(2)



0 1 : 500 10m



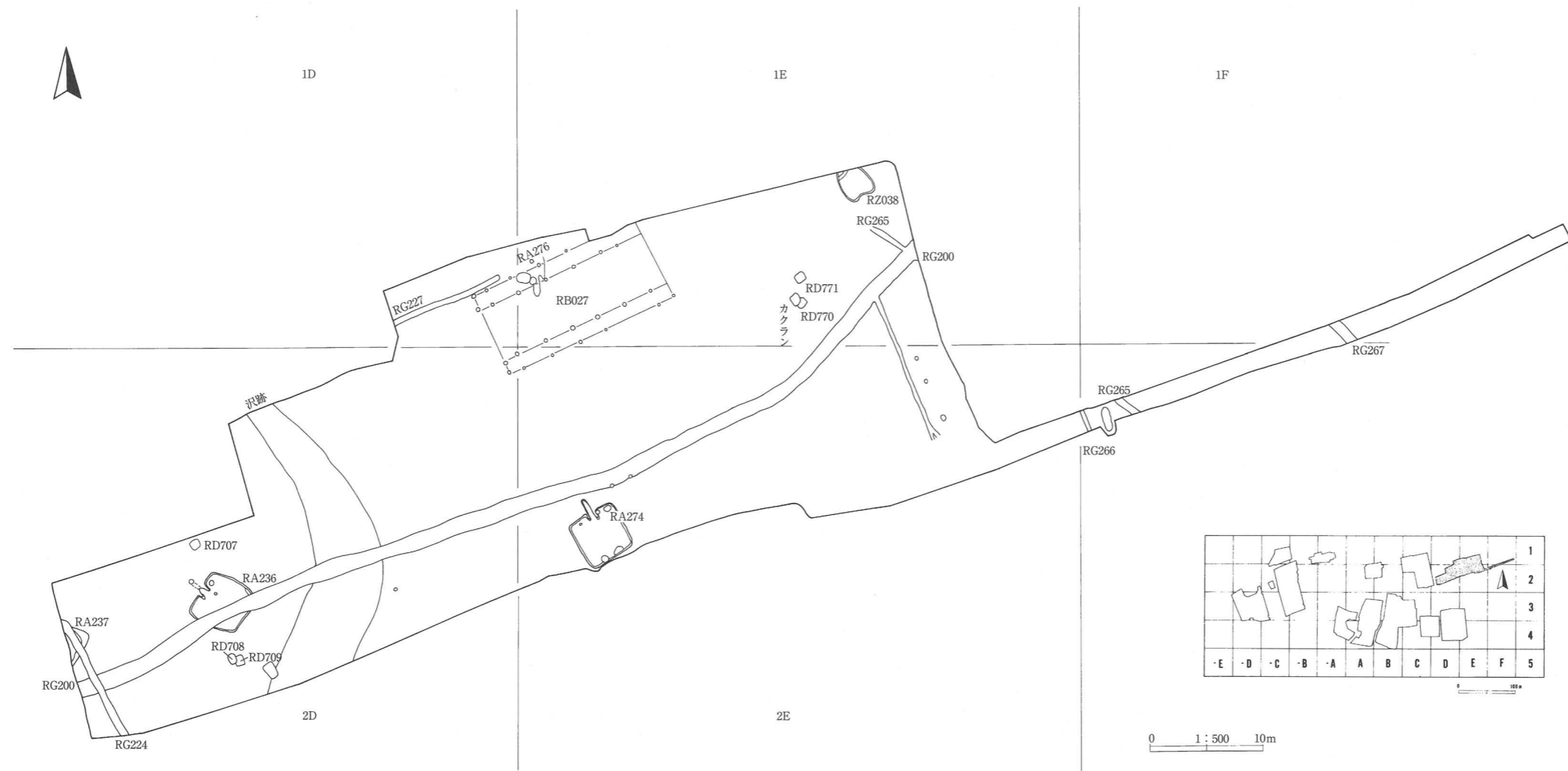
第14図 遺構配置図(3)



第15図 遺構配置図(4)



第16図 遺構配置図(5)



第19図 遺構配置図(8)

IV 検出された遺構と遺物

1 古墳時代末から平安時代の竪穴住居跡

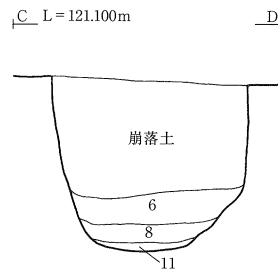
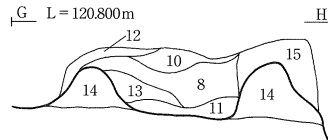
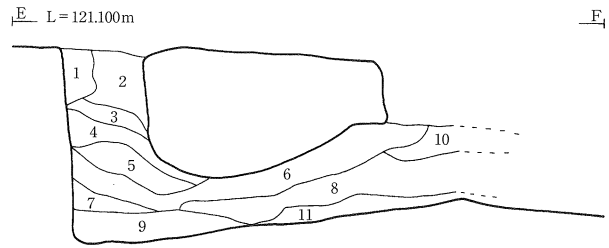
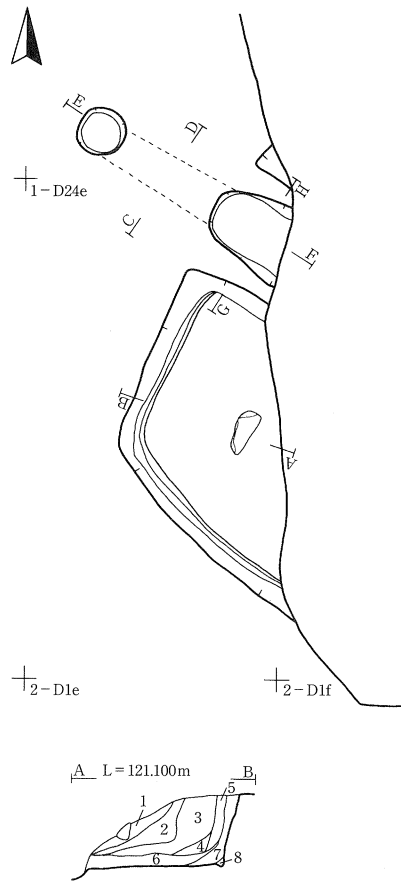
竪穴住居跡は古墳時代末から奈良時代・平安時代に属するものが合計62棟検出されている。台太郎遺跡の範囲は東西約700m、南北約500mと広大で、今回の23次調査ではこの遺跡の中央部付近から南端までと東西方向は東端・西端に少し届かない位を対象とし、その中の第3図で示した範囲を調査している。竪穴住居跡の分布を見ると古墳時代末から奈良時代の竪穴住居跡は調査区中央から東側と調査区西側に分布しており、平安時代の竪穴住居跡は調査区東端にのみ濃密に分布する傾向がみられる。各遺構の事実記載に際し、所在はグリッドと本遺跡中のどの辺に位置するかを簡単に記した。遺物については出土状況を中心とした記載にし、各遺物の諸特徴は第10節及び遺物観察表を別に作成した。なお、出土遺物に関しては、何がどれだけ出土しているのかを表現する一手段として遺物の個体数を示した。これは担当者が出土遺物のすべてを実見し、土器類でいえば口縁部や底部の破片を中心に各個体を見比べて主観的に数えたものであり破片数・重量などから計算式を用いて割出したものではない。また、遺構内出土遺物という括りにして埋土出土、床面出土の遺物を一緒にして数えている。つまりその遺構に伴うものと、そうでないものと混せて示している。但し掲載した遺物に関しては遺構に伴うものを前提としている。

RA174 竪穴住居跡 (第20図)

<位置>調査区西側の2-B24f区に位置し、IV層で確認された。重複関係はないが、住居の大部分は調査区外にあり、過年度に調査が行われている。<規模・平面形・方位>規模については、本年度分については僅かであるので、明確にはできない。平面形については、検出された部分については南西側は隅丸を呈する。主軸方向は、カマド煙道から判断して、N-57°-Wである。<埋土>黒褐色土主体で構成される。埋土上層に粘性はないが、下層ほど少しずつ粘性を増してくる。<壁>床からほぼ真直ぐに立ち上がる。検出された部分についての残存値は、北西壁58cm、南西壁55cmを測る。<床面>床面は、検出された部分については平坦であり、やや締まっている。貼床等は認められないが、カマド左袖から北西コーナーをまわって調査区との接点まで、幅5~10cmの浅い溝が検出された。<カマド>北西壁の中央部と考えられる部分に設置されている。本体部の大部分が調査区外にあることから、全体の構造は不明である。袖部はやや粘性と締めりのある褐色土でつくられ、芯材等の使用は認められない。燃焼部については不明である。煙道部については剝貫式でつくられ、長さは1.5m、緩やかに下りながら径38×38cm(開口部)、深さ75cmの煙出部に続く。側壁下層の一部は、焼土と炭化物をごく微量含む。<出土遺物>埋土中及び床面から個体数で土師器甕1点が出土している。過年度の調査により大部分の遺物は検出されている。<時代>奈良時代。

RA201 竪穴住居跡 (第21図・写真図版8)

<位置・重複関係>調査区西側の2-C4s区に位置する。IV層面で黒褐色の落ち込みにより確認されている。他遺構との重複はない。<規模・平面形・方向>規模は4.0×4.1mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約12.8㎡で主軸の方向は、N-66°-Wである。<埋土>自然堆積による黒褐色を主体とした3層で構成される。下層ほど砂質の割合が増える。また、1層と2層にごく微量の水酸化鉄粒を含む。<壁>ほぼ垂直に立ち上がり、各壁中央部の残存値は、南壁27cm、北壁34cm、東壁25cm、西壁32cmを測る。



0 1:30 50cm

0 1:60 1m

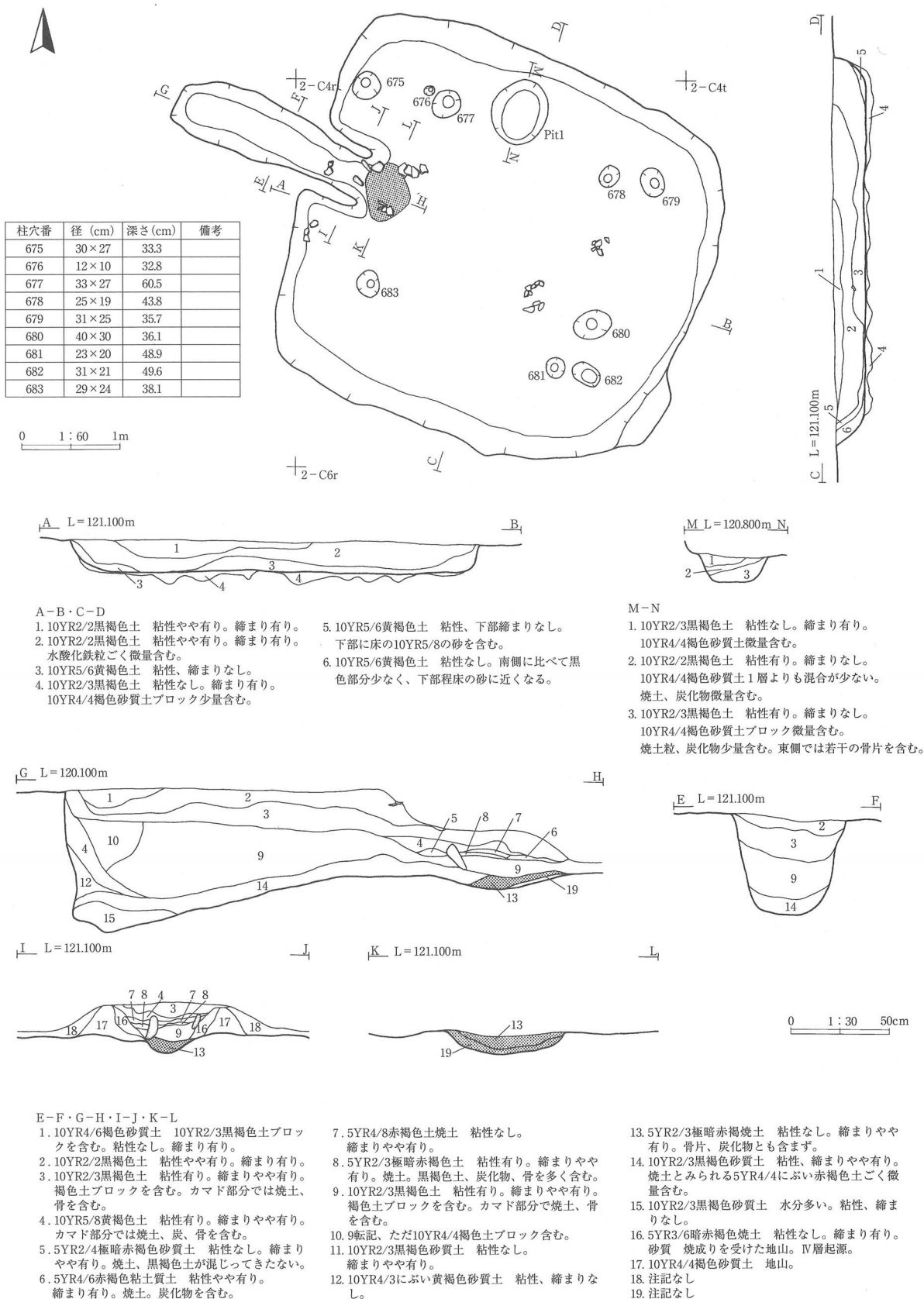
A-B

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
10YR5/6にぶい黄褐色土ごく微量含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
10YR4/4褐色土ごく微量含む。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
10YR4/4褐色土 ごく微量含む。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
7. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
8. 10YR2/2黒褐色砂質土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。

C-D・E-F・G-H

1. 10YR5/6黄褐色土 粘性、締まり有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
2. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性、締まりやや有り。
3. 10YR2/3暗褐色土 粘性、締まりやや有り。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
5. 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性、締まりなし。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
10YR3/3暗褐色土 微量含む。
7. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
10YR3/3暗褐色土 ごく微量含む。
8. 10YR4/6褐色粘土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR3/3褐色土 ごく微量含む。
9. 10YR4/4褐色砂質土 粘性、締まりなし。10YR3/2黒褐色土微量含む。
10. 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まりやや有り。
5YR4/4にぶい赤褐色焼土ごく微量含む。
11. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性なし。締まり有り。
5YR2/4極暗赤褐色焼土、炭化物極微量含む。
12. 10YR4/4褐色砂質土 粘性有り。締まりなし。
10YR2/1黒色土微量含む。
13. 10YR4/4褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
2.5YR2/2極暗褐色焼土全体にごく微量、炭化物ごく微量含む。
14. 10YR4/4褐色土 粘性、締まりやや有り。
内側に5YR2/4極暗褐色焼土ごく微量含む。
15. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
10YR4/4褐色土ごく微量含む。

第20図 RA174竪穴住居跡

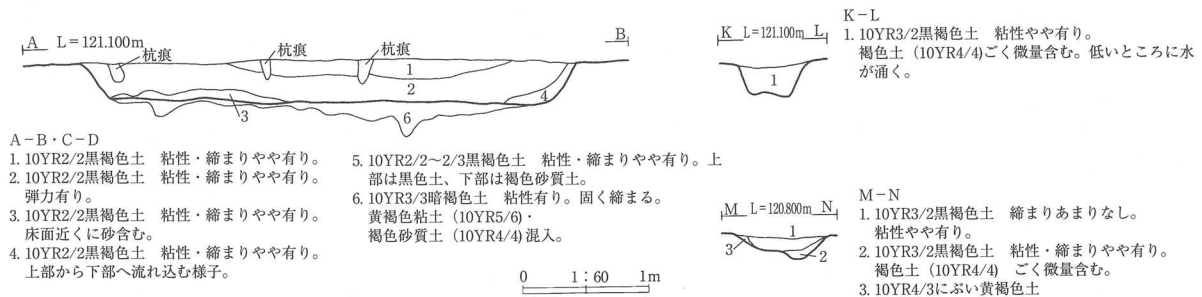
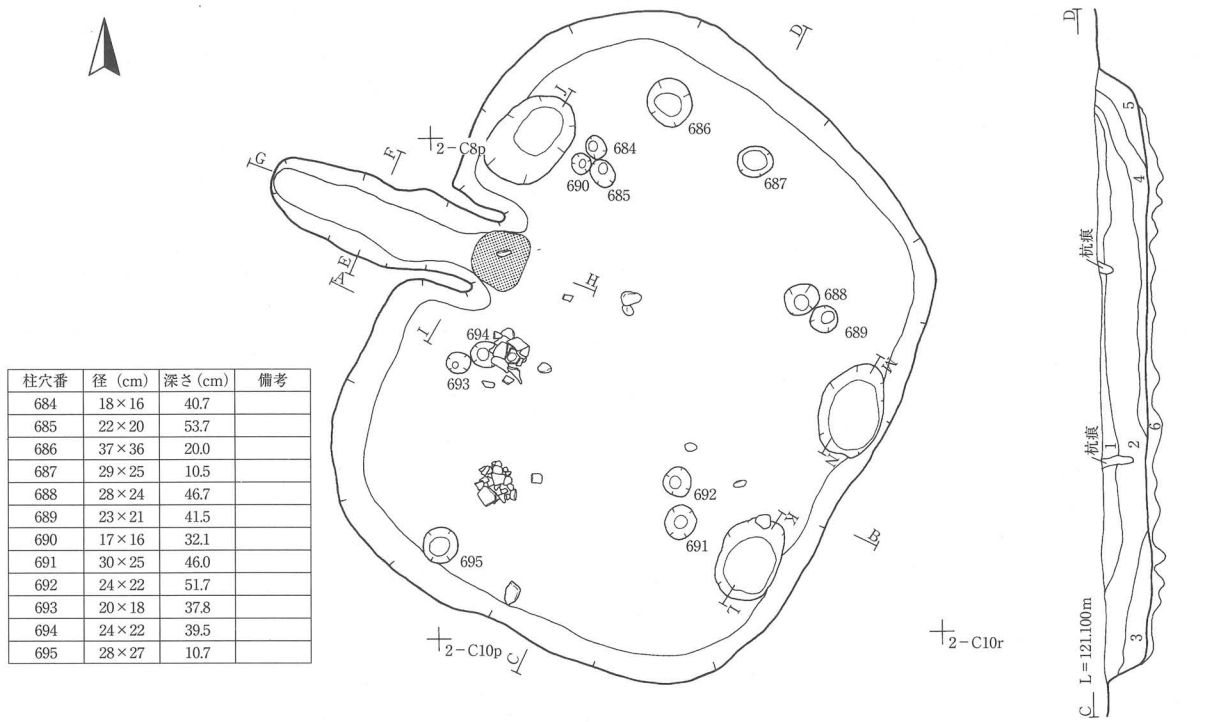


第21図 RA201竪穴住居跡

壁溝は認められない。〈床面〉ほぼ平坦で堅く締まりがあり、若干の土師器片が散乱している。住居全体に3～10cmの厚さで、褐色砂質土と黒褐色土の混合土による貼床がみられる。間仕切りは無い。〈カマド〉住居北西壁の中央部にカマドがある。本体部分の規模は30×50cm、袖部は褐色砂質土の地山を残してつくられ、芯材は使用されていない。燃焼部は、径80×90cm、層厚約10cmの極暗赤褐色の焼土が形成され、若干の骨片の散らばりがみられる。煙道部は掘り込み式でつくられているが、崩落により褐色土で埋まっている。長さは1.9m、燃焼部より緩やかな下り勾配で64cmの深さの煙出部に続いている。下層側壁の一部は、燃焼による赤色変化が生じている。〈柱穴〉柱穴は全部で9基検出されている。埋土は、黒褐色を中心とした締まりが弱く粘性のない土である。一部には、少量の炭化物、焼土、炭片が含まれている。〈ピット〉北側から1基検出している。平面形は円形を呈し、埋土底面から中層にかけ骨片や炭化物を含む。性格は不明だが、カマドに伴うものと考えられる。〈出土遺物〉(第272図・写真図版277)埋土中及び床面から個体数で土師器坏3点、甕1点(長胴)、鉢1点、砥石1点、自然・磨石が7点出土した。2の甕はカマド燃焼部北側、1の鉢は煙道部入口付近から破片で出土した。〈時代〉奈良時代。

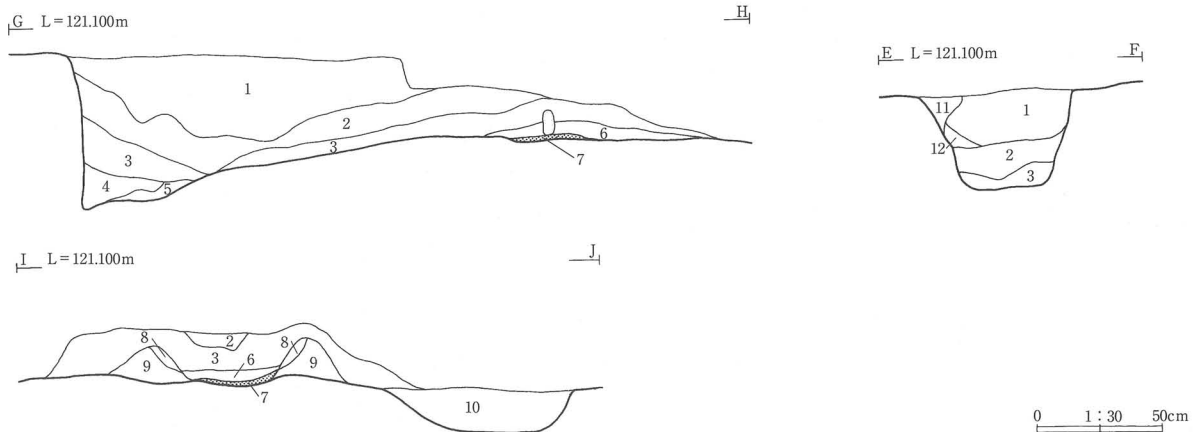
RA202 竪穴住居跡(第22図・写真図版9)

〈位置・重複関係〉調査区西側の2-C8d区に位置し、IV層で確認されている。他遺構との重複関係はみられない。〈規模・平面形・方向〉規模は4.0×4.5m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約14.8㎡ある。主軸の方向は、N-62°-Wである。〈埋土〉埋土は、自然堆積による黒褐色土を中心とした3層で構成される。3層とも埋土状況は同じであるが、壁際と床面に多少水分を含んでいる。北東部分に流れ込みとみられる層が確認される。〈壁〉床から垂直気味に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁35cm、東壁26cm、南壁31cm、西壁31cmである。壁溝は認められない。〈床〉黄褐色土と黒褐色土との混合土で、締まりがあり、ほぼ平坦である。カマド袖部南側に固まって土師器片がみられる。床全体に2～12cm、暗褐色土を中心に黄褐色土と褐色砂質土がブロック状に混じった貼床がある。間仕切りなどはみられない。〈カマド〉住居北西壁の中央部に位置している。本体部分の規模は40×80cm、袖部は褐色砂質土の地山を残して造られ、芯材等は使用されていない。燃焼部は径40×55cm、層厚8cm、暗褐色の炭片を微量に含む焼土が形成されている。中央部には支脚の石を持つ。煙道部の長さは1.45mで、ほぼ真っ直ぐに深さ52cmの煙出部に続いている。掘り込み式で造られているが、粘性と締まりのある黒褐色土と黄褐色土で埋まっている。煙道側壁は熱をうけて赤変し、焼土と炭片と若干の白色骨片を含んでいる。煙出部の下層は、多少水分を含む。〈柱穴〉全部で12基検出されている。埋土は、締まりも粘性もややある黒褐色土を中心に、褐色砂質土が多少混じる。また、炭化物をごく微量含むものが1基みられる。〈ピット〉全部で3基検出している。平面形はいずれも楕円形を呈し、埋土は締まりのないやや粘性のある黒褐色土である。このうち、東壁際の2基からは水が湧き出す。また、西南の土坑より灰白色で金雲母を含む粘土塊が出土した。〈出土遺物〉(第272図・写真図版277)埋土中及び床面から個体数で土師器甕6点、剥片石器1点、自然・磨石1点が出土した。4の球胴甕はカマド燃焼部から、3の甕は南西側の床面からそれぞれ破片の状態ながらまとまって出土した。〈時代〉奈良時代。



- A-B・C-D
- 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。弾力有り。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。床面近くに砂含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。上部から下部へ流れ込む様子。
 - 10YR2/2~2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。上部は黒色土、下部は褐色砂質土。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。固く締まる。黄褐色粘土 (10YR5/6)・褐色砂質土 (10YR4/4) 混入。

- M-N
- 10YR3/2黒褐色土 縮まりあまりなし。粘性やや有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
 - 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。



- E-F・G-H・I-J
- 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。西側ににぶい褐色砂質土 (10YR4/3) 含む。
 - 5YR3/1 (西)~3/2 (東) 粘性やや有り。縮まりなし。東側ほどにぶい赤褐色焼土 (5YR4/4)・炭片含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。水分含む。
 - 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。水分含む。

- 10YR4/6褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。赤褐色焼土ブロック (2.5YR4/6)・炭化物ごく微量含む。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。赤褐色焼土ブロック (2.5YR4/6) ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。赤褐色焼土粒ブロック (2.5YR4/6)・炭化物ごく微量含む。
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り。縮まりなし。黒褐色土 (10YR2/2)・炭化物片・赤褐色焼土 (2.5YR4/6) ごく微量含む。

- 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/2)・炭化物ごく微量含む。
- 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。暗褐色土 (10YR2/3) ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。

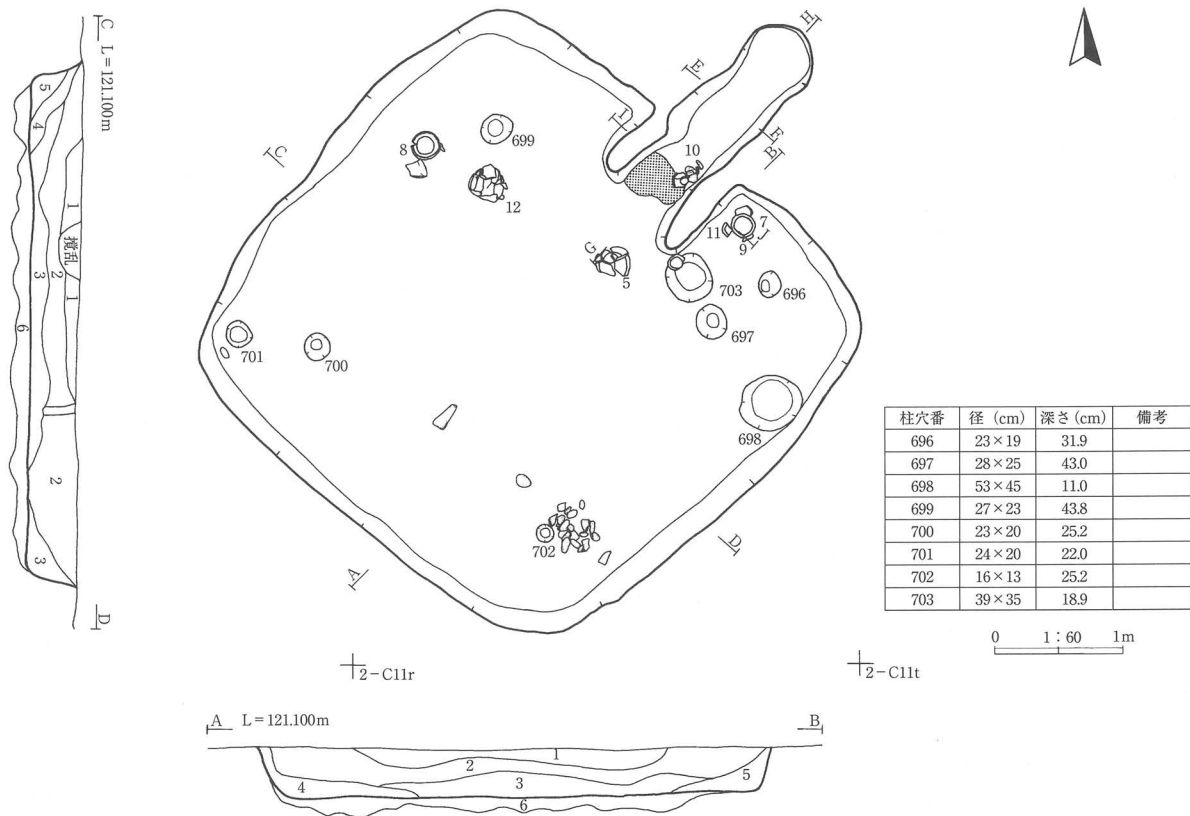
第22図 RA202竪穴住居跡

RA203 竪穴住居跡（第23図・写真図版10）

＜位置・重複関係＞調査区西側の2-C9v区に位置する。IV層で確認される。RG250が近くまできているが、重複は確認されていない。＜規模・平面形・方向＞規模は4.2×4.1mで、平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向はN-42°-Eで床面積は約14.3m²である。＜埋土＞自然堆積による黒褐色土を中心とした5層で構成される。1層は締まり粘性ともややある黒褐色土であるが壁際程、大量の明褐色土を含む。2層も同じ状態であるが、明褐色土の割合は少なくなる。3層からは酸化鉄が見られる。4・5層は、褐色土が多量の暗褐色土で構成されている。この層は、上から流れ込んでいる様子で下部程砂質土が混じっている。＜壁＞床からほぼ垂直に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁37cm、東壁38cm、南壁38cm、西壁27cmを測る。＜床＞床面は平坦であり、全体に締まりがある。ほぼ全面貼床で黒褐色土と褐色土が混じり合っている。煙道部入り口と袖部内側の焼土との境に土師器片が、北コーナーに形の整った土師器がみられる。間仕切り等はみられない。＜カマド＞隣接する住居跡とは異なり、北東向きである。本体部分の規模は40×75cm、袖部は褐色砂質土の地山を残してつくられ、芯材等は使用されていない。燃焼部には6.0×9.4cmの不整形、層厚5cm、明赤褐色土を主に暗褐色の炭粒を微量含む焼土が形成される。煙道部の長さは90cm程で、真っ直ぐに深さ50cmの煙出部に続いている。側壁は、熱による変化は目立たないが、下層でブロック状の炭片や微量の赤褐色焼土が認められる。＜柱穴＞全部で8基検出されている。埋土は黒褐色で、粘性はあるが締まりは無いが弱い。どれからも湧水が認められる。＜出土遺物＞（第273図・写真図版277・278）埋土中及び床面から個体数で土師器坏2点、高坏1点、甕5点、砥石1点、自然・磨石4点が出土している。このうち、5の大型坏はカマド焼き口付近から、上向きに潰れた状態で出土している。12の甕はカマド左袖西南側に、横向きに潰れた状態で、7・9・11は、いずれも上向きに、9の甕を中心にそれぞれが接するように出土している。それらの南側から6の坏が上向きに出土している。＜時期＞奈良時代。

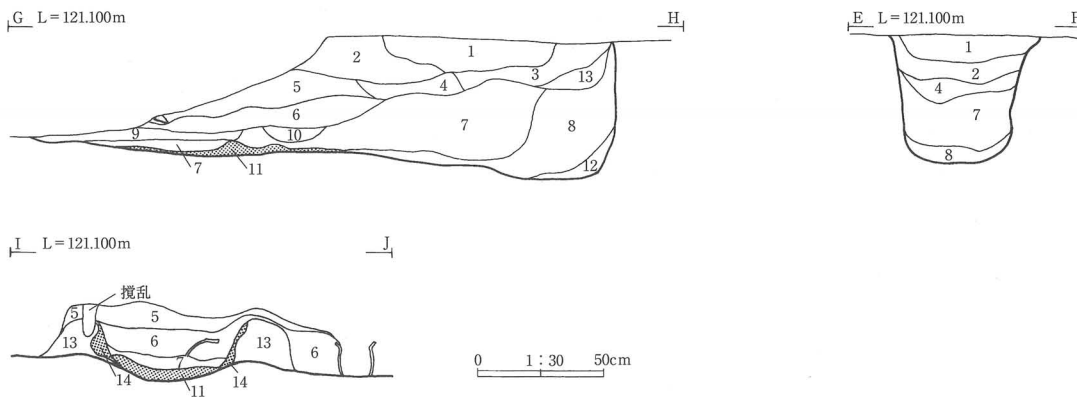
RA204 竪穴住居跡（第24・25図・写真図版11）

＜位置・重複関係＞調査区西側の2-C17u区に位置し、IV層から確認された。RG241が北東部より流れ込んでいる。本遺構の重複関係は、周囲の遺構の状態から判断して、RG241が新しい。＜規模・平面形・方向＞規模は4.4×4.5m、平面形は円に近い隅丸方形を呈する。床面積は約16.1m²で主軸方向は、N-36°-Wである。＜埋土＞黒褐色土を中心にした自然堆積による4層で構成されている。1層～3層までは、埋土の状況はほぼ同じである。ただ、4層には小礫と微量の褐色土が混じっている。＜壁＞床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁24cm、東壁25cm、南壁21cm、西壁15cmを測る。＜床＞ほぼ平坦である。この住居跡で特徴的なことは、南側の部分、床から5cmの高さのところに、10×10cm～20×10cmくらいの礫が多量に入っていることである。この石の中に道具として使われた痕跡を持つものはみられない。RG241が住居の中に流れ込み、そのまま埋まってしまったためと考えられる。また、礫が少ない北側のコーナー付近から、北西側からは土師器片が、北東側からは完形品になる土師器片が出土している。また、住居全体に10～15cmの厚さで貼床がみられる。埋土は、暗褐色土が主であるが、微量の黒褐色土と褐色砂質土、少量の水酸化鉄が混じる。＜カマド＞、北西壁中央部分に位置する。本体の規模は、45×70cm、袖部は褐色シルト質土と暗褐色土から成る地山を残して造られ、芯材等の使用は認められない。燃焼部は、径30×30cm、層厚3cmの炭片と骨片を含む焼土が形成される。煙道部は長さ1.3mで、ほぼ真っ直ぐに煙出部に続く。側壁は、粘性があり締まりのややある極暗赤褐色土で、炭化物を帯状に含む。煙出部は、径35cm、上部がRG241の流入で欠けている。煙道部から急に48cmまで深くなり、底に微量ではあるがブロック状の



A-B・C-D

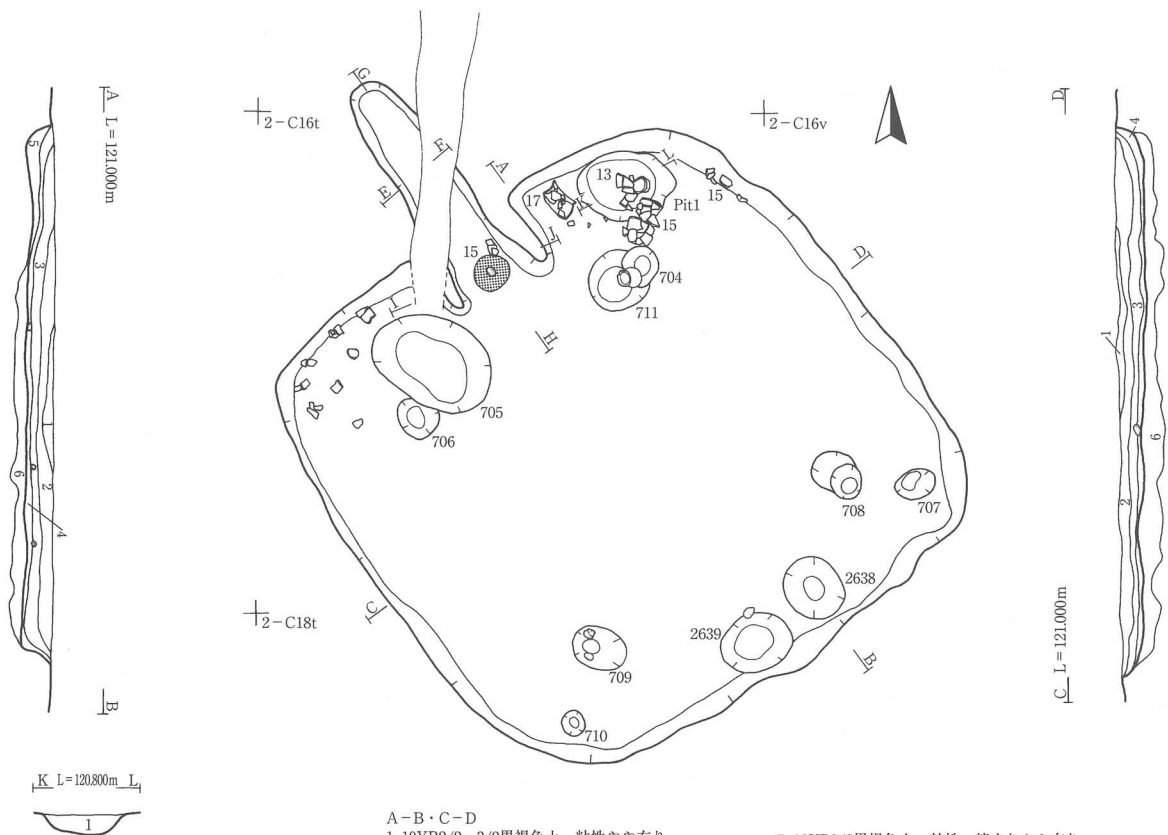
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。上部にいく程10YR6/6明黄褐色土を含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。10YR6/6明黄褐色土を微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。10YR6/6明黄褐色砂質土多量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。10YR3/4~4/4褐色土多量含む。上から下に流れている状態。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。10YR4/4褐色土微量、10YR3/4~4/4褐色土微量含む。上から下に流れている状態。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。



E-F・G-H・I-J

- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性あまりなし。むしろ砂状。縮まりもあまりなし。1、2に比べて明るい感じ。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。5と比べて床の色に近くなる。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。深い方弾力有り。
- 10YR3/3~3/4粘性、縮まりやや有り。西側に近付く程、粒が大きく焼土に近づく。
- 10YR4/6褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。炭化物3%混じる。2.5YR2/2ごく極暗赤褐焼土粒1%混じる。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まりなし。10YR4/4褐色砂質土との混合土。径5cm大のブロック状に混じる炭化物5%混。2.5YR4/8赤褐色焼土10%含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。西側10YR1.7/1黒褐色土混 (30%)。炭?
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。極暗赤褐焼土混 (大粒)。床部分砂状。水分多い。
- 10YR4/4褐色砂質土粘性、縮まりなし。壁の崩落土。
- 10YR4/4褐色砂質土 縮まり有り。粘性なし。
- 5YR3/6暗褐色焼土 縮まりやや有り。粘性なし。10YR2/1黒色土、炭片有り。

第23図 RA203竪穴住居跡



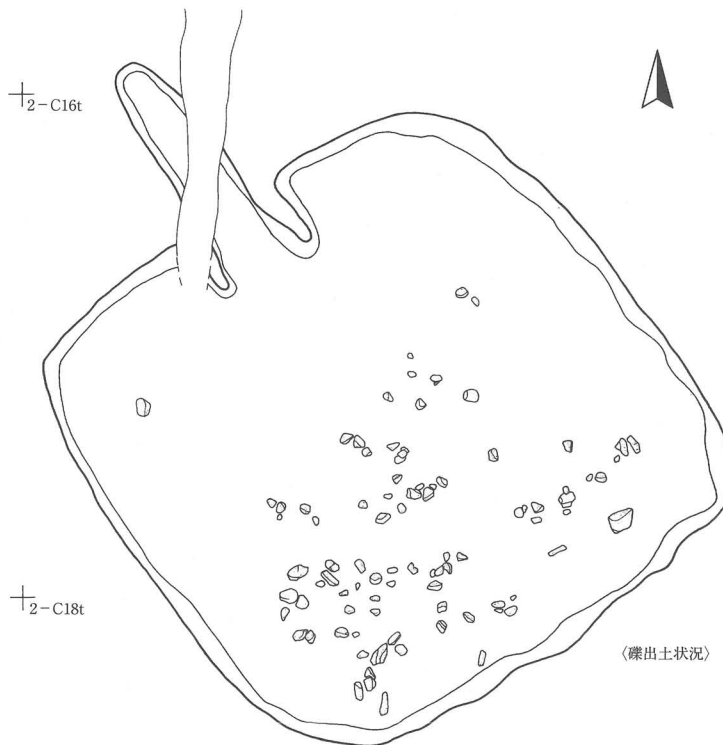
K-L
 1. 10YR4/4褐色砂質土 粘性、縮まりやや有り。
 10YR3/1黒褐色土を5割、上部に炭化物粒ごく微量含む。

A-B・C-D

1. 10YR2/2~3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。中央部よりはじ。乾くと赤い。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。他の住居に比べ床近くは、砂の混じらない10YR4/6褐色土微量有り。

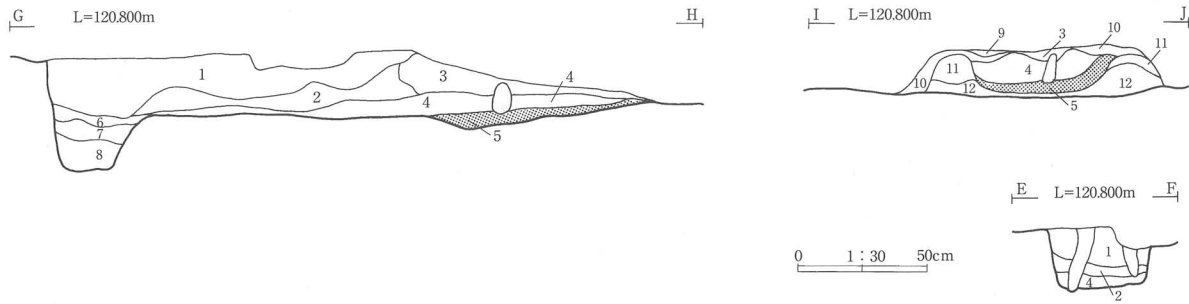
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
6. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まり極めて有り。10YR3/1黒褐色土、10YR4/4褐色砂質土微量含む。一部水酸化鉄分少量含む。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
704	29×26	41.4	
705	99×69	45.1	
706	37×29	51.0	
707	34×14	13.9	
708	45×34	40.1	
709	44×32	49.2	
710	21×17	6.6	
711	46	21.6	
2638	52×44	24.1	
2639	56×47	25.5	



0 1:60 1m

第24図 RA204竪穴住居跡(1)



E-F・G-H・I-J

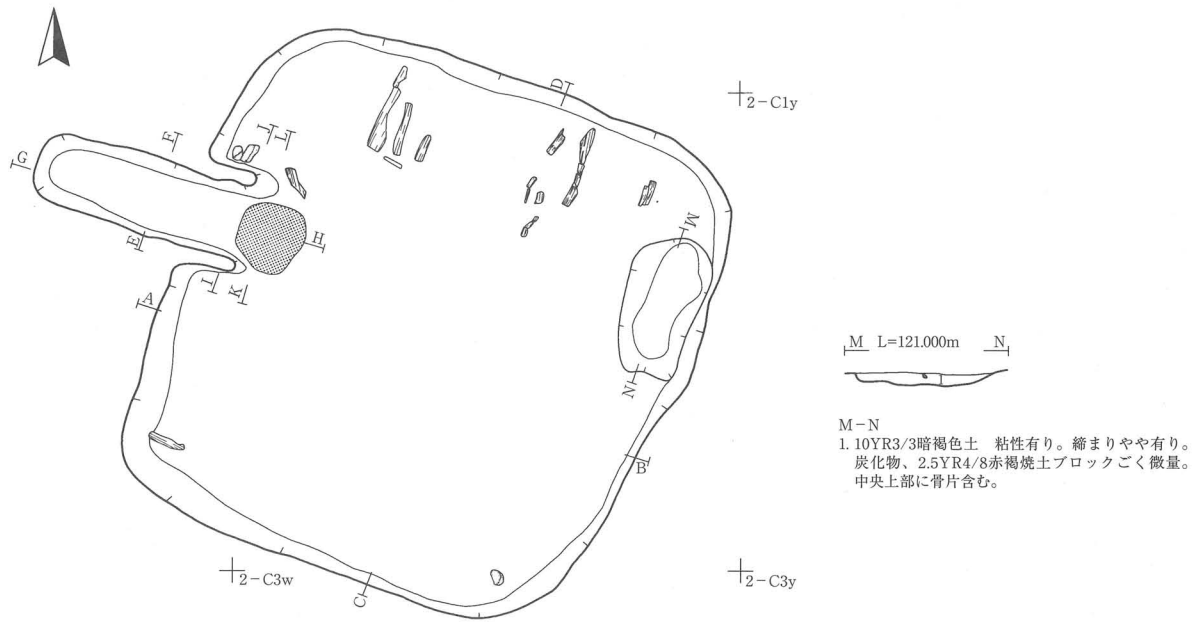
- | | |
|---|--|
| <p>1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ブロック微量含む。</p> <p>2. 10YR3/4暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
5YR5/6明赤褐色の焼土ブロックを中央から西ごく微量、炭化物もごく微量含む。</p> <p>3. 10YR5/6黄褐色粘土 粘性やや有り。締まり有り。
カマド構築土の崩落土。</p> <p>4. 2.5YR2/4極暗赤褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
西側3層との境界に炭化物帯状に含む。
全体的に5YR5/6明赤褐色焼土ブロック含む。</p> <p>5. 2.5YR2/3極暗赤褐色土 粘性、締まりやや有り。
焼成をうけた自然層中の炭化物ごく微量含む。</p> <p>6. 7.5YR2/1黒色土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。</p> | <p>7. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。</p> <p>8. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量、10YR2/1黒色土微量、
2.5YR2/4極暗赤褐色焼土ブロックごく微量含む。</p> <p>9. 10YR3/2黒褐色土 締まり有り。粘性なし。ごく微量。</p> <p>10. 10YR4/4褐色砂質土 締まり有り。粘性なし。
カマド袖の土に近い。</p> <p>11. 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り。締まり極めて有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。(地山)</p> <p>12. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
(調査図に部分的に入る自然層)</p> |
|---|--|

第25図 RA204竪穴住居跡(2)

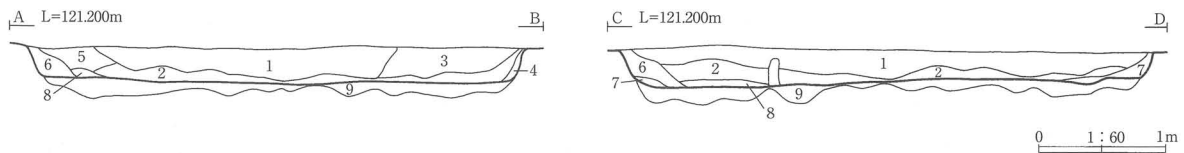
極暗赤褐色の焼土を含む。〈柱穴〉全部で8基検出されている。埋土は、いずれも、締まり粘性のある黒褐色土である。対応P710-709、707-708、706-705、711-704で、前者が主柱穴になっていると考えられる。また、P711-704の間からは、土師器が上向きで出土し、埋土からは炭片が微量検出される。〈ピット〉北コーナーから、土師器片を取り除くと現れた。埋土は、粘性締まりのある褐色砂質土と黒褐色土が半々の割合で含まれる。〈出土遺物〉(第274図・写真図版278・279)埋土中及び床面から個体数で土師器甕5点を出土している。17の球胴甕は、カマド右袖北側から潰れた状態でまとまって、16の球胴甕は北側コーナーの柱穴中から上向きでほぼ完全な形で出土した。13の長胴甕・14の甕・15の長胴甕は、1号土坑の中とまわりにほぼ固まって、破片の状態出土した。〈時代〉奈良時代。

RA205 竪穴住居跡 (第26図・写真図版12)

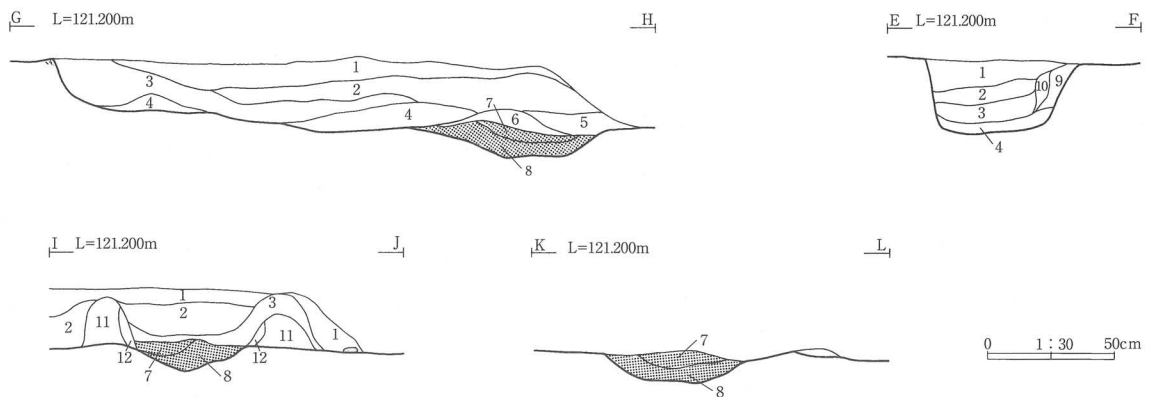
〈位置・重複関係〉調査区西側の1-C1w区に位置し、IV層から確認された。他の遺構との重複関係は見られない。〈規模・平面形・方向〉遺構の規模は4.25×3.9m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約14.1㎡である。主軸方向は、N-64°-Wである。〈埋土〉埋土は黒褐色土を主にした自然堆積による2層である。他に、人為堆積と考えられる層が見られる。具体的には、南-北断面の壁際には炭粒を含む黒褐色土が、西壁際には炭粒(シバ類)や焼土粒を少量含む黒褐色土や暗褐色土の層が見られる。〈壁〉床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁27cm、東壁24cm、南壁25cm、西壁24cmを測る。〈床〉やや締まりがある黒褐色土に黄褐色土が混じり合っている。貼床は、暗褐色土を主体にして褐色砂質土が20%混じった締まりのある埋土で、床面全体に見られる。中央部分は6cmと薄いですが、壁際になると15cm前後と厚くなる。他には、住居北壁際に炭化材が南北方向に並んで検出された。住居が焼失した為か、後から入ったものかどうかは不明である。〈カマド〉カマドは、北西壁のほぼ中央に位置している。本体の規模は4.5×6.0cmでカマドの袖部は、締まりがあり地山である褐色砂質土を削りだして造られている。芯材の使用は認められな



M-N
 1. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
 炭化物、2.5YR4/8赤褐焼土ブロックごく微量。
 中央上部に骨片含む。



- A-B・C-D
- | | | |
|--|--|---|
| 1. 10YR2/2黒褐色土に褐色土が不規則に混じる。
粘性、縮まりやや有り。 | 4. 10YR3/4暗褐色土 粘性、縮まりやや有り。 | 8. 10YR3/3暗褐色土 焼土粒を少量含む。
粘性やや有り。縮まり有り。 |
| 2. 10YR2/3黒褐色土に褐色土が混じり合う。
粘性、縮まりやや有り。焼土、炭粒含む。 | 5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。 | 9. 10YR2/3暗褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。 |
| 3. 10YR3/2黒褐色土ブロック多量に含む。
粘性やや有り。縮まり有り。 | 6. 10YR3/2黒褐色土がごく微量混じる。
粘性、縮まりやや有り。 | |
| | 7. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まりやや有り。 | |



- E-F・G-H・I-J・K-L
- | | |
|--|--|
| 1. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。 | 8. 5YR4/4にぶい赤褐色焼土 粘性なし。縮まりやや有り。
7・8ともかなり明るく感じられる。 |
| 2. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
なかに5YR3/3(暗褐色)を7%含む。目立って明るい。 | 9. 10YR4/4褐色土 粘性なし。縮まりなし。砂状。 |
| 3. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。東側砂状。 | 10. くい跡 |
| 4. 10YR4/4褐色土 粘性、縮まりなし。
煙道部分にあたり黒い炭や5YR3/2~4/4の焼土有り。 | 11. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性なし。縮まりなし。
砂状。(地山の削りだし)。 |
| 5. 10YR4/4褐色土 粘性、縮まりやや有り。 | 12. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。 |
| 6. 5YR3/2~暗赤褐焼土 粘性なし。縮まりやや有り。
先端に大きな炭片有り。 | |
| 7. 6に続く。7の先端にも6に続き炭片有り。(20%) | |

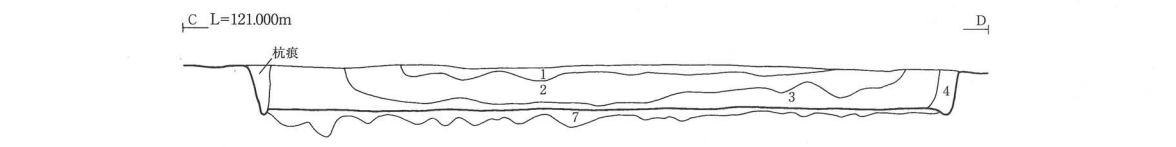
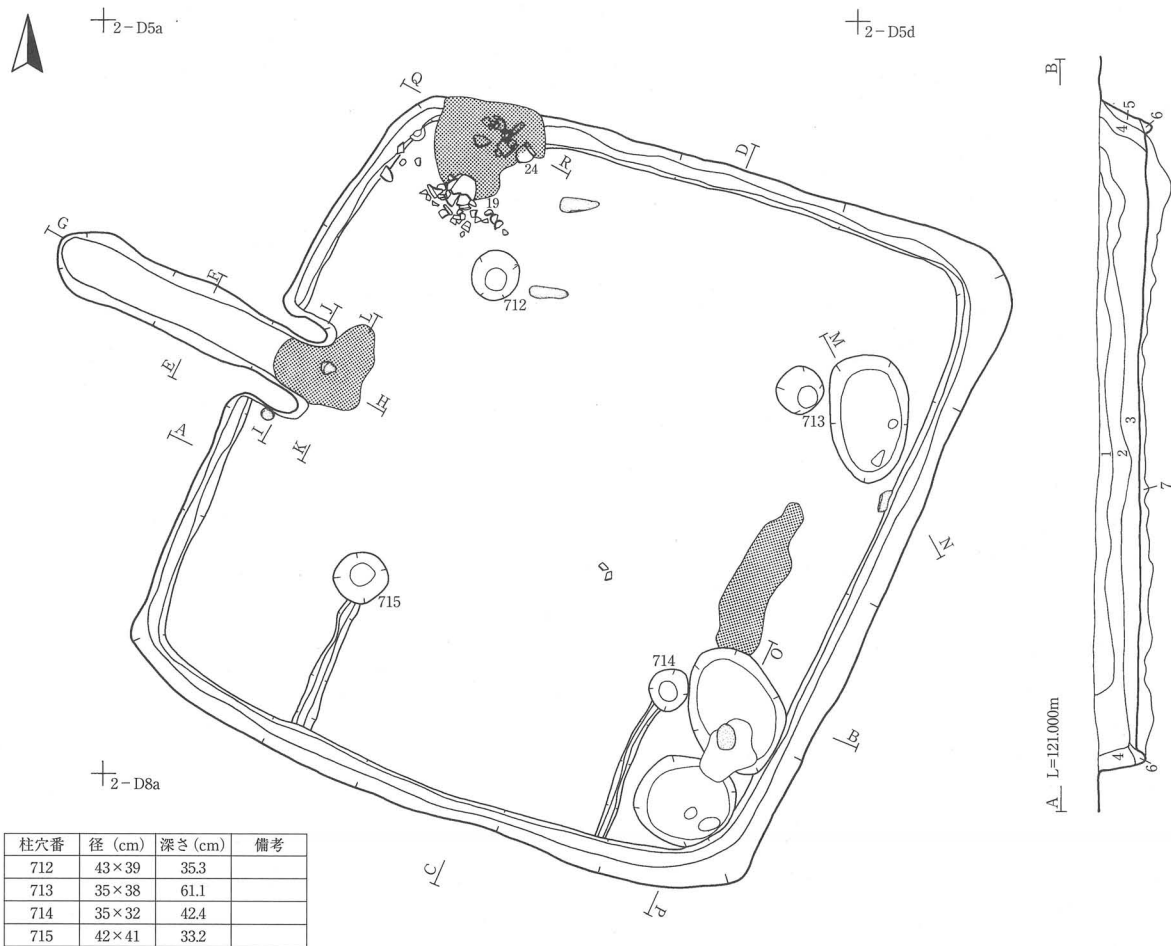
第26図 RA205罌穴住居跡

い。袖部の煙道寄りの部分は焼成により赤変している。燃烧部は、55×50cmの楕円状に層厚8cmの暗赤褐色焼土が形成されている。焼土断面からは、支脚に使われたと考えられる15×7cmの石が出てきた。煙道部は、長さ1.5mで、緩やかな下り勾配で深さ44cmの煙出部に続く。煙道部の下層は、燃烧による赤色変化はあまり受けていないが、骨片や焼土粒が含まれる。〈ピット〉東壁際で1基検出されている。主になる埋土は、粘性があり締まりもややある暗褐色土であるが、中央上部に骨片や炭化物、赤褐色焼土ブロックを含む。〈出土遺物〉（第275図・写真図版279）埋土中及び床面から個体数で土師器甕3点が出土する。そのうち18は、底部のみ出土した。〈時代〉奈良時代。

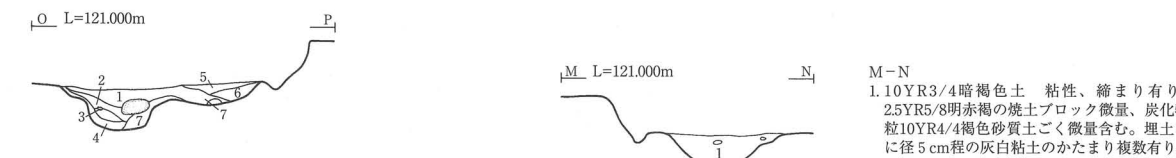
RA206 竪穴住居跡（第27・28図・写真図版13）

〈位置・重複関係〉調査区西側の2-B6b区に位置し、IV層より確認される。〈規模・平面形・方位〉規模は5.3×5.7m、平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約27.0㎡で主軸方向は、N-63°-Wである。この区域の住居の中では一番大きい。〈埋土〉黒褐色を主体にした自然堆積による3層で構成される。壁際には粘土質土の流れ込みも見られる。〈壁〉床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁39cm、東壁36cm、南壁29cm、西壁27cmを測る。カマド部分を除いた壁直下に溝が巡っている。幅10～15cm、深さ4～10cm程度である。また、南壁部分の溝が2ヶ所、長さ1.1～1.2m、幅10cm前後、深さ4～7cmで、北の柱穴に向かって続いている。〈床〉床面は、ほぼ平坦で堅く締まっている。床面で特記すべきことは、東壁の部分に灰白色の粘土塊があることである。大きいもので54×30cm、小さいもので20×10cmの塊が4個ある。もう一つは、北壁のコーナー東側に黒褐色土を中心に明褐色をごく微量の粘土塊がある。東側には帯状に75cmにわたり焼土が廃棄され、周囲に土師器片が散らばる。また、裏が赤変した28cmほどの石も捨てられている。〈カマド〉本体は北西壁の中央部に位置し、規模は50×40cmである。袖部は、粘性のない締まりのある褐色砂質土の地山を削り出して造られ、芯材の使用等は認められない。燃烧部には、径75×65cmの不整形、層厚10cm程の暗赤褐色の焼土が検出された。真ん中に直径10cmの礫が入っている煙道部は、緩やかな下り勾配で煙出部に続いている。側壁は焼成をうけており、微量の骨片と炭化物を含む。煙出部は深さ80cmであるが、底付近に多量の炭化物を含む。〈柱穴〉柱穴は4基検出され主柱穴になると考えられる。ほぼ同じ規模の平面形であり、南側の2基は周溝から延びた溝と結びついている。

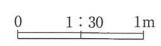
〈ピット〉東側の壁沿いに2基検出している。前述のように上層から中層にかけて粘土塊を含んでいる。埋土は、堅く締まった粘性のある黒褐色土であるが、他に炭化物や鉄を若干含んでいる。〈その他〉北側壁際の廃棄焼土の広がりからはケヤキ類とみられる炭粒も検出されている。〈出土遺物〉（第275・276図・写真図版279・280）埋土中及び床面から個体数で、奈良時代の土師器甕6点、平安時代の須恵器坏1点、壺2点、甕1点分と鉄製品（534）1点が出土している。出土場所は北側コーナーの廃棄焼土からが大部分である。24の甕はほぼ完形品である。他は破片で出土するが、接合すると20の甕も完形品に近い物になる。〈時代〉奈良時代。



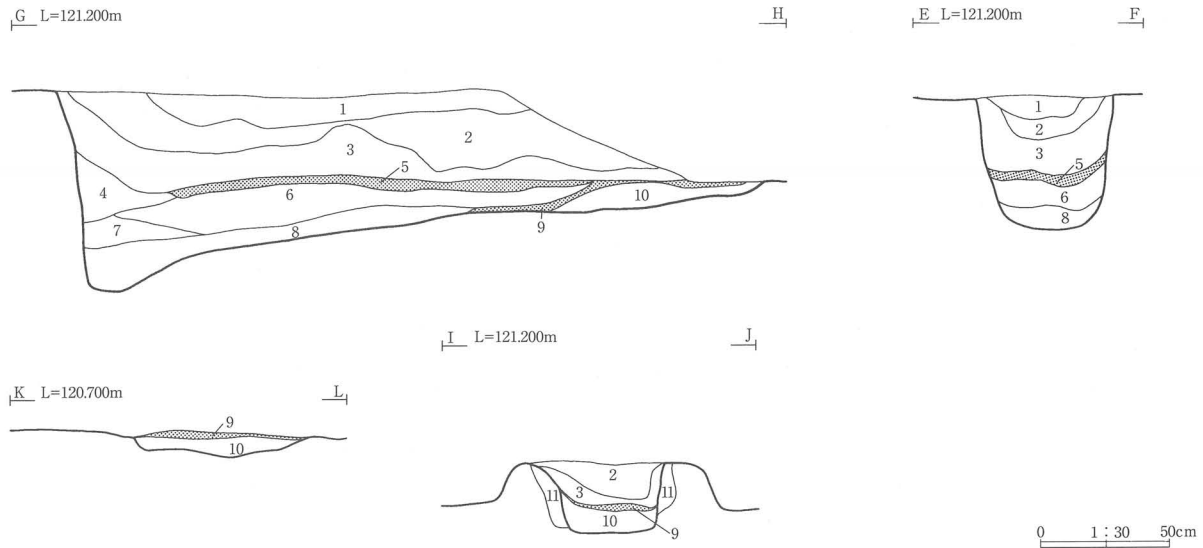
- A-B · C-D
- 1. 10YR3/1黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 - 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。
 - 3. 10YR3/3暗褐色土 粘性極めて有り。縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土、水酸化鉄分ごく微量含む。
 - 4. 10YR2/1黒褐色土 粘性、縮まり有り。
10YR4/4褐色粘土ごく微量含む。
 - 5. 10YR4/6褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。
壁の崩落土。
 - 6. 10YR2/3黒褐色土 粘性極めて有り。縮まり有り。
10YR4/6褐色粘土ごく微量含む。
 - 7. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり極めて有り。
10YR2/2黒褐色土微量含む。



- O-P
- 1. 10YR3/1黒褐色土 粘性、縮まり有り。水酸化鉄分、炭化物、ごく微量含む。
 - 2. 10YR4/3に黄褐色粘土 粘性、縮まり有り。10YR5/6黄褐色土ブロック、炭化物ごく微量含む。
 - 3. 10YR3/4暗褐色土 中層に灰白色粘土のかたまり。粘性やや有り。縮まり有り。
 - 4. 10YR3/1黒褐色土 粘性、縮まり有り。水酸化鉄分、炭化物ごく微量含む。
 - 5. 10YR4/3に黄褐色粘土 10YR4/4褐色砂質土、10YR3/1黒褐色土微量含む。粘性、縮まり有り。
 - 6. 10YR4/3に黄褐色粘土 10YR3/1黒褐色土との混合土。粘性極めて有り。縮まり有り。
 - 7. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
灰白粘土ブロック状 (径3×10cm) に少量含む。
- M-N
- 1. 10YR3/4暗褐色土 粘性、縮まり有り。
2.5YR5/8明赤褐の焼土ブロック微量、炭化物粒10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。埋土中に径5cm程の灰白粘土のかたまり複数有り。
- Q-R
- 1. 10YR4/4褐色砂質土 粘性・縮まりやや有り。
明黄褐色焼土ブロック (5YR5/3) 少量・炭化物・黒色土 (10YR2/1) ごく微量含む。



第27図 RA206竪穴住居跡(1)



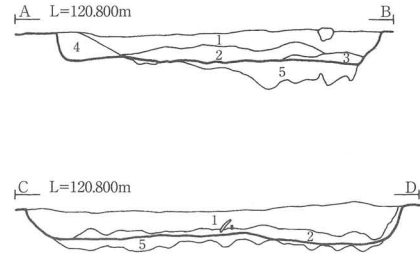
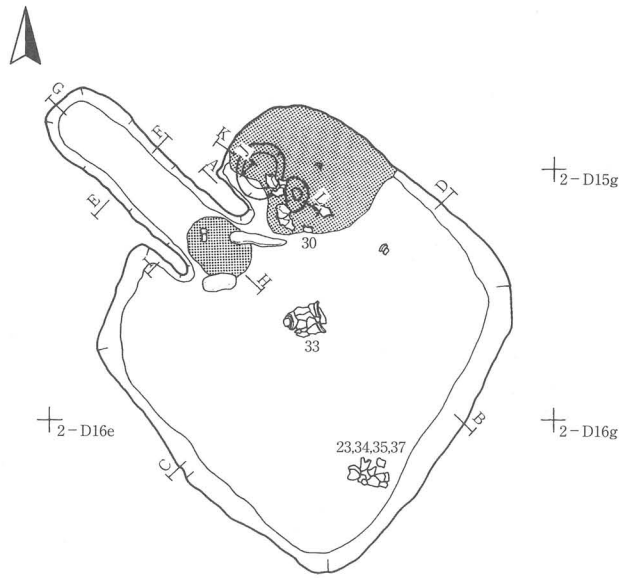
E-F-G-H-I-J-K-L

- | | | |
|--|--|---|
| <p>1. 10YR3/1黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。</p> <p>2. 10YR2/1黒色土 粘性、縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ブロック微量含む。</p> <p>3. 10YR3/4暗褐色砂質土 粘性、縮まりやや有り。
10YR2/1黒色土ごく微量含む。</p> <p>4. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性有り。
縮まりやや有り。若干の焼成を受ける。</p> <p>5. 5YR2/3極暗赤褐色土 粘性、縮まりやや有り。</p> | <p>6. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性なし。
縮まりやや有り。炭化物、褐色砂質土、5YR4/6赤褐色土を微量含む。</p> <p>7. 10YR2/3黒褐色砂質土 粘性、縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土を含む。</p> <p>8. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。
5YR4/6赤褐色土ブロック、炭化物を微量、中央より東側に骨片？白色の小片含む。</p> | <p>9. 5YR3/4暗赤褐色焼土 粘性有り。縮まりやや有り。
2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、炭化物ごく微量含む。</p> <p>10. 5YR3/4暗赤褐色土 粘性、縮まりやや有り。
2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、炭化物、ごく微量含む。</p> <p>11. 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性なし。縮まり有り。</p> |
|--|--|---|

第28図 RA206竪穴住居跡(2)

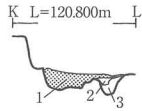
RA207 竪穴住居跡 (第29図・写真図版14)

〈位置・重複関係〉調査区西側の2-B15f区に位置し、IV層から確認された。他の遺構との重複関係は認められない。〈規模・平面形・方向〉平面形は隅丸方形を呈し、規模は3×2.8mを測る。主軸の方向は、N-47°-Wで床面積は約6.6m²である。〈埋土〉自然堆積による黒褐色土を主体にした3層で構成される。〈壁〉床から垂直に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁22cm、東壁30cm、西壁22cm、南壁28cmを測り、壁溝はない。〈床〉ほぼ平坦であるが、西側に比べ東側が5cmほど高くなっている。床面は全体に縮まりがある。南壁近くと中央部に完形品になる土師器片が見られる。また、北側コーナー付近に廃棄焼土がある。〈カマド〉他の遺構と同様に、北西壁中央に位置する。本体部分の規模は、45×70cm、袖部は堅く締まった褐色砂質土の地山を残して造られ、芯材は使用されていない。焼成部は、径40×55cmの楕円形で層厚7cm、炭化物とブロック状赤褐色焼土を含む極暗赤褐色焼土で構成される。焼成部の先端に44×7cmと28×14cmの細長い礫がある。煙道部は掘り込み式で造られており、長さは1.7mで、緩やかな勾配で深さ55cmの煙出部に続いている。側壁の下層は骨片や粒状の焼土を含む。〈ピット〉北側コーナー付近から1基検出された。埋土中にごく微量ながら焼土が検出された。〈出土遺物〉(第276図・写真図版280・281)埋土中及び床面から個体数で土師器片1点、甕3点が出土する。このうち33は、住居中央部から押しつぶされた状態でまとまって出土した。また、34・35・37の3つの片は、破片で、南側のコーナーからまとまって出土した。北側廃棄焼土内には、甕と坏の破片が含まれていた。〈時代〉奈良時代。



A-B・C-D

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
3. 10YR2/3黒褐色土 10YR4/3黄褐色土ごく微量含む。
4. 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。
5. 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り、縮まり有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。

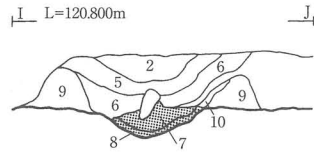
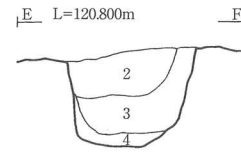
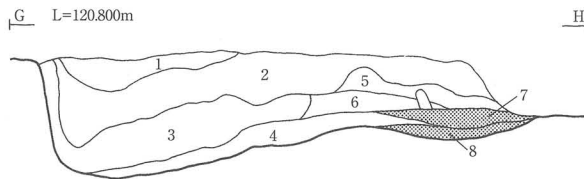


K-L

1. 10YR2/1粘性有り。縮まりやや有り。
10YR5/6黄褐砂質土ごく微量含む。若干の焼土粒含む。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。
径5mm程の焼土ブロックごく微量含む。

3. 10YR3/4暗褐色土 粘性有り。縮まりなし。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。

0 1:60 1m



0 1:30 50cm

E-F・G-H・I-J

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
表土。
2. 10YR3/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
北側水っぽい。
3. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性やや有り。
縮まりあまりなし。水分多。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
煙道上に骨片。焼土 (5YR4/6) 粒状に含む。

5. 10YR4/4褐色土 粘性、縮まりやや有り。
天井部の落ちたところ。
6. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
3に続くが黒色がかかる。
7. 5YR2/3粘性有り。縮まりやや有り。
25YR4/6炭化物ごく微量含む。
8. 5YR3/6暗赤褐色土、2.5YR4/6赤褐色焼土ブ
ロック、炭化物、ごく微量含む。

9. 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。
10. 5YR2/4極暗赤褐色土、10YR4/4褐色土の焼成変化。

第29図 RA207竪穴住居跡

RA209 竪穴住居跡（第30図・写真図版15）

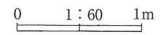
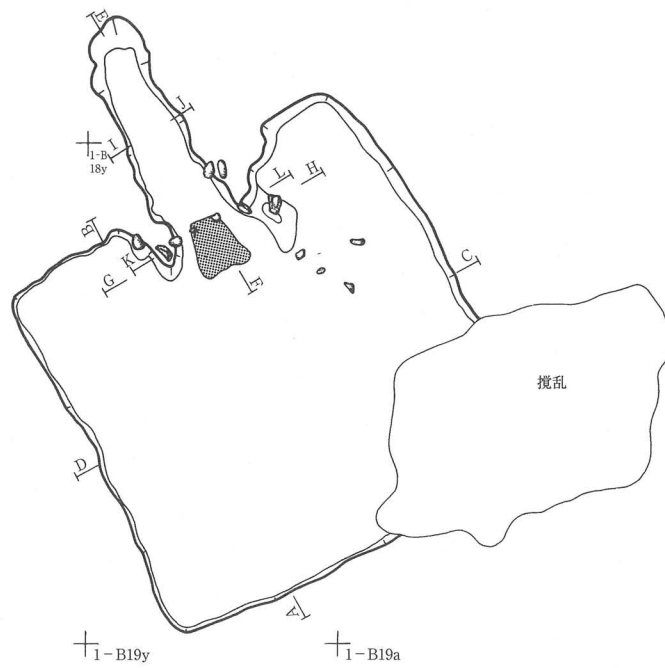
<位置・重複関係>調査区西側の1-B18z区に位置する。東側コーナーが攪乱のため不明になっている。検出は、IV層で確認されている。<規模・平面形・方向>遺構は全体に削平されており、住居の壁等も浅くなっている。確認されている部分の規模は3.2×3.3m、平面形は隅丸方形を呈している。床面積は約9.9㎡で主軸の方向は、N-30°-Wである。北東方向に1.7×2.2mの攪乱がある。<埋土>黒褐色砂質土を主にする単層である。その中に炭化物、暗褐色土、褐色土が混在する。また、酸化鉄も微量含まれる。<壁>削平が進んでおり、東側以外はあまりはっきりしていない。各壁中央部での残存値は東側5cm、南側3cm、西側2cm、北側2～5cmを測る。<床面>床はほぼ平坦で締まっており、カマド付近が南側に比べやや高くなっている。貼床はみられない。<カマド>北西側の壁中央に設置されている。上部が削平を受けていることから、天井部の構造がはっきりしない。本体の規模は1.2×0.5mで、袖部はにぶい黄褐色土でつくられ、芯材に4個の礫が使用されている。燃焼部は径30×45cmの楕円形状で層厚1cmの赤褐色焼土が形成されている。煙道部は長さ1.8mで、ほぼ真っ直ぐに煙出部に続き、側壁の一部は燃成による赤色変化を生じている。<出土遺物>（第277図・写真図版281）埋土中及び床面から土師器坏4点、甕が1点出土している。36の坏は、上向きでカマド右袖外側から出土している。<時期>奈良時代。

RA210 竪穴住居跡（第31図・写真図版16）

<位置>調査区西側の1-B19s区に位置している。検出はIV層で確認されている。<規模・平面形・方向>遺構の北側と西側が調査区外であることから、正確な平面形と規模の全容は不明である。確認できる部分の規模は3.5×2.7m、コーナーは隅丸を呈する。主軸の方向は不明である。<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積による2層で形成されている。1層は黒褐色土で、炭化物や暗褐色土が混在する。2層も同様であるが、調査区との境に、80×30cmの炭片を含む。<壁>検出された部分については、床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、東壁15cm、南壁15cmを測る。<床面>ほぼ平坦であり、土は締まっている。貼床は認められない。<カマド>検出されていないが、調査区外に設置されていた可能性もある。<柱穴>遺構内に3基検出されている。他に、遺構外に東壁と南壁沿いにそれぞれ2基の柱穴がみられ、前述の3基とあわせて、住居に関係がある柱穴と考えられる。<出土遺物>（第210図・写真図版281）埋土及び床面から個体数で土師器甕2点（39・40）が出土している。<時期>奈良時代。

RA211 竪穴住居跡（第32図・写真図版17）

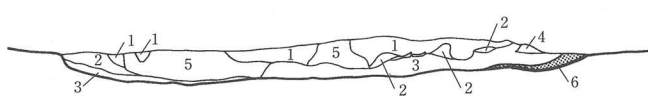
<位置・重複関係>調査区西側の2-B10f区に位置し、IV層面から確認された。本遺構の重複関係は、遺構の切合や出土遺物から、RG241とRD821より古い。<規模・平面形・方向>平面形は隅丸方形を呈する。規模は、確認できる範囲で3.7×3.45mで床面積は約10.5㎡である。主軸方向は、N-55°-Wである。<埋土>RD821との切合により明確にはわからない。壁際の残された部分については、褐色土を主体にした1層からなる。下層ほど黒色土の混じる割合が多くなる。<壁>床面からほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁27cm、東壁28cm、南壁25cm、西壁23cmを測る。壁溝はない。<床面>RD821が床面よりも深く掘り込まれているので、中心部分についてははっきりしない。壁近くは褐色土で、堅く締まっている。貼床は認められない。<カマド>住居北東の壁中央に設置されている。RD821との切合のため袖の一部が削られているので、全体は明確にならないが、大凡の規模は95×55cmである。袖部は地山層を削りだして造られ、芯材の使用は認められない。燃焼部は、50×40cmの楕円形、層厚5～7cmの焼土を形成し、切り合う土坑との境目にある。煙道部の長さは1.5m、やや下り勾配で煙出部に続く。煙出部は径45×



A-B・D-C

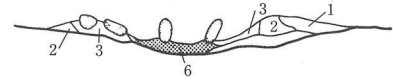
1. 10YR2/3黒褐色砂質土 炭化物、暗褐色土、褐色土を含む。酸化鉄が混じる。

E L=121.100m

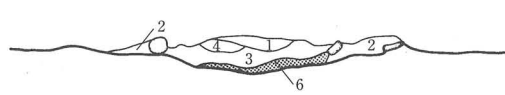


F

K L=121.100m

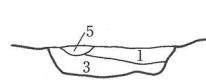


G L=121.100m

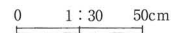


H

I L=121.100m



J

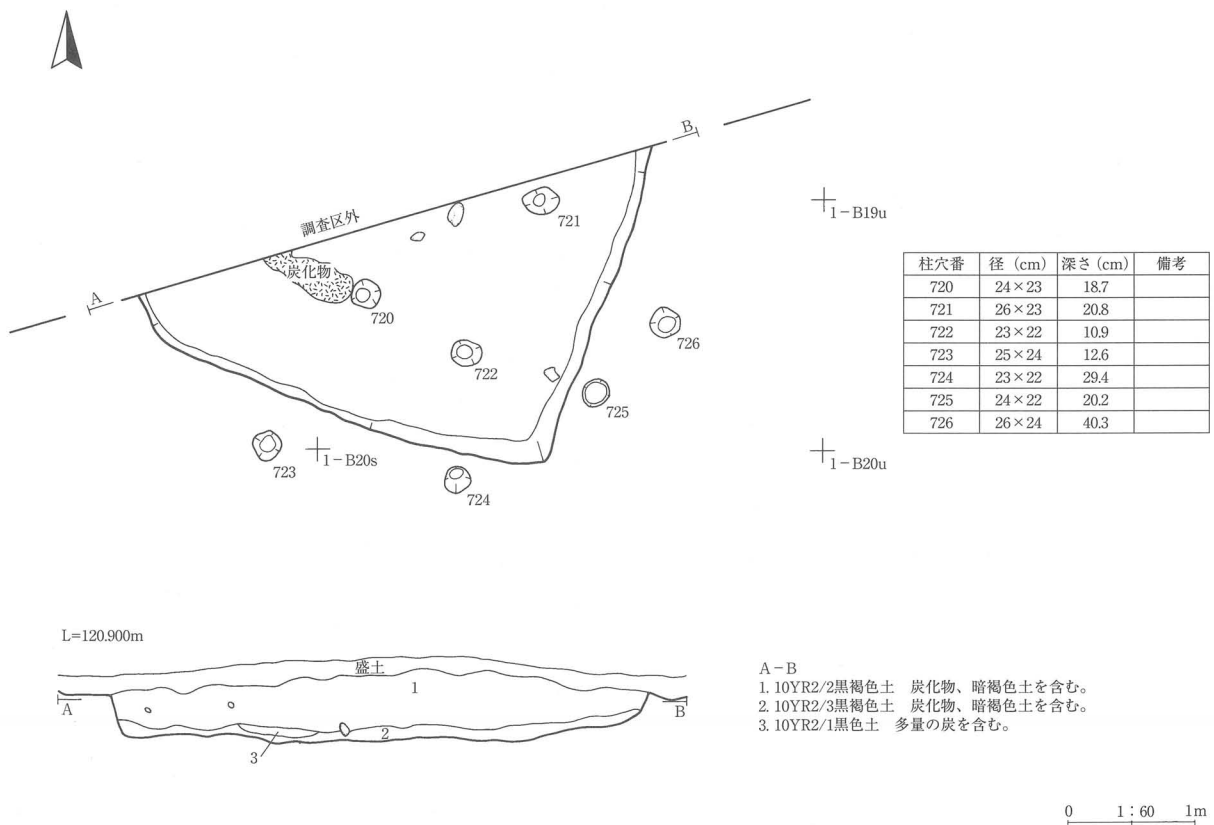


E-F・G-H・-J・K-L

1. 10YR3/1黒褐色土 炭化物、褐色土ブロックを含む。
2. 10YR5/4にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック、暗褐色土を含む。
3. 5YR2/2極赤暗褐色土 焼土ブロック、炭化物を含む。

4. 2.5YR5/8明赤褐色焼土 黒褐色土、微量含む。(天井部焼土)
5. 10YR3/2黒褐色土 炭化物、褐色土ブロックを含む。
6. 5YR4/6赤褐色焼土。

第30図 RA209竪穴住居跡



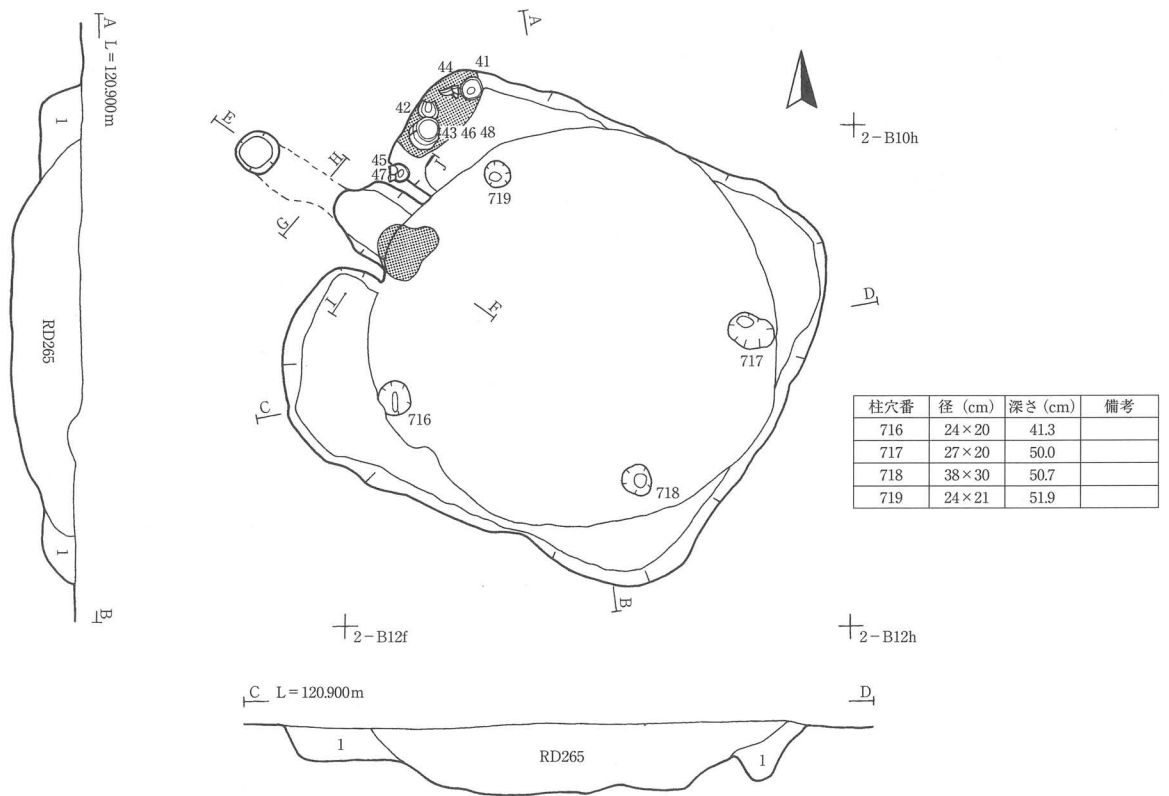
第31図 RA210竪穴住居跡

43cm（開口部）、深さ56cmの円形に掘り込まれている。〈柱穴〉4基検出された。直径は20～25cm、深さは40～50cmであり、東西南北のコーナー付近にある。位置からみて、住居に関するものである。〈出土遺物〉（第278図・写真図版281・282）埋土中及び床面から個体数にして土師器坏3点、甕6点、丸底の手づくね土器1点、高坏とみられるもの1点、自然・磨石1点、球1点、磁器皿1点が出土している。埋土中のものはR G 241とR D 821の遺物とも考えられる。このうち、41・42・43・44の坏と46・48の甕はカマド北側コーナーの土坑とその近くから、ほぼ完形の状態で出土した。こうした状況はR A 206・207においても観察されている。また、46は48の中に入れられ、2点とも上向きで出土した。

〈時代〉奈良時代。

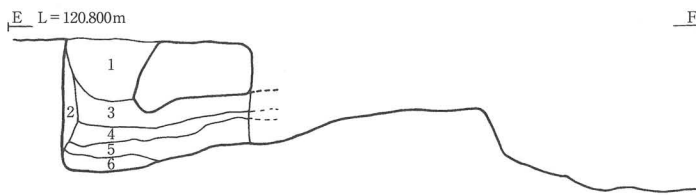
RA 2 1 9 竪穴住居跡（第33・34図・写真図版18）

〈位置・重複関係〉調査区西側3-D3x区に位置し、IV層で確認された。遺構の重複はない。〈規模・平面形・方向〉規模は5.8×6.2mで床面積31.0m²。平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向は、N-80°-Wである。〈埋土〉1～3cmの小礫の混じった褐色土を含む黒褐色土を主体にした2層で構成される。その中に、近世の攪乱や耕作土が混じる。〈床面〉ほぼ全面に貼床があり、平坦で締まりがある。近世の建物跡を構成する柱穴や小礫が散らばっている状態である。土師器片等はカマド付近にあるが、北西コーナーに粘土塊を含む廃棄焼土がみられる。〈壁〉床面からほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁20cm、東壁16cm、南壁18cm、西壁15cmを測る。壁溝は検出されなかった。〈カマド〉住居西壁中央部に位



A-B・C-D
1. 10YR4/4褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR2/2黒色土ごく微量含む。

0 1:60 1m

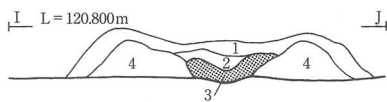


G L=120.800m H



E-F・G-H

- 10YR2/1黒色土 粘性、締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR4/4褐色土 粘性、締まり有り。崩落土か？
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。5YR5/8明赤褐色焼土ブロックごく微量含む。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。5YR5/8明赤褐色焼土ブロックごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。5YR5/8明赤褐色焼土ブロック東側に微量、10YR2/1黒色土ごく微量含む。
- 10YR2/1黒色土粘性有り。締まりなし。炭化物ごく微量含む。

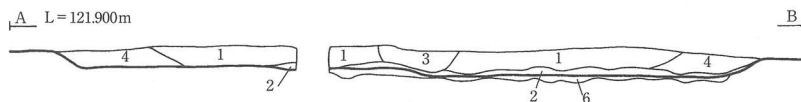
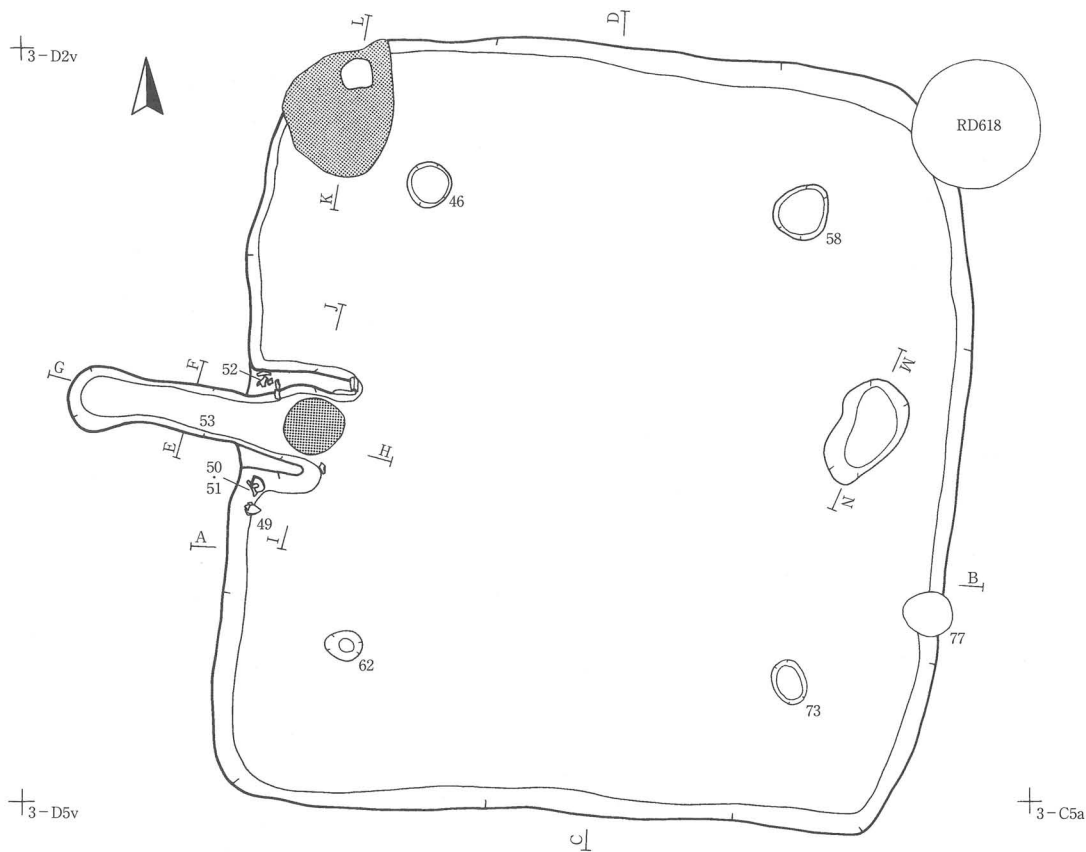


I-J

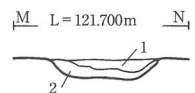
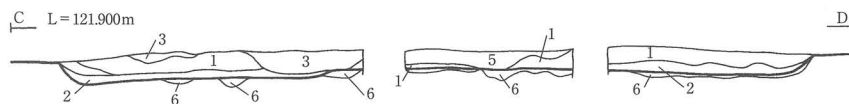
- 10YR2/1黒色土 粘性、締まり有り。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
5YR5/8明赤褐色焼土ブロックごく微量含む。
- 5YR5/8明赤褐色焼土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性、締まり有り。
内側に5YR5/8明赤褐色焼土をごく微量含む。

0 1:30 50cm

第32図 RA211 竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
46	31×30	18.9	
58	39×34	14.1	
62	30×25	30.6	
73	27×20	36.0	
77	44×37	38.7	



A-B・C-D

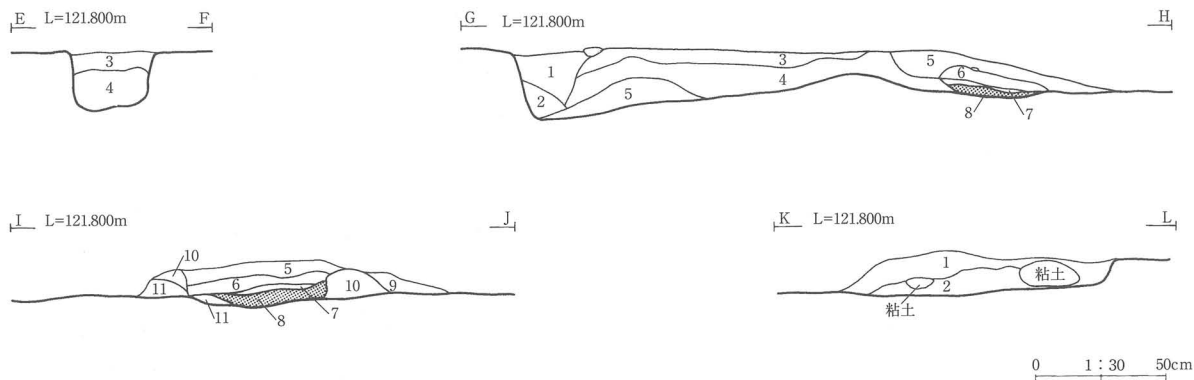
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
小礫ごく微量含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
10YR5/6褐色砂質土径1~3cm程の小礫ごく微量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR5/6褐色砂質土ブロックごく微量含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR3/3暗褐色土ごく微量含む。
5. 10YR4/1褐灰土 ごく微量含む。
6. 10YR4/4褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
10YR3/3暗褐色土ごく微量含む。

M-N

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性。締まり有り。
10YR5/6黄褐色砂質土ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。

0 1:60 1m

第33図 RA219竪穴住居跡(1)



E-F・G-H・I-J

1. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。炭化物ごく微量含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。2.5YR5/8明赤褐焼土ブロック、炭化物ごく微量含む。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。10YR4/6褐色砂質土ごく微量含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。2.5YR3/6暗赤褐焼土ごく微量含む。径1cm大の小レキ複数含む。
5. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まりなし。
6. 2.5YR4/6赤褐焼土 粘性、縮まりやや有り。10YR2/2黒褐色土、炭化物ごく微量含む。
7. 2.5YR4/6赤褐焼土 粘性なし。縮まり有り。

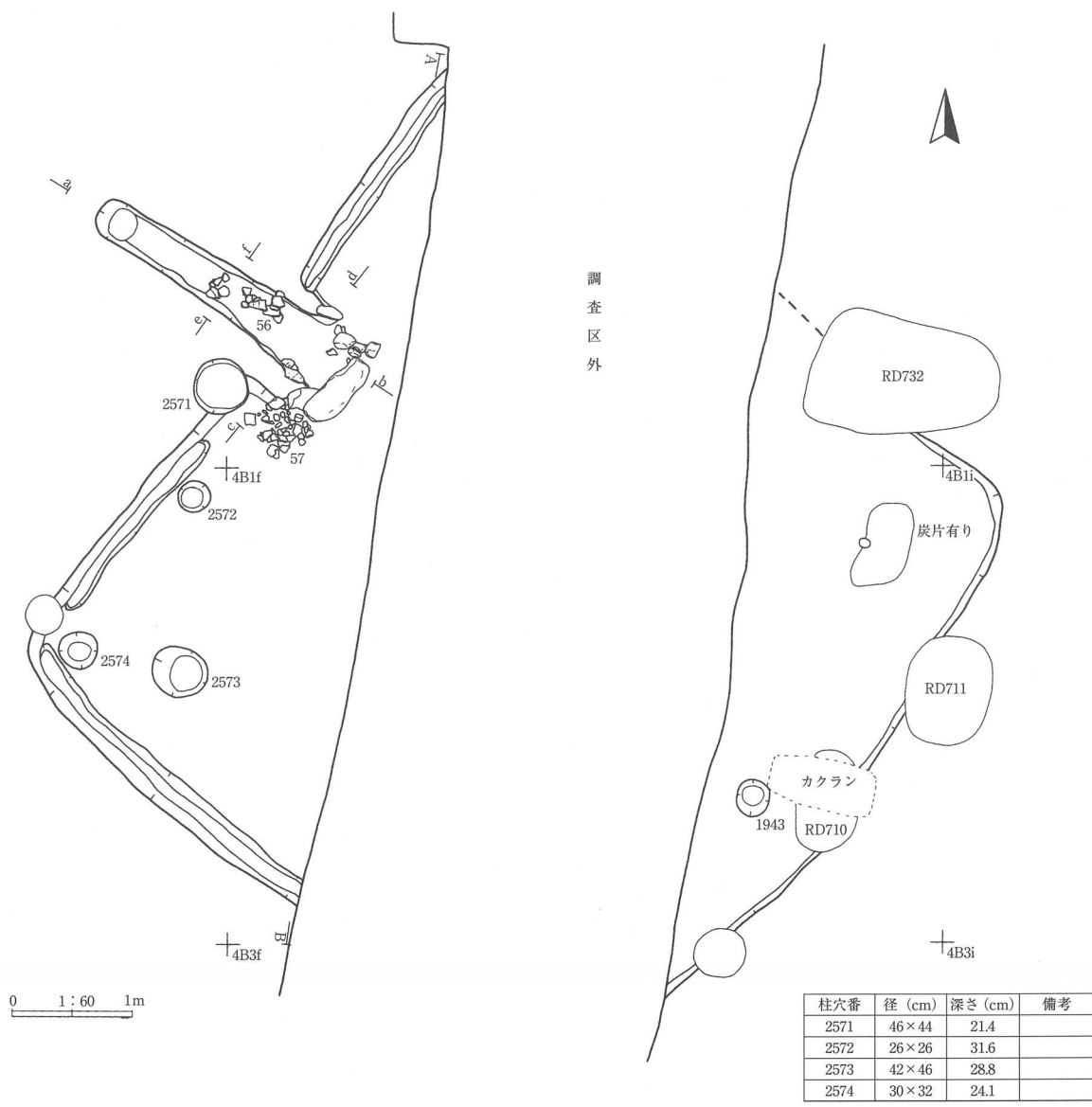
8. 2.5YR3/6暗赤褐焼土 粘性なし。縮まりなし。径1~3cm大の小礫含む。
9. 10YR5/6黄褐粘土 10YR3/3暗褐色土を微量含む。粘性、縮まりやや有り。
10. 10YR5/6黄褐砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。
11. 10YR3/4暗褐砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。径1~2cm大の小礫多量含む。

K-L

1. 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。2.5YR4/6赤褐焼土、炭化物ごく微量含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。10YR4/6褐色砂質土ごく微量含む。粘土10YR8/4~8/6粘性、縮まりきわめて有り。

第34図 RA219竪穴住居跡(2)

置し、本体の規模は50×90cmである。燃焼部は直径45cm、層厚5cm、床面に暗赤褐色焼土が形成されている。袖部は小礫を含む黄褐色砂質土と暗褐色砂質土の混合土からなる。土師器片はみられるが、芯材であるとは断言できない。煙道部は、削り貫き式で長さは1.1m、緩やかな下り勾配で煙出に続く。中程に焼土ブロックを含むが、側壁の焼成変化は目立たない。煙出の部分は深さ30cm程掘り込まれており、微量ながら炭化物や明褐色の焼土ブロックが認められる。〈柱穴〉住居にかかわる柱穴が4基検出された。〈ピット〉1基検出された。1号土坑は東側に位置している。焼土や土器は認められない。また北側のコーナー部分には焼土が廃棄してあった。焼土の下に浅黄橙と黄橙の粘土が2ヶ所に埋められている。〈出土遺物〉(第279図・写真図版282)埋土中及び床面から個体数で土師器坏6点、甕8点、混入したと考えられる須恵器甕小破片2点が出土した。52と53の甕はカマド両袖付近にあるが、芯材であったかどうかは不明である。49と50の坏は、カマド左袖外側から破片で出土した。〈時代〉遺物から奈良時代の可能性がある。



- A-B L=120.900m
- I. 10YR3/2黒褐色土 水酸化鉄斑有り。
粘性やや有り。縮まっている。
 - II. 7.5YR5/6明褐色土 床土。
 - III. 10YR2/1黒色土 粘性やや有り。縮まっている。
- 1. 10YR2/2黒褐色土 水酸化鉄斑有り。
炭粒ごく微量含む。粘性・縮まりやや有り。
 - 2. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック混。
粘性・縮まりやや有り。
 - 3. 10YR2/1黒色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 4. 10YR2/1黒色土 粘性・縮まりやや有り。
- 5. 10YR3/3暗褐色土 褐色土混入。
粘性・縮まりやや有り。
 - 6. 10YR3/2黒褐色土 褐色土混入。
粘性・縮まりやや有り。
 - 7. 10YR4/4褐色土 黒褐色土・暗褐色土など混じる。
粘性やや有り。縮まっている。

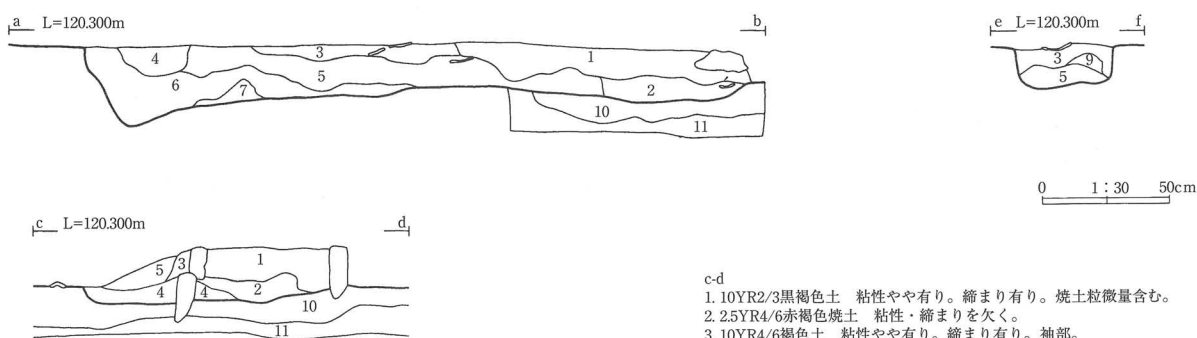
第35図 RA223竪穴住居跡(1)

RA223 竪穴住居跡（第35・36図・写真図版19）

<位置・重複関係>遺跡中央やや南側の4B1fグリッドに位置している。RD710・711・732と重複しておりいずれも本住居跡のほうが古い。 <規模・平面形・方向>北西壁-南東壁で6.5mを測る。平面形は隅丸方形を基調とすると思われ、床面積は37.9㎡と推定した。住居の主軸方向はN-56°-Wである。

<埋土>黒褐色土と黒色土を主体とし自然堆積の様相を呈する。 <壁>各壁とも約20cm前後残存しており床面から外傾して立ち上がっている。北西壁際及び南西壁際には壁溝が掘られていた。 <床面>全面を貼床とし硬く締まっている。 <カマド>北西壁のほぼ中央に構築されている。燃烧部の幅は約40cmと見られ、埋土には焼土粒や炭粒が含まれていた。袖部と焚口には自然礫を芯材に使用しこれを褐色土で覆っている。燃烧部は刳り貫き式であったと思われ、燃烧部から煙出し下部へは最大9cmの傾斜で掘り下げている。

<柱穴>4基の柱穴を検出したが、本住居に伴わないものも含んでいる可能性がある。 <出土遺物>（第280図・写真図版282・283）埋土及び床面からは個体数にして土師器坏1点、甕類4点、長胴扁平土器1点の出土があった。甕56は煙道部の埋土からの出土である。57の長胴扁平土器はカマド南西脇の床から袖部にかけて、その場で潰れて床にめり込んだ状態でみつかった。 <時期>奈良時代。



- c-d
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。焼土粒微量含む。
 2. 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性・締まりを欠く。
 3. 10YR4/6褐色土 粘性やや有り。締まり有り。袖部。
 4. 10YR4/6粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック少量含む。
 5. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック少量含む。

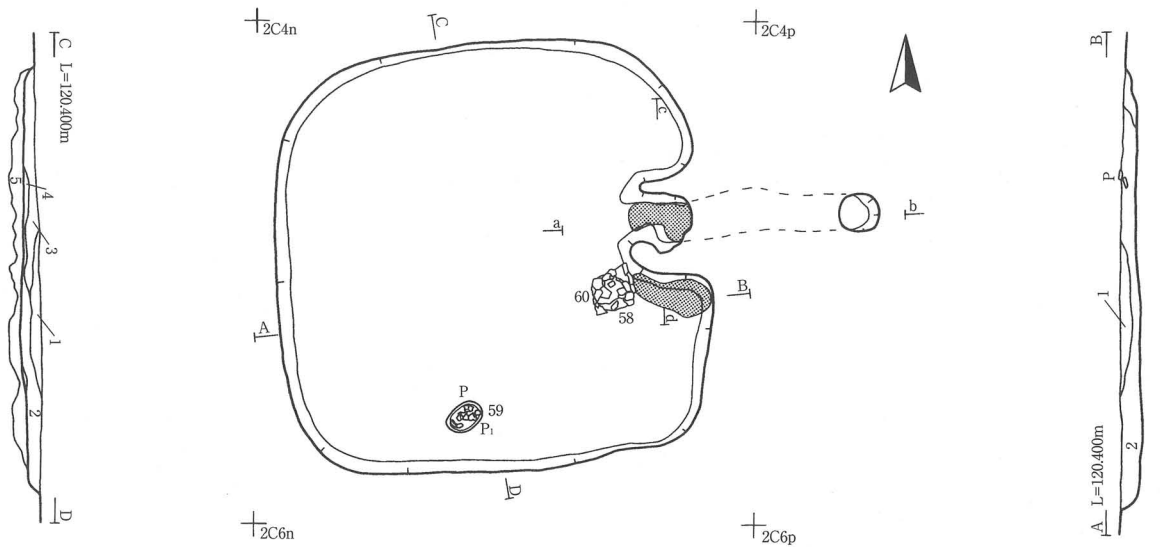
a-b・e-f

1. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。地山ブロック少量含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。地山ブロック少量含む。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。地山ブロック少量含む。
4. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量含む。
5. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。焼土粒微量含む。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。焼土・炭粒微量含む。
7. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土との混合土。
8. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。
9. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。地山ブロック多量含む。
10. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒褐色土・暗褐色土との混合土。貼り床。
11. 砂層

第36図 RA223竪穴住居跡(2)

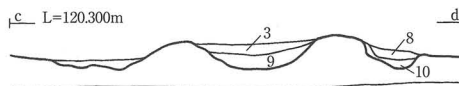
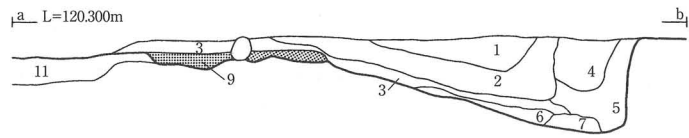
RA225 竪穴住居跡 (第37図・写真図版20)

<位置・重複関係>遺跡の東側、2C4nグリッドに位置する。 <規模・平面形・方向>隅丸方形のプランで東壁-西壁が3.5m、北壁-南壁で3.4mを測る。床面積は約9.7m²で、主軸方向はN-88°-Eである。 <埋土>黒褐色土及び褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。 <壁>各壁中央部での残存値は東壁9cm、南壁10cm、西壁15cm、北壁8cmしかなく残りは悪い。 <床面>全面を貼床とし平坦につくられている。



0 1:60 1m

- | | |
|--|---|
| 1. 10YR2/3黒褐色土 水酸化鉄斑有り。
粘性・縮まりやや有り。 | 4. 10YR5/6黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。
粘性やや有り。縮まっている。 |
| 2. 10YR4/4褐色土 地山ブロック微量。炭粒含む。
粘性やや有り。縮まっている。 | 5. 10YR4/4褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。
粘性やや有り。縮まっている。(貼床) |
| 3. 10YR3/2暗褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。縮っている。 | |



RA225カマド

- | | |
|--|--|
| 1. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。縮まっている。 | 9. 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性弱。縮まりやや有り。 |
| 2. 10YR4/6褐色土 粘性やや有り。縮まっている。 | 10. 10YR2/3黒褐色土 焼土 ブロック含。
粘性・縮まりやや有り。 |
| 3. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粒状に堆積。粘性弱。
縮まりやや有り。 | 11. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック混。
粘性やや有り。縮まっている。(貼床) |
| 4. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性・縮まりやや有り。 | |
| 5. 10YR4/4褐色土 地山ブロック主体。
そのすき間に暗褐色土。粘性弱。縮まりやや有り。 | |
| 6. 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。 | |
| 7. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック混。
粘性・縮まりやや有り。 | |
| 8. 10YR3/3暗褐色土 焼土粒・炭粒を含む。
粘性やや有り。縮まりやや有り。 | |

0 1:30 50cm

第37図 RA225竪穴住居跡

る。〈カマド〉東壁のほぼ中央に構築されており、燃焼部と煙道が残っている。燃焼部の左右の側壁は、地山をそのまま削り残してつくられていて芯材はない。天井部は崩落して残っていなかった。燃焼部底面には焼面の形成が顕著に認められ、そのほぼ中央には支脚に使われたとみられる自然礫が据えられていた。また右側壁の外側にも焼土の広がりが見られる。煙道部は削り貫き式で天井部は崩落している。燃焼部から煙出し下部には約11cmの傾斜で下がっている。〈柱穴〉1基のみ検出された。〈その他〉主軸方向が他の奈良時代の住居とは異なっている。〈出土遺物〉(第281図・写真図版284) 埋土及び床面から土師器甕類4点(その内長胴甕2点)が出土している。土師器坏は出土しなかった。カマド南側壁付近床面から甕58・60が倒れた状態で出土した。59は南西側の床面から出土した。〈時期〉奈良時代。

RA226 竪穴住居跡 (第38図・写真図版21)

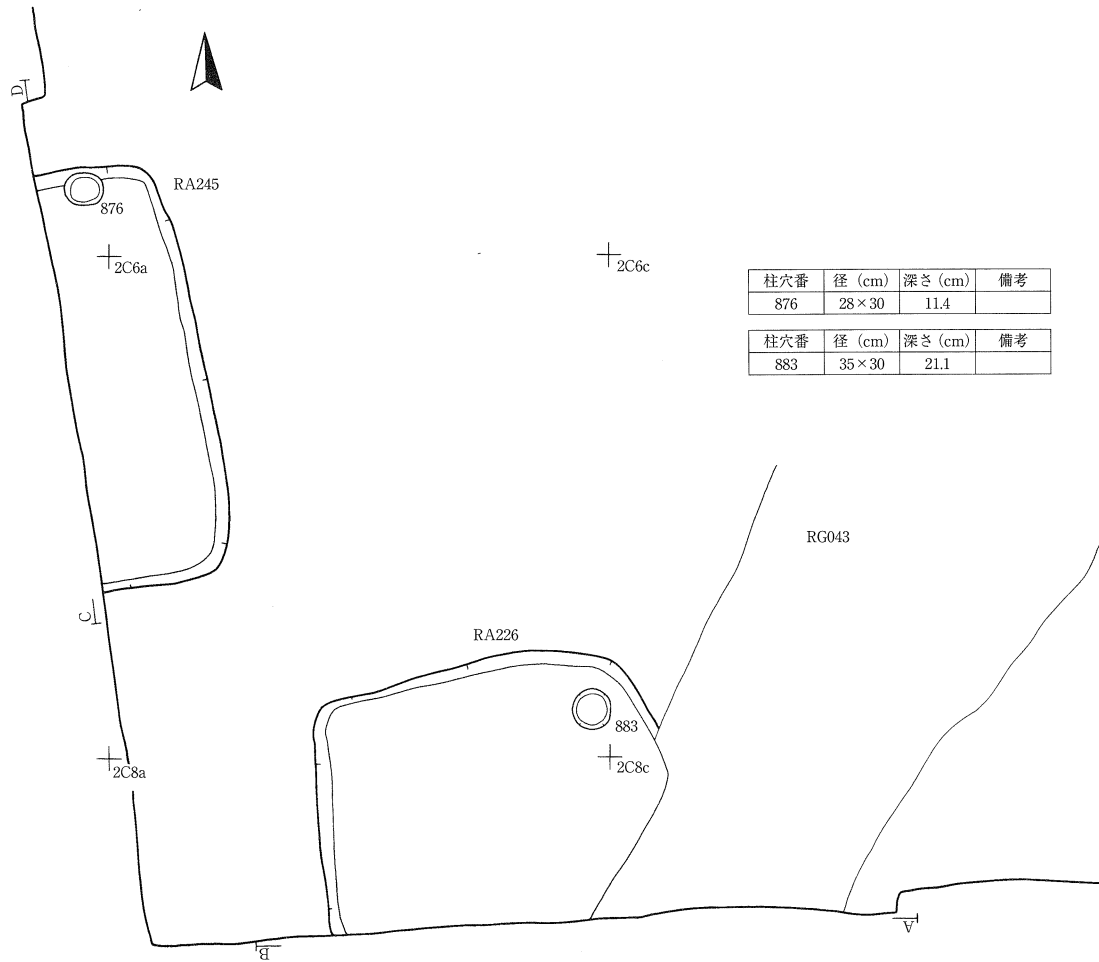
〈位置・重複関係〉遺跡の東側、2C6bグリッドに位置している。RG043と重複し本住居のほうが古い。〈規模・平面形・方向〉東壁-西壁で2.7mを測るが、東側はRG045に切られ、南側は調査区外へと延びているため詳細は不明である。平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈すると思われる。〈埋土〉堆積土は地山ブロックを不規則に含んでおり、人為堆積の可能性が考えられる。〈壁〉西壁はやや段をもって立ち上がっている。表土から床面までの断面図を作成したが、壁の立ち上がりはⅢ層とⅣ層の境までしか捉えられなかった。〈床面〉貼床を施し、概ね平坦につくられている。〈カマド〉調査区内では検出されなかった。〈柱穴〉1基検出されている。〈その他〉北西側に隣接するRA245とは时期的にも近いような印象をもつ。〈出土遺物〉無し。〈時期〉RG043より古いということ、そして周辺で検出されている他の遺構の状況から奈良・平安時代の遺構と思われる。

RA245 竪穴住居跡 (第38図・写真図版21)

〈位置・重複関係〉遺跡の東側、2C6aグリッドに位置している。〈規模・平面形〉本住居の西側は調査区外へ延びている。北壁-南壁では3.4mを測り、平面形は隅丸方形か隅丸長方形と推測される。〈埋土〉堆積土は6層に分けられ自然堆積の様相を呈する。〈壁〉北壁で42cm、南壁で50cmを測る。表土から床面までの埋土断面図を作成したが、壁の立ち上がりはⅢ層とⅣ層の境までしか確認できなかった。〈床面〉平坦で締まっている。貼床はみられなかった。〈カマド〉カマドが構築されていたかは不明である。〈柱穴〉1基検出されたが、本住居に伴うか不明である。〈その他〉南東側に隣接するRA226とは时期的に近いのではないかという印象をもつ。〈出土遺物〉奈良時代の土師器甕片が1点出土している。〈時期〉周辺で検出されている他の遺構の状況から奈良・平安時代と思われる。

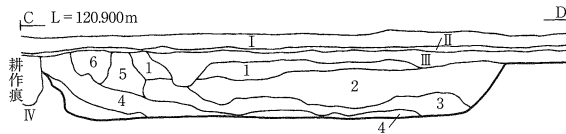
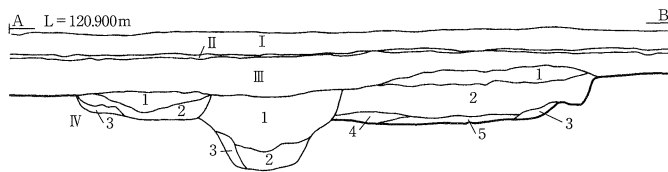
RA230 竪穴住居跡 (第39・40図・写真図版22)

〈位置・重複関係〉本遺跡のほぼ中央、2A12uグリッドに位置している。〈規模・平面形・方向〉北西壁-南東壁4.1m、北東壁-南西壁で3.9mを測り平面形は概ね方形である。床面積は約12.6㎡、住居の主軸方向はS-13°-Eとなる。〈埋土〉堆積土は12層に分かれるが何れも自然の流入によるものである。〈壁〉残存する壁高は南東壁35cm、北西壁22cm、北東壁26cm、南西壁30cmほどあり、カマド部分を除き壁溝が巡っている。〈床面〉平坦で全面貼床としている。〈カマド〉南東壁の西側に設置されており、燃焼部と煙道部からなる。袖部は地山を削りだして構築されており、袖部内壁は火熱により赤変している。焚口付近から46×35cmの範囲も底面が焼けている。煙道部は削り貫き式で燃焼部からやや下がり気味に掘られ、煙出し下部で若干立ち上がっている。〈柱穴〉床面にて5基の柱穴を検出した。〈その他〉床面にて焼



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
876	28×30	11.4	

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
883	35×30	21.1	



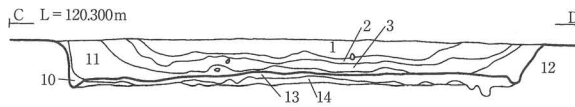
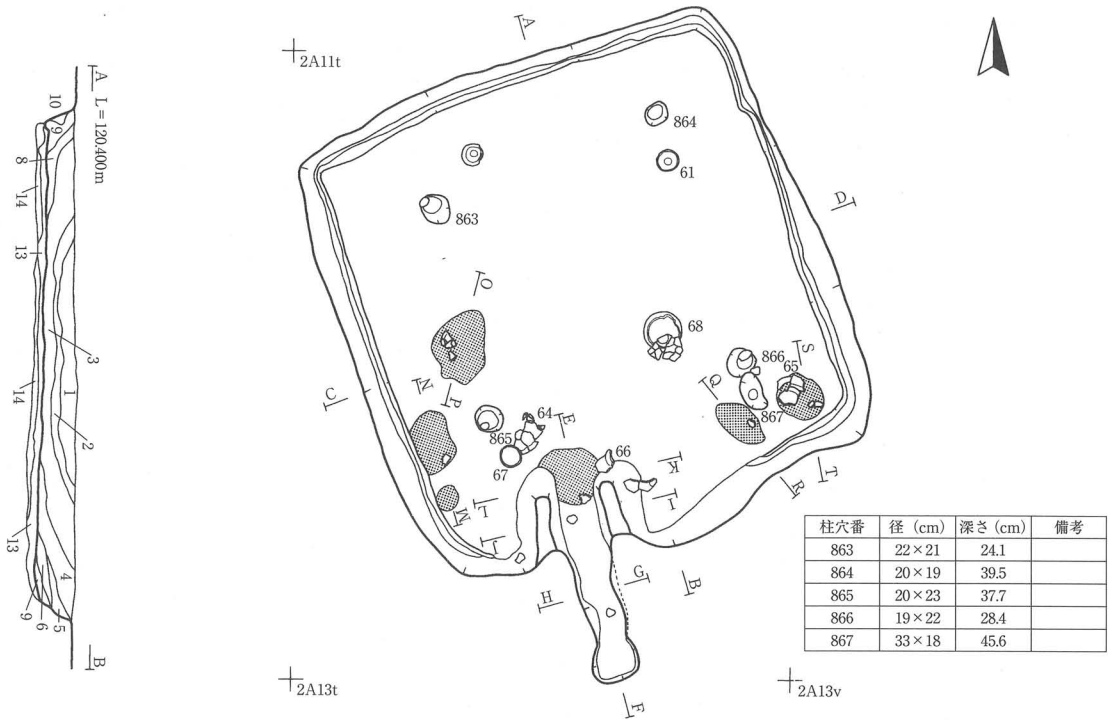
- RA226
- I. 10YR3/2黒褐色土 小礫少量含む。粘性弱。縮まりやや有り。
 - II. 5YR4/8赤褐色土 床土 粘性弱。縮まっている。
 - III. 10YR2/3黒褐色土 小礫ごく微量含む。粘性やや有り。縮まっている。
 - 1. 10YR3/1黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まりやや有り。
 - 2. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロックごく微量含む。粘性やや有り。縮まりやや有り。
 - 3. 10YR2/1黒色土 粘性有り。縮まりやや有り。
 - 4. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック微量含む。粘性・縮まりやや有り。(貼床)
 - 5. 10YR4/2灰黄褐色土 黒褐色土や褐色土も混じる。粘性・縮まりやや有り。(貼床)

- RA245
- I. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - II. 7.5YR5/8明褐色土 粘性弱。縮まり強(床土)。
 - III. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - IV. 10YR4/4褐色土 粘性弱。縮まりやや有り。

- 1. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 2. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。
- 3. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 4. (2層と同じ)
- 5. 10YR2/3暗黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。
- 6. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。

0 1:60 1m

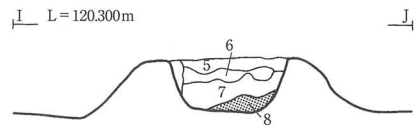
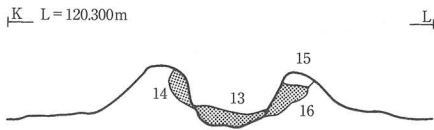
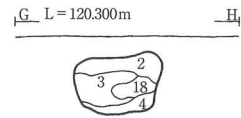
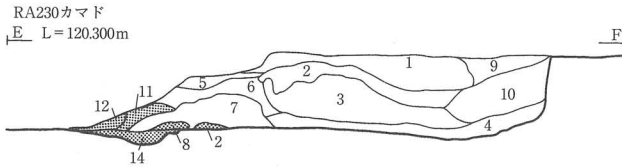
第38図 RA226・245竪穴住居跡



0 1:60 1m

A-B・C-D

- | | | |
|---|--|--|
| <p>1. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。</p> <p>2. 10YR3/3暗褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。水酸化鉄斑有り。</p> <p>3. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。</p> <p>4. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。焼土ブロックごく微量含む。</p> <p>5. 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土との混合土。</p> | <p>6. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。</p> <p>7. 10YR3/4暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。</p> <p>8. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。</p> <p>9. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。</p> <p>10. 10YR4/4褐色砂質土 粘性を欠く。縮まりやや有り。</p> <p>11. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。</p> | <p>12. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。</p> <p>13. 10YR4/4褐色砂質土 粘性を欠く。縮まりやや有り。</p> <p>14. 10YR4/6褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。黒褐色土ブロック含む。貼り床。*貼り床を下げると、一部礫層が見える。</p> |
|---|--|--|



0 1:30 50cm

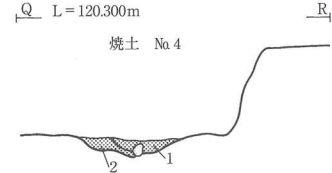
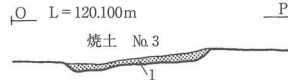
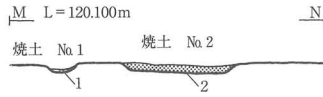
第39図 RA230竪穴住居跡(1)

E-F · G-H · I-J · K-L

- 10YR3/4暗褐色砂質土 粘性を欠く。縮まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。焼土粒微量含む。

- 5YR3/6明赤褐色焼土 粘性を欠く。縮まりやや有り。
- 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土との混合土。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。
- 5YR4/6赤褐色焼土 粘性を欠く。縮まり有り。
- 5YR3/2暗赤褐色焼土 粘性を欠く。縮まり有り。暗褐色土との混合土。
- 5YR3/4暗赤褐色焼土 粘性を欠く。縮まりやや有り。礫微量含む。

- 5YR3/6暗赤褐色焼土 粘性を欠く。縮まりやや有り。暗褐色土 (7.5YR3/4) 多量・炭少量含む。
- 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。黒褐色土で汚れている。
- 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。袖上部に木根痕有り。
- 10YR4/6褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。袖部。
- 5YR3/4暗褐色焼土 粘性を欠く。縮まりやや有り。礫微量含む。



M-N

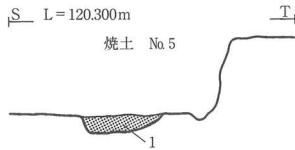
- 10YR3/4暗褐色焼土 粘性を欠く。縮まりやや有り。褐色土ブロック、焼土粒、炭少量含む。河原石含む。
- 7.5YR3/4暗褐色焼土 粘性なし。縮まりを欠く。焼土粒・炭多量含む (二次堆積)。床面に礫含む。

O-P

- 10YR4/6褐色焼土 粘性なし。縮まりを欠く。赤褐色焼土粒 (5YR4/8) 多量含む (二次堆積)

Q-R

- 10YR3/4暗褐色焼土 粘性なし。縮まりを欠く。焼土粒多量含む (焼土二次堆積)。
- 7.5YR4/6褐色焼土 粘性なし。縮まりを欠く。明赤褐色焼土粒 (5YR5/8) 大量に含む (焼土二次堆積)。炭微量含む (断面にはあらわれない)。



S-T

- 10YR3/4暗褐色焼土 粘性・縮まりを欠く。褐色土ブロック、焼土粒少量含む。床面に礫含む。

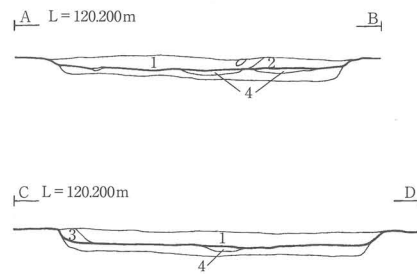
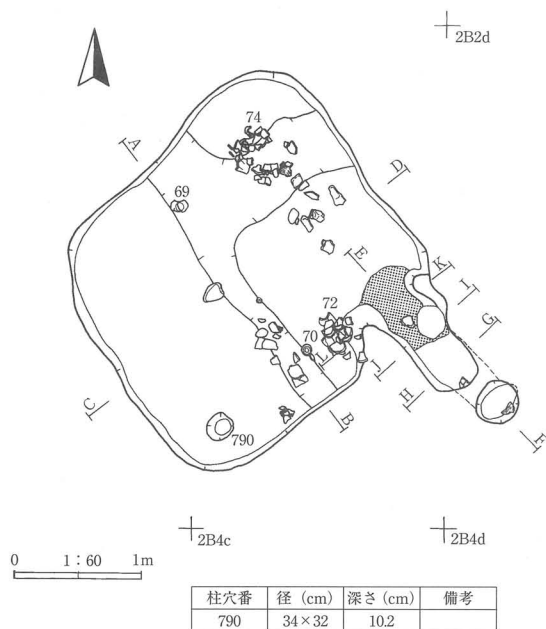
0 1:30 50cm

第40図 RA230竪穴住居跡(2)

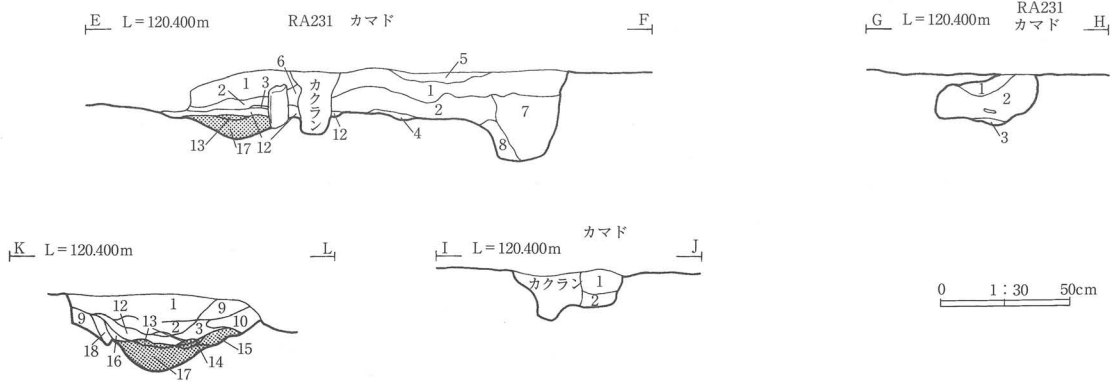
面を5基確認した。住居焼失による焼土ではない。性格を示せるような資料を伴わないが何らかの屋内作業によるものと考えたい。 <出土遺物> (第281・282図・写真図版284・285) 埋土及び床面から出土した個体数は坏2点、長胴甕6点、球胴甕1点、甕1点である。掲載した遺物は本住居に伴っていると判断したものである。坏61は住居北側の床面から、球胴甕68も床に置かれた正位の状態でお縁部付近が潰れて出土した。長胴甕64は焚口付近で横倒しになっていた。63・66・67の甕はカマド燃焼部付近から、65の甕は南東壁際の床面から出土した。 <時期>奈良時代。

RA231 竪穴住居跡 (第41図・写真図版23)

<位置・重複関係>遺跡のほぼ中央、2B3cグリッドに位置している。 <規模・平面形・方向>北西壁-南東壁2.4m、北東壁-南西壁2.6mを測る。平面形は隅丸方形を呈し床面積は約5.4㎡である。主軸方向はS-42°-Eとなる。 <埋土>自然堆積の様相を呈し、暗褐色土の中に地山ブロックや炭粒をごく微量含んでいる。 <壁>残りは良くない。南東壁6cm、南西壁10cm、北西壁4cm、北東壁12cm程残存し、壁溝はない。 <床面>全面を貼床とし平坦に構築されている。 <カマド>南東壁の東隅に設置されていた。燃焼部と煙道部からなり、残りは悪い。袖部は褐色土と暗褐色土によって構築されており、支脚には自然礫を用いている。焚口から70×35cmの範囲の底面が焼けていて袖部下面も火熱により赤変している。煙道部は刳り貫き式であったようで燃焼部からやや下がり気味に掘られ、煙出し下部は柱穴状に一段掘り下がる。 <柱穴>南側壁近くから1基検出されている。 <その他>土師器などとともに河原石が床面近くから出土している。 <出土遺物> (第283・342図・写真図版285・286・328) 埋土及び床面から個体数にして土師



- RA231
- 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック極少粒・炭粒をごく微量含む。粘性やや有り。縮まっている。
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR3/3 粘性やや有り。縮まり有り。
地山ブロック多量に含む(貼床?)



RA231カマド(削り貫き式)

- 10YR2/2~2/3黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
褐色土(10YR4/4)ブロック多量含む。
(南側では断面にはみえない焼土粒・炭少量含む)
- 10YR3/3~3/4暗褐色土 粘性弱。縮まりやや弱。
部分的に焼土粒・黒褐色土ブロック微量含む。
北側では褐色土(10YR4/6)ブロック少量含む。
- 7.5YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。縮まりやや弱。焼土粒多量含む。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。縮まりやや有り。
- 10YR4/4褐色土(砂質)粘性なし。縮まり有り。
部分的に黒褐色土でよごれている。(IV層相当土)
- 10YR4/6褐色土(砂質)粘性なし。縮まり有り(ブロック状のものか?)
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりやや弱。褐色土(10YR4/4)ブロック含。(上部に断面にはみえないが焼土粒少量・炭含)
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。褐色ブロック含む。
- 10YR4/4褐色土 粘性なし。縮まり有り。黒褐色土でよごれている。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性やや弱。縮まりやや有り。褐色土がしみ状に混入。
- 7.5YR4/6褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。焼土粒少量含む。黒褐色土でよごれている。
- 7.5YR3/3~3/4暗褐色土 粘性やや弱。縮まりやや弱。焼土粒少量含む。
- 7.5YR5/6~5/8明褐色焼土 かくく縮まっている。
- 5YR5/8明赤褐色焼土 縮まっている。
- 5YR3/4暗赤褐色焼土 かくく縮まる。黒褐色土でよごれている。
- 5YR3/4暗赤褐色焼土 縮まりやや有り。黒褐色土でよごれている。
- 5YR3/4暗赤褐色焼土 砂っぽい。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性やや弱。縮まりやや有り。炭・焼土粒少量含む。

第41図 RA231竪穴住居跡

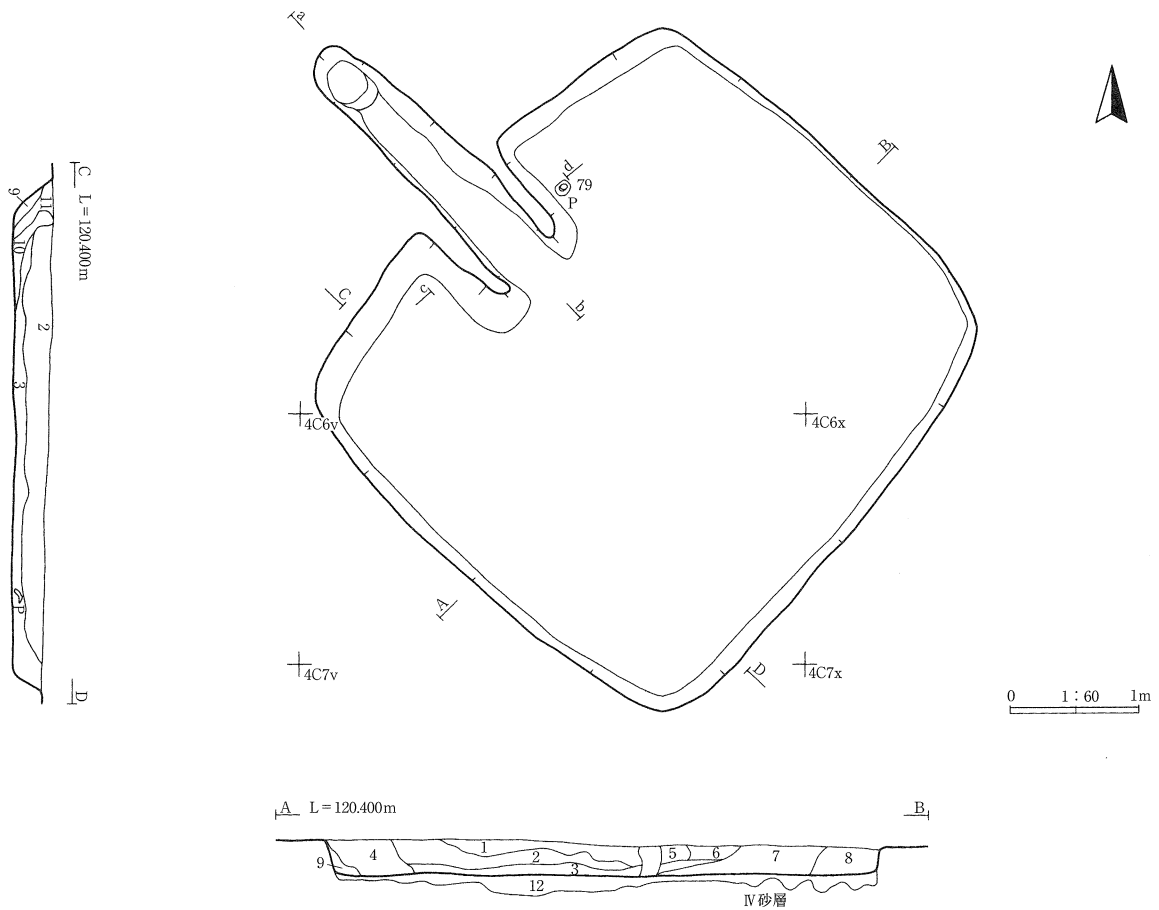
器坏4点、長胴甕4点、球胴甕3点、土製紡錘車1点(614)、近世陶器碗1点が出土している。72の甕は南西袖部脇から出土し、その隣の床面には坏70がみられた。74の球胴甕と坏69は北壁近くの床面から潰れた状態で出土した。土製紡錘車は住居のほぼ中央の床面近くから出土した。 <時期>奈良時代。

R A 2 3 3 竪穴住居跡 (第42図・写真図版24)

<位置・重複関係>遺跡南端付近4C6xグリッドに位置する。 <規模・平面形・方向>検出面での規模は北西壁4.2m、北東壁3.5m、南東壁4.2m、南西壁3.9mで平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約15.3m²、主軸方向はN-46°-Wである。 <埋土>黒褐色土を主体としつつも、暗褐色土・黒褐色土と褐色土の混合土などで構成される部分なども見られ、一部埋め戻しているのではないと思われる。 <壁>壁溝はなかった。各壁中央部の壁の高さは残存値で北西壁34cm、北東壁22cm、南東壁30cm、南西壁26cmである。北東壁では床面から垂直気味に壁が立ち上がっている。 <床面>全面を貼床とし、平坦で締まっている。 <カマド>北西壁に造られている。袖部は地山を生かして構築され、埋土の2層は崩落した天井部分と思われる。燃烧部には50×40cmの焼土の広がりが見られた。煙道部は掘り込み式か削り貫き式か不明であるが、約8°の傾斜で煙出し部に下る。 <柱穴>床面及び貼床を除去して探したが検出されていない。 <出土遺物>(第283・284・342図・写真図版286・328)埋土及び床面から個体数で土師器坏6点、高坏1点、甕2点、羽口1点、紡錘車(651)1点が出土している。79の坏はカマドの右側床面で出土した。 <時期>奈良時代。

R A 2 3 4 竪穴住居跡 (第43・44図・写真図版26)

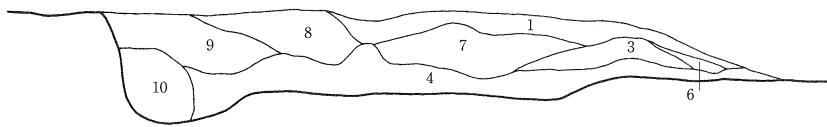
<位置・重複関係>遺跡の南端付近4C10rグリッドに位置している。 <規模・平面形・方向>北西壁-南東壁が7.7m、北東壁-南西壁で7.6mを測る。本遺構西側の一部は調査区外へ延びているが平面形は隅丸方形に近いものと思われる。床面積は約48.5m²と推測され、主軸方向はN-30°-Wである。 <埋土>堆積土は8層に分けられ概ね人為堆積の様相を呈する。2層には焼土・炭粒が多量に含まれており、さらに床面からは炭化材と焼土の広がりが検出されていることから、本遺構は焼失した住居跡と考えられる。但し使用時の火災か廃絶後のものかまでは解らなかった。 <壁>南東壁隅付近には壁溝がみられた。各壁中央での壁溝の残存値は北西壁21cm、北東壁23cm、南東壁24cm、南西壁36cmで直線的に外傾している。 <床面>全面を貼床とし硬く締まっている。また、間仕切りと思われる幅15cm前後の溝が北東壁側では2条、同じく南西壁側ではココ字条に延びているのを検出した。 <カマド>北東壁のほぼ中央に2基並んで検出され、西側が古く東側のカマドにつくりかえている。新しい東側のカマドでは袖部の芯材として土師器甕と河原石を使いそれを褐色土で覆って構築している。煙道部は削り貫き式で燃烧部から煙出し部下部へ約14°の傾斜で下る。古いほうの西側カマドは残存状況が悪い。袖部は東側のみが遺存し、新しいカマドの西側袖部として使われている。煙道部は燃烧部から煙出し部下部へ4°の傾斜で下がっている。 <柱穴>6基の柱穴を検出したが、本遺構に伴わないものも含んでいると思われる。 <ピット>北東壁及び南東壁西側から各1基のピットを検出した。ともに壁際から外側へ張り出すようにつくられている。本住居と同様埋土に焼土や炭粒を多く含んでいたため、住居に伴う施設といえると思う。但しその性格については判然としない。 <その他>床面から出土した炭化材はクリ材で老木と思われるとの鑑定であった。 <出土遺物>(第284・285・342図・写真図版286・287・328)埋土中及び床面から個体数で土師器坏3点、長胴甕5点、球胴甕1点、土製紡錘車2点(616)、縄文土器の台付鉢1点が出土した。84の長胴甕はカマドの芯材に用いられていたものである。83の長胴甕はカマド東脇床面から大きく二つに分かれた状態で出土した。87・86は同一



A-B・C-D

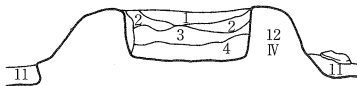
- | | |
|--|--|
| 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。 | 8. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。 |
| 2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック大量に含む。 | 9. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。 |
| 3. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。 | 10. 10YR3/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。 |
| 4. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。 | 11. 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。 |
| 5. 10YR4/4褐色土 粘性・締まりやや有り。 | 12. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒褐色土・暗褐色土との混合土。貼り床。 |
| 6. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。 | |
| 7. 10YR3/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。 | |

a L=120.300m



b₁

c L=120.300m



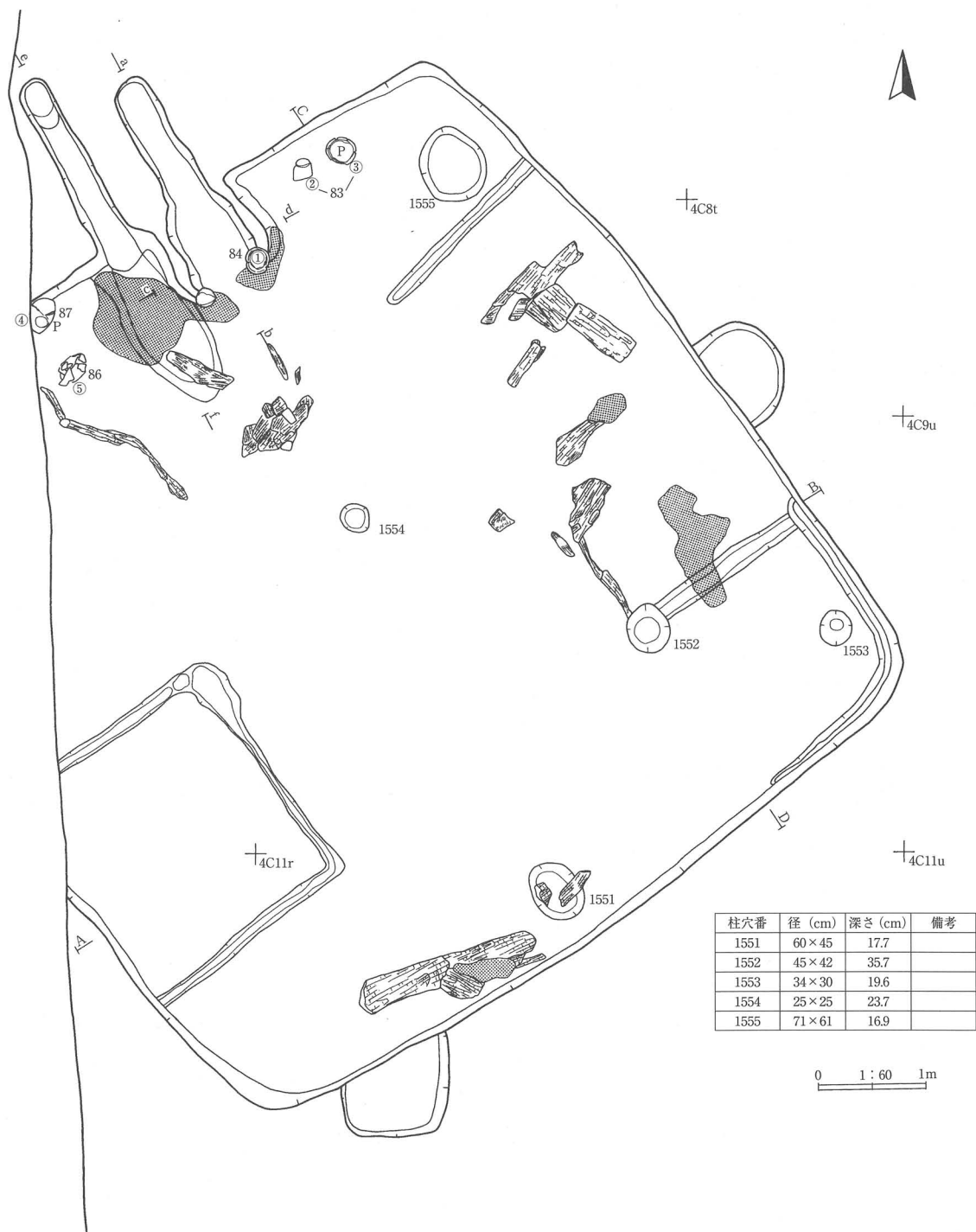
d

0 1:30 50cm

a-b・c-d

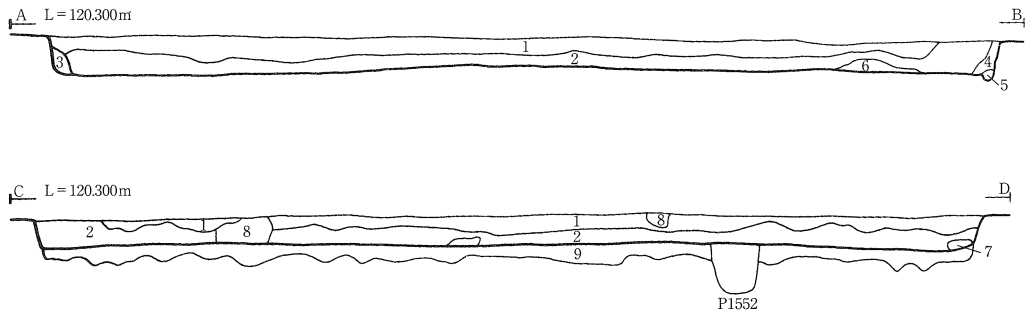
- | |
|---|
| 1. 10YR3/2黒褐色土 締まり・粘性やや有り。地山ブロック微量含む。 |
| 2. 10YR4/4褐色土 締まり・粘性やや有り。地山ブロック微量含む。 |
| 3. 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まりを欠く。焼土粒多量含む。 |
| 4. 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まりやや有り。焼土粒多量・炭粒含む。 |
| 5. 10YR5/8赤色焼土 粘性を欠く。締まり有り。 |
| 6. 10YR3/4暗褐色土 粘性・締まりやや有り。 |
| 7. 10YR4/6褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。地山ブロック含む。 |
| 8. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。 |
| 9. 10YR5/6黄褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土との混合土。 |
| 10. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック大量に含む。 |
| 11. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック含む。 |
| 12. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。 |

第42図 RA233竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1551	60×45	17.7	
1552	45×42	35.7	
1553	34×30	19.6	
1554	25×25	23.7	
1555	71×61	16.9	

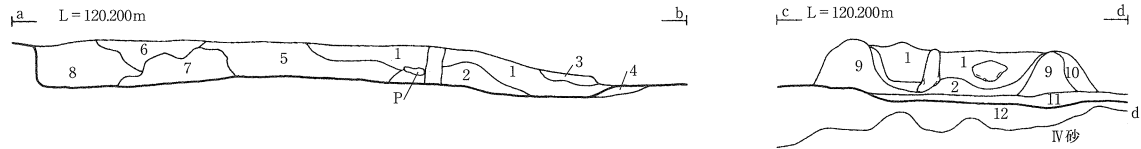
第43図 RA234竪穴住居跡(1)



RA234

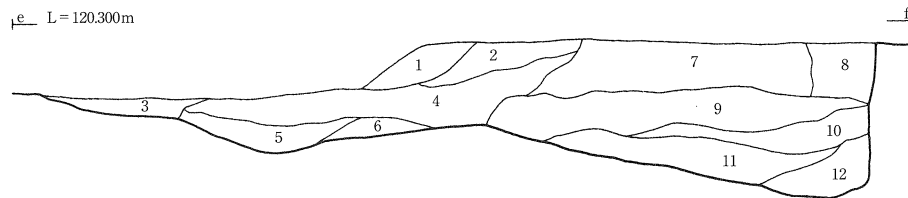
- | | |
|--|--|
| 1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性・縮まりやや有り。 | 6. 25YR4/8赤褐色焼土 粘性弱。縮まりやや有り。 |
| 2. 10YR2/3黒褐色土地山ブロック炭化材・焼土粒など多量に含む。粘性・縮まりやや有り。 | 7. 75YR8/1灰白色粘土 粘性有り。縮まっている。 |
| 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。 | 8. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。 |
| 4. 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。 | 9. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性やや有り。縮まっている。(貼り床) |
| 5. 3層と同じ | |

0 1:60 1m



RA234カマドa-b・c-d

- | | |
|---|---|
| 1. 10YR3/3暗褐色土 焼土ブロック多量。炭粒微量含む。粘性やや有り。縮まっている。 | 9. 10YR5/6黄褐色土 地山ブロック焼土粒含む。粘性弱。縮まっている。 |
| 2. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。 | 10. 10YR5/6黄褐色土 地山ブロック大量に含む。粘性やや有り。縮まっている。 |
| 3. 10YR2/1黒色土 炭化材多量に含む。粘性弱。縮まりやや有り。 | 11. 10YR4/6褐色土 地山ブロック焼土粒含む。粘性やや有り。縮まっている。(貼り床-1) |
| 4. 10YR4/4褐色土・黒褐色土との混土。粘性やや有り。縮まっている。(貼り床) | 12. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性やや有り。縮まっている。(貼り床-2) |
| 5. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。 | ※トンネルか否か不明。袖に土師や礫が入っているから土はもってきたもの |
| 6. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。 | |
| 7. 10YR4/4褐色土 粘性弱。縮まりやや有り。 | |
| 8. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。 | |



RA234カマドe-f

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1. 10YR3/3暗褐色土 焼土・炭粒含む。粘性・縮まりやや有り。縮まっている。 | 7. 10YR3/4暗褐色土 炭粒含む。粘性・縮まりやや有り。 |
| 2. 10YR5/6黄褐色土 焼土粒含む。粘性弱。縮まっている。 | 8. 10YR3/3暗褐色土 炭粒含む。粘性・縮まりやや有り。 |
| 3. 10YR3/3暗褐色土 炭粒多量に含む。粘性・縮まりやや有り。 | 9. 10YR4/4褐色土 粘性・縮まり有り。 |
| 4. 10YR3/4暗褐色土 焼土・炭粒含む。粘性・縮まりやや有り。 | 10. 10YR2/3黒褐色土 焼土粒含む。粘性やや有り。縮まりやや有り。 |
| 5. 10YR3/4暗褐色土 焼土を多量に含む。粘性弱。縮まりやや有り。 | 11. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。縮まっている。 |
| 6. 10YR5/6黄褐色土 砂質土 粘性弱。縮まっている。 | 12. 10層と同じ |
| | ※ 煙道はトンネルだったのが落ちてきている。 |

0 1:30 50cm

第44図 RA234竪穴住居跡(2)

個体と思われカマド西脇の床面から出土した。〈時期〉奈良時代。

R A 2 3 5 竪穴住居跡（第45図・写真図版27）

〈位置・重複関係〉本遺跡の南東端付近、4 C 11 w グリッドに位置する。〈規模・平面形・方向〉北西壁－南東壁で6.0m、北東壁－南西壁で5.6mの隅丸方形を呈す。床面積は約30.2m²、主軸方向はN－35°－Wである。〈埋土〉黒褐色土を主体とし、部分的に炭粒（ススキ類）がみられる。壁際には黒褐色土と黄褐色土の混合土が堆積している。自然堆積であると思われる。〈壁〉褐色シルトを掘り込んで構築している。各壁中央部での残存値は北東壁19cm、北西壁13cm、南東壁16cm、南西壁14cmを測り、それぞれ底面からやや外傾して立ち上がる。北西及び南西壁には壁溝がみられる。〈床面〉全面を貼床とし平坦で締まっている。〈カマド〉北西壁に位置する。天井部は崩落しているが、残存状況は良い。袖部は地山を生かしつつ、芯材に甕を用いそれを黒褐色土と褐色土の混合土で覆っている。燃烧部には55×53cmの範囲で焼土が広がる。煙道の残存状況は悪く、構造は不明な点が多い。長さ152cm、幅44cmを測り約5°の傾斜で煙出し部に下る。〈柱穴〉8基の柱穴を検出したがP 1512・1518は本遺構に伴わないかもしれない。

〈ピット〉南東壁隅で1基、南西壁隅から1基検出された。埋土はともに黒褐色土の単層で出土遺物はない。〈出土遺物〉（第286・287・342図・写真図版287～289・328）埋土及び床面から個体数で土師器坏が約5点、甕8点（その内球胴甕2点）、土製紡錘車（617・622）2点、剥片1点が出土している。

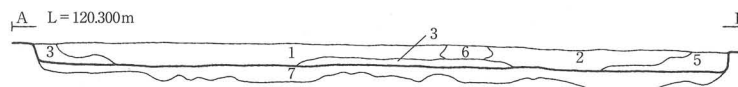
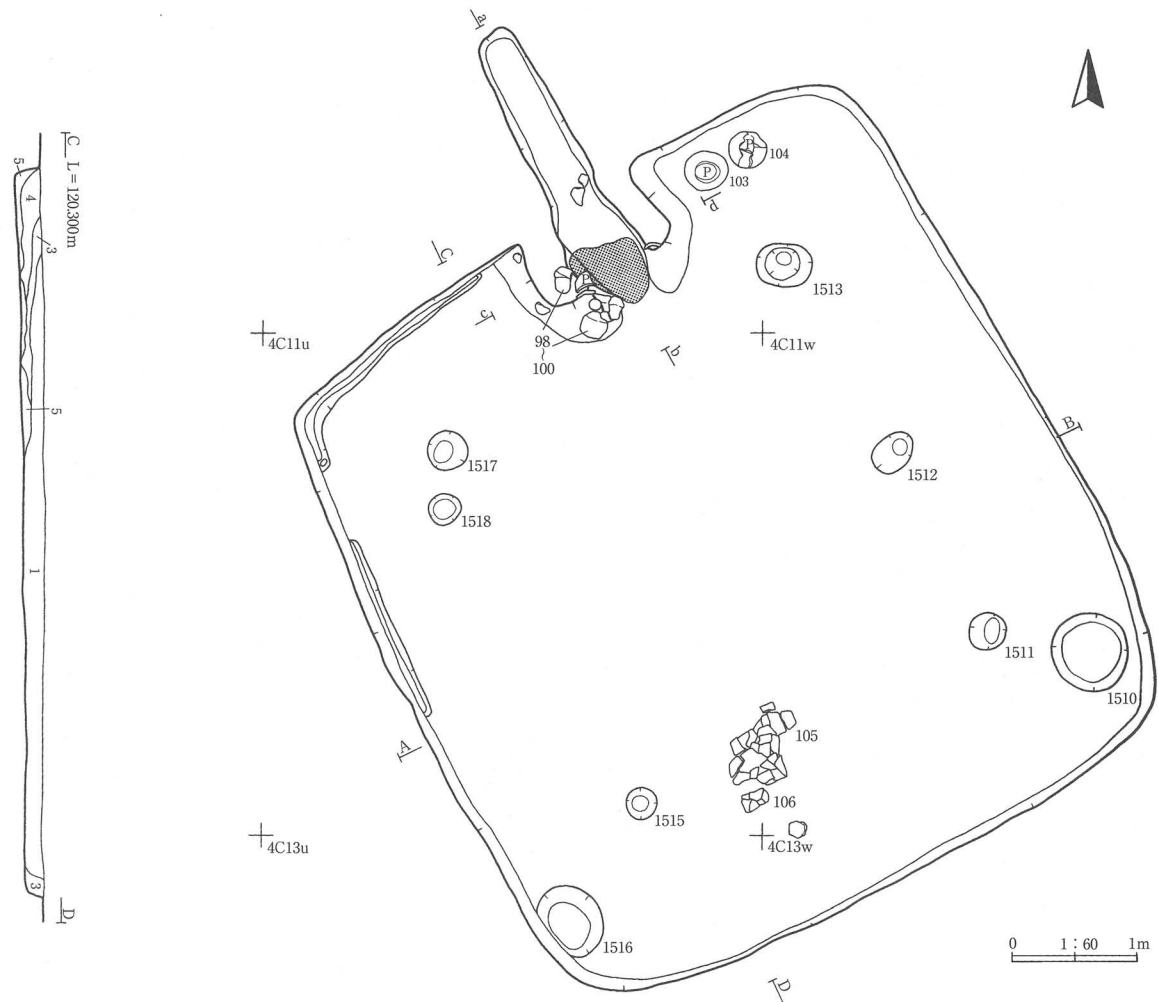
球胴甕103と104は上半部のみがカマド右側の床面に口縁を上にし、二つ並べて置かれていた。長胴甕98・99・100はカマドの芯材として用いられていたものである。長胴甕95は燃烧部周辺から出土した。球胴甕105と甕106は潰れた状態で南側床面から出土した。〈時期〉奈良時代。

R A 2 3 6 竪穴住居跡（第46図・写真図版28）

〈位置・重複関係〉遺跡の東側、2 D 12 l グリッドに位置する。R G 200と重複し本住居のほうが古い。〈規模・平面形・方向〉平面形は隅丸方形を基調とし、北西壁－南東壁で4.6m、北東壁－南西壁は4.7mを測る。床面積は約19.2m²で主軸方向はN－53°－Wである。〈埋土〉自然に流入したような堆積状況ではあるが、地山ブロックを多量に含んでおり埋め戻した可能性もある。〈壁〉各壁中央部での残存値は北西壁20cm、北東壁22cm、南東壁16cm、南西壁12cmを測る。西壁隅に浅い掘込みがみられたが壁溝になるかは判らなかった。〈床面〉全面を貼床とし、平坦で硬い。〈カマド〉北西壁のほぼ中央に構築されており、燃烧部と煙道部が残っている。燃烧部の幅は約50cm前後と考えられる。燃烧部の左右の側壁は地山を約80cm程削り出して作られており、芯材はみられず天井部も残っていない。煙道部は削り貫き式と思われ燃烧部から煙出し下部へ約9°の傾斜で掘込んでいる。〈柱穴〉カマド右脇から1基検出された。〈出土遺物〉（第288図・写真図版289）埋土及び床面等から個体数で土師器坏1点、高坏1点、甕類3点（小型の甕1点、球胴甕1点、その他1点）が出土している。焚口から約50cm東側の床面から高坏109が出土した。〈時期〉奈良時代。

R A 2 3 7 竪穴住居跡（第47図・写真図版29）

〈位置・重複関係〉遺跡の中では東側、2 D 13 f グリッドに位置している。R G 224と重複し本遺構のほうが古い。〈規模・平面形・方向〉北東壁と南東壁の一部が検出されたがその他は調査区外に延びている。平面形は不明であるが、主軸は北東壁の方向で一応計測しN－63°－Wとしておく。〈埋土〉堆積土は8層に分けられた。自然堆積と考えられる。〈壁〉概ね50cm前後残存し、緩やかに外傾して立ち上がっている。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1510	62×60	20.1	
1511	30×30	47.8	
1512	37×28	46.2	
1513	45×34	54.9	
1515	25×24	44.1	
1516	58×46	21.1	
1517	30×33	55.7	
1518	25×24	37.3	

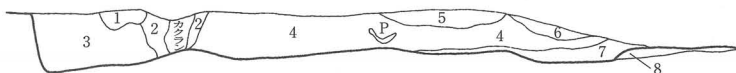
RA235

- 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色土 炭粒を微量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 1層と同じ
- 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性やや有り。縮まっている。
- 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性やや有り。縮まっている。
- 10YR5/6黄褐色土・黒褐色土との混土。
粘性やや有り。縮まっている。(貼床)

RA235カマド

- 10YR3/3暗褐色土・黒褐色土との混土
粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 焼土ブロック多量含む。
粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土・暗褐色土との混土。
炭粒含む。粘性やや有り。縮まり弱。
 - 10YR3/3暗褐色土 焼土粒を少量含む。
粘性やや有り。縮まり弱。
 - 10YR4/4褐色土・黒褐色土が混じる。
粘性・縮まりやや有り。
 - 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性弱。縮まりやや有り。
 - 6層と同じ
 - 10YR4/4褐色土・黒褐色土が混じる。粘性やや有り。
縮まっている。(貼床)
 - 10YR2/3黒褐色土・褐色土が多量に混じる。
粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
- ※ カマドは半分は地山を残し、半分は土をかぶせ作っている。

a L=120.300m



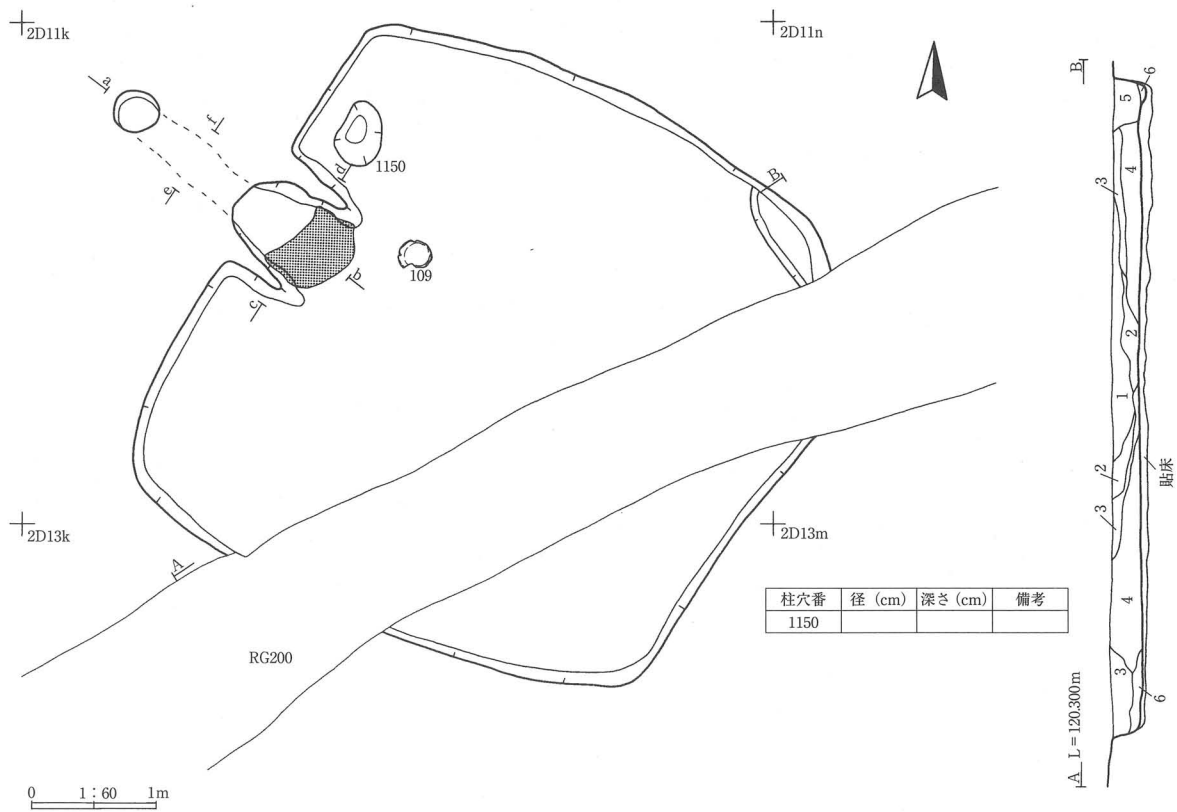
b

c L=120.300m



d

第45図 RA235竪穴住居跡



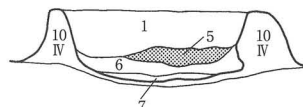
RA236

1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まっている。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
3. 10YR6/2灰黄褐色土 粘性弱。縮まっている。
4. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック極少粒を多量に含。粘性・縮まりやや有り。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
6. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック大量に含む。粘性やや有り。縮まっている。

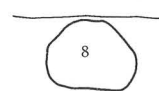
a L=120.200m



b c L=120.200m



e L=120.200m f



0 1:30 50cm

RA236カマド

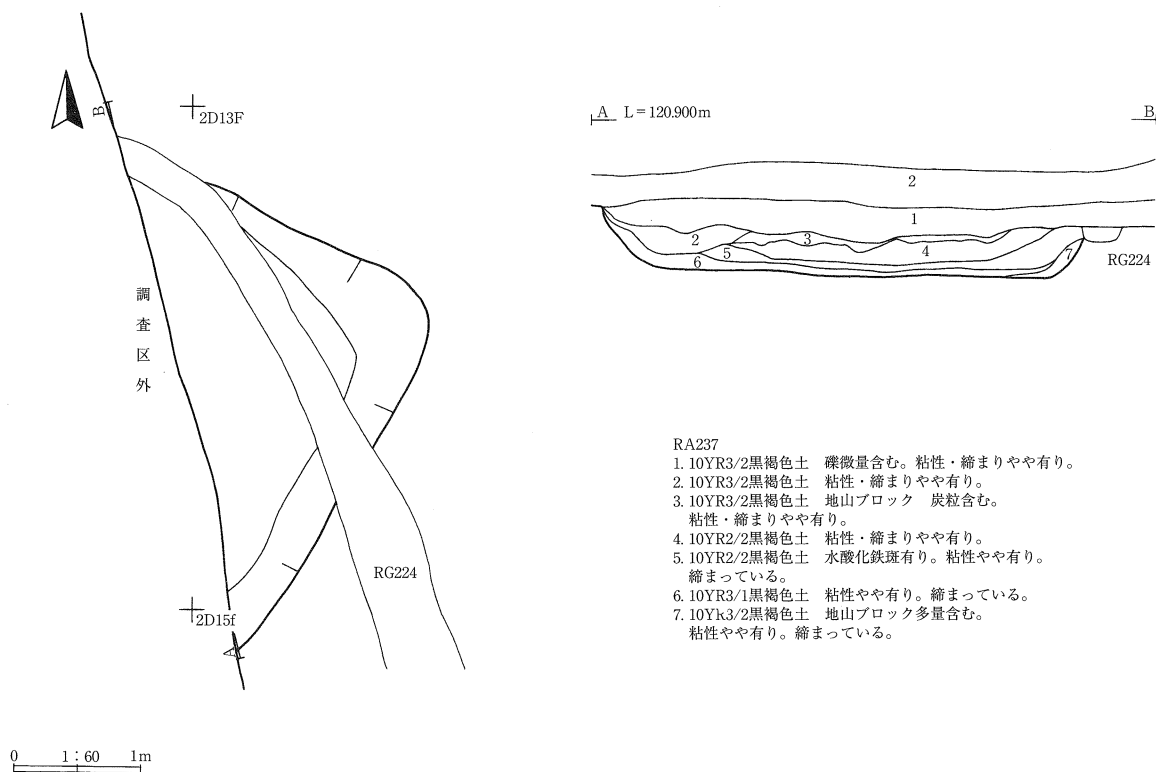
1. 10YR2/3黒褐色土 焼土粒微量含む。粘性・縮まりやや有り。
 2. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・縮まりやや有り。
 3. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まり弱。
 4. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。
 5. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性弱。縮まり弱。
 6. 10YR2/3黒褐色土 炭・焼土粒含む。粘性やや有り。縮まり弱。
 7. 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性弱。縮まっている。
 8. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・縮まりやや有り。
 9. 10YR4/6褐色土 粘性弱。縮まりやや有り。
 10. (IV) 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
- ※ 袖は地山のこして煙道はトンネル・カマドから骨片出土。

第46図 RA236竪穴住居跡

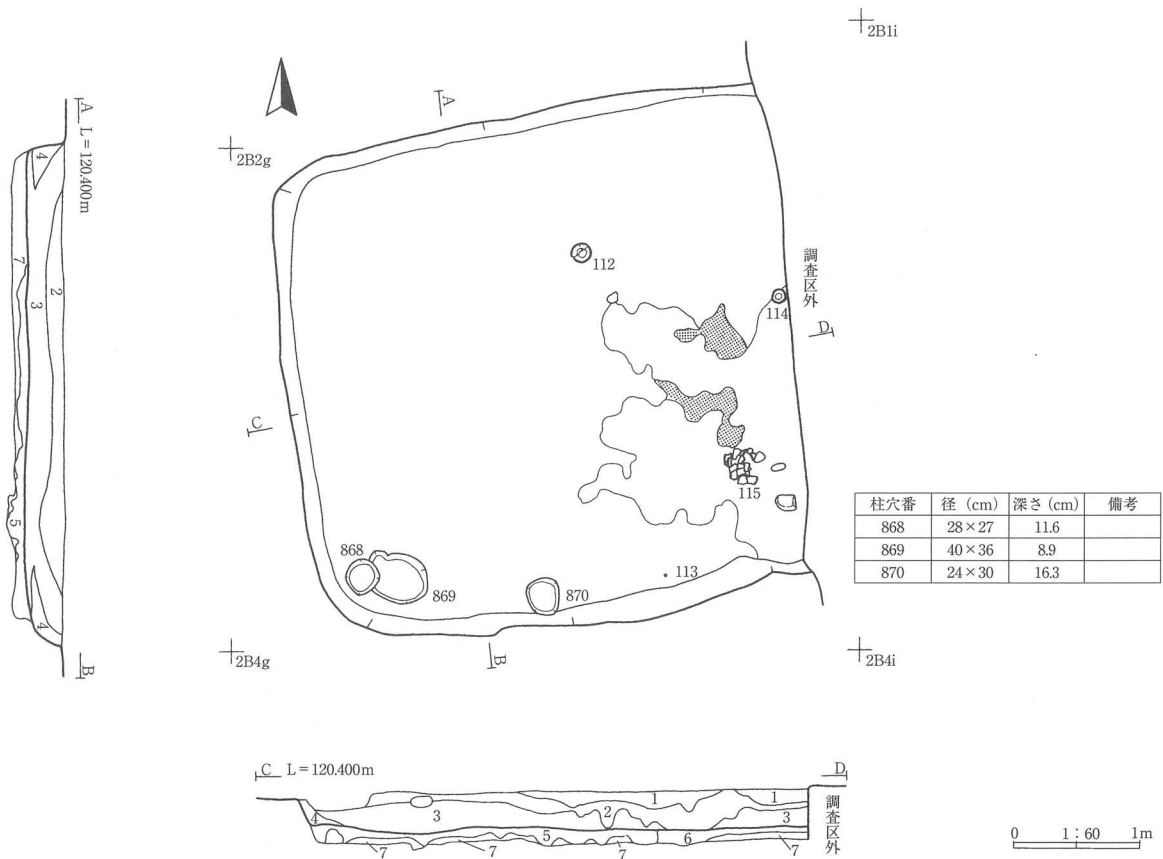
る。〈床面〉Ⅳ層をそのまま床面としている。平坦だが硬く締まるわけではない。〈柱穴〉検出されなかった。〈出土遺物〉無し。〈時期〉周辺の状況から奈良時代と思われる。

RA238 竪穴住居跡 (第48図・写真図版30)

〈位置・重複関係〉遺跡のほぼ中央、2B2hグリッドに位置している。〈規模・平面形・方向〉北壁―南壁は4.2mを測るが、東側は調査区外に延びている。平面形は隅丸方形を基調とすると思われる、住居の主軸方向は東壁にカマドがあったと推測されるのでN-78°-Eとした。〈埋土〉自然堆積の様相を呈する。〈壁〉北壁で30cm、南壁27cm、西壁は23cm前後残存しており、底面からやや外傾して立ち上がっている。〈床面〉ほぼ平坦で床面下には掘り方をもち、全面を貼床としているようである。〈カマド〉検出されていないが、東側の床面にて確認された焼土が燃焼部の破壊された痕跡とみられることから東壁に設置されていたと推測される。〈柱穴〉南壁際から3基が検出されている。〈その他〉本住居の東側は調査区外に延びているが攪乱があるため遺構は残存しないと思われる。〈出土遺物〉(第288図・写真図版289)埋土及び床面から個体数にして坏1、高坏1、碗?2、球胴甕1点が出土した。112の坏は北側の床面直上から、113の高坏は北壁近くの床面から出土した、114の碗は東壁付近の床面、115の球胴甕は南東側床面近くからその場で潰れたような状態で出土した。〈時期〉奈良時代。



第47図 RA237竪穴住居跡



RA238

1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂 小礫混。粘性なし。締まり弱。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロックごく微量含む。
粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR4/4褐色土 黒褐色土との混土。粘性やや有り。
締まっている。(貼り床) 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロックとの混土。
粘性やや有り。締まっている。
6. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック含む。水酸化鉄斑有り。
カクラン
7. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・締まりやや有り。(IV層・地山)

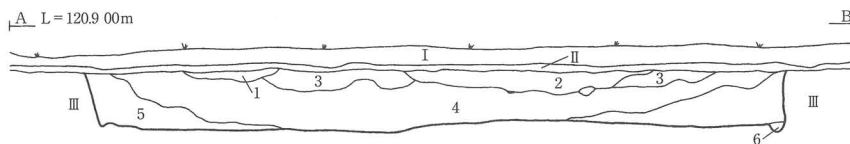
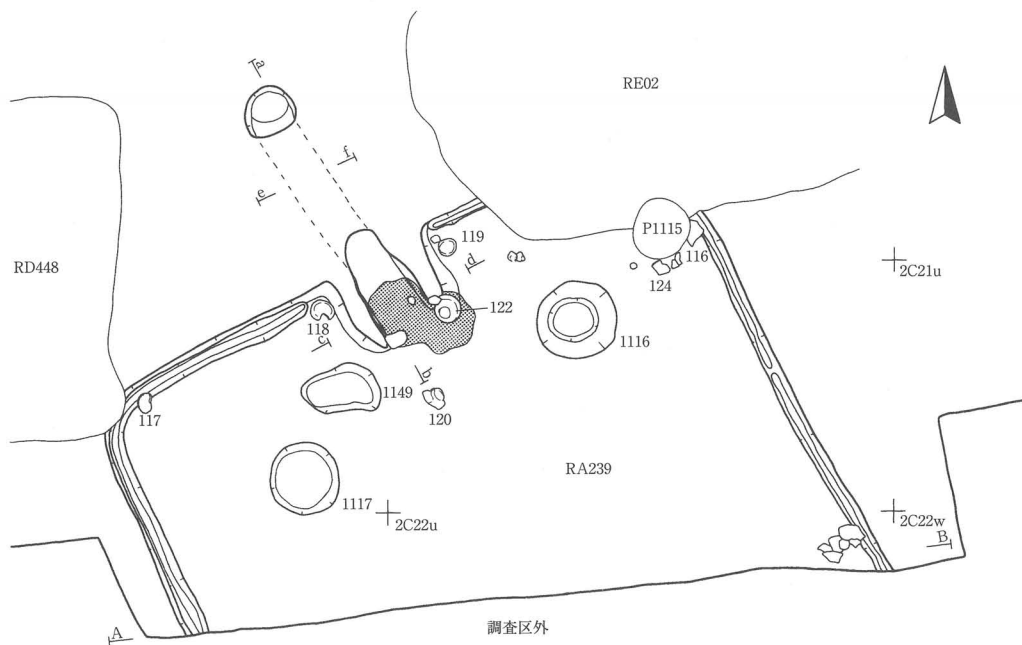
第48図 RA238竪穴住居跡

RA239 竪穴住居跡 (第49図・写真図版31)

<位置・重複関係>遺跡の東側、2C21uグリッドに位置している。RE025と重複し本住居のほうが古い。

<規模・平面形・方向>北東壁-南西壁では5.0mを測るが、本住居の南側半分は調査区外に延びている。平面形はおそらく隅丸方形を呈すると考えられる。主軸方向はN-26°-Wで床面積は約25m²と推定した。

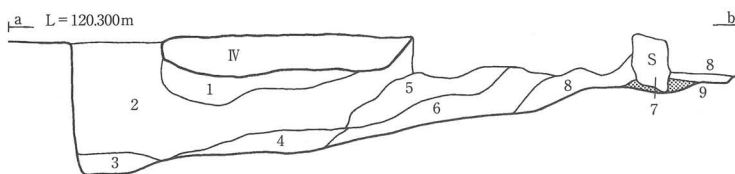
<埋土>堆積土は6層に分けられた。自然の流入と考えられる黒褐色土の上位には地山ブロックを多量に含む黒褐色土が厚く堆積していた。本住居が使われなくなって間もなく埋めた可能性がある。 <壁>カマド部分を除いた壁直下を周溝が巡っていた。壁は北西壁で11cm、北東壁21cm、南西壁19cm程残っており何れも底面から外傾して立ち上がっている。 <床面>褐色土 (IV層) を掘り込んで床面とし平坦で締まっている。カマドの周辺のみを貼床としていた。 <カマド>北西壁ほぼ中央に構築されている。天井部は残っていない。袖部には一部地山を生かしながら自然礫と倒立させた土師器甕をて芯材として用い、これらを灰黄褐色土で覆っている。燃烧部には85×56cmの範囲に焼面が形成され、両側壁内側も赤変している。埋土には微細



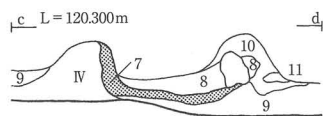
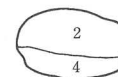
- A-B
1. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。焼土粒含む。
 2. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 3. 10YR3/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 4. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。
 5. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 6. 10YR3/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1115	43×45	18.4	
1116	61×62	31.1	
1117	58×53	19	
1149	25×34	32.8	

0 1:60 1m



e L=120.300m f



a-b・c-d・e-f

1. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。黒褐色土含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック微量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。
5. 10YR4/4褐色土
6. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック・焼土粒・骨片含む。
7. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性なし。縮まり有り。
8. 10YR2/3黒褐色土 粘性を欠く。縮まりやや有り。焼土粒・炭粒含む。
9. 10YR4/4褐色土 粘性を欠く。固く縮まる。黒褐色土との混合土。貼り床。
10. 10YR6/2灰黄褐色土 粘性を欠く。縮まりやや有り。
11. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
12. 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。

0 1:30 50cm

第49図 RA239竪穴住居跡

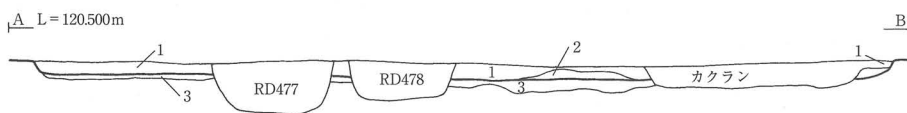
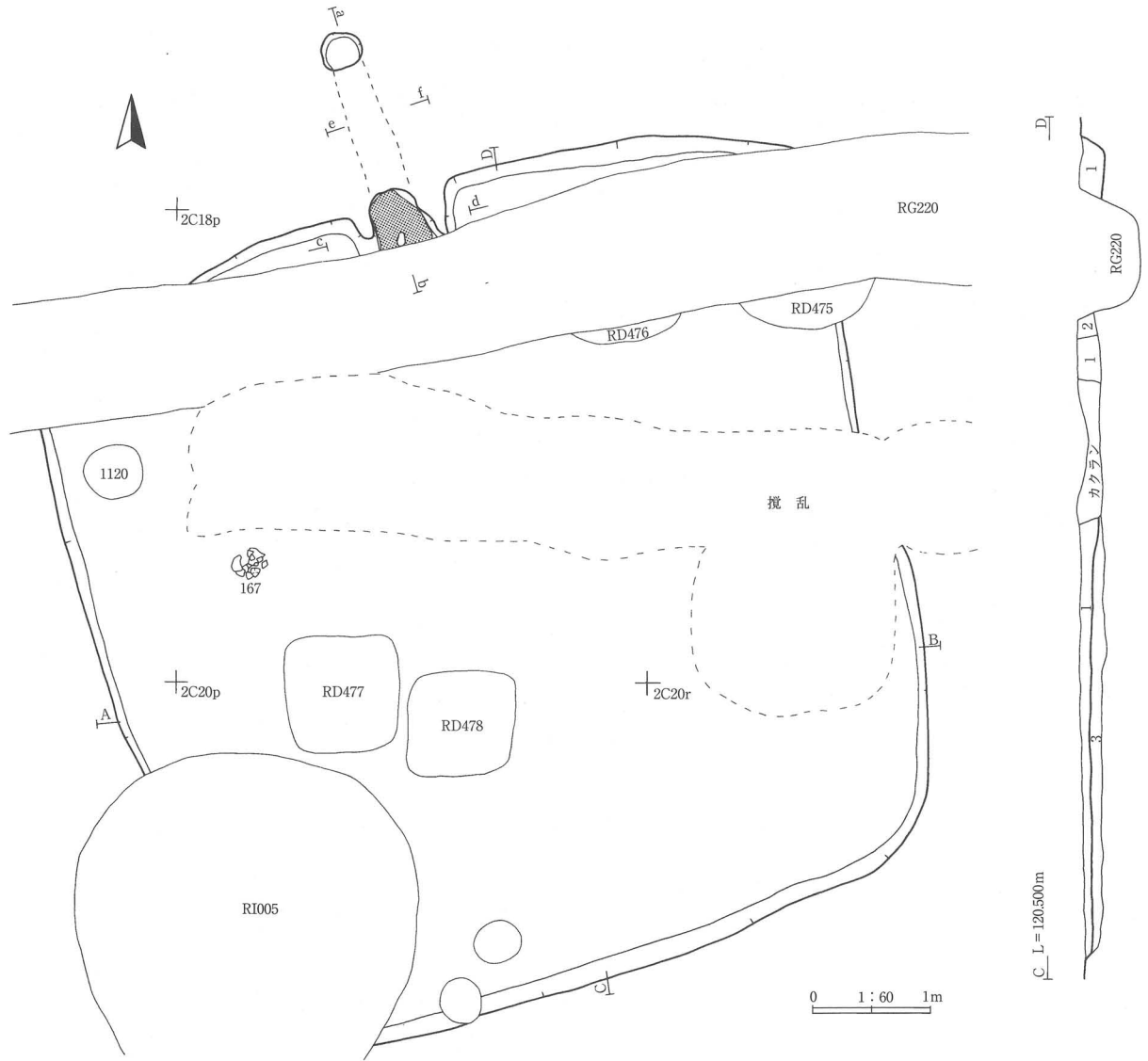
な骨片が数粒含まれていた。煙道部は刳り貫き式で燃焼部から煙出し部下部へは約12°の傾斜で下っている。
〈柱穴〉3基の柱穴を検出したがP1149は本住居に伴わないかもしれない。〈出土遺物〉(第289・290
図・写真図版290・291) 埋土中及び床面等から個体数で土師器坏が6点、碗1点、甕類12点(この内長胴
甕3点、球胴甕1点)が出土している。カマド袖部の芯材として用いられていたのは甕122である。カマド
の両隣にはそれぞれ坏が1つつつ置かれていた(西側が118・東側が119)。坏は北西壁隅にも置かれていた
(117)。坏116・甕124は北東壁際から、坏120は焚口付近で出土した。球胴甕125は住居東側床面からの出土
である。何れも本住居に伴う遺物である。〈時期〉奈良時代。

RA240 竪穴住居跡(第50図・写真図版32)

〈位置・重複関係〉遺跡の東側、2C18pグリッドに位置する。何れも本住居よりも新しい遺構であるRD
475・476・477・478、RG200、RI005と重複している。〈規模・平面形・方向〉様々な遺構に切れ残り
残存状況は悪い。北西壁-南東壁6.9m、北東壁-南西壁6.7mを測り平面形は隅丸方形と思われる。主軸方向
はN-18°-Wで床面積は約42.9㎡と推定した。〈埋土〉黒褐色土の単層である。〈壁〉外傾して立ち
上がるが各壁中央部での残存値は北西壁19cm、北東壁14cm、南東壁8cm、南西壁10cm程しかない。
〈床面〉全面を貼床とし、硬く締まっている。〈カマド〉北西壁に構築されており残存状況は悪い。燃焼
部の幅は45cm前後ありほぼ中央には支脚と思われる自然礫がみられた。また50×40cmの焼面も形成されてお
り左右の側壁の内側も若干赤変していた。側壁は地山であった。煙道部は刳り貫き式で燃焼部から煙出し下
部へは約12°の傾斜で掘り下げている。〈柱穴〉検出されていない。重複する遺構が多くそれにより失わ
れている可能性もある。〈出土遺物〉(第290・291・342図・写真図版291・292・328) 埋土及び床面か
ら個体数にして土師器坏4点、高坏?が1点、碗1点、長胴甕6点、紡錘車(618)1点が出土している。
167の長胴甕は中央西側の床面からその場で潰れたような状態で出土した。〈時期〉奈良時代。

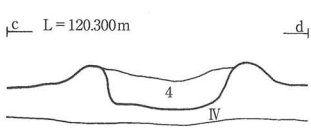
RA244 竪穴住居跡(第51図・写真図版33)

〈位置・重複関係〉遺跡の東側、1C24vグリッドに位置している。RG045・RD597・RD598と重複し
ておりいずれも本住居のほうが古い。〈規模・平面形・方向〉東側は調査区外へ延び、西側はRG045に
切られて残っていない。北西壁-南東壁で7.4mを測り、平面形は隅丸方形を基調とすると思われる。床面
積は約51.8㎡と推定した。主軸方向はN-24°-Wである。〈埋土〉残りが悪く埋土下層部分しか確認で
きなかった。基本的に黒褐色土の単層で自然堆積或いは人為堆積の区別は不明である。〈壁〉北西壁で約
13cm、南東壁中央部で12cmを測り残存状況は悪い。幾分外傾して立ち上がっている。〈床面〉平坦で締
まっていおり、検出された全面は貼床としていた。〈カマド〉北西壁に構築されていた。天井・袖部の一
部を自然礫で、さらに袖部の芯材に土師器甕を用いこれらを褐色土で覆っている。燃焼部には80×60cmの焼
土の広がりを見出した。煙道部は掘込み式で燃焼部から煙出し部下部へ約15°の傾斜で下る。〈柱穴〉7
基の柱穴を確認したが本住居に伴わないものも含む可能性がある。〈ピット〉カマド右隣の北西壁際に隅
丸長方形の土坑が1基みられた。本土坑検出面(住居床面のレベル)で土師器甕139が出土していることか
ら本住居が機能していたある時期に埋め戻していると思われる。〈その他〉南側で焼土の広がりを見出
した。床面よりは14cm前後高い。〈出土遺物〉(第291・292図・写真図版292) 埋土及び床面から個体数で
土師器坏が5点、甕5点、長胴甕2点、球胴甕2点が出土している。この内カマド袖部の芯材として用いら
れていたのは長胴甕138である。139の長胴甕はカマド右側の土坑検出面(住居床面)から出土した。長胴甕
137は焚き口付近の西側袖の上に置かれた状態で出土した。〈時期〉奈良時代。

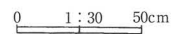
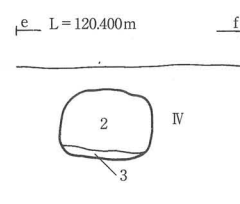
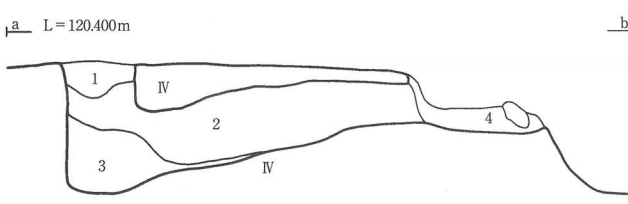


柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1120	45×50	35.1	

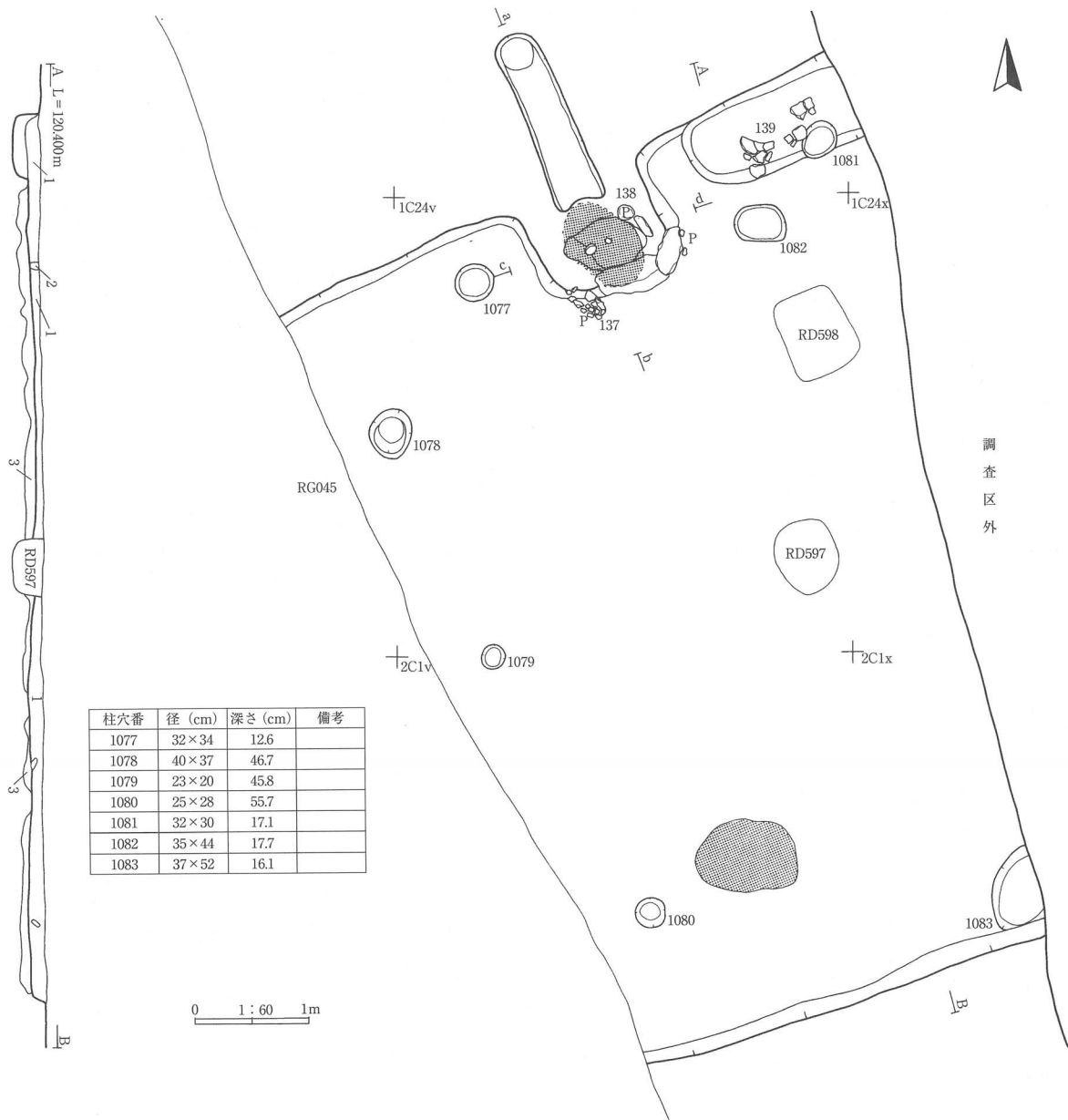
- RA240
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR4/4褐色土 黒褐色土との混合土。粘性やや有り。縮まっている
 - 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック大量含む。粘性弱。縮まっている。(貼床)



- RA240 カマド
- 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。
 - 10YR3/3暗褐色土 焼土・炭粒を少量含む。粘性弱。縮まりやや有り。
 - 10YR4/4褐色土 粘性弱。縮まっている

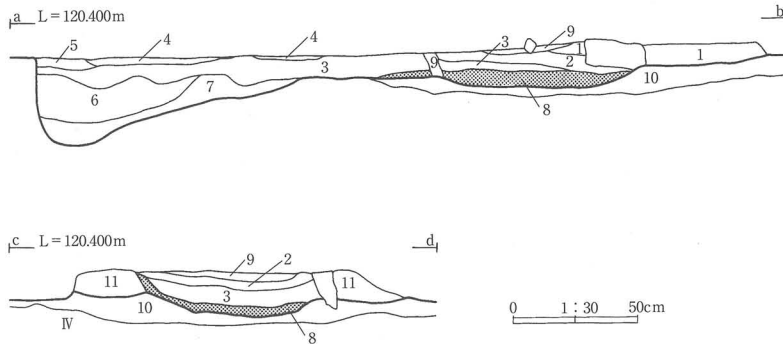


第50図 RA240竪穴住居跡



RA244

- 10YR2/3黒褐色土 粘性弱・縮まっている。
- 10YR5/6黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR4/6褐色土 暗褐色土や黒褐色土との混土。粘性やや有り。縮まっている。(貼床)



トンネルではないカマドの煙道

- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
 - 10YR4/6褐色土 焼土粒含む。粘性弱・縮まっている。
 - 10YR3/3暗褐色土 焼土粒含む。粘性やや有り。縮まり弱。
 - 10YR5/8黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR2/1黒色土 焼土粒ごく微量含む。粘性弱・縮まりやや有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 焼土粒少量含む。粘性やや有り。縮まりやや有り。
 - 10YR4/3にぶい黄褐色土 黒褐色土との混土。粘性やや有り。縮まりやや有り。
 - 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性弱。縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
 - 10YR4/6褐色土 黒褐色土との混土。粘性やや有り。縮まっている。(貼床)
 - 10YR4/6褐色土 黒褐色土が下位に入る。粘性やや有り。縮まっている。(袖部)
- ※ 袖部は、地山を残して作ったものではない。

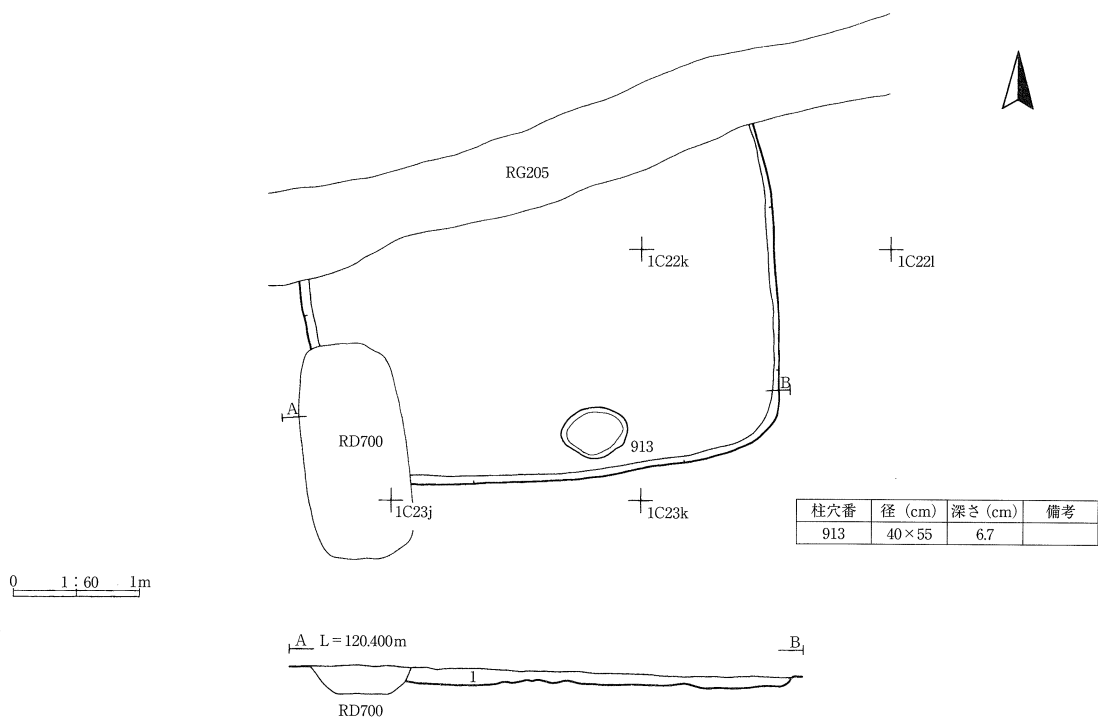
第51図 RA244 竪穴住居跡

RA246 竪穴住居跡 (第52図・写真図版34)

＜位置・重複関係＞遺跡の東側、1C22kグリッドに位置している。RD700・RG205と重複する。何れも本住居より新しい。＜規模・平面形・方向＞住居床面での検出で東-西で3.8mを測る。北側は検出できなかったが、平面プランを隅丸方形と推定するなら床面積は13.7㎡位となる。主軸方向はカマドが北壁に構築されていたと仮定してN-5°Wとした。＜埋土＞床面のみ検出されたため不明である。＜床面＞重複するRG205から南側は貼床としている。＜カマド＞検出されなかった。構築されていたなら北壁であろう。＜柱穴＞1基のみ検出されたが、本遺構に伴うかは不明である。＜出土遺物＞無し。＜時期＞周辺から出土した土師器や遺構の分布状況から奈良時代と見るのが妥当と考える。

RA247 竪穴住居跡 (第53図・写真図版35)

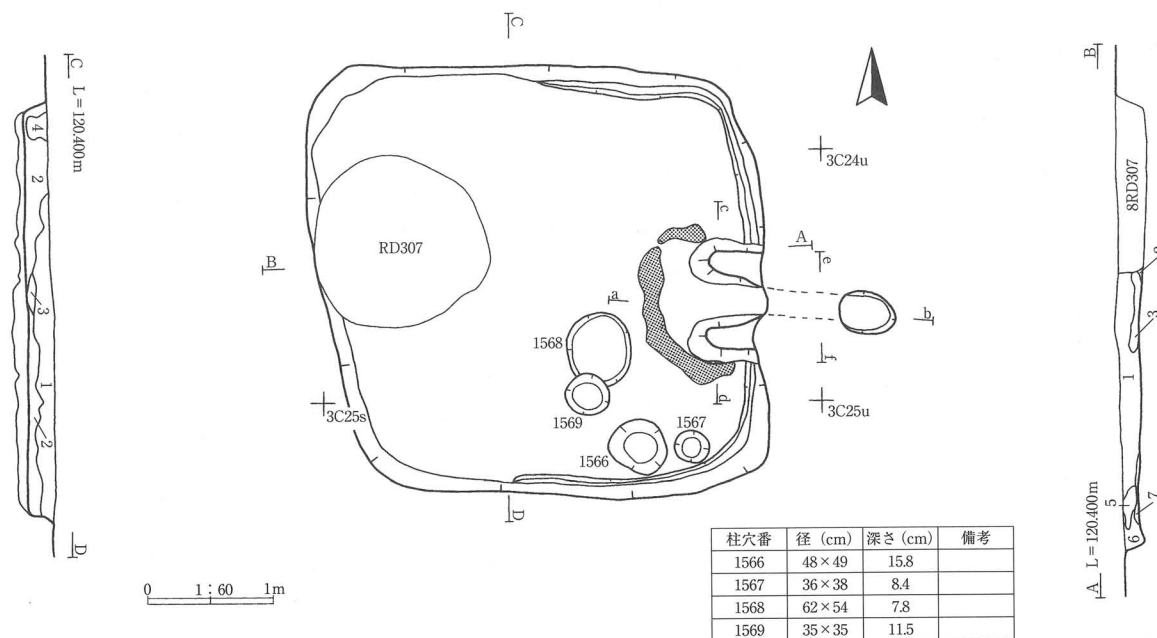
＜位置・重複関係＞遺跡の南端付近、3C24tグリッドに位置する。RD307と重複し、本遺構の方が古い。＜規模・平面形・方向＞検出面での規模は東壁3.2m、南壁3.3m、西壁3.4m、北壁3.4mで隅丸方形を基調とする。床面積は10.3㎡。主軸方向はE-2°-Sである。＜埋土＞上位では黒褐色土に黄褐色土が若干混じり、埋土下位では暗褐色土と黄褐色土の混合土が主体となる。人為堆積の可能性がある。＜壁＞東壁及



RA246
1. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック大量に含む。粘性やや有り。締まっている。(貼床)

第52図 RA246竪穴住居跡

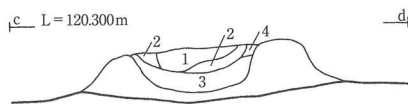
び北壁・南壁の東側半分に壁溝が見られる。各壁中央部の壁高残存値は東壁14cm、南壁21cm、西壁23cm、北壁20cmを測る。 <床面>床一面を貼床とし、平坦で硬固であった。 <カマド>東壁中央部に設置されている。天井部は崩落しているものの残存状況は良い。袖部は地山を残しつつ構築されており、燃烧部を中心に126×65cmの焼土の広がりを検出した。煙道部は削り貫き式で煙出し部は検出面で45×32cmの楕円形を呈する。約9°の角度で燃烧部から煙出し部へ下っている。 <柱穴>4基の柱穴を確認したが本遺構に伴うかは判然としない。 <出土遺物> (第292図・写真図版292・293) 埋土及び床面から個体数で土師器坏2点、長胴甕2点、球胴甕1点が出土した。 <時期>奈良時代。



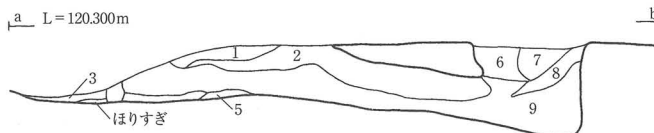
A-B・C-D

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
5. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。

6. 10YR2/3 黒褐色土粘性・縮まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
7. 10YR5/6 黄褐色土粘性を欠く。縮まり有り。
8. 10YR2/2 黒褐色土粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック微量含む。炭粒含む。
9. 10YR4/4 褐色土粘性やや有り。縮まり有り。黒褐色土と暗褐色土との混合土。

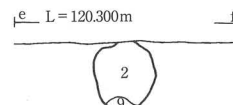


0 1:30 50cm



a-b・c-d・e-f

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土との混合土。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。焼土ブロック多量含む。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
5. 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性を欠く。縮まりやや有り。
6. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土との混合土。
7. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック少量含む。
8. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック少量含む。
9. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック少量含む。



第53図 RA247竪穴住居跡

RA 2 7 3 竪穴住居跡（第54・55図・写真図版36）

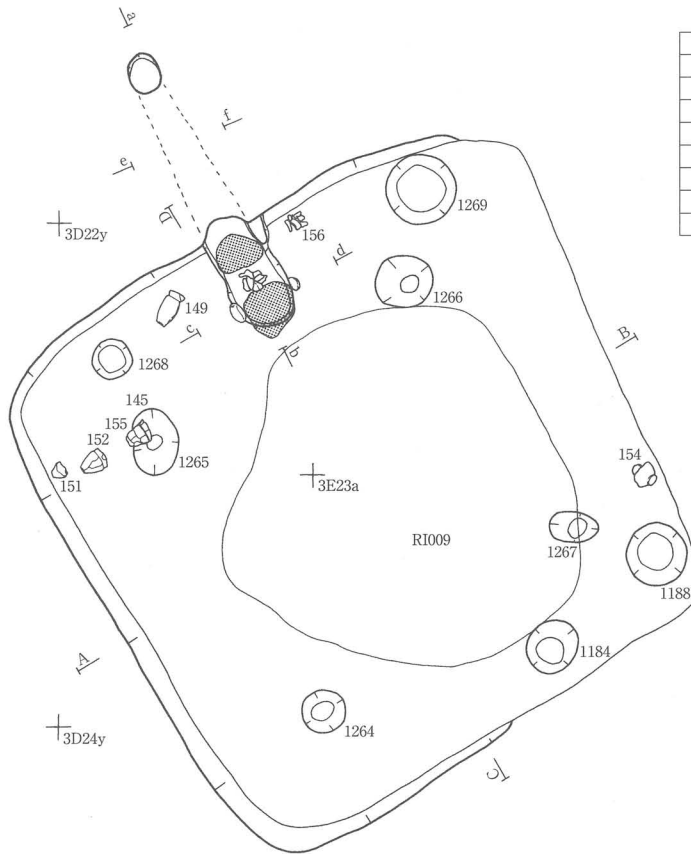
＜位置・重複関係＞本遺跡の南東側、3 E 23 a 区に位置している。R I 009と重複し本住居のほうが古い。
＜規模・平面形・方向＞北西壁－南東壁4.6m、南西壁－北東床端4.5mを測り平面形は方形を基調とする。床面積は約18.6㎡、主軸方向はN-28°-Wである。＜埋土＞自然堆積。黒褐色土と暗褐色土を主体とする。＜壁＞各壁中央部での残存値は北西壁13cm、南東壁20cm、南西壁22cmを測り外傾して立ち上がっている。北東壁は掘りすぎのため不明である。＜床面＞全面を貼床として平坦で締まっている。貼床は地山ブロックを多量に含む黒褐色土で構成されている。＜カマド＞北西壁のほぼ中央に構築されている。残りは悪い。袖部はほとんど残存しておらず芯材の自然礫のみを検出した。燃焼部はほぼ中央に支脚として使われたと思われる甕がみられ、支脚を挟んで南北に焼面が形成されている。煙道部は刳り貫き式で燃焼部から煙出し下部へは約4°の傾斜で掘り込んでいる。＜柱穴＞8基の柱穴を検出した。P 1268・1269・1184・1188は本住居に伴うか判然としない。＜出土遺物＞（第293・294図・写真図版293・294）埋土及び床面から個体数にして土師器坏3点、甕類は10点（この内球胴甕2点）、土製紡錘車が2点（619・620）出土している。甕149・151・152・155は土師器甕でどれも口縁部がカマドのほうを向き、倒れた状態で検出された。150の甕は支脚として用いられていたと思われる。156の球胴甕はカマド右脇から、154は東壁近くからの出土で河原石に伏せて被せたような状態で出土した。＜時期＞奈良時代。

RA 2 7 4 竪穴住居跡（第56図・写真図版37）

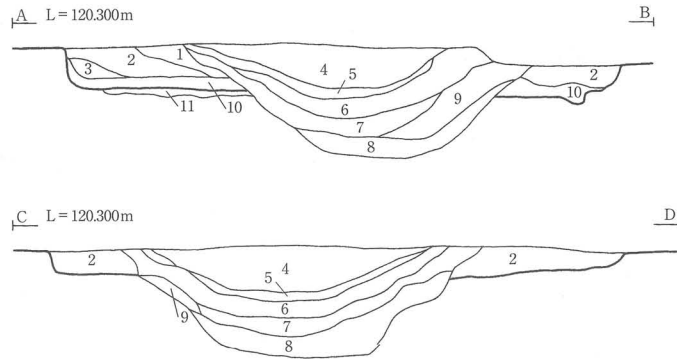
＜位置・重複関係＞遺跡の東側、2 E 9 d グリッドに位置している。＜規模・平面形・方向＞北西壁－南東壁4.5m、北東壁－南西壁で4.5mを測り平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約19.2㎡で、主軸方向はN-31°-Wである。＜埋土＞黒褐色土を主体とし自然堆積の様相を呈する。＜壁＞高さ16～2cm程残存している。南東壁が最も残りが悪い。カマド部分を除いた壁直下を周溝が巡っているが、北壁で一部途切れている。幅13～20cm、深さ3～9cm前後である。＜床面＞平坦で全面を貼床としている。＜カマド＞北西壁の中央に構築されている。燃焼部と煙道部が残っている。燃焼部の幅は約40cm前後と考えられ底面には焼面が形成されていた。袖部は土師器甕と自然礫を芯材として使用し褐色土で覆って作られている。煙道部の構造は判然としないが、燃焼部からほぼ平坦に掘り込み煙出し部下部が若干低くなっている。＜柱穴＞検出されなかった。＜ピット＞住居の床面まで掘り下げた段階で北壁隅から1基、南東壁際から2基が並んだ状態で検出された。＜その他＞P i t 3 の埋土中の炭化材はクリ材であった。＜出土遺物＞（第295・342図・写真図版294・295・328）埋土及び床面から個体数にして坏6点、長胴甕12点、球胴甕1点、土製勾玉？1点（627）の出土があった。以下は何れも本住居に伴う遺物である。甕163・164・166はカマド右脇の北壁隅付近からその場で潰れた状態で出土した。160の坏は焚口付近から、161の坏はカマド左脇から伏せた状態で出土した。162の長胴甕はカマド西袖の芯材に利用されていたものである。＜時期＞奈良時代。

RA 2 7 5 竪穴住居跡（第57図・写真図版38）

＜位置・重複関係＞遺跡の南東側、4 E 2 a グリッドに位置している。＜規模・平面形・方向＞北西壁－南東壁5.2m、北東壁－南西壁で4.9mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、床面積は約22.4㎡である。主軸方向はN-35°-Wとなる。＜埋土＞黒褐色土及び暗褐色土に地山ブロックを不規則に含んでいるものの堆積状況を観察すると自然に流れ込んでいるように思われる。＜壁＞各壁中央部での残存値は北西壁24cm、北東壁20cm、南東壁30cm、南西壁32cmである。何れも外傾して立ち上がる。＜床面＞概ね平坦だが硬くは



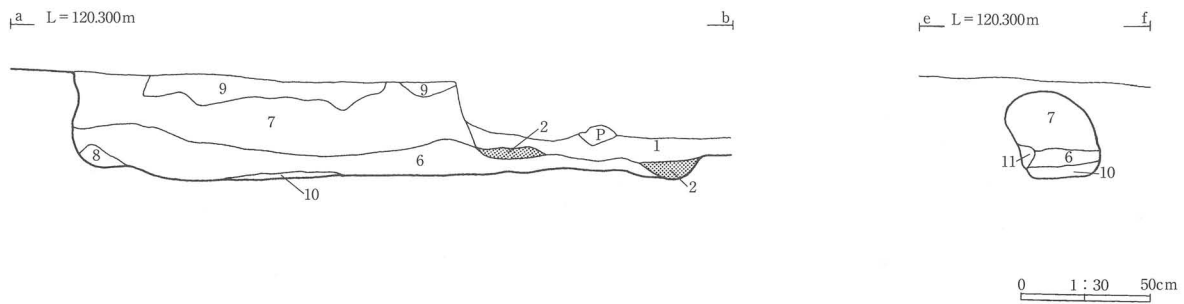
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1184	44×38	25.7	
1188	49×47	18.6	
1264	35×34	52.1	
1265	54×36	66.8	
1266	57×43	80.1	
1267	40×24	57.7	
1268	32×30	7.1	
1269	55×55	28.1	



RA273

- | | | | |
|----------------|-------------------------|-----------------|---------------------------|
| 1. 10YR3/2黒褐色土 | 粘性やや有り。締まり弱。 | 10. 10YR3/2黒褐色土 | 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。 |
| 2. 10YR3/3暗褐色土 | 地山ブロック含む。粘性やや有り。締まり弱。 | 11. 10YR3/3暗褐色土 | 地山ブロック多量含む。粘性弱。締まっている。 |
| 3. 10YR2/3黒褐色土 | 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まり弱。 | ※ 4~9はR1009埋土 | |

第54図 RA273竪穴住居跡(1)



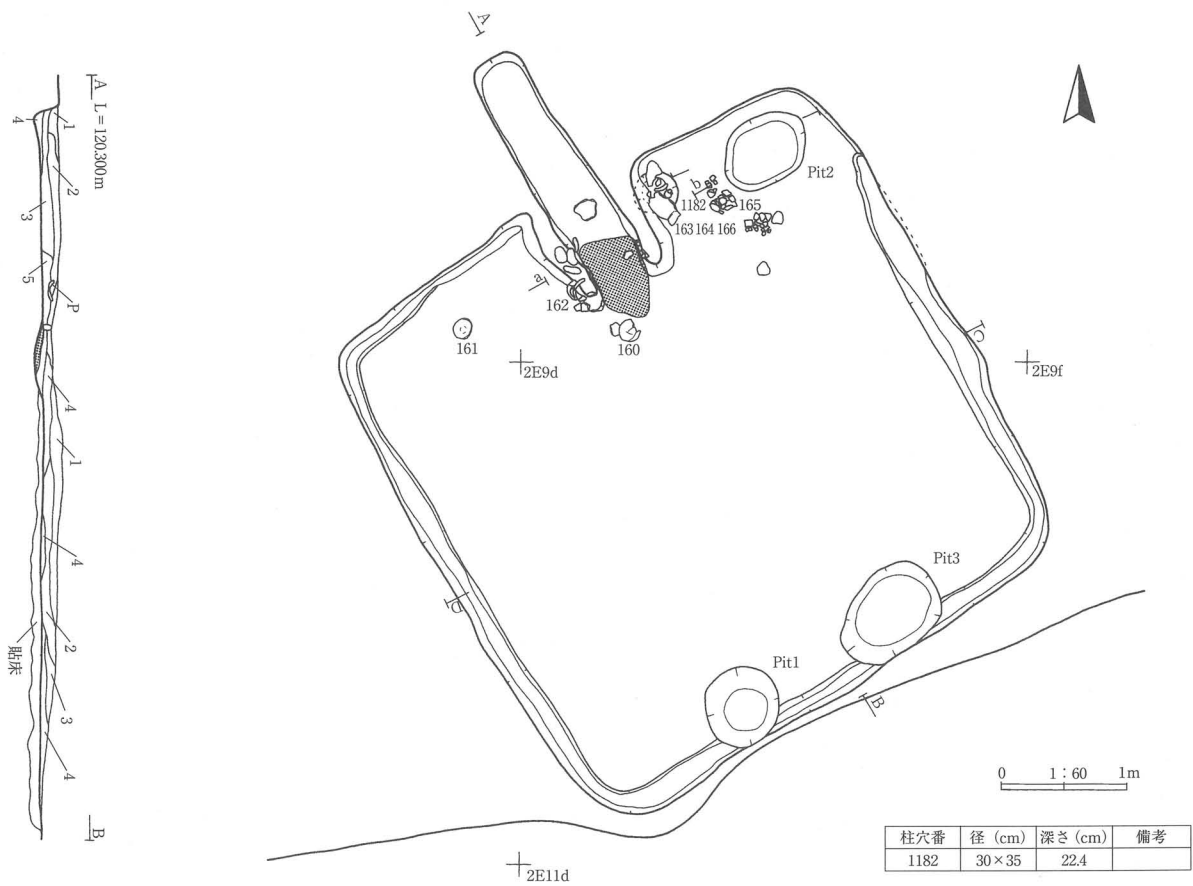
- RA273 カマド
1. 10YR4/4褐色土 焼土・炭粒を含む。粘性・縮まり弱。
 2. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性・縮まり弱。
 3. 10YR4/4褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 4. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まっている。
 5. 10YR3/4暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 6. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック
 7. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。
 8. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・縮まりやや有り。
 9. 10YR4/6褐色土 粘性弱。縮まりやや有り。(地山)
 10. 10YR2/2黒褐色土 若干砂っぽい。粘性・縮まり弱。

第55図 RA273竪穴住居跡(2)

ない。地山ブロックを多量に含む暗褐色砂質土で構成される貼床を全面に施している。〈カマド〉北西壁のほぼ中央部に付設されている。天井部は崩落しているものの、残存状況は良い。袖部は地山を削りだしつつ土師器甕片を芯材に用いて構築されている。燃烧部には80×50cmの範囲で焼成面が認められ、そのほぼ中央には支脚として用いられたとみられる甕片が残っていた。煙道部は削り貫き式で燃烧部から煙出し下部へは凡そ5°の角度で掘り下げている。〈柱穴〉6基の柱穴を検出した。P 1260・1261には柱痕も観察され、径は12cm程である。P 1259は本住居に伴うか不明である。〈出土遺物〉(第296図・写真図版295・296)床面及び埋土から個体数にして土師器坏3点、長胴甕4点、球胴甕1点が出土している。甕172・174は袖の芯材として、175は支脚として用いられていた。〈時期〉奈良時代。

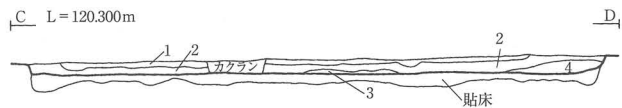
RA276 竪穴住居跡 (第58図・写真図版39)

〈位置・重複関係〉遺跡の東側、1 E21 a グリッドに位置している。〈規模・平面形・方向〉東壁と南壁の一部のみ確認され詳細は不明である。主軸方向はS-2°-Eである。〈埋土〉褐色土を若干含む黒褐色土で構成される。〈壁〉東壁と南壁の一部が約10cm程残存するが、他は検出できなかった。〈床面〉IV層を床面としているようである。概ね平坦だが硬く締まるものではない。〈カマド〉南東壁隅に作られていたと考えられる。燃烧部底面は床面から5cm程下がり、60×48cmの範囲で焼成面が形成されている。煙道部は掘り込み式か削り貫き式か判然としない。〈柱穴〉検出されていない。〈ピット〉カマドの西隣から1基検出された。〈出土遺物〉(第297図・写真図版296)埋土及び床面から個体数で坏0点、長胴甕1点、球胴甕1点の出土があった。〈時期〉奈良時代。



RA274

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
褐色土粒 (10YR4/6) 1%含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
黄褐色土粒 (10YR5/6) 3%含む。炭化物微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む。

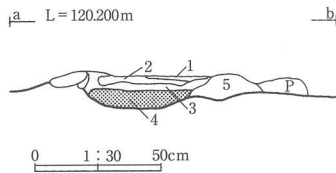


燃焼部～埋土断面

- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 1%含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
褐色土粒 (10YR4/6) 1%含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
黄褐色土粒 (10YR5/6) 20%含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
黄褐色土粒 (10YR5/6) 3%含む。
炭化物粒 微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
- 5YR3/6暗赤褐色焼土 粘性なし。縮まり有り。

RA274カマド煙道部 (A-B)

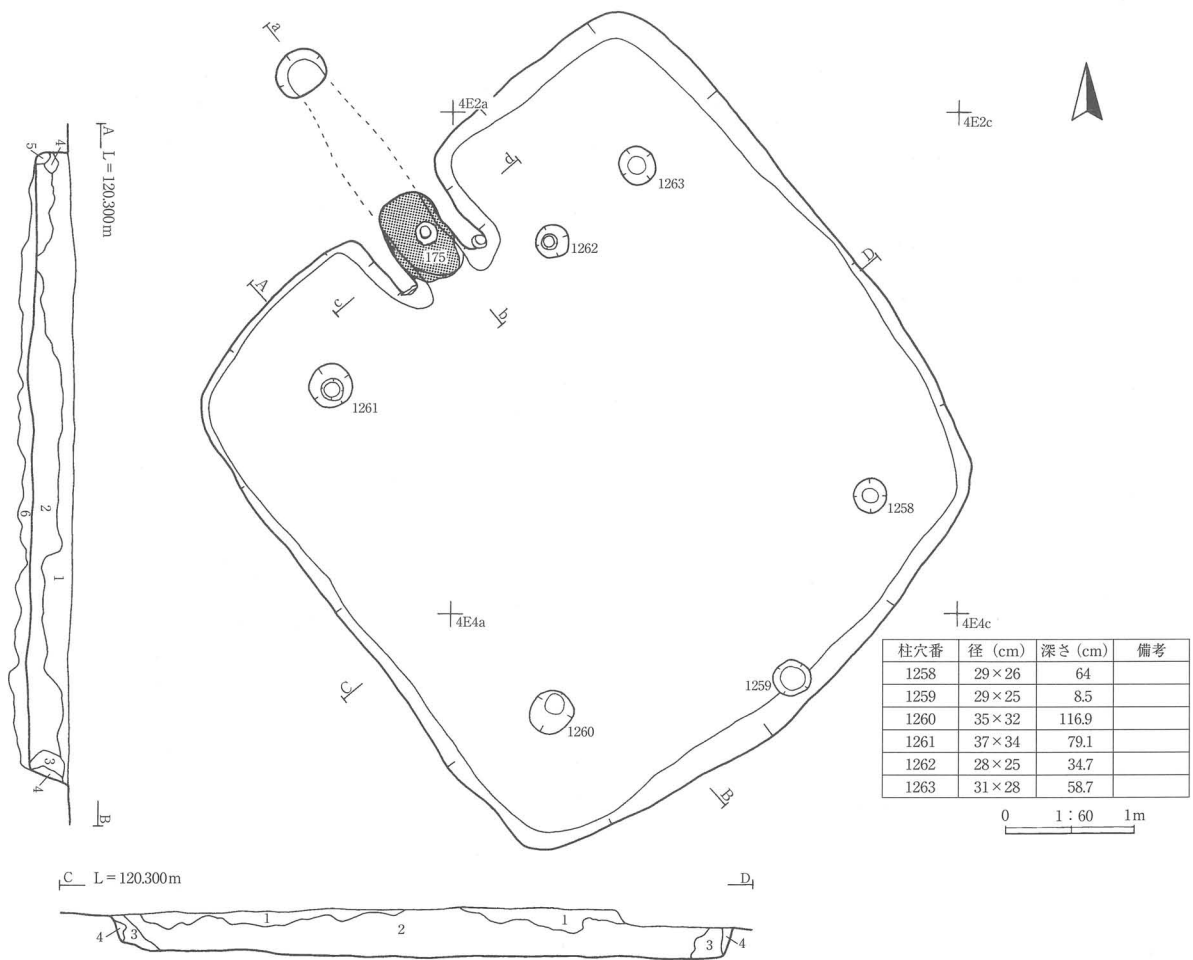
- 10YR2/1黒色土 粘性やや有り。
縮まり有り。 1%含む。
- 10YR2/2黒褐色土粘性やや有り、縮まり有り。
にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。
縮まり有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。
縮まり有り。
- 10YR4/4褐色土 粘性やや有り。
縮まり有り。



RA274カマド

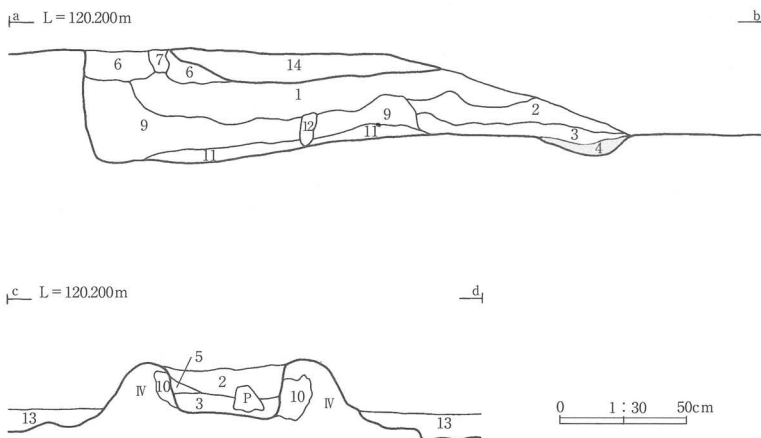
- 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。
赤褐色焼き土 (5YR4/8) 1%含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まり有り。
赤褐色焼土 (5YR4/8) 3~5%含む。
- 5YR4/6赤褐色焼土 粘性なし。縮まり有り。
- 10YR4/4褐色土 粘性なし。縮まり有り。(袖土)

第56図 RA274竪穴住居跡



RA275

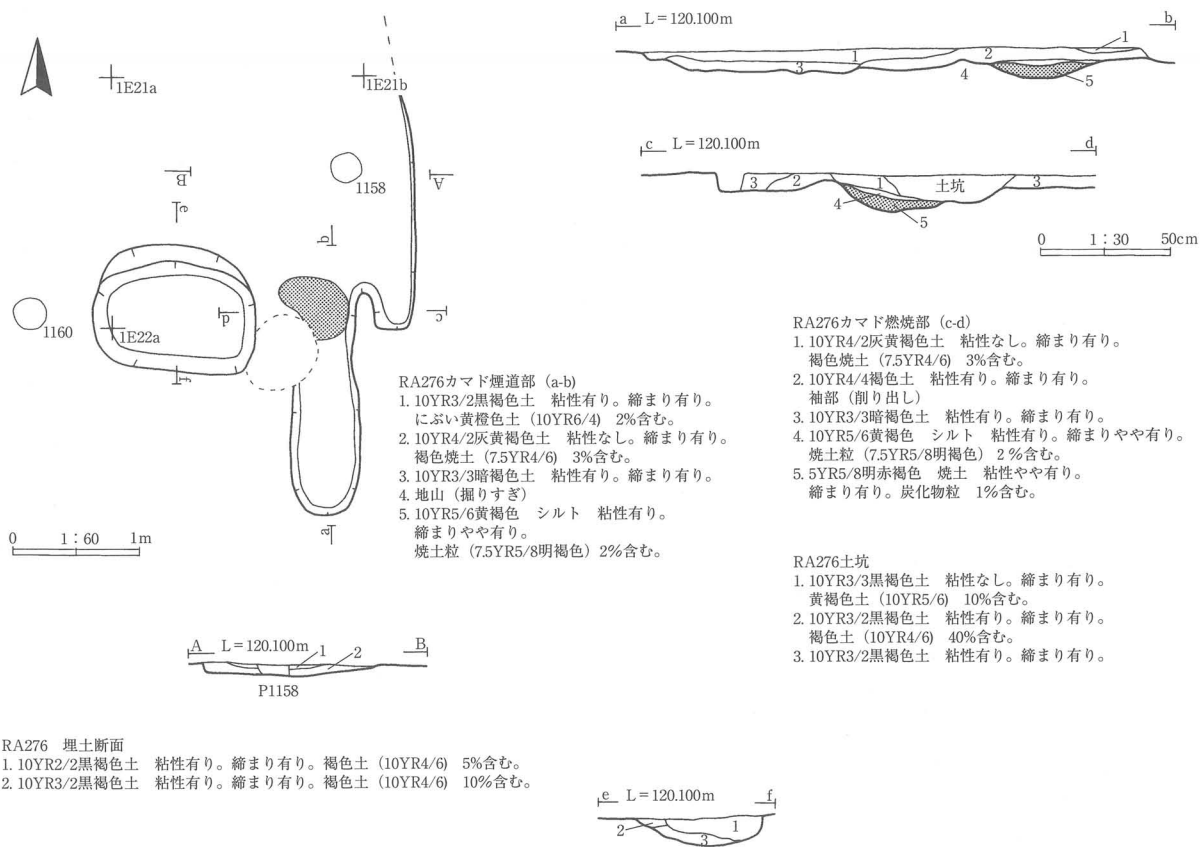
- 10YR2/3黒褐色土 地山ブロックを不規則に少量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック砂極少粒を多量に含。
若干砂っぽい。粘性やや有り。縮まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。縮まりやや有り。壁崩落土。
- 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック微量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/3 暗褐色土 砂質土 地山ブロック多量に含む。
粘性弱。縮まっている。(貼床)



RA275カマド

- 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色土 焼土・地山ブロック含む。
粘性弱。縮まりやや有り。
- 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性弱。縮まりやや有り。
- 10YR4/6褐色土 粘性弱。縮まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。縮まり弱。
- 2.5YR5/6明赤褐色焼土 粘性弱。縮まっている。
- 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性・縮まりやや有り。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性弱。縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性やや有り。縮まっている。(貼床)
- 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。縮まっている。

第57図 RA275竪穴住居跡



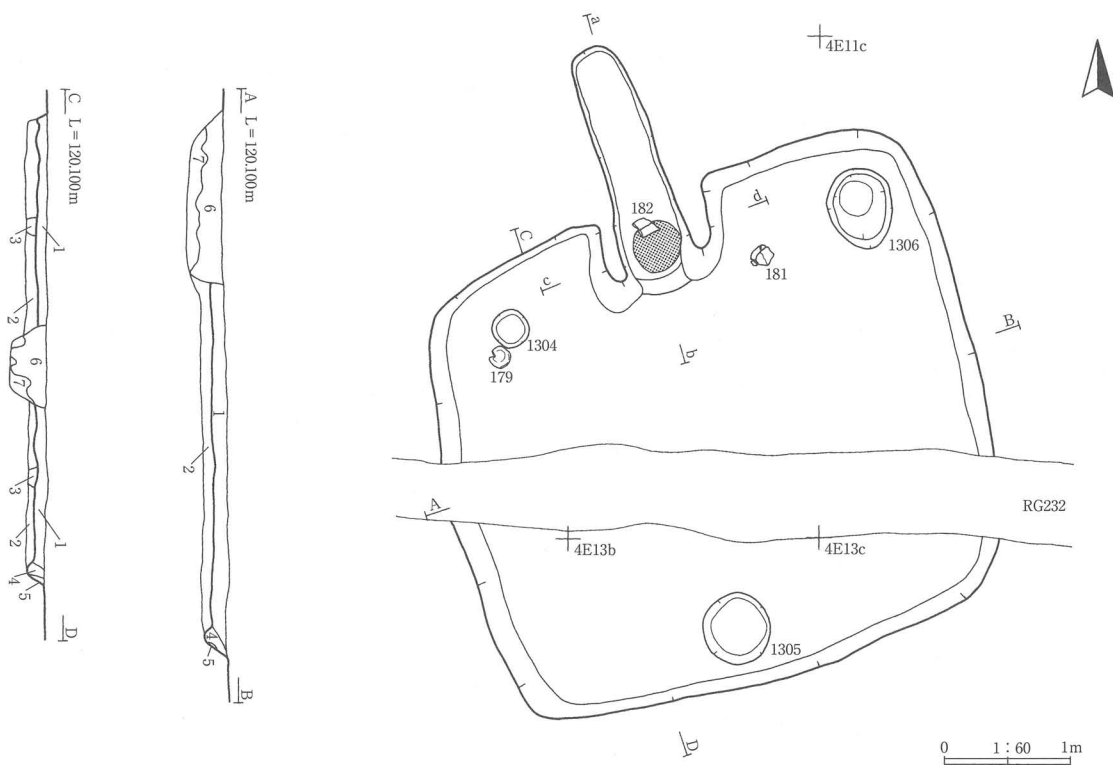
第58図 RA276竪穴住居跡

RA277 竪穴住居跡 (第59図・写真図版40)

<位置・重複関係>本遺跡南東側、4E12bグリッドに位置する。RG232と重複し本住居のほうが古い。

<規模・平面形・方向>北西壁-南東壁4.0m、北東壁-南西壁4.3mの長さをもつ。平面プランは隅丸長方形に近く、床面積はおおよそ14.0㎡である。住居の主軸方向はN-18°-Wである。<埋土>自然の流入土と考えられる。<壁>各壁概ね20cm程残存している。埋土断面では壁周溝らしき掘り込みが観察されたが、面的には把握することができなかった。<床面>カマド周辺を除き貼床としているがあまり平坦ではない。

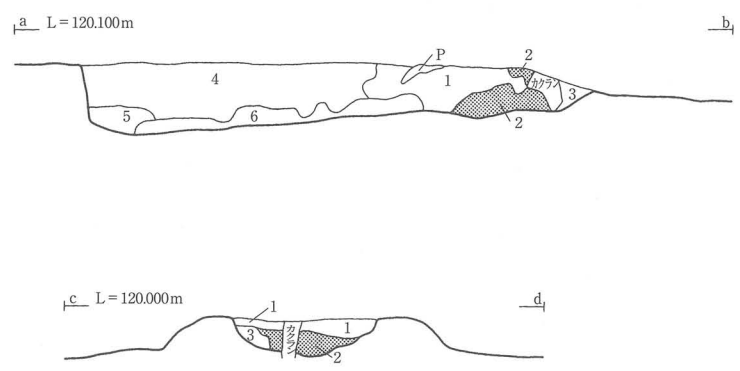
<カマド>北西壁のほぼ中央に構築されている。燃焼部の幅は40cm程で22×18cmの範囲に焼土の広がりが認められた。燃焼部底面は床面より10cm位掘り下げられている。袖部は地山を削り出して作られているようである。煙道部は掘り込み式か削り貫き式か不明である。燃焼部から煙出し下部へは約5°の傾斜で下がっている。<柱穴>3基が検出された。<出土遺物>(第297図・写真図版296・297)床面及び埋土から個体数にして土師器坏3点、長胴甕8点、球胴甕1点、器種不明1点が出土している。接合復元の結果、部位が不足する状態であることがわかった。182の甕は燃焼部から出土したが支脚であったかは不明である。床面からは坏179と甕181が出土した。<時期>奈良時代。



RA277

1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック不規則に少量含む。
粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR4/6褐色土 黒褐色土含む。粘性弱。縮まっている。
(貼床)
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり弱。
4. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性・縮まりやや有り。
5. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性弱。縮まりやや有り。
6. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。(RG232埋土)
7. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性弱。縮まりやや有り。(RG232埋土)

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1304	30×29	7.4	
1305	57×54	9.2	
1306	64×50	16.4	



RA277カマド

1. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性・縮まりやや有り。
2. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性弱。縮まりやや有り。
3. 10YR3/4暗褐色土 黒褐色土との混土。粘性やや有り。
縮まっている。
4. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量に含む。
粘性やや有り。縮まりやや有り。
5. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。縮まりやや有り。
6. 10YR5/6黄褐色砂質土 黒褐色土少量含む。粘性弱。
縮まりやや有り。
- (IV) 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性弱。縮まっている。

第59図 RA277竪穴住居跡

RA278 竪穴住居跡（第60図・写真図版41）

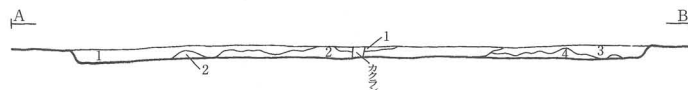
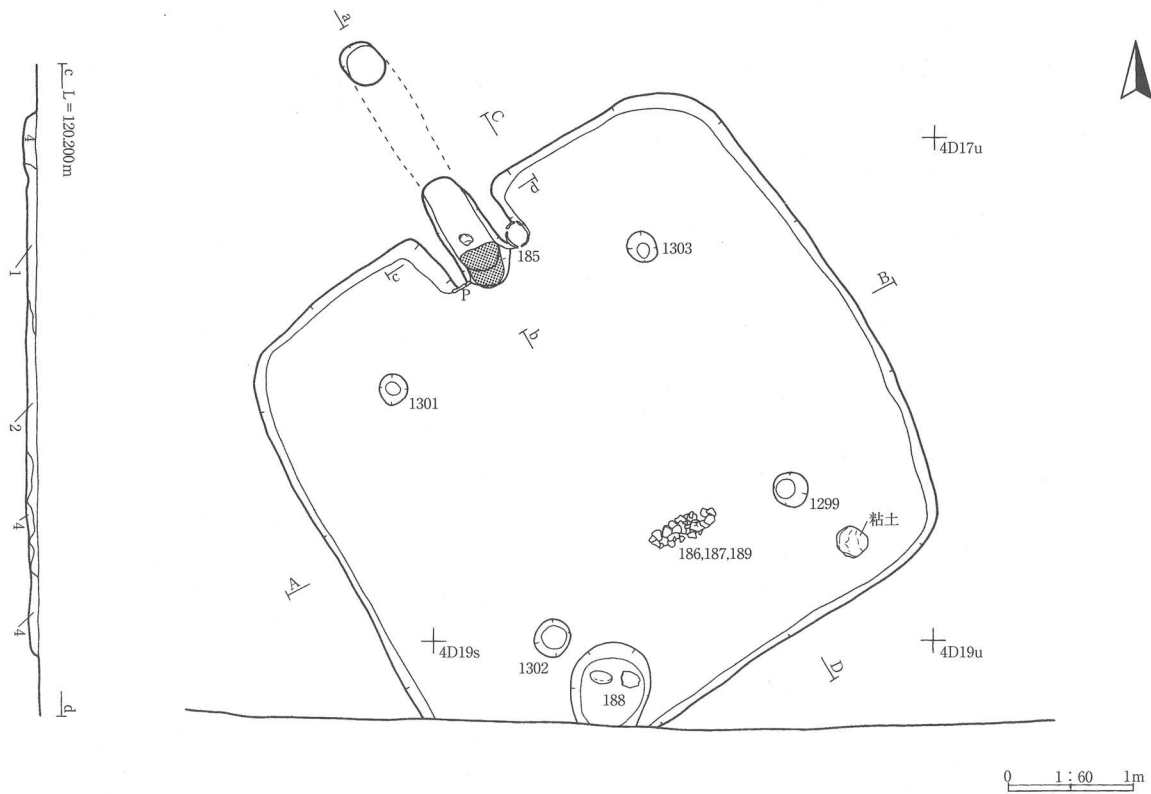
＜位置・重複関係＞遺跡の中では南東側の4 D18s グリッドに位置している。＜規模・平面形・方向＞北西壁－南東壁4.3m、北東壁－南西壁4.6mを測り平面形は概ね隅丸方形である。床面積は18.1m²で住居の主軸方向はN-32°-Wである。＜埋土＞堆積土は何れも自然の流入土で構成されているようである。＜壁＞各壁とも10cm前後しか残存しておらず残りは良くない。＜床面＞IV層を直接床面としている。平坦だが硬く踏みしめられたようなところは認められなかった。＜カマド＞北西壁のほぼ中央に付設されている。燃烧部底面は床面から一段掘り下げており30×28cmの範囲に焼面が形成されていた。支脚には自然礫が用いられている。袖部は地山を生かしつつ焚口の両脇付近では甕を芯材にし、これを褐色土で覆っている。煙道部は削り貫き式で、燃烧部から煙出し下部へは約6°の角度で掘り下げている。＜柱穴＞床面にて4基の柱穴が検出された。＜ピット＞南壁際から1基検出され中から自然礫と甕片が出土した。＜その他＞東壁隅近くの床面には粘土塊が置かれていた。＜出土遺物＞（第298・342図・写真図版297・328）埋土及び床面から出土した個体数は土師器坏0点、長胴甕4点、紡錘車（621）1点、石器剥片1点が出土した。カマド袖部の芯材として使われていたのは甕185である。186・187・189は同じ南側床面から横倒しの状態で出土した。188の甕は南壁際の土坑内から出土した。＜時期＞奈良時代。

RA279 竪穴住居跡（第61図・写真図版42）

＜位置・重複関係＞本遺跡の南東側、3 D19s グリッドに位置している。RG225・228と重複しており本住居のほうが古い。＜規模・平面形・方向＞北東壁－南西壁3.1m、北西壁－南東壁3.5mを測る。平面形は不整な台形に近く床面積は9.2m²位である。住居の主軸方向は約N-57°-Eである。＜埋土＞堆積土は8層に分けられた。概ね自然の流入土と思われるが2層に関しては人為的なものかもしれない。＜壁＞各壁とも35cm前後残存し外傾して立ち上がっている。＜床面＞IV層を直接床面にしている。ほぼ平坦であるがとくに硬く締まったところは認められなかった。＜カマド＞RG228に切られているため残存状況は悪い。北東壁のほぼ中央に構築されており袖部は褐色土と暗褐色土の混合土で作られていたようである。煙道部は削り貫き式と見られ燃烧部から煙出し下部へは4°の傾斜で下っている。＜柱穴＞床面にて4基の柱穴が検出されたがP1310は本住居に伴わないかもしれない。＜出土遺物＞（第299図・写真図版297・298）埋土及び床面から個体数にして土師器坏3点、甕類6点（長胴甕2点、球胴甕2点、他は不明）、須恵器高台付坏が1点出土した。床面出土のものとしては球胴甕196がその場で潰れた状態で、甕194は南東壁近くから、須恵器高台坏193は袖部脇から出土した。＜時期＞奈良時代。

RA227 竪穴住居跡（第93図）

＜位置・重複関係＞遺跡中央南側、4 A14y グリッドに位置している。＜規模・平面形・方向＞北壁－南壁3.0m、東壁－西壁3.4mを測り、平面形は概ね隅丸長方形を呈する。床面積は約9.3m²で、主軸方向はN-83°-Wとなる。＜埋土＞自然堆積と思われる。黒褐色土を主体としその中に河原石が少量含まれる。＜壁＞各壁中央部での残存値は北壁10cm、南壁12cm、東壁10cm、西壁11cm程で、礫層を掘り込んで構築されている。＜床面＞礫層面を床面としているようで若干の起伏が見られる。＜柱穴＞検出されなかったが、床面が礫層であったため見落とした可能性もある。＜出土遺物＞なし。＜時期＞時期不明である。

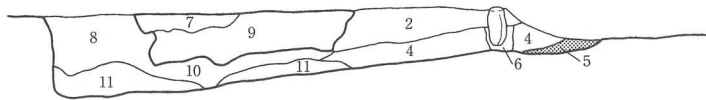


RA278

1. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
3. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。
4. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック少量含む。粘性弱。縮まり弱。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1299	30×27	29.4	
1301	25×23	26.5	
1302	31×29	22.4	
1303	25×25	24.6	

a L=120.100m

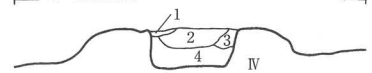


0 1:30 50cm

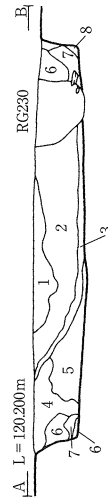
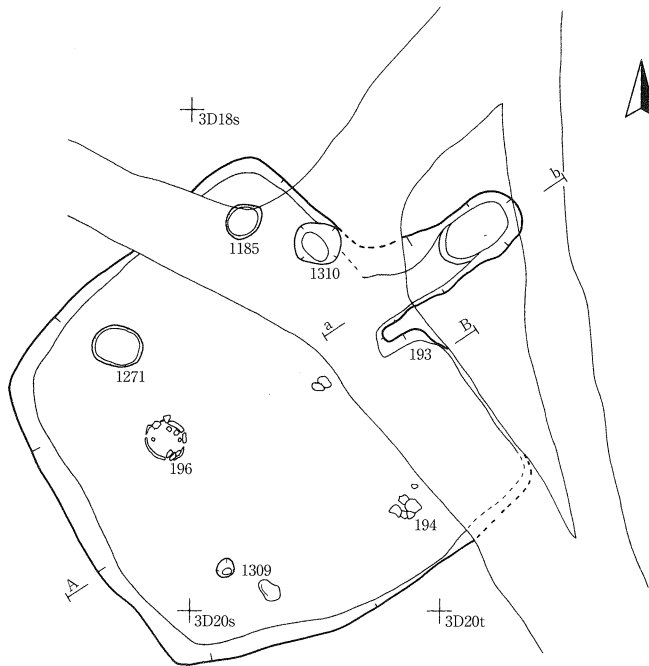
RA278カマド

1. 2.5YR5/6明赤褐色焼土 粘性弱。縮まりやや有り。
2. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まっている。
3. 1層と同じ焼土。
4. 10YR4/4褐色土 地山ブロック多量含む。粘性弱。縮まりやや有り。
5. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性・縮まり弱。
6. 10YR3/4暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
7. 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。縮まっている。
8. 10YR4/4褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・縮まりやや有り。
9. 10YR4/3にぶい黄褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・縮まりやや有り。
10. 10YR5/6黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。
11. 10YR2/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。

c L=120.100m



第60図 RA278竪穴住居跡

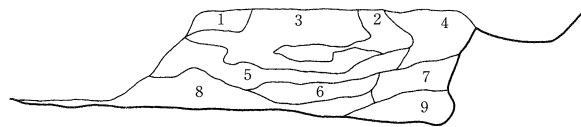


柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1185	32×25	0.5	
1271	43×34	5	
1309	15×15	11.6	
1310	55×40	32.9	

RA279

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり弱。
2. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 水酸化鉄班有り。粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・締まりやや有り。
6. 10YR4/6褐色砂質土 粘性弱。締まっている。
7. 4層と同じ。
8. 10YR5/6黄褐色砂質土 黒褐色土混じる。粘性やや有り。締まっている。

a L = 120.200m



0 1 : 30 50cm

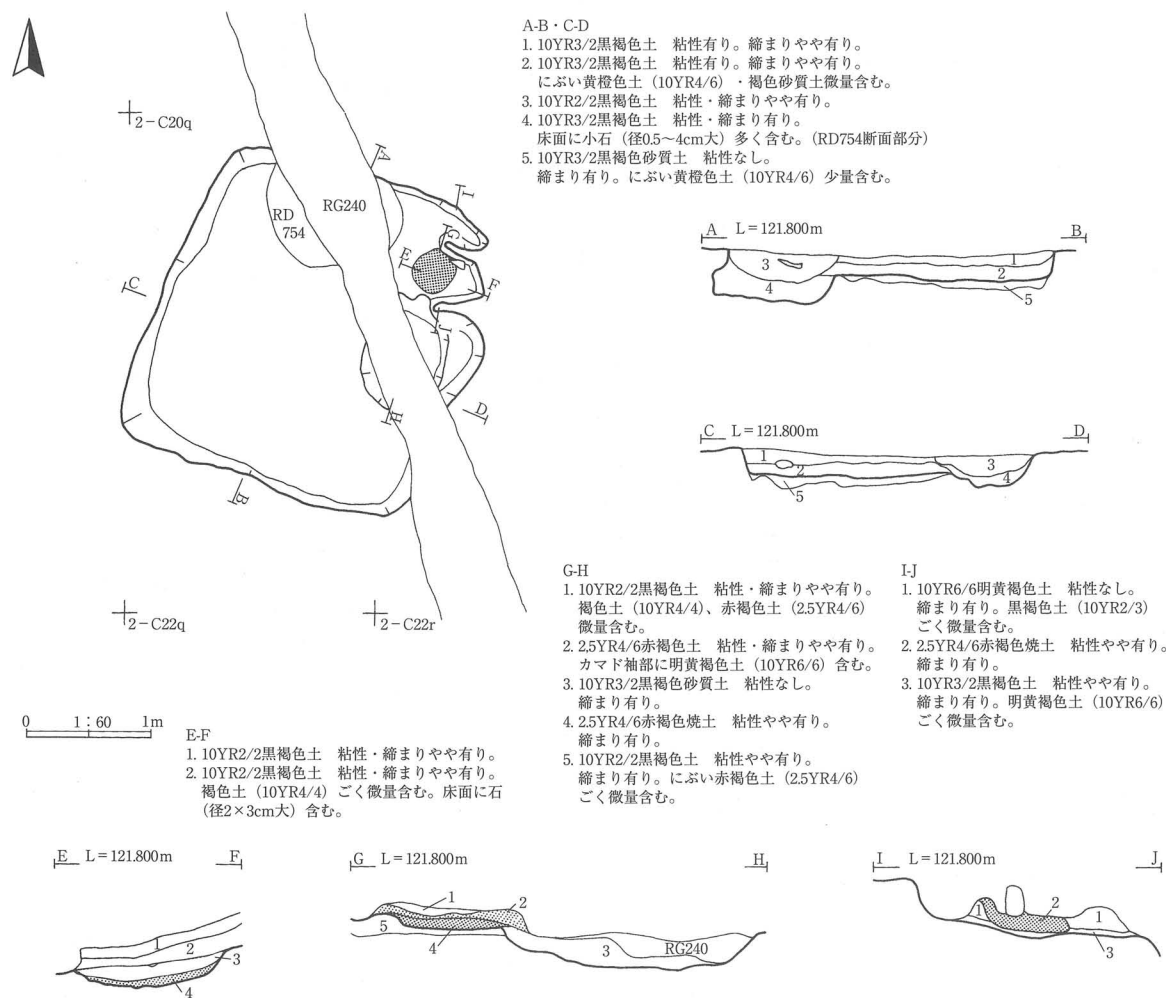
RA279カマド

1. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性弱。締まっている。
2. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・締まりやや有り。
3. 10YR5/6黄褐色土 粘性弱。締まっている。
4. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック微量含む。粘性やや有り。締まっている。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
6. 3層と同じ。
7. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。締まっている。
8. 10YR5/6黄褐色砂質土 黒褐色土。焼土粒含む。粘性・締まりやや有り。
9. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。

第61図 RA279竪穴住居跡

RA208 竪穴住居跡 (第62図・写真図版43)

<位置・重複関係>調査区西側の2-C21qグリッドに位置し、RG223、RD754と重複する。新旧関係は、RG223、RD754より本遺構のほうが古い。検出は、IV層面で確認されている。 <規模・平面形・方向>遺構の東端、主にカマド煙道部分が調査区外に延びていることから、正確な平面形や規模の全容は不明である。確認される部分の規模は2.6×2.6m、平面形は隅丸方形を呈している。床面積は約5.3m²で主軸方向は、S-70°-Eである。 <埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積による2層で構成される。1層は黒褐色砂質土で強く締まっている。2層は黒褐色砂質土と褐色土の混合土層で締まりがある。 <壁>検出された部分については、床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部での残存値は、北壁15cm、西壁26cm、南壁21cmを測る。 <床面>ほぼ平坦であり、強く締まる。住居全体に5~10cmの貼床が見られる。 <カマド>住居南東壁の北寄りに設置されている。上部が削平を受けていることから、天井部の構造は不明である。本体部の規模は70×60cmで、袖部はIV層を削り出して造られ、芯材の使用は認められない。燃烧部には、径35×35cmの円形で層厚約5cmの微量の炭を含む赤褐色焼土が形成される。煙道部は調査区外になり不明である。 <ピット>カマド南側から1基検出している。平面形は楕円を呈する。 <出土遺物>埋土中及び床面から個体数で土師器坏2点、甕2点、須恵器坏2点、壺1点が出土している。 <時期>平安時代。



第62図 RA208竪穴住居跡

RA212 竪穴住居跡 (第63図)

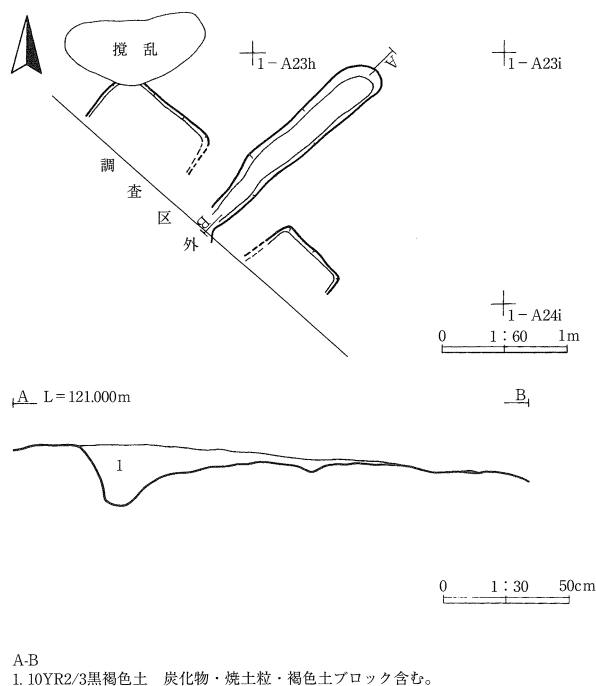
〈位置〉遺跡の中央部西側、1-A23hグリッドに位置している。〈規模・形態・方向〉削平が著しく、北東壁及びその中央部に設置されたカマドが残存するのみである。北東壁は2.4mで主軸方向はN-45°-Eである。〈埋土〉遺構検出面では殆ど残っておらず記録できなかった。〈壁〉北東壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南東壁及び北西壁は殆どが削平され残っていない。〈床面〉殆ど残存しておらず詳細は不明である。〈カマド〉北東壁のほぼ中央に設置されていた。本体は殆ど残っておらず、袖の痕跡と煙道部のみを検出した。煙道部はカマド燃焼部から煙出底部へ緩やかに下っていき、煙出底部は更に深く掘り下げられている。〈遺物〉なし。〈時期〉周辺で検出されている遺構の状況から、平安時代と思われる。

RA213 竪穴住居跡 (第64図・写真図版44)

〈位置〉調査区西側の2-C17qグリッドに位置している。検出はIV層面で確認されている。〈規模・平面形・方向〉遺構北側と東側が調査区外であることから、平面形と規模の全容は不明である。確認された規模は、西壁側2.0m、南壁側1.2mを測り、南西端のコーナーは隅丸を呈している。主軸の方向は不明である。〈埋土〉黒褐色土を主体とする自然堆積による2層で構成されている。1層は堅く締まった黒褐色粘土を主体とし、一部褐色土ブロックも含まれる。〈壁〉床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部での残存値は、西側が18.2cm、南側が20.5cmを測る。〈床面〉平坦であり、やや締まっている。貼床はみられない。〈出土遺物〉(第300図・写真図版298)埋土中及び床面から個体数で土師器2点、甕1点、土師器甕2点が出土している。197の小甕型土器は、伏せた状態で床面から出土した。〈時期〉平安時代。

RA214 竪穴住居跡 (第64図・写真図版45)

〈位置〉調査区西側の2-C19mグリッドに位置している。検出は、IV層面で確認されている。〈規模・平面形・方向〉遺構西側と南側が調査区外であることから、平面形と規模の全容は不明である。確認される規模は、北壁側2.3m、東壁側3.3mを測る。北東端のコーナーは、隅丸を呈している。主軸の方向は不明である。〈埋土〉黒褐色土を主体とする2層で構成されている。上層は、黒褐色粘土質土で締まっている。下層は黒褐色粘土質土を主体とし、褐色粘土質土を含み、やや締まっている。北側下層は、微量の炭と焼土粒を含むことから、人為堆積の部分もあると考えられる。〈壁〉床面から緩やかに立ち上がる。各壁中央部での残存値は、北側が25cm、東側が28cmを測る。〈床面〉平坦であり、やや締まっている。住居全体に深さ4~10cmの貼床がみられる。〈カマド〉検出されないが、調査区域外に設置されていた可能性もある。〈柱穴〉東壁側から1基検出されている。平面形は円形で、埋土は黒褐色土で粘性



第63図 RA212竪穴住居跡

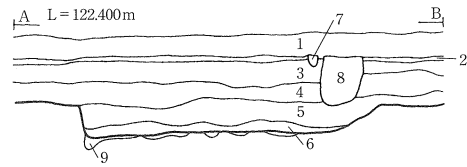
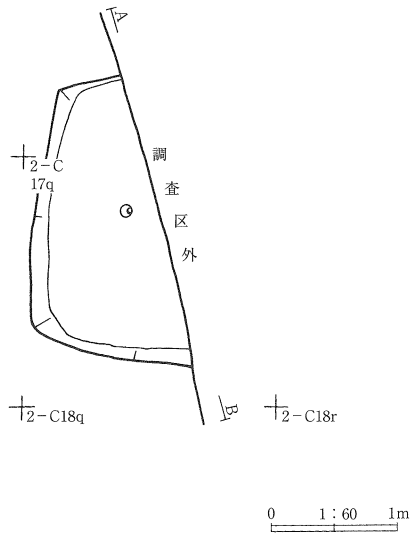
も締まりもややある。 <出土遺物> (第300図・写真図版298) 埋土中及び床面から個体数で土師器坏3点、赤焼坏1点、甕1点、須恵器坏1点が出土している。200の土師器坏には外面に「木」と線刻されている。
<時期>平安時代。

RA215 竪穴住居跡 (第65図・写真図版46)

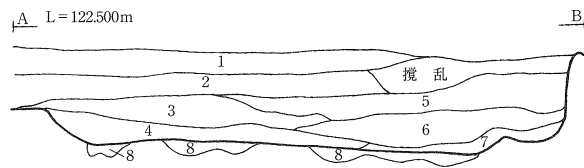
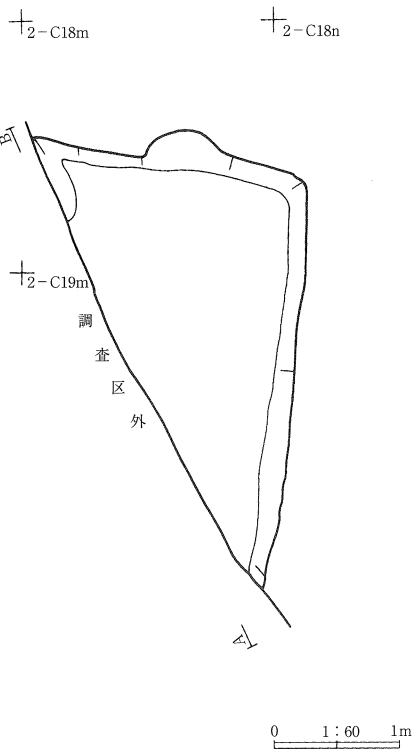
<位置・重複関係>調査区西側の2-C23pグリッドに位置している。検出は、IV層面から確認されている。
<規模・平面形・方向>遺構南側が調査区外であることから、平面形の規模の全容は不明である。確認された規模は、北壁側が4.1mであり、西壁側と東壁側は調査区境まで、それぞれ2.3m、1.1mである。北西端と北東端のコーナーは、隅丸を呈し、主軸方向は不明である。 <埋土>黒褐色を主体とし、自然堆積による3層で構成されている。上層には、流れ込みによる十和田a降下火山灰を含む。 <壁>床面から垂直に立ち上がる。各壁中央での残存値は、北側が27cm、東側が23cm、西側が30cmを測る。壁溝は検出されなかった。
<床面>平坦であり、締まっている。貼床はみられない。間仕切りはないが、北壁側に直方体の20~40cmの石が3個並んでいる。使用跡等はみられない。 <柱穴>北東端と北西端のコーナー付近から、それぞれ1基検出している。北西端の柱穴の北端から土師器が出土している。 <ピット>南端の調査区域界から1基検出されている。平面は楕円形、埋土は黒褐色粘土質土で付近の断面に小さい鉄滓がある。
<出土遺物> (第300図・写真図版298) 埋土中及び床面から個体数で土師器坏2点、甕2点、須恵器坏2点と鉄滓1点を出土している。 <時期>平安時代。

RA216 竪穴住居跡 (第66図・写真図版47)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D9q区に位置する。RA217と重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切合から、RA217より新しい。 <規模・平面形・方向>規模は2.75×2.4m、隅丸方形を呈し床面積は約5.2m²を測る。 <埋土>黒褐色土を中心にした2層で構成され自然堆積の様相を呈する。
<壁>壁は浅いが、床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁24cm、東壁15cm、南壁18cm、西壁18cmを測る。 <床面>平坦で、締まりがある。貼床等は認められない。 <カマド>設置されていない。床面や壁面にも焼土等の跡もみられない。
<出土遺物>埋土中から個体数で土師器坏2点、甕1点が出土した。
<時代>平安時代以降と思われる。

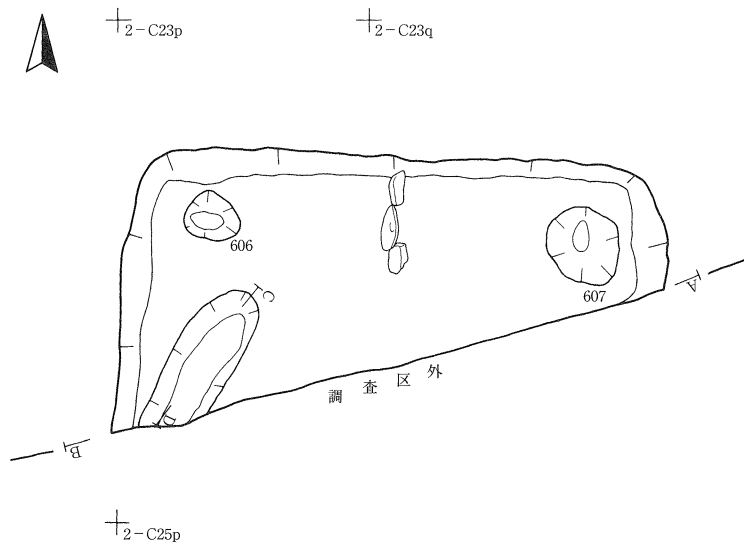


- RA213 A-B
1. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。耕作土（畑）
 2. 7.5YR4/4褐色土 粘性、縮まり有り。
 3. 7.5YR5/6明褐色土、ごく微量含む。水田面。
 4. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR4/6褐色土、ごく微量含む。旧表土。
 5. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR4/6褐色土、ごく微量含む。
 6. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色土ブロック微量含む。住居埋土。
 7. 10YR5/2灰黄褐色土 粘性なし。縮まり有り。杭痕。
 8. 10YR5/2灰黄褐色土 粘性なし。縮まり有り。
10YR3/2黒褐色土、ごく微量含む。攪乱。
 9. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR4/6褐色土、少量含む。

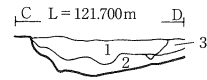


- RA214 A-B
1. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。北側攪乱部分あり。
耕作土。
 2. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。旧表土。
 3. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
住居埋土上層。
 4. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色土、微量含む。住居埋土下層。
 5. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色土、ごく微量含む。
 6. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色土、ごく微量含む。
 7. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/6褐色土、微量含む。2.5YR3/6 暗赤褐色土、
10YR2/1黒褐色土、ごく微量含む。
 8. 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。
10YR4/6褐色土、少量含む。

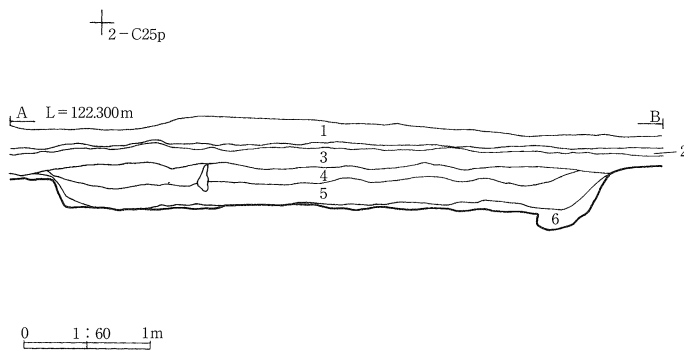
第64図 RA213・214竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
606	45×40	34.1	
607	69×57	19.8	

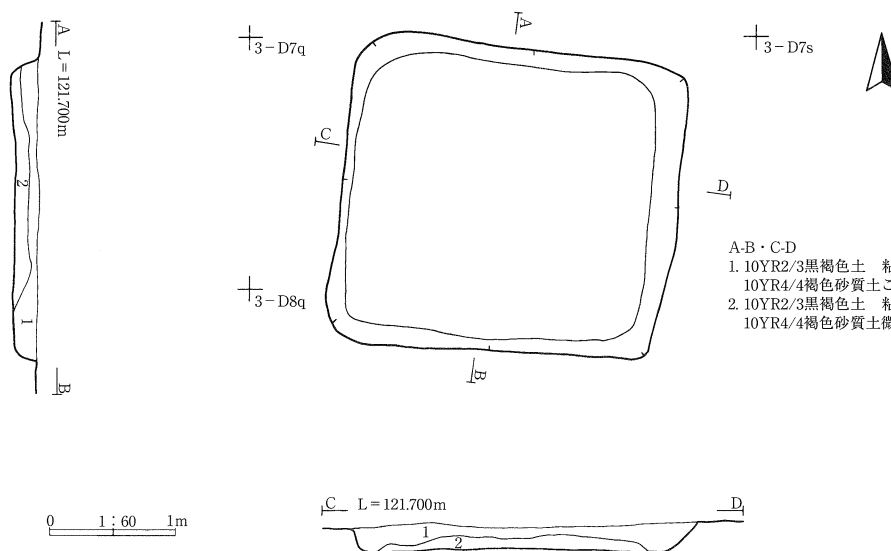


- C-D
- 10YR3/2黒褐色土 締まり、粘性やや有り。
10YR4/6褐色土ブロック、ごく微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 締まり、粘性やや有り。
10YR4/6褐色土、微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。



- A-B
- 10YR5/2灰黄褐色土 締まりなし。粘性有り。
耕作土
 - 7.5YR4/4褐色土 締まり、粘性有り。
7.5YR5/6明褐色土、ごく微量含む。床上。
 - 10YR3/2黒褐色土 締まり、粘性有り。
To-a混じる。
 - 10YR3/2黒褐色土 締まり有り。粘性やや有り。
To-aをごく微量を含む住居埋土。
 - 10YR3/2黒褐色土 締まり有り。粘性やや有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 締まり有り。粘性やや有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。

第65図 RA215竪穴住居跡

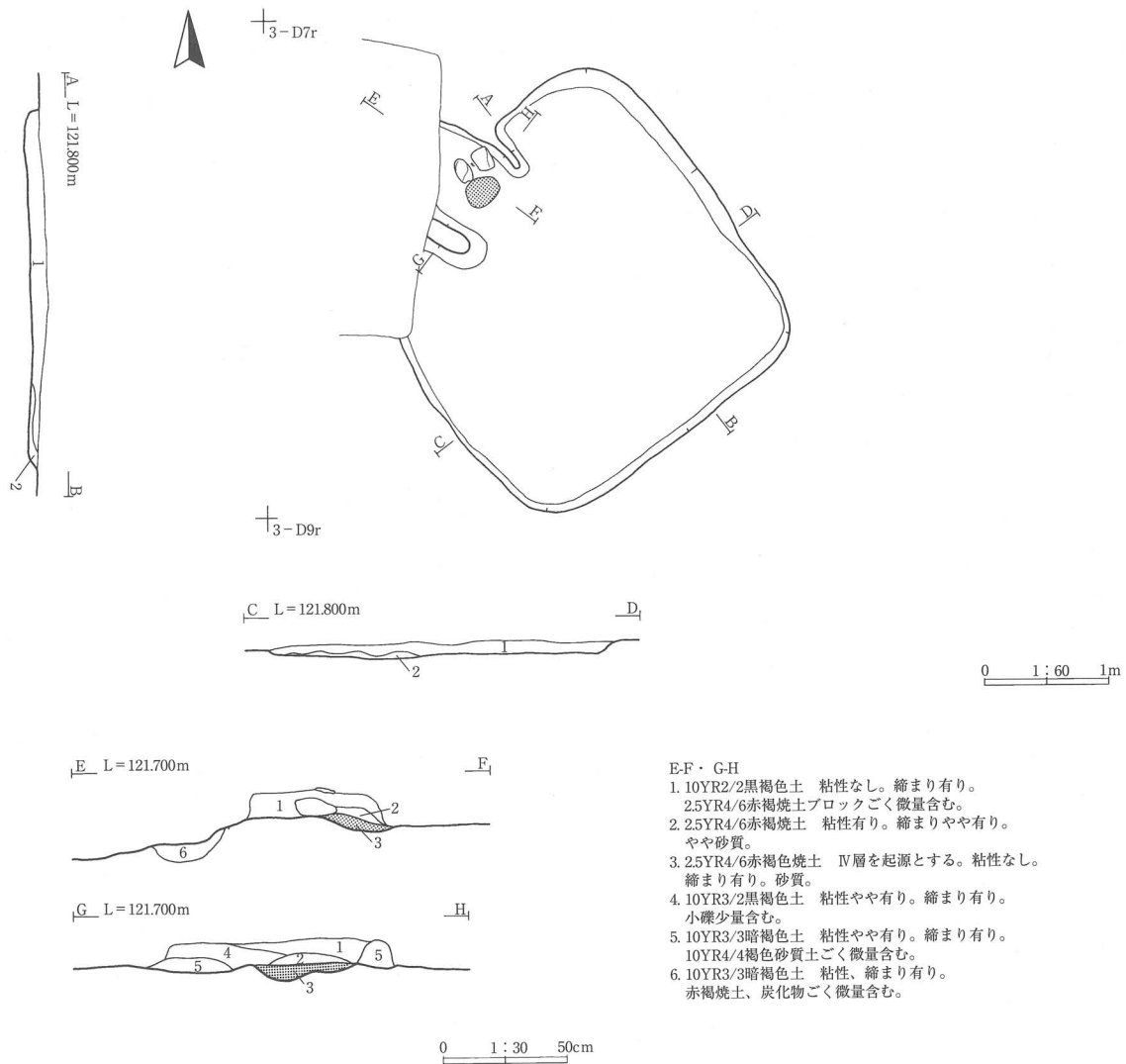


- A-B・C-D
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。

第66図 RA216竪穴住居跡

RA217 竪穴住居跡 (第67図・写真図版48)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D8sグリッドに位置し、IV層で確認される。RA216と重複する。本遺構との新旧関係は、遺構の切合からRA216よりも古い。 <規模・平面形・方向>規模は2.9×2.9m、隅丸方形を呈する。床面積は約7.1m²と推定され主軸方向は、N-44°-Wである。 <埋土>黒褐色土を主体とした2層で構成される。下層ほど褐色砂質土を多く含む。 <壁>遺構検出面からは浅く、床面からほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁8cm、東壁9cm、南壁4cm、西壁5cmを測り壁溝は検出されない。 <床面>平坦であり締まりがある。貼床等は認められない。 <カマド>北西壁中央部に位置する。重複の為、煙道の一部と燃烧部がわかるだけである。燃烧部の規模は55×60cm、袖部は暗褐色土と褐色砂質土の混合土からなり、芯材や烧成による変化等は認められない。燃烧部についてはその一部がわか



- E-F・G-H
1. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
2.5YR4/6赤褐色土ブロックごく微量含む。
 2. 2.5YR4/6赤褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
やや砂質。
 3. 2.5YR4/6赤褐色焼土 IV層を起源とする。粘性なし。
締まり有り。砂質。
 4. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
小礫少量含む。
 5. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 6. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり有り。
赤褐色土、炭化物ごく微量含む。

第67図 RA217竪穴住居跡

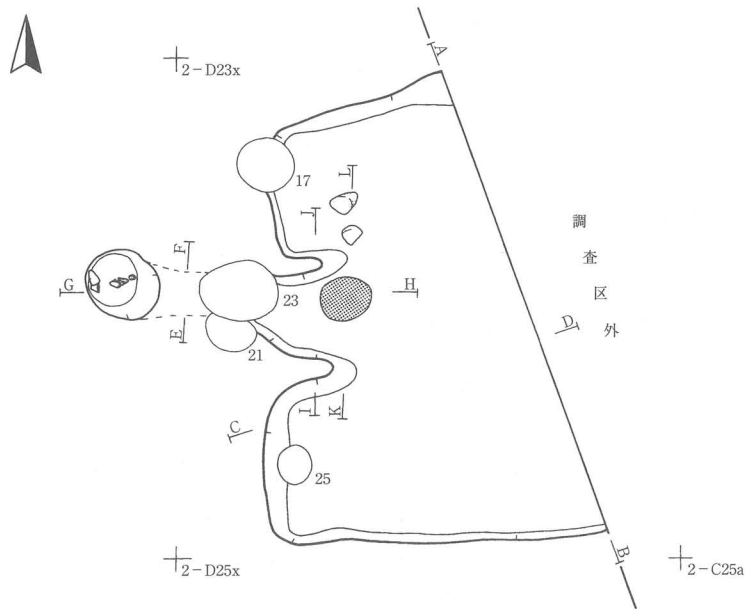
のみであるが、IV層を起源とし、径30×20cm、層厚5cmの赤褐色焼土が形成されている。煙道部側に長さ20cmの石が2個あるが、支柱として使われたかどうかは不明である。煙道部と煙出部についても重複のため不明である。〈出土遺物〉(第300図・写真図版298)埋土中から個体数で土師器坏5点、甕2点、須恵器坏2点が出土した。〈時代〉平安時代。

RA218 竪穴住居跡 (第68図・写真図版49)

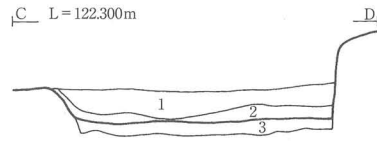
〈位置・重複関係〉本遺跡の西側、2-D23xグリッドに位置しIV層にて検出された。RA281と重複し本遺構のほうが新しい。また、複数の柱穴と重複しているが、柱穴よりも古い。〈規模・形態・方向〉検出面での北壁-南壁は3.8mを測るが西壁-東壁は東壁が未調査区にあるため不明である。西壁にカマドがあり主軸方向はN-86°-Wで床面積は一辺が3.4m位として10.56m²となる。〈埋土〉黒褐色土を主体とした自然堆積でよいと思われる。〈壁〉各壁での最大残存値は西壁で25cm、北壁で34cm、南壁では25cmを測る。何れの壁面も底面から外傾して立ち上がっている。〈床面〉検出した部分は全て貼床とされており、平坦で硬く締まっていた。〈カマド〉西側壁のほぼ中央に設置されている。本遺構より新しい柱穴に煙道部が切られており残りは良くない。燃焼部には37×35cm程の焼土の広がりが見られた。カマドの側壁は褐色砂質土で地山の土と同じ土で構築されているように観察された。煙出は深さが約54cmあり、煙道部の底部から更に10cm程低く掘り込まれ自然礫が底部付近から出土した。煙道部は地山を削り貫いてつくられているようである。〈柱穴〉この住居跡に伴う柱穴は検出できなかった。〈遺物〉(第301図・写真図版299)206の土師器坏は外面に墨書で「木」と書かれている。〈時期〉平安時代。

RA220 竪穴住居跡 (第69図・写真図版50)

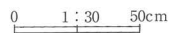
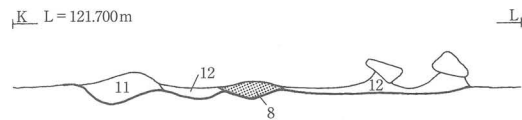
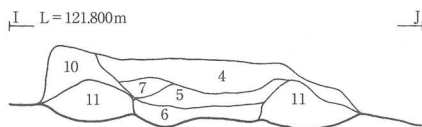
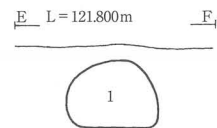
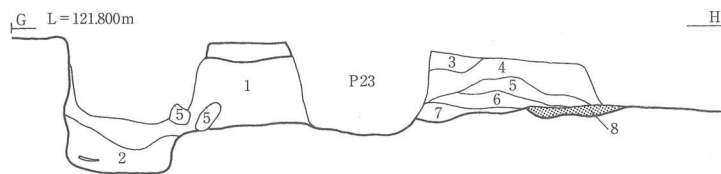
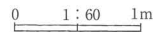
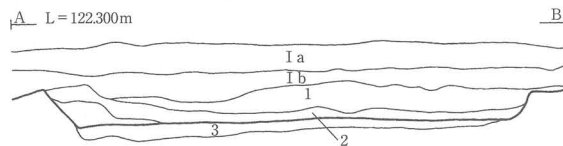
〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D19kグリッドに位置し、IV層で確認された。重複関係はない。〈規模・平面形・方向〉規模は3.0×2.7m、床面積約5.6m²。平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向は、N-20°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体にした自然堆積による2層で構成される。1層は、2層に比べ礫を多く含み、また微量の十和田a降下火山灰を含む。〈壁〉床から直線的に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁30.2cm、東壁23.8cm、西壁33.8cm、南壁31.8cmを測る。北西コーナと東壁中央付近が厚くなっている。〈床面〉褐色土まで掘り込んで床面とし、締まりはややある。ほぼ平坦であり、貼床等は見られない。〈カマド〉本体は北東壁のやや東寄りに位置し、規模は40×62cmである。袖部は、締まりと粘性がややある黒褐色土と暗褐色土との混合土で、11×6.5cmの石が1個組み込まれている。燃焼部は、径20×20cmの円形、層厚6cm程の赤褐色焼土が造られている。煙道部の長さは1.5m、削り貫き式で緩やかな下り勾配で深さ37cm、径20cm(開口部)の煙出に続いている。燃焼部との境目に多くの焼土ブロック、先端部に焼土と炭化物を含む。〈柱穴〉3基検出された。住居にかかわるものかどうかは不明である。〈出土遺物〉(第301図・写真図版299)埋土中及び床面から個体数で土師器坏6点、甕2点、須恵器甕1点が出土した。207と209の坏は2つ並んで北東コーナー床面から、210の赤焼きの坏は南東コーナー床面から上向きで出土した。〈時代〉平安時代。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
17	46×44	24.1	
21	75×58	47.0	
23	52×47	48.2	
25	32×29	17.4	



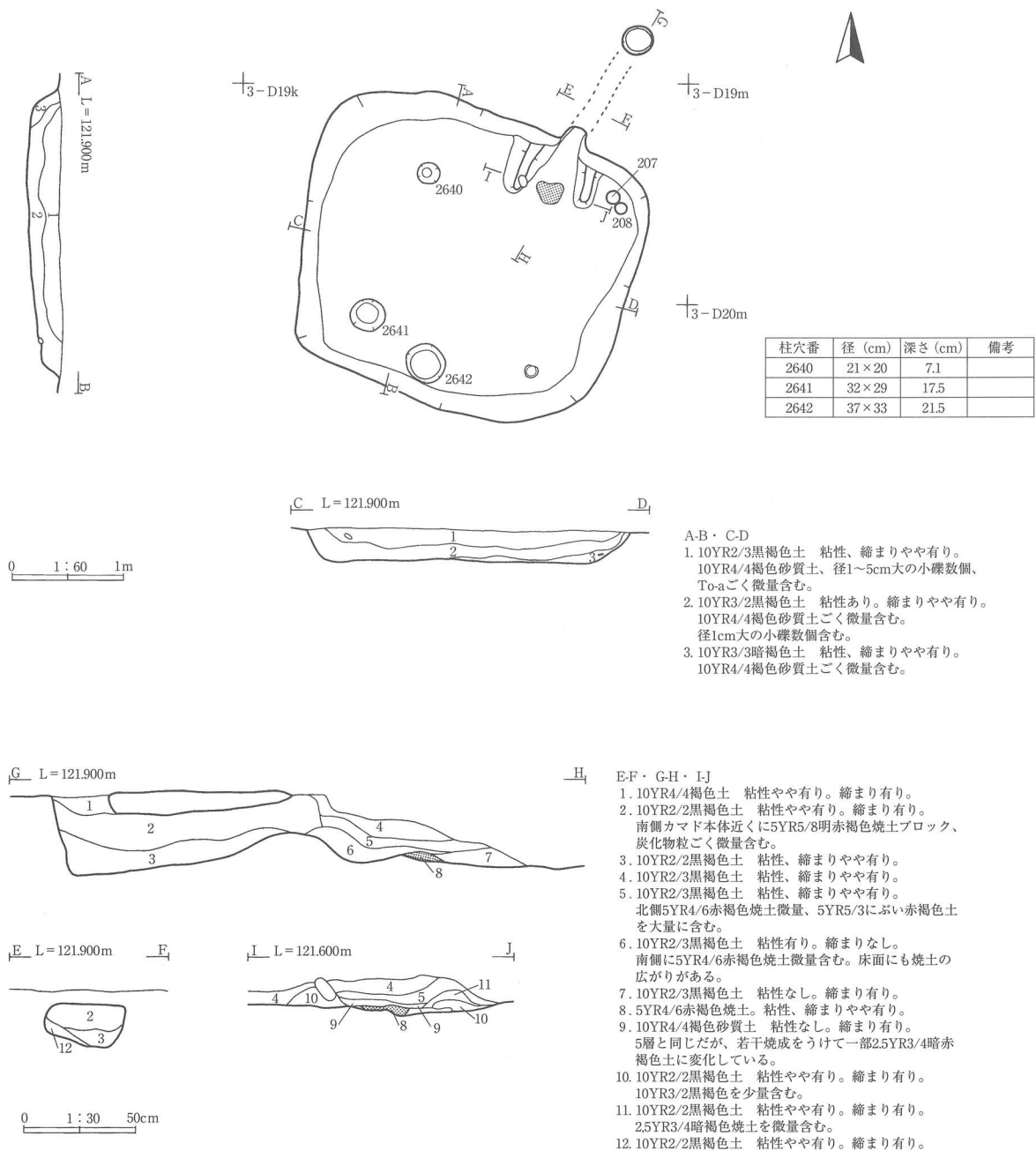
A-B・C-D
 Ia. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
 赤褐色焼土 (2.5YR4/6) ごく微量含む。
 Ib. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
 褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
 1. 10YR3/1黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 2. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 3. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。
 黒褐色土 (10YR5/6) 微量含む。



E-F・G-H・I-J・K-L

- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
2.5YR4/6赤褐色焼土粒ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR3/1黒褐色土 粘性。縮まりやや有り。
- 10YR3/2粘性。縮まりやや有り。
10YR2/1黒褐色土、炭片、2.5YR4/4に黄褐色土、
焼土ブロックごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性。縮まりやや有り。
10YR3/4暗褐色土、10YR4/4褐色土、2.5YR4/4に
赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性。縮まりやや有り。
10YR2/1黒褐色土、炭片ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性。縮まりやや有り。
2.5YR4/6赤褐色焼土ごく微量含む。
- 2.5YR3/6暗赤褐色土 粘性。縮まりやや有り。
炭化物、ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR4/3に黄褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土ブロック 粘性なし。縮まり有り。
10YR4/6褐色土ごく微量含む。
- 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。縮まりなし。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR5/6黄褐色砂質土を含む。

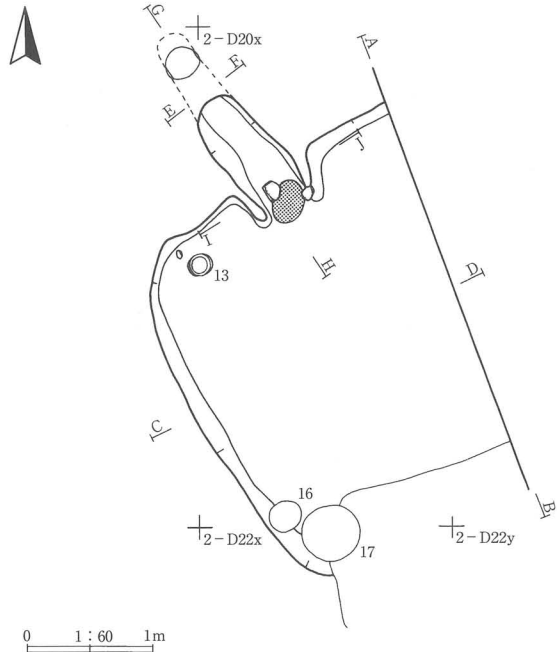
第68図 RA218竪穴住居跡



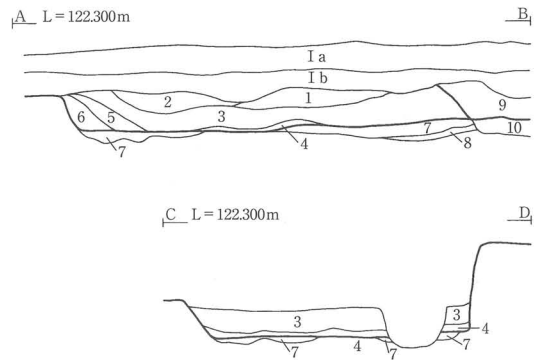
第69図 RA220竪穴住居跡

RA281竪穴住居跡 (第70図・写真図版51)

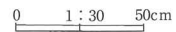
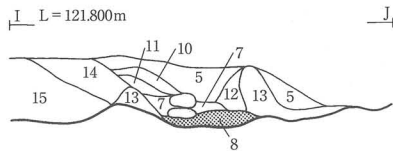
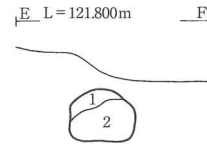
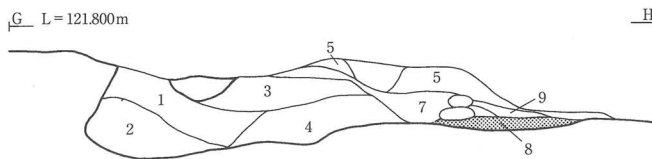
<位置・重複関係>本遺跡の西側、2-D21xグリッドに位置している。RA218竪穴住居跡と重複し、これに切られている。 <規模・形態・方向>東側は調査区外へ延びており、南側はRA218との重複で失われている。南西壁で3.0m程あり、3m四方の方形プランであったと考えたい。主軸はN-33°-Wである。 <埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積の様相を呈する。 <壁>南西壁や北西壁は約37cm残存していた。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
13	34	34.1	
16	27×26	39.9	
17	46×44	24.1	



- A-B・C-D
- Ia. 10YR3/1黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。植物根多量含む。現耕作土。
 Ib. 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
- 3層と同一
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。水酸化鉄分ごく微量混入。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。
 10YR4/6褐色砂質土、2.5YR3/6暗赤褐色土、炭化物片、ごく微量含む。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
 10YR5/6黄褐粘土ごく微量含む。
 - 10YR3/1黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。
 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。水酸化鉄分ごく微量含む。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりなし。
 10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 - 10YR5/6黄褐砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。
 10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
 - 10YR5/6黄褐粘土 粘性有り。縮まりやや有り。
 10YR3/2黒褐色土微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
 10YR4/6褐色砂質土粒状、炭化物片ごく微量含む。
 - 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。
 10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。



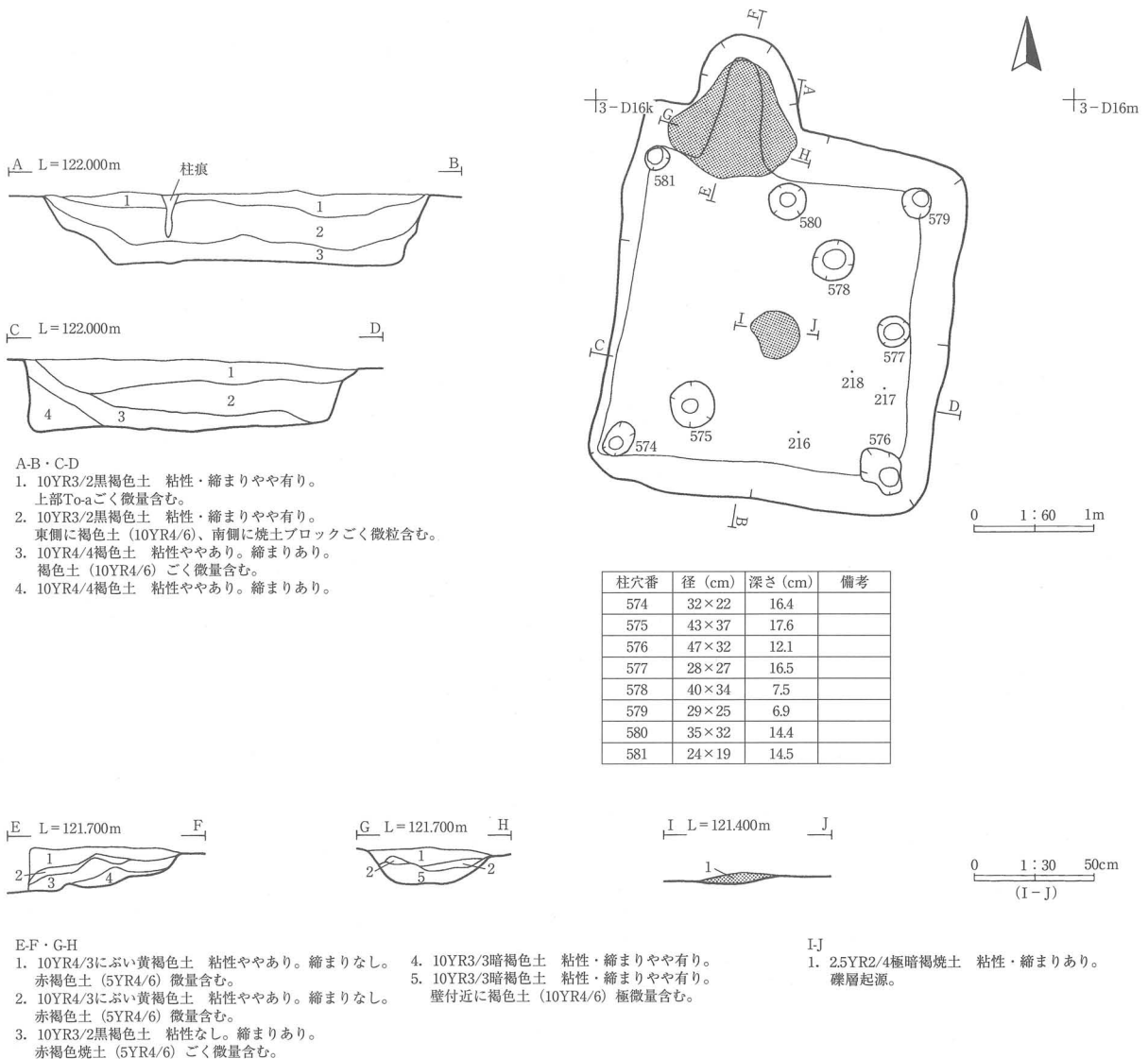
- E-F・G-H・I-J
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まりなし。
炭化物、2.5YR5/4暗赤褐色土ごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まり有り。
2.5YR3/4暗赤褐色土焼土ブロックごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
10YR4/4褐色砂質ごく微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土粘性、縮まりやや有り。
2.5YR3/4暗赤褐色土 10YR2/1黒色土ごく微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まり有り。
2.5YR3/4暗赤褐色土焼土ブロック、ごく微量含む。
 - 2.5YR3/4暗赤褐色土焼土 粘性有り。縮まりやや有り。
骨片、2.5YR6/6橙色土、10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
 - 10YR4/4褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
大量の2.5YR3/4暗赤褐色土を含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
2.5YR4/6赤褐焼土粒ごく微量含む。
 - 10YR5/6褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
 - 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。1のカマド袖部に続く。

第70図 RA281住居跡

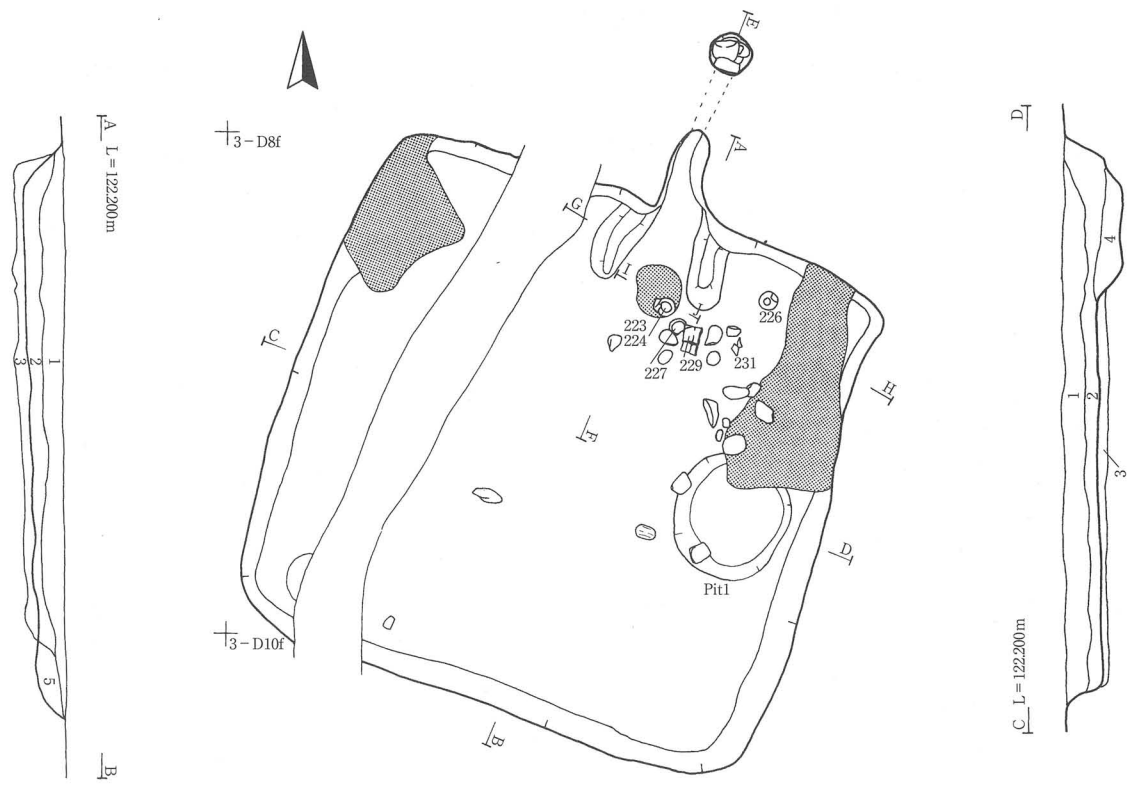
何れも外傾して立ち上がっている。 <床面>調査した範囲では全面を貼床としている。 <カマド>北西壁のほぼ中央に設置されているようである。袖部は褐色土でつくられており芯材は見られなかった。天井部は残存しない。燃焼部には36×25cm程の焼土が広がり、支脚として使われていたと思われる河原石も検出された。煙道部は削り貫き式の構造を持ち、燃焼部から煙出底部へと緩やかに下っている。 <柱穴>北西壁隅から1基検出されている。 <遺物> (第298図・写真図版297) 埋土中及び床面から個体数で土師器甕(190)が1点出土している。 <時期>平安時代。

RA282 竪穴住居跡 (第71図・写真図版52)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D16kグリッドに位置し、IV層で確認された。北壁の一部が風倒木による攪乱と重複している。 <規模・平面形・方位>規模は2.8×3.2m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約5.9m²である。主軸方向はN-12°-Eとしておく。 <埋土>黒褐色土を主体とした自然堆積による4



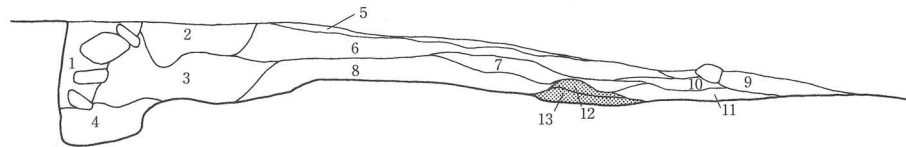
第71図 RA282竪穴住居跡



A-B・C-D

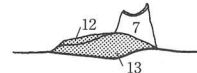
1. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
10YR5/6 (黄褐色土) ごく微量、点状に含む。
2. 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
10YR5/6黄褐色土ブロック少量含む。
人為的堆積か？
3. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。
黒褐色土 (10YR2/2) 含む。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
褐色砂質土ブロック (10YR4/6) ごく微量含む。
中層に土師器片含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
褐色砂質土ごく微量含む。

E L=122.100m

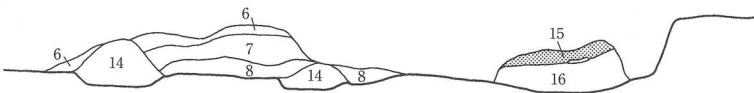


F

I L=121.800m



G L=121.900m



H

E-F・G-H・I-J

1. 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まり有り。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。
2. 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
2.5YR5/8明赤褐色焼土粒、炭化物ごく微量含む。
4. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
2.5YR6/8 明赤褐色焼土粒ごく微量含む。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
5YR4/6赤褐色土ごく微量含む。
6. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
焼土5YR5/6明黄褐色土、5YR6/8橙色土、炭片ごく微量含む。
7. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
2.5YR4/8赤褐色焼土ブロック、炭化物ごく微量含む。
8. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
2.5YR5/8明赤褐色焼土粒、炭化物粒ごく微量含む。
カマド袖中央付近に骨片微量含む。
10YR4/3にぶい黄褐粘土ブロック微量含む。
9. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10. 5YR5/6明黄褐色焼土 粘性なし。締まりやや有り。
南側程多い。
11. 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
北側炭片含み下側程濃い。
12. 2.5YR2/4極暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
13. 2.5YR2/2極暗赤褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
14. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR2/2黒褐色土を含む。
15. 2.5YR4/8赤褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
炭化物、黒褐色土 (10YR2/2) ごく微量含む。
土器少量含む。廃棄焼土。
16. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。
10YR4/4褐色砂質土微量含む。

第72図 RA283竪穴住居跡

層で構成される。1層には5mm前後の小礫が含まれ、十和田a降下火山灰も微量含まれる。2層も1～2前後の小礫が含まれ、埋土中に土師器が投げ入れられている。3層は床に近い褐色土層である。〈壁〉床から直線的に立ち上がる。他の住居に比べ、深い感じを受ける。各壁中央部の残存値は、北壁56cm、東壁48cm、南壁56cm、西壁59cmを測る。北壁は、北西コーナーから径2.0×1.6mにわたり、床に流れ込む様子で風倒木による攪乱を受けている。この攪乱と床面との境に径76×45cmの楕円状に赤褐色の焼土がある。また、その焼土を中心に北に向かい長さ1.08mにわたり、緩く傾斜した張り出し部分がある。〈床面〉床の高さはほぼ同じであり、締まりがある褐色土である。色は明るい感じで、3～5mmの小礫を多く含む。貼床はみられない。この他、床面中央に径43×46cm、層厚7cm、粘性も締まりもない極暗赤褐色焼土がみられる。床土が赤変していることから炉の跡と考えられる。また埋土中層に土師器と土師器片が投げ入れられた状態で出土している。〈カマド〉検出されない。〈柱穴〉柱穴は8基検出されている。そのうち各コーナー付近にある4基は、規模的に類似しており、埋土中に炭片を含み、しっかり掘り込まれている。これらが主柱穴を構成するものと考えられる。〈出土遺物〉(第301・302図・写真図版299)埋土中から個体数で土師器坏9点、甕4点、須恵器坏4点、甕2点が出土した。この竪穴住居跡遺物出土の特徴は、埋土中層～下層よりまとまって投げ捨てられたような状態で土師器が出土することである。遺構廃絶後、埋まりかけた段階での廃棄行為と考えられ、そうすると本遺構に伴う遺物ではないと判断される。赤焼き坏216・赤焼き高台付坏217・須恵器坏218も口縁から底部まで接合できたが出土した時点では破片の状態であった。〈時代〉平安時代以降。カマドがないこと、中央部に炉跡のようなものがあること、貼床がなく床面に小礫が多いこと、出土する土器の種類が多く埋土中層に廃棄されていることから、この遺構は住居か工房のようなものの跡ではないかと考えられる。

RA283 竪穴住居跡 (第72図・写真図版53)

〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D9gグリッドに位置し、IV層で確認された。遺構の切合から、本遺構の重複関係はRG261より古いと考えられる。〈規模・平面形・方向〉規模は4.5×4.3m、平面形は隅丸方形を呈する。床面積は約15.6m²で主軸方向は、N-22°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体にした2層で構成される。1層は、黄褐色土が混入するが、2層はその割合が増えてくる。また、土師器片の混入もみられ、人為堆積の部分もあると考えられる。〈壁〉床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁24cm、東壁32cm、南壁30cm、西壁31cmを測り壁溝はない。〈床面〉ほぼ全面が貼床で黒褐色土と褐色土の混合土からなり、平坦で締まりがある。北東コーナーと1号土坑付近に直径10cmの石が散らばっている。南側コーナー以外の3コーナー付近に焼土の堆積がみられるが、特に東北コーナー部分は径0.6×1.8m、層厚15cmの帯状を呈し、上層5cmは赤褐色焼土で、炭化物と土器片を含み、東壁中央の土坑まで続く。何れも廃棄焼土と考えられる。〈カマド〉北東壁中央部に位置し、本体の規模は径70×50cmである。袖部は、暗褐色土と黒褐色土との混合土で造られ、芯材の使用は認められない。燃焼部は、直径20cm、層厚10cmの明褐色の焼土が形成される。煙道部は、刳り貫き式で長さ1.2m、真っ直ぐだが煙出付近で下っている。側壁は熱による赤色変化を多少うけており、袖部付近は微量の骨片と炭片を含む。煙出部は直径32cm(開口部)、深さ50cmの円形状の土坑が掘られている。中層部分に直径10cm以上の河原石が見られる。〈柱穴〉検出されない。〈ピット〉東壁中央に位置する。埋土中層から土師器片が出土した。〈出土遺物〉(第302・303・309図・写真図版299・300・304)埋土中及び床面から個体数で土師器坏7点・甕4点、須恵器坏2点・甕2点・壺1点が出土した。289・290の須恵器甕片は、埋土上層から出土した。赤焼き坏226は北側コーナーから整った形で伏せた状態で出土するが、他は破片で出土する。223の土師器坏と227赤

焼きの坏は、破片で散らばった状態であったものである。〈時代〉平安時代。

RA284 竪穴住居跡（第73図・写真図版54）

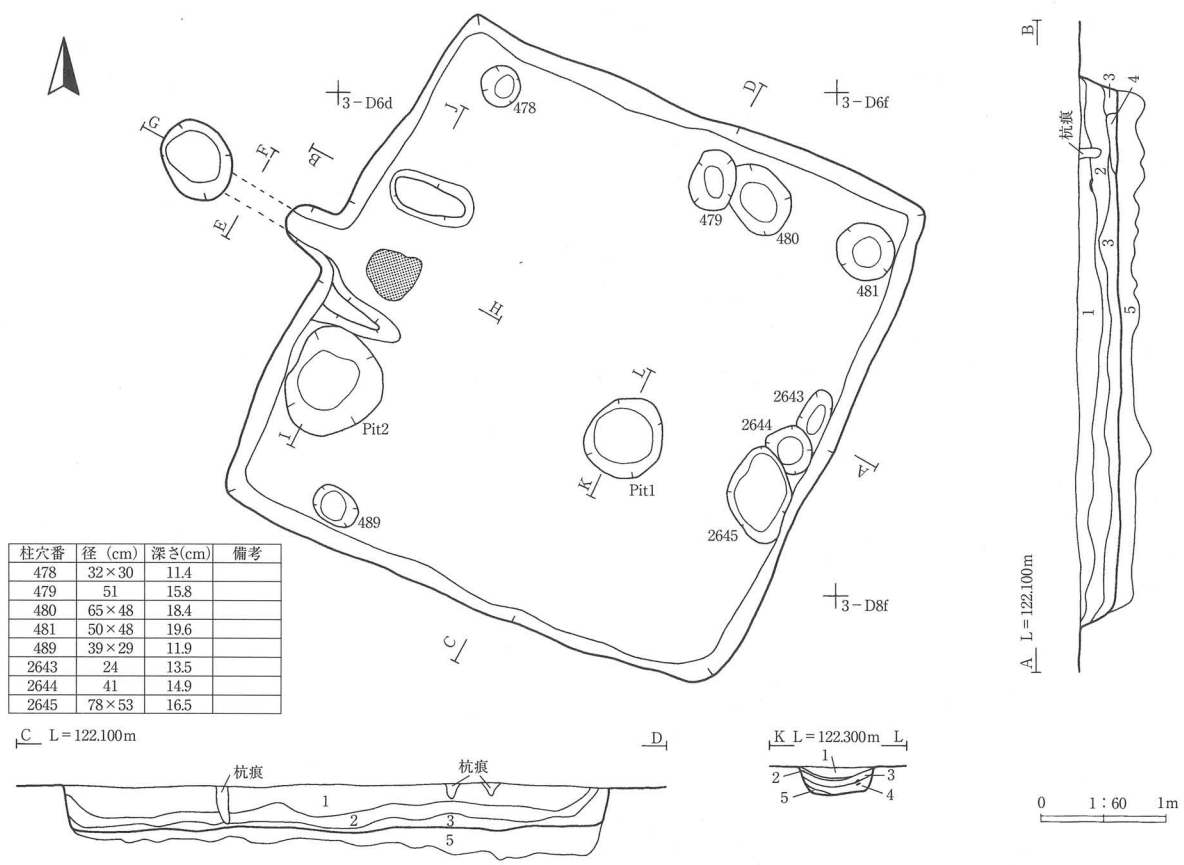
〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D7dグリッドに位置し、Ⅲ層下面で確認された。RA288に接するが、重複関係はない。〈規模・平面形・方位〉規模は4.4×4.4m、平面形は方形を呈し床面積は約16.4㎡である。主軸方向はN-57°-Wである。〈埋土〉黒褐色土を主体とし、自然堆積による3層で構成される。下層ほど褐色砂質土の割合が増え、南側ほど粒が大きくなる。2層目に土師器片が含まれる。

〈壁〉床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁35cm、東壁32cm、南壁31cm、西壁28cmを測る。壁溝は検出されていない。〈床面〉締まりがある。全面貼床とし黒褐色土と褐色砂質土からなる。〈カマド〉北西壁中央部に設置されるが、袖部北側が崩れているので、全体の様子ははっきりしない。本体の規模は70×70cmである。残った袖部をみると、締まりがある黒褐色土の混じった褐色砂質土で造られ、側壁の内側は焼けている。燃焼部は、径40×40cm、深さ8cmの暗褐色焼土が形成されている。刳貫式の煙道部は、長さ1.1m、緩やかな下り勾配で煙出部に続く。南東側に微量の赤褐色焼土と炭化物が認められる。煙出部は直径55cm（開口部）、深さ40cmの円形状の土坑が掘込まれ、深さ30cmに須恵器片と直径15cmの石が2個投げ込まれている。〈柱穴〉8基検出され、そのうち壁隅にある3基は位置的に支柱穴になると思われる。埋土は、粘性のない締まりのある黒褐色土が中心である。〈ピット〉2基検出されている。Pit1は袖部南側にあり、赤褐色焼土を微量含む。Pit2は、住居中央部南側にあり、埋土は黒褐色土中心だが、焼土ブロック、炭化物、石英等を微量含む。住居施設に関係した土坑と考えられる。〈出土遺物〉（第303図・写真図版300）埋土中から個体数で土師器坏2点、赤焼き坏1点、甕3点、須恵器坏5点・大甕1点・壺1点が出土した。煙出部からは、須恵器大甕の口縁部（238）・体部が横向きに出土する。他の遺物は埋土中層から出土するものが多かった。〈時代〉平安時代。

RA285 竪穴住居跡（第74図・写真図版55）

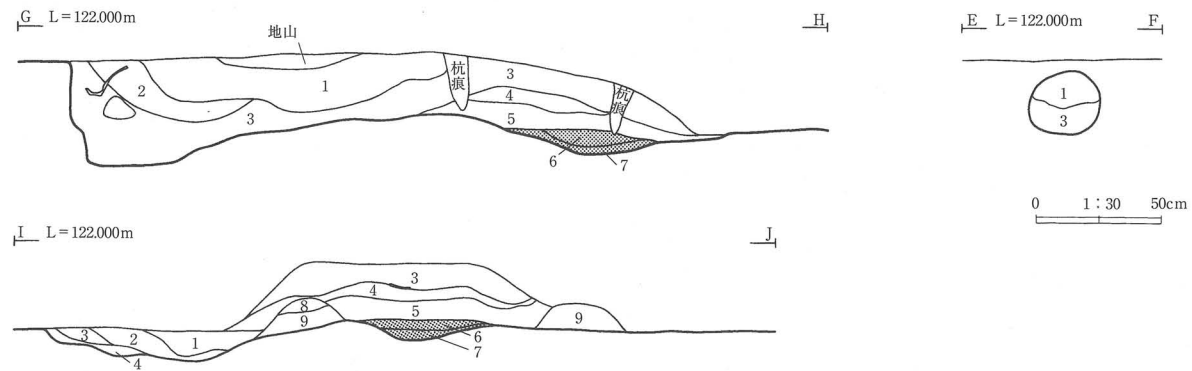
〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D23tグリッドに位置し、Ⅳ層で確認された。南側が攪乱部分と、東壁と西壁の中央部分がRG255と重複する。遺構の切合から、本遺構の重複関係はRG255や攪乱よりも古いと考えられる。〈規模・平面形・方向〉南側の攪乱が大きいため遺構の全容は不明である。確認できる規模は、北壁側6.0m、東壁側3.5m、西壁側4.1mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると推測される。主軸方向は、S-87°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体にした自然堆積による2層で構成される。上層は、流れ込んだ十和田a降下火山灰を20%含む。下層は、褐色砂質土との混合土で3～5cmの礫を多く含む。

〈壁〉攪乱のため残りは良くないが、各壁中央部の残存値は、北壁18cm、東壁25cm、西壁16cmを測る。〈床面〉北壁部分から南側の攪乱に向けて緩やかな下り勾配がみられる。全面を貼床としており黒褐色土と褐色砂質土との混合土層であるが、5cm前後の小礫が多く凸凹の状態であり、カマド付近に石や土器片が散らばる。〈カマド〉南東壁の北側に位置し、本体の規模は50×45cmである。袖部は、黒褐色土と暗褐色土の混合土で造られ、内側は燃焼による赤色変化が認められる。燃焼部付近は石や土器片が散乱し、径60×55cm、層厚6cmで3cm前後の小礫を含む赤褐色焼土を形成する。煙道部は長さ1.1mの刳貫き式であるが、緩やかに下りながら直径60cm（開口部）、深さ50cm、中層に直径10～20cmの石が多量に入り煙出部に続く。側壁には、熱変化による赤褐色焼土や炭化物がある。〈柱穴〉西側に1基検出される。埋土は、礫の混じった黒褐色土である。〈出土遺物〉（第304・334・335図・写真図版300・301・321）埋土中及び床面から個体数で土師器坏15点・甕7点、須恵器坏2点・甕2点、鉄製品3点（524・535・536）が出土した。遺物



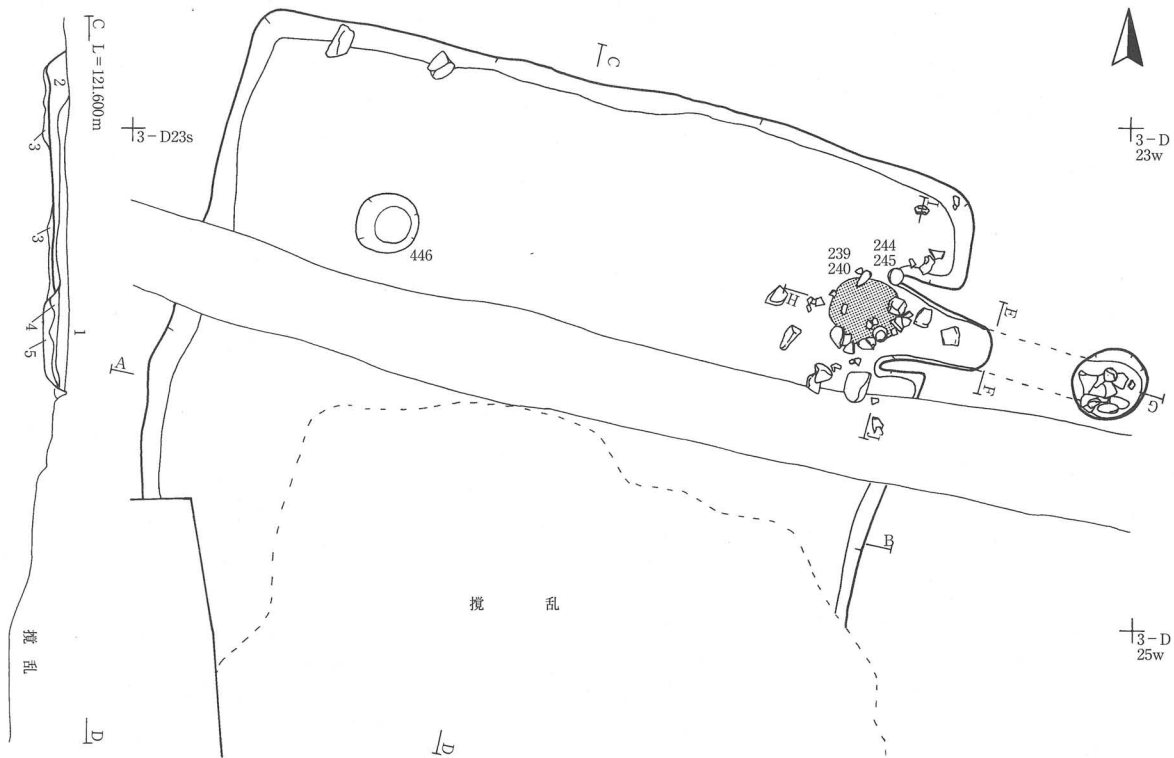
柱穴番	径 (cm)	深さ(cm)	備考
478	32×30	11.4	
479	51	15.8	
480	65×48	18.4	
481	50×48	19.6	
489	39×29	11.9	
2643	24	13.5	
2644	41	14.9	
2645	78×53	16.5	

- A-B・C-D
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。人為堆積
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/4褐色土ごく微量含む。人為堆積。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- K-L
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 - 10YR3/1黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 - 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性なし。締まり有り。
 - 10YR3/1黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。赤褐色土 (5YR4/6) ごく微量含む。
 - 掘りすぎ



- E-F・G-H・I-J
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。10YR5/4にぶい黄褐色土ごく微量含む。
 - 10YR4/4褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/4褐色土、南東側2.5YR2/4極暗赤褐色焼土ごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR5/8明赤褐色焼土ブロックごく微量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性有り。締まりなし。10YR2/2黒褐色土を微量、2.5YR5/8明赤褐色焼土ブロック、炭化物粒をごく微量含む。
 - 2.5YR3/6暗赤褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 - 2.5YR3/4暗赤褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 - 10YR4/4暗褐色土 粘性なし。締まり有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
 - 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。

第73図 RA284竪穴住居跡

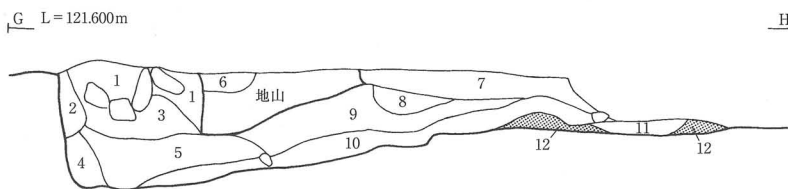


柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
446	50×48	51.1	

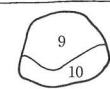


A-B・C-D

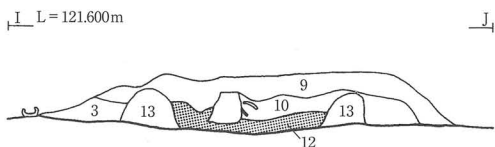
- 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。To-a微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。径3~5cmの小礫複数、10YR4/4褐色砂質土微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。径1~3cmの小礫、10YR4/6褐色砂質土ごく微量含む。



E L=121.600m F



0 1:30 50cm



E-F・G-H・I-J

- 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。
- 10YR4/6褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。2.5YR3/4暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/1黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/1黒褐色土 粘性なし。締まり有り。10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。2.5YR4/6赤褐色焼土、炭化物ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土微量含む。2.5YR3/6暗赤褐色焼土ブロックごく微量含む。
- 10YR4/6褐色土 粘性、締まりやや有り。2.5YR3/4暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。To-a、2.5YR4/6赤褐色焼土、炭化物ごく微量含む。
- 2.5YR3/4暗赤褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。

第74図 RA285竪穴住居跡

の破片はカマド本体と燃焼部付近に集中し、接合すると239・240・244・245の甕や坏になる。また、243の耳皿は、北東コーナー床面から上向きに置かれて出土した。〈時代〉平安時代。

RA286 竪穴住居跡 (第75図・写真図版56)

〈位置・重複関係〉調査区西側の3-D20xグリッドに位置し、IV層で確認された。RD608と重複するが、遺構の切り合いから、本遺構の重複関係はRD608よりも古い。〈規模・平面形・方向〉規模は4.5×4.4m、床面積は約18.2㎡で平面形は隅丸方形を呈する。主軸方向は、S-78°-Eである。〈埋土〉黒褐色土と褐色土を主体とする2層からなり自然堆積の様相を呈する。〈壁〉床面から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁16cm、東壁20cm、南壁13cm、西壁18cmである。壁面6ヶ所が柱穴で、1ヶ所が土坑で切られ、形がはっきりしないところがある。〈床面〉およそ平坦で、褐色土と黄褐色の混合土からなる貼床としている。床面は、20~30cmの礫が多く、少し汚れた感じがする。〈カマド〉東壁中央部に位置し、本体の規模は40×65cmを測る。袖部は、上層が締まりのある黒褐色土、下層が暗褐色土と黄褐色土との混合土で造られ、内側には焼土がみられる。付近に土器片や石等がみられるが、芯材であるかどうかは不明である。煙道部は掘り込み式で長さ1.4m、ほぼ真っ直ぐに煙出部に続いている。焼土はみられず、埋土が黒っぽい。中央部が大きな柱穴で切られ、煙出の部分には、20~25cmの石がまとまって入り込んでいる。

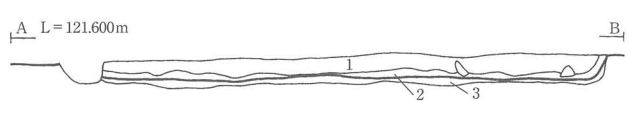
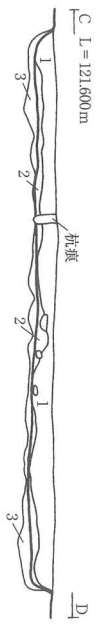
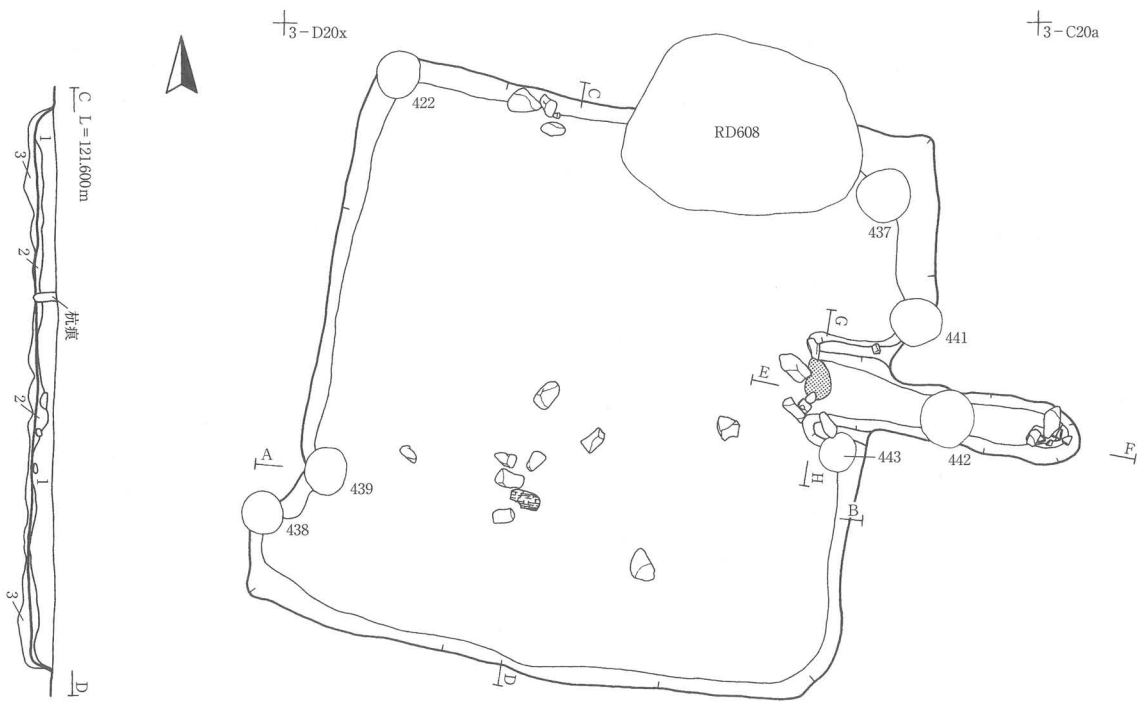
〈その他〉中央やや南側のほぼ床面に残っていた炭化材はクリ材であった。〈出土遺物〉(第305図・写真図版301)埋土中及び床面から個体数で土師器坏5点、赤焼坏2点、土師器甕2点・高台坏1点、極小片の須恵器坏1点、須恵器甕1点が出土している。〈時代〉平安時代。

RA287 竪穴住居跡 (第76図・写真図版57)

〈位置・重複関係〉本遺跡の西側、3-D10bグリッドに位置し検出面は、IV層上面である。RA288と重複し本遺構のほうが古い。〈規模・形態・方向〉北西壁側はRA288に切られ、西壁は未調査区に延びているため全容は不明であるが一辺が4.2m四方の隅丸方形を呈すると仮定した場合、床面積は約13.4㎡と推測される。主軸方向はS-47°-Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体とする自然堆積。〈壁〉各壁の残存値は最大で南東壁が27cm、北東壁で30cm、南西壁は34cmを測り、底面からやや外傾して立ち上がっている。壁溝はもたない。〈床面〉全面を貼床とし平坦で締まっている。〈カマド〉南東壁の中央より南側寄りに設置されている。カマド本体は自然礫を芯材としそれを暗褐色土や黄褐色土で覆って作られていたようで、側壁の中に自然礫が残されていた。燃焼部には35×30cmの範囲に焼土が形成されている。煙出しは深さ59cm程あり、カマド本体へは刳り貫き式の煙道が斜めに掘られている。〈その他〉煙道部の埋土には大小多量の河原石が入っていた。これは煙出の開口部に積まれていたものが、本遺構が機能しなくなった段階で崩れ落ちたものと思われる。〈遺物〉(第305~307図・写真図版301~303)埋土及び床面を中心に個体数で土師器坏7点、赤焼坏6点、土師器甕6点、須恵器坏8点、須恵器甕1点、須恵器大甕1点、須恵器壺類2点が出土した。坏類255・257・258・260・262はカマド燃焼部付近から南壁際にかけての狭い範囲から出土した。265土師器甕はカマドに近い南壁隅より横倒した状態で出土した。〈時期〉平安時代。

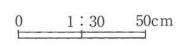
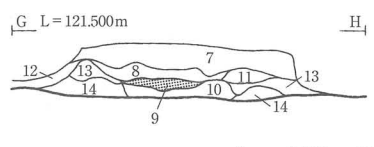
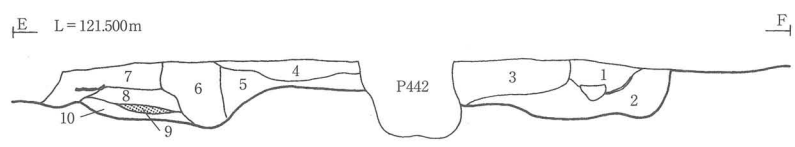
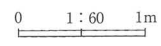
RA288 竪穴住居跡 (第77・78図・写真図版58)

〈位置・重複関係〉本遺跡西側3-D4dグリッドに位置し、IV層上面にて検出された。重複関係はRA287よりも新しくRD602よりも古い。〈規模・形態・方向〉北西壁-南東壁は4.6mを測るが南西壁及び北西壁の一部が調査区外に達しているため全容は不明である。平面形を一辺4.6mの隅丸長方形と仮定する



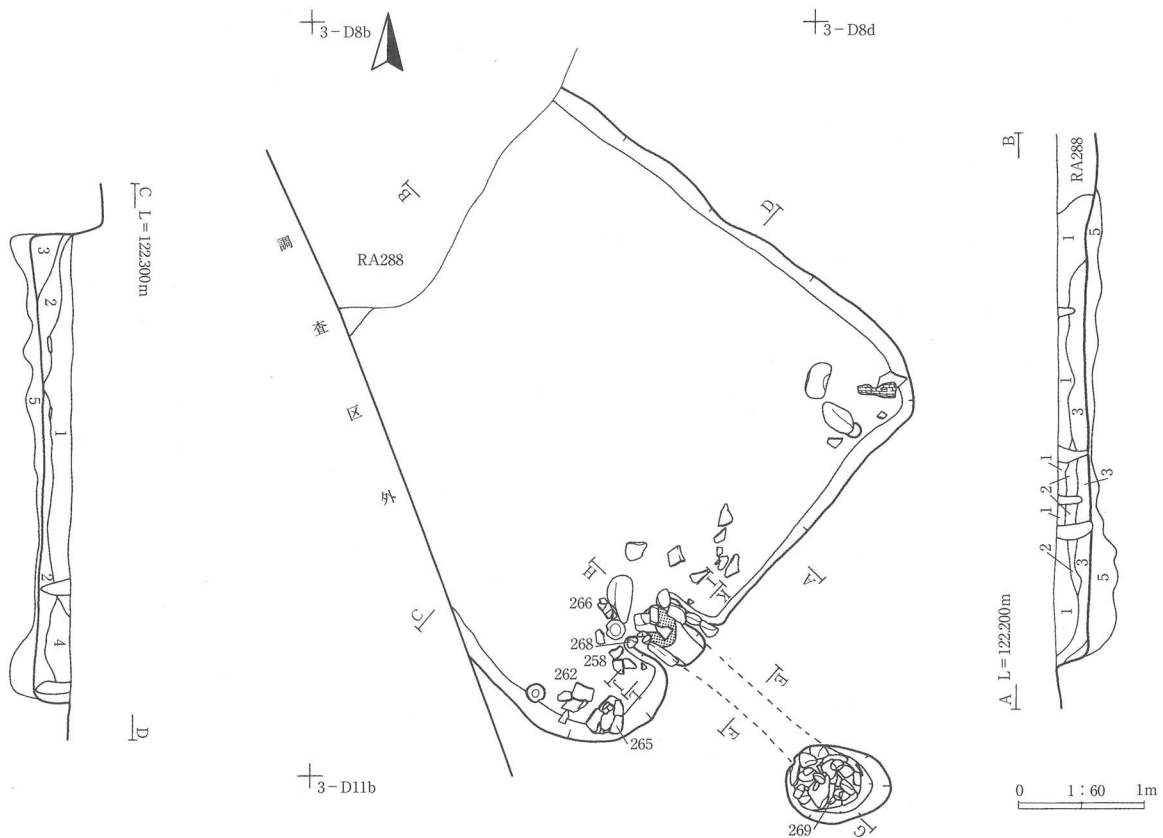
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
422	40×35	21.3	
437	45×43	40.2	
438	38×31	15.7	
439	38×35	14.0	
441	43×38	25.0	
442	44×42	35.7	
443	32×27	32.7	

- A-B・C-D
- 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
 - 10YR4/4褐色土 粘性、締まりやや有り。
床近く10YR5/6黄褐色を含む。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性なし。締まり有り。
10YR5/6黄褐砂質土を含む。



- E-F・G-H
- 10YR3/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR5/8黄褐色土ごく微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
5YR4/6赤褐色土 焼土含む。
 - 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR5/6黄褐色土含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
5YR4/6赤褐色土、焼土少量含む。
 - 2.5YR3/3暗赤褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
1~3cm大の小礫少量含む。
 - 7.5YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR5/6黄褐砂質土微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
5YR5/6明赤褐焼土粒、炭化物、ごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土ブロック、微量含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
他層との境で2.5YR2/4極暗赤褐色土に変化。
 - 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR2/2黒褐色土と10YR5/6黄褐色土を含む。

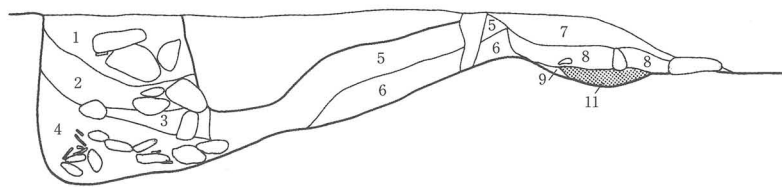
第75図 RA286罌穴住居跡



A-B・C-D

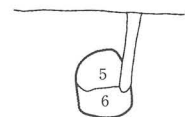
1. 10YR2/2黒褐色砂質土 粘性有り。縮まりやや有り。
褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR3/3黒褐色砂質土 粘性有り。縮まり有り。
褐色砂質土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まり有り。全体に褐色土 (10YR4/4) 微量含む。
4. 10YR2/1黒褐色土 褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量、暗褐色ブロック (10YR3/3) 微量含む。
5. 10YR3/4暗褐色土 粘性・縮まり有り。小礫 (径1~3cm大) 少量含む。
褐色砂質土 (10YR4/4)、黒褐色土 (10YR2/2) ごく微量含む。

G L = 122.000m



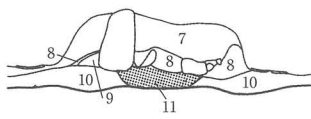
H

E L = 122.000m F



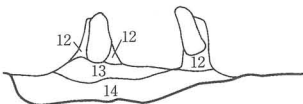
0 1:30 50cm

I L = 122.000m



J

K L = 122.000m

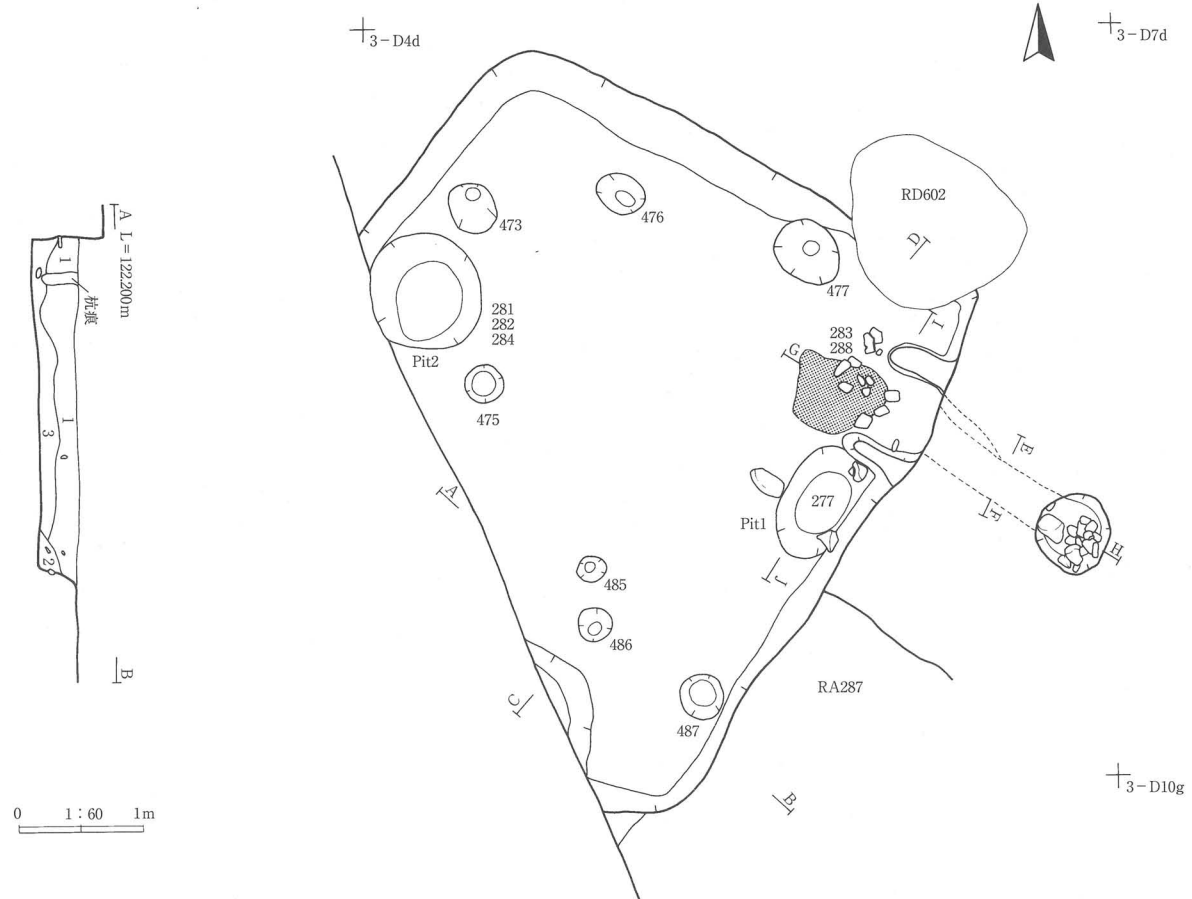


L

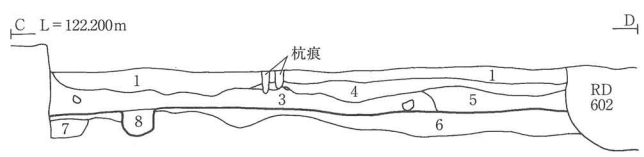
E-F・G-H・I-J・K-L

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
炭化物ごく微量・褐色砂質土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
基本的には1層と同じ層だが、炭化物粒を含まず全体的に暗い。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりなし。やや砂質。
褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
4. 10YR3/3暗褐色土 粘性・縮まりなし。やや砂質。
暗赤褐色焼土 (2.5YR4/3)、炭化物ごく微量含む。
5. 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まりなし。やや砂質。
褐色砂質土ブロック (10YR4/4)、炭化物ごく微量含む。地山との境界で赤変化。
6. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりなし。
暗褐色焼土 (2.5YR3/4)、褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
7. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
焼土粒、褐色砂質土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
8. 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まりなし。暗褐色焼土 (2.5YR3/4)、褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
9. 10YR3/5暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。袖構成礫の支え土。
10. 10YR5/5黄褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。貼り床の土。
11. 2.5YR3/6暗赤褐色焼土 粘性有り。縮まりなし。
12. 10YR3/6暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。黄褐色砂質土 (10YR5/6) ごく微量・黒褐色土 (10YR2/2) 1314微量含む。
13. 10YR6/6黄褐色粘土 粘性・縮まり有り。黒褐色土 (10YR2/3) ごく微量含む。貼り床の土。
14. 10YR6/3黄褐色砂質土 粘性有り。縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/3) との混合土。

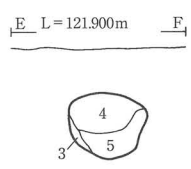
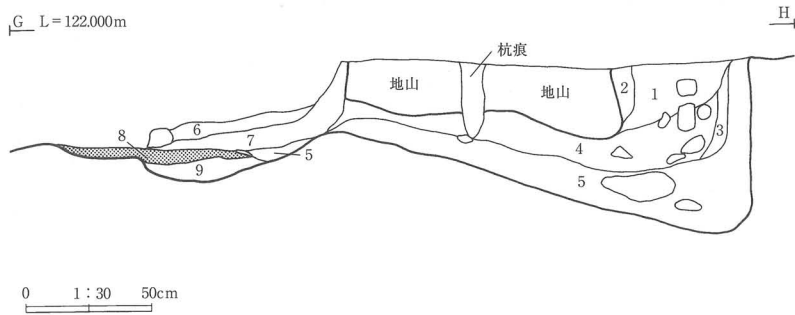
第76図 RA287竪穴住居跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
473	42×36	42.6	
475	32×30	11.0	
476	42×33	24.6	
477	57×46	32.8	
485	25×24	29.5	
486	28×26	33.8	
487	36×35	57.9	

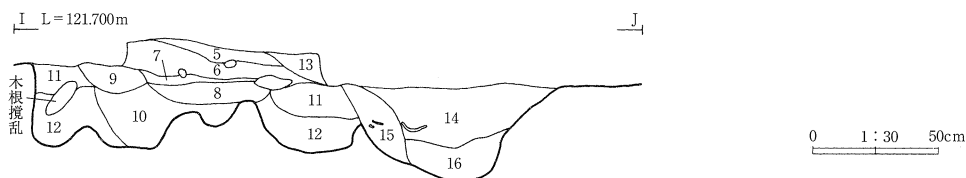


- A-B・C-D
- 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。To-aごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。小礫複数、土器片含む。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR5/6黄褐砂質土ごく微量含む。
 - 10YR2/2黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まり有り。3~5cm大の小礫複数含む。10YR4/4褐色砂質土含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。真ん中部分焼土含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR5/6黄褐砂質土ごく微量含む。径3cm大の礫少量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。径5cm大の礫含む。
 - 2.5YR3/4暗赤褐焼土 10YR4/4褐色砂質土炭化物ごく微量含む。



第77図 RA288竪穴住居跡(1)

ならば床面積は約15.0m²と推測される。主軸方向はS - 54° - Eである。〈埋土〉黒褐色土を主体とする自然堆積で、床面から10~30cm高い1層には十和田 a 降下火山灰がごく微量含まれていた。〈壁〉南東壁で32cm、北東壁が31cm、北西壁で31cm程残存しており、何れも底面からやや外傾して立ち上がっている。〈床面〉ほぼ全面を貼床としており平坦で締まっている。〈カマド〉南東壁の東寄りに構築されている。カマド本体は暗褐色土・褐色砂質土などでつくられていたようだが芯材は未検出であった。燃焼部には67×64cm程の焼土がみられ、その周囲に土器が散乱していた。煙道部は煙出底部まで下るように削り貫かれ、煙出部の埋土からは大小の河原石が多数検出された。〈柱穴〉床面から検出した7基の柱穴状土坑のなかでP 486が本遺構に伴うと思われる。その他の柱穴状土坑については本住居跡に伴うかどうか判然としない。〈その他〉床面から土坑がカマド南側に隣接したところから柱穴が1基と北西壁際から1基検出されている。また煙出部の埋土から検出された多数の河原石は当時の開口部に積まれていたものが中に崩れ落ちたものと考えられる。〈遺物〉(第308図・写真図版303)埋土及び床面から個体数にして土師器坏7点・高台付坏2点、赤焼坏7点、高台付赤焼坏2点、土師器甕約14点、須恵器坏2点、須恵器甕類2点、鉄滓?が1点出土している。カマド焚き口付近からは土師器甕類283・288が出土した。また本住居内に設けられたP i t 1からは赤焼坏227が、同じくP i t 2からは高台付赤焼坏281・282や土師器甕284などが出土している。〈時期〉平安時代。



RA288 カマド

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR5/8明赤褐色焼土ブロック、炭化物ごく微量含む。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
3. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。10YR4/4褐色砂質土、北側に2.5YR3/6にぶい橙色の焼土ごく微量含む。
4. 10YR2/2黒褐色土 粘性、締まりなし。2.5YR2/4ごく暗赤褐色焼土、炭化物ごく微量含む。拳大のレキ煙出部に多量含む。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、炭化物、10YR3/3暗褐色土、10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。
6. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、10YR3/3暗褐色土、10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。
7. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。2.5YR5/8明赤褐色焼土ブロック、炭化物片ごく微量含む。
8. 2.5YR5/8明赤褐色焼土 粘性有り。締まり極めて有り。
9. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/6褐色砂質土を含む。
10. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR3/3暗褐色土ごく微量、10YR4/4褐色砂質土微量含む。
11. 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR4/6褐色砂質土を含む。
12. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR3/3暗褐色土ごく微量、10YR4/4褐色砂質土微量含む。
13. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、炭化物ブロックごく微量含む。
14. 10YR2/1黒色土 粘性、締まり有り。炭化物片ごく微量含む。
15. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。10YR3/3暗褐色土、暗褐色砂質土ごく微量含む。
16. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。炭化物片 焼土粒、10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。

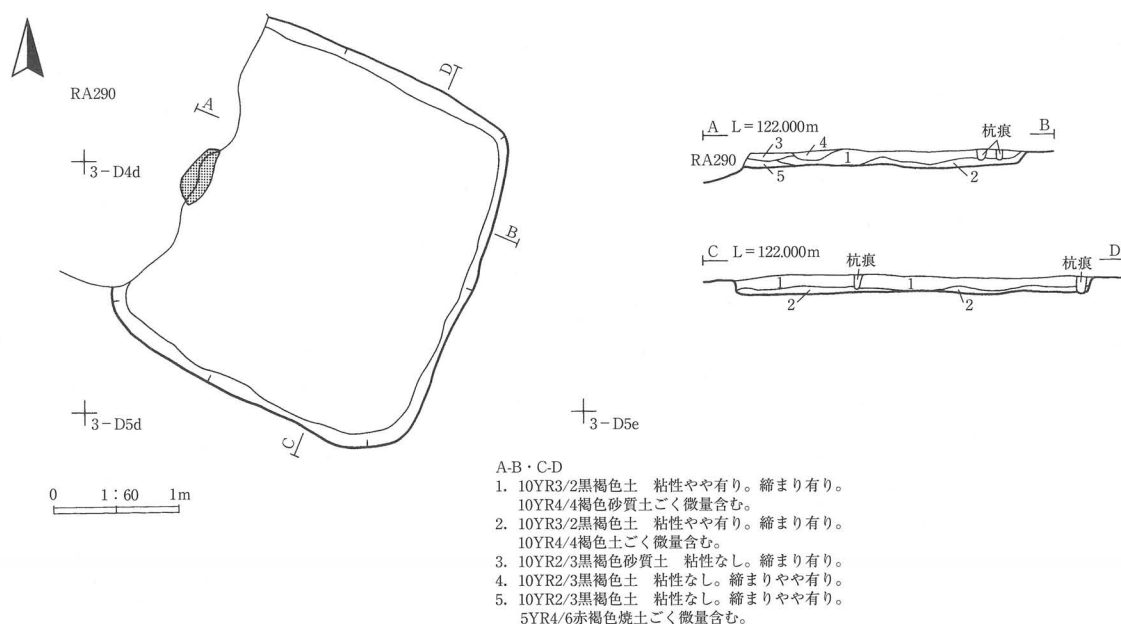
第78図 RA288竪穴住居跡(2)

RA289 竪穴住居跡 (第79図・写真図版59)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D3dグリッドに位置し、IV層で確認された。西側でRA290と重複する。本遺構との新旧関係は、遺構の切り合いからRA290よりも古い。 <規模・平面形・方向>遺構の北側が重複することから全体形が不明確であるが、規模は2.4×2.3m、平面形は方形を呈し床面積は約6.0m²である。 <埋土>黒褐色を主体にした2層で構成され自然堆積の様相を呈する。 <壁>浅く床から垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁12cm、東壁12cm、南壁11cmを測る。 <床面>締まりがあり平坦で、貼床はない。 <出土遺物>(第310図・写真図版305)埋土及び床面から個体数で土師器坏3点・極小破片甕3点、須恵器甕2点、鉄滓が2点出土したがRA290の遺物が混入している。295土師器甕は奈良時代のものかもしれない。また赤焼き坏293・294は、RA290との境から出土しているため本遺構に伴うかどうか判然としなかった。 <時代>奈良時代か平安時代か不明である。

RA290 竪穴住居跡 (第80図・写真図版59・60)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D3cグリッドに位置し、IV層で確認された。遺構は、RA289とRG263とそれぞれ重複する。本遺構との新旧関係は、遺構の切り合いからRA289より新しくRG263より古い。 <規模・平面形・方向>規模は4.0×3.9m、床面積約13.3m²で平面形は方形を呈する。主軸方向は、S-70°-Eである。 <埋土>黒褐色土を主体にした、自然堆積による2層で構成される。 <壁>緩やかに外傾して立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁31cm、東壁17cm、南壁31cm、西壁29cmを測る。東壁はRA289と接する為に低くなっている。 <床面>締まりのある黒褐色土で、平坦である。貼床は住居全体にみられる。住居床面中央部に直径30cm、層厚4cmで暗赤褐色焼土がみられる。また、RG263の跡は、壁に



第79図 RA289竪穴住居跡

はあるが床面では検出されない。〈カマド〉南東壁の北寄りに位置し、本体の規模は55×75cmである。袖部南側は粘性のある黒褐色土と暗褐色土で造られているが、北側は長さ40cm前後の石を芯材に造られ、周囲にも石や土師器片が散乱する。燃焼部は、径50cmの円形、層厚5cmの暗赤褐色焼土ブロックと炭化物が石の下から検出される。削り貫き式の煙道部は、長さ1.2m、中層と下層は焼成による赤色変化を生じ、やや下り勾配で煙出部に続いている。煙出部は、径30×32cm、深さ46cmの円形状に掘り込まれ、10cmの深さに土師器が投げ込まれている。〈柱穴〉3基検出されている。埋土は締まりがややある黒褐色土で、3%の褐色砂質土を含む。〈ピット〉2基検出されている。P i t 1は西コーナーにある楕円形のピットである。P i t 2は、東コーナー付近、1.0×0.7m、深さ20cmの楕円形で黒褐色土の埋土に炭片とにぶい橙色の焼土を3%ずつ含む。これに重なって東コーナーに30×55cmで廃棄焼土が広がる。カマドに関係したピットであろう。〈出土遺物〉(第311図・写真図版311)埋土中及び床面から個体数で土師器坏8点、甕4点、須恵器甕1点、坏1点が出土したが、R A 289の遺物が混じっている可能性が高い。300の土師器坏と307の土師器高台付坏は、煙出上層から出土している。また、299の土師器坏と308の赤焼坏はR A 289との重複する付近から上向きと伏せた状態で、298の土師器坏は上向きで形を留めた状態で出土した。また、他の土器片は、カマドの燃焼部とその周囲に散乱していた。〈時代〉平安時代。

R A 2 9 1 竪穴住居跡 (第81～83図・写真図版61～63) カマド多数

〈位置・重複関係〉本遺跡西側にあたる3-D10t区に位置しIV層面にて検出された。RD629と重複し本住居のほうが古い。また本住居より新しい多数の柱穴も検出されている。〈規模・形態・方向〉検出面での規模は北東壁-南西壁が7.0m、北西壁-南東壁で7.6mを測り、平面形は隅丸長方形を呈する。床面積は約47.7㎡である。〈埋土〉黒褐色土を主体とした自然堆積の様相を呈し、床面から0～20cm付近に堆積する1層の中には十和田a降下火山灰がごく微量含まれていた。〈壁〉全体的に残りが悪く北東壁で16cm、南西壁が20cm、北西壁では16cm、南東壁は24cmを測りやや外傾気味に立ち上がっている。〈床面〉ほぼ全面が貼床となっており平坦で硬く締まっている。〈カマド〉6基のカマドを検出した。

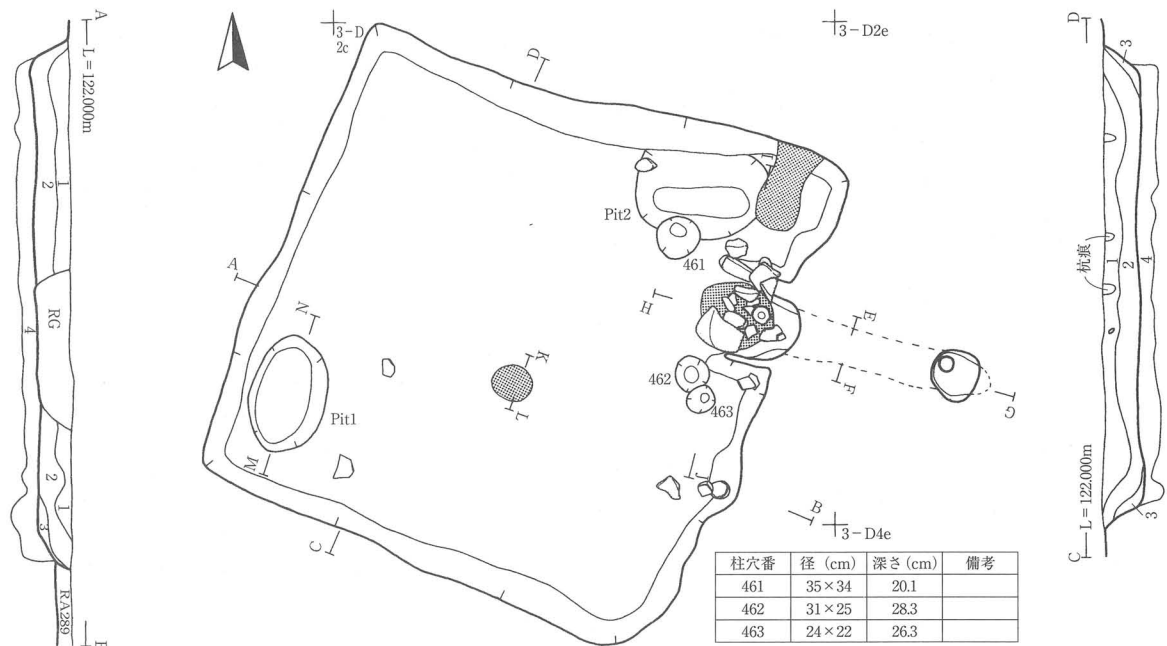
1号カマド：北東壁の東寄りに構築されていた。カマド本体は残存しておらず、焚き口と思われる場所付近の床面から45×40cmの範囲で焼土が検出されている。煙道部は削り貫き式で煙出し部の埋土内には自然礫が多く含まれていた。

2号カマド：南東壁の中央よりやや北側に設置されている。天井部は崩落しており、燃焼部には65×45cmの範囲で焼土が広がる。カマドの側壁には芯材に自然礫を使いそれを黄褐色土および褐色土で覆って構築している。煙道部は削り貫き式で燃焼部から煙出し底部へ緩やかに下っている。

3号カマド：南西壁の東寄りに位置し、4号カマドと並んで設置されている。天井部及び袖部は確認できず燃焼部と思われる地点の床面から54×48cmの範囲で焼土を検出した。煙道部は削り貫き式でカマド本体部から煙出底部へ緩やかに下るように構築されている。煙出し部の埋土中には多くの自然礫が含まれていた。

4号カマド：南西壁の東寄りに位置し、3号カマドと並んで設置されている。天井部は崩落し残存しない。燃焼部から焚き口と思われる部分には45×36cmの範囲で焼土の広がりを検出した。袖部には芯材に自然礫を用いそれを黄褐色土で覆って構築している。煙道部は削り貫き式でカマド本体部から煙出し底部へ緩やかに下がるようにつくられている。

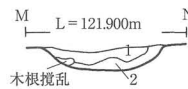
5号カマド：北西壁のほぼ中央に位置し、6号カマドの南側に設置されている。カマド本体部分は確認できず煙道部及び煙出し部のみを検出した。煙出し部は削り貫き式で煙出しの方向へ緩やかに下がるように構築されている。煙出し底部は煙道底部よりも10～20cm程深く掘り込んでつくられており、埋土内からは多数の



A-B-C-D

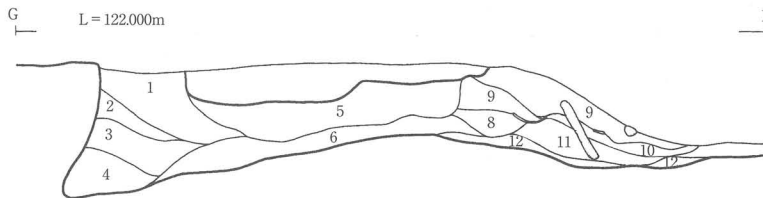
- 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。締まり有り。10YR4/6褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性なし。締まり有り。To-aブロック含む。10YR4/6褐色土ブロックごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まりやや有り。西は10YR4/4褐色砂質土、ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。

0 1:60 1m

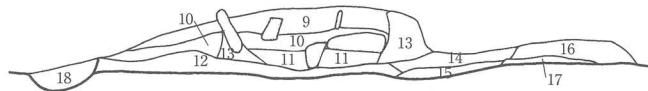


M-N

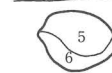
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。10YR4/4褐色砂質土ブロックごく微量含む。



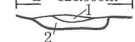
I L=122,000m J



E L=122,000m F



K L=121,600m L



0 1:30 50cm

E-F,G-H,I-J

- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。土器片含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。10YR4/3にぶい黄褐色土ブロック、ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。2.5YR3/6暗赤褐色土、10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性、締まりやや有り。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性、締まり有り。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性有り。締まりやや有り。2.5YR2/4極暗赤褐色土粒、10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。締まりなし。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 2.5YR4/6赤褐色土 粘性やや有り。締まりなし。10YR3/3暗褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まりなし。2.5YR4/8赤褐色土ブロック、炭化物ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。締まりなし。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR3/6暗赤褐色土、炭化物ごく微量含む。
- 10YR4/4褐色土 粘性、締まりやや有り。10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性、締まり有り。10YR4/4褐色砂質土、2.5YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 締まり有り。粘性やや有り。炭片、焼土、2.5YR3/6暗赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 締まり、粘性やや有り。炭片ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 締まり有り。粘性やや有り。10YR5/4にぶい黄褐色土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 締まり、粘性やや有り。10YR5/4にぶい黄褐色土少量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 締まり、粘性やや有り。焼土2.5YR3/6暗赤褐色土ブロックごく微量含む。

K-L

- 2.5YR3/3暗赤褐色土 粘性なし。締まり有り。
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性、締まり有り。10YR2/2黒褐色土を含む。

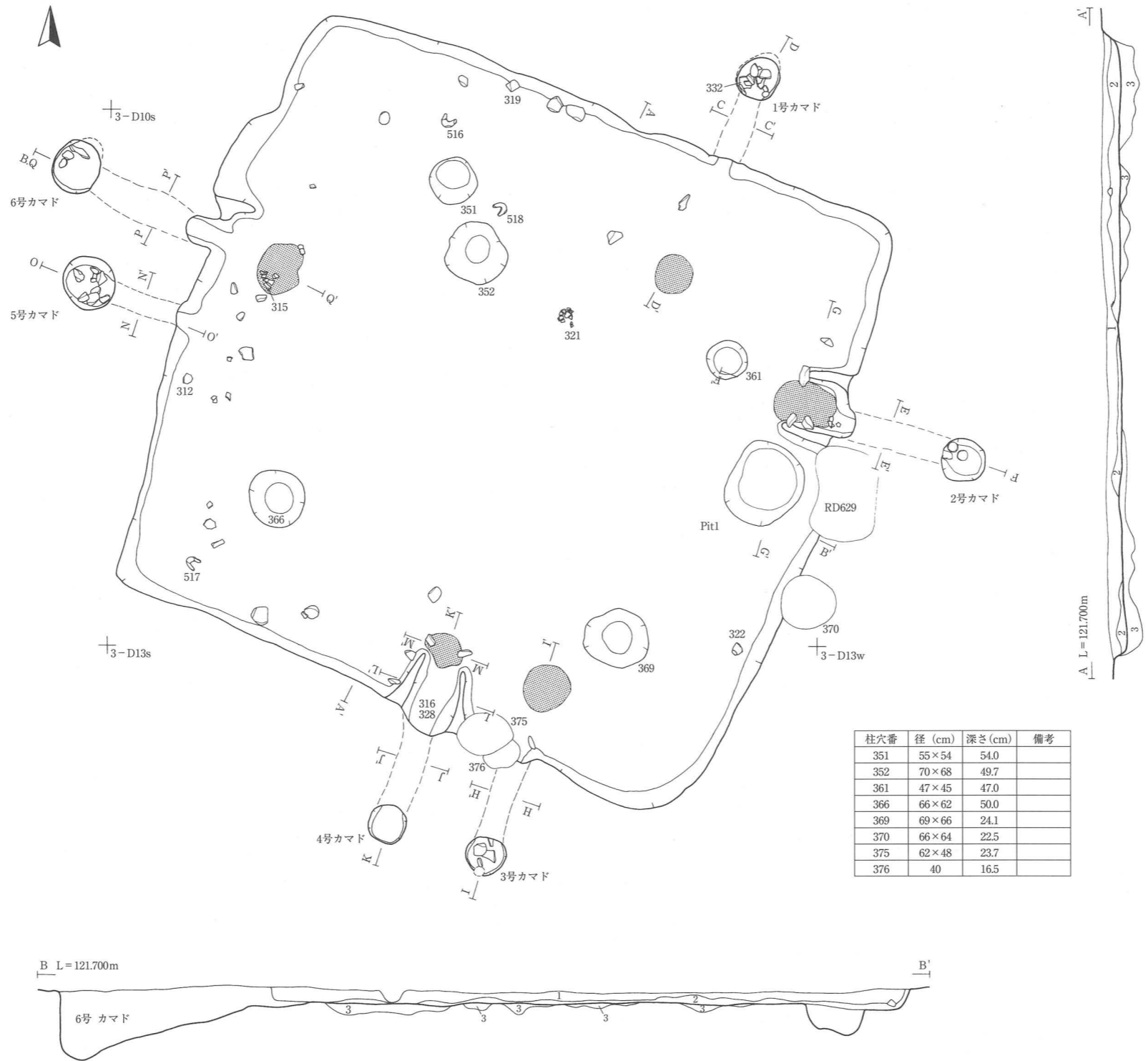
第80図 RA290竪穴住居跡

自然礫が検出された。

6号カマド：北西壁のほぼ中央、5号カマドの北側に設置されている。天井部は崩落しており、燃焼部から焚き口と思われる部分にかけて焼土が33×25cmの範囲で広がる。袖部も黄褐色土の側壁が僅かに残存するのみである。煙道部は刳り貫き式でカマド本体部から煙出し底部へ緩やかに下がるように構築されている。

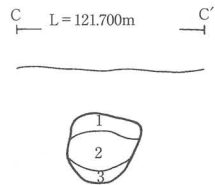
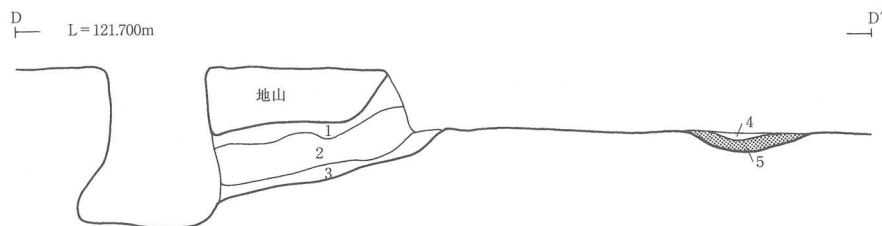
カマドの新旧関係 カマド本体部の残存状況から検出された6基のカマドは全てが同時期に使用されていたのではなく、最低でも2回以上のつくりかえが行われていたと思われる。隣接するカマド間で残りが良い方を新しいと仮定するならば、1号カマドが2号カマドに、3号カマドが4号カマドに、5号カマドが6号カマドにそれぞれつくりかえられたと推測される。

<柱穴> 5基の柱穴が検出されている。 <その他> 2号カマドの燃焼部南側に隣接して外径93×80cm程の土坑が床面から掘り込まれていた。 <遺物> (第312~314・333~335図・写真図版305・306・320・321) 埋土及び床面から個体数で土師器坏7点以上、赤焼坏15点以上、土師器高台付坏1点、須恵器坏12点、土師器甕類12点、須恵器甕類3点、須恵器壺類1点が出土している。その場で原形を留めた状態で見つかるものは少なく、住居内に自然礫と共に多少散らばった状態で出土するものが多い。鋤先(516~519)も同一地点ではないものの床面近くから出土している。312の土師器坏は5号カマドから南側へ30cm程の床面付近から出土した。316赤焼坏と328須恵器坏は4号カマドの燃焼部内から出土した。319の赤焼坏は北東壁の中央やや北側に壁に接した状態で出土した。321の赤焼坏は床面中央部北側からその場で潰れた状態で見つかった。322の赤焼坏は南東壁の南側寄りの壁際から、332の土師器甕は1号カマドの煙出し部から自然礫と共に出土している。311・312の土師器坏には外面に墨書で「木」と書かれていた。また316の赤焼坏の外面には線刻が施されているように見える。この他に鉄製品(537)が1点出土している。 <時期> 平安時代。



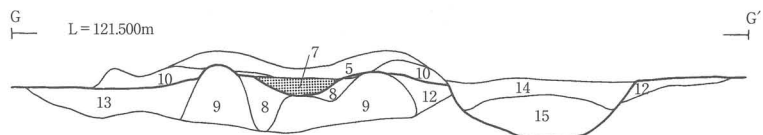
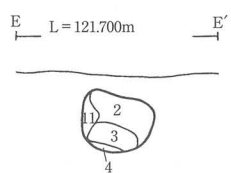
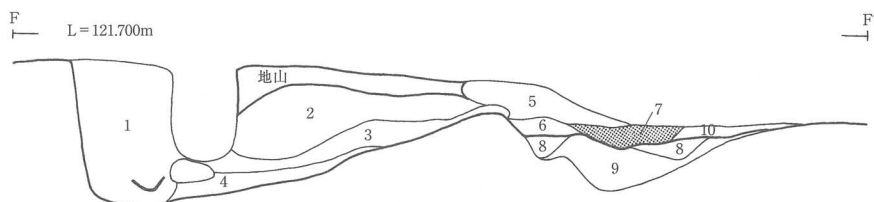
- RA291
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
To-aごく微量含む。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/6黄褐砂質土ブロックごく微量含む。
 - カマドの土 5YR4/6赤褐色土 粘性やや有り。
締まりなし。2.5YR3/4暗赤褐色焼土ごく微量含む。

第81図 RA291住居跡(1)



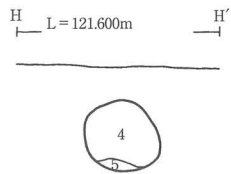
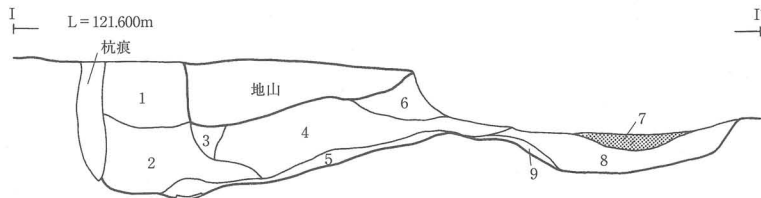
C-C' · D-D'

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。
10YR4/6褐色砂質土ブロックごく微量含む。
地山との境界で2.5YR3/6暗赤褐へ赤変化。 2. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。
10YR4/6褐色砂質土ブロックごく微量含む。
炭化物ごく微量含む。 3. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
2.5YR2/4極暗赤褐色焼土、炭化物ごく微量含む。 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 2.5YR6/6橙焼土 粘性なし。縮まりやや有り。
炭化物片ごく微量含む。 5. 2.5YR3/6暗赤褐焼土 粘性有り。縮まりやや有り。
炭化物片ごく微量含む。 |
|--|--|



E-E' · F-F' · G-G'

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。
2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、炭化物ごく微量含む。 2. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2.5YR3/4暗赤褐焼土ごく微量含む。 3. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まりなし。
炭化物粒、焼土粒ごく微量含む。 4. 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まりなし。
炭化物、焼土粒ごく微量含む。 5. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/6褐色砂質土、焼土粒 (2.5YR4/6)、ごく微量含む。 6. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりなし。
2.5YR3/6暗赤褐焼土、炭化物ごく微量含む。 7. 2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性有り。縮まりやや有り。
黒褐色焼土 (10YR2/2) ごく微量含む。 8. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 10YR3/3暗褐色砂質土 粘性、縮まり有り。
10YR4/6褐色砂質土を含む。 10. 10YR4/6褐色砂質土 粘性、縮まりやや有り。
10YR2/2黒褐色土ごく微量含む。 11. 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2.5YR3/4暗赤褐焼土ごく微量含む。 12. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR5/6黄褐砂質土ごく微量含む。 13. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まり有り。
10YR4/6褐色砂質土ごく微量含む。 14. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まりやや有り。
炭化物片ごく微量含む。 15. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/6褐色砂質土微量含む。 |
|--|--|

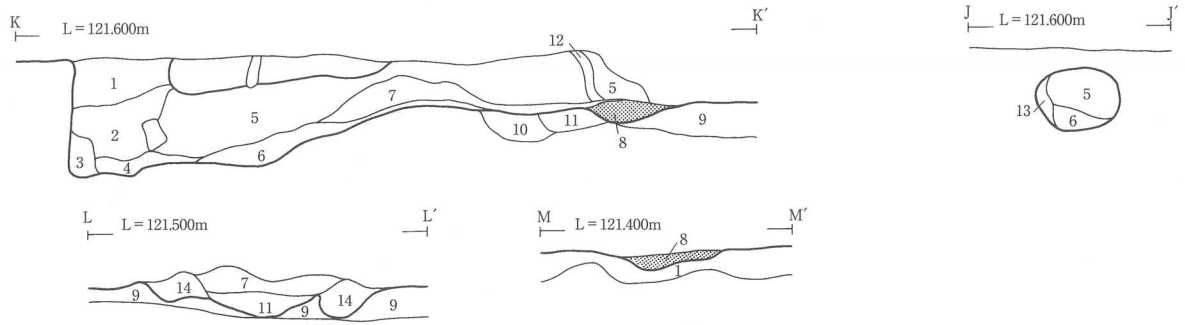


H-H' · I-I'

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。 2. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
2.5YR4/8赤褐色焼土ブロックごく微量含む。 3. 10YR3/2暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
2.5YR3/4暗赤褐焼土ごく微量含む。 4. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりなし。
10YR5/6黄褐砂質土ごく微量含む。 5. 10YR2/2黒褐色砂質土 粘性、縮まりなし。
2.5YR2/3極暗赤褐焼土ごく微量含む。 6. 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR3/3暗褐色土ごく微量含む。 | <ol style="list-style-type: none"> 7. 2.5YR4/8赤褐焼土 粘性やや有り。縮まり有り。
炭化物ごく微量含む。 8. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR5/6黄褐砂質土ブロックごく微量含む。 9. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2.5YR2/3極暗赤褐焼土ごく微量含む。 |
|---|--|

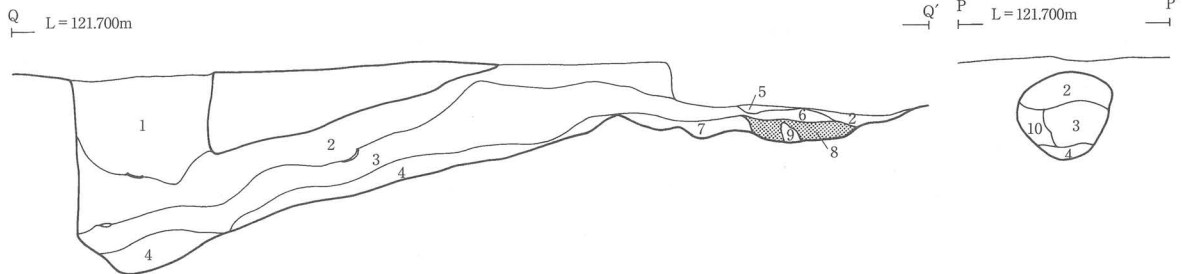
0 1:30 50cm

第82図 RA291 竪穴住居跡(2)



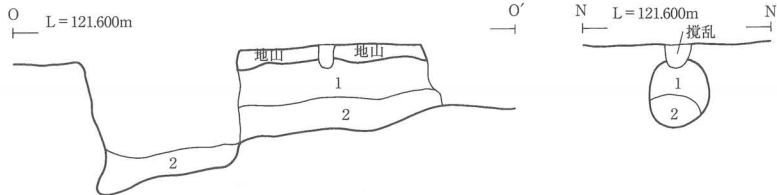
J-J' · K-K' · L-L' · M-M'

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。須恵器片含む。 2. 10YR2/4暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。 3. 10YR2/4暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。 4. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりなし。10YR4/4褐色砂質土、炭化物ごく微量含む。 5. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。10YR4/4褐色砂質土、10YR2/2黒褐色土微量含む。 6. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。焼土粒、炭化物、10YR5/6黄褐色砂質土ごく微量含む。 7. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まり有り。 8. 2.5YR6/4赤褐色焼土 粘性なし。縮まり有り。 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 10YR3/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。10YR6/5黄褐色砂質土微量、炭化物、2.5YR3/2暗赤褐色焼土ごく微量含む。 10. 10YR2/4暗褐色土 粘性有り。縮まり有り。 11. 10YR3/4暗褐色土 粘性、縮まりやや有り。2.5YR3/2暗赤褐色土焼土ごく微量含む。 12. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まりやや有り。 13. 10YR3/3暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。10YR5/6黄褐色土微量含む。 14. 10YR6/5黄褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。2.5YR3/2暗赤褐色焼土微量含む。 |
|---|---|



P-P' · Q-Q'

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/2黒褐色土 焼土粒、炭化物わずかに褐色土粒含む。 2. 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。焼土粒、炭化物含む。 3. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。焼土、炭化物ごく微量含む。 4. 5YR2/2灰褐色土 粘性やや有り、縮まり有り。焼土、炭化物混在する。 5. 10YR3/1黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。炭化物ごく微量、5~10cmの円礫含む。 6. 7.5YR6/6橙褐色土 粘性有り。縮まりなし。7.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、炭化物片ごく微量含む。 | <ol style="list-style-type: none"> 7. 10YR3/3暗褐色土 粘性、縮まり有り。10YR2/2黒褐色土、10YR5/6黄褐色砂質土ごく微量含む。 8. 2.5YR4/8赤褐色焼土 粘性やや有り。縮まり有り。炭化物片ごく微量含む。 9. 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。 10. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。 |
|--|--|



O-O' · N-N'

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。焼土粒、炭化物、褐色土粒ごく微量含む。 2. 10YR2/3黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。焼土、炭化物ごく微量含む。 |
|--|

0 1 : 30 50cm

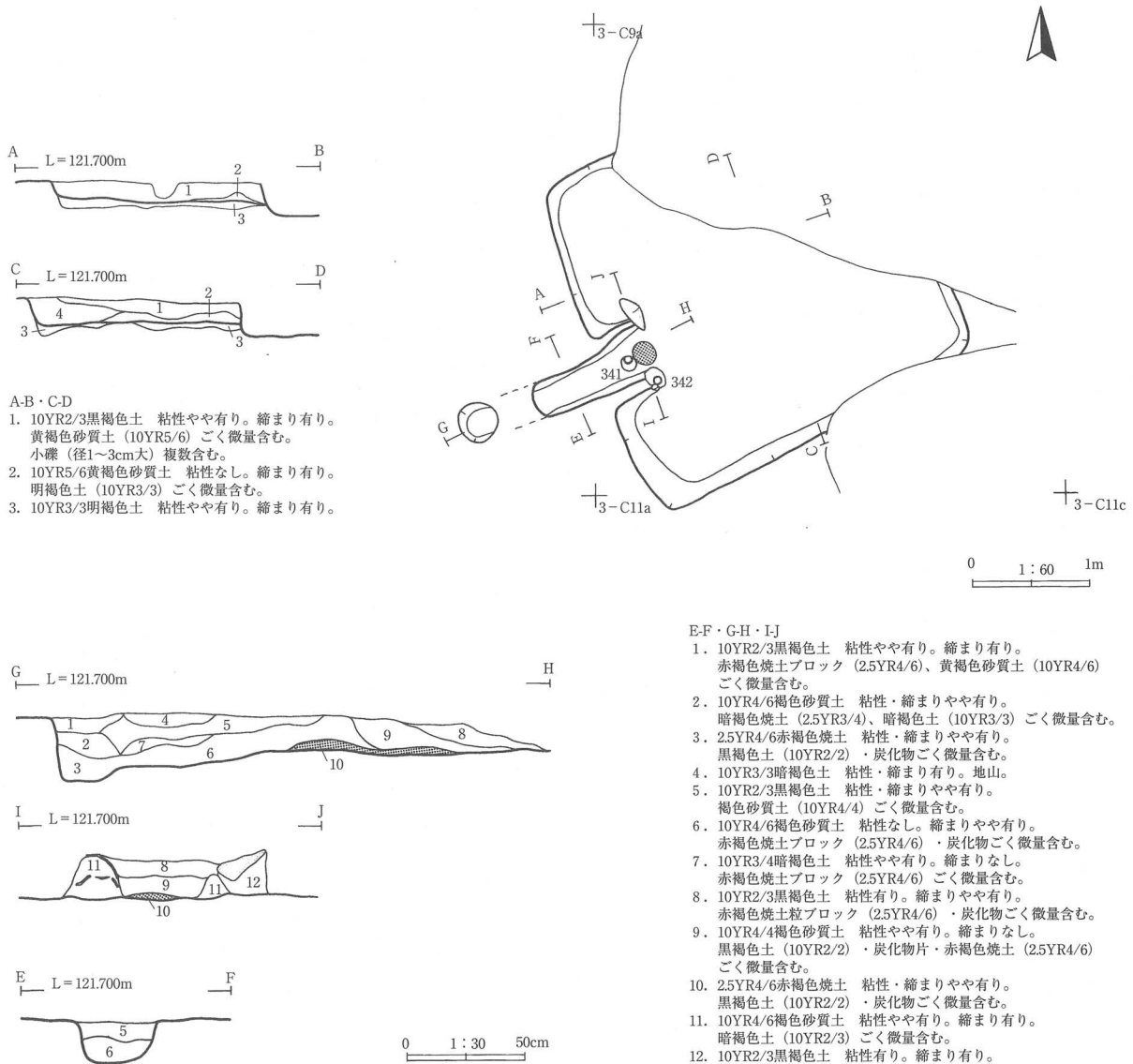
第83図 RA291竪穴住居跡(3)

RA292竪穴住居跡 (第84図・写真図版64)

<位置・重複関係> 調査区西側の3-C10a区に位置する。また、RD646、RA293とそれぞれ重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切り合いから、RD646・RA293より古い。検出はIV層で確認されている。

<規模・平面形・方位> 遺構の北側でRA293と東側でRD646と重複することから、規模や平面形などの全容は不明である。確認できる部分については、規模は3×3mで平面形は隅丸方形を呈し、床面積は約7.3m²ある。主軸方向はN-65°-Wである。 <埋土>主に自然堆積による2層で構成される。1層

は粘性のある締まった黒褐色土で、2 cm程度の礫を含む黄褐色砂質土で暗褐色が混っている。南壁付近に暗褐色の層がみられる。〈壁〉床面からほぼ垂直に立ち上がり、各壁の残存値は7～15cm前後を測る。壁溝なし。〈床〉ほぼ平坦で堅く締まっている。また、住居全体に10 cm程度の貼床がみられる。〈カマド〉西南壁の中央部分に設置されている。一部削平がみられることから、全体の構造は不明である。本体部は30×50cm、袖部は粘性がややある締まった褐色砂質土でつくられ、小礫等の混入が認められる。燃焼部は、径20cm位の楕円形で、層厚3～6 cm、微量の炭化物を含む赤褐色焼土が形成されている。削り貫き式の煙道部の長さは1.8mで、やや下りながら煙出部に続いている。側壁の一部は焼成による赤色変化を生じ、わずかに炭化物を含んでいる。煙出部は径35×30cm（開口部）、深さ30cm程掘り込まれている。〈出土遺物〉（第314図・写真図版307）埋土中及び床面から個体数で土師器坏3点、甕5点、須恵器坏4点、甕1点が出土している。341の土師器甕はカマド本体焼土と煙道の間、土師器長胴甕342は左袖部の先端に底部を上にした状態で出土した。他の土師器は、カマドの近くから破片で出土した。〈時代〉平安時代。



第84図 RA292竪穴住居跡

RA293 竪穴住居跡 (第85・86図・写真図版65)

<位置・重複関係>調査区西側の3-C8b区に位置し、RA292とRD809とそれぞれ重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切り合いから、RA292より新しく、RD809より古い。IV層で検出された。<規模・平面形・方向>遺構の東側が調査区外であることから、正確な規模や平面形などの全容は不明である。確認される部分については、規模は西6.65×南北6.6m、平面形は隅丸方形を呈している。床面積が約40.7㎡で主軸方向は、N-73°-Wである。<埋土>褐色土を主体とし、自然堆積による3層で構成される。下層ほど砂質土との混合割合が多い。<壁>床からなだらかに立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、南側26cm、北側33cm、西側23cm、東側コーナー付近は21mである。<床面>ほぼ平坦で堅く締まっている。基本的に暗褐色であるが、所々に褐色砂質土が混じり合っている。住居全体に10~20cmの貼床がみられる。また、床の中央部に1.5×1.65m、層厚5~8cm、締まりも粘性もややある赤褐色の焼土層がある。位置から廃棄された焼土と考えられる。<カマド>西壁の中央部に設置されており、上部の一部が削平されていることから、天井部の構造は不明である。本体の規模は80×60cmで、袖部は締まりのある灰黄褐色土でつくられ、中に小礫や土師器片が入れられている。燃焼部は60×65cmの楕円形で層厚7mmの暗赤褐色焼土が形成されている。削り貫き式の煙道部は、長さ2m、ほぼ真っ直ぐに煙出部に続いている。煙出部は、径50cm(開口部)、深さ57cm程掘り込まれており、その中に10~15cm大の小礫を含んでいる。<柱穴>住居内から6基検出されている。埋土は、堅く締まった粘性のややある暗褐色で、黒褐色と黄褐色砂質土を各10%含む。このうち、99-104-91、94-103-92は平面形と住居内の配置が似ており、また99-94、104-103、92-91は主になる柱とそれを支える柱とみられ、住居にともなう柱穴と考えられる。

<ピット>カマドの南側から1基検出している。平面形は楕円を呈し、埋土は黒褐色が中心で締まり、粘性ともややある。下層程、黄褐色土を含む。西壁際から土師器片と土師器を出土する。<出土遺物>(第315図・写真図版307・308)埋土中及び床面から個体数で土師器坏3点、甕3点、須恵器4点が出土した。351の土師器甕は床面に伏せた状態で置かれていた。344・345・348の土師器坏は、いずれも南西コーナー付近、RA292との境からほぼ整った形で出土した。他の甕や坏は、カマド周辺やPit1の埋土中や周辺から破片の状態出土している。344・345の土師器坏には墨書で346の赤焼坏には線刻で「木」と書かれている。

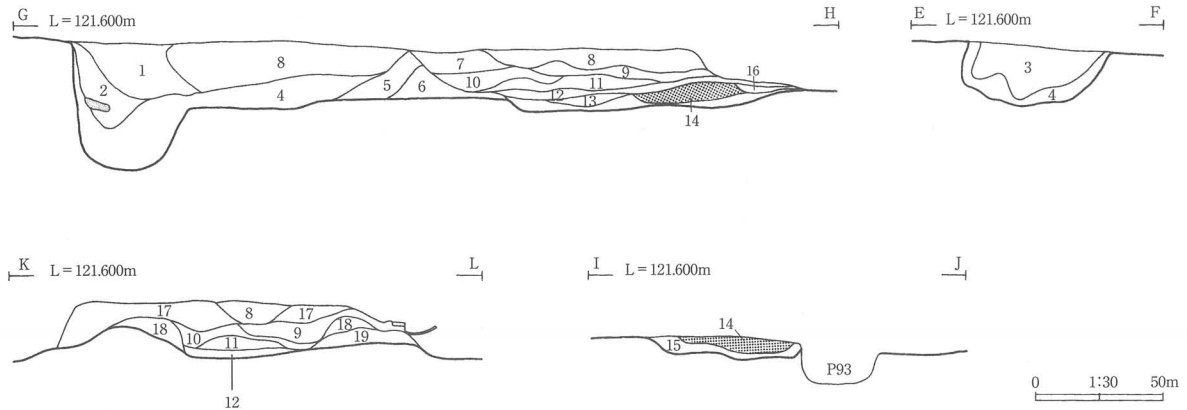
<時期>平安時代。

RA294 竪穴住居跡 (第87・88図・写真図版66)

<位置・重複関係>調査区西側の3-C21d区に位置する。IV層で確認された。<規模・平面形・方向>規模は7.1×6.9m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約44.0㎡ある。主軸方向は、N-80°-Wである。

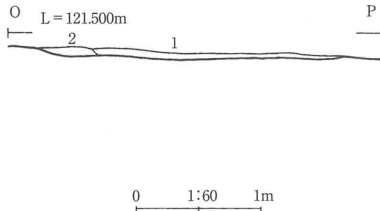
<埋土>締まりはあるが粘性のない黒褐色土を主体とした自然堆積でよいと思われる。<壁>床面から緩やかに立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁12cm、東壁19cm、南壁12cm、西壁16cmを測る。近世建物跡の柱穴が、特に東側の部分で住居の壁と切り合っているため、壁と床、壁と地山の境がはっきりしない部分がある。<床面>貼床が住居全体にみられる。埋土は、暗褐色土と褐色砂質土の混合土である。

<カマド>西壁中央部分に位置し、本体の規模は50×80cmである。袖部は締まりのあるにぶい黄褐色土で造られ、芯材の使用はない。燃焼部には、径45×35cm、層厚3cm、2cm前後の小礫を多く含む極暗赤褐色の焼土が形成されている。煙道部は掘り込み式で長さは1.2m、急勾配で煙出部に続く。煙道の側壁部分は黒褐色土であるが、ブロック状の極暗赤褐色焼土や炭化物を下層に含む。<柱穴>住居内では7基検出される。位置、平面形と埋土の状態から2組に分かれ、住居の施設に関係したものとみられる。<出土遺物>(第315・316図・写真図版308)埋土中及び床面から個体数で土師器坏7点、甕6点、須恵器坏2点、壺1点、



E-F・G-H・I-J・K-L

- | | | |
|--|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR5/4にぶい黄褐色土ブロック、ごく微量含む。 2. 10YR5/4 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。 3. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR5/4にぶい黄褐色土ごく微量含む。 4. 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。 5. 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。 6. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR2/1黒褐色土炭片、2.5YR3/4暗赤褐色土焼土、ごく微量含む。 7. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。 | <ol style="list-style-type: none"> 8. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。
10YR5/4にぶい黄褐色土ブロック、ごく微量含む。 9. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。 10. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
2.5YR3/4暗赤褐色焼土ブロック、ごく微量含む。 11. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
2.5YR3/4暗赤褐色焼土ブロック、ごく微量含む。 12. 2.5YR3/4暗赤褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR3/2黒褐色土ごく微量含む。 13. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
2.5YR3/4暗赤褐色土ごく微量含む。 14. 2.5YR3/4暗赤褐色焼土 粘性なし。縮まりやや有り。 15. 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR2/1黒褐色土ごく微量含む。 | <ol style="list-style-type: none"> 16. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
2.5YR3/4暗赤褐色土、10YR2/1黒褐色土ごく微量含む。 17. 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。 18. 10YR4/2灰黄褐色土 粘性なし、縮まり有り。 19. 10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性なし。
縮まりやや有り。
10YR2/1黒褐色砂質土ごく微量含む。 |
|--|--|---|



O-P

1. 2.5YR4/6赤褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR2/1黒褐色土（炭片）微量、10YR3/2黒褐色土少量、
2.5YR6/6橙色土ごく微量含む。
2. 10YR3/2 粘性、縮まりやや有り。
2.5YR4/6赤褐色土ブロック、10YR2/1黒褐色土ごく微量含む。

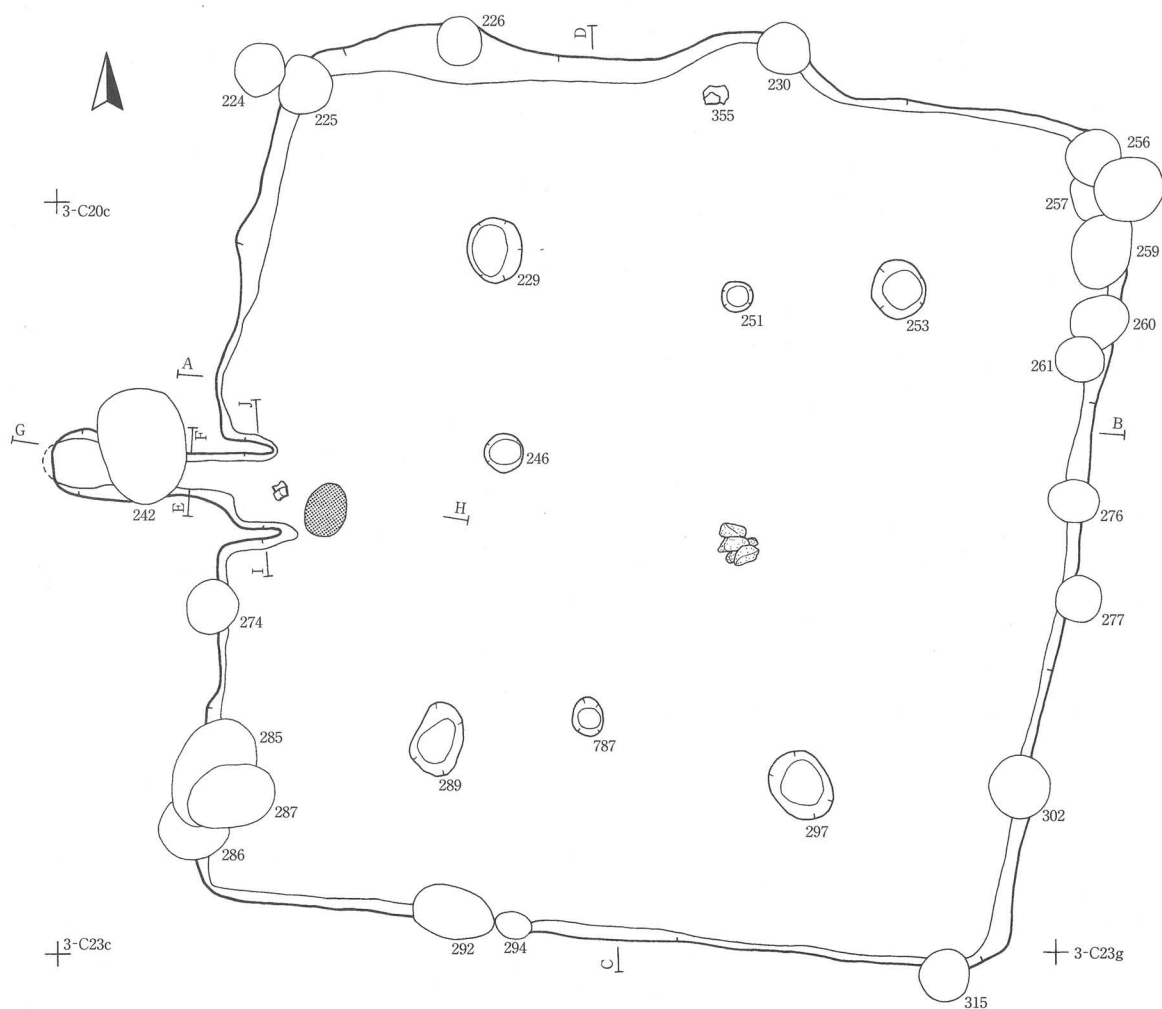
第86図 RA293竪穴住居跡(2)

甕1点が出土した。整った形での出土物はなく、破片で出土している。 <時代>平安時代。

RA295竪穴住居跡（第89図・写真図版67）

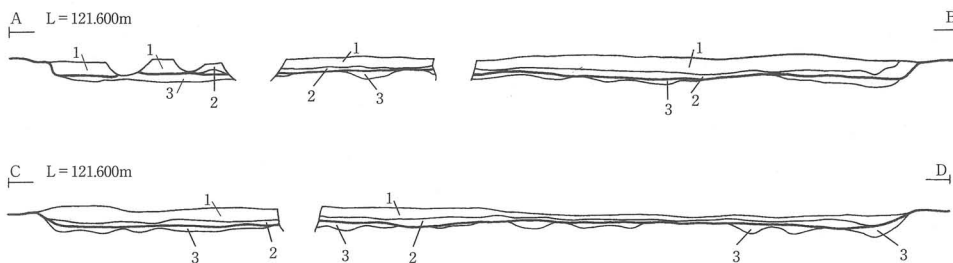
<位置・重複関係>調査区西側3-C24a区に位置する。IV層で確認され、RG255と重複し、本遺構はRG255より古い。 <規模・平面形・方向>規模は5.1×5.2m、平面形は隅丸方形を呈し床面積は約24.4m²である。主軸方向は、N-16°-Eである。 <埋土>黒褐色を主体にした2層で構成される。上層に、流れ込んだ十和田aを少量含む。 <壁>各壁中央部の残存値は、北壁20cm、東壁10cm、南壁10cm、西壁16cmを測る。壁は低いが床からほぼ垂直に立ち上がる。壁溝はない。 <床面>全体に厚さ2~12cmの貼床がみられる。埋土は縮まりがあるが、重複する溝や攪乱の為か、いろいろな土や小礫が多い。 <カマド>新旧2つのカマドが検出されている。

1号カマド（新）北壁東側に位置し、本体の規模は60×60cm、燃焼部は40×45cm、層厚10cmの極暗赤褐色



A-B・C-D

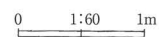
1. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
 2. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
 3. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
- 褐色砂質土 (10YR4/4) ・小礫 (径2~5cm大) 少量含む。



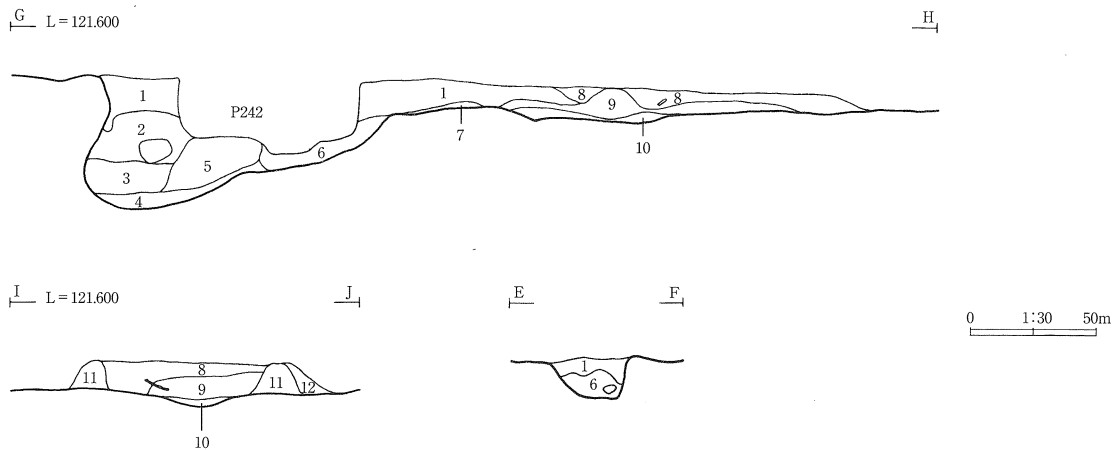
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
224	47×41	17.3	
225	48×44	14.3	
226	40×36	43.5	
229	51×44	28.5	
230	44×42	18.9	
242	96×68	35.7	
246	34×32	22.6	
251	27×26	22.1	
253	49×35	22.4	
256	46	17.4	

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
257			
258	58×53	39.7	
259	64×47	21.6	
260	49×41	24.1	
261	39×37	12.5	
274	45×42	33.6	
276	42×35	19.6	
277	49×38	29.5	
285	88×58	33.3	
286	55	15.6	

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
287	78×50	46.8	
289	56×42	39.5	
292	69×40	26.2	
294	29×21	14.2	
297	45		
302	51×50	15.3	
315	42×41	20.4	
787	32×25		



第87図 RA294竪穴住居跡(1)



E-F・G-H・I-J

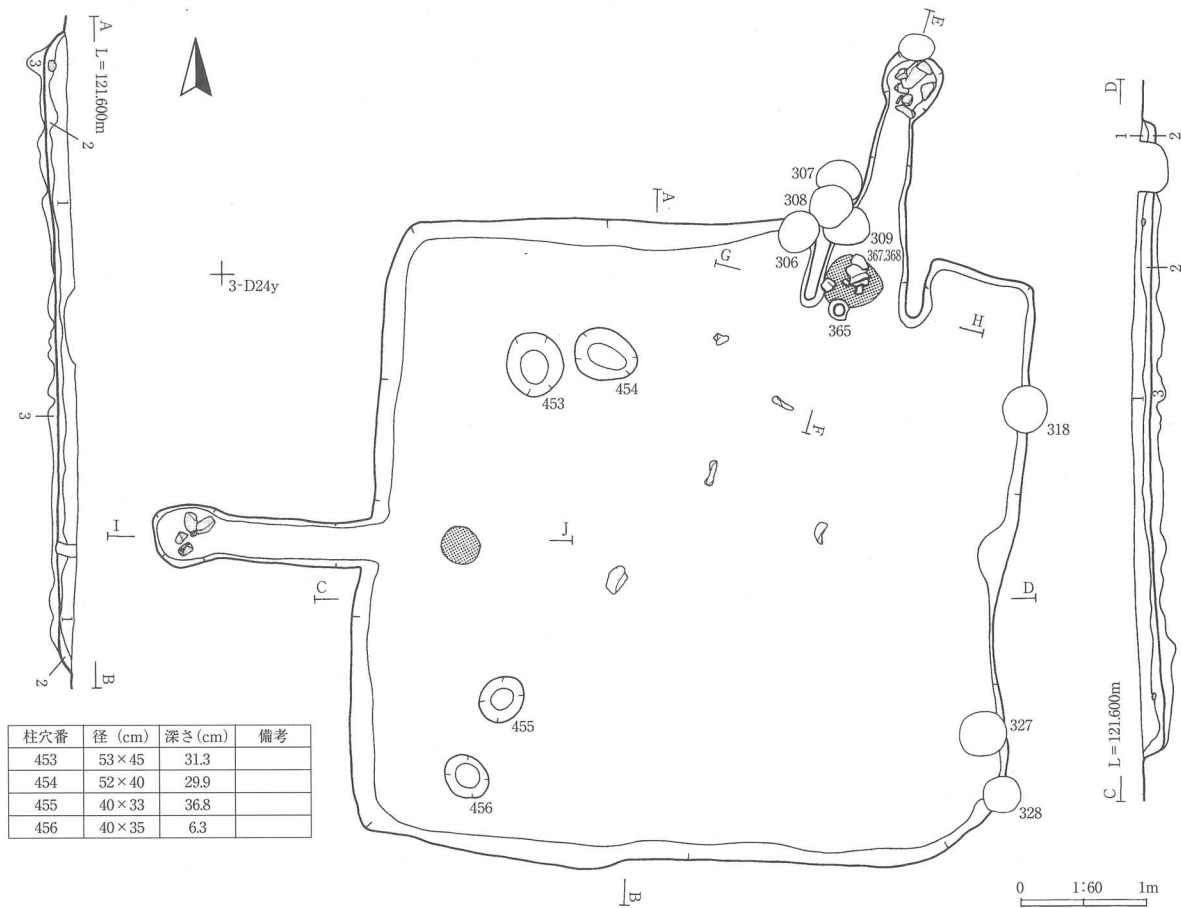
1. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
赤褐色土 (5YR4/6) ごく微量含む。
2. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
5YR4/6赤褐色土、2.5YR4/4にぶい赤褐色土ごく微量含む。
3. 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
4. 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土、焼土、炭、ごく微量含む。
6. 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土、2.5YR5/8明赤褐色焼土ブロック、
炭化物ごく微量含む。
7. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
8. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2.5YR3/4暗赤褐色土ごく微量含む。
9. 10YR3/3暗褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土、2.5YR5/8明赤褐色焼土ブロックごく微量含む。
10. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
11. 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR4/4褐色砂質土ごく微量含む。
12. 10YR2/3黒褐色土 10YR4/6褐色土との混合土。
粘性やや有り。縮まり有り。

第88図 RA294竪穴住居跡(2)

焼土が構成され、焼土付近には土師器や土師器片が散らばる。袖部は、柱穴に切られ完全ではないが、縮まりのある黒褐色土と褐色土の混合土からなる。煙道部は長さ1.2m、刳り貫き式で煙出部に続く。煙道下層は熱により赤変し、焼土や炭化物を含む。煙出部は径45cm、深さ45cm、埋土中層に石や土師器片が入っている。2号カマド(古)西壁中央に位置し、方向はN-87°-Wを測る。R G 255の下から検出されたため、袖部や本体部がはっきりしない。焼土は、西壁から50cmのところ、直径30cm層厚5cm、暗赤褐色土で残っている。煙道部の形は不明、長さは1.4m、緩やかに下りながら煙出部に続く。上層部から焼土や炭片が検出されることから、かなり溝により削平されていると考えられる。煙出部は直径30cm、深さ30cm、新しいカマド同様に石や土器片が入り込んでいる。

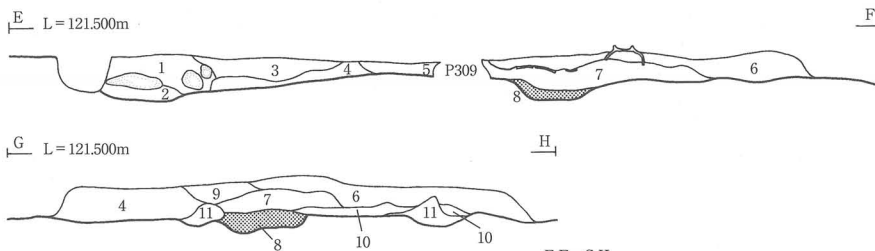
<柱穴> 4基検出された。平面形、埋土の様子や位置から見て、住居に関係したものと考えられる。

<出土遺物> (第316・317・335図・写真図版308・321) 埋土中及び床面から個体数で土師器坏9点、高台坏6点、甕8点、須恵器坏3点、甕2点、鉄製品(538)1点が出土している。367・368の土師器甕は北側のカマド本体燃焼部中央に大きな破片で、365の土師器高台付坏は伏せた状態で北側カマド燃焼部南側から出土している。他の遺物は埋土からの出土が多い。365の土師器高台付坏の外面には「木」と線刻されていた。 <時代> 平安時代。



A-B・C-D

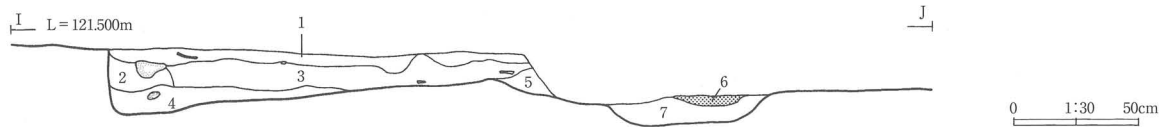
1. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。 2. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。 3. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
 10YR褐色砂質土ブロックを微量含む。 10YR5/6黄褐砂質土微量含む。 10YR5/6黄褐色砂質土微量含む。



E-F・G-H

RA326 煙道 RG302 2号カマド I-J

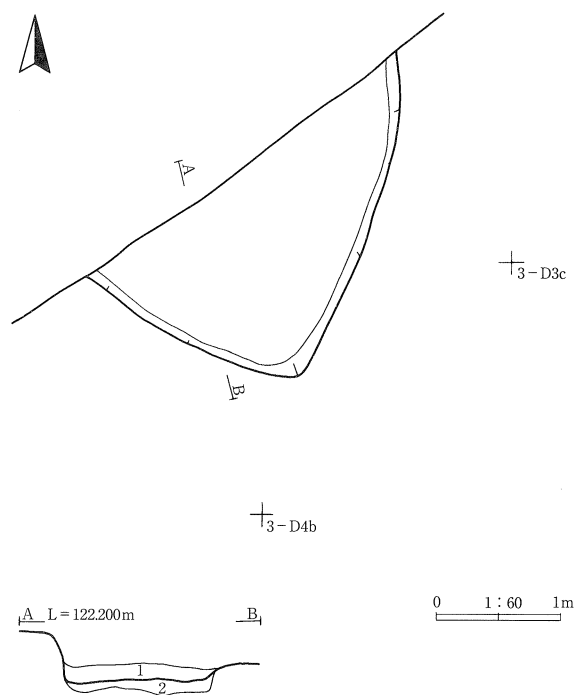
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。2.5YR4/6赤褐色焼土、10YR3/1黒褐色土、ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。2.5YR4/6赤褐色焼土ブロック、10YR3/1黒褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/2粘性、縮まりやや有り。10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR3/6暗赤褐焼土 粘性やや有り。縮まり有り。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。6層の境で2.5YR2/3極暗赤褐色土、赤変化。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。赤褐色土・にぶい赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色砂質土・焼土・炭ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。10YR3/2縮まりやや有り。褐色砂質土・明赤褐色焼土ブロック (2.5YR5/8) ・炭化物ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。明赤褐色土ごく微量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
- 褐色砂質土・明赤褐色焼土ブロック (2.5YR5/8) ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。褐色砂質土ごく微量含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。褐色砂質土との混合物。



第89図 RA295竈穴住居跡

RA296 竪穴住居跡 (第90図・写真図版68)

<位置・重複関係>調査区西側の3-D2a区に位置し、IV層で確認された。重複関係は、遺構の全容が明確にならない為、不明である。 <規模・平面形・方向>南側部分以外は調査区外であることから、平面形の全容は不明である。確認される規模は、西南壁側1.85m、東南壁側2.75mである。西南のコーナーは隅丸を呈している。主軸方向は不明。 <埋土>自然堆積による黒褐色砂質土を中心にした2層で構成される。 <壁>検出された部分については、床から緩やかに立ち上がる。各壁中央部の残存値は西南壁12cm、東南壁10cmである。 <床面>縮まりがあり平坦である。検出された部分については、6~12cmの厚さで貼床がみられる。 <出土遺物>流れ込みか、縄文土器の破片が1片あった。 <時代>平安時代。

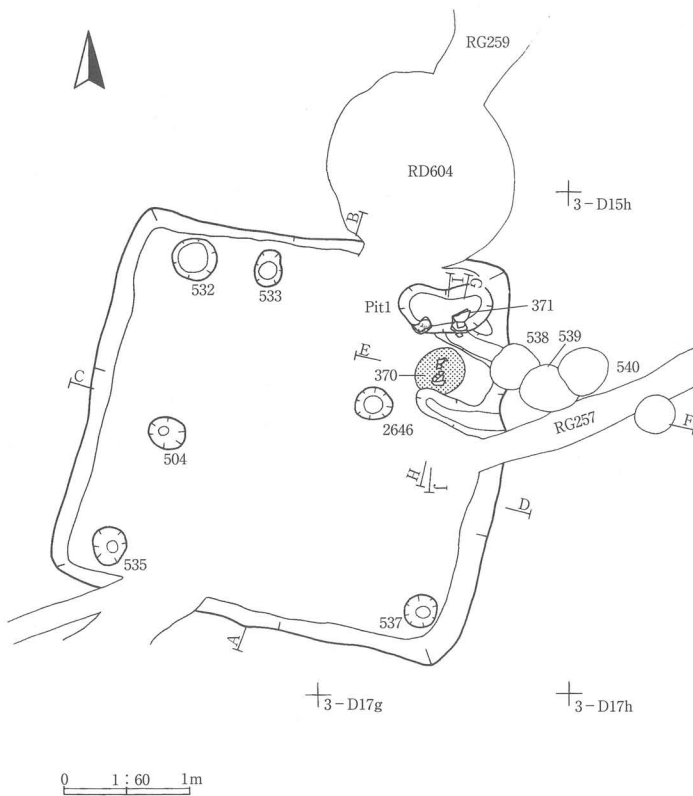


- A-B
 1. 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性なし。縮まりあり。
 2. 10YR3/2黒褐色砂質土 粘性なし。縮まりあり。
 褐色土 (10YR4/4) 極微量含む。

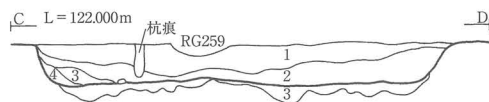
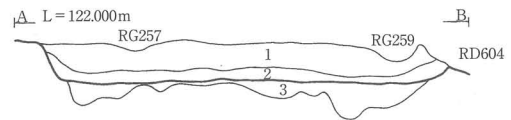
第90図 RA296竪穴住居跡

RA297 竪穴住居跡 (第91図・写真図版69)

<位置・重複関係>調査区西側3-D15g区に位置し、IV層で確認された。溝2本、土坑1基と重複する。本遺構の重複関係は、遺構の切合から、RG257、RG259、RD604よりも古い。 <平面形・規模・方向>規模は3.3×3.17m、方形プランを呈し床面積は約8.76㎡で主軸方向は、S-70°-Eである。北壁の一部がRD604と重複し不明である。 <埋土>黒褐色土を主体にした自然堆積による2層で構成される。 <壁>床面からほぼ垂直に立ち上がる。各壁中央部の残存値は、北壁16cm、東壁32cm、南壁30cm、西壁29cmと北壁以外は残りがよい。 <床面>縮まりがややある黒褐色土で覆われているが、一部褐色土が混じる部分もある。貼床は住居全体にみられ、深さ1~26cm、壁際ほど深い。土師器片は、カマド燃焼部と袖部外側にみられる。 <カマド>東壁北寄りに位置する。煙道部が溝との重複のためはっきりしない。本体の規模は44×61cmで、袖部は粘性も縮まりもある黒褐色土で造られている。土師器片や小礫はみられるが、芯材に使用したものではないようである。燃焼部は径38×40cmの楕円形状の広がり厚さ約6cmの焼土が形成されている。削り貫き式の煙道部は、長さ1.1mでやや下り勾配で煙出部に続く。下層の一部には微量の炭片と焼土が含まれる。煙出部は30×38cm(開口部)、深さ70cm程掘り込まれ、底には直径10cmの石が2個投げ込まれている。 <柱穴>6基検出されている。埋土はいずれも黒褐色土で砂質である。カマド付近の柱穴からは炭片が検出されている。規模はほぼ同じ、位置的にみても住居に関する柱穴と考えられる。 <ピット>カマド袖部脇に1基検出された。埋土は縮まりのややある黒褐色土だが、下層に赤褐色焼土ブロックや炭片を含む。本住居跡に関係したピットと考えられる。 <出土遺物>(第317図・写真図版308)埋土中及び床面から個体数で土師器坏5点、甕2点、須恵器坏2点、甕1点が出土した。370の赤焼坏はカマド付近から出土し、赤焼坏371はカマドの左袖部分と1号土坑の埋土中から出土した。 <時代>平安時代。

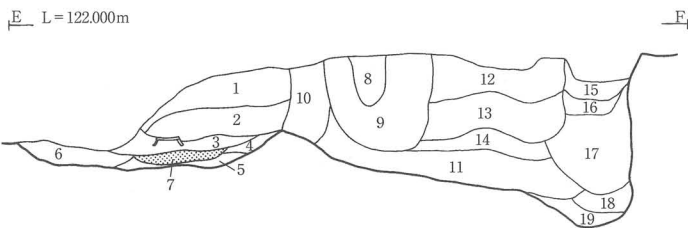


柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
532	35×34	10.8	
533	32×19	14.9	
534	31×25	19.6	
535	30×25	18.9	
537	28×26	14.7	
538	41×36	16.0	
539	39	47.3	
540	39×37	30.4	
2646	30×26	12.2	

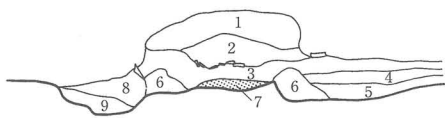


A-B・C-D

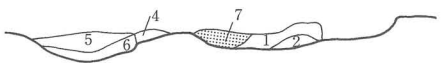
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR4/6褐色土を、ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
10YR4/6褐色土を、ごく微量含む。
- 10YR6/6明褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR3/2黒褐色土を、少量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り、縮まり有り。
10YR4/6褐色土を少量含む。



G H (L=122.000m)



I J (L=122.000m)



0 1:30 50cm

E-F・G-H・I-J

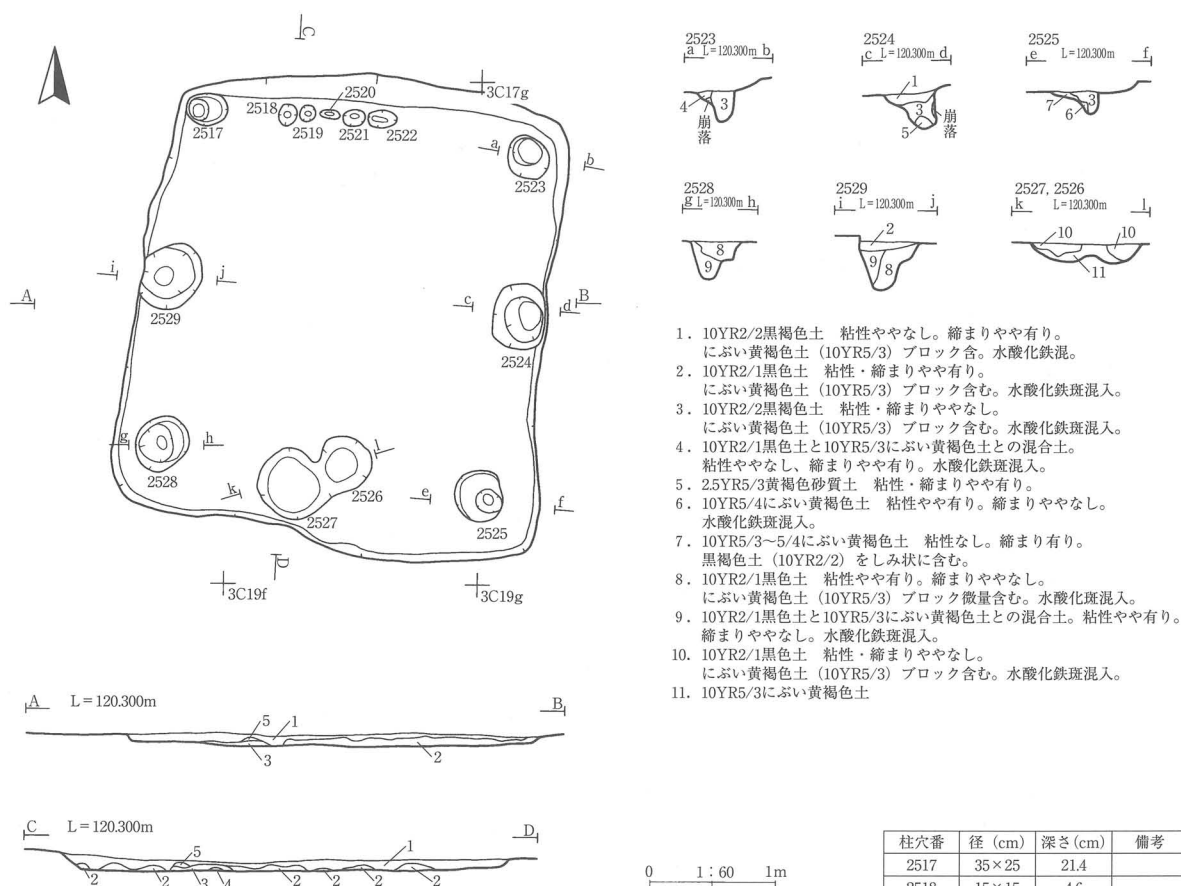
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。10YR6/6明褐色土、ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。10YR6/6明褐色土、焼土ブロック、ごく微量含む。
- 10YR4/4褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR4/6褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。
- 10YR4/4褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。10YR3/3暗褐色土、ごく微量含む。
- 10YR3/4暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。
10YR4/4褐色砂質土、10YR2/2黒褐色土、2.5YR4/6赤褐色焼土、ごく微量含む。
- 2.5YR3/4暗褐色焼土 粘性なし。縮まり有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。柱穴あたり部分。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。柱穴まわり部分。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
10YR5/6黄褐色砂質土ブロック、ごく微量含む。
- 10YR2/3黄褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10YR5/6黄褐色土 微量、赤褐色焼土、炭片をごく微量含む。
- 10YR4/2灰褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。10YR5/6黄褐色土、ごく微量含む。
- 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。10YR3/2黒褐色土、ごく微量含む。
- 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。10YR3/2黒褐色土、ごく微量含む。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR5/6黄褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR3/2黒褐色土 粘性、縮まりやや有り。
- 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
- 10YR5/6黄褐色砂質土 粘性、縮まりやや有り。2.5YR4/6赤褐色焼土、ごく微量含む。

第91図 RA297竪穴住居跡

2 中世の竪穴建物跡

RA 2 2 4 竪穴建物跡 (第92図・写真図版70)

＜位置＞東側調査区東側 3 C グリッドに位置している。検出はIV層上面で、方形状の黒色土の広がりによって確認されている。遺構の大部分は削平を受けており、床面近くが僅かに残存するのみである。＜平面形・規模＞平面形は多少歪みのある隅丸方形を呈し、規模は3.84×3.42mである。＜埋土＞大きく3層に分けられ、全体に水酸化鉄の混入が確認される。1層は黒色土で炭と灰黄褐色土ブロックを含有し、やや締まっている。2層はにぶい黄褐色土で黒色土ブロックを含有し、やや締まっている。3層は暗オリーブ灰色粘土とにぶい黄褐色砂質土との混合土である。4層は暗オリーブ灰色粘土の層で、ブロックで堆積している。＜壁・床＞壁は削平を受けている事から全体的に低く、床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁6cm、西壁6cm、南壁6cm、北壁12cm前後である。床は一部で凹凸が見られるが、概ね平坦である。中央部付近は堅く締まっている。＜柱穴＞壁際に平面形が円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が11基検出している。P2517、2523、2524、2525、2528、2529は主柱穴と思われ、四隅と東西中央に1基ずつ確認されている。



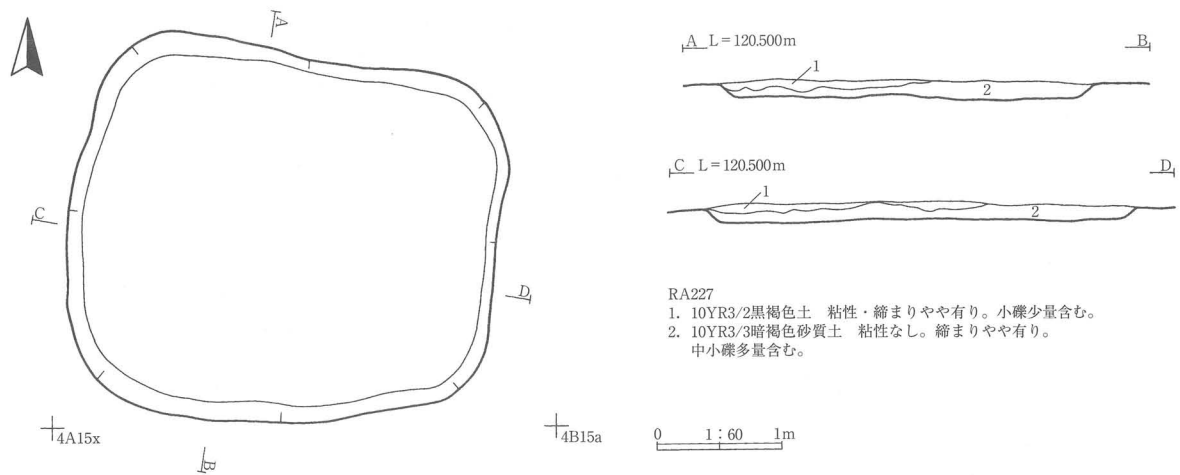
1. 10YR2/2黒褐色土 粘性ややなし。締まりやや有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック含。水酸化鉄混入。
2. 10YR2/1黒色土 粘性・締まりやや有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック含む。水酸化鉄混入。
3. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりややなし。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック含む。水酸化鉄混入。
4. 10YR2/1黒色土と10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土。粘性ややなし、締まりやや有り。水酸化鉄混入。
5. 2.5YR5/3黄褐色砂質土 粘性・締まりやや有り。
6. 10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。水酸化鉄混入。
7. 10YR5/3～5/4にぶい黄褐色土 粘性なし。締まり有り。黒褐色土 (10YR2/2) をしみ状に含む。
8. 10YR2/1黒色土 粘性やや有り。締まりややなし。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック微量含む。水酸化鉄混入。
9. 10YR2/1黒色土と10YR5/3にぶい黄褐色土との混合土。粘性やや有り。締まりややなし。水酸化鉄混入。
10. 10YR2/1黒色土 粘性・締まりややなし。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック含む。水酸化鉄混入。
11. 10YR5/3にぶい黄褐色土

RA224

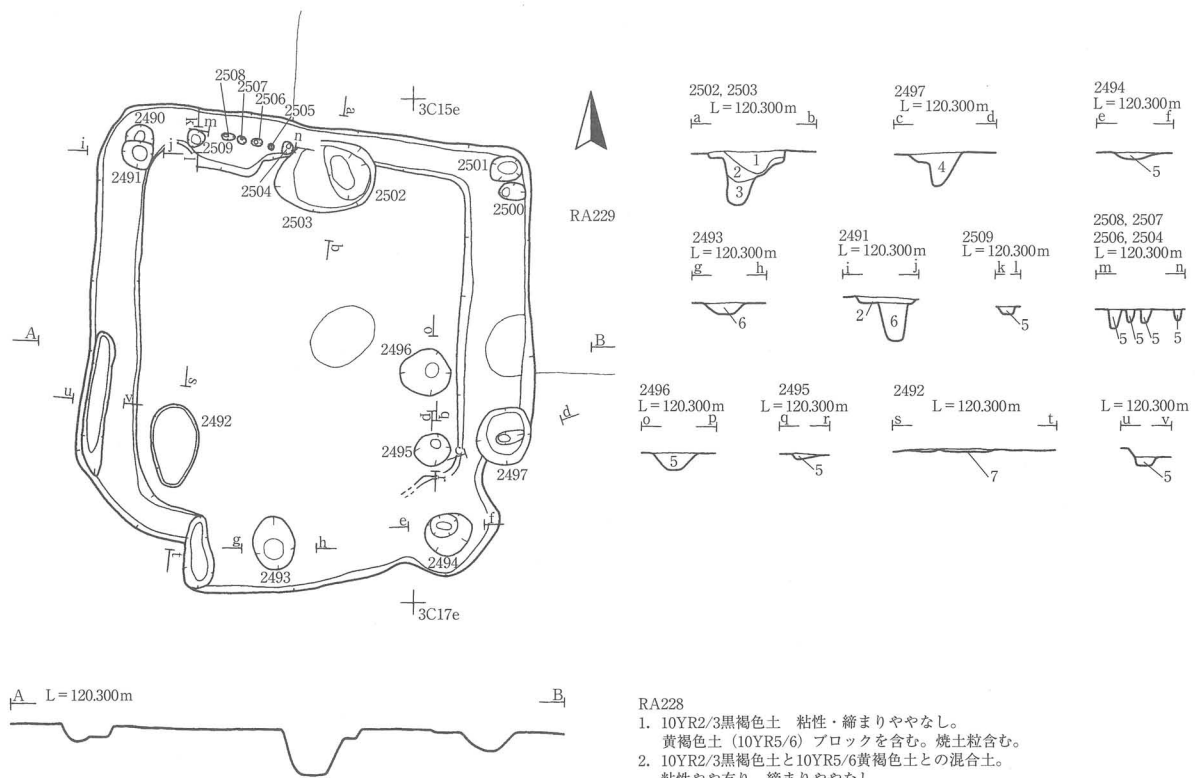
1. 7.5YR2/1黒色土 粘性・締まりやや有り。灰黄褐色 (10YR6/2) ブロックを微量含む。炭を含む。水酸化鉄混入。
2. 10YR5/3にぶい黄褐色土 粘性・締まりやや有り。黒色土 (7.5YR2/1) ブロック含む。水酸化鉄混入。
3. 2.5GY3/1暗オリーブ灰色粘土と10YR5/3にぶい黄褐色砂質土との混合土。
4. 2.5GY3/1暗オリーブ灰色粘土の層。
5. 水酸化鉄 ブロックで散在。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2517	35×25	21.4	
2518	15×15	4.6	
2519	14×13	1.7	
2520	6×16	2.8	
2521	17×17	3.7	
2522	14×23	13.9	
2523	45×31	21.1	
2524	55×42	50.8	
2525	65×45	29.9	
2526	40×46	21	
2527	60×57	16	
2528	46×41	33.7	
2529	63×56	49.1	

第92図 RA224竪穴建物跡



第93図 RA227竪穴建物跡



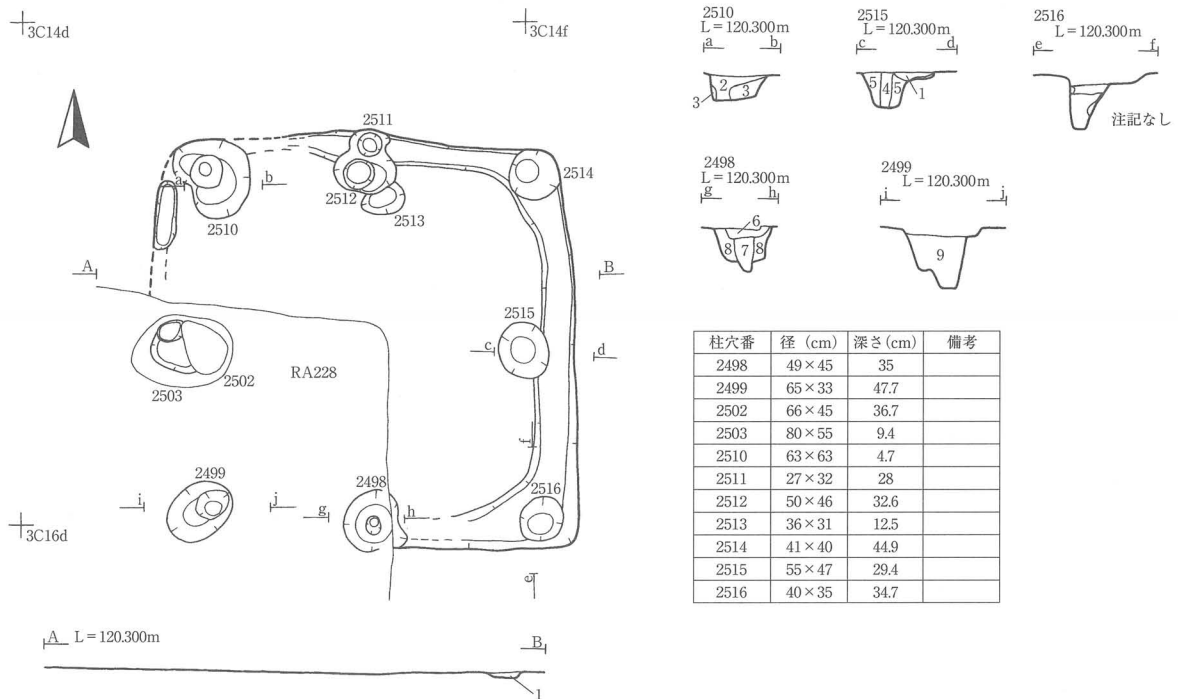
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2490	20×22	9	
2491	25×24	28.7	
2492	71×40	3.6	
2493	58×25	8.9	
2494	36×33	5.4	
2495	30×25	14.2	
2496	41×37	13.2	
2497	47×43	26.3	
2500	20×14	22.3	
2501	25×20	9.7	
2502	66×45	36.7	
2503	80×55	9.4	
2504	10×8	9	
2505	5×7	3.1	
2506	6×9	10.6	
2507	8×6	10.6	
2508	5×12	14.6	
2509	12×14	6	

第94図 RA228竪穴建物跡

る。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は東側では黒褐色土、西側では黒色土主体で構成され、あまり締まっていない。北壁際には径約13~23cmの小ピットが5基確認されている。〈土坑〉P2526、2527の1基で、平面形は8字状を呈す。規模は開口部93×58m・深さ21cmである。〈遺物・時期〉遺物は出土していないが、形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA227 竪穴建物跡 (第93図・写真図版71)

〈位置〉東側調査区南側の4Aグリッドに位置している。検出面V層上面で、黒褐色土の広がりによって確認されている。遺構は削平を受けており、床面近くの壁が僅かに残存するのみである。〈平面形・規模〉平面形はやや歪みのある隅丸長方形を呈し、規模は3.43×3.01mである。〈埋土〉2層で構成され、全体に小礫を含む。1層は黒褐色土、2層は暗褐色砂質土で2層ともやや締まっている。〈壁・床〉壁は水田耕作等による削平を受けているため低く、床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁14cm、西壁10cm、南壁12cm、北壁12cm前後である。床は一部で凹凸が見られるほかは、ほぼ平坦である。〈柱穴・土坑・他の施設〉検出されない。〈遺物・時期〉遺物は出土しなかった。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



RA229

- 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 1. 10YR2/2黒褐色土 粘性・締まりやや有り。炭を微量含む。水酸化鉄斑混。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりややなし。
 2. 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりややなし。
 褐色砂質土 (10YR4/6) ブロック含む。焼土粒微量含む。
- 10YR4/6褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。
 3. 10YR4/6褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。
 黒褐色土 (10YR2/3) ブロック含む。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。
 4. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。
 褐色砂質土 (10YR4/6) ブロック微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まりややなし。
 5. 10YR4/6褐色砂質土 粘性やや有り。締まりややなし。
 黒褐色土 (10YR2/3) ブロック含む。炭を微量含む。
- 10YR2/2黒褐色土と10YR4/6褐色土との混合土 粘性ややあり。
 6. 10YR2/2黒褐色土と10YR4/6褐色土との混合土 粘性ややあり。
 かたく締まっている。7. 10YR3/4暗褐色土 粘性やや有り。
 締まりややなし。褐色土 (10YR6/4) ブロック含む。
- 10YR3/3暗褐色土と10YR5/3に黄褐色土との混合土 粘性有り。
 8. 10YR3/3暗褐色土と10YR5/3に黄褐色土との混合土 粘性有り。
 締まりやや有り。水酸化鉄斑混入。
- 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。
 9. 10YR2/3黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。
 黄褐色土 (10YR5/6) ブロックを含む。

0 1:60 1m

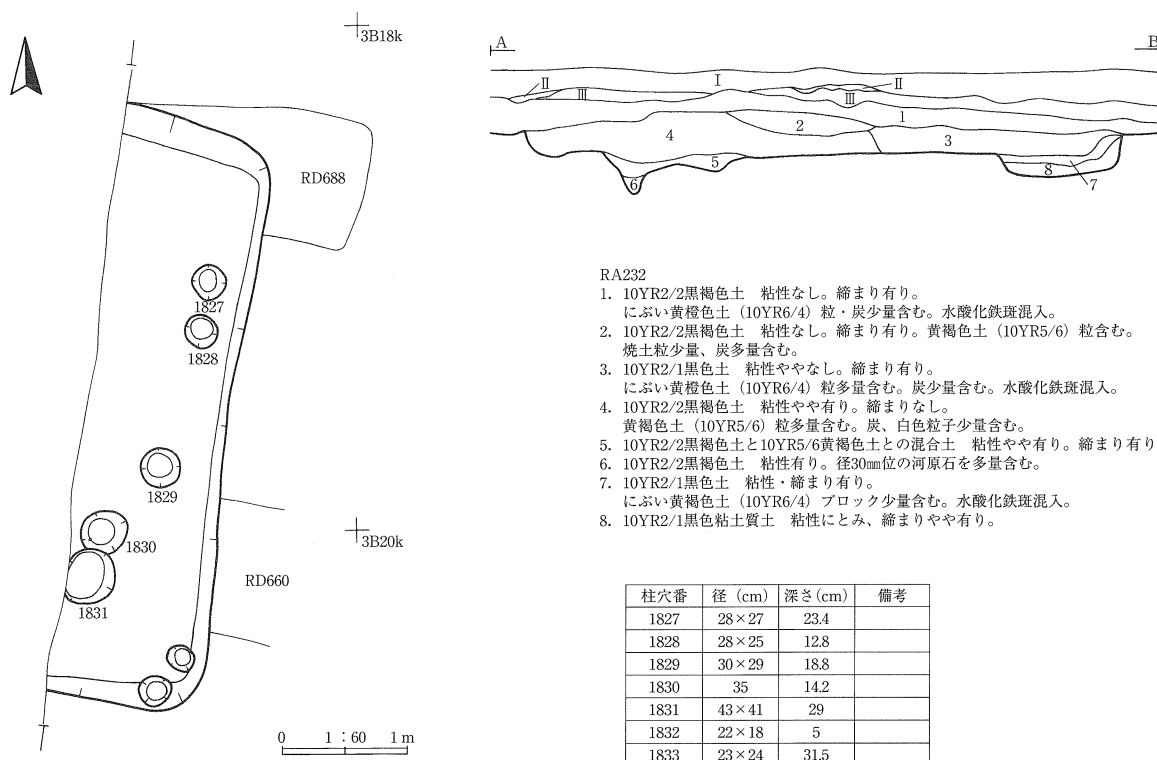
第95図 RA229竪穴建物跡

RA228 竪穴建物跡 (第94図・写真図版72)

<位置・重複関係>東側調査区東側3Cグリッドに位置している。RA229竪穴建物跡と重複しており、当遺構が切っている事から、新旧関係は、(新) RA228竪穴建物跡→(旧) RA229竪穴建物跡である。検出面はIV層上面である。遺構は水田耕作等による削平を受けており、周溝(状の落ち込み)と柱穴が確認できただけである。<平面形・規模>平面形は南側に張り出し部を有し、隅丸形状を呈すると思われる。残存部分の規模は3.81×3.58mである。<埋土>削平のため不明である。<壁・床>壁は削平を受け残存していない。周溝の内側はほぼ平坦で、中央部付近は強く締まっている。<柱穴>壁際を中心に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が16基検出している。規模は径最小5~最大82cm、深さは3~37cmである。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土~暗褐色土主体で構成される。<その他の施設>2492は黒褐色土に廃棄されたと思われる焼土と炭が多量に確認された箇所である。掘り込みは非常に浅く、最大でも3cm程である。<遺物・時期>遺物は出土していないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA229 竪穴建物跡 (第95図・写真図版72)

<位置・重複関係>東側調査区東側3Cグリッドに位置している。RA228竪穴建物跡と重複しており、当遺構が切られている事から、新旧関係は(新) RA228竪穴建物跡→(旧) RA229竪穴建物跡である。検出面はIV層上面である。遺構は水田耕作等による削平を受けており、周溝(状の落ち込み)と柱穴が確認できただけである。<平面形・規模>確認できる平面形は方形を呈し、規模は3.46×3.27mである。<埋土>削平のため不明である。<壁・床>壁は削平を受け残存しない。床面と思われる周溝の内側は概ね平坦で、目立った凹凸は確認されていない。<柱穴>壁際に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が11基検

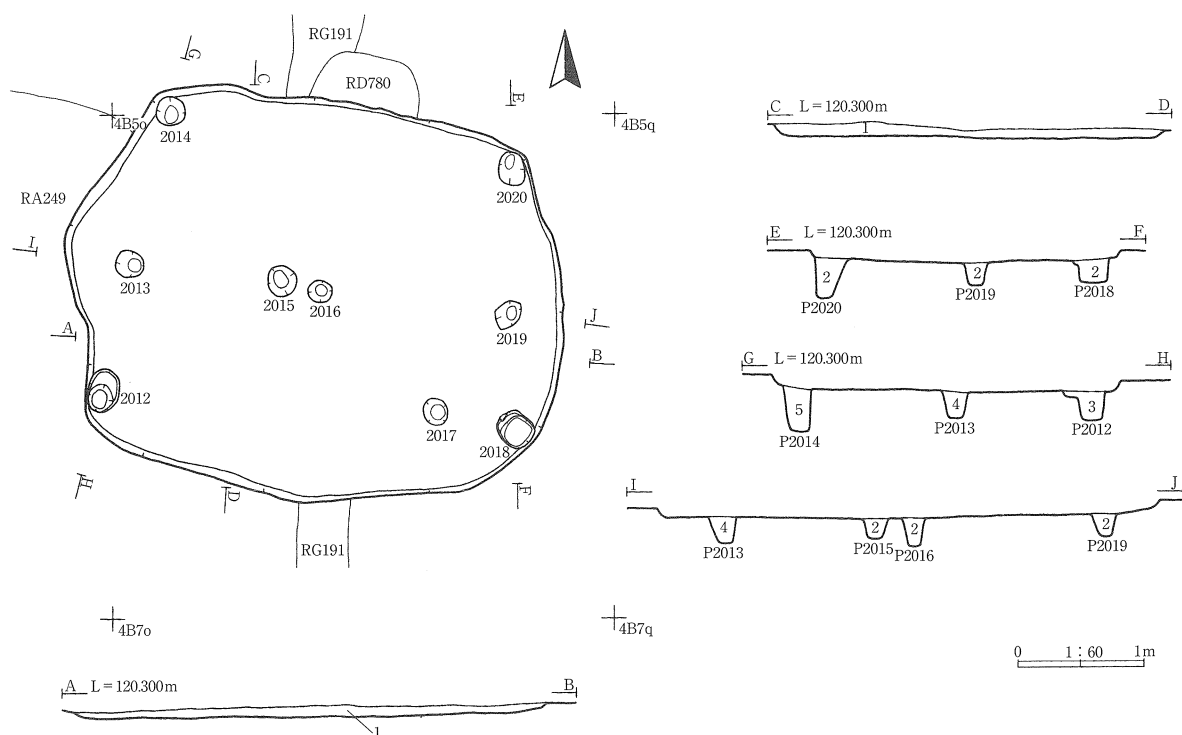


第96図 RA232竪穴建物跡

出している。P2510～2516、2498、2499、2503、2502は主柱穴と思われ、四隅と壁側中央に1基ずつ確認されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土～暗褐色土主体で構成される。〈遺物・時期〉出土遺物はない。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA232 竪穴建物跡（第96図・写真図版73）

〈位置・重複関係〉東側調査区中央の3Bグリッドに位置している。RD660土坑・RD668土坑と重複しており、当遺構が切っている事から、新旧関係は（新）RA232竪穴建物跡→（旧）RD660土坑・RD668土坑である。検出面はIV層上面で、長形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。西側は調査区外に広がっている。〈平面形・規模〉当遺構の西半分以上が調査区外に広がるため、平面形・規模等の全容が不明である。確認された規模は東壁側4.32m、南壁側1.12m、北壁側1.19mであり、コーナーは隅丸である。平面形は確認された部分から隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈すと思われる。〈埋土〉黒褐色土と黒色土で構成され、6層に分層される。上層は黒褐色土主体でにぶい黄橙色土粒・黄褐色土粒や炭を含む。中～下層の北側は黒色土主体でにぶい黄橙色土粒や炭を含む。南側は黒褐色土主体で黄褐色土粒や炭を含む。〈壁・床〉西壁は調査区外のため不明であるが、他の壁は床面から緩やかに立ち上がっている。壁高は東壁



- RA241
- 10YR2/3黒褐色土 粘性ややなし。締まりやや有り。
褐色土 (10YR4/4) ブロック少量含む。炭・焼土粒少量含む。
 - 10YR2/2黒褐色土 粘性ややなし。締まりなし。炭微量含む。
 - 10YR3/1黒褐色土 炭微量含む。
 - 10YR3/1黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりなし。炭微量含む。

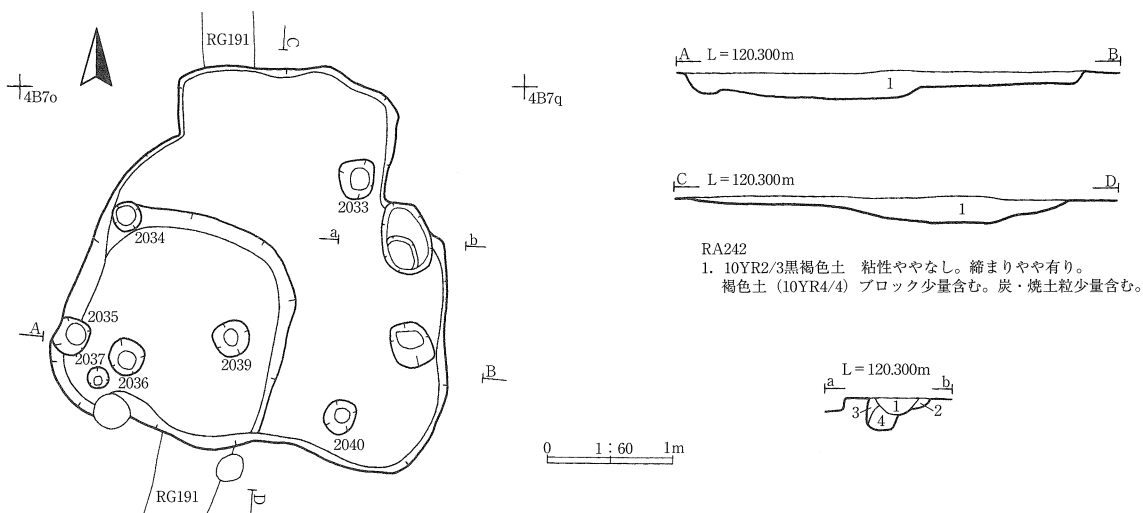
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2012	17×19	30.4	
2013	25×20	21.2	
2014	24×22	45	
2015	25×22	16.3	
2016	20×16	23.9	
2017	20×20	10.8	
2018	30×26	18.8	
2019	25×18	17.4	
2020	26×20	37.5	

第97図 RA241竪穴建物跡

15cm、南壁21cm、北壁17cm前後である。床面は北側ではほぼ平坦であるが、南側は多少の凹凸が見られる。
 <柱穴>壁際を中心に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が7基検出されている。P 1831は位置的に支柱穴と思われる。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土で構成される。 <遺物・時期>遺物は出土しなかったが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA241 竪穴建物跡 (第97図・写真図版74)

<位置・重複関係>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RA249竪穴建物跡・RD780土坑・RG191溝跡と重複しており、これらの遺構を当遺構が切っている事から、新旧関係は(新)RA241竪穴建物跡→(旧)RA249竪穴建物跡・RD780土坑・RG191溝跡である。検出面はIV層上面で、長形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。 <平面形・規模>平面形は東西側がやや張り出す隅丸長方形を呈し、規模は4.04×3.19mである。 <埋土>黒褐色土の単層で構成され、褐色土ブロックや炭・焼土粒を含む。 <壁・床>壁は水田耕作等による削平を受けているため低く、床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁4cm、西壁4cm、南壁7cm、北壁10cm前後である。床は概ね平坦で、目立った凹凸は見られない。 <柱穴>壁際と中央に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が9基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土で構成される。 <遺物・時期>遺物は出土しなかった。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



RA242
 1. 10YR2/3黒褐色土 粘性ややなし。締まりやや有り。
 褐色土(10YR4/4) ブロック少量含む。炭・焼土粒少量含む。

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。焼土粒多量含む。炭・骨片(微小)微量含む。
 2. 10YR2/3黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。褐色土ブロック少量含む。焼土粒極微量含む。
 3. 10YR2/2-2/3黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。焼土粒微量含む。
 4. 10YR2/2黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック少量含む。焼土粒少量含む。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2033	43×31	21.7	
2034	24×21	18.6	
2035	30×30	18	
2036	29×30	13.4	
2037	18×17	18.7	
2039	30×29	12.5	
2040	27×25	34	

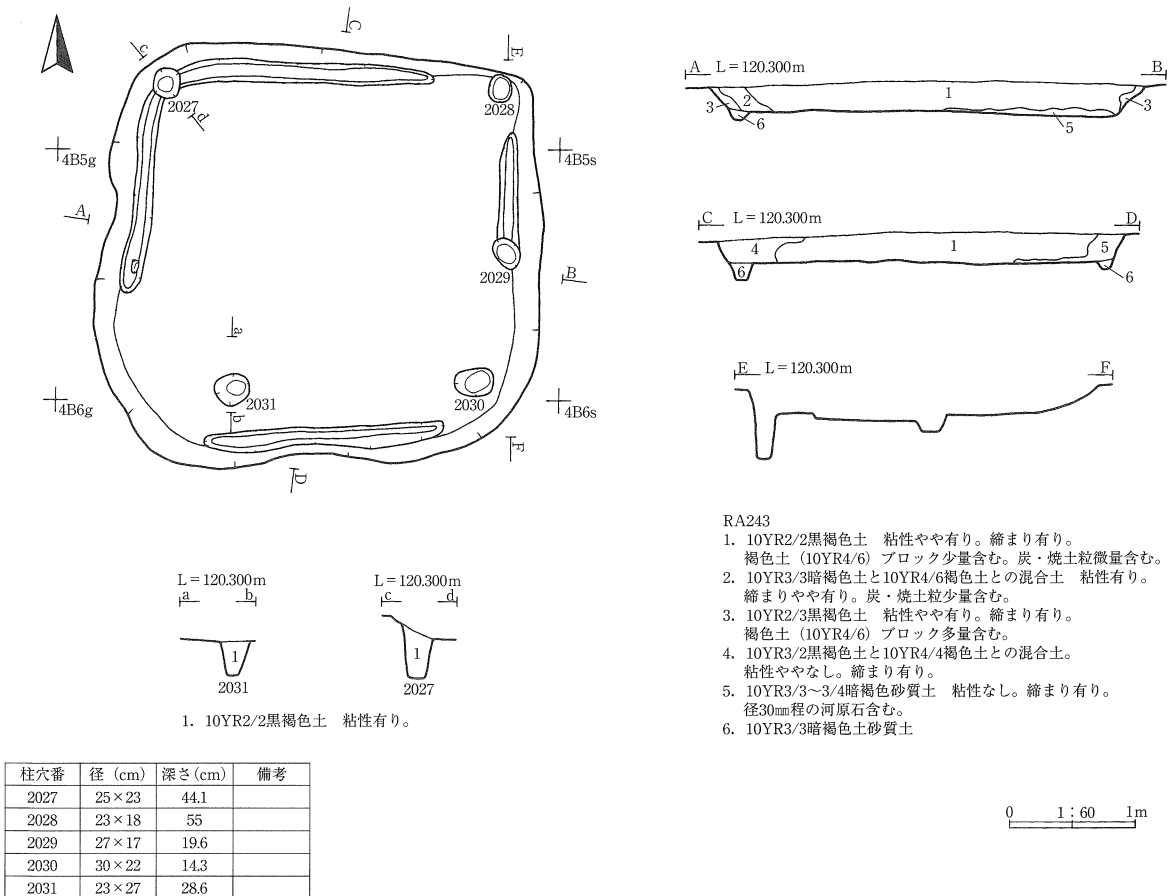
第98図 RA242竪穴建物跡

RA 2 4 2 竪穴建物跡 (第98図・写真図版75)

<位置・重複関係>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RG191溝跡と重複しており、当遺構が切っている事から、新旧関係は(新)RA242竪穴建物跡→(旧)RG191溝跡である。検出面はIV層上面で、方形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は北側が張り出し部を有し、隅丸長形状を呈すと思われる。規模は3.13×3.11mである。<埋土>黒褐色土の単層で構成され、褐色土ブロックや炭・焼土粒を含む。<壁・床>北壁では水田耕作等による削平の影響を著しく受け、床面からなだらかに立ち上がっている。東・西・南壁は床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は東壁9cm、西壁10cm、南壁6cm、北壁3cm前後である。床面は南西隅が一段低くなっており、一段低い部分の中央がややくぼむ。上の段は概ね平坦である。<柱穴>円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が9基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成される。<遺物・時期>遺物はないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA 2 4 3 竪穴建物跡 (第99図・写真図版75)

<位置>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。検出面はIV層上面で、方形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は歪みのある隅丸形状を呈し、規模は3.54×3.21mである。<埋土>黒褐色土主体で構成され、5層に分層される。埋土の大半を1層の黒褐色土が占め、2～4層は壁際に確認される。5層は南東床上から南壁際にかけて見られる。<壁・床>東西壁は底面から直線的に外傾しながら立ち上がり、南北壁は底面からやや急角度で立ち上がる。壁の残りは他の竪穴建物跡と比

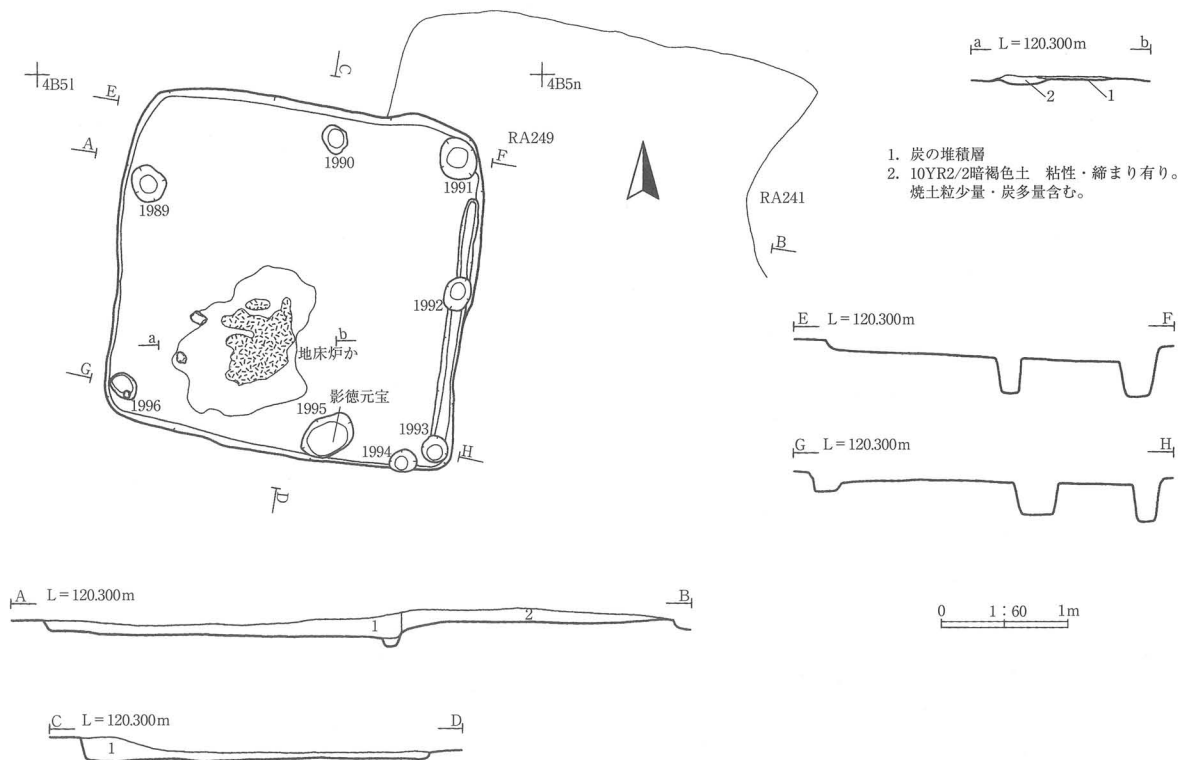


第99図 RA243竪穴建物跡

べると比較的良好であり、東壁25cm、西壁18cm、南壁20cm、北壁18cm前後である。〈柱穴〉円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が5基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成される。〈周溝〉北東隅・南西隅と東側南半分を除く箇所に幅16cm前後、深さ7~13cm前後で確認されている。埋土は暗褐色砂質土主体で構成されている。〈遺物・時期〉遺物は出土しなかったが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA248 竪穴建物跡 (第100図・写真図版77)

〈位置・重複関係〉東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RA249竪穴建物跡と重複しており、当遺構が切っている事から、新旧関係は(新)RA248竪穴建物跡→(旧)RA249竪穴建物跡である。検出面はIV層上面で、方形の黒褐色土の広がりによって確認されている。〈平面形・規模〉平面形は北東隅がやや丸くなるが方形を呈し、規模は2.86×2.79mである。〈埋土〉黒褐色土の単層で構成され、褐色土や炭・焼土粒を含む。〈壁・床〉壁は床面から急傾斜で立ち上がっている。床面はわずかであるが北側に凹凸が認められる。壁高は東壁19cm、西壁9cm、南壁6cm、北壁17cm前後である。〈柱穴〉壁際に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が8基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土で構成される。〈周溝〉東壁側に長さ約19.3cm、幅10~13cm、深さ約7cmで確認されている。埋土は暗褐色砂質土主体で構成されている。〈その他の施設〉南西側に約78×65cmの範囲にわたって、不整形に炭の堆積層が確認されている。その周りには焼土粒や炭を含む暗褐色土層が確認されている。炭の量に比べて、焼土が発達していないことから僅かの間、断続的に炉のような機能を果たしていたものと



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考	柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1989	30×27	25.2		1993	20×20	34.7	
1990	24×20	25.8		1994	24×18	33.9	
1991	35×30	30.3		1995	46×32	25.4	
1992	29×20	29.9		1996	23×16	10.3	

RA248

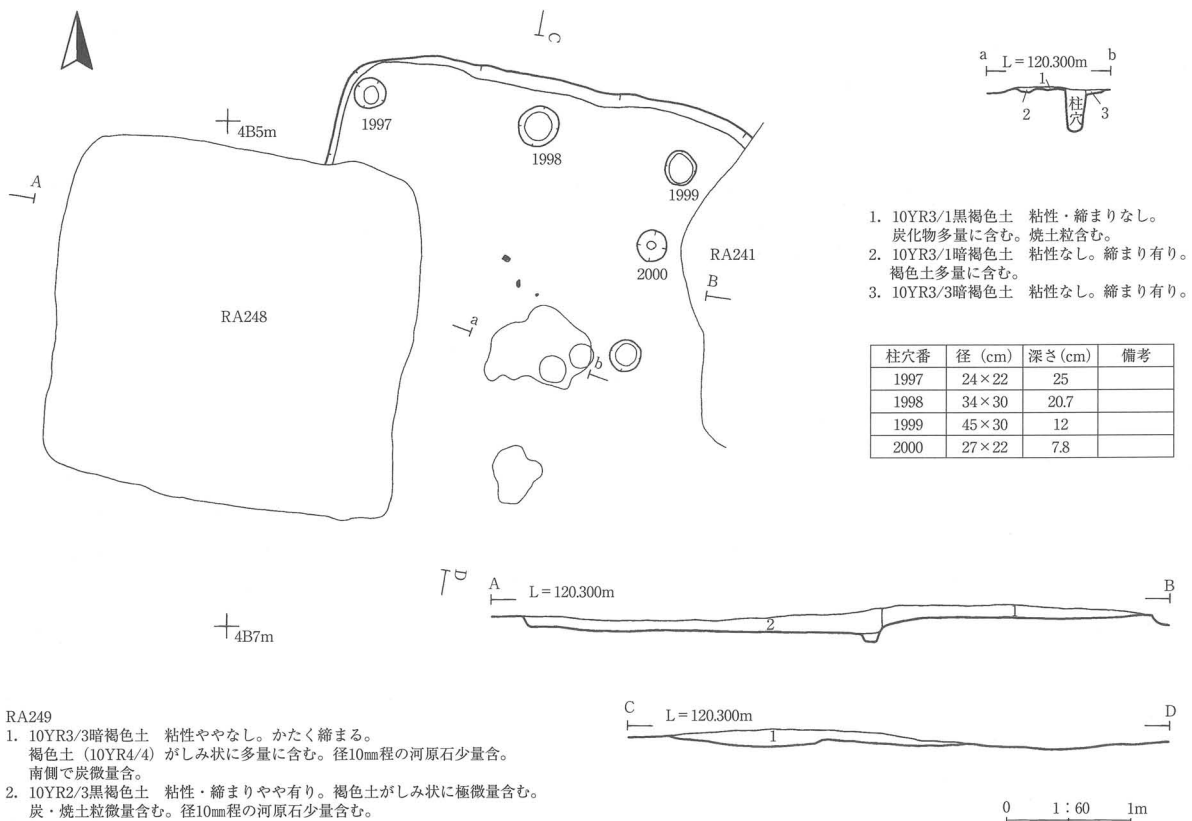
- 10YR2/3黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土がしみ状に極微量含む。炭・焼土粒微量含む。径10mm程の河原石少量含む。
- 10YR3/3暗褐色土 粘性ややなし。かたく締まる。褐色土(10YR4/4)がしみ状に多量に含む。径10mm程の河原石少量含む。南側では炭微量含む。

第100図 RA248竪穴建物跡

思われる。〈遺物・時期〉遺物は柱穴P1995から銭貨(581)が出土しており、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA249 竪穴建物跡 (第101図・写真図版78)

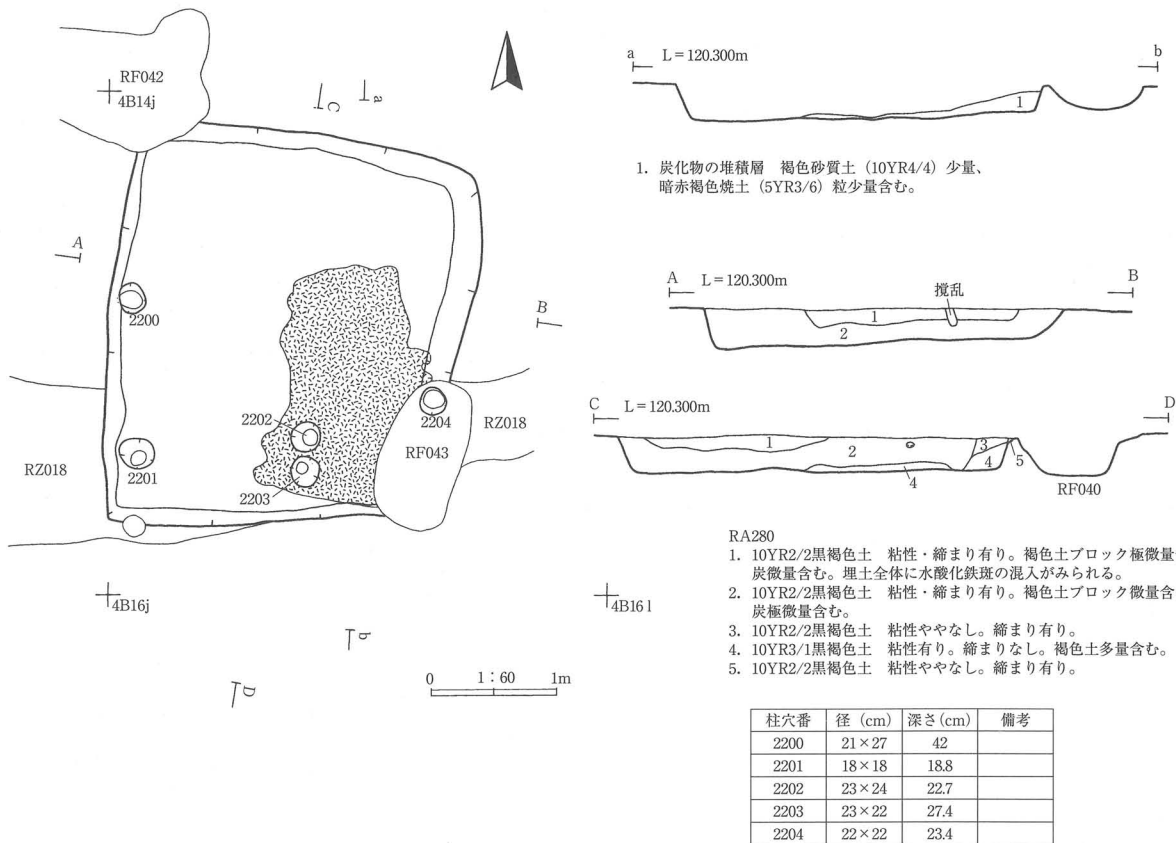
〈位置・重複関係〉東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RA241竪穴建物跡・RA248竪穴建物跡と重複しており、当遺構が切られている事から、新旧関係は(新)RA241竪穴建物跡・RA248竪穴建物跡→(旧)RA249竪穴建物跡である。検出面はIV層上面で、まだら状の暗褐色土の広がりによって確認されている。〈平面形・規模〉当遺構は他の遺構と重複していることと水田耕作等による削平を受けていることにより平面形・規模等の全容が不明である。確認された規模は西壁側で0.83m、北壁側で3.13mであり、コーナーは隅丸である。平面形は確認された部分から隅丸長方形もしくは隅丸方形状を呈すと思われる。〈埋土〉暗褐色土の単層で構成され、褐色土がしみ状に混入する。南側では炭の混入が見られる。〈壁・床〉西壁の一部と北壁以外は削平のため確認できない。確認できる部分は西壁3cm、北壁5cm前後で、床面から緩やかに立ち上がっている。床は北側がややくぼむ。〈柱穴〉円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が5基検出されている。P1997～P1999は主柱穴と思われ、北壁際に確認されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土～暗褐色土で構成される。〈土坑〉検出されない。〈その他の施設〉遺構の中央部と思われる部分に約80×60cmの範囲にわたって、不整形に炭を多量に含む黒褐色土層が確認されている。焼土の発達は見られないことから非常に短い間、断続的に炉のような機能を果たしていたものと思われる。〈遺物・時期〉遺物はないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



第101図 RA249竪穴建物跡

RA280 竪穴建物跡 (第102図・写真図版79)

<位置・重複関係>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RF043炉跡・RZ018円形周溝と重複しており、当遺構がRF043炉跡に切られ、RZ018円形周溝を切っていることから、新旧関係は(新)RF043炉跡→RA280竪穴建物跡→(旧)RZ018円形周溝である。検出面はIV層上面で、方形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。 <平面形・規模>平面形は南西端がやや突出するが方形状を呈し、規模は3.21×2.86mである。 <埋土>黒褐色土主体で構成され、4層に分層される。埋土の大半を1・2層の黒褐色土が占め、3・4層は南壁際に確認される。黒褐色土層中には褐色土ブロックや炭が含まれる。 <壁・床>東壁は底面からやや緩やかに外傾しながら立ち上がり、西壁・南壁・北壁は底面からやや急角度で立ち上がる。壁の残りは比較的良好で、東壁22cm、西壁31cm、南壁25cm、北壁27cm前後である。床は一部で凹凸が見られるが、概ね平坦である。 <柱穴>円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が5基検出されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成される。 <土坑>検出されない。 <その他の施設>南東側に約190×120cmの範囲にわたって、不整形に炭化物の堆積層が確認されている。中央から南東壁に向かって堆積の層厚が厚くなっている。焼土粒も確認されている。 <遺物・時期>遺物は出土しなかった。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



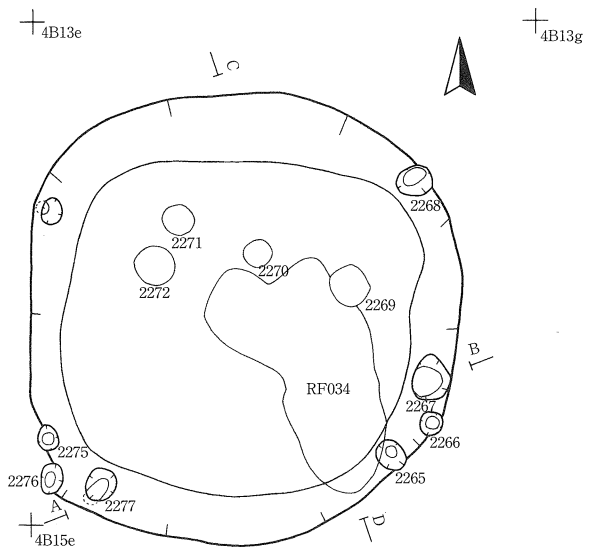
第102図 RA280竪穴建物跡

RA298 竪穴建物跡（第103図・写真図版81）

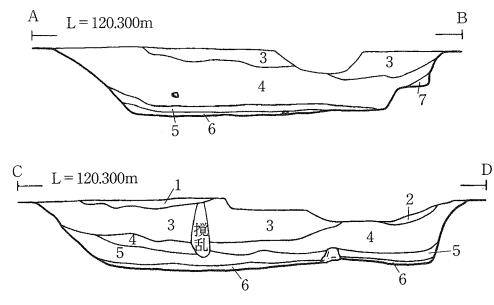
<位置>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RF034炉跡が当遺構埋没後に構築されている。検出面はⅣ層上面で、円形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は円形と隅丸張胴形の中間的な形で、規模は3.60×3.40mである。<埋土>黒褐色粘土質土主体で構成され、7層に分層される。埋土の大半が3・4層の黒褐色粘土質土が占め、5・6層は床面近くに堆積している。5層はグライ化した粘土で、6層は水酸化鉄を多量に含む砂層である。<壁・床>壁は床面から緩やかに外反しながら立ち上がっている。壁の残りは非常に良好で、壁高は東壁48cm、西壁50cm、南壁51cm北壁49cmである。床面は南東側でやや凹凸が認められるが、概ね平坦である。<柱穴>壁際に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が8基検出されている。P2268とP2277は住居の外に向かって斜めに掘り込まれている。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成されている。柱痕は確認されていない。<土坑・その他の施設>検出されない。<遺物・時期>遺物はないが、時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。

RA299 竪穴建物跡（第104図）

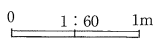
<位置>東側調査区南側4Bグリッドに位置している。RD781土坑・RD797土坑と重複しており、当遺構が切られている事から、新旧関係は（新）RD781土坑・RD797土坑→（旧）RA299竪穴建物跡である。検出面はⅣ層上面で、方形状の黒褐色土の広がりによって確認されている。<平面形・規模>平面形は北壁中央がやや突出するが、方形状を呈す。規模は3.27×3.10mである。<埋土>黒褐色土の単層で構成され、灰黄褐色土を含む。<壁・床>壁は水田耕作等による削平を受けているため、東壁7cm、西壁8cm、南壁8cm、北壁6cm前後が確認されるのみである。残存する部分で判断すると床面から緩やかに立ち上がると思われる。床面は概ね平坦である。<柱穴>壁際を中心に円形もしくは楕円形の柱穴状土坑が11基確認されている。柱痕は確認されていない。掘り方の埋土は黒褐色土主体で構成されている。<土坑・その他の施設>検出されない。<遺物・時期>遺物は出土していない。時期は形態や類例などから中世に属すると思われる。



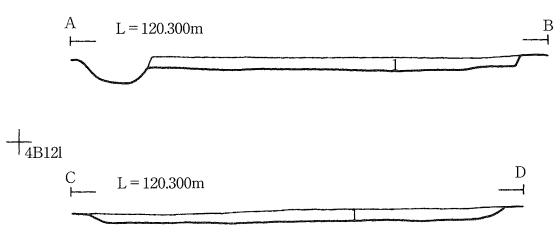
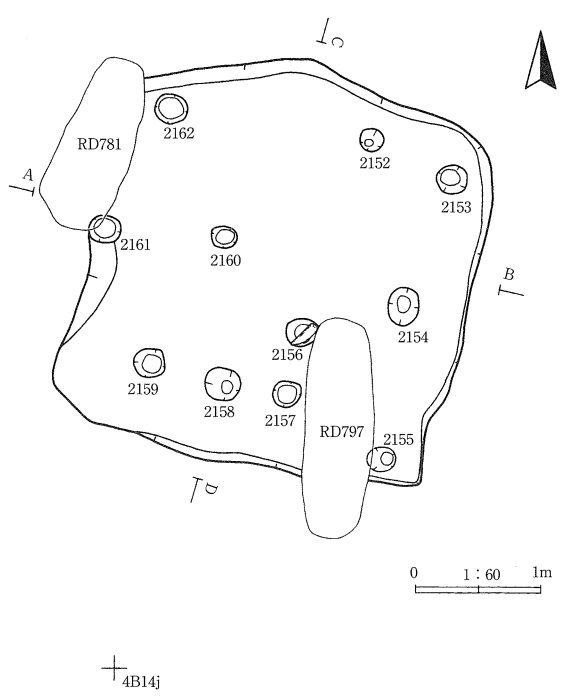
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2265	24×24	44.1	
2266	25×24	26.2	
2267	37×38	28.4	
2268	23×30	30	
2269	31×31	55.7	
2270	22×22	49	
2271	26×26	9	
2272	32×35	52.5	
2275	19×18	26.9	
2276	24×18	24.3	
2277	26×25	41.5	



- RA298
- 10YR4/4褐色土 粘性・縮まり有り。
黒褐色土 (10YR3/2) ブロック少量含む。炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。
 - 10YR3/2黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭・焼土粒極微量含む。
 - 10YR3/1黒褐色粘土質土 粘性にとみ、縮まり有り。
褐色土 (10YR4/4) ブロック極微量含む。炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。
 - 10YR3/1黒褐色粘土質土 粘性にとみ、縮まり有り。
褐色砂質土 (10YR4/4) 微量含む。水酸化鉄斑混入。
 - 10G2/1緑黒色粘土 粘性にとみ、縮まりなし。水酸化鉄斑混入。
 - 5YR3/6暗赤褐色砂 固く縮まっている。水酸化鉄混入著しい。
 - 10YR3/1黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。



第103図 RA298竪穴建物跡



- RA299
- 10YR2/2黒褐色土 粘性・縮まり有り。
黒褐色土 (10YR2/1) ・灰黄褐色土 (10YR6/2) 極微量含む。
水酸化鉄斑混入。

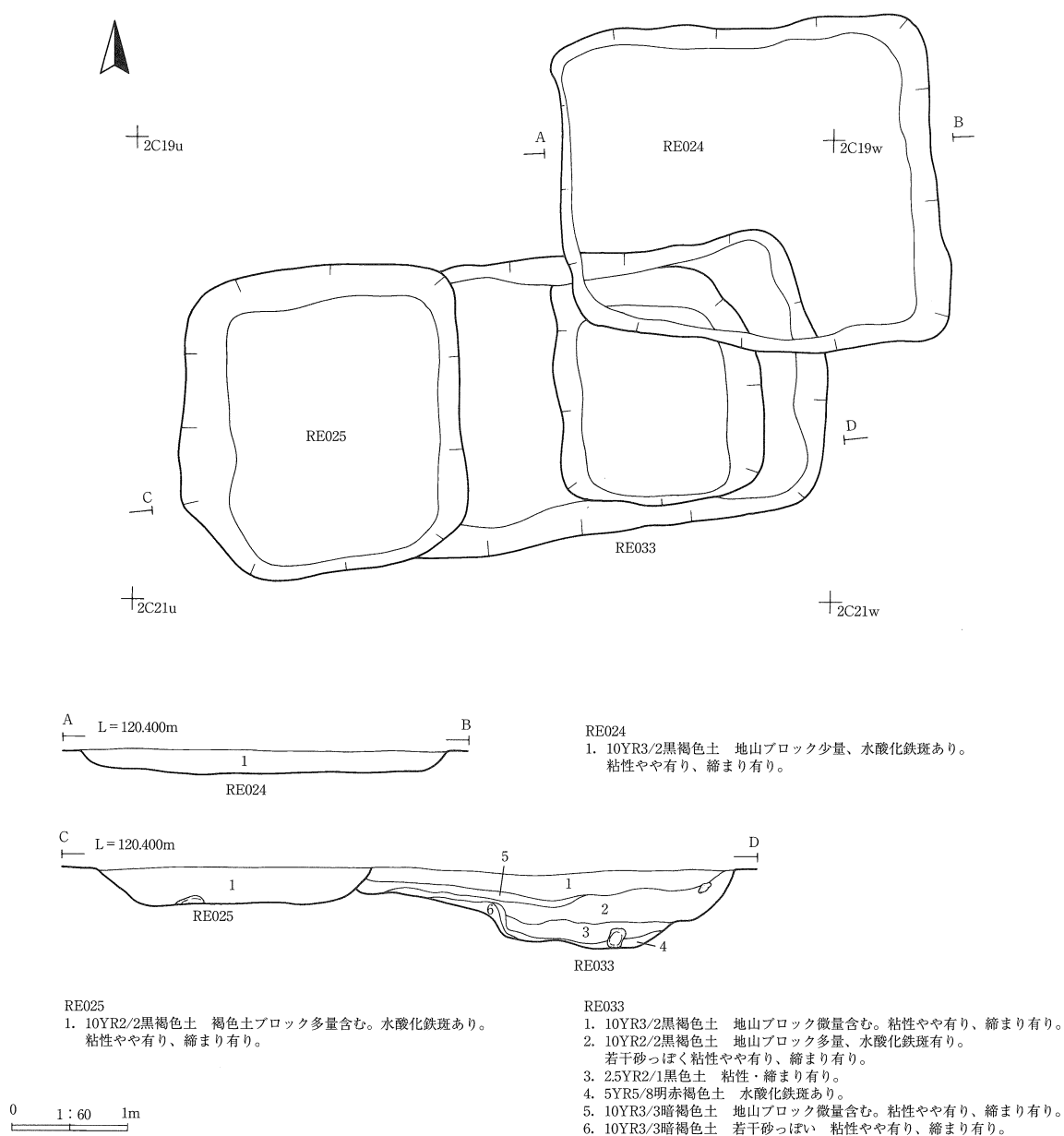
柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
2152	17×17	28.7	
2153	22×25	22	
2154	29×24	39.6	
2155	19×22	30.3	
2156	26×23	23.1	
2157	21×20	24.2	
2158	29×25	22	
2159	24×24	17.2	
2160	20×16	17.6	
2161	26×20	17.6	
2162	26×26	9.2	

第104図 RA299竪穴建物跡

3 竪穴状遺構

RE024 竪穴状遺構 (第105図・写真図版83)

<位置・重複関係>本遺跡中央部やや南東側の2C19v区に位置している。RE033と重複し本遺構のほうが新しい。 <規模・平面形>検出面での規模は3.3×2.8mを測り、平面形は東西に長い隅丸長方形を基調としている。壁は何れも外傾して立ち上がり検出面から底面までは22cmを測る。底面は平坦につくられているが硬く締まるものではない。 <埋土>黒褐色土と褐色土の混合土で人為堆積の様相を呈する。 <その他>この遺構と重複または隣接するRE033やRE025は規模や形態及び埋土の状況などが類似していること



第105図 RE024・025・033竪穴状遺構

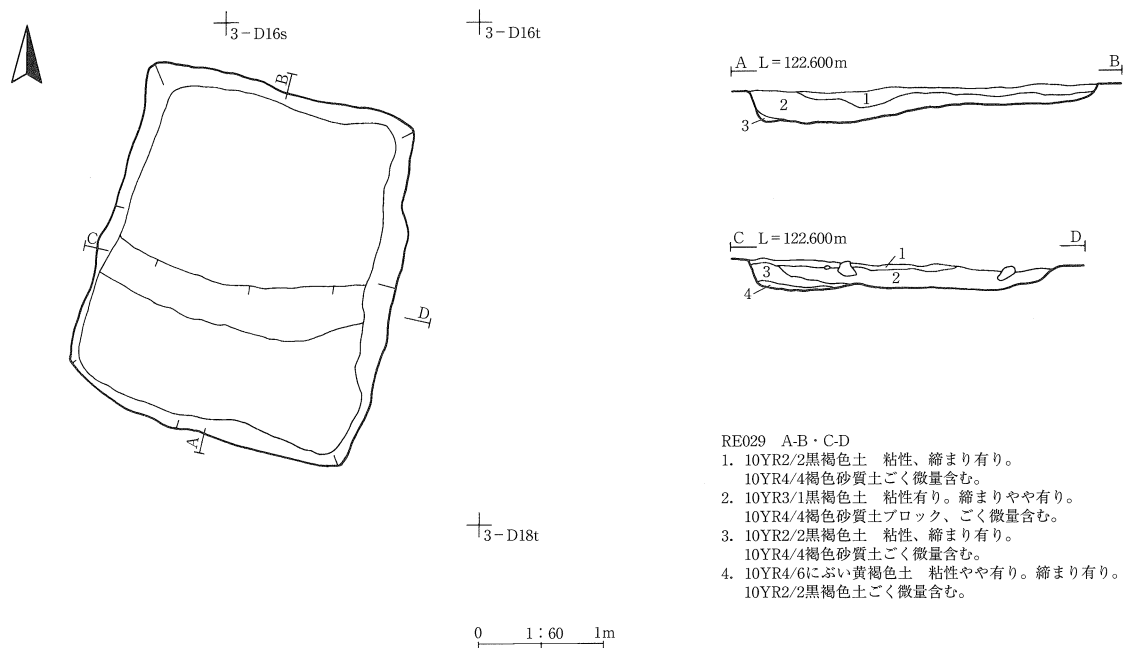
から同様の目的で構築されつくりかえられたと考えられる。またプラン的にはR B025に伴う遺構の可能性もあると思われる。〈遺物〉なし。〈時期〉詳細な時期は不明であるが、R B025と関係のある遺構と考えるならば近世及びそれ以降の可能性がある。

R E 0 2 5 竪穴状遺構 (第105図・写真図版83・84)

〈位置・重複関係〉遺跡中央やや南東側の2 C 20 u区に位置している。R E033と重複関係にあり本遺構のほうが新しい。〈規模・平面形〉検出面での規模は2.6×2.5mで概ね南北に少し長い方形を呈している。壁は何れも底面から外傾して立ち上がり、検出面から底面までは32cmを測る。底面は平坦につくられているが硬いわけではない。〈埋土〉黒褐色土の中に地山ブロックを多量に含む人為堆積の様相を呈している。〈その他〉重複関係にあるR E033や隣接するR E024とは形態及び埋土の状況が似ており同じ目的でつくりかえられた一連の遺構と推測されるが、その性格については判然としない。また位置的にはR B025に伴う遺構の可能性もあると思われる。〈遺物〉なし。〈時期〉R E024と同様に近世及びそれ以降の可能性が考えられる。

R E 0 3 3 竪穴状遺構 (第105図・写真図版83)

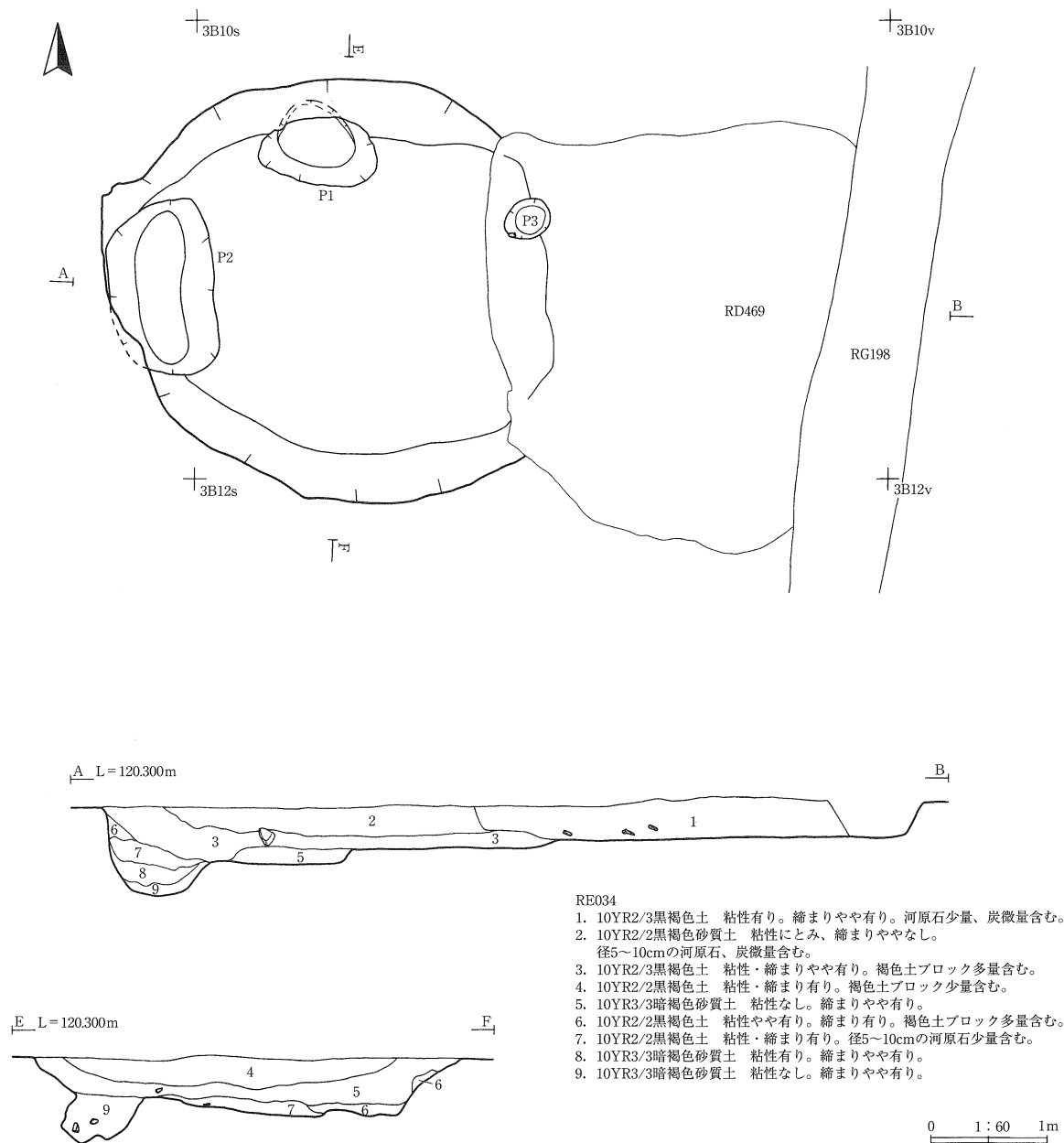
〈位置・重複関係〉遺跡中央部南東側の2 C 20 v区に位置している。R E024・025と重複関係にあるが本遺構のほうが古い。〈規模・形態〉西側がR E025に切られているいるが概ね3.8×2.5mの東西に長い隅丸長方形のプランと推測される。底面中央から東側は方形に2.0×1.8mの範囲で一段深く掘り下げられており検出面から最も深いところで68cmを測る。〈埋土〉基本的には自然堆積でよいと思われるが底面を一段深く掘り下げた部分の直上付近は一時人為的に埋め戻されている可能性がある。〈その他〉本遺構の性格は判然としないが重複するR E024・025とは同様の目的で構築され、つくりかえが行われたと推測される。また、位置的にR B025に関係する遺構であった可能性もあると思われる。〈遺物〉出土していない。〈時期〉R E024・025と同様に近世かそれ以降を想定している。



第106図 RE029竪穴状遺構

RE029 竪穴状遺構 (第106図)

<位置>調査区西側の3-C区に位置し、IV層上面で黒褐色の落ち込みにより検出している。 <規模・平面形>規模(下場で計測)は、2.1×2.6mを測り、平面形は南北に長い隅丸長方形を呈している。主軸方向は、N-20°-Eである。中央部を境にして10cm程の段になっている。 <埋土>埋土は2層からなり、1層は粘性も締まりもあり、褐色砂質土を5%含む黒褐色である。2層は、1層の褐色砂質土がブロック状に黒褐色土の中に混じっている。東西断面の埋土は、平面形の上述の部分にあたるので、褐色砂質土の割合が少なかったり、黒褐色土を含む鈍い黄褐色土の層もみられる。 <壁・床面>床は黒褐色土からなり、粘性もある。前述のように、中心を境にして段がついたようになっている。壁は、床から垂直に立ち上がり、



第107図 RE034竪穴状遺構

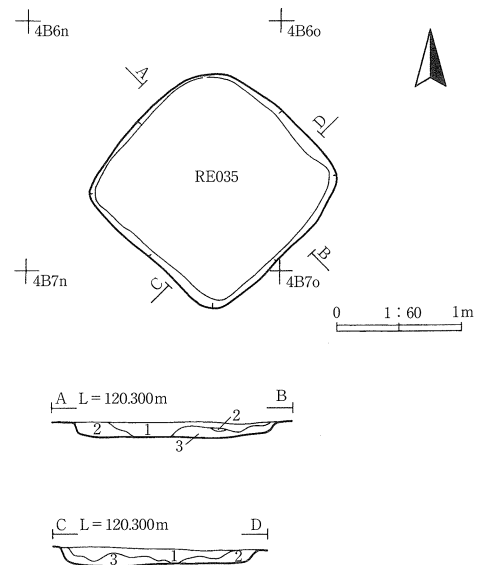
各壁中央部の残存値は、北壁12cm、南壁24cm、東壁21cm、西壁26cmである。 <出土遺物>なし。
<時期>不明である。

RE034 竪穴状遺構 (第107図・写真図版85)

<位置・重複関係>本遺跡中央南側、3 B 10 s 区においてIV層面から検出された。R D 469と重複関係にあり本遺構の方が古い。 <規模・平面形>不整な円形を呈しており、検出面での規模は南北方向で3.6m、東西方向で3.7m、深さは50cmを測る。 <埋土>自然堆積で黒褐色土を主体とし、その中に中小の河原石や炭粒を含む。褐色土をブロック状に含む部分も見られる。 <壁・床面>壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。底面は平坦とはいえない。 <その他>北壁際と西壁際に土坑状の掘り込みを確認した。本遺構に伴うものと思われる。また重複するR D 469は本遺構と規模・形態が類似することから、本遺構のつくりかえかもしれないが共に遺構の性格については判然としない。 <出土遺物>埋土からは須恵器の甕片3点と土師器甕片8点が出土した。 <時期>周囲から検出されている遺構の状況から中世に位置づけられる可能性がある。

RE035 竪穴状遺構 (第108図・写真図版86)

<位置・重複関係>遺跡中央部の南側、4 B 6 n 区に位置している。プラン的にはR A 249と重複しているが、新旧関係は把握できなかった。 <規模・平面形>一辺が1.6mの隅丸方形を呈し、検出面から底面までは17cm前後である。底面は平坦につくられており、壁は何れも底面から外傾して立ち上がっている。 <埋土>黒褐色土を主体としつつもその中に炭・焼土粒や褐色土ブロックを不規則に含んだりしている。 <その他>本遺構内からは複数の柱穴が見つかっており本遺構に伴うものも含んでいる可能性がある。 <遺物>出土遺物なし。
<時期>中世。



RE035

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや弱、締まりやや有り。暗褐色ブロック少量、炭・焼土粒含む。
2. 10YR2/2黒褐色土 粘性弱、締まり有り。褐色土ブロック多量含む。
3. 10YR3/3暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック含む。

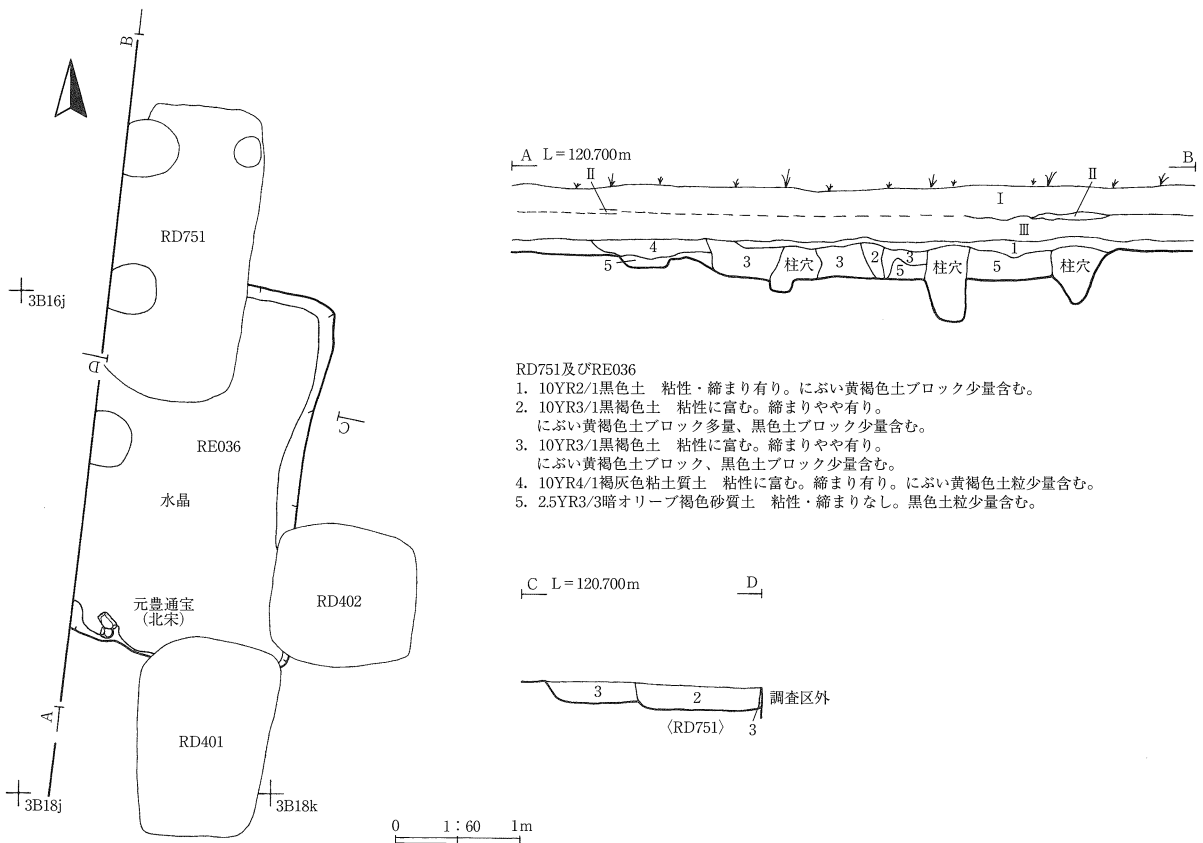
第108図 RE035竪穴状遺構

RE036 竪穴状遺構 (第109図・写真図版87)

<位置・重複関係>遺跡南側の中央、3 B 16 j グリッドに位置している。中世の墓壙R D 401・402・751と重複関係にあり本遺構のほうが古い。
<規模・平面形>隅丸長方形若しくは方形を基調とすると思われるが、西側は調査区外へと延びている。南北方向で一辺が約3.1m、壁は15cm程しか残存しおらず、底面から外傾して立ち上がっている。 <埋土>にぶい黄褐色土ブロックが不規則に混入する状態から人為堆積の可能性が高いと判断される。 <その他>底面から炉跡・柱穴は検出されなかった。 <遺物> (第337図・写真図版324) 元豊通寶 (569) が1点出土した。 <時期>中世。

RE037 竪穴状遺構 (第110図・写真図版88)

<位置・重複関係>遺跡中央部やや東側の2C9y区に位置している。 <規模・平面形>不整な円形プランで検出面での規模は3.5×3.3m、底面までは26cm前後を測る。壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がっている。底面は平坦であるが硬く締まるものではない。 <埋土>暗褐色土を主体とする自然堆積の様相を呈する。 <その他>本遺構の北側にRD461、南側にはRD320・321が隣接し、本遺構を含めた4基の遺構がほぼ南北に並んで位置している。精査の結果何れの遺構も形態や埋土の状態が似ているように思われるが、その性格については判然としない。同じ目的で一緒に構築されたか、或いはつくりかえられたのではないかと推測される。 <遺物> (第325図・写真図版314) 埋土から大堀相馬産の陶器碗(470)が出土している。 <時期> RD320・321・461同様近世かそれ以降の可能性が高い。



第109図 RE036竪穴状遺構

RE038 竪穴状遺構 (第111図・写真図版89)

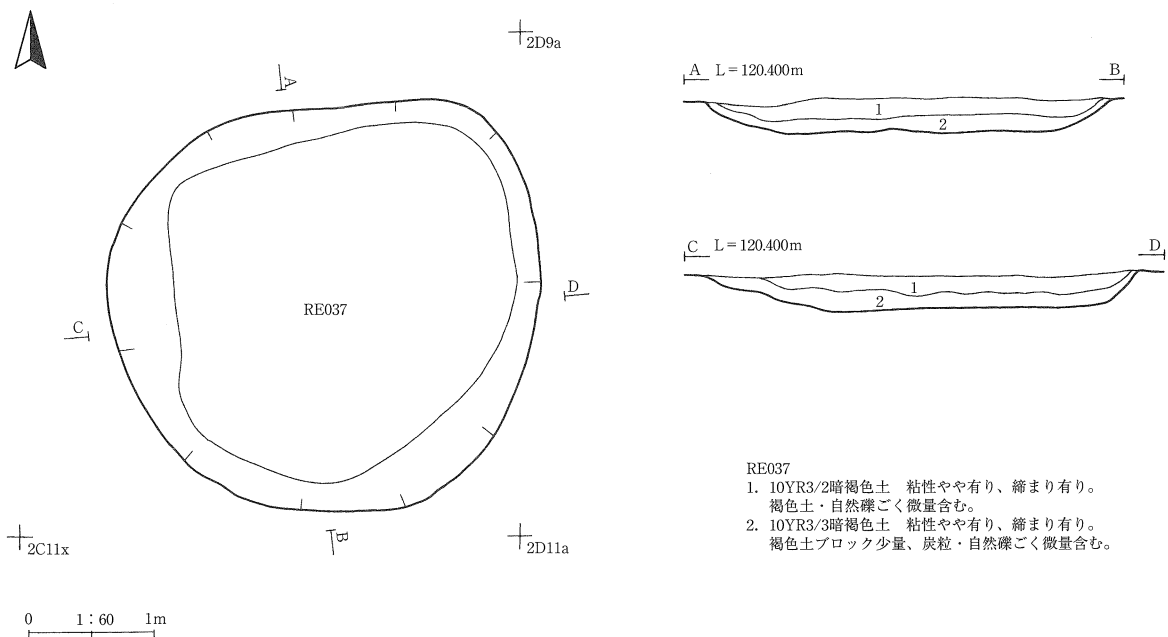
＜位置・重複関係＞本遺跡の東側、1E18p区に位置している。＜規模・平面形＞北東壁－南西壁で2.7m、床面積は推定で5.9m²を測る。北側は調査区外へ延びているが平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。＜埋土＞埋土上層自然堆積の様相を呈するが埋土下層に関しては埋め戻された可能性がある。＜壁・床面＞概ね外傾して立ち上がるが、北西壁では段をもって立ち上がっている。床面は平坦だが貼床を施しているわけではない。＜その他＞北側の調査区外にカマドを有するかもしれない。＜出土遺物＞(第318図・写真図版309)埋土及び床面から個体数にして坏7点、高坏1点、長胴甕1点、球胴甕1点が出土している。376は大型の坏で、内外面にヘラミガキ調整が施されている。377と379の坏には底部に「×」と線刻されている。坏は口縁部が内湾し、底部の丸味が顕著なものが多く見られる。＜時期＞奈良時代。

RE039 竪穴状遺構 (第111図・写真図版90)

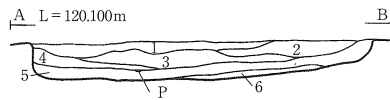
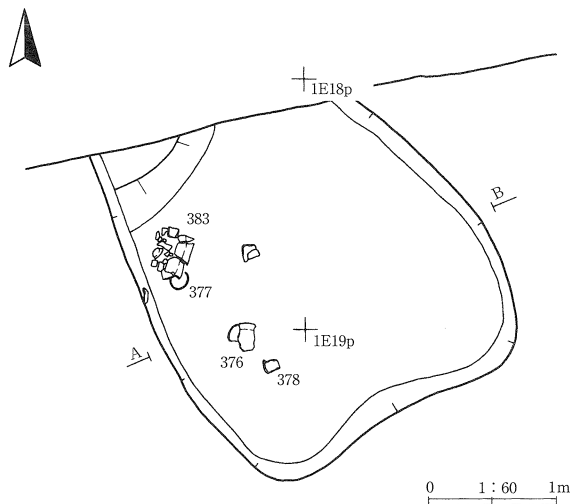
＜位置・重複関係＞本遺跡の中では南東側、3D16w区に位置している。＜規模・平面形＞北東壁－南西壁2.7m、北西壁－南東壁3.0m、床面積は約5.5m²を測る。北壁隅は調査区外へ伸びているが平面形は隅丸方形を呈すると思われる。＜埋土＞堆積土は2層に分けられ何れも自然の流入によるもので構成される。＜壁・床面＞壁は外傾して立ち上がっている。地山を掘り込んで床面としおり、平坦で締まっている。＜柱穴＞南壁隅で1基検出された。＜出土遺物＞なし。＜時期＞周辺から検出されている遺構の状況から奈良時代と思われる。

RE040 竪穴状遺構 (第112図・写真図版91)

＜位置・重複関係＞遺跡の南東側、4D1j区に位置している。重複する遺構としてはRD775とRG229があり本遺構のほうが新しい。＜規模・平面形＞6.3×2.7mを測り南北に細長い不整形である。平面形は隣接するRE041と似ている。＜埋土＞自然堆積でよいと思われる。＜壁・床面＞壁は緩やかに外傾して

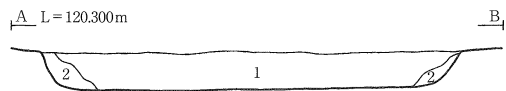
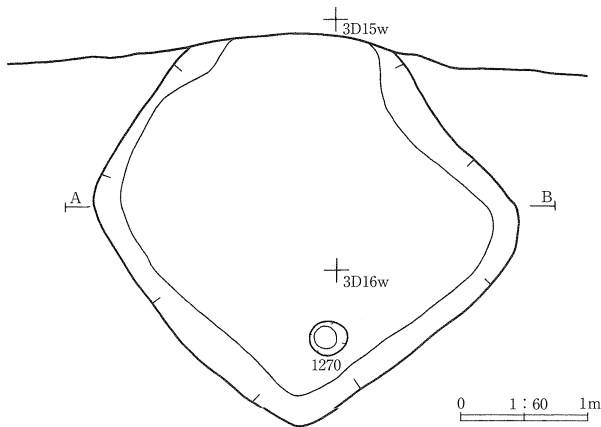


第110図 RE037竪穴状遺構



RE038 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
小礫ごく微量・明黄褐色土ブロック (10YR6/6) ごく少量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締まり有り。
赤褐色土ブロック (5YR4/8) ・にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/4) ごく微量含む。酸化鉄斑有り。
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締まり有り。
赤褐色土ブロック (5YR4/8)、明褐色土ブロック (10YR6/6)、炭化物粒ごく微量含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト 粘性やや有り。締まり有り。
にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/4)、下層に灰黄褐色土 (10YR6/4) ごく微量含む。酸化鉄斑有り。
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性有り。締まりを欠く。
明赤褐色土ブロック (5YR5/8)、にぶい黄褐色土ブロックごく微量含む。グライ化している。酸化鉄斑有り。
6. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性やや有り。
橙色土ブロック (7.5YR4/6) ごく微量含む。酸化鉄斑有り。



RE039 A-B

1. 10YR3/2 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
2. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性を欠く。締まりやや有り。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1270	30×27	14.8	

第111図 RE038・039竪穴状遺構

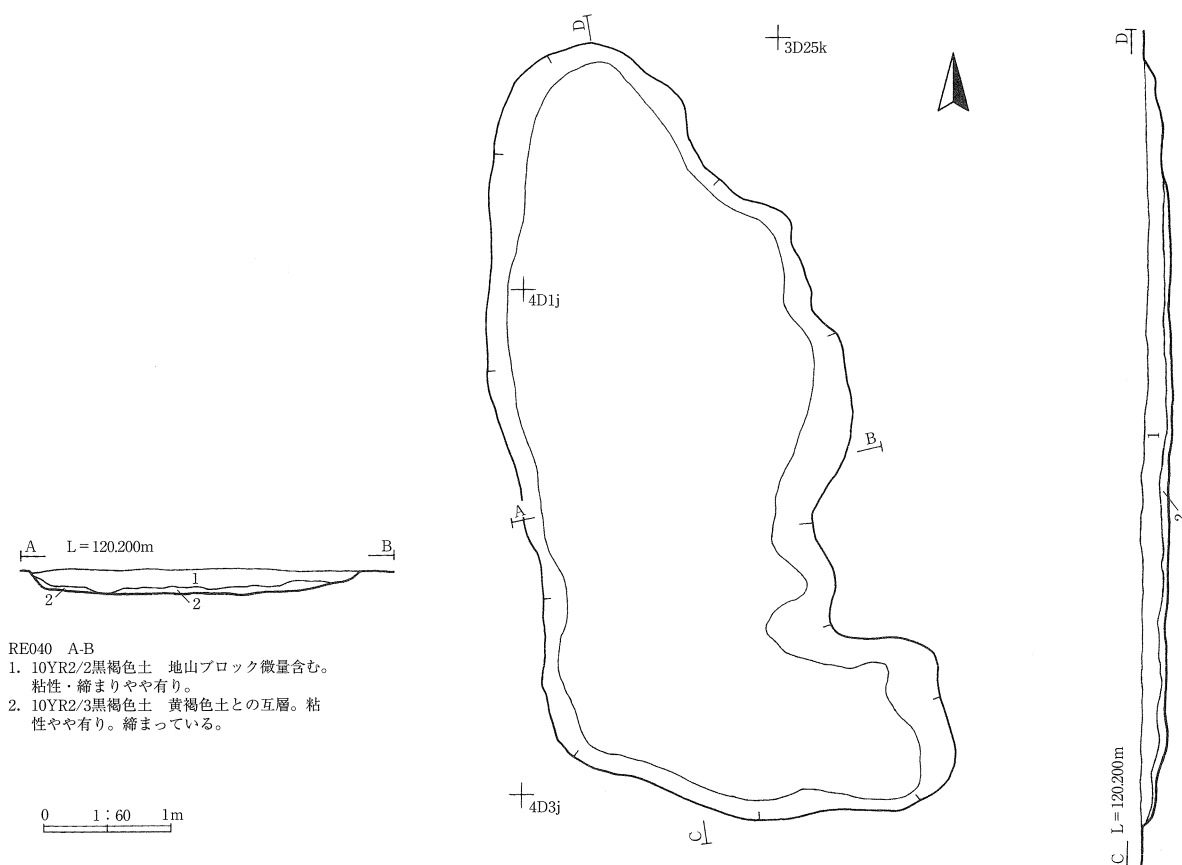
立ち上がっている。床面は地山を掘り込んで構築されており幾分凹凸が認められる。 <その他> R E 041と同様の性格を持つと思われるが詳細については不明である。 <出土遺物>なし。 <時期> R E 041と共に中世以降と考えたい。

R E 0 4 1 竪穴状遺構 (第113図・写真図版92)

<位置・重複関係>遺跡の南東側、3 D 24 1 区に位置する。R E 042との重複では本遺構のほうが新しい。
 <規模・平面形>検出面で6.3×2.5mを測り、南北方向に細長い。床面積は約7.1m²で平面形は隣接するR E 040と似ている。 <埋土>堆積土は2層に分けられ自然体積の様相を呈する。 <壁・床面>壁の立ち上がりは不規則で、とくに南東壁などは緩やかに外傾して立ち上がっている。床面は断面図では現れていないが、若干の凹凸が見られた。 <柱穴>本遺構の床面は若干凹凸が見られるがその中に柱穴といえるものは無いと判断した。 <出土遺物>埋土から赤色塗採された球胴甕の破片1点が出土した。 <時期>中世以降と考えたい。

R E 0 4 2 竪穴状遺構 (第113図・写真図版92)

<位置・重複関係>遺跡の南東側、3 D 23 1 区に位置する。R E 041と重複し本遺構のほうが古い。
 <規模・平面形>検出面で3.4×2.6mを測る。床面積は約5.0m²で平面形は隅丸方形を基調としつつ南壁の一部が幾分張出している。 <埋土>地山ブロックや焼土等が混じり人為堆積の可能性がある。 <壁・床面>壁は概ね外傾して立ち上がっているが、南壁では段をもって立ち上がっている。また東壁は貼壁状にな



第112図 RE040竪穴状遺構

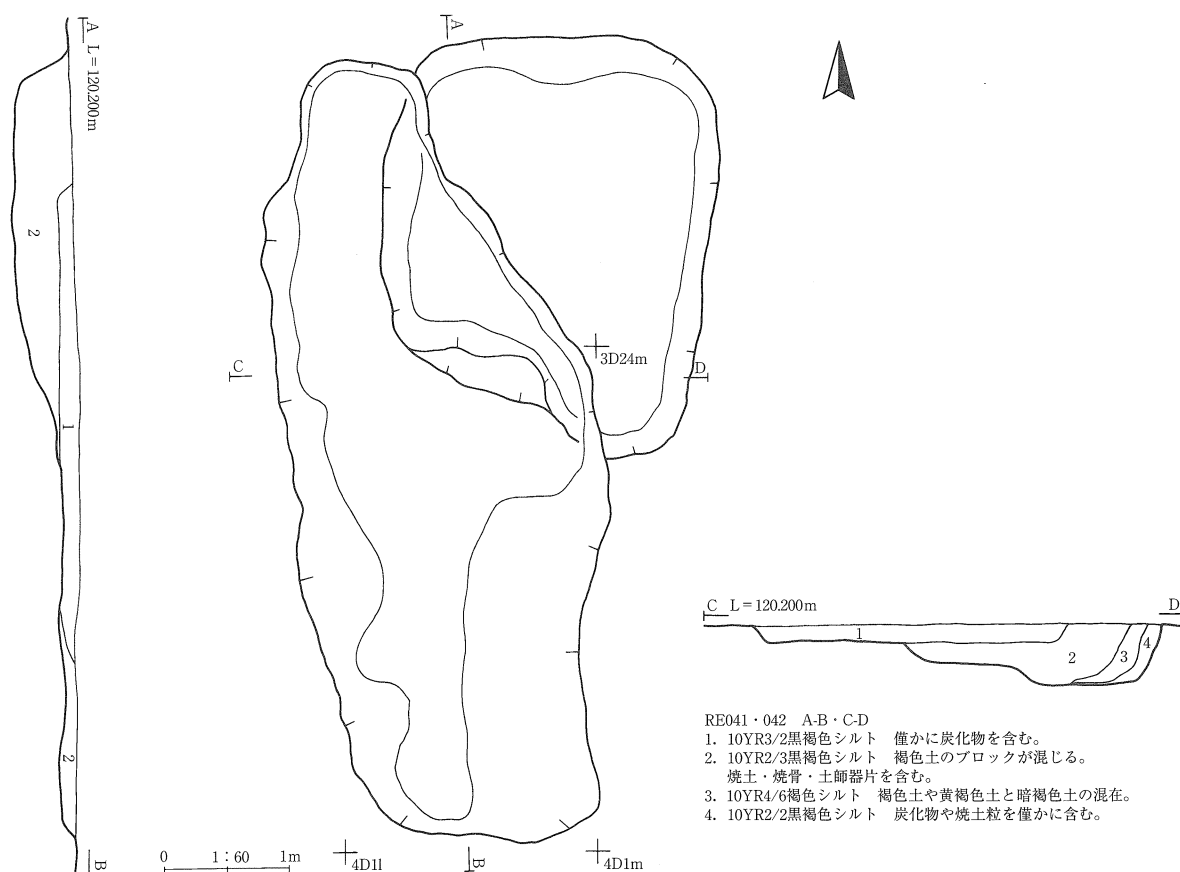
っていた。床面は平坦で地山を掘り込んで構築されている。〈柱穴〉検出されなかった。〈出土遺物〉埋土から土師器坏破片3点と甕破片2点が出土した。〈時期〉重複関係や周辺の状況から中世かそれ以降に属するものとしたい。

RE043 竪穴状遺構 (第114図・写真図版93)

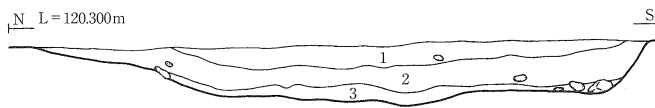
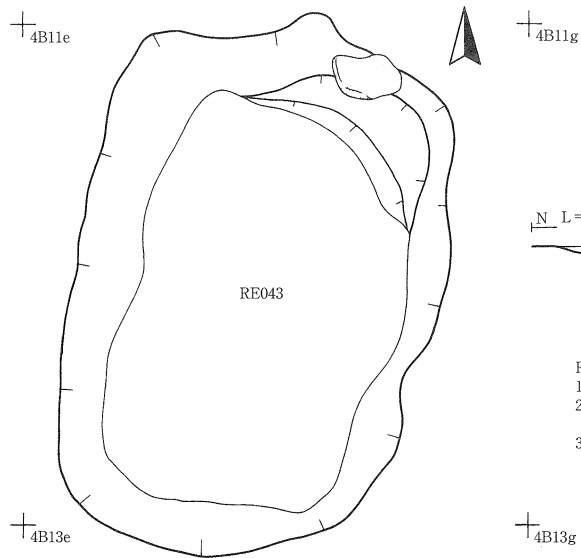
〈位置・重複関係〉遺跡南端に近い4 B11eグリッドに位置している。R Z018とは重複し、本遺構の方が新しい。〈規模・平面形〉南北方向に長い不整な長円形若しくは長方形を呈する。長軸で4.5m、短軸で3.0mを測り壁高は30~40cm程が残存している。北側の壁が緩やかに立ち上がっている。〈埋土〉黒褐色土を主体とし、炭粒や中小の自然礫も含まれていた。自然堆積でよいと思われる。〈その他〉床面から炉跡や柱穴は検出されなかった。〈遺物〉なし。〈時期〉周辺に分布する遺構の年代観から中世に属する遺構と考えたい。

RE044 竪穴状遺構 (第114・115図・写真図版94)

〈位置・重複関係〉遺跡南半のほぼ中央にあたる4 A11グリッドに位置している。重複関係はない。諏訪神社を方形に取り囲むRG043の内側から検出されている。〈規模・形態〉西半部が調査区外となっているため平面形は不明である。検出面での規模は南北方向で8.5m以上、東西方向で5.7m以上はあると推測される。礫層を掘り込んで構築されており、底面はやや凹凸がある。壁は底面から外傾して立ち上がっており、

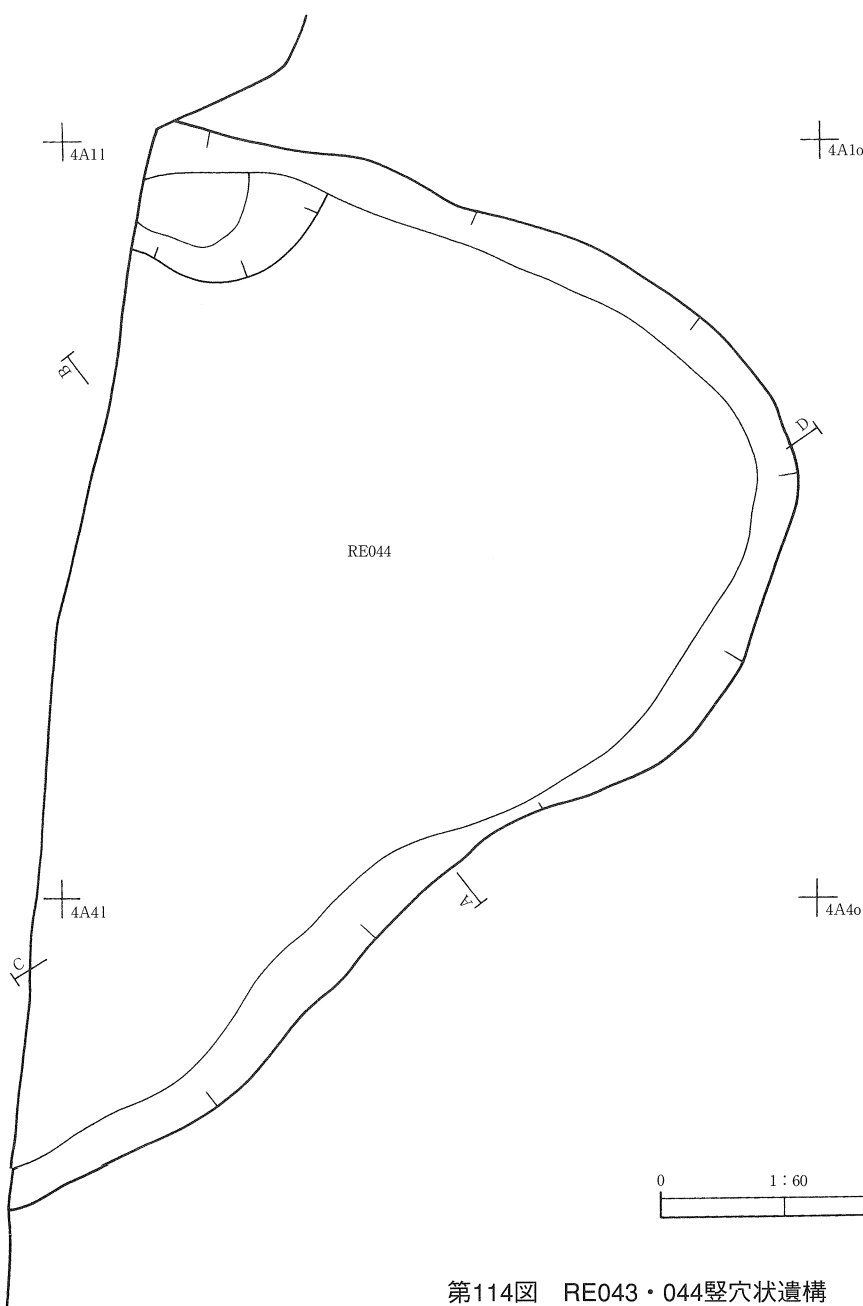


第113図 RE041・042竪穴状遺構



RE043

1. 10YR2/2黒褐色土 粘性に富み締まり有り。水酸化鉄斑有り。炭粒ごく微量含む。
2. 10YR3/1黒褐色土 粘性に富み締まり有り。水酸化鉄斑有り。炭粒微量に含む。褐色砂質土少量含む。6~10cm大の自然礫数個見られる。
3. 10G2/1緑黒色粘土 粘性に富み締まりやや弱。水酸化鉄斑少量有り、8~10cm大の自然礫数個見られる。



0 1 : 60 1m

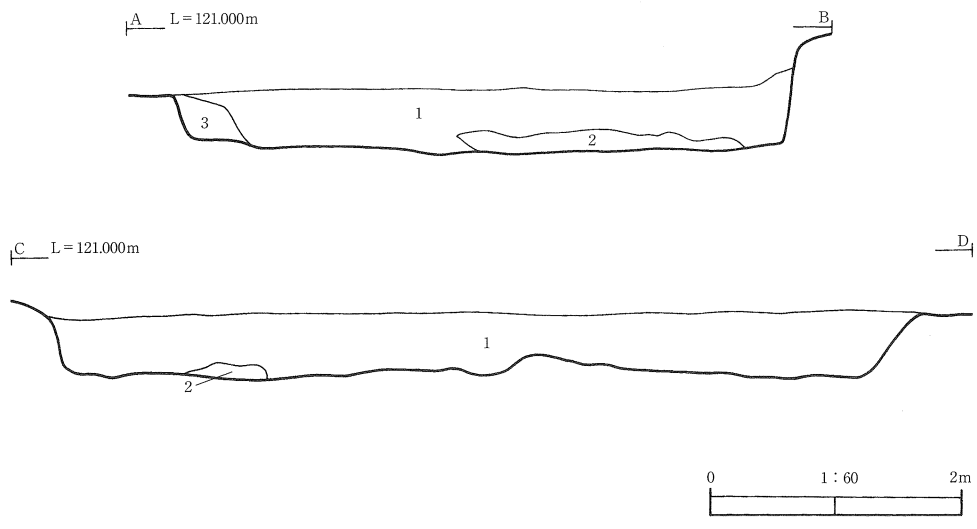
0 1 : 60 2m

第114図 RE043・044竪穴状遺構

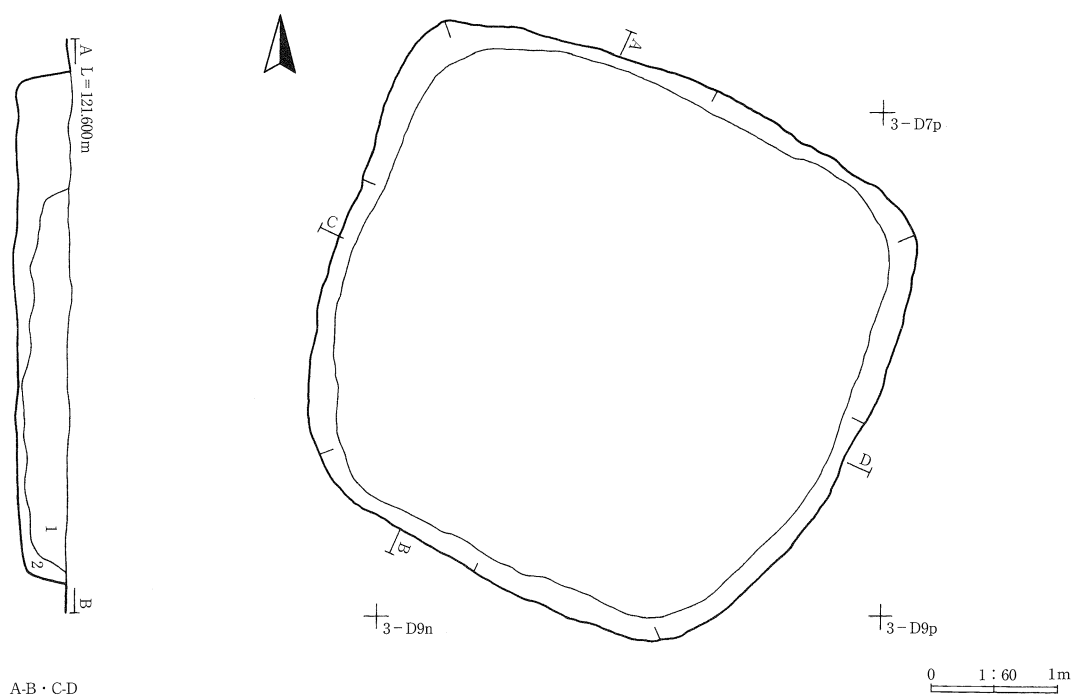
50cm程残存している。北側の壁際の一部に底面から更に掘り込まれた部分が見られる。〈埋土〉黒褐色土を主体とし、その中に大小の礫を多量に含んでいる。これらの礫は基盤の礫層を構成していたものと思われる。堆積状況は自然に埋まったものと見て良いと思われる。〈その他〉本遺構はR G 043が埋まった後に機能していたものと推測され、むしろ神社に伴う施設であったと考えられる。〈遺物〉(第335・339・362・363・365・366図・写真図版322・326・344・346)埋土からは大堀相馬産陶器碗(725)、陶器鉢(740)陶器甕類(746)、磁器碗(774・792)、磁器瓶類(819)、銭貨(593・594)、煙管(549)などが出土した。〈時期〉出土遺物の生産年代から近世以降と思われる。

R E O 4 5 竪穴状遺構(第115図)

〈位置〉調査区西側の3-C区に位置し、IV層上層で暗黄褐色土の落ち込みによって検出している。重複関係はない。〈規模・平面形〉平面形は隅丸方形を呈し、規模(下場で計測)は、4.0×3.86m、主軸方向は、N-64°-Wである。〈埋土〉2層から成る。1層は、粘性がありやや締まっている暗褐色土と7%の黄褐色土、3%の黒褐色土の混合土で構成される。2層は、暗褐色土と3%の黄褐色土の混合土であり、下層ほど明るい。埋土状況は、自然堆積の様相を呈している。〈壁・床面〉壁は床から垂直に立ち上がっている。各壁中央部の残存値は、北壁38cm、南壁33cm、西壁34cm、東壁34cmである。床は、平坦で強く締まっている。〈出土遺物・時期〉遺物の出土がなく、時期は不明である。



- RE044
1. 10YR3/2黒褐色土 多量の小～大礫と微量の地山ブロックを含む。水酸化鉄斑有り。粘性やや有り、縮まり有り。
 2. 10YR3/2黒褐色土 多量の小～大礫含む。粘性弱、縮まり有り。
 3. 10YR2/3黒褐色砂質土 礫多量に含む。1層との境には水酸化鉄の層が有る。粘性弱、縮まりやや有り。



- RE045 A-B・C-D
1. 10YR3/3暗褐色土 縮まりやや有り。粘性有り。10YR5/6黄褐色土ブロック、10YR2/1黒褐色土ごく微量含む。
 2. 10YR3/3暗褐色土 縮まりやや有り。粘性有り。10YR5/6黄褐色土ごく微量含む。
 3. 10YR3/3暗褐色土 縮まり、粘性やや有り。10YR4/6褐色土ごく微量含む。



第115図 RE044・045豎穴状遺構

4 掘立柱建物跡

今回の調査では10棟の掘立柱建物跡を検出できた。建物跡の記載についてであるが平面図に付してある寸法は括弧のない数字の単位はcm、括弧内の数字の単位は尺である。一尺は30.3cmとして計算した。表に示した深さの単位はcmである。

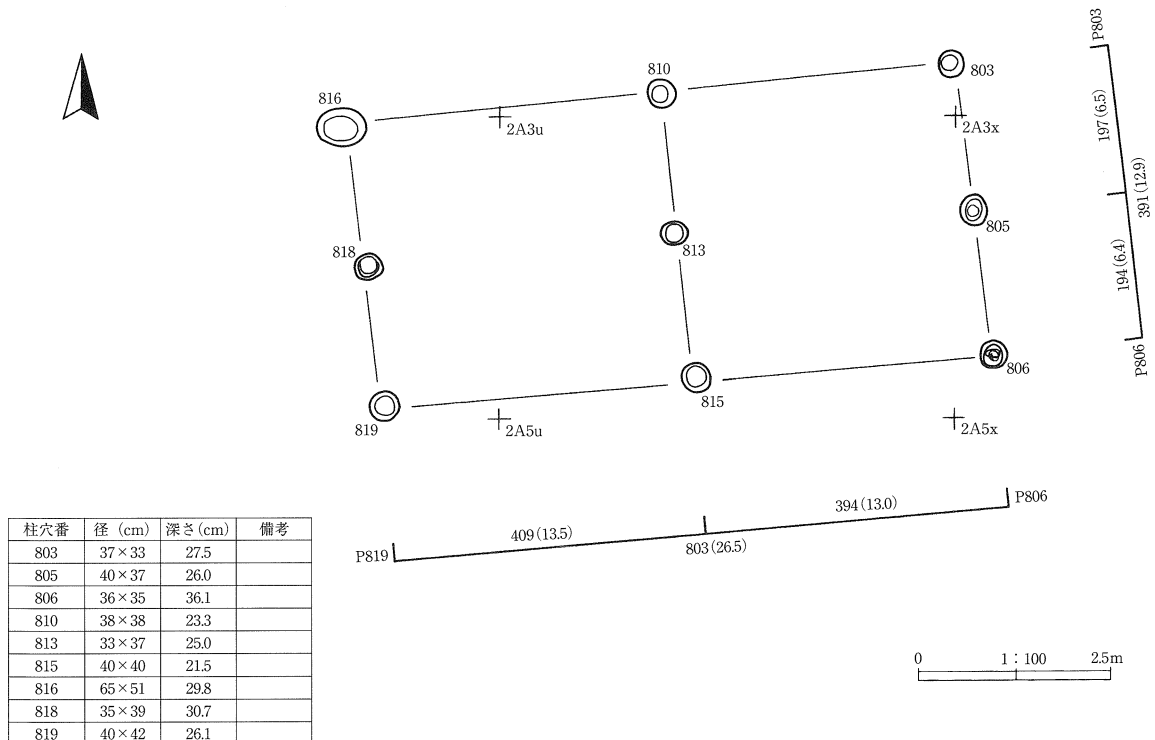
調査区内には多数の柱穴状土坑が分布しており、これらのいくつかは建物を構成する柱穴であったはずであるが、規則性を見出せず本報告書では柱穴群の分布として掲載するに留め建物を推定することができなかった。ただし検出された柱穴群の中でも3-C区に分布する柱穴は近世民家、4B区に分布する柱穴は中世の建物となる可能性が高いという印象を持つ。

RB019 掘立柱建物跡 (第116図・写真図版95)

<位置>遺跡中央やや南側、2A3u区にて検出された。 <平面形式>桁行4間(803cm)×梁間2間(391cm)と推定し、内部はP813により二分されると考えた。 <建物方位>桁行でN-85°-Eを測る。 <柱間寸法>梁間6.5尺、桁行も6.5尺で2間ごとに柱穴を持つと解釈した。 <出土遺物>なし。 <建物の性格と時期>不明である。

RB022 掘立柱建物跡 (第117図・写真図版95) 神社

<位置>遺跡の中央部南側、4A5a区に位置している。 <平面形式>大部分は調査区外(諏訪神社の下)に展開しており、全体形は不明である。2間(509cm)×2間(510cm)のみ確認できた。位置的にはこの建物跡の南西隅を検出したことになる。 <建物方位>桁行と梁間の区別は不明である。P2534-P2536方向ではN-26°-Eである。 <柱間寸法>検出された柱穴は少ないが8.4尺を基準としている可能性が高い。

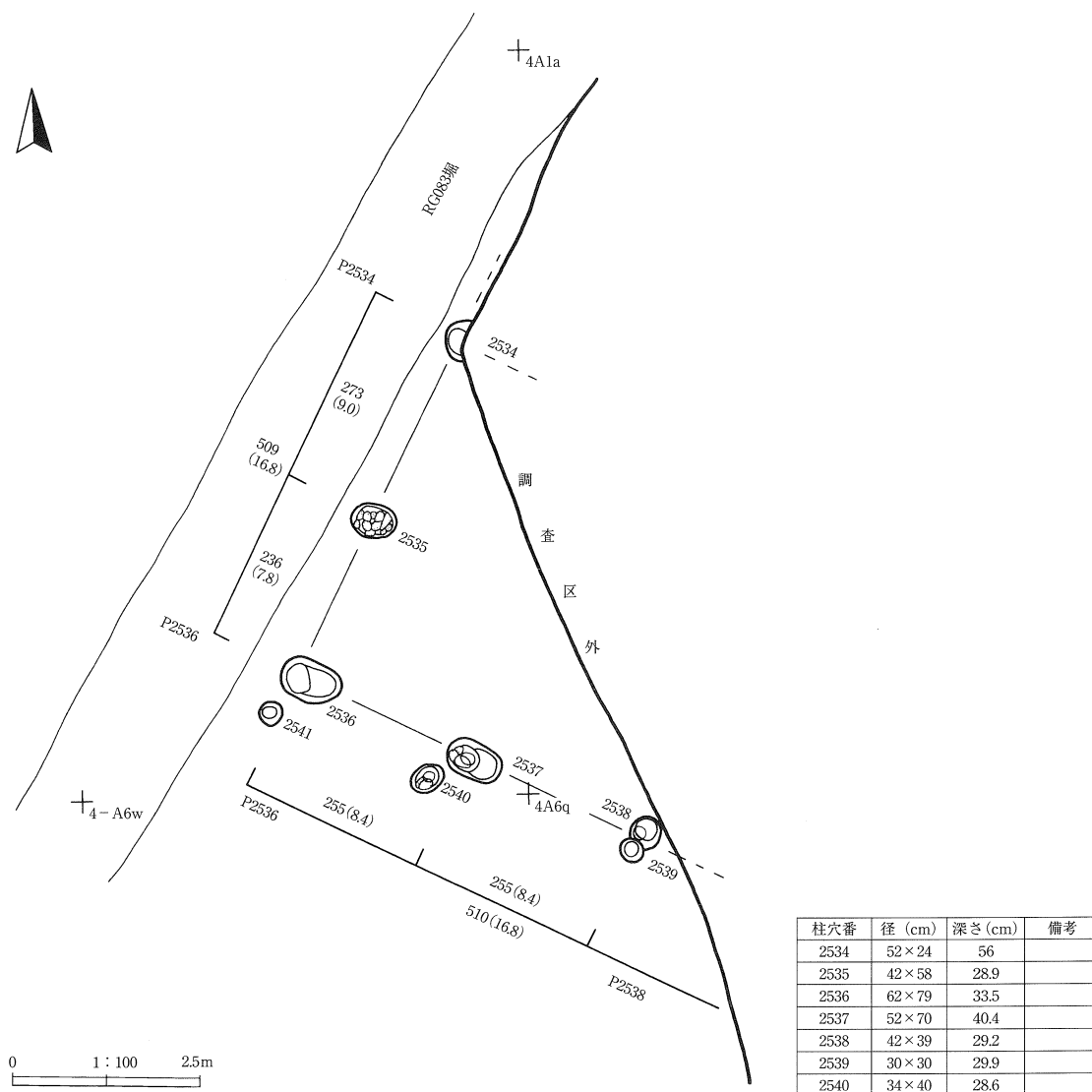


第116図 RB019掘立柱建物跡

<出土遺物>なし。 <付属施設>不明。 <建物の性格>全容を把握できなかったため詳細は不明である。三方を堀に囲まれた内部に建てられており、堀と本建物の位置関係からR G 083が使われなくなった後、R G 084堀が機能していた時の遺構と思われる。 <時期>中世と思われるが出土遺物はなく実年代は不明である。

R B 0 2 3 掘立柱建物跡（第118図・写真図版96）総柱の建物

<位置>遺跡のやや東側、2 C 1 j 区に位置している。 <重複関係>R D 581・R D 582・R D 474・R D 566・R G 043より新しい。 <平面形式>北側と東側には延びないが、西側と南側へは本建物が延びる可能性がある。そのうえで南北方向を桁行、東西方向を梁間と一応しておく。規模は桁行9間（1676cm）×梁間5間（1227cm）まで確認した。また、建物北東側（2 C 1 k 杭付近）には柱穴が存在していたと思われるが検出できなかった。基本的に桁行は1間ごと、梁間は半間ごとに柱穴を配置する総柱の建物と思われる。



第117図 RB022掘立柱建物跡

ただP930-P931 やP964-P965、P996-P1001などのように柱穴を持たない空間があり、その場所がどの様に使われていたのかは解らない。〈建物方位〉桁行の軸方向でN-1°-Eである。

〈柱間寸法〉桁行では概ね6.0尺(約182cm)、梁間では4.0尺(約121cm)を多用しているようである。

〈出土遺物〉なし。〈付属施設〉検出されていない。〈建物の性格〉建物の規模から母屋になると思われる。

〈時期〉近世に所属すると思われる。

R B 0 2 4 掘立柱建物跡①(第119図・写真図版96) 厩部跡①

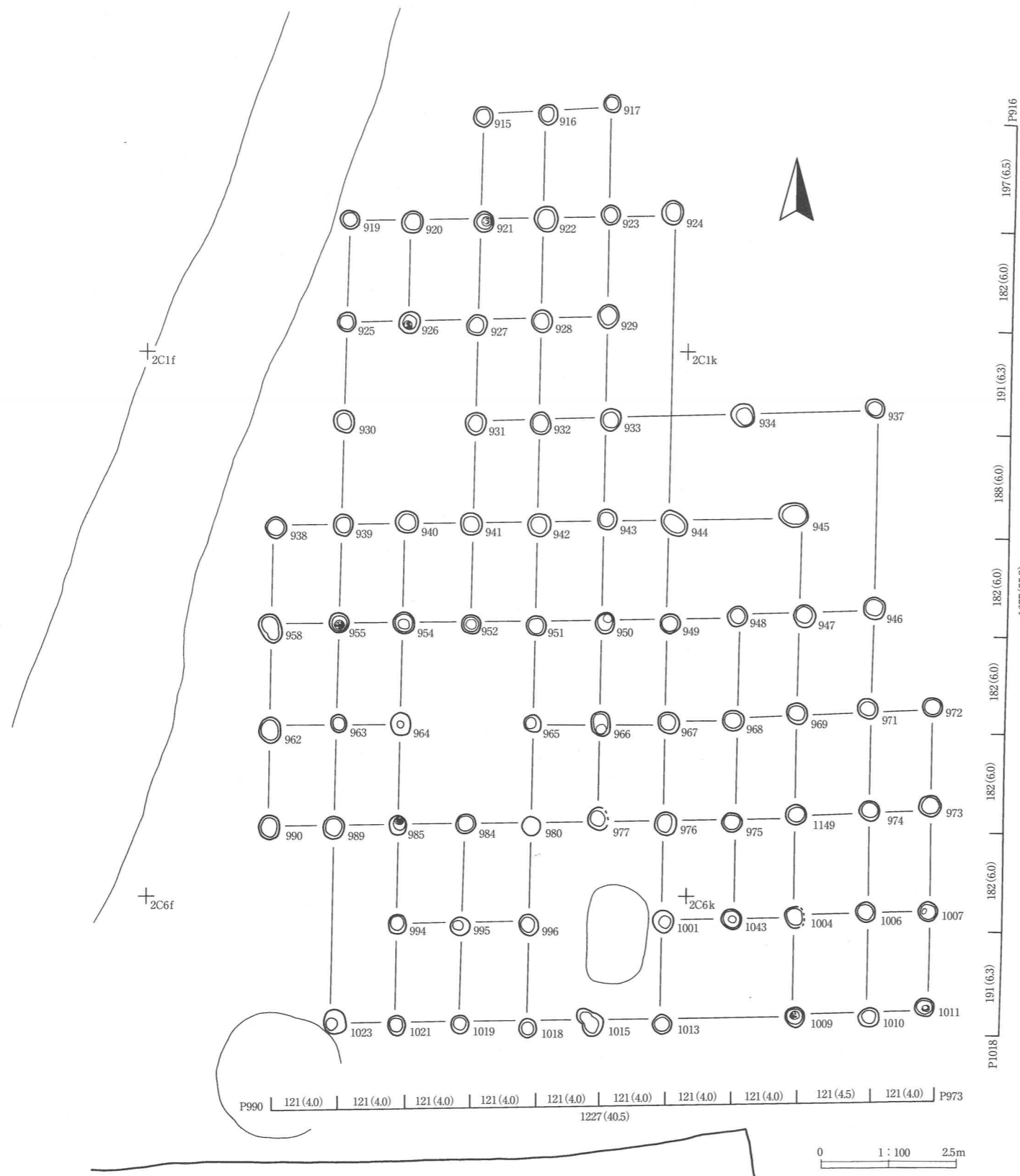
〈位置〉遺跡の東側、2 C 16 n 区に位置している。〈重複関係〉R G 200と重複し、本遺構のほうが新しい。R D 473と重複し本遺構のほうが古い。R D 472との新旧関係は不明である。R B 024②とでは本遺構のほうが古い(建て替えている)。〈平面形式〉桁行2間以上(455cm)×梁間3間(727cm)と想定した。上屋柱と下屋柱からなる構造で桁行の西側は調査区外に続いている。〈建物方位〉梁間の軸方向でN-3°-Wである。〈柱間寸法〉桁行では5尺、梁間では8尺を基準にしていると思われる。〈出土遺物〉なし。〈付属施設〉厩のくぼみと思われる掘り込み(R D 360)が建物内部にみられる。〈建物の性格〉大きさから付属小屋と考えられる。厩のくぼみが伴っているので厩の覆い屋であろう。母屋が西側の調査区外に展開すると思われるが、本遺構と一体となる構造なのか不明である。〈時期〉近世後半頃と思われる。

R B 0 2 4 掘立柱建物跡②(第119図・写真図版96)

〈位置〉遺跡東側の2 C 16 n 区に位置する。〈重複関係〉R B 024①との関係は本遺構のほうが新しい(建て替えている)。R G 200とでは本遺構のほうが新しい。R D 473との重複関係では本遺構のほうが古い。R D 472との新旧関係は不明である。〈平面形式〉桁行2間以上(379cm)×梁間4間(727cm)と考えられる。上屋柱と下屋柱からなる構造で桁行の西側は調査区外に達している。〈建物方位〉梁間の方向でN-2°-Wとなった。〈柱間寸法〉桁行では約5.8尺、梁間は5.0尺と7.0尺を基準にしていると推測される。〈出土遺物〉なし。〈付属施設〉厩のくぼみと思われる掘り込み(R D 360)が建物内部にみられる。これは本建物跡とR B 024①の両方で使われていたと考えている。〈建物の性格〉付属小屋と考えられ厩のくぼみが伴っているので厩の覆い屋であろう。母屋が西側の調査区外に展開すると思われるが、本遺構と一体となる構造なのか不明である。〈時期〉近世後半頃と思われる。

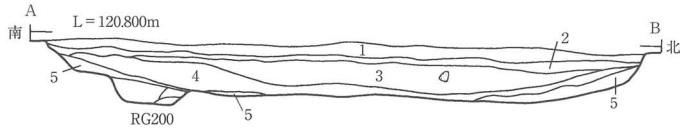
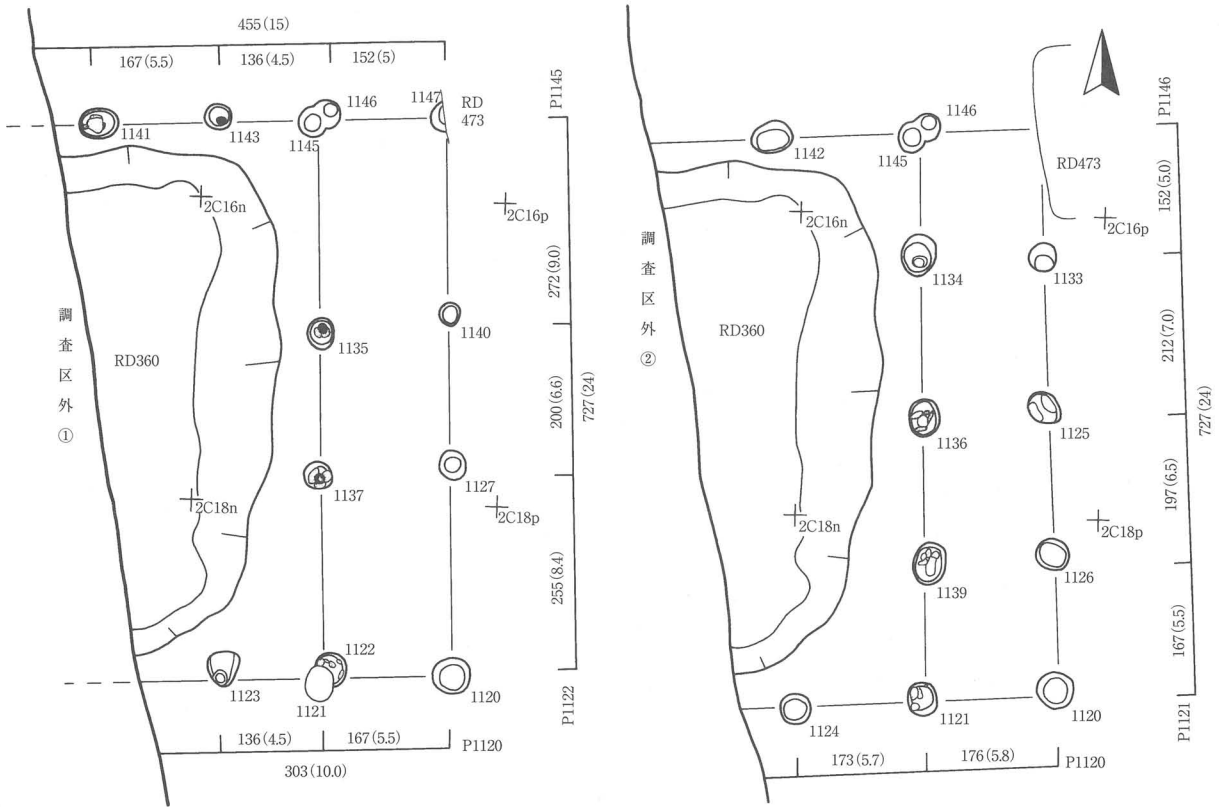
R B 0 2 5 掘立柱建物跡(第120図)

〈位置〉本遺跡の南側、2 C 19 v 区にて検出された。〈重複関係〉R E 024・025・033より古い。R G 200との関係は判然としない。〈平面形式〉桁行(東西)2間(567cm)×梁間(南北)2間(518cm)と推定したが、他遺構との重複もあり把握できなかった柱穴も考えられる。とくに本遺構から東側や西側、及び南側の調査区外へ展開している可能性がある。〈建物方位〉梁間の軸方向でN-5°-Wである。〈柱間寸法〉桁行では5.0尺、梁間は9.7尺前後及び7.4尺前後の2種類を用いているようである。〈出土遺物〉なし。〈建物の性格〉建物の全容を把握できなかったため詳細は不明である。〈時期〉出土遺物はないが、周辺から検出されている遺構遺物の状況から近世及びそれ以降と思われる。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
915	38×35	14.0	
916	37×34	10.5	
917	30×30	3.1	
919	30×35	11.4	
920	40×37	18.6	
921	35×35	12.1	
922	45×40	9.7	
923	35×35	6.1	
924	40×35	8.4	
925	34×31	9.1	
926	40×35	18.0	
927	39×34	11.8	
928	40×35	16.8	
929	43×35	5.3	
930	40×35	13.4	
931	40×34	18.0	
932	40×35	14.1	
933	117×83	49.1	
934	41×40	49.9	
937	32×31	8.9	
938	35×40	13.6	
939	40×35	16.2	
940	38×38	28.4	
941	38×38	18.1	
942	43×37	17.8	
943	35×35	24.0	
944	40×45	13.1	
945	42×50	12.0	
946	38×37	14.9	
947	38×37	13.2	
948	37×35	23.5	
949	33×32	17.5	
950	40×32	21.0	
951	35×30	20.1	
952	40×35	24.4	
954	35×35	22.8	
955	32×33	8.7	
958	43×39	26.9	
962	49×35	13.0	
963	34×29	10.4	
964	43×35	28.9	
965	30×30	23.5	
966	44×34	12.6	
967	37×37	22.1	
968	35×35	19.7	
969	36×35	18.0	
971	34×34	12.8	
972	32×35	6.5	
973	35×32	7.5	
974	33×37	14.7	
975	35×37	20.9	
976	40×40	23.7	
977	40×37	22	
980	34×31	24.1	
984	35×33	24.2	
985	34×32	32.5	
989	40×38	13.4	
990	44×38	7.9	
994	32×32	26.6	
995	30×33	43.1	
996	40×35	30.6	
1001	41×36	31.3	
1004	38×24	18.7	
1006	35×32	67.0	
1007	30×32	13.2	
1009	35×35	17.5	
1010	35×35	23.8	
1011	35×36	20.9	
1013	32×35	26.5	
1015	40×35	31.8	
1018	30×30	25.7	
1019	32×28	24.4	
1021	35×35	24.3	
1023	40×41	45.7	
1043	34×33	23.1	
1149	25×34	32.8	

第118図 RB023掘立柱建物跡



0 1 : 100 2.5m

RD360

1. 10YR2/2黒褐色土 表土 粘性やや有り。締まりやや有り。
2. 10YR3/3暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR2/2黒褐色土 ほぼ炭化物の層 粘性あまりない。締まりなし。大小の礫をまばらに含む。焼土1%程全体的に含む。

4. 10YR2/3黒褐色土 全体に大量の礫石を含む。粘性やや有り。締まり有り。
5. 10YR2/2黒褐色土 粘性やや有。締まりあまりない。炭化物と焼土をほぼ全体的に大量に含む。礫石少量含む。

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1120	45×50	35.1	
1121	43×45	33.0	
1122	43×42	20.4	
1123	46×41	30.5	
1127	30×37	11.7	
1135	38×32	31.9	
1137	35×35	34.8	
1140	28×26	27.8	
1141	40×52	18.1	
1143	32×36	29.8	
1145	43×43	67.9	
1146	41×44	78.7	

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1120	45×50	35.1	
1121	43×45	33.0	
1124	25×25	32.1	
1125	50×31	48.1	
1126	44×34	54.9	
1133	30×29	8.7	
1134	28×28	13.0	
1136	26×25	10.0	
1139	30×43	10.9	
1142	34×34	19.2	
1145	43×43	67.9	
1146	41×44	78.0	

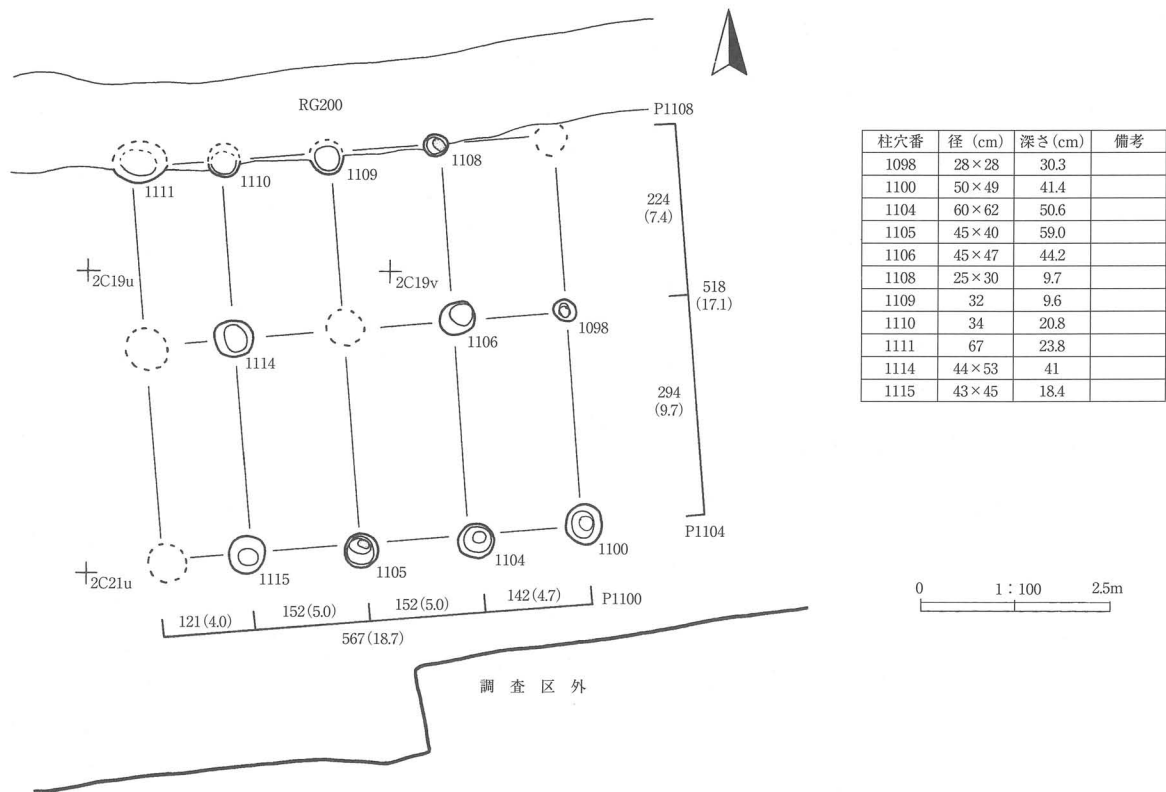
第119図 RB024掘立柱建物跡

RB026 掘立柱建物跡 (第121図・写真図版97)

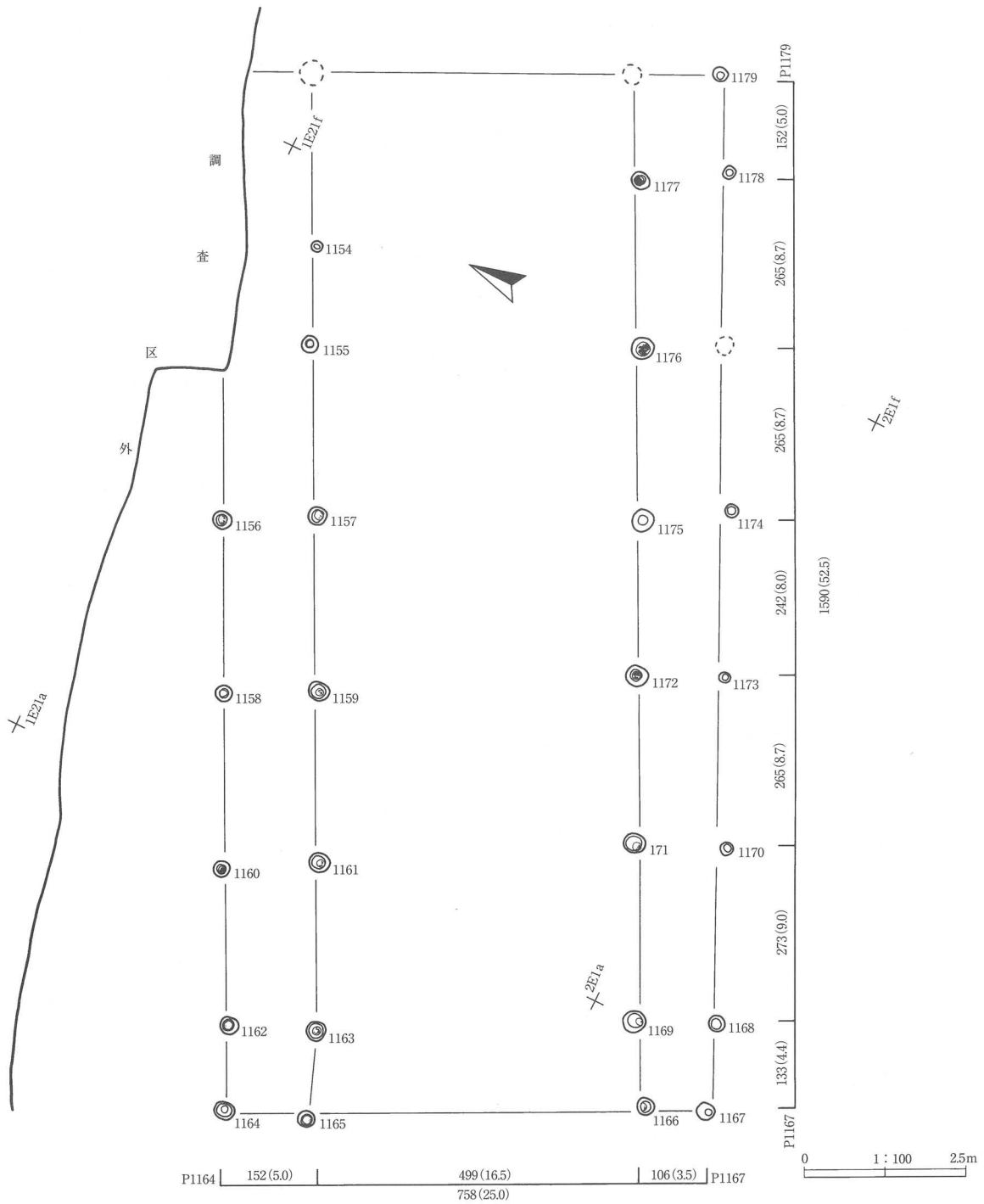
<位置>遺跡中央部南端、4B3j区に位置している。 <重複関係>多数の柱穴が密集して分布する中においても比較的容易にプランを確認する事が出来た。 <平面形式>西側は調査区外への延びるため全容は把握出来ないが身舎に2面廂が付く形態である。身舎は桁行4間以上に梁間2間で、廂を含めた規模は桁行4間以上、梁間3間(848cm)である。身舎内あたる場所にも多数の柱穴がみられその中にはこの建物跡に伴っているものもあるかもしれない。 <建物方位>桁行方向でN-76°-Wを測る。 <柱間寸法>検出された部分で桁行は8.1~9.6尺、梁間は9.4尺となる。廂は半間の4.7尺で身舎に取り付くと思われる。 <出土遺物>なし。 <建物の性格>推定した規模から母屋と考えられる。 <時期>周囲から検出されている遺構・遺物から中世に属すると思われる。

RB027 掘立柱建物跡 (第122図・写真図版97)

<位置>本遺跡の東側、1E25a区に位置する。 <重複関係>RA276より新しい。 <平面形式>身舎に2面廂が付く形態である。身舎は6間×2間で、廂を含めた規模は桁行6間(1590cm)、梁間3間(758cm)である。P1165-P1166の梁間では柱穴が検出されなかった。 <建物方位>桁行の軸方向でN-64°-Eである。 <柱間寸法>桁行では8.6尺(約261cm)、梁間では8.3尺(約251cm)を基準としていると思われるが、桁行の両端と梁間の廂となる部分では狭い寸法が使われている。 <出土遺物>なし。 <付属施設>検出されていない。 <建物の性格>建物の大きさから母屋と考えられる。 <時期>建物の平面形式や周辺から検出されている遺構・遺物などから中世に属すると思われる。



第120図 RB025掘立柱建物跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1154	15×15	7.5	
1155	23×26	49.7	
1156	27×26	33.1	
1157	26×28	36.0	
1158	23×26	44.3	
1159	30×28	22.1	
1160	26×25	29.7	
1161	31×30	54.1	
1162	29×25	38.2	

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1163	30×30	31.8	
1164	35×25	41.4	
1165	25×25	39.3	
1166	24×25	51.7	
1167	26×26	49.0	
1168	23×25	25.0	
1169	35×34	34.9	
1170	20×20	9.5	
1171	34×31	39.9	

柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
1172	35×36	47.3	
1173	16×14	7.5	
1174	23×20	45.5	
1175	30×32	46.8	
1176	38×33	47.6	
1177	30×25	23.0	
1178	20×20	4.7	
1179	20×22	23.4	

第122図 RB027掘立柱建物跡

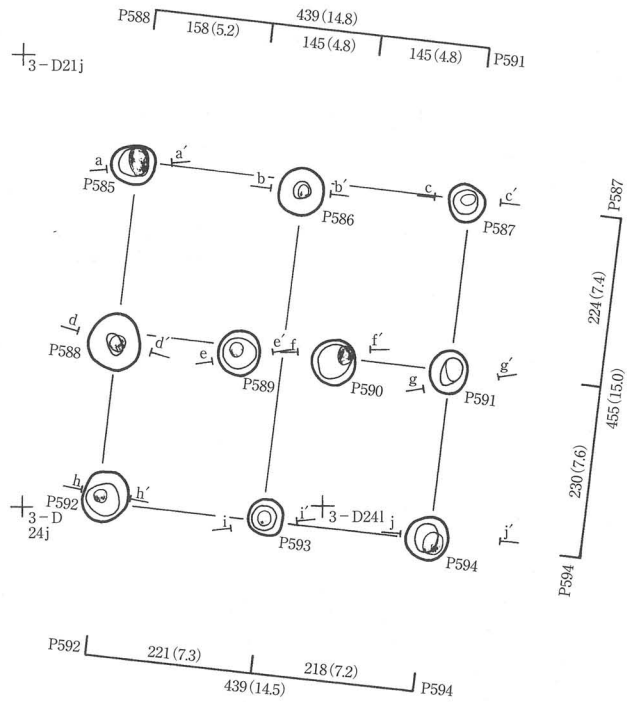
R B 0 2 8 掘立柱建物跡 (第124図・写真図版98)

<位置>遺跡の西側、1-C16p区に位置している。 <重複関係>R G 268より新しい。R G 073より古い。
<平面形式>掘立柱建物で母屋と厩の覆い屋からなる構造である。母屋は上屋柱と下屋柱からなり、規模は桁行6.5間 (1233cm) × 梁間 3 間 (149cm) である。間取りは北側が下手、南側が上手となっていたと思われるが、間仕切りの柱穴を見つけられなかったので詳細は不明である。間仕切が存在しなかったのではなく柱穴の掘り込みが浅いため検出できなかったと解釈したい。北西側の張出部は柱穴の位置関係から母屋に取り付く施設と思いい線をつないでみた。P 668とP 669は少し内側に入り込んでいるがそのことが何に起因するものかまでは解らない。出入口はP 644-P 645間ではないかと思われる。 厩の覆い屋部も上屋柱と下屋柱で構成され桁行 3 間 (564cm) に梁間 3 間 (493cm) の規模で、母屋に対し少し傾いている。厩のくぼみも検出されている。 <建物方位>母屋の桁行の軸方向はN-10°-W。厩の桁行の軸方向はE-19°-Nである。 <柱間寸法>様々な寸法が使用されているが、母屋では6.4尺 (約194cm) や6.2尺 (約188cm) 6.0尺 (約182cm) が多く用いられ、厩では6.2尺 (約188cm) を基準にしていると思われる。

<出土遺物> (第362図・写真図版344) 大堀相馬の碗 (719) が出土している。 <付属施設>東側に隣接する1×1間の掘立柱建物跡が本遺構に伴っていると思われる。 <建物の性格>平面形式から曲屋といえると思う。母屋より厩部は北側に柱一本分ずらして建てられていること、さらに厩部は母屋に対して平面的にやや傾いて取り付いていることなどから、始めは母屋のみの建物であったものに厩部分を後に建て増したのではないかと推測される。 <時期>近世の所属である。出土遺物から18世紀以降と考えられる。

R B 0 2 9 掘立柱建物跡 (第123図・写真図版99)

<位置>本遺跡の西側3-D21j区にて検出された。 <重複関係>R D 601より古い。 <平面形式>桁行 2 間 × 梁間 2 間の建物跡だが柱は10本で構成され、建物の中央に柱が2本配置される構造となっている。桁行きは一応南北方向の柱間寸法の方が東西方向よりも長かったため、ここでは南北方向を桁行としておく。 <建物方位>N-9°-Eとなる。 <柱間寸法>計測すると南北方向の柱間寸法が東西方向よりも若干長い、概ね正方形を基調とするプランであることから7.5尺を基本とし、P 588-P 591間は5尺を用いていると思われる。 <出土遺物>なし。 <建物の性格>平面形式から高床式の倉庫を推定している。 <時期>周囲から検出されている遺構の状況から平安時代の可能性が高い。



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
585	63×55	47.5	
586	64×61	40.2	
587	54×51	53.0	
588	78×70	50.5	
589	64×59	28.5	
590	63×60	33.7	
591	58×53	48.3	
592	70×63	49.5	
593	49×48	38.0	
594	61×59	43.7	

L = 121.900m



- P585
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。



- P586
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。



- P587
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。



- P588
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。



- P589
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。



- P590
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。



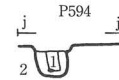
- P591
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。



- P592
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。

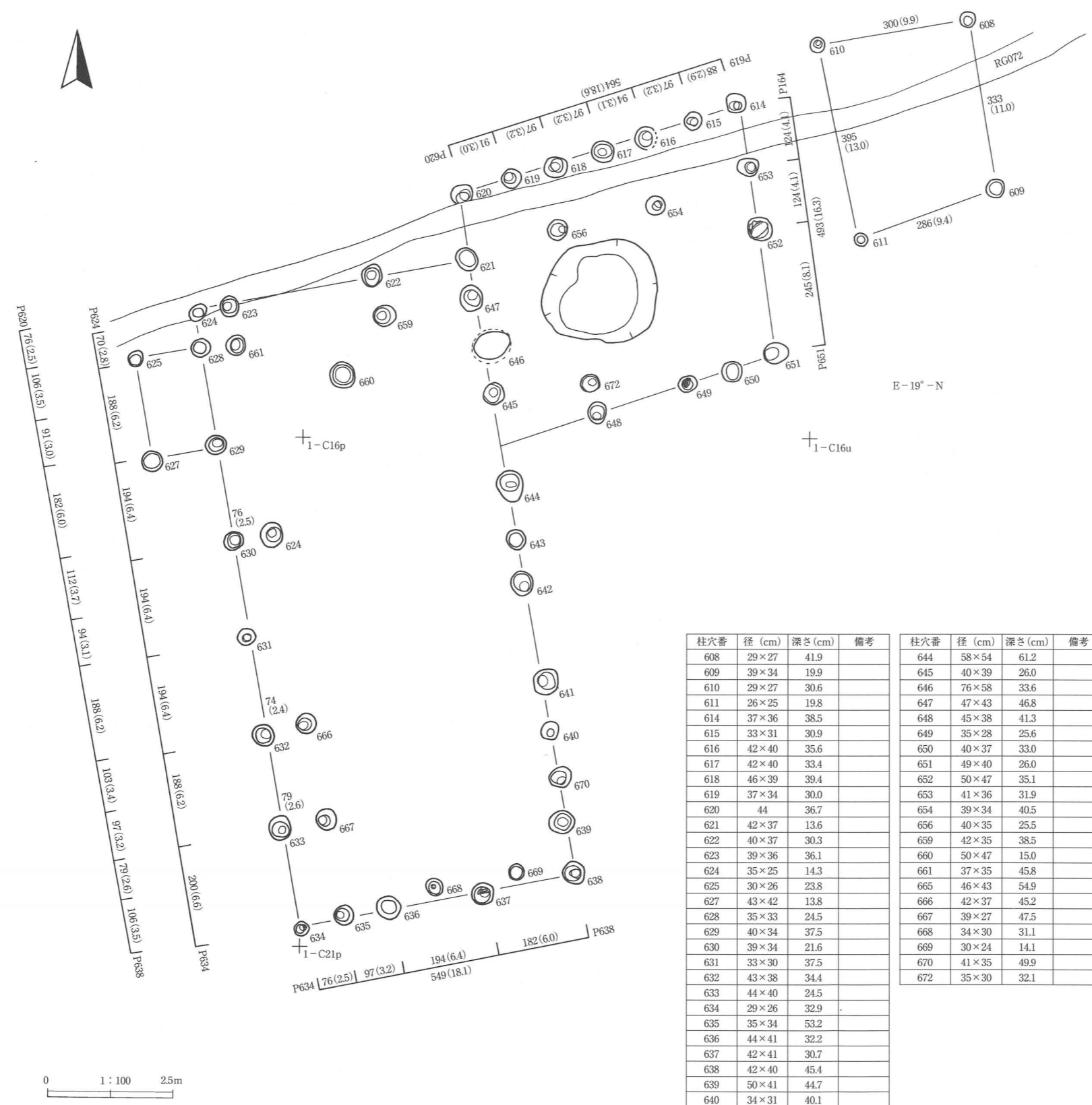


- P593
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。



- P594
- 10YR2/3黒褐色土 粘性有り。
縮まりやや有り。
 - 10YR2/3黒褐色土 粘性・縮まり有り。

第123図 RB029掘立柱建物跡



柱穴番	径 (cm)	深さ (cm)	備考
608	29×27	41.9	
609	39×34	19.9	
610	29×27	30.6	
611	26×25	19.8	
614	37×36	38.5	
615	33×31	30.9	
616	42×40	35.6	
617	42×40	33.4	
618	46×39	39.4	
619	37×34	30.0	
620	44	36.7	
621	42×37	13.6	
622	40×37	30.3	
623	39×36	36.1	
624	35×25	14.3	
625	30×26	23.8	
627	43×42	13.8	
628	35×33	24.5	
629	40×34	37.5	
630	39×34	21.6	
631	33×30	37.5	
632	43×38	34.4	
633	44×40	24.5	
634	29×26	32.9	
635	35×34	53.2	
636	44×41	32.2	
637	42×41	30.7	
638	42×40	45.4	
639	50×41	44.7	
640	34×31	40.1	
641	49×45	40.3	
642	44×40	31.6	
643	38×34	14.4	
644	58×54	61.2	
645	40×39	26.0	
646	76×58	33.6	
647	47×43	46.8	
648	45×38	41.3	
649	35×28	25.6	
650	40×37	33.0	
651	49×40	26.0	
652	50×47	35.1	
653	41×36	31.9	
654	39×34	40.5	
656	40×35	25.5	
659	42×35	38.5	
660	50×47	15.0	
661	37×35	45.8	
665	46×43	54.9	
666	42×37	45.2	
667	39×27	47.5	
668	34×30	31.1	
669	30×24	14.1	
670	41×35	49.9	
672	35×30	32.1	

第124図 RB028掘立柱建物跡

5 墓壙（中世）及び土坑

今回の調査では405基の墓壙及び土坑を登録した。調査区のほぼ全域から検出されるが、その中でも密に分布するのは遺跡南側中央部でここには中世の墓壙が多数みられ墓域を形成していた（第16図）。この他には調査区の西端や遺跡中央部やや東側の2C区周辺と遺跡西側の3-D区には土坑が比較的まとまって分布している。時期別にみても奈良・平安時代及びその可能性があるもの3基、中世に属するもの358基、近世～近代42基、時期不明2基である。個々の遺構の諸特徴や出土遺物については観察表にまとめたので、ここでは代表的なものについてのみ触れたい。

本遺跡の中央部南側にあたる地域（3B・4B区）からは中世の墓壙約330基が密集して検出されている。因みにこの地域の現況は休耕田であり、地表面には石塔や墳丘といった墓に関連するような痕跡が一切残っていなかった。検出された墓壙の平面形態は隅丸長方形を基調とするものが最も多く、長軸が短軸の倍以上の長さをもち掘り込みが比較的浅いものや、逆に正方形に近いものなどが見られる。規模を見ると最大でRD680の4.9㎡、最小でRD579の0.2㎡で1.4㎡位が最も多い。長軸方向は概ね南北方向となるものと東西を向くものが殆どであるが規則的な配置を呈するわけでもない。埋土を見るとその殆どが黒褐色土と黄褐色或いは褐色土の混合土で人為堆積の様相を呈している。埋葬の際に棺などに入れていたような痕跡は確認できなかったため直葬であったと思われるが、人骨は全く残っていなかった。遺体埋納に関する情報を得るため覆土の分析も検討したが、今回の調査では見合わせることにした。墓壙間の重複も激しく、最大4回の重複が認められるものもある。中世の墓壙群は前述した中央部南側にあたる地域（3B・4B区）の周辺にも数は少ないながら展開しており、墓壙群より北東側の2C区や南東方向の4D区にも散見される。

RD298（第129図・写真図版109・110）では北壁際の底面より数cm高い位置から北宋銭が12枚、密着した状態で出土した。これらの銭貨を通していた紐も僅かだが残っていた。RD460の埋土中位からは青磁碗453（第325図・写真図版314）の破片が出土した。RD712とRD738からも中国銭564・565・566（第336・337図・写真図版323・324）が出土しているが、その他大多数の墓壙からの遺物の出土はなく、基本的には銭貨や陶磁器など後世に残るような物は副葬していないようである。RD712・713・738では埋土中から焼土・炭粒とともに焼けた人骨が出土していることから火葬墓と思われる。何れも土坑墓より規模が小さく、平面形態も不整形である。この中でRD712・713はRG198溝跡と重複し、溝より新しい。他に類例があるか解らないが、溝であったところを意図的に選んでいる可能性があると思われる。ただそうすることの意味については判然としない。

RD789は遺跡南端中央部に位置しており、北側には中世の竪穴建物跡や墓壙群が隣接し南側はすぐ湿地が広がっている。RD789はこの湿地となる岸際にRZ014とともに掘られており、埋土には炭粒の他に中小の自然礫を含んでいた。また陶磁器類や木製品なども出土し廃棄施設的な使われ方を想定している。RD469に関しても同様の性格であろうか。

RD597は出土遺物から近世の墓であることが明らかになった。今回の調査区内の1C区には前地権者の墓地があって、改葬を行っている。墓地の場所はRG264の東側半分とRG045の北端部にあたる。RD597に隣接するRD557も近世墓であり、RD562・563もその可能性がある。この他に近世及びそれ以降に位置付けられる火葬墓が遺跡西側の1-C区から4基が互いに接するような状態で検出された。位置的にRB028に関連する墓の可能性もある。

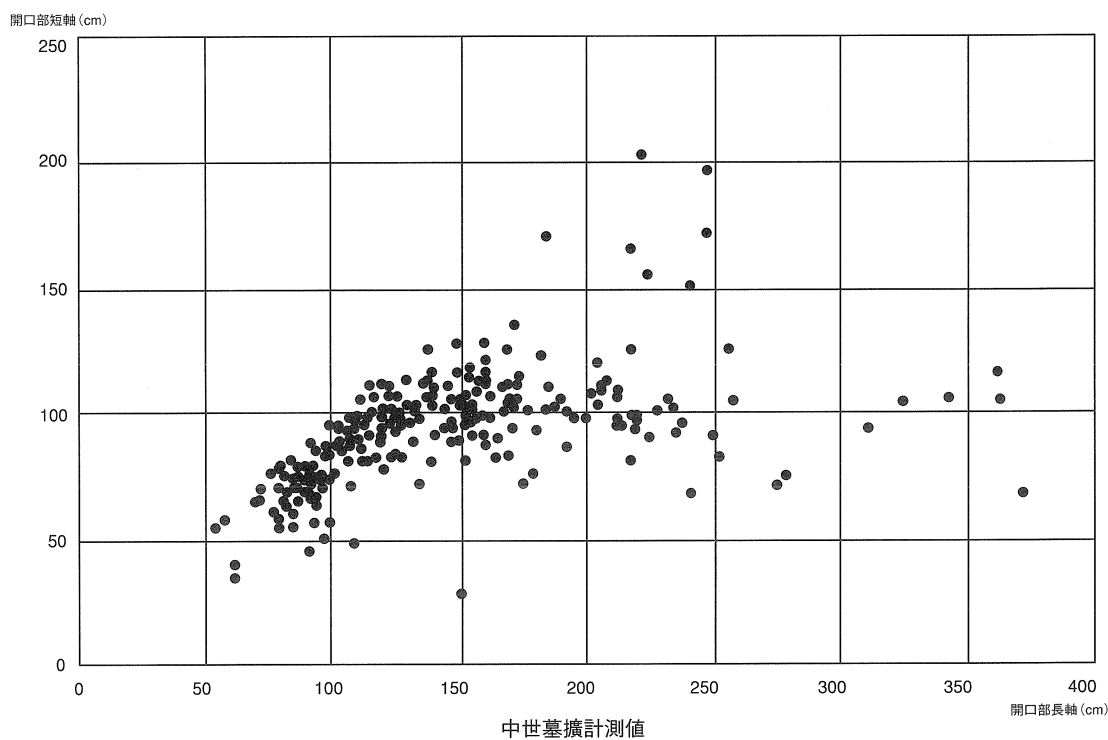
RD313・314は遺跡南側に位置する中世の堀跡RG083・084に囲まれた内側から検出された。堀内部には現在、諏訪神社が建っており、これらの土坑は鳥居を挟んで神社の反対方向に位置している。出土遺物

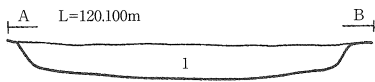
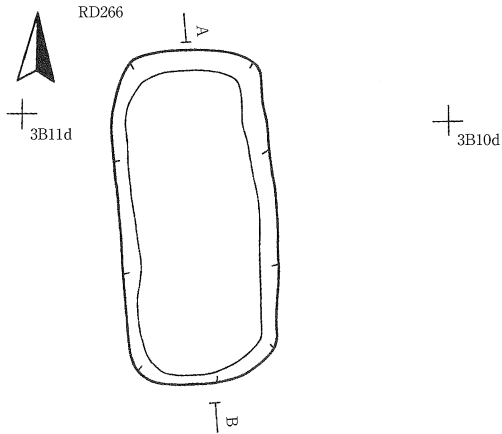
が無く時期判定は難しいが、堀跡 R G 083・084に伴うのであれば中世、諏訪神社に伴うのであれば隣接する R E 028と同様に近世以降になると考えられる。

近世から近代に位置付けられる土坑は42基検出されている。R D 331は陶磁器や明治の銭と共に木杵が出土しており土坑ではなく井戸跡としたほうが妥当かもしれない。R D 320は近世の掘立柱建物跡 R B 024 (厩部) に伴う掘り込みである。R D 419・420からは馬の骨が出土した。骨の残りは良くなかったが脚を折り曲げ、頭部を西側にして納められているように観察された。時期は近世及びそれ以降のものである。

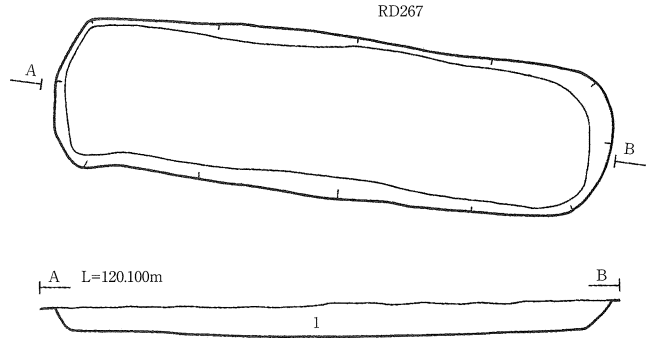
R D 649からは近世～近代にかけての陶磁器がまとまって出土した。その状況からこの時期に使われた破棄施設と考えられ、隣接する R D 379・622・624・648・813・814も同様の目的で大凡同じ地点に何回も構築された結果として互いに重複した状態で検出されている。

R D 632は底面付近から須恵器の坏・甕と土師器甕片がまとまって出土しており平安時代の土坑と考えられる。R D 816からも平安時代の土師器片が出土していることと埋土に十和田 a 火山灰を含んでいることから平安時代に位置付けられる。また R D 816との重複関係で古い R D 817も同じく平安時代に属すると思われる。

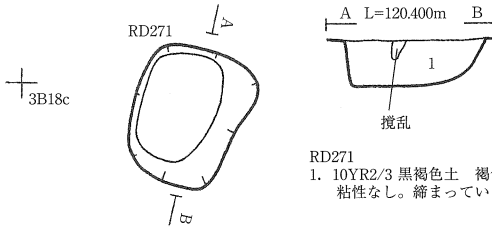




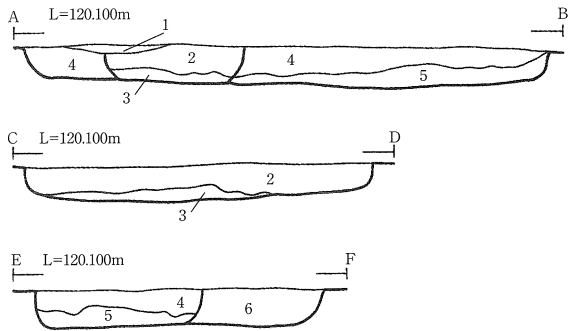
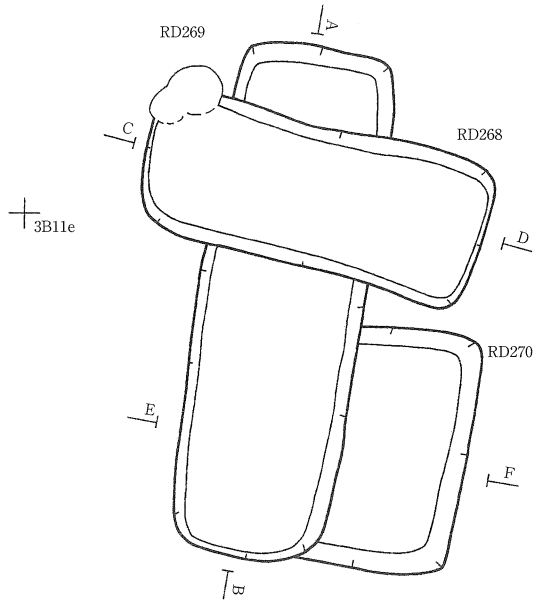
RD266
1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土及び暗褐色砂質土を部分的に含む。粘性やや有り。縮まりややなし。



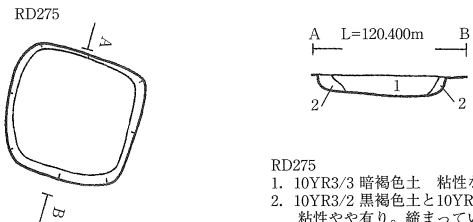
RD267
1. 10YR2/2 黒褐色土と7.5YR3/3 暗褐色砂質土及び10YR3/3 暗褐色土の混合土。粘性やや有り。縮まりややなし。



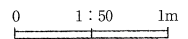
RD271
1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック含む。粘性なし。縮まっている。



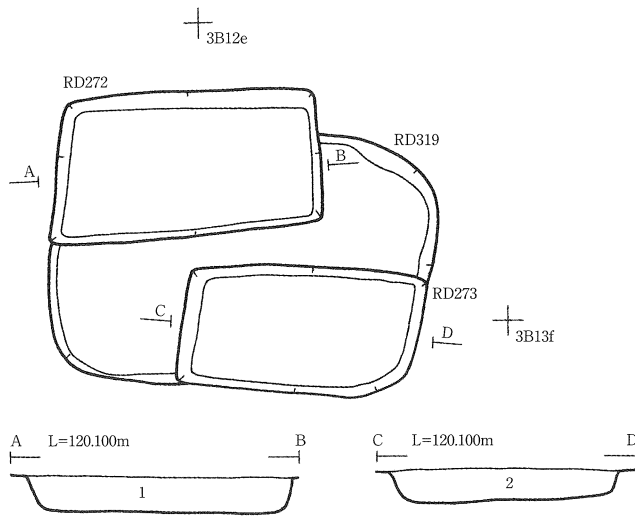
RD268・269・270
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
2. 10YR2/2 黒褐色土に褐色土や黒褐色砂質土が多量に混じる。粘性やや有り。縮まり有り。
3. 10YR4/4 褐色砂質土 黒褐色土ブロック含む。粘性なし。縮まりやや有り。
4. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック微量含む。粘性やや有り。縮まっている。
酸化鉄斑部分的に見られる。
5. 10YR4/4 褐色砂質土を主体に、黒褐色土ブロックを多量含む。粘性やや有り。縮まっている。
6. 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性有り。縮まっている。



RD275
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まっている。
2. 10YR3/2 黒褐色土と10YR4/4 褐色土の混合土。粘性やや有り。縮まっている。

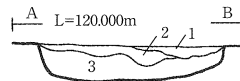
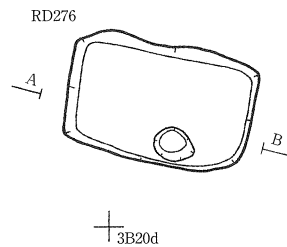


第125図 RD266~271・275 土坑



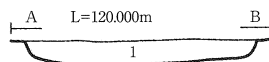
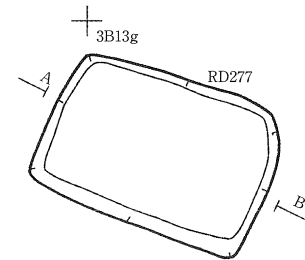
RD272・273・319

- 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色・褐色土ブロックの極小粒を微量含む。粘性やや有り。締まっている。
- 10YR3/2 黒褐色土 暗褐色土ブロック小粒を極微量含む。粘性やや有り。締まっている。



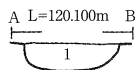
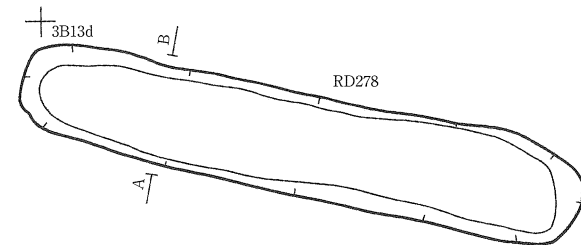
RD276

- 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性なし。かたく締まっている。径1mmに満たない微細で白い粒子を含む。褐色土ブロック含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。締まっている。径1mmに満たない微細で白い粒子を含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。焼土を微量に含む。褐色土ブロック含む。



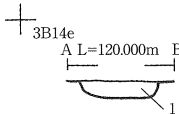
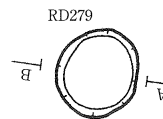
RD277

- 10YR2/3 黒褐色土の中に、褐色土ブロック、暗褐色土ブロックを不規則に含む。粘性やや有り。締まり有り。



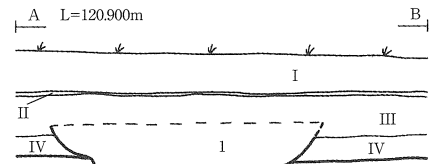
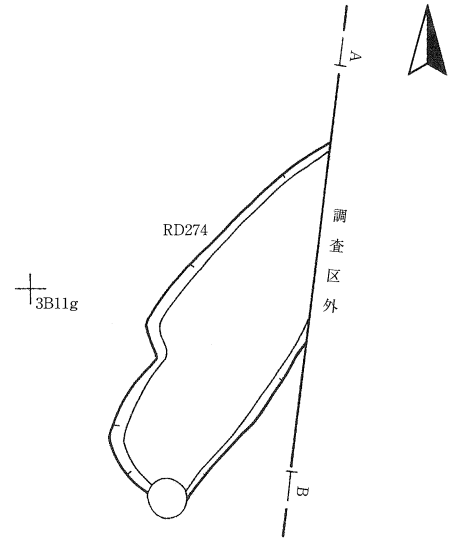
RD278

- 10YR2/2 黒褐色土と、褐色土及び暗褐色土の混合土。粘性やや有り。締まっている。



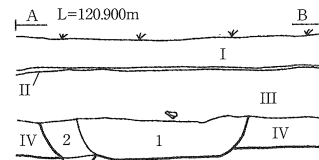
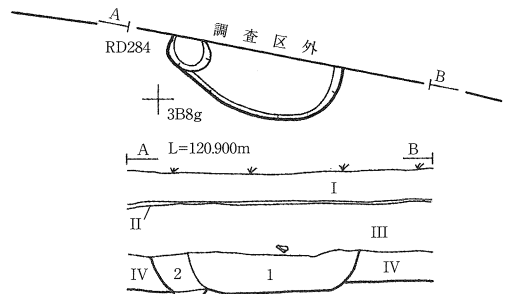
RD279

- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック中～小粒を微量含む。粘性やや有り。締まっている。



RD274

- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック・炭粒を極微量含む。粘性やや有り。締まっている。



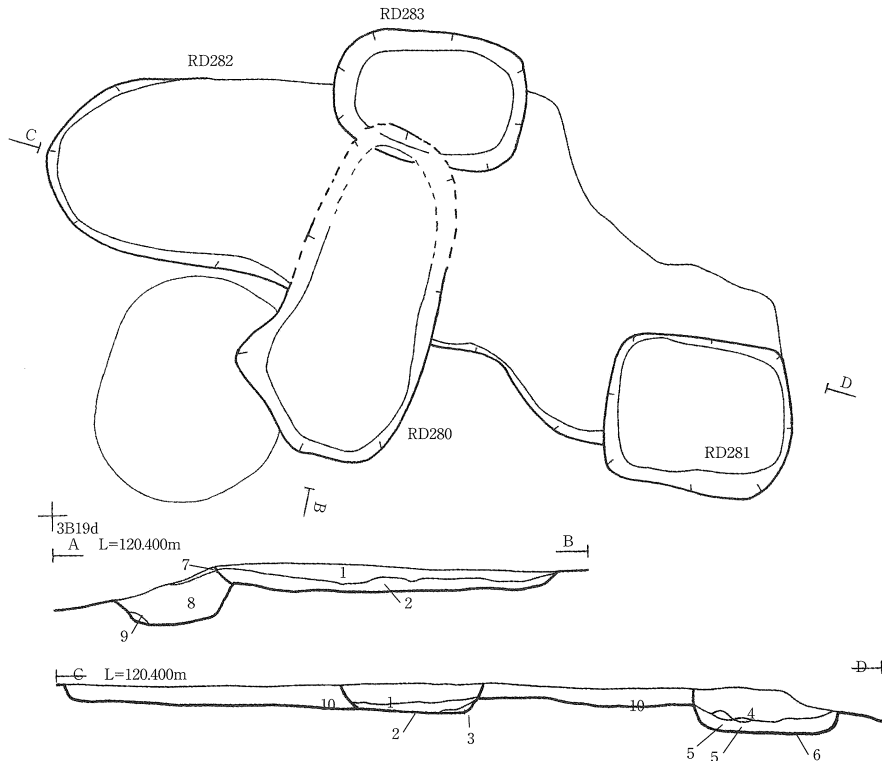
RD284

- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック中小粒を少量含む。粘性やや有り。締まっている。
- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック大～小粒を多量に含む。粘性やや有り。締まり有り。

0 1:50 1m

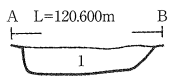
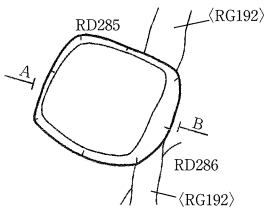
第126図 RD272～274・276～279・284・319 土坑

3B17d



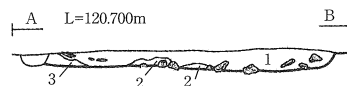
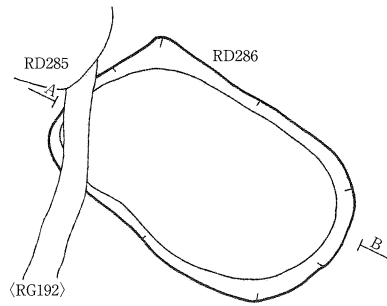
RD280~283

1. 7.5YR2/3 極暗色土 粘性なし。締まっている。褐色土ブロック微量含む。径1mm弱の白色微細粒子を含む。炭化物を多量、焼土微量含む。
2. 7.5YR2/3 極暗色土を中心に10YR4/4 褐色土を含む。粘性やや有り。締まっている。炭化物を微量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。締まりややなし。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まっている。径1mm弱の白色微細粒子を多く含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性なし。締まっている。ブロックで存在する。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。褐色土ブロック含む。
7. 7.5YR2/3 極暗色土 粘性なし。締まっている。径1mm弱の白色微細粒子含む。褐色土微量含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土と7.5YR4/4 褐色土との混合土。径1mm弱の白色微細粒子を多く含む。炭化物微量含む。粘性やや有り。締まっている。部分的に酸化鉄が見られる。
9. 7.5YR4/4 褐色土 粘性あり。締まっている。
10. 7.5YR3/2 黒褐色土と黒褐色土 10YR3/4 との混合土。粘性なし。締まっている。

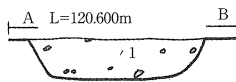
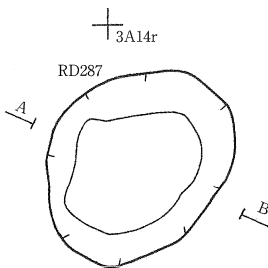


- RD285
1. 10YR2/3 黒褐色土 その中に褐色土ブロック大~小粒を少量含む。粘性・締まりやや有り。

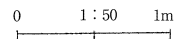
3A13r



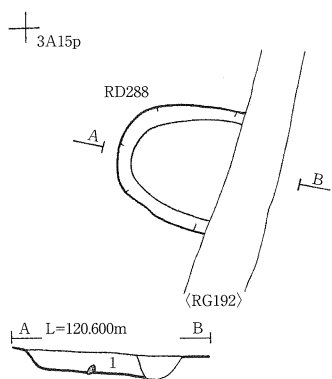
- RD286
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。(遺物含)
 2. 7.5YR5/8 明褐色土 粘性なし。締まっている。
 3. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まっている。



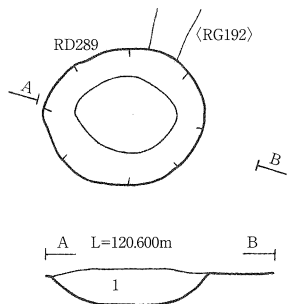
- RD287
1. 10YR4/4 褐色砂質土 河原石(小)を多量に含む。粘性なし。締まっている。



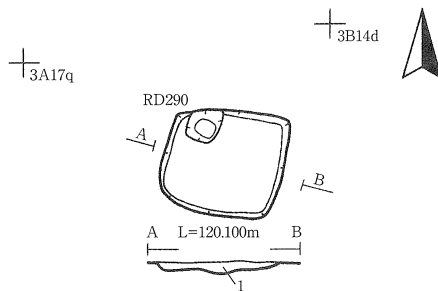
第127図 RD280~283・285~287 土坑



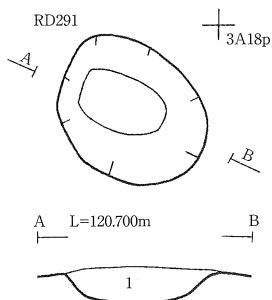
RD288
1. 10YR3/2 黒褐色土
粘性やや有り。締まっている。



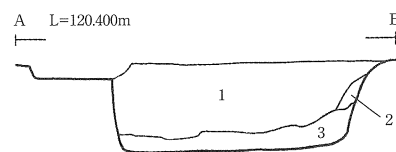
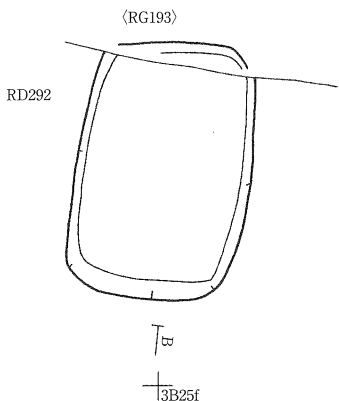
RD289
1. 10YR2/3 黒褐色土 小～極小の河原石を多量に含む。
粘性・締まりやや有り。



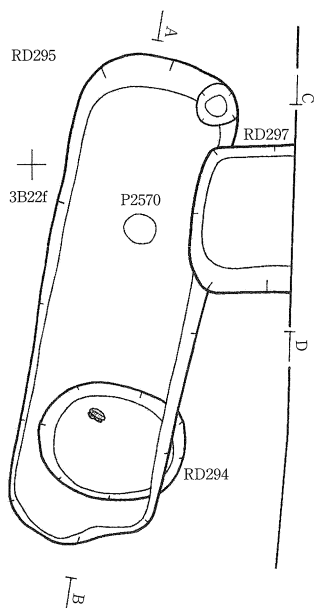
RD290
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。
締まっている。



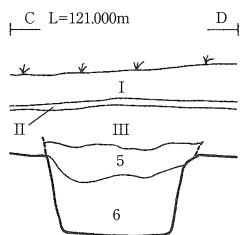
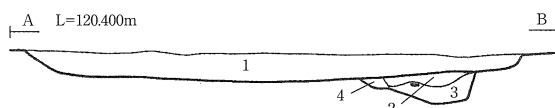
RD291
1. 10YR2/3 黒褐色土 小礫少量含む。
粘性やや有り。締まっている。



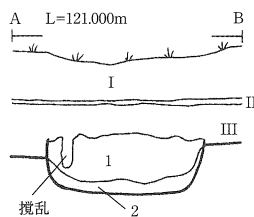
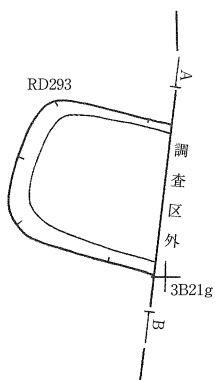
RD292
1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック中～極小粒を少量含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR4/6 褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む。粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック小～極小粒を多量に含む。粘性やや有り。締まっている。



0 1:50 1m

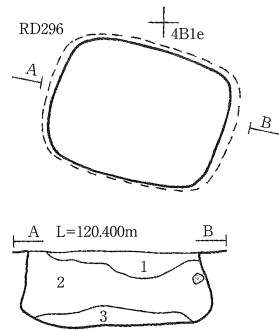


RD294・295・297
1. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロックを多量に含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック極小粒を少量含む。粘性やや有り。締まっている。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まっている。褐色土ブロック含む。焼土、炭化物を含む。径10～20mmの河原石を含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土と褐色土、黒色土の混合土。粘性やや有り。締まっている。



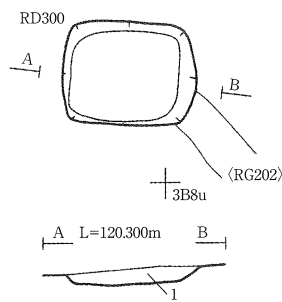
RD293
1. 10YR3/3 暗褐色土と 10YR4/6 褐色土との混合土。粘性なく、締まっている。粒子の粗い砂を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まっている。褐色土ブロックを含む。

第128図 RD288～295・297 土坑



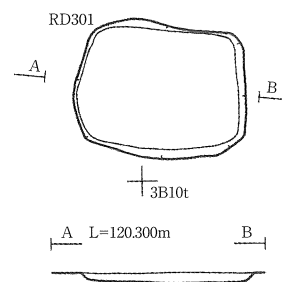
RD296

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。よく縮まっている。
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック小粒を微量含む。粘性・縮まりやや有り。
3. 10YR4/4 褐色土と黒褐色土の混合土。粘性やや有り。縮まりなし。



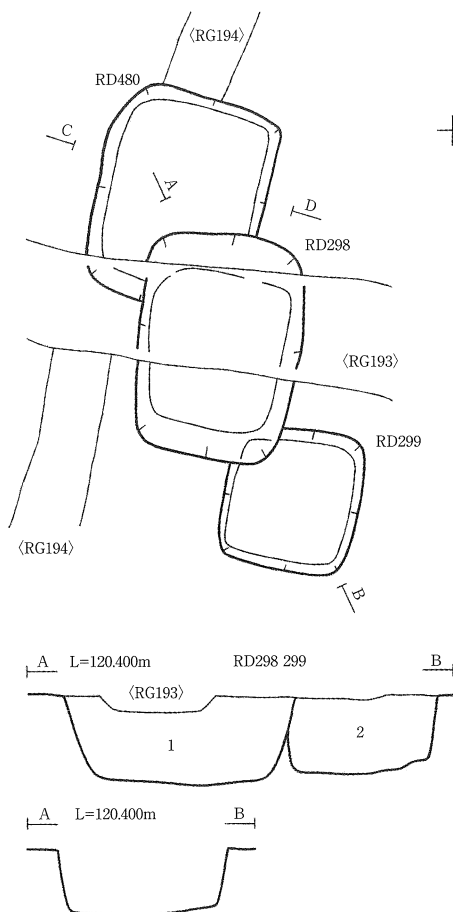
RD300

1. 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。かたく縮まっている。酸化鉄斑混入。



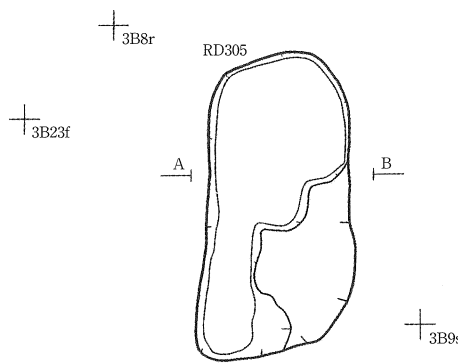
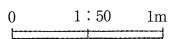
RD301

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。かたく縮まっている。



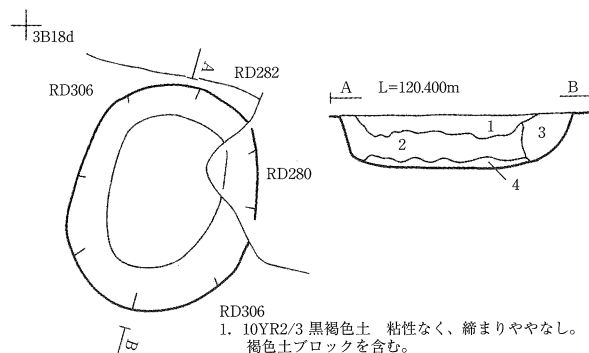
RD298・299

1. 7.5YR2/3 極暗褐色土 褐色土ブロック中〜大粒を多量に含む。粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック中〜小粒を多量に含む。粘性やや有り。縮まっている。



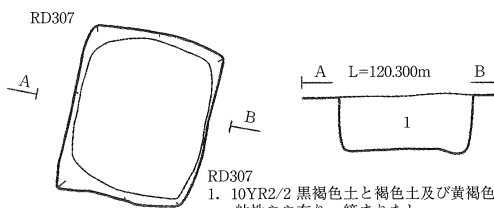
RD305

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。かたく縮まっている。水酸化鉄斑混入。



RD306

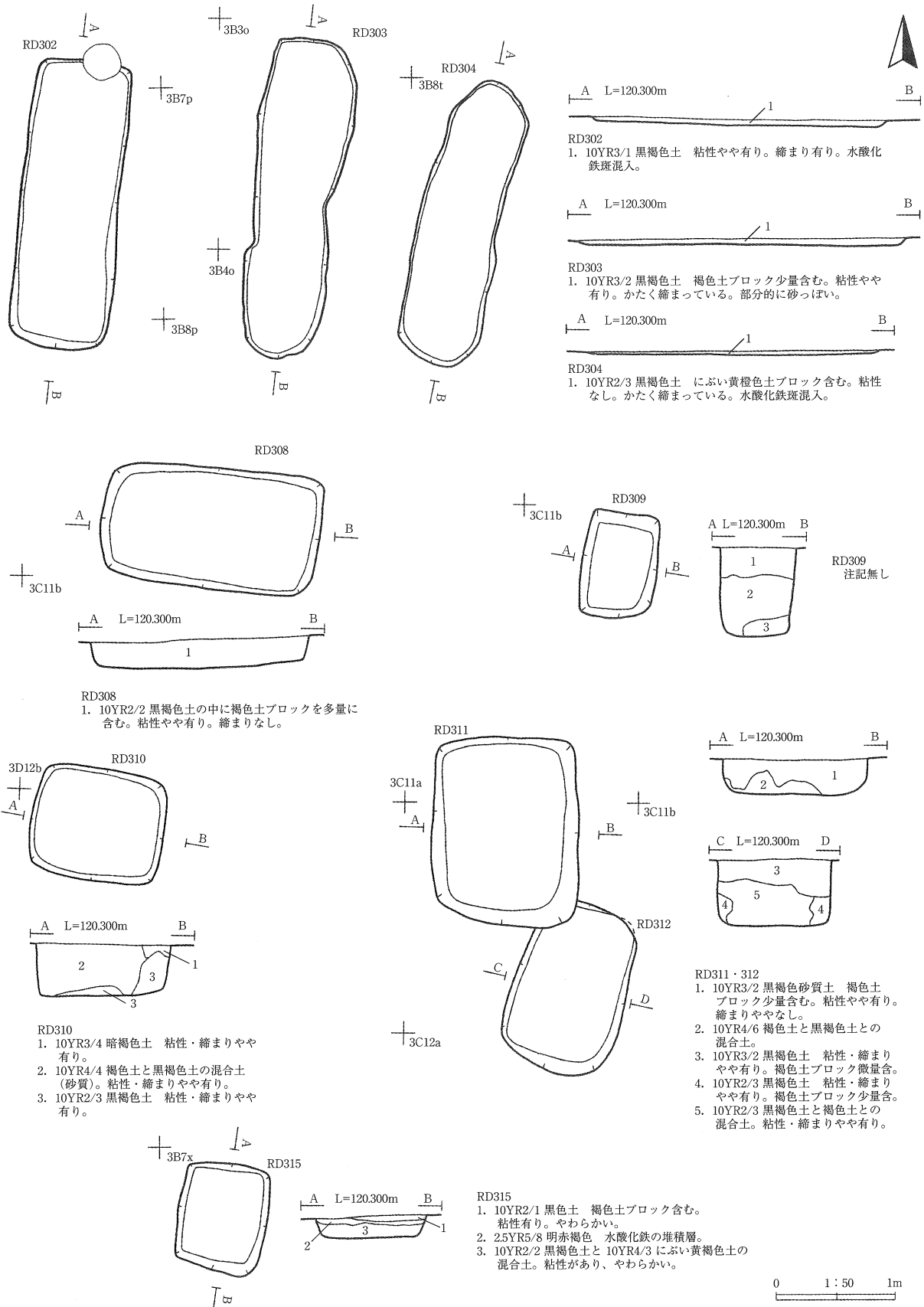
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なく、縮まりややなし。褐色土ブロックを含む。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まっている。
3. 10YR2/3 黒褐色土と 10YR3/4 暗褐色土の混合土。粘性なし。縮まりややなし。
4. 7.5YR4/4 褐色土 粘性なし。縮まりややなし。



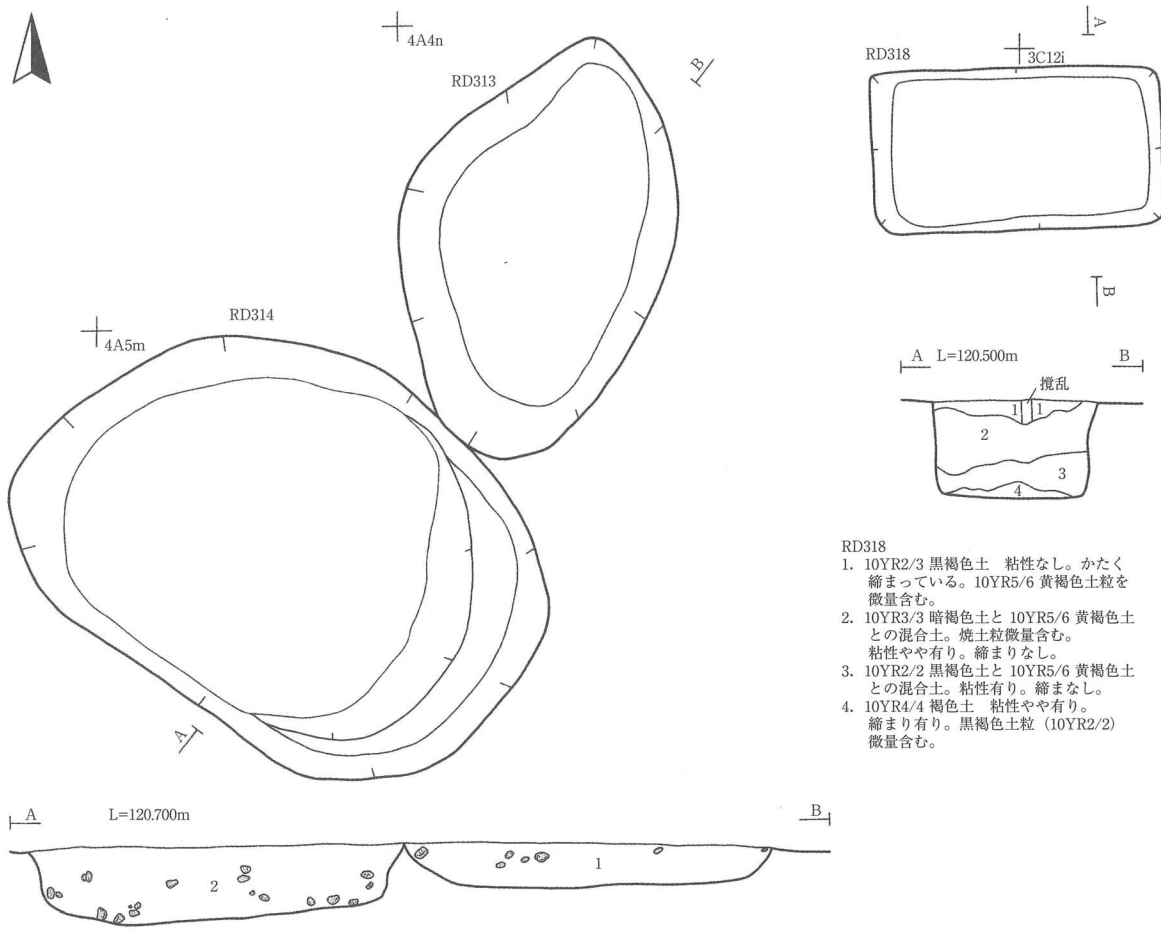
RD307

1. 10YR2/2 黒褐色土と褐色土及び黄褐色土の混合土。粘性やや有り。縮まりなし。

第129図 RD296・298～301・305～307・480 土坑

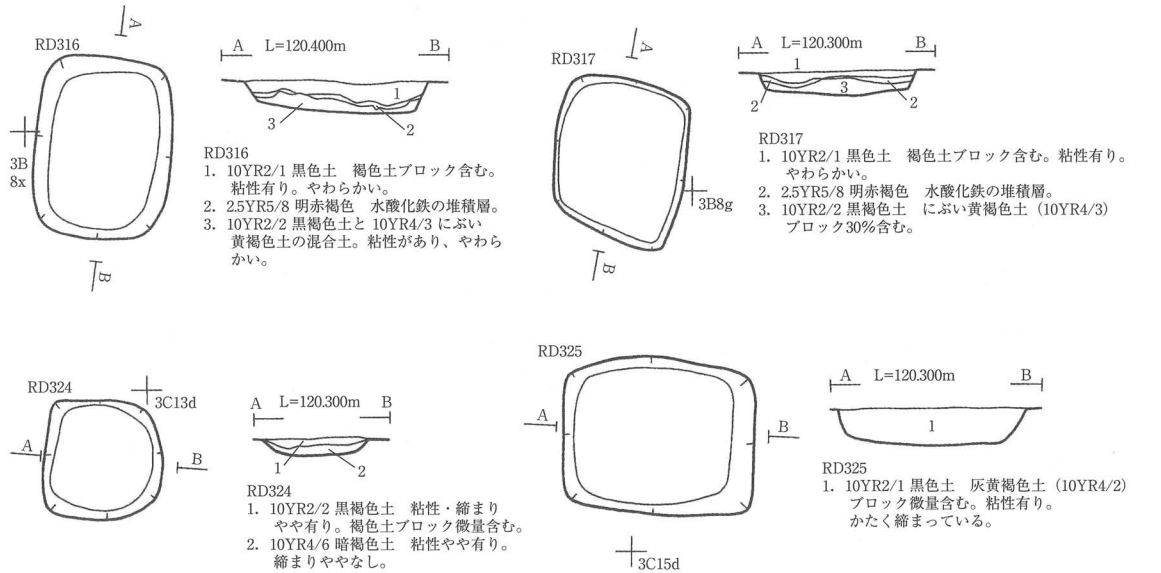


第130図 RD302~304・308~312・315 土坑



- RD318
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。かたく締まっている。10YR5/6 黄褐色土粒を微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土と 10YR5/6 黄褐色土との混合土。焼土粒微量含む。粘性やや有り。締まりなし。
 - 10YR2/2 黒褐色土と 10YR5/6 黄褐色土との混合土。粘性有り。締まりなし。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒褐色土粒 (10YR2/2) 微量含む。

- RD313・314
- 10YR2/3 黒褐色土 大小の河原石を多量に含む。粘性やや有り。締まっている。
 - 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック小～大粒を不規則に含む。河原石を多量に含む。粘性やや有り。締まっている。

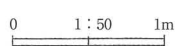


- RD316
- 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含む。粘性有り。やわらかい。
 - 2.5YR5/8 明赤褐色 水酸化鉄の堆積層。
 - 10YR2/2 黒褐色土と 10YR4/3 において黄褐色土の混合土。粘性があり、やわらかい。

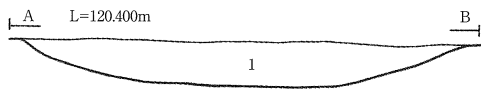
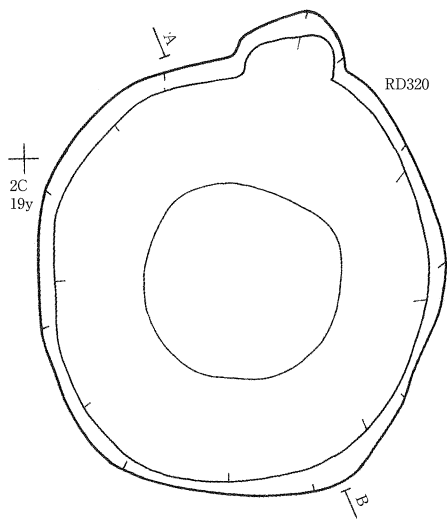
- RD317
- 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含む。粘性有り。やわらかい。
 - 2.5YR5/8 明赤褐色 水酸化鉄の堆積層。
 - 10YR2/2 黒褐色土 において黄褐色土 (10YR4/3) ブロック30%含む。

- RD324
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。
 - 10YR4/6 暗褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。

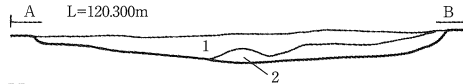
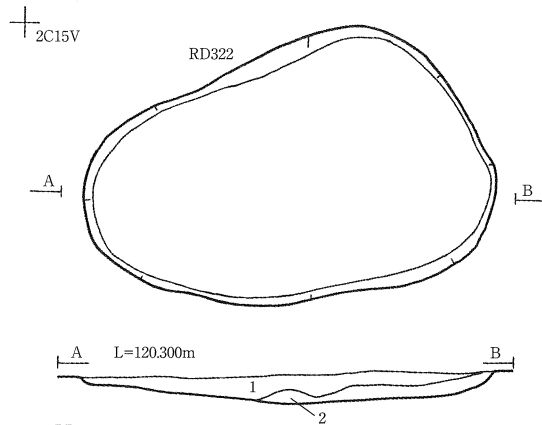
- RD325
- 10YR2/1 黒色土 灰黄褐色土 (10YR4/2) ブロック微量含む。粘性有り。かたく締まっている。



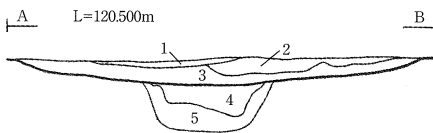
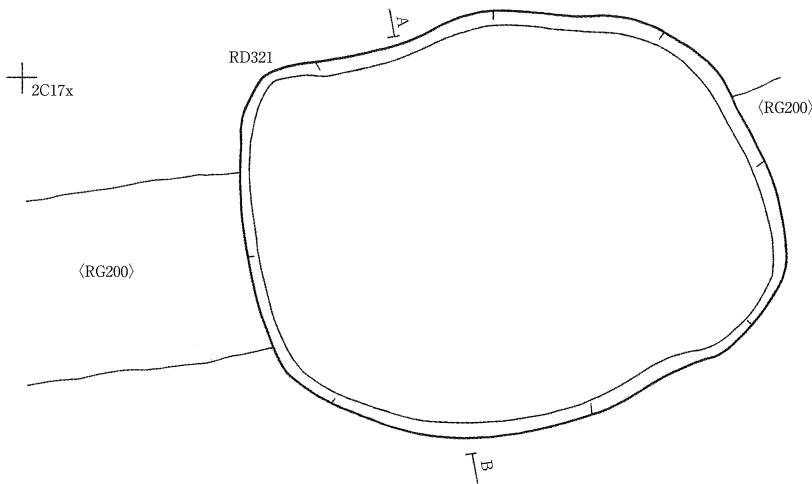
第131図 RD313・314・316～318・324・325 土坑



RD320
1. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック小粒を微量含む
粘性やや有り。縮まり有り。

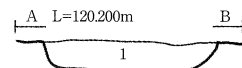
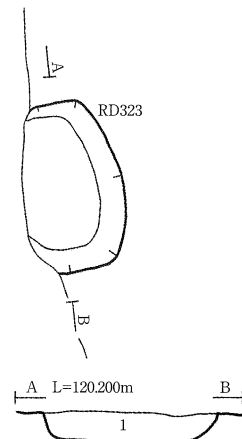


RD322
1. 10YR3/2 黒褐色土 河原石少量含む。粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。
縮まり有り。

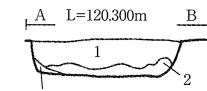
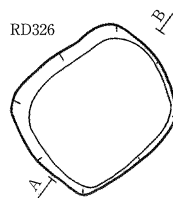


RD321
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄斑混入。
2. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まり有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まり有り。
水酸化鉄斑混入。

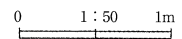
※45はRG200溝跡



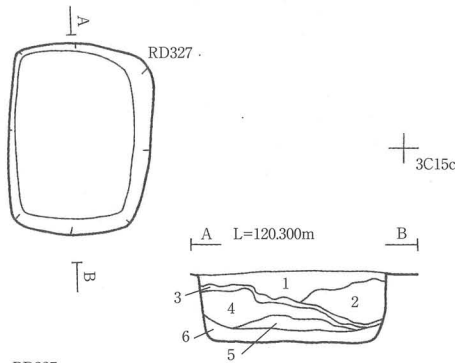
RD323
1. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック多量含む。
粘性なし。縮まり有り。



崩落土
RD326
1. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR3/4 暗褐色土との混合土。粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有り。縮まりややなし。黒褐色土小ブロック微量含。

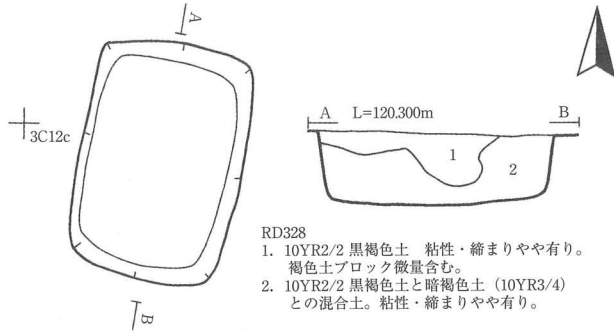


第132図 RD320~323・326 土坑



RD327

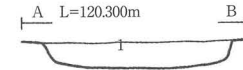
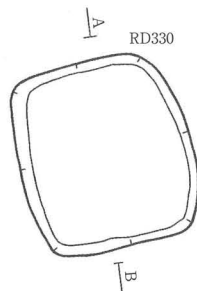
1. 10YR2/1 黒色土 におい黄褐色土 (10YR5/3) 小粒微量含む。粘性・縮まりやや有り。水酸化鉄斑混入。
2. 10YR2/1 黒色土と 10YR5/3 におい黄褐色土との混合土 粘性やや有り。縮まりややなし。水酸化鉄斑混入。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりやや有り。南側では砂を少量含む。水酸化鉄斑混入。
4. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR3/4 暗褐色土との混合土。粘性やや有り。縮まりなし。
5. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック微量含む。粘性やや有り。縮まっている。
6. 10YR2/2 黒褐色砂層 粘性・縮まりなし。



RD328

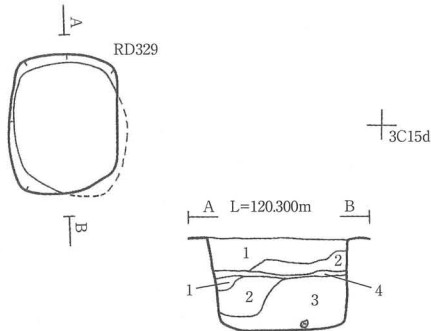
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土と暗褐色土 (10YR3/4) との混合土。粘性・縮まりやや有り。

2C15t



RD330

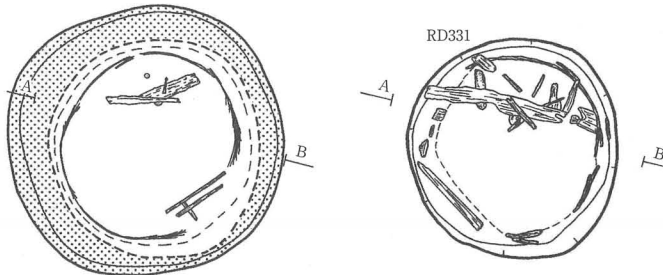
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) 40%含む。



RD329

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土小粒微量含む。粘性・縮まりやや有り。砂を微量に含む。
2. 10YR2/1 黒色土と 10YR6/4 におい黄褐色土との混合土。粘性やや有り。縮まりなし。炭を微量、砂を多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりややなし。砂を多く含む。水酸化鉄斑混入。
4. 5YR4/8 赤褐色 水酸化鉄の堆積層。

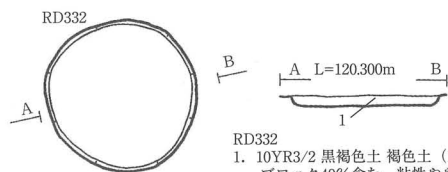
RD331掘り方



2C15s

2C15s

2C13t

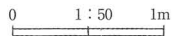


RD332

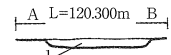
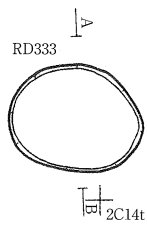
1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4) ブロック40%含む。粘性やや有り。縮まり有り。

RD331

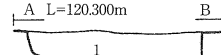
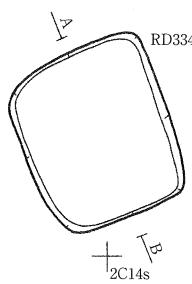
1. 10YR3/2 黒褐色土を中心に 10YR4/4 褐色土を50%程、微量の炭を含む。粘性やや有り縮まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4) を1%程含む。粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄と炭を微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4) を50%程含む。粘性やや有り。縮まり有り。炭少量含。水酸化鉄斑混入。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭を1%程含む。水分多い。木片有り。微量の水酸化鉄斑混入。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。微量の炭を含む。水分多い。



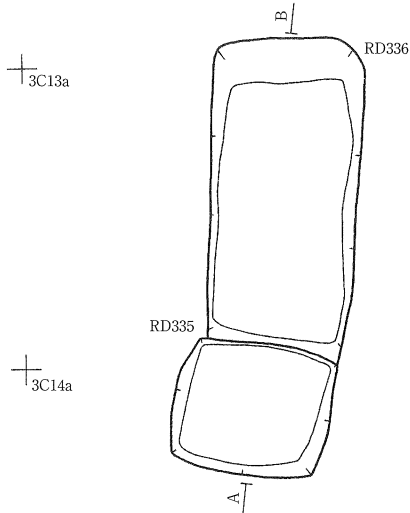
第133図 RD327~332 土坑



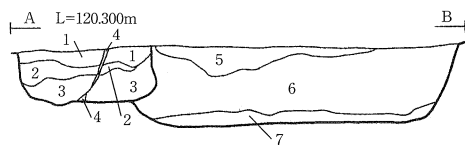
RD333
1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4) ブロック含む。粘性やや有り。縮まり有り。



RD334
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) ブロック15%程含む。

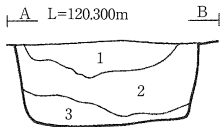
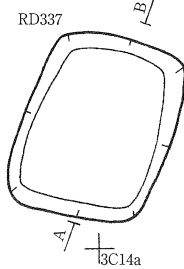


3C14a



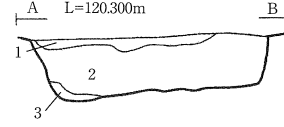
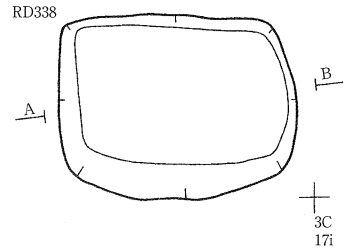
RD335・336

- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土小ブロック微量含む。粘性ややなし。かたく縮まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4) ブロック含む。水酸化鉄斑混入。
- 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色砂質土 (10YR3/3) ブロック含む。粘性・縮まりやや有り。水酸化鉄斑混入。
- 5YR3/6 暗赤褐色 水酸化鉄の堆積層。
- 10YR2/3 黒褐色土と 10YR3/4 暗褐色砂質土との混合土・粘性・縮まりなし。
- 10YR2/2 黒褐色土と 10YR3/4 暗褐色砂質土との混合土。粘性有り・縮まりなし。径20~40mmの河原石を微量含む。
- 10YR3/4 暗褐色砂質土。粘性・縮まりややなし。



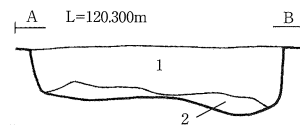
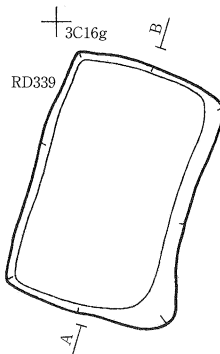
RD337

- 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土 (10YR3/4) 小ブロック微量含む。粘性やや有り。縮まりなし。
- 10YR4/4 褐色土 粘性有り。縮まりなし。
- 10YR4/4 褐色土 粘性有り。縮まりなし。砂利を多量含む。



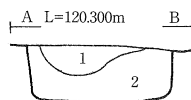
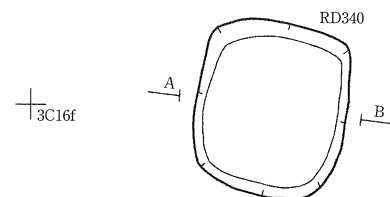
RD338

- 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。かたく縮まっている。水酸化鉄斑混入。
- 10YR2/1 黒色土と10YR5/3 黄褐色砂質土との混合土。粘性やや有り。縮まりややなし。水酸化鉄斑混入。
- 10YR4/3 黄褐色粘土質土 粘性にとも、縮まっている。水酸化鉄斑混入。



RD339

- 10YR2/1 黒色土と 10YR5/3 黄褐色砂質土との混合土 粘性やや有り。縮まりややなし。炭を微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 10YR4/4 褐色砂質土 粘性やや有り。縮まりややなし。黒色土 (10YR2/1) 小ブロック含む。水酸化鉄斑混入。

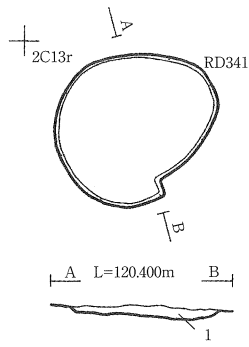


RD340

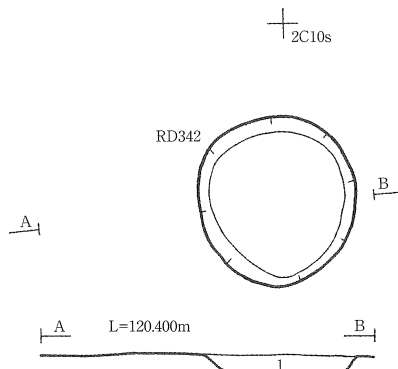
- 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色砂質土 (10YR5/3) ブロック微量含む。粘性やや有り。かたく縮まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土と 10YR5/3 黄褐色砂質土との混合土。粘性やや有り。縮まりややなし。水酸化鉄斑混入。

0 1:50 1m

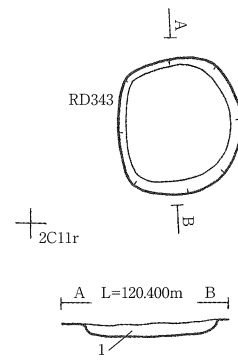
第134図 RD333~340 土坑



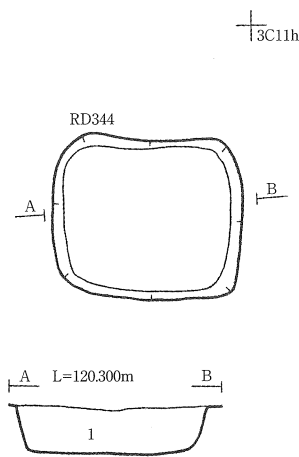
RD341
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。
縮まり有り。褐色土 (10YR4/4)
多量含む。



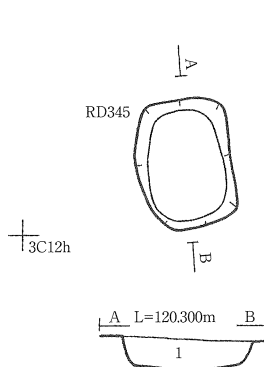
RD342
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
褐色土ブロック (10YR4/4) 大量に含む。



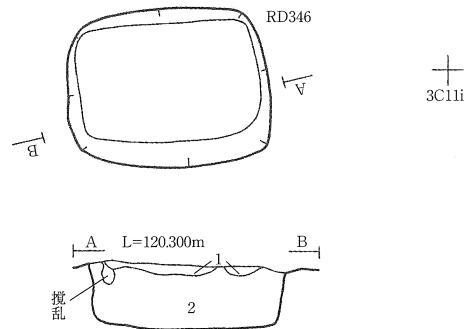
RD343
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。
縮まり有り。褐色土 (10YR4/4)
多量含む。



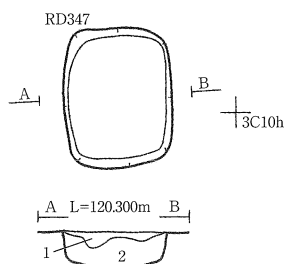
RD344
1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4)
ブロック含む。
粘性やや有り。縮まりややなし。



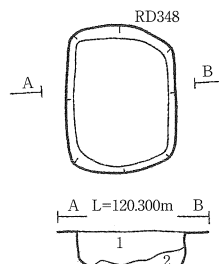
RD345
1. 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土
(10YR3/4) ブロック微量含む。
粘性・縮まりややなし。



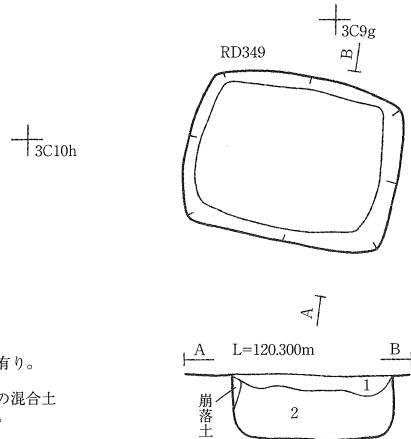
RD346
1. 10YR2/2 暗褐色土 褐色土 (10YR4/4) ブロック
微量含む。粘性ややなし。縮まりやや有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR4/4 褐色土との
混合土。粘性やや有り。縮まりややなし。



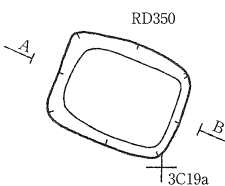
RD347
1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4)
ブロック微量含む。粘性やや有り。
縮まりややなし。
2. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR4/4 褐色砂質土と
の混合土。粘性やや有り。縮まりややなし。



RD348
1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土含む。粘性やや有り。
縮まりややなし。
2. 10YR2/2 黒褐色土と褐色土 (10YR4/4) との混合土
ブロック微量含む。粘性有り。縮まりなし。
若干砂質。



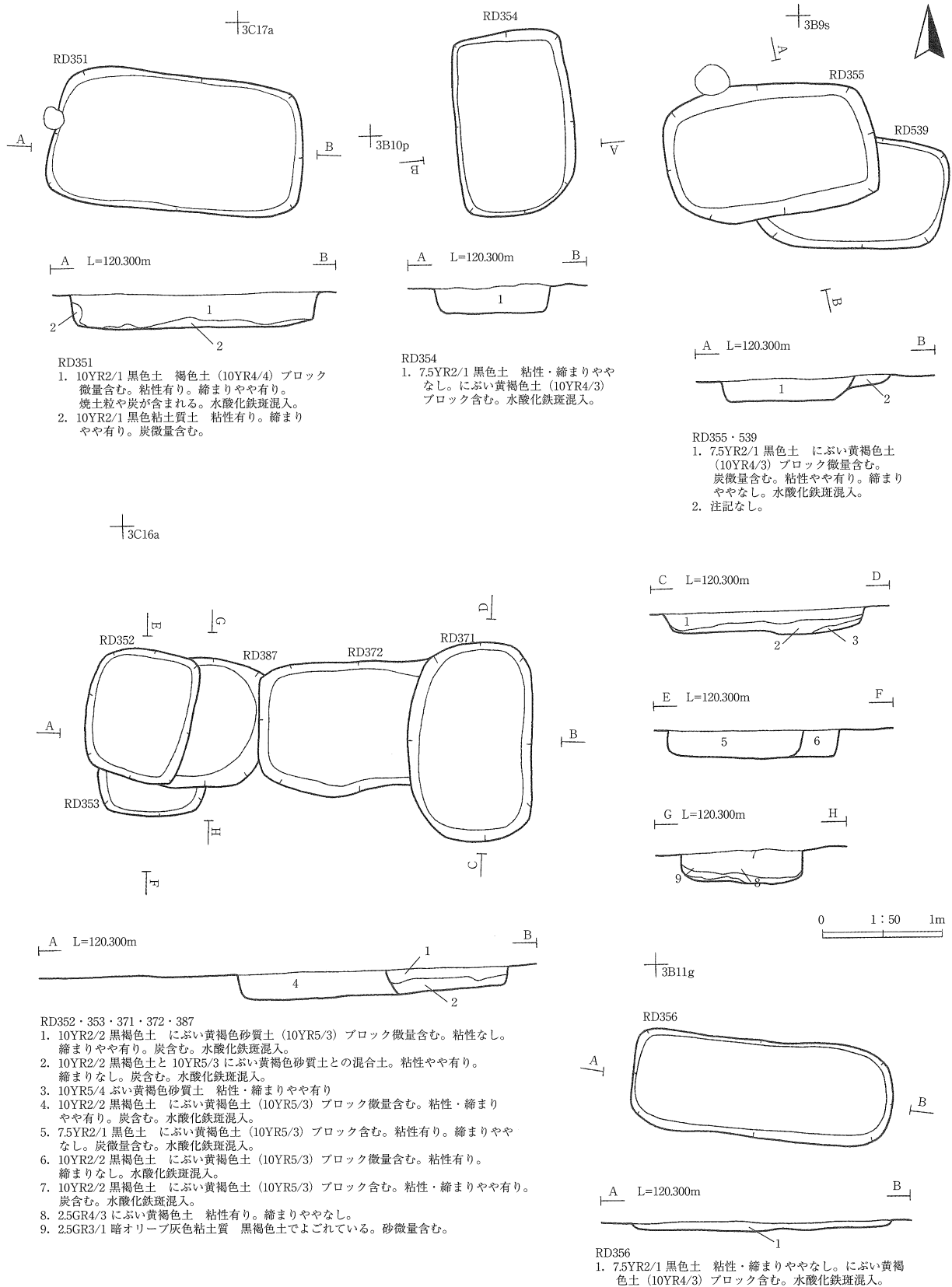
RD349
1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4)
ブロック微量含む。粘性ややなし。
縮まりややあり。
2. 10YR2/2 黒褐色土と 10YR4/4 褐色土
との混合土。粘性有り。縮まりなし。



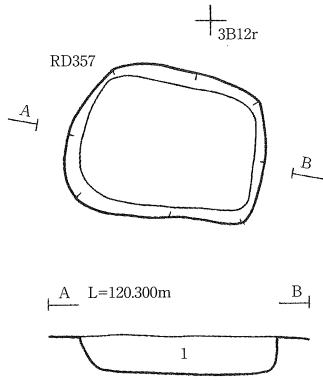
RD350
1. 10YR2/1 黒色土 におい黄褐色砂質土
(10YR5/3) ブロック微量含む。粘性
有り。縮まりややなし。水酸化鉄斑混。
2. 10YR2/1 黒色土と 10YR5/3 におい
黄褐色砂質土との混合土 粘性有り。
縮まりややなし。水酸化鉄斑混入。

0 1:50 1m

第135図 RD341~350 土坑

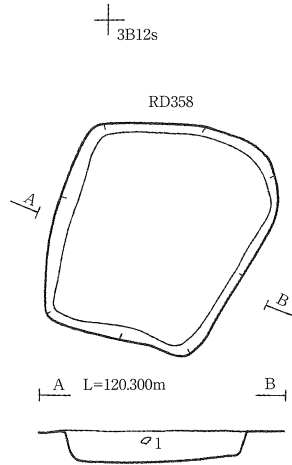


第136図 RD351~356・371・372・387・539 土坑



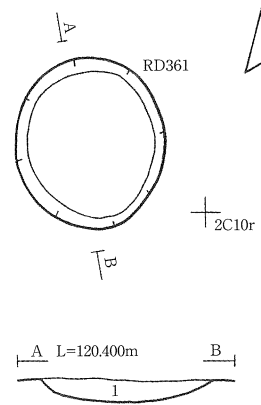
RD357

- 7.5YR2/1 黒色土 粘性・縮まりややなし。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック微量含む。炭を微量含む。水酸化鉄斑混入。



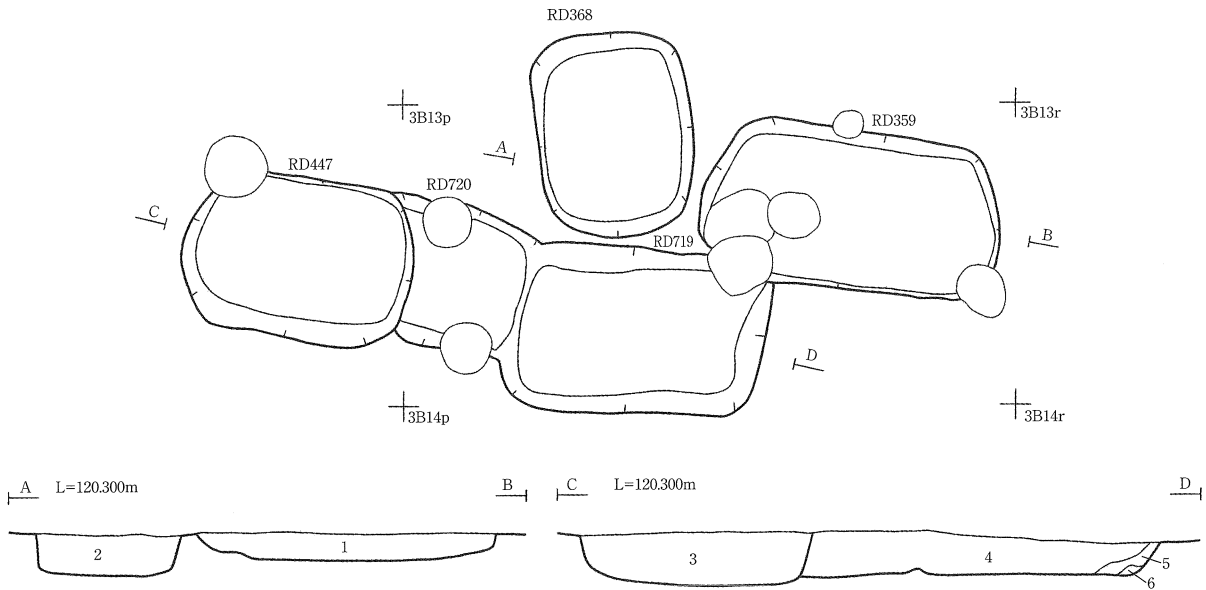
RD358

- 7.5YR2/1 黒色土 粘性・縮まりややなし。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック含む。径1cm未満の小石を含む。炭を微量含む。水酸化鉄斑混入。



RD361

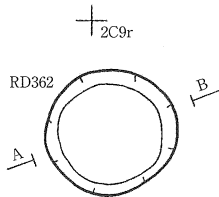
- 10YR3/2 黒褐色土 褐色土 (10YR4/4) ブロック多量含む。粘性やや有り。縮まり有り。



RD359・368・447・719・720

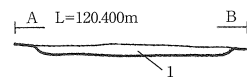
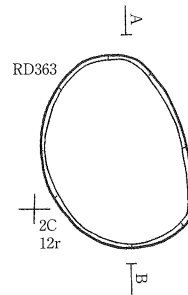
- 7.5YR2/1 黒色土 粘性・縮まりを欠く。にぶい黄褐色土ブロック (10YR4/3)・粗砂含む。水酸化鉄斑混入。
- 7.5YR2/1 黒色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック含む。炭化物粒含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性に富む。縮まりなし。黒褐色土 (10YR3/1) とにぶい黄褐色土 (10YR4/3) との混合土。水酸化鉄斑混入。

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。水酸化鉄斑混入。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り。縮まりややなし。黒褐色土ブロック (10YR2/2) ごく微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 10YR3/1 オリーブ黒色粘土質土 粘性有り。縮まりなし。



RD362

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。

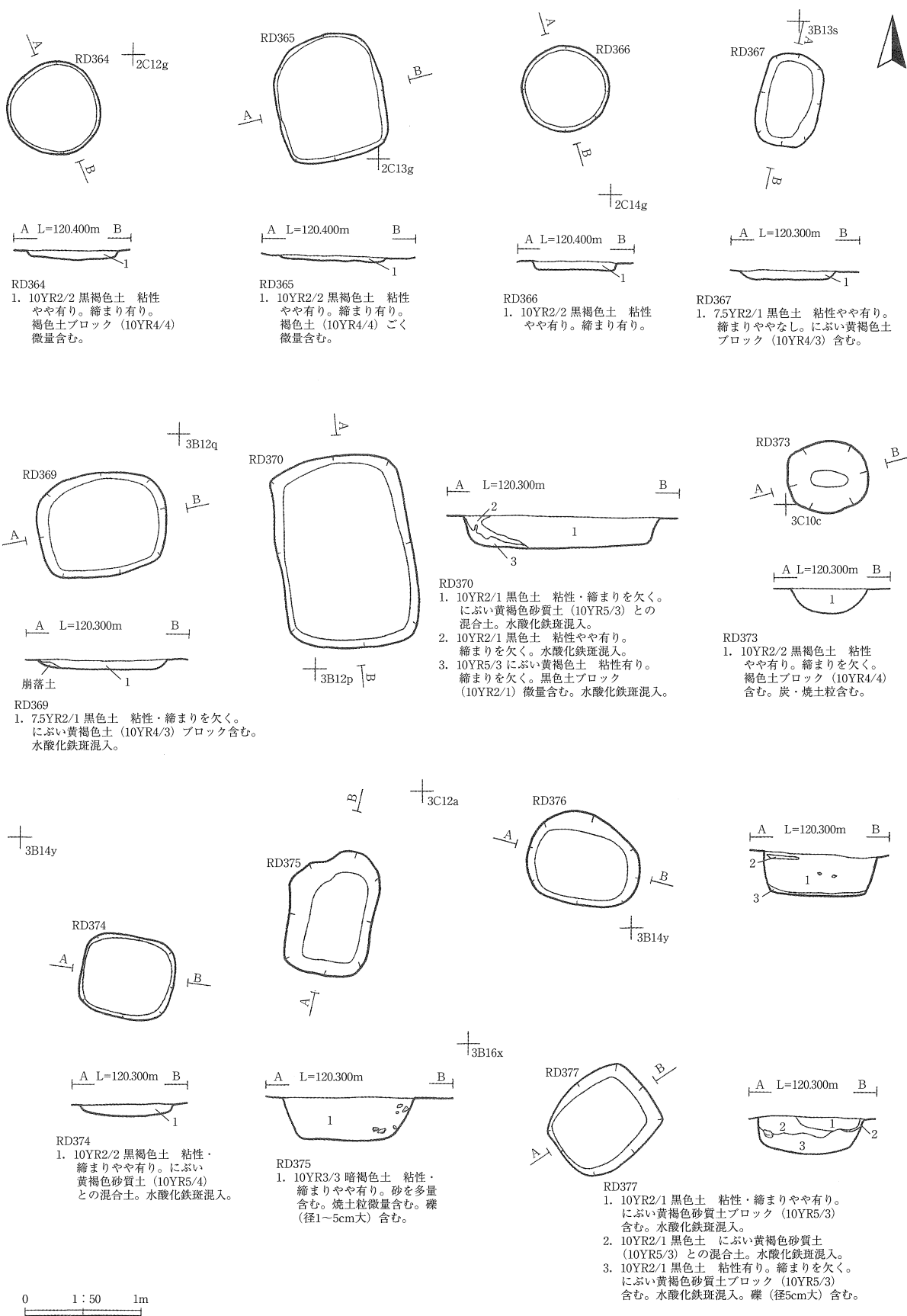


RD363

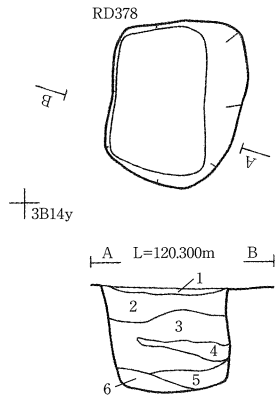
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。

0 1:50 1m

第137図 RD357~359・361~363・368・447・719・720 土坑

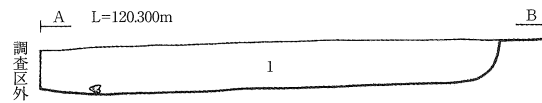
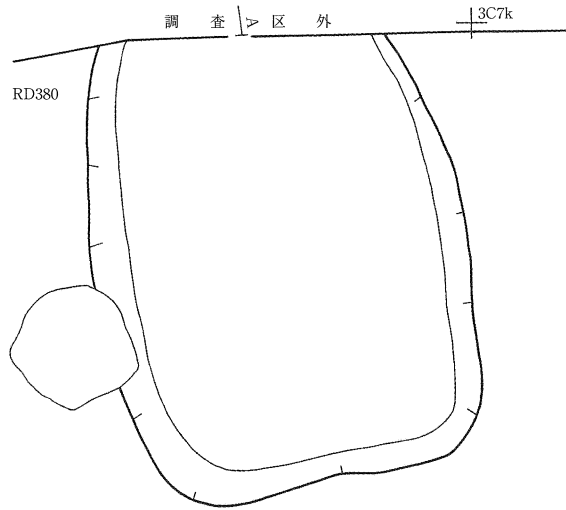


第138図 RD364~367・369・370・373~377 土坑



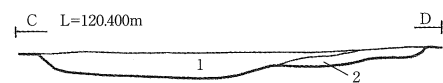
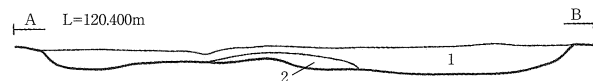
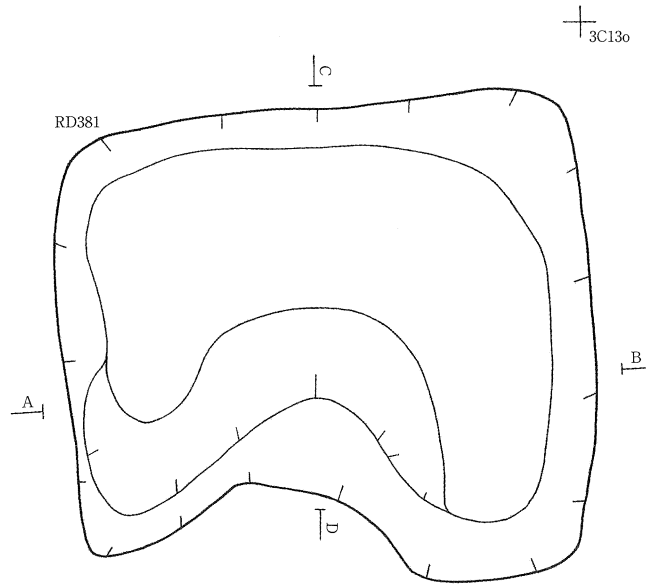
RD378

1. 水酸化鉄の層。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/2) がしみ状に混入。砂多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。砂多量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
6. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。砂多量含む。



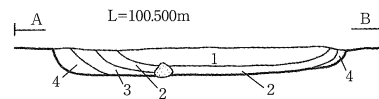
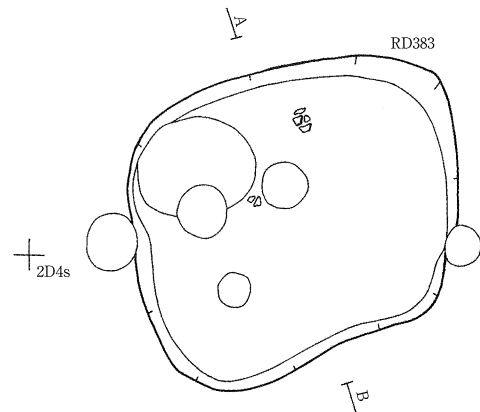
RD380

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。黒褐色土 (10YR2/2) と褐色土 (10YR4/6) の混合土。炭化物・礫 (径3~5cm大) 含む。



RD381

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/4) 含む。炭化物・礫を含む。
2. 10YR4/1 褐灰色粘土 粘性・縮まり有り。黒褐色土 (10YR3/1) まだら状に含む。水酸化鉄混入。

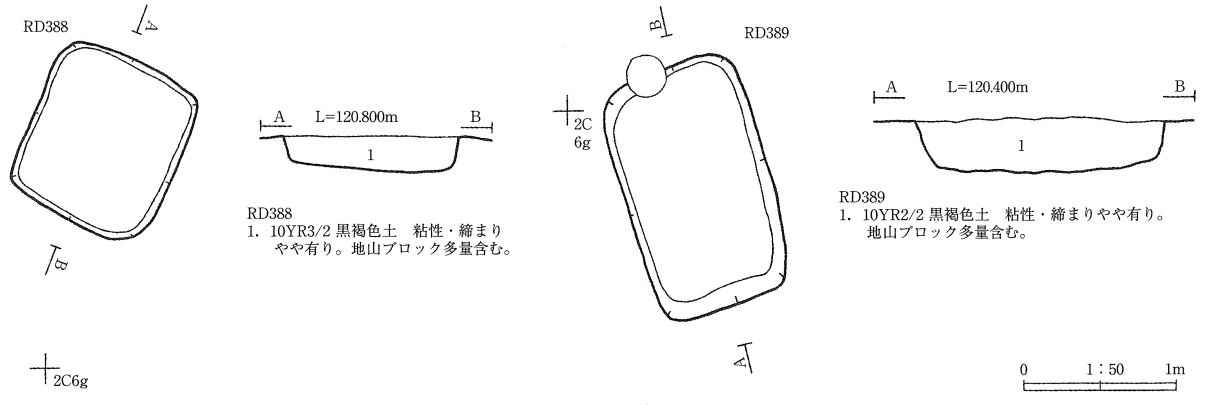
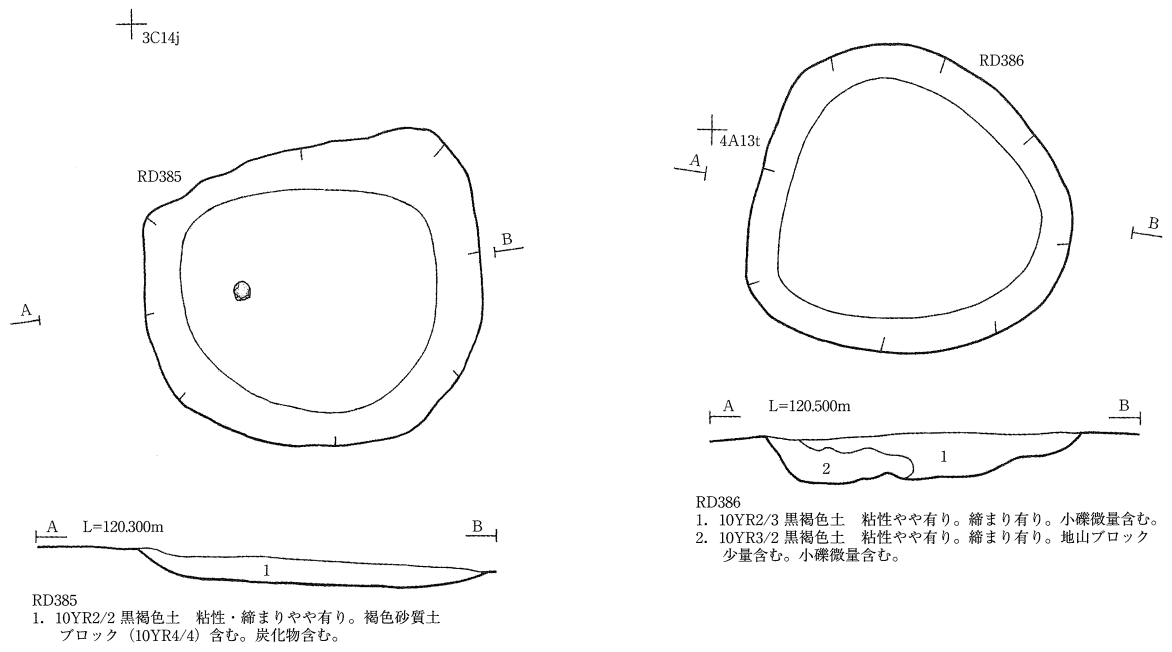
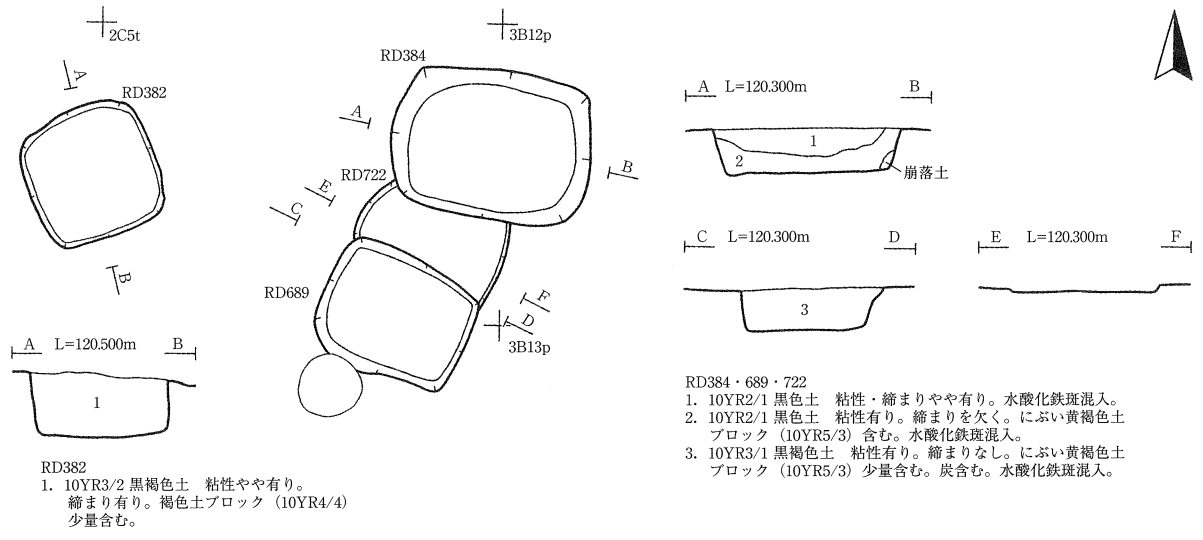


RD383

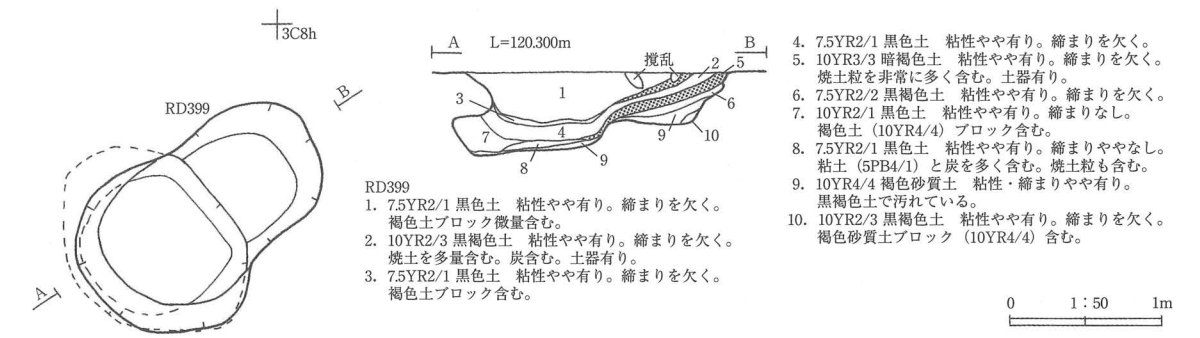
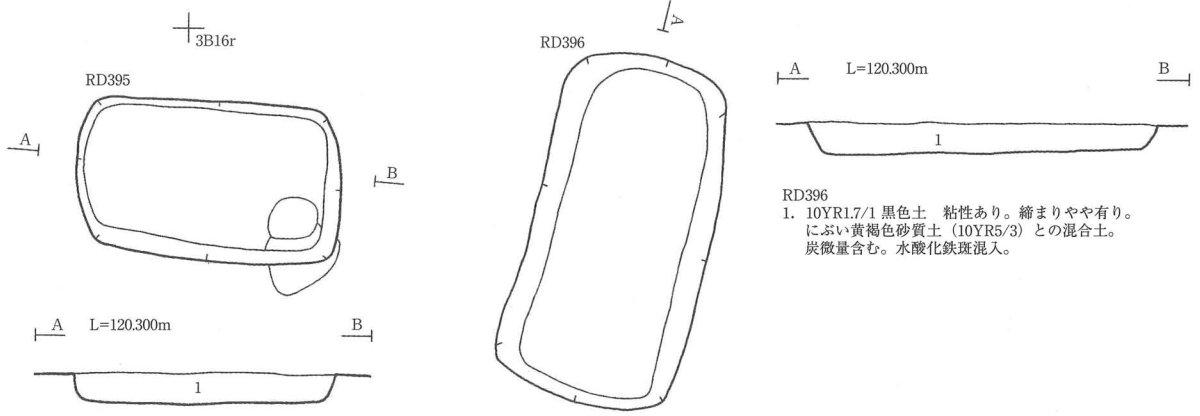
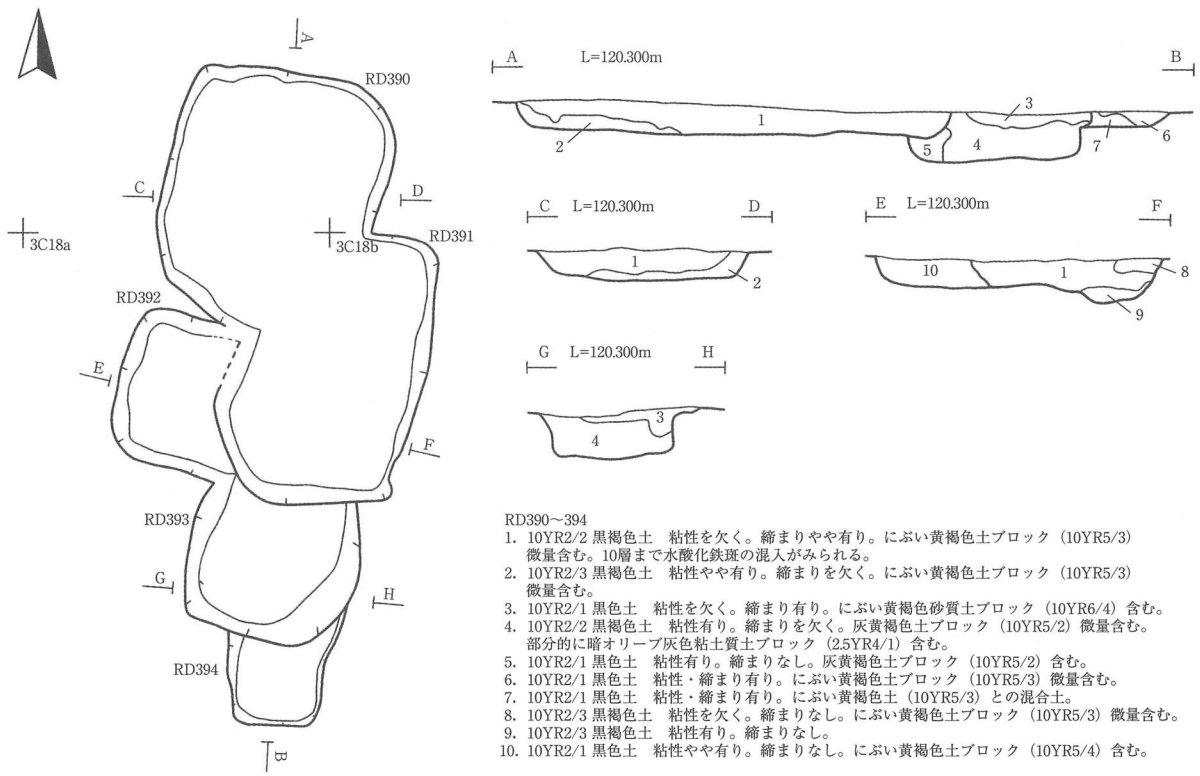
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。黒褐色土の混合土。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。

0 1:50 1m

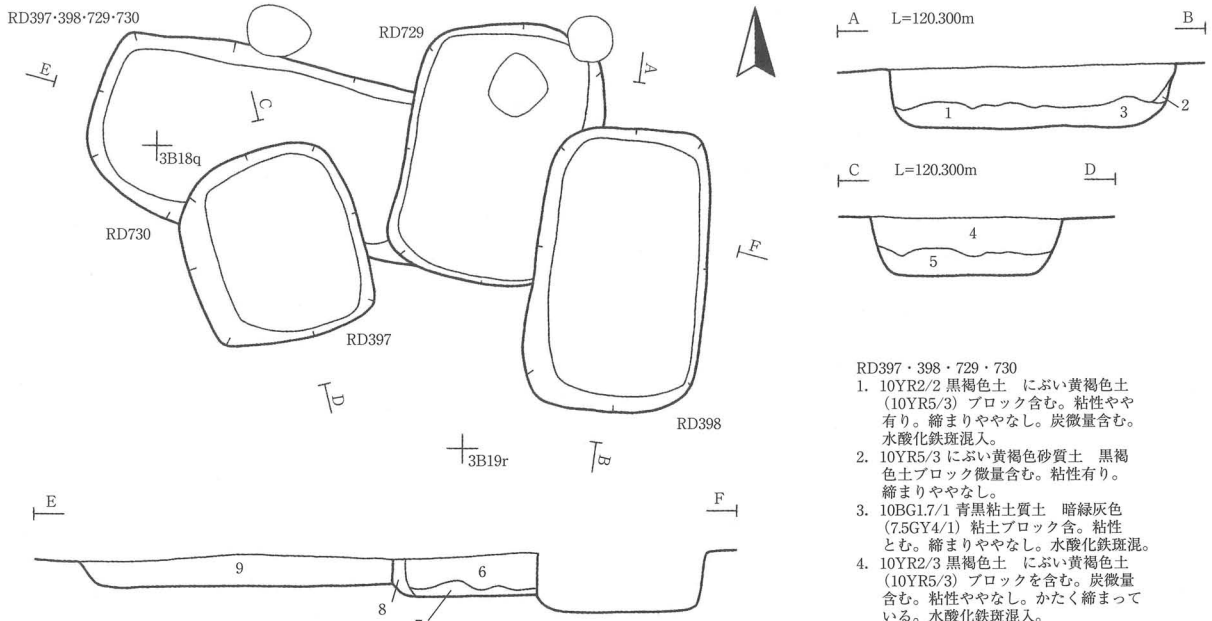
第139図 RD378・380・381・383 土坑



第140図 RD382・384~386・388・389・689・722 土坑

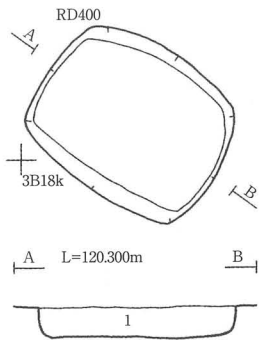


第141図 RD390~396・399 土坑

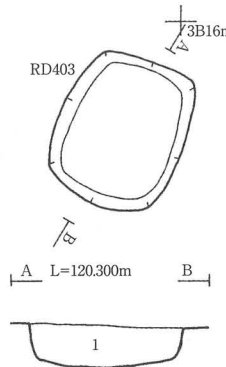


- 6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック多量含む。水酸化鉄斑混入。
- 7. 10YR5/2 灰黄褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。黒褐色土 (10YR2/2) 粒含む。水酸化鉄斑混入。底面には粘土の堆積有り。
- 8. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ブロック少量含む。水酸化鉄斑混入。
- 9. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。黒色土 (10YR2/1) ブロック少量。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック多量含む。水酸化鉄斑混入。

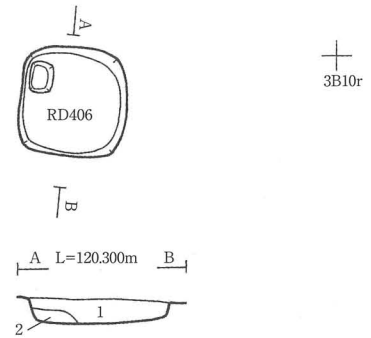
- RD397・398・729・730
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック含む。粘性やや有り。縮まりややなし。炭微量含む。水酸化鉄斑混入。
 - 2. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 黒褐色土ブロック微量含む。粘性有り。縮まりややなし。
 - 3. 10BG1.7/1 青黒粘土質土 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 粘土ブロック含。粘性とむ。縮まりややなし。水酸化鉄斑混入。
 - 4. 10YR2/3 黒褐色土 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロックを含む。炭微量含む。粘性ややなし。かたく縮まっている。水酸化鉄斑混入。
 - 5. 10BG1.7/1 青黒粘土質土 粘土質土 (7.5GY4/1 暗緑灰色) ブロックを含。粘性にとみ、縮まりややなし。水酸化鉄斑混入。下部に粘土多い。



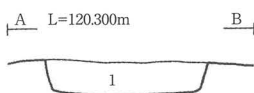
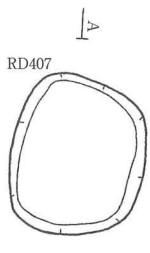
- RD400
- 1. 10YR2/1~2/2 黒色~黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。炭含む。水酸化鉄斑混入。



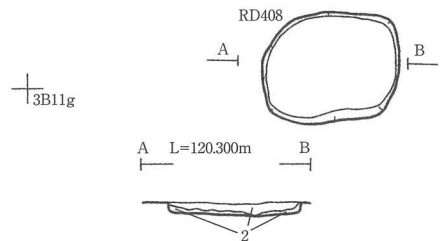
- RD403
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。炭微量含む。水酸化鉄斑混入。



- RD406
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/3) との混合土。炭微量含む。土器片含む。水酸化鉄斑混入。
 - 2. 10YR2/2 黒褐色土 にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/3) 微量含む。水酸化鉄斑混入。



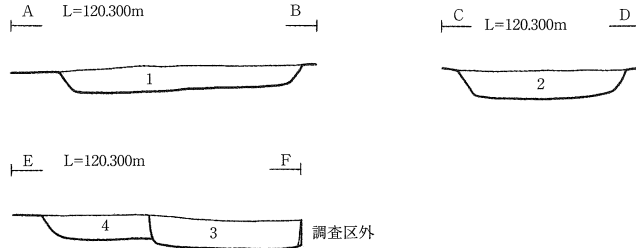
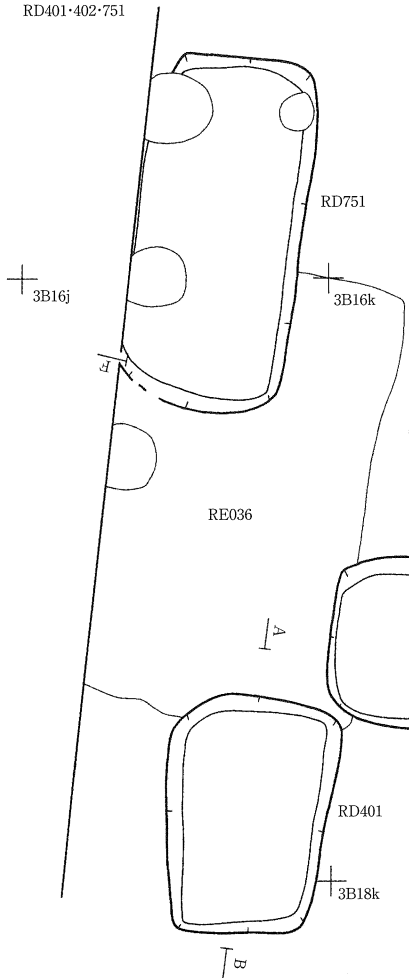
- RD407
- 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/3) 含む。炭微量含む。水酸化鉄斑混入。



- RD408
- 1. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりやや有り。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2)・黄褐色土ブロック (10YR5/6) 含む。水酸化鉄斑混入。
 - 2. 2.5GY4/1 暗オリープ灰色粘土質土 粘性有り。縮まりを欠く。黄褐色土 (10YR5/6) で汚れている。水酸化鉄斑混入。

第142図 RD397・398・400・403・406~408・729・730 土坑

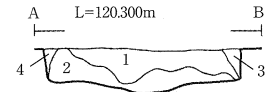
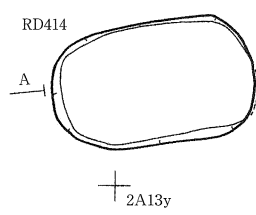
RD401・402・751



RD401・402・752

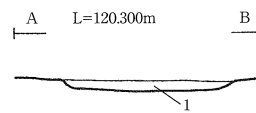
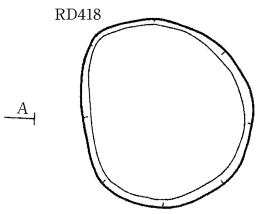
- 10YR2/1 黒色土と 10YR2/2 黒褐色土と 10YR5/3 におい黄褐色土との混合土 粘性有り。締まりなし。炭微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 7.5YR2/1 黒色土 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 粒含。粘性にとみ、しまりややなし。炭微量含む。水酸化鉄斑混入。

- 10YR2/1 黒色土 におい黄褐色土 (10YR5/3) 粒少量含む。粘性・締まり有り。白色微細粒子含。水酸化鉄斑混入。
- 10YR2/1 黒色土 におい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック多量含む。粘性有り。締まりなし。水酸化鉄斑混入。



RD414

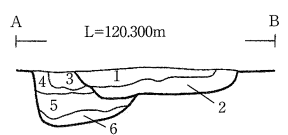
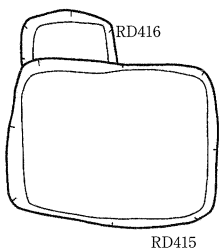
- 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
- 注記なし
- 注記なし



RD418

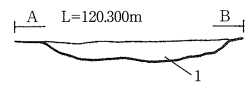
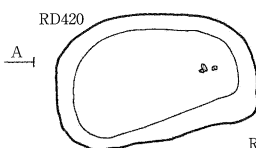
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐灰色土 (10YR5/1) 微量含む。水酸化鉄斑混入。

RD415・416



RD415・416

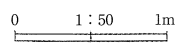
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。固く締まる。埋土全体に水酸化鉄斑の混入。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。におい黄褐色土 (10YR6/3) との混合土。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。におい黄褐色土 (10YR6/3) との混合土。礫 (径0.1~0.3cm大) 微量含む。
- 10YR4/1 褐灰色土 粘性やや有り。締まりなし。黒褐色土 (10YR2/3) とにおい黄褐色土 (10YR5/4) との混合土。礫 (径1cm大) 多量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。におい黄褐色土ブロック (10YR6/3) 微量含む。
- 7.5GY2/1 緑黒色粘土質土 粘性に富む。締まりなし。暗褐色土 (10YR3/4) との混合土。

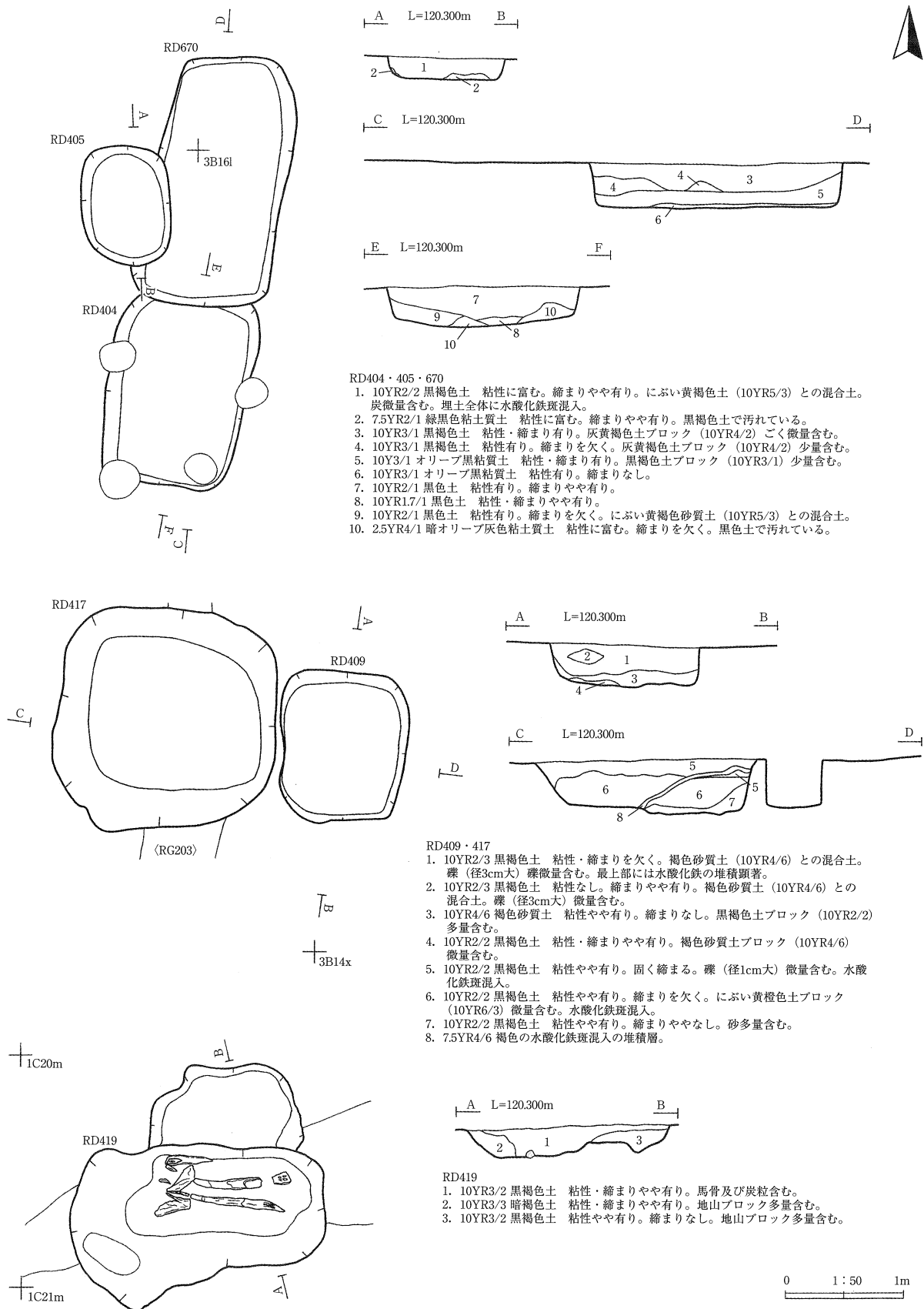


RD420

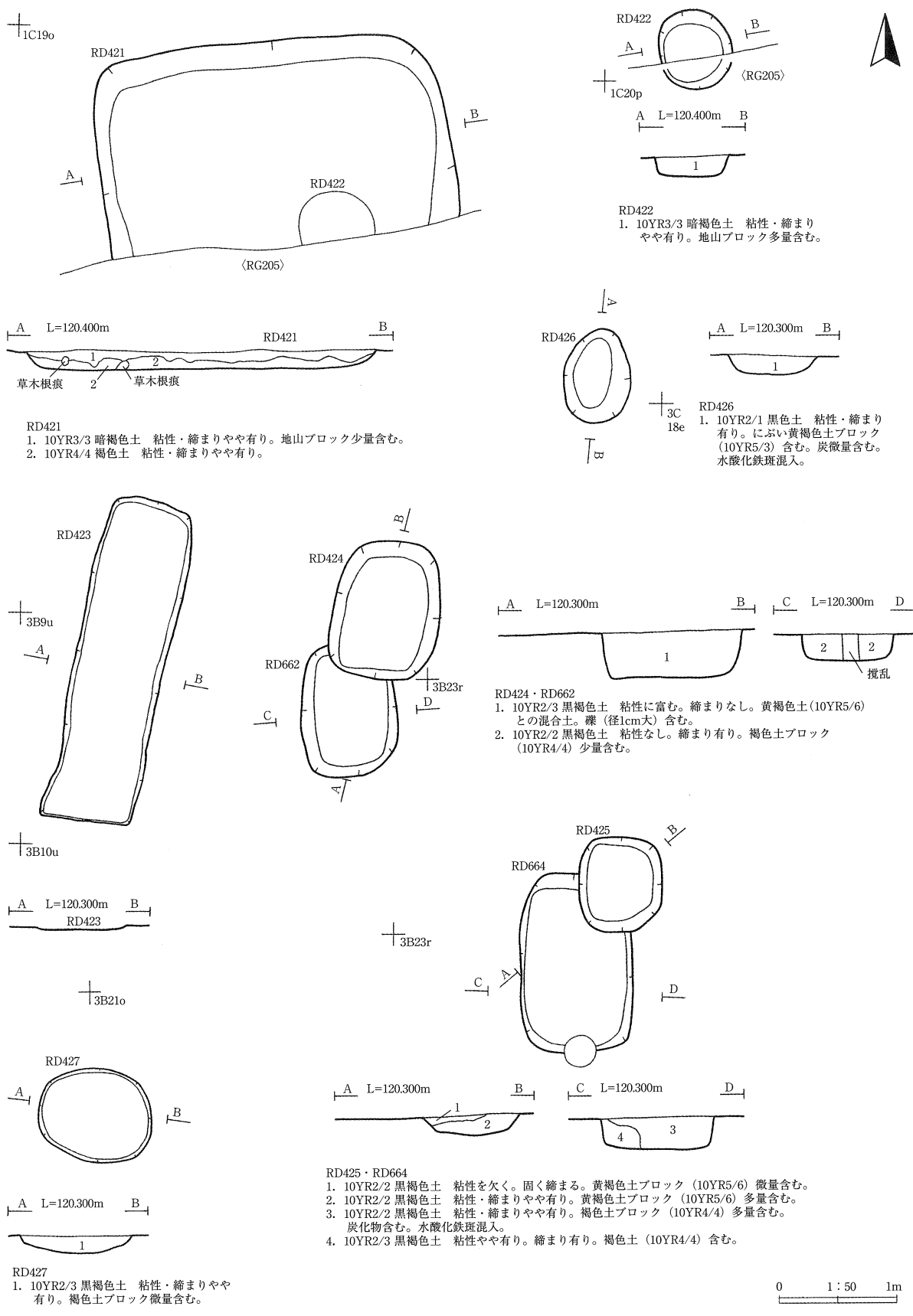
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量に含む。馬歯・微量の炭化物含む。

第143図 RD401・402・414~416・418・420・751 土坑

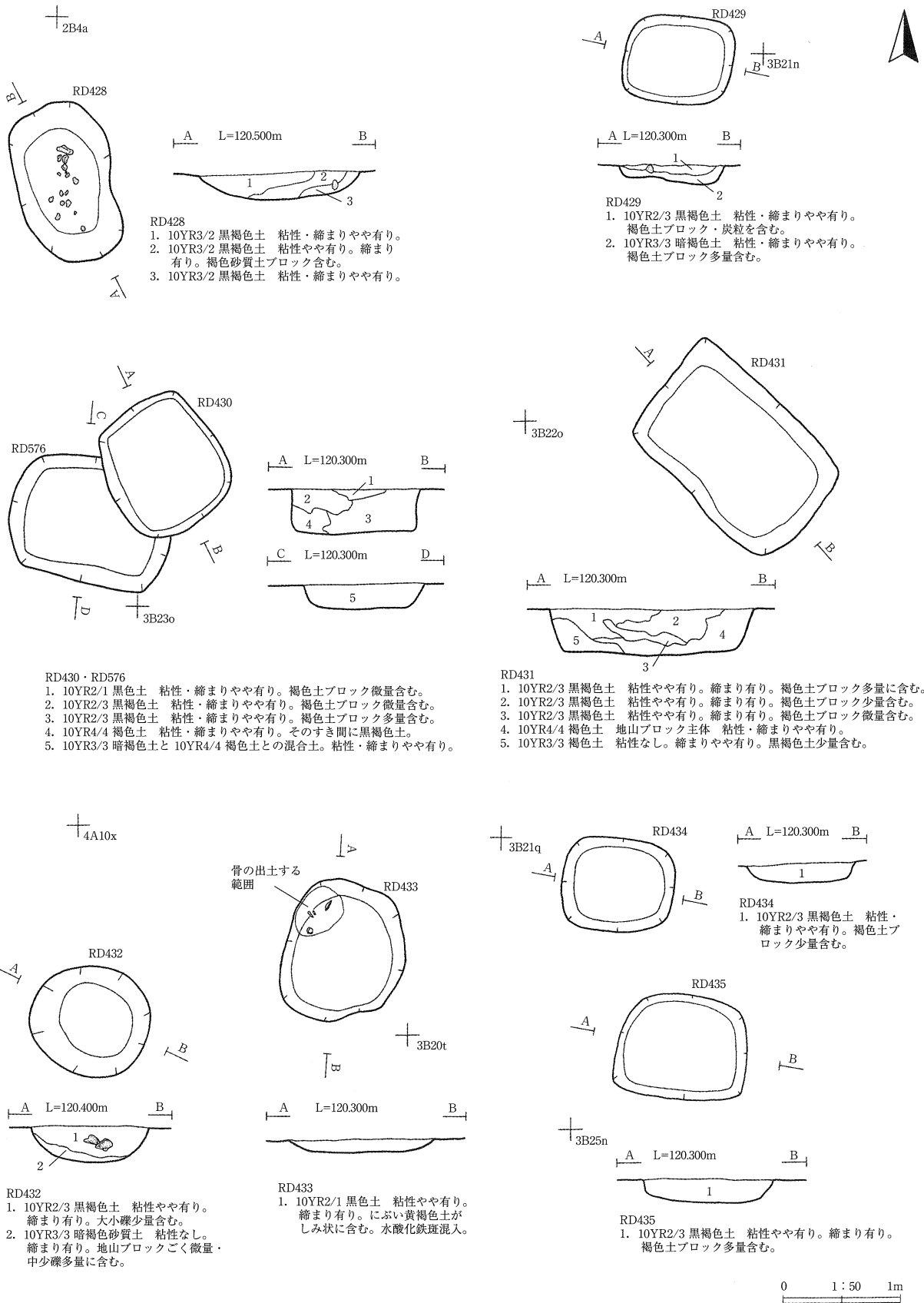




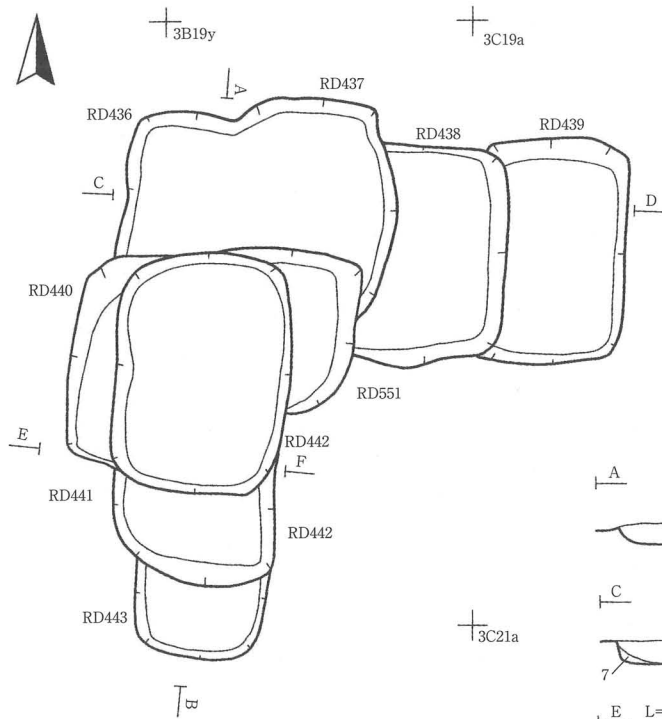
第144図 RD404 · 405 · 409 · 417 · 419 · 670 土坑



第145図 RD421~427・662・664 土坑

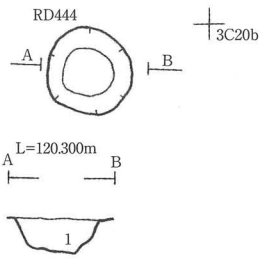
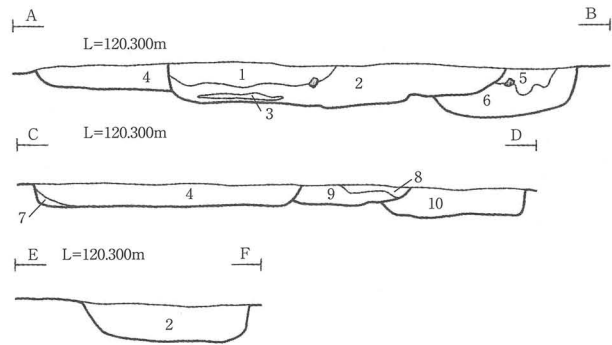


第146図 RD428~435・576 土坑

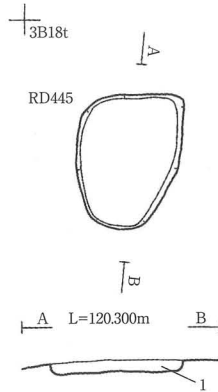


RD436~RD443

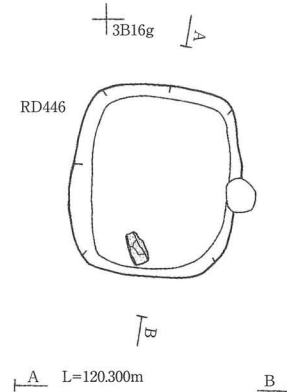
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。炭微量・
にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 多量含む。水酸化鉄斑
混入。
2. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。黄褐色土
ブロック (10YR5/6) ・にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3)
含む。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。黒褐
色土で汚れている。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりややなし。にぶい
黄褐色土ブロック (10YR5/3) 多量含む。水酸化鉄斑混入。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりなし。黄褐色土ブロック
(10YR5/6) 多量含む。礫 (径3~5cm) 含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。黄褐色土ブロック
(10YR5/6) 含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。にぶい黄褐色
土ブロック (10YR5/3) 微量含む。水酸化鉄斑混入。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。にぶい黄褐色土
ブロック (10YR5/3) 微量含む。水酸化鉄斑混入。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。にぶい黄褐色土
ブロック (10YR5/3) 微量含む。水酸化鉄斑混入。
10. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりややなし。にぶい黄褐色土
ブロック (10YR5/3~5/4) 含む。水酸化鉄斑混入。



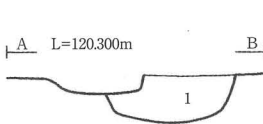
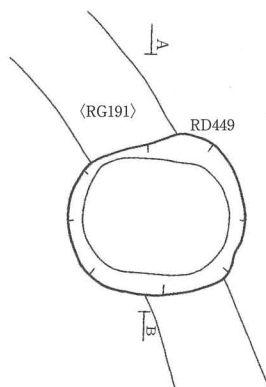
- RD444
1. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。
縮まりなし。にぶい黄褐色土ブロック
(10YR5/4) 含む。水酸化鉄斑混入。



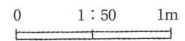
- RD445
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり
有り。灰黄褐色土 (10YR4/2) をしみ状
に含む。水酸化鉄斑あり。



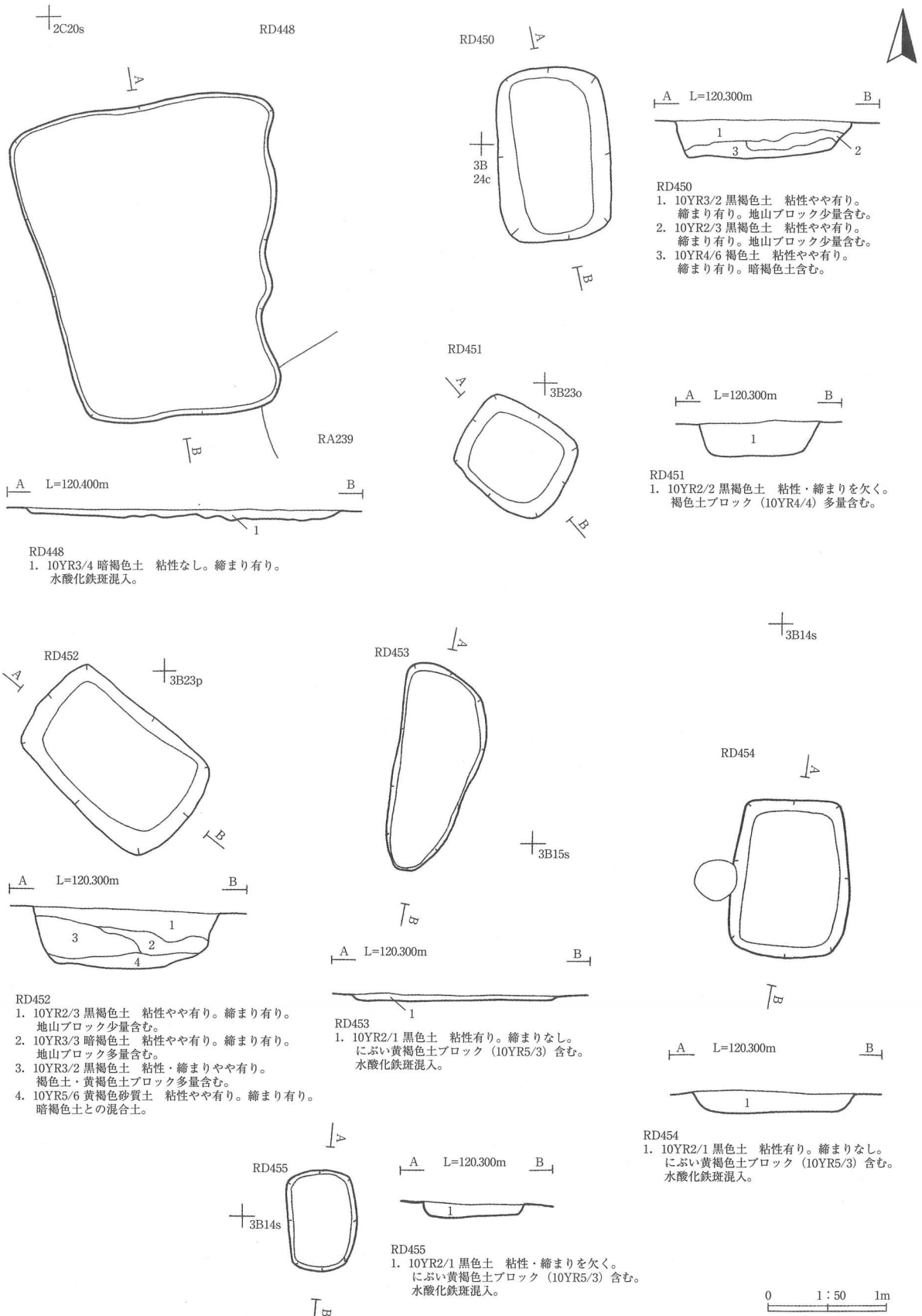
- RD446
1. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
にぶい黄褐色砂質土ブロック (10YR5/3) 含む。
水酸化鉄斑混入。
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性を欠く。縮まり
やや有り。黒褐色土で汚れている。礫含む。
水酸化鉄斑混入。



- RD449
1. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性を欠く。
縮まりやや有り。褐色土ブロック多量
含む。東側上面に褐色土 (10YR4/4) ・
黒褐色土ブロック (10YR2/2) を含む
層が見られる。最大で15cm程。



第147図 RD436~446・449・551 土坑



2C20s

RD448

RD450

A L=120.300m B

RD450
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。
 3. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。暗褐色土含む。

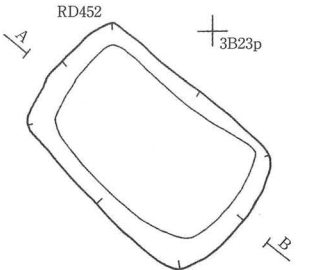
RD451

A L=120.300m B

RD451
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。

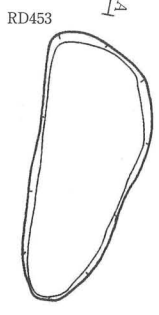
A L=120.400m B

RD448
 1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。水酸化鉄斑混入。



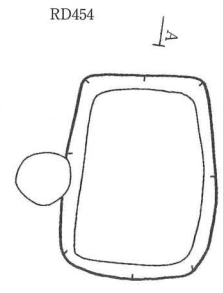
A L=120.300m B

RD452
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック多量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土・黄褐色土ブロック多量含む。
 4. 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。暗褐色土との混合土。



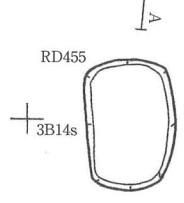
A L=120.300m B

RD453
 1. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄斑混入。



A L=120.300m B

RD454
 1. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄斑混入。

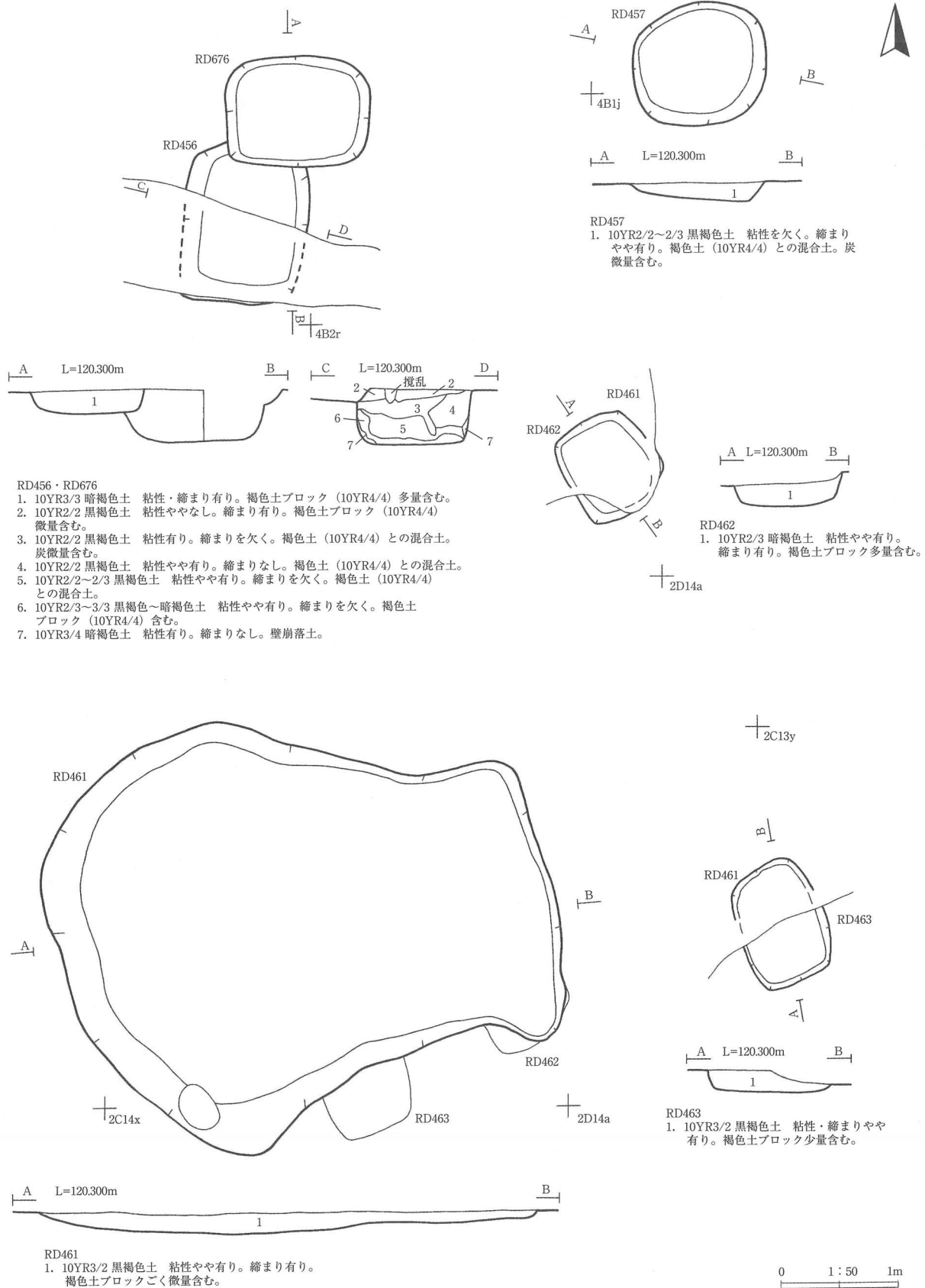


A L=120.300m B

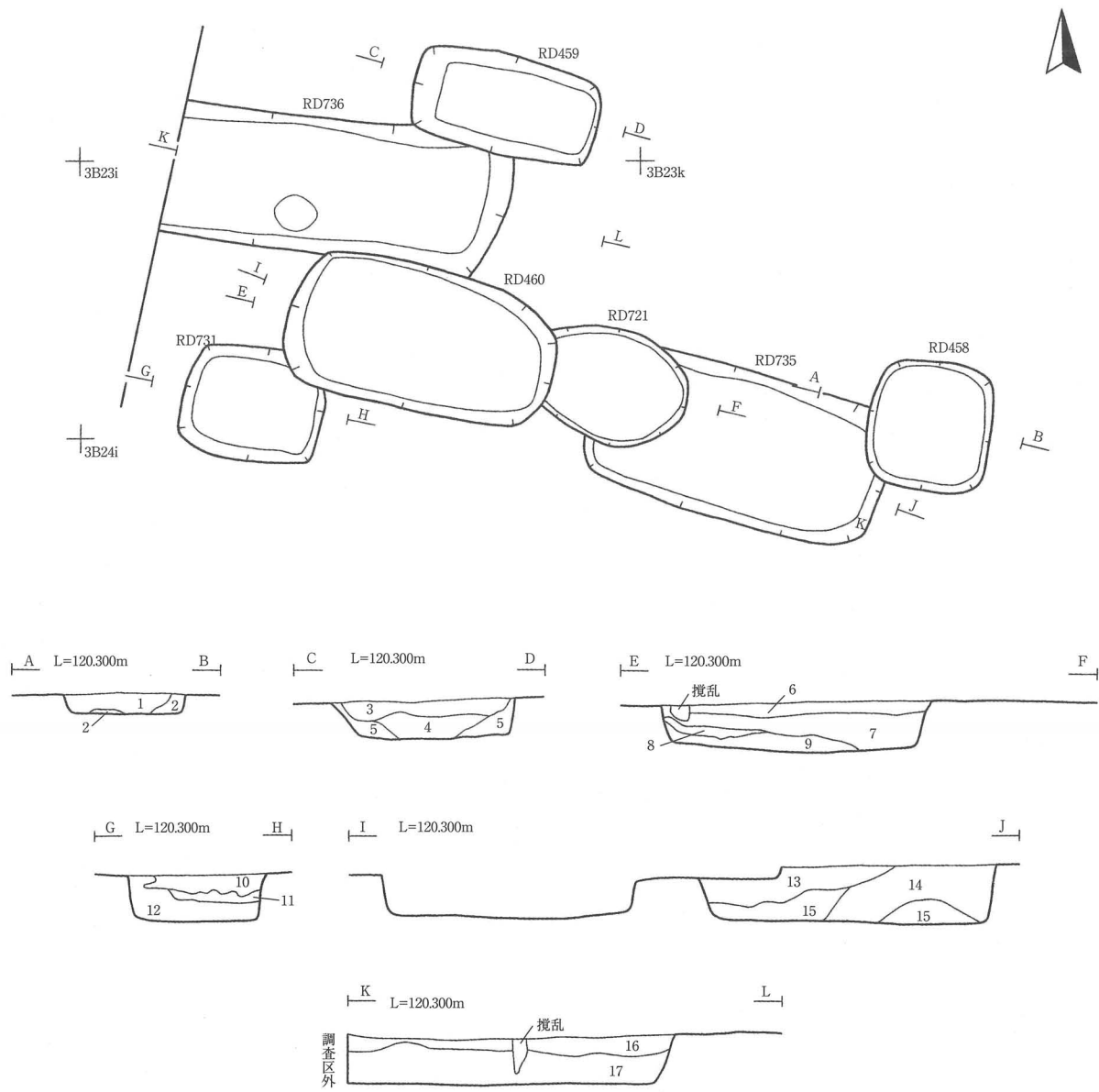
RD455
 1. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりを欠く。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。水酸化鉄斑混入。

0 1:50 1m

第148図 RD448・450~455 土坑



第149図 RD456・457・461~463・676 土坑



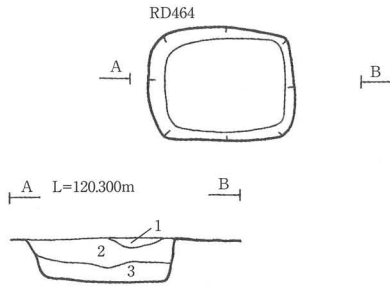
RD458~RD460・RD721・RD731・RD735・RD736

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭微量含む。
2. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量・炭微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。礫 (径1cm大) 含む。
5. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR2/2) 含む。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭微量含む。
7. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし。黒褐色土ブロック (10YR2/2)・褐色土ブロック (10YR2/2) 含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。炭少量・焼土粒微量含む。

9. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR2/2)・褐色土 (10YR4/4) 含む。
10. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック多量含。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。焼土粒、炭ごく微量含む。
12. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりを欠く。黒褐色土ブロック少量含む。
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。暗褐色土ブロック (10YR3/3) 多量含む。
14. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。暗褐色土 (10YR3/3) との混合土。
15. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。黒褐色土ブロック少量含む。
16. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。炭・焼土粒ごく微量含む。
17. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

第150図 RD458~460・721・731・735・736 土坑

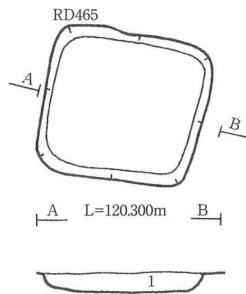
3B18o



RD464

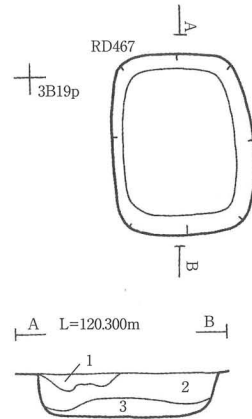
- 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まり有り。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) との混合土。黒色土ブロック少量含む。
- 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土質土 粘性に富む。縮まりやや有り。黒色土で汚れている。

3B16o



RD465

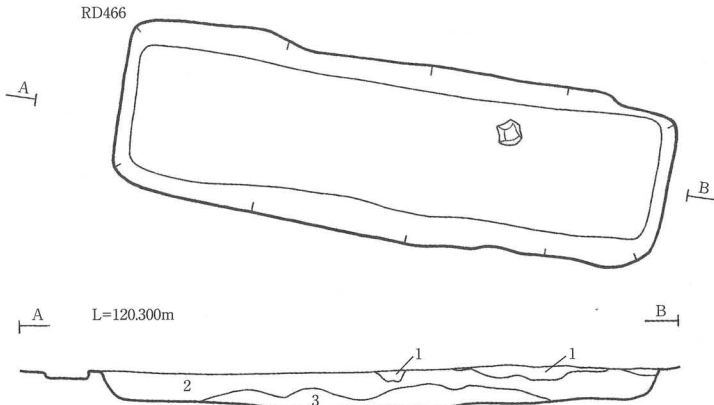
- 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい黄褐色砂質土ブロック含む。水酸化鉄斑混入。



RD467

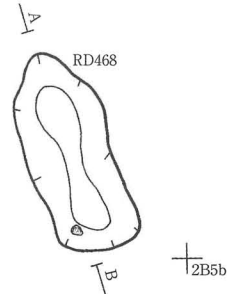
- 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まり有り。にぶい黄褐色砂質土ブロック含む。
- 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/2) とにぶい黄褐色土 (10YR5/3) との混合土。
- 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土質土 粘性に富む。縮まりやや有り。にぶい黄褐色砂質土ブロック微量含む。黒色土で汚れている。

3B17o



RD466

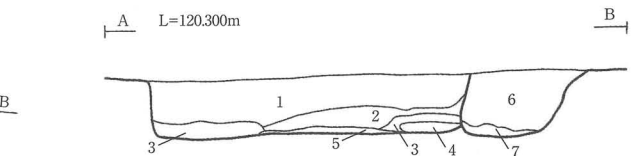
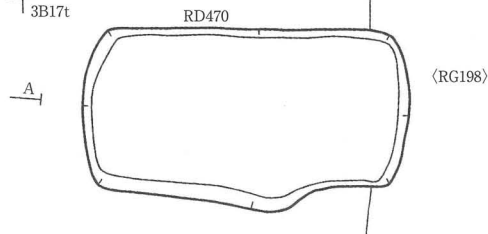
- 10YR2/1~2/2 黒色土~黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。にぶい黄褐色土ブロック・炭微量含む。
- 10YR2/2~3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) との混合土。黒色土ブロック (10YR2/1) 少量含む。
- 10YR2/2~3/2 黒褐色土 粘性に富む。縮まりなし。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) と暗オリーブ灰色粘土質土 (2.5GY4/1) との混合土。



RD468

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。黄褐色土ブロック少量含む。

3B17t

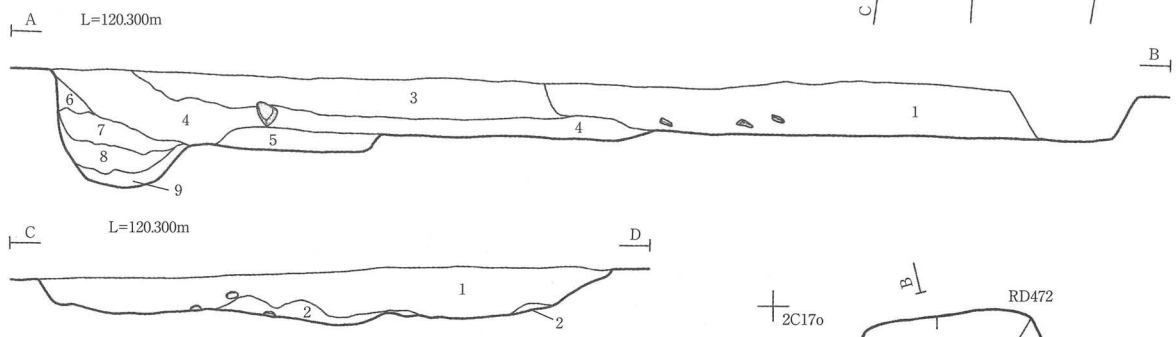
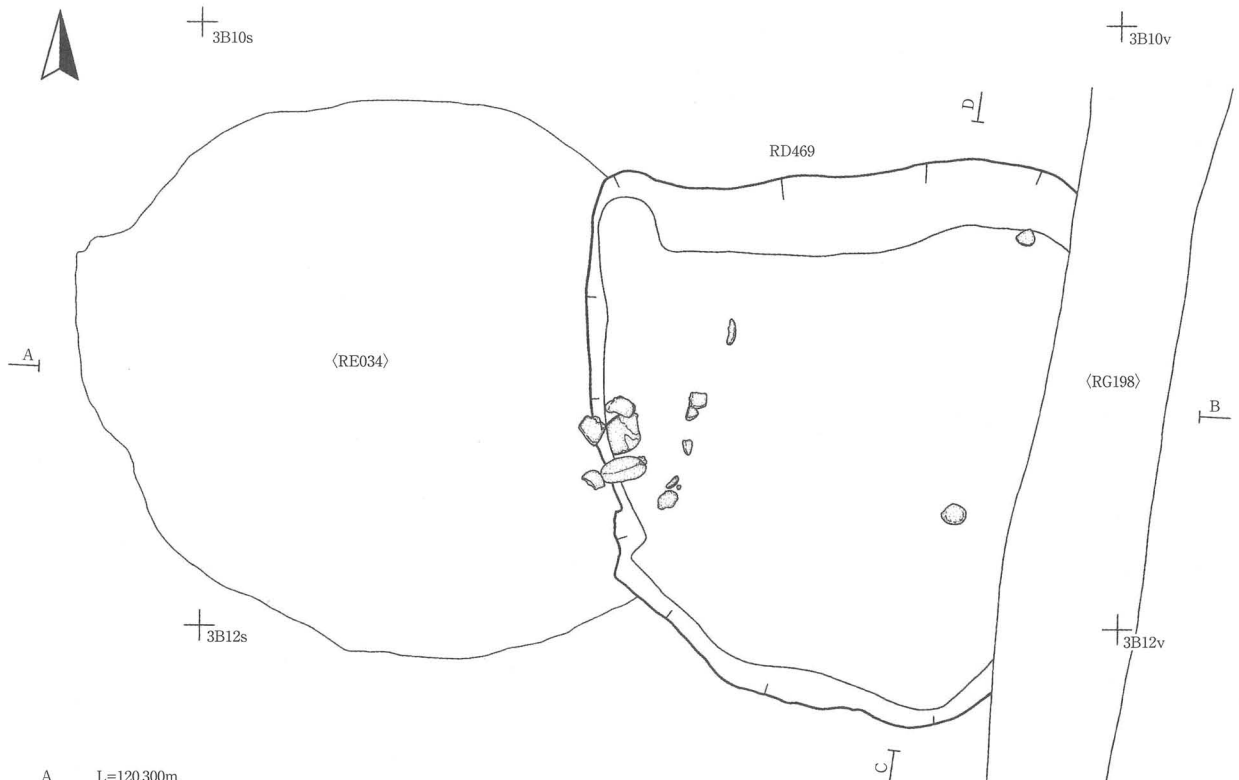


RD470

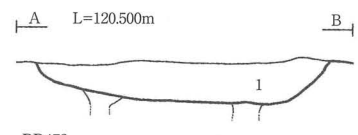
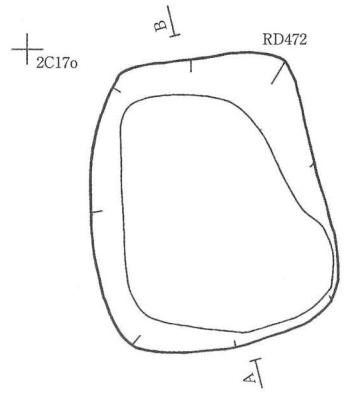
- 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/4) 少量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/4) 多量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい黄褐色土ブロック (10YR6/4) 多量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。にぶい黄褐色土 (10YR6/4) との混合土。黒色土 (10YR2/1)・炭微量含む。
- 5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土 黒色土で汚れている。

0 1:50 1m

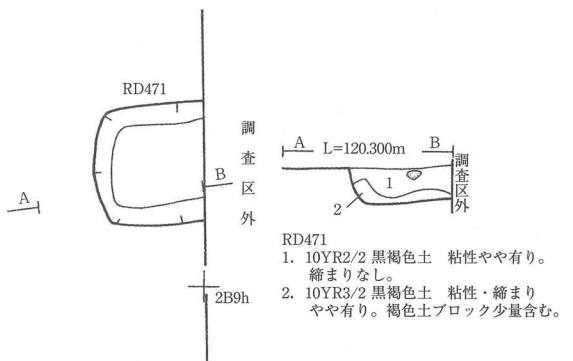
第151図 RD464~468・470 土坑



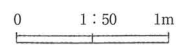
- RD469
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。河原石少量、炭微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性に富む。縮まりを欠く。河原石（径5~10cm大）・炭微量含む。
 3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土ブロック多量含む。
 4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
 5. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。
 6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック多量含む。
 7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。河原石（径5~10cm大）少量含む。
 8. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性有り。縮まりやや有り。
 9. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。
 10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック多量含む。



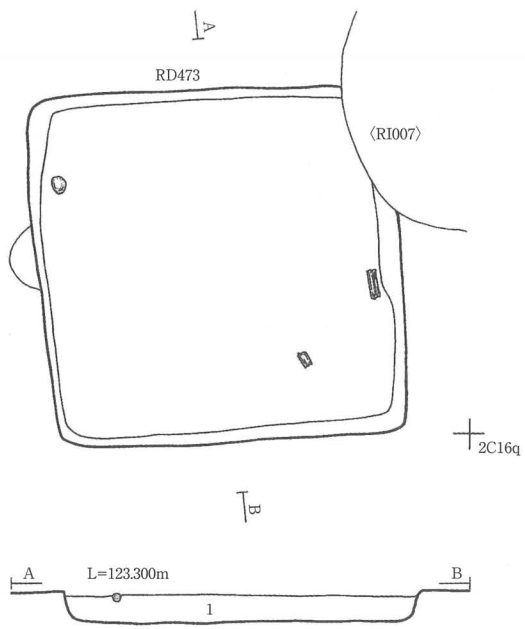
- RD472
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。小礫・炭粒含む。



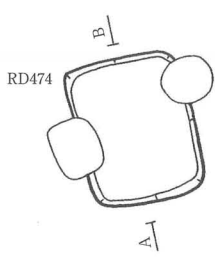
- RD471
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土ブロック少量含む。



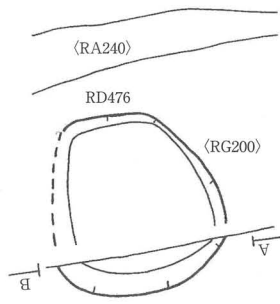
第152図 RD469・471・472 土坑



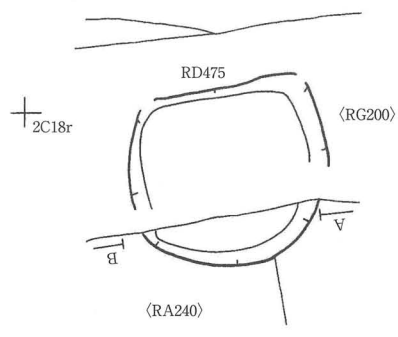
RD473
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土小ブロック少量含む。



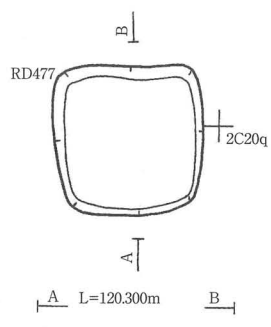
RD474
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土小ブロックごく微量含む。



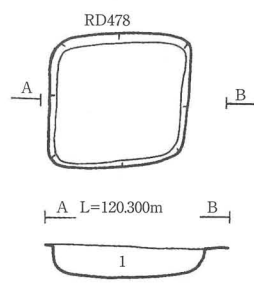
RD476
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性縮まりやや有り。地山ブロック微量含む。



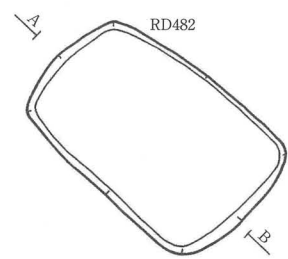
RD475
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
3. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性やや有り。縮まりなし。



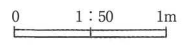
RD477
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。地山ブロック含む。
3. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。
4. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。



RD478
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック微量含む。



RD482
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。

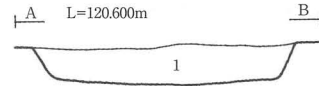
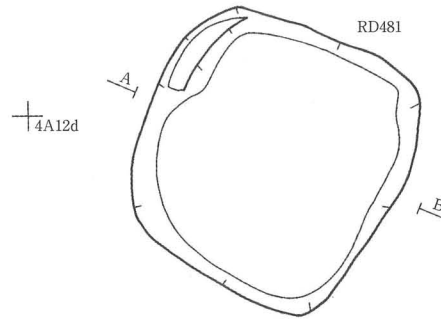
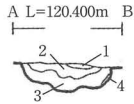


第153図 RD473~478・482 土坑



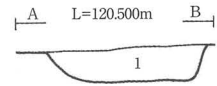
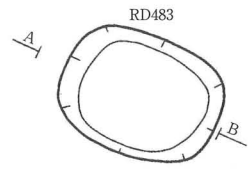
RD479

- 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性を欠く。縮まりやや有り。赤褐色焼土ブロック (5YR4/6) 多量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まりやや有り。焼土粒少量含む。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 粘土・縮まりやや有り。



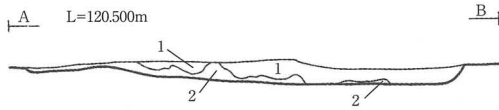
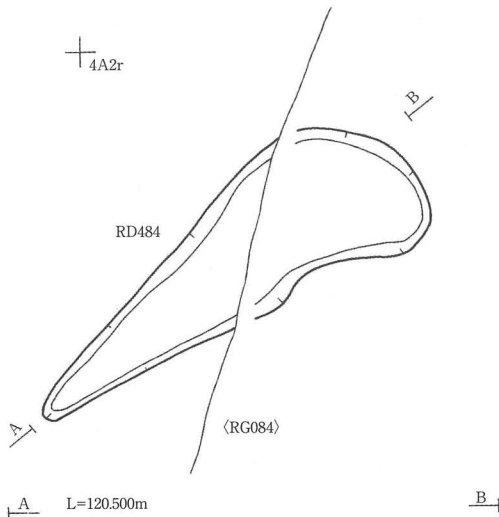
RD481

- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。小礫微量に含む。



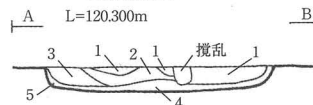
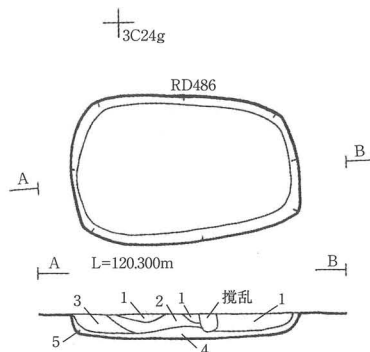
RD483

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。



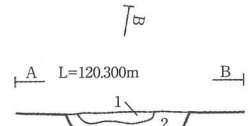
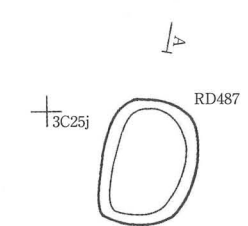
RD484

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。地山ブロックごく微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。



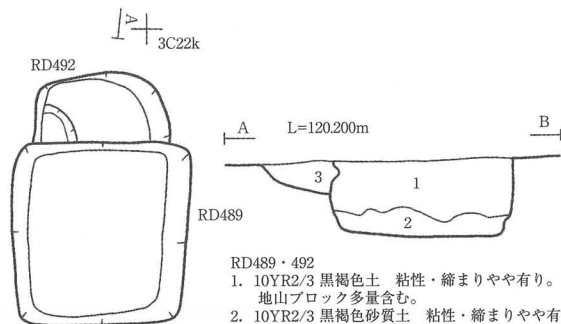
RD486

- 10YR5/6 黄褐色土 粘性なし。縮まり有り。黒褐色土 (10YR2/3) ブロック少量含む。
- 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。黄褐色土ブロック (10YR5/6) 少量含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まり有り。黄褐色土ブロック (10YR5/6) 多量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) 多量含む。
- 10YR4/6 褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。



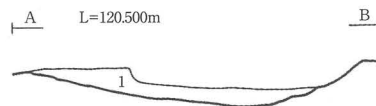
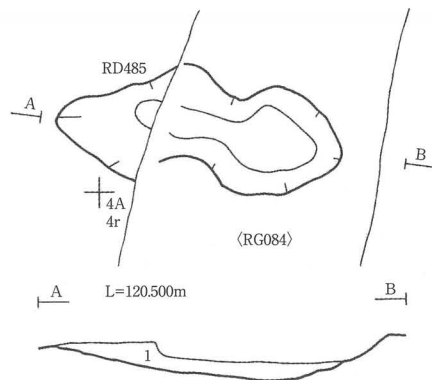
RD487

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。縮まりややなし。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。黒褐色土ブロック微量含む。



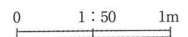
RD492

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。
- 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック少量・小礫含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

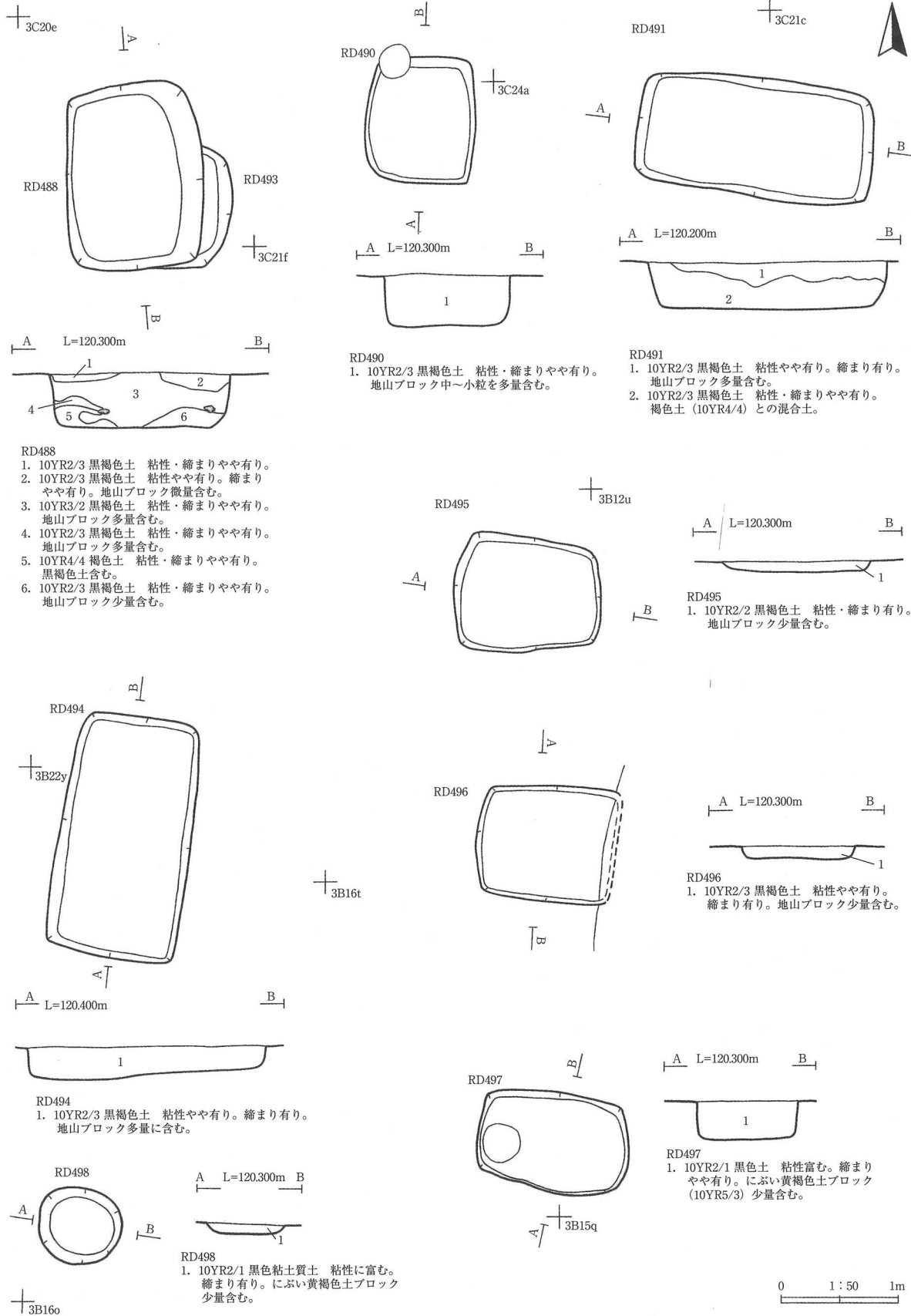


RD485

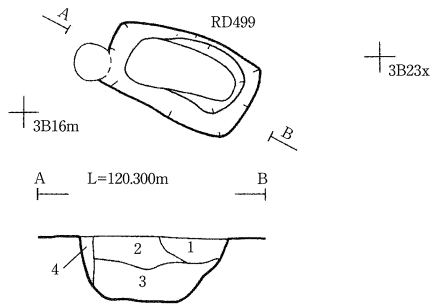
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック少量含む。



第154図 RD479・481・483~487・489・492 土坑

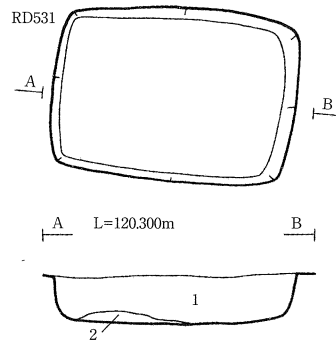


第155図 RD488・490・491・494～498 土坑



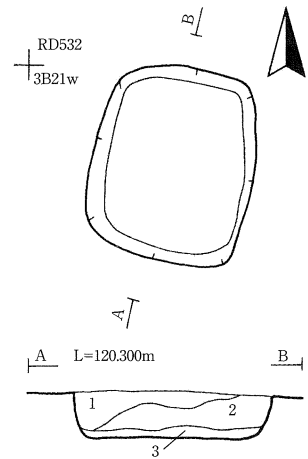
RD499

1. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりなし。にぶい黄褐色土粒多量含。1~2cm角の炭少量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色土中ブロック非常に多く含む。炭少量含む。
3. 7.5GY2/1 緑黒色粘土質土 暗オリーブ灰色粘土ブロック多量に含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりやや有り。にぶい黄褐色土ブロック少量含む。



RD531

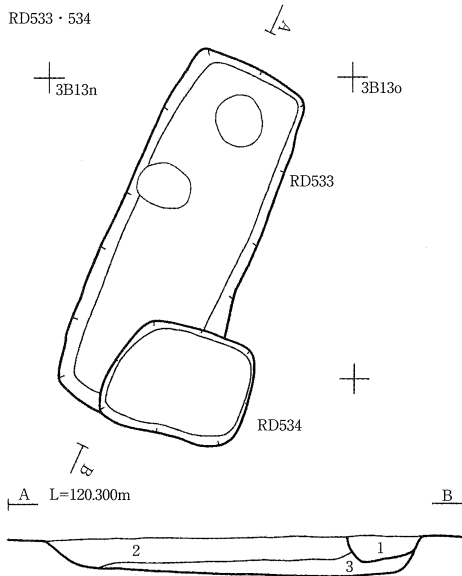
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4~4/6) 多量・黒色土ブロック (10YR2/1) 少量含む。
2. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土・黒色土ブロック少量・砂微量含む。



RD532

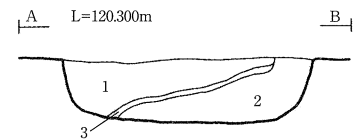
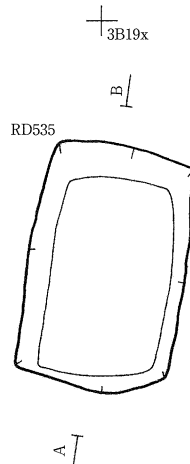
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量・焼土粒ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土大ブロック多量・炭微量含む。
3. 10YR3/3~3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。

RD533・534



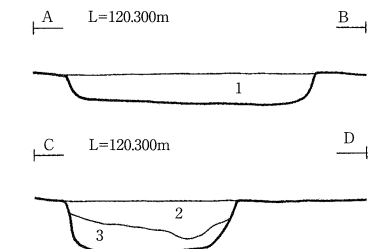
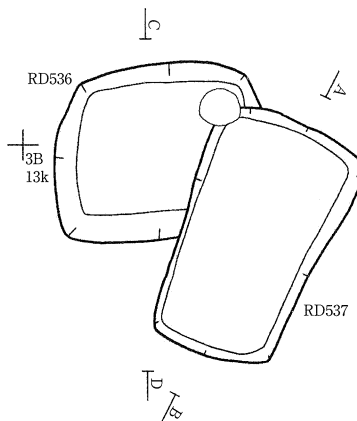
RD533・RD534

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭微量含む。南側ににぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 多量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭、にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。炭微量含む。にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/3) 含む。



RD535

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック含む。
2. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性有り。締まりなし。にぶい黄褐色土ブロック少量含む。
3. 水酸化鉄が帯状に堆積している層。

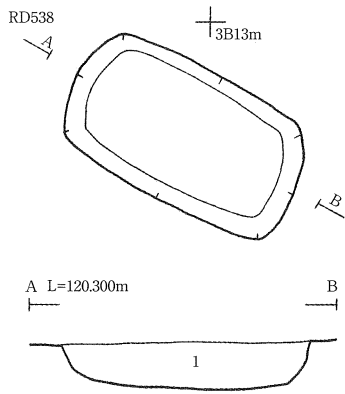


RD536・537

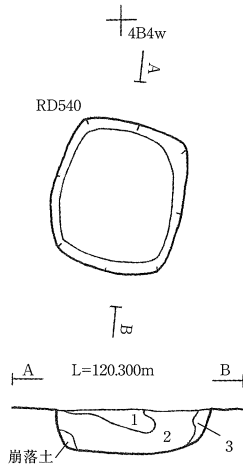
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。地山ブロック少量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐灰色粘土質土 (10YR4/1) との混合土。地山ブロック多量含む。南側断面に褐灰色粘土質土多量含む。

0 1:50 1m

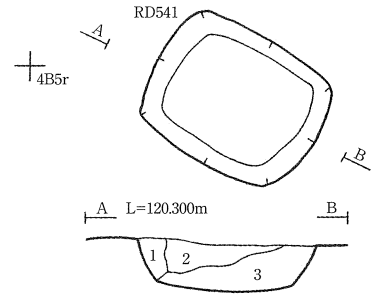
第156図 RD499・531~537 土坑



RD538
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。
地山ブロック少量含む。

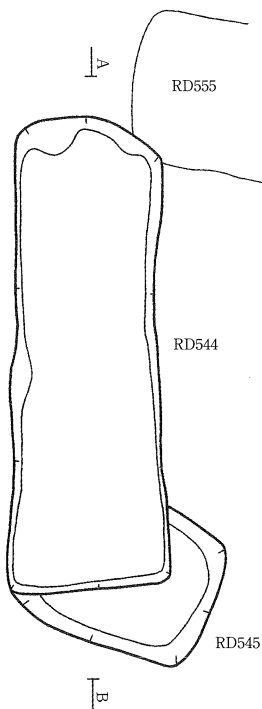


RD540
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック多量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりを欠く。褐色土ブロック多量含む。



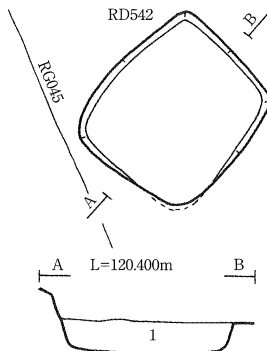
RD541
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。固く締まる。褐色土ブロックごく微量・炭微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロックごく微量含む。
3. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ブロック含む。

RD544・545

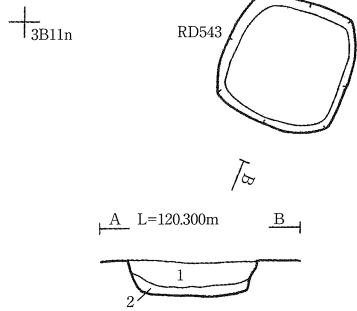


RD544・545
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 褐色土 (10YR3/1) との混合土。地山ブロック多量含む。

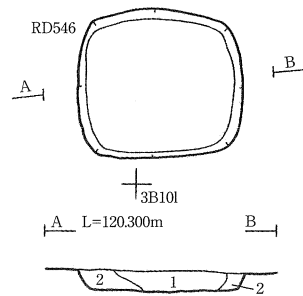
1C23t



RD542
1. 10YR3/2~2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ブロック少量含む。



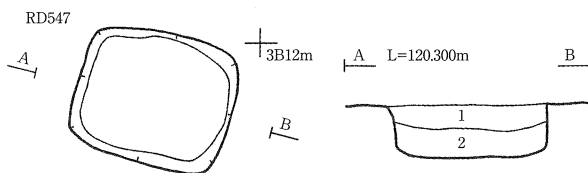
RD543
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。地山ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりややなし。地山ブロックごく微量含む。



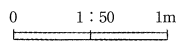
RD546
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。地山ブロック多量含む。



RD544・545
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 褐色土 (10YR3/1) との混合土。地山ブロック多量含む。



RD547
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。地山ブロック多量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性に富む。締まり有り。地山ブロック少量含む。

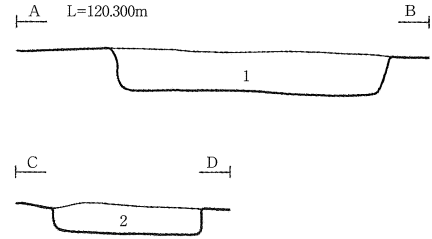
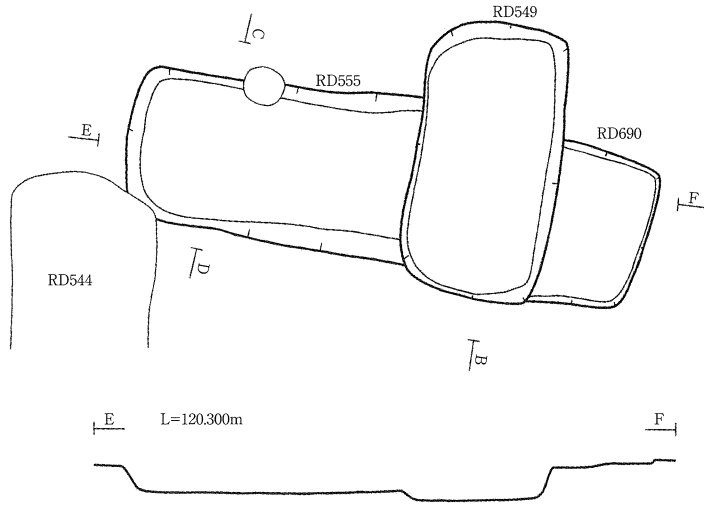


第157図 RD538・540~547 土坑

RD549・555

3B9o

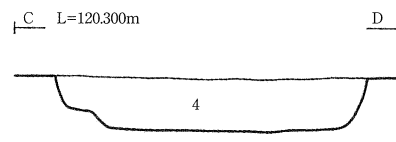
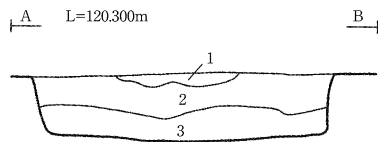
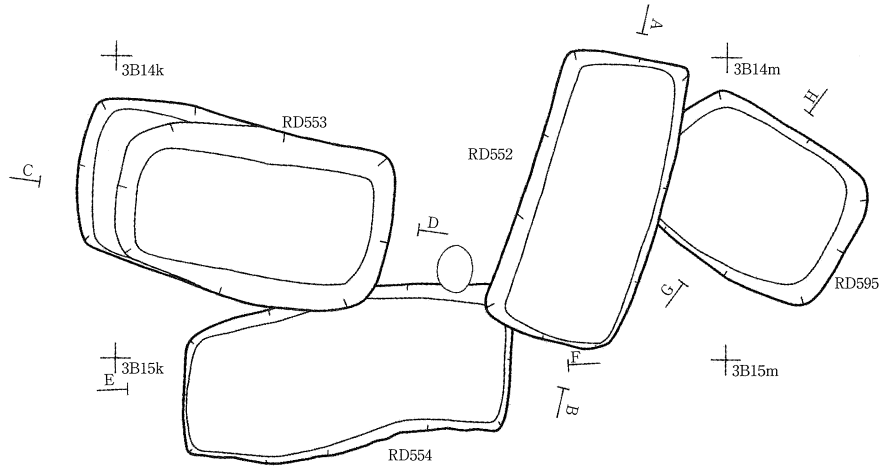
A



RD549・RD555

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。

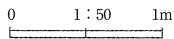
RD552~554・595



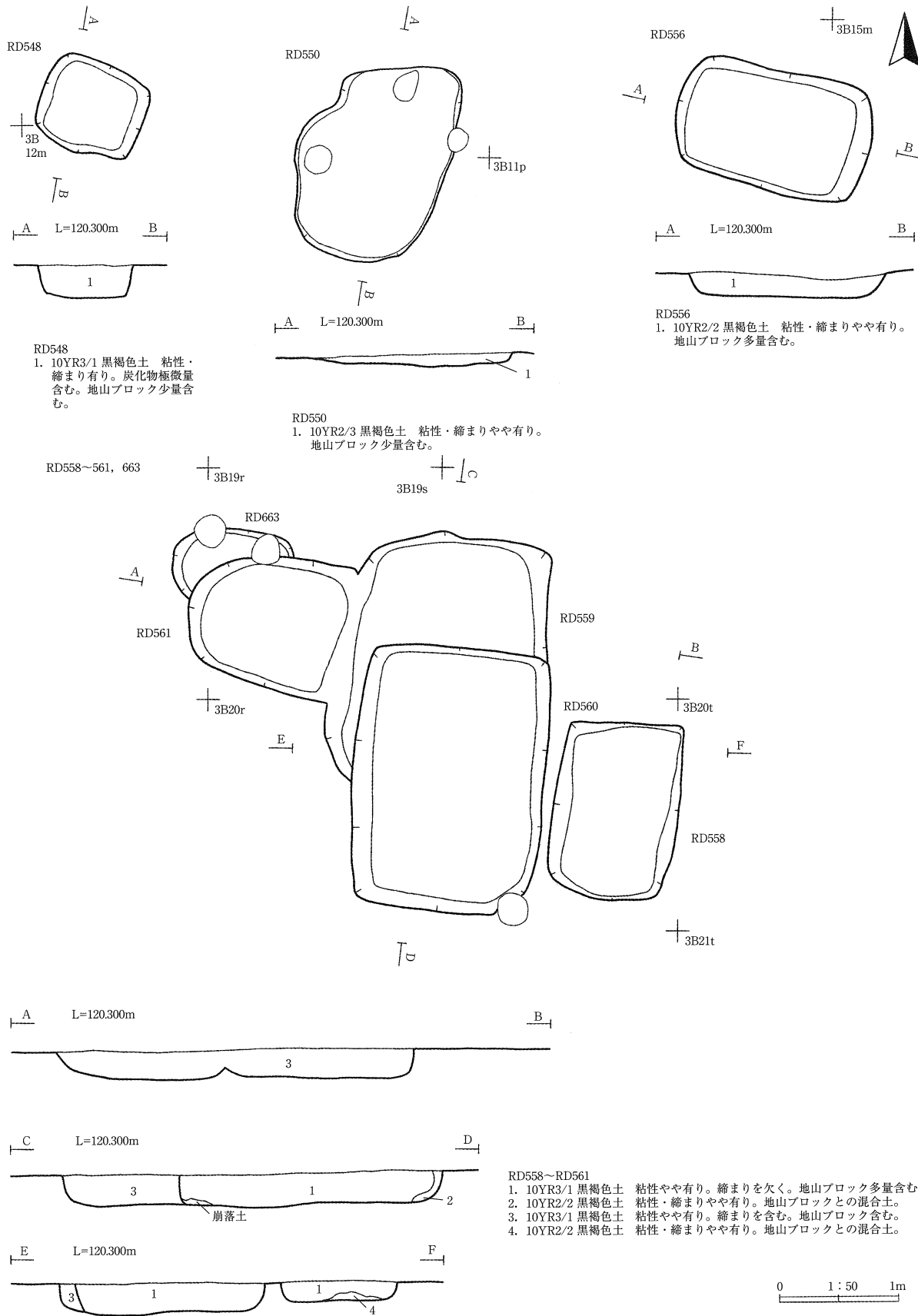
RD552~RD554・RD595

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック微量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。

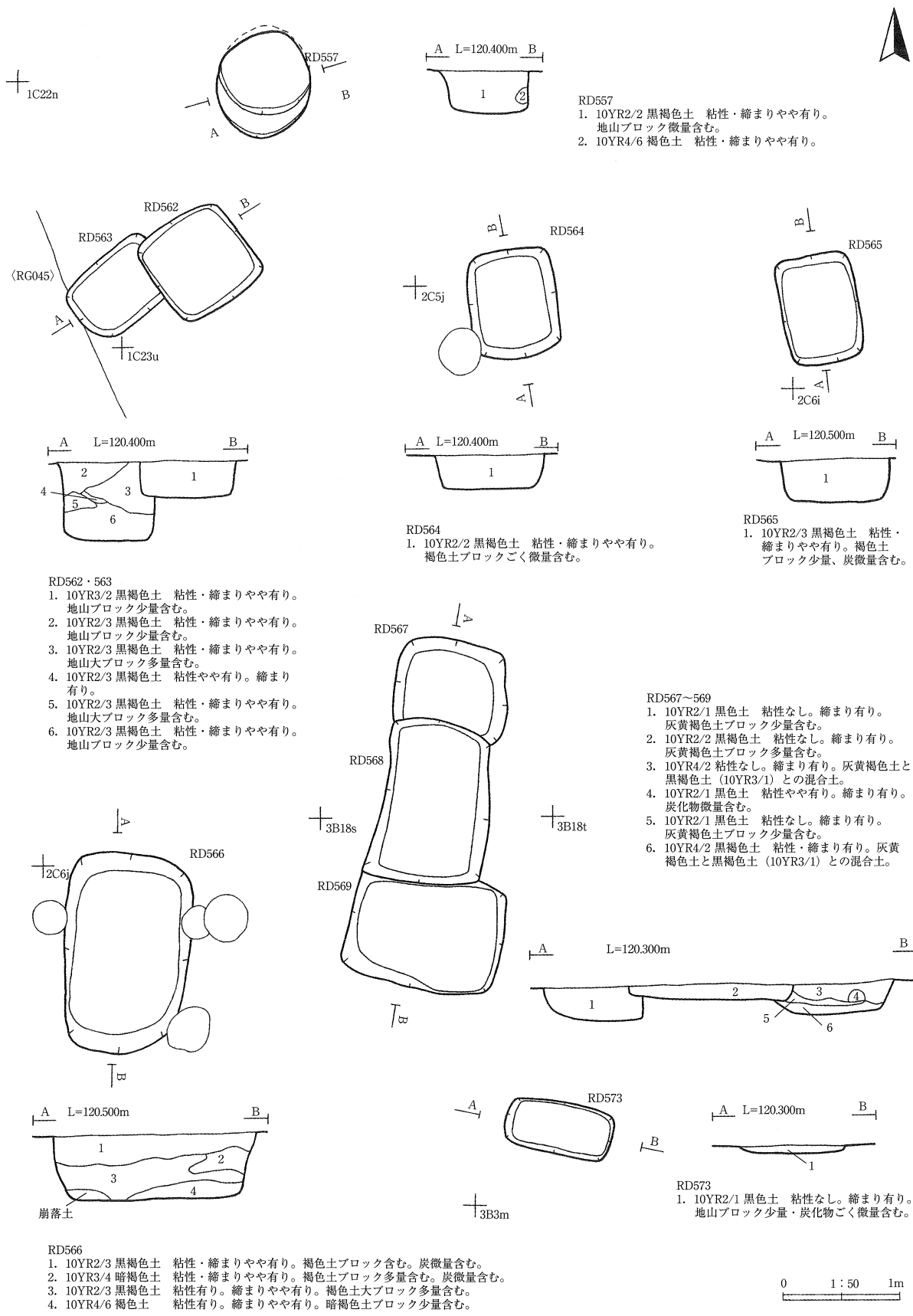
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。地山ブロック少量・炭化物ごく微量含む。
7. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭化物微量含む。
8. 10YR3/1 オリーブ黒粘土質土 粘性有り。締まりなし。黒色土ブロック (10YR3/1) 多量・炭化物微量含む。



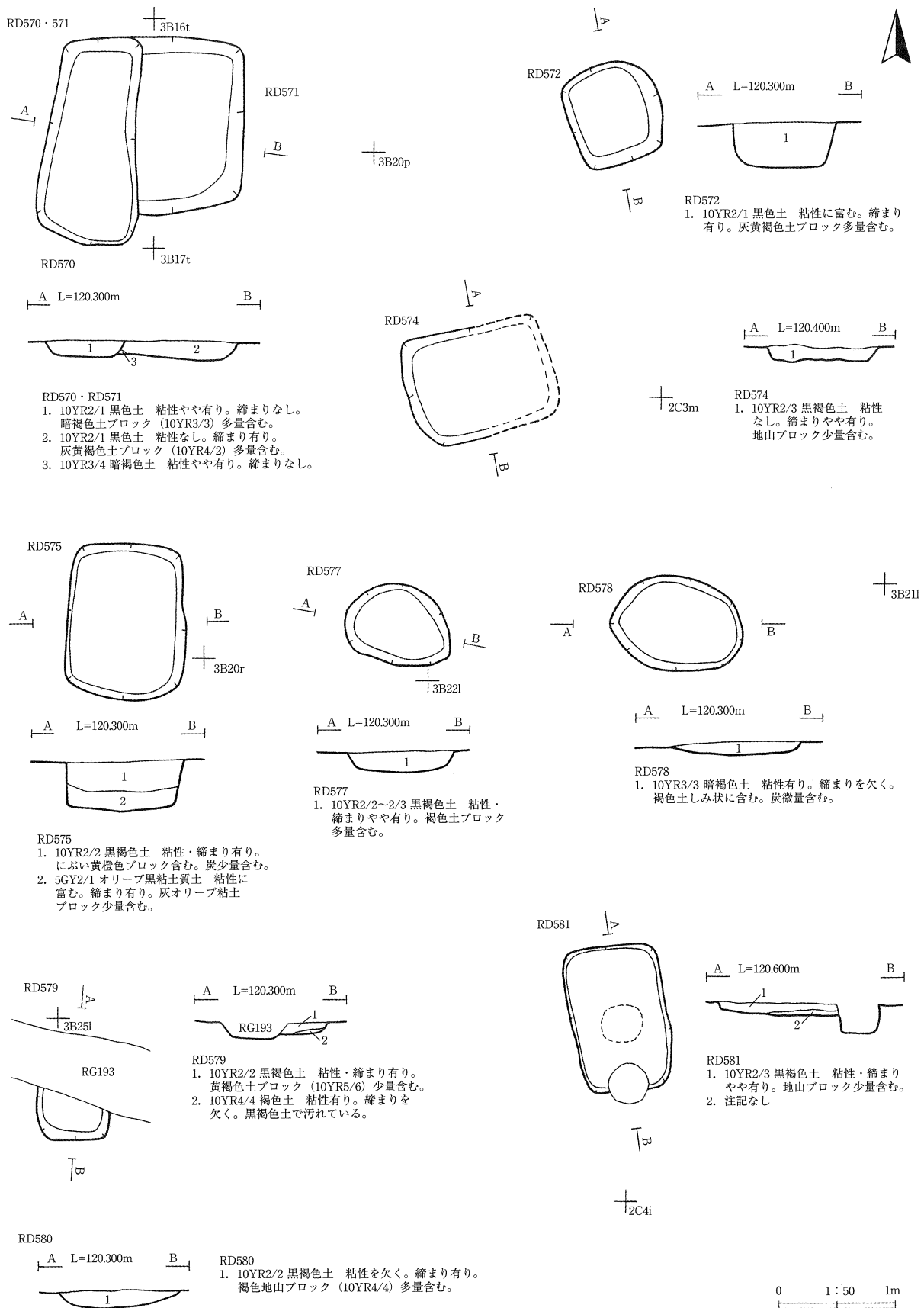
第158図 RD549・552~555・595・690 土坑



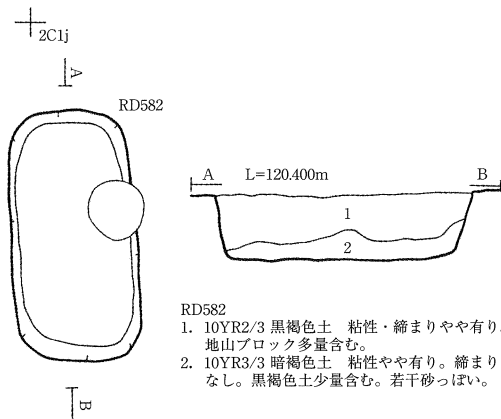
第159図 RD548・550・556・558～561・663 土坑



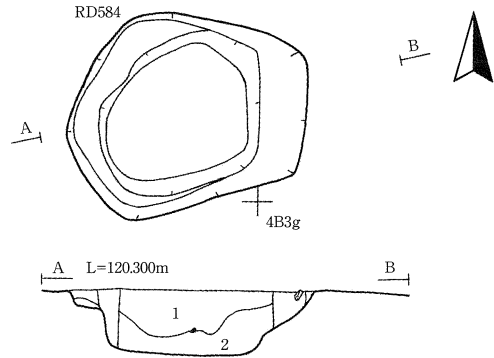
第160図 RD557・562~569・573 土坑



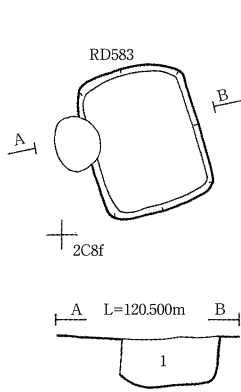
第161図 RD570~572・574・575・577~581 土坑



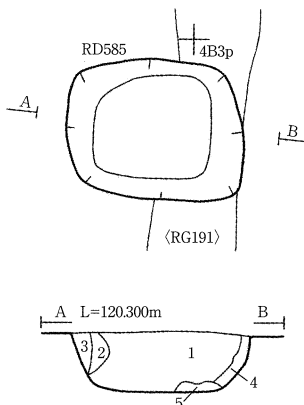
- RD582
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。黒褐色土少量含む。若干砂っぽい。



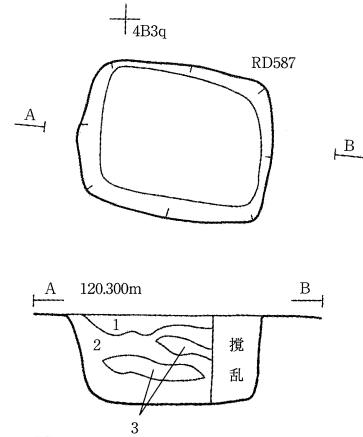
- RD584
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック多量・炭化物ごく微量含む。



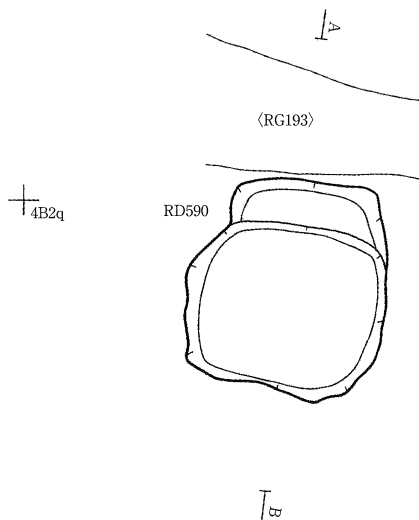
- RD583
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。



- RD585
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。地山ブロック少量・炭化物微量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。地山ブロック多量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。地山ブロック多量含む。
 4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。地山ブロック多量含む。
 5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりなし。地山ブロック多量含む。



- RD587
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。地山ブロック少量含む。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。暗褐色土 (10YR3/4) との混合土。
 3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

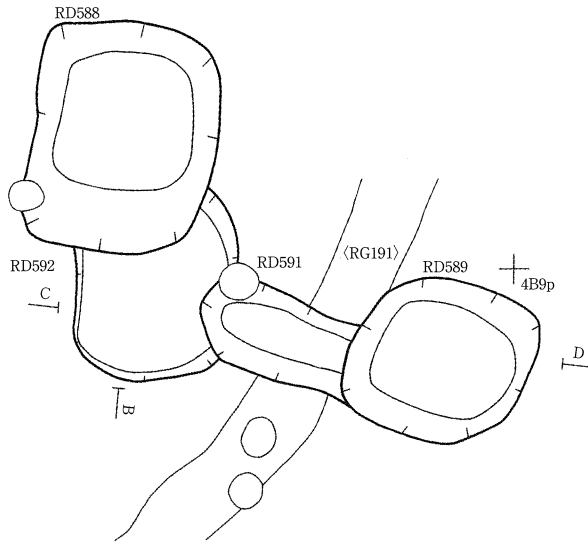


- RD590
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性に富む。縮まりを欠く。褐色土ブロック少量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

0 1:50 1m

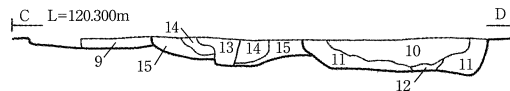
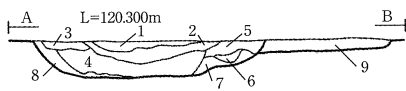
第162図 RD582~585・587・590 土坑

4B8n

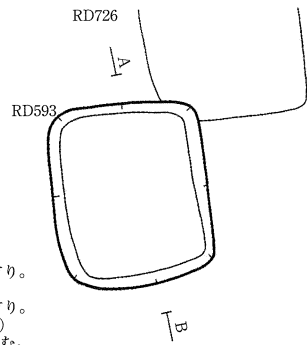


- RD588・RD589・RD591・RD592
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。
 - 10YR2/2~2/3 黒褐色 粘性有り。縮まりなし。褐色土ブロック少量・炭化物多量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色土 (10YR4/6) との混合土。炭化物少量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
 - 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。縮まりなし。褐色土ブロック微量含む。
 - 10YR4/4 褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。黒褐色土含む。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土ブロック多量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性ややなし。縮まり有り。褐色土ブロック微量含む。炭・焼土粒微量含む。
 - 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック焼土粒含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色土ブロック、ごく微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。黄褐色土ブロック微量含む。
 - 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土小ブロック多量含む。

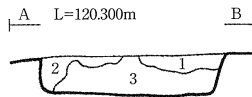
4B10p



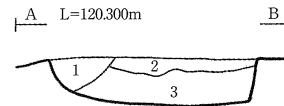
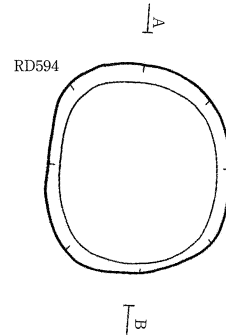
3B20m



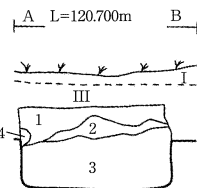
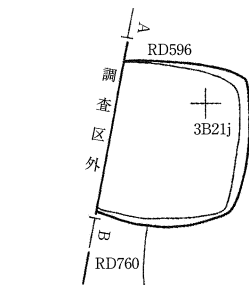
- RD593
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭化物ごく微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりややなし。褐色土ブロック多量・炭化物微量含む。



3B20n



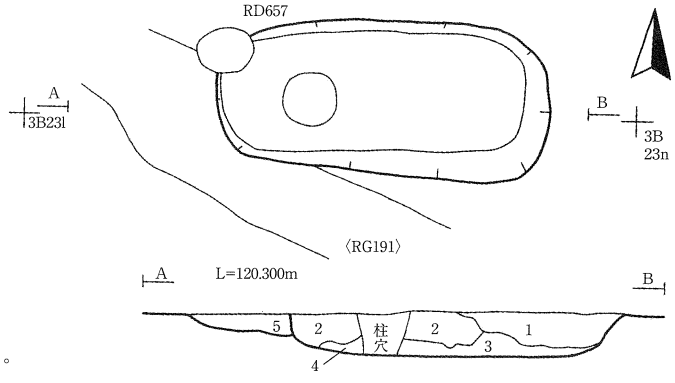
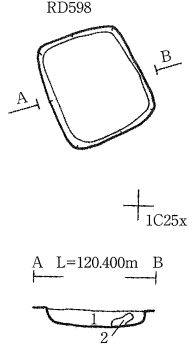
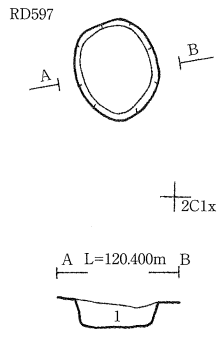
- RD594
- 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量・炭化物微量に含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量・炭化物ごく微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭化物微量含む。



- RD596
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭化物微量に含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック少量・炭化物微量に含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。

0 1:50 1m

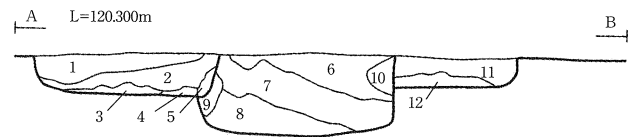
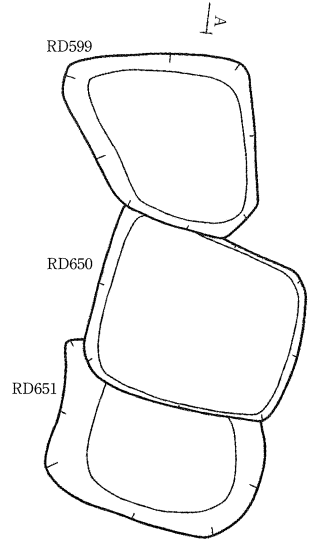
第163図 RD588・589・591~594・596 土坑



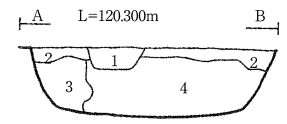
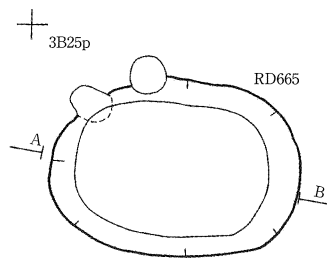
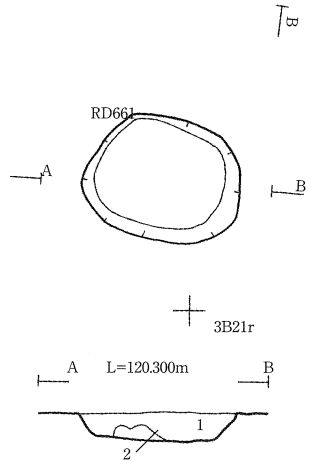
RD597
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。

RD598
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。

RD657
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック多量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。

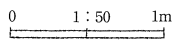


RD599・650・651
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりなし。褐色土 (10YR4/4) との混合土。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック多量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。
6. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりなし。褐色土ブロック少量・炭ごく微量含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。炭ごく微量含む。
8. 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・縮まりなし。黒褐色土ブロック少量含む。
9. 10YR4/3 におい黄褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。
11. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。
12. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。



RD661
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック多量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。褐色土ブロック多量含む。

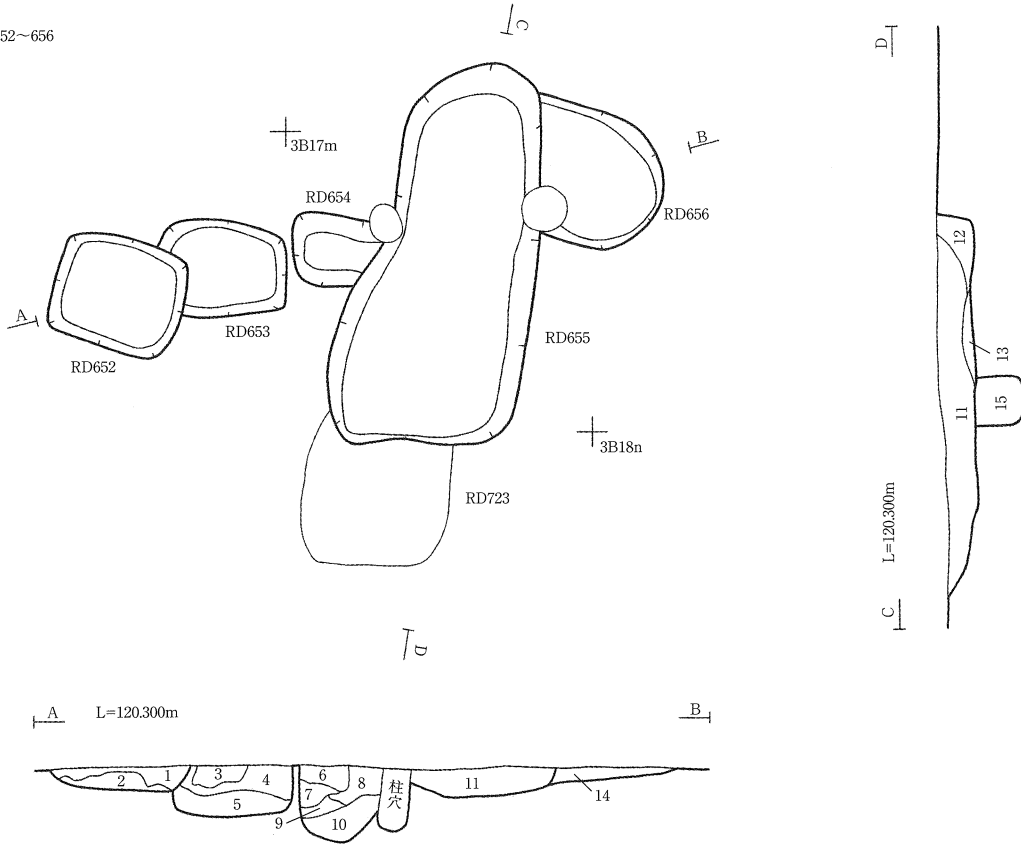
RD665
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック極微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色土ブロック多量含む。



第164図 RD597~599・650・651・657・661・665 土坑



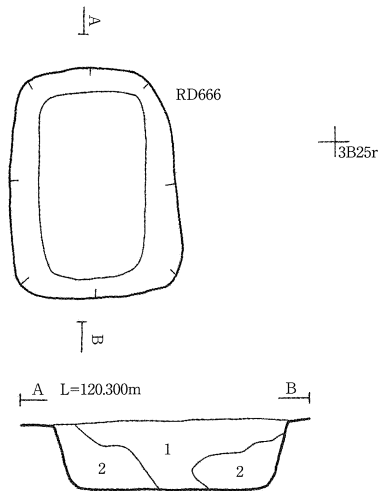
RD652~656



RD652~656

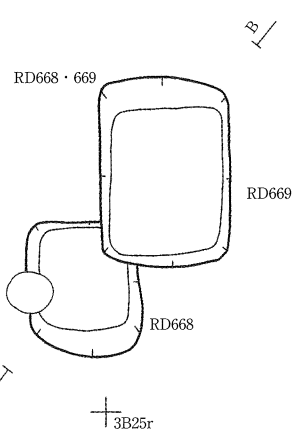
1. 10YR2/1 黒色土 粘性なし。締まり有り。灰黄褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。
3. 10YR2/1 黒色土 粘性なし・締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量・炭化物含む。
4. 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。炭化物微量含む。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。
5. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。炭化物含む。

6. 10YR2/1 黒色土 粘性なし。締まり有り。灰黄褐色土ブロック少量・炭化物含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土ブロック多量・炭化物微量含む。
8. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし・締まり有り。灰黄褐色土 (10YR4/1) との混合土。
9. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。灰黄褐色土多量含む。
10. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。灰色粘質土多量含む。
11. 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。締まり有り。にぶい黄褐色土ブロック・炭少量含む。
12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性に富む。締まり有り。にぶい黄褐色土含む。
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。
14. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。灰黄褐色土ブロック少量含む。
15. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりなし。地山ブロック少量含む。

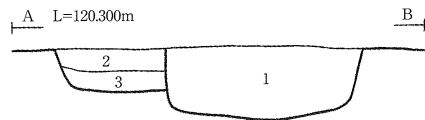


RD666

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック少量・炭化物微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック多量・炭化物微量含む。



RD668・669

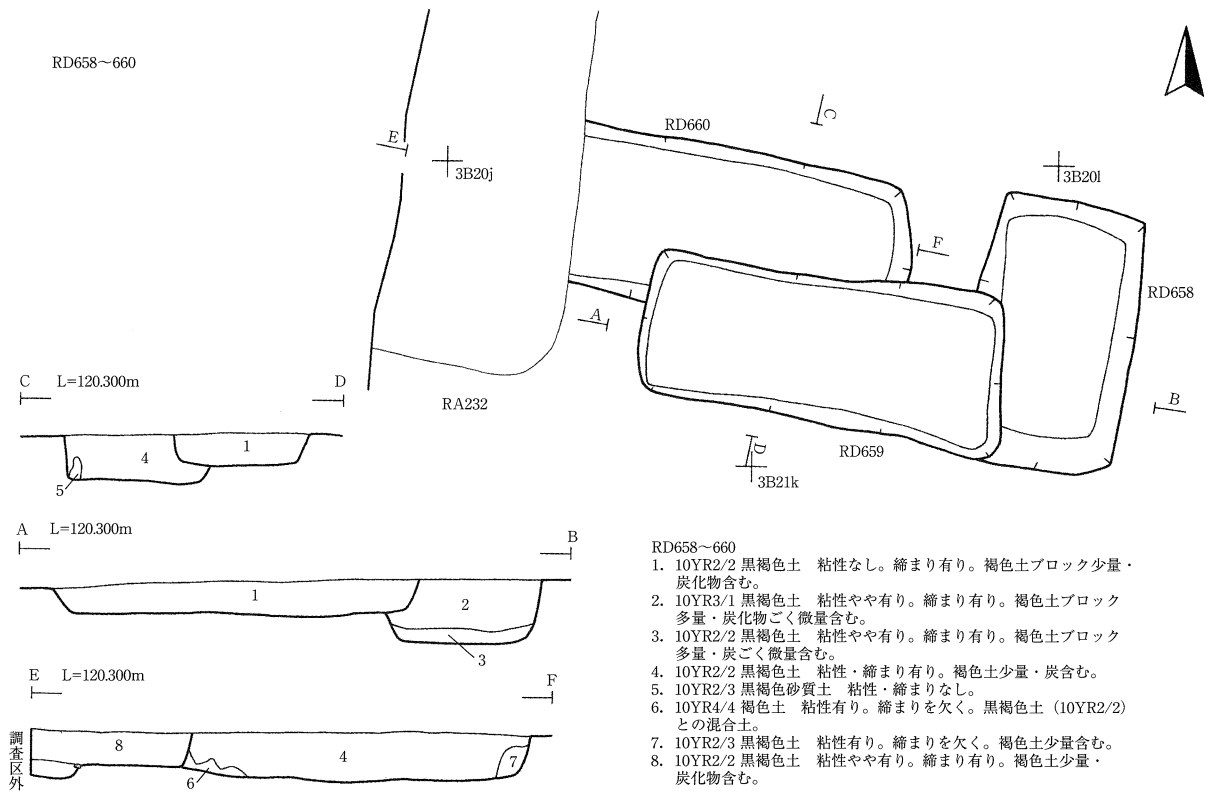


RD668・669

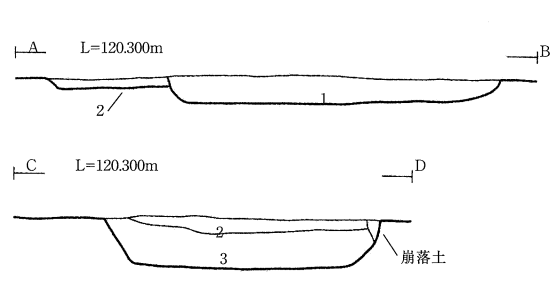
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭含む。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ブロック少量・炭ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) との混合土。

0 1 : 50 1m

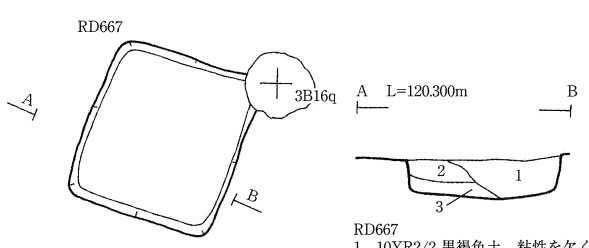
第165図 RD652~656・666・668・669 土坑



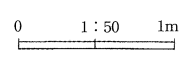
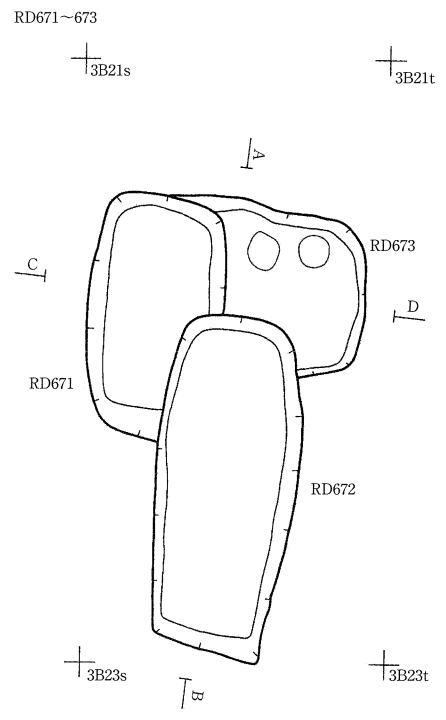
- RD658~660
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量・炭化物含む。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック多量・炭化物ごく微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック多量・炭ごく微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土少量・炭含む。
 - 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性・締まりなし。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性有り。締まりを欠く。黒褐色土 (10YR2/2) との混合土。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土少量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土少量・炭化物含む。



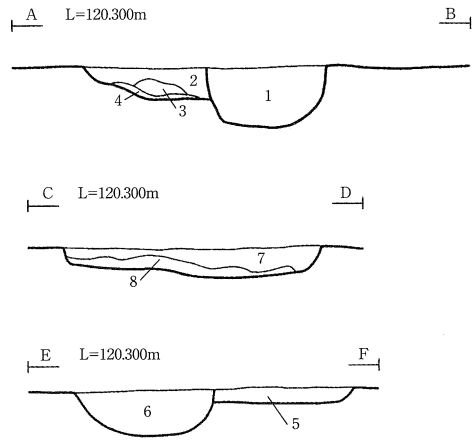
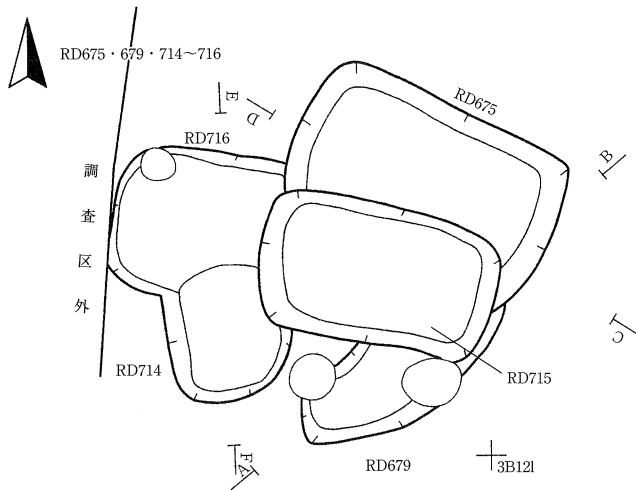
- RD671~673
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。赤褐色焼土ブロック少量・炭化物含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック微量含む。炭化物微量含む。



- RD667
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。地山ブロック微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。地山ブロック少量含む。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土少量・炭含む。

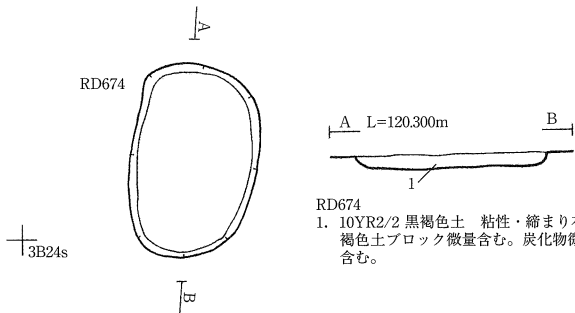


第166図 RD658~660・667・671~673 土坑

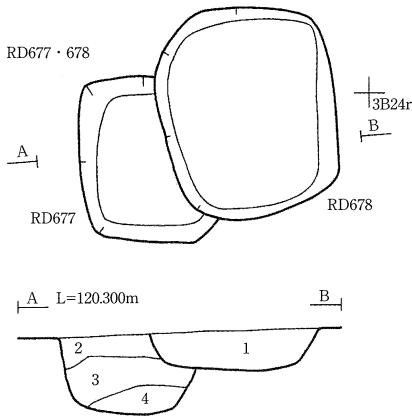


RD675・679・714~716

1. 5Y2/2 オリーブ黒色土 粘性・縮まり有り。炭含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロックごく微量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック少量・炭含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色土ブロック多量・炭含む。
5. 5Y2/2 オリーブ黒色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロックごく微量・炭含む。
6. 5Y2/2 オリーブ黒色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量・炭含む。
7. 10YR3/1 黒褐色土 粘性に富む。縮まり有り。灰黄褐色粘土質土ブロック微量・炭ごく微量含む。
8. 10YR4/2 灰黄褐色粘土質土 粘性有り。縮まりなし。暗オリーブ粘土質土少量含む。



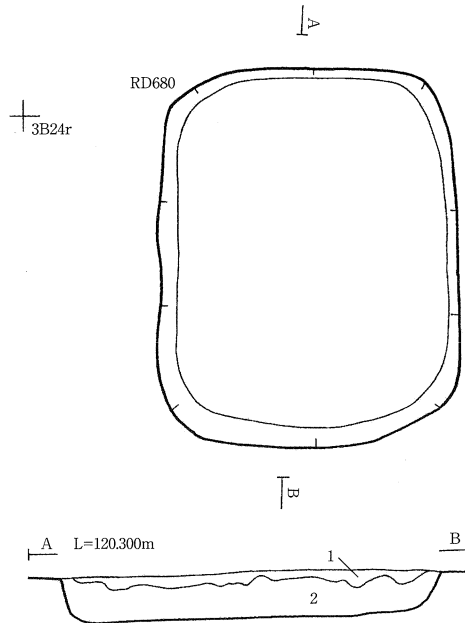
- RD674
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック微量含む。炭化物微量含む。



RD677・678

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック少量含む。炭ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック、炭ごく微量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック微量・炭ごく微量含む。

0 1:50 1m



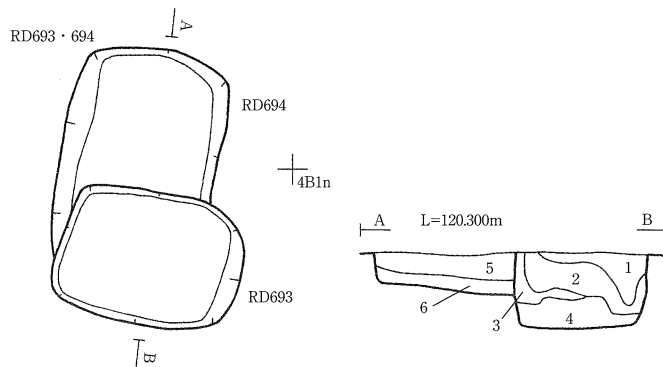
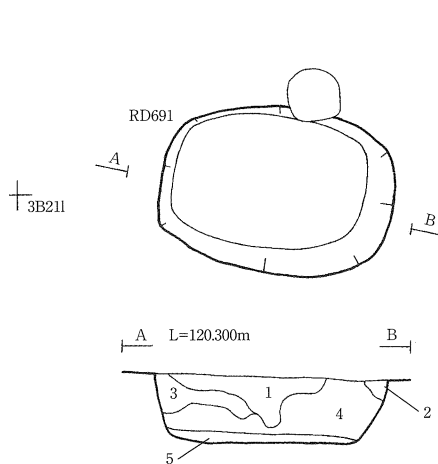
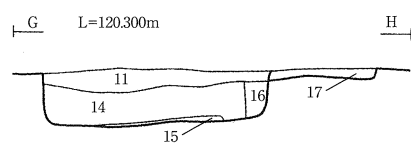
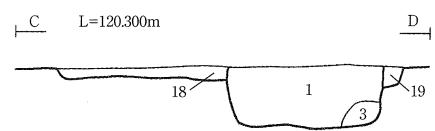
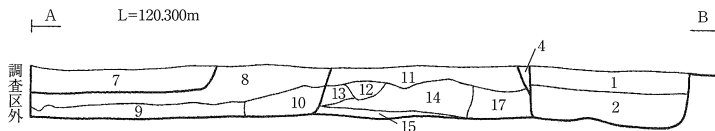
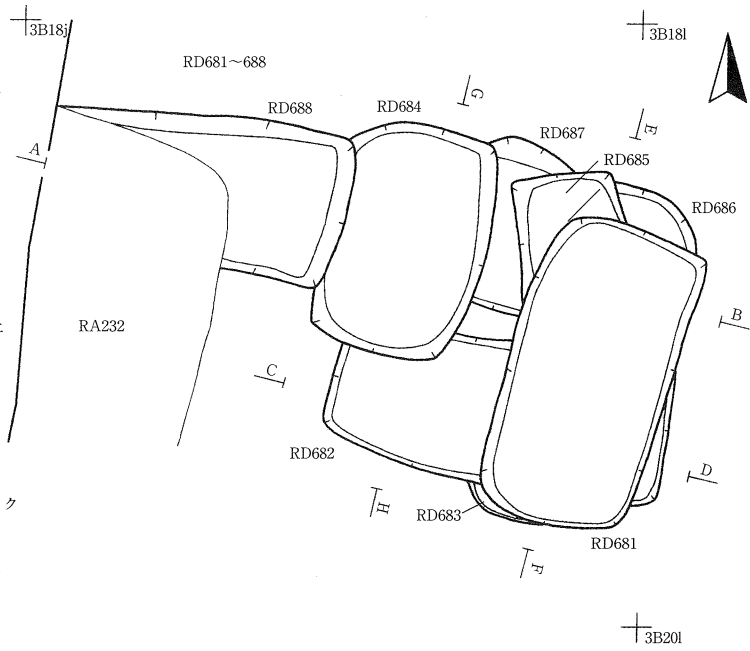
RD680

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土ブロック・炭少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4~4/6) との混合土。

第167図 RD674・675・677~680・714~716 土坑

RD681~688

1. 10YR2/3~3/1 黒褐色土と 10YR4/4 褐色土との混合物。粘性・締まり有り。炭含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量、炭含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック多量含む。炭化物極微量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック極微量、炭含む。
5. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量、炭含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。褐色土ブロック、オリブ黒粘質土少量含む。炭含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭含む。
8. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭含む。
9. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。
10. 10YR4/1 褐色土 粘性有り。締まりややなし。黒褐色土少量含む。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
12. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック極微量、炭含む。
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量、炭含む。
14. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック極微量、炭含む。
15. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック極微量、炭含む。
16. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック極微量含む。
17. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック極微量含む。
18. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック極微量、炭含む。
19. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。炭含む。
20. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりややなし。黒褐色土ブロック極微量含む。

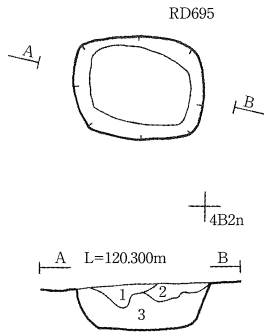


- RD691
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック、炭極微量含む。
 2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土多量・炭含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合物。炭含む。
 4. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合物。炭含む。
 5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。

- RD693・694
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック多量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロックごく微量・炭含む。
 4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック少量・炭含む。
 5. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ごく微量含む。
 6. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まりなし。褐色土ごく微量含む。

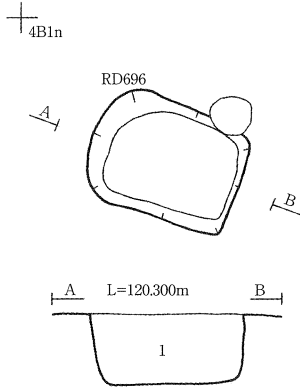
0 1 : 50 1m

第168図 RD681~688・691・693・694 土坑



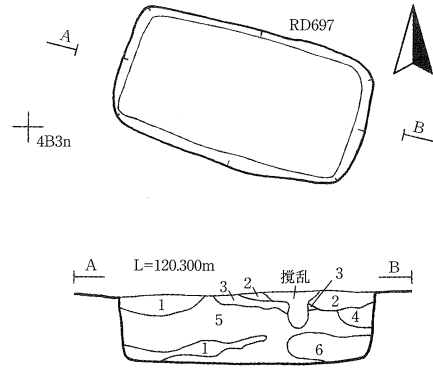
RD695

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロックごく微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土 (10YR4/4) との混合土。



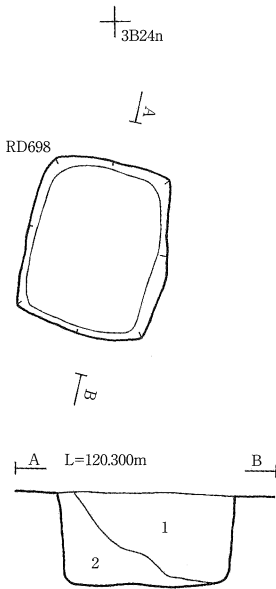
RD696

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土ブロック少量含む。



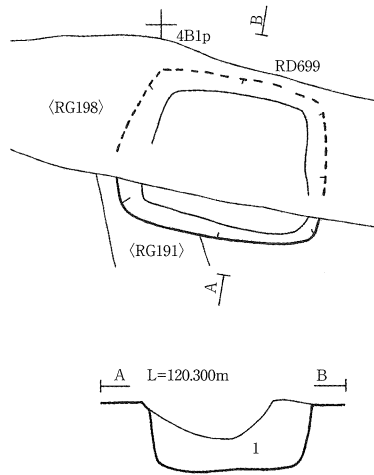
RD697

1. 10YR3/1 黒褐色粘土質土 粘性・締まり有り。褐色土微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。炭ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。褐色土ブロック微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロックごく微量含む。
5. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土 (10YR4/4) との混合土。
6. 10YR3/1 黒褐色粘土質土 褐色ごく微量含む。



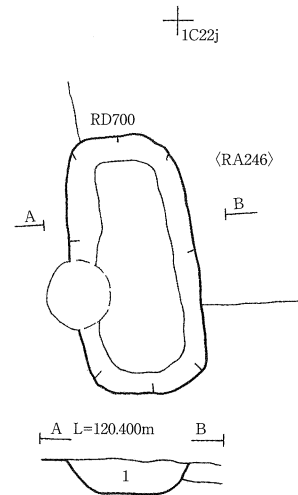
RD698

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック多量含む。



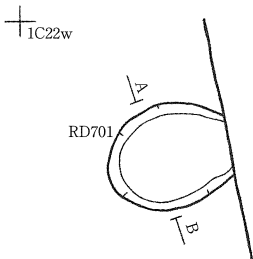
RD699

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりややなし。褐色土ブロック多量含む。



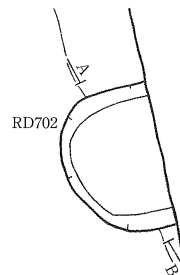
RD700

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。



RD701

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。褐色土ブロック多量含む。

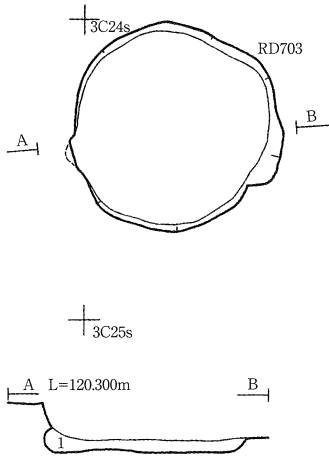


RD702

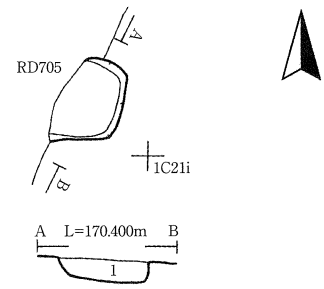
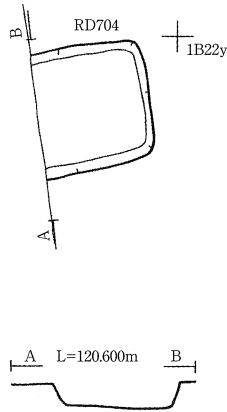
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック・小礫を多量含む。

0 1:50 1m

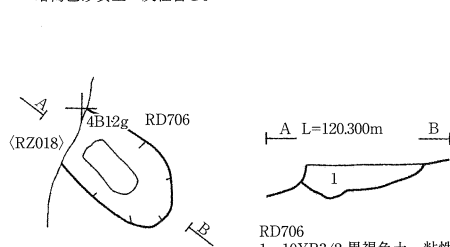
第169図 RD695~702 土坑



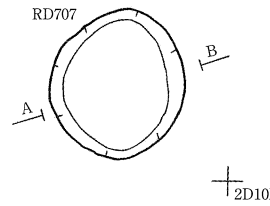
RD703
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
暗褐色砂質土・炭粒含む。



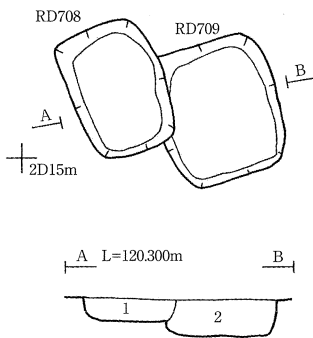
RD705
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
地山ブロック多量含む。



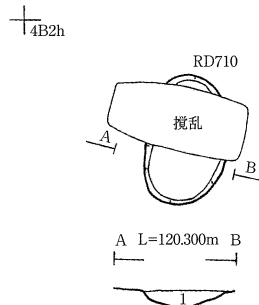
RD706
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
灰黄褐色土 (10YR6/2) 微量含む。



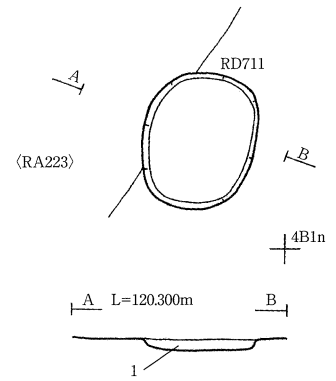
RD707
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。
縮まりなし。地山ブロック多量含む。



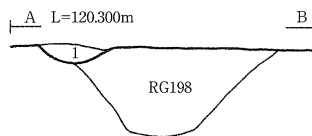
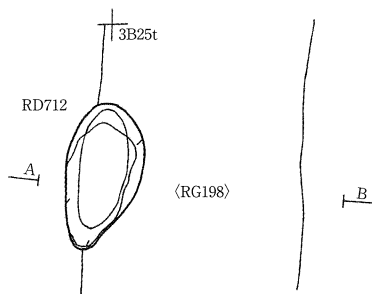
RD708・709
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
地山ブロックごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
地山ブロック微量含む。



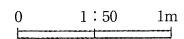
RD710
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まり
やや有り。炭ごく微量含む。



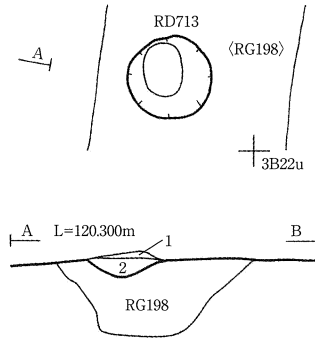
RD711
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・縮まり有り。
褐色土 (10YR4/4) との混合土。



RD712
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりなし。焼土粒ごく微量・
褐色土ブロック少量・炭化物多量・焼骨含む。

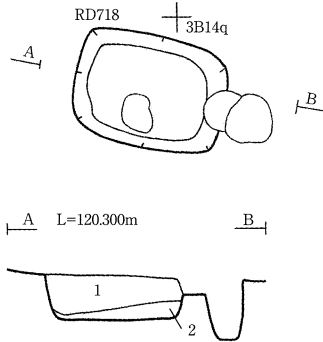


第170図 RD703~712 土坑



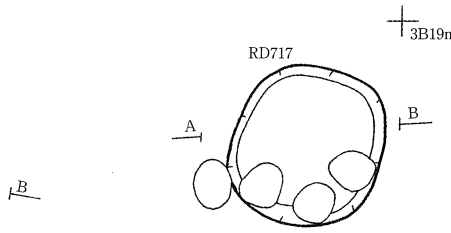
RD713

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりを欠く。多量の炭化物と骨片の堆積。



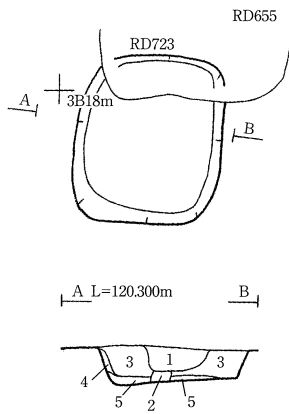
RD718

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 大量に含む。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR3/1) ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。



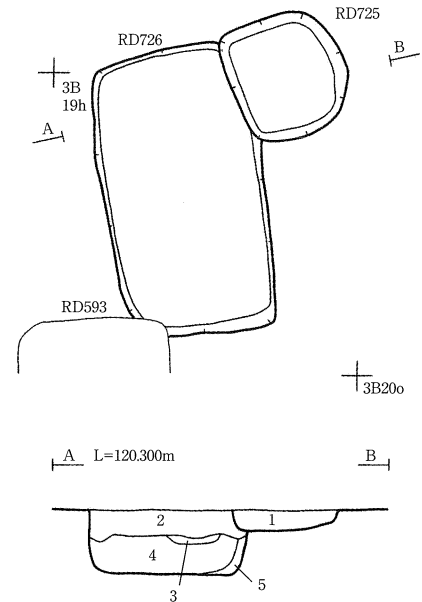
RD717

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性弱。縮まり有り。炭ごく微量・灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 含む。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。水酸化鉄斑有り。



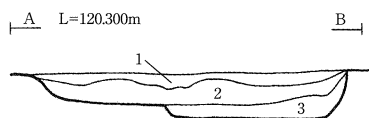
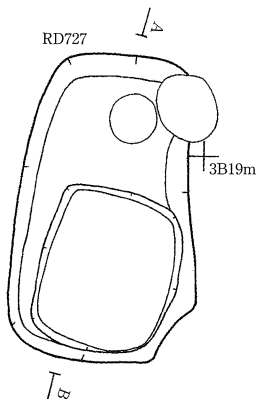
RD723

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。灰黄色土ブロック (10YR4/2) ごく微量・炭微量含む。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量含む。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 粘性を欠く。縮まりなし。水酸化鉄斑有り。
4. 7.5YR3/2 オリーブ黒色粘土質土 粘性有り。縮まりを欠く。水酸化鉄斑有り。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりを欠く。水酸化鉄斑有り。



RD725・726

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量・炭含む。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりを欠く。灰色粘土質土ブロック (10YR4/1) ごく少量含む。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR4/1 灰色粘土質土 粘性有り。縮まりを欠く。黒色土ブロック (10YR2/1) ごく少量含む。水酸化鉄斑有り。
4. 10YR4/1 灰色粘土質土 粘性有り。縮まりを欠く。水酸化鉄斑有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) 少量含む。水酸化鉄斑有り。

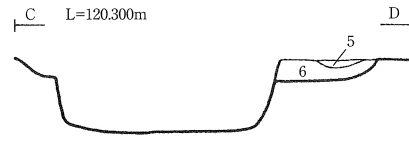
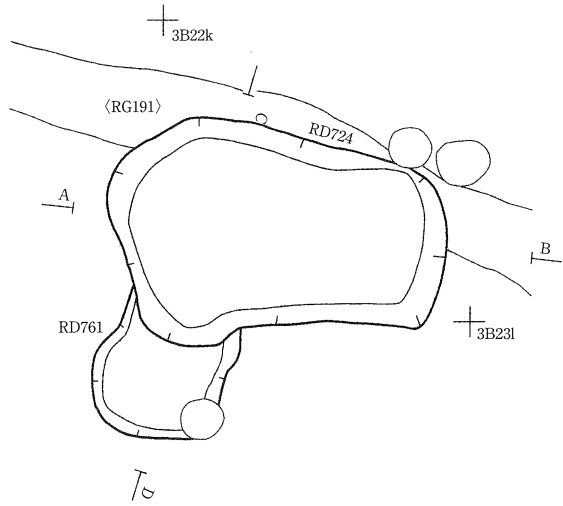


RD724

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。炭微量・褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量・炭、焼土粒微量含む。

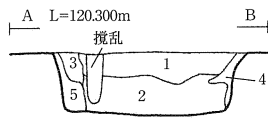
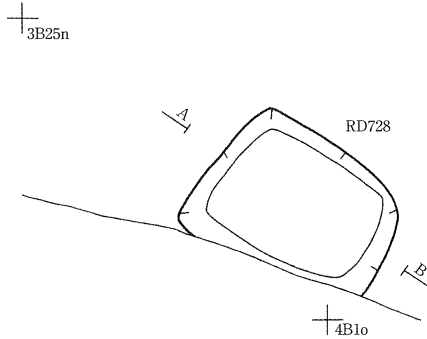
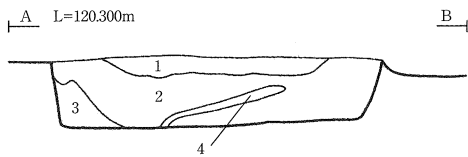
0 1:50 1m

第171図 RD713・717・718・723・725~727 土坑



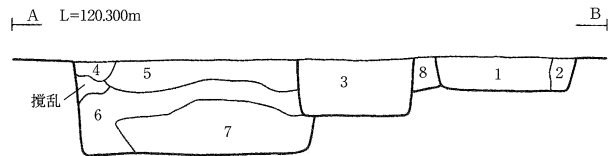
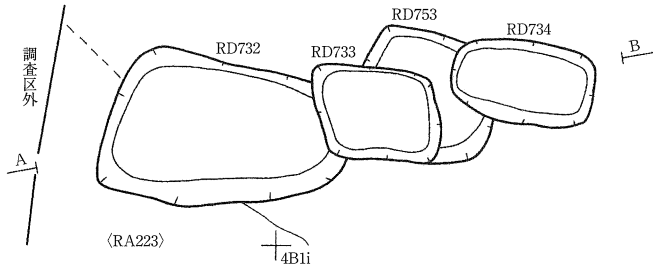
RD724・761

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄斑少量・褐色土ブロック (10YR4/4)、炭微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭、焼土粒微量・褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭微量・褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 大量に含む。



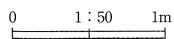
RD728

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量・炭少量含む。
4. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。黒褐色土ブロック少量含む。

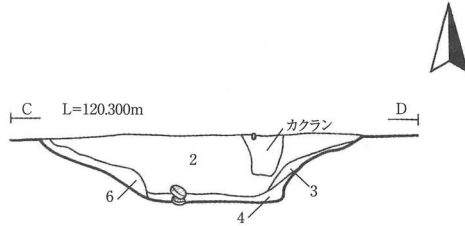
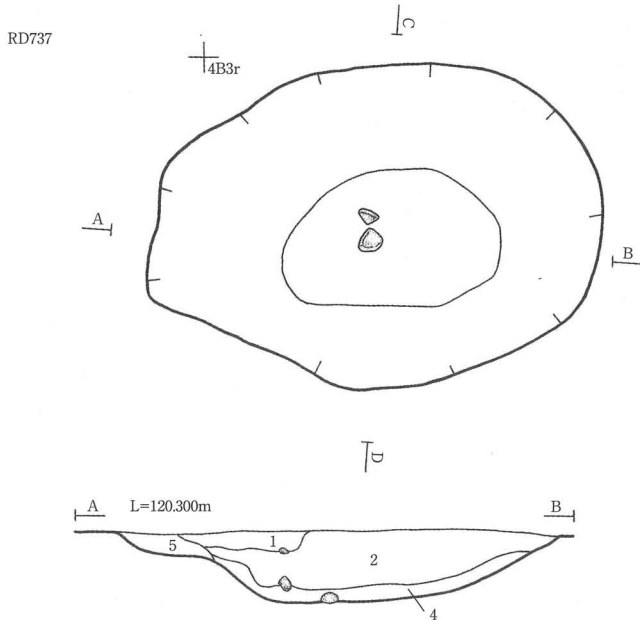


RD732~734・753

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量・炭微量含む。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。オリープ黒色粘土質土 (5YR3/1) 多量・褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR3/1 暗褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4)・水酸化鉄斑少量含む。
4. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR4/2) ごく微量含む。
5. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・縮まり有り。黒褐色土粒 (10YR3/1) ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。
6. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
7. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量・炭微量含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り・褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。

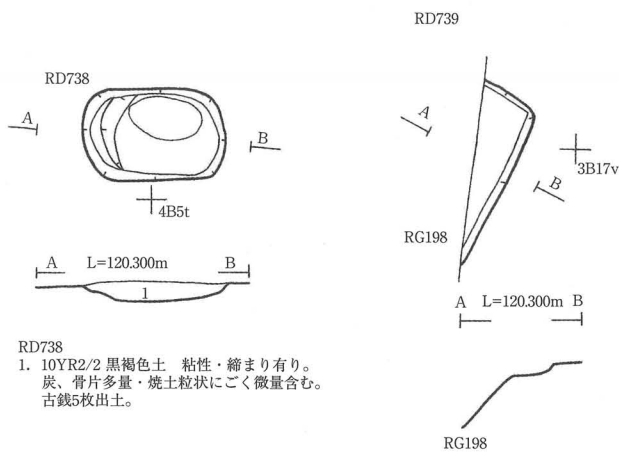


第172図 RD724・728・732~734・753・761 土坑



RD737

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 粒状にごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4)・炭微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。礫 (こぶし大) 3、4個含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まり有り。黒褐色土 (10YR2/2) シミ状に少量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。

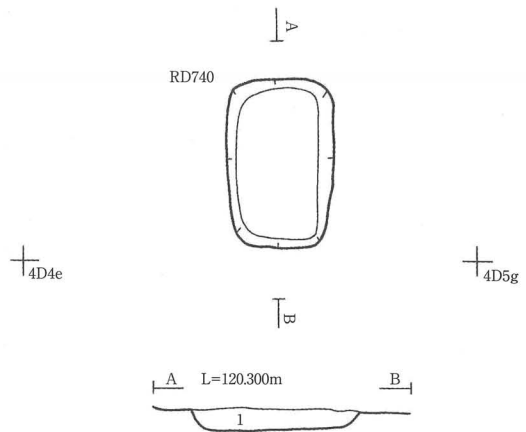


RD738

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭、骨片多量・焼土粒状にごく微量含む。古銭5枚出土。

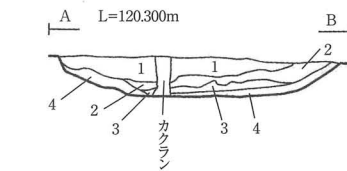
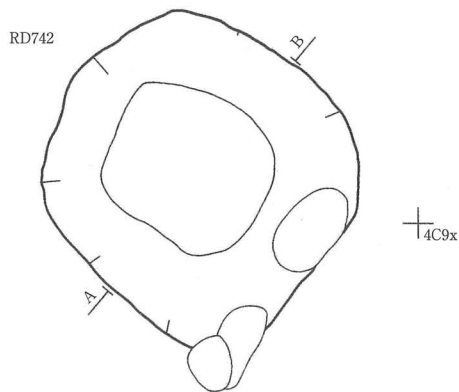
RD739

RG198



RD740

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。地山ブロック微量含む。

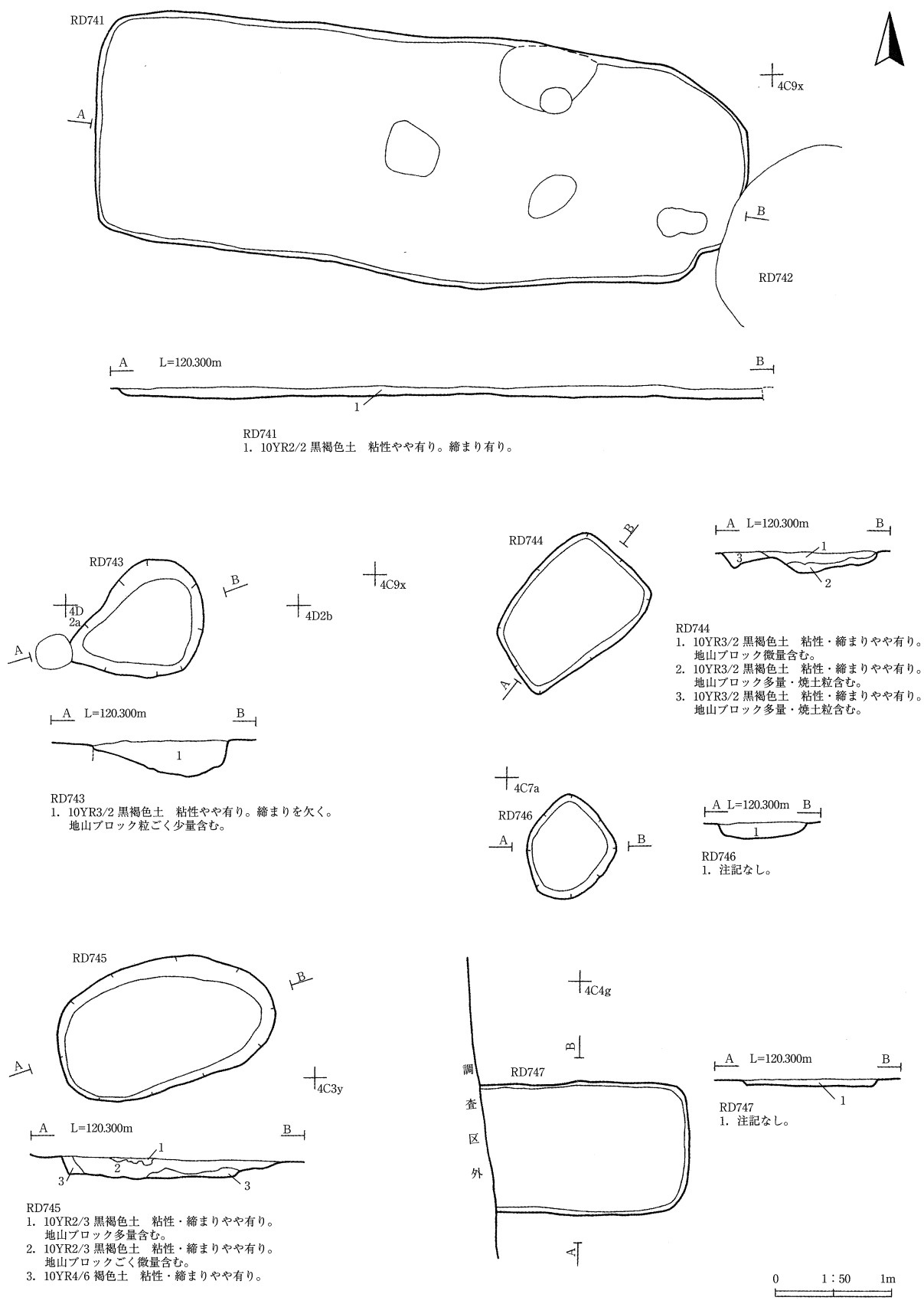


RD742

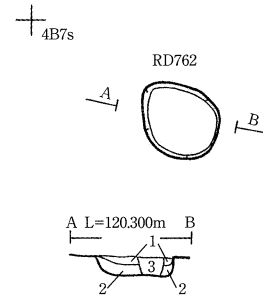
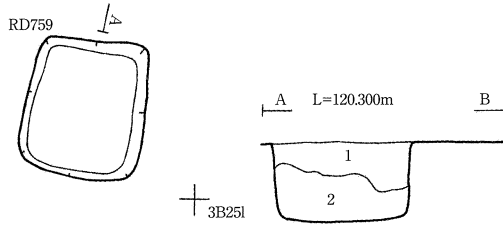
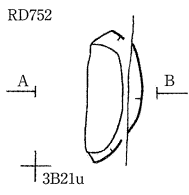
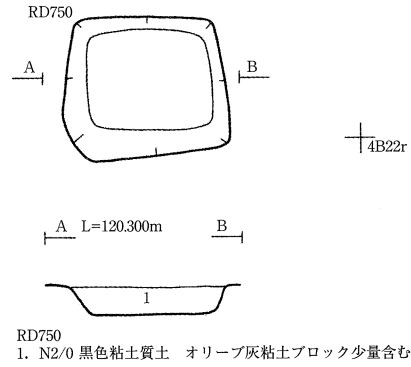
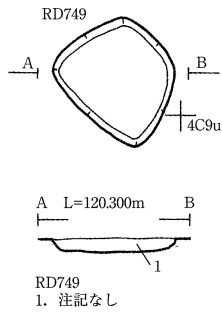
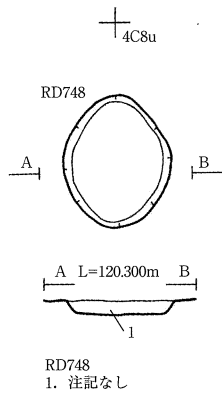
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。炭粒・地山ブロック含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。

0 1:50 1m

第173図 RD737~740・742 土坑

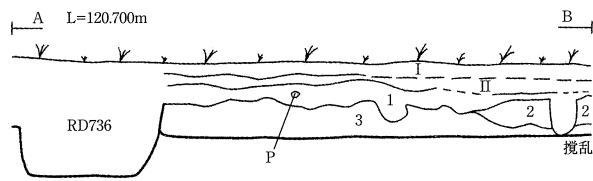
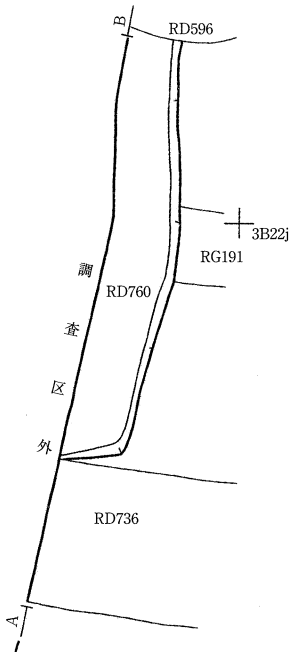
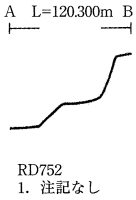


第174図 RD741・743~747 土坑

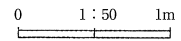


- RD759
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。黒褐色土ブロック (10YR2/2) ごく微量含む。

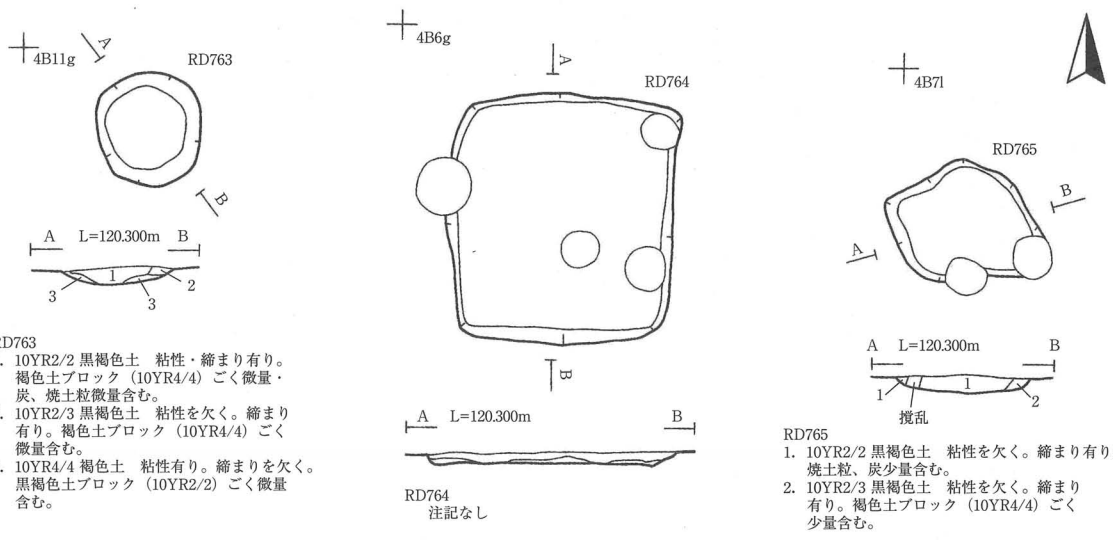
- RD762
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 微量含む。柱穴。



- RD760
- 10YR2/2 黒色土 粘性やや有り。固く縮まる。暗褐色粒 (10YR3/4) 多量・炭少量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く縮まる。褐色土 (10YR4/4) 多量・炭少量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土粒 (10YR4/4) 多量含む。水酸化鉄斑有り。



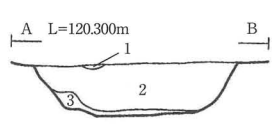
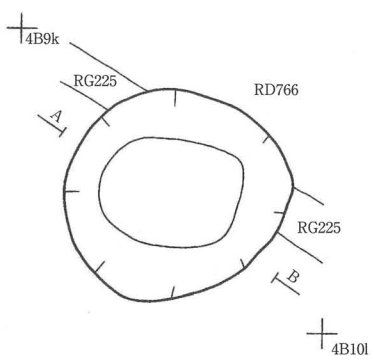
第175図 RD748~750・752・759・760・762 土坑



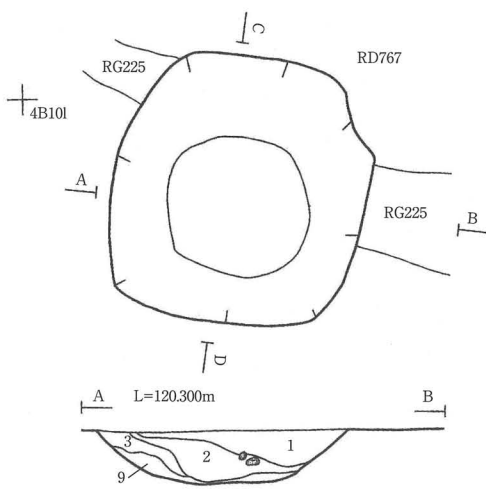
- RD763
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量・炭・焼土粒微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
 - 10YR4/4 褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。黒褐色土ブロック (10YR2/2) ごく微量含む。

RD764
注記なし

- RD765
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。焼土粒・炭少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) ごく少量含む。

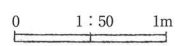


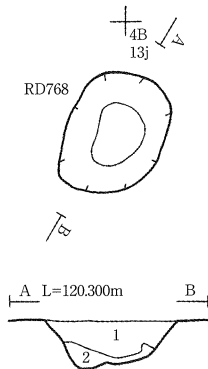
- RD766
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭化物・焼土粒・褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
 - 10YR3/1 黒褐色粘土質土 粘性有り。縮まりを欠く。炭・焼土粒少量含む。水酸化鉄斑含む。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。炭・焼土粒少量含む。



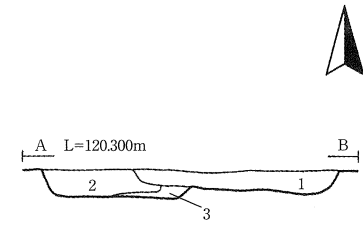
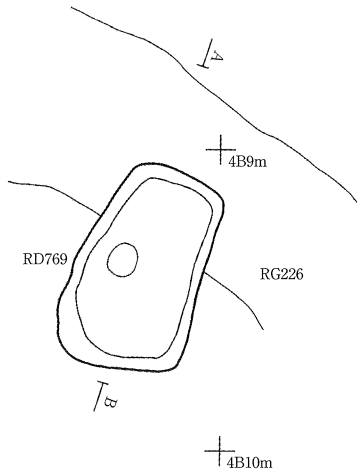
- RD767
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。炭化物少量・焼土含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性に富む。縮まりを欠く。炭化物ごく微量・水酸化鉄斑含む。礫 (径5~15cm大) 数個含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 多量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土粒 (10YR4/4) ごく微量・炭化物・焼土含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 微量・炭化物ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 微量含む。水酸化鉄斑有り。

第176図 RD763~767 土坑

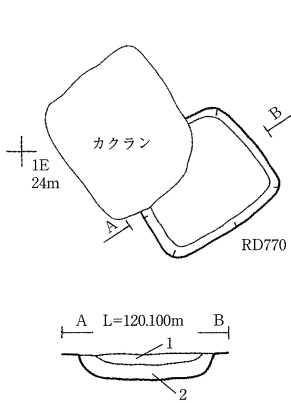




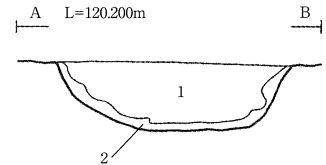
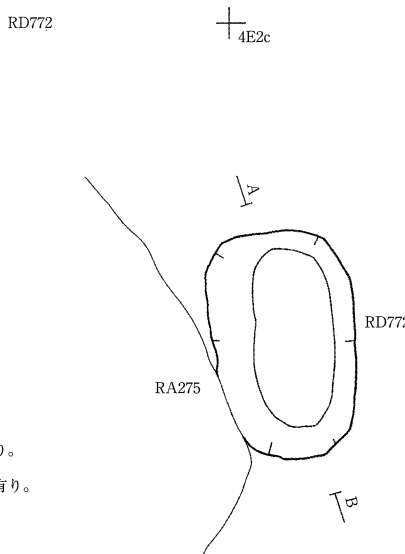
- RD768
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。固く締まる。炭化物微量・灰黄褐色砂質土シルト (10YR4/2) ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 大量に含む。水酸化鉄斑有り。



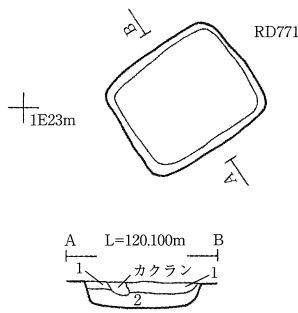
- RD769 (RG226と重複)
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。焼土粒、褐色土 (10YR4/4)、炭化物含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく少量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) との混合土。



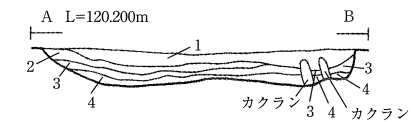
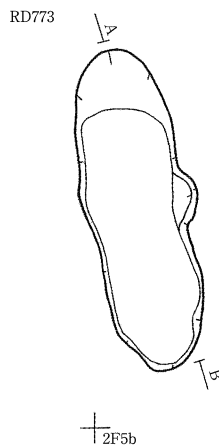
- RD770
- 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性を欠く。締まり有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量含む。
 - 10YR3/4 暗褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量含む。



- RD772
- 10YR3/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。



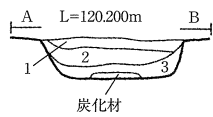
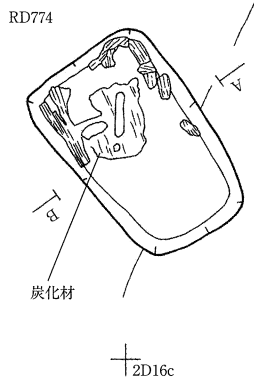
- RD771
- 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
 - 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。にぶい黄褐色地山粒1 (10YR5/4) ごく微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。にぶい黄褐色地山粒1 (10YR5/4) ごく微量含む。



- RD773
- 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。明赤褐色焼土粒 (5YR5/8)、黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量・小礫少量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。明赤褐色焼土粒 (5YR5/8)、黄褐色地山粒 (10YR5/6) ごく微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6)、炭化物ごく微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山粒 (10YR5/6)、炭化物ごく微量含む。

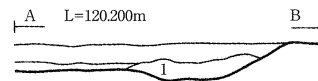
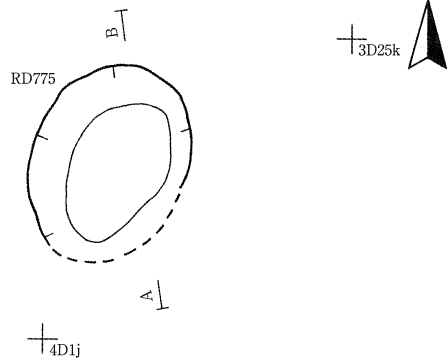
0 1 : 50 1m

第177図 RD768~773 土坑



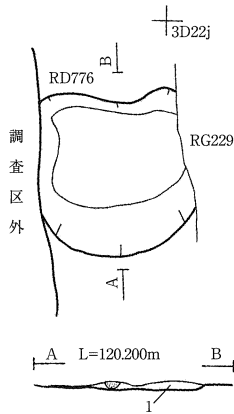
RD774

- 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性有り。締まり有り。炭化物ごく微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性有り。締まりやや有り。炭化物、褐色地山ブロック (10YR4/4)、明赤褐色焼土ブロック (5YR5/8) ごく微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有り。締まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4)、明赤褐色焼土ブロック (5YR5/8) ごく微量、炭化物微量含む。

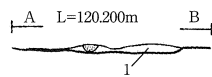


RD775

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。

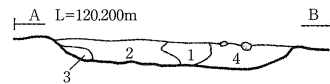
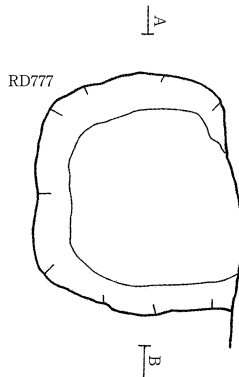


調査区外



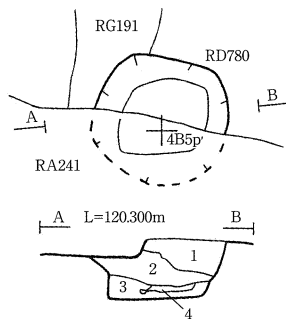
RD776

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック微量・河原含む。



RD777

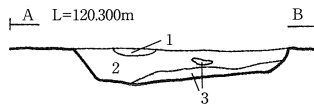
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック多量・河原石含む。



RD780

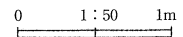
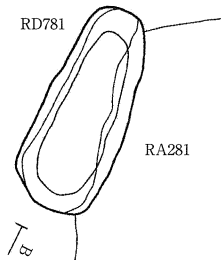
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。炭化物、褐色土ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭化物ごく微量・褐色土ブロック (10YR4/4) 微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性・締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性・締まり有り。地山土。

4B11j



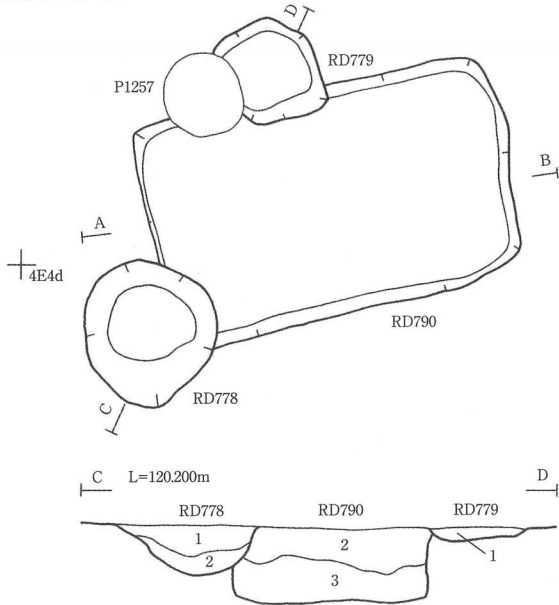
RD781

- 10YR2/1 黒色土 粘性・締まり有り。地山ブロック少量・水酸化鉄斑多量・炭含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性をやや欠く。締まり有り。地山ブロック少量・水酸化鉄斑多量・炭含む。
- 10YR4/4 褐色砂質土 粘性・締まりを欠く。暗褐色粘土質土 (10YR3/3) 含む。水酸化鉄斑有り。杭痕?



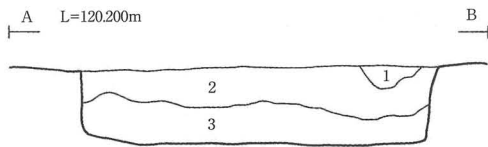
第178図 RD774~777・780・781 土坑

RD778・779・790

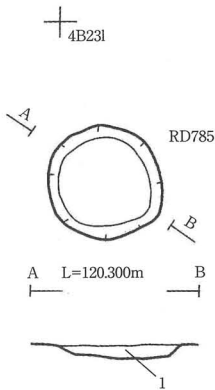


- RD778
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。炭粒、焼土粒ごく微量含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。

- RD779
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。

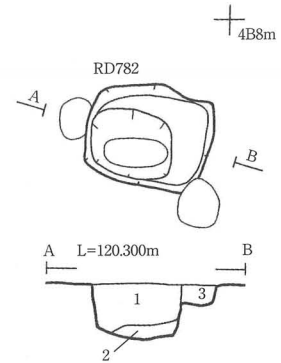


- RD790
1. 2.5YR4/8 赤褐色焼土 粘性なし。縮まっている。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 炭・地山ブロック微量含む。粘性・縮まりやや有り。
 3. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・縮まりやや有り。



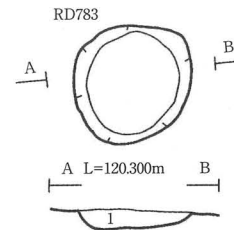
- RD785
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭微量・褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。

0 1:50 1m

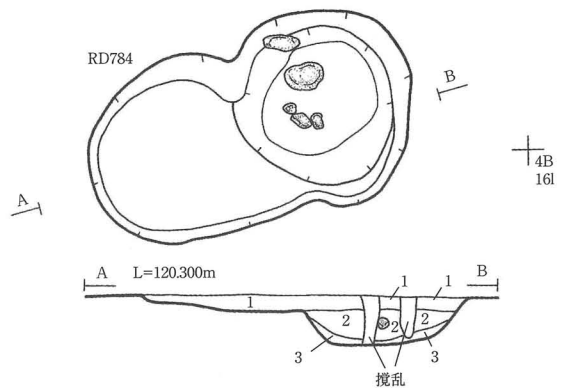


- RD782
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。地山ブロック、炭少量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・縮まりを欠く。礫 (径2~3cm大) 多量含む。
 3. 10YR4/4 褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。黒褐色土ブロック (10YR2/2) 微量含む。

4B16m

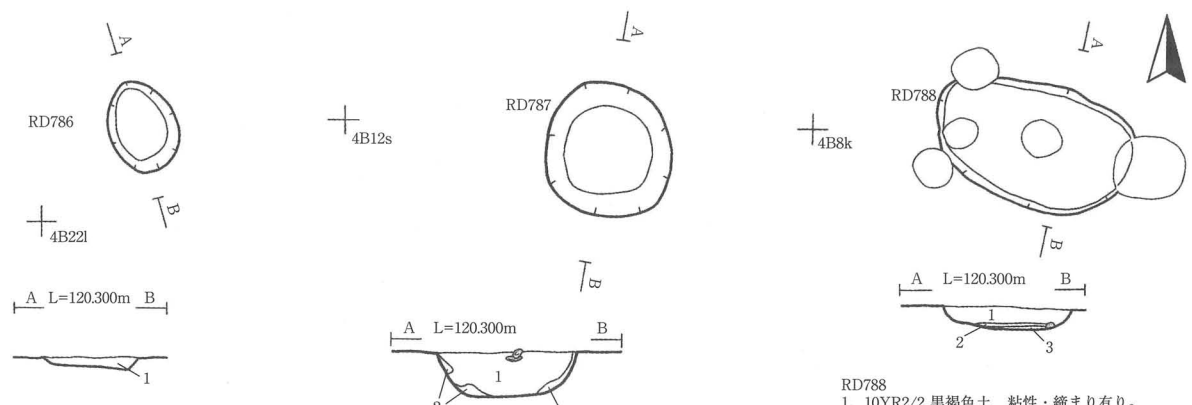


- RD783
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 微量・水酸化鉄斑多量含む。



- RD784
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑多量・炭ごく微量・礫 (こぶし大) 含む。上層に焼土粒微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性に富む。縮まり有り。地山ブロック少量・炭微量・水酸化鉄斑、礫 (こぶし大) 含む。
 3. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色砂質土地山 (10YR4/4) 含む。水酸化鉄斑有り。

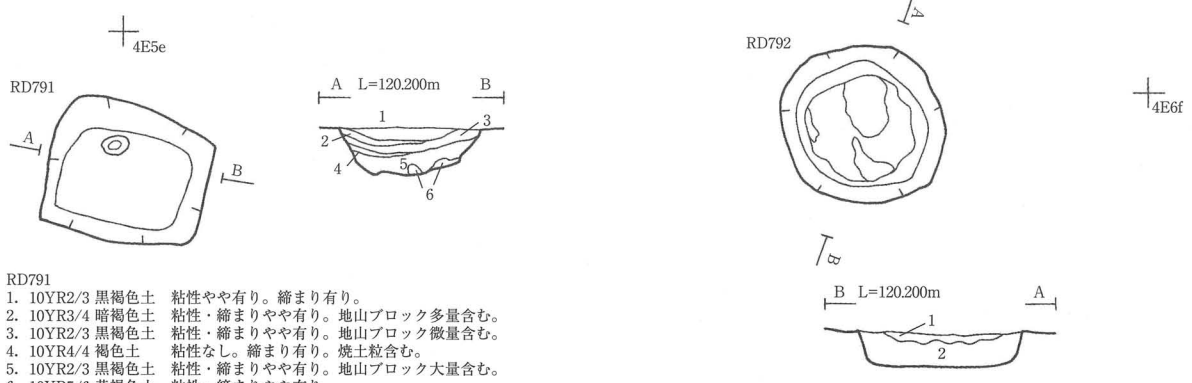
第179図 RD778・779・782~785・790 土坑



RD786
1. N2/O 黒色粘土質土 オリーブ
灰粘土ブロック少量含む。

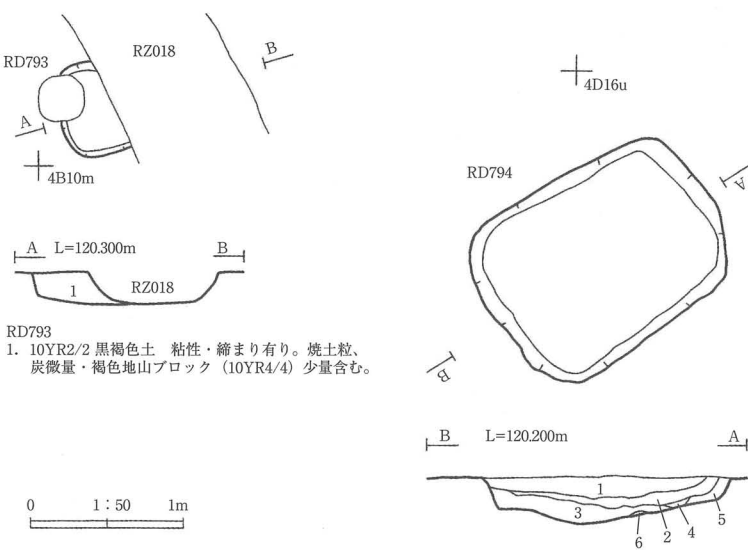
RD787
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
礫（径6~10cm大）数個・炭微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
褐色土（10YR4/4）多量含む。水酸化鉄
斑有り。

RD788
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
褐色土ブロック（10YR4/4）少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
褐色土地山ブロック（10YR4/4）大量
に含む。焼土粒微量・炭ごく微量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性有り。縮まりを
欠く。炭微量含む。



RD791
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック微量含む。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性なし。縮まり有り。焼土粒含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック大量含む。
6. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。

RD792
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・縮まり有り。
赤褐色焼土ブロック（5YR4/6・径0.5~3cm大）
微量・炭化物粒ごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・縮まり有り。
赤褐色焼土ブロック（5YR4/6）、炭化物粒ごく
微量・褐色地山ブロック（10YR4/4）微量含む。



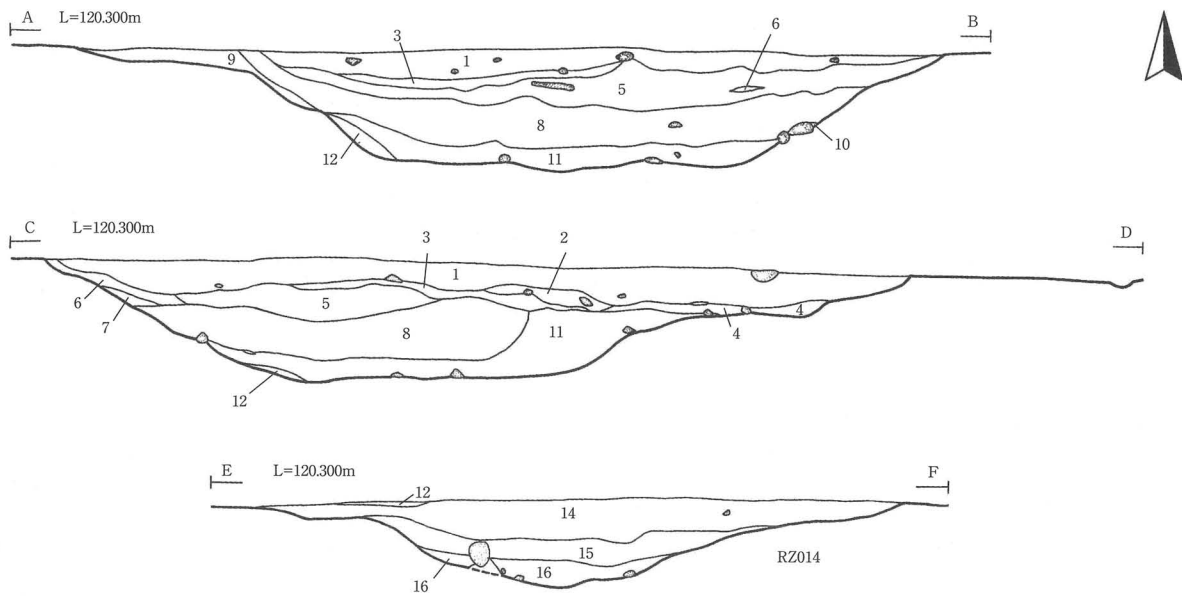
RD793
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。焼土粒、
炭微量・褐色地山ブロック（10YR4/4）少量含む。

RD794
1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・縮まり有り。
褐色地山ブロック（10YR4/4・径1cm大）
ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・縮まり有り。
赤褐色焼土ブロック（5YR4/6）層、黄褐色
地山ブロック（10YR5/6）、炭化物ごく微量
含む。底面にいぶい赤褐色焼土（5YR4/4）
ごく微量含む。
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性有り。縮まり
有り。赤褐色焼土ブロック（5YR4/6）・褐色
地山ブロック（10YR4/6・径1cm大）ごく
微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・縮まり有り。
褐色地山ブロック（10YR4/4・径1~4cm大）
微量含む。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・縮まり有り。
褐色地山ブロック（10YR4/4）ごく微量
含む。
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・縮まり有り。
掘り過ぎ。
7. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有り。縮まり
有り。褐色地山ブロック（10YR4/4）ごく
微量含む。

第180図 RD786~788・791~794 土坑



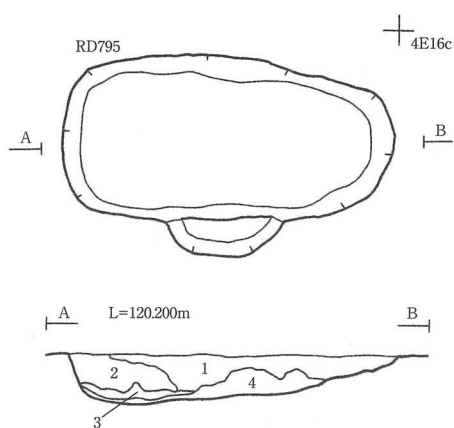
第181图 RD789 土坑 (1)



RD789

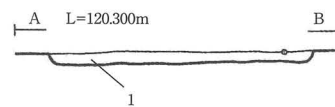
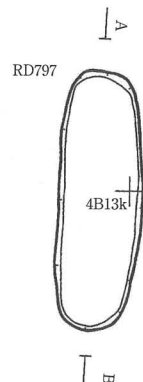
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭微量・礫(径5~10cm大)数個含む。水酸化鉄斑有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色砂質土ブロック(10YR4/4)多量・炭微量含む。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑多量有り(水酸化鉄層含む)。炭含む。
4. 10YR3/1 黒褐色粘土質土 縮まりやや有り。炭ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。
5. 10YR3/1 オリーブ黒粘土 粘性有り。縮まりなし。灰色砂質土ブロック(7.5YR4/1)ごく微量含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色砂質地山ブロック(10YR4/4)、炭微量・水酸化鉄含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。地山ブロック、炭微量・水酸化鉄斑含む。

8. 5YR3/1 オリーブ黒粘土 褐灰色ブロック(7.5YR4/1)ごく微量含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。灰色砂質土(10YR4/4)との混合土。炭微量・礫数個含む。水酸化鉄斑有り。
10. 10YR2/3 黒褐色シルト質土 粘性有り。縮まりやや有り。水酸化鉄斑、炭微量・礫含む。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑有り。
12. 10YR2/1 黒色粘土質土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑少量有り。
13. 粘性・縮まり有り。黒褐色土(10YR2/2)との混合土。
14. 5YR3/1 オリーブ黒粘土 粘性有り。縮まりやや有り。灰色砂質土(7.5YR4/1)少量含む。水酸化鉄斑わずかに有り。
15. 7.5YR4/1 灰色砂質土 粘性・縮まりやや有り。
16. 10YR3/2 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑多量・地山ブロック少量・炭微量含む。



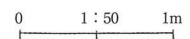
RD795

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。炭・焼土粒含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック多量含む。

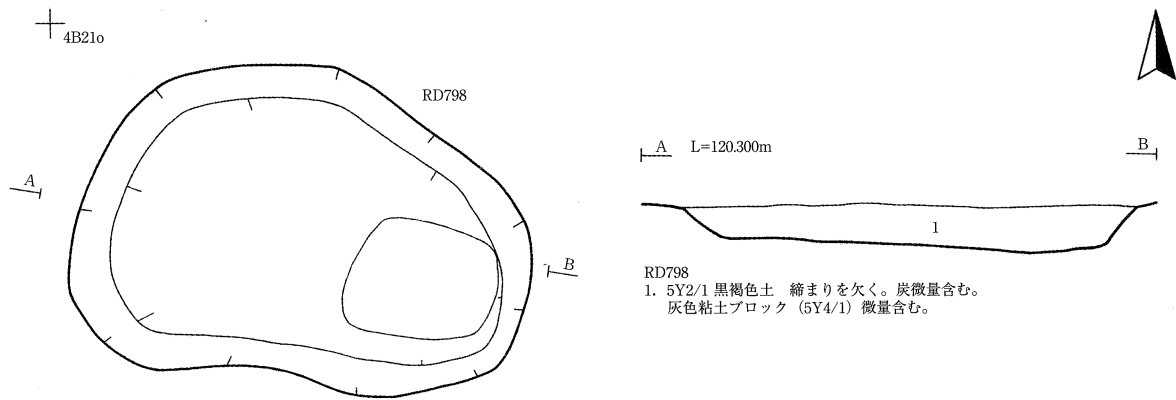


RD797

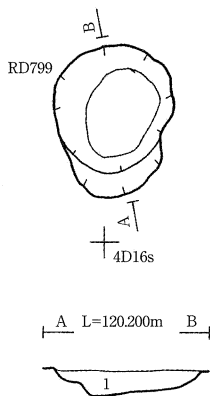
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭ごく微量・地山ブロック微量含む。水酸化鉄斑有り。



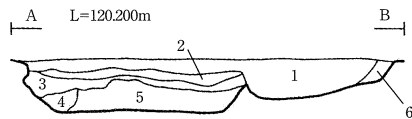
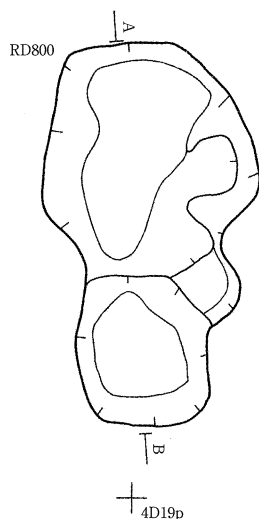
第182図 RD789(2)・795・797 土坑



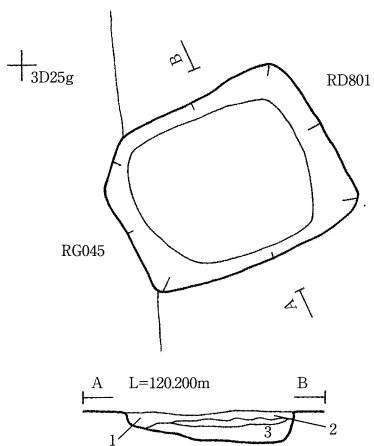
RD798
 1. 5Y2/1 黒褐色土 締まりを欠く。炭微量含む。
 灰色粘土ブロック (5Y4/1) 微量含む。



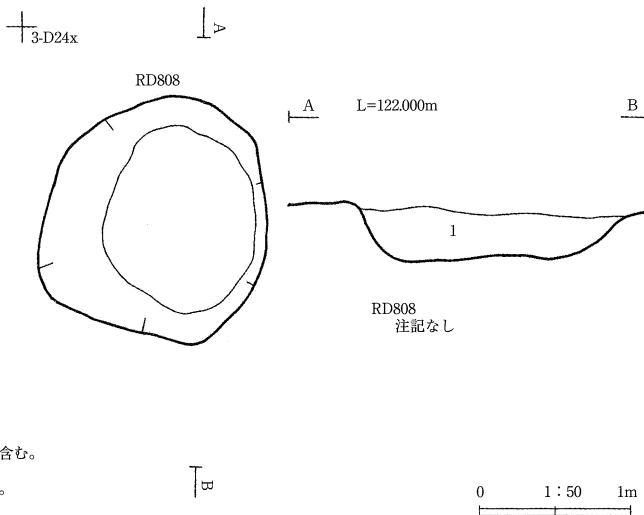
RD799
 1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締まり有り。
 暗褐色土 (10YR3/4) しみのようにごく微量
 含む。底面に明褐色土 (7.5YR5/8) ごく微量
 含む。



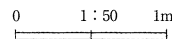
RD800
 1. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。
 褐色地山粒 (10YR4/6) ごく微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
 褐色地山粒 (10YR4/6)、褐色地山ブロック (10YR4/6・
 径1~2cm大)、赤褐色焼土粒 (5YR4/6) ごく微量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。炭化物、
 赤褐色焼土粒 (5YR4/6)、赤褐色焼土ブロック (5YR4/6・
 径1cm大)、褐色地山粒 (10YR4/6) ごく微量含む。
 4. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。粘性やや有り。
 褐色地山ブロック (10YR4/6・径0.5~2cm大) 微量含む。
 5. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。褐色土
 (10YR4/6) との混合土。炭化物ごく微量含む。
 6. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。締まりやや有り。
 褐色地山粒 (10YR4/6) ごく微量含む。



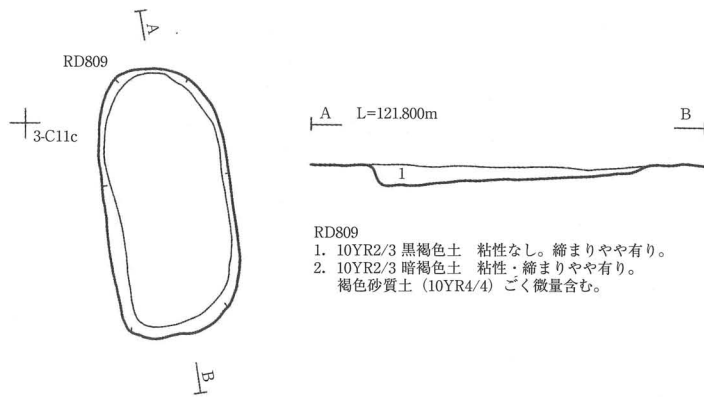
RD801
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。地山ブロック少量含む。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。焼土炭粒含む。
 3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。地山ブロック多量含む。



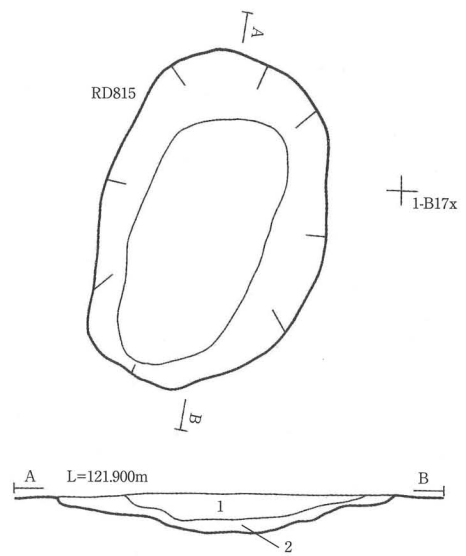
RD808
 注記なし



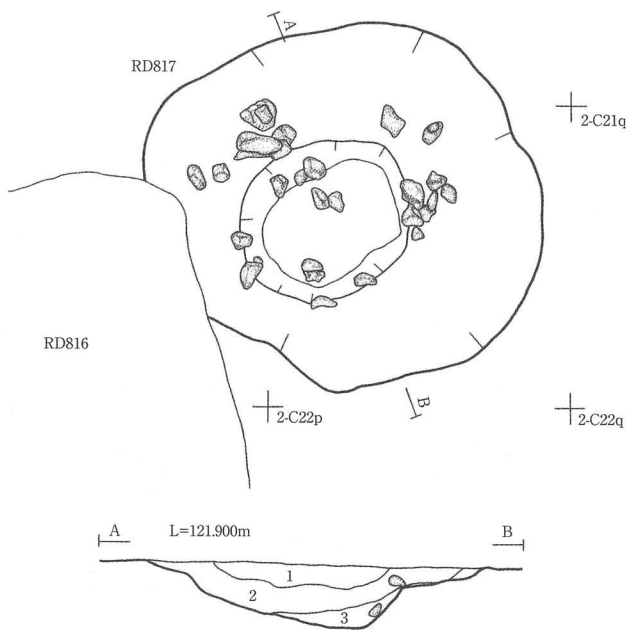
第183図 RD798~801・808 土坑



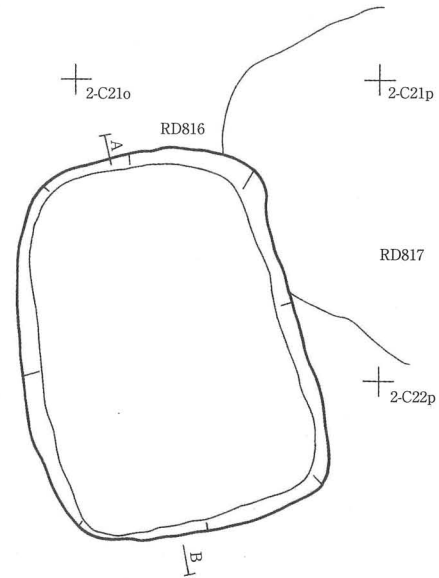
- RD809
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。
 2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



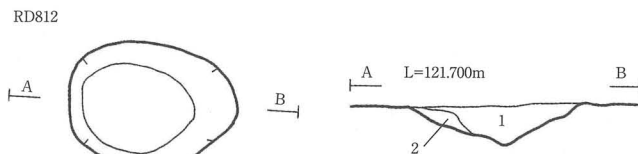
- RD815
1. 10YR2/1 黒色土 炭化物・暗褐色土を僅かに含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 1層に比べ暗褐色土を多く含む。炭化物含む。



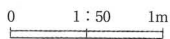
- RD817
1. 10YR2/1 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。
 2. 10YR2/1 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/6) ごく微量含む。
 3. 10YR2/1 黒色土 粘性なし。締まりやや有り。褐色土 (10YR4/6) ・暗赤褐色土 (5YR3/6) ごく微量含む。



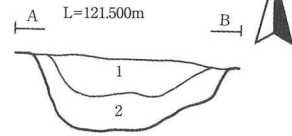
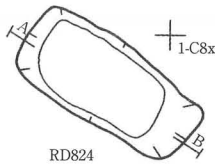
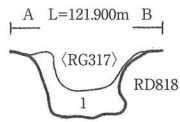
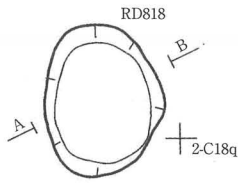
- RD816
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。To-aごく微量含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土ブロック (10YR6/6) ごく微量含む。
 3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土 (10YR4/2) ごく微量含む。



- RD812
1. 10YR3/2 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック1 (10YR4/6) を微量・黒褐色土 (10YR3/1) ごく微量含む。
 2. 10YR4/3 に近い褐色砂質土 粘性なし。締まり有り。

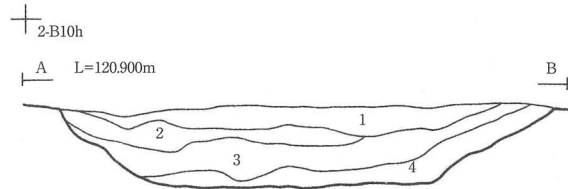
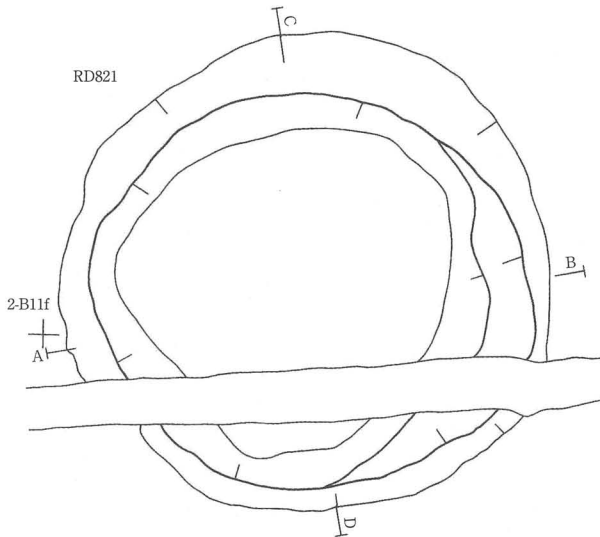


第184図 RD809・812・815~817 土坑

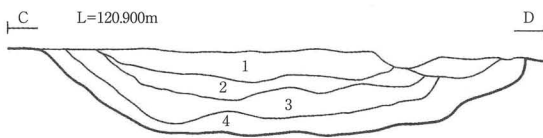


RD818
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
暗褐色土ブロック (10YR3/4) ごく微量含む。

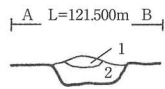
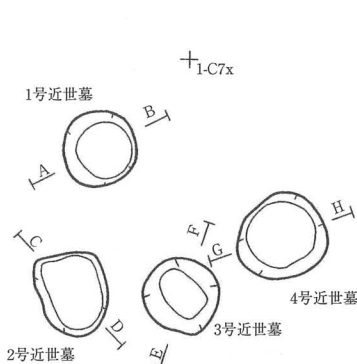
RD824
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
暗褐色土 (10YR2/4) 微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
黒褐色土 (10YR2/3) ごく微量含む。



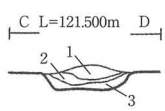
RD821 (A-B)
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR2/3 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。明赤褐色
焼土 (5YR5/6)、炭片、黒色炭化物 (5YR1.7/1) ごく微量
含む。
3. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。
4. 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりやや有り。掘りすぎ。



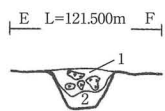
RD821 (C-D)
1. 5YR4/6 赤褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
乾いた煉瓦状態で崩れやすい。焼土と内部に黒い
炭化物を含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
3. 10YR3/3 明褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
中央上部に焼土 (5YR5/6)、炭化物 (5YR1.7/1)
ごく微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。



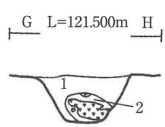
1号近世墓
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。暗褐色土 (10YR2/4) 微量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/3) ごく
微量含む。



2号近世墓
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。骨片 (径0.5~3cm大) 含む。
上面中央より小銭出土。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。暗褐色土 (10YR3/4) ごく
微量含む。炭化物・骨片含む。
3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/3) ・
暗褐色土 (10YR4/3) ごく微量含む。

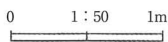


3号近世墓
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。骨片・炭化物含む。
骨片は1・2号と違い、幾つかのブロックに分かれている。鉄釘出土。
2. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。黒褐色土 (10YR2/3) ・
暗褐色土 (10YR3/4) ごく微量含む。骨片若干含む。

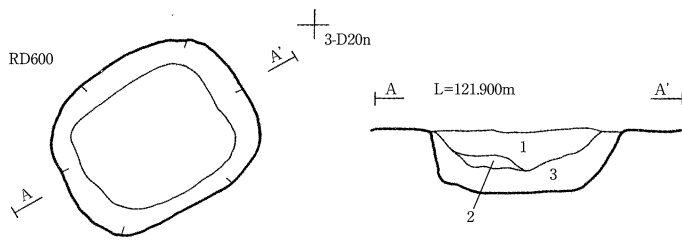


4号近世墓
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4)
ごく少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。骨片・炭化物含む。
骨片は1・2号と違い、幾つかのブロックに分かれている。鉄釘出土。

骨片集中部

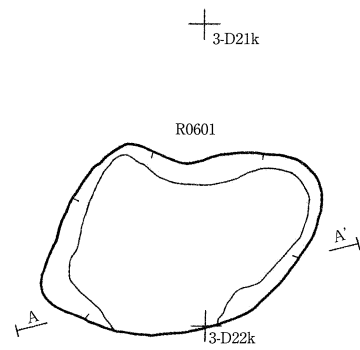


第185図 RD818・821・824 土坑・近世墓



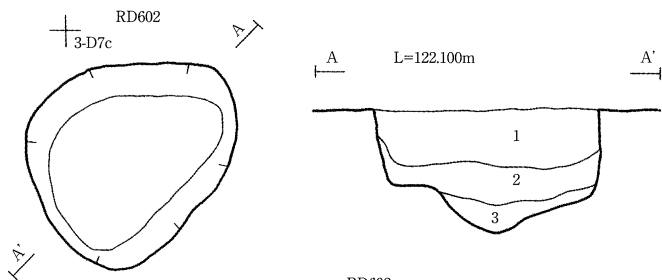
RD600

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。



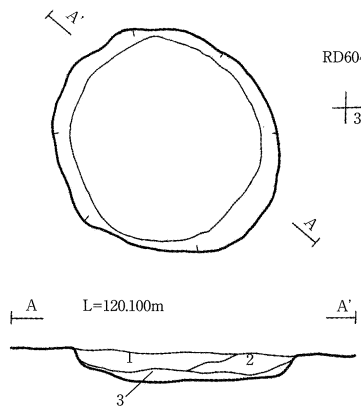
R0601

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。西側に礫層有り。



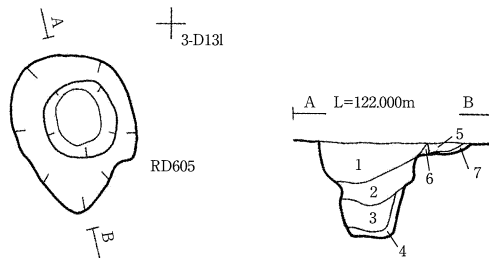
RD602

1. 10YR2/3 黒褐色土 縮まりやや有り。粘性なし。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。



RD604

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし。粘性やや有り。To-a 微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。にぶい赤褐色土 (5YR5/4) 微量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。下層に褐色砂質土 (10YR4/4) 含む。



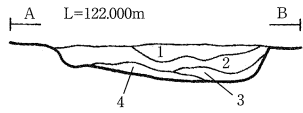
RD605

RD605

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/8) をごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。黄褐色土 (5YR5/8) をごく微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/8) をごく微量含む。水が湧く。
4. 10YR4/6 褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
5. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
6. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR3/2) をごく微量含む。
7. 10YR5/6 黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。

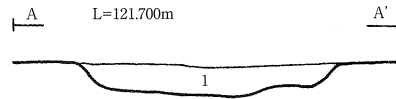
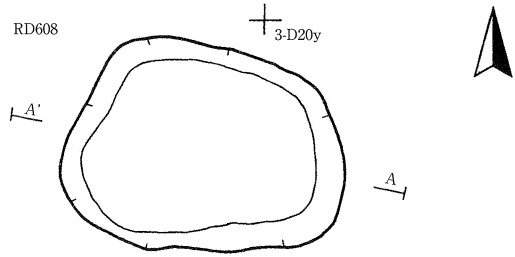
0 1:50 1m

第186図 RD600~602・604・605 土坑



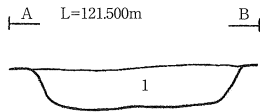
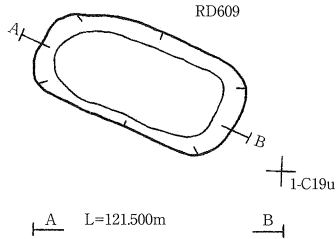
RD606

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) をごく微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) をごく微量含む。
4. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。



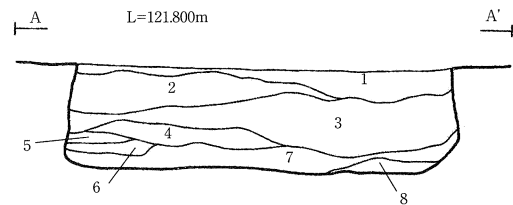
RD608

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。床近くに小石 (径1~2cm大) を20%含む。



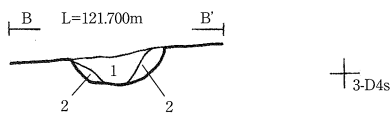
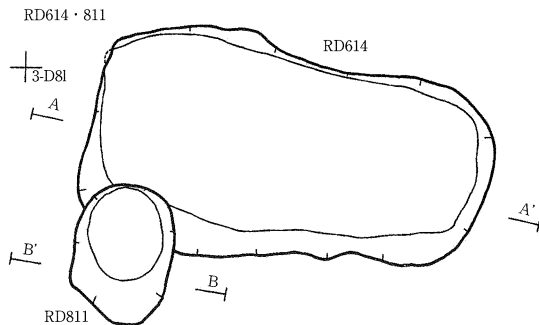
RD609

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。暗褐色土 (10YR3/4) をごく微量含む。



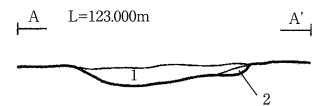
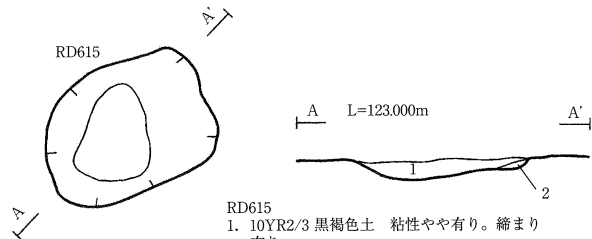
RD614

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4)・炭化物・焼土ごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4)・黒褐色土 (10YR2/2) をごく微量含む。小礫 (径3~5cm大) 複数含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4)・黒褐色土 (10YR2/2) をごく微量含む。遺物出土。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色土ブロックごく少量含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) をごく微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色砂質土 粘性やや有り。縮まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) 微量含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) をごく微量含む。
8. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性・縮まりなし。黒褐色土 (10YR2/2) をごく微量含む。小礫複数含む。



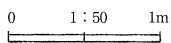
RD811

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4・径1~3cm大) をごく微量含む。柱穴の埋土に似ている。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4) をごく微量含む。

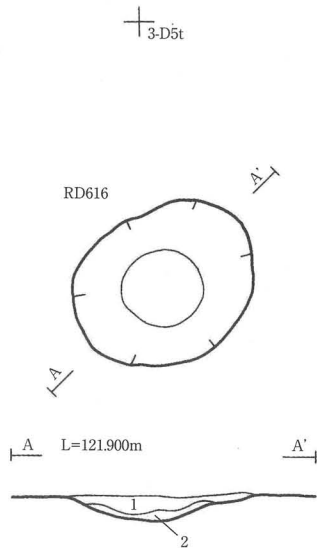


RD615

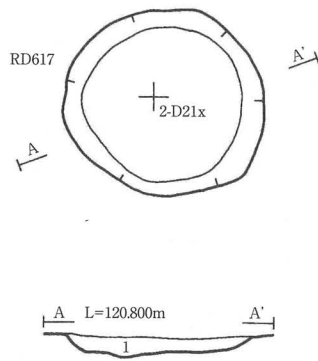
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/6) 含む。



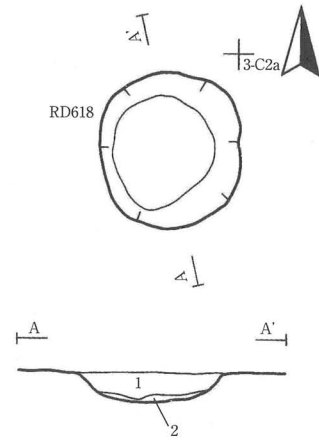
第187図 RD606・608・609・614・615・811 土坑



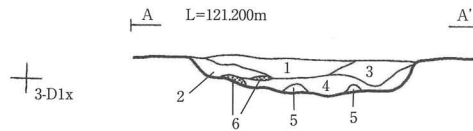
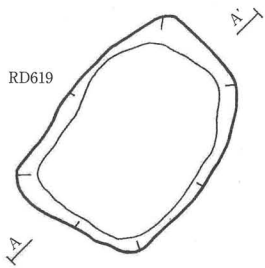
- RD616
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。
 - 10YR4/6 褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。



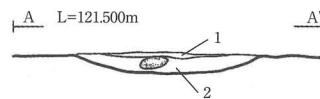
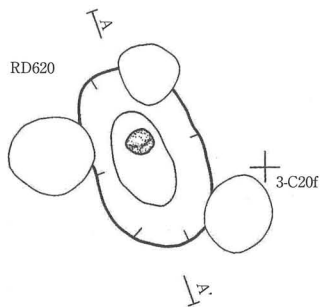
- RD617
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。



- RD618
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR2/1 黒色土 粘性なし。縮まりやや有り。



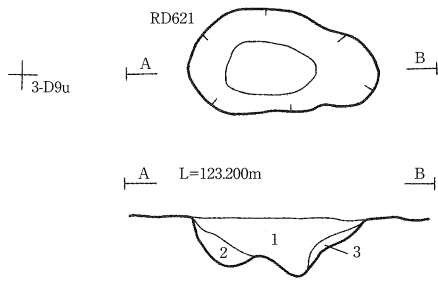
- RD619
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/6) ごく微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。黄褐色土ブロック (10YR5/6) ごく微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。黄褐色土ブロック (10YR5/6) 微量含む。
 - 10YR5/6 黄褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR3/2) ごく微量含む。
 - 5YR3/3 暗赤褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR3/2)、橙色土 (5YR6/8) ごく微量含む。



- RD620
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。黄褐色土 (10YR5/6) 少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。炭化物ごく微量含む。

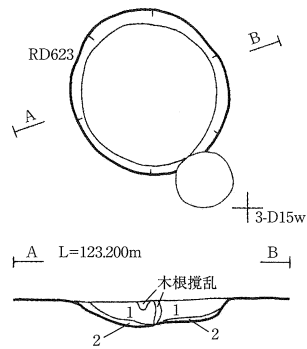
0 1:50 1m

第188図 RD616~620 土坑



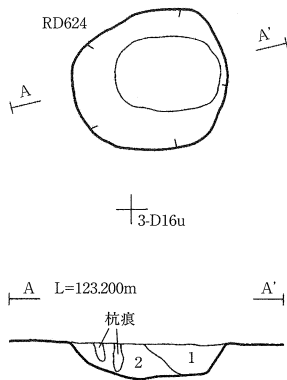
RD621

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。西側に褐色土ブロック状に（10YR4/6・10×4cm大）含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。明黄褐色土（10YR6/6）少量含む。



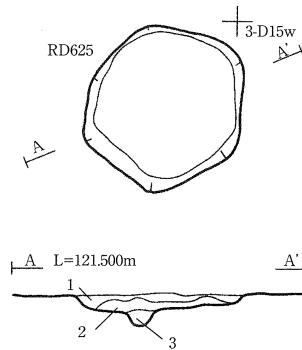
RD623

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色砂質土（10YR4/4）ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色砂質土（10YR4/4）ごく微量含む。

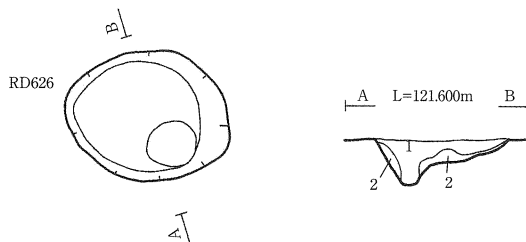


RD624

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色砂質土（10YR4/4）・焼土粒（径1~2mm大）ごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まり有り。褐色砂質土（10YR4/4）微量含む。



1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。炭化物・褐色砂質土（10YR4/4）ごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色砂質土ブロック（10YR4/4）・炭化物ごく微量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色砂質土（10YR4/4）大量に含む。

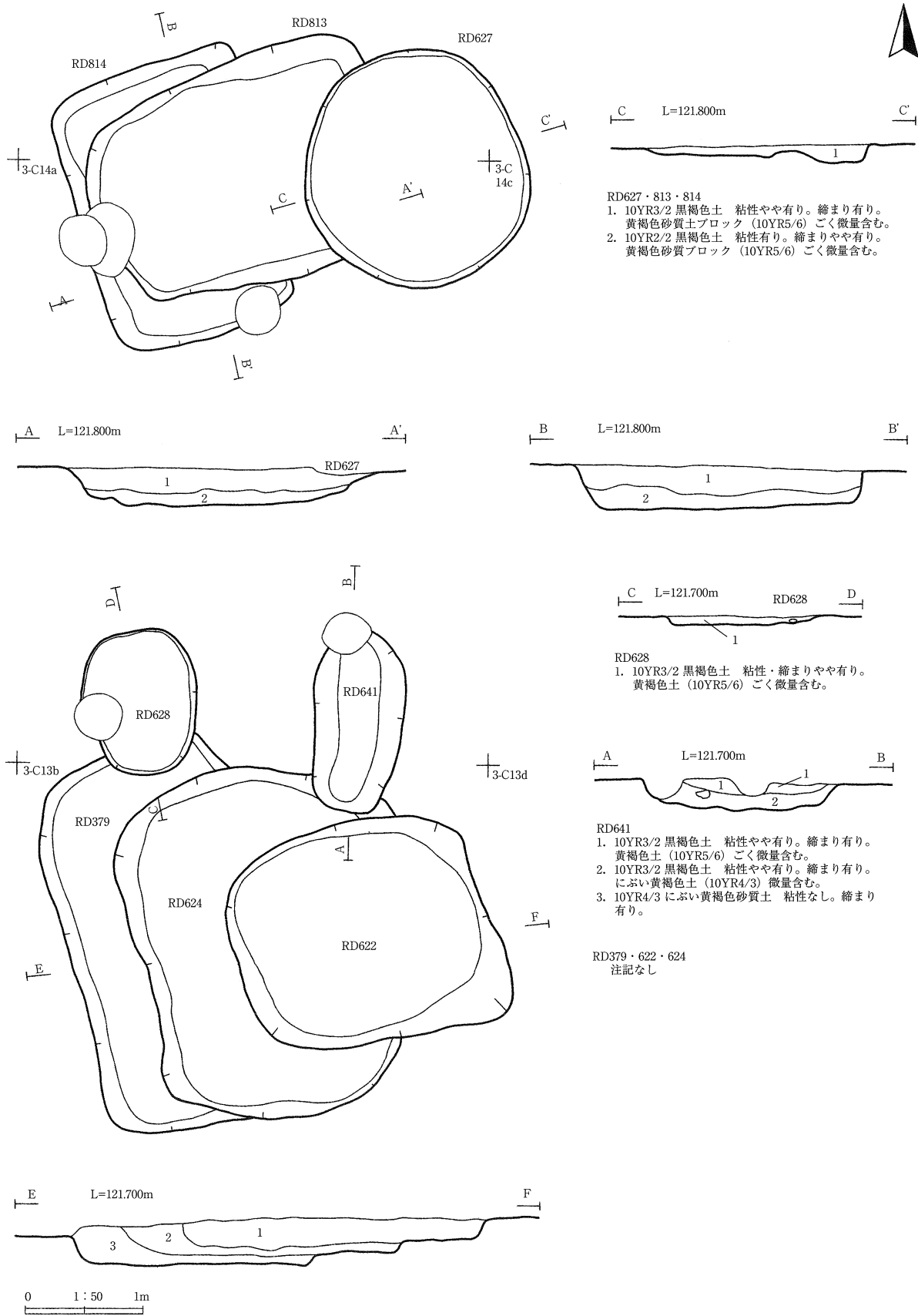


RD626

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色砂質土（10YR4/4）ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土（10YR4/4）を大量に含む。掘りすぎ。

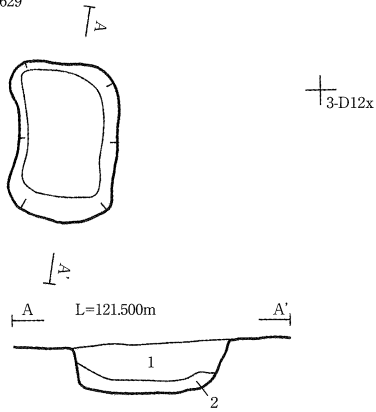
0 1:50 1m

第189図 RD621・623~626 土坑



第190図 RD379・622・624・627・628・641・813・814 土坑

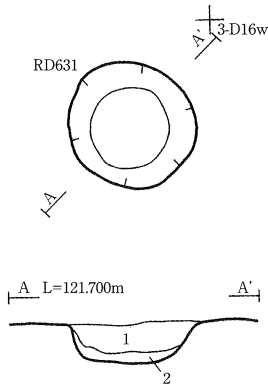
RD629



RD629

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。

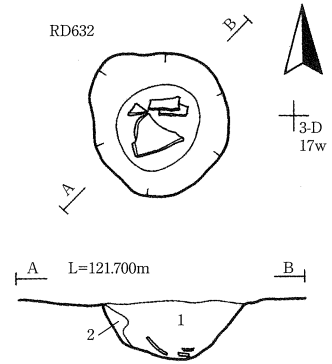
RD631



RD631

1. N6/0 To-a 粘性・締まりなし。(さらさら)。黒褐色土 (10YR3/2) 少量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/1)・にぶい黄褐色土ブロック (10YR5/4) ごく少量含む。

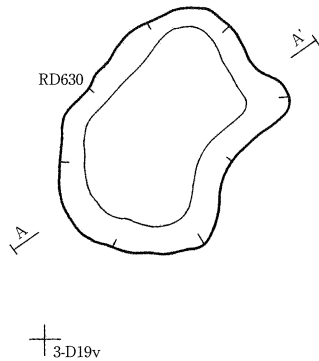
RD632



RD632

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。赤褐色焼土 (25YR4/6)・炭化物ごく微量含む。褐色砂質土 (10YR4/4) 少量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。

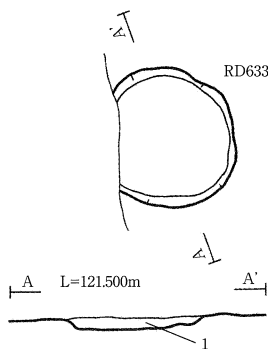
RD630



RD630

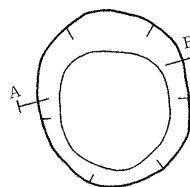
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4)・焼土粒 (25YR5/8) をごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) を含む。小礫 (径1~3cm大) を数個含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。暗褐色土 (10YR2/3)・褐色砂質土 (10YR4/4) を微量含む。

RD635



RD633

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。締まりやや有り。明黄褐色土 (10YR6/6)・赤褐色土 (5YR4/6) をごく微量含む。



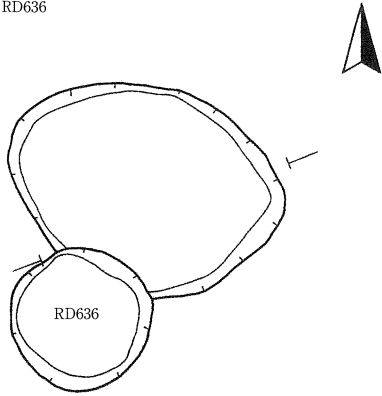
RD635

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土をごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。明黄褐色土 (10YR6/6) をごく微量含む。床面などに礫を多量含む。

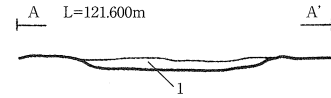
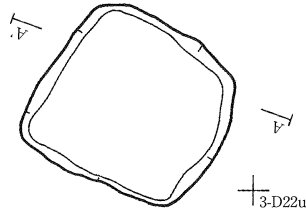
第191図 RD629~633・635 土坑

0 1:50 1m

RD636

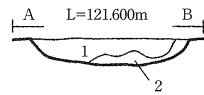


RD638



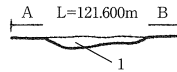
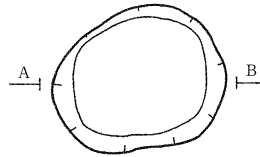
RD638
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 明黄褐色土 (10YR6/6)・黒褐色土 (10YR6/6)
 ごく微量含む。

RD637



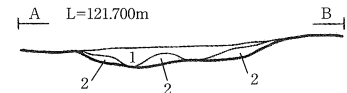
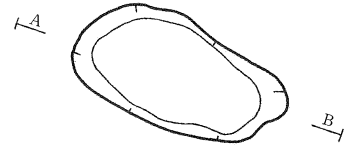
RD637
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・
 締まりやや有り。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・
 締まりやや有り。黄褐色土
 ブロック (10YR5/6) を少
 量含む。

RD639



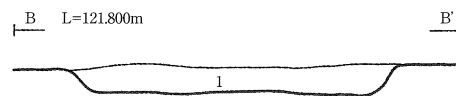
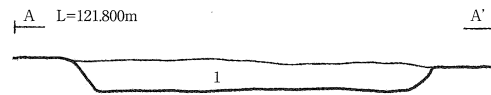
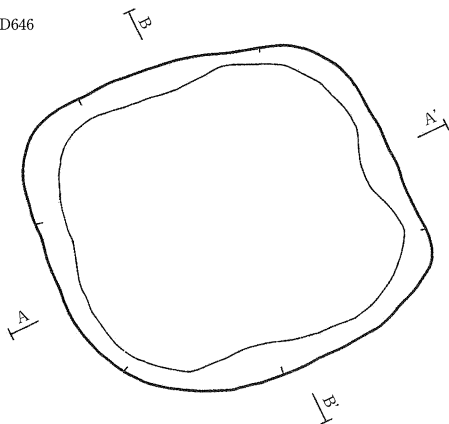
RD639
 1. 10YR3/2 黒褐色土
 粘性・締まりやや有り。

RD642

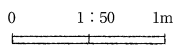


RD642
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
 褐色砂質土 (10YR4/4) ごく少量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
 褐色砂質土 (10YR4/4) 微量含む。

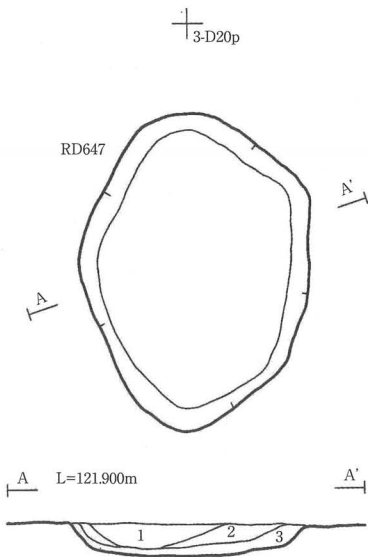
RD646



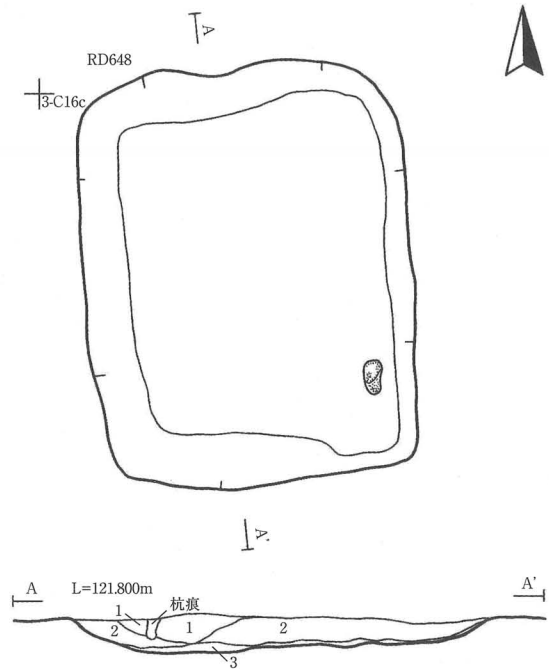
RD646
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりなし。小礫 (径1~3cm大)・
 褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



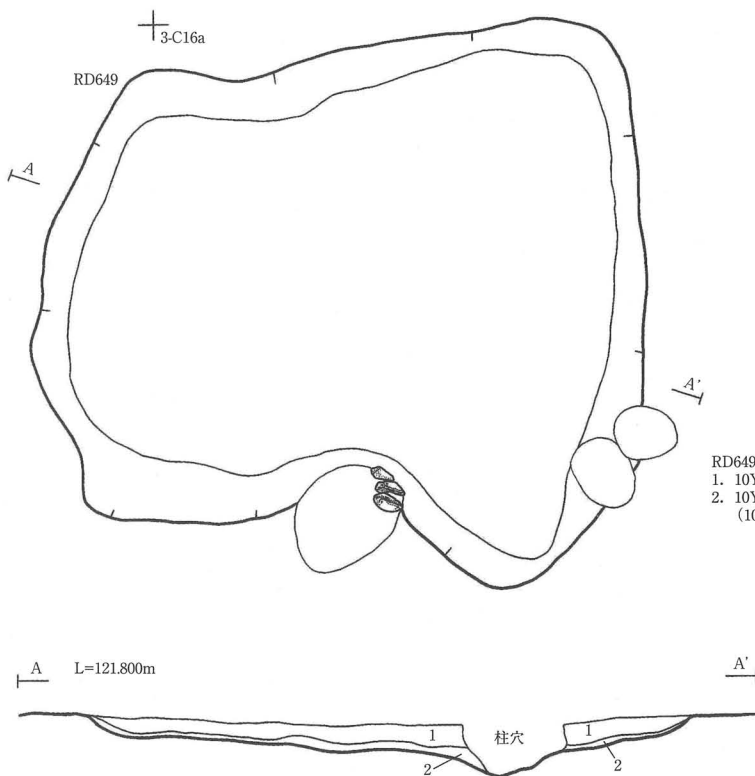
第192図 RD636~639・642・646 土坑



- RD647
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
明黄褐色土 (10YR6/6)・明黄褐色土 (10YR6/8) ごく微量含む。



- RD648
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。黒色土 (10YR2/1) ごく微量含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。黒色土 (10YR2/1)・明黄褐色土 (10YR6/6) ごく微量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。



- RD649
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
 2. 10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。黒褐色土 (10YR3/2)・明褐色土 (7.5YR5/8) ごく微量含む。

0 1:50 1m

第193図 RD647~649 土坑

土坑類観察表

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋 土	出土遺物	備 考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	長さ方向				写真	時期		
R D 266	3 B 11 d	隅丸長方形	222×102	22	黒褐色土の単層。	土師器甕片		125	墓墳	B 2	
			202×80	N-4° -W				102	中世		
R D 267	3B9e~ 3B10e	隅丸長方形	366×108	22	黒褐色土と暗褐色土との混合土。	奈良の土師器環・甕片		125	墓墳	C 3	
			345×85	N-81.5° -W				102	中世		
R D 268	3B110e~ 3B10f	隅丸長方形	227×92	24	人為堆積 黒褐色土主体 褐色土ブロック多量含。		R D 269を切る。	125	墓墳	B 3	
			222×74	N-74° -W				102	中世		
R D 269	3B10e~ 3B11e	隅丸長方形	344×109	24	上部黒褐色土主体 下部褐色砂質土主体 黒褐色土ブロック多量含。		R D 268に切られ、 R D 270を切る。	125	墓墳	C 3	
			328×93	N-85° -E				102	中世		
R D 270	3 B 11 f	隅丸長方形?	162×(82)	24	極暗褐色土の単層。		R D 269に切られる。	125	墓墳		
			150×(70)	N-9° -E				103	中世		
R D 271	3 B 18 c	不整形	93×73	30	人為堆積。黒褐色土主体の単層。褐色土ブロック含。			125	墓墳	A 2	
			72×50	N-26° -E				103	中世		
R D 272	3B12d~ 3B12e	長方形	173×96	23	人為堆積。黒褐色土主体の単層。暗褐色・褐色土ブロック含。		R D 319を切る。	126	墓墳	B 2	
			158×80	N-87° -E				103	中世		
R D 273	3B12e~ 3B12f	長方形	154×82	24	人為堆積。黒褐色土主体の単層。暗褐色土ブロック極微量含。		R D 319を切る。	126	墓墳	B 2	
			135×72	N-85° -W				103	中世		
R D 274	3B10g~ 3B11g	不整形	(212)×94	32	人為堆積? 黒褐色土主体の単層。褐色土ブロック極微量含。		調査区外にのびる。	126	墓墳		
			(204)×82	N-37° -E				104	中世		
R D 275	3B19e~ 3B19f	隅丸方形	88×86	12	人為堆積? 暗褐色土主体、壁際に黒褐色土と褐色土の混合土。			125	墓墳	A 1	
			79×77	不明				104	中世		
R D 276	3 B 19 d	隅丸長方形	122×78	22	人為堆積? 埋土上位の暗褐色土中には微細な白い粒子含む。	奈良の土師器甕片		126	墓墳	A 2	
			110×69	N-79° -W				104	中世		
R D 277	3 B 13 g	隅丸長方形	156×106	14	人為堆積。黒褐色土中に褐色・暗褐色土ブロックが不規則に混。			126	墓墳	B 2	
			141×90	N-69° -W				104	中世		
R D 278	3B13d~ 3B13e	隅丸長方形	376×68	18	人為堆積。黒褐色・褐色・暗褐色土の混合土。			126	墓墳	C 3	
			346×52	N-77° -W				105	中世		
R D 279	3 B 14 d	円形	58×52	10	人為か自然か不明。			126	不明		
			47×44	N-13° -E				105	中世		
R D 280	3B18d~ 3B18e	不整形	222×100	17	人為堆積。極暗褐色土に褐色土ブロック・炭粒・焼土などを含む。		R D 282・283・306より新。	127	墓墳	B 2	
			202×80	N-17° -E				105	中世		
R D 281	3 B 18 f	隅丸長方形	121×104	28	人為堆積。黒褐色土主体で、埋土下位には褐色土ブロックが混じる。	土師器片	R D 282より新。	127	墓墳	B 1	
			106×82	N-83° -W				105	中世		
R D 282	3B17d~ 3B18e	不整形	(482×176)	16	人為堆積。黒褐色土と暗褐色土との混合土。	土師器片	R D 280・281・283より古。	127	土坑		
			(482×170)	N-76° -W				106	不明		
R D 283	3 B 17 e	隅丸長方形	148×90	28	人為堆積。黒褐色土と褐色土との混合土。		R D 282より新。 R D 280より古。	127	墓墳	B 2	
			104×70	N-79° -W				106	中世		
R D 284	3 B 7 g	不整形?	(115×42)	25	人為堆積でよいと思われる。			126	墓墳		
			(109×39)	N-53° -W				106	中世		
R D 285	3 A 13 q	隅丸方形	90×84	17	人為堆積の様相を呈する。	土師器片	R G 192より新。	127	墓か	A 1	
			76×72	N-66° -W				106	中世		
R D 286	3 A 13 q	不整形	187×145	12	自然堆積か。	388・389土師器甕類	R G 192より古。	127	土坑		
			167×124	N-50° -W				107	不明		
R D 287	3A14q~ 3A14r	不整形	126×123	27	自然堆積・人為堆積の区別不明。		礫層を掘り込んでいる。	127	土坑		
			83×74	N-30° -E				107	不明		
R D 288	3 A 15 p	楕円形?	84×(75)	15	自然堆積か人為堆積か不明。黒褐色土の単層。		R G 192より古。	128	土坑		
			65×(64)	N-77° -W				107	不明		
R D 289	3 A 17 p	不整形	106×90	24	自然堆積か人為堆積か不明。黒褐色土の単層。			128	土坑		
			66×50	N-38° -E				107	不明		
R D 290	3 B 14 c	長方形	80×70	8	自然堆積か人為堆積か不明。黒褐色土の単層。	土師器片		128	土坑		
			76×68	N-78° -W				108	不明		
R D 291	3 A 18 o	不整形	97×93	24	人為・自然堆積の区別不明。黒褐色土の単層。			128	土坑		
			46×40	N-65° -W				108	不明		
R D 292	3B24e~ 3B24f	隅丸長方形	170×115	56	人為堆積。黒褐色土中に地山ブロック。		R G 193より古。	128	墓墳	B 2	
			150×103	N-4° -E				108	中世		
R D 293	3 B 20 f	隅丸長方形?	(100)×100	38	人為堆積。暗褐色土及び黒褐色土主体。			128	墓墳		
			87×86	N-77° -W				108	中世		
R D 294	3 B 22 f	楕円形	96×73	20	人為堆積の様相を呈する。	土師器片	R D 295より古。	128	墓墳	A 2	
			79×63	N-77° -W				109	中世		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋 土	出土遺物	備 考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm)				写真	時期	
R D295	3 B22 f	隅丸長方形	326×107	18	人為堆積。地山ブロックを多量に含む暗褐色土。		R D294より新。 R D297より古。	128	墓墳	C3
			301×89	N-11° -E				109	中世	
R D296	4 B1 d	隅丸長方形	126×94	49	人為堆積。黒褐色土・褐色土の混合土。			129	墓墳	B2
			114×90	N-75° -W				109	中世	
R D297	3 B22 f	隅丸長方形?	98×(66)	58	人為堆積。埋土上位には焼土・炭粒も混じる。		R D295より新。	128	墓墳	
			71×(56)	不明				109	中世	
R D298	3 B23 e	隅丸長方形	148×108	50	人為堆積。地山ブロックを多量に含む極暗褐色土。	553~563北宋銭	R D299より新。 R G193より古。	129	墓墳	B2
			104×88	N-7° -E				109・110	中世	
R D299	3 B24 e	隅丸長方形	94×90	?	人為堆積。地山ブロックを多量に含む黒褐色土。		R D298より古。	129	墓墳	
			80×79	N-10° -E				109・110	中世	
R D300	3 B7 t	隅丸長方形	87×70	10	人為堆積か。黒褐色土の単層。		R G202を切る。	129	墓墳	A2
			70×60	N-87° -W				110	中世	
R D301	3B9s~ 3B9t	隅丸長方形	113×87	7	人為堆積か。黒褐色土の単層。			129	墓墳	A2
			105×80	N-84° -W				110	中世	
R D302	3 B7 o	隅丸長方形	252×84	5	人為堆積。黒褐色土の単層。	722近世陶器、523釘・543環状鉄製品		130	土坑	B3
			240×77	N-6° -E				110	近世	
R D303	3 B3 o	不整形	278×72	5	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック混じる。			130	墓墳	B3
			270×65	N-5° -E				111	中世	
R D304	3 B8 t	不整形	244×68	4	為堆積。黒褐色土ににぶい黄褐色土ブロック混じる。			130	墓墳	B3
			373×62	N-15° -E				111	中世	
R D305	3 B8 r	不整形	200×93	3	人為堆積か。黒褐色土の単層。			129	墓墳	
			106×55	N-2° -E				111	中世	
R D306	3 B18 d	隅丸長方形	150×120	35	自然堆積か。黒褐色土・褐色土等で構成。		R D280より古。	129	墓墳	B2
			102×73	N-15° -E				111	中世	
R D307	3 C9 b	長方形	112×91	35	人為堆積の様相を呈する。	土師器片		129	墓墳	B2
			102×86	N-14° -E				111	中世	
R D308	3 C10 b	隅丸長方形	186×104	27	人為堆積。黒褐色土中に地山ブロックを多量に含む。			130	墓墳	B2
			172×92	N-83° -W				112	中世	
R D309	3 C11 b	隅丸長方形	93×65	78	人為堆積。注記なし。	390須恵器壺		130	墓墳	A2
			72×50	N-6° -E				112	中世	
R D310	3 C12 b	隅丸長方形	114×97	44	人為堆積。褐色土と黒褐色土の混合土。			130	墓墳	B1
			103×88	N-81° -W				112	中世	
R D311	3 C11 a	隅丸長方形	162×125	30	人為堆積。褐色土と黒褐色土の混合土。	795近世陶器碗、 810近世磁器皿	R D312を切る。	130	土坑	B2
			144×101	N-0°				112	近世	
R D312	3 C11 a	隅丸長方形	145×96	56	人為堆積。黒褐色土中に地山ブロックが不規則に混。		R D311に切られる。	130	墓墳	B2
			132×84	N-19° -E				113	中世	
R D313	4 A4 n	不整形	286×178	30	人為堆積か。黒褐色土中に大小の自然礫多量。			131	土坑	
			228×130	N-14° -E				113	不明	
R D314	4 A5 m	不整形	340×280	48	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックと自然礫が混じる。			131	土坑	
			296×223	N-56° -W				113	不明	
R D315	3 B7 x	隅丸長方形	92×77	18	人為堆積か。上位は黒色土に褐色土ブロック、下位は黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合土。			130	墓墳	A1
			78×65	N-10° -E				113	中世	
R D316	3B7x~ 3B8x	隅丸長方形	120×90	18	人為堆積。上位は黒色土に褐色土ブロック、下位は黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合土。			131	墓墳	B2
			103×80	N-5° -E				114	中世	
R D317	3 B7 x	隅丸長方形?	103×97	16	人為堆積。上位は黒色土に褐色土ブロック、下位は黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合土。			131	墓墳	A1
			94×80	N-19° -E				114	中世	
R D318	3C12h~ 3C12i	長方形	192×108	65	人為堆積。黒褐色土を主体とし黄褐色土や焼土粒を含む。			131	墓墳	B2
			170×92	N-87° -E				114	中世	
R D319	3B12d~ 3B12e	隅丸長方形?	248×172	?	人為堆積堆積。	土師器片		—	墓墳	C2
			234×162	N-85° -W				114	中世	
R D320	2 C19 y	円形	320×257	30	自然堆積か人為堆積か不明。黒褐色土の単層。	732近世陶器		132	土坑	
			297×246	N-14° -E				115	近世	
R D321	2 C17 y	不整形	348×280	47	人為堆積か。		R G200より新。	132	土坑	
			329×259	N-81° -E				115	近世	
R D322	2C15v~ 2C15w	不整形	266×176	20	自然堆積か。自然礫を少量含む。	519・520鉄釘、815近代の陶器か、土師器片・陶磁器片		132	土坑	
			254×146	N-80° -E				115	近代	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		深さ (cm)	埋 土	出土遺物	備 考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長軸方向					写真	時期	
RD323	3 D24q	不明	111×(67)	20	20	人為堆積。地山ブロックを多量に含む黒褐色土。		沢跡より新。	132	墓墳	
			87×(50)	N-12° -W					115	不明	
RD324	3 C13 c	隅丸方形	80×78	10	10	人為堆積か。埋土上位は黒褐色土、下位は暗褐色土。			131	墓墳	A1
			70×65	N-0°					115	中世	
RD325	3 C14 d	隅丸長方形	124×104	24	24	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土ブロック混じる。			131	墓墳	B1
			100×90	N-89° -W					116	中世	
RD326	3C13d~ 3C13e	隅丸長方形	103×88	25	25	人為堆積。上位は黒褐色土と暗褐色土の混合土、下位は暗褐色土に黒褐色土ブロックが混じる。			132	墓墳	A1
			93×75	N-52° -E					116	中世	
RD327	3C14a~ 3C15a	隅丸長方形	127×95	47	47	人為堆積。黒褐色土を主体としにぶい黄褐色土や褐色土ブロックを含。埋土下位は黒褐色砂質土。			133	墓墳	B2
			109×78	N-2° -E					116	中世	
RD328	3 C12 c	隅丸長方形	257×107	48	48	人為堆積。黒褐色土を主体とし、その中に褐色土・暗褐色土が混入。			133	墓墳	C3
			235×92	N-10° -E					116	中世	
RD329	3C14b~ 3C15b	隅丸長方形	93×72	60	60	人為堆積。埋土上位は黒色土に褐色土やにぶい黄褐色土が混じり、埋土下位には黒褐色土砂質土が堆積。	磨石?、剥片?、土師器片		133	墓墳	A2
			87×68	N-2° -W					117	中世	
RD330	2 C15 t	隅丸方形	124×114	17	17	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロック多量含。			133	墓墳	B1
			112×100	N-14° -W					117	中世	
RD331	2C14r~ 2C14s	円形	182×176	48	48	人為堆積。黒褐色土・褐色土・炭粒が混。	512~515木製品、532鏝、737近世陶器、明治十四年銭、木杵		133	井戸か	
			162×118	不明					117	近代	
RD332	2 C13 t	円形	100×98	7	7	人為堆積。地山ブロックを多量に含む黒褐色土。			133	土坑	
			96×94	不明					117	近世	
RD333	2 C13 s	不整形	86×71	6	6	人為堆積か。			134	土坑	
			81×66	N-72° -W					117・118	不明	
RD334	2C13r~ 2C13s	隅丸方形	114×100	18	18	人為堆積。黒褐色土の中に褐色土ブロックを少量含。			134	土坑	
			108×90	N-18° -W					118	中世	
RD335	3 C14 a	長方形	109×88	36	36	人為堆積。黒褐色土に褐色土や暗褐色土が混じる。		RD336を切る。	134	墓墳	A2
			87×79	N-79° -W					118	中世	
RD336	3 C13 a	隅丸長方形	215×97	50	50	人為堆積。黒褐色土と暗褐色土との混合土。		RD335に切られる。	134	墓墳	B2
			116×85	N-2° -E					118	中世	
RD337	3B13y~ 3C13a	隅丸長方形	124×98	54	54	人為堆積か。黒褐色・暗褐色土・褐色土などで構成される。			134	墓墳	B2
			104×79	N-17.5° -E					119	中世	
RD338	3 C16 h	隅丸長方形	155×122	42	42	人為堆積。黒色土とにぶい黄褐色砂質土の混合土が主。	土師器片		134	墓墳	B2
			135×98	N-1° -E					199	中世	
RD339	3 C16 g	長方形	170×107	44	44	人為堆積。黒色土とにぶい黄褐色砂質土の混合土が主。			134	墓墳	B2
			155×94	N-17° -E					199	中世	
RD340	3C15f~ 3C16f	隅丸方形	115×100	38	38	人為堆積。黒褐色土とにぶい黄褐色砂質土との混合土。			134	墓墳	B1
			98×85	N-9° -E					199	中世	
RD341	3 C13 r	不整形	125×105	32	32	人為堆積。黒褐色土に褐色土を多量に含む。			135	土坑	
			108×91	N-71° -E					120	近世	
RD342	2C10r~ 2C10s	円形	109×105	15	15	人為堆積。暗褐色土中に多量の褐色土ブロック。			135	土坑	
			92×87	不明					120	近世	
RD343	2 C10r	不整形	89×82	9	9	人為堆積。暗褐色土に褐色土が多量に混じる。			135	土坑	
			79×75	N-5° -W					120	近世	
RD344	3 C11 g	隅丸長方形	125×104	40	40	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック含む。	391土師器甕		135	墓墳	B1
			108×98	N-88° -W					120	中世	
RD345	3 C11 h	隅丸長方形	84×62	22	22	人為堆積。黒褐色土に暗褐色土ブロックを微量含む。			135	墓墳	A2
			70×50	N-10° -W					121	中世	
RD346	3C11g~ 3C11h	隅丸長方形	130×106	43	43	人為堆積。黒褐色土と褐色土との混合土が主体。			135	墓墳	B2
			119×78	N-85° -E					121	中世	
RD347	3 C9 h	隅丸長方形	92×72	24	24	人為堆積。黒褐色土に褐色土(砂質土)が混じる。			135	墓墳	A2
			80×64	N-2.5° -W					121	中世	
RD348	3C9g~ 3C10g	隅丸長方形	92×68	25	25	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混合土。			135	墓墳	A2
			83×62	N-0°					121	中世	
RD349	3 C9 f	隅丸長方形	140×110	42	42	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混合土。			135	墓墳	B2
			121×93	N-79° -W					122	中世	
RD350	3 B18 y	隅丸長方形	86×70	45	45	人為堆積。黒色土とにぶい黄褐色砂質土との混合土。			135	墓墳	A2
			72×53	N-68° -W					122	中世	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版 写真	種類 時期	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm) 長軸方向						
R D351	3 B17 y	隅丸長方形	210×116	28	人為堆積。黒色土に褐色土ブロック・焼土・炭粒を含む。埋土下層は黒色砂質土に炭粒が微量含まれる。			136	墓塚	B2
			198×106	N-84° -W				122	中世	
R D352	3 C16 a	隅丸長方形	152×25	22	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D353・387を切る。	136	墓塚	A3
			96×20	N-12° -W				122	中世	
R D353	3 C17 a	不明	91×(27)	20	人為堆積。黒褐色土ににぶい黄褐色砂質土ブロックを微量含む。		R D352・387に切られる。	136	墓塚	
			74×(23)	N-88° -W				123	中世	
R D354	3B9p～ 3B10p	隅丸長方形	156×98	22	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック含む。			136	墓塚	B2
			144×88	N-4° -W				123	中世	
R D355	3B9r～ 3B9s	隅丸長方形	174×114	18	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック・炭粒含む。		R D539を切る。	136	墓塚	B2
			156×88	N-81° -E				123	中世	
R D356	3 B11 q	隅丸長方形	220×82	8	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック混じる。			136	墓塚	B3
			210×72	N-82° -W				123	中世	
R D357	3 B11 r	隅丸長方形	128×100	26	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック及び炭粒混じる。			137	墓塚	B2
			112×80	N-79° -W				124	中世	
R D358	3 B12 s	不整 隅丸台形	150×132	20	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック及び小礫や炭粒混じる。	土師器片		138	墓塚	B1
			138×120	N-24° -E				124	中世	
R D359	3 B13 q	隅丸長方形	197×101	18	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック含む。		R D719を切る。	138	墓塚	B2
			192×187	N-82° -W				124	中世	
R D360	2 C16m	隅丸長方形	665×(250)	69				119	厩跡	
			587×(238)	-				124	近世	
R D361	2 C9 q	円形	113×98	15	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック多量含む。			137	土坑	
			96×82	N-8° -W				125	近世	
R D362	2 C9 r	円形	86×82	7	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック含む。			137	土坑	
			66×65	不明				125	近世	
R D363	2 C12 r	不整形	128×94	8	人為堆積か。黒褐色土に褐色土を少量含む。			137	土坑	
			125×91	N-11° -W				125	近世	
R D364	2 C12 p	円形	79×78	8	人為堆積か。黒褐色土に褐色土を微量含む。			138	土坑	
			73×73	不明				125	近世	
R D365	2 C12 p	不整形	109×90	5	人為堆積か。黒褐色土に褐色土をごく微量含む。			138	土坑	
			102×84	N-12° -W				126	近世	
R D366	2 C13 p	円形	74×74	8	人為堆積か。黒褐色土の単層。			138	土坑	
			68×68	不明				126	近世	
R D367	3B13r r～ 3B13s	隅丸長方形	80×53	7	人為堆積。にぶい黄褐色土ブロックを含む黒色土。			138	墓塚	A2
			67×46	N-13° -E				126	中世	
R D368	3 B13 p	隅丸長方形	135×100	28	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック・炭粒含む。			137	墓塚	B2
			113×88	N-6° -W				126	中世	
R D369	3 B13 q	隅丸長方形	111×90	7	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロック含む。			138	墓塚	A2
			94×76	N-80° -E				127	中世	
R D370	3 B11 p	隅丸長方形	168×114	27	人為堆積。黒色土とにぶい黄褐色砂質土との混合土。			138	墓塚	B2
			159×100	N-9° -W				127	中世	
R D371	3C16b～ 3C17b	隅丸長方形	169×104	19	人為堆積。黒褐色土とにぶい黄褐色砂質土との混合土。炭粒も含む。		R D372を切る。	136	墓塚	B2
			154×87	N-0°				127	中世	
R D372	3C16a～ 3C16b	隅丸長方形	(125)×115	22	人為堆積。黒褐色土ににぶい黄褐色砂質土ブロックを微量含む。		R D371に切られる。	136	墓塚	
			(117)×97	N-0°				127	中世	
R D373	3 C9 c	円形	80×70	10	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックや焼土・炭粒含む。	土師器片		138	土坑	
			75×65	N-83° -W				128	不明	
R D374	3 B14 y	隅丸長方形	71×64	22	人為堆積。黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合土。			138	墓塚	A1
			30×14	N-78° -W				128	中世	
R D375	3 B12 y	不整形	109×71	37	人為堆積。暗褐色土に砂を多量、焼土・小礫を含む。			138	墓塚	A2
			75×45	N-11° -E				128	中世	
R D376	3 B13 x	隅丸長方形	97×80	36	人為堆積。黒褐色土に暗褐色砂質土ブロック含む。埋土下層には黒褐色砂。	土師器片		138	墓塚	A2
			80×56	N-79° -W				128	中世	
R D377	3 B16 x	長方形	92×78	32	人為堆積。黒褐色土とにぶい黄褐色砂質土が不規則に混じる。			138	墓塚	A1
			76×70	N-53° -E				129	中世	
R D378	3 B13 y	不整形	105×86	68	人為堆積。褐色土・黒褐色土の混合土			139	墓塚	A2
			93×57	N-3° -E				129	中世	
R D379	3-C13 b	隅丸長方形	330×180	31	不明。		R D622・624・628・641より古い。	190	土坑	
			306×154					129	近世	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm)				写真	時期		
R D380	3 C 7 j	隅丸長方形	(300)×245	30	黒褐色土と褐色土の混合土、炭粒・小礫含む。	791近世陶器碗、土師器片、陶磁器片	調査区外にのびる。	139	土坑		
			(284)×204	N-12° -W				129	近世		
R D381	3C13m～3C14n	不整形	350×255	19	人為堆積と思われる。炭粒・自然礫等を含む。	土師器片、陶磁器片		139	土坑		
			293×166	N-89° -E				130	近世		
R D382	2C5s～2C5t	隅丸方形	95×86	42	人為堆積。黒褐色土の中に地山ブロックを含む。	392土師器球胴甕？		140	墓壇	A1	
			80×77	不明				130	中世		
R D383	2 C 4 s	隅丸長方形	217×195	18	自然堆積の様相を呈する。		柱穴との新旧関係は不明。	139	土坑		
			197×177	N-74° -E				130	不明		
R D384	3B12o～3B12p	隅丸長方形	132×98	30	人為堆積。埋土上位は黒色土、下位は黒褐色土とに黄褐色土に炭粒を含む。	土師器	R D722を切る。	140	墓壇	B2	
			109×83	N-84° -W				130	中世		
R D385	3 C 14 j	不整形	224×205	16	人為堆積。黒褐色土に褐色砂質土ブロックと炭粒を含む。	760鏝鉢、陶磁器片		140	土坑		
			170×144	N-75° -W				131	近世		
R D386	4 A 13 t	不整形	208×208	30	人為堆積か。黒褐色土に地山ブロック・小礫を少量含む。			140	土坑		
			176×161	N-75° -E				131	不明		
R D387	3 C 16 a	不明	(55)×110	30	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック・炭粒を微量含む。		R D352・372に切られ、R D353を切る。	136	墓壇		
			(54)×92	N-0°				131	中世		
R D388	2 C 5 q	隅丸方形	214×100	23	人為堆積。地山ブロックを大量に含む黒褐色土。			140	墓壇	B2	
			105×92	N-24° -E				131	中世		
R D389	2 C 6 q	隅丸長方形	140×105	28	人為堆積。地山ブロックを多量に含む黒褐色土。		柱穴より古。	140	墓壇	B2	
			108×85	N-15° -W				132	中世		
R D390	3C17a～3C18a	不整形	173×140	20	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土を含む。		R D391・392と重複、新旧不明。	141	墓壇	B2	
			158×126	N-12.5° -E				132・133	中世		
R D391	3C18a～3C18b	不整形	184×127	14	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土を含む。		R D392・393を切る。R D390と重複、新旧不明。	141	墓壇	B2	
			167×109	N-13° -E				132・133	中世		
R D392	3 C 18 a	隅丸長方形	100×(65)	18	人為堆積。黒色土に黄褐色土粒を含む。		R D391に切られる。R D390・393と重複、新旧不明。	141	墓壇		
			82×(55)	N-73° -W				132・133	中世		
R D393	3C18a～3C19a	不整形	(90)×111	34	人為堆積。黒褐色土に灰黄褐色土・暗オリーブ灰色粘土質土含む。		R D391に切られ、R D394を切る。R D392と重複、新旧不明。	141	墓壇		
			(80)×83	N-12° -E				132・133	中世		
R D394	3 C 19 a	不整形	(54)×62	10	人為堆積。黒色土に黄褐色土混じる。		R D393に切られる。	141	墓壇		
			(49)×52	N-3° -E				132・133	中世		
R D395	3B16q～3B16r	隅丸長方形	173×105	20	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック・炭粒含む。			141	墓壇	B2	
			155×100	N-84° -W				132	中世		
R D396	3B16r～3B16s	隅丸長方形	235×108	18	人為堆積。黒色土と黄褐色砂質土との混合土で炭粒も含む。	393土師器甕？		141	墓壇	B2	
			214×87	N-13° -E				133	中世		
R D397	3 B 18 q	隅丸長方形	130×117	37	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロックと炭粒含む(埋土下層はグライ化)。		R D730を切る。	142	墓壇	B1	
			115×89	N-18° -W				133	中世		
R D398	3 B 18 r	隅丸長方形	187×113	42	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック・炭粒を微量含む。埋土下層はグライ化。	土師器片	R D729を切る。	142	墓壇	B2	
			169×98	N-4° -E				134	中世		
R D399	3 C 8 g	8の字形	174×140	52	自然堆積か。黒色土及び黒褐色土中に焼土・炭粒の層が見られる。	394～397土師器		141	不明		
			153×100	N-51° -E				134	中世		
R D400	3 B 17 k	隅丸長方形	130×105	21	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒含む。			142	墓壇	B2	
			125×85	N-58° -W				134	中世		
R D401	3 B 17 j	隅丸長方形	156×104	15	人為堆積。黒色土・黒褐色土・黄褐色土との混合土。		R E036を切る。	143	墓壇	B2	
			141×85	N-5° -E				134	中世		
R D402	3 B 17 k	隅丸方形	116×114	18	人為堆積。黒色土に黄褐色砂質土・炭粒含む。		R E036を切る。	143	墓壇	B1	
			100×95	N-85° -W				135	中世		
R D403	3 B 16 l	長方形	100×85	28	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック・炭粒含む。			142	墓壇	A1	
			86×68	N-20° -E				135	中世		
R D404	3B16k～3B17k	隅丸長方形	(162)×120	35	人為堆積。黒色土を主体とし、黄褐色砂質土、暗オリーブ灰色粘土質土が堆積。		R D670に切られる。	144	墓壇	B2	
			(150)×100	N-10° -E				135	中世		
R D405	3 B 16 k	隅丸長方形	101×77	19	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土との混合土。炭粒含む。		R D670を切る。	144	墓壇	A2	
			87×60	N-3° -W				135	中世		
R D406	3 B 10 q	隅丸方形	73×70	17	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土との混合土。炭粒含む。			142	墓壇	A1	
			65×57	N-4° -E				136	中世		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm)				写真	時期		
R D407	3 B 9 q	台形?	104×90	20	人為堆積。黒褐色土にぶい黄褐色土ブロック・炭粒含む。			142	墓塚	A1	
			92×73	N-15° -E				136	中世		
R D408	3B10q~ 3B10r	不整形	90×73	7	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土・黄褐色土ブロック含む。下層には粘土質土。			142	墓塚	A2	
			84×62	N-0°				136	中世		
R D409	3 B13 x	隅丸長方形	128×103	37	人為堆積。黒褐色土に褐色砂質土ブロックを不規則に含む。			144	墓塚		
			113×95	N-3.5° -E				136	中世		
R D414	2 A12 y	楕円形	133×80	27	自然堆積と思われる。			143	土坑	B2	
			124×74	N-85° -E				137	不明		
R D415	2 B15 y	隅丸長方形	138×109	35	人為堆積。上位は黒褐色土。下位は黒褐色土にぶい黄褐色土の混合土。		R D416を切る。	143	墓塚	B2	
			120×99	N-0°				137	中世		
R D416	2 B15 y	隅丸長方形	62×(32)	18	人為堆積。黒褐色土・ぶい黄褐色土・褐色土の混合土。底面付近はグライ化。		R D415に切られる。	143	墓塚	A2	
			50×(23)	N-0°				137	中世		
R D417	3B12w~ 3B13w	隅丸方形	186×178	46	人為堆積。黒褐色土を主体に小礫、ぶい黄褐色土ブロック、砂等を含む。			144	墓塚	C1	
			146×129	N-4° -E				137	中世		
R D418	4 B21 r	円形	124×102	7	人為堆積。黒褐色土に褐色土含む。			143	土坑		
			116×100	N-35° -W				138	中世		
R D419	1 C20m	不整形	221×173	24	人為堆積。馬が埋葬されていた。		R G205より新。	144	家畜墓		
			158×142	N-77° -E				138	近世~		
R D420	1 C19m	不整形	128×84	14	人為堆積。馬が埋葬されていた。			143	家畜墓		
			105×60	N-79° -E				138	近世~		
R D421	1C19o~ 1C19p	隅丸方形?	299×(180)	14	自然堆積か人為堆積か不明。		R G205より古。底面は平坦ではない。	145	土坑		
			276×(158)	N-81° -E				138	不明		
R D422	1 C19 p	円形	68×62	18	人為堆積の様相を呈する。		R G205より古。R D421に付属する土坑か。	145	土坑		
			50×48	N-11° -W				138・139	不明		
R D423	3B8u~ 3B9u	長方形	282×75	2	空断面。			145	墓塚	B3	
			275×66	N-12° -E				139	中世		
R D424	3 B22 q	隅丸長方形	120×92	40	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土との混合土。		R D662を切る。	145	墓塚	B2	
			98×70	N-6° -E				139	中世		
R D425	3B22r~ 3B22s	隅丸方形?	80×70	18	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック含む。		R D664を切る。	145	墓塚	A1	
			65×57	N-0°				139	中世		
R D426	3 C17 d	楕円形	80×57	16	人為堆積。黒色土にぶい黄褐色土、炭粒含む。			145	墓塚	A2	
			60×32	N-4° -E				140	中世		
R D427	3B21n~ 3B21o	楕円形	98×82	15	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック微量含む。			145	墓塚	A1	
			93×72	N-77° -W				140	中世		
R D428	2 A 4 y	長円形	238×83	23	黒褐色土を主体とした自然堆積。	398・399須恵器甕		146	土坑		
			93×59	N-21° -W				140	不明		
R D429	3 B21m	隅丸長方形	91×78	17	人為堆積でよいと思われる。			146	墓塚	A1	
			80×62	N-83° -W				140	中世		
R D430	3 B22 o	隅丸長方形	111×101	37	人為堆積。黒色土・黒褐色土中に褐色土ブロック含む。		R D576を切る。	146	墓塚	B1	
			97×84	N-32° -W				141	中世		
R D431	3 B22 o	長方形	171×108	40	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。			146	墓塚	B2	
			146×80	N-47° -W				141	中世		
R D432	4 A10 t	不整形	104×95	32	自然堆積。礫層を掘り込んでいる。			146	土坑		
			64×60	N-65° -W				140	不明		
R D433	3 B19 s	不整形	122×101	11	人為堆積。黒色土にぶい黄褐色土がシミ状に見られる。骨片も出土。			146	墓塚	B2	
			99×84	N-19° -E				141	中世		
R D434	3 B21 q	隅丸長方形	94×80	16	人為堆積。黒褐色土の中に地山ブロック。			146	墓塚	A1	
			77×62	N-85° -W				141	中世		
R D435	3 B24 n	隅丸長方形	110×90	20	人為堆積。暗褐色土の中に地山ブロック。		新旧関係なし。	146	墓塚	A2	
			94×75	N-83° -W				142	中世		
R D436	3 B19 y	不明	(93×60)	15	人為堆積。黒褐色土にぶい黄褐色土ブロック含む。		R D437と重複、新旧不明。R D440・442・551に切られる。	147	墓塚		
			(87×54)	N-10° -E				142・143	中世		
R D437	3 B19 y	不明	(120×104)	15	人為堆積。黒褐色土にぶい黄褐色土ブロック含む。		R D437と重複、新旧不明。R D438を切り、R D551に切られる。	147	墓塚		
			(110×104)	N-5° -E				142・143	中世		
R D438	3 B19 y	不明	150×(70)	13	人為堆積。黒褐色土にぶい黄褐色土含む。		R D437・551に切られ、R D439を切る。	147	墓塚		
			130×(65)	N-2° -E				142・143	中世		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)	深さ (cm)	埋 土	出土遺物	備 考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長軸方向				写真	時期	
R D 439	3 C 19 a	隅丸長方形	150×(74)	17	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土含む。		R D 438に切られる。	147	墓墳	
			130×(75)	N-3° -E				143	中世	
R D 440	3 B 20 x	不明	137×(33)	?	注記なし。		R D 436・441を切り、R D 442に切られる。	147	墓墳	
			59×(21)	N-7° -E				143	中世	
R D 441	3 B 20 y	不明	105×(60)	20	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック含む。		R D 440・442に切られ、R D 443を切る。	147	墓墳	
			88×(44)	N-0°				143	中世	
R D 442	3 B 20 y	隅丸長方形	160×116	24	人為堆積。黒褐色土ににぶい黄褐色土粒・炭粒含む。		R D 436・440・441・551を切る。	147	墓墳	B 2
			146×94	N-5° -E				143	中世	
R D 443	3 B 20 y	不明	(47)×85	30	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック含む。		R D 441に切られる。	147	墓墳	
			(41)×75	N-84° -W				143	中世	
R D 444	3 B 20 a	円形	58×56	23	人為堆積。黒褐色土ににぶい黄褐色土ブロック含む。			147	墓墳	A 1
			32×31	N-0°				143	中世	
R D 445	3 B 18 t	不整形	90×68	7	人為堆積。黒褐色土中に灰黄褐色土がシミ状に見られる。			147	墓墳	A 2
			83×62	N-8° -E				143	中世	
R D 446	3 B 16 q	隅丸長方形	127×110	18	人為堆積。黒褐色土ににぶい黄褐色砂質土ブロックを含む。			147	墓墳	B 1
			115×100	N-5° -E				144	中世	
R D 447	3 B 13 o	隅丸長方形?	152×105	30	人為堆積。黒色土・黒褐色土・にぶい黄褐色土の混合土。		R D 720を切る。	137	墓墳	B 2
			102×93	N-81° -W				144	中世	
R D 448	2C20s~2C21s	不整形	266×192	5	自然・人為堆積の区別不明。		R A 240より新。	148	土坑	
			256×189	N-9° -W				144	近世	
R D 449	3 B 25 o	不整形円形	117×102	30	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック多量を含む。		R G 191を切る。	147	墓墳	B 1
			96×76	N-85° -W				144	中世	
R D 450	3B23o~3B24o	隅丸長方形	148×96	32	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。			148	墓墳	B 2
			132×63	N-5° -W				145	中世	
R D 451	3 B 23 n	隅丸長方形	96×92	20	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック多量を含む。			148	墓墳	A 1
			71×65	N-58° -W				145	中世	
R D 452	3 B 23 o	隅丸長方形	160×101	50	人為堆積。黒褐色土、暗褐色土、褐色土などの混合土。			148	墓墳	B 2
			131×76	N-52° -W				145	中世	
R D 453	3 B 14 r	不整形	177×72	6	黒色土ににぶい黄褐色土ブロックを含む人為堆積。			148	墓墳	B 3
			167×63	N-10° -E				145	中世	
R D 454	3B15r~3B15s	隅丸長方形	135×100	18	黒色土中ににぶい黄褐色土ブロックを含む人為堆積。			148	墓墳	B 2
			115×80	N-3° -E				146	中世	
R D 455	3B13s~3B14s	隅丸長方形	86×59	12	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色土ブロックを含む。			148	墓墳	A 2
			78×50	N-2° -W				146	中世	
R D 456	4 B 1 q	隅丸長方形	140×106	45	人為堆積。黒褐色土に褐色土等が不規則に混じる。		R D 676・R G 193に切られる。	149	墓墳	B 2
			111×96	N-6° -E				146	中世	
R D 457	3 B 25 j	円形	124×110	16	黒褐色土と褐色土の混合土。人為堆積。			149	墓墳	B 1
			101×90	N-46.5° -E				146	中世	
R D 458	3B23k~3B23l	隅丸方形	92×89	15	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D 735を切る。	150	墓墳	A 1
			82×78	N-10° -E				147	中世	
R D 459	3 B 22 j	隅丸長方形	135×72	28	黒褐色土、褐色土、暗褐色土などが不規則に混じる人為堆積。		R D 736を切る。	150	墓墳	A 2
			112×59	N-77° -W				147	中世	
R D 460	3 B 23 j	隅丸長方形	194×103	28	人為堆積。黒褐色土、暗褐色土、褐色土、炭粒などによって構成される。	453青磁碗	R D 721・731・736を切る。	150	墓墳	B 2
			173×91	N-75° -W				147	中世	
R D 461	2C12x~2C13y	不整形	426×370	18	人為堆積か。		R D 462・R D 463より新。	149	土坑	
			388×306	N-83° -E				147	近世	
R D 462	2 C 13 y	隅丸長方形	90×77	20	人為堆積。黒褐色土と地山の混土。		R D 461より古。	149	墓墳	A 1
			73×63	N-28° -W				148	中世	
R D 463	2 C 13 y	隅丸長方形	102×77	18	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック混。		R D 461より古。	149	墓墳	A 2
			94×68	N-21° -W				148	中世	
R D 464	3 B 18 o	隅丸長方形	95×75	30	黒色土、にぶい黄褐色土、灰色粘土質土等で構成される人為堆積。			151	墓墳	A 2
			78×62	N-88° -E				148	中世	
R D 465	3 B 16 o	隅丸方形	104×97	12	人為堆積。黒色土ににぶい黄褐色砂質土ブロックを含む。			151	墓墳	A 1
			93×85	N-78° -W				148	中世	
R D 466	3 B 17 o	隅丸長方形	364×120	25	人為堆積。黒褐色土とにぶい黄褐色土との混合土、埋土下層はこれに暗オリープ灰色粘土質土が混じる。			151	墓墳	C 3
			345×80	N-81° -W				149	中世	
R D 467	3 B 19 p	隅丸長方形	120×95	29	人為堆積。黒褐色土とにぶい黄褐色土との混合土、埋土下層はグライ化。			151	墓墳	B 2
			98×75	N-2° -W				149	中世	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)	深さ (cm)	埋 土	出土遺物	備 考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長軸方向				写真	時期	
R D 468	2 B 4 a	不整楕円形	136×56	26	自然・人為堆積の区別不明。			151	土坑	
			100×14	N-18° -W				151	不明	
R D 469	3B10t・ 3B11u	不整形	375×(292)	36	自然・人為堆積の区別不明。黒褐色土中に河原石・炭粒などを含む。			152	不明	
			320×(233)	不明				150	不明	
R D 470	3 B 17 t	隅丸長方形	215×113	43	黒色土・黒褐色土ににぶい黄褐色土ブロックを不規則に含む人為堆積。底面付近はグライ化。		R G 198を切る。	151	墓塚	B 2
			200×98	N-89° -W				149	中世	
R D 471	2 B 8 g	隅丸長方形か	(73)×80	22	黒褐色土の中に地山ブロック少量含。			152	土坑	
			(62)×52	不明				149	不明	
R D 472	2 C 17 o	隅丸長方形	192×150	27	人為堆積と思われる。黒褐色土に地山ブロック・小礫・炭粒が混。底面には自然礫が置かれていた。		R B 024より新。	152	土坑	
			156×106	N-6° -W				150	近世	
R D 473	2 C 15 p	隅丸長方形	236×233	18	人為堆積。地山ブロックを少量含む黒褐色土。	787近世磁器碗	R B 024より新。 R I 007より古。	153	土坑	
			218×218	不明				151	近世	
R D 474	2 C 6 l	隅丸長方形	97×76	18	人為堆積。地山ブロックを微量含む黒褐色土。		柱穴より古。	153	墓塚	A 2
			90×72	N-12° -W				151	中世	
R D 475	2 C 18 r	不整形	131×116	64	人為堆積。黒褐色土・地山・暗褐色土などの混土。		R A 240より新。 R G 200より古。	153	墓塚	B 1
			109×78	N-82° -E				151	中世	
R D 476	2 C 19 q	不整形	117×109	43	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック含。		R A 240より新。 R G 200より古。	153	墓塚	B 1
			98×86	N-15° -W				151	中世	
R D 477	2C19p～ 2C20p	隅丸長方形	100×97	27	自然堆積か。埋土下層砂質。		R A 240より新。	153	墓塚	A 1
			86×85	不明				152	中世	
R D 478	2 C 20 q	隅丸長方形	90×87	20	人為堆積。黒褐色土中に地山ブロック微量含。		R A 240より新。	153	墓塚	A 1
			80×78	不明				152	中世	
R D 479	2A10y～ 2A11y	長方形	60×35	18	人為堆積か。埋土には焼土粒が含まれる。			154	土坑	
			47×25	N-8° -W				152	不明	
R D 480	3 B 23 e	隅丸長方形	158×112	47				—	墓塚	B 2
			107×96	N-15° -E				—	中世	
R D 481	4 A 12 d	隅丸長方形	177×170	24	暗褐色土に小礫を微量含。自然・人為の区別不明。			154	土坑	
			160×142	N-27° -E				152	中世	
R D 482	1 A 11 a	隅丸長方形	164×100	8	人為堆積。褐色土ブロック極微量含。			153	墓塚	B 2
			143×93	N-49° -W				153	中世	
R D 483	4-A 5 t	隅丸長方形	106×80	24	黒褐色土の単層。自然・人為の別不明。			154	土坑	
			83×56	N-65° -W				153	中世	
R D 484	4-A 2 r	隅丸三角形	290×26	15	自然堆積か人為堆積か不明。		R G 084より古いと思われる。	154	土坑	
			274×102	N-55° -E				153	不明	
R D 485	4-A 2 r	不整形	188×60	12	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック少量含。		R G 084より古いと思われる。	154	土坑	
			122×18	N-82° -W				153	不明	
R D 486	3 C 24 q	隅丸長方形	148×99	15	人為堆積。黒褐色土と黄褐色土の混土。			154	墓塚	B 2
			137×85	N-88° -E				154	中世	
R D 487	3 C 25 j	楕円形	83×62	12	人為堆積。黒褐色土・暗褐色土に褐色土ブロックが含まれる。			154	墓塚	A 2
			70×45	N-12° -E				154	中世	
R D 488	3 C 20 e	隅丸長方形	159×116	47	黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む人為堆積。		R D 493を切る。	155	墓塚	B 2
			139×92	N-6° -W				154・155	中世	
R D 489	3 C 22 j	隅丸長方形	121×115	51	黒褐色土に地山ブロックを含む人為堆積。		R D 492を切る。	154	墓塚	B 1
			110×89	N-1° -E				154・155	中世	
R D 490	3 B 24 y	長方形	107×94	46	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。			155	墓塚	A 1
			95×86	N-2° -E				155	中世	
R D 491	3C21b～ 3C21c	隅丸長方形	202×100	39	黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む人為堆積。			155	墓塚	B 2
			185×83	N-82° -W				155	中世	
R D 492	3 C 22 j	不明	(44)×90	22	黒褐色土と褐色土の混土。人為堆積。		R D 489に切られる。	154	墓塚	
			(40)×70	不明				154・155	中世	
R D 493	3 C 20 e	不明	94×(26)	48	注記なし。		R D 488に切られる。	155	墓塚	
			84×(14)	N-4° -E				154・155	中世	
R D 494	3 B 22 y	長方形	208×112	27	人為堆積堆積の様相を呈する。			155	墓塚	B 2
			194×96	N-8° -E				156	中世	
R D 495	3 B 12 t	隅丸長方形?	126×100	9	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを少量含む。			155	墓塚	B 2
			115×90	N-86° -W				156	中世	
R D 496	3 B 15 t	長方形	120×100	11	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを少量含む。		R G 198と重複。	155	墓塚	B 1
			106×90	N-85° -W				156	中世	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)	深さ (cm)	埋 土	出土 遺 物	備 考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長軸方向				写真	時期	
R D497	3B14p~ 3B14q	隅丸長方形	128×83	32	黒色土にふい黄褐色土を含む人為堆積。			155	墓墳	B 2
			120×76	N-83° -W				156	中世	
R D498	3 B15 o	円形	72×65	9	黒褐色土にふい黄褐色土ブロックを含む人為堆積。			155	墓墳	A 1
			56×47	N-71° -W				157	中世	
R D499	3 B15m	隅丸長方形	100×55	45	人為堆積。黒色土にふい黄褐色土ブロックを含む。底部付近はグライ化。			156	墓墳	A 2
			70×30	N-67° -W				157	中世	
R D531	3B23x~ 3B23y	長方形	162×115	31	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを多量に含む。			156	墓墳	B 2
			147×102	N-85° -W				157	中世	
R D532	3 B21w	隅丸長方形	131×106	32	黒褐色土に褐色土ブロック・焼土・炭粒を含む人為堆積。			156	墓墳	B 2
			112×90	N-9° -E				157	中世	
R D533	3 B13 n	長方形	250×93	24	黒褐色土にふい黄褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D534に切られる。	156	墓墳	B 3
			232×76	N-22° -E				158	中世	
R D534	3B13n~ 3B14n	隅丸長方形	90×75	24	黒褐色土にふい黄褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D533を切る。	156	墓墳	A 1
			86×62	N-18° -E				158	中世	
R D535	3B19w~ 3B19x	長方形	163×110	43	人為堆積。黒褐色土に褐色土・ふい黄褐色土ブロックを含む。			156	墓墳	B 2
			132×80	N-8° -E				158	中世	
R D536	3B12k~ 3B13k	隅丸長方形	138×116	34	黒褐色土に地山ブロック・褐灰色土等が混じる人為堆積。		R D537に切られる。	156	墓墳	B 1
			112×85	N-86° -E				158	中世	
R D537	3 B13 k	隅丸長方形	160×92	20	黒褐色土に地山ブロックが混じる人為堆積。		R D536を切る。	156	墓墳	B 2
			154×80	N-22° -E				159	中世	
R D538	3B13l~ 3B13m	隅丸長方形	161×92	31	黒褐色土に地山ブロックが混じる人為堆積。			157	墓墳	B 2
			135×82	N-63° -W				159	中世	
R D539	3 B9 s	不整形	(154)×94	9	不明。		R D355に切られる。	136	墓墳	
			(146)×83	N-81° -W				159	中世	
R D540	4B4v~ 4B4w	隅丸長方形	100×84	29	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを不規則に含む。			157	墓墳	A 1
			86×70	N-11° -E				159	中世	
R D541	4 B 5 v	隅丸長方形	116×92	32	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを不規則に含む。			157	墓墳	B 2
			80.6×70	N-51° -W				160	中世	
R D542	1 C23 t	隅丸長方形	110×99	21	黒褐色土に褐色土ブロックを含む人為堆積。		R G045より新。	157	墓墳	B 1
			103×94	N-41° -E				160	中世	
R D543	3 B11 n	隅丸長方形	85×82	24	黒褐色土に地山ブロックが混じる人為堆積。			157	墓墳	A 1
			75×69	N-19° -E				160	中世	
R D544	3B10n~ 3B11n	隅丸長方形	313×96	9	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックが混じる。		R D545・555を切る。	157	墓墳	C 3
			301×76	N-0.5° -W				160	中世	
R D545	3 B11 n	隅丸長方形	(102)×97	27	人為堆積。黒色土に地山ブロックが混じる。		R D544に切られる。	157	墓墳	A 1
			(90)×80	N-67° -W				161	中世	
R D546	3 B9 l	隅丸長方形	108×100	14	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックが不規則に混。			157	墓墳	B 1
			96×88	N-87° -E				161	中世	
R D547	3 B12 l	隅丸長方形	104×87	35	人為堆積。黒色土・黒褐色土に地山ブロックが含まれる。			157	墓墳	A 1
			94×77	N-74° -W				161	中世	
R D548	3 B11m	隅丸長方形	81×80	27	黒褐色土に地山ブロック・炭粒を含む人為堆積。			159	墓墳	A 1
			69×68	N-67° -W				161	中世	
R D549	3 B9 o	隅丸長方形	182×95	28	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量含む。		R D555・690を切る。	158	墓墳	B 2
			172×83	N-7° -E				162	中世	
R D550	3B10o~ 3B11o	不整形	170×130	5	黒褐色土に地山ブロックを少量含む人為堆積。			159	墓墳	B 2
			165×127	N-17° -E				162	中世	
R D551	3B19y~ 3B20y	不明	110×47	?	注記なし。		R D437・438より新。 R D442より旧。	147	墓墳	A 3
			92×30	N-2° -E				162	中世	
R D552	3 B14 l	隅丸長方形	194×88		人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む。		R D554・595を切る。	158	墓墳	B 2
			184×72	N-15° -E				162	中世	
R D553	3 B14 k	隅丸長方形	208×114	35	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを少量含む。		R D554を切る。	158	墓墳	B 2
			156×74	N-79° -W				163	中世	
R D554	3B41k~ 3B15k	隅丸長方形?	216×98	22	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量含む。		R D552・553に切られる。	158	墓墳	B 2
			207×80	N-89° -E				163	中世	
R D555	3B9n~ 3B9o	隅丸長方形	(190)×114	14	黒褐色土に地山ブロックを多量に含む人為堆積。		R D544・549に切られる。	158	墓墳	
			(176)×80	N-82° -W				163	中世	
R D556	3 B15 l	隅丸長方形	169×103	20	黒褐色土に地山ブロックを多量に含む人為堆積。			159	墓墳	B 2
			142×87	N-76° -W				163	中世	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		長さ (cm) 長軸方向	埋土	出土遺物	備考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)						写真	時期	
R D 557	1 C 21 v	不整形	98×80	36	人為堆積。地山ブロック微量含。				160	墓塚	
			90×72	N-4° -E					164	近世	
R D 558	3 B 20 s	隅丸長方形	154×105	18	黒褐色土に地山ブロックを多量に含む人為堆積。				159	墓塚	B 2
			145×84	N-7.5° -E					164	中世	
R D 559	3B19r~ 3B19s	隅丸長方形	(220)×173	28	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック混。		R D 560に切られる。 R D 561と重複、新旧不明。	159	墓塚	C 2	
			(190)×150	N-5° -E				164	中世		
R D 560	3B20r~ 3B20s	長方形	227×162	28	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量に含む。		R D 559を切る。	159	墓塚	C 2	
			210×135	N-5° -E				164	中世		
R D 561	3 B 19 r	隅丸長方形	147×114	24	地山ブロックが混じる黒褐色土。人為堆積。		R D 663を切る。 R D 559と重複、新旧不明。	159	墓塚	B 2	
			119×97	N-85° -W				164	中世		
R D 562	1 C 22 u	隅丸方形	84×82	32	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック混。		R D 563より新。	160	墓塚		
			76×75	不明				165	不明		
R D 563	1 C 22 u	隅丸方形	88×62	67	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックが不規則に混。		R D 562より古。 R G 045より新。	160	墓塚		
			74×51	N-50° -E				165	不明		
R D 564	2 C 4 j	隅丸長方形	95×75	30	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック微量含。		柱穴より古。	160	墓塚	A 2	
			80×60	N-8° -W				165	中世		
R D 565	2 C 5 i	隅丸長方形	95×66	38	人為堆積。地山ブロック少量混。炭粒微量含。			160	墓塚	A 2	
			80×60	N-11° -W				165	中世		
R D 566	2 C 6 j	隅丸長方形	174×108	56	人為堆積。黒褐色・褐色・暗褐色土の混合土。		柱穴より古。	160	墓塚	B 2	
			156×100	N-7° -E				166	中世		
R D 567	3 B 17 s	隅丸方形	(74)×100	27	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土ブロック少量含む。		R D 568に切られる。	160	墓塚		
			(60)×77	N-8° -E				166	中世		
R D 568	3B17s~ 3B18s	長方形	142×93	9	人為堆積。黒褐色土に灰黄褐色土ブロック多量含む。		R D 567・569を切る。	160	墓塚	B 2	
			130×74	N-7° -E				166	中世		
R D 569	3 B 18 s	隅丸長方形	133×90	26	黒色土に灰黄褐色土ブロック混じる人為堆積。		R D 568に切られる。	160	墓塚	B 2	
			120×79	N-70° -W				166	中世		
R D 570	3 B 16 s	隅丸長方形	180×76	14	人為堆積。黒色土中に暗褐色土ブロック多量含む。		R D 571を切る。	161	墓塚	B 3	
			168×57	N-5° -E				166	中世		
R D 571	3 B 16 t	不明	154×(102)	16	黒色土に灰黄褐色土ブロック混じる人為堆積。		R D 570に切られる。	161	墓塚	B 2	
			126×(93)	N-0.5° -E				166	中世		
R D 572	3B19p~ 3B19q	隅丸長方形	87×79	38	黒色土に灰黄褐色土ブロック混じる人為堆積。			161	墓塚	A 1	
			71×59	N-22° -W				167	中世		
R D 573	3 B 12 m	隅丸長方形	92×44	6	人為堆積。黒色土に地山ブロック・炭粒が混じる。			160	墓塚	A 2	
			82×36	N-78° -W				167	中世		
R D 574	2 c 21 l	隅丸長方形	128×97	10	人為堆積。地山ブロック少量含。	521鉄釘、540鉄製品		161	墓塚	B 2	
			110×82	N-77° -E				167	中世		
R D 575	3 B 19 q	隅丸長方形	134×102	44	黒褐色土にぶい黄褐色土・炭粒を含む人為堆積。埋土下層はクライ化。			161	墓塚	B 2	
			121×90	N-2° -E				167	中世		
R D 576	3 B 22 n	隅丸長方形	140×107	20	人為堆積。暗褐色土と褐色土との混合土。		R D 430に切られる。	146	墓塚	B 2	
			108×82	N-77° -W				168	中世		
R D 577	3 B 21 k	不整形	97×70	16	黒褐色土に褐色土ブロックを多量に含む人為堆積。	400土師器甕		161	墓塚	A 2	
			78×57	N-63° -W				168	中世		
R D 578	3 B 21 k	不整形	113×82	12	暗褐色土中に褐色土がシミ状にみられる。人為堆積。			161	墓塚	A 2	
			101×68	N-82° -W				168	中世		
R D 579	3 B 25 l	隅丸長方形	(63)×37 (50)×29	5	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土ブロック含む。		R G 193に切られる。	161 168	墓塚 中世	A 2	
R D 580	不整形?		平面図なし	14	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量に含む。			161	不明		
				なし				169	不明		
R D 581	2 C 3 i	隅丸長方形	124×83	10	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の単層。		柱穴より古。	161	墓塚	B 2	
			120×75	N-7° -W				169	中世		
R D 582	2 C 1 j	隅丸長方形	166×83	42	人為堆積。上層は黒褐色土と褐色土の混土、下層は暗褐色土に黒褐色土が混。		柱穴より古。	162	墓塚	B 2	
			147×73	N-4° -W				169	中世		
R D 583	2 C 7 f	隅丸長方形	98×74	32	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土の単層。		柱穴より古。	162	墓塚	A 2	
			75×65	N-17° -W				169	中世		
R D 584	4 B 2 p	不整形	161×132	43	黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。			162	墓塚	B 2	
			124×120	N-77° -E				170	中世		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm)				写真	時期		
R D585	4 B 3 o	隅丸長方形	116×93	40	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック・炭粒が混じる。		R G 191を切る。	162	墓	B2	
			77×68	N-89° -W				170	中世		
R D586	欠番	欠番						170	欠番		
R D587	4 B 3 q	隅丸長方形	127×102	58	人為堆積。黒褐色土と暗褐色土の混合土。			162	墓	B2	
			105×82	N-83° -W				170	中世		
R D588	4 B 8 n	隅丸長方形	155×118	24	人為堆積。暗褐色土・黒褐色土・褐色土等の混合土。		R D592を切る。	163	墓	B2	
			98×92	N-8° -E				171	中世		
R D589	4 B 9 o	隅丸長方形	112×108	22	黒褐色土中に褐色土ブロック・焼土・炭粒を含む人為堆積。		R D591・R G191を切る。	163	墓	B1	
			89×72	N-66° -W				171	中世		
R D590	4 B 2 q	不整形	139×130	45	人為堆積。黒褐色土に褐色土が不規則に混じる。			162	墓	B1	
			127×112	N-9° -E				171	中世		
R D591	4 B 9 o	隅丸長方形?	(100)×54	16	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土・褐色土ブロック混じる。		R D589に切られ、R D592・R G191を切る。	163	墓		
			(86)×26	N-69° -W				171	中世		
R D592	4 B 9 n	隅丸長方形?	(124×104)	7	暗褐色土中に褐色土ブロックが多量に混じる人為堆積。		R D588・591に切られる。	163	墓		
			(105×98)	N-2° -W				172	中世		
R D593	3 B20 n	隅丸長方形	122×100	26	人為堆積。黒褐色土中に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D726を切る。	163	墓	B2	
			104×84	N-8° -W				172	中世		
R D594	3 B19 o	楕円形	140×120	31	人為堆積。地山ブロック・炭粒が混じる。			163	墓	B1	
			119×104	N-3° -E				172	中世		
R D595	3B14l~3B14m	隅丸長方形	145×104	28	人為堆積。黒褐色土に地山ブロック・炭粒含む。底面付近はグライ化。		R D552に切られる。	158	墓	B2	
			112×95	N-57° -W				172	中世		
R D596	3 B21 i	不明	108×(91)	54	黒褐色土に褐色土ブロックを不規則に含む人為堆積。		R D760を切る。調査区外にのびる。	163	墓	A1	
			92×(84)	N-65° -E				173	中世		
R D597	1 C25w	楕円形	68×54	15	黒褐色土の単層。人為堆積でよいと思われる。	544・545鉄製品、587~591寛永通寶		164	墓		
			58×44	N-8° -W				168	近世		
R D598	1 C24w	長方形	74×62	11	人為堆積。黒褐色土に黄褐色土が混じる。			164	墓		
			66×54	N-25° -W				172	中世		
R D599	3 B23 l	隅丸台形	118×110	38	黒褐色土に褐色土が混じる人為堆積。		R D650を切る。	164	墓	B1	
			96×86	N-3° -W				173	中世		
R D600	3-D20m	隅丸長方形	132×112	42	自然堆積。黒褐色土。	奈良の土師器甕片	西側調査区。	186	土坑		
			96×82	N-62° -E				175	不明		
R D601	3-D21 j	不整形	200×105	16	自然堆積。黒褐色土。		R B029より新。	186	土坑		
			167×76	N-66° -E				175	不明		
R D602	3-D6 c	楕円形	150×120	26	自然堆積。黒褐色土。		西側調査区。R A308を切る。	186	土坑		
			130×80	N-44° -E				175	不明		
R D604	3-D15 g	円形	150×150	20	自然堆積。黒褐色土。		R G259より新。	186	土坑		
			125×125	不明				175	不明		
R D605	3-D13m	不整形	106×80	63	黒褐色土を主体としその中に黄褐色土をごく微量含。自然堆積でよいと思われる。			186			
			50×45	N-29° -W				176			
R D606	不明	不明	不明	24	黒褐色土、褐色土からなる自然堆積。		平面図は紛失した。	187			
			不明	不明				176			
R D608	3-D20 y	楕円形	186×137	20	自然堆積。黒褐色土。	775近世磁器、401土師器環、402須恵器甕	R A286より新。	187	土坑		
			152×110	N-78° -W				176	近世		
R D609	1-C20 v	隅丸長方形	140×68	27	自然堆積。黒褐色土。	奈良の土師器甕片	西側調査区。	—	土坑		
			110×50	N-68° -W				—	不明		
R D614	3-D8l~3-D8m	楕円形	150×128	86	自然堆積。黒褐色・暗褐色土。	403~410・416土師器・須恵器	R D811より新。	187	土坑		
			120×90	N-78° -W				176	平安?		
R D615	3-D4 s	不整形	112×90	14	自然堆積。黒褐色土。		西側調査区。	187	土坑		
			55×60	不明				177	不明		
R D616	3-D5 s ~3-D5 t	楕円形	125×110	20	自然堆積。黒褐色土。	522鉄釘の他に鉄釘2点	西側調査区。	188	土坑		
			55×53	N-45° -E				177	不明		
R D617	2-D21 x	円形	135×125	14	黒褐色土の単層。自然堆積か。	平安の土師器甕片(砂底)、鉄滓	R A281より新。	188			
			104×102	不明				177			
R D618	3-D2 y	円形	110×96	20	自然堆積。黒褐色土。	平安の土師器甕片	R A219より新。	188	土坑		
			75×69	不明				177	不明		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋 土	出土 遺 物	備 考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm)				写真	時期	
R D619	3-D1w	隅丸長方形	153×107	24	黒褐色土を主体とし部分的に地山ブロックを含む。自然堆積でよいと思われる。	平安の土師器坏片		188		
			136×93	N-37° -E				178		
R D620	3-C19f	楕円形	125×75	14	自然堆積。黒褐色土。	平安の土師器坏	西側調査区。	188	土坑	
			65×35	N-19° -W				178	不明	
R D621	3-D9u~ 3-D9v	楕円形	122×70	40	自然堆積。黒褐色土。	土師器底部片	西側調査区。	189	土坑	
			55×35	N-89° -E				178	不明	
R D622	3-C13c	隅丸長方形	216×190	29	注記なし。	平安の坏・甕・赤焼片	R D624より新しい。	190	土坑	
			195×170					178	近世	
R D623	3-D14t	円形	105×105	18	自然堆積。黒褐色土。		西側調査区。	189	土坑	
			95×95	不明				178	不明	
R D624	3-D15u	楕円形	100×105	20	自然堆積。黒褐色土。	平安の土師器甕片	西側調査区。	189	土坑	
			70×50	N-77° -E				179	不明	
R D625	3-D15v	不整形	105×105	22	自然堆積。黒褐色・暗褐色土。	平安の土師器・須恵器甕片	西側調査区。	189	土坑	
			90×83	不明				179	不明	
R D626	3-D13w	不整形円形	112×88	15	黒褐色土を主体とする自然堆積。	平安の須恵器甕か壺片		189	土坑	
			84×72	N-70° -W				179		
R D627	3-C13a~ 3-C14a	円形	190×190	18	自然堆積。黒褐色土。		R D813より新。	190	土坑	
			176×176	不明				179	18C~	
R D628	3-C12b	楕円形	125×100	10	自然堆積。黒褐色土。		R Z019より新。	190	土坑	
			100×92	N-79° -E				180	不明	
R D629	3-D12w	隅丸長方形	105×63	34	自然堆積。黒褐色土。	753・755陶器片 (19Cか)、平安の土師器坏・甕・赤焼片	R A291より新。	191	土坑	
			83×48	N-9° -E				180	19C以降	
R D630	3-D18v	不整形	170×107	30	自然堆積。黒褐色土。	411・412土師器坏・甕、他に赤焼、須恵器坏片	西側調査区。	191	土坑	
			135×70	不明				180	平安?	
R D631	3-D16v	円形	89×86	26	自然堆積。黒褐色土、T o-a 含む。	413土師器甕、他に須恵器甕片	西側調査区。	191	土坑	
			52×50	不明				180	平安	
R D632	3-D17v	円形	80×80	40	黒褐色土に焼土・炭粒混じる。人為堆積か。	414須恵器坏、平安の土師器甕、須恵器甕	西側調査区。	191	土坑	
			54×54	不明				180	平安	
R D633	3-D20v	円形	95×(78)	8	明黄褐色土を含む黒褐色土。自然堆積か。		R G254より古。	191	土坑	
			88×(74)	不明				181		
R D634	3-13b	隅丸方形	309×247	29	注記なし。		R D379より新、R D622・641より古。	191	土坑	
			273×190					181	近世	
R D635	3-C15d	円形	117×110	44	暗褐色土の中に明黄褐色土を含む。底面などに礫多量みられる。	550煙管?、平安の土師器甕、須恵器坏片		191	土坑	
			81×74	不明				181	近世	
R D636	3-D22y	円形	93×92	断面図なし	注記なし。	平安の土師器坏、須恵器坏片		192	土坑	
			80×80	不明				181		
R D637	不明	不明	不明	17	黒褐色土を主体とし、底から壁際には黄褐色ブロックを少量含む。自然堆積。	奈良の土師器坏・甕片	平面図紛失。	192	土坑	
			不明	不明				不明		
R D638	3-D21t	隅丸方形	125×112	10	自然堆積。黒褐色土、T o-a 含む。		西側調査区。	192	土坑	
			105×110	N-61° -W				181	古代?	
R D639	3-D14r	円形	115×94	7	黒褐色土の単層。自然堆積か。			192	土坑	
			87×76	不明				182		
R D641	3-C12c	楕円形	160×75	28	自然堆積。黒褐色土。	415須恵器坏、平安の土師器坏	R D624より新しい。	190	土坑	
			150×35	N-89° -W				182		
R D642	3-D9l	楕円形	147×75	14	自然堆積。黒褐色土。	417土師器高台坏、平安の土師器甕、須恵器甕片	西側調査区。	192	土坑	
			115×60	N-70° -W				182	平安?	
R D646	3-C10b	隅丸方形	240×220	20	黒褐色土に褐色砂質土と小礫含む。自然堆積か。	大塚相馬産陶器碗、陶器甕?、418須恵器甕片、土師器片	R A292より新。	192	土坑	
			204×180	N-66° -E				182	近世	
R D647	3-D20p	楕円形	215×160	20	自然堆積。黒褐色土を主にし、埋土下層には明黄褐色土がごく微量混じる。	419須恵器坏片、土師器坏・甕	西側調査区。	193	土坑	
			185×130	N-0°				182	平安	
R D648	3-C16c	隅丸長方形	275×216	30	自然堆積。黒褐色土。		R Z019より新。	193	土坑	
			215×170	N-4° -W				183	不明	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)	深さ (cm)	埋 土	出土遺物	備 考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長軸方向				写真	時期	
R D649	3C16a~ 3C17a	不整形	400×310	40	自然堆積。埋土上位に黒褐色土、下位には黄褐色砂質土が堆積。	近世・近代の陶磁器 (709・714・735・736・743・780・782・800・820)、平安の土師器環・甕・赤焼、須恵器甕片	西側調査区。	193	土坑	
			360×250	不明				183	近代	
R D650	3B24i~ 3B24m	隅丸長方形	137×115	55	人為堆積。埋土上位には褐色土・炭粒が混じる。下位には暗褐色砂質土に黒褐色土ブロックが混じる。		R D599に切られ、 R D651を切る。	164	墓墳	B 1
			137×109	N-74° -W				183	中世	
R D651	3 B24 l	隅丸長方形?	138×(105)	18	人為堆積。黒褐色土・褐色土・暗褐色土からなる。		R D650に切られる。	164	墓墳	
			97×(81)	N-75° -W				183	中世	
R D652	3 B17 l	隅丸長方形	86×74	16	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土が混じる。		R D653を切る。	165	墓墳	A 1
			72×62	N-73° -W				184	中世	
R D653	3 B17 l	隅丸長方形	82×65	34	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土・炭粒が混じる。埋土下層は黒褐色土。		R D652に切られる。	165	墓墳	A 2
			67×54	N-88° -W				184	中世	
R D654	3 B17m	隅丸長方形?	(57)×49	52	人為堆積。黒色土に灰黄褐色土・炭粒が混じる。	745陶器	R D655に切られる。	165	不明	
			(49)×24	N-83° -W				184	近世	
R D655	3 B17m	不整形	255×129	24	黒色土ににぶい黄褐色土を含む人為堆積。		R D654・656・723を切る。	165	墓墳	C 2
			232×105	N-7° -E				184	中世	
R D656	3B17m~ 3B17n	楕円形?	(82)×90	5	黒褐色土に灰黄褐色土ブロックを含む人為堆積。		R D655に切られる。	165	墓墳	
			(80)×75	N-68° -W				185	中世	
R D657	3B22m~ 3B23m	隅丸長方形	220×101	29	黒褐色土に褐色土が不規則に混じる人為堆積。		R G191を切る。	164	墓墳	B 2
			198×79	N-0°				185	中世	
R D658	3B20k~ 3B20l	長方形	178×104	42	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D659に切られる。	166	墓墳	B 2
			144×78	N-10° -E				185	中世	
R D659	3 B20 k	隅丸長方形	238×94	23	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D658・660を切る。	166	墓墳	B 3
			230×78	N-81° -W				185	中世	
R D660	3B20j~ 3B20k	長方形?	(222)×107	32	黒褐色土中に褐色土・炭粒含む人為堆積。		R A232・R D659に切られる。	166	墓墳	
			(207)×91	N-79° -W				186	中世	
R D661	3 B20 q	楕円形	99×81	19	黒褐色土に褐色土が不規則に混じる人為堆積。			164	墓墳	A 2
			83×65	N-72° -E				186	中世	
R D662	3 B23 q	隅丸長方形	115×82	22	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック少量含む。		R D424に切られる。	145	墓墳	A 2
			95×81	N-4° -W				186	中世	
R D663	3 B19 r	隅丸長方形	104×(68)	23	地山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積。		R D561に切られる。	159	墓墳	
			(90)×(-)	N-80° -W				186	中世	
R D664	3 B23 r	隅丸長方形	154×97	28	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒含む。		R D425に切られる。	145	墓墳	B 2
			135×87	N-10° -W				187	中世	
R D665	3 B25 p	楕円形	162×116	45	黒褐色土に褐色土が不規則に混じる人為堆積。			164	墓墳	B 2
			126×86	N-86° -W				187	中世	
R D666	3 B25 q	隅丸長方形	152×108	45	黒褐色土に褐色土ブロックが不規則に混じる人為堆積。			165	墓墳	B 2
			121×68	N-3° -W				187	中世	
R D667	3 B16 p	隅丸長方形	111×99	24	地山ブロックを含む黒褐色土。人為堆積。			166	墓墳	B 1
			100×94	N-18° -E				187	中世	
R D668	3 B24 q	隅丸長方形	88×75	27	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D669に切られる。	165	墓墳	A 1
			68×59	N-30° -W				188	中世	
R D669	3 B24 r	長方形	126×85	50	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混合土。		R D668を切る。	165	墓墳	B 2
			95×77	N-1° -W				188	中世	
R D670	3B16k~ 3B16l	隅丸長方形	230×103	37	人為堆積。黒褐色土に灰黄褐色土ブロックを不規則に含む。底面付近はグライ化。		R D404を切り、 R D405に切られる。	144	墓墳	B 2
			201×97	N-6° -E				188	中世	
R D671	3 B21 s	隅丸長方形	162×90	32	黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D672に切られ、 R D673を切る。	166	墓墳	B 2
			132×67	N-4° -E				188	中世	
R D672	3 B22 s	長方形	222×95	18	人為堆積。黒褐色土中に焼土・炭粒混入。		R D671・672を切る。	166	墓墳	B 3
			200×76	N-5.5° -E				189	中世	
R D673	3 B21 s	隅丸長方形	(92)×110	10	黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D671・672に切られる。	166	墓墳	
			(86)×92	N-87° -W				188・189	中世	
R D674	3 B23 s	不整形	126×83	8	黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。			167	墓墳	B 2
			118×73	N-5° -E				189	中世	
R D675	3 B11 k	不明	183×(93)	18	人為堆積。黒褐色土に灰黄褐色土ブロック含む。埋土下層はグライ化。		R D679・716を切り、 R D715に切られる。	167	墓墳	
			152×(76)	N-64° -W				189	中世	

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋 土	出土遺物	備 考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm)				写真	時期		
R D676	4B1q~ 4B1r	隅丸長方形	122×96	20	暗褐色土に褐色土ブロックを多量に含む人為堆積。		R D456を切る。	149	墓墳	B 2	
			104×84	N-88° -W				190	中世		
R D677	3 B24 q	隅丸長方形?	110×(88)	52	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒が混じる。		R D678に切られる。	167	墓墳	A 2	
			87×(68)	N-1° -W				190	中世		
R D678	3B23q~ 3B24q	隅丸長方形?	141×113	26	黒褐色土に褐色土ブロックを含む人為堆積。		R D677を切る。	167	墓墳	B 2	
			123×94	N-10° -W				190	中世		
R D679	3 B11 k	不整形	(95)×63	21	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D675・715に切られる。	167	土坑		
			(80)×42	N-51° -E				190	中世		
R D680	3B24r~ 3B24s	隅丸長方形	250×198	31	人為堆積。黒褐色土・褐色土・炭粒などからなる。			167	墓墳	C 2	
			228×175	N-0°				192	不明		
R D681	3 B19 k	隅丸長方形	250×198	31	人為堆積。黒褐色土と褐色土の混合土。埋土下層には褐灰色ブロックを含む。		R D682・683・685・686・687を切る。	168	墓墳	B 2	
			197×96	N-16° -E				191	中世		
R D682	3 B19 k	隅丸長方形	(110)×96	7	黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D681・684に切られ、R D683を切る。	168	墓墳		
			(105)×86	N-76° -W				191	中世		
R D683	3 B19 k	不明	測定不能		人為堆積でよいと思われる。		R D681・682に切られる。	168	墓墳		
				不明				191	中世		
R D684	3 B18 k	隅丸長方形	154×101	37	黒褐色土に褐色・褐灰色土ブロックを含む人為堆積。		R D682・687を切る。R D688に切られる。	168	墓墳	B 2	
			143×90	N-13° -E				191・192	中世		
R D685	3 B18 k	不明	(48)×68	無	黒褐色土に褐色・褐灰色土ブロックを含む人為堆積。		R D681に切られ、R D686・687に切る。	168	墓墳		
			(42)×58	N-9° -W				191・192	中世		
R D686	3B18k~ 3B18l	不明	(48×25)	無	黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		R D681・685に切られる。	168	墓墳		
			(39×17)	N-16° -E				191	中世		
R D687	3 B18 k	不明	114×(55)	無	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック・炭粒を含む。		R D684・685に切られる。	168	墓墳		
			92×(38)	N-15° -E				192	中世		
R D688	3 B18 j	不明	(80)×100	34	黒褐色土、褐灰色土、炭粒等からなる人為堆積。		R A232に切られ、R D684を切る。	168	墓墳		
			(70)×85	N-79° -W				192	中世		
R D689	3B12o~ 3B13o	隅丸長方形	99×84	27	人為堆積。黒褐色土にぶい黄褐色土ブロックと炭粒を含む。		R D722を切る。	140	墓墳	A 1	
			88×67	N-64° -W				193	中世		
R D690	3 B10 o	不明	104×(71)	18			R D549に切られる。	158	墓墳		
			94×(62)	N-15° -E				183	中世		
R D691	3B20l~ 3B21l	隅丸長方形	154×110	44	黒褐色土中に褐色土・炭粒を不規則に含む人為堆積。			168	墓墳	B 2	
			126×86	N-81° -W				193	中世		
R D692	欠番							193	欠番		
R D693	3 B25 l	隅丸長方形	119×83	49	黒褐色土中に褐色土・炭粒を不規則に含む人為堆積。		R D694を切る。	168	墓墳	A 2	
			102×79	N-76° -W				193	中世		
R D694	4 B1 l	隅丸長方形	(92)×102	28	人為堆積。黒褐色砂質土に褐色土が混じる。		R D693に切られる。	168	墓墳		
			(88)×83	N-11° -E				193	中世		
R D695	4 B1 m	隅丸長方形	84×69	30	黒褐色土中に褐色土を不規則に含む人為堆積。			169	墓墳	A 2	
			64×51	N-88° -E				194	中世		
R D696	4 B1 n	隅丸長方形	100×74	46	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。			169	墓墳	A 2	
			83×62	N-71° -W				194	中世		
R D697	4 B2 n	隅丸長方形	100×74	46	人為堆積。黒褐色土(粘土質土のところもある)と褐色土が不規則に混じる。	鉄滓		169	墓墳	B 2	
			151×79	N-75° -W				194	中世		
R D698	3B24m~ 3B24n	隅丸長方形	115×92	60	黒褐色土中に褐色土ブロックを含む人為堆積。			169	墓墳	B 2	
			105×80	N-11° -E				194	中世		
R D699	4 B1 p	不明	134×106	45	黒褐色土中に褐色土ブロックを含む人為堆積。		R G191を切り、R G193に切られる。	169	墓墳	B 2	
			100×85	N-81° -W				195	中世		
R D700	1 B22 j	隅丸長方形	170×84	20	人為堆積。地山ブロックを多量に含。		R A246より新。	169	墓墳	B 2	
			140×50	N-9° -W				195	中世		
R D701	1 C22 w	円形	82×70	15	人為堆積。地山ブロックを多量に含。		R G043との新旧関係不明。	169	墓墳		
			72×53	N-77° -W				195	中近世		
R D702	2 D8 a	隅丸長方形か	98×(64)	46	人為堆積。地山ブロックや小礫が多量に混。		R G045より新。調査区外にのびる。	169	墓墳		
			75×(58)	N-74° -E				195	中世		
R D703	3 C24 s	円形	138×137	16	自然・人為堆積の区別不明。		R A247より新。	170	土坑		
			126×123	不明				196	不明		
R D704	1 B22 x	隅丸長方形か	(82)×74	15	空断面。		調査区外にのびる。	170	土坑		
			(70)×70	N-80° -E				196	不明		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	深さ (cm)				写真	時期		
RD705	1 C20 h	不整形	(53)×43	24	人為堆積。地山ブロックが多量に混。		RG043との新旧関係不明。	170	墓墳		
			(48)×38	N-75° -W				196	中世		
RD706	4 B12 g	楕円形	(80)×50	22	黒褐色土に灰黄褐色土が混じる人為堆積。		R Z018に切られる。	170	土坑		
			41×16	N-46° -W				196	中世		
RD707	2 D9 k	隅丸方形	99×88	17	人為堆積。地山ブロックを多量に含。			170	墓墳	A1	
			85×69	不明				197	中世		
RD708	2 D14 m	隅丸長方形	88×64	15	人為堆積か。黒褐色土の中に地山ブロックごく微量含。		RD709より新。	170	墓墳	A2	
			74×50	N-23° -W				197	中世		
RD709	2 D14 m	隅丸長方形	91×80	24	人為堆積か。黒褐色土の中に地山ブロック微量含。		RD708より古。	170	墓墳	A1	
			77×66	N-17° -W				197	中世		
RD710	4 B2 n	楕円形	86×53	11	黒褐色土中に炭粒が入る。人為堆積でよいと思われる。			170	墓墳		
			80×45	N-9° -E				197	中世		
RD711	4B1n～4B1i	楕円形	91×73	7	暗褐色土と褐色土の混合土。人為堆積。		RA223を切る。	170	墓墳	A2	
			84×65	N-11° -E				197	中世		
RD712	3 B25 s	楕円形	98×49	58	人為堆積。黒褐色土に焼土・炭粒・褐色土ブロックが混じる。	564元豊通寶、焼骨	RG198を切る。	170	火葬墓	A2	
			92×31	N-10° -E				198	中世?		
RD713	3 B21 t	円形	55×53	66	人為堆積。黒褐色土中に多量の炭粒。	焼骨	RG198を切る。	171	火葬墓	A1	
			35×25	不明				198	中世?		
RD714	3 B11 k	不整形	(90)×80	10	黒色土に褐色土ブロックを含む人為堆積。		RD715に切られる。RD716と重複、新旧不明。	167	墓墳		
			84×60	N-10° -W				198	中世		
RD715	3 B11 k	隅丸長方形	156×93	?	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。		RD675・679・714・716を切る。	167	墓墳	B2	
			130×74	N-75° -W				198	中世		
RD716	3 B11 k	隅丸長方形	(101)×98	30	黒色土に褐色土ブロックを含む人為堆積。		RD675・715に切られる。RD714と重複、新旧不明。	167	墓墳		
			(94)×89	N-70° -W				198	中世		
RD717	3 B19 m	隅丸方形	104×95	14	人為堆積。黒褐色土主体に褐色土ブロックや灰黄褐色土等がみられる。			171	墓墳	A1	
			86×84	N-17° -E				199	中世		
RD718	3B14p～3B14q	隅丸長方形	98×74	29	黒褐色土に灰黄褐色土が不規則に混じる人為堆積。			171	墓墳	A2	
			91×58	N-76° -W				199	中世		
RD719	3 B13 p	隅丸長方形	(170)×100	21	人為堆積。黒褐色土と灰黄褐色土との混合土。		RD359に切られる。RD720と重複、新旧不明。	137	墓墳		
			(143)×72	N-88° -W				199	中世		
RD720	3 B13 p	不明	(70)×96	32	人為堆積。黒褐色土と灰黄褐色土との混合土。		RD447に切られる。RD719と重複、新旧不明。	137	墓墳		
			(70)×79	N-72° -W				199	中世		
RD721	3 B23 j	楕円形	107×82	8	空断面。		RD460に切れ、RD735を切る。	150	墓墳	A2	
			89×76	N-75° -W				200	中世		
RD722	3 B12 o	不明	97×(36)	19	空断面。		RD384・689に切られる。	140	墓墳		
			90×(36)	N-68° -W				200	中世		
RD723	3 B18 m	隅丸長方形	110×96	23	黒褐色土に灰黄褐色土が不規則に混じる人為堆積。		RD655に切られる。	171	墓墳	B1	
			98×83	N-8° -E				200	中世		
RD724	3 B22 k	不整形	220×130	46	人為堆積。褐色土ブロック・炭粒を含む人為堆積。		RD761・RG191を切る。	172	墓墳	C2	
			192×102	N-84° -W				200	中世		
RD725	3B18n～3B19n	隅丸長方形	82×75	14	人為堆積。灰黄褐色土ブロック・炭粒を含む黒褐色土。		RD726を切る。	171	墓墳	A1	
			67×60	N-22° -W				200	中世		
RD726	3 B19 n	長方形	189×105	43	人為堆積。埋土上位は黒色土に灰黄褐色土粘土ブロックを含み、埋土下位は灰色粘土質土が主体。		RD593・725に切られる。	171	墓墳	B2	
			179×98	N-11° -W				201	中世		
RD727	3 B19 l	隅丸長方形	204×111	30	黒褐色土に灰黄褐色・褐色土ブロックと炭粒を含む人為堆積。			171	墓墳	B2	
			173×86	N-7° -E				201	中世		
RD728	3 B25 n	隅丸長方形	127×(90)	42	褐色土ブロックを不規則に含む黒褐色土。人為堆積。		RG193に切られる。	172	墓墳		
			104×85	N-60° -W				201	中世		
RD729	3B17r～3B18r	隅丸長方形	175×118	20	人為堆積。黒褐色土に地山ブロックを多量に含む。		RD398に切れ、RD730を切る。	142	墓墳	B2	
			164×106	N-7.5° -E				201	中世		
RD730	3B17g～3B18g	隅丸長方形	(206)×124	27	人為堆積。黒褐色土に黒色土・濃い黄褐色土ブロック含む。		RD397・729に切られる。	142	墓墳	B2	
			(196)×98	N-75° -W				202	中世		
RD731	3 B23 i	隅丸長方形	99×83	36	黒褐色土、褐色土、暗褐色土に焼土・炭粒が混じる人為堆積。		RD460に切られる。	150	墓墳	A1	
			85×63	N-78° -W				202	中世		
RD732	3 B25 h	隅丸長方形	158×100	62	人為堆積。黒褐色土・褐色土・灰黄褐色土等で構成される。		RD733に切られる。	172	墓墳	B2	
			137×77	N-80° -W				202	中世		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	長さ (cm)				写真	時期		
R D733	3 B25 i	隅丸長方形	79×60	35	褐色土ブロックを不規則に含む黒褐色土。人為堆積。		R D732・753を切る。	172	墓塚	A2	
			77×50	N-88° -E				202	中世		
R D734	3 B25 i	隅丸長方形	94×55	22	黒褐色土に地山ブロックを不規則に含む人為堆積。		R D753を切る。	172	墓塚	A2	
			83×37	N-80° -W				203	中世		
R D735	3B23k~ 3B24k	隅丸長方形	110×214	42	人為堆積。黒褐色土と暗褐色土の混合土。		R D458・721に切られる。	150	墓塚	B2	
			205×93	N-73° -W				203	中世		
R D736	3B23i~ 3B23j	隅丸長方形	240×98	33	人為堆積。黒褐色土と灰黄褐色土との混合土。焼土・炭粒含む。		R D459・460に切られる。調査区外にのびる。	150	墓塚	B3	
			223×80	N-82° -W				203	中世		
R D737	4 B 3 r	不整形	298×214	48	自然堆積か。黒褐色土主体に褐色土や炭粒・礫などが見られる。			173	土坑		
			143×90	N-88° -E				203	不明		
R D738	4B4s~ 4B4t	長楕円形	95×62	14	人為堆積。黒褐色土中に骨片や焼土含む。	565・566元豊通寶他、焼骨		173	火葬墓	A2	
			84×53	N-89° -E				204	中世		
R D739	3 B17 u	長方形?	(110×42)	7	空断面。		R G198と重複。	173	墓塚		
			(98×37)	N-25° -E				204	中世		
R D740	4 D 5 g	隅丸長方形	112×71	14	自然・人為の区別不明。			173	土坑		
			100×53	N-0°				204	不明		
R D741	4 C 9 v	隅丸長方形	564×214	7	黒褐色土の単層。		遺構ではないかもしれない。	174	不明		
			555×204	N-81° -W				204	不明		
R D742	4 C 9 x	隅丸方形	202×192	26	自然堆積。黒褐色土・暗褐色土等の流れ込み。	420土師器か		173	土坑		
			107×97	N-52° -W				205	不明		
R D743	4 D 2 b	不整形	125×100	31	人為堆積と思われる。地山ブロックを含む黒褐色土			174	土坑		
			99×72	N-76° -E				205	不明		
R D744	4 C 9 x	不整形長方形	133×95	19	人為堆積か。地山ブロック・焼土粒含む。	744近世磁器碗、421土師器高坏		174	土坑		
			125×83	N-45° -E				205	近世		
R D745	4 C 3 y	不整形楕円形	190×110	17	自然堆積か。黒褐色土・褐色土等で構成。			174	土坑		
			173×91	N-70° -E				205	不明		
R D746	4 C 7 u	隅丸菱形	93×78	14	不明。			174	土坑		
			74×65	N-5° -E				206	不明		
R D747	4 C 4 q	隅丸長方形	(174)×117	6	不明。			174	土坑		
			(168)×110	E-1° -S				206	不明		
R D748	4 C 8 t	隅丸菱形	89×70	9	不明。			175	土坑		
			79×60	N-2° -E				206	不明		
R D749	4 C 8 t	隅丸台形	83×68	10	不明。			175	土坑		
			67×59	N-46° -W				206	不明		
R D750	4 B21 q	不整形	106×94	18	人為堆積。オリーフ灰色粘土質土ブロックを含む。			175	墓塚	A1	
			82×66	N-2° -W				207	中世		
R D751	3 B15 j	長方形?	236×106	18	人為堆積。黒色土にぶい黄褐色土ブロック多量含む。		R E036を切る。調査区外にのびる。	143	墓塚	B2	
			220×98	N-7° -E				207	中世		
R D752	3 B20 u	不明	(87×36)	46	空断面。		R G198と重複。	175	土坑		
			(70×23)	不明				204	中世		
R D753	3 B25 i	隅丸方形	90×87	20	人為堆積。褐色土ブロックを少量含む黒褐色土。		R D733・734に切られる。	172	墓塚	A1	
			80×72	N-51° -W				207	中世		
R D754	2-C21 q	楕円形	111×102	38	自然堆積。黒褐色土。		西側調査区。	-	土坑		
			88×80	不明				207	不明		
R D759	3 B24 k	隅丸方形	90×79	53	埋土上位は黒褐色土に褐色土ブロックが混じる。埋土下層は暗褐色土。人為堆積。			175	墓塚	A1	
			79×65	N-9° -E				208	中世		
R D760	3B21i~ 3B22i	不明	(290×45)	48	人為堆積。黒褐色土・黒色土に暗褐色～褐色土ブロックや炭粒を含む。		R D596・736に切られ、R G191を切る。調査区外にのびる。	175	墓塚		
			(286×40)	N-9° -E				208	中世		
R D761	3B23j~ 3B23k	不整形	(96)×84	14	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロック含む。		R D724に切られる。	172	墓塚		
			(80)×68	N-19° -E				208	中世		
R D762	4 B7 s	不整形	50×50	12	人為堆積でよいと思われる。黒褐色土に褐色土ブロック含む。			175	土坑		
			44×42	N-40° -W				208	中世		
R D763	4B11 q	円形	74×68	10	人為堆積でよいと思われる。黒褐色土に褐色土・焼土・炭粒を含む。			176	土坑		
			63×52	N-37° -W				209	中世		
R D764	4 B 6 g	隅丸長方形	168×150	6	不明。			176	土坑		
			149×134	N-1° -E				209	中世		
R D765	4 B 7 l	不整形	107×82	11	人為堆積でよいと思われる。黒褐色土に褐色土・焼土・炭粒を含む。			176	土坑		
			92×72	N-72° -W				209	中世		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋 土	出土 遺 物	備 考	図版		種類	分類
			底部径 (cm)	深さ (cm)				写真	時期		
R D766	4 B 9 k	円形	146×140	34	人為堆積か。黒褐色土中に褐色土ブロック・焼土・炭粒を含む。		R G 225を切る。	176	土坑		
			92×70	N-82° -W				209	中世		
R D767	4 B10 l	不整形	180×167	35	自然堆積か。黒褐色土を主体とし、これに褐色土・焼土・炭粒・礫などが入る。		R G 225を切る。	176	土坑		
			94×90	N-13° -E				210	中世		
R D768	4B13i~ 4B13j	楕円形	78×66	28	黒褐色土に灰黄褐色土を含む人為堆積。			177	土坑		
			40×30	N-27° -E				210	中世		
R D769	4 B 9 l	隅丸長方形	140×81	18	黒褐色土中に褐色土・焼土・炭粒含む。人為堆積。		R G 226を切る。	177	墓塚	B 2	
			120×67	N-22° -E				210	中世		
R D770	1 E 24m	隅丸方形	89×76	16	自然堆積か。			177	土坑		
			75×65	N-55° -E				210	不明		
R D771	1 E 22m	隅丸方形	91×76	17	自然堆積と思われる。			177	土坑		
			81×63	N-55° -E				211	不明		
R D772	4 E 3 c	隅丸長方形	151×91	45	人為堆積でよいと思われる。			177	墓塚	B 2	
			117×53	N-6° -W				211	中世		
R D773	2 F 4 b	不整形円形	214×76	24	黒褐色土、暗褐色土に焼土粒混じる。	422土師器甕	カマドの煙道部か。	177	煙出?		
			170×54	N-10° -W				211	古代		
R D774	2 D15 c	長方形	144×94	28	人為堆積か。黒褐色土に焼土・炭粒・地山ブロックが混じる。			178	土坑		
			127×74	N-36° -W				211	不明		
R D775	3 D25 j	不整形円形	132×101	11	自然・人為の区別は不明。		R E 040より古。	178	土坑		
			96×63	N-26° -E				207	不明		
R D776	3D22 i	不整形方形	104×94	6	自然・人為の区別は不明。自然礫を含む。		R G 229より古。	178	土坑		
			80×59	N-83° -E				212	不明		
R D777	3D23 j	隅丸方形	163×(134)	16	自然堆積と思われる。自然礫を含む。		R G 229より古。	178	土坑		
			117×(110)	N-1° -W				212	不明		
R D778	4 E 4 d	不整形円形	99×88	33	人為堆積か。黒褐色土に焼土・地山ブロックが混じる。		R D790より新。	179	土坑		
			58×49	N-7° -W				212・216	中世		
R D779	4 E 3 d	隅丸方形	65×55	10	自然堆積か人為堆積か不明。		R D790より新。	179	土坑		
			48×46	N-27° -W				212・216	中世		
R D780	4B4o~ 4B4p	隅丸方形	86×86	38	黒褐色土に褐色土が混じる人為堆積。		R A 241に切られ、 R G 191を切る。	178	墓塚	A 1	
			54×50	N-81° -W				212	中世		
R D781	4B11i~ 4B12i	長楕円形	140×59	20	人為堆積か。地山ブロックを不規則に含む。			178	土坑		
			126×35	N-20° -E				213	中世		
R D782	4 B 8 l	隅丸長方形	83×68	35	人為堆積。地山ブロックを含む黒褐色土、礫、褐色土等からなる。			179	墓塚	A 2	
			74×58	N-75° -W				213	中世		
R D783	4 B16m	円形	77×76	12	にぶい黄褐色土を含む黒褐色土。人為堆積。			179	墓塚	A 1	
			68×58	N-31° -E				213	中世		
R D784	4B15h~ 4B16h	不整形	220×133	32	自然・人為堆積の区別は不明。黒褐色土に焼土・炭粒・中小礫を含む。			179	土坑		
			208×112	N-66° -E				213	中世		
R D785	4 B 23 l	円形	74×74	8	自然・人為堆積の区別は不明。黒褐色土に炭粒や褐色土含む。			179	土坑		
			59×56	N-55° -W				214	中世		
R D786	4 B 21 l	楕円形	62×45	7	人為堆積でよいと思われる。グライ化している。			180	土坑		
			47×32	N-16° -W				214	中世		
R D787	4 B12 s	円形	82×82	28	自然堆積か。黒褐色土に炭粒や礫を含む。壁際に褐色土ブロック。			180	土坑		
			58×58	N-7° -W				214	中世		
R D788	4B7k~ 4B8k	不整形	134×80	16	人為堆積。黒褐色土に褐色土ブロックを含む。			180	土坑		
			128×70	N-67° -W				214	中世		
R D789	4 B17d・ 4 B18e	不整形	497×(420)		自然堆積。黒褐色土を主体とし、その中に炭粒・中小礫を含む。黒色土・灰色砂質土他の流れ込み。	457青磁碗、487下駄、 486漆器、488~492 木製品、567・568祥 符通寶他		181・182	土坑(大)		
			369×354	不明				215・216	中世		
R D790	4 E 3 d	長方形	243×151	51	人為堆積。黒褐色土中に焼土・炭・地山ブロック混じる。		R D778・779より古い。	179	墓塚	C 2	
			224×130	N-77° -E				212・216	中世		
R D791	4 E 5 e	隅丸長方形	105×92	31	人為堆積か。黒褐色土・褐色土・焼土・地山ブロックからなる。			180	土坑		
			81×61	N-76° -W				216			
R D792	4 E 6 f	不整形円形	105×103	23	人為堆積でよいと思われる。焼土・炭粒が混じる。			180	土坑		
			86×76	N-29° -W				216	中世		
R D793	4 B 9 m	不明	62×(36)	21	人為堆積。黒褐色土中に焼土・炭・地山ブロック混じる。		R Z 018に切られる。	180	土坑		
			53×(33)	N-15° -W				217	中世		
R D794	4 D14 u	隅丸長方形	161×121	30	自然堆積でよいと思われる。焼土・炭粒も流れ込んでいる。		沢跡より新。	180	土坑		
			139×100	N-55° -E				217	不明		

遺構名	位置	平面形	開口部径 (cm)		埋土	出土遺物	備考	図版	種類	分類
			底部径 (cm)	長軸方向				写真	時期	
R D795	4 E16 c	隅丸長方形	216×109	33	人為堆積。黒褐色土中に焼土・炭・地山ブロック混じる。			182	土坑	
			190×86	N-89° -W				217	不明	
R D796	欠番							217	欠番	
R D797	4B12j~ 4B13j	隅丸長方形	171×55	8	人為堆積か。黒褐色土中に地山ブロック・炭粒を含む。			182	土坑	
			164×48	N-2° -E				218	中世	
R D798	4B21o~ 4B21p	不整形	299×207	27	人為堆積。灰色粘土質土ブロック・炭粒を含む黒色粘土質土。			183	土坑	
			254×165	N-71° -W				218	中世	
R D799	4 D15 s	不整形	96×78	16	自然堆積か人為堆積か不明。			183	土坑	
			55×49	N-9° -W				218	不明	
R D800	4 D18 p	不整形	255×144	35	人為堆積と思われる。焼土・炭粒も捨てられている。		2基の土坑からなるのか。	183	土坑	
			220×103	N-5° -W				218	不明	
R D801	3 D25 q	隅丸長方形	148×115	21	人為堆積と思われる。焼土・炭粒も捨てられている。		沢跡より新しいと思われる。	183	土坑	
			113×	N-64° -E				219	不明	
R D808	3-D24 x	不整形円形	157×149	37	黒褐色土に地山ブロックがごく微量混じる。自然・人為の区別不明。	423赤焼環・424須恵器環、他に土師器環・甕		183	土坑	
			124×100	N-10° -E				219		
R D809	3-C10 c	楕円形	180×85	12	自然堆積。黒褐色土。	425赤焼環	R A293より新。	184	土坑	
			164×70	N-8° -W				219	平安？	
R D810	欠番									
R D811	3-D8 l	円形	70×65	24	自然堆積。黒褐色土。		R D614より新。		土坑	
			60×50	N-3° -W				219	不明	
R D812	3-D14 w	楕円形	110×80	26	自然堆積。黒褐色土		西側調査区。	184	土坑	
			75×56	N-86° -W				220	不明	
R D813	3-C13a~ 3-C14a	隅丸長方形	265×193	33	自然堆積。黒褐色土。		RD627より古くR D814より新。	190	廃棄坑	
			220×163	N-70° -E				220	18C~	
R D814	3-D14 y	隅丸長方形	240×160	37	黒褐色土に地山ブロックが混じる。人為堆積。	76・779近世磁器碗、釘、鉄片、平安の土師器環・甕片	R D814より古。	190	廃棄坑	
			220×134	N-20° -W					18C頃	
R D815	1-B16w~ 1-B17w	楕円形	225×152	25	自然堆積。黒褐色土に炭粒を含む。		西側調査区。	184	土坑	
			177×87	N-19° -E				220	不明	
R D816	2-C21o~ 2-C22o	隅丸長方形	258×185	46	自然堆積。埋土上層の黒褐色土中にT o - a含む。	平安の土師器環・甕・赤焼片、須恵器環・壺類片	R D817より新。	184	土坑	
			240×160	N-12° -W				220	不明	
R D817	2-C21 p	不整形	272×235	40	自然堆積。黒褐色土主体で大小の礫が入る。		R D816より古。	184	土坑	
			95×70	不明				221	不明	
R D818	2-C17 p	楕円形	105×80	44	自然堆積。黒褐色土。		R G317より古い。	185	土坑	
			80×63	N-0°				222	不明	
R D821	2-B10 f	不整形円形	322×316	56	自然堆積か。暗褐色土・黒褐色土・灰黄褐色土等の流れ込み。焼土・炭粒もごく微量含む。		R A211より新。	185	土坑	
			225×220	不明				221	不明	
R D824	1-C18 w	隅丸長方形	125×55	42	自然堆積。埋土上位に黒褐色土、下位に暗褐色土。		西側調査区。	185	土坑	
			90×43	N-57° -W					不明	

6 焼土・炉跡

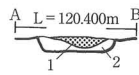
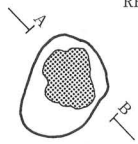
今回の23次調査では27基の焼土及び炉跡が確認されている。これらの大半は遺跡の南端部にあたる4Bグリッド及びその周辺に集中している。この中で中世に属すると思われる屋外のカマド状施設の下部と見られる遺構が17基検出されている他、現地性焼土が2基、現地性か否か判然としない焼土の広がりをもつ遺構を8基確認した。各遺構の諸特徴は一覧表を作成しそれにまとめた。

焼土・炉跡観察表

遺構名	位置、検出面	焼土の規模と厚さ (cm)	埋土	出土遺物	備考 (現地性か、重複、時期)	図版	写真
R F 023	4 B 6 e 区 IV 層	70×50 10	暗赤褐色焼土の広がり。	なし	現地性焼土。	194	223
R F 025	4 B 3 i 区 IV 層	190×68 13	北東壁面が焼けておりその中には焼土と炭粒が混在する。反対に南西部には炭粒が多く混じる	なし	北東側が燃焼部で南西側が焚き口となるカマド状の施設と思われる。中世。	195	223
R F 026	4 B 5 e 区 IV 層	53×39 4	黒褐色土に焼土ブロックを少量含む。	なし	現地性か否か判然としない。	194	223
R F 027	4 B 4 e 区 IV 層	41×27 12	黒褐色土に焼土ブロックを微量含む。	なし	現地性か否か判然としない。	194	224
R F 028	4 C 2 h 区 IV 層	130×78 14	南半壁際に焼土が見られ、掘り込みの中には上部構造の崩落土及び焼土ブロックが堆積。	なし	南側が燃焼部で北側が焚き口となるカマド状の施設と思われる。中世。	195	224
R F 030	3 C 25m 区 IV 層	150×96 23	壁際に焼土、掘り込みの中には炭粒及び焼土ブロックが堆積。	なし	北西部の細長い張り出しが煙出し、中央が燃焼部、東側の張り出しが焚き口となるようなカマド状の施設になるとと思われる。中世。	195	224
R F 031	3 C 22 f 区 IV 層	210×86 18	北西側が細長く張り出す不整形な掘り込みの中に黒褐色土や褐色土などと共に底面付近に焼土が見られた。	なし	R F 030と同様のカマド状の施設になるとと思われる。中世。	195	225
R F 032	3 C 23 b 区 IV 層	232×131 21	西壁が焼けており、掘り込み内には焼土・炭粒を多量に含む暗褐色土が堆積。	なし	R F 030と同様のカマド状の施設になるとと思われる。中世。	196	225
R F 033	4 B 6 i 区 IV 層	197×141 17	東半部の壁際・床面に沿って環状に焼土が見られる。反対に西半部には焼土・炭粒・地山ブロックが堆積。	なし	東半の円形を呈する燃焼部から南東へトンネル状に煙出しを延ばし、西側を焚き口としたカマド状の施設と思われる。中世。	196	225
R F 035	4 B 15 f 区 IV 層	170×77 14	北半の壁際・床面に沿って環状に焼土が見られ、その中の掘り込み底面には炭化物が堆積していた。	なし	北半を燃焼部、南半を焚き口とするカマド状の施設であろう。中世。	197	226
R F 036	4 B 16 g 区 IV 層	162×77 12	北半の壁際・床面に沿って環状に焼土が見られ、その中の掘り込みには炭・焼土粒が堆積していた。	なし	R F 035と同様に北半を燃焼部、南半を焚き口とするカマド状の施設であろう。中世。	197	226
R F 037	4 B 14 g 区 IV 層	157×70 21	西半部の壁際に沿って焼土が見られる。その中の掘り込みには炭粒が堆積。反対に東半部には焼土・炭粒が堆積。	なし	西半の燃焼部から東側に焚き口が設けられたカマド状の遺構と思われる。中世。	197	226
R F 038	4 B 13 c 区 IV 層	420×103 29	北側の壁近くと中央部東側の2ヶ所に焼土が形成されている。掘り込み内には黒褐色土を主体とし焼土・炭粒・地山ブロックが堆積。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部と焚き口からなるようである。同じ機能を有する施設の重複のようにも見える。中世。	198	227
R F 039	4 B 18 g 区 IV 層	195×70 15	西半部に焼土が見られ、底面直上には炭化物が堆積する。東半部には黒褐色土の中に地山ブロック・炭粒等が堆積する。	なし	R F 039と同様に西半の燃焼部から東側に焚き口が設けられたカマド状の遺構と思われる。中世。	197	227

遺構名	位置、検出面	焼土の規模 と厚さ(cm)	埋 土	出土 遺物	備考(現地性か、重複、時期)	図版	写真
R F 040	4 B 16 j 区IV層	227×104 33	掘り込みのほぼ中央にドーム状に焼土が形成されているようである。その他には黒褐色土を主体とし炭粒・焼土・地山ブロック等で構成されている。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部と焚き口からなるようである。西側が煙出しとなる。中世。	198	227
R F 041	4 B 16 l 区IV層	110×63 12	黒褐色土と焼土・炭粒の混合土。底面中央部が焼けている。	なし	現地性。	194	227
R F 042	4 B 13 i 区IV層	235×100 47	西半部の壁及び底面直上に焼土が見られ、底面と焼土の上には炭化物が堆積する。東半部には黒褐色土の中に炭粒等が堆積する。	なし	西半の燃焼部から東側に焚き口、南西側にはトンネルを掘って煙出しが設けられたカマド状の遺構と思われる。中世。	199	228
R F 043	4 B 15 k 区IV層	120×65 25	黒褐色土に焼土・炭粒・地山ブロック等が混入。	なし	異性と思われる。	194	228
R F 044	4 B 9 g 区IV層	47×43 7	黒褐色土・炭・焼土等で構成されている。	なし	現地性か否か判然としない。	194	228
R F 045	4 B 10 g 区IV層	48×45 7	黒褐色土・炭・焼土などで構成されている。	なし	現地性か否か判然としない。	194	229
R F 046	4 B 8 i 区IV層	183×78 12	西半部の底面直上に焼土が見られ、東半部には黒褐色土の中に炭粒等が堆積する。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部と焚き口からなると思われる。中世。	199	229
R F 047	4 B 9 g 区IV層	267×113 37	西半部の底面には炭化物がしかれており、その上に焼土が見られる。反対に東半部には黒褐色土中に焼土・炭粒が堆積。	なし	カマド状の遺構と思われる燃焼部(西側)と焚き口(東側)からなる。中世。	199	229
R F 048	4 B 7 n 区IV層	38×30 27	黒褐色土・焼土・地山などで構成される。	なし	現地性か否か判然としない。	194	229
R F 049	4 B 12 l 区IV層	60×47 15	黒褐色土・焼土・地山などで構成されている。	なし	現地性か否か判然としない。	194	230
R F 050	4 E 2 e 区IV層	313×171 48	東側の平面形が円形を呈する掘り込みの底面と壁近くに焼土が見られる。その内側には黒褐色土に焼土・炭粒の混じる土が入る。西側も黒褐色土に焼土・炭・地山ブロックの入る土で構成されている。	なし	円形のドーム状を呈する燃焼部と方形の焚き口部をもつ構造のカマド状施設と思われる。中世。	200	230
R F 051	4 B 15 h 区IV層	200×113 36	北西部に底面から壁に沿うようにドーム状に焼土が見られる。反対の南東部には黒褐色土を主体とし炭・地山ブロックが入る土が堆積する。	なし	焼土が形成されている部分が燃焼部でそこから北側に細長く煙出しの掘り込みが延びる。南東部は焚き口と考えられるカマド状の遺構で中世に属すると思われる。	200	230

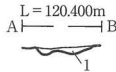
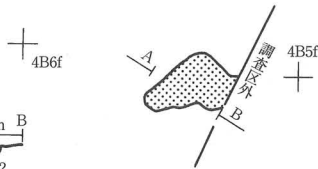
RF023



RF023 A-B

1. 5YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性なし。縮まりやや有り。
2. 10YR4/4 褐色土 汚れている地山。粘性・縮まりやや有り。

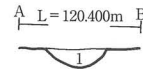
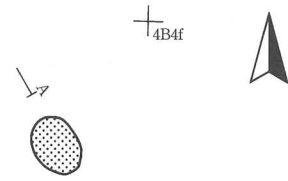
RF026



RF026 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。焼土ブロック少量含む。

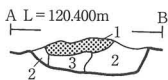
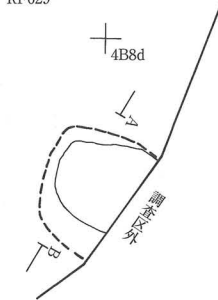
RF027



RF027 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。焼土ブロック微量含む。

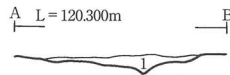
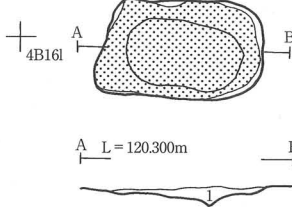
RF029



RF029 A-B

1. 5YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性なし。縮まりやや有り。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
3. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性なし。縮まりやや有り。

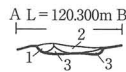
RF041



RF041 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土と橙色焼土 (7.5YR7/6中心) ブロックの炭との混合土 粘性有り。縮まりなし。粘土ブロック少量含む。底面中央は焼成をうけて赤くなっている。

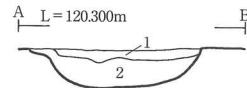
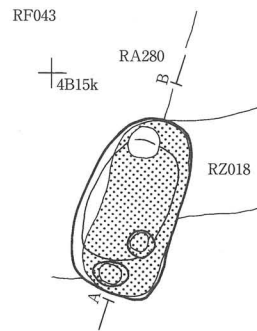
RF044



RF044 A-B

1. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まり有り。炭多量に含。褐色土ブロック極微量含。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。炭多量に含む。明赤褐色焼土 (5YR5/6) 粒微量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まり有り。

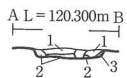
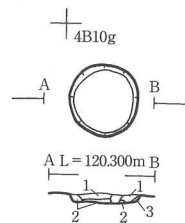
RF043



RF043 A-B

1. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土粒を少量含む。橙色焼土 (7.5YR6/8) ブロック多量含む。下層では20mm程炭の堆積有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色砂質土 (10YR4/6) ブロック少量含む。焼土粒・炭少量含む。

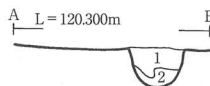
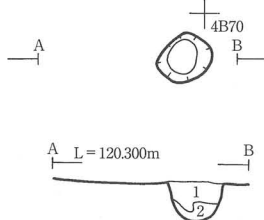
RF045



RF045 A-B

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まりややなし。炭化物・褐色焼土 (7.5YR4/6) 多量に含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まり有り。炭・焼土粒少量含む。
3. 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりややなし。炭・少量含む。

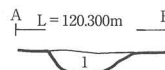
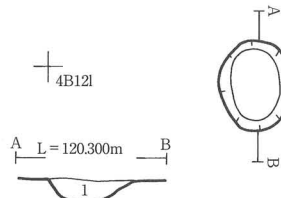
RF048



RF048 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭・赤褐色焼土 (5YR4/6) 微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。褐色土 (10YR4/4) 多量含む。

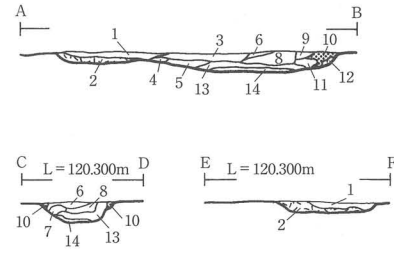
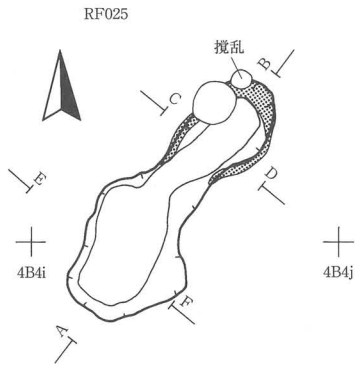
RF049



RF049 A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭少量・褐色焼土 (10YR4/6) 微量含む。褐色土 (10YR4/4) 極微量含む。水酸化鉄斑混入。

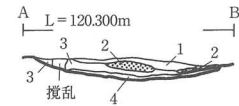
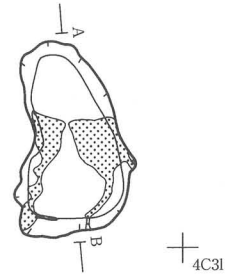
0 1:50 1m



RF025 A-B・C-D・E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。褐色土粒少量、炭化物・焼土粒含。
2. 炭化物の堆積層 焼土粒 (10YR4/4) 微量含む。粘性有り。締まりややなし。
3. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりややなし。
4. 10YR4/4 褐色土
5. 10YR2/2 黒褐色土と褐色土との混合土 粘性ややなし。締まり有り。炭多量に含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。締まり有り。炭化物・焼土粒多量に含む。
7. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まり有り。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。焼土粒・炭少量含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。かたく締まる。炭化物極微量含む。焼土粒含む。
10. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性やや有り。締まり有り。炭多量に含む。
11. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まり有り。焼土粒極微量、炭多量に含む。
12. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。炭多量に含む。焼土粒少量。
13. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭化物・焼土粒多量に含む。
14. 7.5YR3/4 暗褐色土 粘性なし。締まり有り。炭含む。

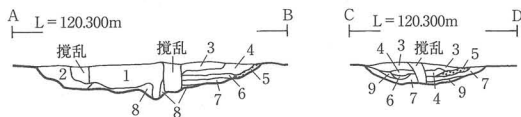
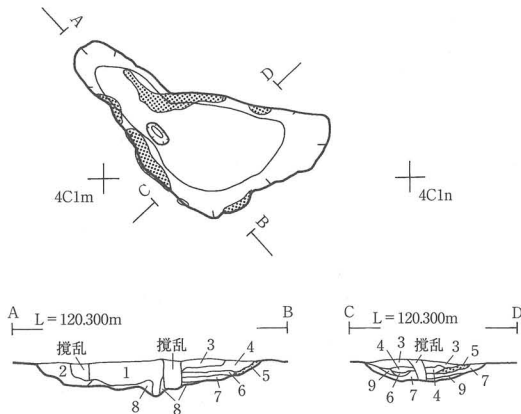
RF028



RF028 A-B

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。焼土 (5YR4/6赤褐色) ブロック多量に含む。地山ブロック多量に含む。
2. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・締まりややなし。黒褐色土 (10YR3/2) ブロック多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。多量の炭化物を含。焼土ブロック少量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。

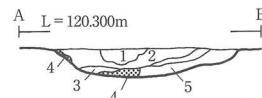
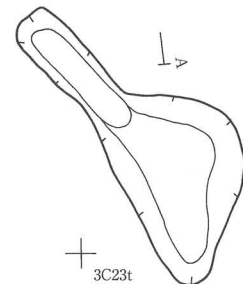
RF030



RF030 A-B・C-D

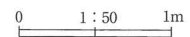
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。炭含む。焼土 (5YR4/6赤褐色) ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。地山 (10YR4/4) ブロック微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりなし。焼土粒・炭含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりなし。
5. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・締まりなし。
6. 10YR2/1 黒褐色土 粘性・締まりなし。炭化物多量含む。
7. 7.5YR3/3 暗褐色土 粘性有り。締まりなし。炭化物少量含。
8. 10YR3/4 暗褐色土粘土質土 粘性有り。締まりなし。
9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。

RF031

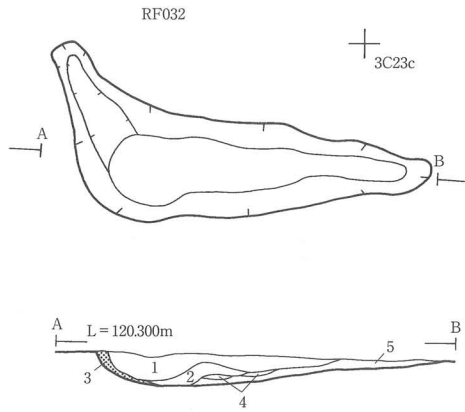


RF031 A-B

1. 10YR4/4 褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。焼土ブロック多量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりなし。
4. 5YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性なし。締まりやや有り。壁が焼けている。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。

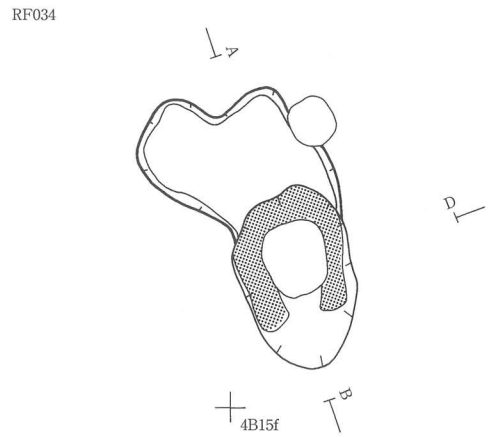


第195図 RF025・028・030・031 焼土・炉跡



RF032 A-B

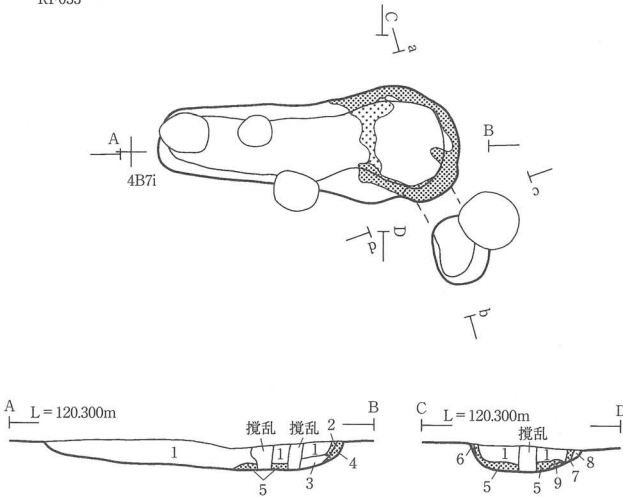
1. 10YR3/3 暗褐色土・黒褐色土との混土 粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。焼土・炭粒を多量に含む。
3. 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性なし。締まっている。壁が焼けている。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりなし。炭粒を多量に含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土・黒褐色土との混土 粘性やや有り。締まっている。



RF034 A-B・C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりややなし。炭・焼土粒極微量含む。水酸化鉄斑混入。
2. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性やや有り。締まりややなし。炭多量含。
3. 7.5YR3/3 暗褐色焼土 粘性やや有り。締まりややなし。赤褐色焼土(5YR4/6)ブロックに多量含む。炭極微量含む。
4. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性・締まり有り。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。赤褐色焼土(5YR4/6)ブロック極微量含む。炭極微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄斑混入。

RF033



RF033 A-B・C-D

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック(10YR4/4)多量含む。炭・焼土粒極微量含む。
2. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性・締まりなし。黒褐色土(10YR2/2)粒少量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。2cm大の炭極微量含む。焼土粒含む。
4. 5YR2/3 極暗赤褐色焼土 粘性・締まり有り。
5. 7.5YR4/4 褐色焼土 粘性・締まりなし。下層に3~5mmの炭化物の堆積層がみられる。
6. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性・締まり有り。
7. 5YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性有り。締まりややなし。
8. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりややなし。褐色土ブロック少量含。
9. 5YR2/4 極暗赤褐色焼土 粘性・締まり有り。

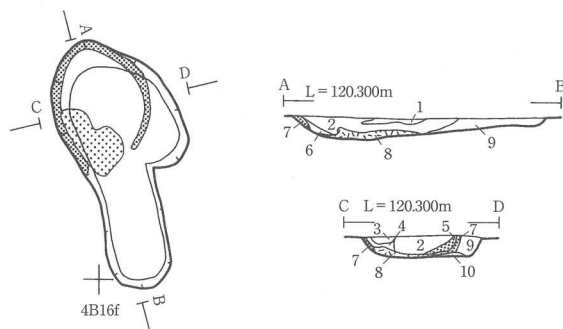
RF033 煙道 a-b・c-d

1. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性・締まり有り。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土(10YR4/4)少量含む。
3. 10YR4/6 赤褐色焼土 粘性・締まりややなし。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まりややなし。炭・焼土粒多量に含む。
5. 5YR3/4 暗褐色焼土 粘性有り。締まりややなし。
6. 5YR3/3 暗赤褐色焼土 粘性有り。締まりややなし。

0 1:50 1m

第196図 RF032~034 焼土・炉跡

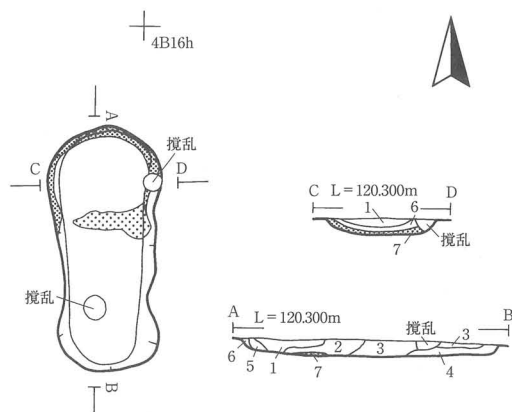
RF035



RF035 A-B・C-D

- 7.5YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりなし。赤褐色焼土 (5YR4/6) ブロック多量、炭極微量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。炭・焼土粒微量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややなし。縮まり有り。炭・赤褐色焼土 (5YR4/6) ブロック極微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) ブロック微量含む。
- 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性やや有り。縮まりなし。黒褐色土 (10YR3/1) ・炭極微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややなし。縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) 少量、炭極微量含む。
- 5YR10YR3/6 暗赤褐色焼土 粘性有り。縮まりややなし。
- 炭化物の堆積層 粘性・縮まりなし。黒褐色土微量、にぶい黄褐色土ブロック極微量含む。焼土粒極微量含む。
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性ややなし。縮まり有り。にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 極微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 微量含む。

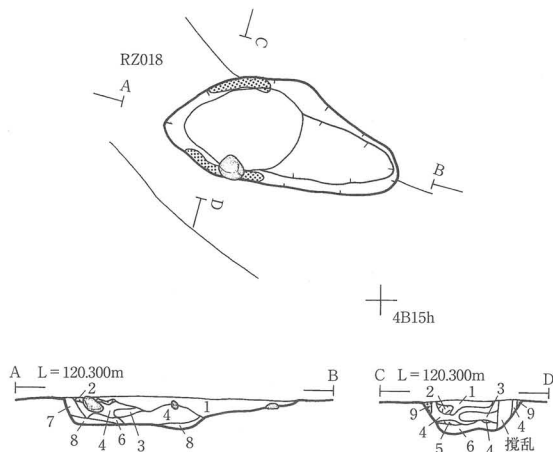
RF036



RF036 A-B・C-D

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭・焼土微量に含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりなし。焼土 (5YR4/6~7.5YR4/4) ブロック少量含む。炭極微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色焼土 (7.5YR4/4) 粒極微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土多量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭・焼土粒微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
- 5YR3/2 暗赤褐色焼土 粘性・縮まり有り。褐色土少量含む。

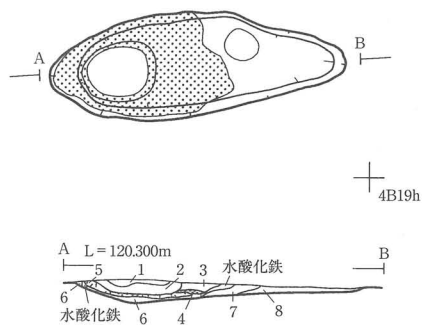
RF037



RF037 A-B・C-D

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒微量、炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 炭化物の堆積層 粘性・縮まり有り。焼土極微量含む。
- 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。焼土粒・炭含。
- 炭化物の堆積層 黒褐色土 (10YR2/2) ・焼土極微量含む。
- 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。
- 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まり有り。炭・焼土少量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑混入。
- 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性ややなし。縮まり有り。

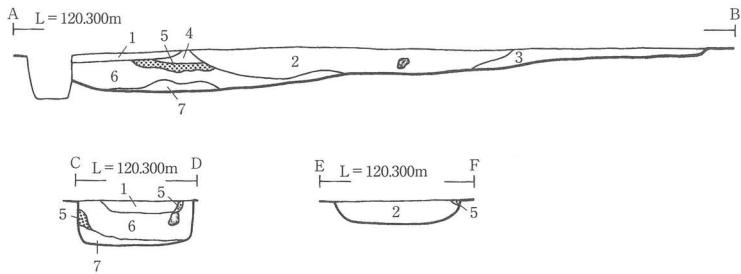
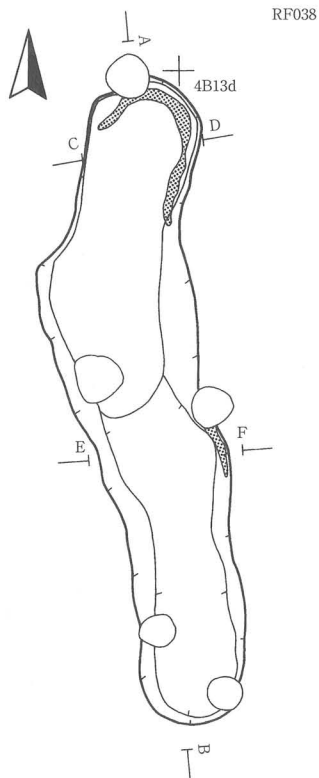
RF039



RF039 A-B

- 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりややなし。褐色焼土 (7.5YR4/6) ブロック極微量含む。炭少量含む。
- 10YR6/6 明黄褐色・5YR5/6 明赤褐色焼土ブロックの堆積層炭微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりなし。明赤褐色焼土 (5YR5/6) 粒・炭微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 7.5YR3/4 暗褐色焼土
- 炭化物の堆積層
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色土多量含む
- 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まりややなし。炭・焼土微量含む。水酸化鉄斑混入。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック微量含む。炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。

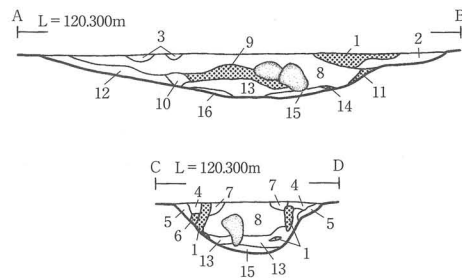
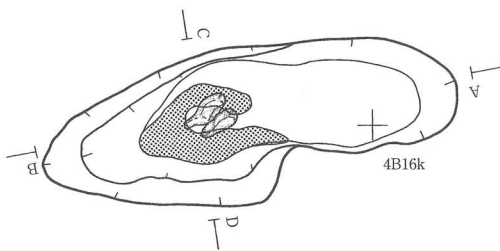
0 1:50 1m



RF038 A-B・C-D・E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 縮まり・粘性やや有り。にぶい黄褐色土・赤褐色焼土 (2.5YR4/6) 極微量。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ブロック微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ブロック、赤褐色焼土 (2.5YR4/6) ブロック極微量含む。水酸化鉄斑混入。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。黒色土 (10YR2/1)、赤褐色焼土 (2.5YR4/6) 極微量含む。
5. 2.5YR4/6 赤褐色焼土 粘性有り。縮まりやや有り。黒褐色土 (10YR3/2) 極微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。赤褐色焼土 (2.5YR4/6) ブロック微量、黒色土 (10YR2/1) 極微量含む。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。暗赤褐色焼土 (2.5YR3/6)、黒色土 (10YR2/1) 極微量含む。

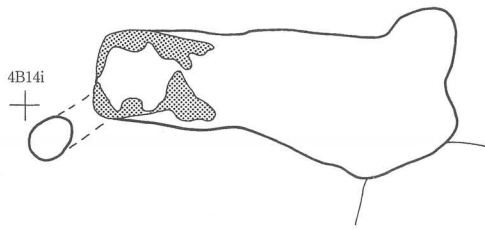
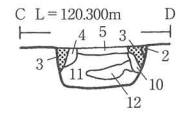
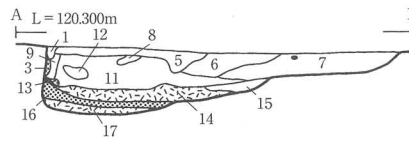
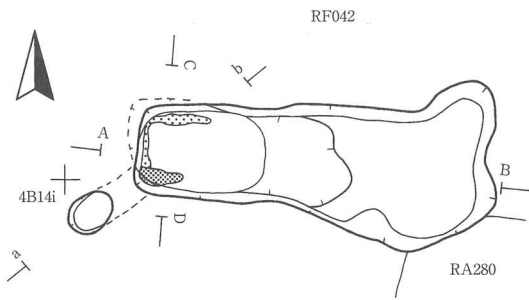
RF040



RF040 A-B・C-D

1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性ややなし。かたく縮まっている。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/8) ブロック含む。
3. 7.5YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・縮まりなし。下層に炭少量含む。水酸化鉄斑混入。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄斑混入。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性有り。縮まりなし。黒褐色土 (10YR3/1) 微量含む。水酸化鉄斑混入。
6. 5YR3/2 暗赤褐色焼土 粘性有り。縮まりややなし。
7. 5YR4/8 赤褐色焼土ブロックと10YR3/1 黒褐色土の混合土 粘性ややなし。縮まり有り。
8. 10YR3/1 黒褐色土 粘性にとみ、縮まり有り。水酸化鉄斑混入 (5YR4/8) 粒・炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。
9. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性・縮まりややなし。黒褐色土 (10YR3/1) ブロック少量含む。
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。炭極微量、焼土粒微量含む。水酸化鉄斑混入。
11. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性ややなし。縮まり有り。
12. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 少量含む。炭微量含む。水酸化鉄斑混入。
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 かたくブロックで混在。粘性なし。炭微量、焼土極微量含む。水酸化鉄斑混入。
14. 炭化物の堆積層
15. 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・縮まりなし。
16. 7.5YR2/2 黒褐色砂質土 粘性・縮まりなし。下層に炭少量含む。水酸化鉄斑混入。

0 1:50 1m



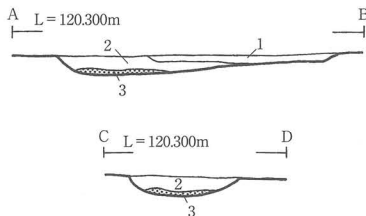
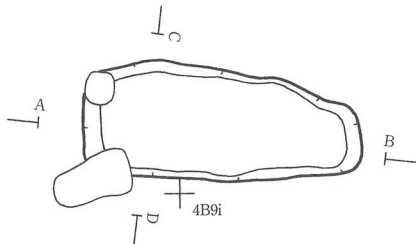
RF042標道 a-b

1. 5YR4/6 赤褐色焼土
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。焼土ブロック・炭極微量含。
3. 7.5YR3/3 暗褐色砂質土 粘性・縮まりなし。焼土ブロック・炭少量含。

RF042 A-B・C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) 少量含。
2. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性・縮まり有り。
3. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・縮まり有り。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりややなし。赤褐色焼土微量含。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭・焼土粒極微量含。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土少量含。炭極微量含。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土少量含。炭極微量含。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。赤褐色焼土少量含。炭極微量含。
9. 10YR3/1 粘土質土 粘性有り。縮まりややなし。褐色土 (10YR4/4) 極微量含。炭微量含。水酸化鉄斑混入。
10. 7.5YR2/3 極暗褐色土 粘性・縮まりややなし。赤褐色焼土 (5YR4/6) 微量含。炭極微量含。水酸化鉄斑混入。
11. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土少量含。炭微量含。
12. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭極微量含。
13. 5YR4/4 赤褐色焼土 粘性有り。縮まりややなし。
14. 炭化物の堆積層 赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒微量含。黒褐色土少量含。
15. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりややなし。黄褐色砂質土 (10YR4/3) 微量含。炭・焼土極微量含。水酸化鉄斑混入。
16. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりなし。赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒・炭極微量含。
17. 炭化物の堆積層 粘性・縮まりなし。赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒極微量含。

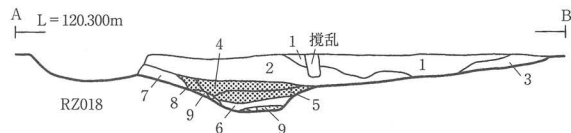
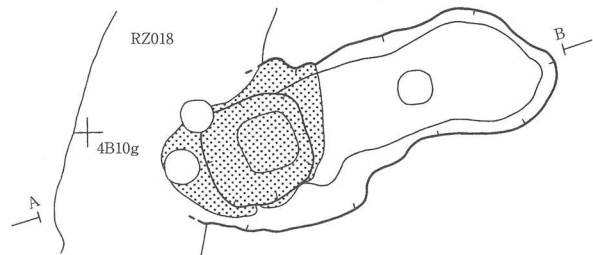
RF046



RF046 A-B・C-D

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。焼土・炭極微量含。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。炭・焼土粒含。
3. 5YR3/2 極暗赤褐色焼土 粘性・縮まり有り。上層に褐色土 (7.5YR4/6) 含。

RF047



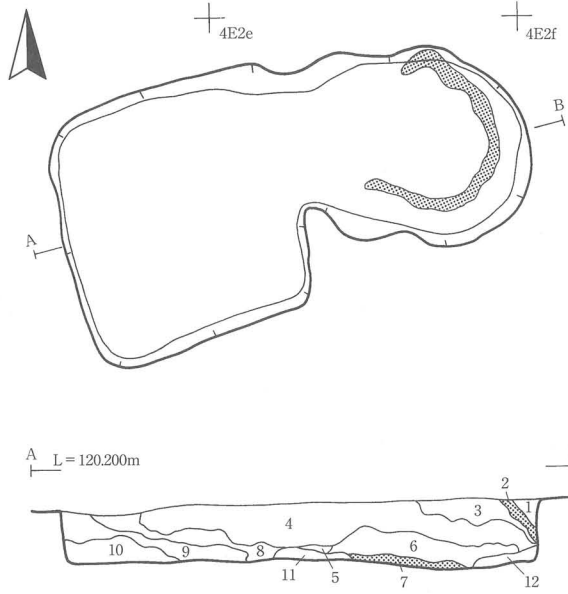
RF047 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。焼土粒・炭極微量含。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。赤褐色・暗赤褐色焼土 大ブロック含。炭極微量含。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりややなし。褐色砂質土少量含。
4. 7.5YR3/4 褐色焼土
5. 5YR3/3 暗赤褐色焼土
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色土ブロック多量含。焼土・炭極微量含。
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭・焼土粒極微量含。
8. 5YR3/6 暗赤褐色焼土
9. 炭化物の堆積層

0 1:50 1m

第199図 RF042・046・047 焼土・炉跡

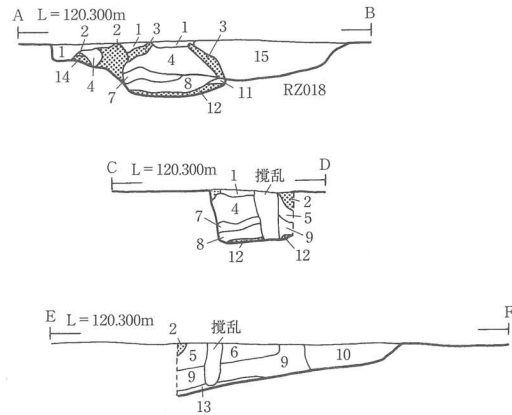
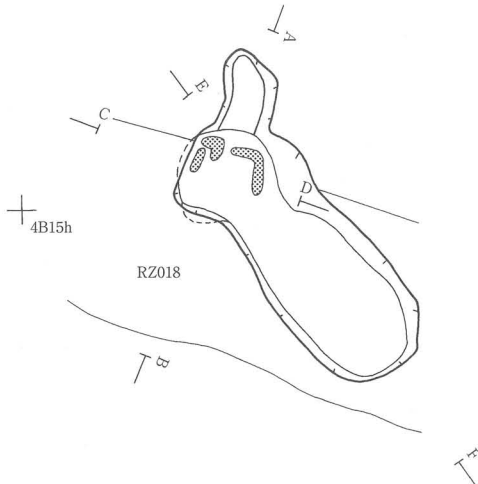
RF050



RF050 A-B

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒、褐色土 (10YR4/6) ブロック極微量含む。
2. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・縮まり有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒、褐色土 (10YR4/6) 粒、炭化物、にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ブロック極微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。黄褐色土 (10YR5/6) 粒少量、赤褐色焼土 (5YR4/6) ・炭化物粒極微量含む。
5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。黄褐色土 (10YR5/6) 粒、赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒・炭化物粒極微量含む。
6. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。赤褐色焼土 (5YR4/6) ブロック含む。炭化物極微量含む。
7. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性有り。縮まりやや有り。
8. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) 粒、赤褐色焼土 (5YR4/6) 粒・炭化物極微量含む。
9. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) 粒 多量含む。
10. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) 粒 少量含む。
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性・縮まり有り。炭化物粒極微量含む。
12. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性有り。縮まり有り。

RF051



RF051 A-B・C-D・E-F

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。焼土ブロック・炭微量含む。水酸化鉄斑混入。
2. 5YR4/6 赤褐色焼土
3. 5YR4/6 赤褐色焼土 黒褐色土 (10YR2/2) 極微量含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック、炭・焼土粒微量含む。水酸化鉄斑混入。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。炭極微量含む。焼土 (5YR4/6) ブロック微量含む。
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック極微量含む。炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。
7. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性有り。縮まりなし。黒褐色土 (10YR2/2) 微量含む。水酸化鉄斑混入。
8. 10YR3/1 黒褐色粘土 炭微量含む。水酸化鉄斑混入。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。褐色砂質土 (10YR4/4) 少量含む。炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。
10. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ブロック、炭極微量含む。水酸化鉄斑混入。
11. 10YR2/2 黒褐色土 粘性にとみ、縮まりなし。
12. 5YR2/3 極暗赤褐色焼土
13. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりなし。極暗赤褐色焼土 (5YR2/3) 含む。
14. 5YR3/4 暗赤褐色焼土
15. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4)、炭微量含む。水酸化鉄斑混入。

0 1:50 1m

第200図 RF050・051 焼土・炉跡

7 堀・溝跡

堀跡は3条、溝跡は大小合わせて67条検出している（第201～226図・写真図版231～263）。この中には以前の調査で検出されていた堀・溝跡の延長部分となるものもあり、それらに関してはこれまでと同じ遺構名を付けるようにしたが、調査を水田区画毎に行わざるを得なかったため遺構の全容を把握できず、本来同一の遺構に複数の遺構名を付しているものもある。なお、個々の遺構の規模・埋土・出土遺物等については観察表に一括し掲載したため、ここでは代表的な遺構についてのみ記述する。

堀跡 R G 083・084堀跡（第206・218図・写真図版232・234）は遺跡中央部南端付近に位置する。規模はR G 083が一辺約33m、その外側にR G 084が一辺約36～40mで延び、検出面での両堀の上幅は110～210mを測る。ともに「コ」状に巡っており東側の一辺で両堀が重なっている。土層の断面観察では判然としなかったがR G 083が古くR G 084が新しいと思われる。ほぼ全域を検出したが、北辺の中央部分は現在道路として使われており調査されず現況のまま残っている。この道路の下に堀跡に伴う橋脚もしくは土橋のような施設が存在し、堀に囲まれた内側に通じていたのではないかという印象を持つ。一方、堀の南側は現況では水田だったが以前は湿地であったことが今回の調査で明らかになり、R G 083・084両堀跡における東西辺の南端はこの湿地に達したところで掘のを止めている状況も確認された。堀に囲まれた内側の中央には現在諏訪神社他が建っており、その部分以外の所のみを調査した。その結果、掘建柱建物跡の他土坑・溝跡等が検出され、この中で本堀跡と関係のありそうな遺構としてはR B 022やR D 481・482・483が考えられる。R B 022は一部を検出したのみで規模・性格は不明であるが、柱筋が堀跡と同じである（現在の諏訪神社とは異なる）ことから、本堀跡に伴っていると考えた。堀をはじめとするこれらの遺構から時期を特定できるような遺物の出土はないが、概ね中世に構築されたと考えて大過ないと思われる。そして堀に囲まれた内側は周辺とは区画された特別な空間であった可能性がある。そのため後世この場所に諏訪神社が建てられたと考えられる。R D 313・314とR E 028は出土遺物等から近世～近代の遺構で神社（むしろ現神社の一代か二代前）に伴う可能性がある。

R G 264堀跡（第208・216図・写真図版251）は本遺跡のほぼ中央2 A～1 Cにて検出された。途中未調査部分もあるが方向は西南西－東北東へほぼ直線的に98m程検出され両端は調査区外に延びている。上端幅はおよそ3～4m、断面形はV字状を呈すると推測される。埋土は概ね自然堆積だが一部攪乱を受けている。遺構の時期を特定できるような遺物の出土はなかったが本遺跡の第15次・18次等では中世の環濠と見られるR G 042が検出されており、本堀跡はこの環濠南辺の外側（南側）約20mに位置し、並行して走っている。このことからR G 264も中世の環濠R G 042と関連する遺構と推測される。つまりは環濠R G 042の南側にもう一条本堀跡が巡っていたか、或いは環濠の拡張・縮小によるもの等が考えられる。

溝跡 R G 263・259・260は規模・形態や方向が類似しているのに加えて9～10mの等間隔で延びている。時期的には近世もしくはそれ以降と思われ、区画溝的な性格が考えられる。この他にR G 254・261・262、R G 257・270も同様の性格の遺構と思われる。

今回の調査で最も規模の大きな溝跡はR G 045（第210・212図・写真図版235）で、1 C区～4 D区にかけて位置している。規模は上幅2～3m、下端幅1～1.5m、深さは1～0.5mで、断面形は逆台形を呈する。全長は途中未調査の場所があるが約170mを測り、北西－南東方向に概ね直線的で、南端部は調査区外に延びている。但しこれより以南には湿地が広がっているようなのであまり延びないと思われる。両端の高低差は北側がやや高く、壁の立ち上がりは南側のほうが浅い。今回調査された北端部よりも北側は本遺跡の第15

次・18次調査でも検出されており、そちらでも北西－南東方向に直線的に走っている。検出されたR G 045の総延長は300m以上となるが本溝跡の北端は不明である。また、今回の調査では見られなかったが第15次・18次調査では埋土に十和田 a 降下火山灰が堆積しており、本遺構は平安時代に属するようである。

R G 043（第210図・写真図版231）も第15次調査で検出されていた遺構で、今回の調査では15次調査の南側に延びていく部分にあたる1 C・2C区において検出された。これにより北東－南西方向へほぼ直線的に約50m延びていることが確認された。両端の高低差はやや北側が高く南側が低くなり南端部は調査区外へと続いている。またこの方向で南側へ延びていったと仮定するなら、3 B・4 B区にて検出されているR G 198に繋がる可能性がある。他の遺構との重複関係からは奈良時代より新しく近世迄は降らないといえる。

本遺跡南東側4 D～4 E区にかけて検出されたR G 232はほぼ東西方向へ真っ直ぐに26m程延びており東西両端もその場所で止まっている遺構である。その性格については不明であるが、他の遺構との重複関係から平安時代以降に属すると思われる。

出土遺物等から時期が概ね推測できる遺構としては、R G 073・205が近世に属すると思われる。その他多くの溝跡に関しては時期不明のものが多い。

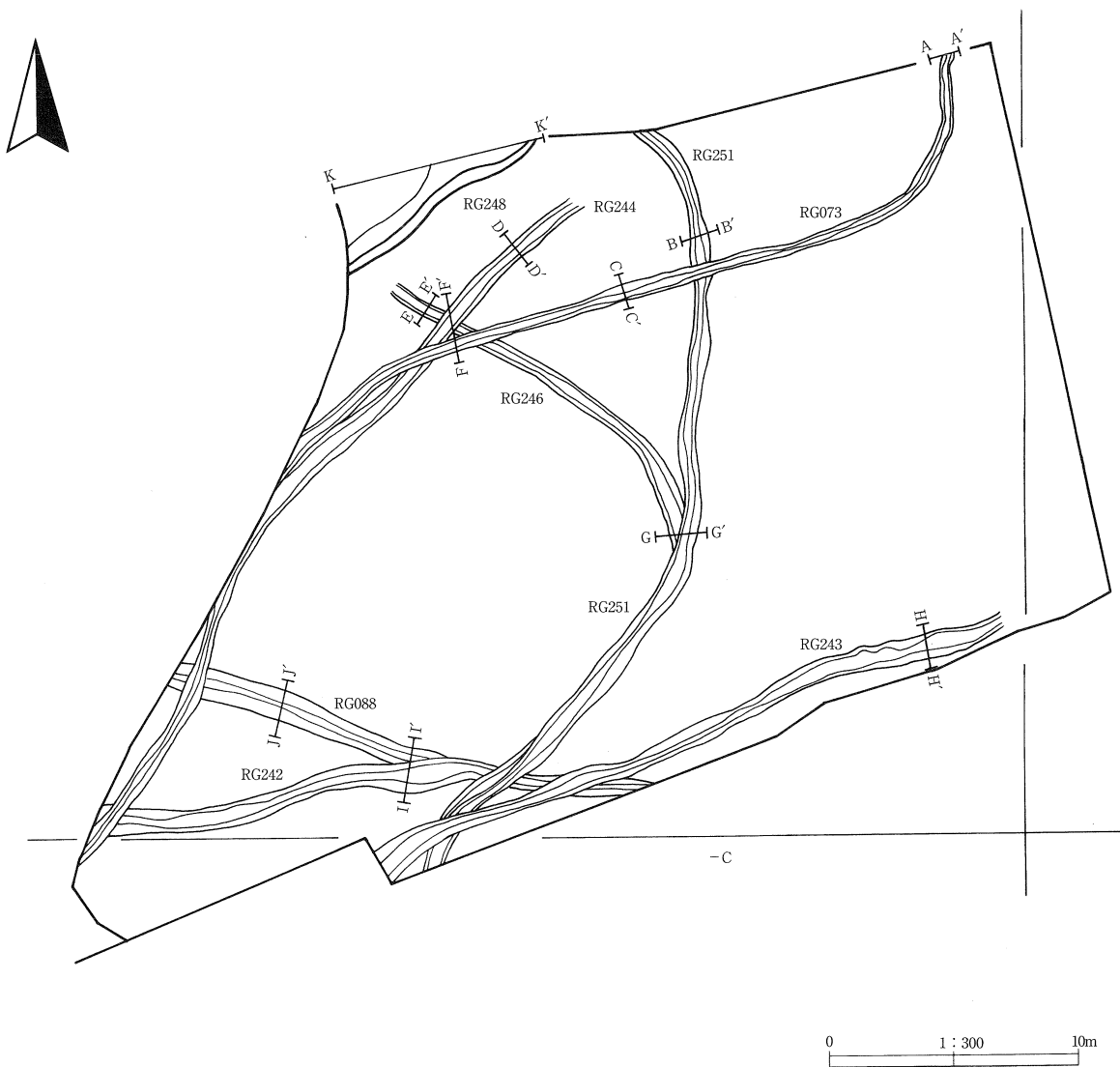
溝・堀跡観察表

遺構名	位置 検出面	長さ：m 深さ：cm	上幅：cm 下幅：cm	埋土ほか	出土遺物	その他	図版	写真
R G 043	1C19i～ 2C8c IV層	33 74～60	130～110 50～30	自然堆積。埋土中位に河原石がまとまって見られた。排水。		RG223・RG264・RG271より古い。本溝跡はRG198と同一の溝跡か。	211・221	231
R G 045 大溝	1C17q～ IV層	160以上 80～60	260～200 130～100	自然堆積。次調査では十和田 a 火山灰が堆積。平安時代。	426・427土師器坏（奈良RA244の遺物か）他に奈良土師器、須恵器坏、縄文土器細片	RA244より新。RD542・RD702・RG264・RG223・RG201より古。	211・216・ 221	235
R G 073	1-C9x～ 1-C18k IV層	31.2 10	55 27	自然堆積。埋土下層は砂質土となる。	738陶器皿？他に磁器皿、須恵器細片	RG244・246・251より新。	201・213・ 214	252・253
R G 080	3A20c ～4A1y IV層礫	14.2 約20	約70 約40	第18次調査参照。		RG083とは新旧不明。		
R G 083 堀	3-A～ 4A IV層	96 38～58	200～170 130～70	東側では礫を多量に含む。西側は埋土下層自然堆積、上層は人為堆積の可能性有。	436須恵器甕	RG080・RG209とは新旧不明。RG084堀より古いと思われる。RE028より古。中世。	206・217	232～234
R G 084 堀	3-A～ 4A IV層	108.4 26～40	220～170 130～70	東側では礫を多量に含む。西側では自然堆積の様相を呈する。	479陶器挿鉢	RG083より新。RD484・RD485とは新旧不明。中世。	206・217	232～234
R G 085	2-C16p ～3-D5k IV層	50.5 18～8	60 40	自然堆積で部分的に河原石含む。排水目的か。	428土師器球胴甕	RG244より古い。	205・226	252・253
R G 088	1-C22h ～2-D4g IV層	35以上 42	120 55	自然堆積でよいと思われる。排水目的か。		RG242より古い。	201・205・ 214・223	253・257
R G 114	2-D7f～ 2-D10g IV層	6.5 4	40 30	黒褐色土の単層。			205・223	254
R G 115	2-C14v～ 2-D12g IV層	20 12	70 40	埋土に砂を含み排水目的と思われる。			205・223	254
R G 191	3A18q～ 4B10m IV層	68 17～20	60～50 40～30	自然堆積か。	土師器片	RG194より新。	206・207・ 210・217・ 219・220	236

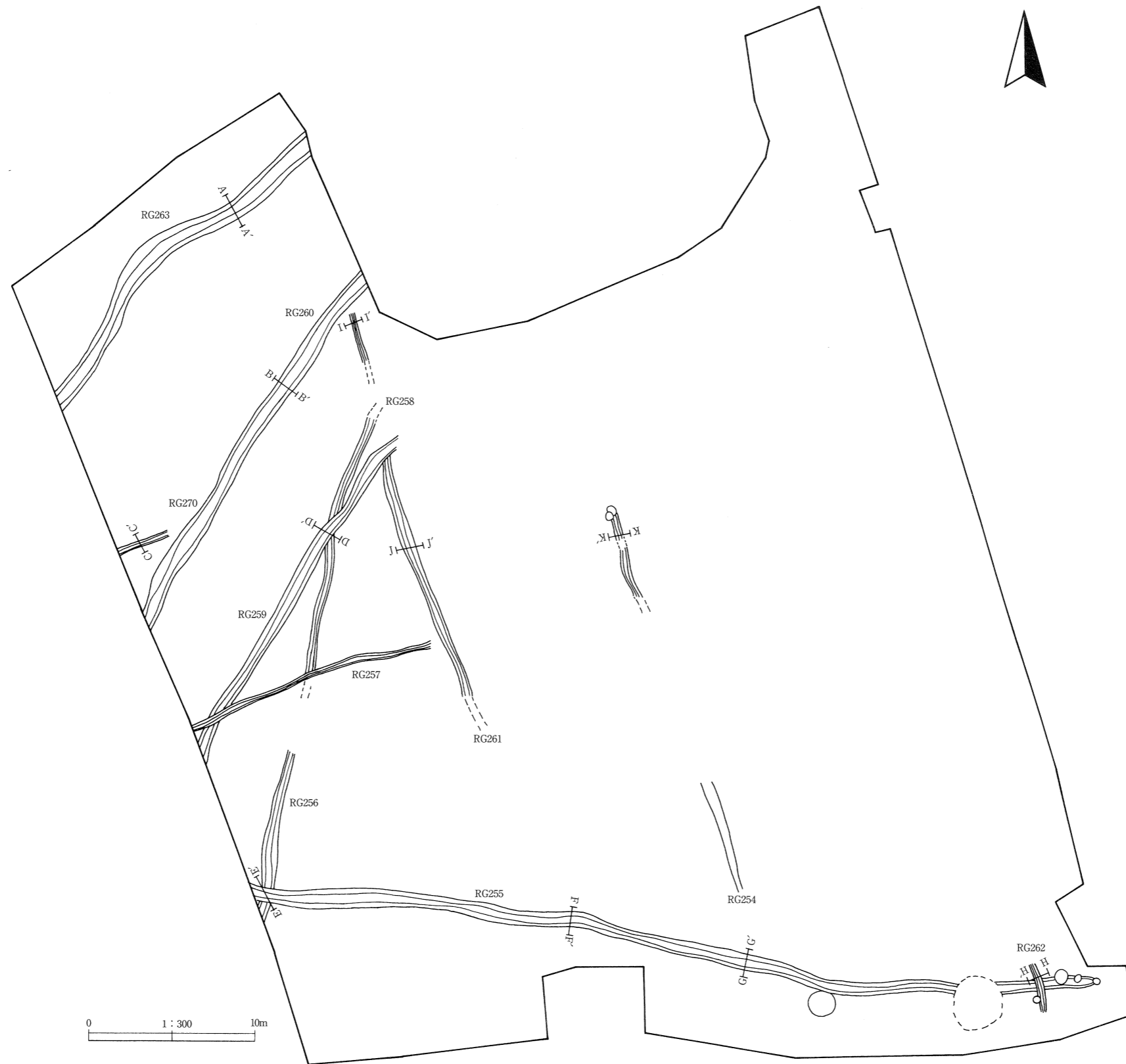
遺構名	位置 検出面	長さ：m 深さ：cm	上幅：cm 下幅：cm	埋土ほか	出土遺物	その他	図版	写真
R G 192	3A8r～ 3A17p IV層	17.1 7～10	30～22 12～8	自然堆積でよいと思われる。排水目的か。		RD286・RD288より新。 RD289より古いか同時期。 RD285より古。RG083・ RG084の中へ入る道の側溝 か。	206・207・ 220	237
R G 193	3B23a～ 4B2v IV層	46 8～11	54～46 30～22	自然・人為の別は不明。	土師器片	RD292・RD298・RD456・ 579・699・728・RG194よ り新。	206・207・ 210・217・ 220	237
R G 194	3B19e～ 3B24d IV層	11.2 12～16	48～40 約20	自然堆積でよいと思われる。排水目的か。		RD480・RG191・RG193よ り古。RI003より古いか同 時期。	207・220	238
R G 195	1-A25h ～2-A11 IV層	9.5 7	37 30	自然堆積でよいと思われる。排水目的か。			203・226	
R G 196					奈良土師甕片			
R G 197	3C14f～ 3C13h IV層	8.5 5～10	50 30	埋土に砂を含み排水目的と 思われる。	土師器片		210・219	238
R G 198	3B5w～ 4B24v IV層	92.5 42～62	150～50 70～25	自然堆積。排水目的と思わ れる。	728鉄釉碗、733陶器碗、 796磁器皿、570銭貨、他に 土師甕	RG043と同一遺構の可能性 有り。	210・218	239
R G 199	3C10e ～3C10j IV層	10 20～23	170～60 140～40	埋土下層に砂が堆積し排水 が目的と見られる。	土師器片		210・220	240
R G 200	2C18m ～1E21r IV層	125以上 54～57	150～90 80～50	自然堆積。埋土に水酸化鉄 含む。水の流れは有ったと 思われる。	奈良土師甕片、近代磁器皿	RA236・240・RD475・ 476・沢跡より新。RD321・ RD360・RG224より古。 RBとは不明。近世。	211・212・ 221・225	240・241
R G 201	2C91～ 2C8y IV層	29 27～20	50～45 30～25	黒褐色土の単層だが自然堆 積でよいと思われる。		RG045より新しい。近世。 本遺構はRG227と同一の溝 跡。	211・221	241
R G 202	3B7u～ 3B12x IV層	12.3 10	40 30	埋土下層には砂が堆積し、 部分的には自然礫も含む。 排水溝と見られる。	土師器片	RG198・203より古い。	210・218	242
R G 203	3B8v～ 4B3u IV層	43 8～23	180～40 150～20	炭粒や地山ブロックを含み 人為堆積の可能性が有る。 中世墓を区画する溝であろ うか。	429須恵器甕 472常滑甕 571～575銭貨 他に土師器 片	RG198より旧くRG203より 新しい。	210・219・ 220	239
R G 204	4B5a～ 4A8y IV層砂	6.2 14～18	96～88 54～48	自然堆積。埋土下層は砂質 土となる。		溝ではなく他の遺構もしく は自然のものかもしれない。	206・207・ 217	
R G 205	1B24y～ 1C17v III層	55 27～17	150～60 100～50	自然堆積。埋土下位砂っぱ い。構築時には水の流れも あったと思われる。	595～600銭貨 721陶器碗、 735磁器皿、784磁器碗、他 に近世・近代陶磁、奈良土 師器、縄文土器片	RA246・RD421・RD442・ RG043・RG045・RG271・ RG272より新。RD419より 古。近世。		242
R G 206	4-A10x ～4A11a IV層	4.7 5～9	36～28 30～22	自然・人為の区別不明。		重複なし。	206・217	243
R G 207	4A10d ～4A12c IV層礫	7.2 11～15	80～40 70～40	自然・人為の区別不明。		RG208より新しい。	206・217	243
R G 208	4A10c ～4A12f IV層	6.5 8～13	約30 約20	自然・人為の区別不明。		RG207より古。	206・217	243
R G 209	4-A7s～ 4A22v IV層礫	64.5 11～13	44～36 約16	自然・人為の区別不明。湿 地を掘り込んでつくられて いる。		RG083とは新旧不明。湿地 とそうではない部分との境 目に位置する。	206・217	243・244
R G 221	4A7b～ 4-A8y IV層	6.2 11～15	54～46 30～22	自然・人為の区別不明。		重複なし。	206・217	244
R G 222	4A18m ～4A21t IV層礫	14.8 7～14	44～36 32～24	自然・人為の区別不明。湿 地を掘り込んで構築。		重複なし。湿地とそうでは ない部分との境目に位置す る。	206・217	244

遺構名	位置 検出面	長さ：m 深さ：cm	上幅：cm 下幅：cm	埋土ほか	出土遺物	その他	図版	写真
R G 223	2-C17p ～同23s IV層	14.4 30	74 20	自然堆積。排水・区画目的 と思われる。			203・221・ 226	255
R G 224	2E13e～ 2E18h IV層	11.6 32	70～55 40～30	自然堆積と思われる。		RA237・RG200より新。近 世。RG229と同じ溝になる か。	212・225	244
R G 225	4B7h～ 4B12r IV層	22.1 9～13	60～35 50～15	自然堆積と思われる。	土師器片	RZ018より新。	210・219・ 220	245
R G 227	1D24t～ 1D22y IV層	10.2 20～16	60～45 30～25	自然堆積。		RG201と同一の溝。近世。	212・225	246
R G 228	3D18i～ 4D19l IV層	77.8 41～11	80～37 30～20	自然堆積。排水目的と思わ れる。		RA279・RG045・230・231・ 240より新。RG229より古。 RG235より新か同時期。	213・216・ 224	246・247
R G 229	3D17i～ 4D19n IV層	52.7 約14	58～43 36～18	自然堆積でよいと思われ る。排水。		RE040・RD775・RD776・ RD777・RG228より新。 RG224と同じ溝となるか。	213・224	247
R G 230	3D15m ～3D18i IV層	5.2 約14	約70 約30	自然堆積。排水目的と思わ れる。		RG228より古。	213・224	248
R G 231	3D16k～ 3D18k IV層	4.5 12～9	42 14	自然堆積と思われる。排水 目的と思われる。		RG228より古。	213・224	248
R G 232	4D12t～ 4E12f IV層	26 約40	約90 約46	自然堆積。埋土下位砂っば いが確認された構造では水 は流れないと思われる。		RG045より新しいと思われ る。RA277より新。旧沢跡 より新。この溝はこれ以上 延びないと思われる。	213・224	249
R G 233	4D17q ～4E14f IV層	30.3 40～12	103～27 約24	自然堆積。		RA278・RG045との新旧不 明。RG234より古。沢跡よ り新。東側へは延びないと 思われる。	213・216・ 224	249
R G 234	4D15w ～4E15g IV層	21.2 約16	約74 約40	自然・人為かは不明。RG232 と並行して延びることから 時期・構造近い可能性あり。		RG233より新。	213・216	249
R G 235	3D15t～ 3D19u IV層	9.5 約23	約34 約20	自然堆積。排水目的と思わ れる。		RA228より新。RG228より 古か同時期。	213・215	
R G 236	4B21d～ 4B17q IV層	27 11	70 50	自然堆積と思われる。排水 の溝か。	土師器片、須恵器片		210・219	250
R G 237	4B17v IV層	2.3 8	40 20	記録なし。排水の溝と思わ れる。			210・219	250
R G 238	4B18s～ 4B19v IV層	6.7 10	40 20	自然堆積と思われる。排水 の溝か。			210・219	250・251
R G 239	4B19p IV層	4 7	40 20	自然堆積と思われる。排水 の溝か。	454青磁碗	中世。	210・219	254・250・ 239
R G 240	3D17i～ 4D19n IV層	31.8 41～11	72～52 42～35	自然堆積。黒褐色及び暗褐 色土。		RG228より古。RG045との 重複関係不明。旧沢跡より 新。	213・216	245
R G 241	2-C16t～ 2-D11h IV層	29.1 21	75 63	自然堆積の様相を呈する。 排水目的か。			205・223	255
R G 242	1-C25g ～同25q IV層	22.8 18	120 60	自然堆積でよいと思われ る。排水目的か。	磁器碗皿片	RG088より新。幕末以降。	201・214	255・256
R G 243	1-C21y ～2-C1m IV層	27.3 18	88 45	自然堆積でよいと思われ る。排水目的か。	767陶器播鉢、他に土師甕 細片、奈良土師甕片	RG242・251より新。	201・215	253・256
R G 244	1-C12q～ 3-C21w IV層	120以上 12	60 30	自然堆積で埋土下位は砂っ ばい。排水か。		RG246より新。RG073より 古い。	201・204・ 215・214・ 223	252・253・ 256
R G 245	2-C2q～ 2-D5d IV層	23.6 10	80 60	埋土下位に砂が堆積する自 然堆積。排水。			205・215・ 223	257

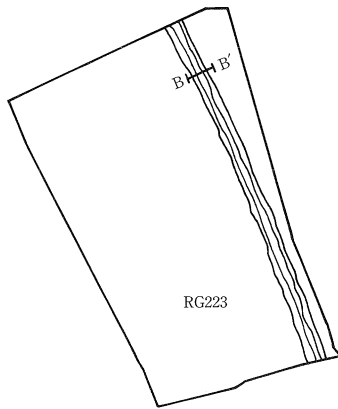
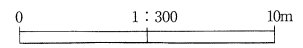
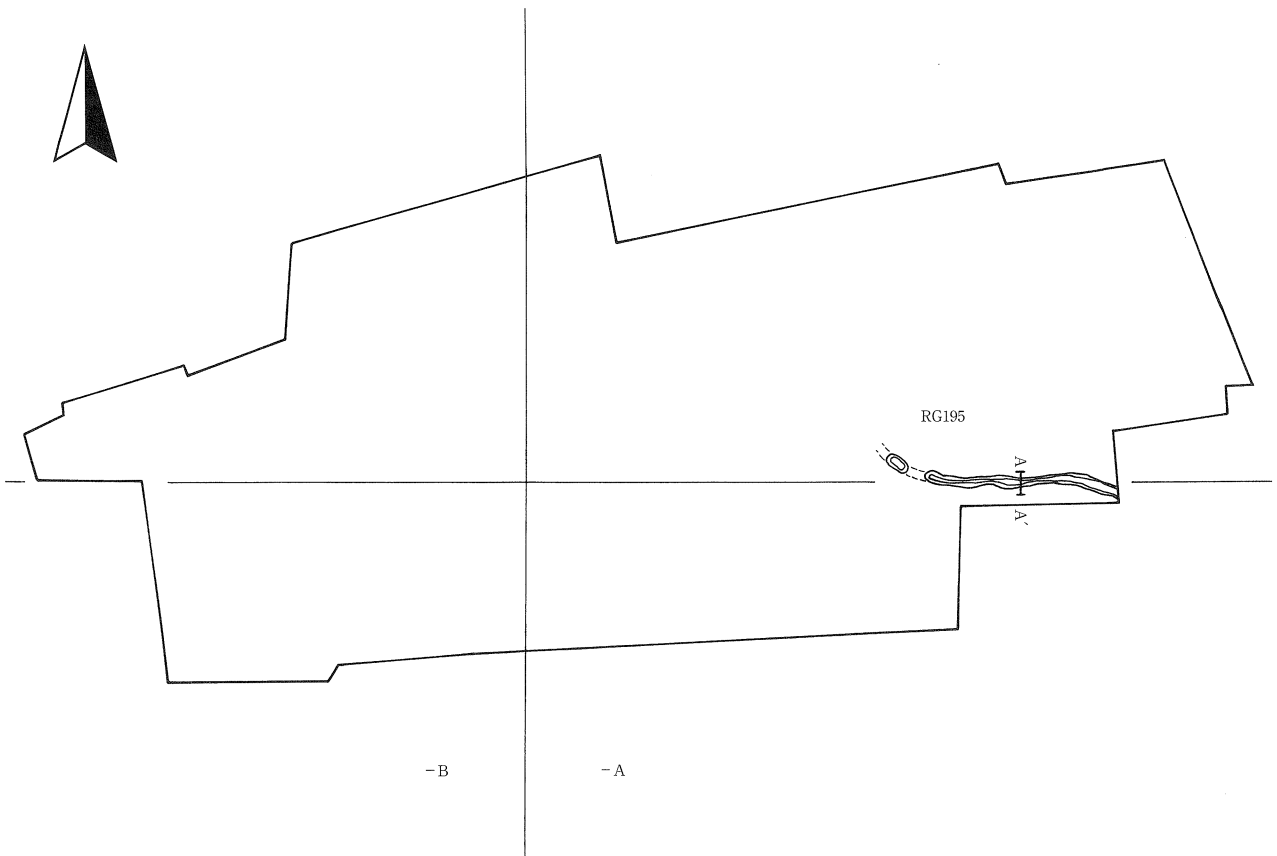
遺構名	位置 検出面	長さ：m 深さ：cm	上幅：cm 下幅：cm	埋土ほか	出土遺物	その他	図版	写真
R G 246	1-C14m ~同19r IV層	15.8 18	70 40	黒褐色土の単層だが自然堆積でよいと思われる。		RG073・244・251より古い。	201・215・ 214	252・253
R G 247	2-C6l~ 2-C8m IV層	4.9 7	30 15	埋土に砂を含み排水目的と思われる。		RG244より古い。	205・223	257
R G 248	1-C12l IV層	9.4 118	300~ 200~	自然堆積で底部はグライ化。埋没沢か。	土師甕、須恵甕片	沢跡の可能性あり。	201・214	
R G 249	1-D24b IV層	8 9	50 30	埋土に砂を含み排水目的の溝と思われる。			205・223	258
R G 250	2-C5u~ 2-C8v IV層	6 15	55 47	自然堆積の様相を呈する。排水目的か。			205・223	258
R G 251	1-C11r ~2-D5n IV層	36以上 13~28	65 15	自然堆積か。排水目的か。		RG242・246より新。 RG073・243より旧。	201・205・ 215・214・ 223	252・253・ 259
R G 254	2-D10r ~同21v IV層	23.9 25	45 24	埋土下層に砂の堆積する自然堆積。排水・区画目的か。			202・222	
R G 255	2-D22g ~2-C24g IV層	51.7 17~28	64 35	自然堆積で埋土下位に砂堆積。排水か。	赤焼片	RG256より新。RG262より古い。	202・222	260
R G 256	2-D17h ~同23g IV層	10.4 25	90~40 20	自然堆積。	赤焼片	RG255より古いと思われる。RG257と同じ溝と思われる。	202・222	260
R G 257	2-D17e ~同14l IV層	15.8	44 20	断面図なし。	鉄製品	RG257・259より新。RG256と同じ溝と思われる。	202	261
R G 258	2-D6j~ 2-D15i IV層	16.4 20	40 20	自然堆積でよいと思われる。排水・区画か。		RG257・259より古い。	202・222	261
R G 259	2-D3j~ 2-D14d IV層	23 19	75 40	自然堆積でよいと思われる。排水・区画か。		RG258より新。RG257より古い。	202・222	261
R G 260	2-D14d ~2-D3j IV層	25 25	100 60	自然堆積で埋土下位に砂堆積。排水・区画か。			202・222	261
R G 261	2-D4j~ 2-D16m IV層	24.2 16~33	40 20	黒褐色土の単層だが自然堆積でよいと思われる。排水・区画目的か。	土師須恵片	RG259より古い。	202・222	262
R G 262	2-C24f IV層	3 9	40 10	自然堆積か人為堆積か不明。区画目的か。	平安土師器坏甕、須恵器片	RG255より新。	202・222	255・262
R G 263	2-D7a~ 1-D24h IV層	22 23	90 70	自然堆積で埋土下位は砂っぽい。排水・区画か。			202・222	263
R G 264 堀	~1C16u IV層	110以上 140~160	260~ 60~	埋土下層は自然堆積。上層は埋め戻した可能性あり。大小の河原石を含む。	463瀬戸陶器瓶類、473陶器挿鉢、708呉器手碗、761陶器搦鉢、509~511木製品、533鉄器、他に土師須恵片	RG043・RG045より新。中世。	208・211	251
R G 265	1E20p~ 2F3c IV層	28.9	70~40 40~18	断面図なし。				
R G 266	2F3a IV層	1.9	40 18	断面図なし。				
R G 268	1C22h~ 2C8c IV層	26.5 28~16	約60 45~30	自然堆積と思われる。排水目的と思われる。		RG043より新。RG223・RG264・RG272より古。		231
R G 269	1C21h~ 2C8c IV層	27 18~9	55~40 40~30	自然堆積でよいと思われる。排水。		RG271より新。RG223より古。		231
R G 270	2-D11c IV層	3.1 19	40 23	自然堆積でよいと思われる。			202・222	
R G 271		27 27	110~60 50~30	自然堆積で黒褐色土主体。		RG043より新。RG272より古。	211・221	
R G 272		27 18	51 30	黒褐色土の単層。自然堆積か。		RG271より新。	211・221	



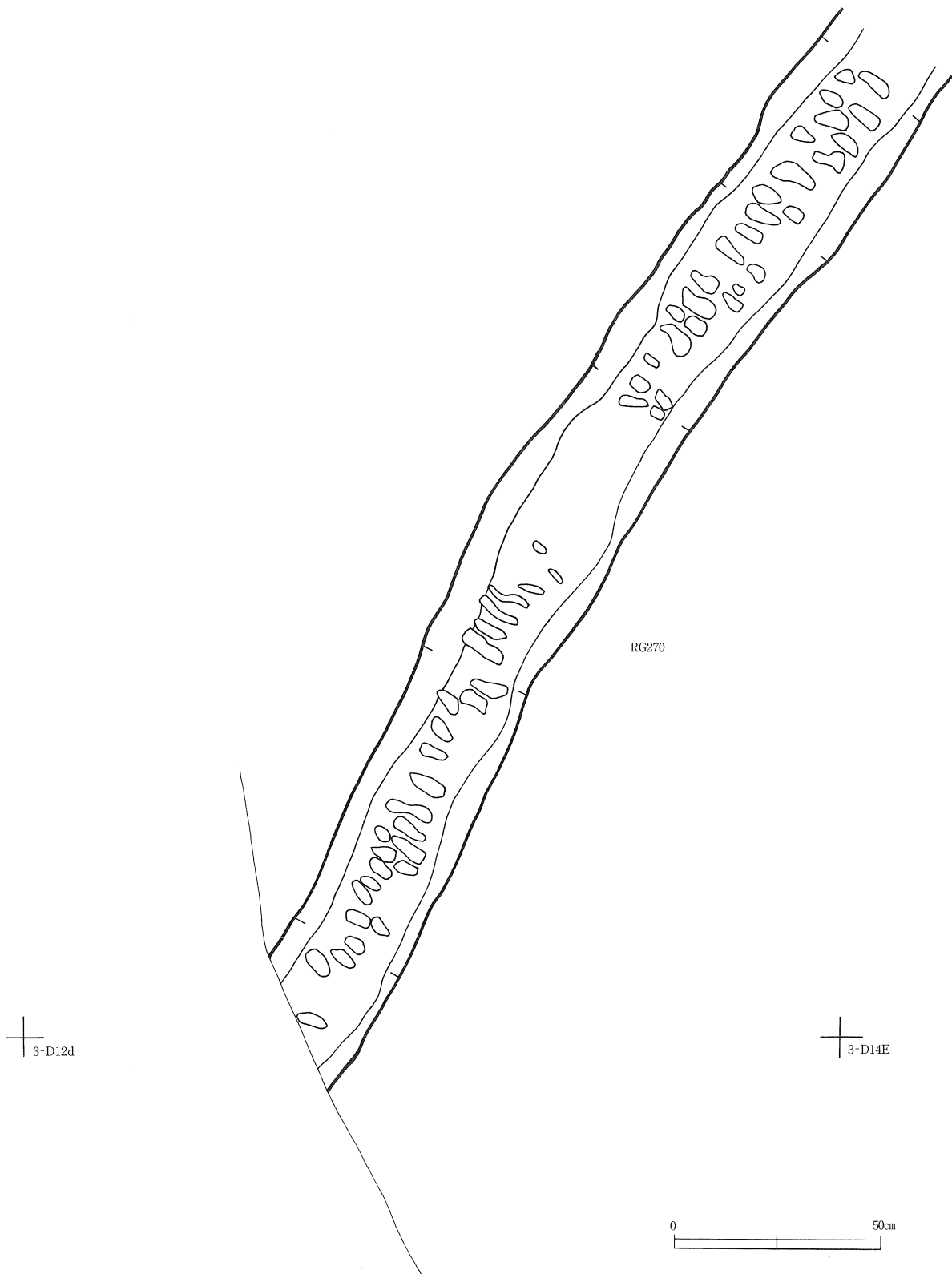
第201図 RG溝・堀跡 (1)



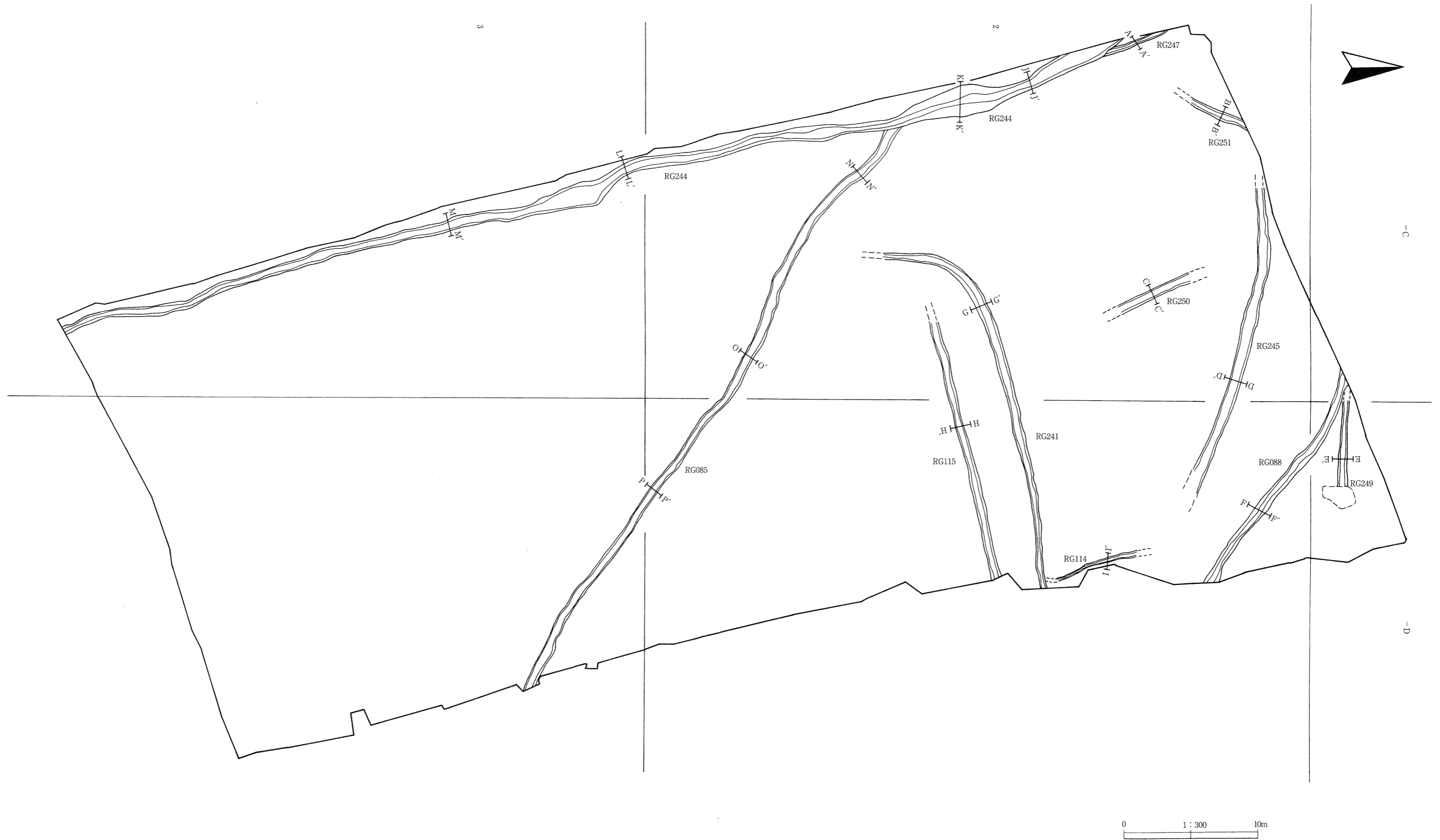
第202図 RG溝・堀跡 (2)



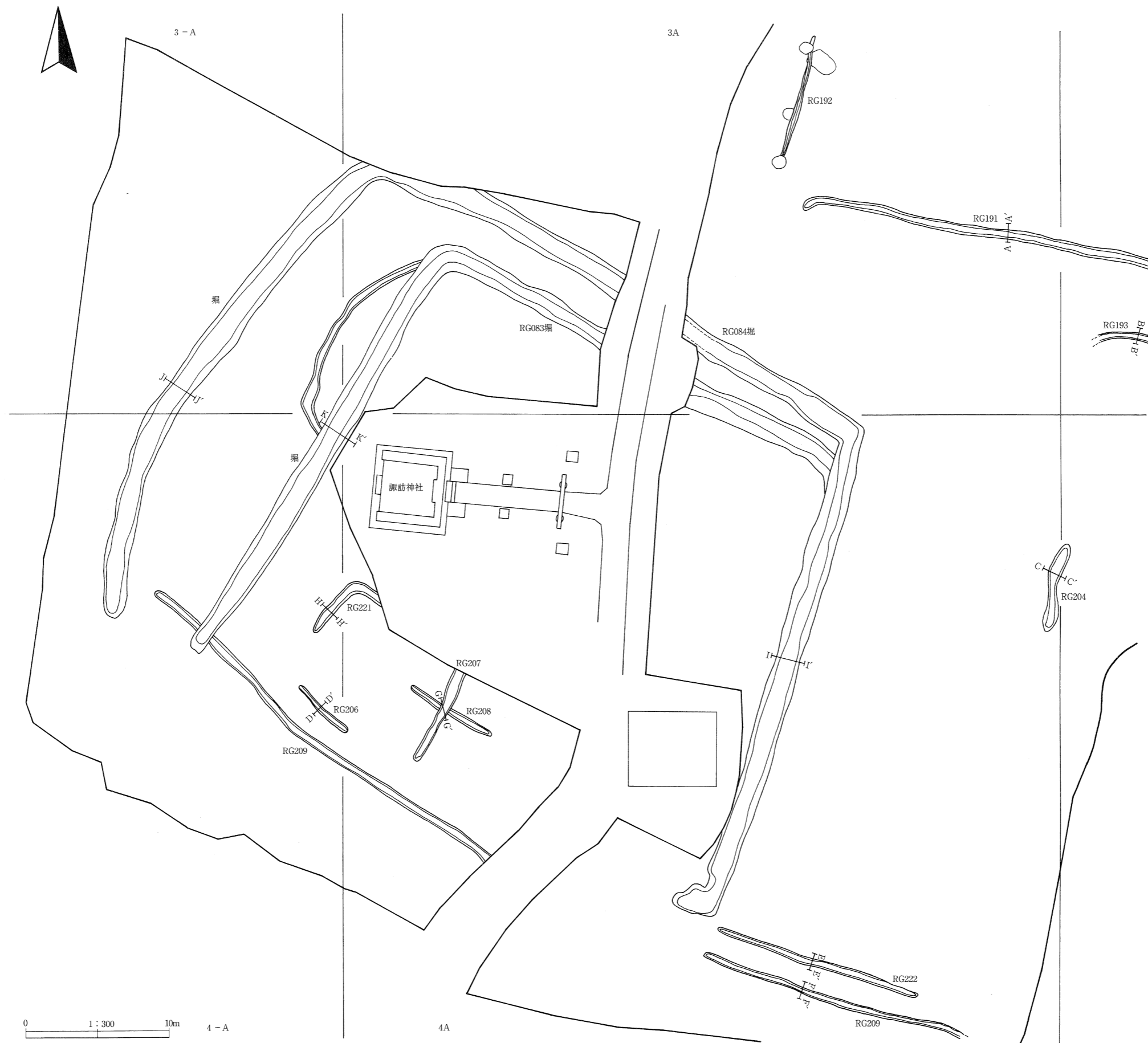
第203図 RG溝・堀跡 (3)



第204図 RG溝・堀跡 (4)



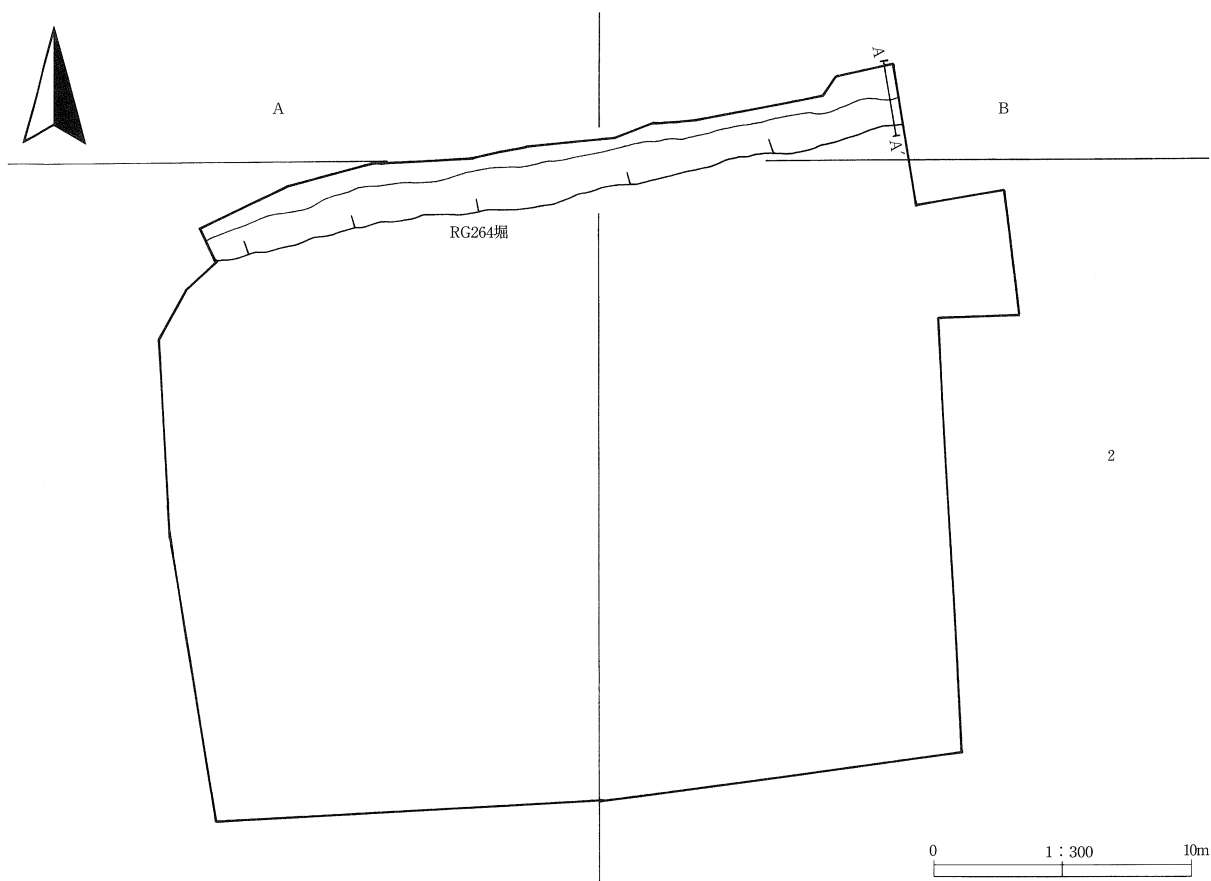
第205図 RG溝・掘跡 (5)



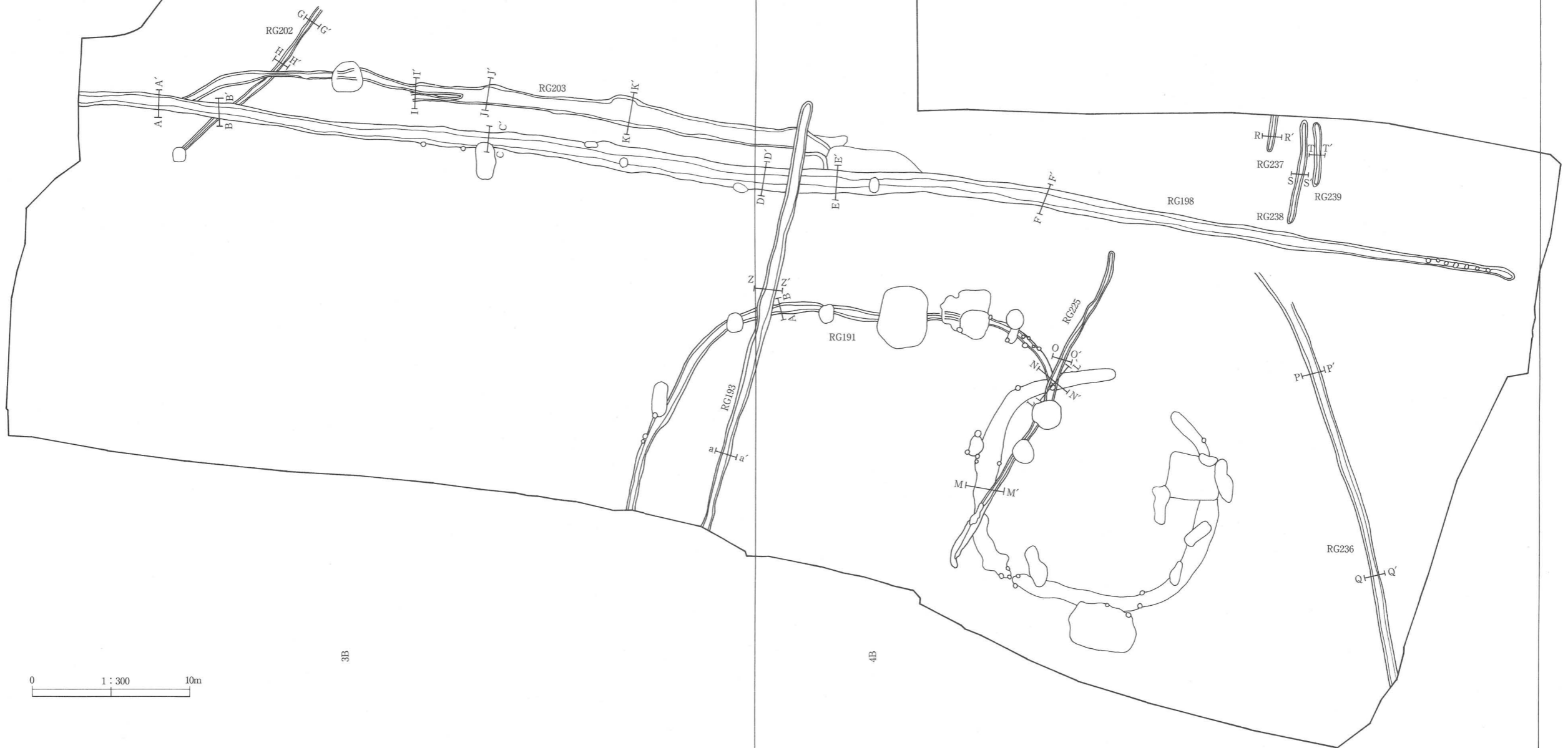
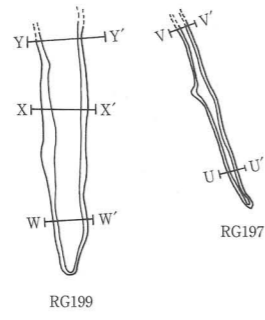
第206図 RG溝・堀跡 (6)



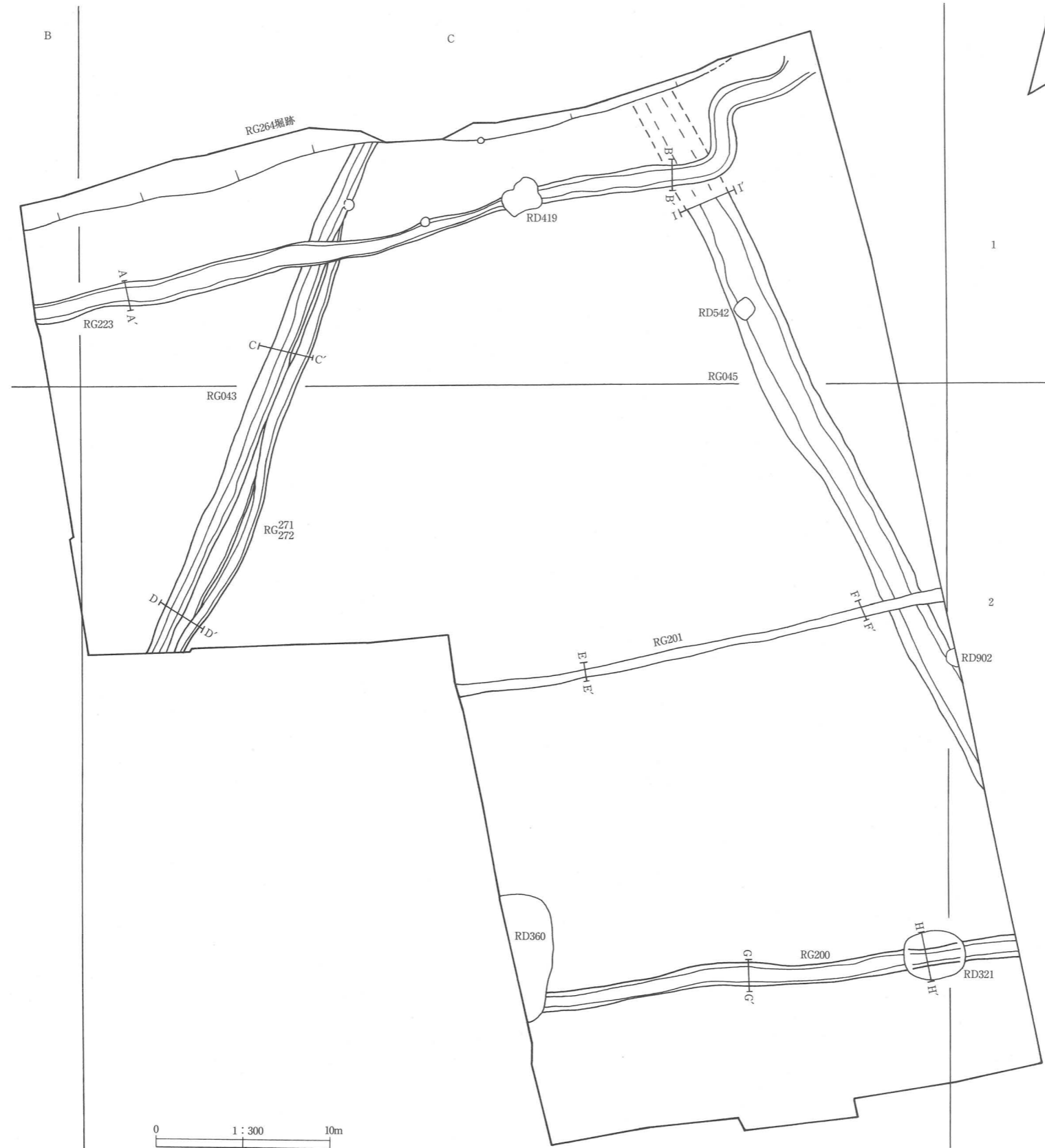
第207図 RG溝・堀跡 (7)



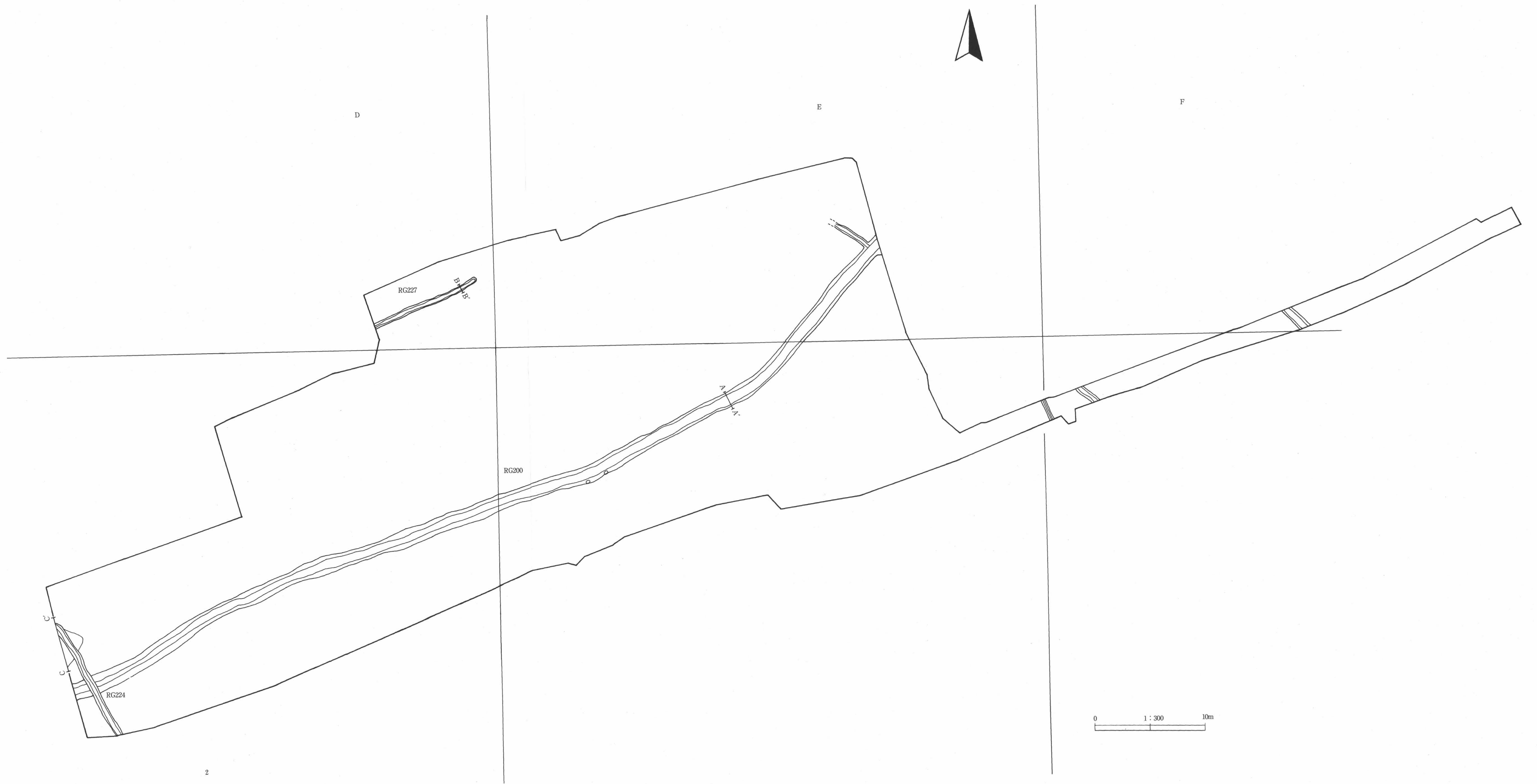
第208図 RG溝・堀跡 (8)



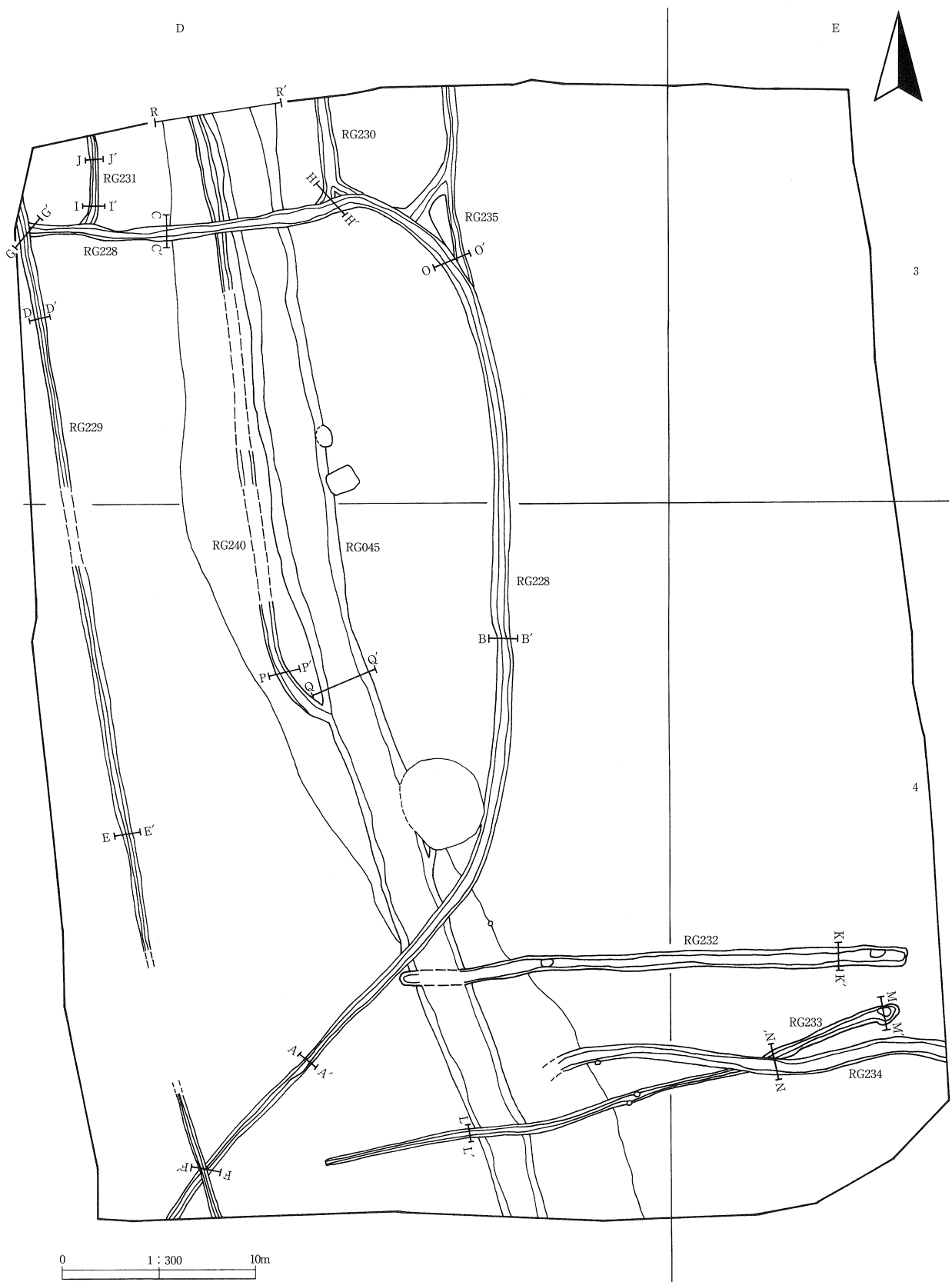
第209図 RG溝・堀跡 (9)



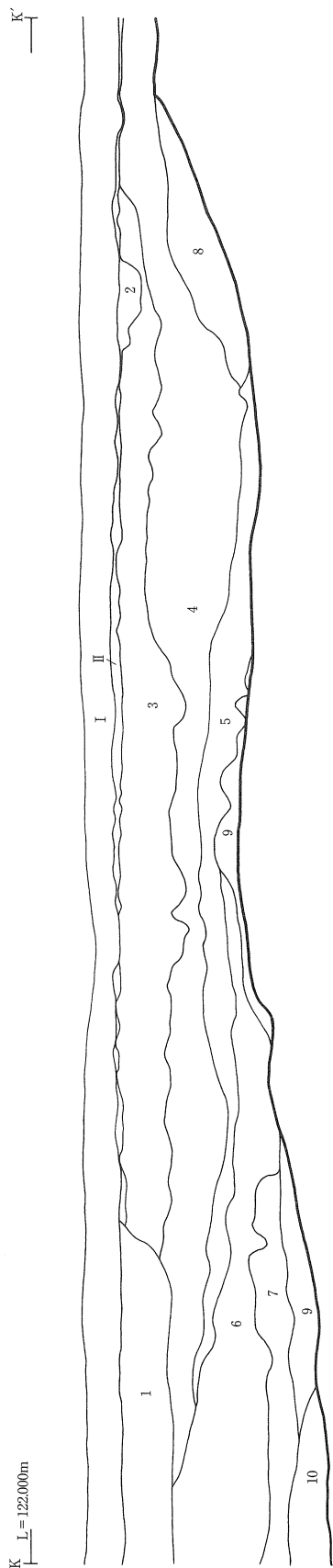
第210図 RG溝・堀跡 (10)



第211図 RG溝・堀跡 (11)

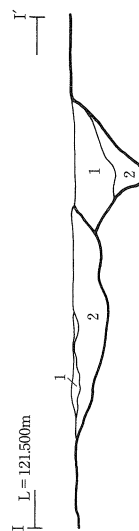


第212図 RG溝・堀跡 (12)

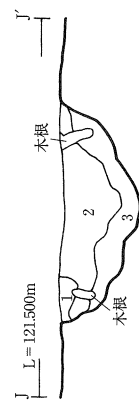


- RG248 (K-K')
1. 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性・縮まり有り。極灰粘土 (10YR4/1)、水酸化鉄アロックス (径1~5cm大) 微量含む。ややツライ化。
 2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。小礫 (径1cm大) ごく微量含む。
 3. 10YR4/1 濁灰色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。
 4. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。
 5. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。

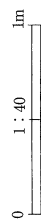
6. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性なし。縮まり有り。植物根の炭化物少量・水酸化鉄微量・黒褐色土 (10YR3/2) ごく微量含む。
7. 10YR3/1 黒褐色砂質土 粘性・縮まり有り。8層との境を中心に水酸化鉄を帯状に含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。下層に褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
9. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
10. 25YR2/3 黒褐色土 粘性に富む。縮まりなし。



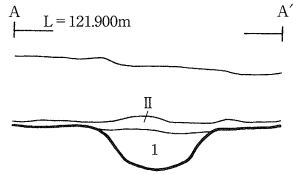
- RG088・242 (I-I')
1. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄微量含む。



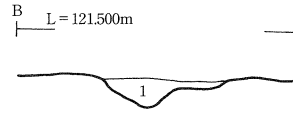
- RG088 (J-J')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。小礫含む。
 2. 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりやや有り。黒褐色土ごく微量含む。
 3. 10YR4/4 褐色土 粘性なし。縮まりやや有り。



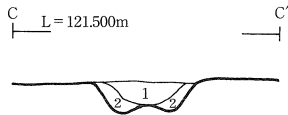
第213図 RG溝・堀跡 (13)



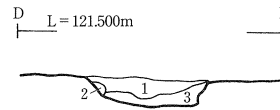
RG073 (A-A')
 1. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性やや有り。
 縮まり有り。



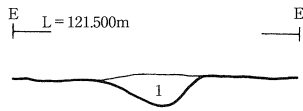
RG251 (B-B')
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 水酸化鉄斑有り。



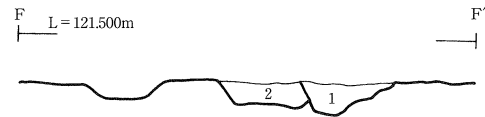
RG073 (C-C')
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。
 固く縮まる。酸化鉄斑有り。
 2. 10YR3/4 暗褐色砂質土 固く
 縮まる。酸化鉄斑有り。



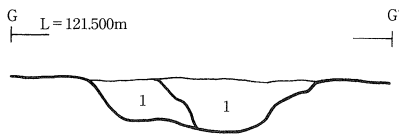
RG244 (D-D')
 1. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性有り。固く縮まる。
 水酸化鉄ごく微量含む。
 2. 10YR4/4 褐色砂質土 粘性やや有り。縮まり有り。
 水酸化鉄少量含む。
 3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
 褐色砂質土 (10YR4/4)、水酸化鉄ごく微量含む。



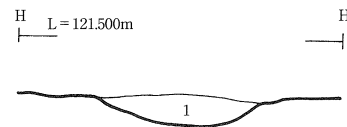
RG246 (E-E')
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。



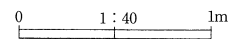
RG073・244・246 (F-F')
 1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄
 ごく微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。



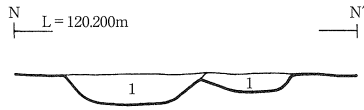
RG251 (G-G')
 1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 水酸化鉄斑有り。



RG243 (H-H')
 1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
 褐色土 (10YR4/4) 微量含む。



第214図 RG溝・堀跡 (14)

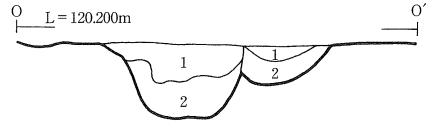


RG233 (N-N')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。
褐色地山ブロック (10YR4/4・径0.5~2cm大) 微量含む。

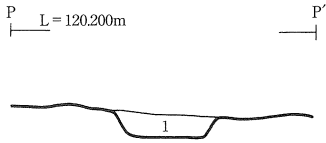
RG234 (N-N')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4・径2cm大) ごく微量含む。



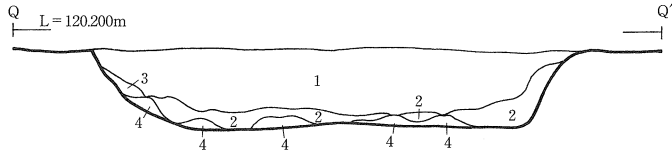
RG228・235 (O-O')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。



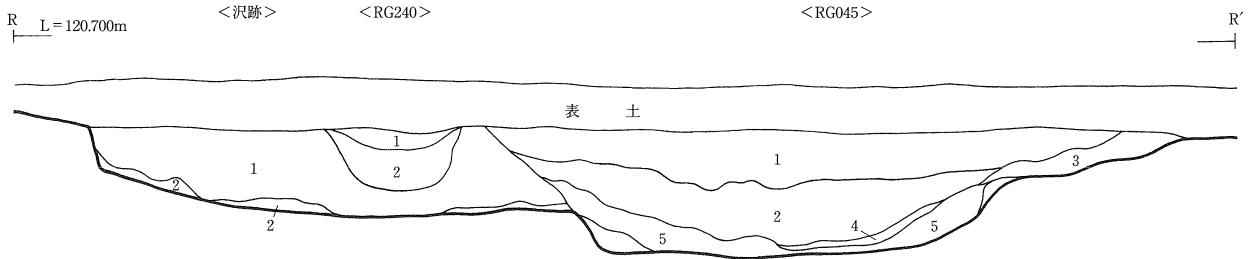
RG240 (P-P')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック微量含む。



RG045 (Q-Q')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山ブロック (10YR5/6) ごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山ブロック (10YR5/6・径0.3~1cm大) 少量微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。暗褐色土 (10YR3/3) にじむように微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・締まり有り。黄褐色地山ブロック (10YR5/6・径1~3cm大) 含む。

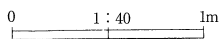


RG240 (R-R')

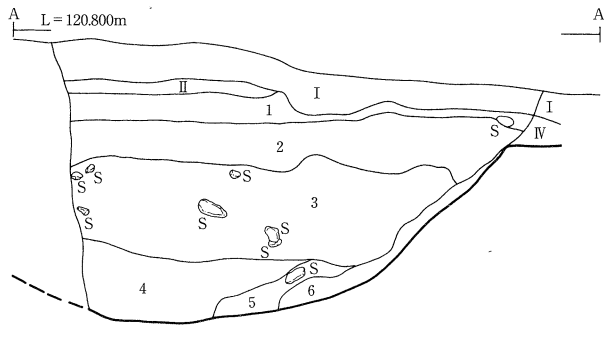
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック少量含む。

RG045 (R-R')

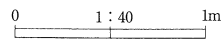
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。地山ブロック少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性を欠く。固く締まる。水酸化鉄斑有り。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。水酸化鉄斑有り。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。地山ブロック多量含む。
6. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。



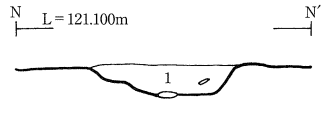
第215図 RG溝・掘跡 (15)



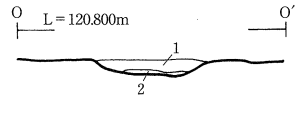
- RG264堀 (A-A')
- 10YR3/2 粘性を欠く。締まり有り。河原石少量・明黄褐色土ブロック微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性を欠く。締まりやや有り。河原石 (径3cm未満) 少量含む。石英?微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。河原石 (径5cm大) 少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。河原石 (径1~5cm大) 多量・炭微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。河原石 (径1~10cm大) 多量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。にん黄褐色砂質土ブロック (10YR5/3) ・河原石少量含む。水酸化鉄斑有り。



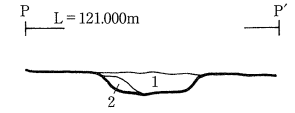
第216図 RG溝・堀跡 (16)



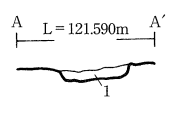
- RG085 (N-N')
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。石 (径5~10cm大) 多量含む。水分多い。



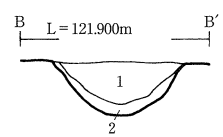
- RG085 (O-O')
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水分多い。
 - 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まり有り。水分多い。
 - 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まり有り。



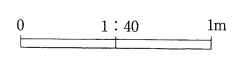
- RG085 (P-P')
- 10YR2/2~3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 - 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。1層より粒が大きい。



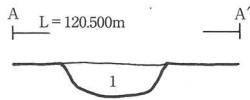
- RG195 (A-A')
- 10YR2/2 黒褐色土 炭化物・暗褐色土ごく微量含む。



- RG223 (B-B')
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。

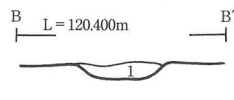


第217図 RG溝・堀跡 (17)



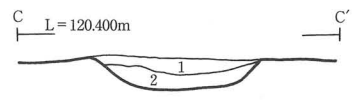
RG191 (A-A')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。やや砂質。



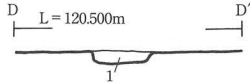
RG193 (B-B')

1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。



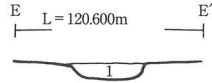
RG204 (C-C')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性を欠く。縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。



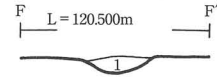
RG206 (D-D')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。水酸化鉄斑有り。



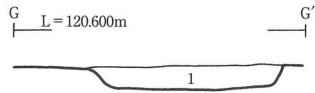
RG222 (E-E')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。礫(小・中)含む。



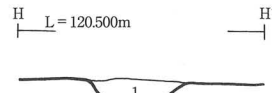
RG209 (F-F')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。礫(小・中)含む。



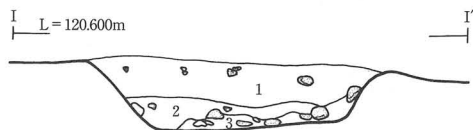
RG207・208 (G-G')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。礫(小・中)含む。



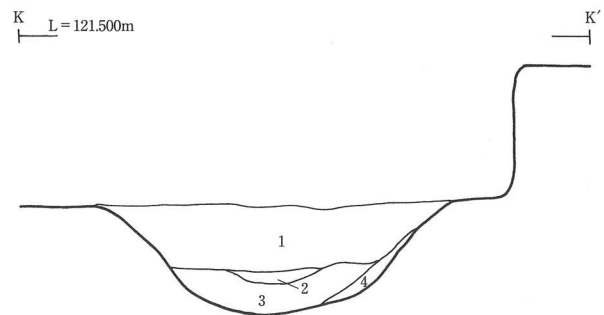
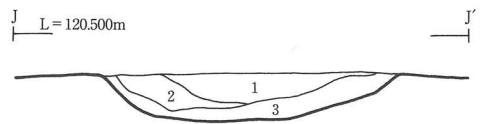
RG221 (H-H')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。水酸化鉄斑有り。



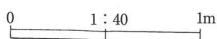
RG084堀 (I-I', J-J')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。河原石(小・中)多量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。河原石(小)少量含む。

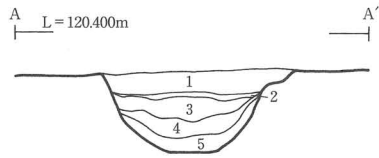


RG083堀 (K-K')

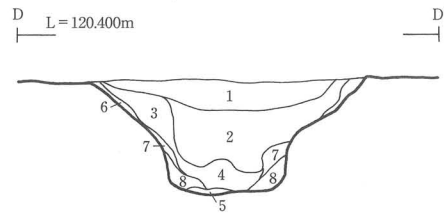
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。小礫含む。2層との境に炭粒が見られる。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。小礫多量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。小礫微量含む。
4. 10YR4/4 褐色砂質土及び礫層 粘性なし。縮まっている。



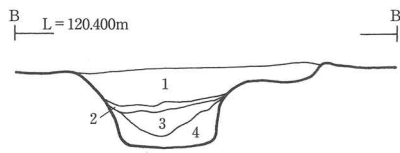
第218図 RG溝・堀跡 (18)



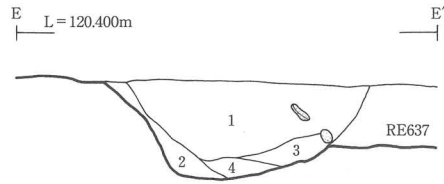
- RG198 (A-A')
- 10YR2/2 黒褐色土 柔らかい。小石少量含む。
 - 2.5YR5/8 明赤褐色土 水酸化鉄含む。床土。
 - 10YR2/2 黒褐色土。表土と同じやや砂質。明赤褐色土 (2.5YR5/8) ごく微量含む。
 - 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土(10YR2/2)との混合土。
 - 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性有り。やや砂質。底面に明赤褐色土 (2.5YR5/8) 含む。



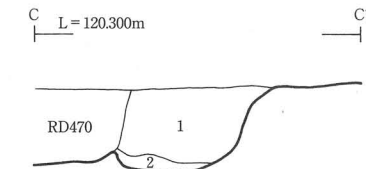
- RG198 (D-D')
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。固く締まる。炭含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。炭含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
 - 10YR5/4 におい黄褐色土 粘性・締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/2) で汚れている。
 - 10YR4/6 褐色砂質土 粘性やや有り。締まりを欠く。黒褐色土(10YR2/2)で汚れている。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土(10YR4/6)しみ状に含む。



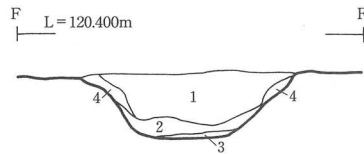
- RG198 (B-B')
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。
 - 2.5YR5/8 明赤褐色土。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性を次く。やや砂質。
 - 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土 (10YR2/2) との混合土。明赤褐色土 (2.5YR5/8) 含む。



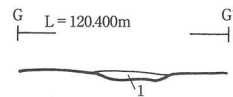
- RG198 (E-E')
- 10YR2/2 黒褐色土 水酸化鉄、砂少量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。柔らかい。明赤褐色土 (2.5YR5/8)、灰黄褐色土 (10YR4/2) 多量含む。
 - 2.5YR5/8 明赤褐色土 黒褐色土 (10YR2/2) が半分以上混じっている。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。灰黄褐色土 (10YR4/2) との混合土。



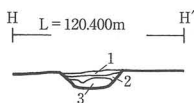
- RG198 (C-C')
- 10YR2/1 黒色土 粘性・締まりやや有り。炭微量含む。水酸化鉄斑有り。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2) 少量含む。



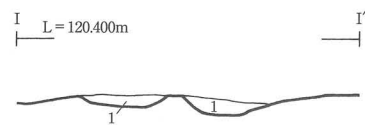
- RG198 (F-F')
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。固く締まる。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
 - 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。



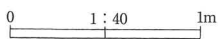
- RG202 (G-G')
- 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性を欠く。締まり有り。礫(径5cm大)部分的に含む。



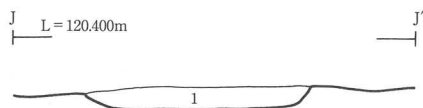
- RG202 (H-H')
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性を欠く。礫(径1cm大)含む。
 - 7.5YR5/8 明褐色土 水酸化鉄の堆積層。
 - 10YR3/3-3/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりを欠く。



- RG203 (I-I')
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2)・水酸化鉄有り。



第219図 RG溝・堀跡 (19)



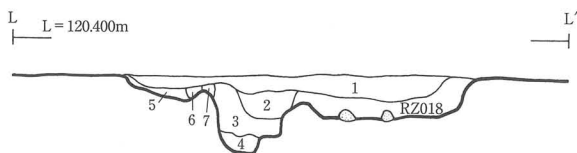
RG203 (J-J')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。灰黄褐色土ブロック (10YR5/2) 含む。水酸化鉄有り。



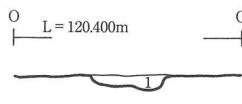
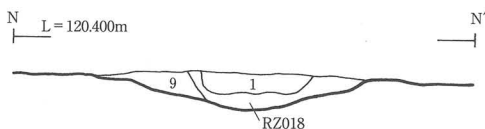
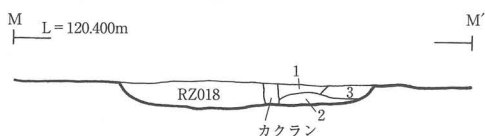
RG203 (K-K')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。にぶい黄褐色土ブロック (10YR4/3)・炭微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりを次く。にぶい黄褐色土ブロック (10YR4/3) との混合土。



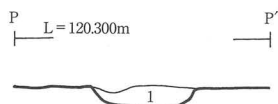
RG191・225・226 (L-L', M-M', N-N') ※馬歯出土地点

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。骨片 (馬骨) 少量・炭・焼土粒ごく微量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土粒 (10YR4/4) ごく微量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。小礫 (径2~3cm大) 数個含む。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土少量・小礫 (径5~10cm大) 数個含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭少量含む。
7. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりを欠く。褐色土 (10YR4/4) 大量に含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) 多量含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。



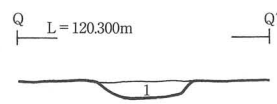
RG225 (O-O')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 多量・炭化物ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。



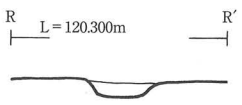
RG236 (P-P')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。明褐色土 (5YR5/6) ごく微量・水酸化鉄含む。床面近くに褐灰粘土質土 (10YR5/1) 含む。



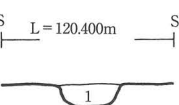
RG236 (Q-Q')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。明褐色土 (5YR5/6) ごく微量・水酸化鉄 (?) 含む。床面近くに褐灰粘土質土 (10YR5/1) 含む。



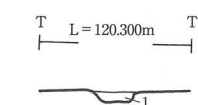
RG237 (R-R')

注記なし



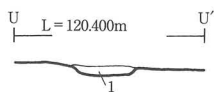
RG238 (S-S')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。黒褐色土 (10YR2/3) ごく微量含む。水酸化鉄・明赤褐色土 (5YR3/6・1×0.5cm大) ブロック状に3個含む。



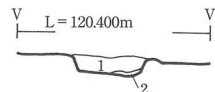
RG239 (T-T')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。黒褐色土 (10YR2/3)、明赤褐色土 (5YR3/6) 粒状にごく微量含む。水酸化鉄含む。



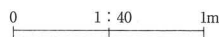
RG197 (U-U')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。明褐色土 (7.5YR5/8)、灰黄褐色土 (10YR5/2) 小粒にごく微量含む。東側に炭化物わずかに含む。

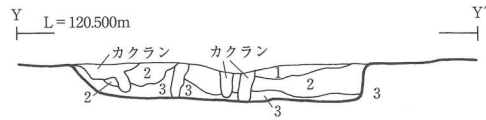
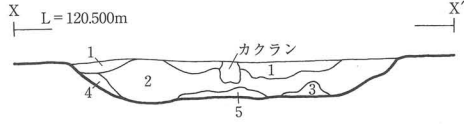
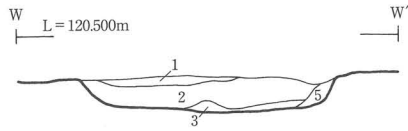


RG197 (V-V')

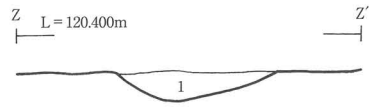
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。固く締まる。明褐色土 (7.5YR5/8)、灰黄褐色土 (10YR5/2) 小粒にごく微量含む。東側に炭化物微量含む。
2. 10YR4/2-5/2 灰黄褐色土 粘性やや有り。締まり有り。明褐色土 (7.5YR5/8) 小粒で含む。砂 (小粒) 微量含む。



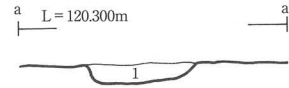
第220図 RG溝・堀跡 (20)



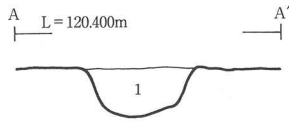
- RG199 (W-W', X-X', Y-Y')
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まりを欠く。
 3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性を欠く。締まりなし。砂微量含む。
 4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
 5. 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性・締まりなし。壁崩落土。



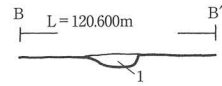
- RG193 (Z-Z')
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土ブロック微量含む。



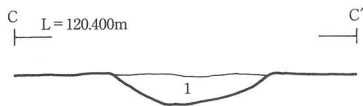
- RG193
1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性を欠く。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 含む。炭微量含む。



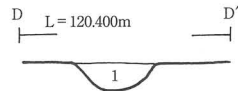
- RG191 (A-A')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土ブロック (10YR4/4) 少量含む。



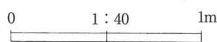
- RG192 (B-B')
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土小ブロック粒微量含む。



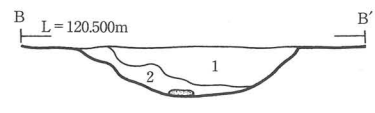
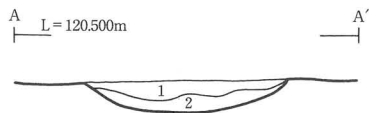
- RG193 (C-C')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性を欠く。締まり有り。礫 (径5cm大) 含む。



- RG194 (D-D')
1. 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや有り。締まり有り。壁際に褐色土ブロック含む。

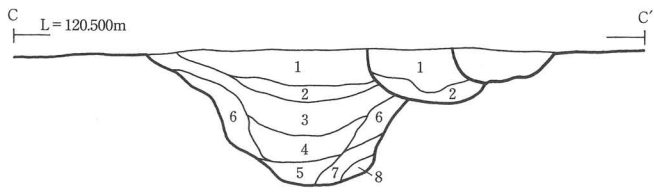


第221図 RG溝・堀跡 (21)



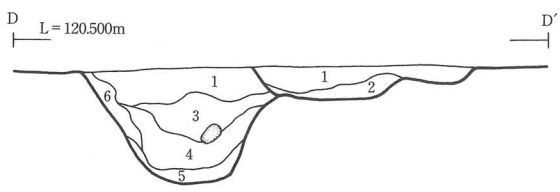
RG223 (A-A', B-B')

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。



RG043 (C-C', D-D')

- 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性を欠く。縮まり有り。水酸化鉄斑有り。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。円礫含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。水酸化鉄斑有り。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。水酸化鉄斑有り。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック少量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロックごく微量含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。黒褐色土など含む。

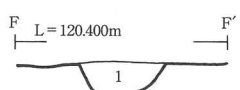
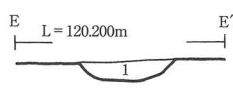


RG271 (C-C', D-D')

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック含む。

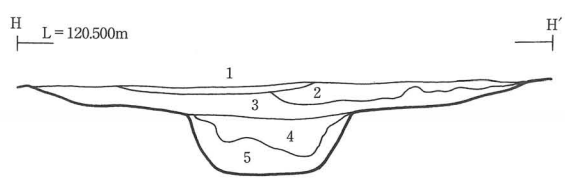
RG272 (C-C', D-D')

- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。



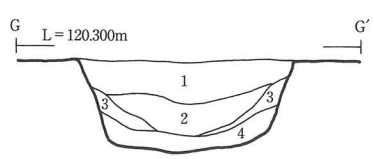
RG201 (E-E', F-F')

- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック含む。



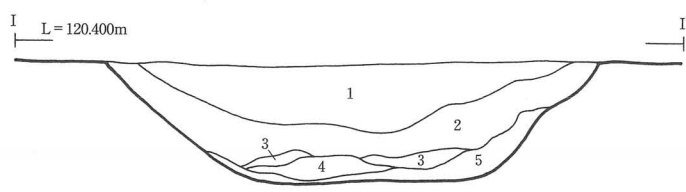
RG200 (H-H')

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。上部中心に暗褐色土 (10YR3/4) ごく微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土 (10YR4/4) 粒状にごく微量含む。水酸化鉄含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。
- 掘りすぎ(砂) 粘性・縮まりなし。水酸化鉄含む。



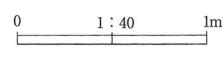
RG200 (G-G')

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。水酸化鉄斑有り。
- 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりやや有り。壁崩落土。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄斑有り。

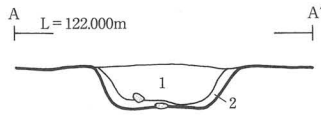


RG045 (I-I')

- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。地山ブロック少量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。河原石 (小) 少量含む。
- 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。
- 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。河原石微量含む。

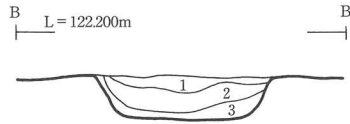


第222図 RG溝・堀跡 (22)



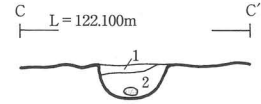
RG263 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性なし。締まり有り。褐色砂質ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/6) ごく微量含む。



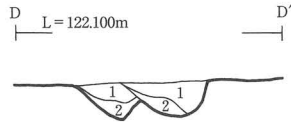
RG260 (B-B')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



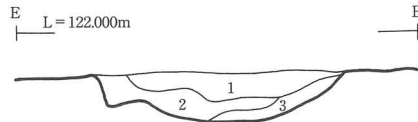
RG270 (C-C')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・締まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。堅く締まる。



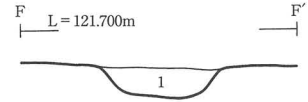
RG258・259 (D-D')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。褐色土ブロック (10YR4/6) 微量含む。



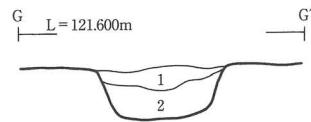
RG255・256 (E-E')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) ごく微量含む。



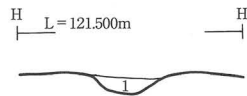
RG255 (F-F')

1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。



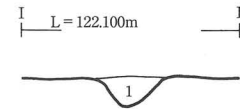
RG255 (G-G')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黄褐色砂質土 (10YR5/6) ごく微量含む。



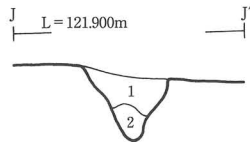
RG262 (H-H')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。床面に小石 (径2×3cm大) 有り。



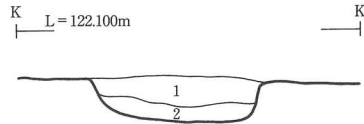
RG261 (I-I')

1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。



RG261 (J-J')

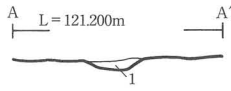
1. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・締まりやや有り。



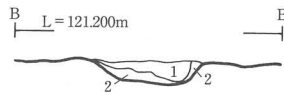
RG254 (K-K')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。

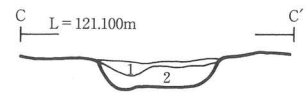
0 1:40 1m



RG247 (A-A')
1. 10YR4/4 黒褐色砂質土 粘性・縮まり有り。



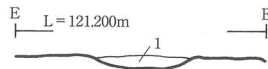
RG251 (B-B')
1. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性・縮まりやや有り。
褐色土 (10YR4/4) ごく微量含む。



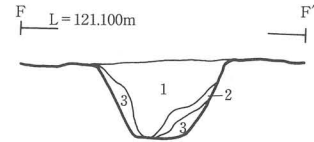
RG250 (C-C')
1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
2. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まり有り。



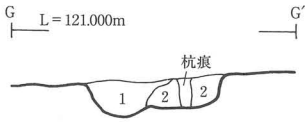
RG245 (D-D')
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。下部に黒褐色砂質土含む。



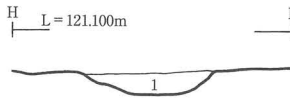
RG249 (E-E')
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし。縮まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



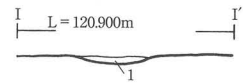
RG088 (F-F')
1. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。褐色砂質土ブロック (10YR4/4) 少量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色砂質土 (10YR4/4) 少量含む。



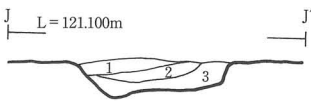
RG241 (G-G')
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄ごく微量含む。



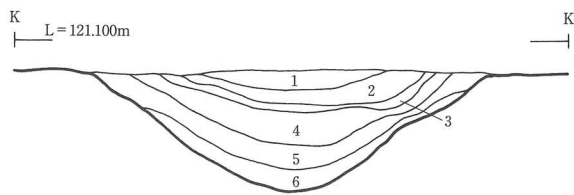
RG115 (H-H')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色砂質土 (10YR4/4) ごく微量含む。



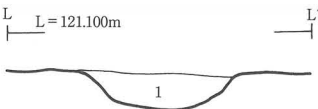
RG114 (I-I')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。



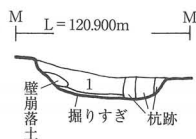
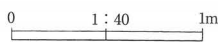
RG244 (J-J')
1. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。褐色土ごく微量含む。
2. 10YR2/2~3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
3. 礫層 東側は層が厚く、西側は薄い。小石 (径1~2cm大) 多量含む。



RG244 (K-K')
1. 10YR3/2~2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。
2. 10YR3/2~2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。弾力有り。水酸化鉄粒ごく微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。水酸化鉄粒ごく微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。水酸化鉄粒ごく微量含む。5層より水分少ない。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。水分多い。
6. 礫層 粘性なし。縮まり有り。東側は黒褐色土 (10YR3/2)。西~中央に小石 (径1~2cm大) 多量含む。水分多い。



RG244 (L-L')
1. 10YR2/2~3/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。下層ほど礫を含む。



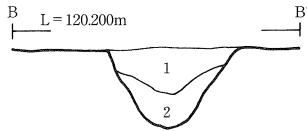
RG244 (M-M')
1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。縮まり有り。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まり有り。

第224図 RG溝・堀跡 (24)



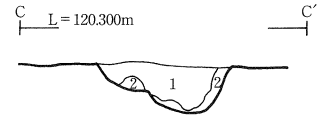
RG228 (A-A')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性有り。縮まり有り。褐色地山粒 (10YR4/4) ごく微量含む。



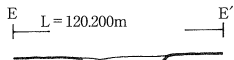
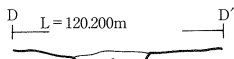
RG228 (B-B')

1. 10YR4/4 褐色土 粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。縮まりを欠く。地山ブロック少量含む。



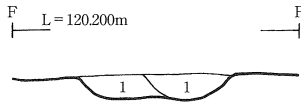
RG228 (C-C')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性やや有り。縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。縮まりを欠く。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



RG229 (D-D', E-E')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック微量含む。



RG228 (F-F')

1. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック微量含む。

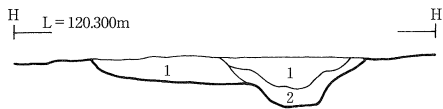
RG229 (F-F')

1. 10YR2/3 黒褐色シルト質土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



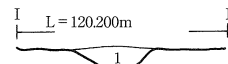
RG228・229 (G-G')

1. 10YR2/3 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。地山ブロック多量含む。



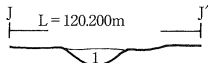
RG228・230 (H-H')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4・径1~2cm大) ごく微量含む。



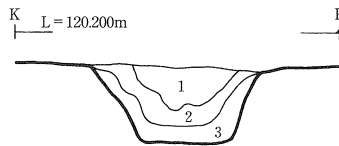
RG231 (I-I')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



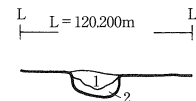
RG231 (J-J')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。



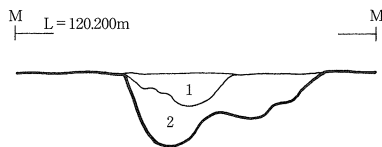
RG232 (K-K')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) 微量含む。
3. 10YR4/4 褐色砂質シルト質土 粘性有り。縮まりやや有り。暗褐色土 (10YR3/3) との混合土。



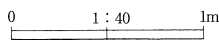
RG233 (L-L')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性・縮まり有り。黒褐色土 (10YR3/2) しみ状にごく微量含む。

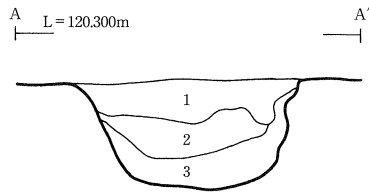


RG233 (M-M')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。褐色地山ブロック (10YR4/4) ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性有り。縮まりやや有り。褐色地山ブロック (10YR4/4・径0.5~3cm大) 微量含む。

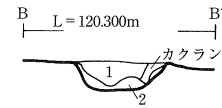


第225図 RG溝・堀跡 (25)



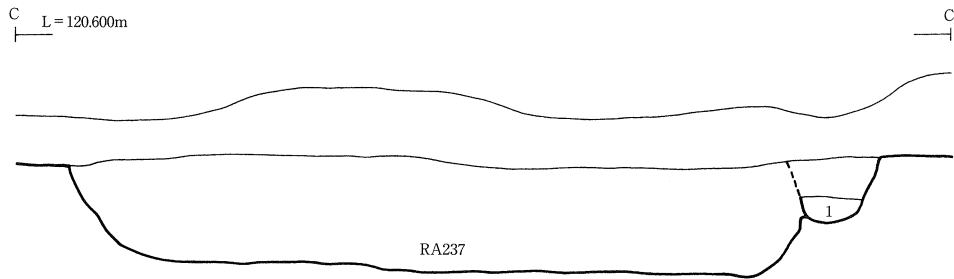
RG200 (A-A')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。
褐色土粒 (7.5YR4/4)、炭化物粒ごく微量含む。
水酸化鉄斑有り。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。
褐色土粒 (7.5YR4/4) 少量・炭化物粒ごく微量含む。
水酸化鉄斑有り。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。
褐色土粒 (7.5YR4/4) 微量・黄褐色土粒 (2.5YR5/3)、
炭化物粒ごく微量含む。水酸化鉄斑有り。



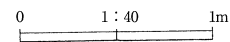
RG227 (B-B')

1. 10YR3/4 暗褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。
黄褐色地山ブロック (10YR5/6) ごく微量含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト質土 粘性・縮まり有り。
黄褐色地山ブロック (10YR5/6) 少量含む。



RG224 (C-C')

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。

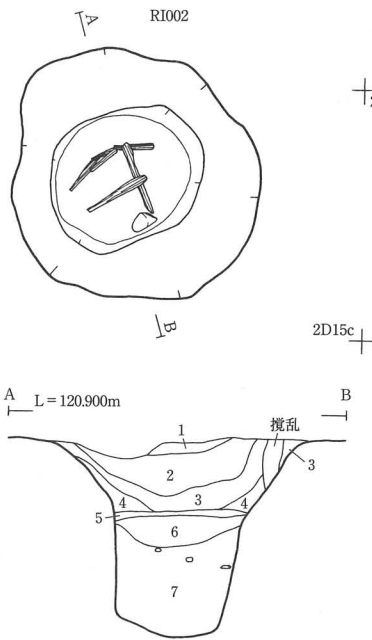


第226図 RG溝・堀跡 (26)

8 井戸跡

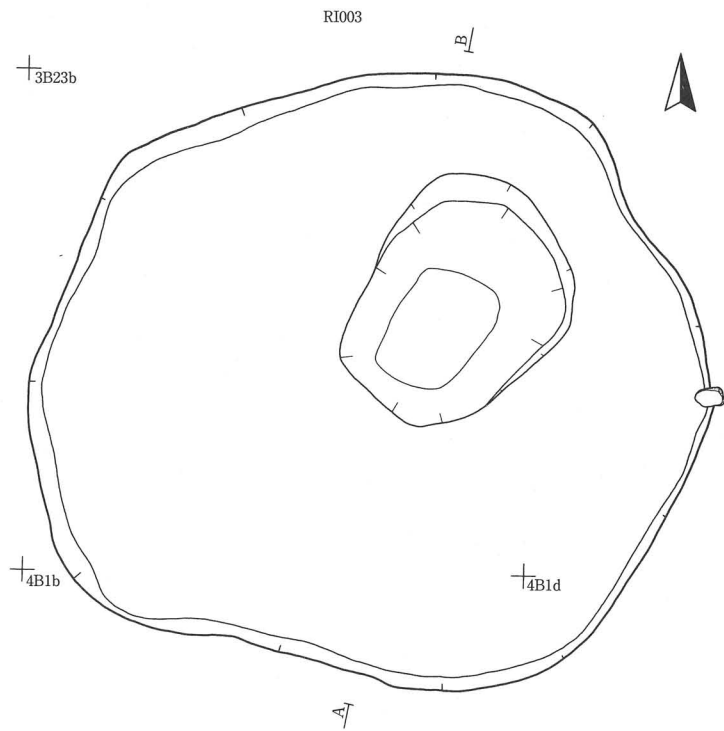
R1002井戸跡 (第227図・写真図版264)

<位置・重複関係>本遺跡東側2-B14b区に位置し、IV層面にて検出された。RG173と重複しているが、本遺構のほうが古い。 <規模・形態>開口部は不整な円形を呈し215×198cm、底部は楕円形で114×96cmを測る。深さは157cm程あり、底から100cm位まではほぼ垂直に立ち上がり、そこから外側に開いて開口部に至る。 <埋土>大きく7層に大別した。埋土中層から下層に関しては人為的に埋め戻されているようであるが、埋土上層に関しては、自然堆積か人為堆積か解らなかつた。本遺構は砂礫層まで掘り込まれており、完掘すると湧水が認められた。 <その他>木材が若干残っていたことから木枠を持つと推測されるが、具体的な構造については把握できなかった。 <遺物>出土遺物なし。 <時期>不明である。



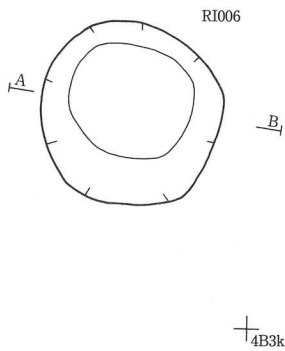
RI002

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4 褐色砂質土ごく微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まり有り。
10YR4/4 褐色砂質土ブロック微量含む。
人為的埋めどし。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。4層との境に径3~10cm大の礫多数含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。締まりなし。
10YR4/4 褐色砂質土ごく微量含む。
5. 7.5YR6/8 橙色土 粘性、締まりなし。やや砂質。遺構外に帯状にのびる。
6. 10YR2/1 黒色土 粘性極めて有り。締まりなし。
7.5YR6/8 橙色土の水酸化鉄分。10YR5/1 褐灰色土ごく微量含む。褐灰のグライ化分か。
7. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりなし。10YR5/1 褐灰色土 (グライ化した地山) 微量含む。



RI003

1. 10YR2/3 黒褐色土 炭粒ごく微量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
2. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロックを少量含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
3. 10YR2/3 黒褐色土と褐色土の混合土。粘性やや有り。締まり有り。
4. 10YR3/3 暗褐色土 若干砂ばい。褐色土・黒褐色土ブロックを不規則に含む。炭粒も含む。粘性やや有り。締まりやや有り。
5. 10YR3/4 暗褐色砂 粘性なし。締まりやや有り。



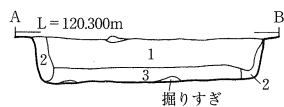
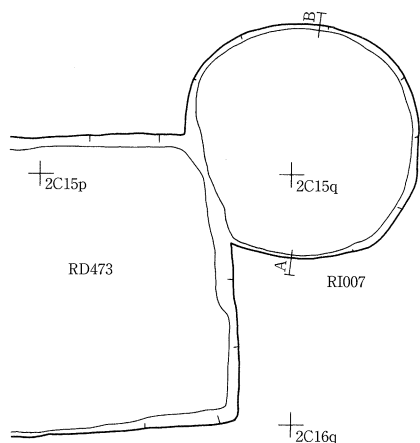
RI006

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。褐色土 (10YR4/4) ブロック微量含む。焼土粒・炭微量含む。径1~3cm及び人頭よりやや小さめの礫含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや弱。

3. 10YR2/2~2/3 黒褐色土 締まりやや有り。にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ブロック少量含む。
4. 10YR2/2~2/3 黒褐色砂質土 粘性やや有り。締まりやや弱。黒褐色土・褐色土ブロック少量含む。
5. 10YR4/4 褐色土 粘性やや有り。締まり有り。黒褐色土でよごれている。(壁崩落土)
6. 10YR4/1 褐灰色 粘性にとみ、締まりなし。褐色土 (10YR4/4) ブロック含む。礫含む。下からは水が湧きだしてくる。(故に井戸跡としたが土坑か?) (新しい埋めどしか?)

0 1:60 1m

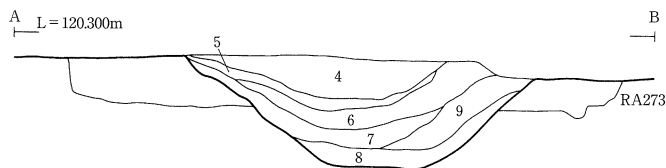
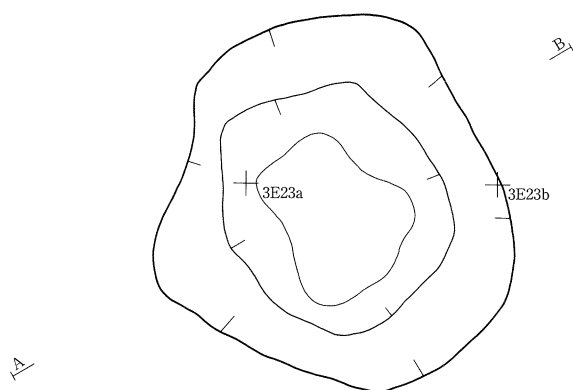
第227図 RI 井戸跡 (1)



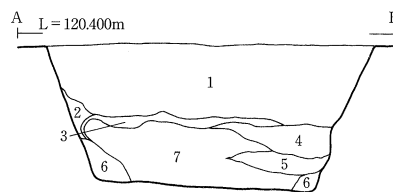
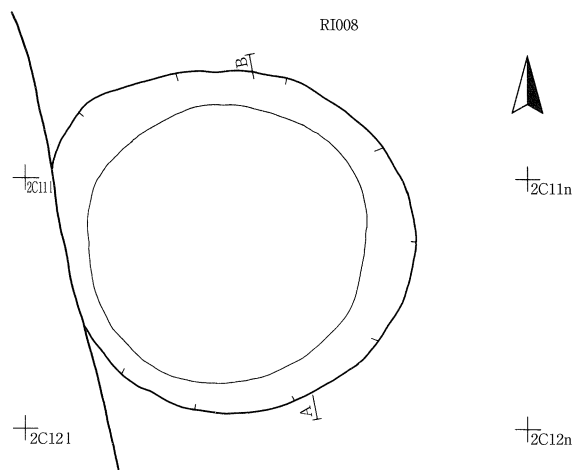
RI007

1. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック炭粒・小礫を含む。粘性・縮まりやや有り。
2. 10YR4/4 褐色土 黒褐色土がごく微量含む。粘性・縮まりやや有り。
3. 10YR4/4 褐色土 黒褐色土が少量含む。粘性・縮まりやや有り。

RI009



0 1:60 1m



RI008

1. 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック小中礫を多量含む。粘性やや有り。縮まっている。
2. 10YR3/3 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。
3. 5YR6/8 橙色 粘性やや有り。縮まっている。
4. 10YR3/3 暗褐色土 礫多量に含む。粘性やや有り。縮まっている。
5. 5YR6/8 橙色 礫大量に含む。粘性弱。縮まっている。
6. 10YR4/4 褐色砂 礫大量に含む。粘性弱。縮まっている。
7. 5B2/1 青黒砂質土 礫少量含む。粘性有り。縮まりやや有り。

RI009

4. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック少量含む。粘性やや有り。縮まり弱。
5. 10YR2/3 黒褐色土 地山ブロック大量含む。粘性やや有り。縮まっている。
6. 10YR2/3 黒褐色土 粘性・縮まりやや有り。
7. 10YR3/4 暗褐色土 粘性・縮まりやや有り。(炭粒含)
8. 10YR4/1 褐灰色砂質土 粘性・縮まりやや有り。
9. 10YR3/4 暗褐色土 褐灰色砂質土ブロック含む。粘性やや有り。縮まっている。

第228図 RI 井戸跡 (2)

R1003 井戸跡 (第227図・写真図版264)

<位置・重複関係>遺跡中央南側、3 B23 c 区に位置し、IV層面にて検出された。R G194とは同時期になるかもしれない。 <規模・形態>平面形は不整な円形を呈する。開口部径は5.4×4.9mを呈し緩やかに掘り下げているが、その内側を不整な隅丸長方形に2.1×1.5mの範囲をほぼ垂直に掘り込んでいる。深さは検出面から最大で0.9m程であった。 <埋土>自然堆積の様相を呈する。 <その他>礫層を掘り込んで構築されている。井戸というには浅かったが底面まで掘り下げた段階で湧水が認められた。井戸枠などはみられなかった。 <遺物>出土遺物なし。 <時期>遺構に伴う遺物はないが、周辺から検出されている遺構の状況から、中世及びそれ以降ではないかという印象をもつ。

R1006 井戸跡 (第227図)

<位置・重複関係>本遺跡中央部南側4 B2 j 区に位置し、IV層面にて検出された。周囲には中世の遺構が多く分布し北側を中心に墓壙群が、南東から南側にかけては竪穴建物跡がまとまって見られる他、この時期の柱穴も多く検出されている。 <規模・形態>検出面では145×143cm、底部で109×88cm、深さは60cmを測る。平面形は開口部では円形を基調とし、平坦な底部から外傾して立ち上がっている。 <埋土>5層に分けられた。埋土上層の1層は焼土・炭粒・中小礫などを含む人為堆積。2～5層は壁崩落土を含む自然堆積と考えられる。 <その他>近隣の中世墓群の埋土とは様相が異なること、底面まで掘り下げた段階で水が湧き出してきた事などから井戸として登録したが、井戸枠、石積などは認められなかった。 <遺物>無し。 <時期>周辺の状況から中世に属すると思われる。

R1007 井戸跡 (第228図・写真図版264)

<位置・重複関係>本遺跡の中央部やや南側2 C15 q 区に位置し、他の遺構と同様IV層面にて検出された。R D473と重複し、本遺構のほうが新しい。 <規模・形態>開口部径190×185cm、底部径186×184cm、深さは36cm程である。平面形は円形を呈し、底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。 <埋土>人為体積と思われる。壁面付近は崩落を防ぐためなのか褐色土を貼り付けている。 <その他>今回の調査で検出された井戸跡の中には比較的浅いものも見られるため本遺構に関しても井戸跡と考えたが、井戸にしては浅すぎること、底面まで掘り下げても湧水がないことなど他の施設の可能性もある。 <遺物>無し。 <時期>R D473との重複関係や周辺で検出された遺構などから、近世かそれ以降に属すると思われる。

R1008 井戸跡 (第228図・写真図版264)

<位置・重複関係>本遺跡の中ではほぼ中央部、2 C11 l 区に位置し、IV層面にて検出された。 <規模・形態>西側の一部が調査区外に達しているが、平面形は円形を呈する。検出面で284×276cm、底面で226×222cm、深さは114cmを測る。壁は平坦な底面から一旦垂直気味に50cm程立ち上がり、それから外傾して立ち上がっている。 <埋土>中小の自然礫及び地山ブロックを多量に含み埋め戻された様相を呈する。また、埋土下層はグライ化している。 <その他>底面近くまで掘り下げた段階で水が浸み出してきた。木枠や石組みなどの施設は持たないと思われる。 <遺物>出土遺物なし。 <時期>時期を特定する資料を欠くが、周辺に分布する遺構や、埋土の状況から近代以降の所属と思われる。

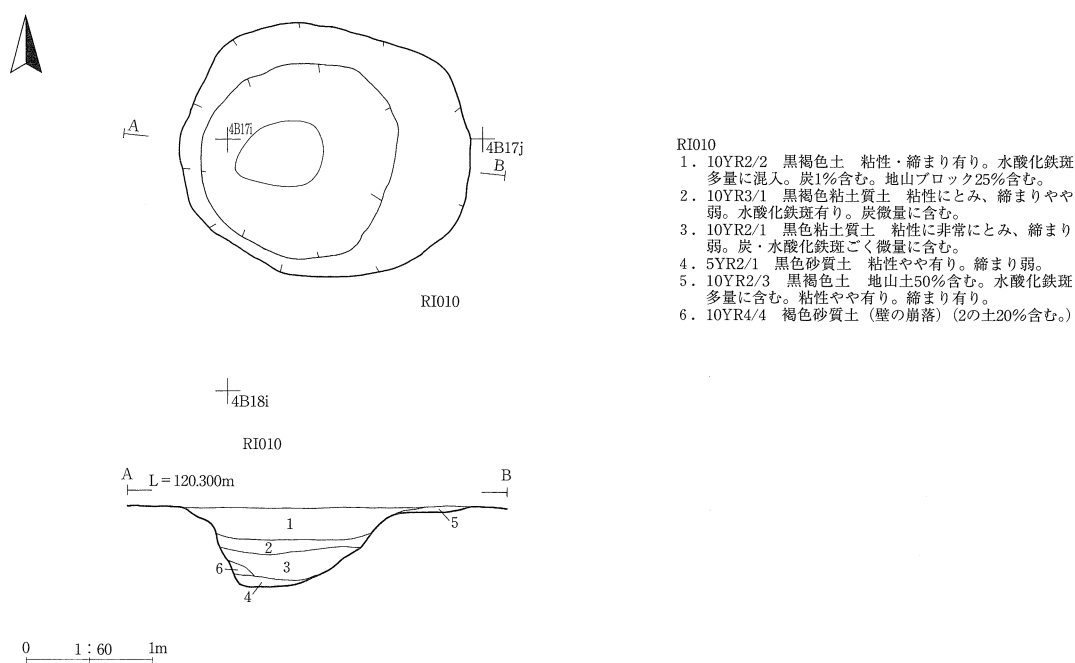
R1009 井戸跡 (第228図・写真図版265)

<位置・重複関係>本遺跡南東側、3 E23 a 区に位置している。R A273と重複し、本遺構の方が新しい。

＜規模・形態＞開口部径323×282cm、底部径126×114cm、深さは87cm程で平面形は不整形である。底部は概ね平坦で、壁は緩やかに外側に開きながら立ち上がっている。＜埋土＞黒褐色土の中に地山ブロックが混じる埋土上層は人為堆積と思われる。暗褐色土及び褐色砂質土で構成される埋土下層は自然堆積の様相を呈する。＜その他＞底面は砂礫層に達しており、若干の湧水も認められた。土留め等の施設を持たない地面を掘り下げただけの井戸であったと思われる。＜遺物＞出土遺物なし。＜時期＞R A 273との重複関係から奈良時代よりは新しい遺構である。本遺構の南東側10m程の所に中世の柱穴群及び土坑等が検出されている。また、周囲には奈良時代以外の遺構が先述した中世の柱穴群及び土坑等しか見られないことからこの井戸も中世に属する可能性がある。

R I O 1 0 井戸跡（第229図・写真図版265）

＜位置・重複関係＞遺跡の南側中央、4 B 17 i 区に位置しIV層面にて検出された。＜規模・形態＞開口部径230×202cm、底部径74×53cm、深さは63cmを測る。平面形は円形を基調とし壁は、西側より東側のほうが底部から緩やかに立ち上がっている。＜埋土＞黒褐色土及び黒色土に水酸化鉄と炭粒を含み、埋土下層では黒色砂質土となる。＜その他＞本遺構のすぐ北側からは墓壙群や竪穴建物跡・掘建柱建物跡をはじめとする中世の遺構が多数見つかっている。また、南側には湿地が広がっており比較的水の湧き出し易い地点に井戸を掘っているといえそうである。井戸の構造については井戸枠など施設は認められなかったため単に地面を掘り下げただけのものと考えられる。＜遺物＞出土遺物なし。＜時期＞周辺で検出された遺構との関係から中世に属すると思われる。



第229図 RI 井戸跡（3）

9 その他の遺構

(1) 円形周溝

RZ010 円形周溝 (第230図・写真図版268)

<位置・重複関係>本遺跡のやや東側、1C23d区に位置する。IV層面で検出され重複関係はない。

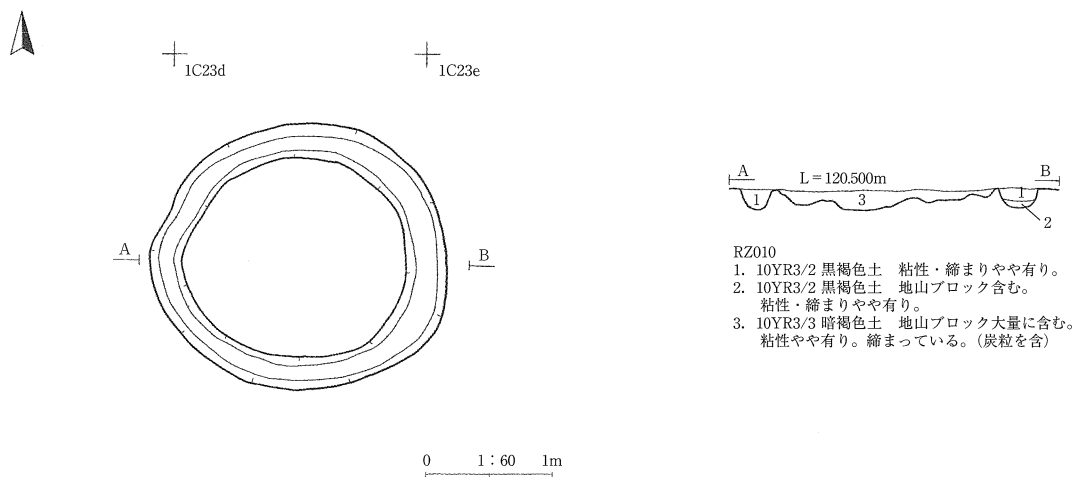
<規模・形態>上幅36~22cm、下幅18~11cmの溝がほぼ円形に巡っている。直径は約2.3m、周溝の深さは18~12cm程である。 <埋土>周溝は自然堆積でよいと思われる。周溝の内側も一旦掘り込まれた後、土を入れているようである。 <その他>現況からはマウンドなどの上部構造は把握できなかった。検出段階で河原石などが出土したわけでもない。近所の住人の中にはこの付近から蕨手刀が出土したと語る人もおられるが具体的な地点についてはわからないとのことであった。 <遺物>出土遺物なし。 <時期>遺物を伴わないため広く古代と位置付けたい。

RZ013 円形周溝 (第231図・写真図版270)

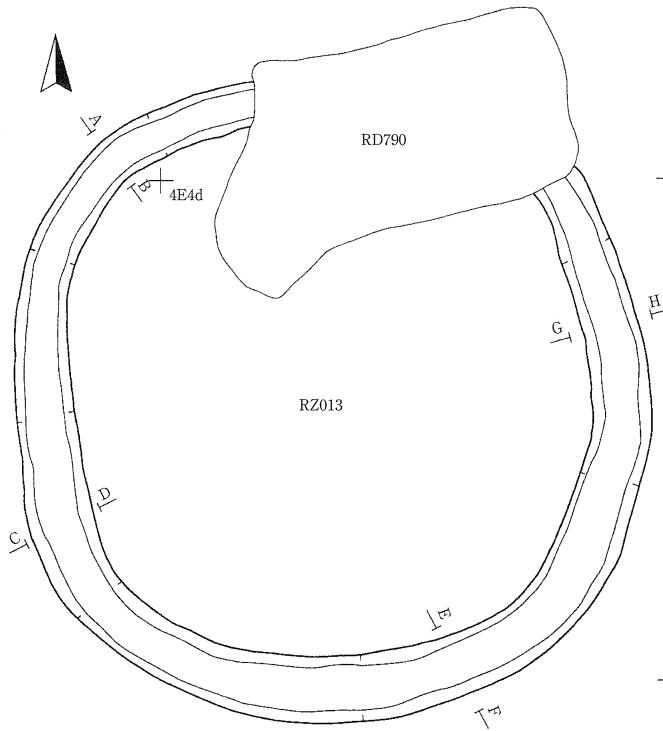
<位置・重複関係>本遺跡の南東側(休耕田)、4E4d区に位置しIV層面にて検出された。RD790及び柱穴群より古い。 <規模・形態>上幅53~36cm、下幅38~28cm、深さ22~13cmの溝がほぼ円形に巡っている。直径は5.2~5.0mを測り、周溝の底面は概ね平坦であった。 <埋土>自然堆積の様相を呈する。 <その他>周溝の内側から遺構は検出されなかった。 <遺物>なし。 <時期>遺物を伴わなかったが古代の遺構でよいと思われる。

RZ015 円形周溝 (第231図・写真図版272)

<位置・重複関係>本遺跡の南東側、3D8s区に位置し、IV層面で検出された。RG045より古い。 <規模・形態>上幅58~34cm、下幅42~20cm、深さ26~10cmの溝が不整な長円形状に巡っている。長さは北西-南東4.6m、北東-南西は4.0m程と推測され、周溝の底面は凹凸となるものではない。 <埋土>自然堆積と思われる。 <その他>周溝の内側からはとくに遺構は検出されていない。表土を重機により除去したため失われたのかもしれない。 <遺物>出土遺物なし。 <時期>時期決定の資料を欠くが古代の遺構でよいと思われる。



第230図 RZ010 円形周溝



0 1:60 1m

L=120.200m
A — B



A-B

1. 10YR2/3 黒褐色土
粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR3/2 黒褐色土
地山ブロック多量含む。
粘性・締まりやや有り。

+ 4e4f

L=120.200m
C — D



C-D

1. 10YR3/2 黒褐色土
地山ブロック少量含む。
粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR3/3 暗褐色土
地山ブロック多量含む。
粘性・締まりやや有り。

L=120.200m
E — F



E-F

1. 10YR2/3 黒褐色土
地山ブロック微量含む。
粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR3/4 暗褐色土
地山ブロック多量含む。
粘性やや有り。締まっている。
3. 10YR5/6 黄褐色土
黒褐色ブロック微量含む。
粘性やや有り。締まっている。

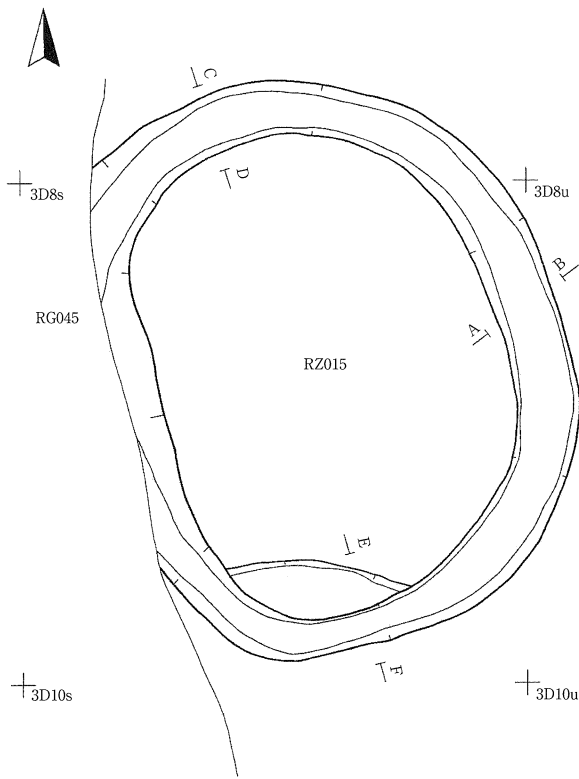
+ 4e6f

L=120.200m
G — H



G-H

1. 10YR2/3 黒褐色土
地山ブロック微量含む。
粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR5/6 黄褐色土
黒褐色土少量混じる。
粘性やや有り。締まっている。



0 1:60 1m

L=120.200m
A — B



A-B

1. 10YR3/2 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
地山粒 (10YR4/4 褐色)
5%含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
地山粒 (10YR4/4 褐色)
地山ブロック (10YR4/4 褐色)
径5mm~10mm20%含む。

L=120.200m
C — D



C-D

1. 10YR3/2 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
地山粒 (10YR4/6 褐色)
3%含む。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
地山粒 (10YR4/6 褐色)
3%含む。地山ブロック
(10YR4/6 褐色)
径10mm~20mm15%含む。

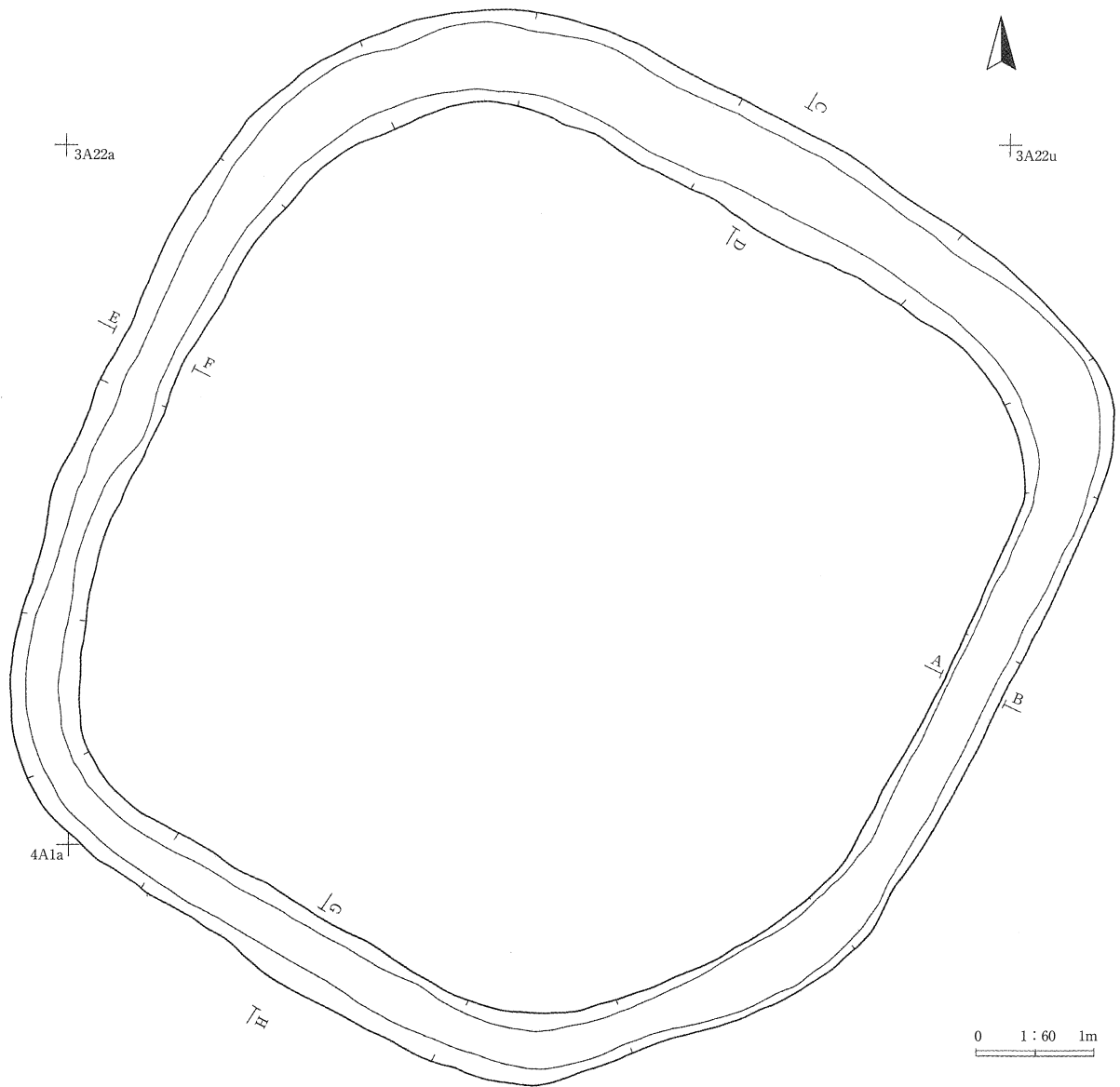
L=120.200m
E — F



E-F

1. 10YR3/2 黒褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
2. 10YR3/3 暗褐色シルト
粘性有り。締まり有り。
地山粒 (10YR5/6 褐色)
3%含む。

第231図 RZ013・015円形周溝

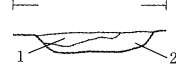


L=120.600m



A-B
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。締まっている。

C D L=120.600m



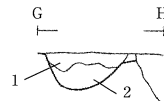
C-D
1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや有り。中小礫を若干含む。締まっている。
2. 10YR3/3 暗褐色土と褐色土の混土。粘性やや有り。締まっている。

L=120.600m



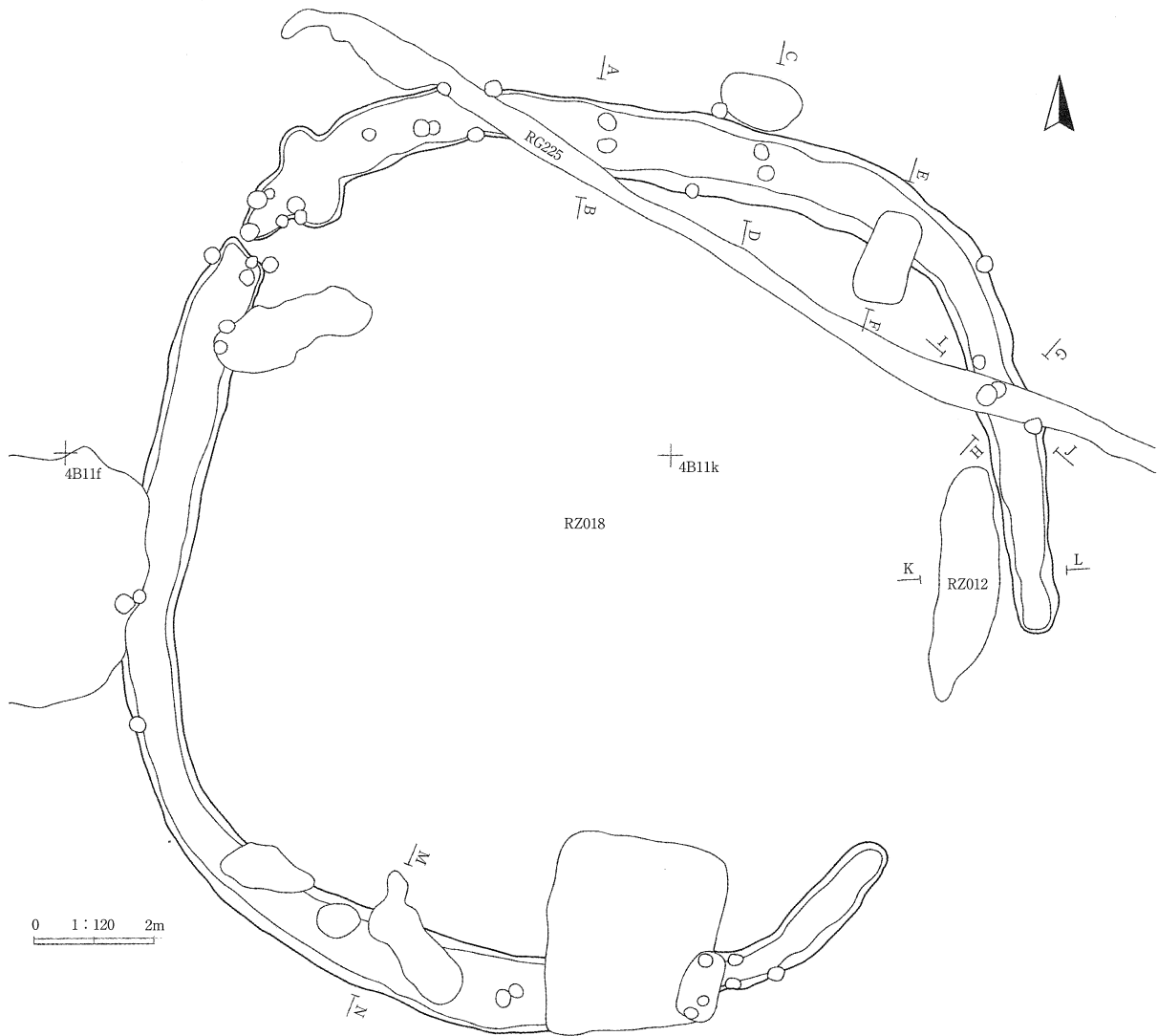
E-F
1. 10YR3/3 暗褐色土 小礫を少量含む。粘性やや有り。締まっている。

L=120.600m

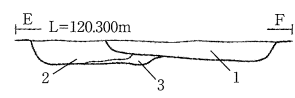
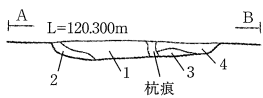


G-H
1. 10YR3/3 暗褐色土 中小礫含む。粘性やや有り。締まっている。
2. 10YR4/4 褐色土と暗褐色土の混土。粘性やや有り。締まっている。

第232図 RZ017円形周溝



0 1:120 2m

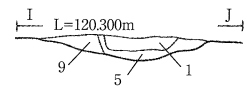
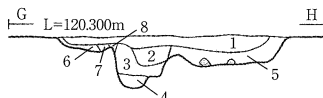
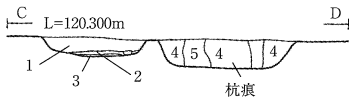


RZ018 (RG225との重複)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り、締まり有り。褐色土粒ごく微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土多量に含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱。締まり有り。褐色土ブロック微量含む。

RZ018 (RG769との重複)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭粒・焼土粒ごく微量含む。褐色土微量含む。(RD769)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ごく微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土と褐色土との混合土。粘性・締まり有り。



RZ018 (RZ788との重複)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭粒・焼土粒微量含む。褐色土ブロック多量に含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘性有り。締まり弱。炭粒微量に含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ブロック少量含む。
5. 10YR2/1 黒色土 粘性有り。締まりやや弱。黒褐色土多量、炭・焼土粒ごく微量含む。

RZ018 (RZ012) (G-H I-J)

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。水酸化鉄斑多量に有り。炭粒ごく微量、にぶい黄褐色土粒微量含む。
2. 10YR3/1 黒褐色土 粘性有り。締まり有り。褐色土粒ごく微量含む。
3. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土粒微量含む。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。小礫数個見られる。
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土微量、中小礫数個含む。
6. 10YR3/1 黒褐色土 粘性・締まり有り。炭粒少量含む。
7. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り、締まりやや弱。褐色土多量に含む。
8. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土多量に含む。
9. 10YR2/2 黒褐色土 粘性・締まり有り。褐色土ごく微量含む。

0 1:60 1m

第233図 RZ018円形周溝 (1)

R Z 0 1 7 円形周溝（第232図・写真図版274）

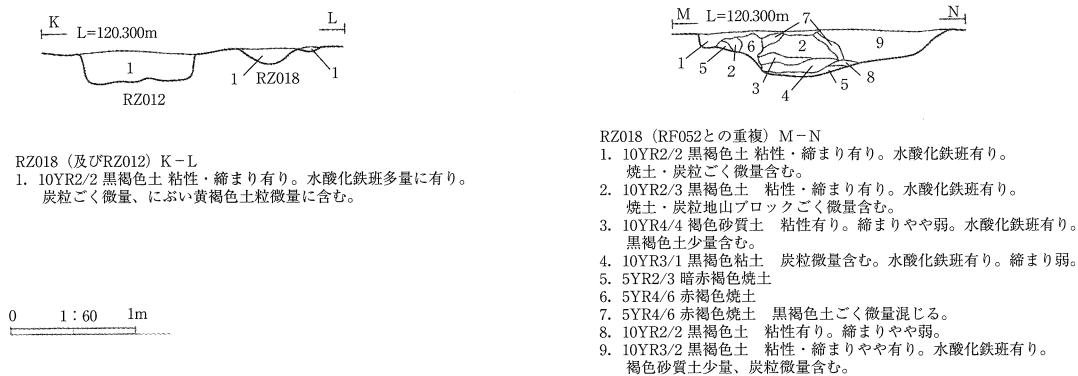
<位置・重複関係>本遺跡の中央部南側、3 A 23 r 区に位置し、IV層面にて検出された。<規模・形態>上幅88~48cm、下幅60~18cmの溝が隅丸形状に巡っている。北東-南西方向で8.4m、南東-北西方向8.1mを測る。周溝は深さ29~12cmで南側約半分は礫層を掘り込んでいる。<埋土>自然堆積でよいと思われる。<その他>周溝の内側ではとくに遺構を確認できなかった。現況からも同様である。本遺構から最も近い古代の住居跡はR A 223（奈良時代）で東に約20m、他にR A 230（奈良時代）が北に約60mのところにある。平安時代の住居跡は周辺では確認されなかった。<遺物>出土遺物なし。<時期>遺物を伴わなかったが古代の遺構と思われる。

R Z 0 1 8 円形周溝（第233・234図・写真図版275）

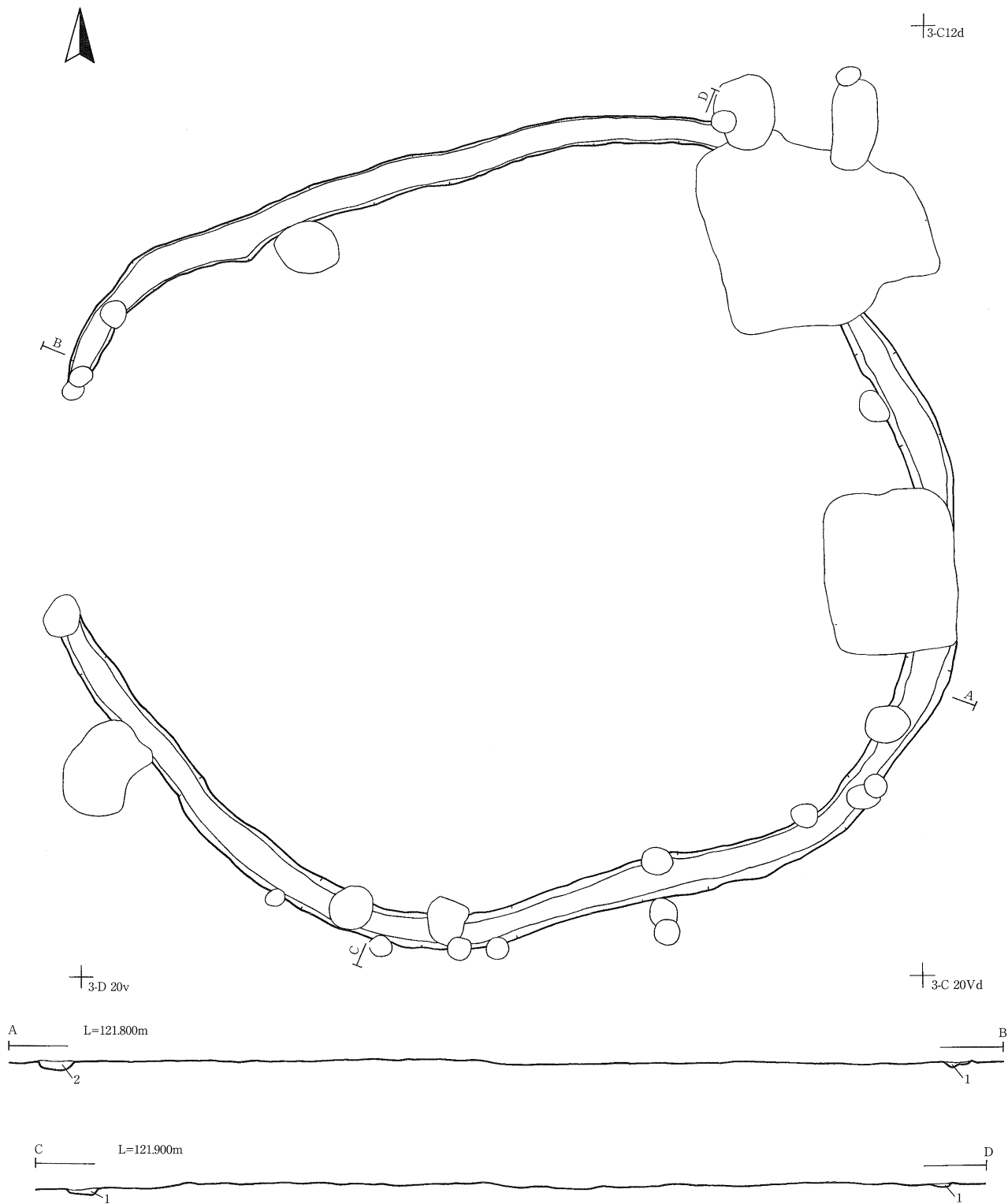
<位置・重複関係>本遺跡南側中央部、4 B 11 k グリッド付近に位置し、IV層面にて検出された。R A 280・R E 043・R D 769・R F 039・R F 047・R F 043・R F 052と重複するが本遺構の方が古い。<規模・形態>南北15.6m、東西15.1mに、上幅66~36cm、深さ約10cmの溝がほぼ円形に巡っている。南東側に溝が切れている箇所が存在する。<埋土>黒褐色土を主体とする自然堆積である。<その他>南東部にある溝が切れている部分については、意図的にこの部分を開口部としたとも考えられるし、掘り込みが本来浅くそのために失われたと考えることができる。残存する他の溝の部分も決して深くなく、丁度この部分にR Z 011が位置しており、失われたと判断したい。<遺物>なし。<時期>遺構に伴う遺物がなく時期不明である。

R Z 0 1 9 円形周溝（第235図・写真図版276）

<位置・重複関係>本遺跡西側、3 - D 12 v ~ 3 - C 19 c 区にかけて位置し、他の遺構と同様にIV層面にて検出された。R D 622・628・648ほかと重複するが本遺構のほうが古い。また、多数の柱穴とも重複しているが同様に本遺構のほうが古い。<規模・形態>平面径は円形というよりも隅丸方形に近く、西側では溝が一カ所途切れている。北東-南西方向で8.6m、北西-南東方向では7.9mを測る。溝の上幅は40~30cm、下幅は33~23cm程で、深さは10cm前後しか残存していない。<埋土>溝の深さは10cm程と残存状態は良くない。黒褐色土を主体としその中にぶい黄褐色土がごく微量含まれている。自然堆積で良いと思われる。<その他>周溝の西側は一カ所途切れた状態で検出されているが、現地表面からは40cm前



第234図 RZ018円形周溝（2）



RG019 A-B, C-D
 1. 10YR2/3 暗褐色土 粘性、締まりやや有り。
 2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性、締まりやや有り。
 10YR5/4 におい黄褐色こく微量含む。

第235図 RZ019円形周溝

0 1:50 1m

後掘り下げて遺構検出したため、溝の深さは10cm前後しか残らない状態であった。そのため本来は溝が巡っていた可能性も否定できない。周溝内部には時期の異なる土坑や柱穴群が見られるが、本遺構に伴う施設は把握できなかった。周辺では平安時代の竪穴住居跡が密集した状態で30棟以上確認されている。隣接しているものの本遺構との重複はなく、これは时期的に近いが、竪穴住居跡がつくられる以前に本遺構が存在していたことを意味していると思われる。〈遺物〉なし。〈時期〉遺構に伴った形での遺物の出土はないが、周囲の状況から平安時代かそれ以前に属すると思われる。

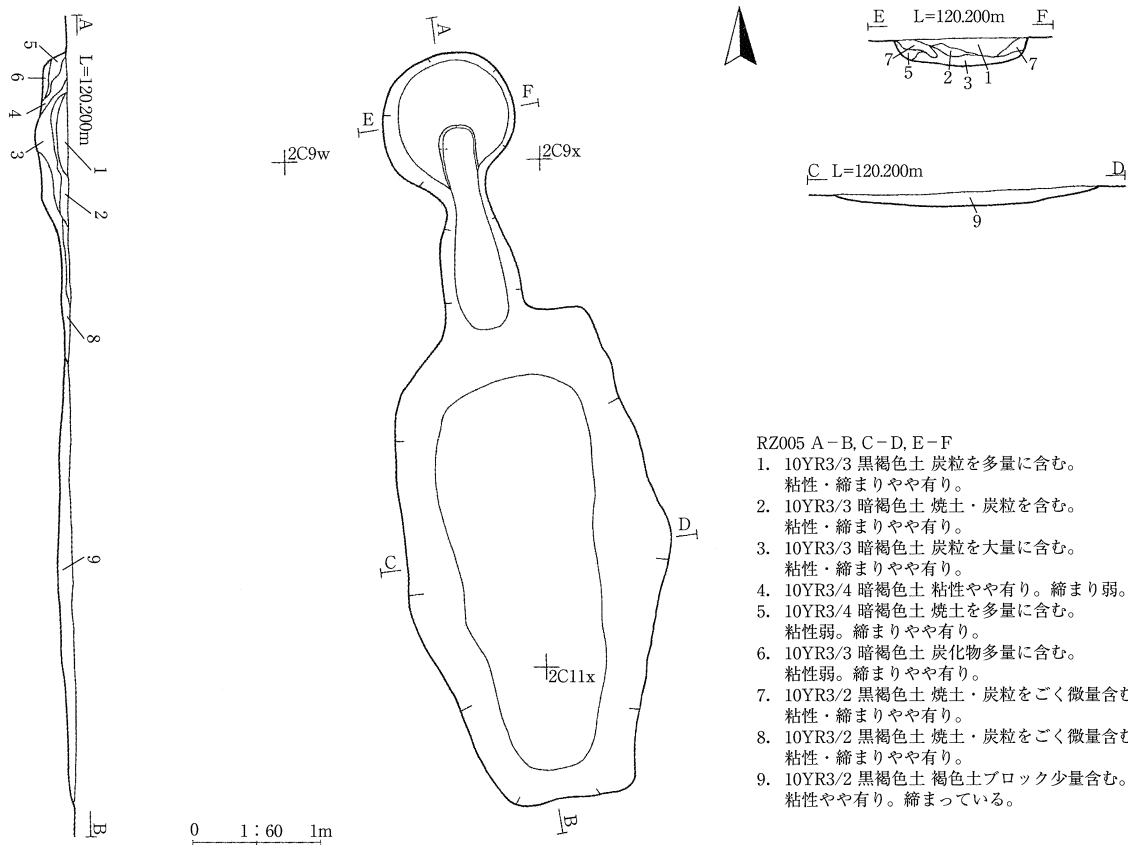
(2) 炭窯跡

RZ005 炭窯跡 (第236図・写真図版267)

〈位置・重複関係〉本遺跡の東側、2C9w区に位置し、IV層面にて検出された。重複関係なし。

〈規模・形態〉検出面での規模は南北方向に長さ5.9m、最大幅は北側が1.04mで平面形はほぼ円形、南側は2.1mを測り不整な長方形を呈し両者の間が括れて狭くなっている。深さは北側が26cmなのに対し南側は最大13cmと浅く壁も底面から緩やかな立ち上がりとなっている。底面は硬く締まるものではない。

〈埋土〉残りの悪い部分もあるが自然堆積を呈すると思われる。平面形が円形を呈するほうでは壁に沿って焼土が北側を中心に堆積している。〈その他〉炭窯を想定し南側が窯本体、北側は煙道及び煙出しと考えたが、その割には炭化材や焼土が顕著に見られなかった。従って炭窯以外のものかもしれない。〈遺物〉(第362図・写真図版344) 陶器碗(727)が出土している。〈時期〉時期不明であるが、近世以降のものではないかという印象をもつ。

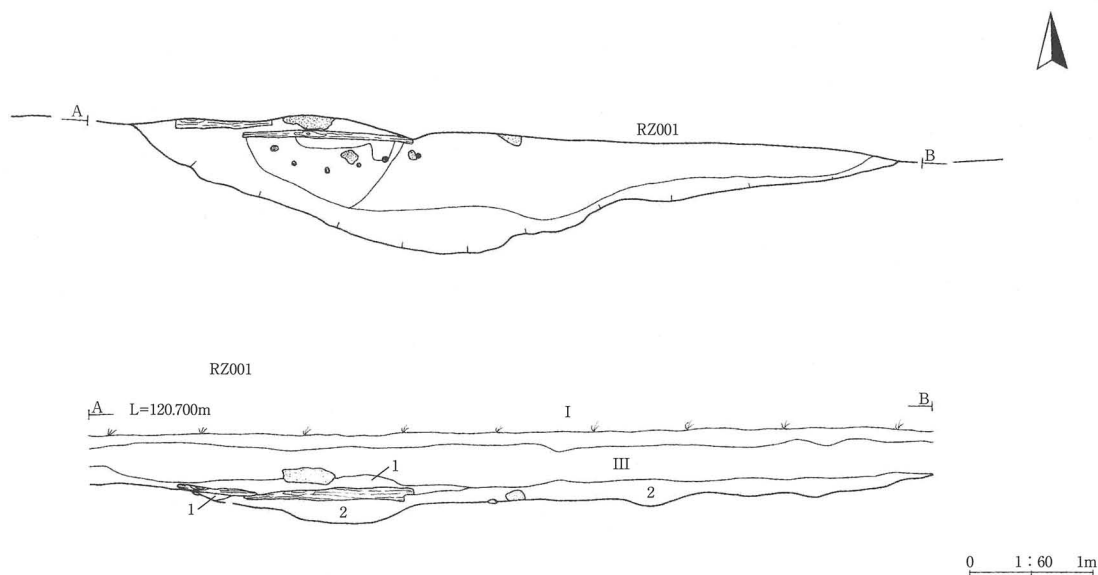


第236図 RZ005炭窯跡

(3) 性格不明遺構

RZ001 (第237図・写真図版266)

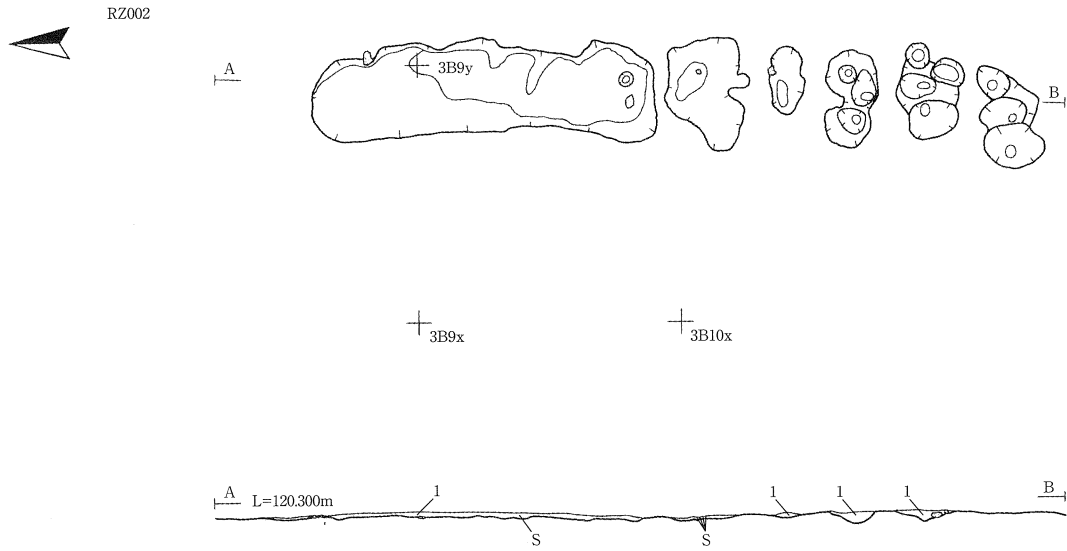
<位置・重複関係>遺跡中央部南側の3B2m区に位置し、IV層上面にて検出された。 <規模・形態>北側部分は調査区外に広がっており、むしろ遺構の南側が一部検出されたような状況である。東西方向に6.4m、南北方向へは1m程検出され、深さは最大で42cmを測る。平面形は不明であるが、おそらく楕円形から円形、もしくは溝の一部が膨れたような形態が考えられる。 <埋土>概ね自然堆積で良いと思われ、埋土の土質から水の流れや溜まりがあったと推測される。自然礫も混じっている。ただし埋土上層(1層)については木材を含め人為的な埋め戻しの可能性がある。 <その他>最も落ち込む底面部分には細い木杭を20~30cm間隔に打ち込んでいた。埋土中にも木材が地面と水平な状態でみられた。 <遺物>(第331図・写真図版318・319)底部に打ち込んでいた杭(506・507)の他、木材も加工された柱状のもので、本遺構が埋まりかけた段階で入れたものと考えられる。 <時期>時期を特定できる資料を欠くが、多分近



RZ001 A-B

- I. 10YR2/3 黒褐色土(表土) 粘性やや有り。縮まり弱。
- III. 10YR3/2 黒褐色土 水酸化鉄斑有り。粘性やや有り。縮まっている。
- 1. 10YR3/2 黒褐色土 水酸化鉄斑有り。地山ブロック少量含む。粘性・縮まりやや有り。
- 2. 10YR2/3 黒褐色土 水酸化鉄斑有り。粘性やや有り。縮まり弱。

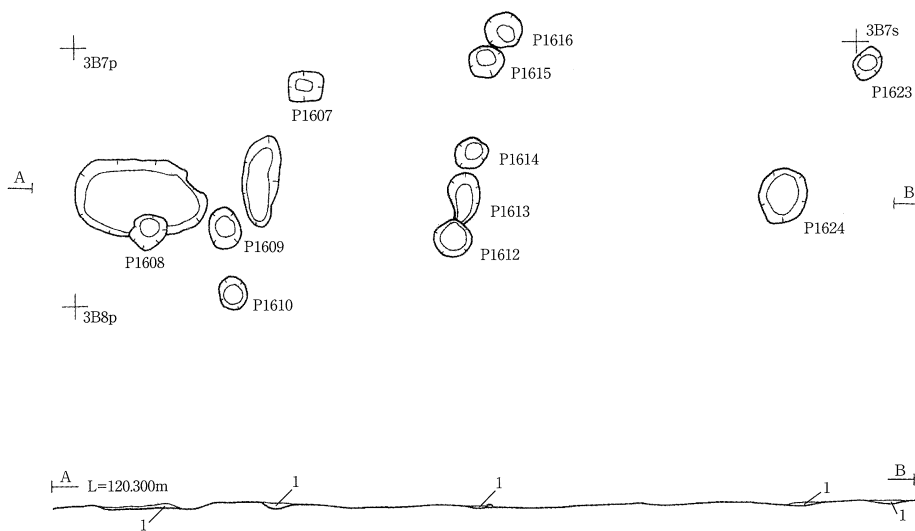
第237図 RZ001性格不明遺構



RZ002 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱。締まりやや有り。径1~5cmの礫を含む。底面にも礫が散在する。底面には水酸化鉄の堆積がみられる。

RZ003



RZ003 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱。締まりやや有り。水酸化鉄による影響を多大に受け、部分的に赤っぽくなっている。木の根を多く含む。径1~5cmの細かい礫（河原石）を多量含む。

0 1:60 1m

第238図 RZ002・003性格不明遺構

世かそれ以降の遺構と思われる。

R Z 0 0 2 性格不明遺構（第238図・写真図版266）

<位置・重複関係>遺跡南側のほぼ中央、3 B 9 x 区に位置している。重複する遺構はない。<規模・形態>不整形な落ち込みが南北方向に複数連なって並ぶようなプランを呈する。長軸はほぼ南北方向で長さ5.6m、幅約0.9m、深さは10cm弱を測る。個々の落ち込みの底面も多少凹凸をなすが本来はもっと深さのある遺構で現在の水田耕作により削平されてしまっている。<埋土>黒褐色土を主体とし、埋土内から底面に掛けて小礫が散在する。自然堆積か人為堆積か不明である。<その他>同様の形態をなす遺構が他にもあり、東へ8m程の所にはR Z 004が、同じく東へ17m程の所にはR Z 003、東南東24mにはR Z 009、南側へ約15mの所ではR Z 008が検出されている。これらが結びついて機能する施設なのか、各で成り立っている遺構なのか不明である。<遺物>（第325図・写真図版314）土師器の細片の他に磁器皿片（458）が1点出土しているが、特徴のない部位で時期はわからなかった。<時期>時期不明であるが、周辺の遺構の状況から近世かそれ以降と思われる。

R Z 0 0 3 性格不明遺構（第238図・写真図版266）

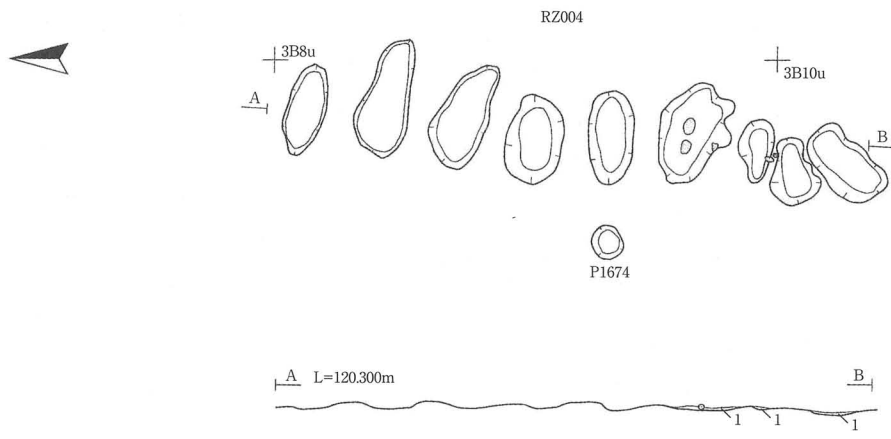
<位置・重複関係>遺跡南側のほぼ中央部、3 B 7 p 区にて検出された。重複する遺構はない。<規模・形態>不整形な窪みが東西方向に不連続に並ぶような平面形態を呈する。長さは東西方向で約5.7m、幅45～70cm、深さは10cm弱である。それぞれの窪みの底面は幾分凹凸をなし、壁は外傾して立ち上がっているが、水田耕作により底部付近のみが残存し検出されたものである。<埋土>黒褐色土の中に小礫が多量に含まれていた。自然堆積か人為堆積かは不明である。<その他>周囲には類似する形態の遺構が検出されている。東に10mにはR Z 004、同じく東に16mにはR Z 002がある。南西方向へ10mのところにはR Z 009、南東へ25mのところではR Z 008が検出されている。これらの遺構が結びついて一つの遺構となるのか、それぞれ独立した遺構なのか不明である。<遺物>18世紀以降と思われる陶器碗の細片が1点みられた。<時期>時期不明であるが、周辺の遺構の状況から近世かそれ以降ではないかと推測される。

R Z 0 0 4 性格不明遺構（第239図・写真図版266）

<位置・重複関係>本遺跡の南側ほぼ中央付近、3 B 8 u 区にて検出された。重複関係はない。<規模・形態>東西方向に長い不整形楕円形の窪みが南北方向に4.7m程連なってみられる。幅は約50～90cm、深さは10cmに満たないものが殆どである。底面は平坦ではなく、近年の水田耕作により壁は底部付近が僅かに残存しているのみである。<埋土>暗褐色土の中に径1～5cm程の河原石を多量に含んでいる。自然堆積か否かは不明である。<その他>本遺構の周囲には同じような形態の遺構（R Z 002・003・008・009）が検出されている。これらの遺構が結びついて一つの遺構となるのか、或いは個々に遺構として成り立っていたのか不明である。<遺物>（第326・340・362・365・366図・写真図版315・327・344・346）埋土には陶器碗（716・724）・播鉢（480・481）、磁器碗（771・773・777）・皿（804・805）、銭貨（601・602）、土師器・須恵器片などが散在していた。<時期>出土遺物や周辺にある同様の形態を有する遺構等の状況から近世かそれ以降と思われる。

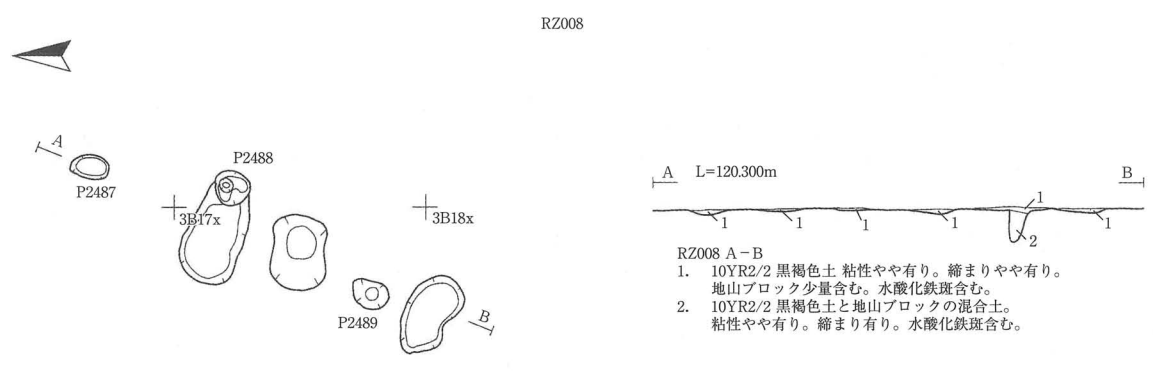
R Z 0 0 8 性格不明遺構（第239図）

<位置・重複関係>遺跡の南側ほぼ中央、3 B 17 x 区に位置している。重複関係はなかった。<規模・形



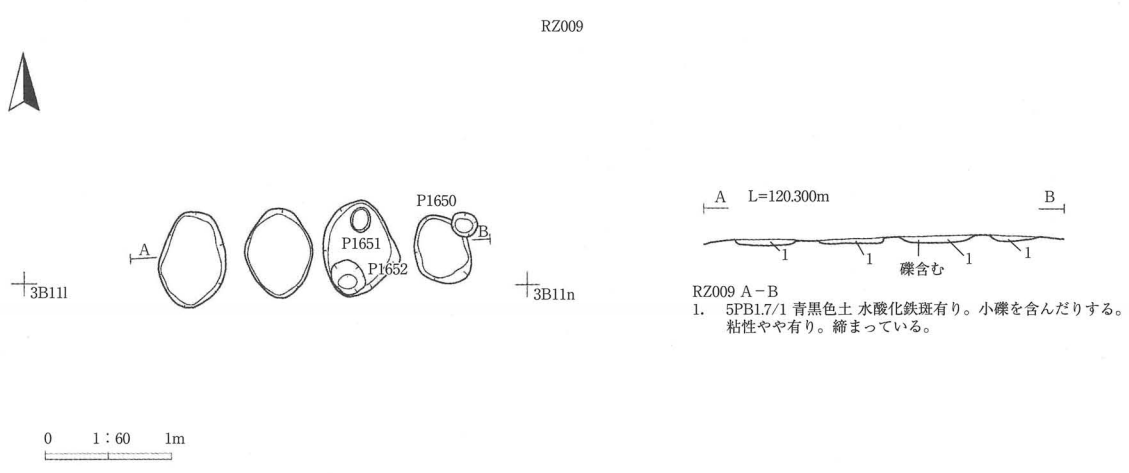
RZ004 A-B

1. 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱。締まり有り。水酸化鉄による影響大。木の根多量に含む。径1~5cmの細かい礫（河原石）多量含む。土器片含む。



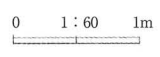
RZ008 A-B

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや有り。締まりやや有り。地山ブロック少量含む。水酸化鉄斑含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土と地山ブロックの混合土。粘性やや有り。締まり有り。水酸化鉄斑含む。



RZ009 A-B

1. 5PB1.7/1 青黒色土 水酸化鉄斑有り。小礫を含んだりする。粘性やや有り。締まっている。



第239図 RZ004・008・009性格不明遺構

態>規模も形態も不規則な窪みが北東-南西方向に3.3m程繋がって検出された。幅は20~90cm、深さは10cm弱である。底面は平坦とはいえ、壁は近年の水田耕作により底に近い部分のみが残存していたようである。<埋土>黒褐色土を主体としその中に地山ブロックが少量含まれる。自然堆積か人為堆積かは不明である。<その他>周辺に本遺構と類似する形態の遺構(R Z 002・003・004・009)が検出されている。これらが繋がって一遺構となるのか、または単体での遺構となるのかその性格も含めて不明である。<遺物>なし。<時期>時期不明であるが、周辺の遺構等の状況から中世かそれ以降と思われる。

R Z 0 0 9 性格不明遺構 (第239図・写真図版268)

<位置・重複関係>本遺跡南側のほぼ中央部、3 B 10 1 区にて検出された。重複関係なし。<規模・形態>不整な円形が東西方向に等間隔に4基ほど連なってみられた、長さは約2.5m、幅70cm前後、深さは10cmに満たない。底面は平坦なものが多く、壁は底部付近が若干残っているに過ぎない。<埋土>青黒色土の中に小礫を含んだりしている。自然堆積か否かはわからなかった。<その他>本遺構の近くには同様の形態の遺構が(R Z 002・003・004・008)が検出されている。そもそもこれらが一つの遺構として機能するものなのか、独立した施設なのかその性格も含めて不明である。<遺物>なし。<時期>時期不明であるが、周辺の遺構等の状況から中世かそれ以降と思われる。

R Z 0 0 6 性格不明遺構 (第240図・写真図版267)

<位置・重複関係>本遺跡のほぼ中央、2 A 9 y 区に位置し、IV層面にて検出された。<規模・形態>東西方向に細長い不整形を呈する。東西方向で2.9m、南北方向で0.8m、深さは最大で20cmを測る。底面の中央部分が幾分窪んでいる。<埋土>記録なし。<遺物>出土していない。<時期・性格>不明である。

R Z 0 0 7 性格不明遺構 (第29図)

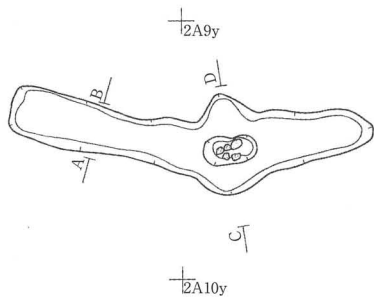
<位置・重複関係>本遺跡の南側、3 C 21 a 区に位置し、IV層上面にて検出された。<規模・形態>南北に細長い不整長円形を呈している。南北方向に1.6m、東西方向に0.4mである。中央部底面付近には自然礫が見られた。<埋土>記録なし。<遺物>出土していない。<時期>周囲で検出されている遺構の状況から中世に属する可能性がある。

R Z 0 1 2 性格不明遺構 (第240図・写真図版269)

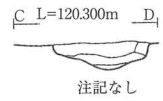
<位置・重複関係>本遺跡の中央部南端、4 B 11 m 区に位置し、IV層上面にて検出された。<規模・形態>南北に細長い不整な長円形を呈している。規模は南北方向に4.0m、東西方向に1.1m、深さは25cmで、底面は概ね平坦である。<埋土>黒色土及び黒褐色土を主体とする中で、底面付近には自然礫と炭粒の広がりを確認した。人為堆積の可能性があるとと思われる。<その他>遺構の性格は判然としない。<遺物>ロクロかわらがまとまって出土している。<時期>周囲から検出されている遺構の状況から中世に属するとするのが最も妥当と考える。

R Z 0 1 1 性格不明遺構 (第241・242図・写真図版269)

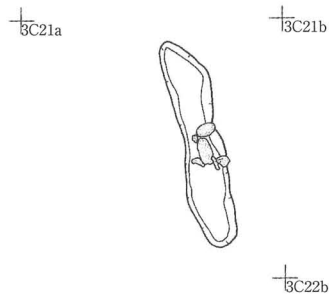
<位置・重複関係>遺跡南端中央部4 B 15 o グリッド周辺に位置しており、遺跡南端に広がる低湿地に接するように検出された。<規模・形態>南北7.7m、東西8.8m、深さ60cmの不整形な掘り込みである。南東部分が最も深く、南側がやや急に、他は緩やかに立ち上がっている。<埋土>上層は自然堆積でよいと思



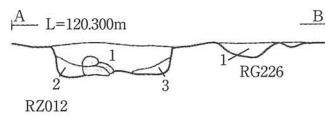
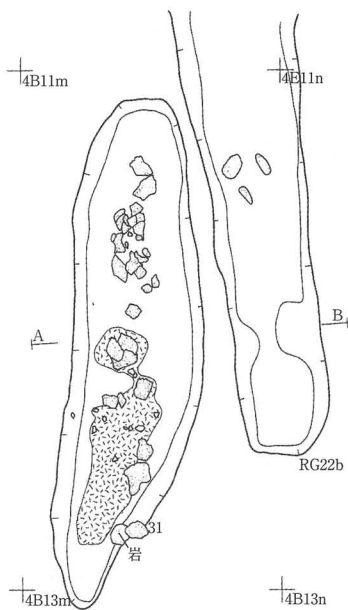
RZ006



RZ007



RZ012

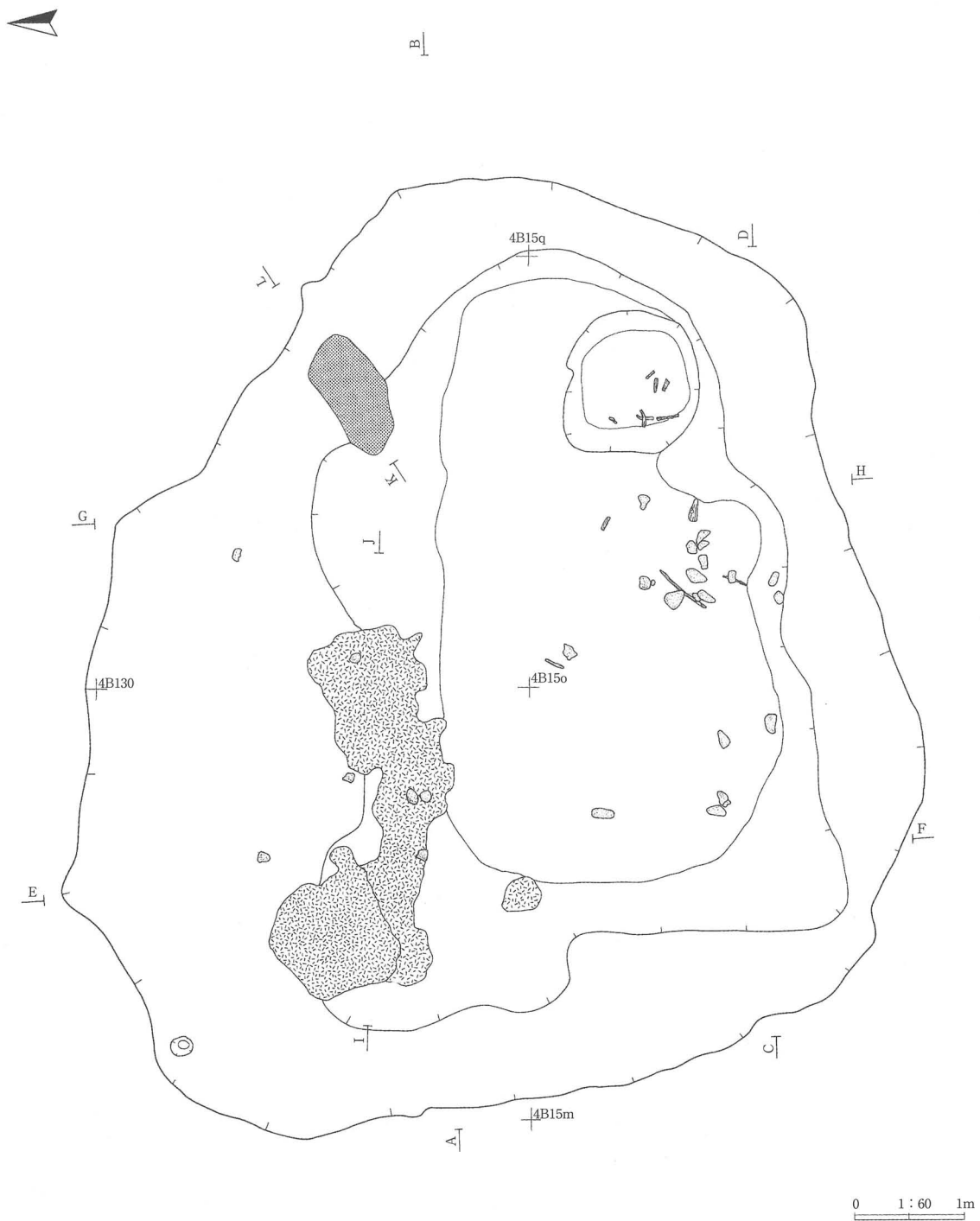


RZ009 A-B

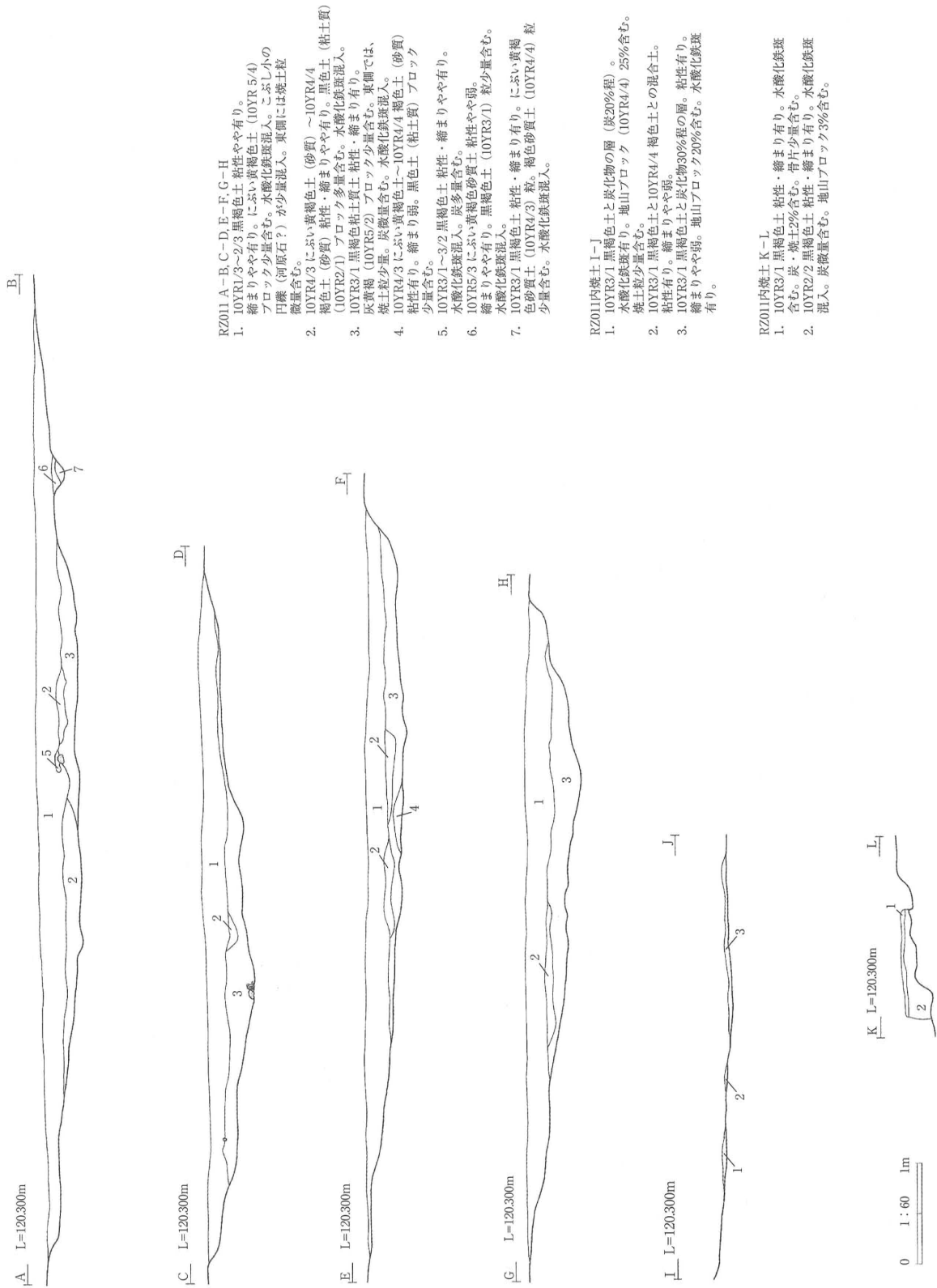
1. 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まり有り。炭含む。水酸化鉄斑多量に混入。10YR4/3 において黄褐色土粒15%含む。こぶし大の礫数個含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。水酸化鉄斑多量に混入。地山ブロック (10YR4/3) 40%混入。
3. 10YR2/3 黒褐色土 粘性有り。縮まりやや弱。水酸化鉄斑有り。地山ブロック25%含む。

0 1:60 1m

第240図 RZ006・007・012性格不明遺構



第241図 RZ011性格不明遺構 (1)

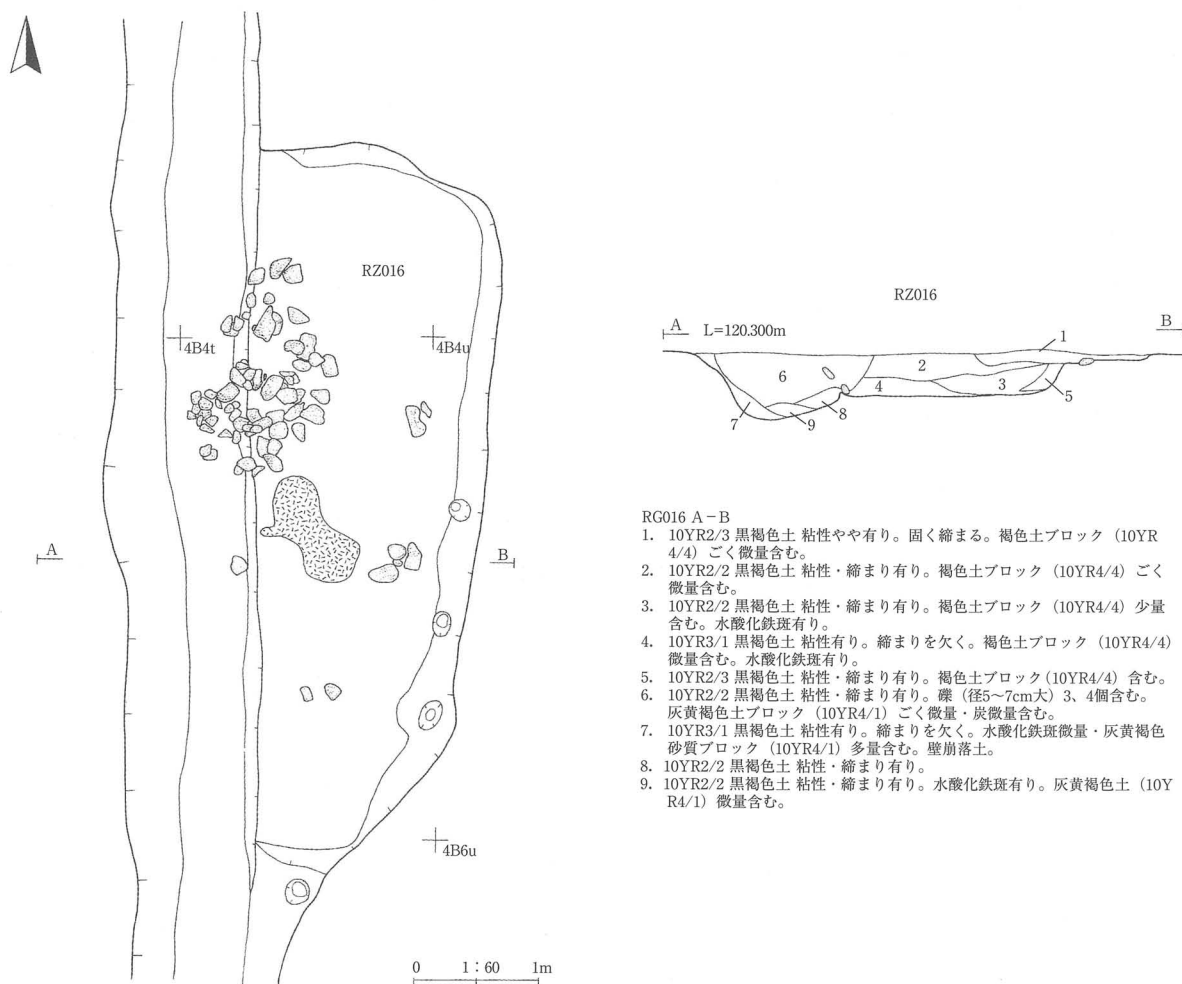


第242図 RZ011性格不明遺構 (2)

われるが、その下は地山ブロックや炭粒、焼土が含まれ、人為体積の様相を呈する。 <その他>埋土には焼土や炭粒、河原石などを含むことから、様々なものを廃棄する場所であったと考えたい。 <遺物>576 洪武通寶が出土している。 <時期>出土遺物から中世で15世紀頃までは開口していたであろう。

R Z 0 1 4 性格不明遺構 (第181図・写真図版271)

<位置・重複関係>遺跡南端部ほぼ中央 4 B 17 c グリッド周辺に位置している。R D 789と重複関係にあるとみたが新旧関係は把握できなかった。 <規模・形態>南北 5 m、東西 5.4m の不整形を呈し、深さは最大 80cm を測る。南側は低湿地と重なるためプランは不明瞭になる。 <埋土>黒褐色土を主体とするが地山ブロック、炭粒、焼土、河原石など廃棄されたものも含まれている。 <その他>重複する R D 789 や近くに位置する R Z 011 と同様、様々なものを捨てる場所であったと推測される。 <遺物>木槌をはじめとする木製品 (493~502)、至和元寶 (577) などが出土した。 <時期>中世の遺構である。



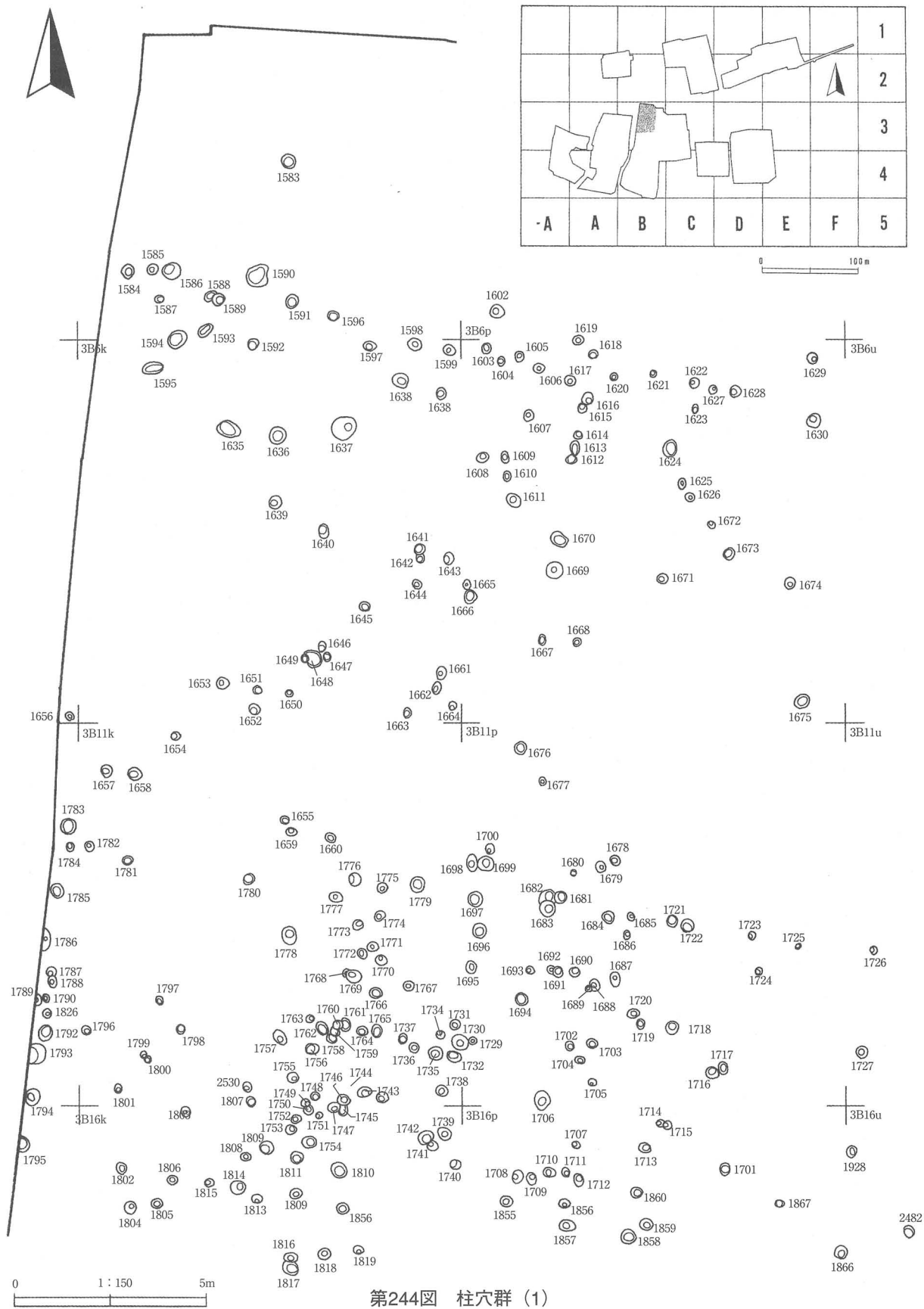
第243図 RZ016性格不明遺構

R Z 0 1 6 性格不明遺構（第243図・写真図版273）

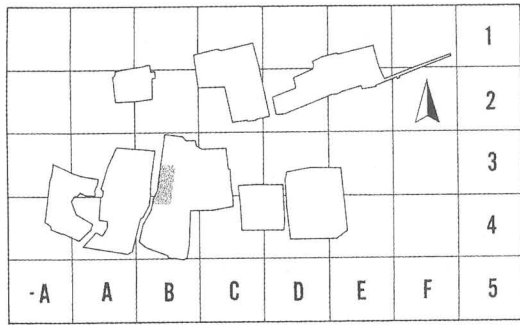
<位置・重複関係>遺跡南側ほぼ中央にあたる4 B 4 t グリッドに位置し、IV層面にて検出された。R G 198と重複し本遺構の方が古い。 <規模・形態>南北6 m、東西は2 m以上あり、深さは約40cmを測る。 <埋土>概ね黒褐色土を主体とする自然堆積とみてよいと思われる。 <その他>中央やや北側、R G 189とも重複する部分に河原石が比較的集中するところと、炭化材がまとまる場所がみられたが遺構の性格についてはよく判らなかつた。 <遺物>476鉄釉碗、474陶器播鉢、737瓦?が出土している。 <時期>中世。

（4）柱穴群

今回の23次調査では2637基の柱穴を検出した（第244～271図）。この中には古代～中世の竪穴住居跡に伴う柱穴も含んでいる。ここでは各地区ごとの分布や特徴について主だったものを記述する。3-D区を中心とした地区（第255～258図）では、多数の柱穴が検出され、柱穴からは近世及びそれ以降の陶磁器類が出土しており、民家の可能性が高く幾度かの建て替えを行っていたと考えられる。但し民家の中心は東側の調査区外にあって、建物自体を推定することはできなかった。これらの柱穴は他遺構とも激しく重複しており把握できずに失った柱穴もあると思われる。この調査区では古代に属すると思われるR B 029が検出されており、周囲にはこの他にも古代の柱穴も存在する可能性がある。1-A・1-B区（第250・251図）に分布する柱穴については、近世に属する可能性が高いと思われる。遺跡中央部南側3 B・4 B区（第241～248図）に於いても多数の柱穴が密に分布していた。周囲からは中世の遺構が多数検出されていて、柱穴群はこれらの遺構と分布を同じくしており激しく切り合っている。その殆どが中世に属するといえるこれらの柱穴群の中からR B 026を推定したが、この他に建物及び何らかの施設を推定することはできなかった。3 C～4 E区を中心とした調査区（第247・261図）にて検出された柱穴群は大きく3 C～4 D区に分布するものと4 E区に位置するものに分けて見ることができる。前者については出土遺物がなく時期不明であり、柱穴ではないもの（草木根等）も多く含んでいる可能性がある。後者に関してはP 1257から青磁碗が出土していることからその多くが中世に属すると思われるが、土坑・焼土などと切り合っており、分布も東側の調査区外に延びており建物を推定することはできなかった。遺跡のほぼ中央部分2 A・2 B区を中心とした調査区（第271図）からも多数の柱穴が検出された。その柱穴群からR B 019掘立柱建物跡を推定した。他の柱穴には規則性を見出せず何らかの施設を推定することはできなかった。これらの柱穴群からは時期を特定できるような遺物は出土していない。1 C・2 C区を中心とする調査区（第270図）ではR B 023・024・025掘立柱建物跡が検出されている。時期は何れも近世と思われ、建物にならなかった柱穴に関しても近世頃の可能性がある。



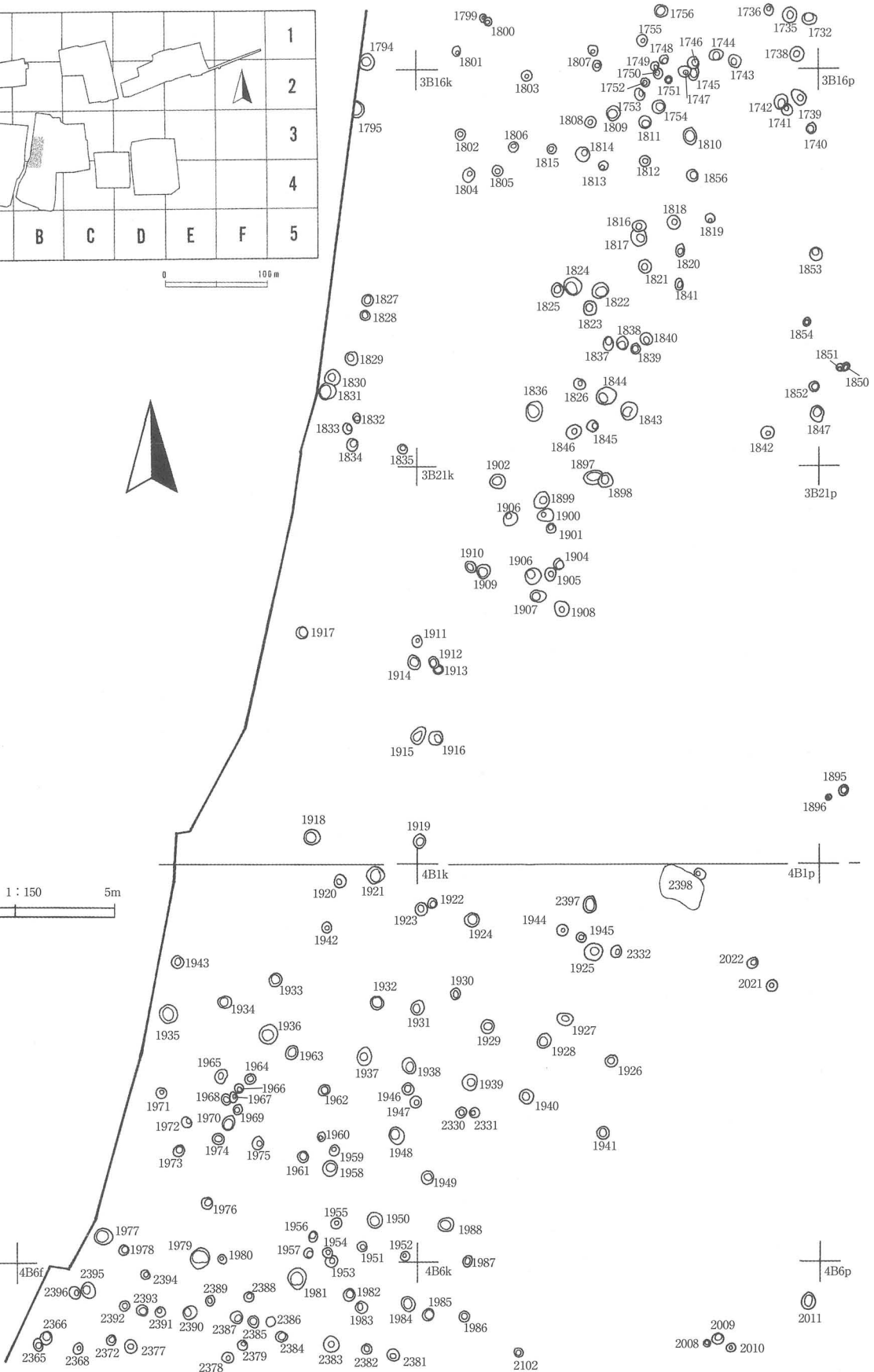
第244图 柱穴群 (1)



0 100m



0 1 : 150 5m



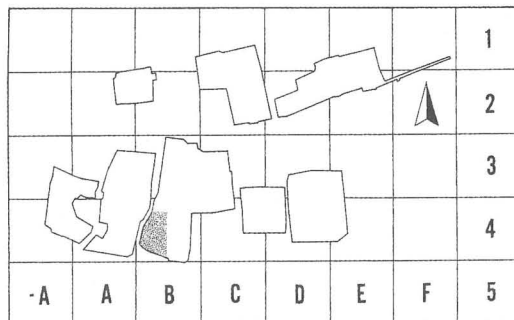
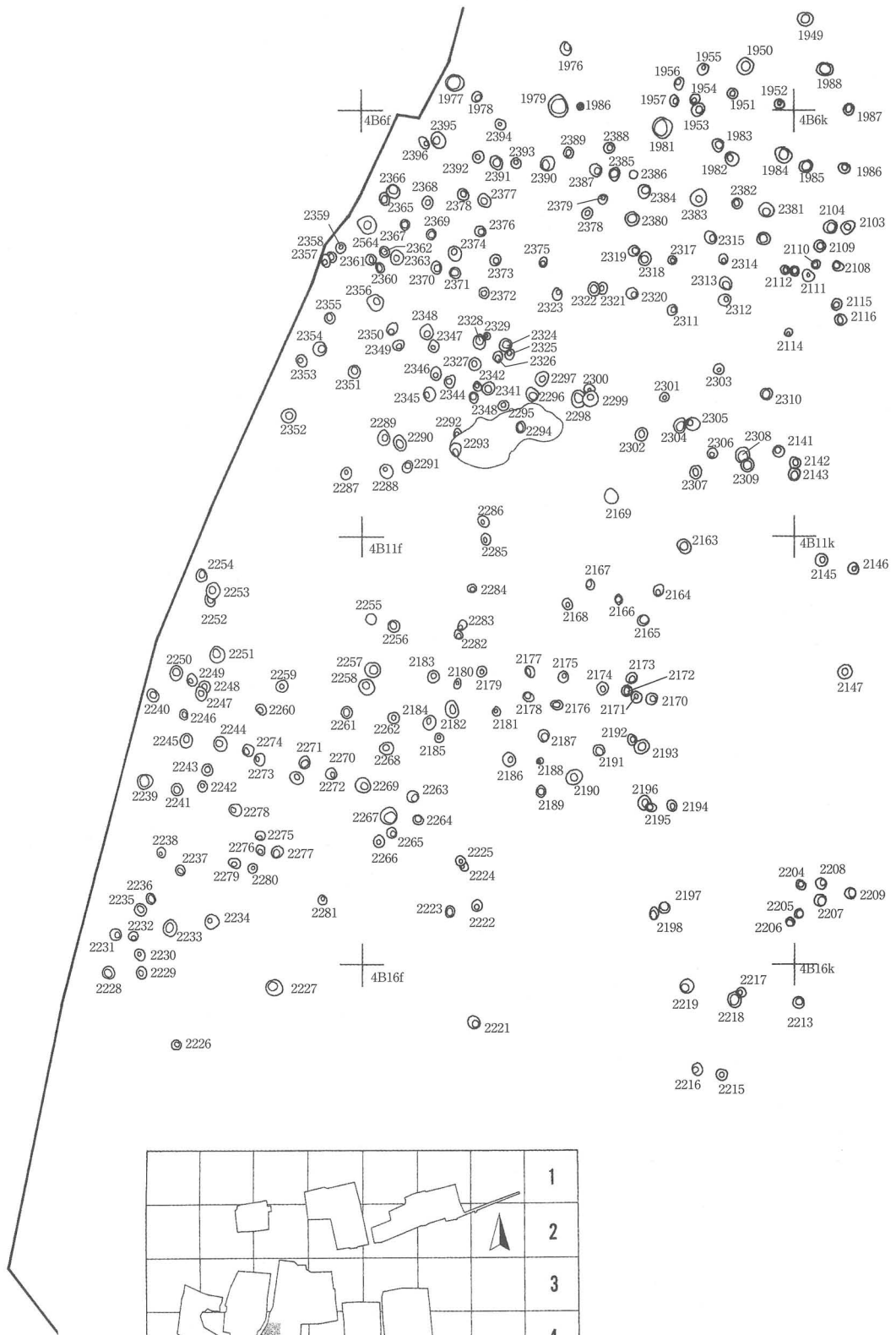
第245图 柱穴群 (2)



4B11a

4B16a

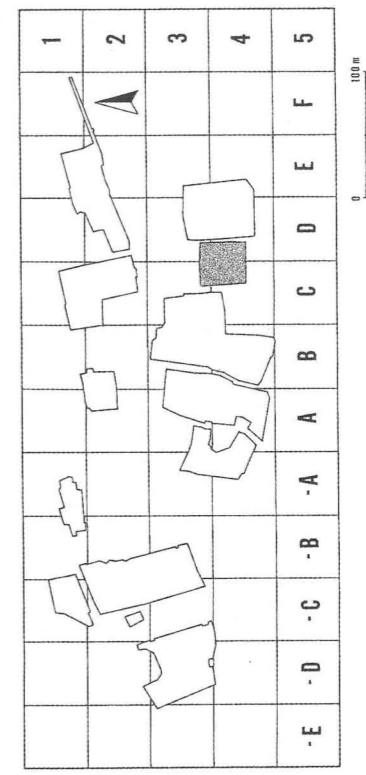
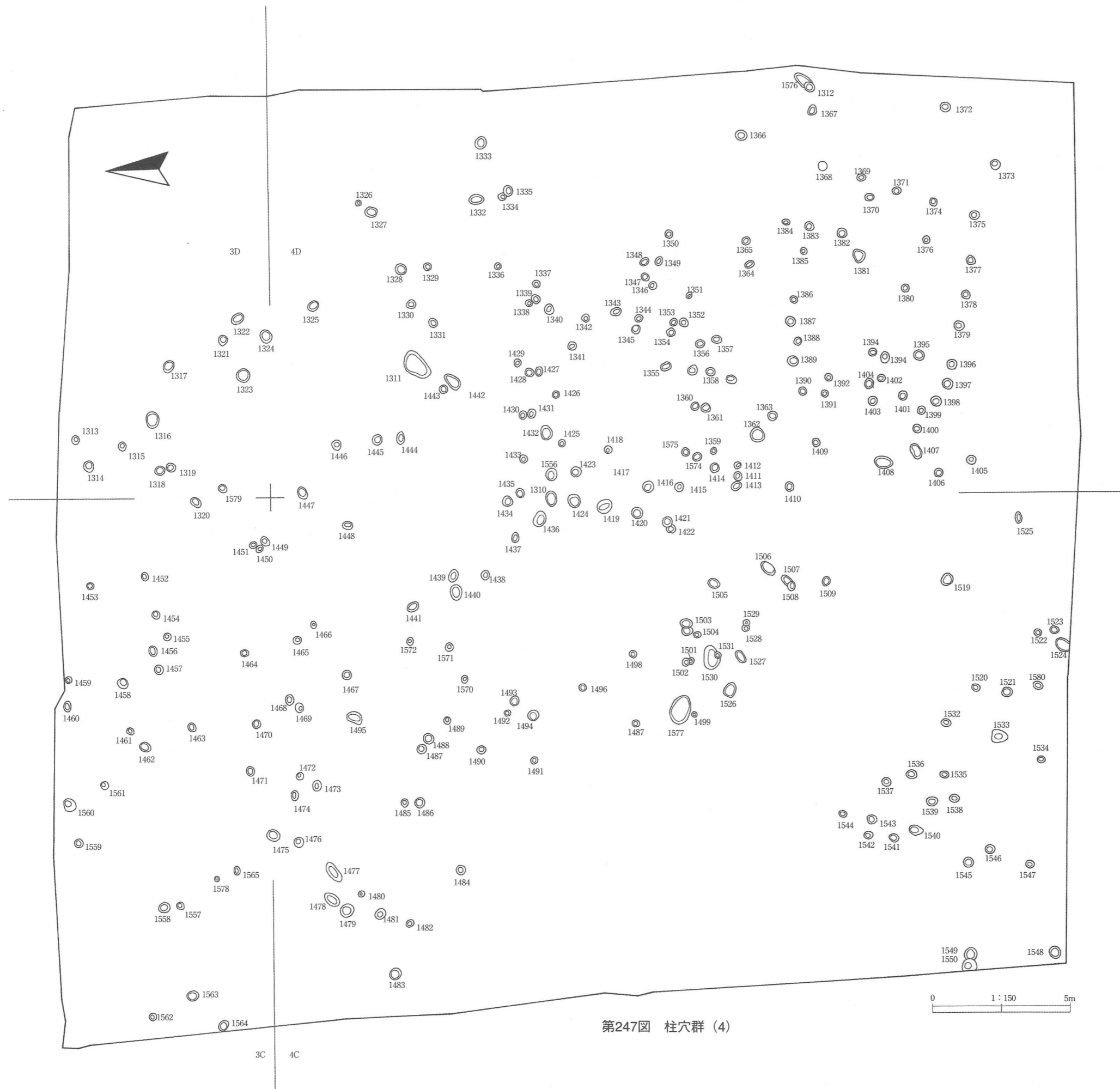
4B21a



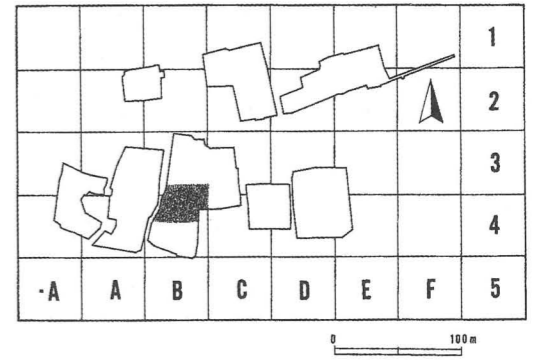
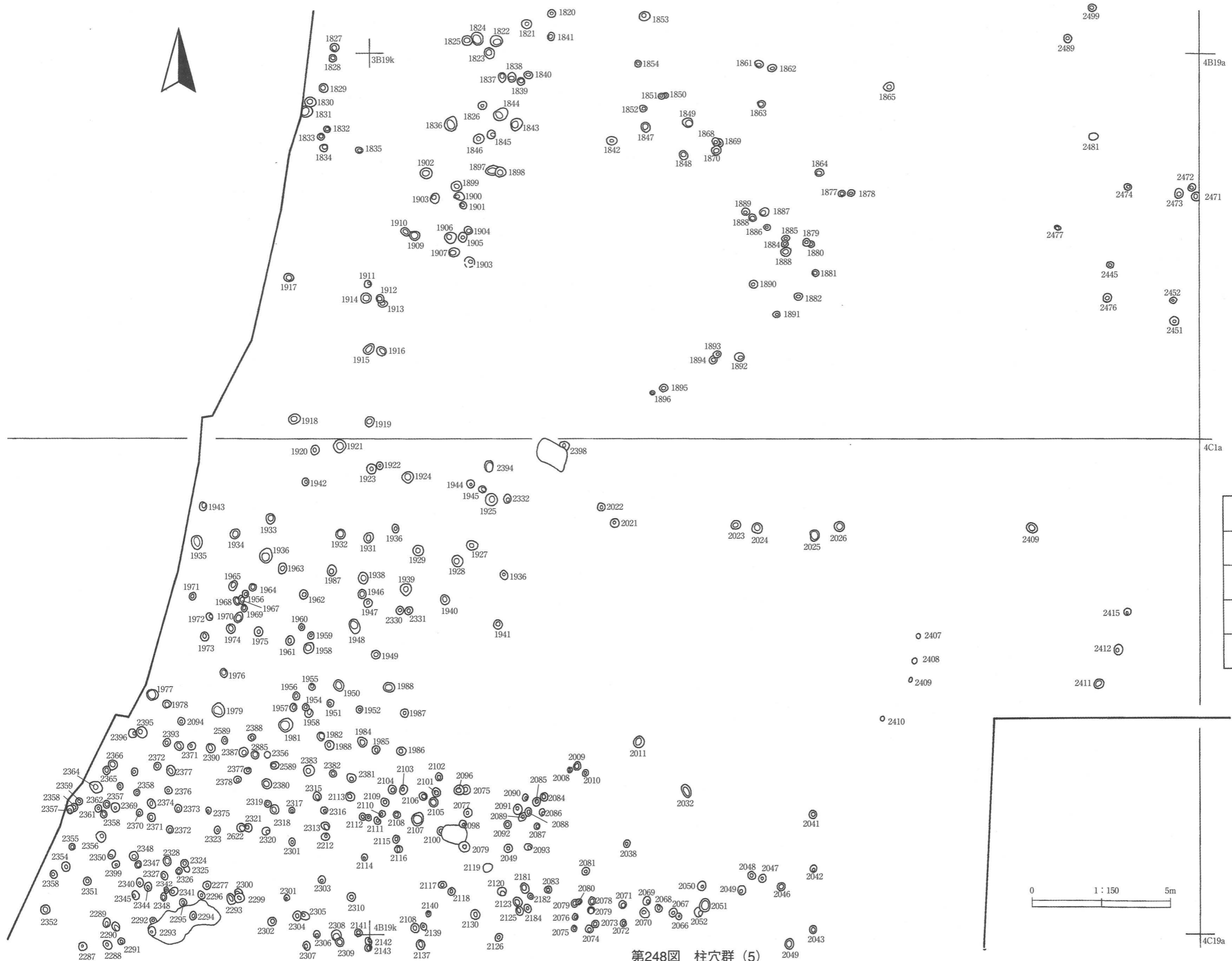
0 100 m

0 1 : 150 5m

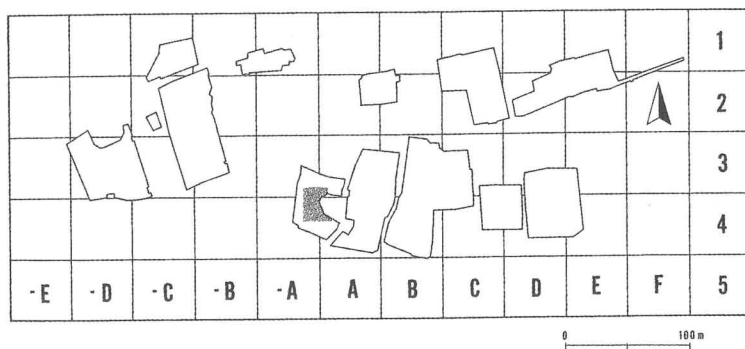
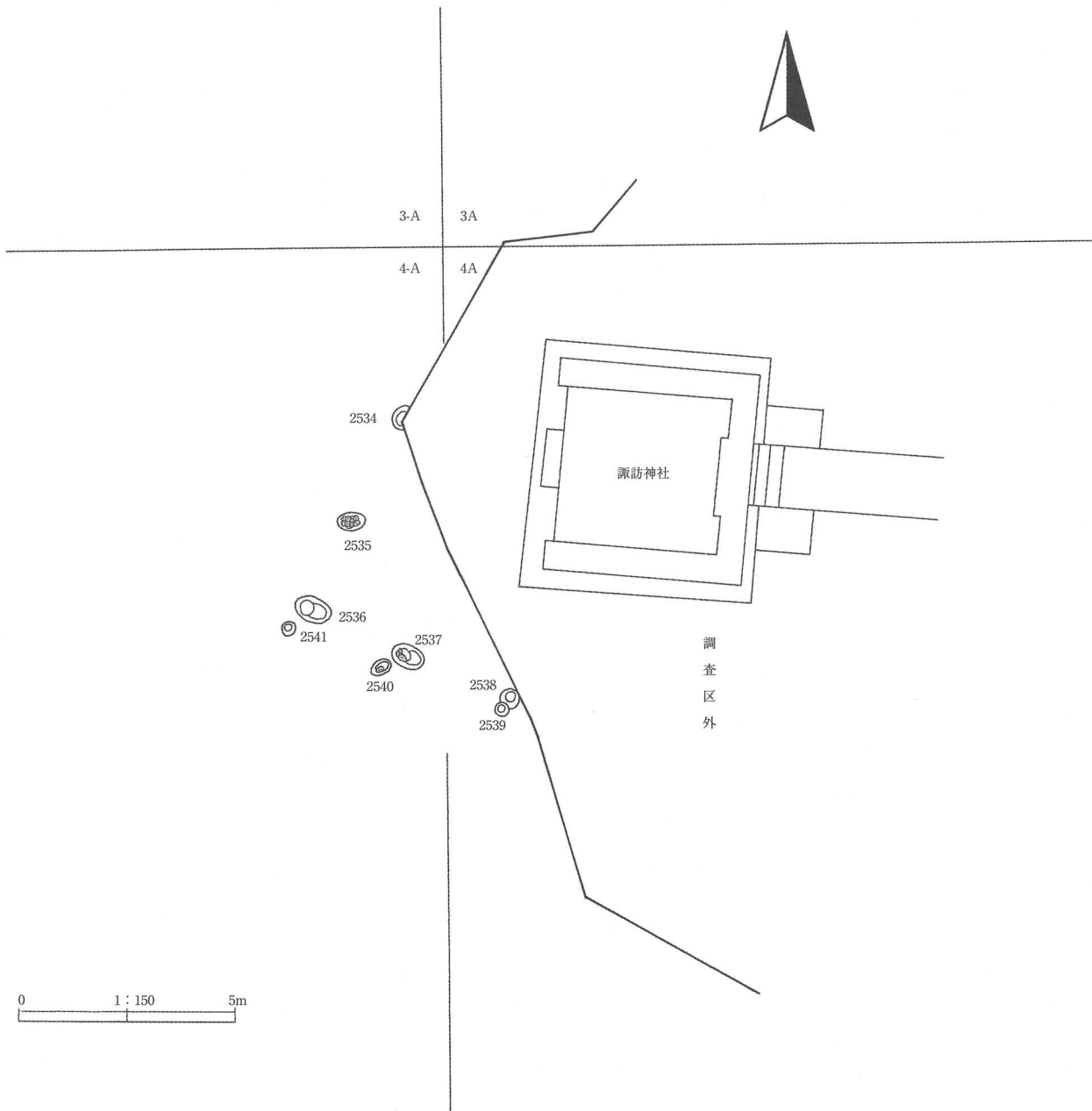
第246图 柱穴群 (3)



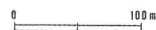
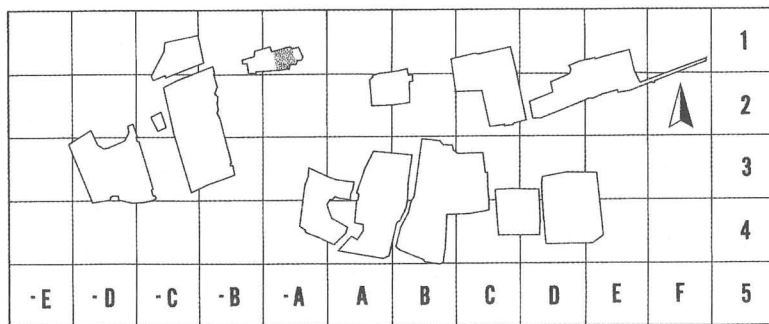
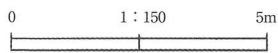
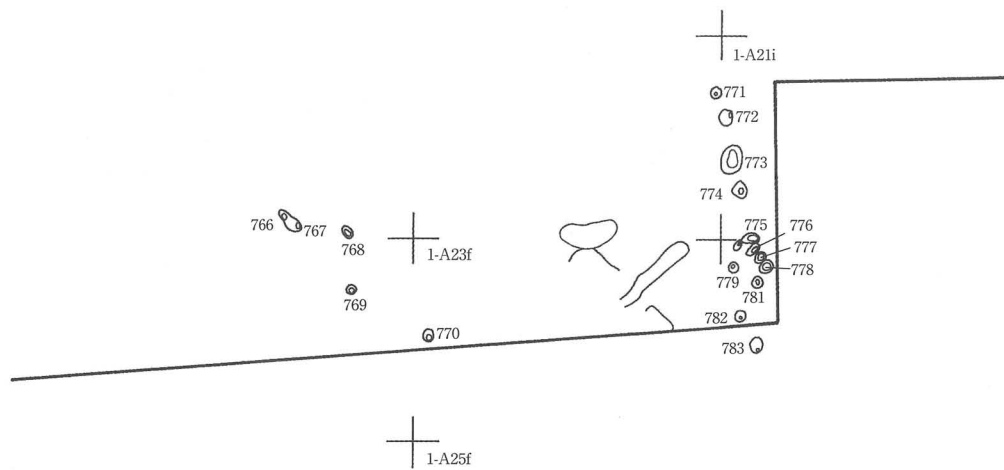
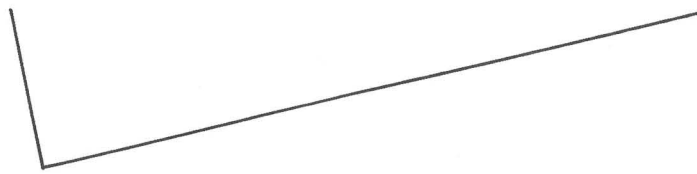
第247图 柱穴群 (4)



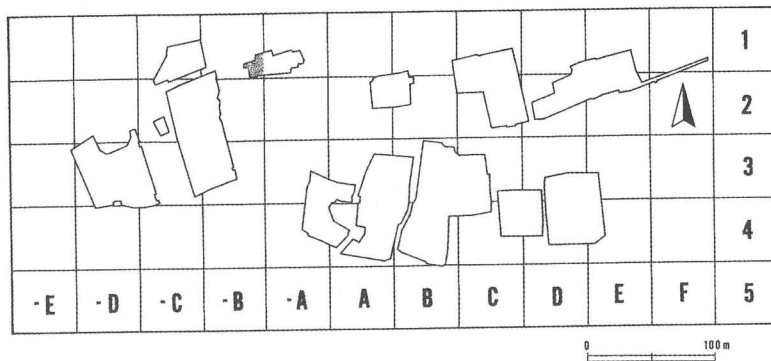
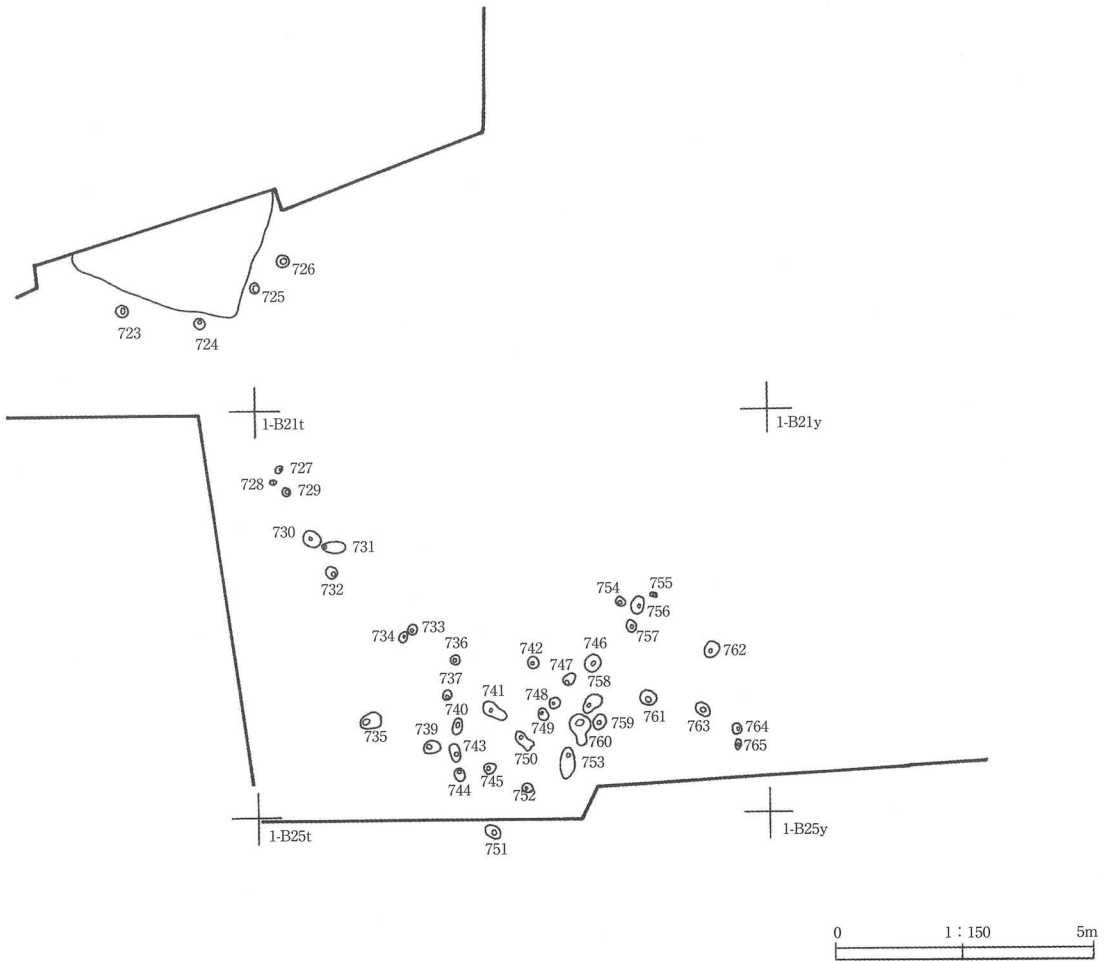
第248图 柱穴群 (5)



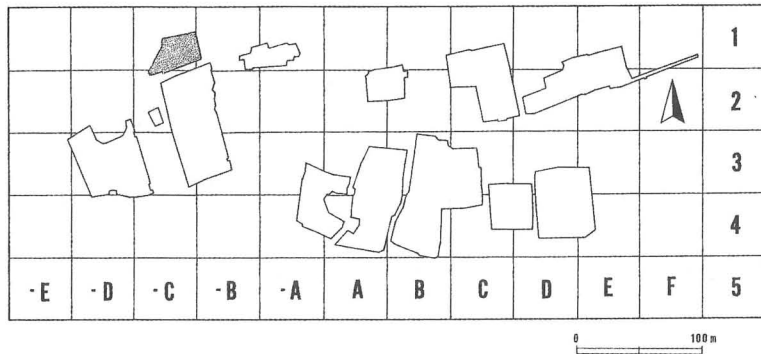
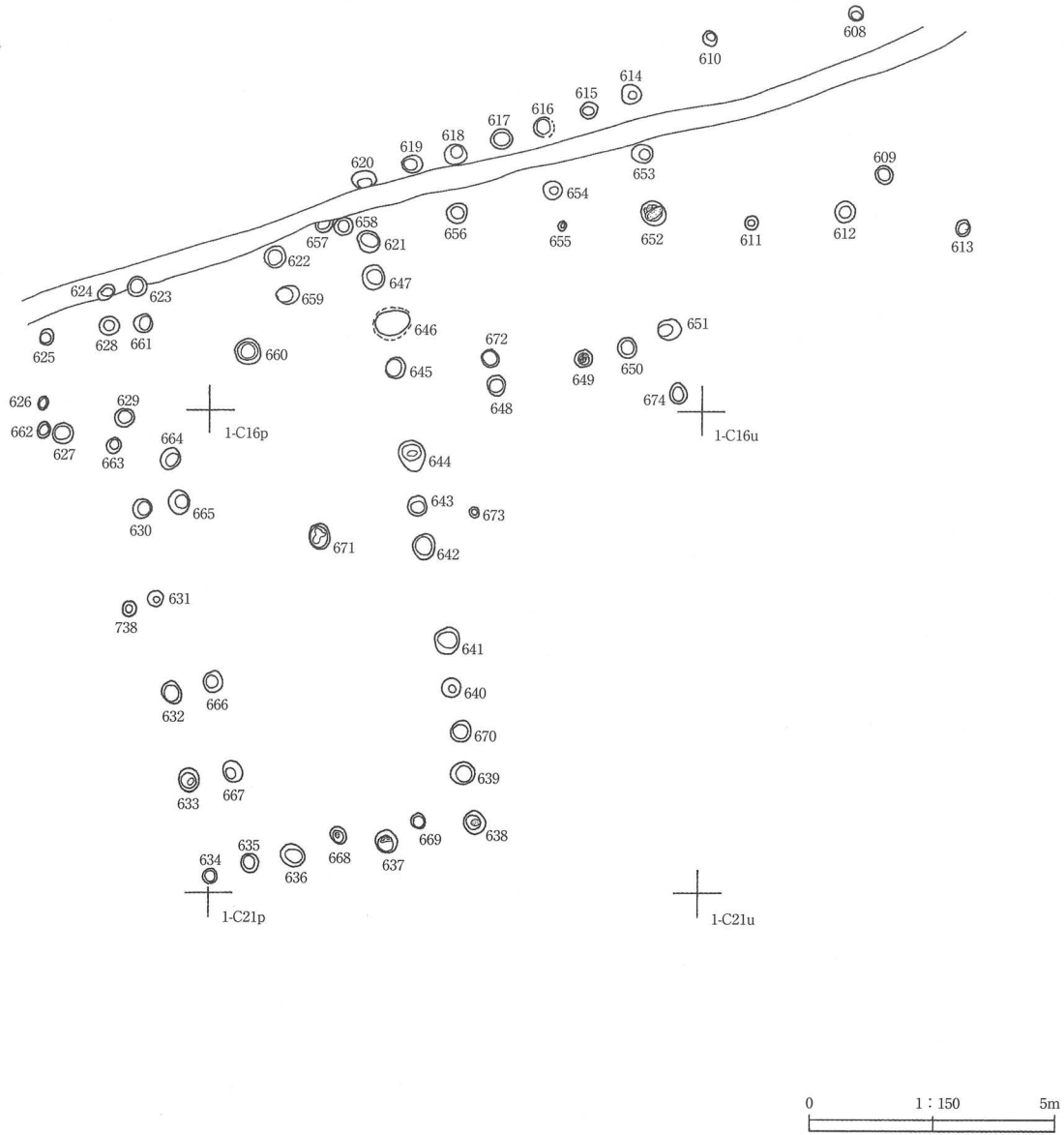
第249図 柱穴群 (6)



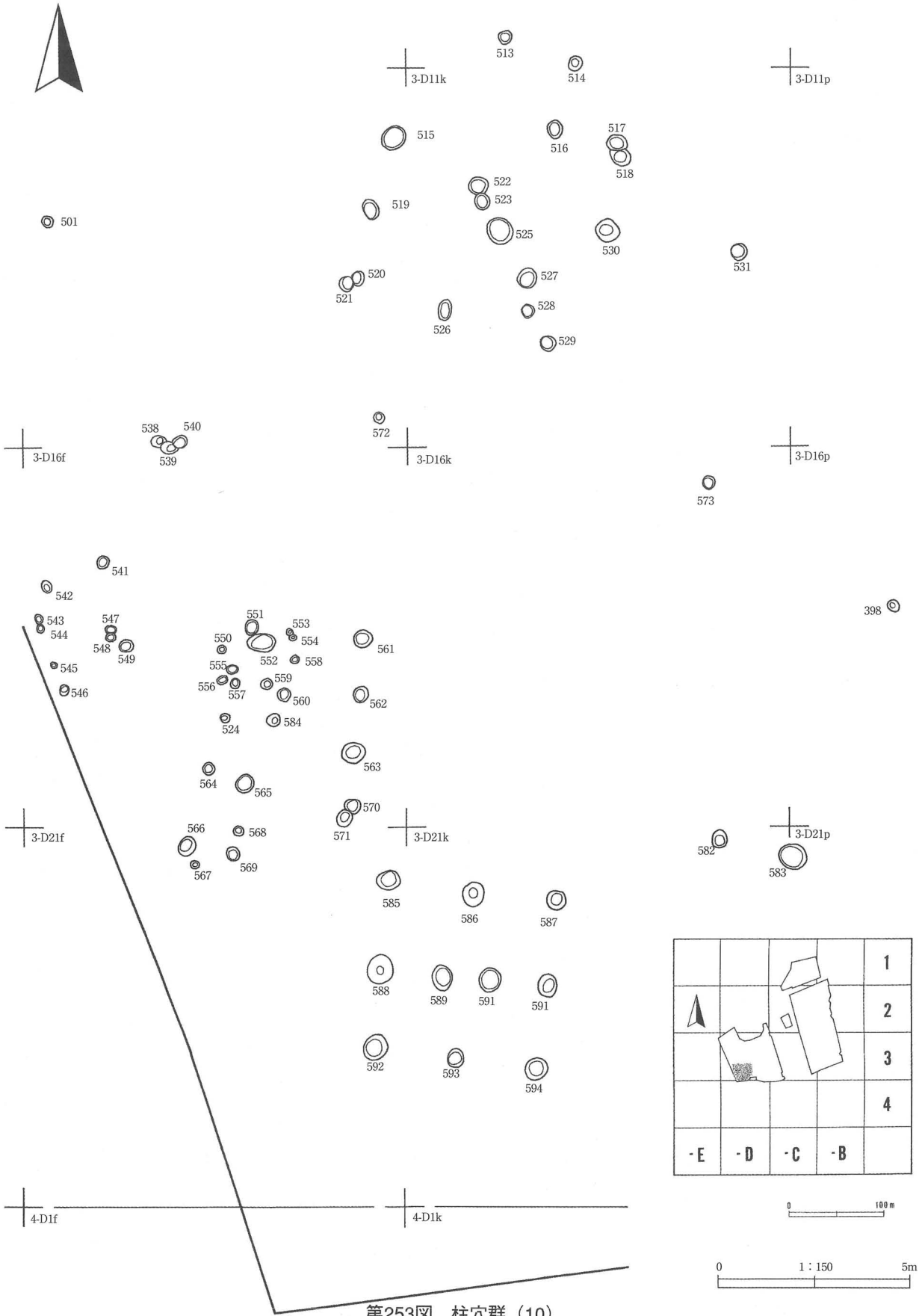
第250图 柱穴群 (7)



第251図 柱穴群 (8)



第252图 柱穴群 (9)



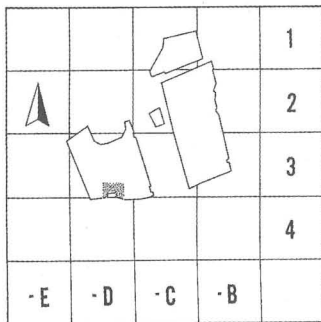
第253图 柱穴群 (10)



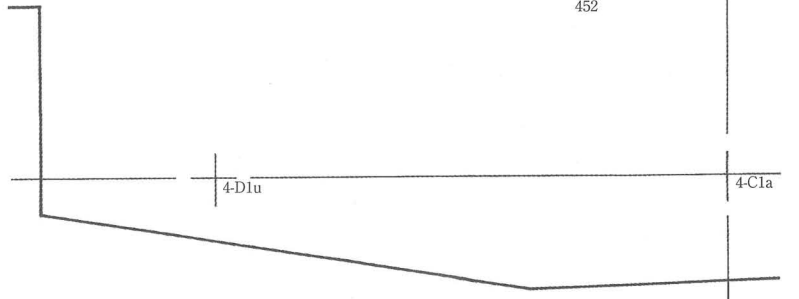
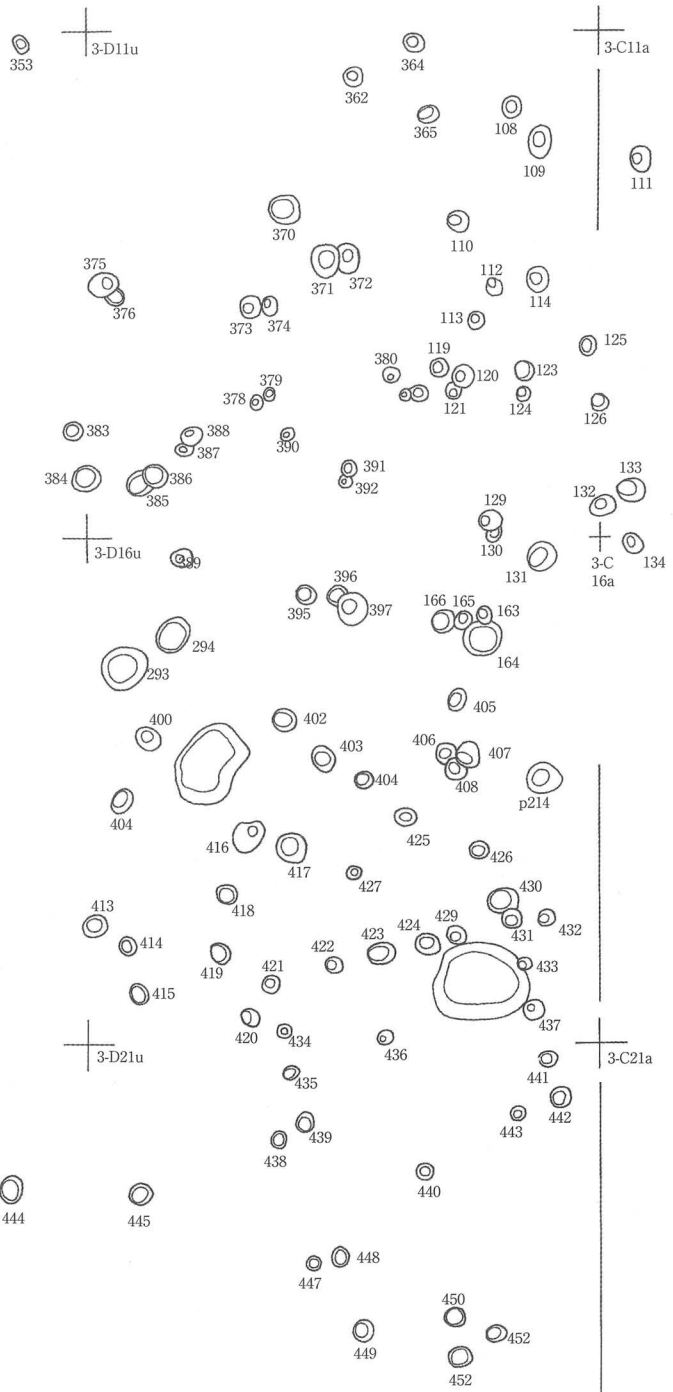
531

3-D16p

582
3-D21p
583

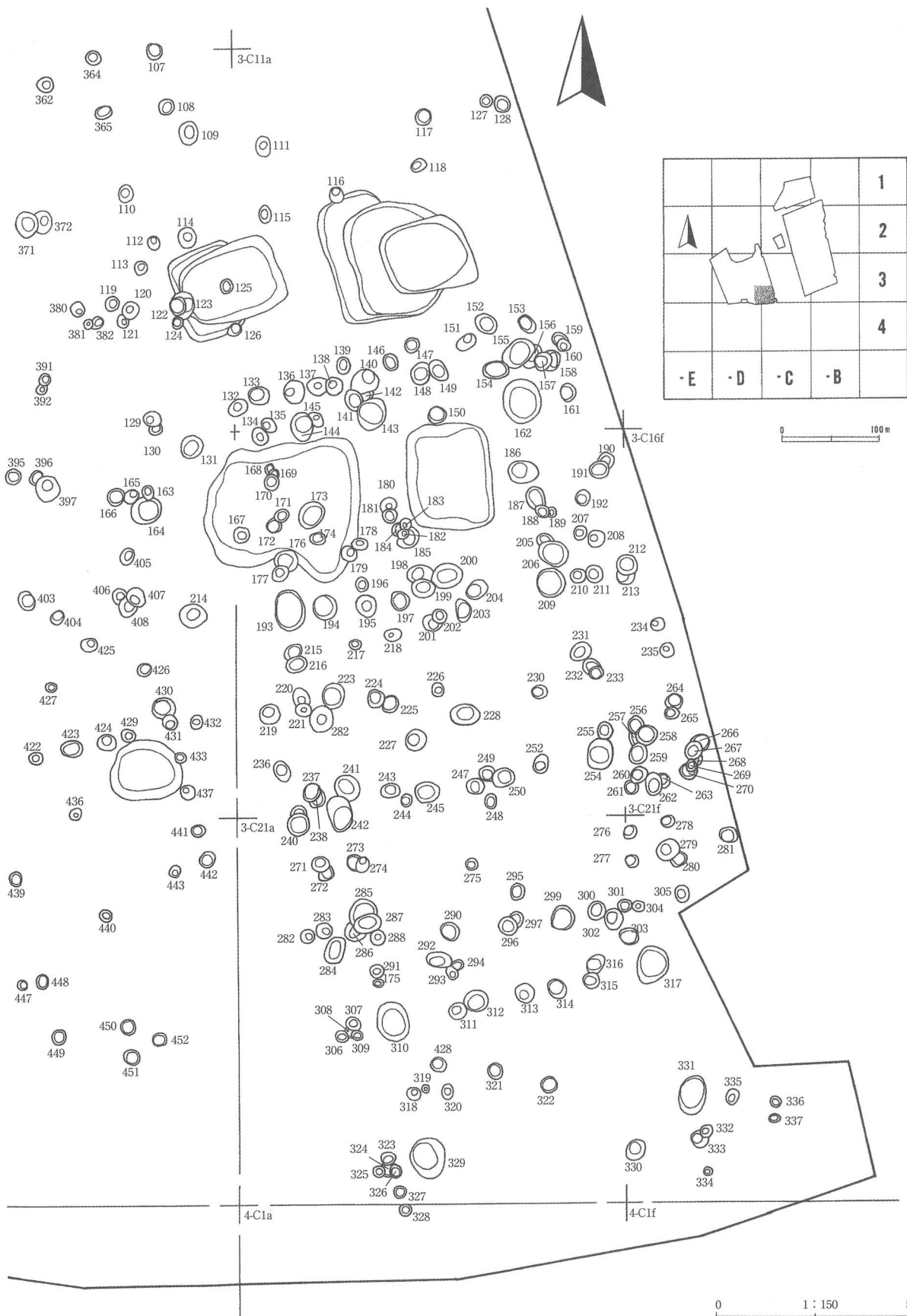


0 100m

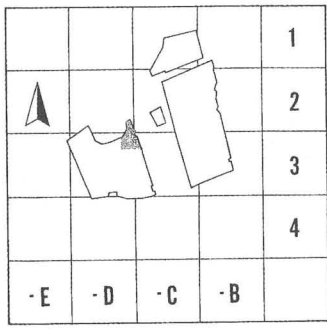


0 1 : 150 5m

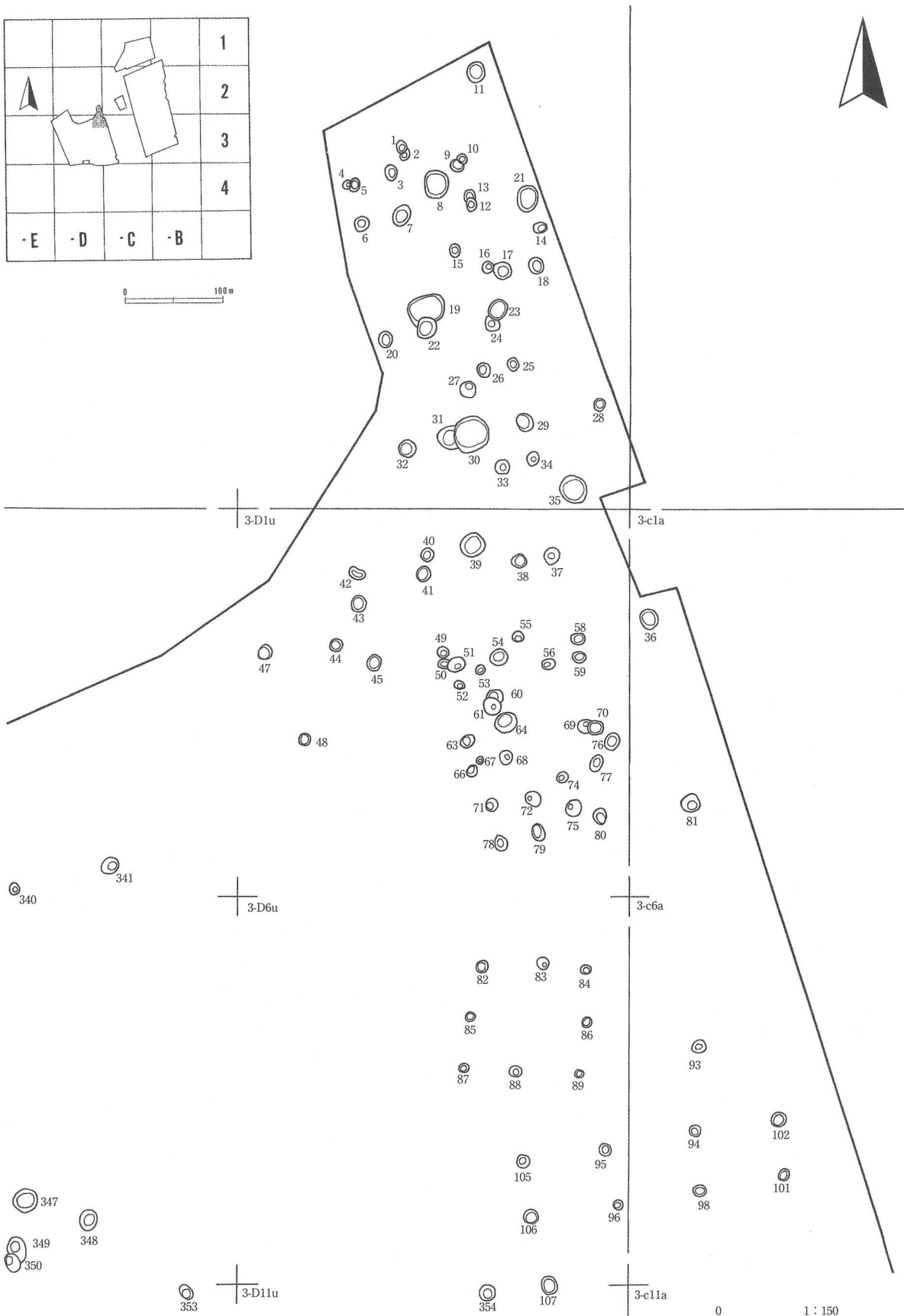
第254図 柱穴群 (11)



第255図 柱穴群 (12)

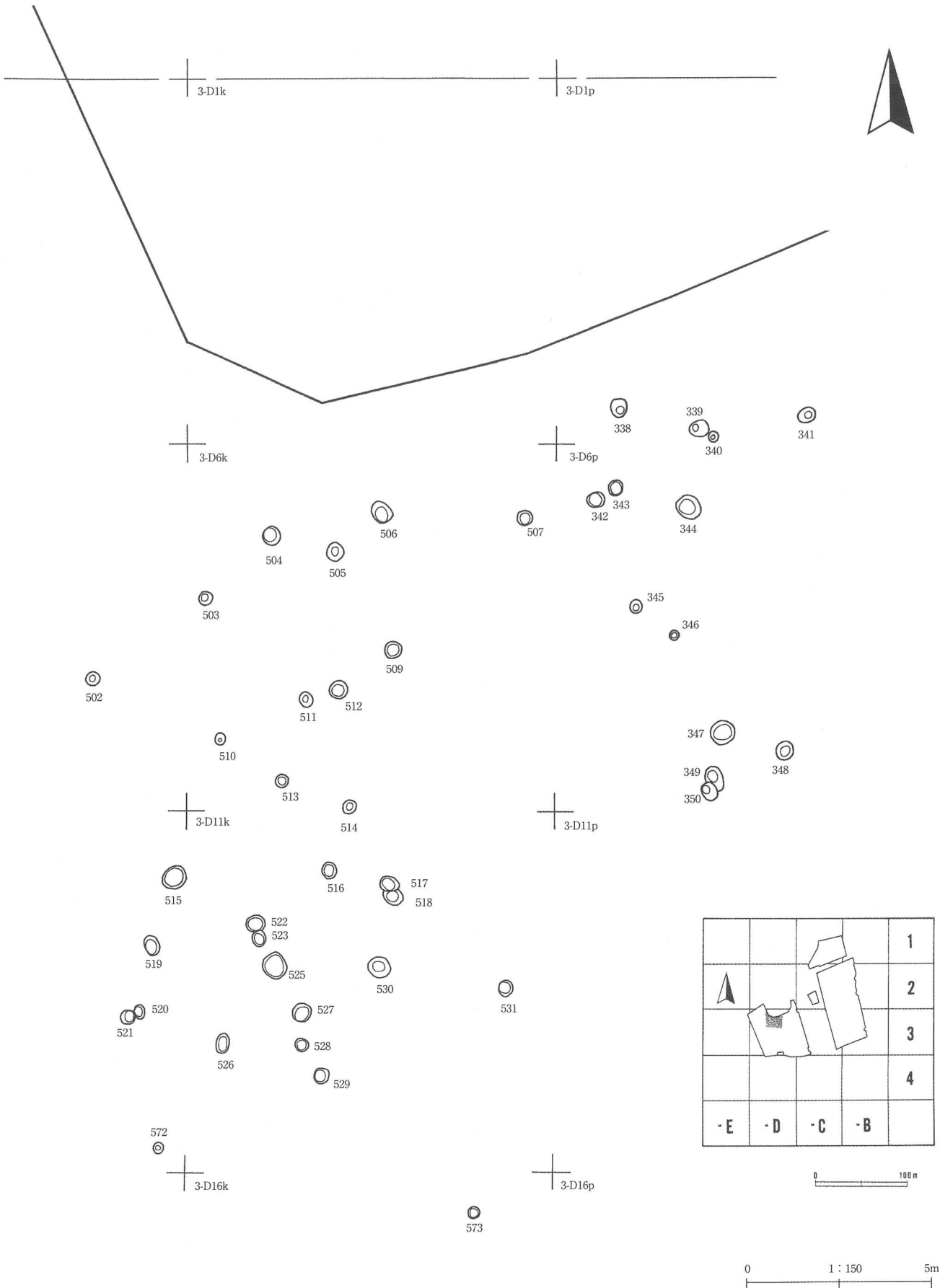


0 100 m

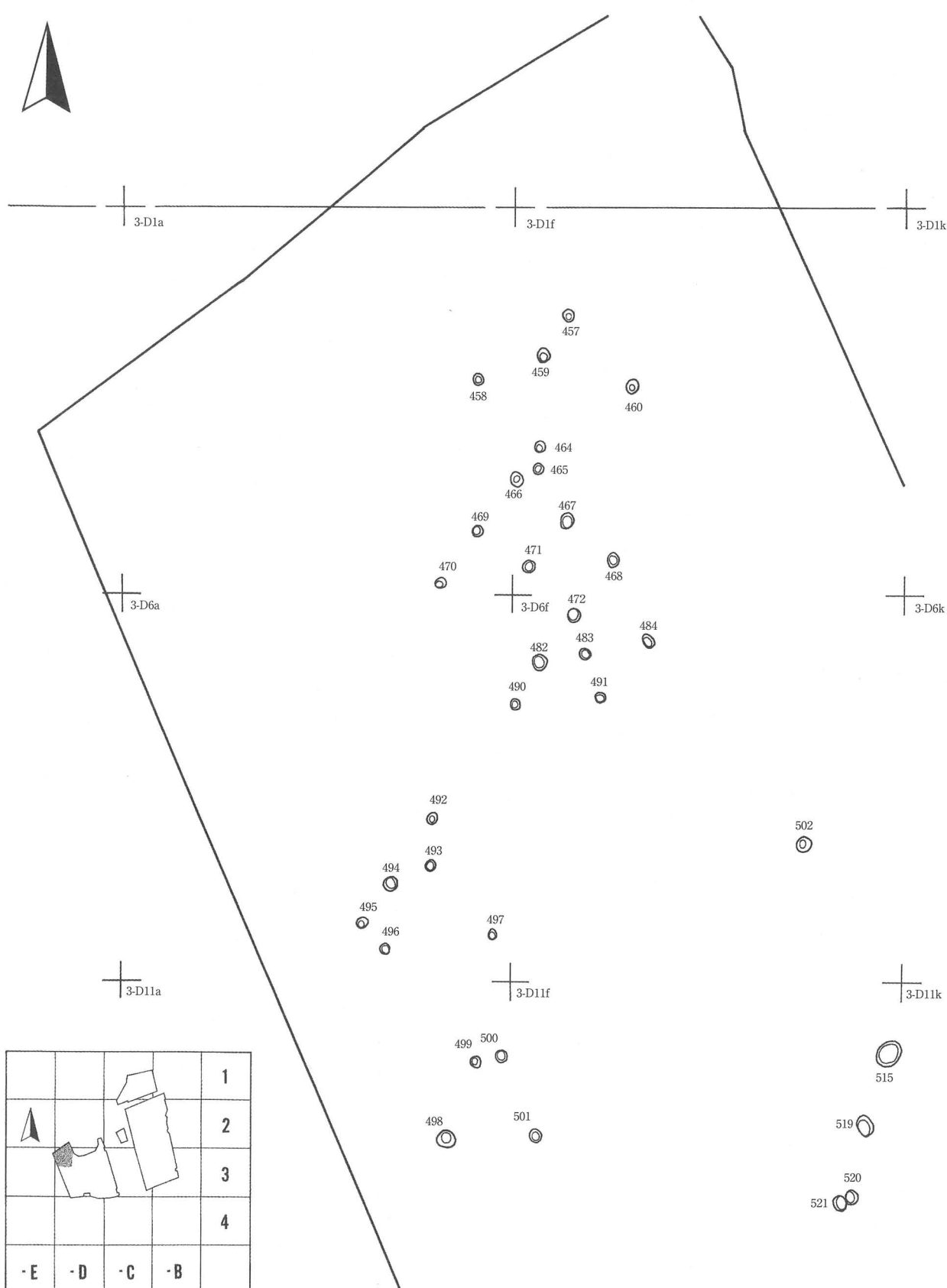


0 1 : 150 5m

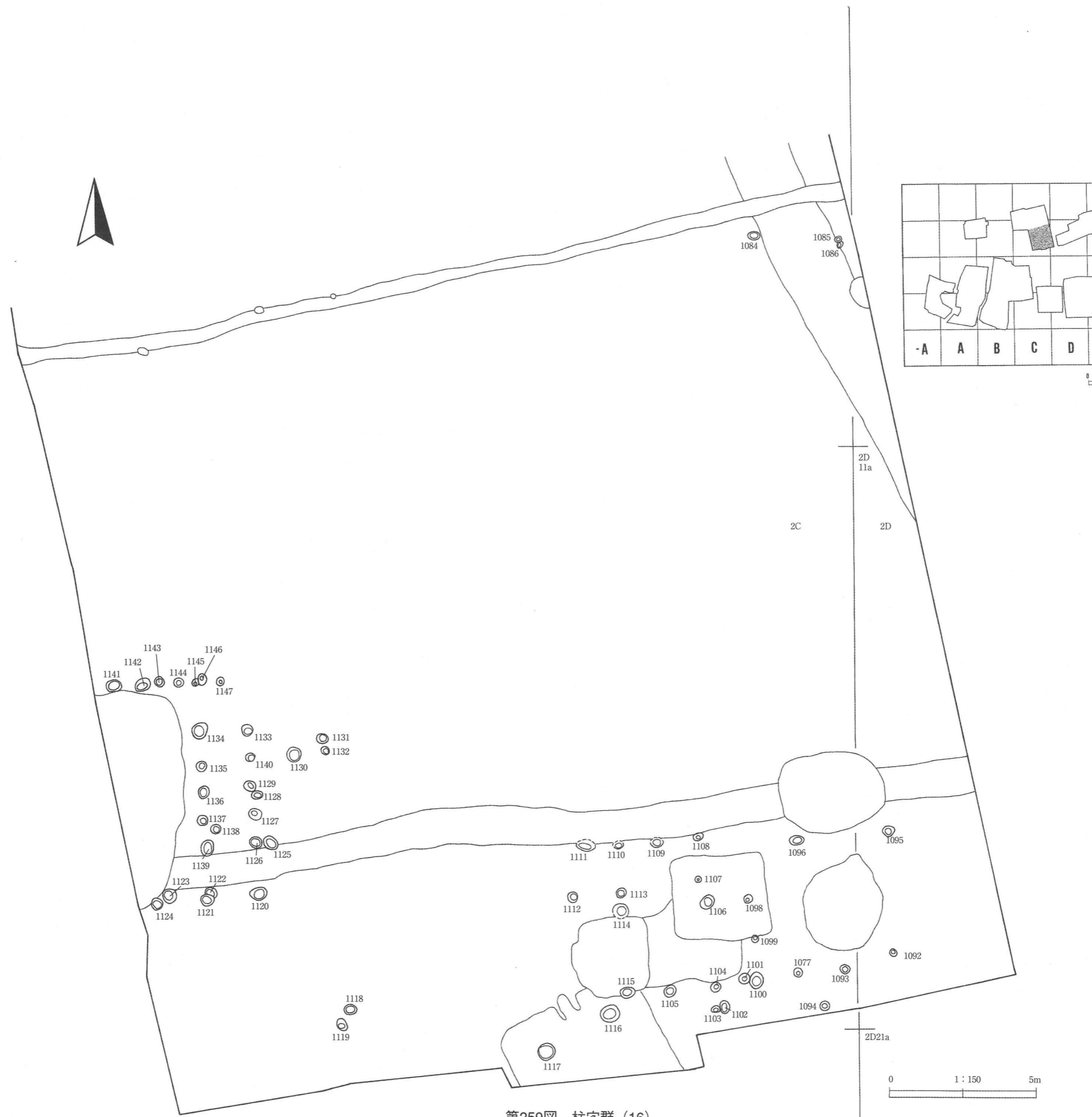
第256图 柱穴群 (13)



第257図 柱穴群 (14)



第258図 柱穴群 (15)



第259图 柱穴群 (16)



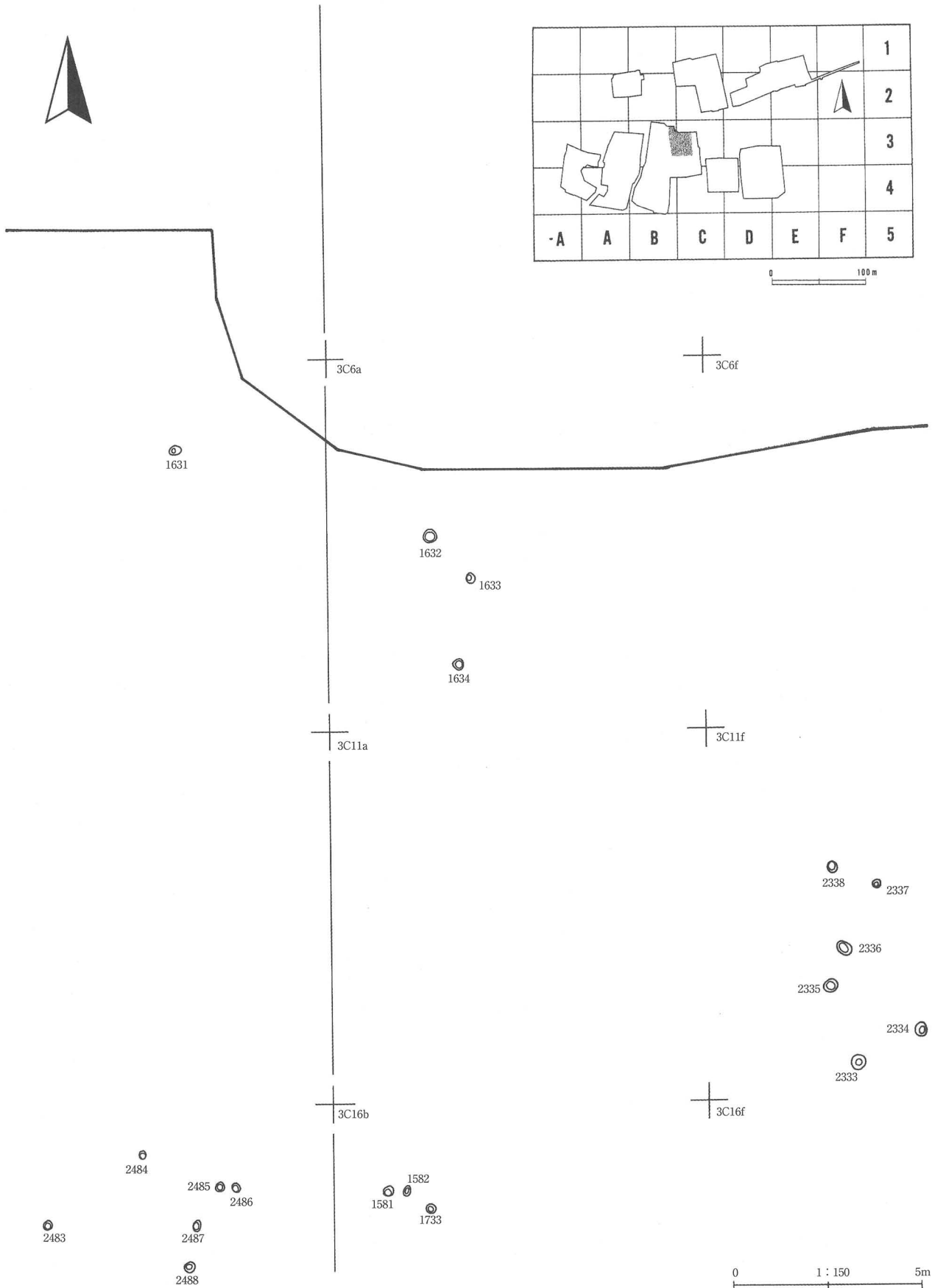
第260图 柱穴群 (17)



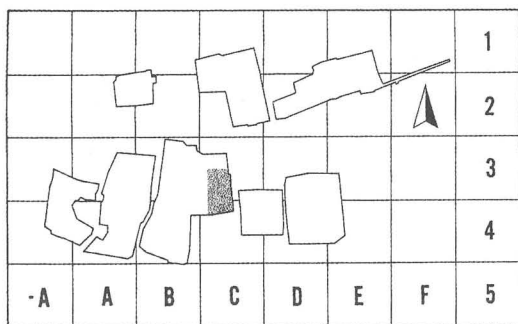
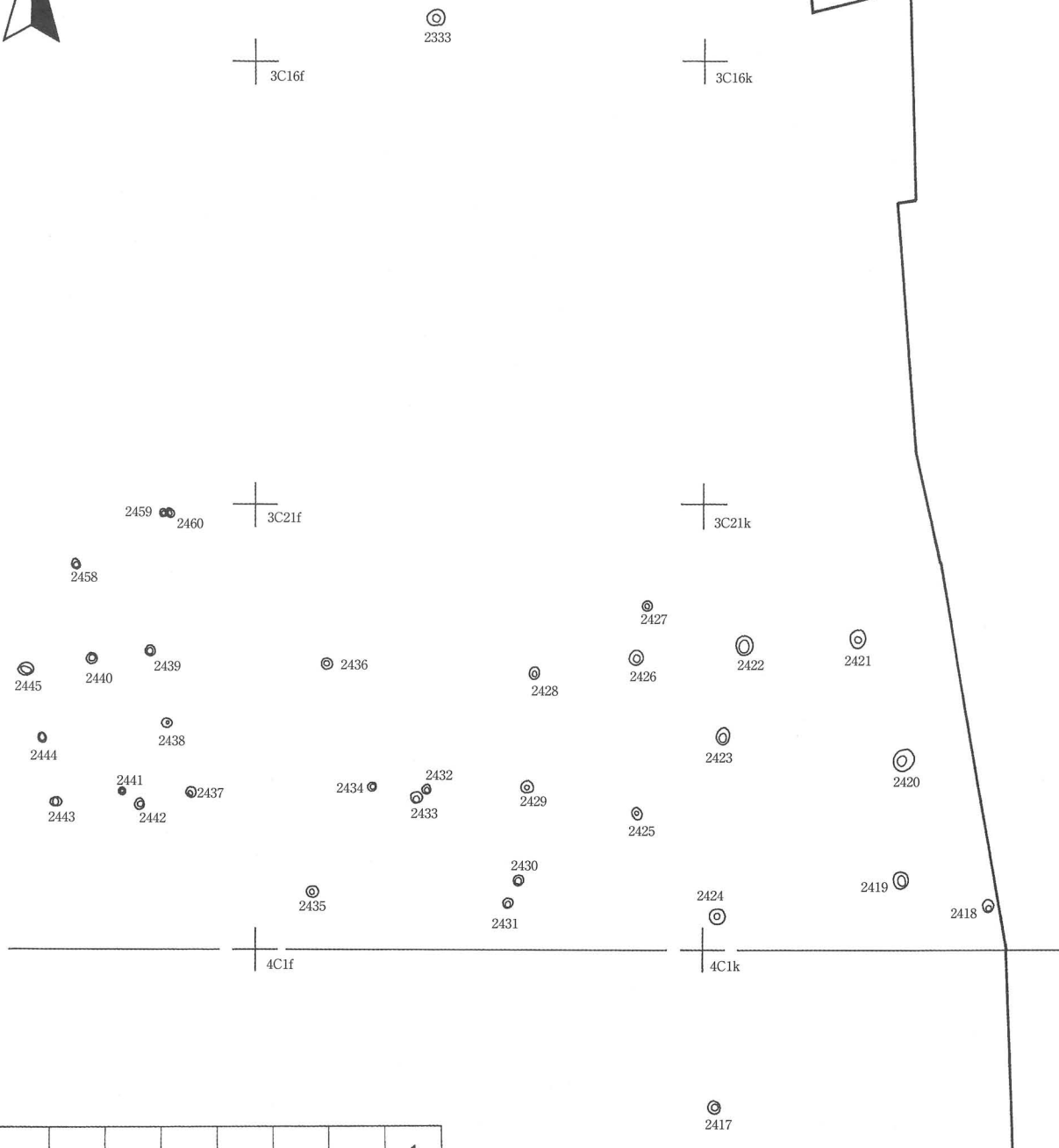
第261图 柱穴群 (18)



第262图 柱穴群 (19)



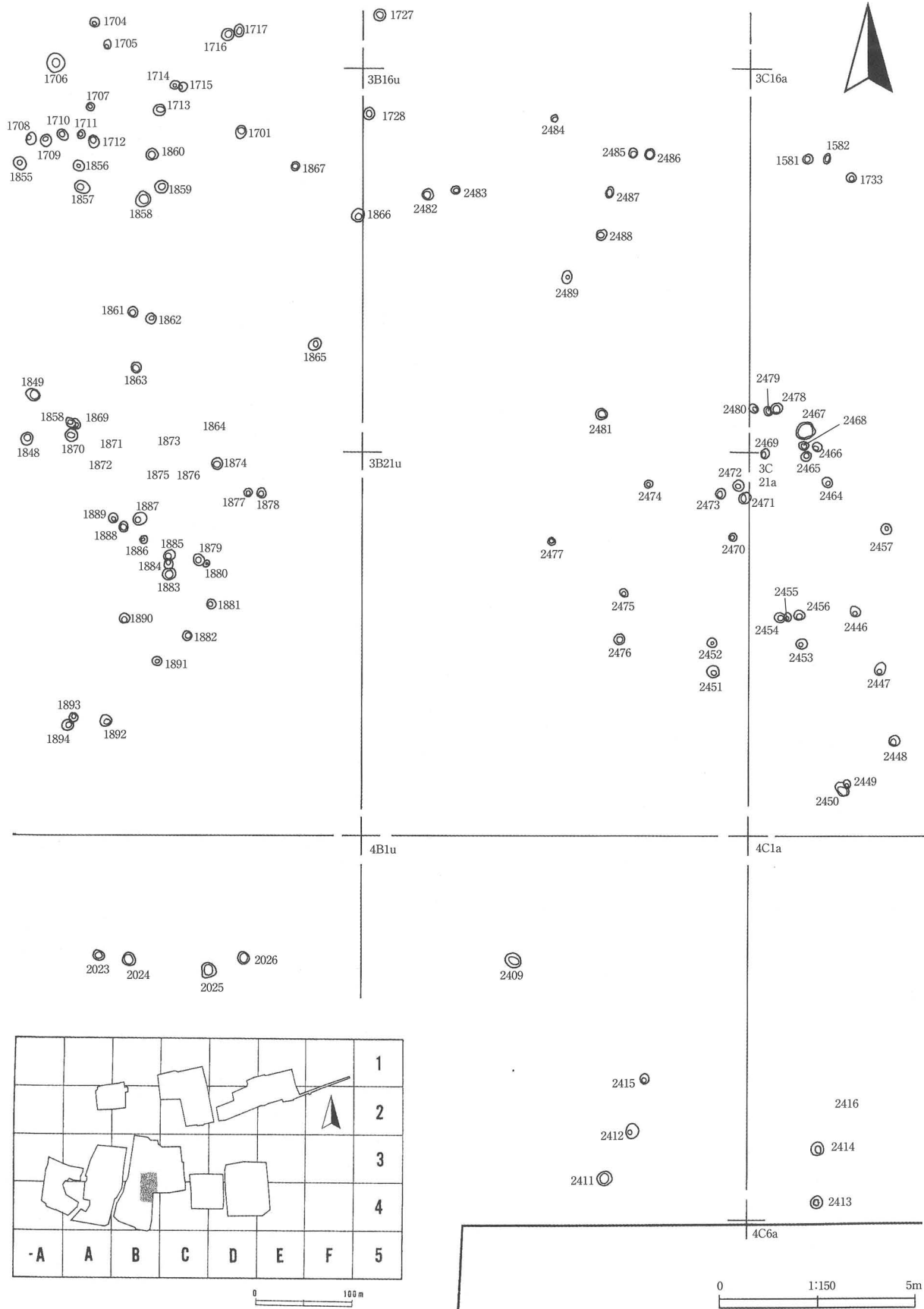
第263図 柱穴群 (20)



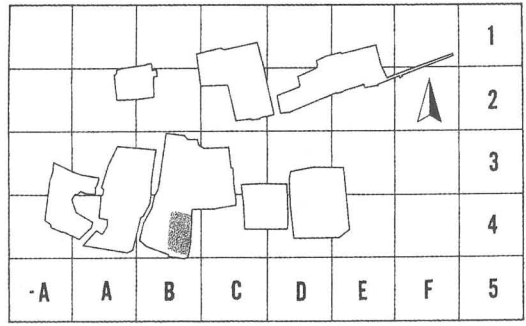
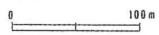
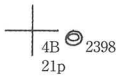
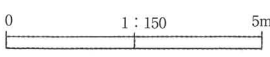
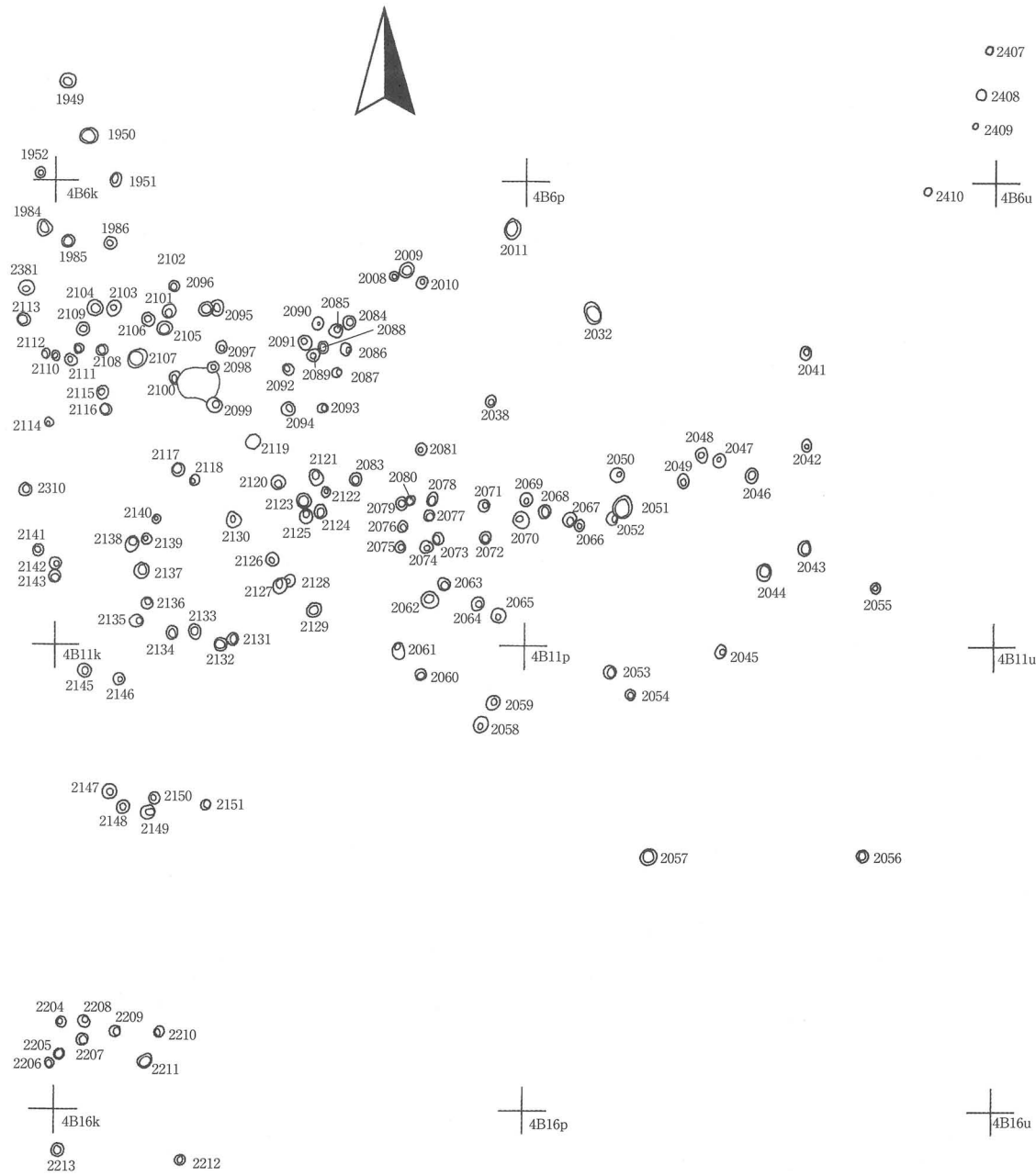
0 100 m

0 1 : 150 5m

第264图 柱穴群 (21)



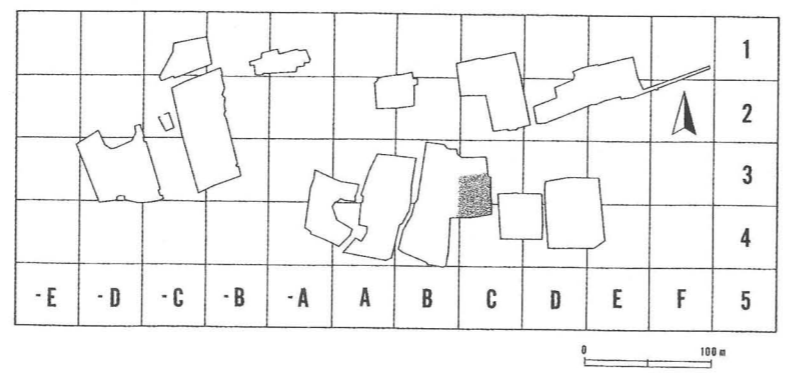
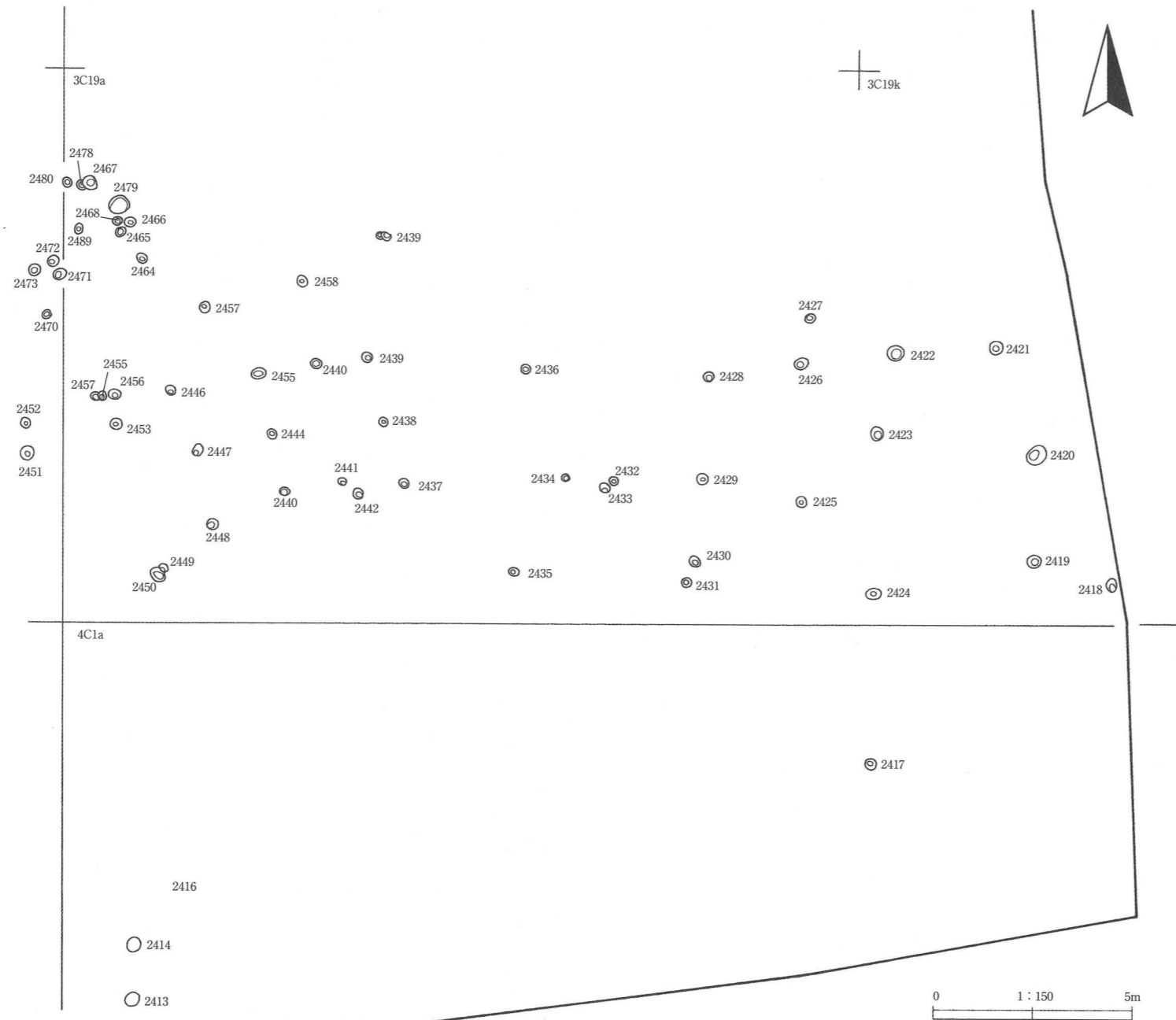
第265图 柱穴群 (22)



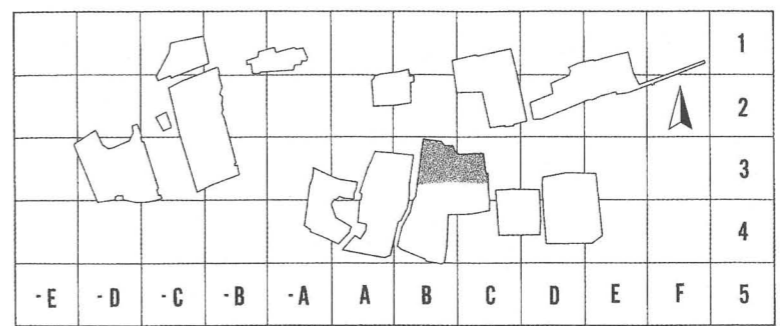
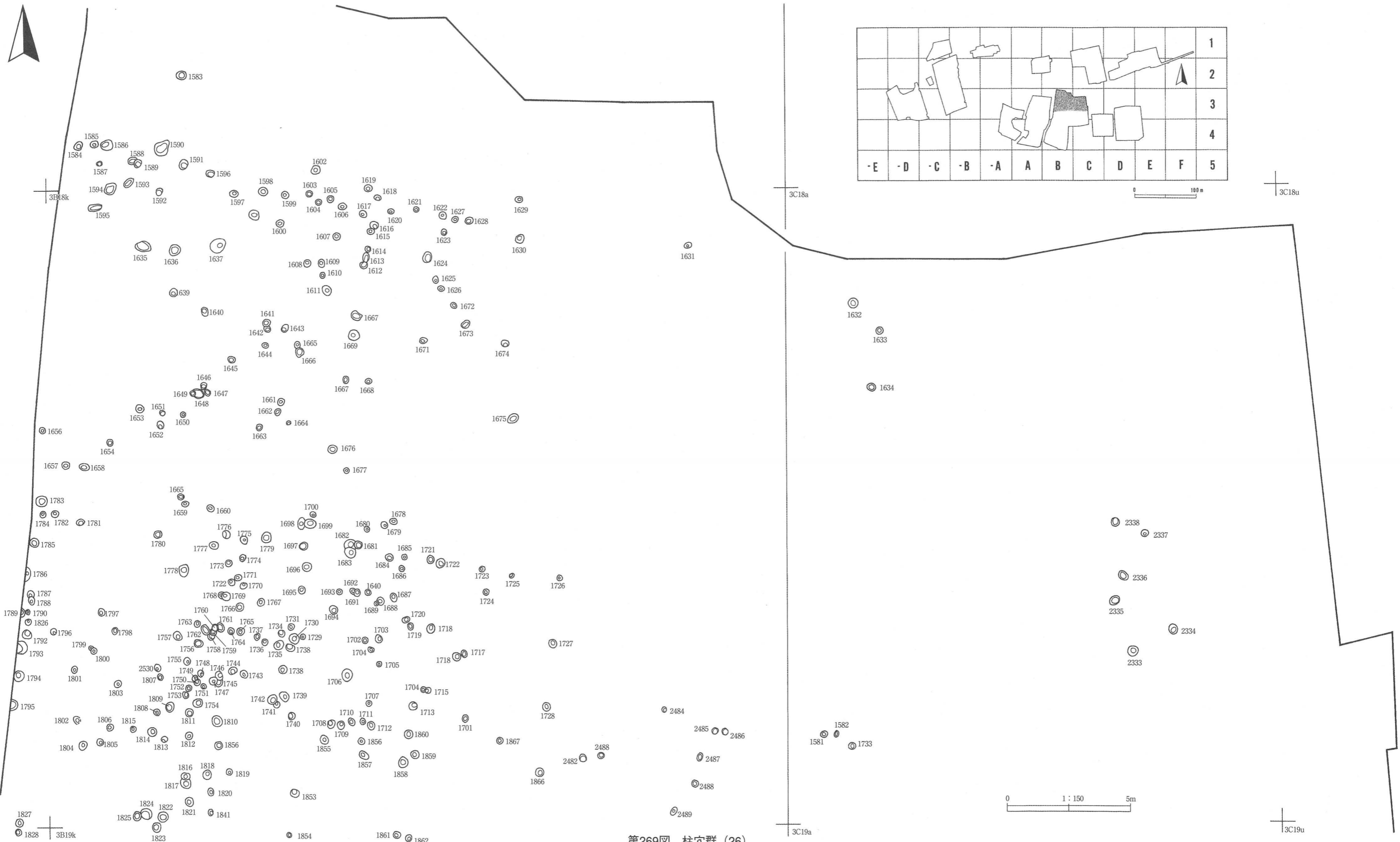
第266图 柱穴群 (23)



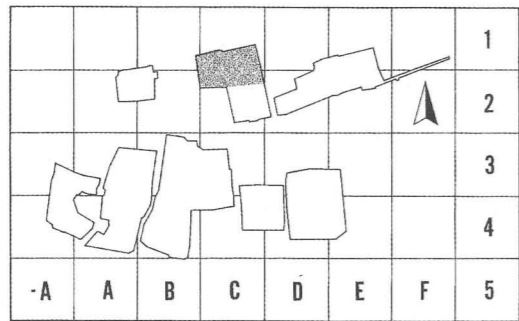
第267图 柱穴群 (24)



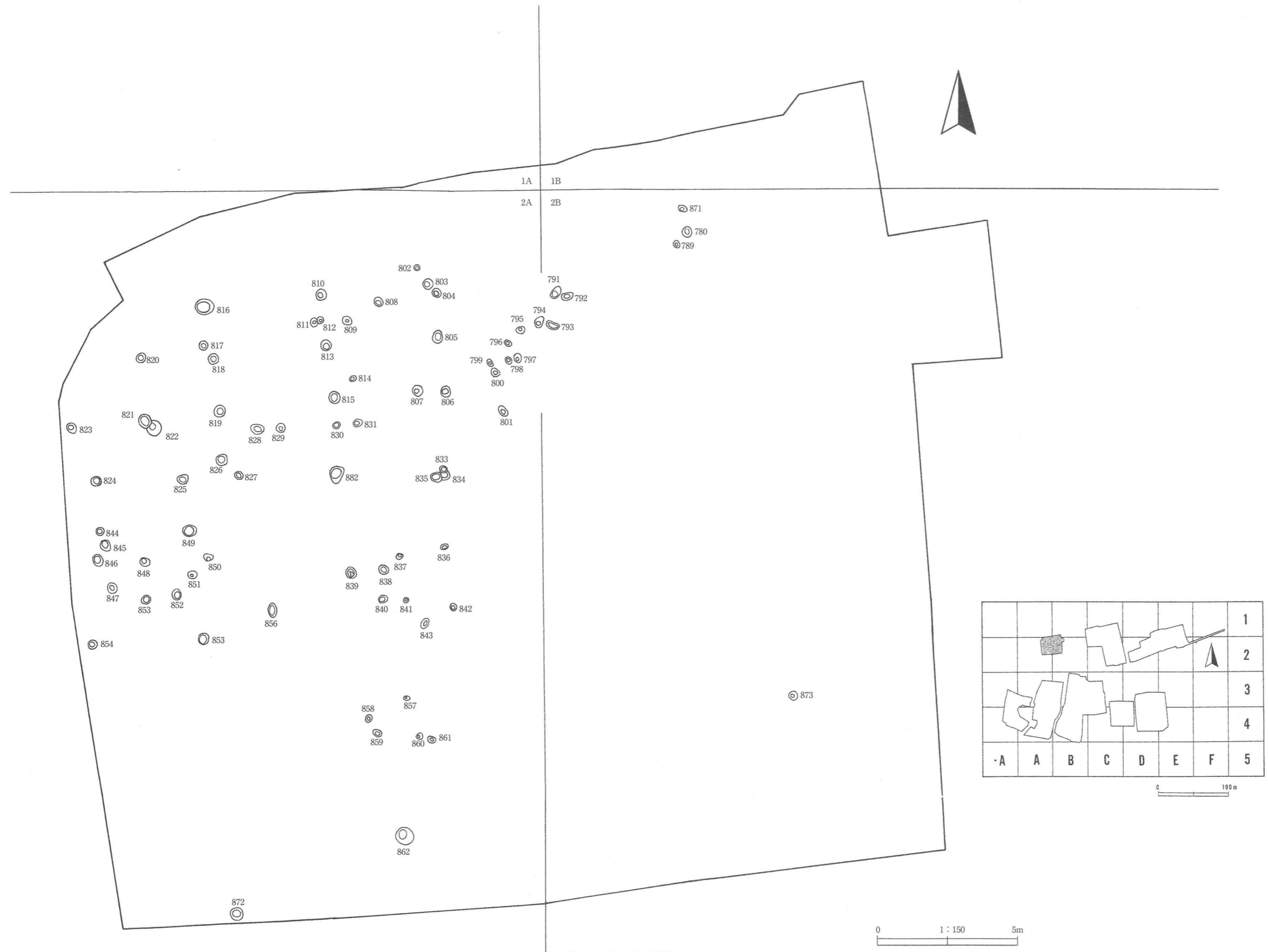
第268图 柱穴群 (25)



第269图 柱穴群 (26)



第270图 柱穴群 (27)



第271図 柱穴群 (28)

10 出土遺物

(1) 土師器・須恵器 (第272～324図・写真図版277～313)

遺構内外含めてコンテナ約60箱(42×32×30cm)の土師器、須恵器が出土した。今回の23次調査では63棟の古代の竪穴住居跡が検出され、これらから出土したものが殆どである。なお、台太郎遺跡全体では古代の竪穴住居跡が400棟近く存在すると推測されることから、遺跡のほぼ全域から土師器、須恵器の出土がみられ、時代の異なる中・近世の遺構などにも入っている。掲載した470点はその中から基本的に遺構に伴っていると判断したものを優先し、次に遺構廃絶後に捨てられたもの、或いは流れ込んだと思われるものを若干掲載した。とくに平安時代の竪穴住居跡出土の土師器・須恵器については他の竪穴住居跡及び別の遺構との重複関係を持つものが多く、厳密に遺構に伴っている遺物を示せないものが多かった。

それぞれの遺構の欄では出土個体数(口縁部及び底部破片から求めた推定個体数)と出土状況・共伴関係などを、また遺物観察表を作成し法量・器面調整・焼成などを、Vまとめでは簡単な形態分類と大まかな年代観を記載したので、ここでは代表的な遺物の特徴のみを記述したい。

<古墳時代末～奈良時代>

2・3は土師器甕で口縁部と体部の外面境に段を持つほかに、口縁部にも段或いは沈線を有するもので、4の球胴甕も同様である。これらと同じ特徴を持つものは8・12・31・65・68・104・105・111・143・149・153・437がある。5は大型の坏で口縁部と体部の内外面に段を持つ。口縁部は外反している。116・376も大型の坏と分類した。6の土師器坏底面には糸切痕?がみられた。7の土師器高坏には段が複数ある。同様の特徴を持つものに147・436などがある。17の土師器甕は最大径が体部下半にくるものである。66・67・171・181なども同じような器形を呈している。57は長胴扁平土器である。胴部ほぼ中央が最も狭くなっており、外面は粗いハケメ調整、内面には輪積痕が明瞭に残る。69・70は土師器坏で口縁と体部の境に段がなく、底部が平底となるものである。78～80・127なども同様である。71は小型手づくね土器と分類した。88・396も同じである。82の土師器には後円部に片口がつくられている。89は縄文土器かもしれない。

90～92は他の土師器坏とは雰囲気異なるものである。法量が小さく、口縁部は狭くヨコナデ調整とし、体部調整は判然としない。内面調整はヨコナデ或いはヘラミガキで、内外面には赤色塗彩された痕跡がある。本県に於いては赤色塗彩の坏は非常に珍しいと思われる。93も風化が著しい個体であるが赤っぽい色調を呈する。95・96・98・99などの土師器甕は口縁部の外反が強い。54・83・123・130も同じような特徴を持つ。114の土師器は器種を碗とした。碗にはこのほか121・129がある。117土師器坏の底面には線刻が見られる本報告書の中では「×」としているが、「+」と見るべきかもしれない。59・135・146・386・388にも同じような線刻が見られた。147・191・403・405土師器坏は内外面黒色処理を施している。167土師器坏の体部及び底面にはハケメ調整が施される。168土師器坏は口縁部の一部を抉っているように見える。181・182土師器甕は口縁部と体部の堺に段がない。

192土師器は須恵器蓋の模倣と思われる。体部の調整をナデと表現したが、よくわからなかった。193は須恵器高台付坏である。宮城県長根窯産のものに似ている。R A 279竪穴住居跡に伴っている。甗は195の1点のみが確認された。

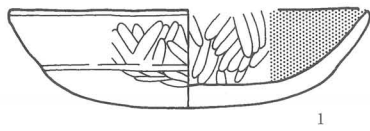
376～383はR E 038竪穴状遺構に伴って出土したものである。376は大型の坏と分類した。口縁部は内湾気味で体部から底部にかけて丸みを持ち、内外面ヘラミガキ調整を施している。R E 038竪穴状遺構からは377～379のように同じような底部付近が著しく丸みを帯びる器形の土師器坏が出土している。加えて377・379

には底部に「×」と線刻されていた。380・381土師器坏もR E038竪穴状遺構出土であるが、底部底部は平底気味である。383土師器甕は体部上半が最も膨らみを持ち、口径に対して底径が小さいといった器形を呈する。今回の調査で出土した土師器の中で復元できた甕の中には同様の器形のものはない。

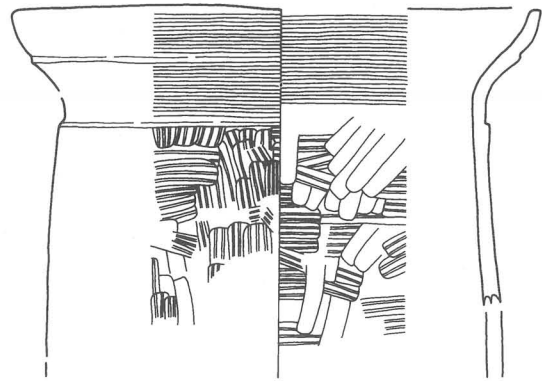
R E042から出土した384土師器坏の底部にも「×」と線刻されている。385土師器坏は口縁部と体部の境に段は見られず、底部も平底となっている。428土師器球胴甕は口縁と体部の境に段を複数持つ。427土師器坏も同様に段を複数有している。

<平安時代>

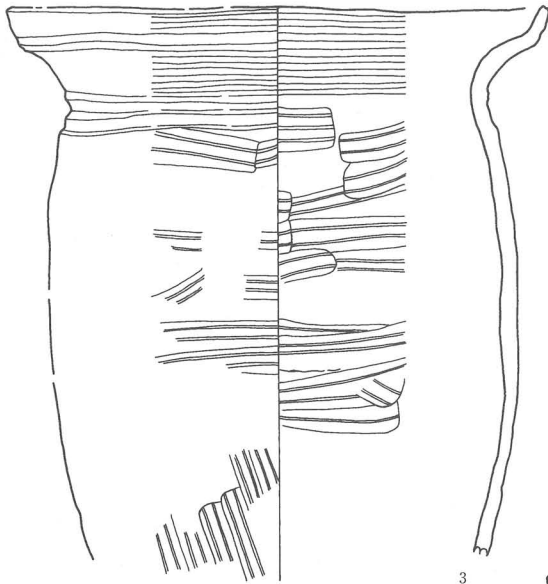
200の土師器坏の外面には線刻で「木」と彫られている。線刻・墨書を持つものはその全てを掲載しており、206・310・311・315・347・354・355・374・421に認められた。墨書・線刻ともに今回の23次調査では「木」と見える文字が殆どであった。底部付近に再調整を施す坏類としては206～208・226・291・292・298・300・353・356・369がある。221土師器甕は口縁部の幅が狭い。体部外面にはヘラケズリが施されている。237は須恵器長頸壺と思われる。底面に菊花状の調整をもつ。243は耳皿である。耳皿は1点のみの出土であった。245土師器甕は胴部に幾分膨らみをもつ器形である。260須恵器坏の底部には切り離した後、篲の子状のものの上で乾燥させたと思われる跡がある。262土師器甕はロクロ整形、264・265は非ロクロ整形である。共に口縁部の幅が短い。269～271は須恵器甕で同一個体かもしれない。底部は丸底となっている。287は土師器鉢である。ロクロ整形の後、体部外面はヘラケズリ、内面はハケメ調整を施しているようである。鉢はこのほか329があり、今回の調査で出土した中で確認された鉢はこれが全てである。345は外面に墨書された土師器坏である。底径が他の坏より幾分大きい。346土師器坏にも「木」と線刻されている。356はロクロ整形の土師器甕である。内面調整はカキメであろうか。360土師器坏は底部付近を再調整している。365土師器高台付坏の外面にも「木」と逆さに線刻されている。内外面黒色処理と記載したが、焼成時の偶然によるものかもしれない。367・368土師器甕は口縁部より胴部が膨らむ器形となる。ともに外面にはヘラケズリ、内面にはハケメ調整が見られる。394・396は内外面黒色処理を施している。403土師器坏にも外面に線刻があるが判読できない。407土師器高台付坏は内外面黒色処理で底部には菊花状の調整が見られる。410の長頸壺の内面調整は自信がない。429～448は須恵器甕・壺類である。天地及び傾きが不明なものも多い。また、443・444・446～448は須恵器ではなく須恵器系陶器ではないかと思ったがよくわからない。



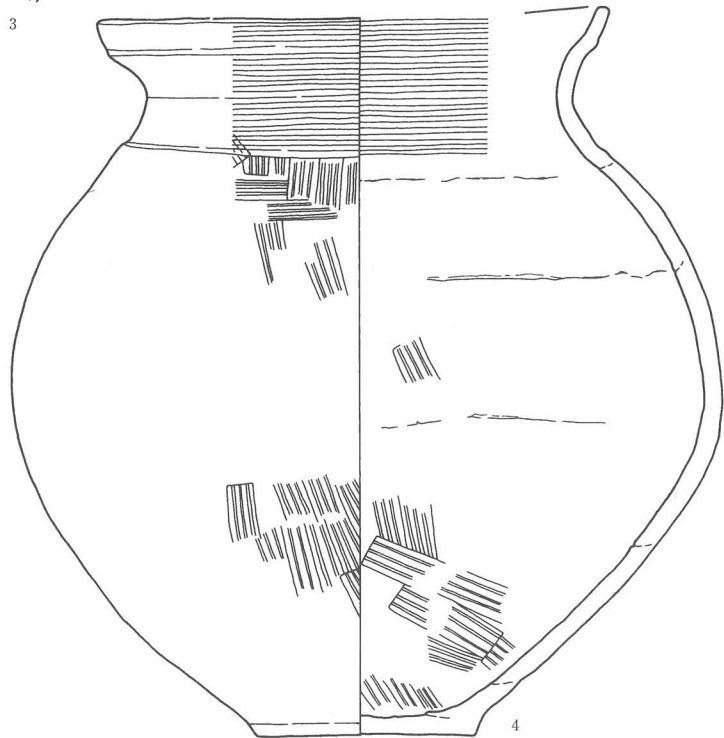
1



2

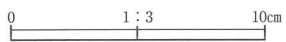


3

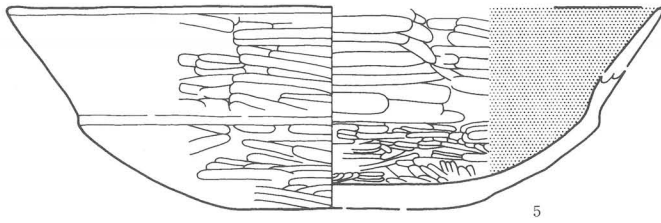


4

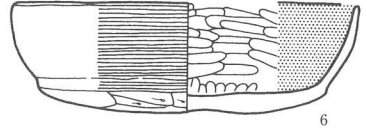
1・2はRA201
3・4はRA202



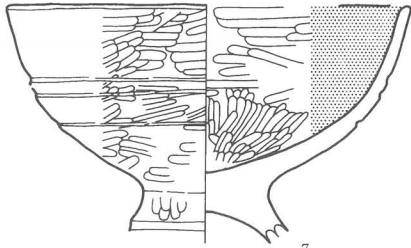
第272図 土師器・須恵器(1)



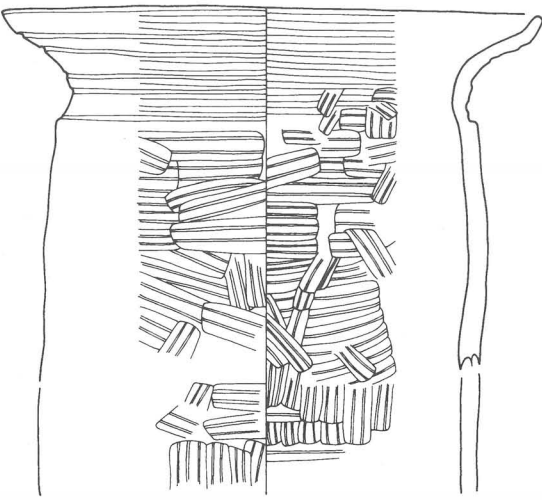
5



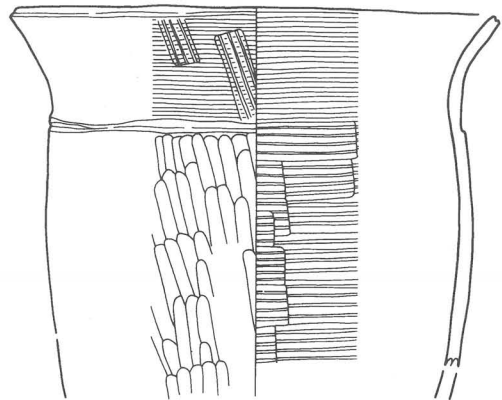
6



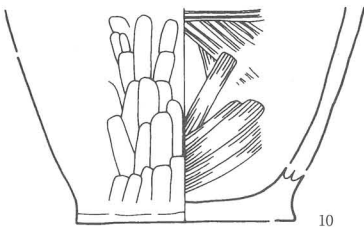
7



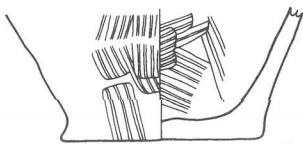
8



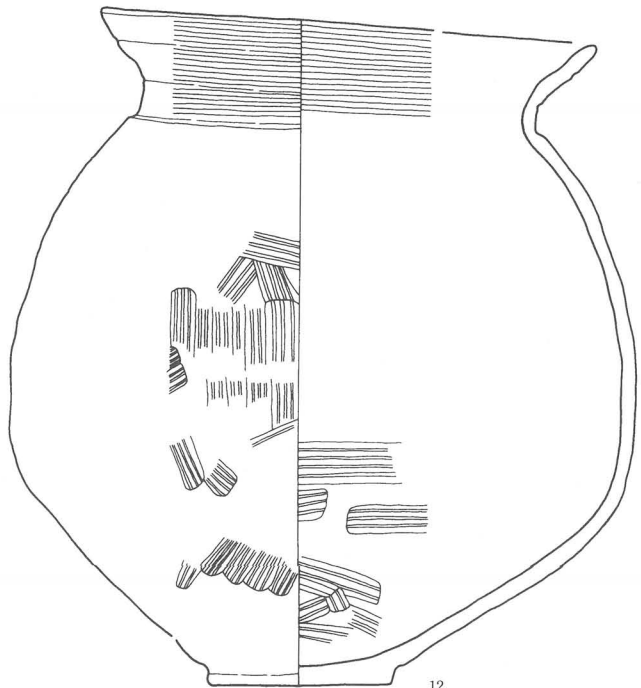
9



10



11

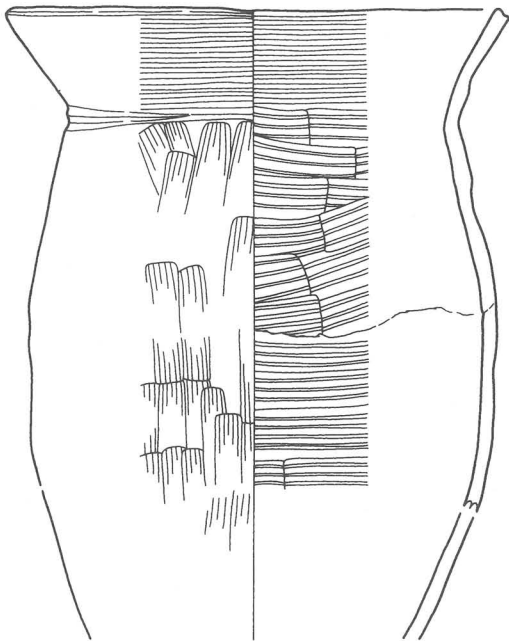


12

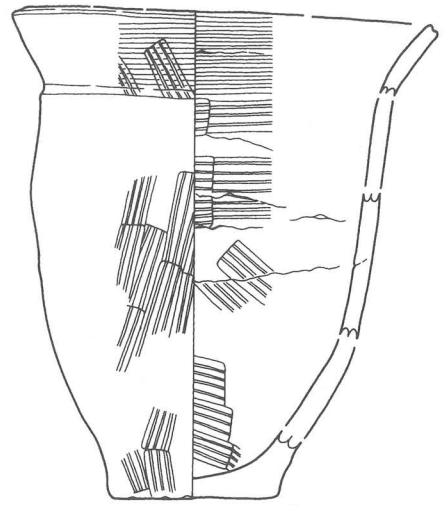
0 1 : 3 10cm

5~12(≠RA203)

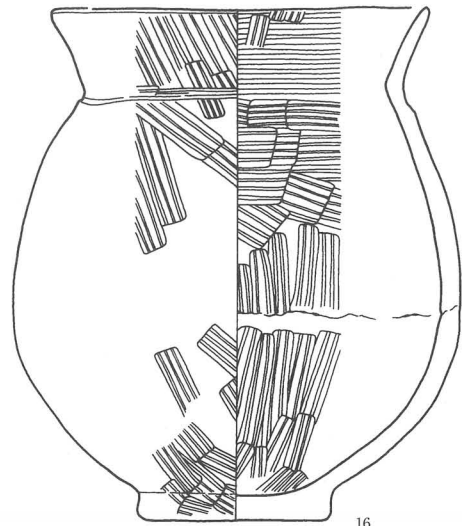
第273図 土師器・須恵器(2)



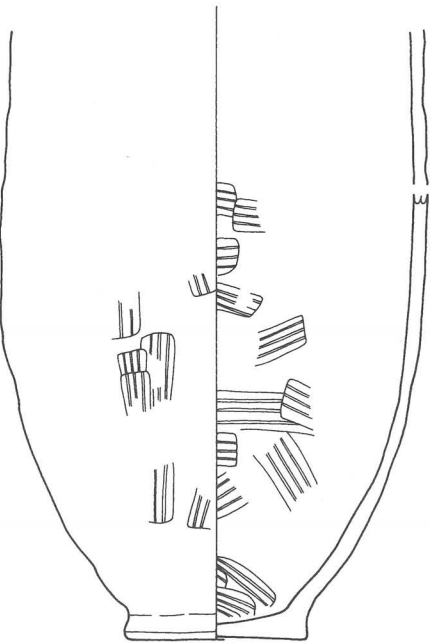
13



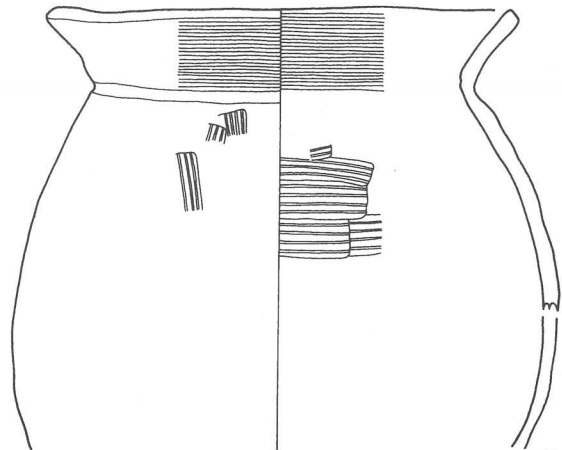
14



16



15

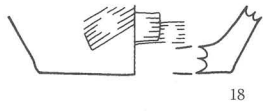


17

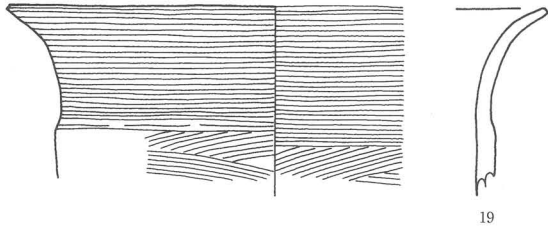
13~17はRA204

0 1:3 10cm

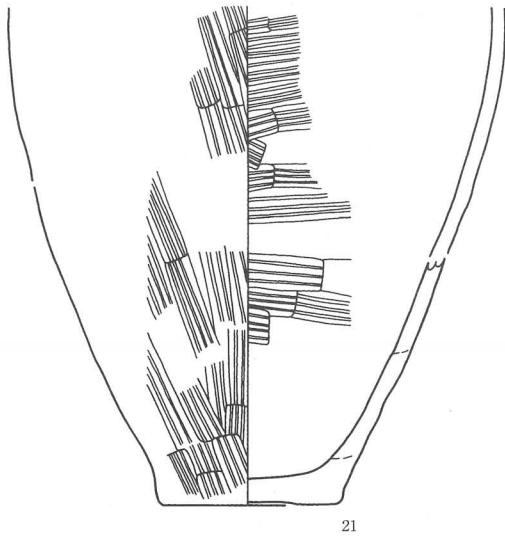
第274図 土師器・須恵器(3)



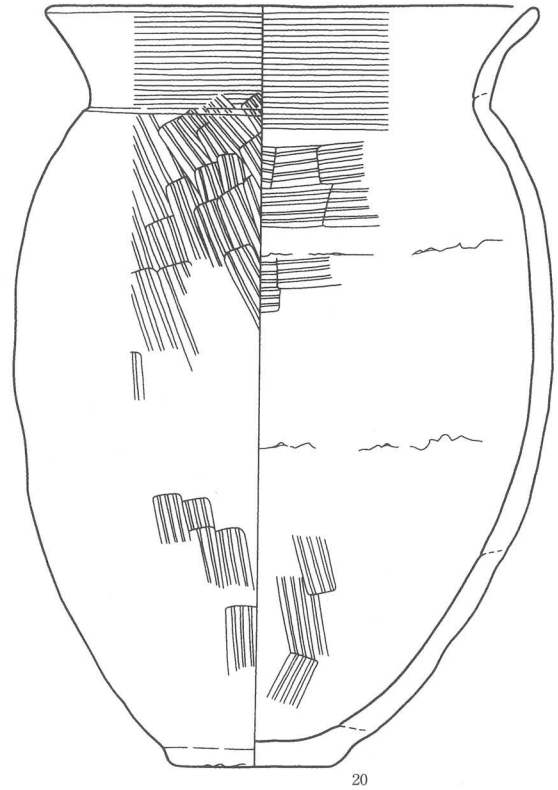
18



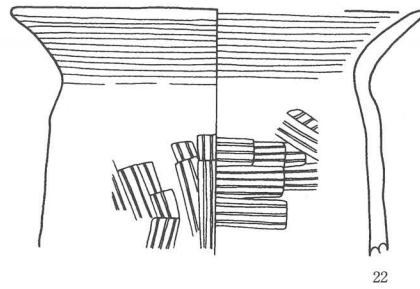
19



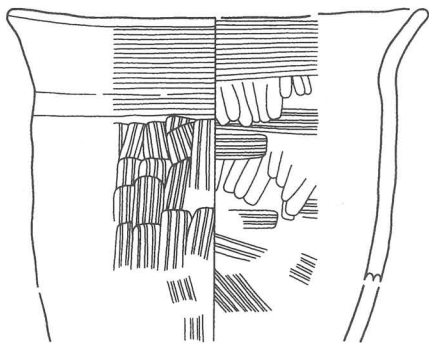
21



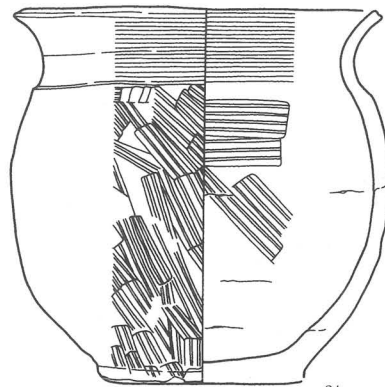
20



22



23

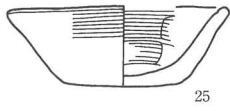


24

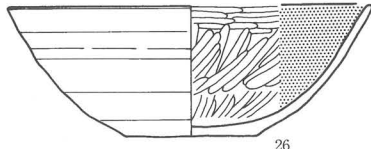
0 1 : 3 10cm

18はRA205
19~24はRA206

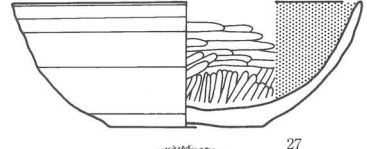
第275図 土師器・須恵器(4)



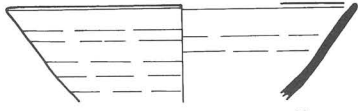
25



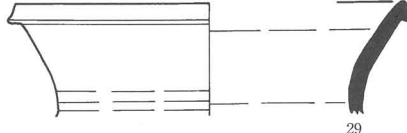
26



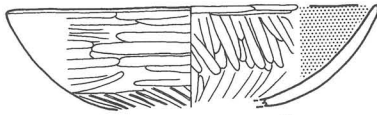
27



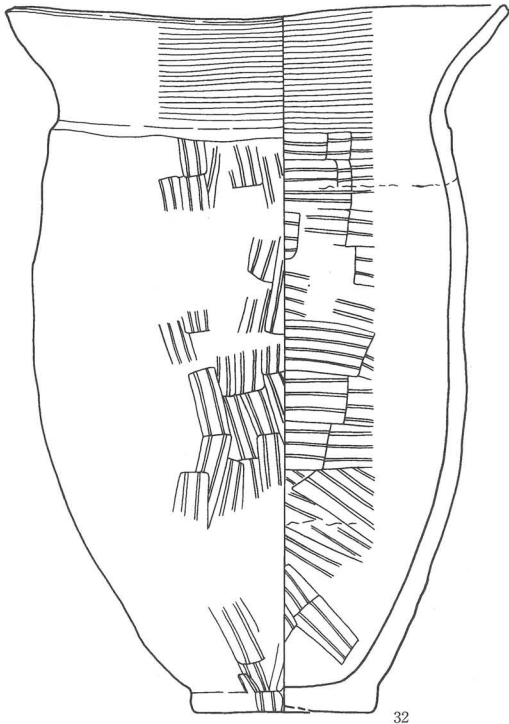
28



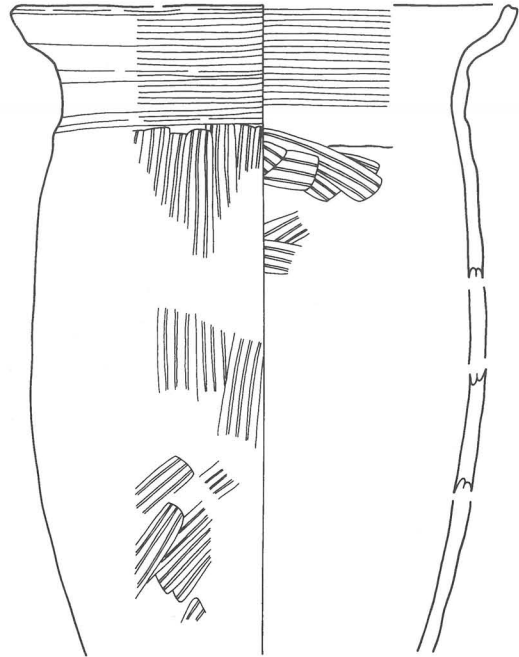
29



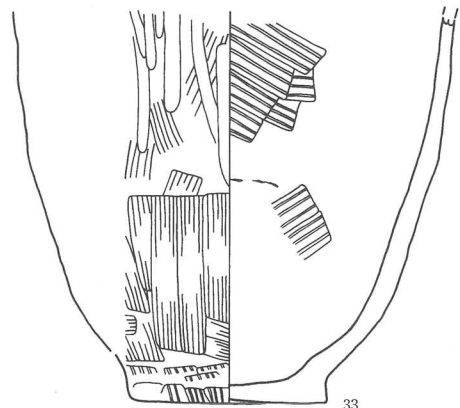
30



32



31



33

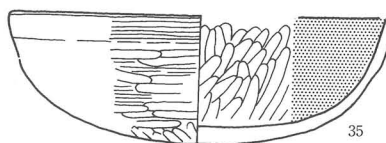
25~29(土師器)
30~33(須恵器)

0 1:3 10cm

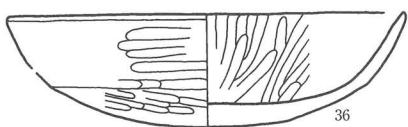
第276図 土師器・須恵器(5)



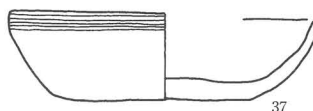
34



35



36

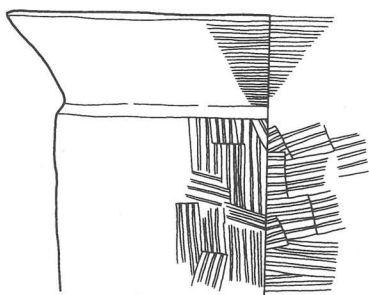


37

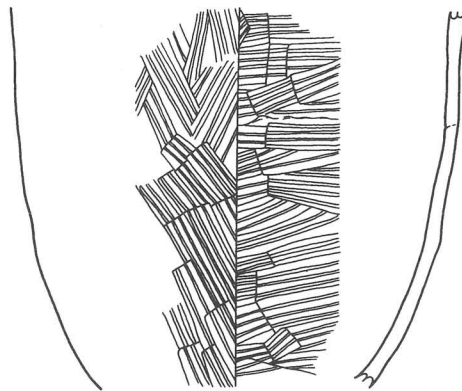
34-38はRA209



38

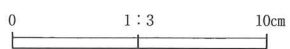


39

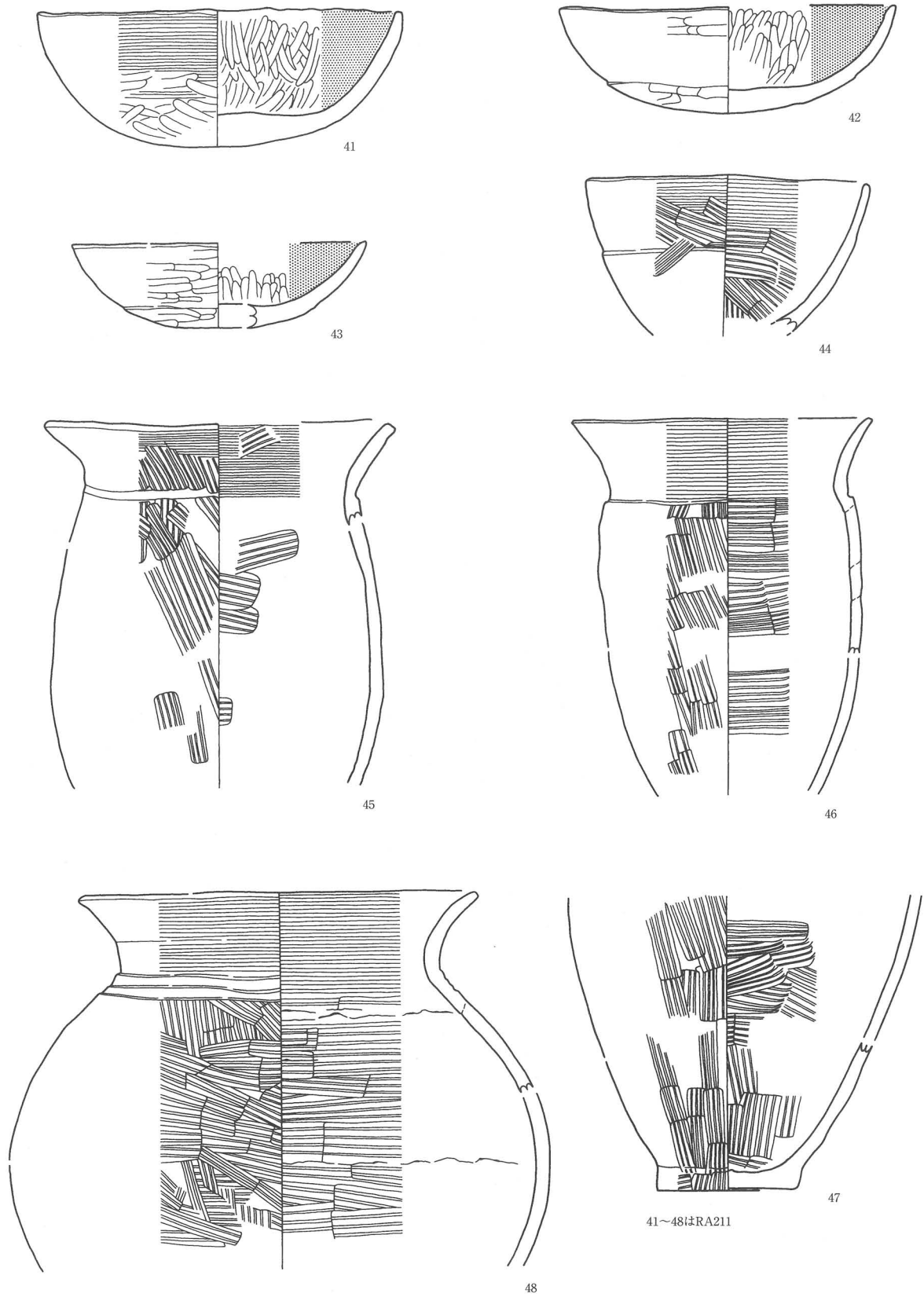


40

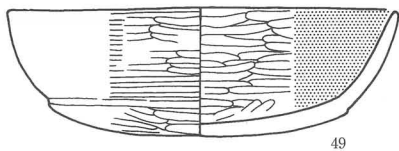
39・40はRA210



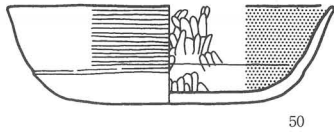
第277図 土師器・須恵器(6)



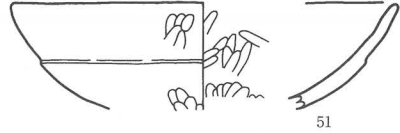
第278図 土師器・須恵器(7)



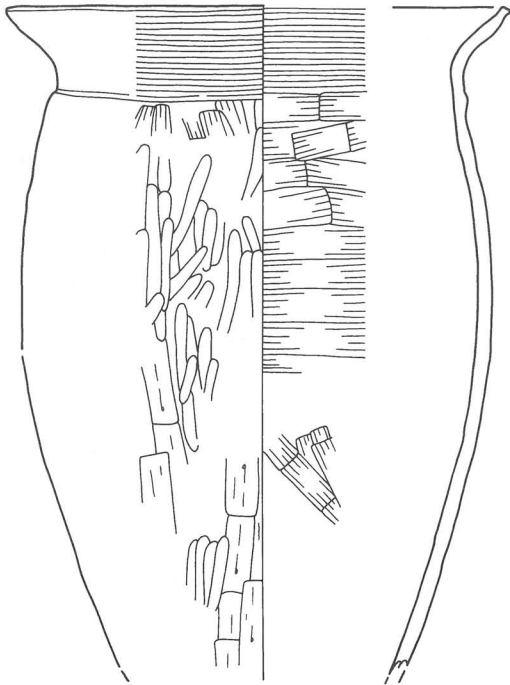
49



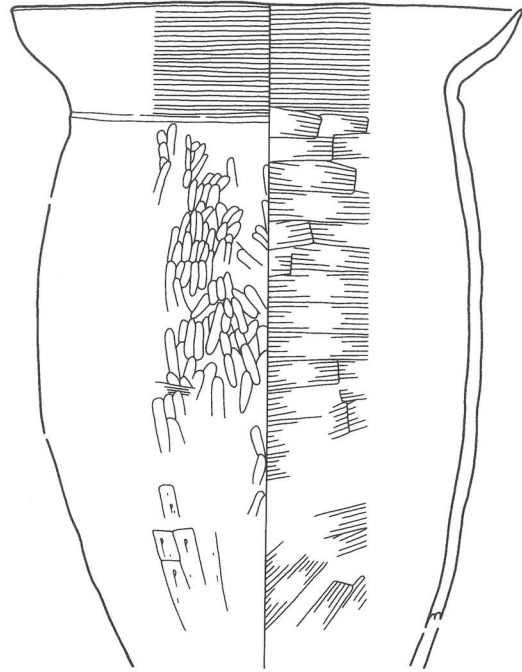
50



51

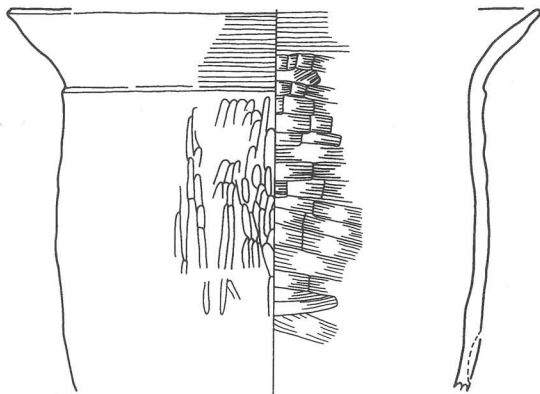


52

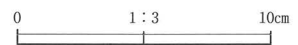


53

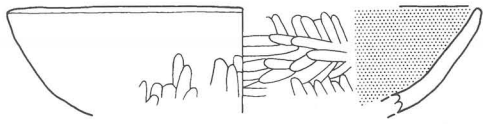
49~54はRA219



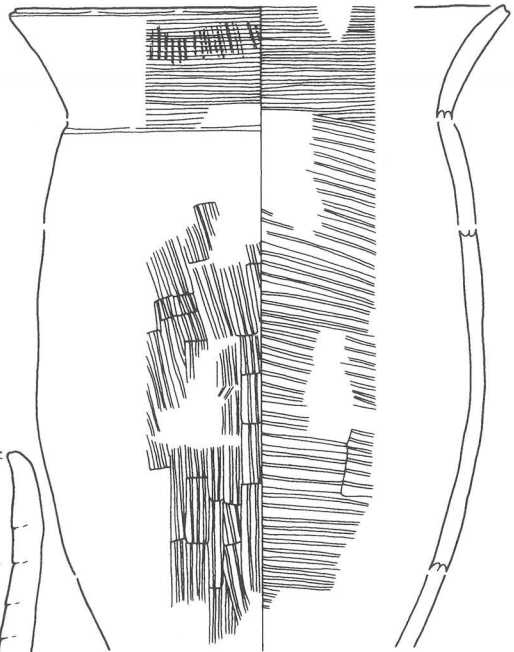
54



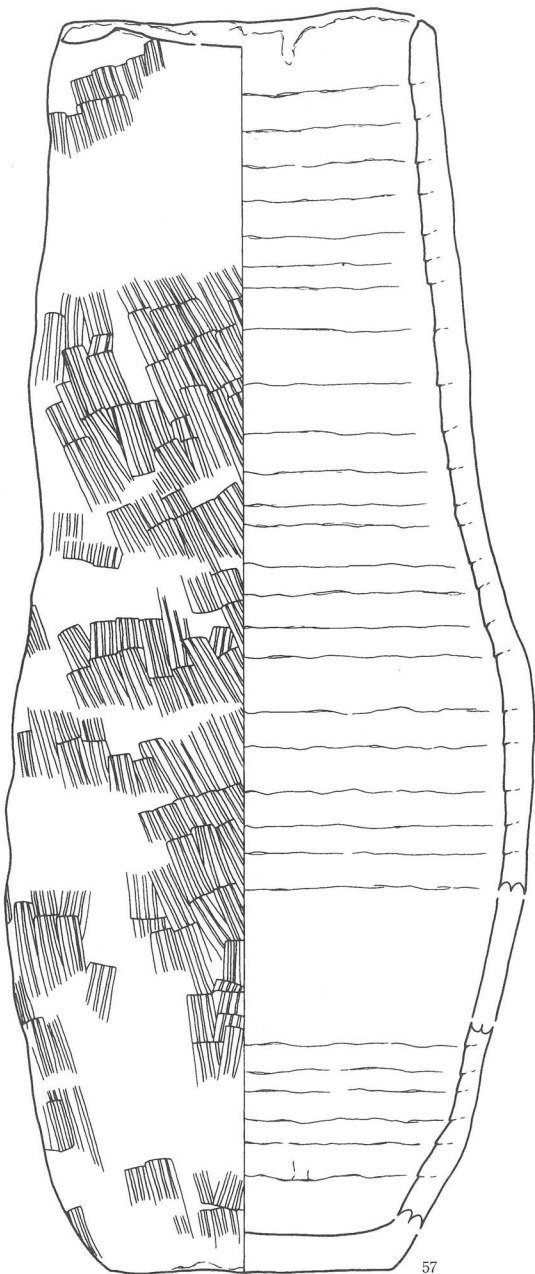
第279図 土師器・須恵器(8)



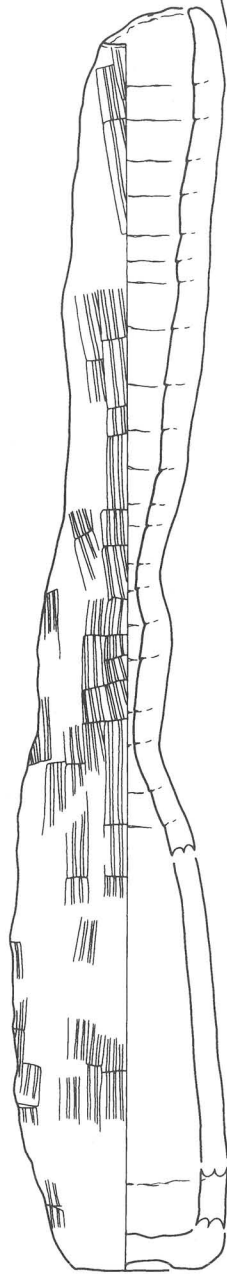
55



56



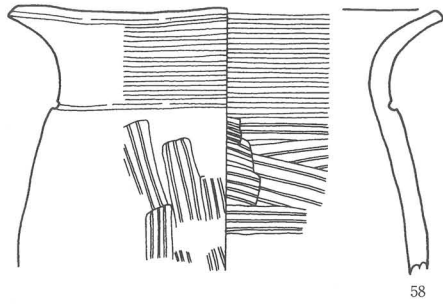
57



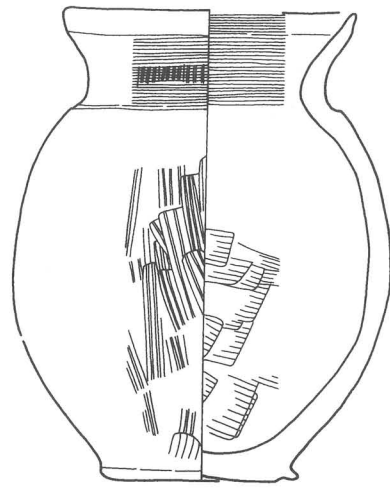
55~57はRA223

0 1:3 10cm

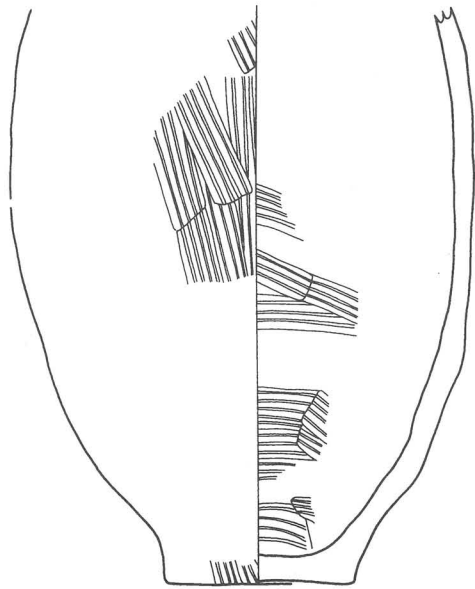
第280図 土師器・須恵器(9)



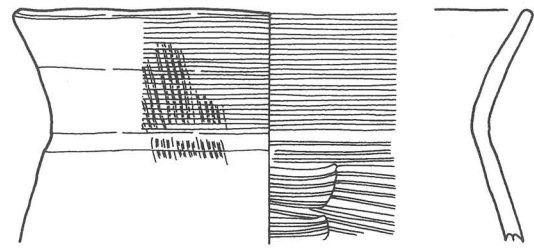
58



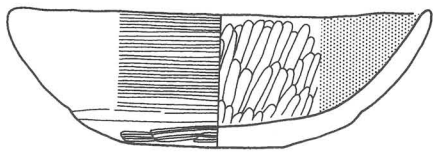
59



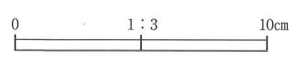
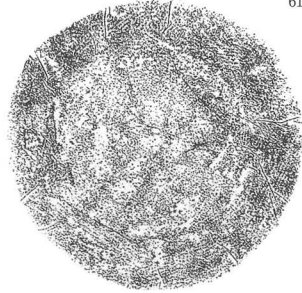
60



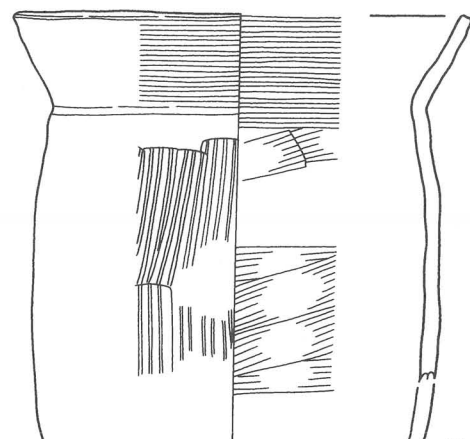
62



61

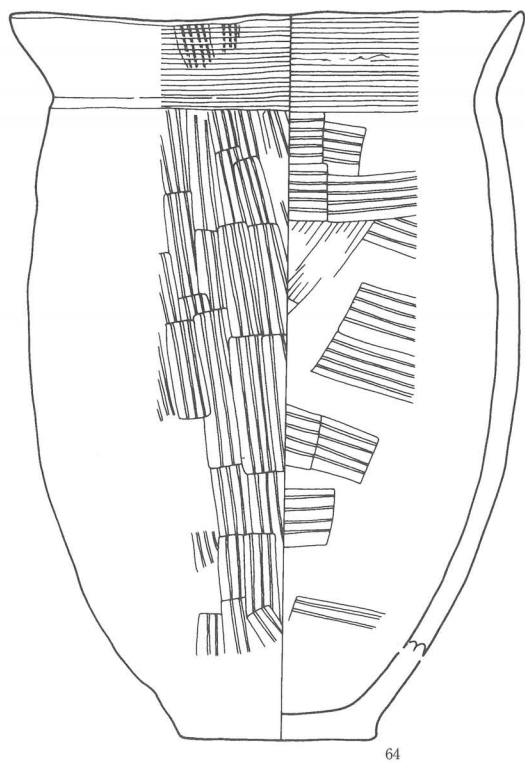


58~60はRA225
61~63はRA230

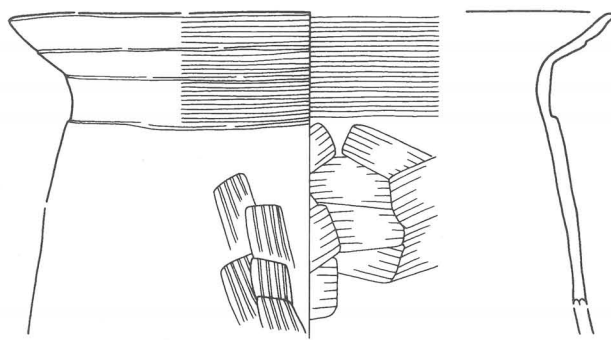


63

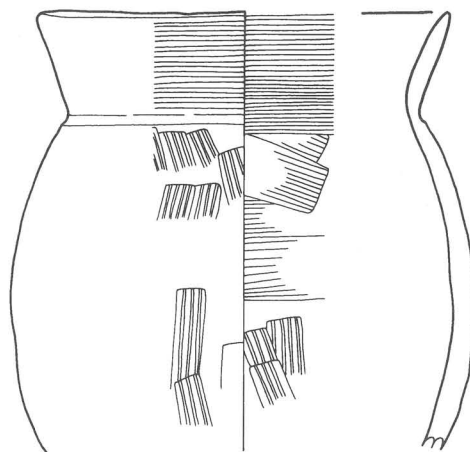
第281図 土師器・須恵器(10)



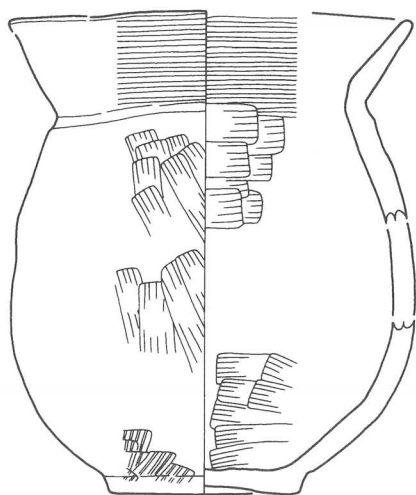
64



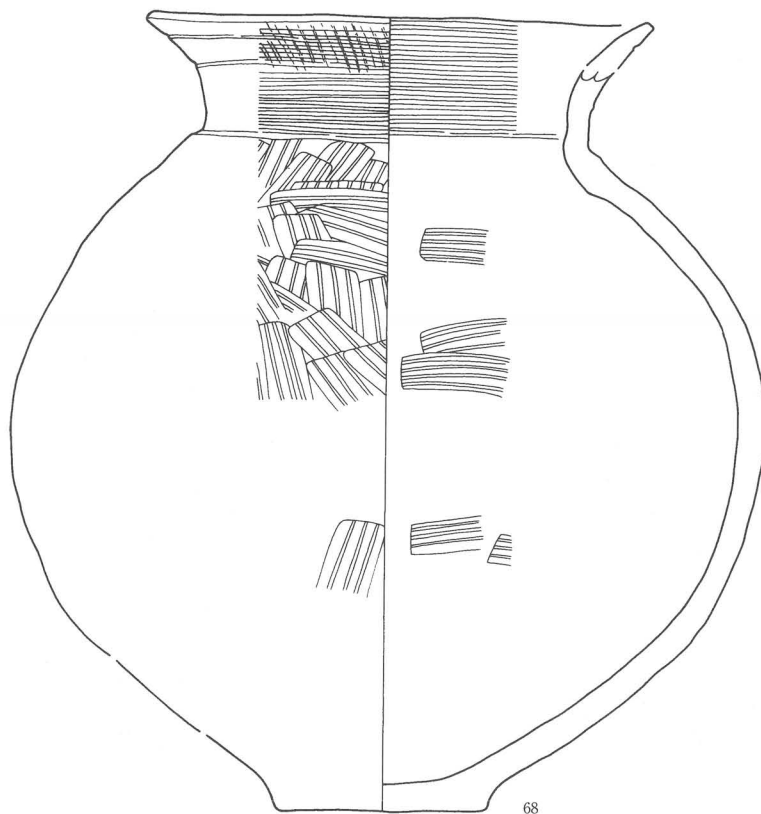
65



66

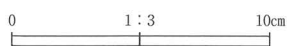


67

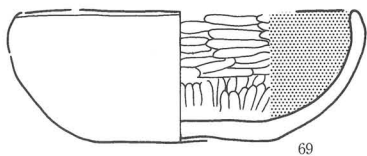


68

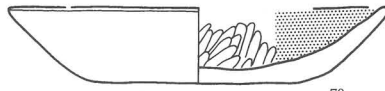
64~68はRA230



第282図 土師器・須恵器(11)



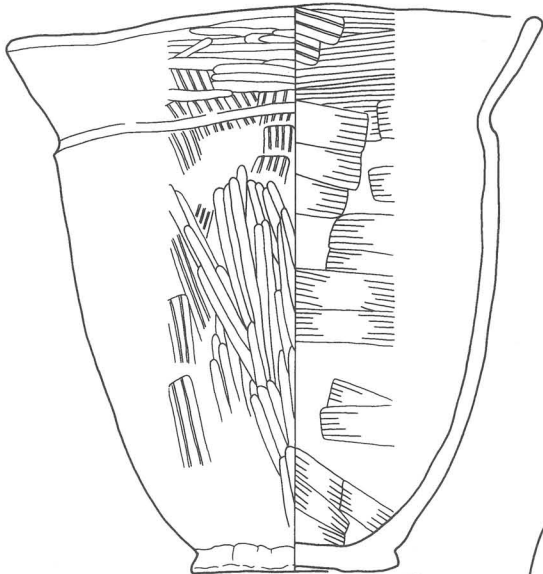
69



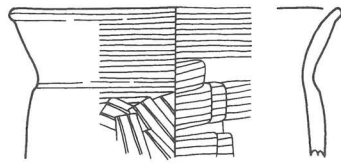
70



71

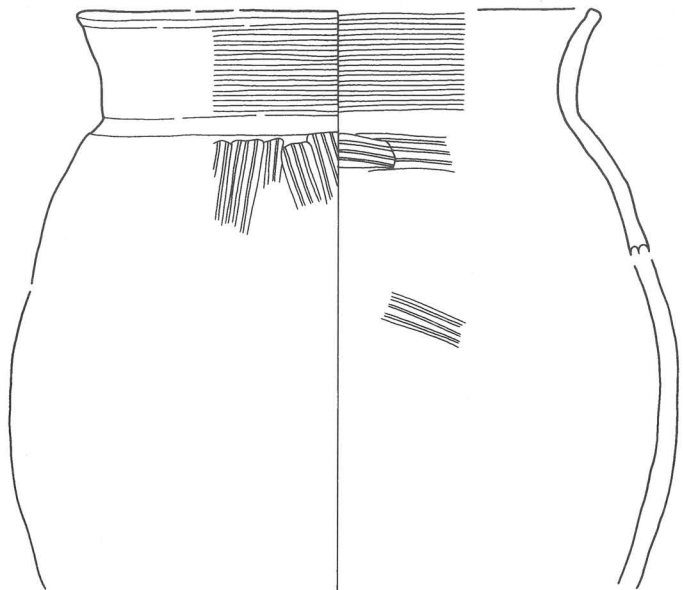


72

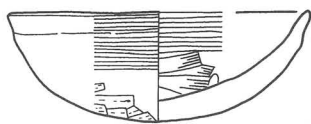


73

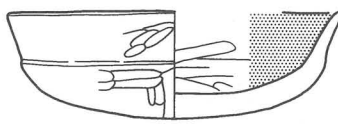
69~74iRA231



74



75

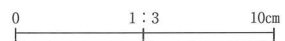


76

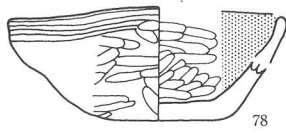


77

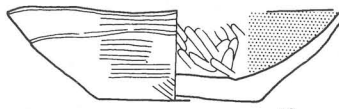
75~77iRA233



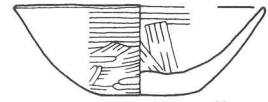
第283図 土師器・須恵器(12)



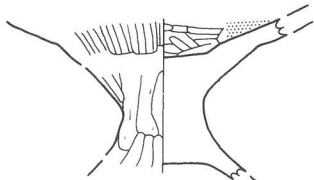
78



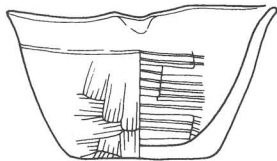
79



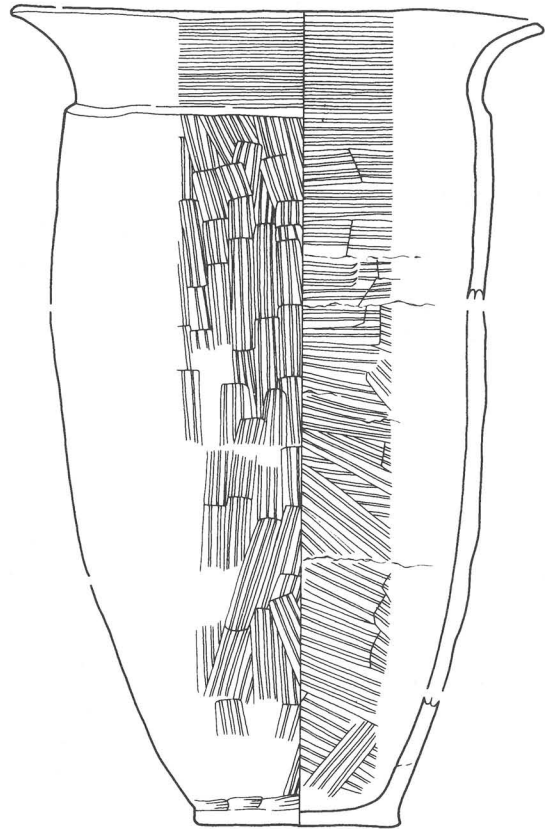
80



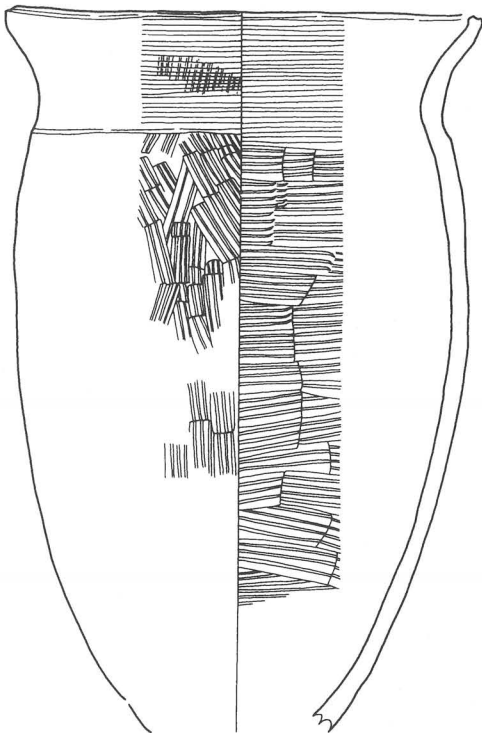
81



82

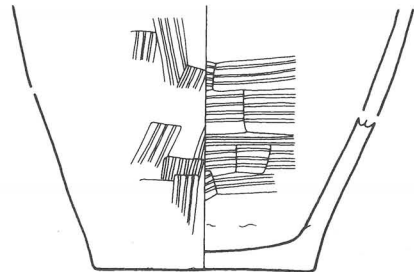


83

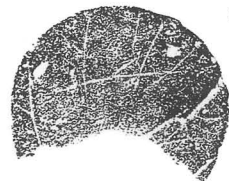


84

78~82はRA233
83~85はRA234

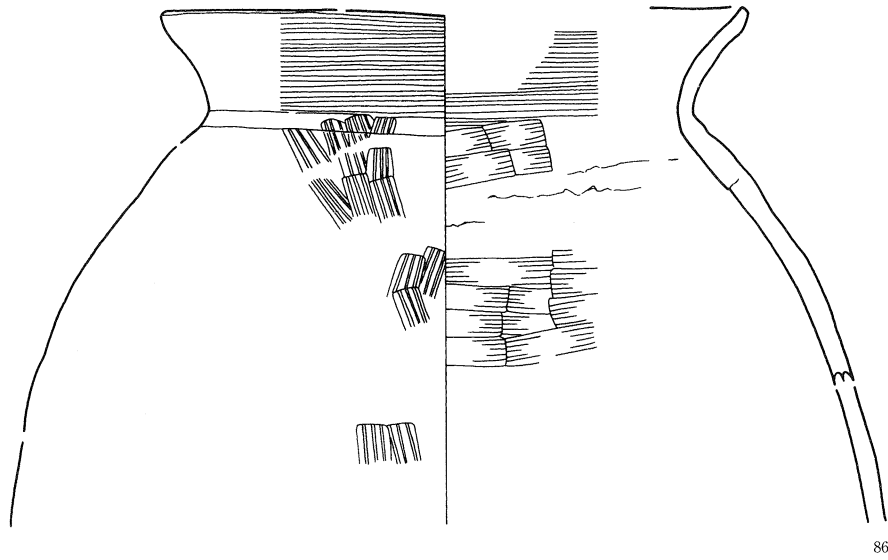


85

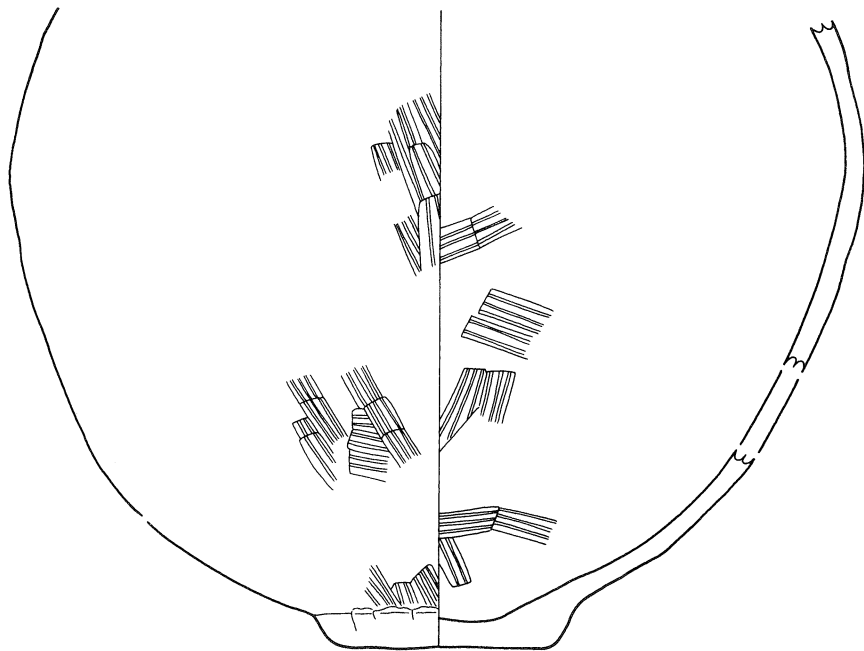


0 1:3 10cm

第284図 土師器・須恵器(13)

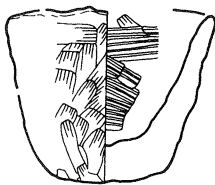


86

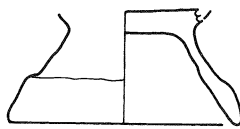


87

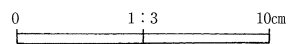
86~89はRA234



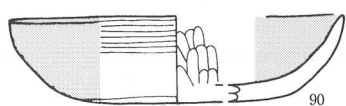
88



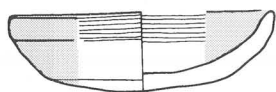
89



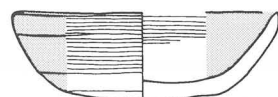
第285図 土師器・須恵器(14)



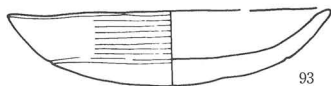
90



91



92

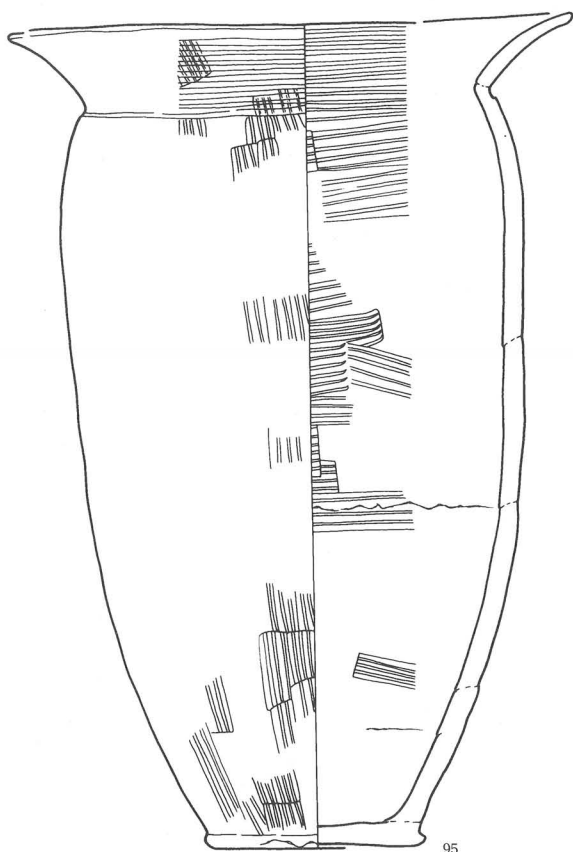


93

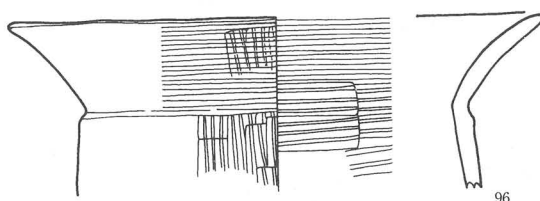


94

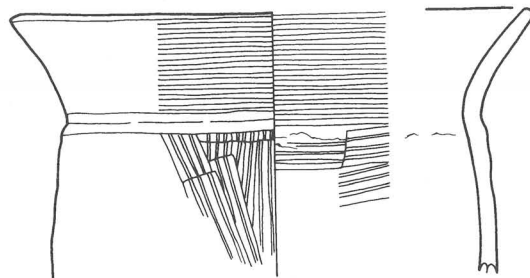
90~100土師器



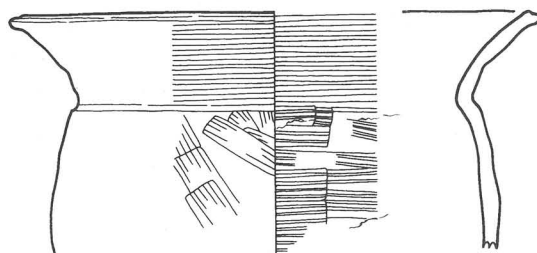
95



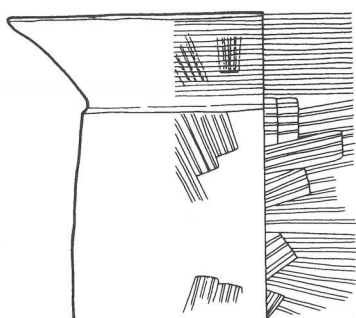
96



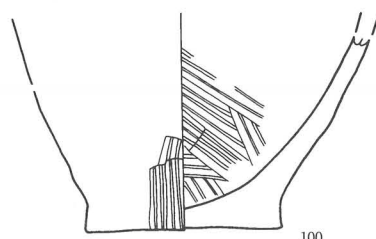
97



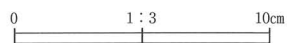
98



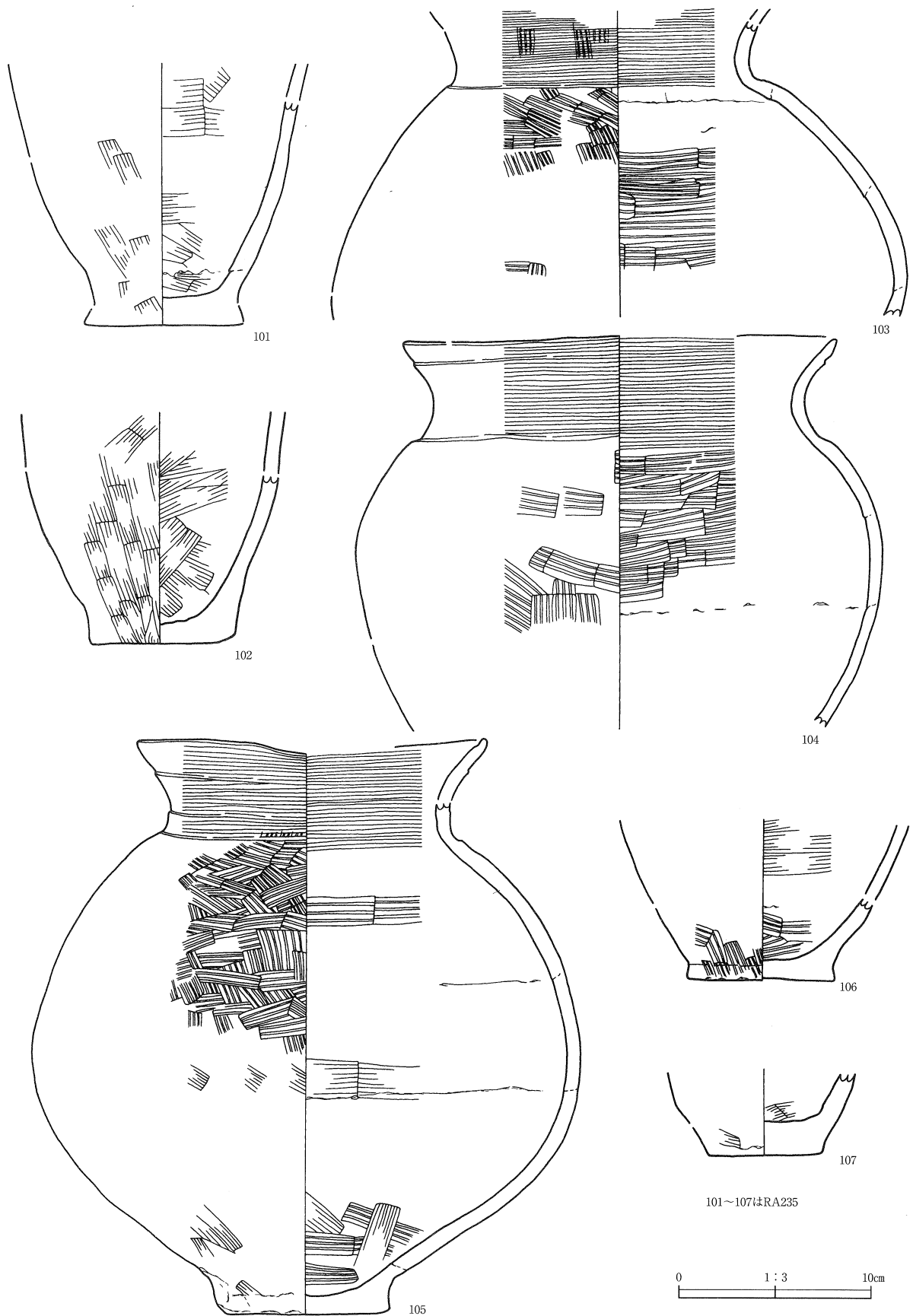
99



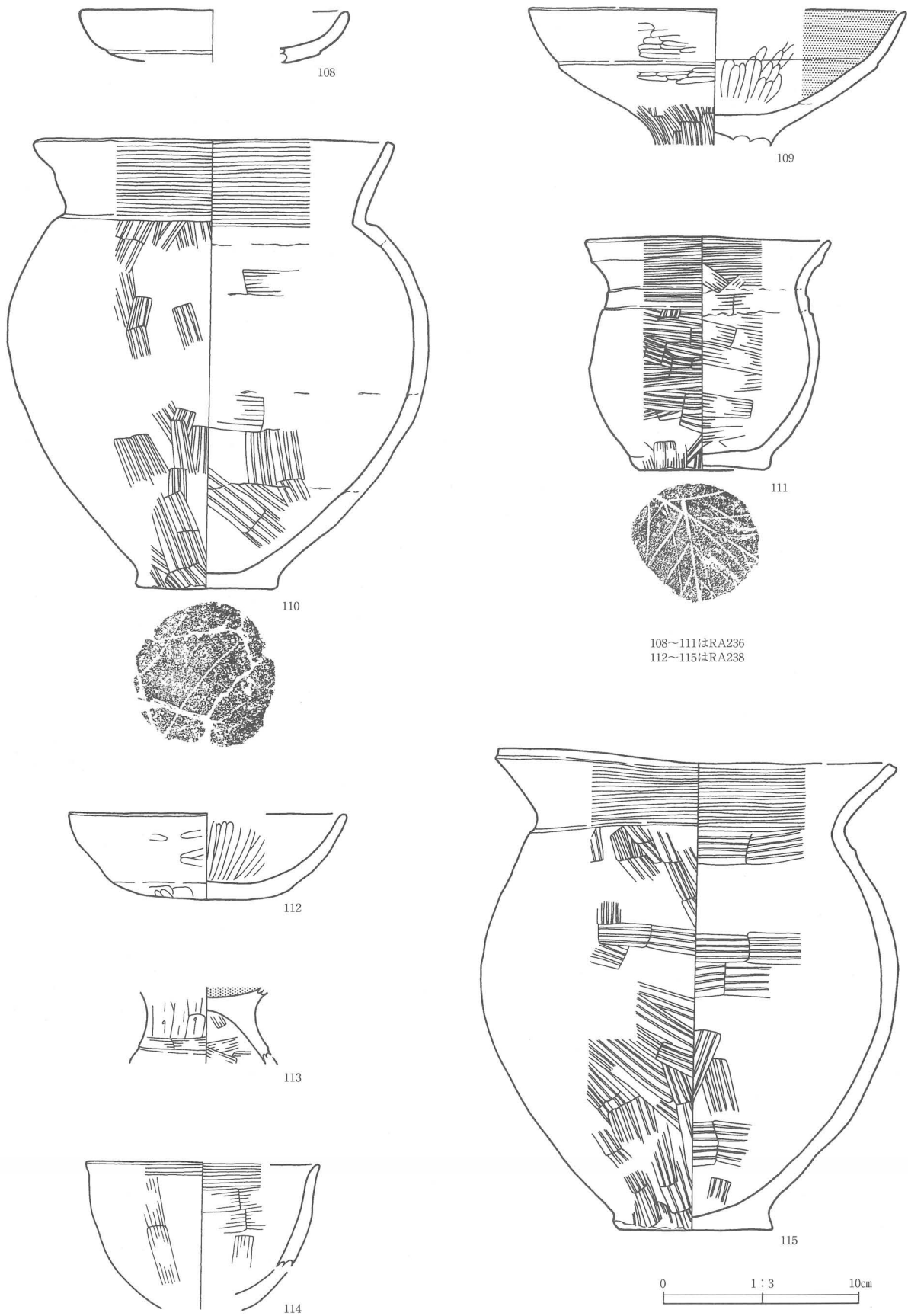
100



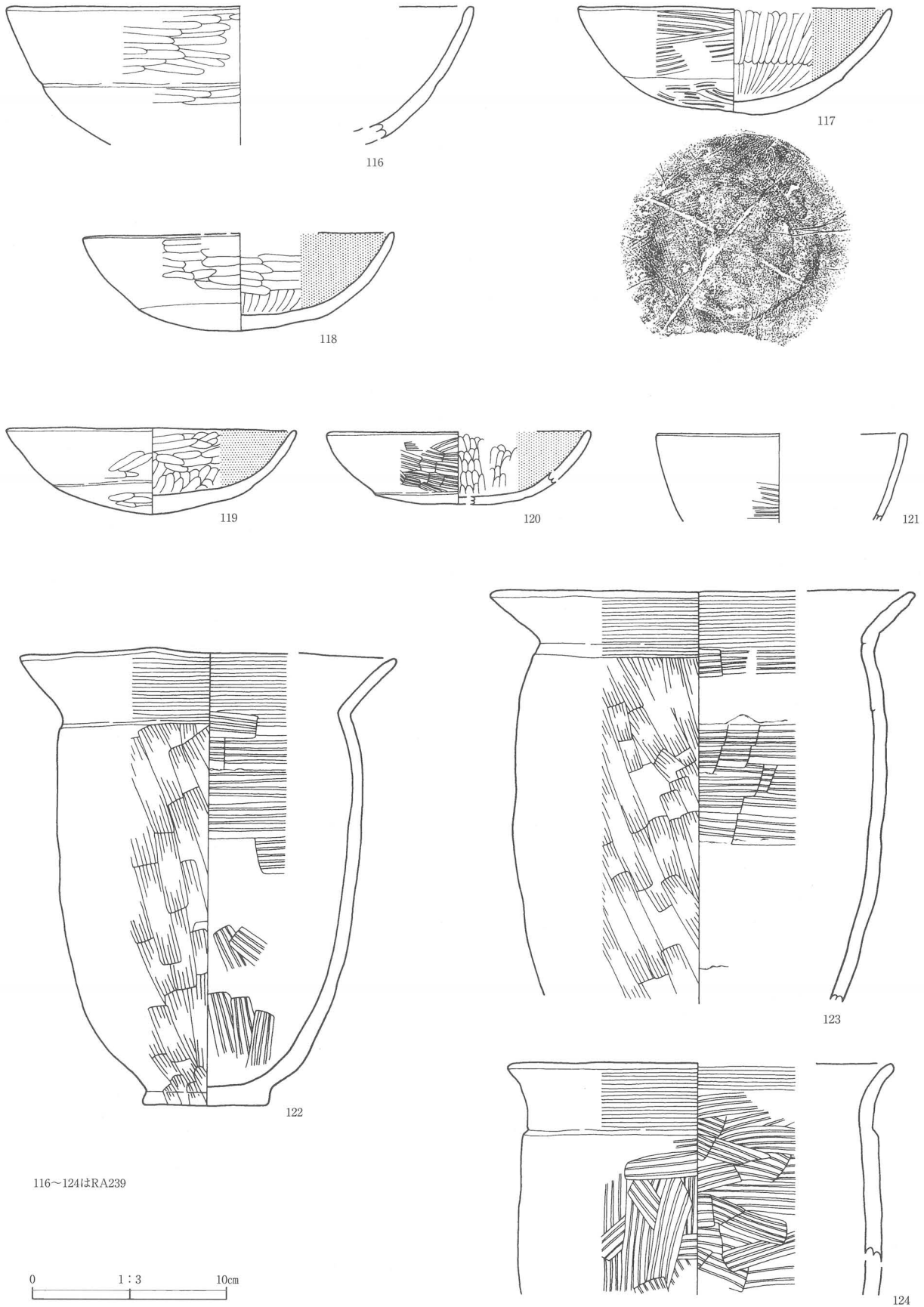
第286図 土師器・須恵器(15)



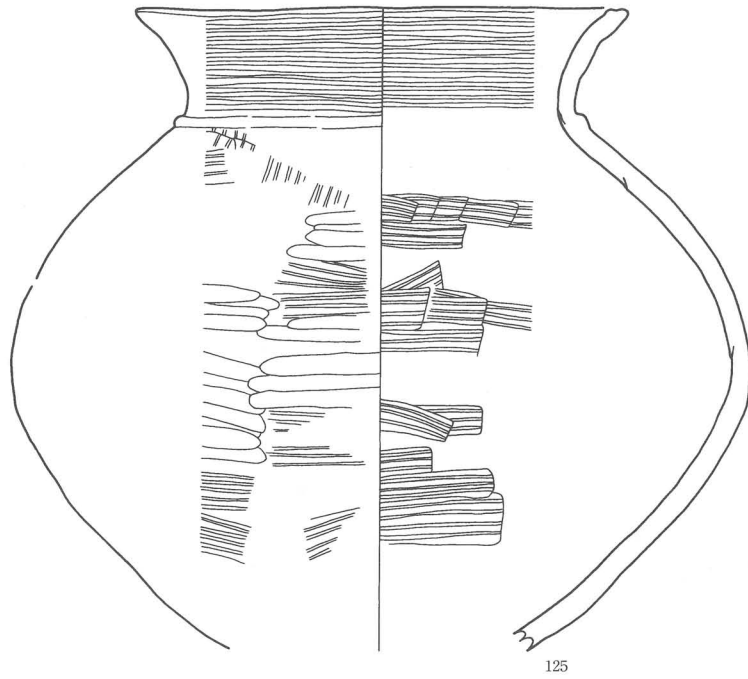
第287図 土師器・須恵器(16)



第288図 土師器・須恵器(17)

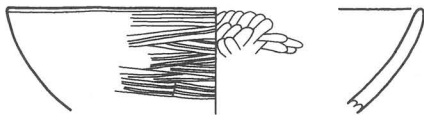


第289図 土師器・須恵器(18)

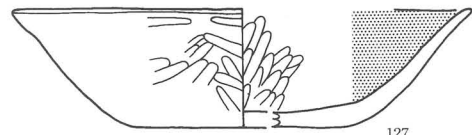


125

125はRA239
126~131はRA240



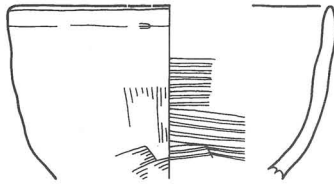
126



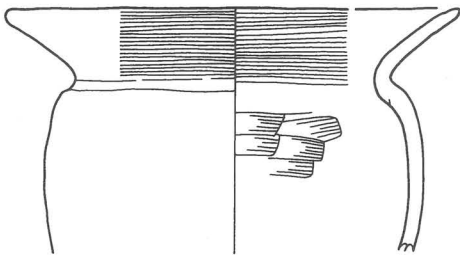
127



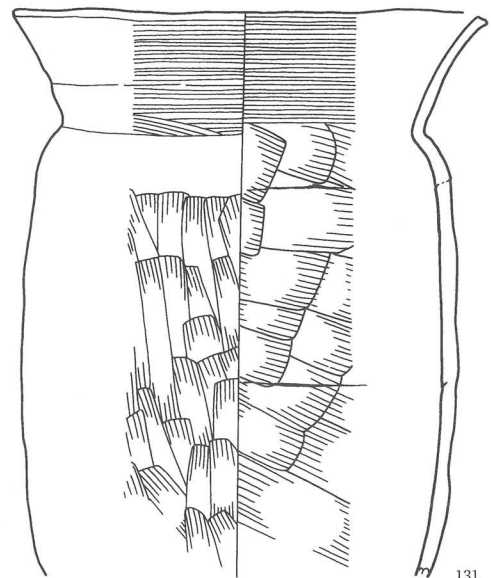
128



129



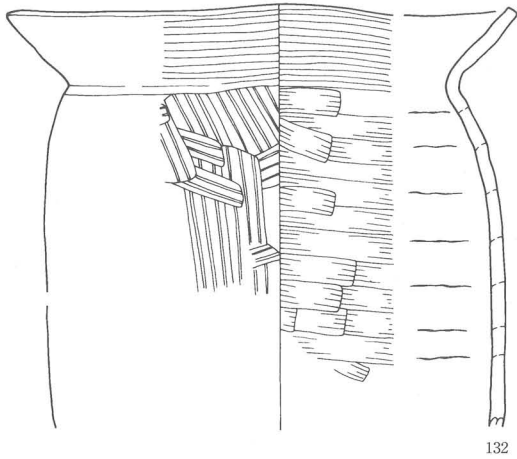
130



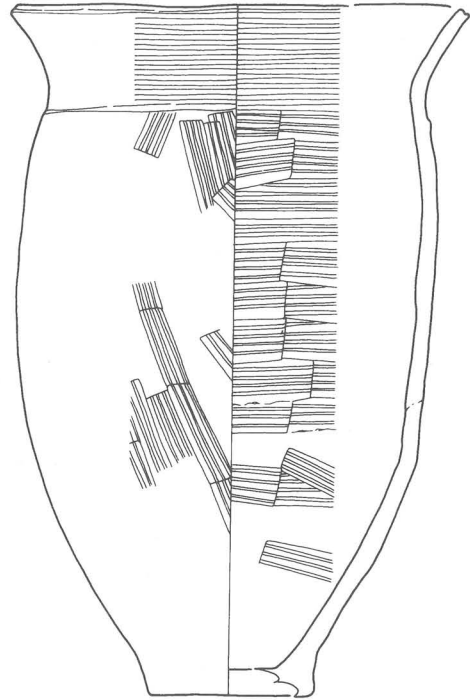
131

0 1 : 3 10cm

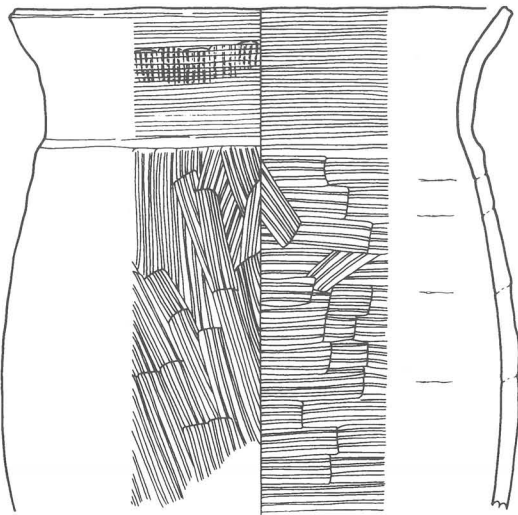
第290図 土師器・須恵器(19)



132

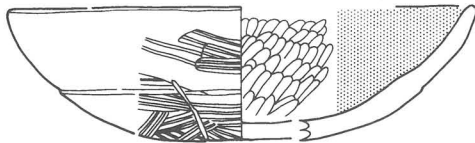


133

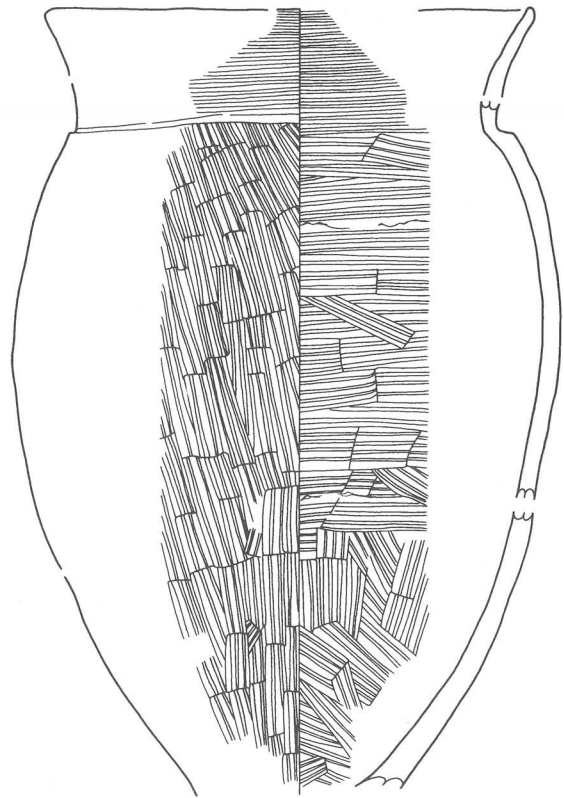


134

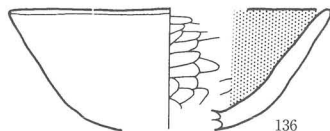
132~134はRA240



135



137

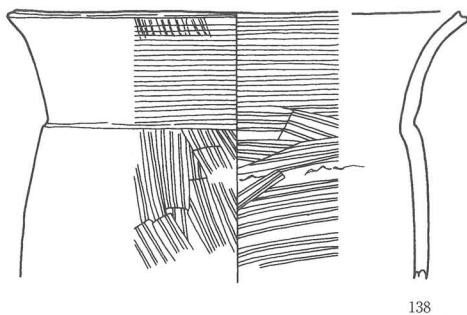


136

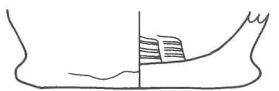
135~137はRA244

0 1:3 10cm

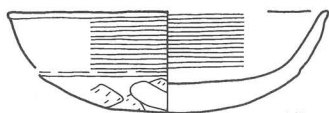
第291図 土師器・須恵器(20)



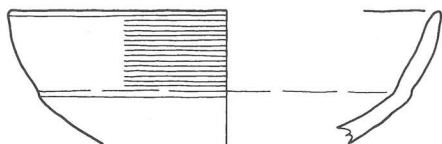
138



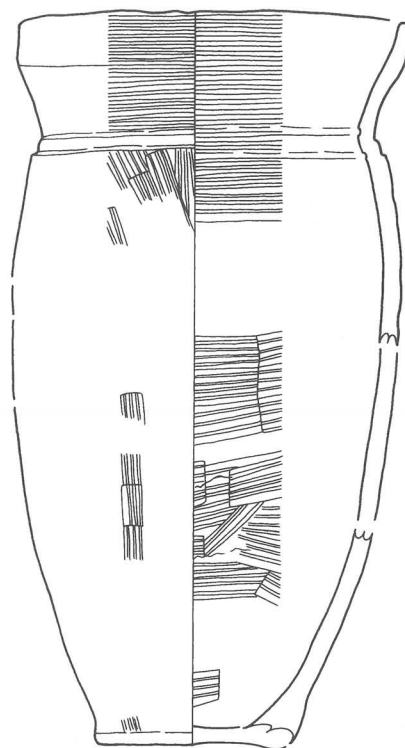
140



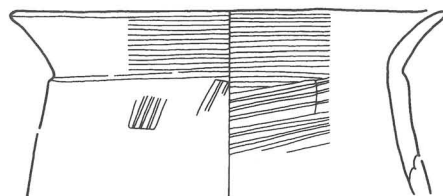
141



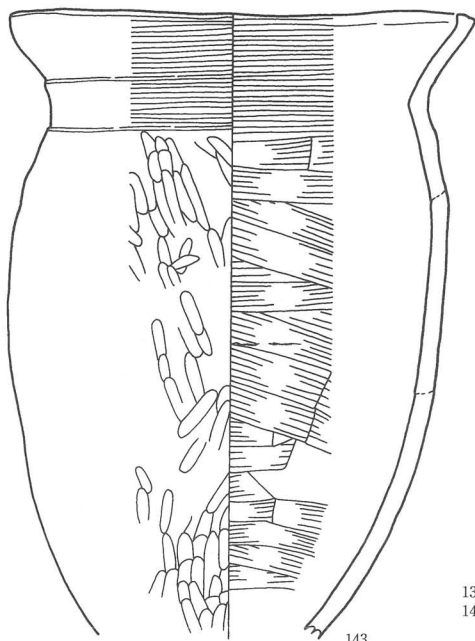
142



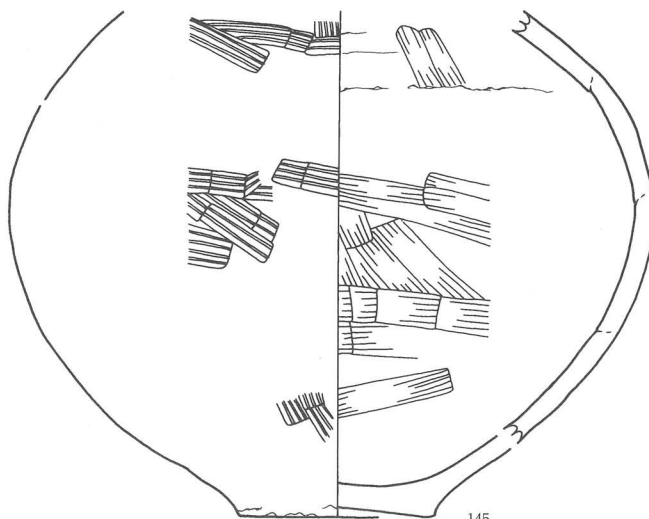
139



144



143

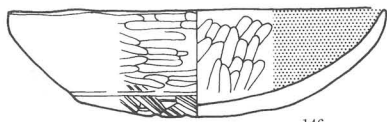


145

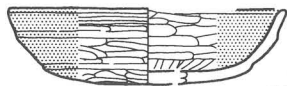
138~139はRA244
140~145はRA247

0 1:3 10cm

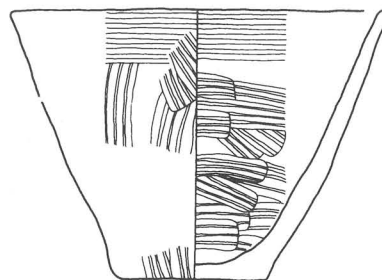
第292図 土師器・須恵器(21)



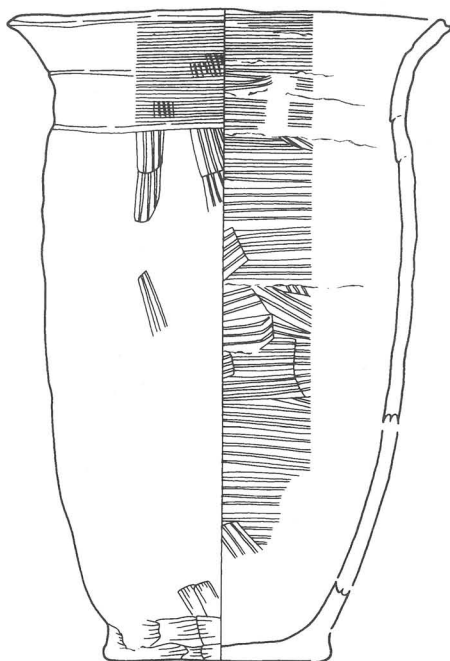
146



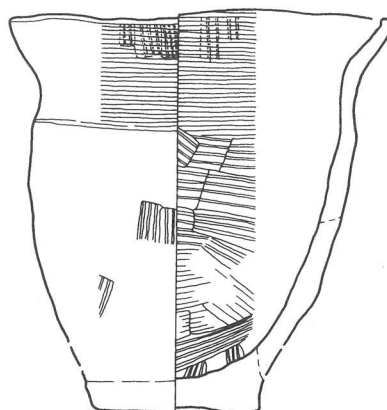
147



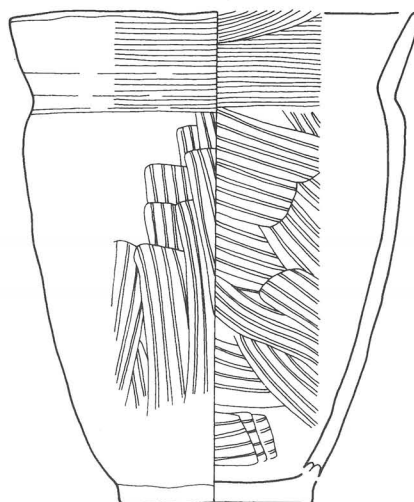
148



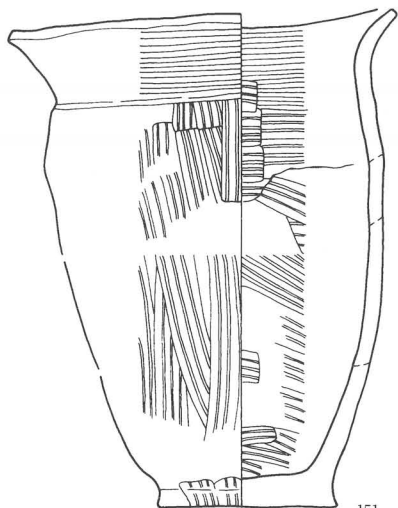
149



150

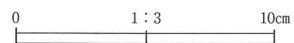


152

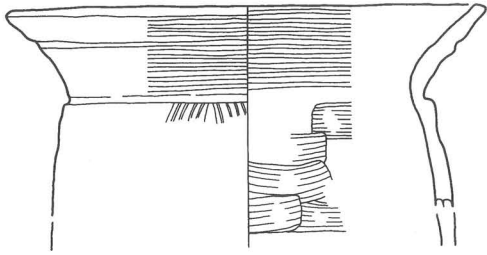


151

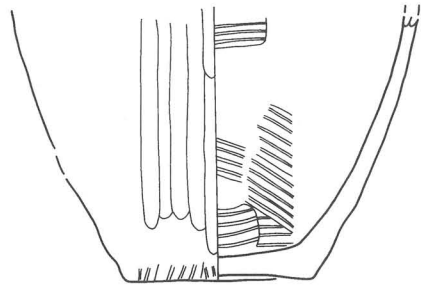
146~152はRA273



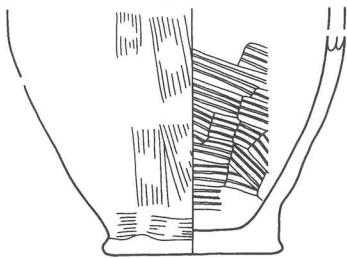
第293図 土師器・須恵器(22)



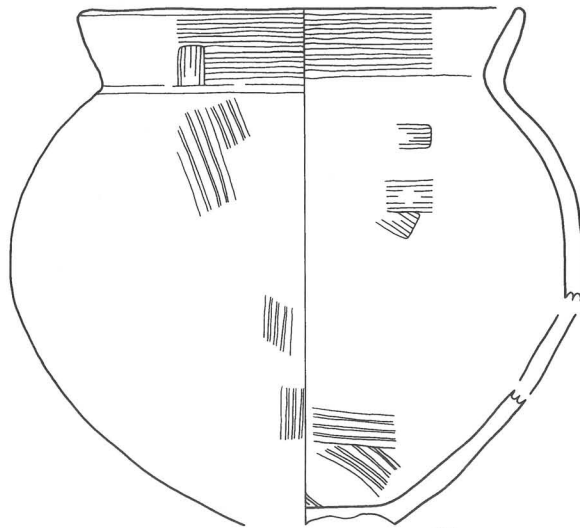
153



154

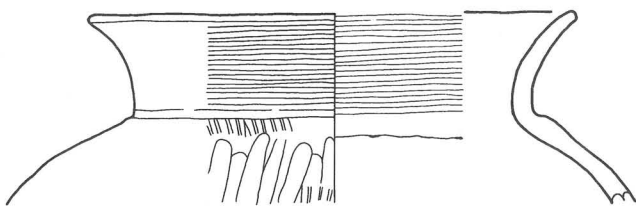


155

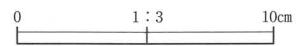


156

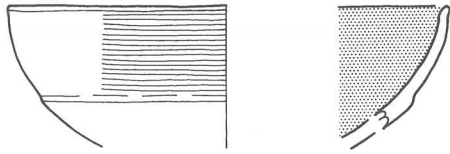
153~157はRA273



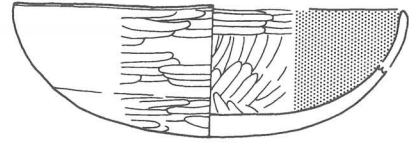
157



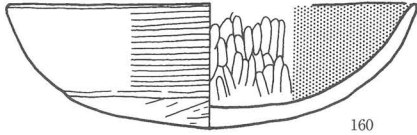
第294図 土師器・須恵器(23)



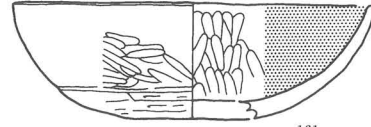
158



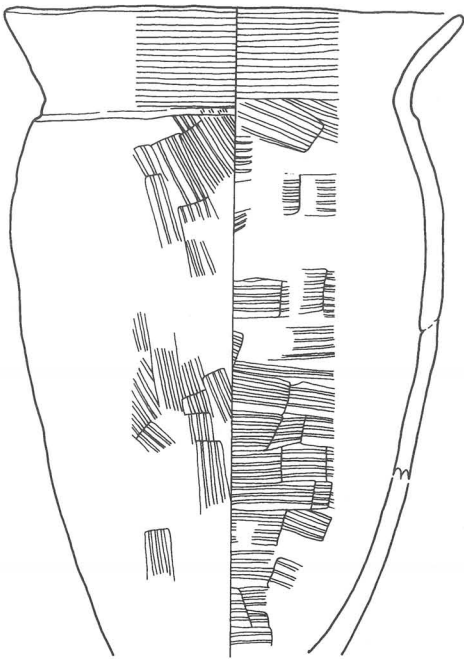
159



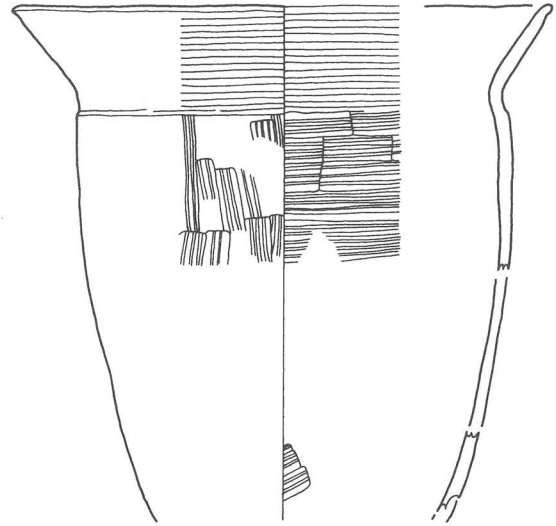
160



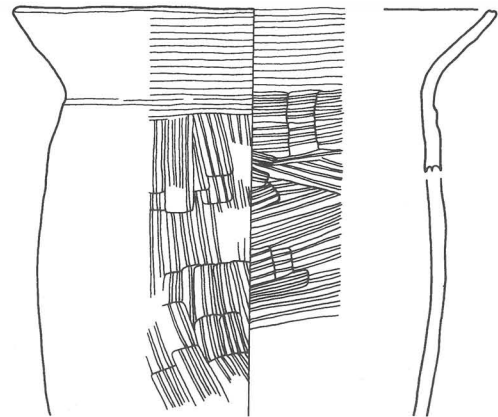
161



162



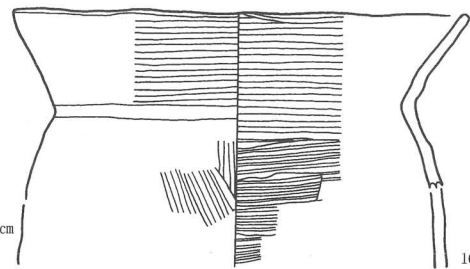
163



165



164

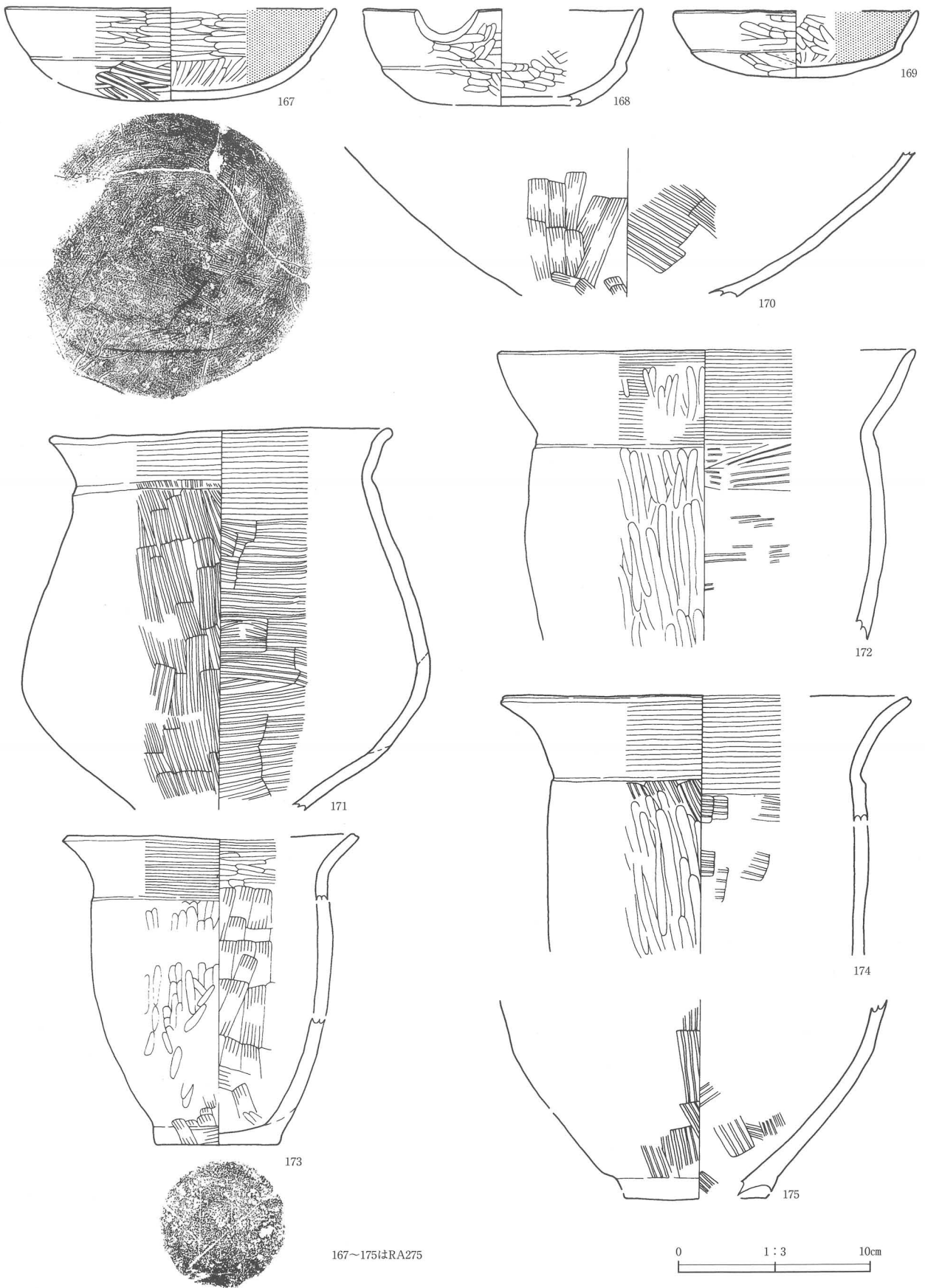


166

158~166(3)RA274

0 1:3 10cm

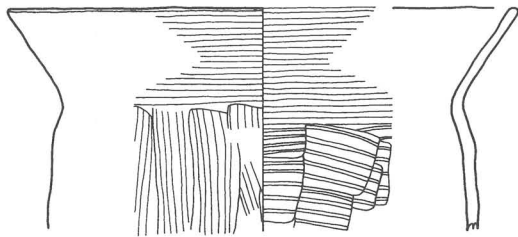
第295図 土師器・須恵器(24)



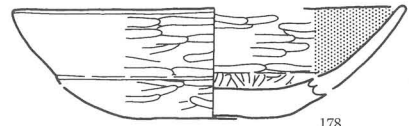
167-175はRA275

0 1:3 10cm

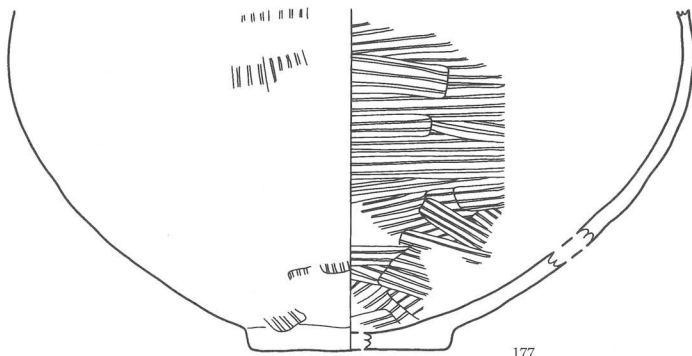
第296図 土師器・須恵器(25)



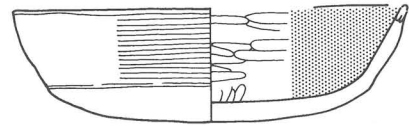
176



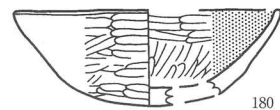
178



177

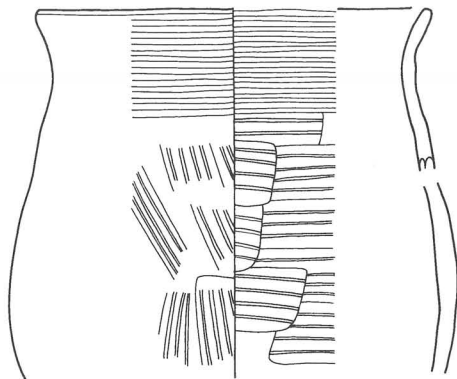


179

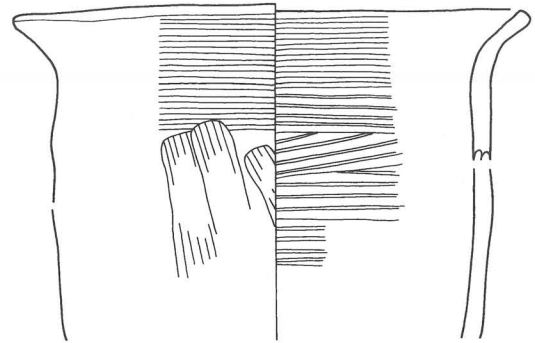


180

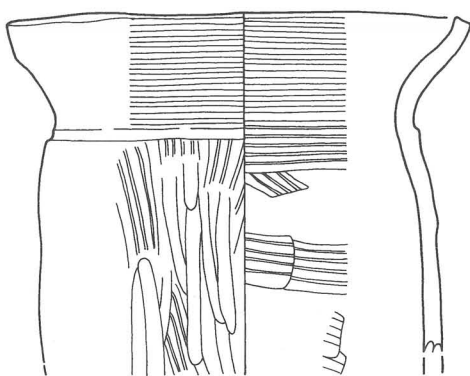
176・177はRA276
178～184はRA277



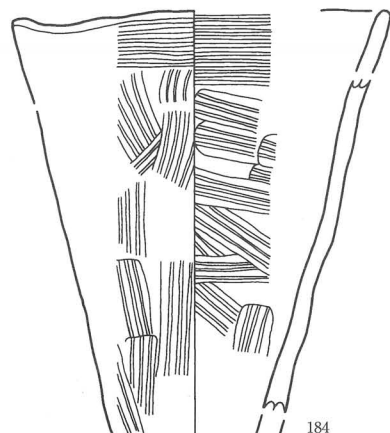
181



182



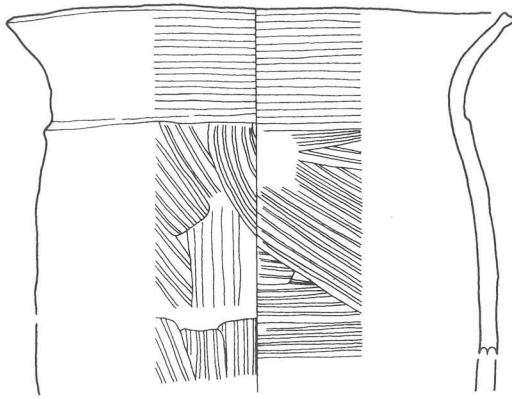
183



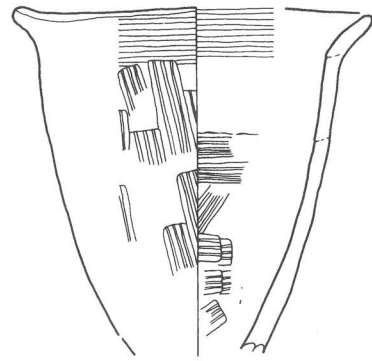
184

0 1:3 10cm

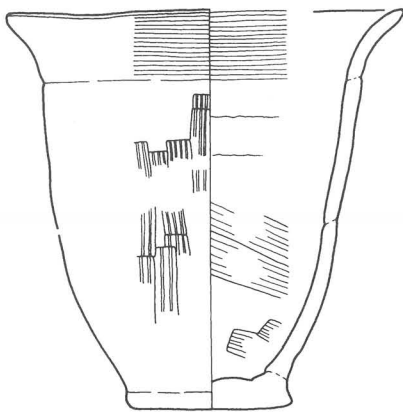
第297図 土師器・須恵器(26)



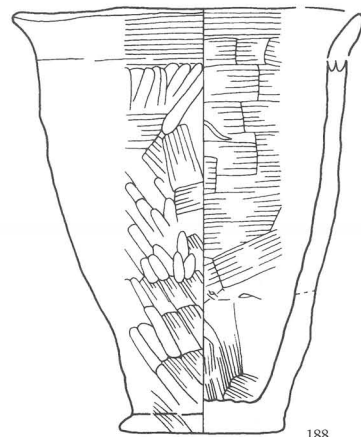
185



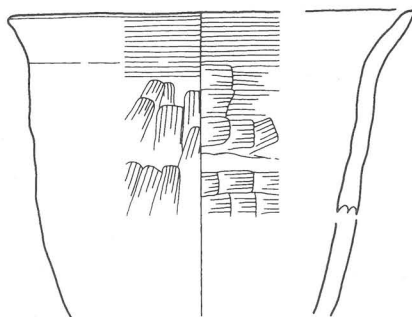
186



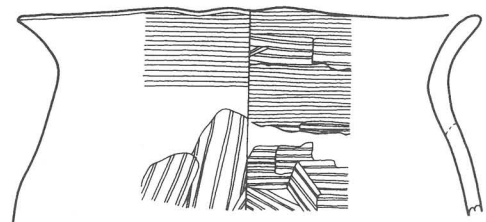
187



188



189

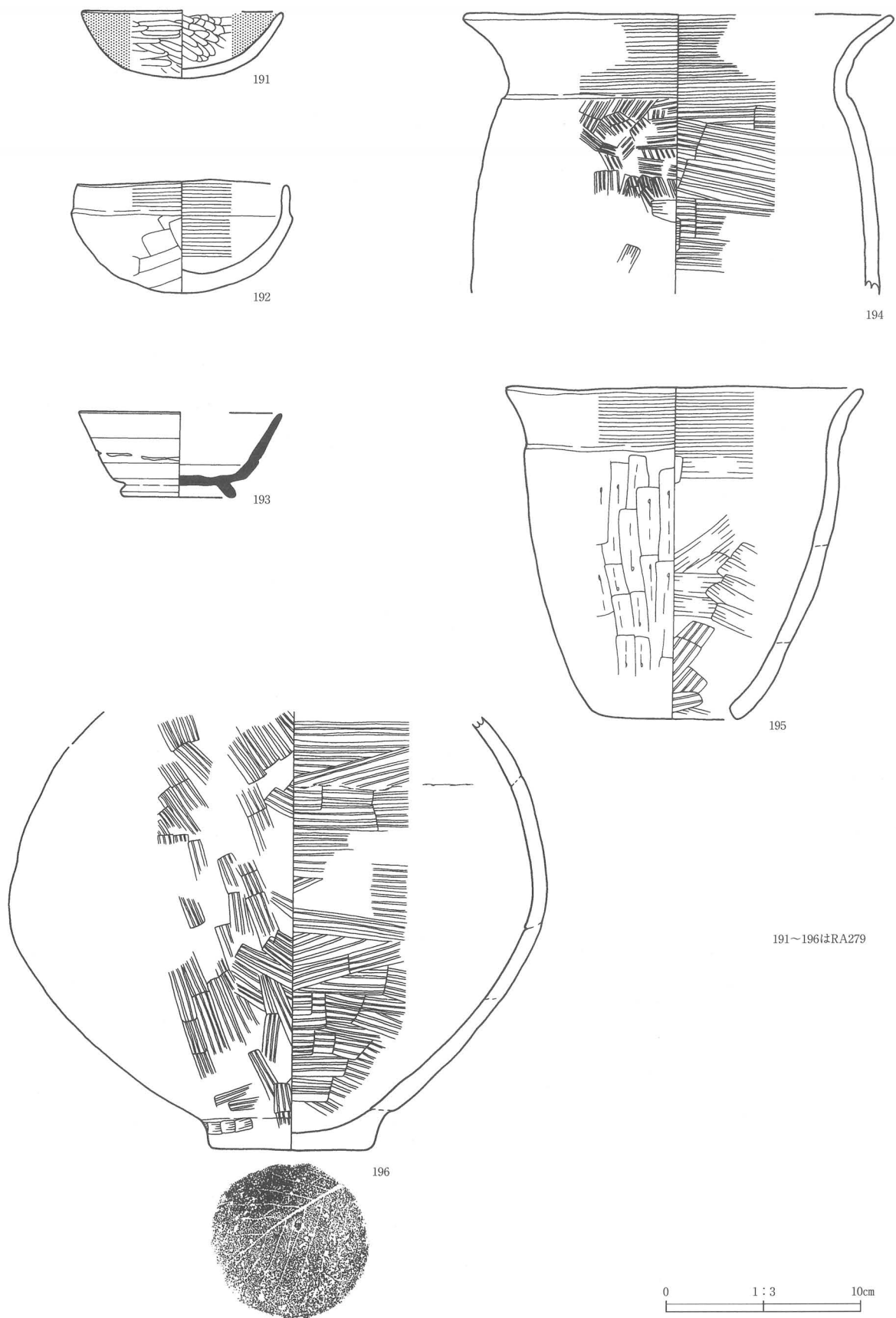


190

185~189はRA278
190はRA281

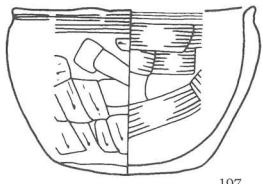
0 1:3 10cm

第298図 土師器・須恵器(27)



191~196はRA279

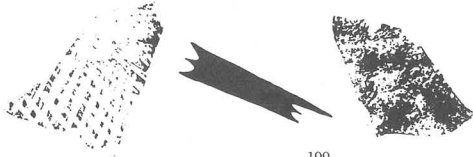
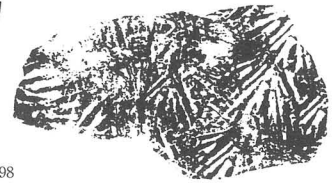
第299図 土師器・須恵器(28)



197

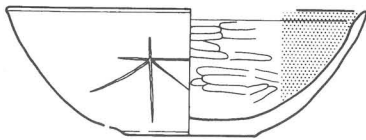


198

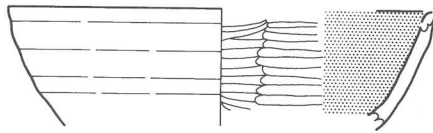


199

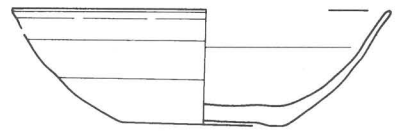
197~199はRA213
200~202はRA214
203はRA215
204・205はRA217



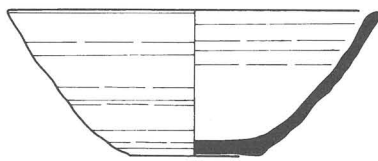
200



201



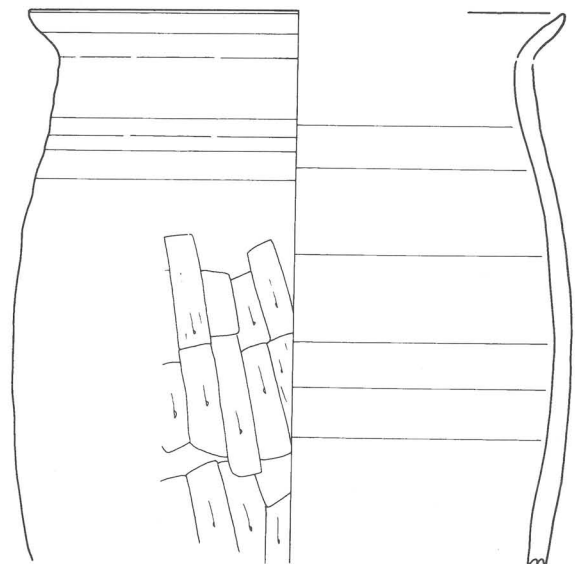
202



203



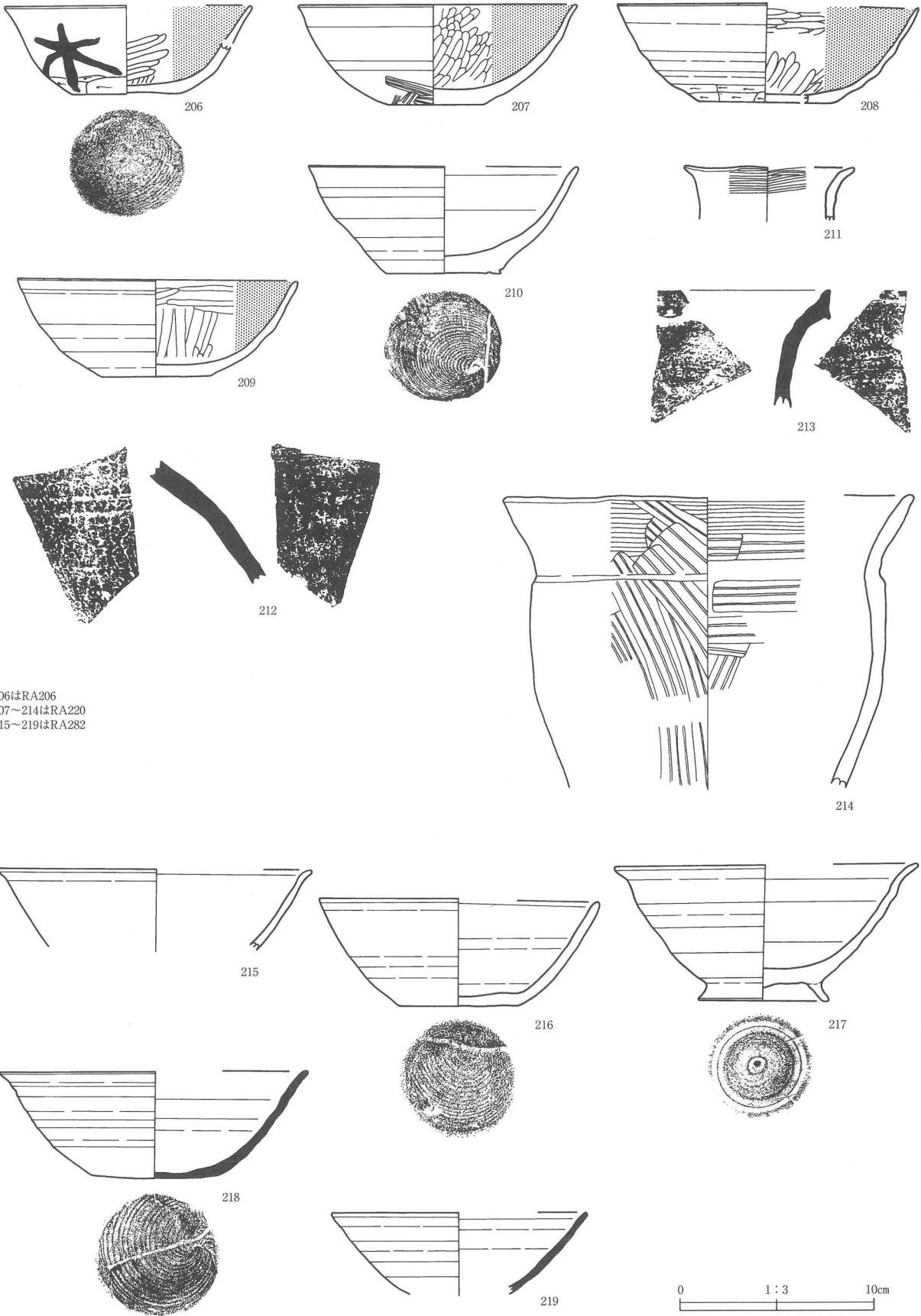
204



205

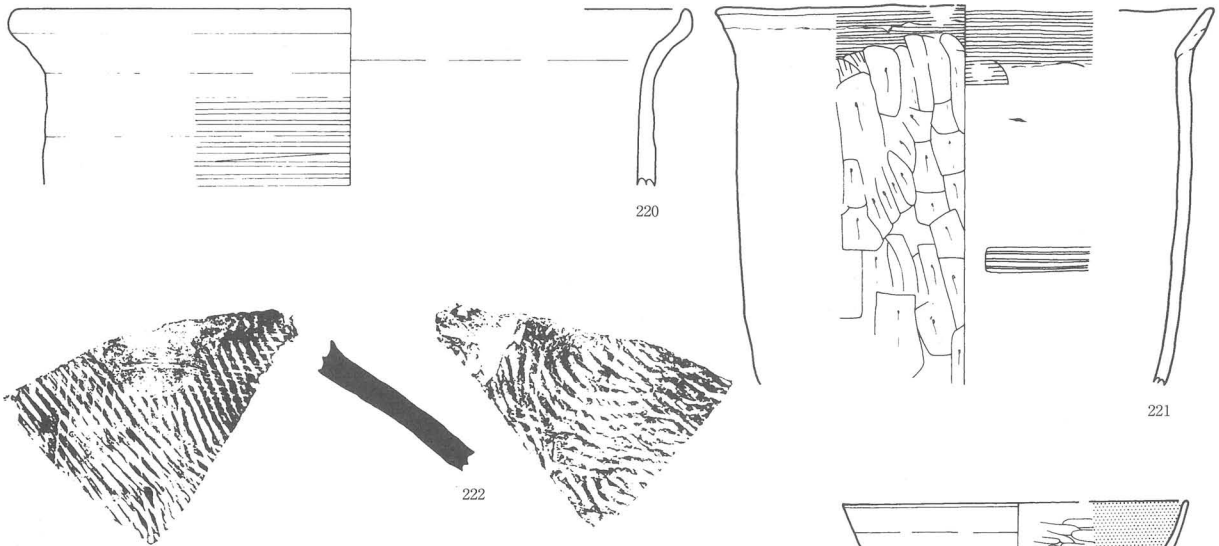
0 1:3 10cm

第300図 土師器・須恵器(29)

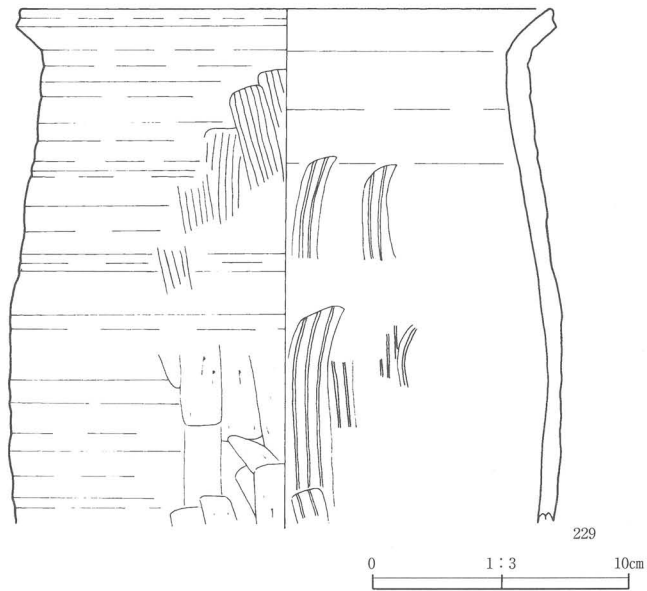
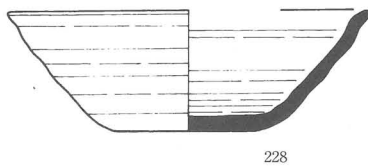
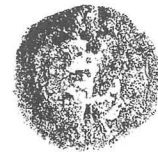
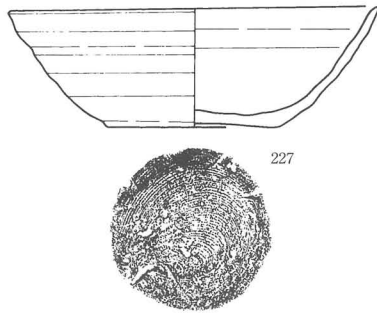
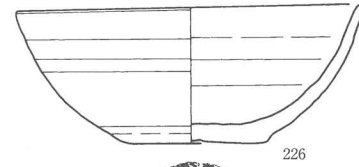
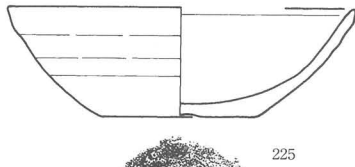
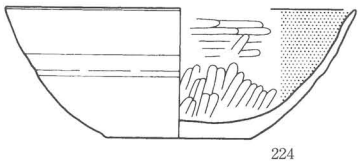
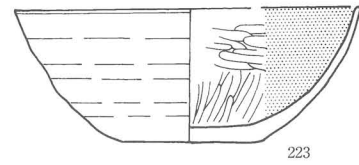


206はRA206
 207~214はRA220
 215~219はRA282

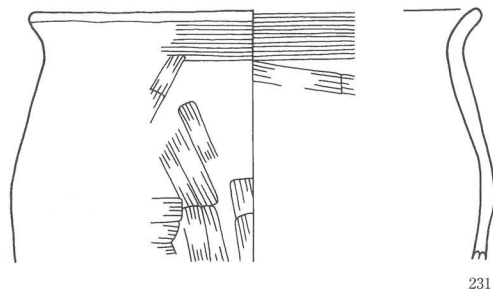
第301図 土師器・須恵器(30)



220~222はRA282
223~230はRA283

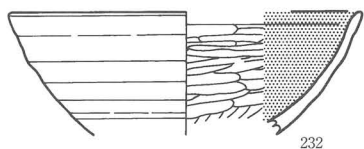


第302図 土師器・須恵器(31)

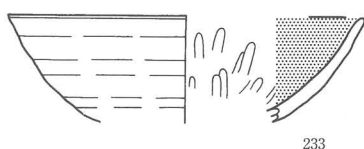


231はRA283
232~238はRA284

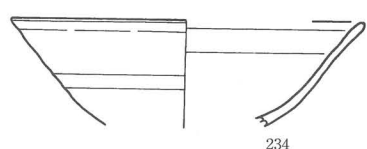
231



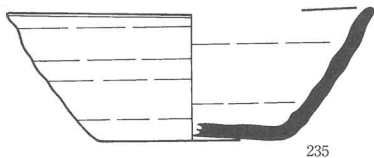
232



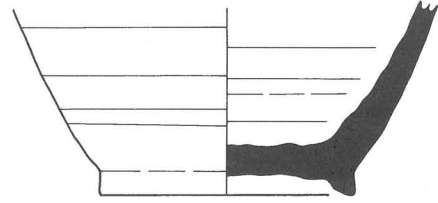
233



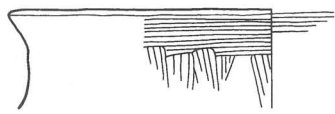
234



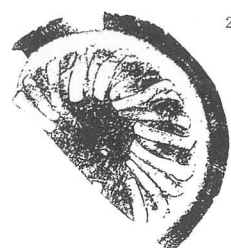
235



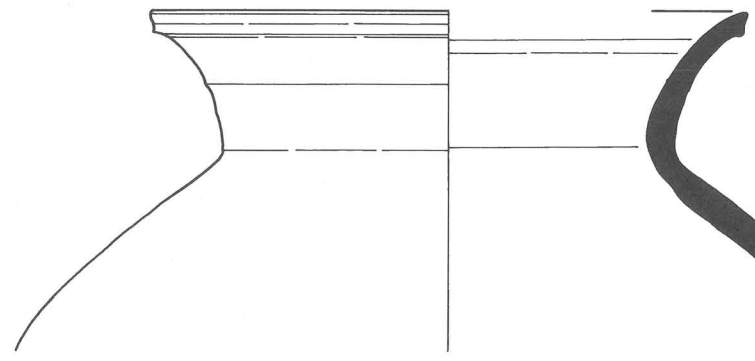
237



236

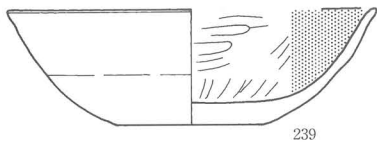


238

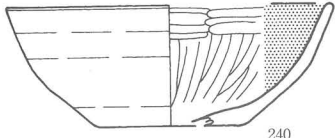


0 1:3 10cm

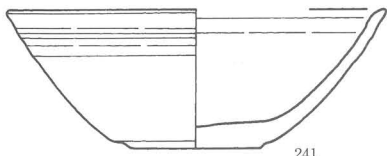
第303図 土師器・須恵器(32)



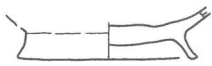
239



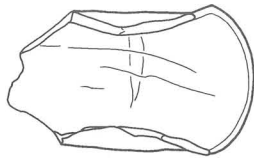
240



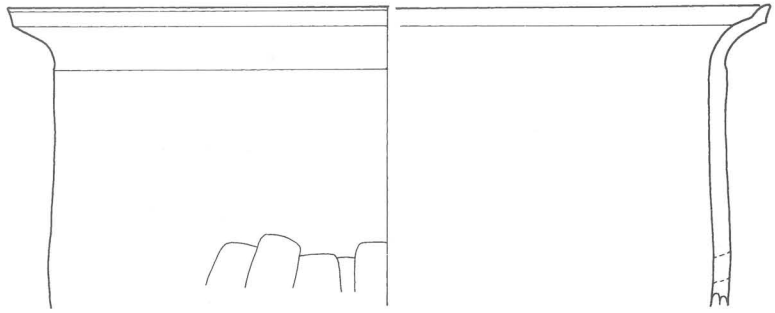
241



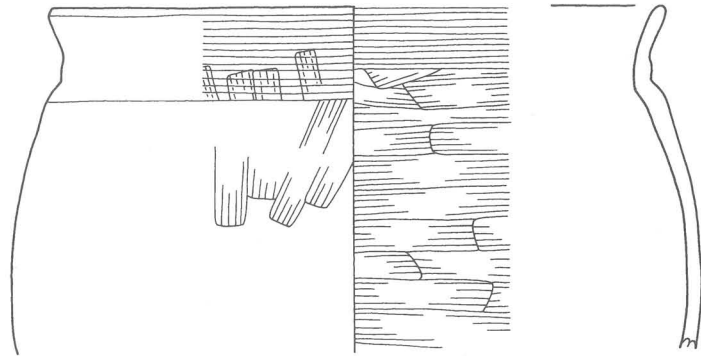
242



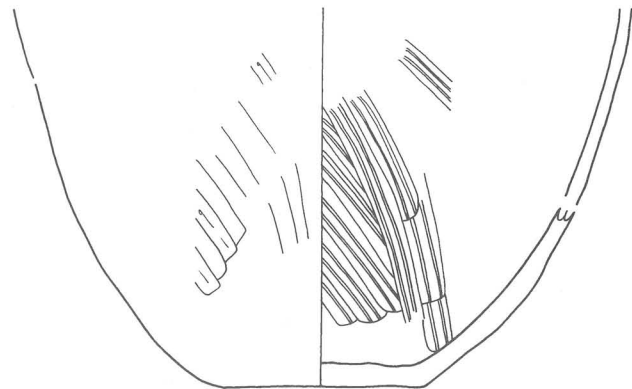
243



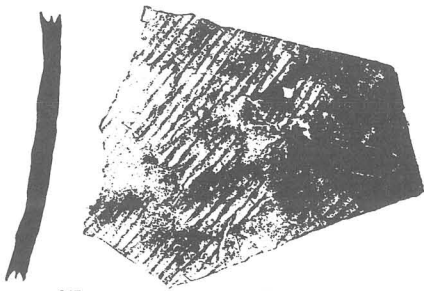
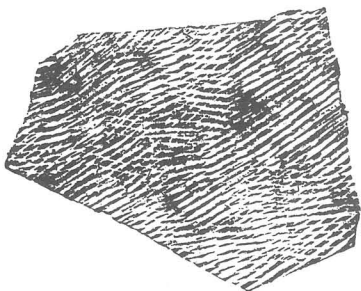
244



245

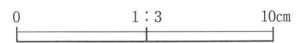


246

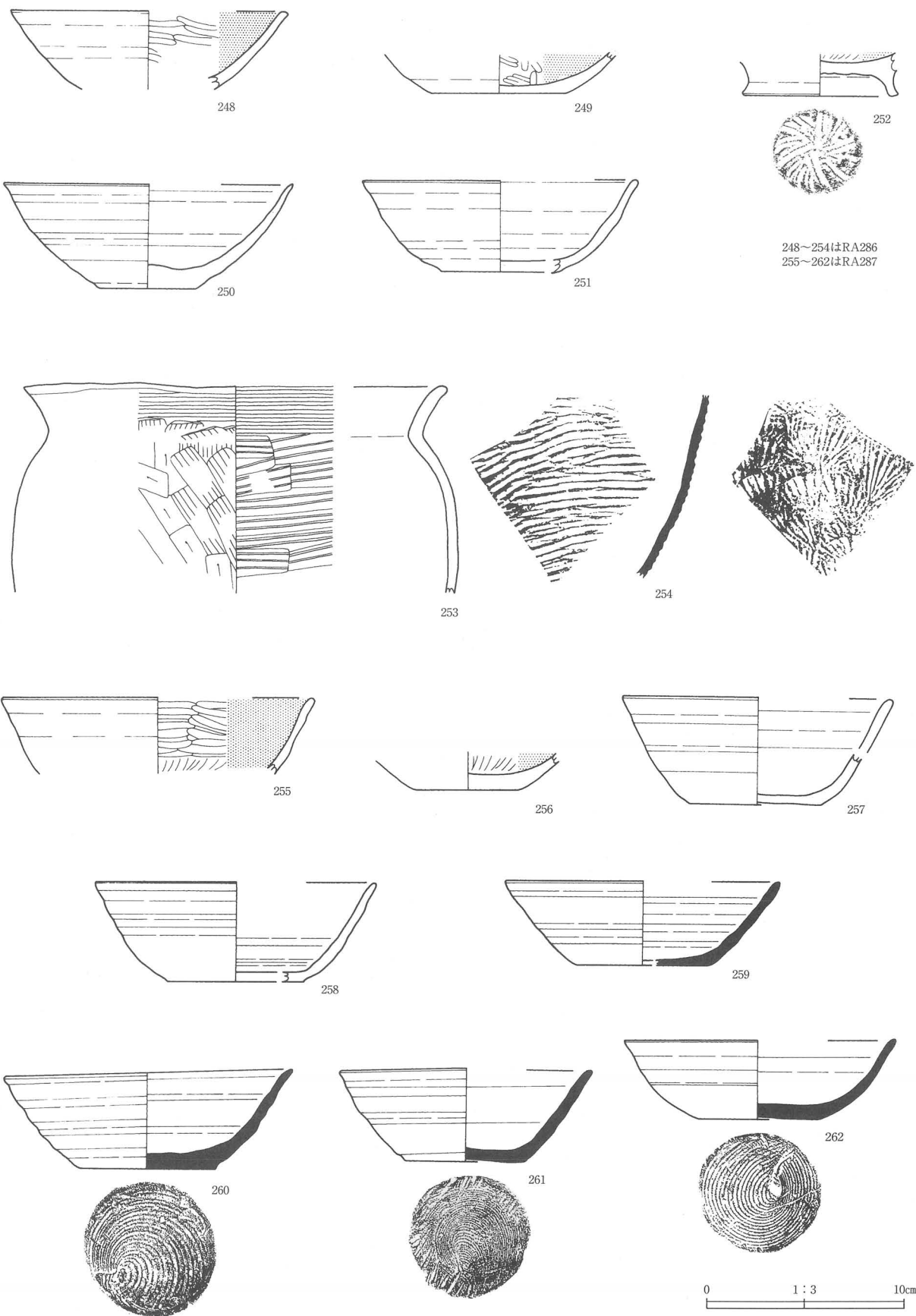


247

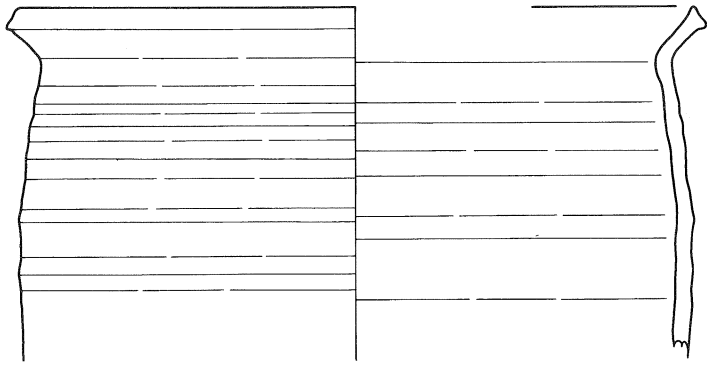
239~247(±)RA285



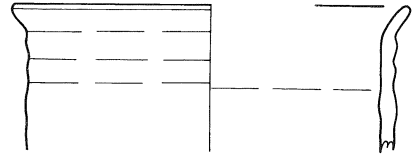
第304図 土師器・須恵器(33)



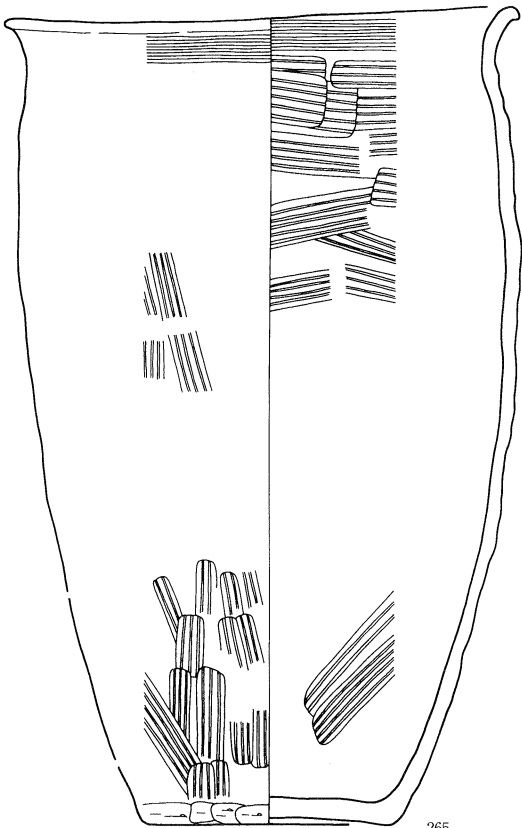
第305図 土師器・須恵器(34)



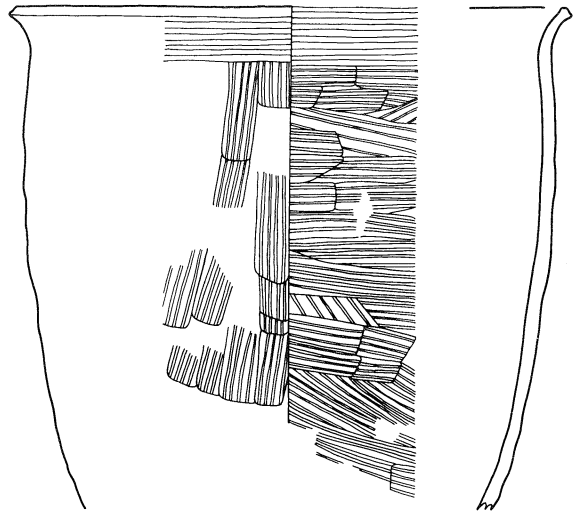
263



264



265

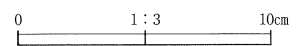


266

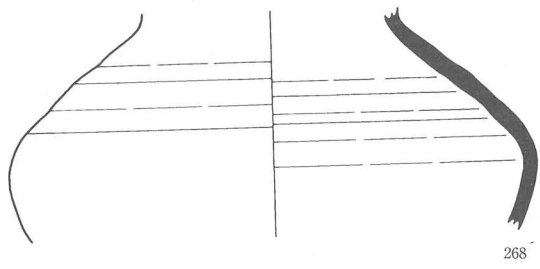


267

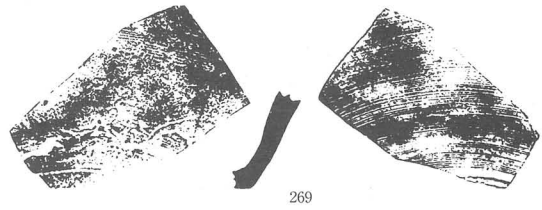
263~267はRA287



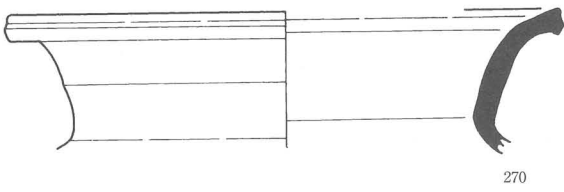
第306図 土師器・須恵器(35)



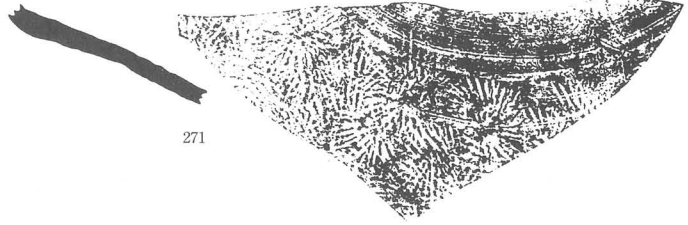
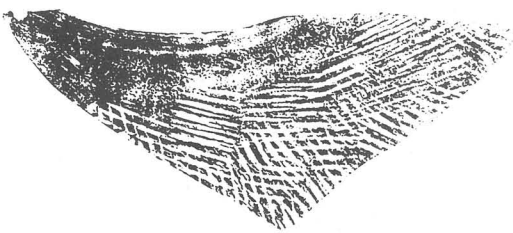
268



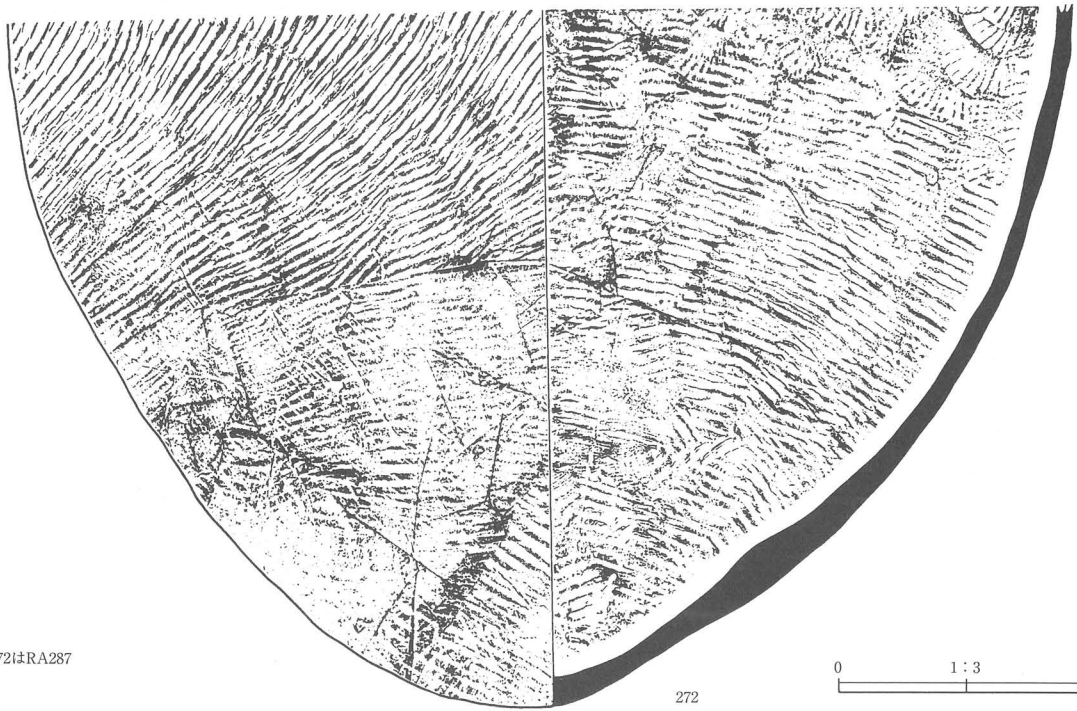
269



270



271



272

268~272はRA287

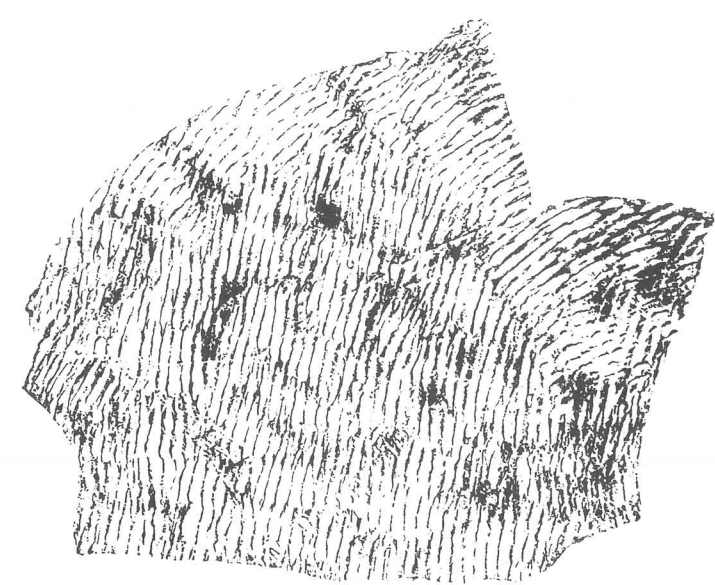
0 1:3 10cm

第307図 土師器・須恵器(36)



273~288はRA288

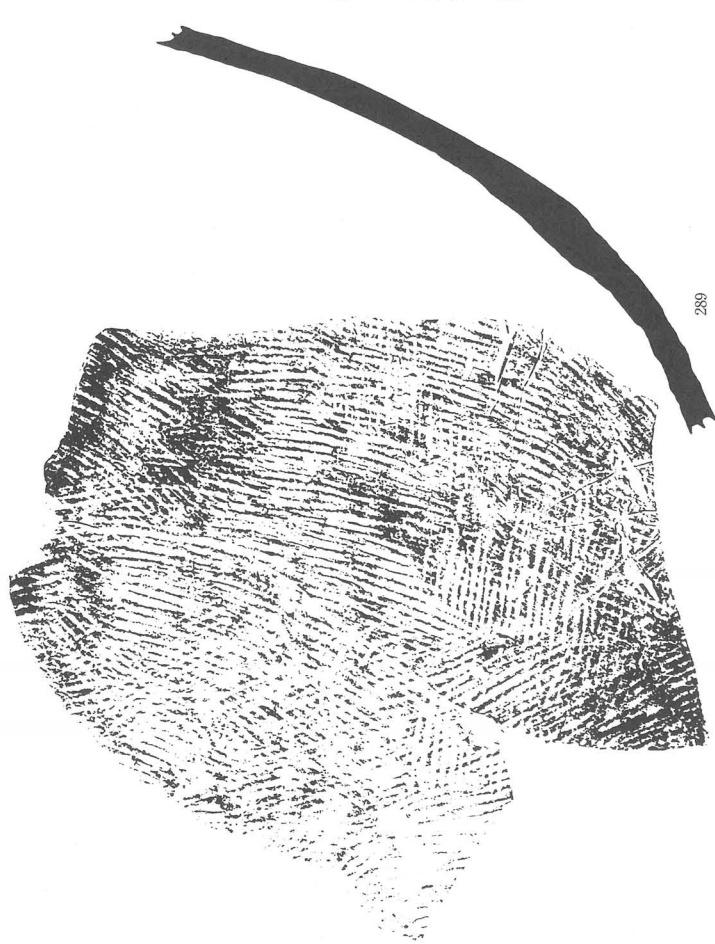
第308図 土師器・須恵器(37)



289・290 土師器



0 1:3 10cm

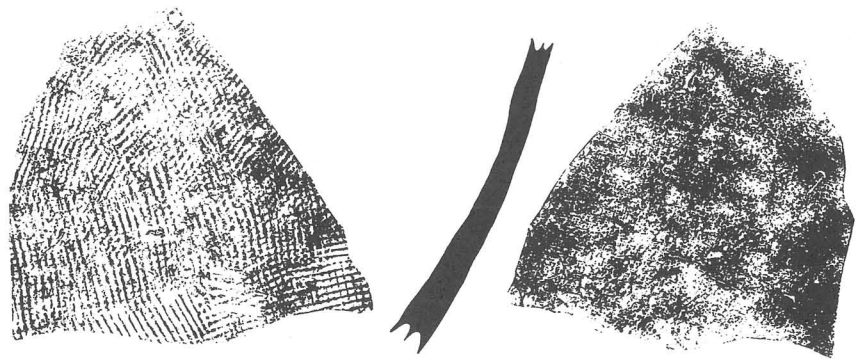
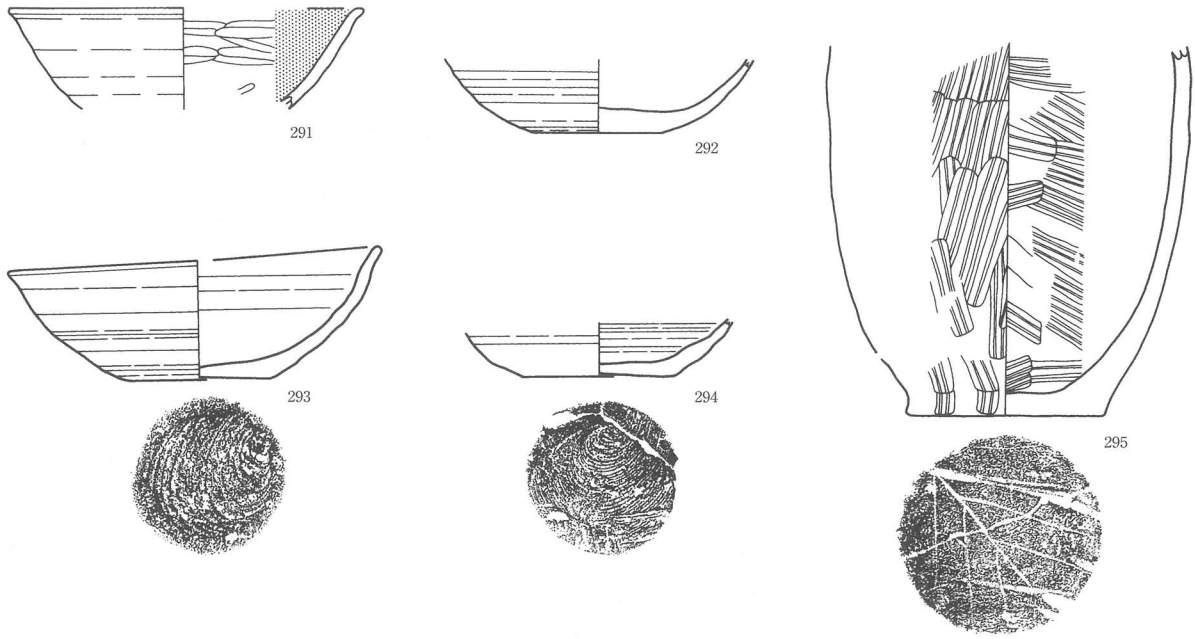


289



290

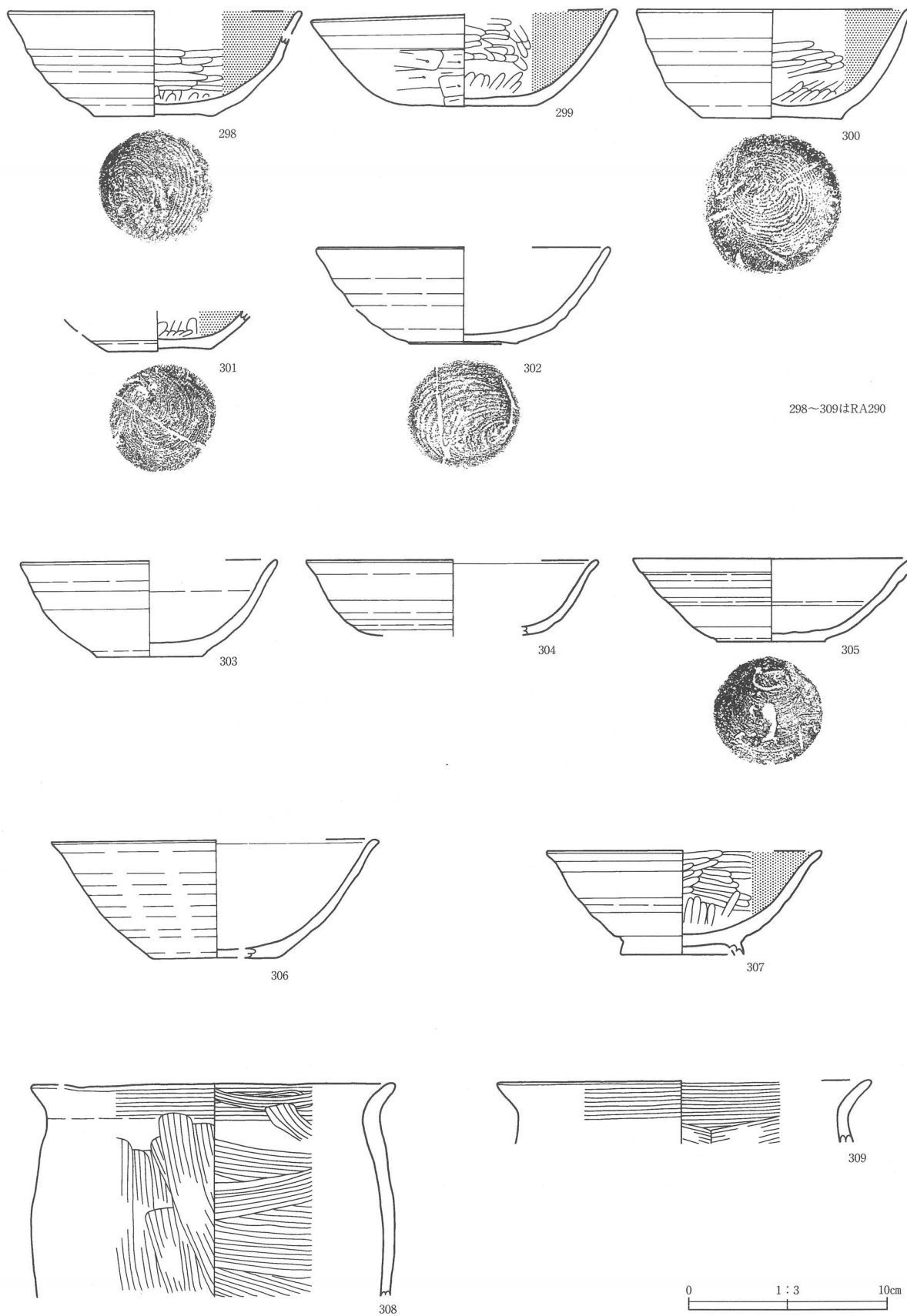
第309図 土師器・須恵器(38)



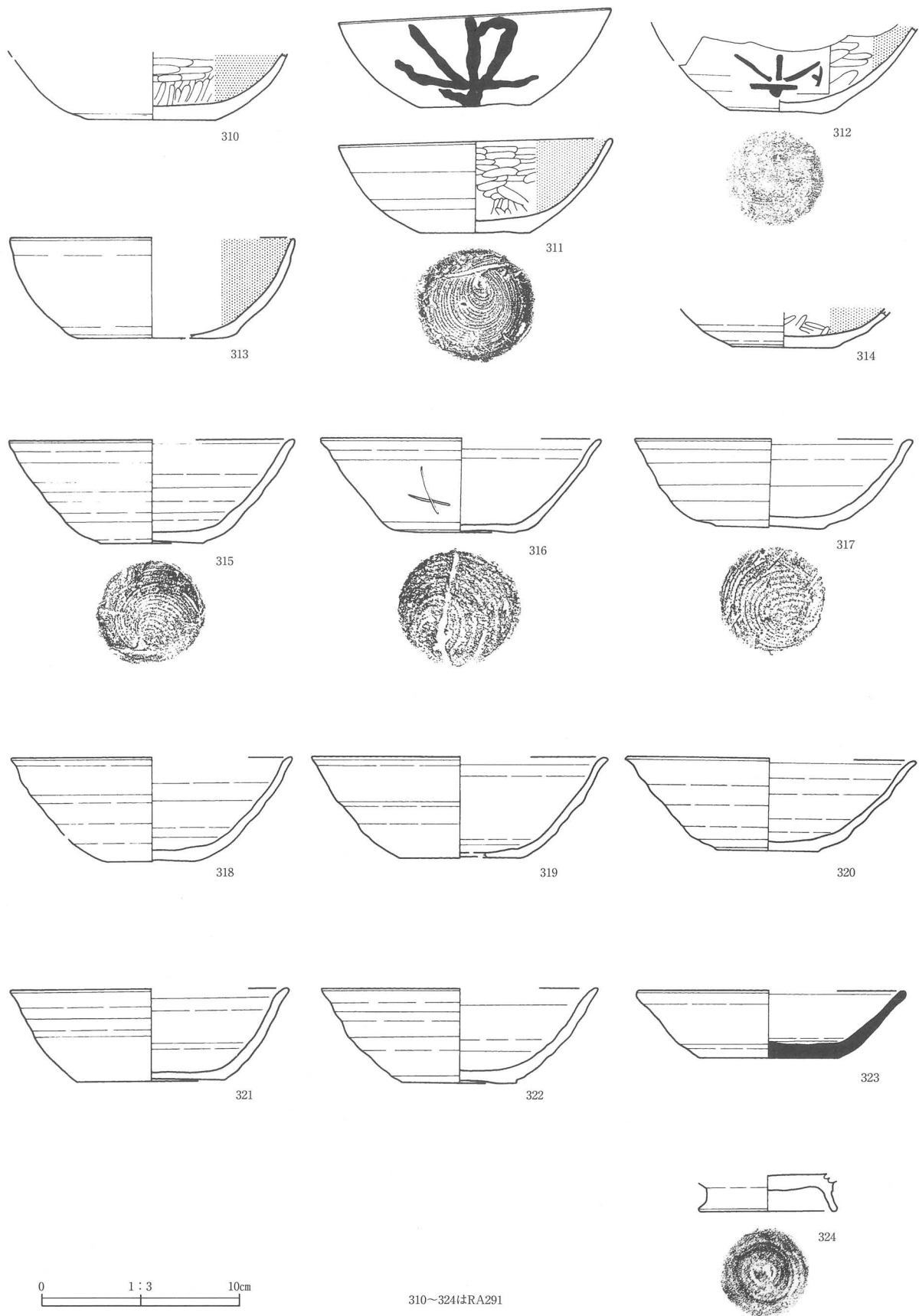
291-297(土師器)

0 1:3 10cm

第310図 土師器・須恵器(39)

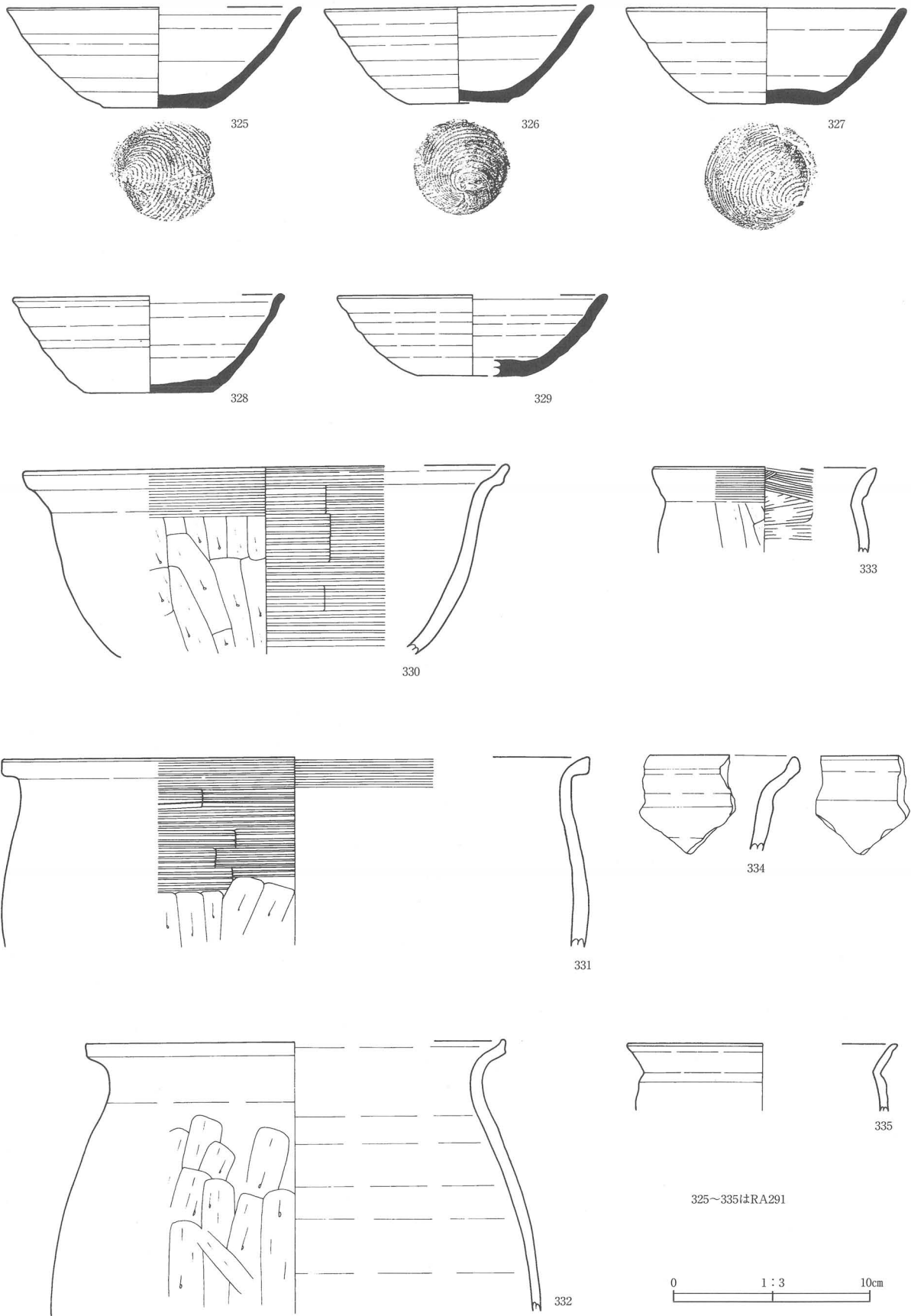


第311図 土師器・須恵器(40)

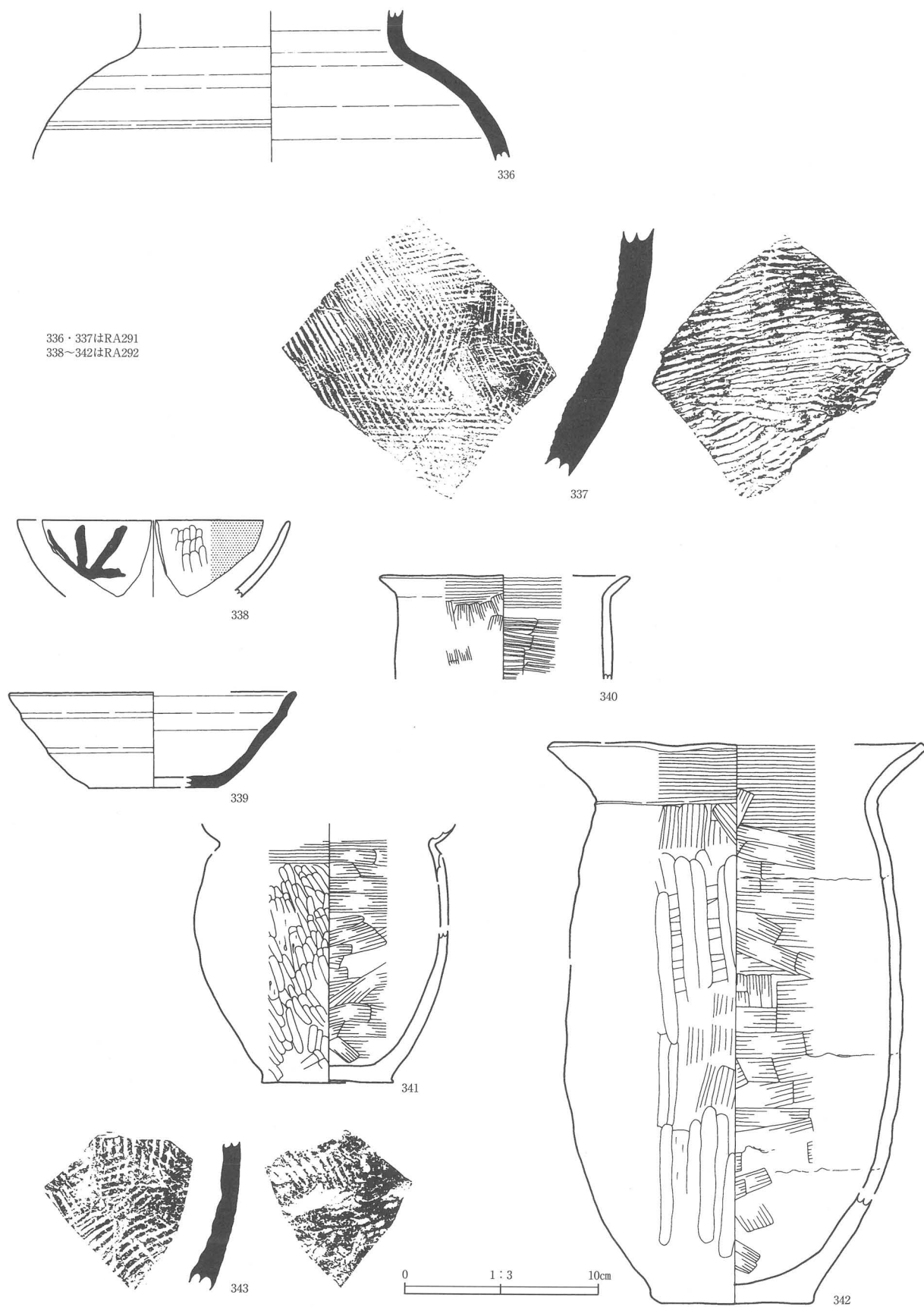


310~324(土師器)

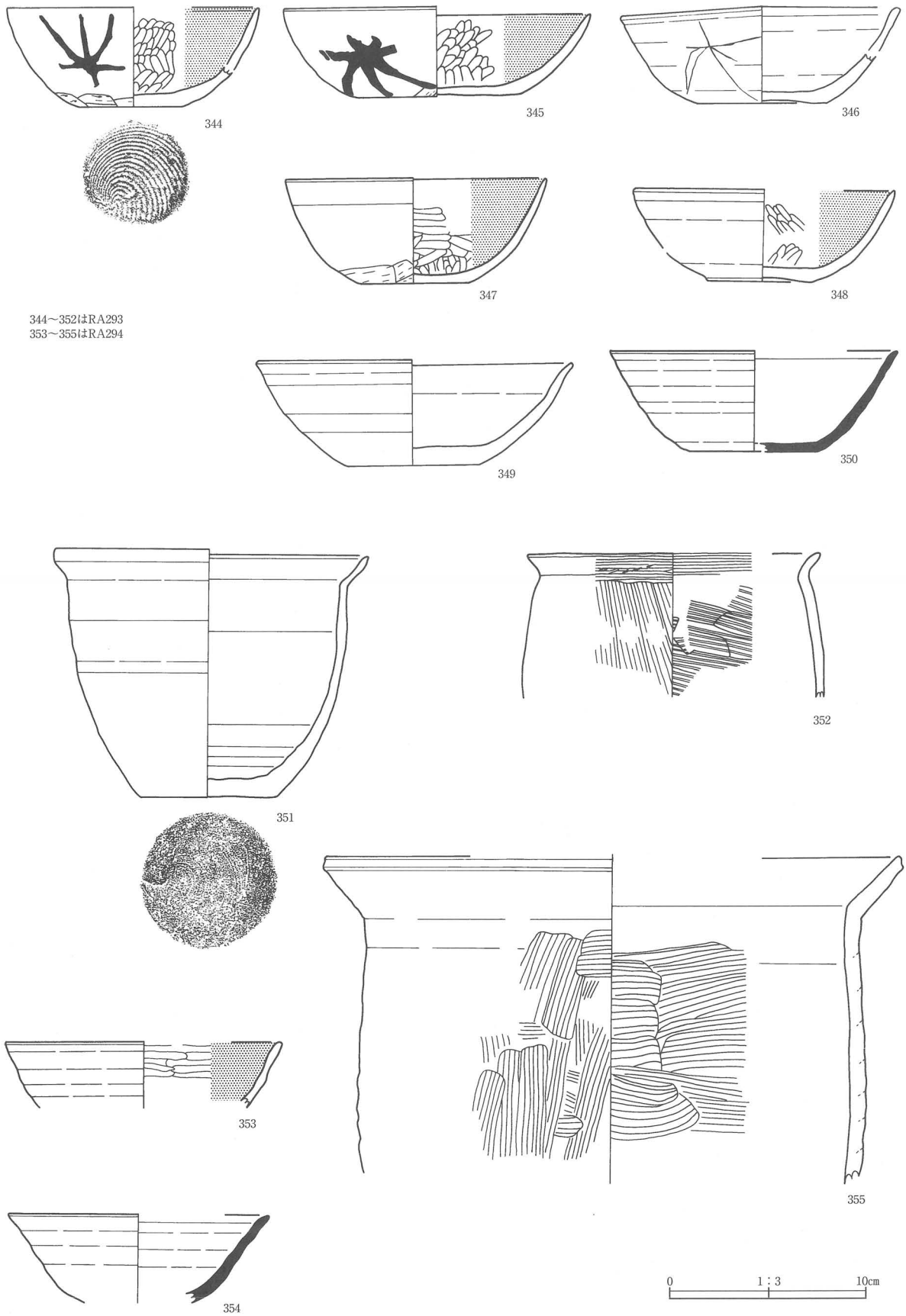
第312図 土師器・須恵器(41)



第313図 土師器・須恵器(42)

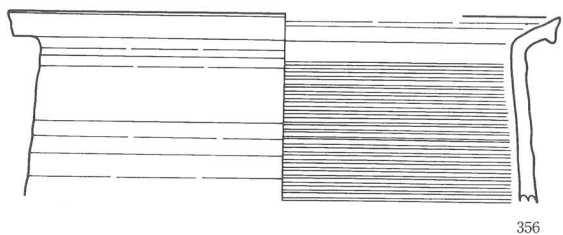


第314図 土師器・須恵器(43)

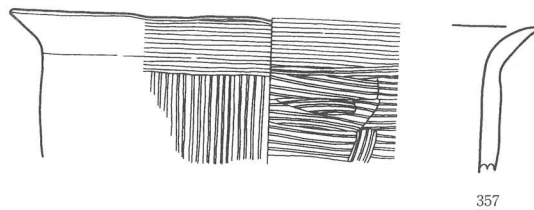


344~352はRA293
353~355はRA294

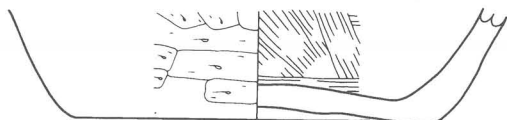
第315図 土師器・須恵器(44)



356



357

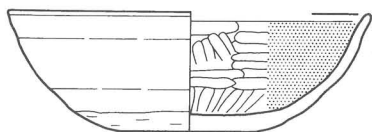


358



359

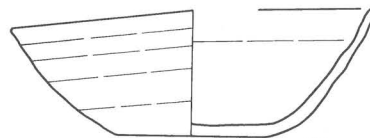
356~359はRA294



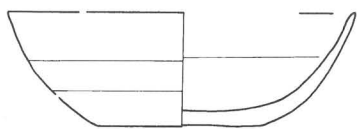
360



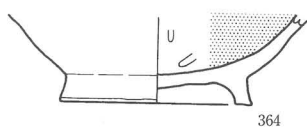
361



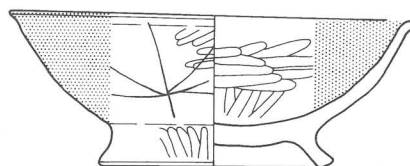
362



363



364

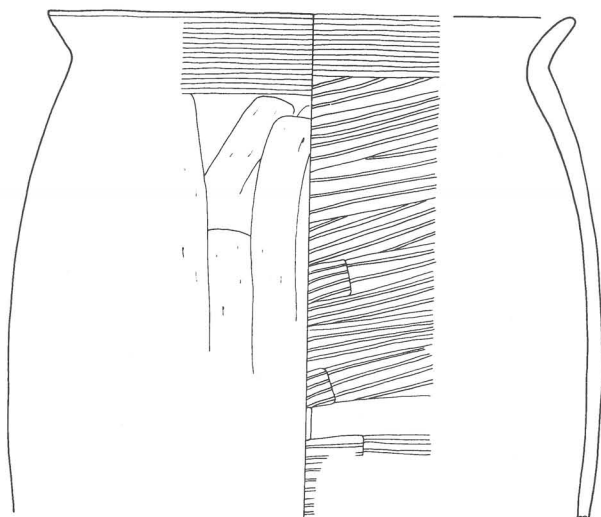


365

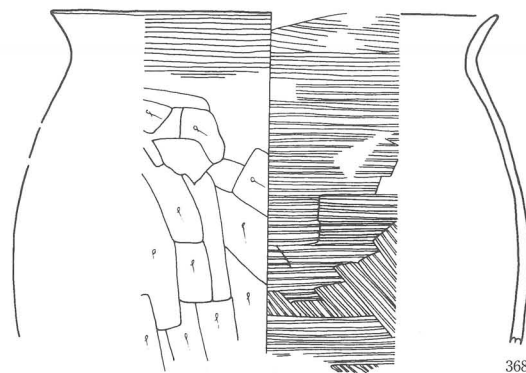
360~368はRA295



366



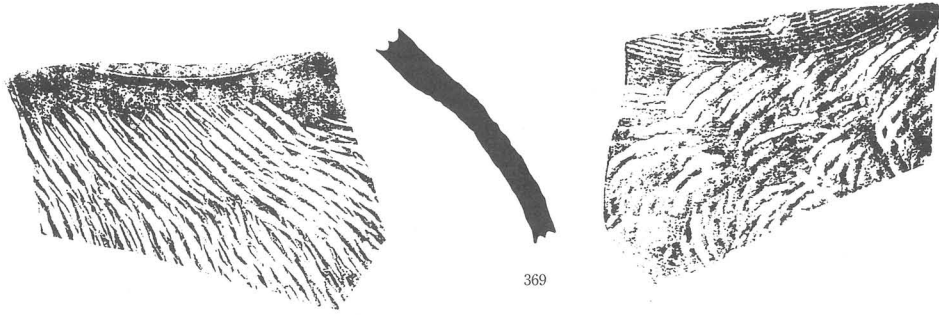
367



368

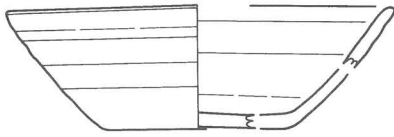
0 1:3 10cm

第316図 土師器・須恵器(45)



369

369はRA295

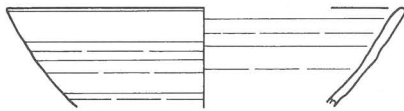


370

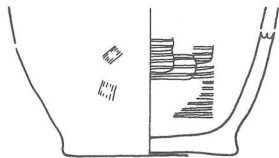


371

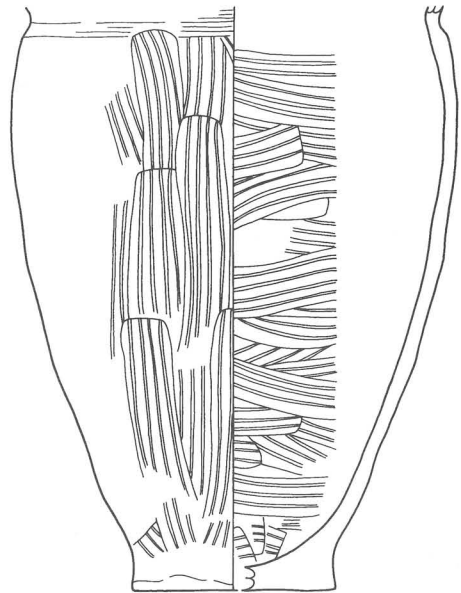
370~391はRA297



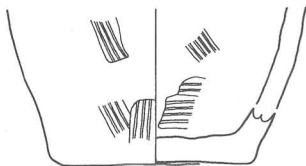
372



374

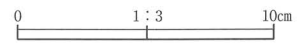


373

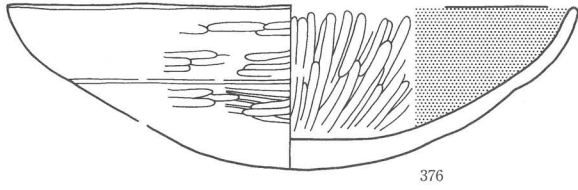


375

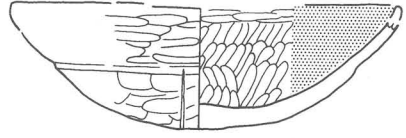
372~375はRE029



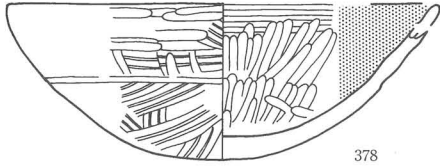
第317図 土師器・須恵器(46)



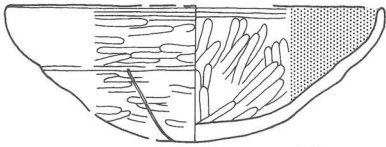
376



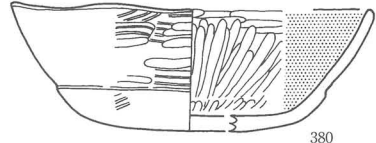
377



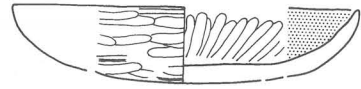
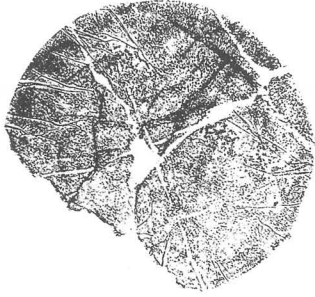
378



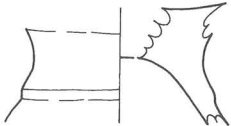
379



380

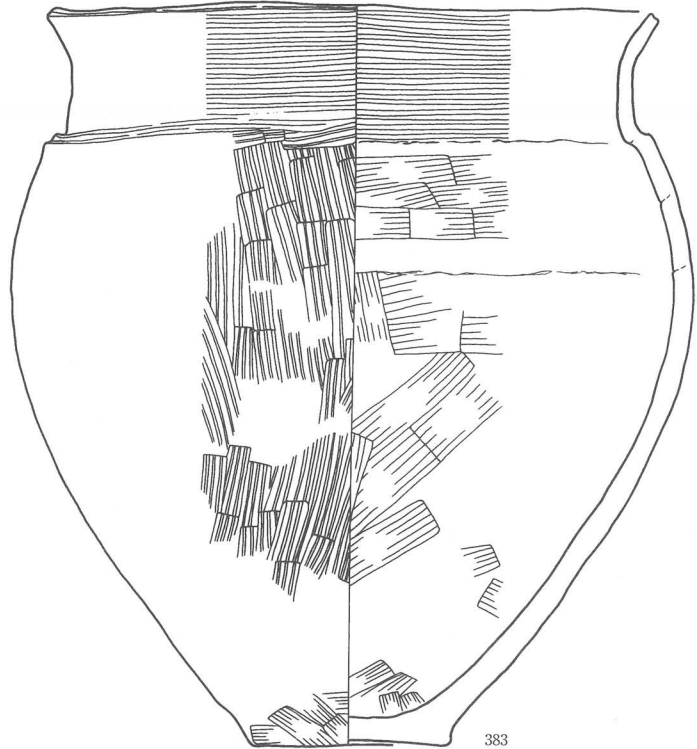


381

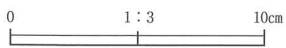


382

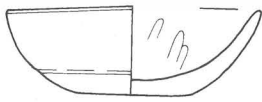
376~383はRE038



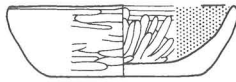
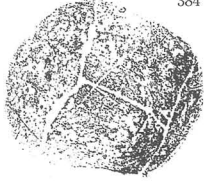
383



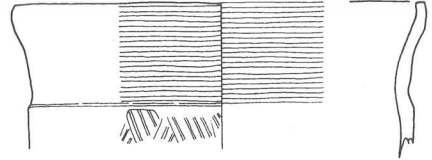
第318図 土師器・須恵器(47)



384

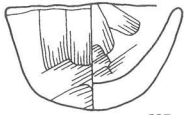


385

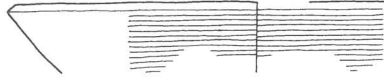


386

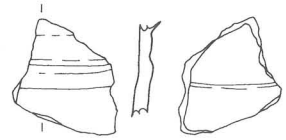
384~386はRE042
387はRD265
388・389はRD286
390はRD309
391はRD344
392はRD382
393はRD396



387



388



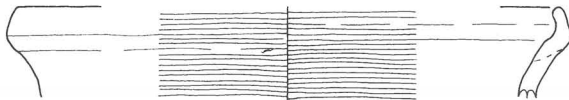
389



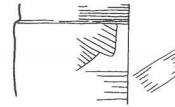
390



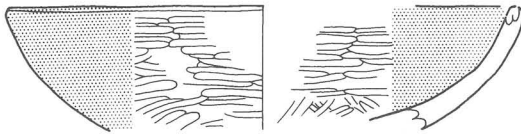
391



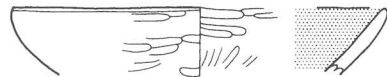
392



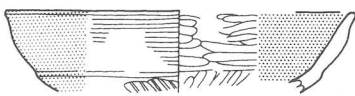
393



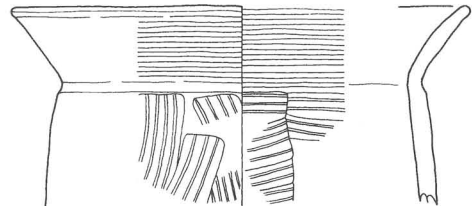
394



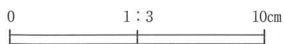
395



396

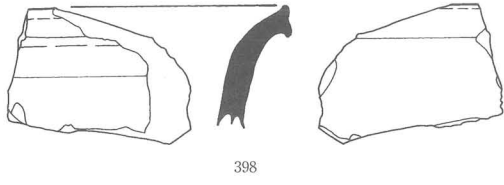


397

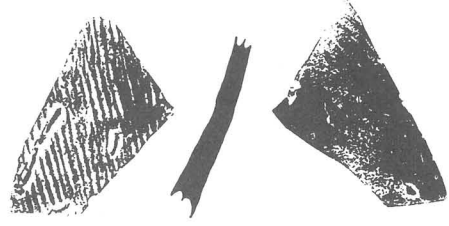


394~397はRD399

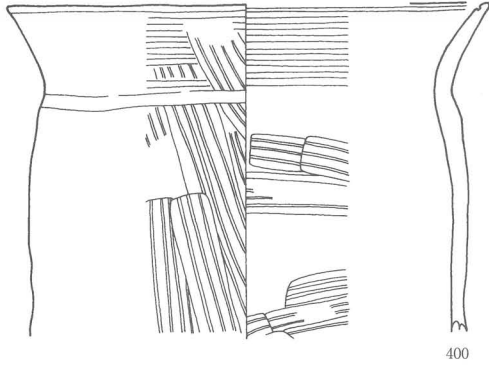
第319図 土師器・須恵器(48)



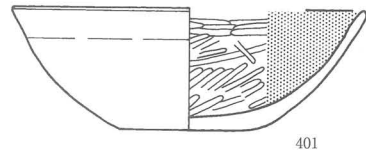
398



399

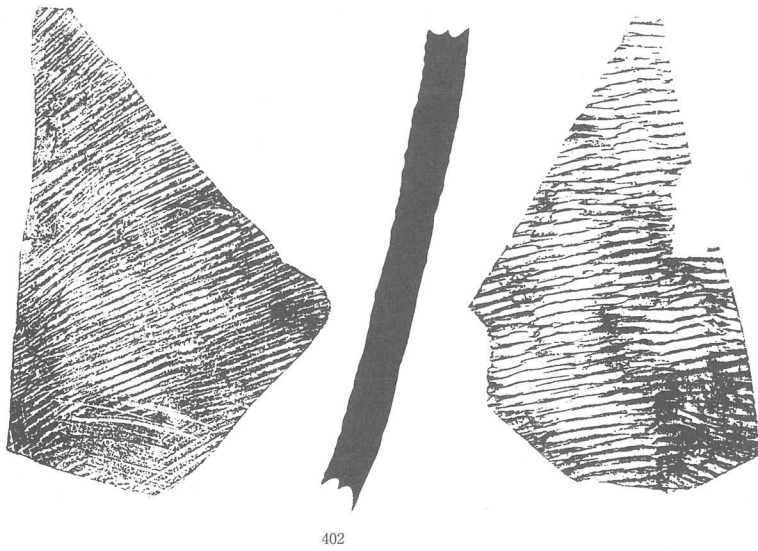


400

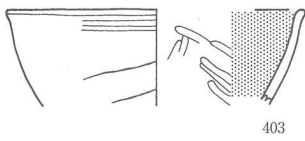


401

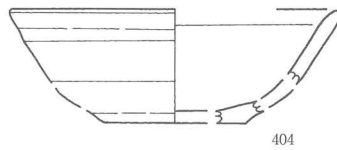
398・399はRD428
400はRD577
401・402はRD608
403～405はRD614



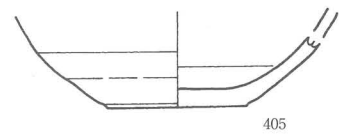
402



403



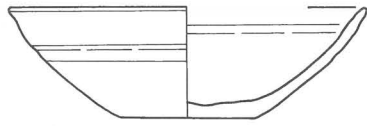
404



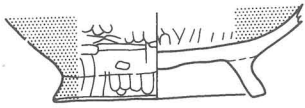
405

0 1 : 3 10cm

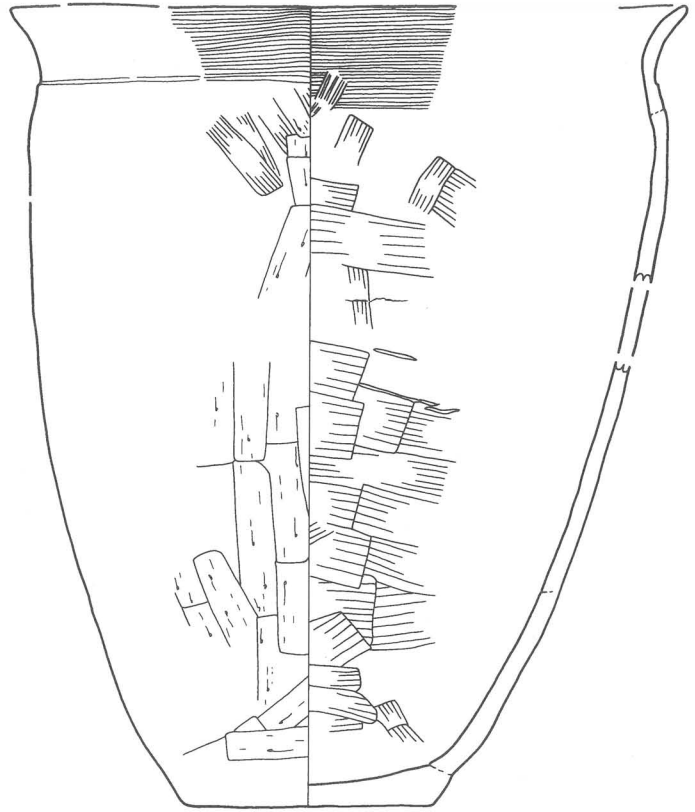
第320図 土師器・須恵器(49)



406

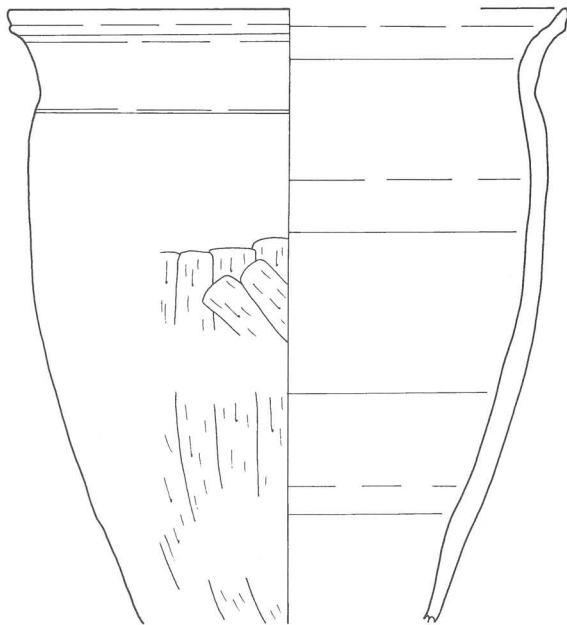


407

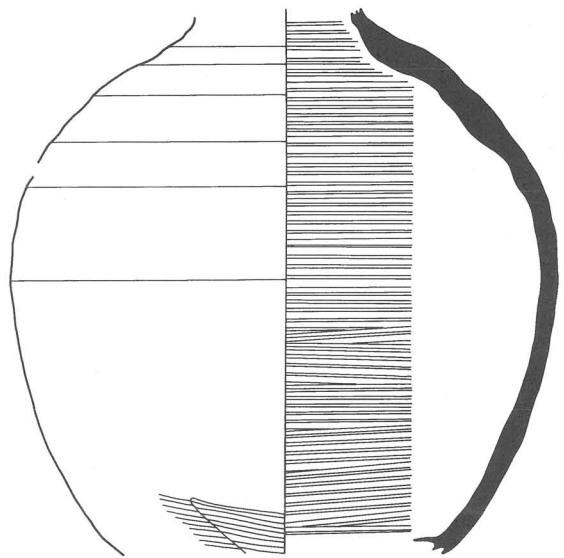


408

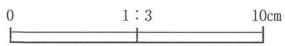
406~410はRD614



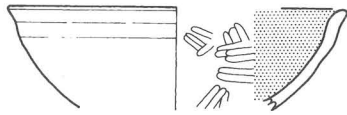
409



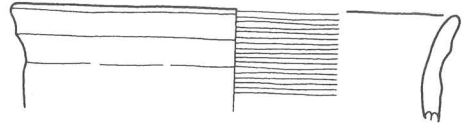
410



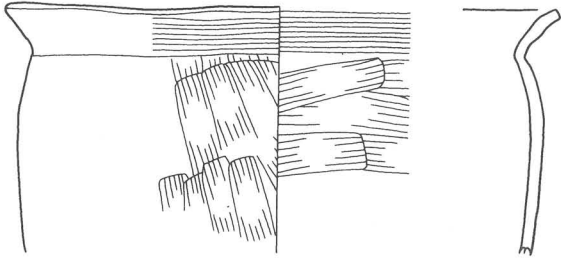
第321図 土師器・須恵器(50)



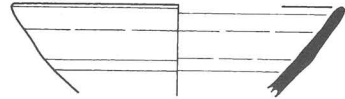
411



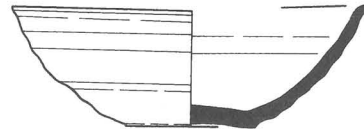
412



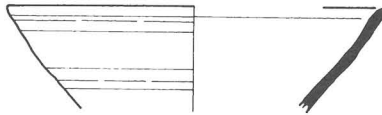
413



414



416



415



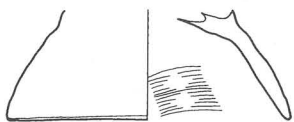
417



418



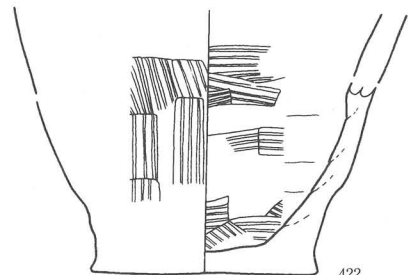
419



420



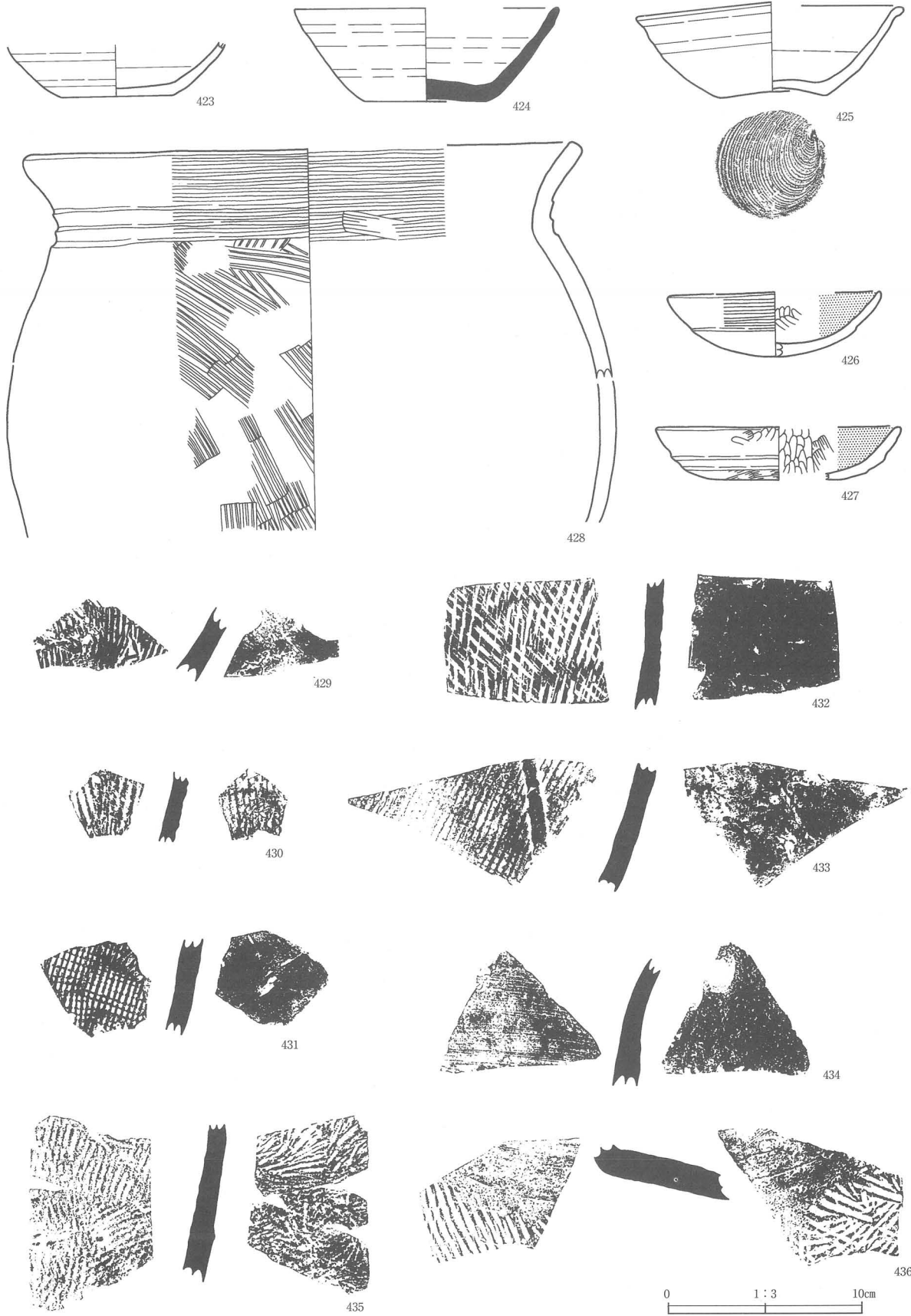
421



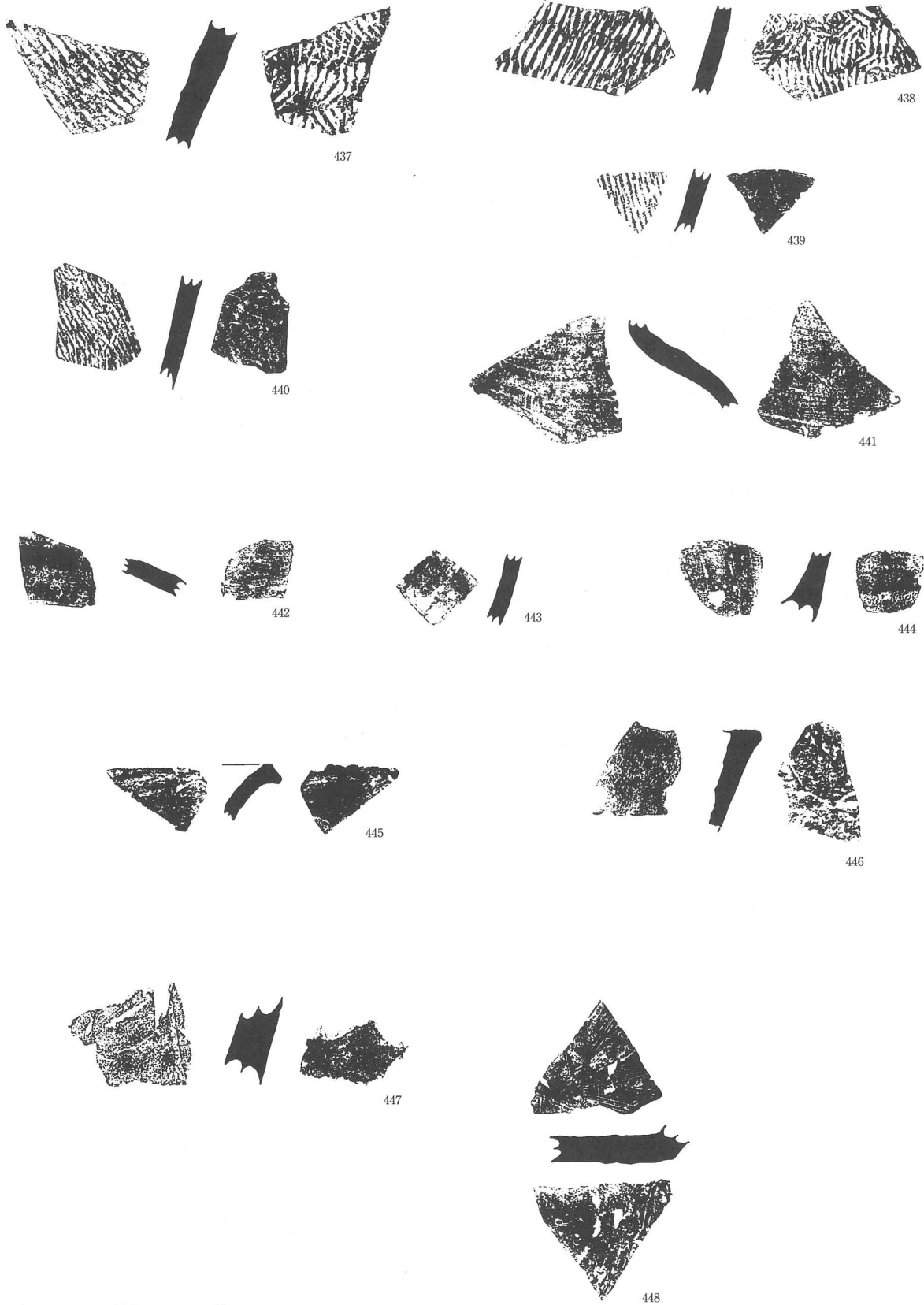
422

0 1:3 10cm

第322図 土師器・須恵器(5)



第323図 土師器・須恵器(62)



第324図 土師器・須恵器(53)

(2) 中世陶磁器 (第325・326図・写真図版314・315)

本調査区から出土した中世陶磁器は担当者の見たところ約35点で、その全てを掲載した。ただし、本遺跡では平安時代の遺構・遺物も多数検出されており、至る所から須恵器が出土する。そして筆者が須恵器と判断し不掲載とした破片資料の中に須恵器系陶器が含まれている可能性も多大にあるのではないかと考えている。また、注意して選別したつもりではあるが近世及びそれ以降の陶器と判断して不掲載したり、或いはその逆の可能性もある。

449～459は青磁で、出土した器種を見ると碗の割合が多い。449鎚連弁文を施す碗である。450～454にも連弁文が見られるがやや退化している。455～457は無文の碗のようである。458は小振りな皿、459は口縁部が端反りする盤であろうか。

460～462は染付である。460はおそらく碗で見込みに描かれているのは「寿」である。461は碗で見込みに幾分膨らみを持つようである。462は皿で口縁部内面に四方襷文が施されている。

463～470は瀬戸・美濃産陶器である。463は外面にのみ灰釉が施され釉に沈んでいるが3本の沈線が横走る。瓶類(花瓶か)の頸部と思われる。464は灰釉平碗で外面の体部下半は無釉となっている。465・466は卸皿のおろし目部分である。467は天目碗の口縁部、468の鉄釉陶器は近世及びそれ以降の遺物かもしれない。器種を瓶類と考えたが自信はない。469は瓶類と思われ灰釉を外面のみ施釉している。

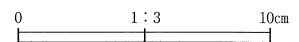
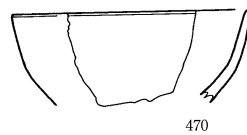
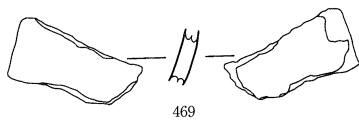
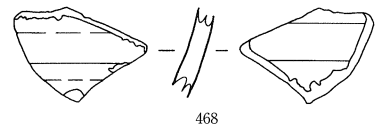
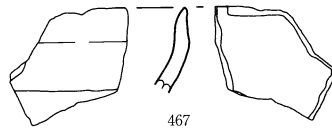
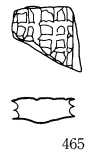
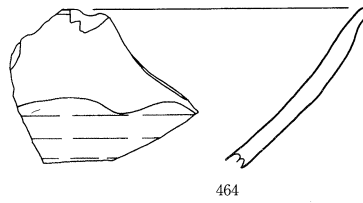
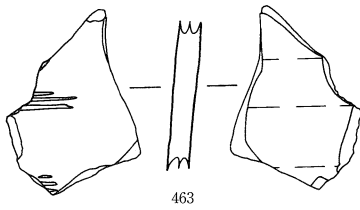
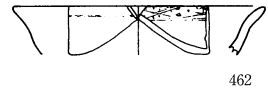
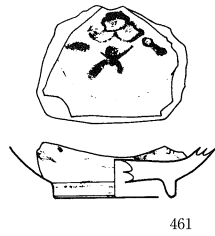
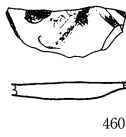
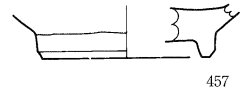
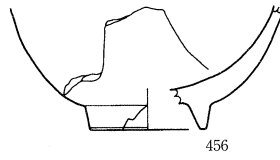
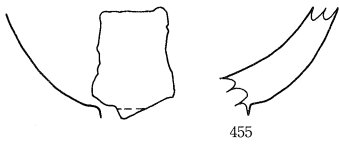
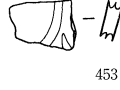
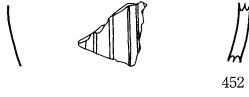
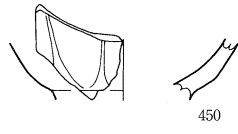
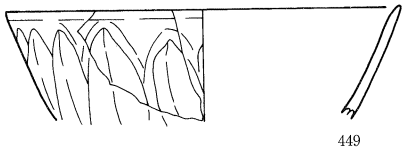
471～482は常滑産、北陸系の陶器及び産地のよくわからないものである。471は常滑産片口鉢と思われ13世紀末頃のものであろうか。472は産地不明の陶器で焼き締まっている。473～482は播鉢である。473と474は溝幅の狭い櫛を用いて間隔を広くおろし目を付けている。摩耗し内面は滑らかになっている。珠洲産と思われる。476～479は同じような質感を持つものである。何れも間隔を開けておろし目を付けており、内面の摩耗が著しい。477の口縁部は内側に少し折り込むようにつくられている。480は口縁部破片でおろし目の有無は不明であり播鉢ではないかもしれない。胎土は黒褐色で焼成は良い。産地は不明である。481・482も産地がわからなかった。近世陶器かもしれない。482は須恵器的な質感でかなり厚みがある。口縁部を除く外面には薄く篋削りしたような跡がある。出土したときは煤なども付着していた。在地で生産されていたものであろうか。

(3) かわらけ (第327図・写真図版315)

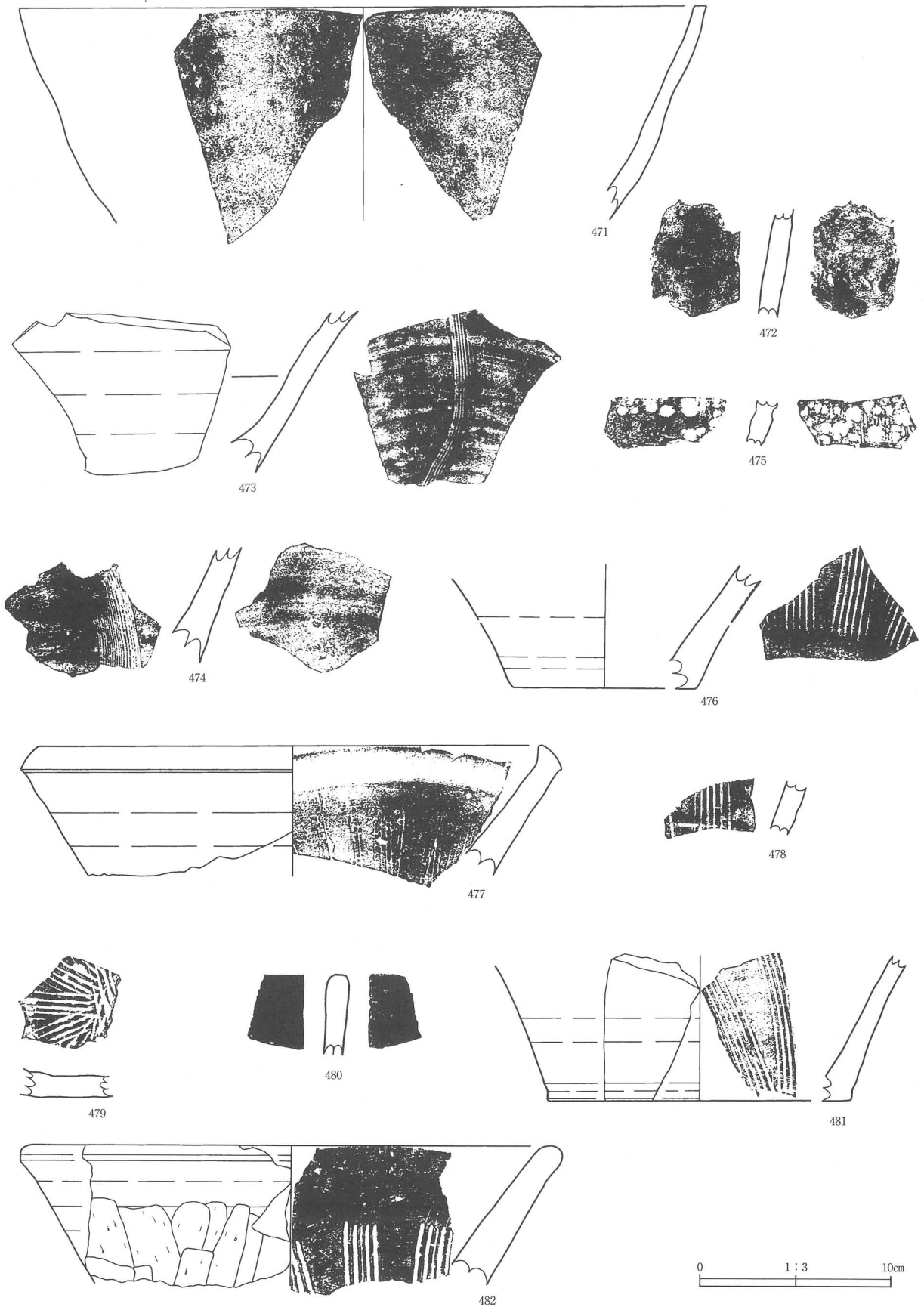
今回の調査ではR Z 012からのみ、かわらけが出土した。破片となった状態で出土し、個体数は3～5点程と思われる。その中から図化可能な3点を掲載した。

483と484は比較的大型のロクロかわらけである。底部には回転糸切痕が残り、底部から一旦外反して立ち上がり、その後口縁部にかけて内湾気味に立ち上がっている。共に風化が著しくかなり強引な接合をした。ロクロ以外の調整が施されていたかは不明である。485は小型のロクロかわらけである。今回の調査では小型のかわらけはこの1点のみの出土であった。口径に対し底径が大きく、器高はそれほど高くない。底部には回転糸切痕が認められるが、ロクロ以外の整形が施されていたか判然としない。

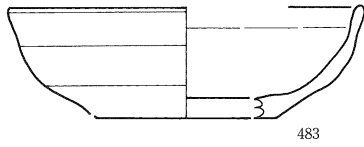
これらのかわらけが出土したR Z 012は遺跡南端ほぼ中央部の4 B区に位置している。北側には墓壙群・竪穴建物跡・掘建柱建物跡など中世の遺構が密に分布し、南側には湿地が広がっている。遺構はこの湿地と



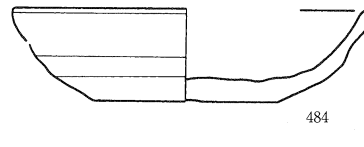
第325図 中世の陶磁器(1)



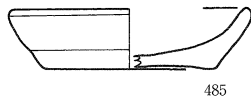
第326図 中世の陶磁器(2)



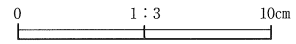
483



484



485



第327図 かわらけ

中世遺構群の境目となる場所に位置している。何ら特徴的な出土状況を呈するものではなかったが、遺構には伴っていると思われ、また一括出土ではないにしてもお互い時期的には近いものではないかという印象を持つ。時期を特定できるような遺物は共伴していないが、周辺の遺構の状況から中世に属すると考えられ周囲で出土した中世陶磁器の年代観から14～15世紀頃のものと考えたい。

(4) 木製品 (第328～332図・写真図版316～319)

今回の調査で台太郎遺跡の南端は4-B区～5-D区にかけて湿地が広がっていることが明らかになった。とくに4-B区南側の湿地部分を精査したところ木質遺物や加工痕のない自然木が出土した。とくにこの湿地内で検出されたR Z 014及びR D 789からはコンテナ3箱(42×32×30cm)程の木製品と自然木が出土した。これらの遺構及び湿地帯のすぐ北側には中世の墓群が広がっており、木製品についても概ねこの中世墓群と同じ時期のものとして捉えるのが最も妥当と思われる。よってここでは木製品の年代を14世紀～15世紀頃の遺物と位置付けたい。

486～492はR D 789埋土出土である。486は漆器椀である。内外面黒地に赤で文様が描かれている。意匠は紅葉であろうか。487は連歯下駄である。歯は非常に減っている。488は薄い板である。加工時の残片であろうか。489は細い棒の一端を斜めに切り尖らせたものである。490は箸であろうか。491・492は棒状のもので所々面取りしている。

493～502はR Z 014埋土から出土したものである。R D 789と同様に人為的に廃棄された遺物もあるが、自然に流れ込んだものも多いと思われる。493は漆器であるが器種は不明である。内外面に黒漆が塗られている。494は木槌である。柄は折れていたがほぼ原形を保った状態で出土した。495は用途不明である。棒状の形状の一方を細くつくり出しているがその先が失われており不明である。496は瓢箪、497・498は樹皮であろうか。499～501は杭である。499は主に二方向から尖らせている。500・501の杭は遺構の底面に打ち込まれていた。502は板材であろうか。実際はもっと上下左右に大きかったと思われる。488も薄い板状の製品で穿孔が見られる。504は小さな桶状の製品の底板と思われる。505には加工痕がみられるが用途不明である。

R Z 001は水場のような施設と考えられる遺構で近世及びそれ以降と考えている。506・507はその底面に打ち込まれていたものである。508は細い棒の中に鉄が通っているが用途はわからない。509～511は下駄である同一個体となると思われる。512～514はR D 331の埋土から出土した。512は桶の一部であろうか。513の栓が対応する。514は板材である。515は柱材の一種かもしれない。何れも近世以降の遺物である。

(5) 金属製品

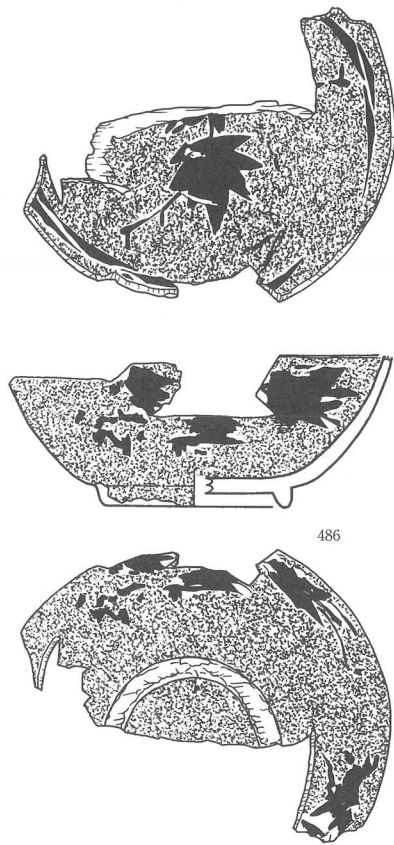
金属製品 (第333～335図・写真図版320～322)

今回の調査で出土した金属製品(銭貨を除く)は、遺構内外合わせて87点であった。その中から遺構内出土のものを中心に代表的なもの37点を図示し、鉄滓については写真のみの掲載とした。

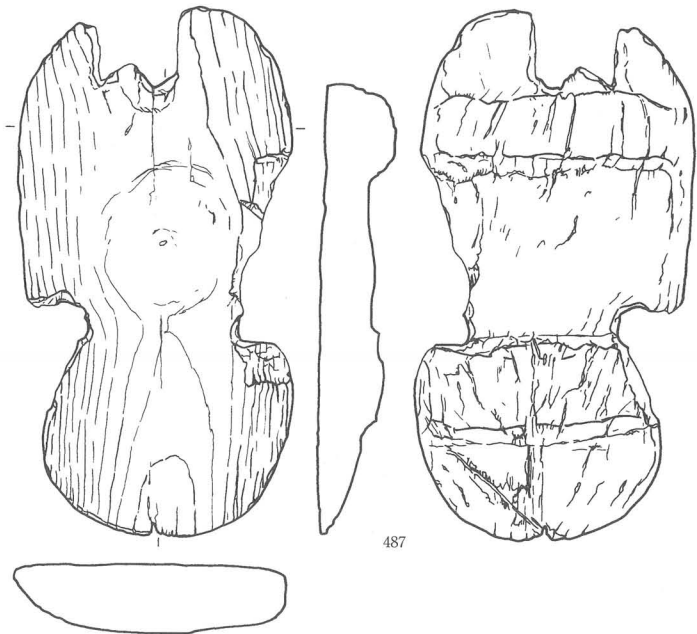
516～518は鍬先或いは鋤先と思われる。何れもR A 291竪穴住居跡に伴って出土している。全体に錆が著しいが先端部はやや丸みを帯びているように見える。木質部への装着部は内側には、幅1cm前後のV字状の溝が巡っている。

519～531は鉄釘である。断面形は何れも方形を基調としているようである。528～531は遺体を納める棺に使われていたのかもしれない。532は鏝であろうか。533は刀子と思われる。534～545は種類不明のものである。543は輪状のもの。544と545は同じ種類のもので厚さ1cmに満たない鉄製の円盤の中心に小さな孔が見られる。ともにR D 597から出土した。

546～551は銅製品である。546は煙管の雁首部で、547～550は煙管の吸口部である。552は簪であろうか。



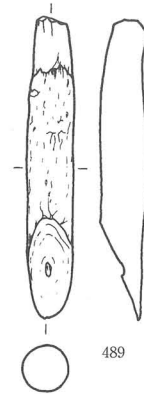
486



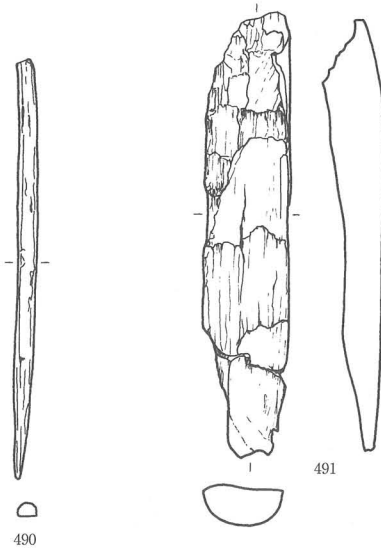
487



488

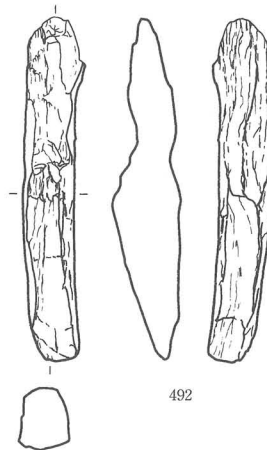


489

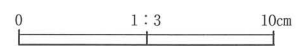


490

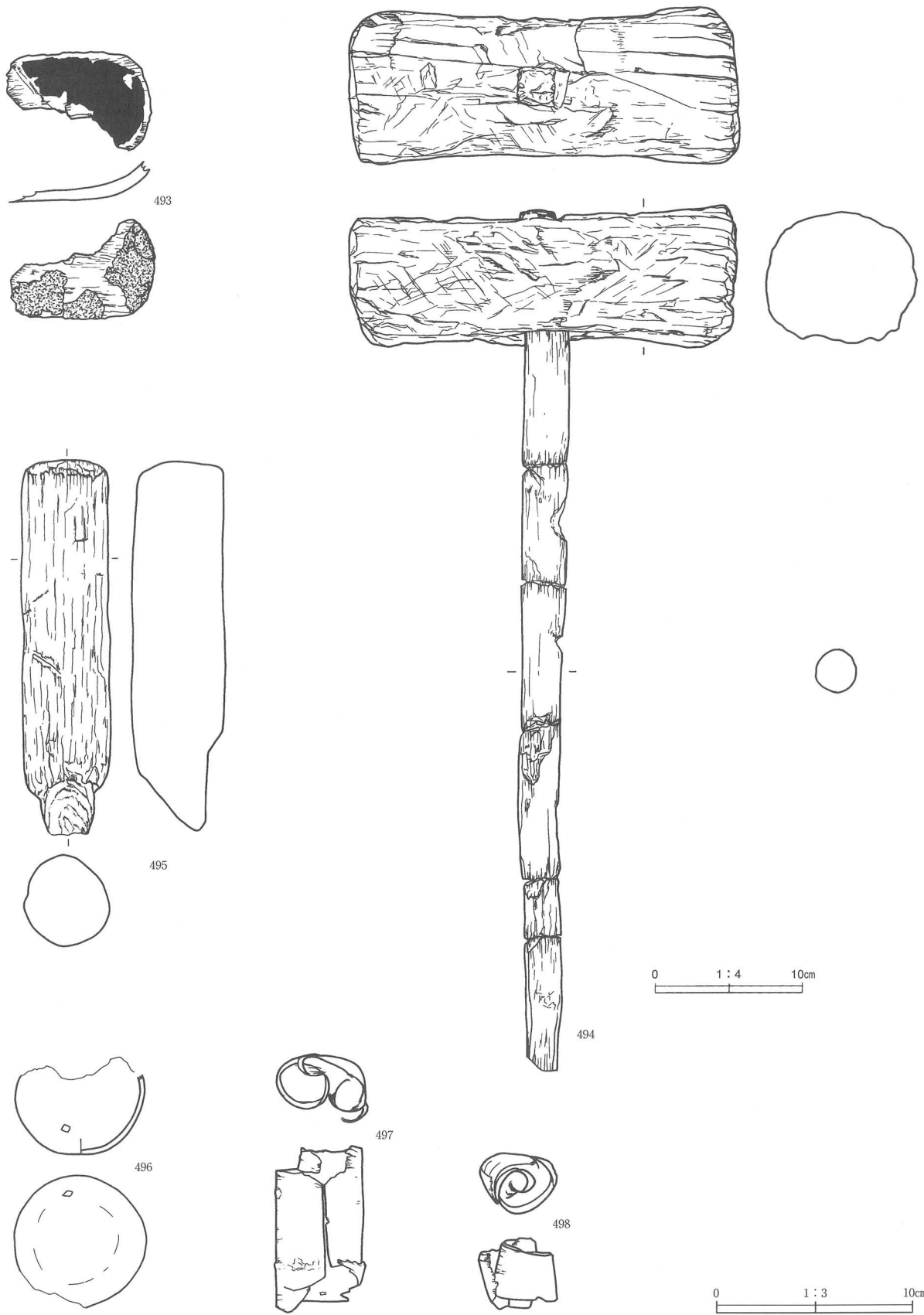
491



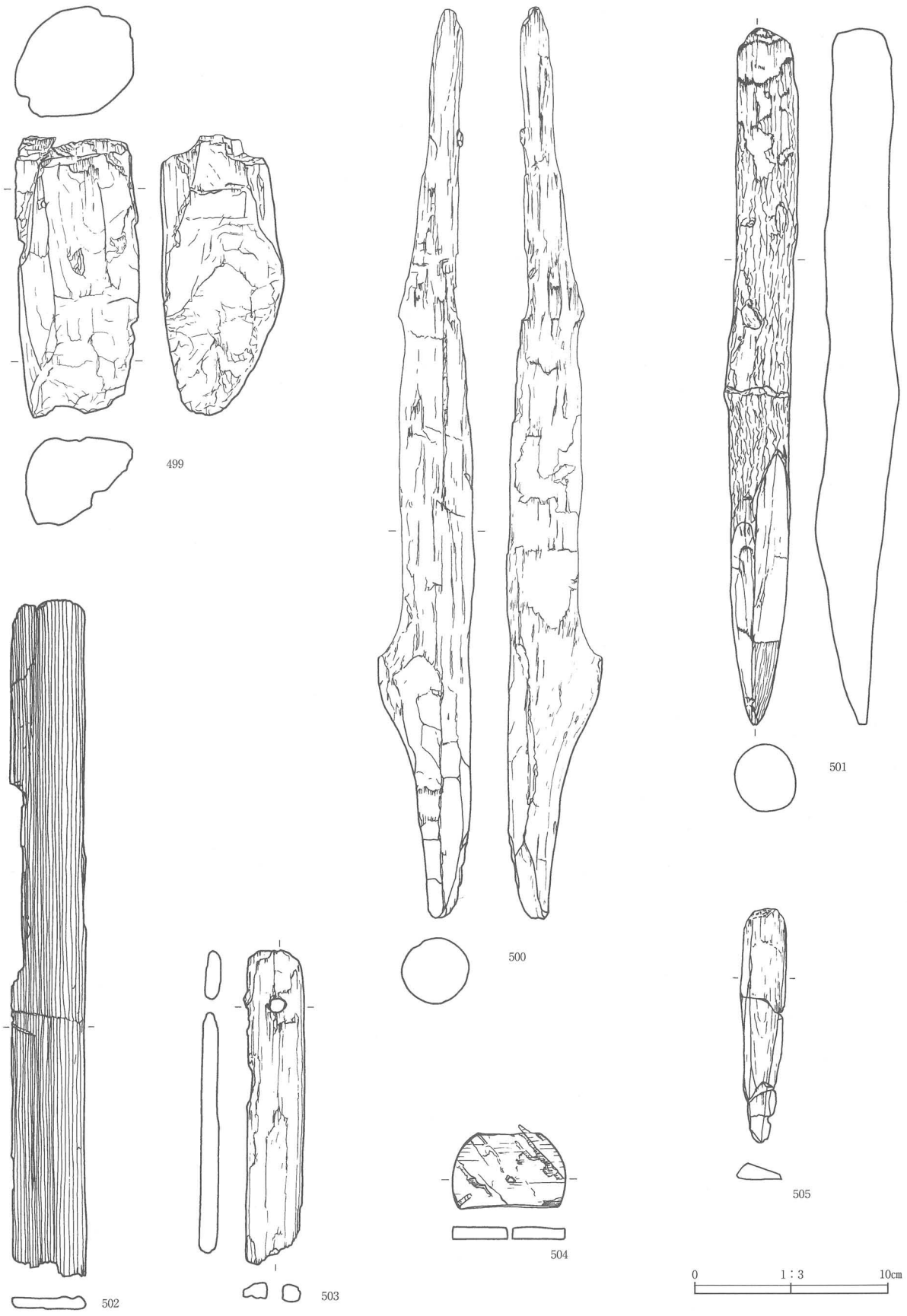
492



第328図 木製品(1)



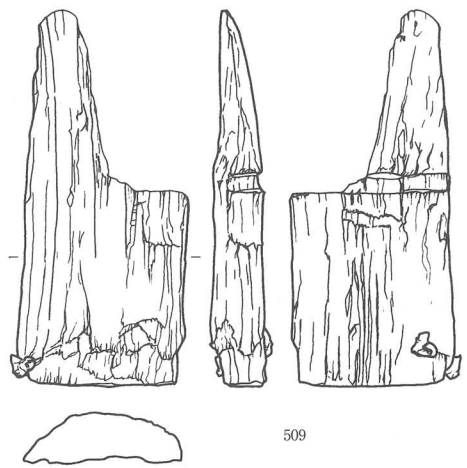
第329図 木製品(2)



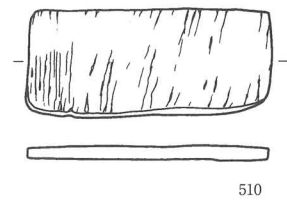
第330図 木製品(3)



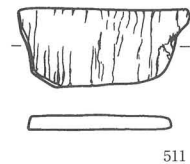
508



509



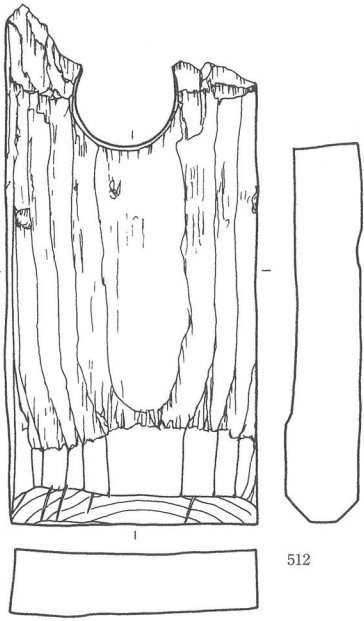
510



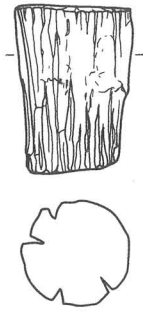
511

0 1:3 10cm

第331図 木製品(4)



512



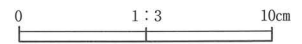
513



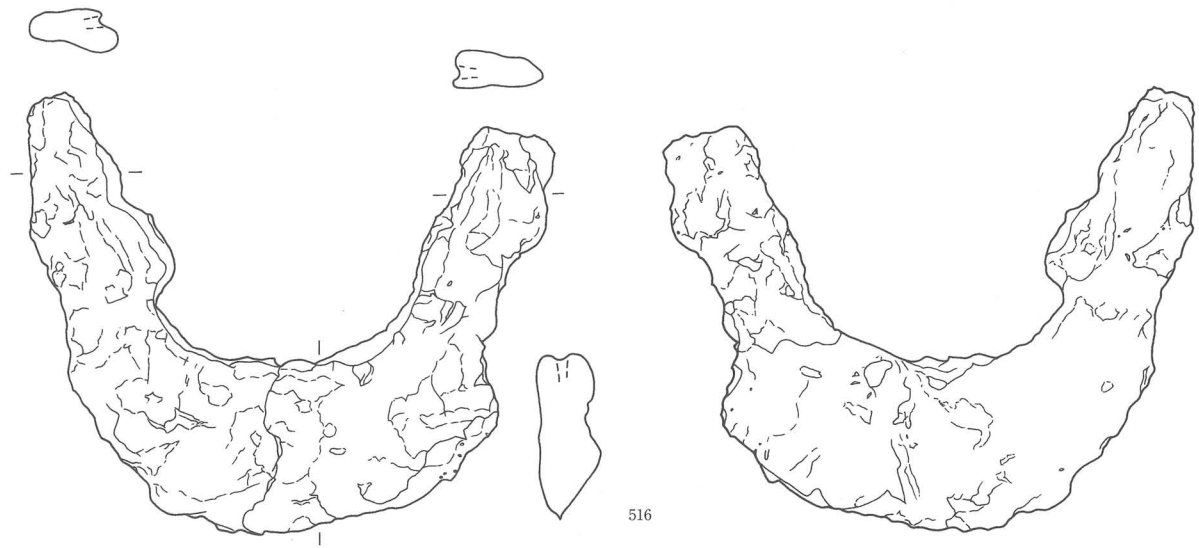
515



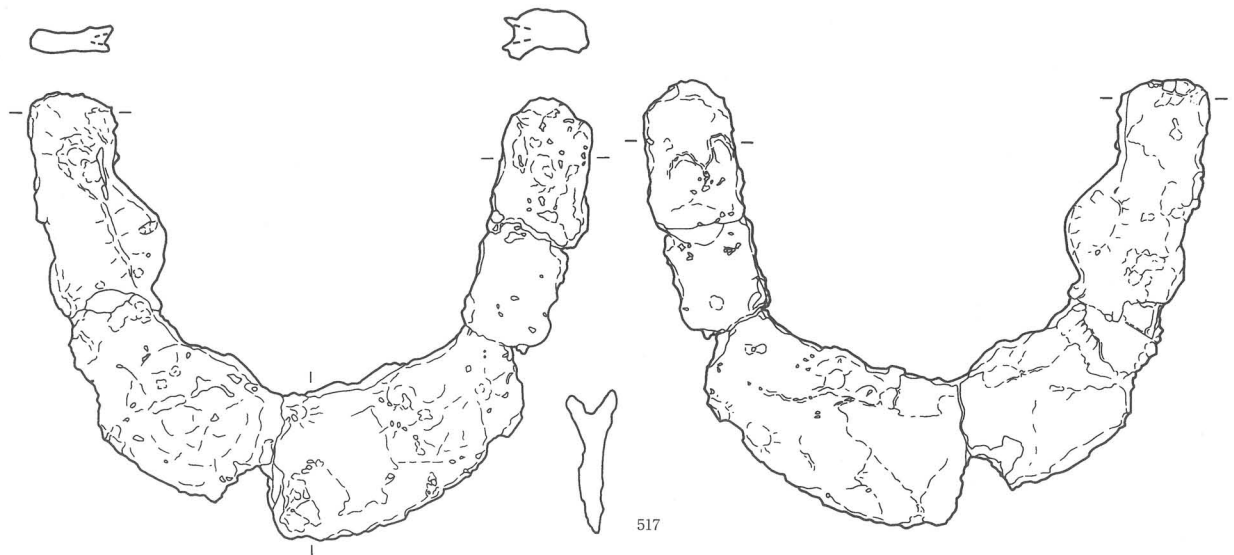
514



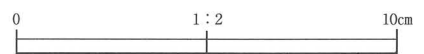
第332図 木製品(5)



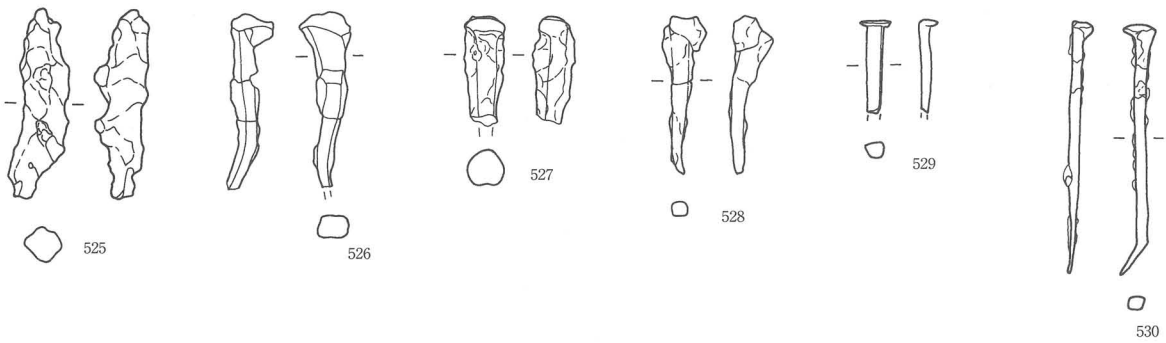
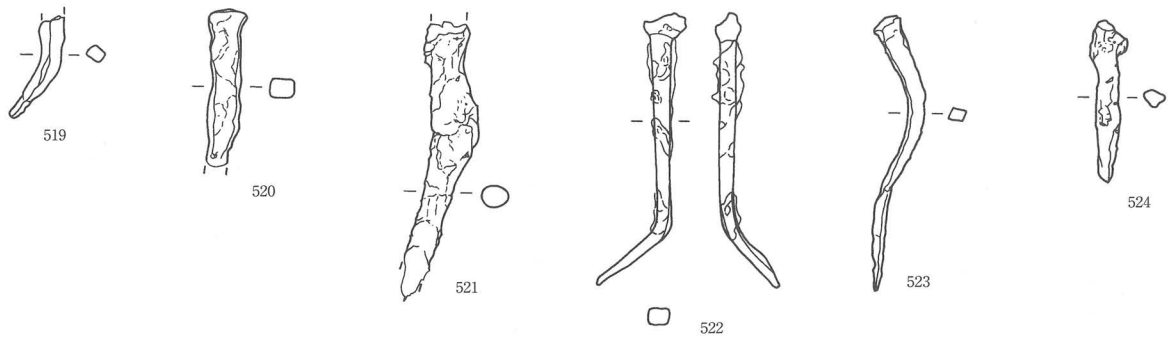
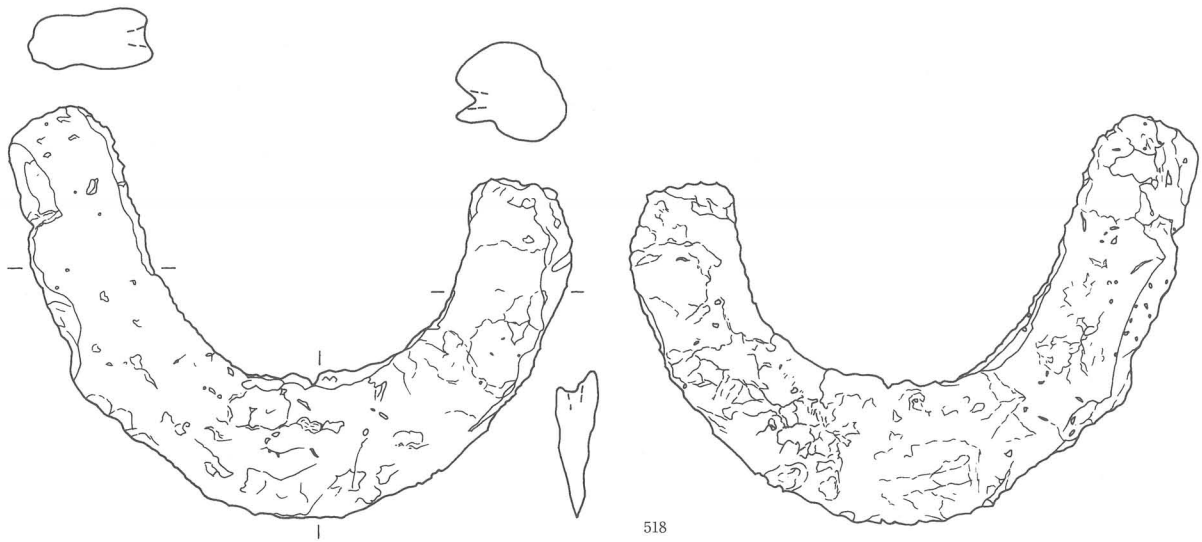
516



517

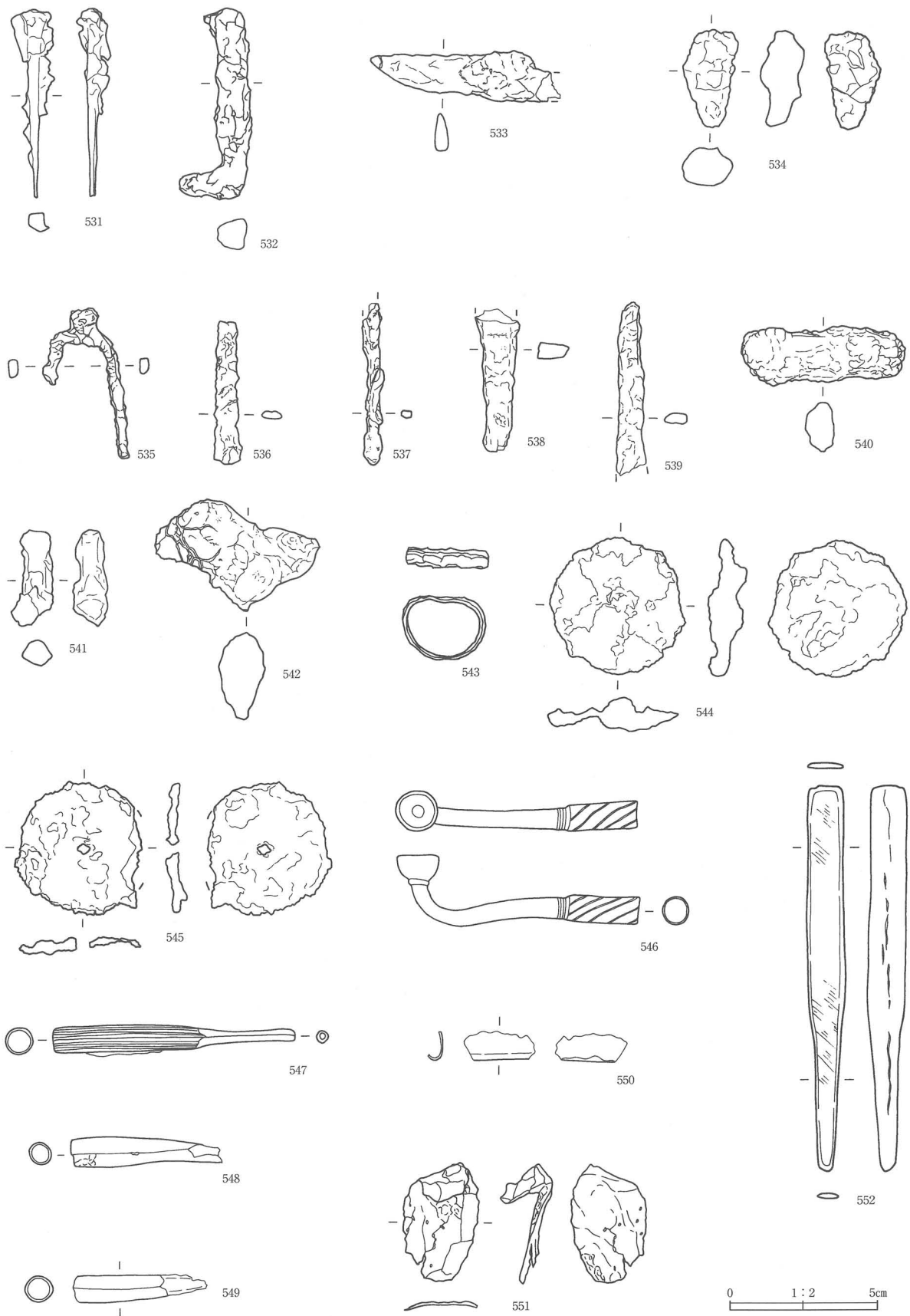


第333図 金属製品(1)

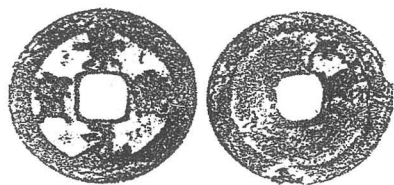


0 1:2 5cm

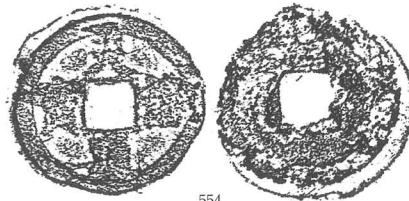
第334図 金属製品(2)



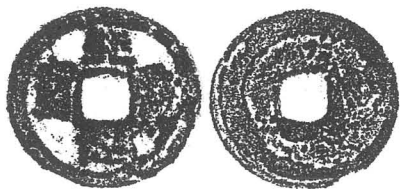
第335図 金属製品(3)



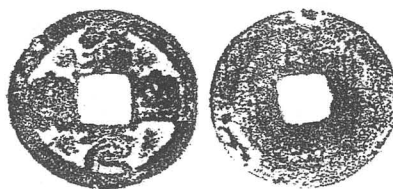
553



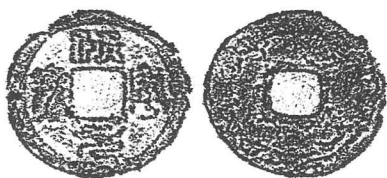
554



555



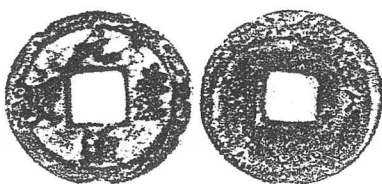
556



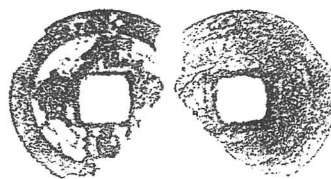
557



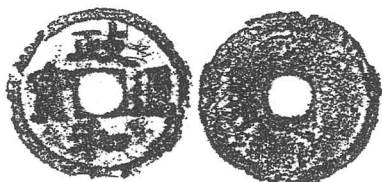
558



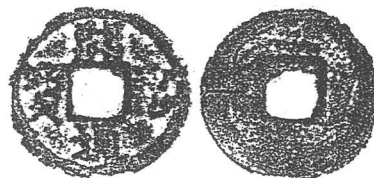
559



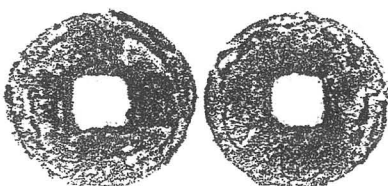
560



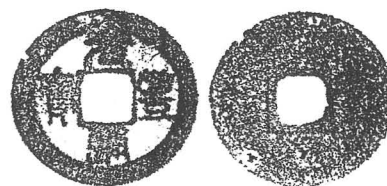
561



562

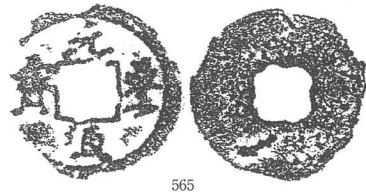


563

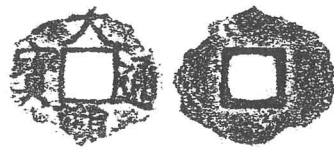


564

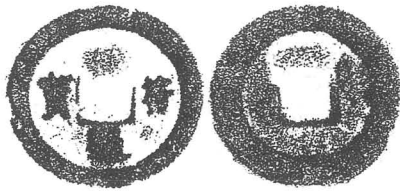
第336図 錢貨(1)



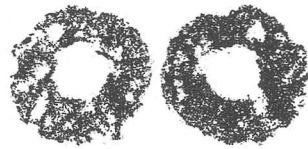
565



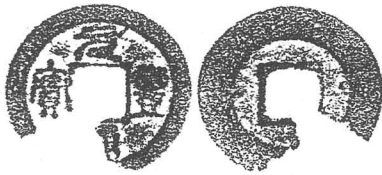
566



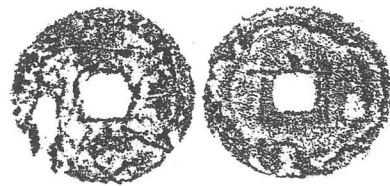
567



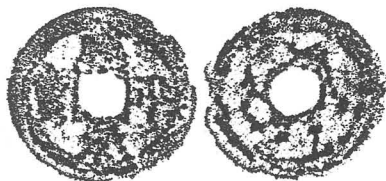
568



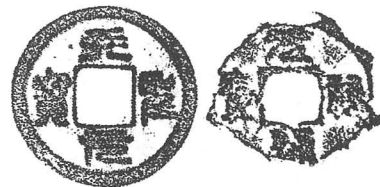
569



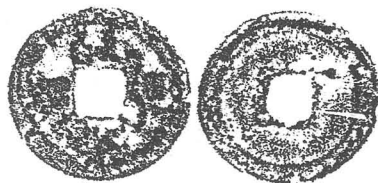
570



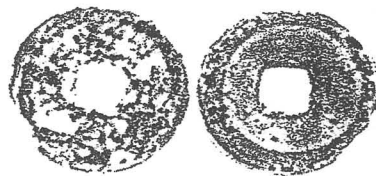
571



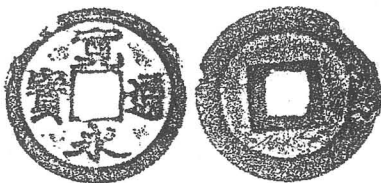
572



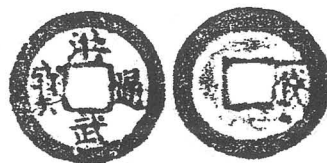
573



574

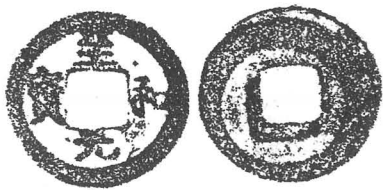


575

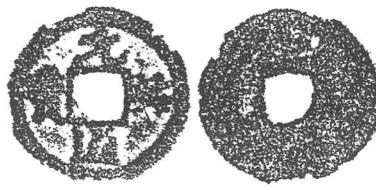


576

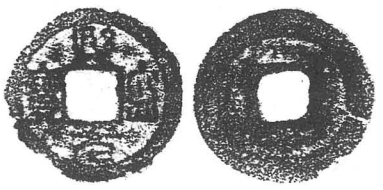
第337图 钱货(2)



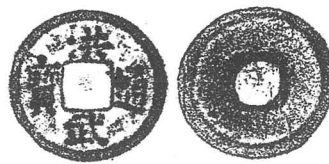
577



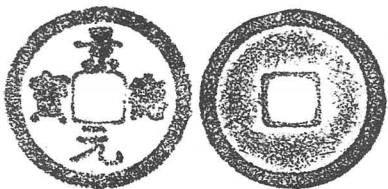
578



579



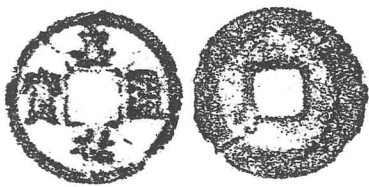
580



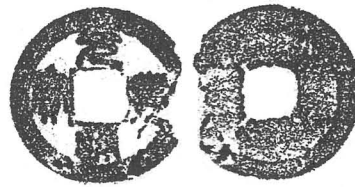
581



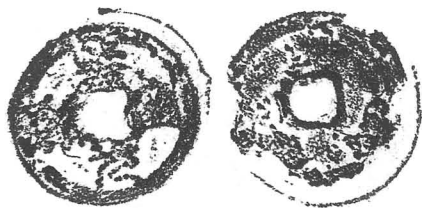
582



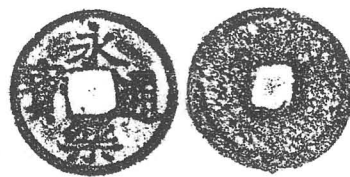
583



584

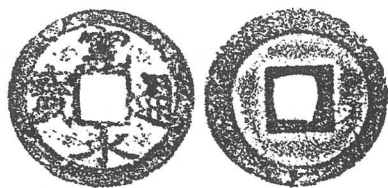


585

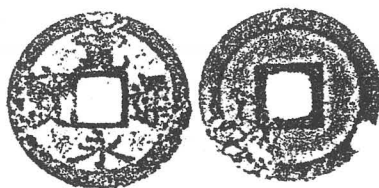


586

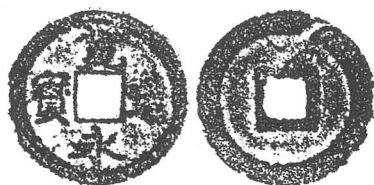
第338図 銭貨(3)



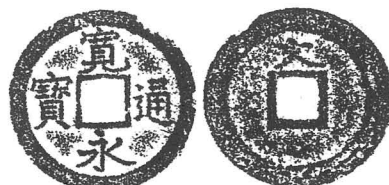
587



588



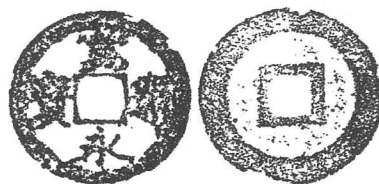
589



590



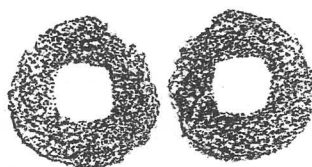
591



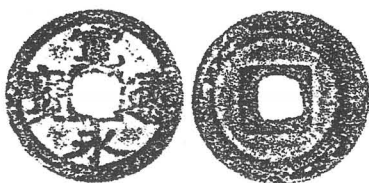
592



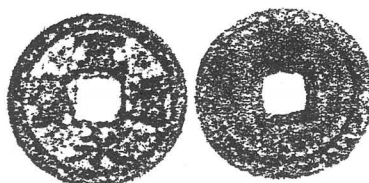
593



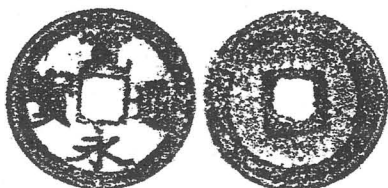
594



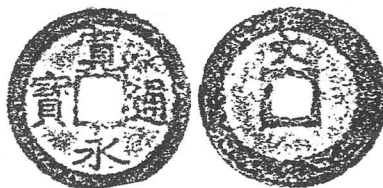
595



596

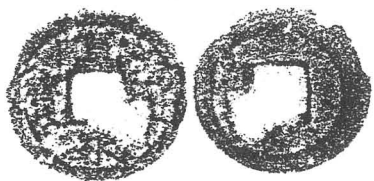


597

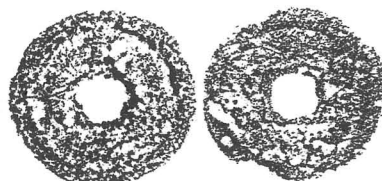


598

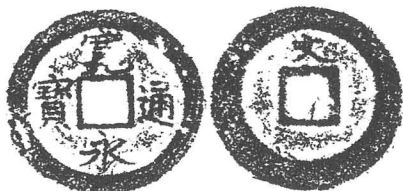
第339圖 錢貨(4)



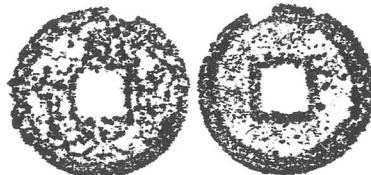
599



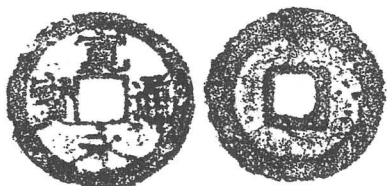
600



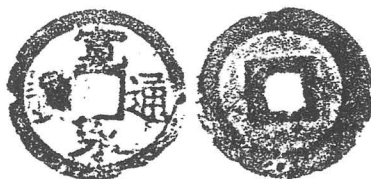
601



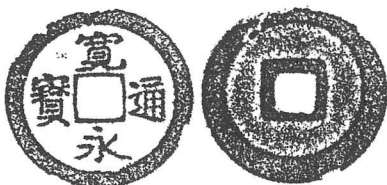
602



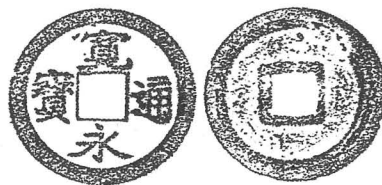
603



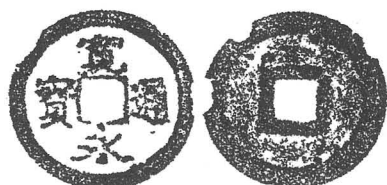
604



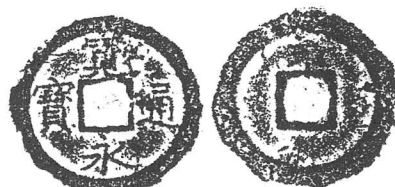
605



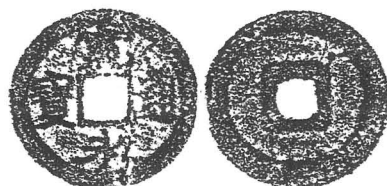
606



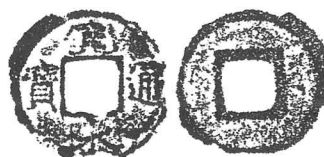
607



608

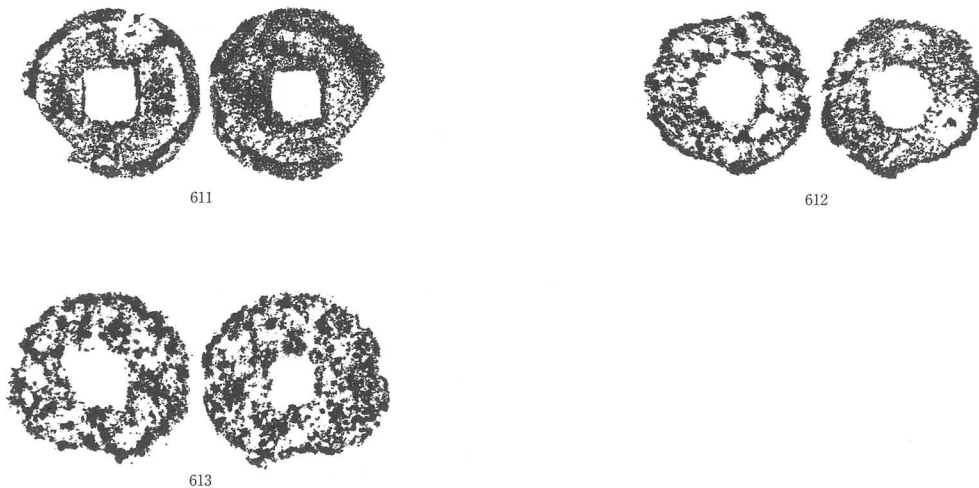


609



610

第340図 錢貨(5)



第341図 銭貨(6)

551は何かの一部で薄い銅板が捲れたものである。

銭貨 (第336～341図・写真図版323～327)

銭貨は中世に属するもの43点、近世のもの24点が出土し、その殆どを掲載した。複数の銭貨が密着して出土したものもあり、それらは可能な限り個々の計測値を求めるために分離させたが、不可能なものはそのまま計測し掲載している。

553～563はR D 298中世墓の埋土下位、北壁付近から出土した。12枚が密着し孔には紐が僅かだが残っていた。出土銭貨は北宋から南宋期のものであった。554は2枚付着の状態で剥離できなかったため1枚の銭貨名が不明である。その他中世墓からは564元豊通寶がR D 712から、565元豊通寶と566はR D 738からの出土である。567祥符通寶と568鏹銭？はR D 789から出土した。569は元豊通寶でR E 036竪穴状遺構の埋土下位から出土した。570から575は溝跡から出土したものである。570は判読できなかった。572は天聖元豊と元□□寶が付着している。573・574も銭種不明である。576は洪武通寶の背一銭。577は至和元寶で中世墓群に南隣するR Z 014から出土した。同じく中世墓群の南側に広がる湿地帯からは579熙寧元寶・580洪武通寶が出土した。578元祐通寶で柱穴P1785から、581は景德元寶でR A 248の柱穴P1995から出土した。

587から591は近世墓R D 597から出土した。あまりまとまった状態での出土ではななかった。587から589は古寛永と思われる。590には背文が見られる。591も寛永通寶でよいと思われる。592は古寛永であろうか。近世墓から出土した。593は寛永通寶と思われる。鉄製である。594は鏹銭であろうか。595から600はR G 223溝跡から出土した。595・596は古寛永である。598には背文が見られる。599と600も寛永通寶でよいと思われるが年代等は不明である。601の寛永通寶には背文がある。602は年代不明である。603から605は柱穴から出土しているものである。何れも古寛永である。606から613は遺構外出土である。606・607・609は古寛永。608・610は新寛永であろう。611は年代不明である。612・613は鏹銭であろうか。613は鉄製のようである。

(6) 土製品

紡錘車 (第342図・写真図版328)

土製紡錘車は9点が出土し、その全てを掲載した。何れも竪穴住居跡からの出土で奈良時代に属する。底面直径4.1～5.4cm、高さ1.8～3.3cmで円錐台形を呈し重量は26.3～80.2gである。判然としないものが多いがナデ及びヘラミガキにより調整されていると思われる。表面が黒色を呈するものなどは黒色処理されているのであろうか。胎土、焼成とも土師器と似るが、厚みがあるためかやや脆い。

羽口ほか (第342図・写真図版328)

何れも竪穴住居跡から出土し全てを掲載した。623は羽口である。先端部が溶解し、もう一方は欠損している。624・625は同一個体の可能性がある。中に孔が通っており支脚或いは羽口と思われる。

勾玉ほか (第342図・写真図版328)

土製勾玉は2点出土し、全てを掲載した。胎土、焼成は土師器と似る。恐らく調整も同様で、黒色処理が施されているようである。628は土人形で近世の遺物である。

(7) 石器・石製品

石器事実記載

竪穴住居跡出土

R A 201…629はデイサイト製の砥石である。使用面は4面で中央付近の使用が顕著である。

R A 206…630はデイサイト製の砥石である。使用面は4面で、上面の使用が顕著である。631は安山岩質溶岩製の磨石である。表面の一部に平坦な部分があり、若干であるが擦痕が観察される。

R A 231…632・633はともに安山岩製の磨石である。632の使用面は2面で部分的に擦痕が観察される。633の使用面は1面で、ほぼ全面に擦痕が観察される。

R A 236…645は安山岩製の磨石である。使用面は2面で部分的に溝状の擦痕が観察される。

R A 239…634はデイサイト製の砥石である。使用面は4面で、非常に平滑になっている。

R A 273…635は安山岩製の磨石である。使用面は2面で、表面にはほぼ全面、裏面には部分的に擦痕が観察される。

R A 275…636は泥岩製の磨石である。使用面は2面で、平滑になっている。裏面には煤状の付着物が観察される。

R A 283…637は安山岩質溶岩製の砥石で、溝状の擦痕が観察される。638は凝灰岩製の砥石で、ほぼ全面に擦痕が観察される。

R A 285…639は凝灰岩製の砥石である。端部以外の部分に擦痕が観察される。640は安山岩製の凹石である。表裏に一箇所ずつ凹部が観察される。

R A 286…641は安山岩製の磨石である。使用面は1面で、部分的に擦痕が観察される。

R A 287…642はデイサイト製の磨石である。使用面は1面で中央付近に擦痕が観察される。

R A 291…643は凝灰岩製の砥石である。表裏2面に擦痕が観察される。644は安山岩質溶岩製の磨石である。表裏のほぼ全面を使用している。

土坑出土

- R D 399…646は擦痕の観察される礫破砕片資料である。石質は頁岩である。
R D 440・442…647は砥石である。使用面は4面である。
R D 489…648は安山岩製の石皿である。使用面は1面ではほぼ平坦である。
R D 657…649は安山岩製の磨石である。使用面は2面で、ほぼ全面使用されている。
R D 737…650は安山岩質溶岩製の凹石である。凹部は表面の中央付近に観察される。
R D 789…651は安山岩製の凹石である。凹部は表面に一箇所観察される。

竪穴状遺構出土

- R E 027…652は頁岩製の剥片である。二次加工は確認されない。
R E 034…653ははんれい岩製の石斧である。両側縁とも中央部が調整によって抉れている。下端部には敲打痕が観察される。654は泥岩製の磨石と敲石の複合石器である。下端部に敲打痕が、表裏両面に擦痕が観察される。
R E 036…655はめのうの原石である。石質に注意して報告した。

溝跡出土

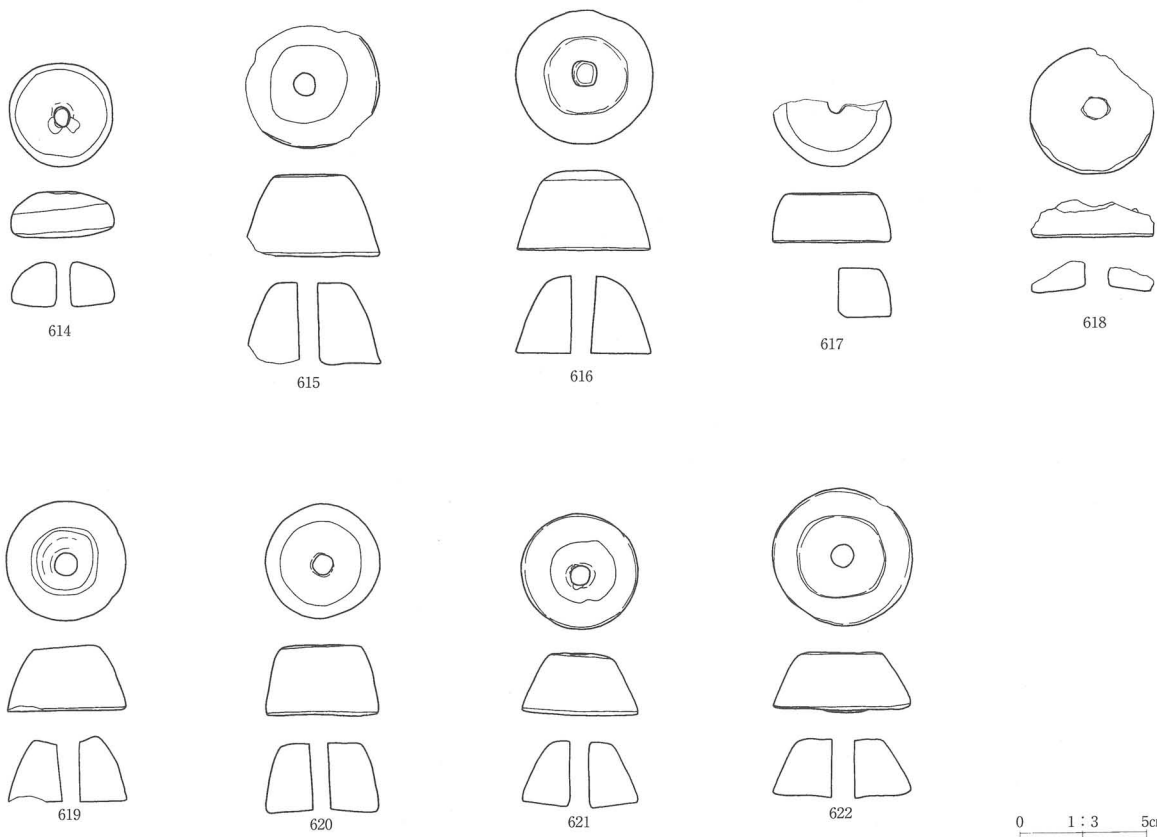
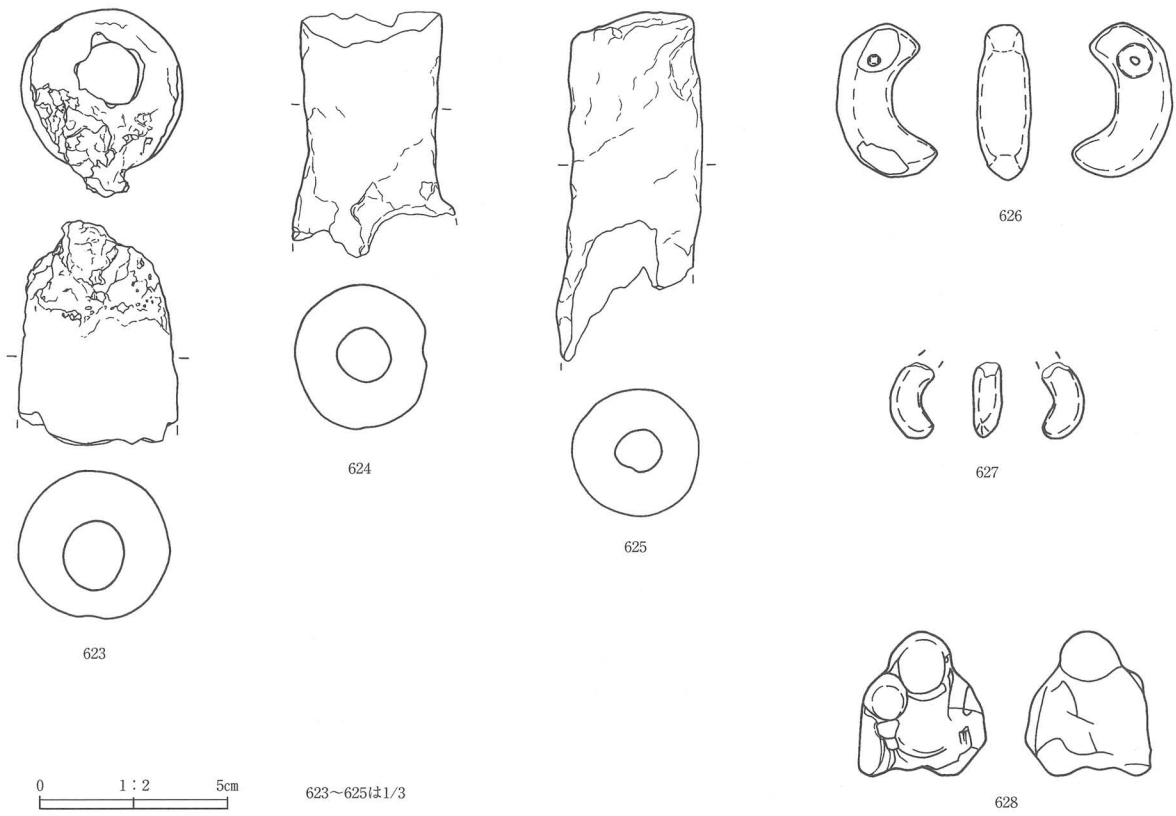
- R G 084…656は安山岩製の石皿である。使用面は2面で、中央部がくぼんでいる。
R G 073…657・659は頁岩製のR Fである。657は素材剥片背面右側縁に部分的な二次加工が観察される。659は素材剥片腹面右側縁に連続的な二次加工が観察される。658・660は頁岩製のU Fである。658は背面右側縁に部分的に微細な剥離痕が観察される。660は腹面に部分的に微細な剥離痕が観察される。
R G 198…661は安山岩製、662は石質不明、664は安山岩質溶岩製の石皿である。661・664は使用面が1面、662は使用面が2面観察される。663は安山岩質溶岩製の磨石である。表面の中央付近に若干であるが、擦痕が観察される。
R G 199…665は頁岩製の石鏃である。有茎のもので先端部と基部を欠損している。
R G 236…666は安山岩質溶岩製の石皿である。使用面は2面で、中央部が若干くぼんでいる。
R G 264…667は石質不明の硯である。平面観が長方形のもので、使用面は楕円形にくぼんでいる。

井戸跡出土

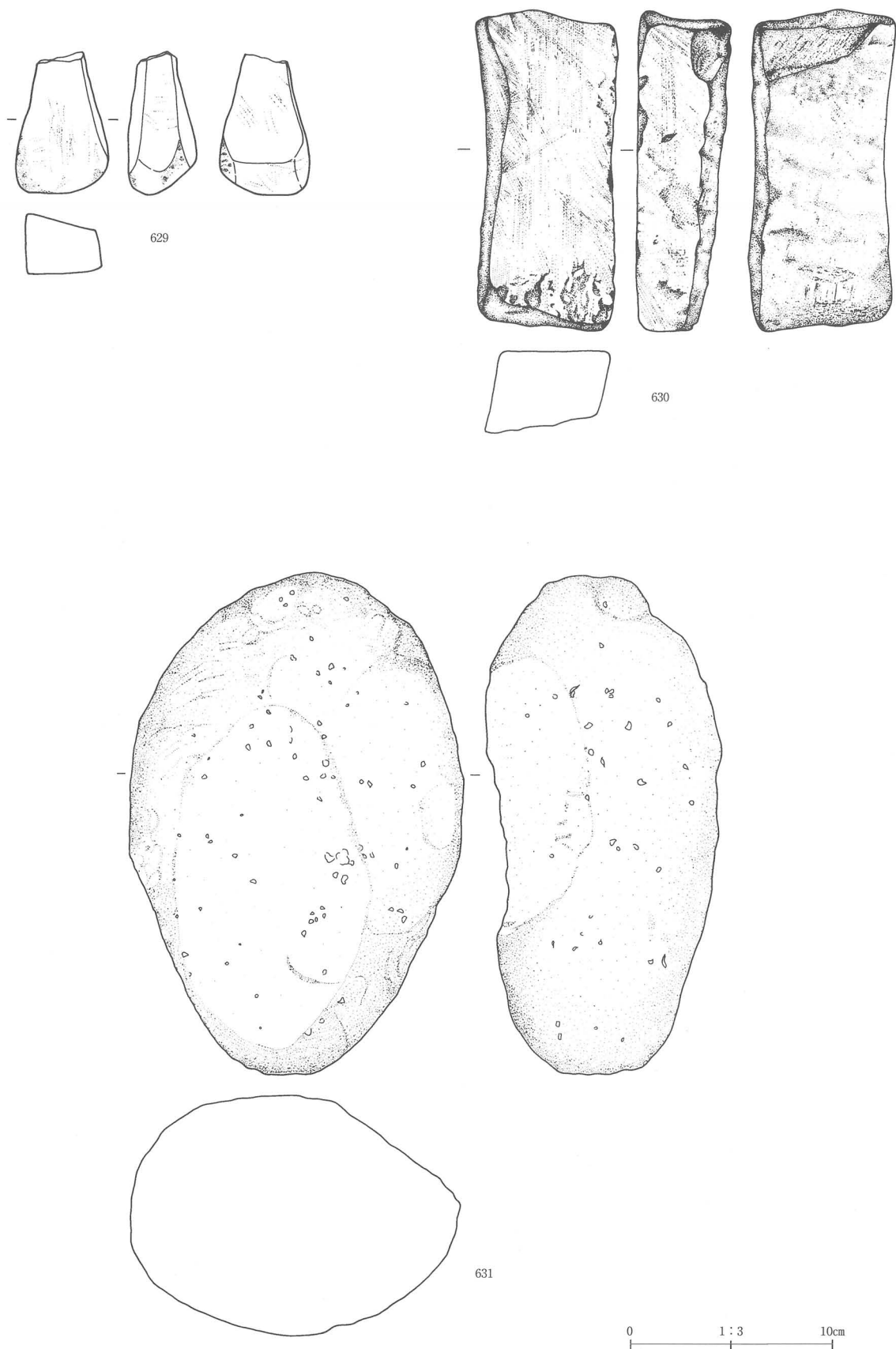
- R I 002…668は安山岩質溶岩製の石皿である。使用面は1面である。
R I 005…669は安山岩質溶岩製の凹石である。表面に凹部が観察される。
R I 006…670は擦痕の観察される礫破砕片資料である。使用面は1面である。671は石皿である。使用面は1面である。石質は2点とも安山岩質溶岩である。

その他遺構出土

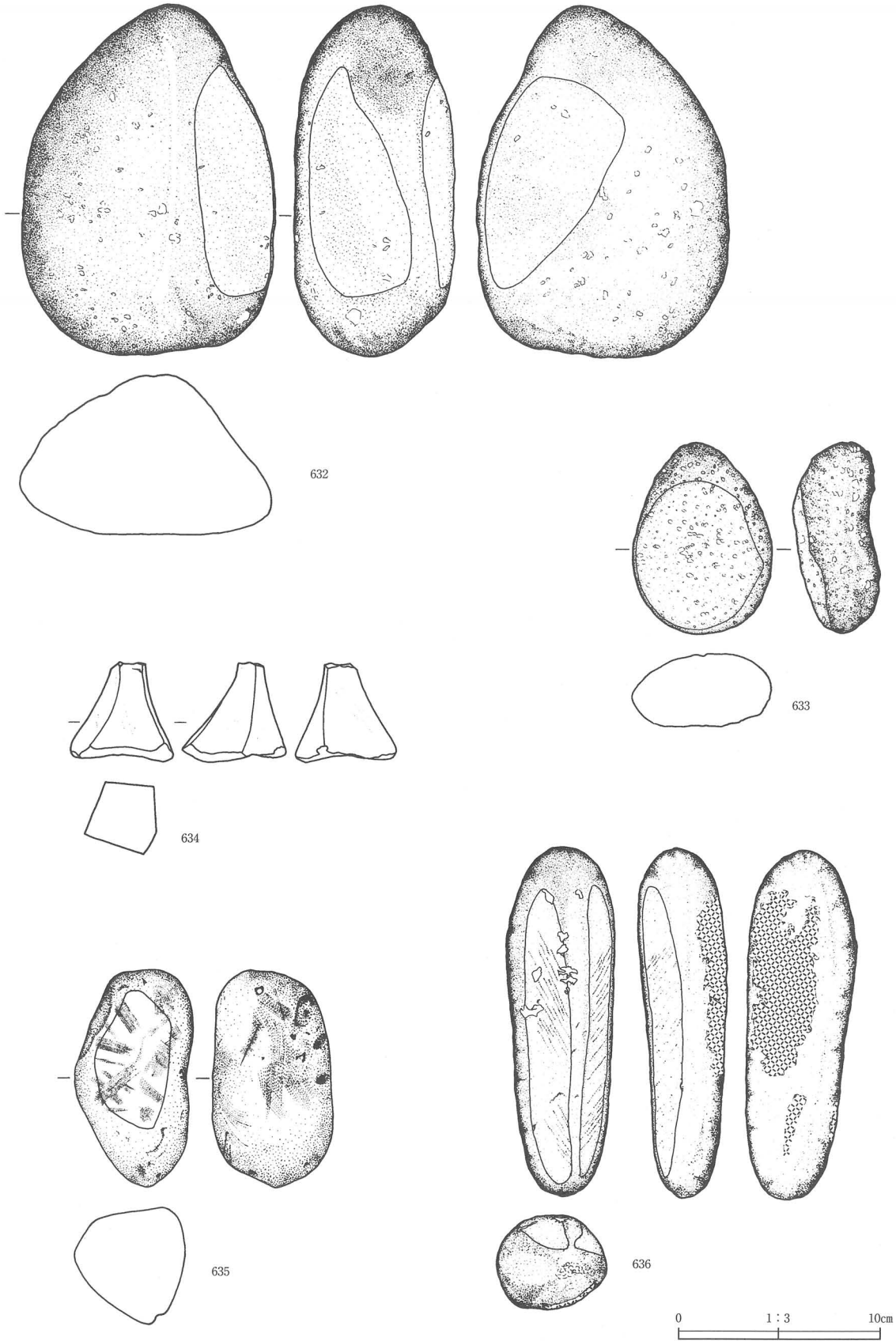
- R Z 012…672・673・677は安山岩製の磨石である。使用面はすべて1面で、672は部分的に、673・677はほぼ全面に擦痕が観察される。674は安山岩製の石皿である。使用面は1面である。675・676は擦痕や敲打痕は観察されないが、部分的に煤状の付着物が観察されるため報告した。



第342図 土製品



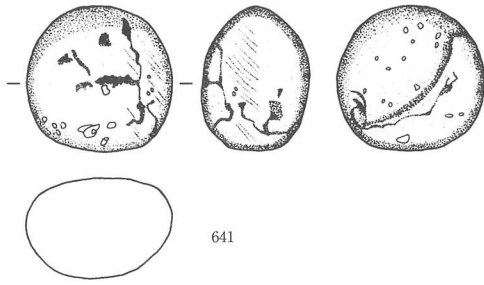
第343図 石器・石製品(1)



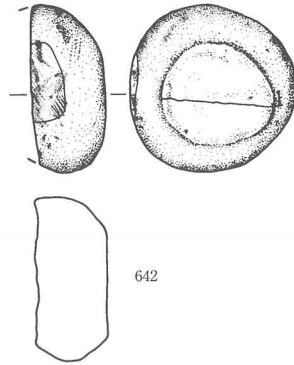
第344図 石器・石製品(2)



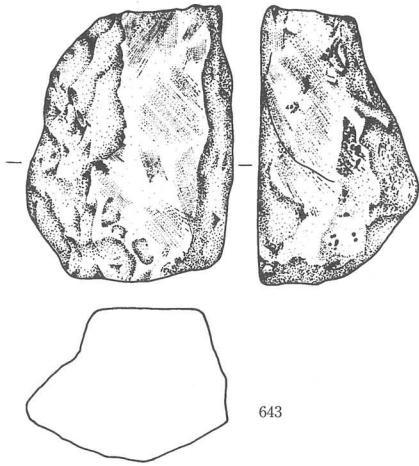
第345図 石器・石製品(3)



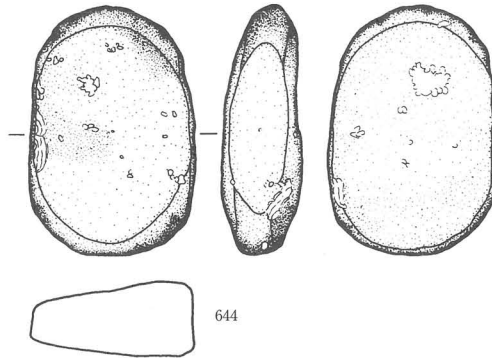
641



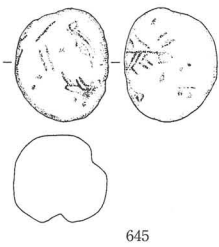
642



643



644



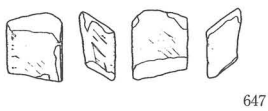
645



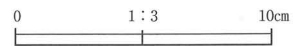
646



648



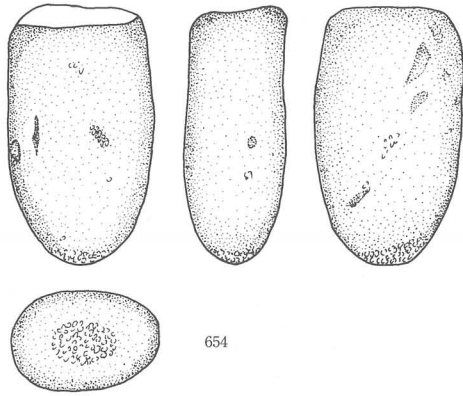
647



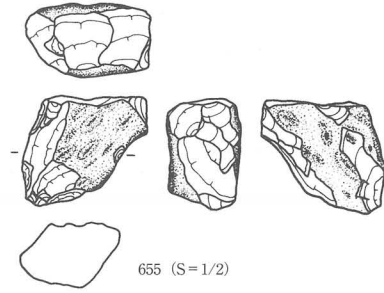
第346図 石器・石製品(4)



第347图 石器・石製品(5)



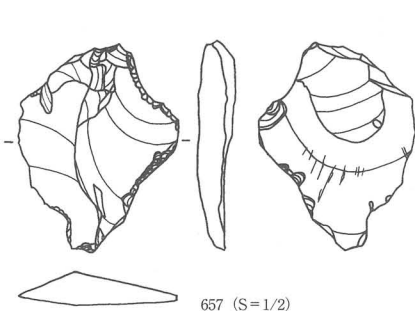
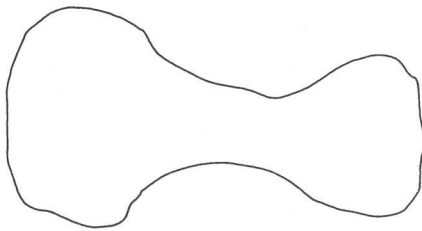
654



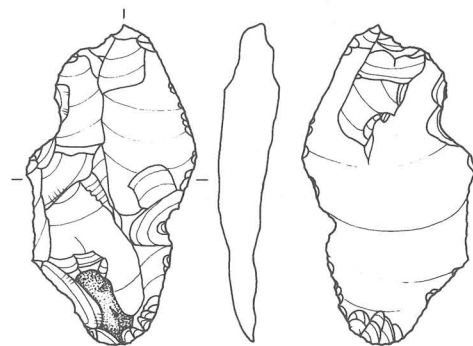
655 (S=1/2)



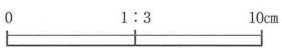
656



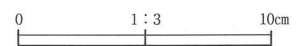
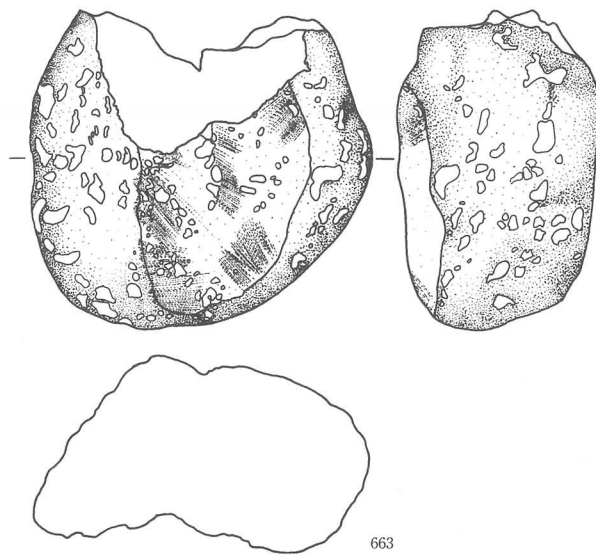
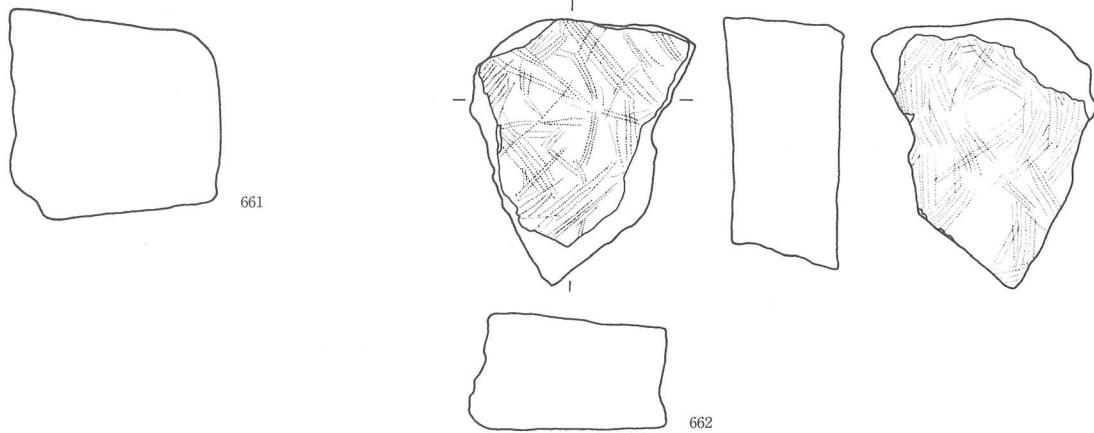
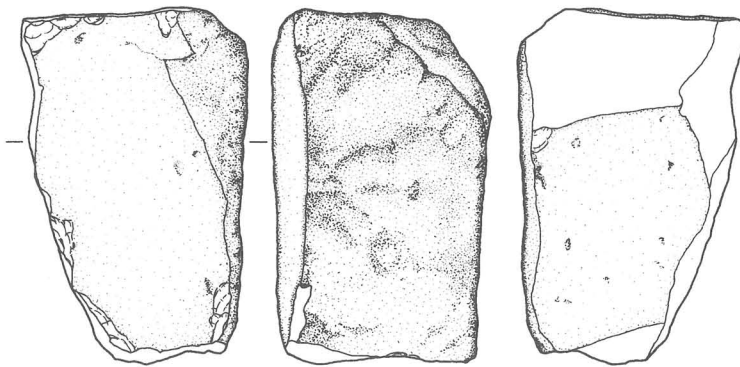
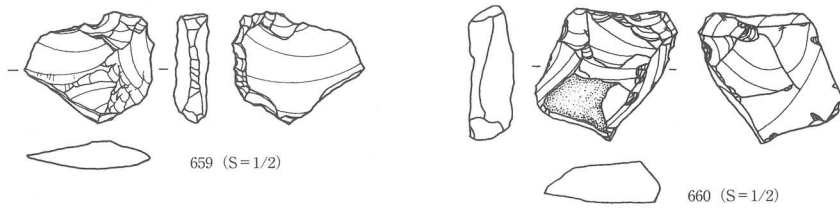
657 (S=1/2)



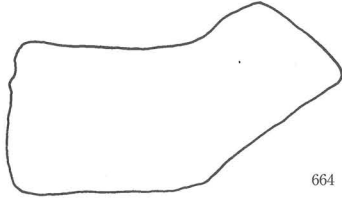
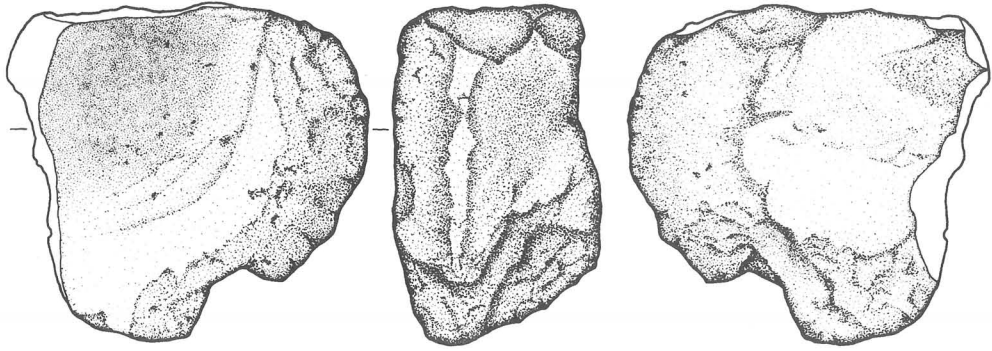
658 (S=1/2)



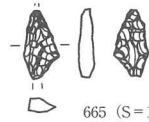
第348図 石器・石製品(6)



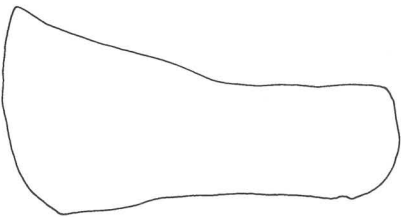
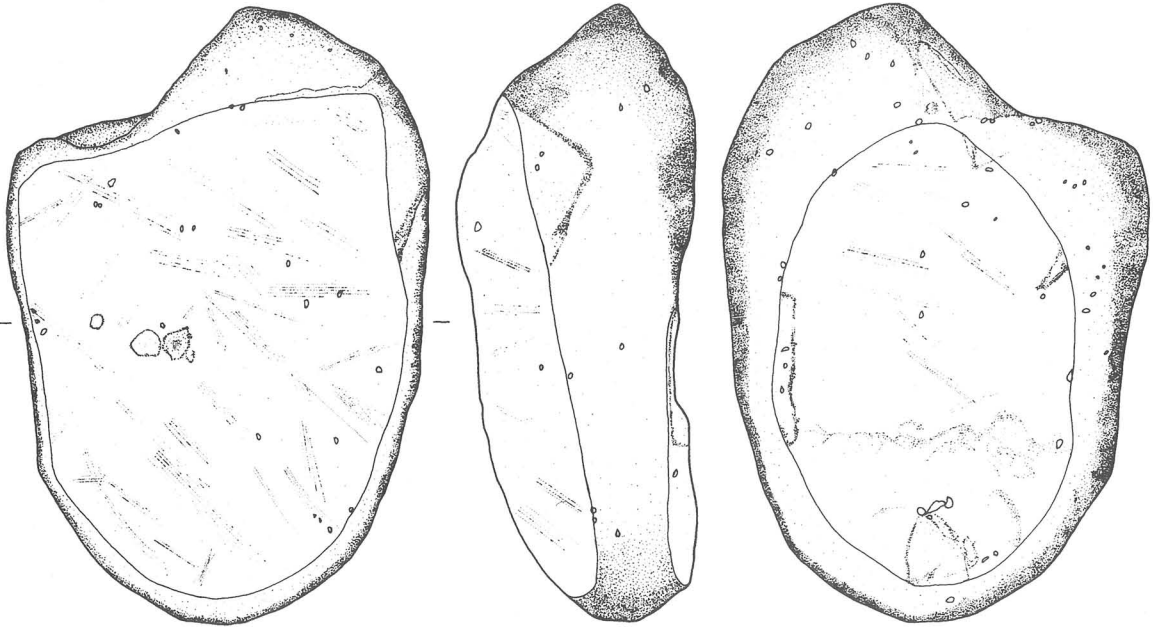
第349図 石器・石製品(7)



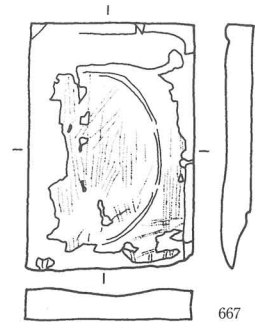
664



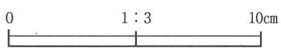
665 (S=1/2)



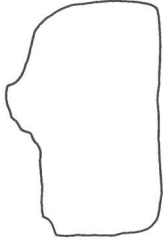
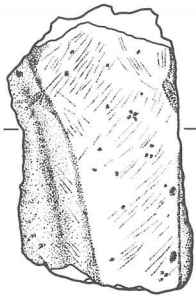
666



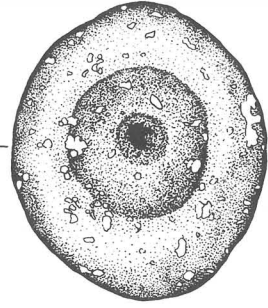
667



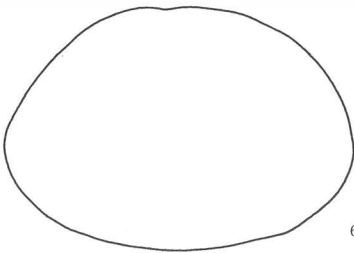
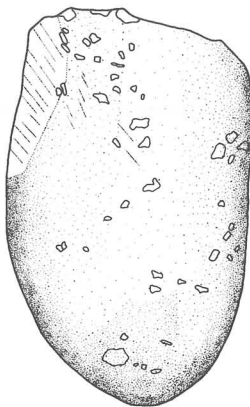
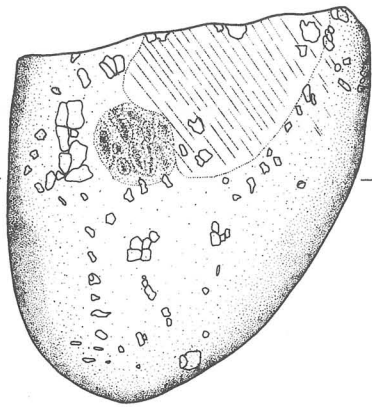
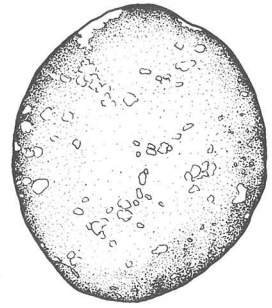
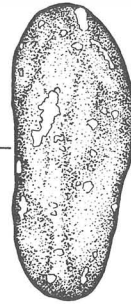
第350図 石器・石製品(8)



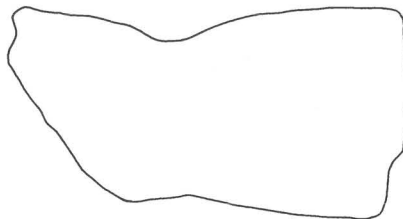
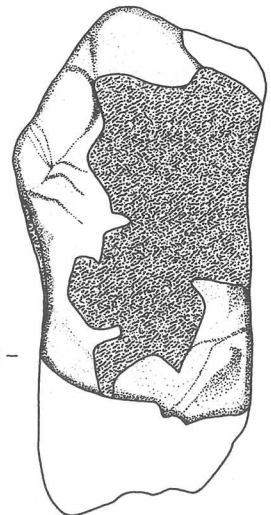
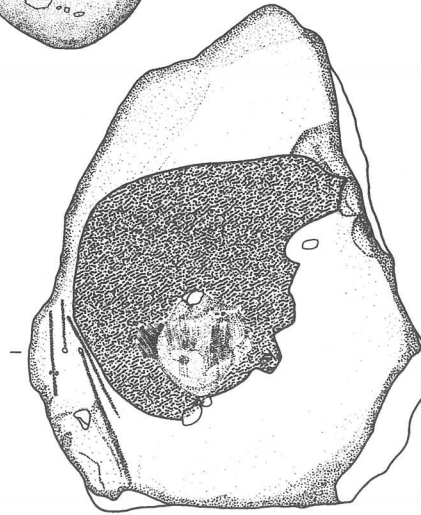
668



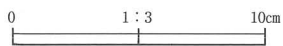
669



670



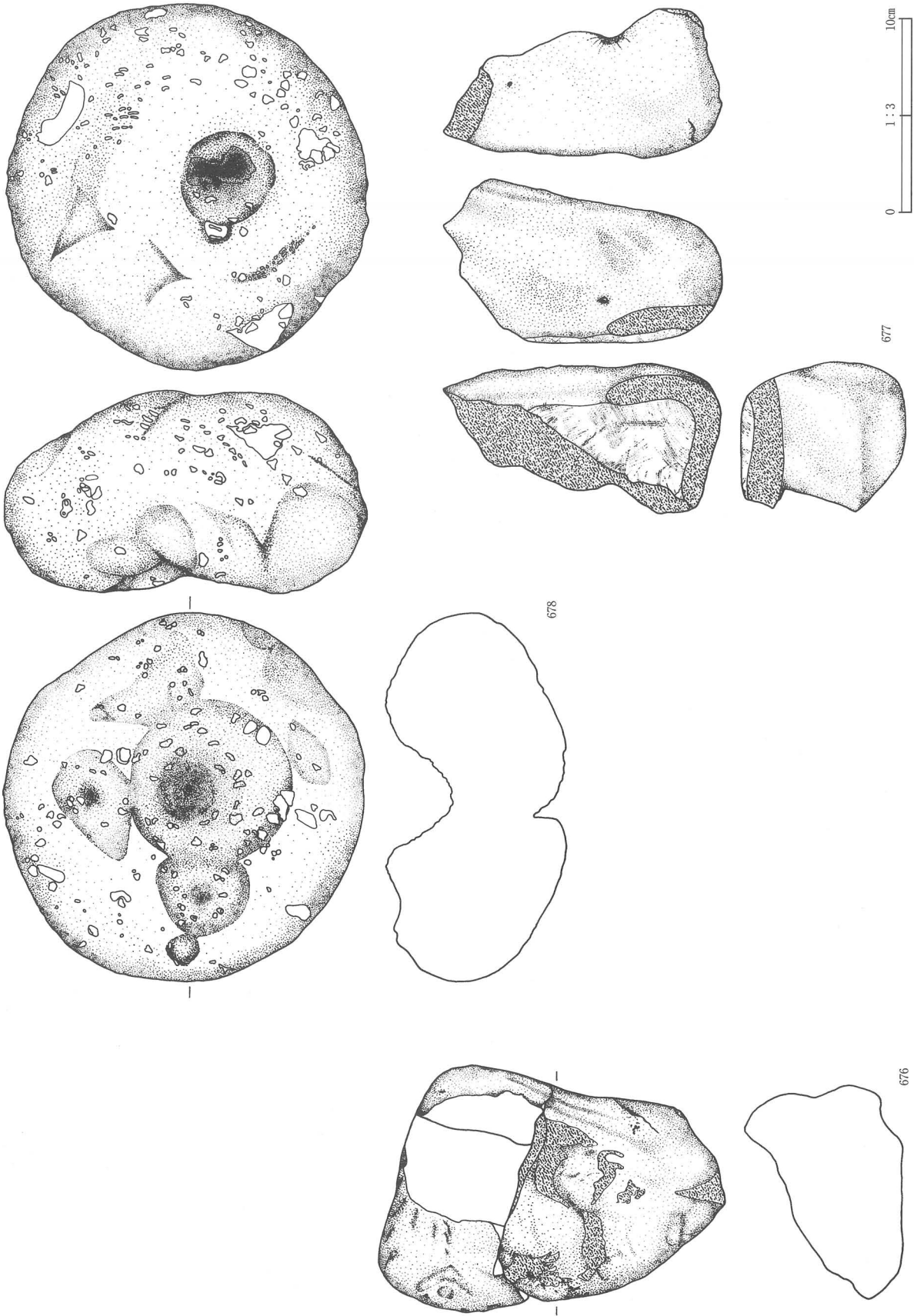
671



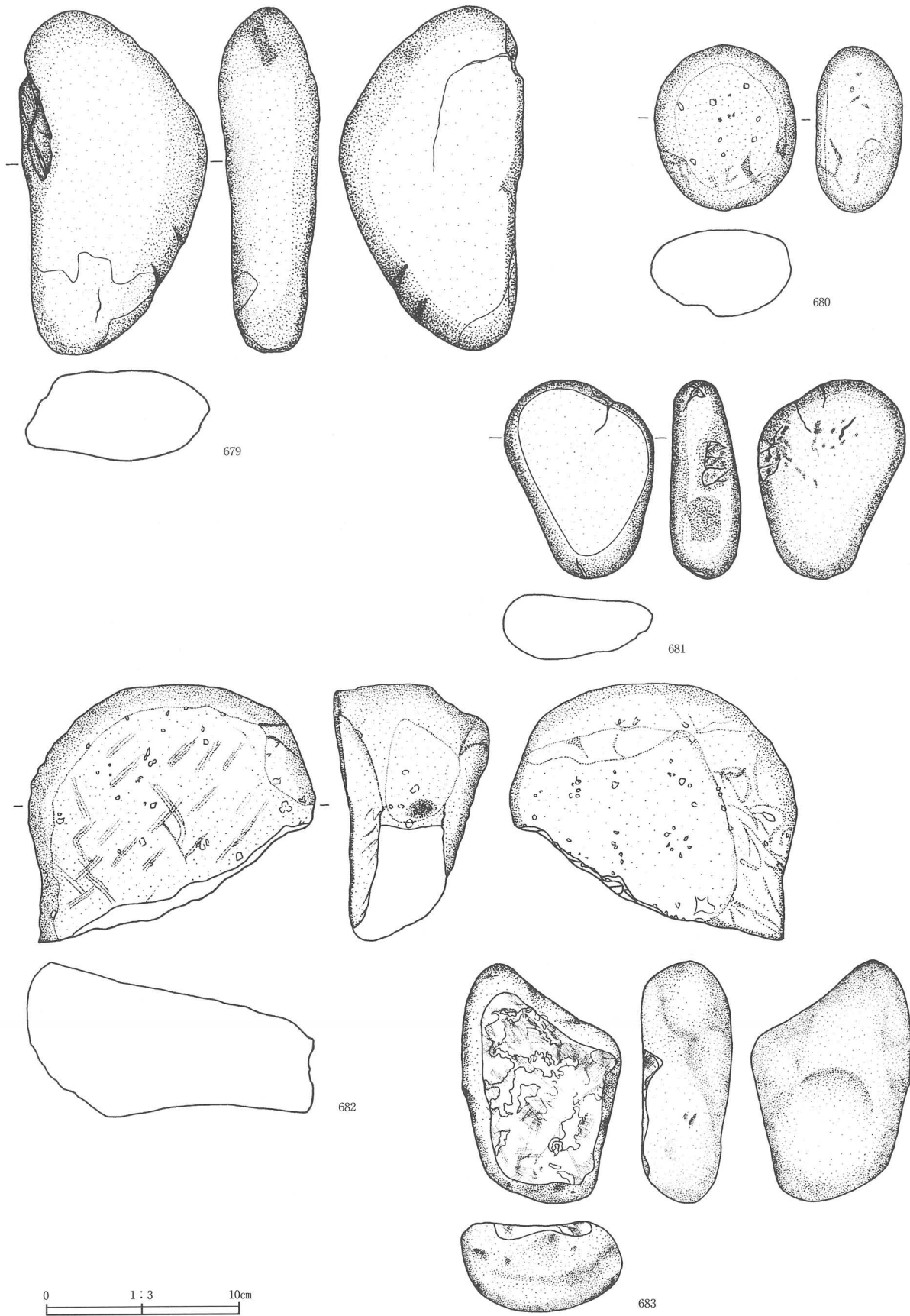
第351図 石器・石製品(9)



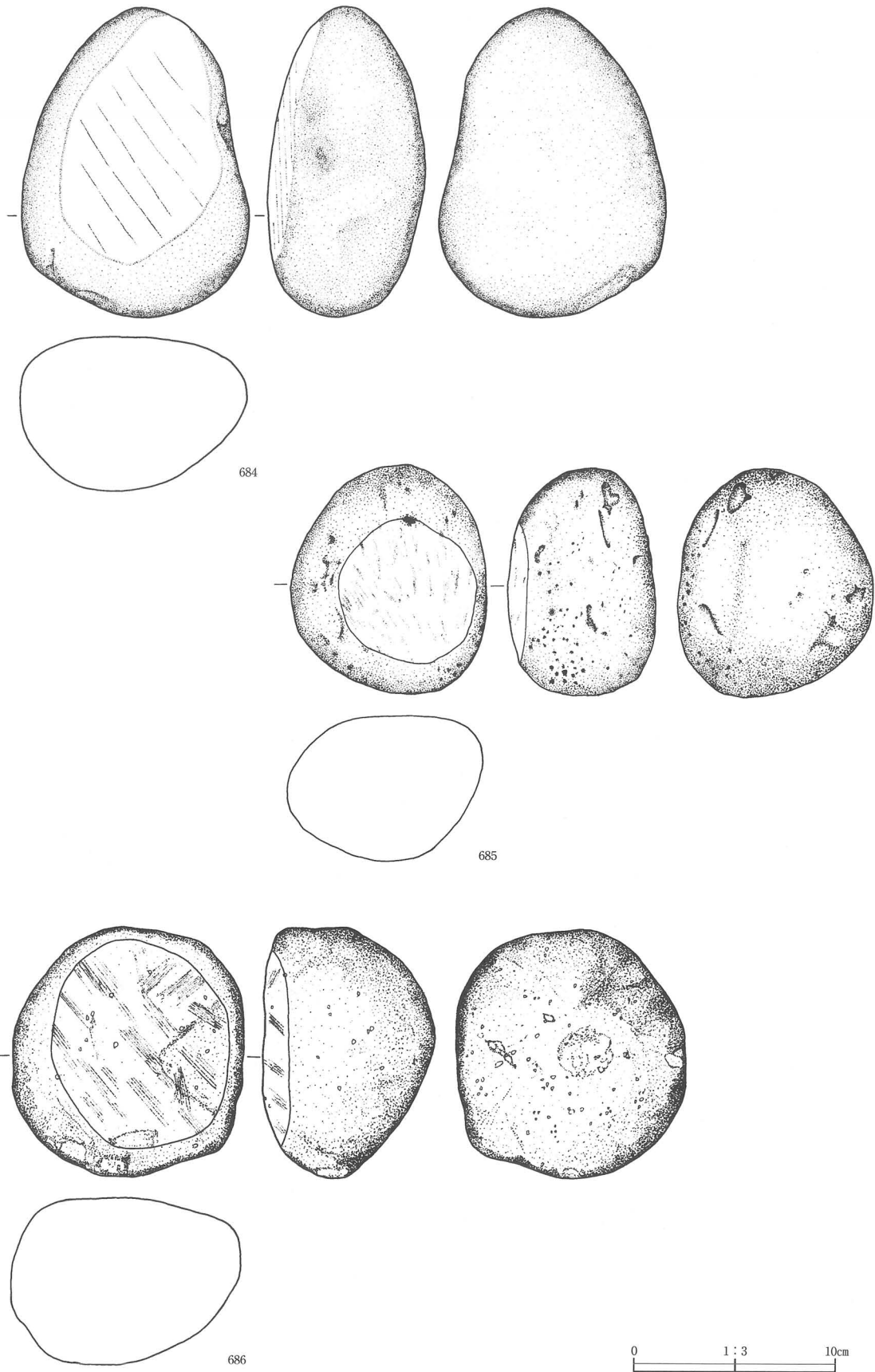
第352図 石器・石製品(10)



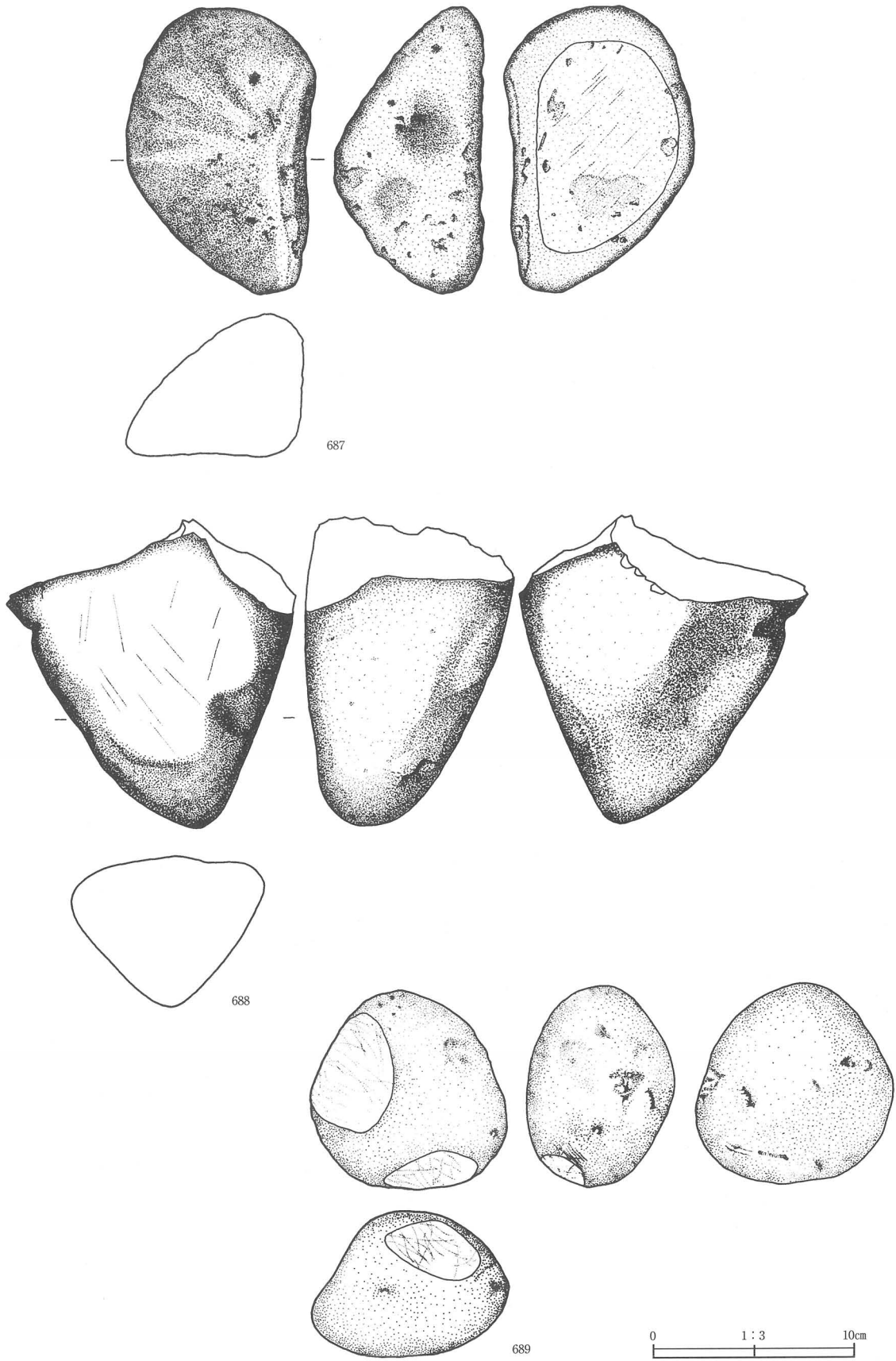
第353図 石器・石製品(11)



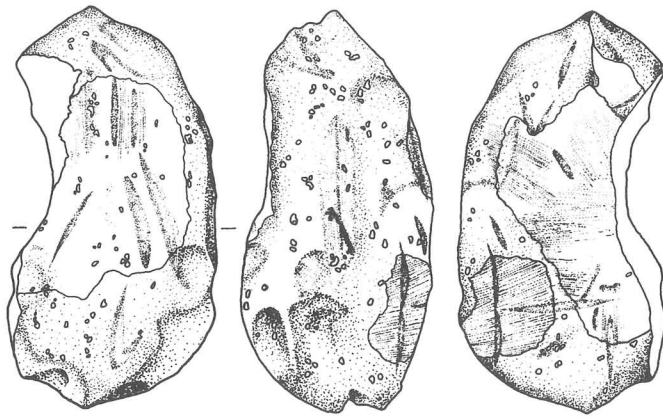
第354図 石器・石製品(12)



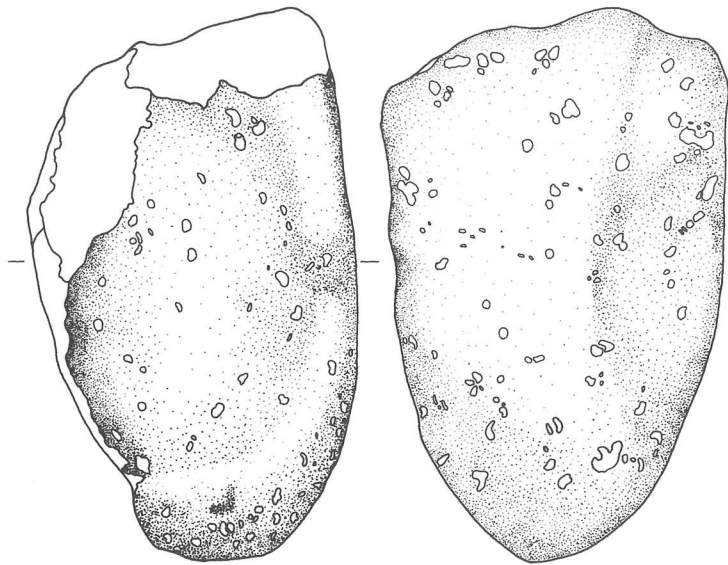
第355図 石器・石製品(13)



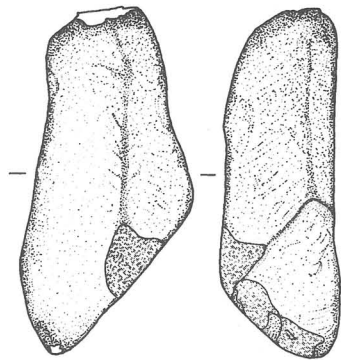
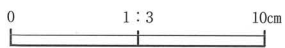
第356図 石器・石製品(14)



690

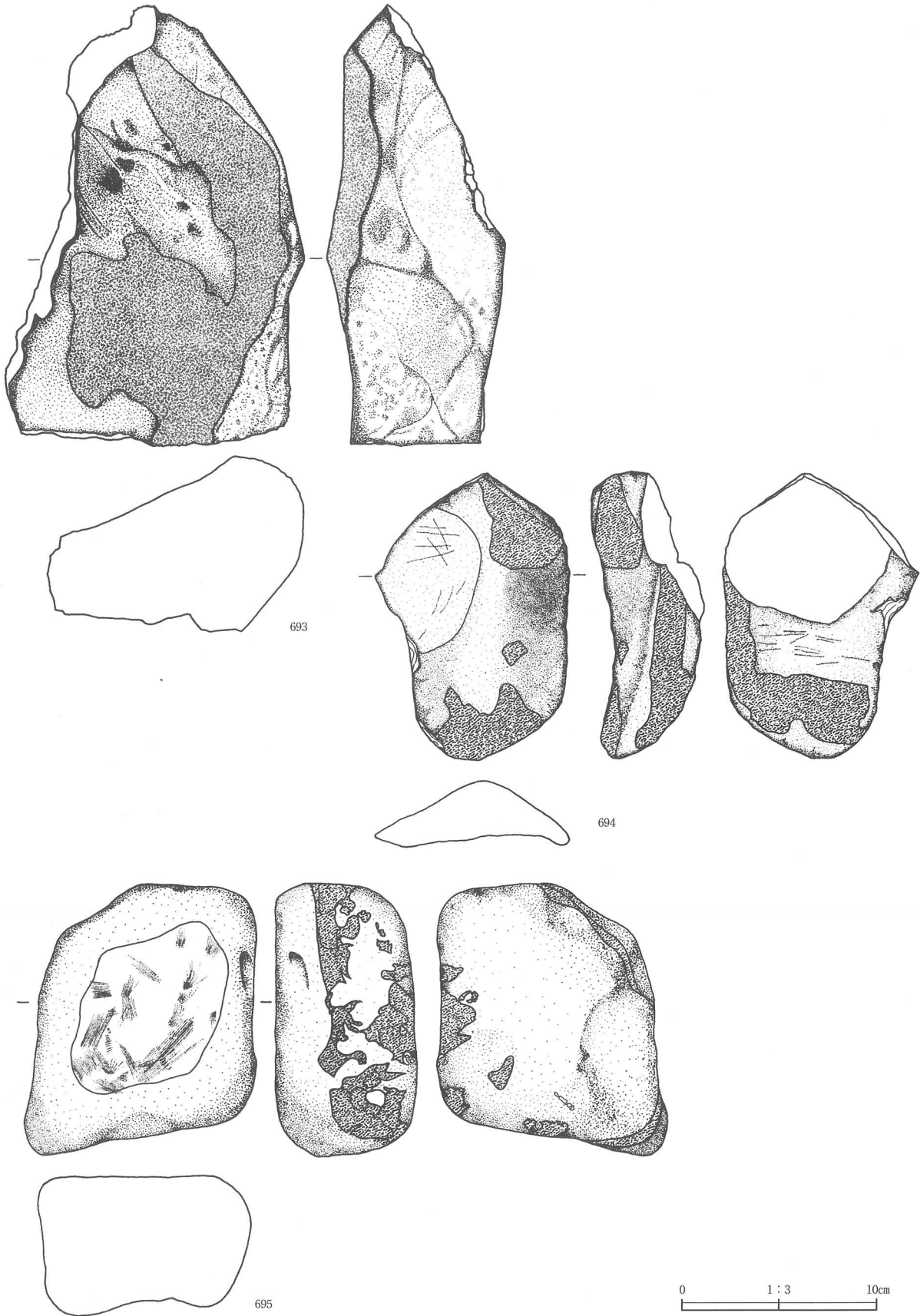


691

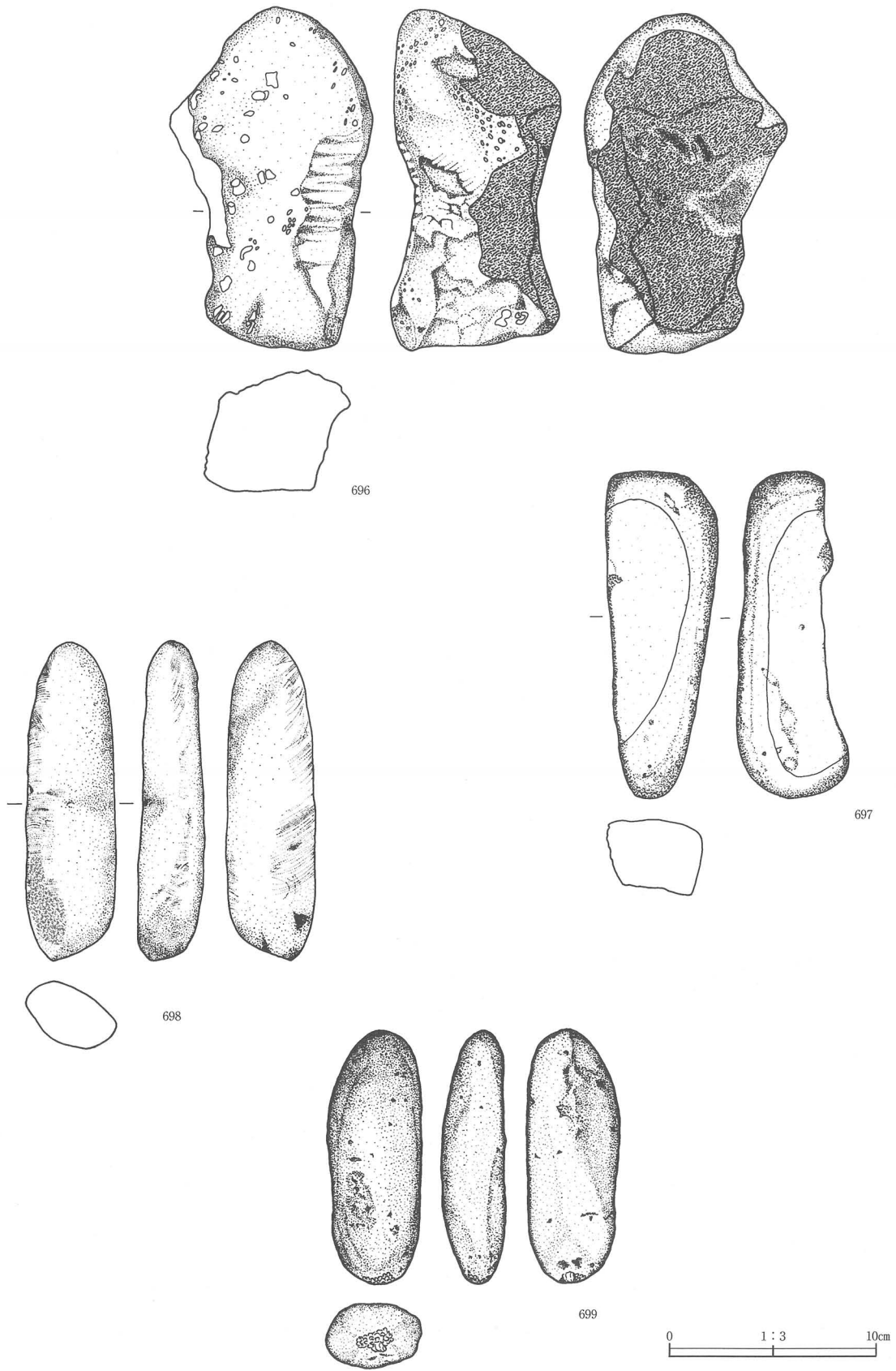


692

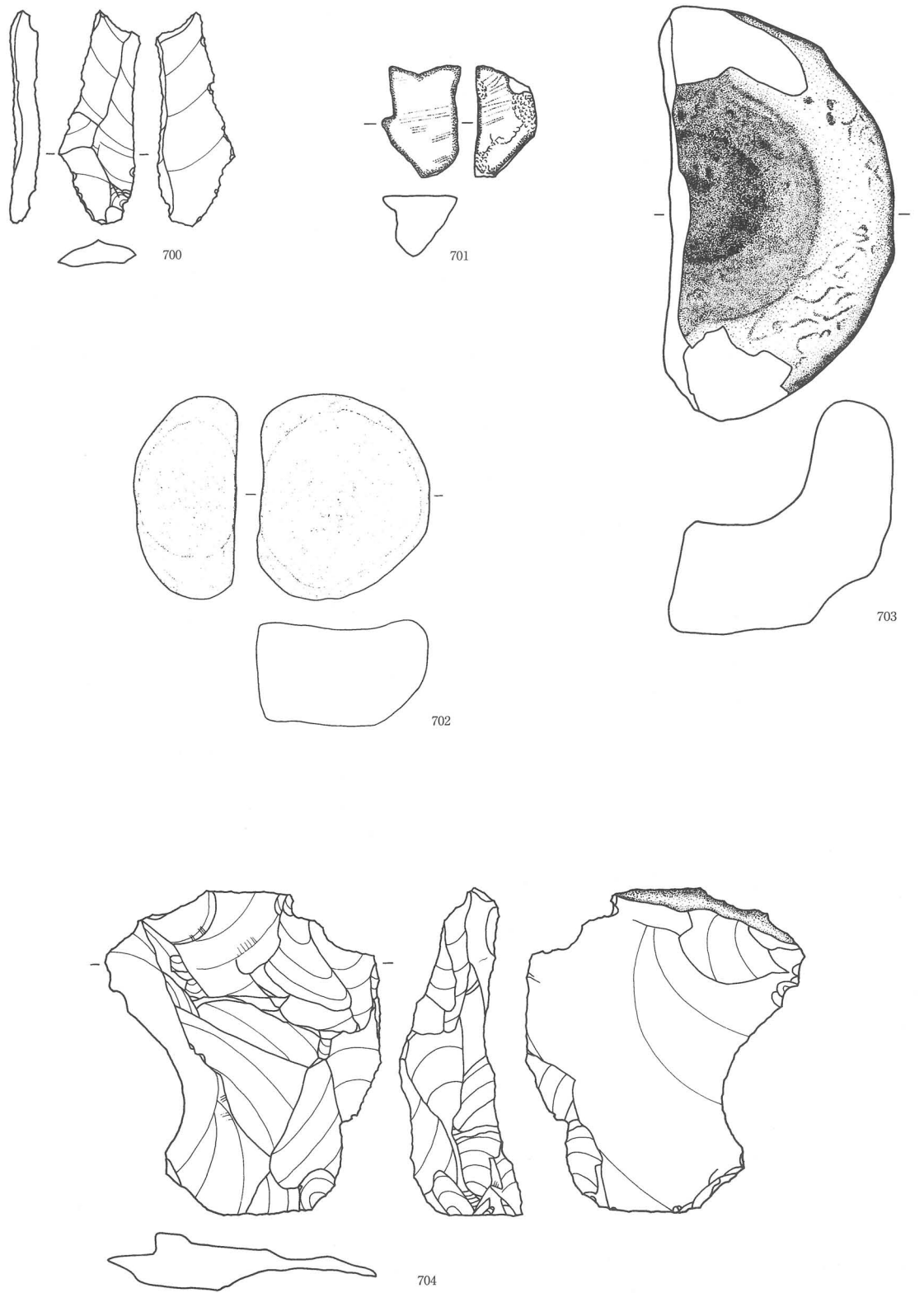
第357図 石器・石製品(15)



第358図 石器・石製品(16)



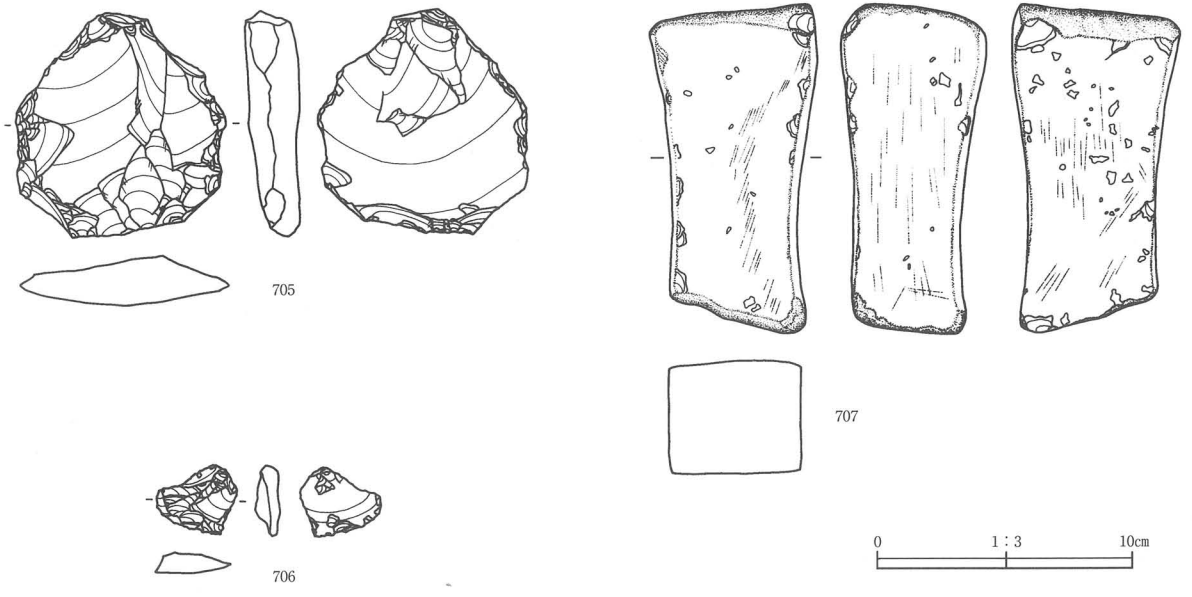
第359図 石器・石製品(17)



700・704は1:2

0 1:3 10cm

第360図 石器・石製品（柱穴・遺構外）(18)



第361図 石器・石製品（遺構外）(19)

(8) 近世陶磁器 (第362~366図・写真図版344~346)

今回の23次調査区で近世陶磁器が出土する地点をみると、西から3-D・3-C区、1C・2C区がほとんどで、これらの地区で検出された遺構及び表土内から出土している。ここでは近世のみならず近現代の陶磁器も多量に出土したが、本報告にあたり遺構に伴うもの、近世のものを優先し掲載した。

3-D・3-C区では多数の柱穴(第253~258図)が検出されており、近世から近代にかけての屋敷跡と思われ、この地区で出土した陶磁器の多くはこの屋敷に伴うものと推測される。1C・2C区の表土内から出土した陶磁器についてはRB023・024・025などに伴っているものも含まれていると思われる。

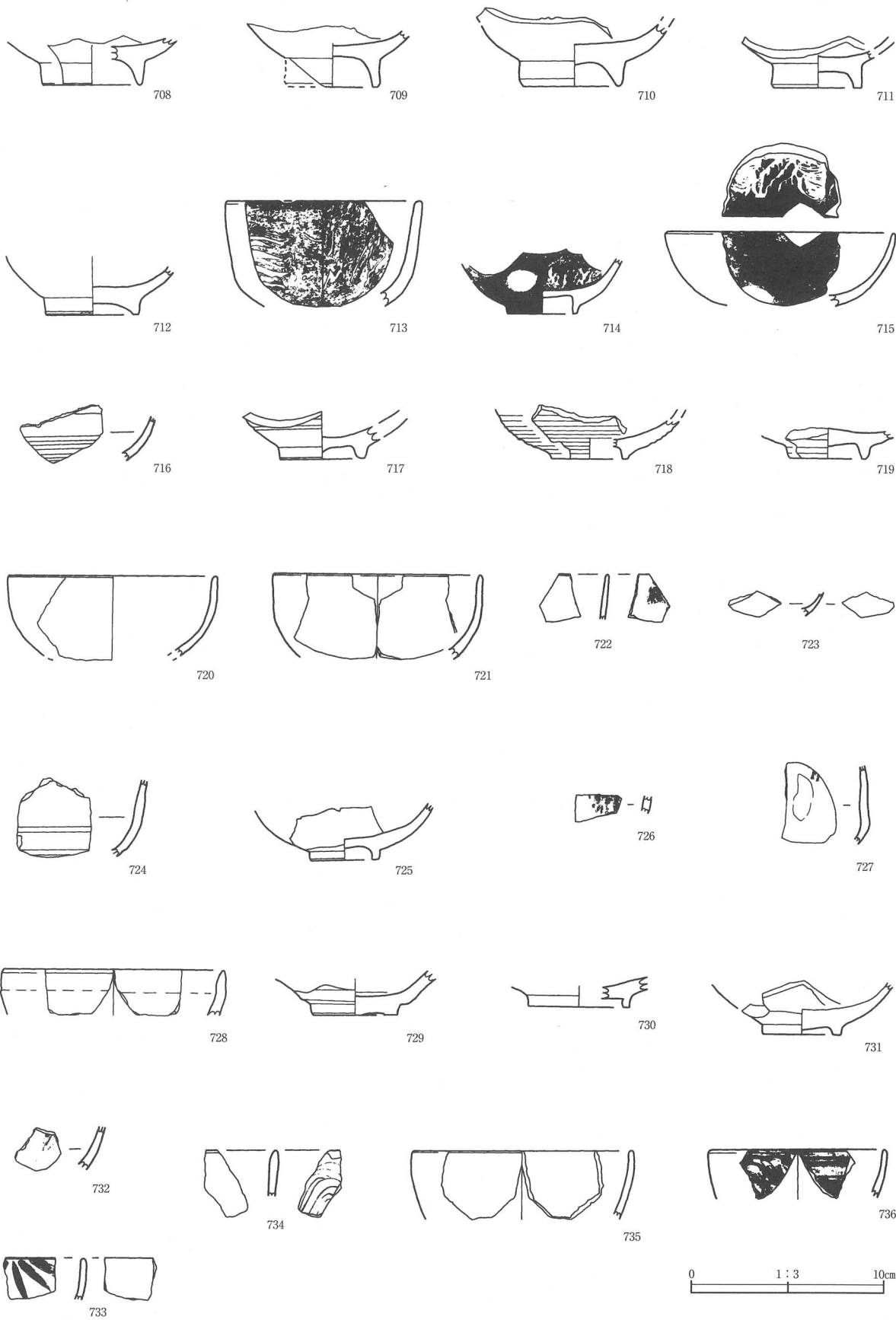
708~715は肥前産の陶器碗で708~711は呉器手の碗、713~715は白化粧の刷毛目文が施される。716~727は大堀相馬産の陶器碗と思われる。716~718は灰釉と鉄釉の掛け分け、719~722は灰釉の碗である。724~727には藁灰釉が施され727は拳骨形の碗になるのであろうか。728・729は瀬戸・美濃産の天目碗で730は御室茶碗と思われる。732・733は京焼風陶器であらうか。734~736は産地不明で19世紀以降のものと思われる。

738は瀬戸・美濃産の皿で外面は口縁部付近のみ施釉されている。741は瀬戸・美濃の火入れと思われ、内面は無釉である。742は唐津産の小型甕で熱をうけている。747は信楽産の茶壺と思われる。751~759は産地不明のもので757などは器ではないかもしれない。760~767は播鉢である。何れも産地不明であるが、概ね19世紀以降の在産品の製品ではないかと考えている。

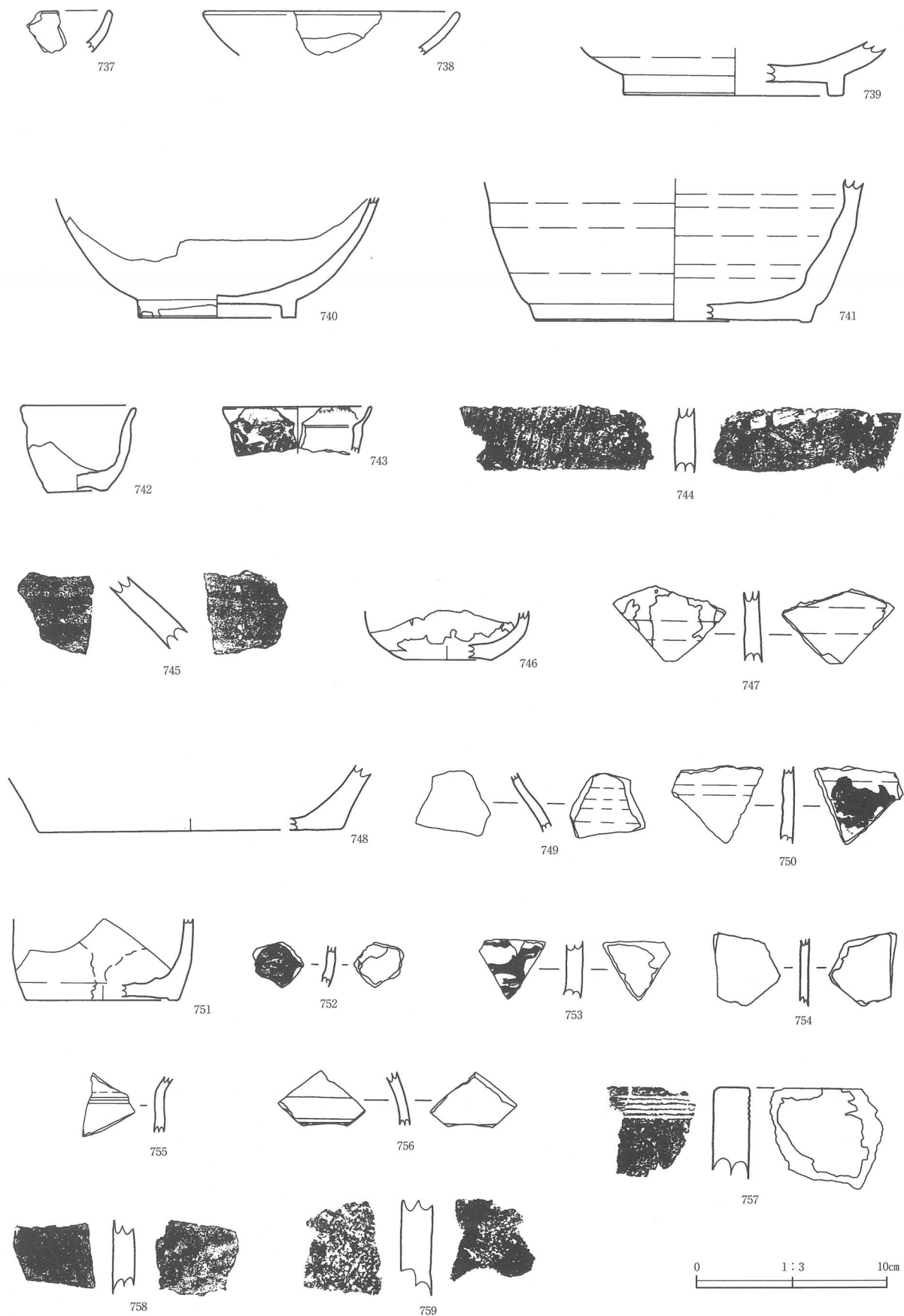
768~781は肥前産の磁器碗と思われる。概ね大橋編年の、Ⅳ期に位置付けられそうだが768に関しては畳付きに砂が付着しており17世紀代のものであろうか。784~795は19世紀代もしくはそれ以降のものと思われる。産地も判然としない。784などは胎土が陶器っぽい。

796~807は肥前産の磁器皿類と思われる。797は見込みにコンニャク印判の五弁花が見られ、798は墨弾きで文様施している。802と803は見込みを蛇の目釉剥ぎしている。804も同様であらうか。

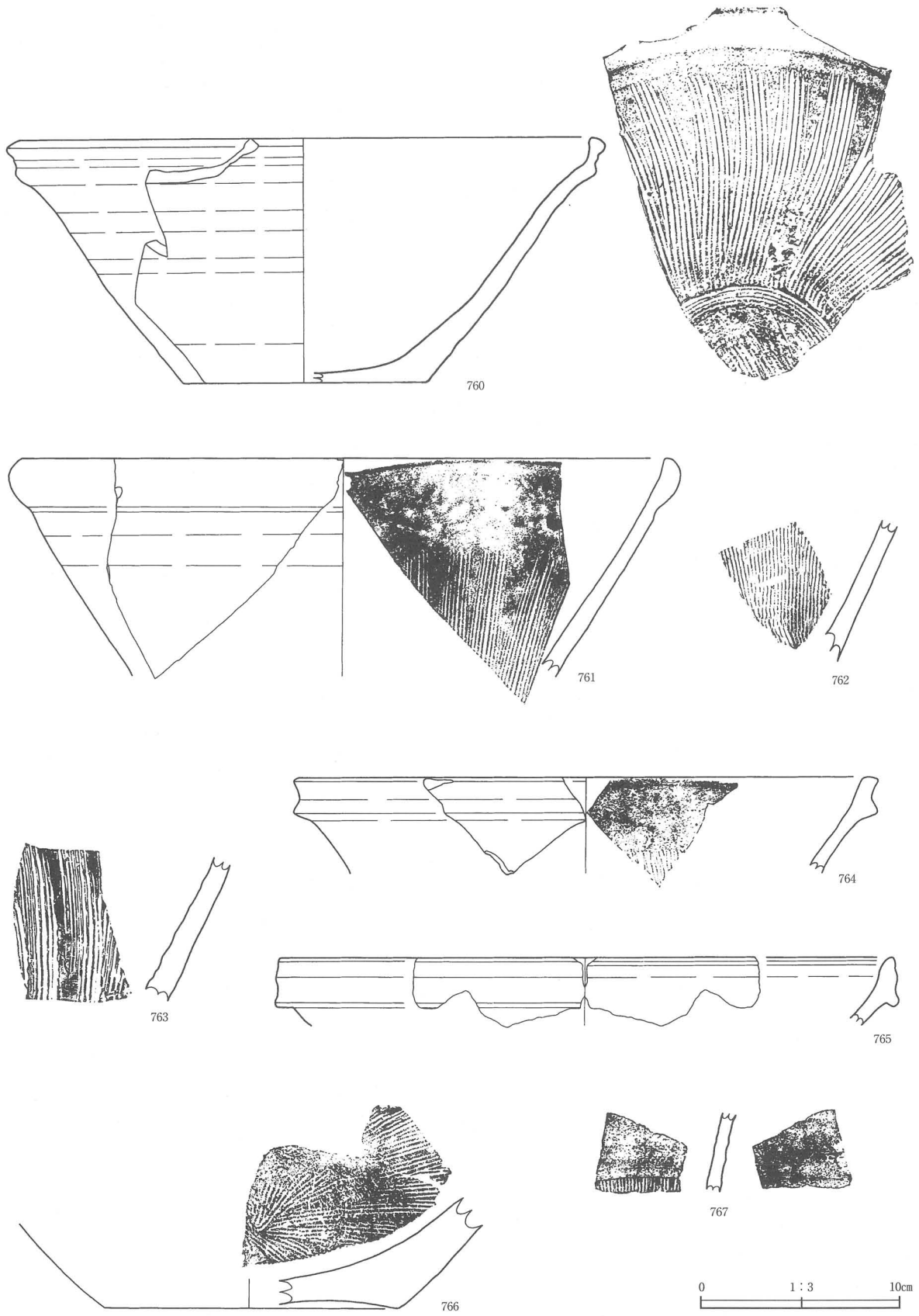
808~820は産地と時期がよく解らないものでその多くは19世紀以降のものと思われる。808~811は皿で809は陶胎染付であらうか。812・813は紅皿で外面は口縁部付近にのみ施釉されている。814は鉢と思われる。815と820は器種不明である。816と817は香炉類と思われる。818・819は瓶類とみられ819は内面無釉である。



第362図 近世の陶磁器(1)



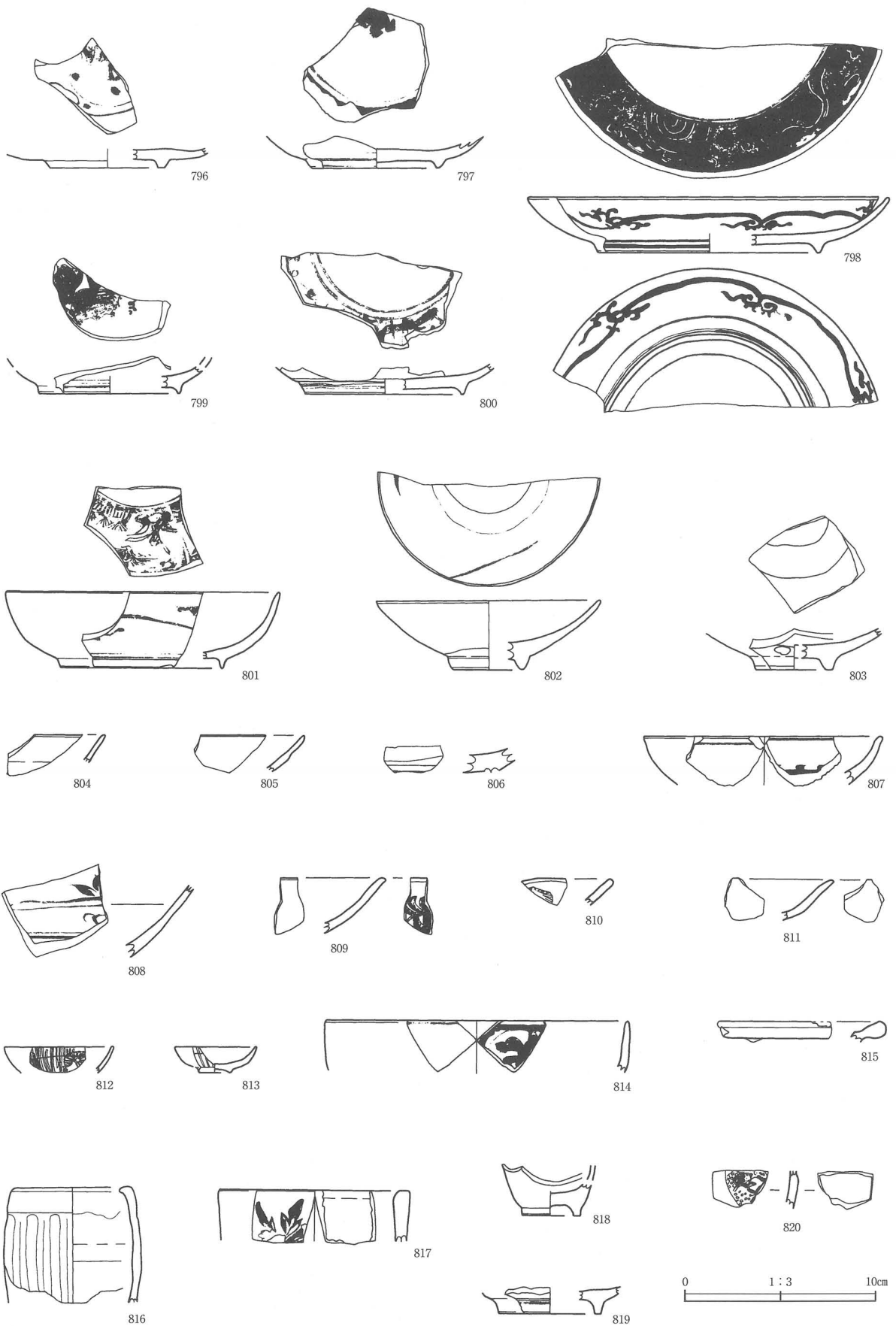
第363図 近世の陶磁器(2)



第364図 近世の陶磁器(3)



第365図 近世の陶磁器(4)



第366図 近世の陶磁器(5)

土師器・須恵器観察表

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下			
1	土師器環	RA201 カマド燃焼部				ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙		M II
2	土師器甕	RA201 床直中央部東 側	20.6	-	(14.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ・ ミガキ		良好・にぶ い黄橙		I 1
3	土師器甕	RA202 床直カマド付 近	21.5	-	(22.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙	口唇部浅い沈 線一条	I 1
4	土師器球 胴甕	RA202 床直南西側	20.2	8.5	28.9	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ		ハケメ	良好・浅黄 橙		I A
5	土師器大 型環	RA203 床直焚口付近	25.5	9.0	8.0	ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙	口縁と体部境 に内外段	M I
6	土師器環	RA203 東袖床直	13.5	-	4.4	ヨコナデ		ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・灰白	底部に糸切り 痕か	M I
7	土師器高 環	RA203 東袖脇床直	15.6	-	(9.4)	ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・橙		
8	土師器長 胴甕	RA203 北側床直	21.0	-	(19.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄橙	RA 203 か	I 2
9	土師器甕	RA203 東袖脇床直	19.0	-	(15.5)	ヨコナデ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄橙	内外面煤付着、 口唇部浅い沈線 一条	I 1
10	土師器甕	RA203 燃焼部	-	8.5	(8.5)		ヘラミガキ			ハケメ	ヘラナデ	良好・橙	底部木葉痕	
11	土師器甕	RA203 東袖脇床直	-	7.8	(5.2)		ハケメ			ハケメ		良好・にぶ い黄橙		
12	土師器球 胴甕	RA203 北側床直	19.4	7.0	26.4	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ		ハケメ	良好・にぶ い黄橙	摩滅著しい	II B 1
13	土師器長 胴甕	RA204 北壁隅床直	19.8	-	(25.0)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄橙	調整不明瞭、 口唇部浅い沈線	II 1
14	土師器甕	RA204 埋土上位	16.8	6.6	19.5	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・ にぶい黄橙	口唇部浅い沈 線一条	I A
15	土師器長 胴甕	RA204 燃焼部ほか	-	7.1	(25.2)		ハケメ			ハケメ		良好・にぶ い黄橙		II A
16	土師器球 胴甕	RA204 p 704 内	14.9	7.0	20.2	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ、 ハケメ	ハケメ		良好・浅黄 橙	輪積痕明瞭	II B 1
17	土師器球 胴甕	RA204 東袖脇床直	18.5	-	(17.5)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・ にぶい黄橙	調整不明瞭	II B 1
18	土師器 甕?	RA205 埋土中位	-	7.6	(2.7)		ヘラナデ				ヘラナデ	甘い・にぶ い黄橙		
19	土師器甕	RA206 北壁近床直	21.2	-	(7.5)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・褐		2
20	土師器長 胴甕	RA206 廃棄焼土内	19.5	6.3	30.1	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄橙	外面煤付着	I C 2
21	土師器甕	RA206 廃棄焼土内	-	7.0	(19.7)		ハケメ			ハケメ		良好・橙	内外面摩滅多 い	I A
22	土師器甕	RA206 廃棄焼土内	16.2	-	(9.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・黄橙		I 2
23	土師器甕	RA206 廃棄焼土内	16.5	-	(13.2)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラミガキ?・ハケメ		良好・にぶ い黄橙		I 2
24	土師器甕	RA206 床直廃棄焼土 内	14.4	8.0	15.0	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・浅黄 橙	口唇部浅い沈 線巡る	I C 1
25	手づくね 土器	RA206 廃棄焼土内	8.8	4.5	3.2	ヨコナデ			ヨコナデ	ヘラナデ		良好・にぶ い黄橙	口唇部浅い沈 線巡る	
26	土師器環	RA206 東南部	14.4	5.2	5.2	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		
27	土師器環	RA206 北東部				ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い		
28	須恵器環	RA206 東南部	13.8	-	(3.8)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰白		
29	須恵器壺	RA206 東南部	16.0	-	(4.5)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・褐灰		
30	土師器環	RA207 東袖脇	14.6	-	4.0	ヘラミガキ		ハケメ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・明黄 褐		M III B
31	土師器長 胴甕	RA207 廃棄焼土	20.0	-	(25.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・ にぶい黄橙	内面摩滅、口 唇部浅い沈線	I 1
32	土師器長 胴甕	RA207 埋土下層	20.0	7.2	17.8	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・ にぶい黄橙	口唇部浅い沈 線	I A
33	土師器甕	RA207 中央部床面	-	7.6	(15.5)		ヘラミガキ、 ヘラナデ	ヘラミガ キ・ ハケメ		ハケメ		やや甘い・ にぶい黄橙	底面木葉痕	I A
34	土師器環	RA209 南壁際床面	10.2	-	2.5	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		H III B 1
35	土師器環	RA209 南壁際床面	15.0	-	5.1	ヨコナデ	ヘラミガキ、 ヘラナデ	ヘラミガ キ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		M II B 2
36	土師器環	RA209 床面	15.1	-	4.5	ヘラミガキ			ヘラミガキ			良好・にぶ い黄橙		M II B 1
37	土師器環	RA209 床面南壁際	12.1	7.0	3.6	ヨコナデ						良好・にぶ い黄橙	摩耗の為調整 不明瞭	H III B 2
38	土師器球 胴甕	RA209 埋土下層	-	9.6	3.7		ハケメ				ハケメ	良好・にぶ い黄橙		
39	土師器甕	RA210 埋土下層	20.8	-	(11.1)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄橙		I 2
40	土師器甕	RA210 埋土下層	-	-	(15.1)		ハケメ			ハケメ		良好・にぶ い黄橙		
41	土師器環	RA211 北壁際床面	18.2	-	6.5	ヨコナデ	ヘラナデ、 ヘラミガキ	ヘラミガキ、 ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		M III B 1
42	土師器環	RA211 北壁際床面	16.8	-	5.5	ヘラミガキ		ヘラミガキ、 ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		M II B 1

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下			
130	土師器甕	RA240 埋土	17.8	-	(9.7)	ヨコナデ			ヨコナデ	ヘラナデ		やや甘い・ にぶい橙	調整よく見え ない	I 2
131	土師器甕	RA240 埋土	18.8	-	(24.5)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		やや甘い・ 灰白	口唇部浅い沈 線	I 1
132	土師器甕	RA240 埋土	19.8	-	(16.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		やや甘い・ 浅黄橙		I 1
133	土師器長 胴甕	RA240 埋土	17.8	6.6	27.3	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い橙	口唇部浅い沈 線	I A
134	土師器甕	RA240 埋土	19.0	-	(20.4)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・ 黄橙		I 1
135	土師器坏	RA244 埋土	18.2	-	5.3		ハケメ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙	底部線刻「×」	M II B 1
136	土師器坏	RA244 埋土	12.6	3.8	4.8		不明		ヘラミガキ・黒色処理			良好・明褐	外面風化	M III A
137	土師器長 胴甕	RA244 カマド西側袖	-	-	(30.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙		I 2
138	土師器甕	RA244 カマド東袖	18.1	-	(11.8)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・ にぶい橙		I 2
139	土師器長 胴甕	RA244 北壁際床面	15.4	7.9	29.1	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・浅黄 橙		I C 1
140	土師器甕	RA245 埋土	-	7.6	(3.0)					ハケメ		良好・明褐		B
141	土師器坏	RA247 ④	12.9	-	4.0	ヨコナデ	粗い跡キカ		ヨコナデ			良好・にぶ い黄橙		M I
142	土師器坏	RA247 ①	18.0	-	(5.1)	ヨコナデ			黒色処理消か			良好・にぶ い橙		M I
143	土師器長 胴甕	RA247 ①	17.9	-	25.3	ヨコナデ	ミガキカ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・浅黄 橙	口唇部浅い沈 線	I 1
144	土師器甕	RA247 ②	17.1	-	(7.3)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄橙	歪み大	I 2
145	土師器球 胴甕	RA247 ③④	-	7.8	(20.0)		ハケメ			ヘラナデ		良好・浅黄 橙		I
146	土師器坏	RA273 ⑥	14.6	-	4.3		ヘラミガキ	ハケメ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い褐	底部「×」線刻	M II B 1
147	土師器坏	RA273 埋土下層	10.8	-	3.0	ヨコナデ	ヘラミガキ・黒色処理		ヘラミガキ・黒色処理			良好・黒	*205と同一個体 387で採用	M II B 1
148	土師器器 種不明	RA273 床面	14.7	5.6	10.8	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・黄褐		
149	土師器長 胴甕	RA273 西袖脇	17.2	8.9	25.7	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ	ヘラナデ	ヨコナデ	ハケメ		良好・赤褐	外面調整はっ きり見えない、口唇 部浅い沈線	I B 1
150	土師器甕	RA273 カマド燃焼部	14.9	6.5	15.5	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ハケメ、 ヨコナデ	ヘラナデ、ハケメ		やや甘い・ 橙	摩擦のため外面 調整不明	I A
151	土師器甕	RA273 西壁際埋土	15.2	7.1	19.5	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・ にぶい褐		I B 2
152	土師器甕	RA273 西壁際埋土	16.0	-	19.2	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・浅黄 橙		I A 2
153	土師器甕	RA273 カマド燃焼部	18.7	-	(9.6)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・灰白		I 1
154	土師器甕	RA273 南東壁際床面	-	4.3	(10.8)		ヘラミガキ	ハケメ		ハケメ		良好・灰白		C
155	土師器甕	RA273 西側床面	-	7.2	(9.8)		ヨコナデ			ハケメ		良好・にぶ い黄橙		B
156	土師器球 胴甕	RA273 カマド東袖脇	17.6	-	(20.0)	ヨコナデ、 ヘラナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ	ハケメ	良好・灰白		I B 1
157	土師器球 胴甕	RA273 カマド燃焼部	19.2	-	(7.5)	ヨコナデ	ハケメ・ ヘラミガキ		ヨコナデ			良好・浅黄 橙		I B 1
158	土師器坏	RA274 貼床	14.6	-	4.6	ヨコナデ			ヘラミガキ・黒色処理か			良好・にぶ い橙		M II B 1
159	土師器坏	RA274 煙道部	15.2	-	4.2		ヘラミガキ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・明褐		M II B 1
160	土師器坏	RA274 カマド焚口付 近	16.0	-	4.9	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い橙		M II B 1
161	土師器坏	RA274 北西壁付近床 面	14.0	-	4.5	ヘラミガキ	ヘラケズリ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・橙		M II B 1
162	土師器長 胴甕	RA274 カマド西袖芯 材	18.1	-	(25.6)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・明黄 褐		I 2
163	土師器甕	RA274 カマド東袖	21.1	-	(20.4)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄褐		I 2
164	土師器甕	RA274 カマド東袖	20.8	7.1	21.6	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い褐		I C 2
165	土師器甕	RA274 カマド東袖脇	19.0	-	(16.2)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い橙		I 1
166	土師器甕	RA274 カマド東袖	17.7	-	(10.0)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		良好・浅黄 橙		I 2
167	土師器坏	RA275 床面	17.8		5.0	ヘラミガキ	ハケメ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・淡黄		M II B 1
168	土師器坏	RA275 埋土	14.7	-	5.2		ヘラミガキ、ナデ		ヘラミガキ			やや甘い・ にぶい褐	黒色処理消か	H I B 1
169	土師器坏	RA275 埋土	12.9	-	3.2	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ケズリ		ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・ にぶい橙		H I B 1
170	土師器球 胴甕	RA275 埋土	-	-	(7.8)			ヘラナデ			ハケメ	良好・浅黄 橙		
171	土師器球 胴甕	RA275 埋土下層	18.0	-	20.5	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヨコナデ・ ハケメ	ハケメ	良好・赤褐		II 2
172	土師器甕	RA275 埋土	22.0	-	(15.6)	ヨコナデ・ ヘラミガキ	ヘラミガキ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄褐		I 2

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下			
173	土師器甕	RA275 床面	15.7	6.2	16.6	ヨコナデ	ヘラミガキ	ヘラナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヘラナデ	ヘラナデ・ヘラミガキ	やや甘い・明赤褐	底部木葉痕	IC 1
174	土師器甕	RA275 埋土下層	21.6	-	(13.8)	ヨコナデ	ハケメ、ヘラミガキ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙		I 1
175	土師器甕	RA275 カマド燃焼部	-	-	(10.7)			ハケメ			ハケメ	良好・褐灰		
176	土師器甕	RA276 埋土	20.0	-	(8.8)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		良好・浅黄橙		I 2
177	土師器球 胴甕	RA276 埋土	-	7.6	(13.5)			ハケメ			ハケメ	良好・橙		
178	土師器杯	RA277 埋土	15.5	5.6	4.5		ヘラミガキ		ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・にぶい黄褐		II B 1
179	土師器杯	RA277 北西壁際床面	15.6	-	4.5	ヨコナデ			ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・明黄橙		MI
180	土師器杯	RA277	10.5	-	3.8		ヘラミガキ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・褐		MI B
181	土師器甕	RA277 カマド東袖脇	15.6	-	(14.4)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ、ヘラナデ		良好・浅黄橙		II 2
182	土師器甕	RA277 カマド燃焼部	20.3	-	(13.3)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶい黄橙		I 2
183	土師器甕	RA277 床面	18.2	-	(14.3)	ヨコナデ	ハケメ、ヘラミガキ		ヨコナデ	ハケメ		良好・浅黄橙		I 1
184	土師器器種不明	RA277 床面	14.9	-	(16.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・明黄褐		
185	土師器甕	RA278 カマド東袖芯材	19.2	-	(15.4)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶい橙		I 1
186	土師器甕	RA278 中央南側床面	13.7	-	(13.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・灰白		I 2
187	土師器甕	RA278 中央南側床面	15.4	6.5	14.7	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ヘラナデ		やや甘い・鈍い無黄褐色		IB 2
188	土師器甕	RA278 土坑内	13.6	6.4	16.7	ヨコナデ	ヘラミガキ、ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・にぶい橙		IB 2
189	土師器甕	RA278 中央南側床面	15.8	-	(12.1)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・にぶい褐		I 2
190	土師器甕	RA281 埋土下層	18.0	-	(7.8)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・にぶい黄橙		
191	土師器杯	RA279 埋土下層	10.2	-	3.5	ヘラミガキ・黒色処理			ヘラミガキ・黒色処理			良好・黒		MI A
192	土師器杯	RA279 埋土下層	10.6	-	5.9	ヨコナデ	ヘラナデかケズリ		ヨコナデ	ナデ		やや甘い・浅黄橙	須恵器蓋模倣	MI
193	須恵器高台杯	RA279 カマド南袖脇	10.3	5.8	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・灰褐色		
194	土師器甕	RA279 南東壁付近床面	22.0	-	(14.5)	ヨコナデ	ハケメ・ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		やや甘い・にぶい橙		I 2
195	土師器甕	RA279 埋土	18.2	6.8	17.2	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ	ハケメ	やや甘い・浅黄橙		
196	土師器球 胴甕	RA279 中央部西側床面	-	8.2	(22.7)		ハケメ			ハケメ		良好・にぶい黄褐	底部木葉痕	II
197	土師器小 甕形土器	RA213 埋土	9.4	5.8	6.8	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・明赤褐		
198	須恵器甕	RA213 埋土	-	-	-		タタキ			アテ具		やや甘い・灰白	傾き自信ない	
199	須恵器甕	RA213 埋土	-	-	-		タタキ			ロクロナデ		やや甘い・灰白		
200	土師器杯	RA214 埋土	14.4	5.4	5.0	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄橙	浅い線刻「木」	
201	土師器杯	RA214 埋土	16.7	-	(4.8)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・橙		
202	赤焼杯	RA214 カマド	14.8	6.2	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・にぶい橙	底部回転糸切、内外面摩滅	
203	須恵器杯	RA215 床直	14.4	5.0	5.7	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰	底面回転糸切	
204	赤焼杯	RA217 埋土下層	15.1	6.0	4.7	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・浅黄橙	底面回転糸切	
205	土師器長 胴甕	RA217 埋土下層	20.8	-	(21.9)	ロクロナデ	ヘラケズリ		ロクロナデ			良好・橙		
206	土師器杯	RA218 埋土下層	12.4	5.6	4.6	ロクロナデ		ケズリ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・橙	墨書「木」	
207	土師器杯	RA220 東袖脇	14.3	5.0	5.3	ロクロナデ		ハケメ?	ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶい褐	底面ヘラナデ	
208	土師器杯	RA220 上層南西	15.4	5.0	5.1	ロクロナデ		回転ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・橙	底面調整	
209	土師器杯	RA220 東袖脇	14.4	5.5	5.2	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶい褐	底面ヘラケズリ	
210	赤焼杯	RA220 南東壁隅床直	13.9	5.9	5.7	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄橙	底面回転糸切	
211	土師器小 甕	RA220 上層	8.0	-	(2.8)	ヨコナデ			ヨコナデ			やや甘い・にぶい褐		
213	不掲載甕	RA220	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ					
214	土師器甕	RA220 カマド燃焼部	21.0	-	(15.2)	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ		ヨコナデ、ハケメ	ハケメ		良好・浅黄橙		I 1
215	赤焼杯	RA282 床直	16.2	-	(4.2)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄橙		
216	赤焼杯	RA282 南側埋土下層	14.4	5.8	5.6	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄橙	* 239 と同一個体 234 を採用、底部回転糸切	

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
217	赤焼か高 台坏	RA282 南東壁際床直	15.6	6.8	7.2	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙		
218	須恵器坏	RA282 南東側床直	15.8	6.3	5.6	ロクロナデ			ロクロナデ			甘い・灰白	底面回転糸切	
219	須恵器坏	RA301 埋土上層	13.0	-	(4.3)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰		
220	土師器甕	RA282 埋土下層	26.2	-	(7.0)	ロクロナデ	カキメ		ロクロナデ			良好・黄橙		
221	土師器甕	RA282 埋土	19.4	-	(15.0)	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ハケメ		良好・浅黄 橙	235 と同一	
222	須恵器甕	RA282 東南下	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
223	土師器坏	RA283 燃焼部	14.6	-	(3.9)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙	* 244 と同一個 体	
224	土師器坏	RA283 燃焼部	13.6	5.6	5.2	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			黄橙	底面回転糸切	
225	赤焼坏	RA283 上層	13.6	6.0	4.3	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄 橙	底面回転糸切	
226	赤焼坏	RA283 東袖脇床直	13.6	5.7	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・にぶ い橙	底面再調整	
227	赤焼坏	RA283 焚口付近	14.4	6.7	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・にぶ い橙	底面回転糸切	
228	須恵器坏	RA283 北西上層	14.6	5.6	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰		
229	土師器甕	RA283 焚口付近	(20.0)	-	(20.5)	ロクロナデ	ロクロナデ、 ヘラケズリ		ロクロナデ	ロクロナデ、 ハケメか		良好・にぶ い橙	外面一部剥落	
230	土師器甕	RA283 上層	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄		
231	土師器甕	RA283 東袖付近床直	18.0	-	(10.0)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		甘い・灰黄 褐		
232	土師器坏	RA284 南西下層	13.8	-	(4.9)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		
233	土師器坏	RA284 埋土下層	14.0	-	(4.2)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙		
234	赤焼坏	RA284 pit 2 埋土	13.8	-	(4.2)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙		
235	須恵器坏	RA284 南西上層	14.4	5.4	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・ 灰白	底面回転糸切	
236	土師器甕	RA284 pit 1 埋土	20.6	-	(3.9)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ			甘い・橙		
237	須恵器長 頸壺	RA234 南西下層	-	10.0	(7.6)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰	底面に菊花状 の調整	
238	須恵器壺	RA284 カマド				ロクロナデ			アテ具			良好・灰白		
239	土師器坏	RA285 カマド燃焼部	14.6	6.0	4.6	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙	底面再調整	
240	土師器坏	RA285 カマド燃焼部	13.1	5.6	4.8	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙		
241	赤焼坏	RA285 カマド	14.8	5.2	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄 橙		
242	赤焼高台 坏	RA285 北東側埋土	-	7.1	(1.8)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・浅黄 橙		
243	土師器耳 皿	RA285 床面	-	4.4	(3.8)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄 橙		
244	土師器甕	RA285 カマド燃焼部	30.0	-	(12.0)	ロクロナデ	ヘラケズリ		ロクロナデ			良好・黄橙		
245	土師器甕	RA285 カマド燃焼部	24.0	-	(13.7)	ヨコナデ、 ヘラナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・浅黄 橙		
246	土師器甕	RA285 カマド周辺	-	8.0	(15.0)	ロクロナデ、ヘラケズリ			ロクロナデ、ハケメ			良好・橙	胎土に砂と石多	
247	須恵器甕	RA285 煙道部	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白	傾き不明	
248	土師器坏	RA286 埋土中層	14.0	-	(4.1)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		
249	土師器坏	RA286 埋土中	-	7.0	(2.0)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙	底面再調整	
250	赤焼坏	RA286 カマド	14.8	4.8	5.5	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・ 淡黄		
251	赤焼坏	RA286 埋土中層	14.0	5.0	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙		
252	土師器高 台坏	RA286 カマド	-	7.8	(2.1)			ロクロナデ			ヘラミガキ・ 黒色処理	良好・浅黄 橙	底面に菊花状 の調整	
253	土師器甕	RA286 カマド	21.4	-	(10.8)	ヨコナデ	ヘラナデ、 ヘラケズリ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙		
254	須恵器甕	RA286 カマド	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰		
255	土師器坏	RA287 カマド周辺	16.0	-	(4.6)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		
256	土師器坏	RA287・288 境界部	-	5.4	(1.5)			ロクロナデ			ヘラミガキ・ 黒色処理	良好・黄橙	底部沈線・底 面再調整	
257	赤焼坏	RA287 カマド周辺	13.8	6.8	5.6	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	底面回転糸切	
258	赤焼坏	RA287 カマド南西袖 脇	14.4	7.0	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	回転糸切り痕	
259	須恵器坏	RA287 Q 2 上層	14.4	7.0	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・ 灰白	底面不明瞭	
260	須恵器坏	RA287 マド周辺	14.8	6.8	5.3	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・ 灰白	底面回転糸切	
261	須恵器坏	RA287 カマド周辺	13.0	6.0	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・黄灰	底面回転糸切	
262	須恵器坏	RA287 南壁隅床面	13.8	6.0	4.2	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・ 灰オリーブ		

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下			
263	土師器甕	RA287 カマド周辺	27.0	-	(14.1)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄 橙		
264	土師器甕	RA287 埋土下層	15.6	-	(5.8)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好		
265	土師器長 胴甕	RA287 南壁隅床面	20.5	10.0	32.2	ヨコナデ	ハケメ	ケズリ	ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い橙	木葉痕・スス 附着	
266	土師器甕	RA287 カマド焚口付 近	21.8	-	(20.0)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙		
267	土師器甕	RA287・288 境界部	-	16.6	(3.6)			ヘラナデ				良好・にぶ い黄橙		
268	須恵器壺	RA287 カマドカマド 焚口付近	-	-	(9.0)			ロクロナデ		ロクロナデ		良好・緑灰		
269	須恵器甕	RA287 煙出	-	-	-			ロクロナデ		ロクロナデ		良好・灰白		
270	須恵器瓶	RA287 埋土下層	21.4	-	(5.3)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・オ リーブ黒		
271	須恵器甕	RA287 マド周辺	-	-	-			タタキ			アテ具	良好・灰白		
272	須恵器大甕	RA287 マド周辺	-	-	(27.7)			タタキ			アテ具	良好・灰		
273	土師器坏	RA288 埋土下層	14.3	6.9	4.1	ロクロナデ		再調整ケ ズリ	ヘラミガキ・黒色処理		良好・にぶ い黄橙	外面摩滅		
274	土師器坏	RA288 南東上層	13.8	6.0	4.6	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理		良好・橙	底部回転糸切		
275	土師器坏	RA288 埋土下層	13.9	5.7	4.7	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理		良好・浅黄 橙	底面再調整		
276	赤焼坏	RA288 床直	14.8	6.2	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ		良好・橙	底部回転糸切		
277	赤焼坏	RA288 pit 1 埋土	14.4	6.4	4.6	ロクロナデ			ロクロナデ		良好・にぶ い黄橙			
278	須恵器坏	RA288 埋土下層	13.6	7.0	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ		良好・灰	底部回転糸切		
279	土師器高 台坏	RA288 床直	13.0	(5.2)	(4.1)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理		良好・黄橙	底部に菊花状 の調整		
280	土師器高 台坏	RA288 床直	-	8.0	(1.7)			ロクロナデ			ヘラミガキ・ 黒色処理	やや甘い・ 褐灰	底面に菊花状 の調整	
281	赤焼高台 坏	RA288 pit 2 埋土	-	7.7	(1.5)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・橙		
282	赤焼高台 坏	RA288 pit 2 埋土	-	7.6	(2.2)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・黄橙	底部に菊花状 の調整	
283	土師器甕	RA288 カマド周辺	24.0	-	(8.1)	ヨコナデ	ハケメか ナデ			ハケメ		良好・黄橙		
284	土師器甕	RA288 pit 2 埋土	22.4	-	(7.5)	ヨコナデ	ヘラナデ、 ヘラケズリ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・明赤 褐		
285	土師器甕	RA288 南東上層	24.0	-	(6.8)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・橙		
286	土師器甕	RA288 埋土下層	22.6	-	(4.2)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙		
287	土師器甕	RA288 床直	15.0	-	(5.0)	ヨコナデ	ヘラナデ		ハケメ・ ヨコナデ	ヘラナデ		良好・橙		
288	土師器鉢	RA288 カマド周辺	23.6	-	9.2	ロクロナデ	ヘラケズリ			ハケメ		良好・浅黄 橙		
289	須恵器甕	RA283 埋土	-	-	-			タタキ			タタキ	良好・灰白		
290	須恵器甕	RA291 6号カマド 煙出	-	-	-			タタキ			アテ具	良好・灰白		
291	土師器坏	RA290・289 pit 2	13.8	-	(4.0)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理		やや甘い・ にぶい黄橙			
292	赤焼坏	RA290.289 柱穴		5.0	(3.5)			ロクロナデ		ロクロナデ		良好・にぶ い黄橙		
293	赤焼坏	RA289 焼土,	15.0	6.0	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ		良好・にぶ い褐	胎土に石多い・器 形に歪み		
294	赤焼坏	RA289 カマド	-	6.0	(2.2)			ロクロナデ		ロクロナデ		良好・にぶ い橙	底部回転糸切	
295	土師器甕	RA289 埋土上層	-	7.8	(14.8)			ハケメ		ハケメ		良好・にぶ い黄橙	外面全体摩滅・ 底部木葉痕	
296	須恵器甕	RA289 床直⑤	-	-	-			タタキ			調整不明	良好・灰白		
297	須恵器甕	RA289 床直	-	-	-			タタキ			アテ具	良好・灰白		
298	土師器坏	RA290 カマド③	15.0	6.0	5.5	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理		良好・にぶ い橙	胎土に砂と石多 、底部回転糸切		
299	土師器坏	RA290 南西下層	15.5	7.0	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ		ヘラミガキ・黒色処理		甘い・にぶ い橙	底部再調整		
300	土師器坏	RA290 煙出	13.8	7.0	5.7	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理		やや甘い・ にぶい橙	胎土に砂と石多 、底部回転糸切		
301	土師器坏	RA290 南西下層	-	5.2	(2.0)			ロクロナデ		ヘラミガキ・黒色処理	良好・浅黄 橙	底部回転糸切		
302	土師器坏	RA290 カマド付近	15.0	5.6	5.0	ロクロナデ			ロクロナデ		良好・灰白	底部回転糸切、 赤焼か?		
303	赤焼坏	RA290 埋土下層	13.0	5.4	4.9	ロクロナデ			ロクロナデ		良好・橙	底部回転糸切		
304	赤焼坏	RA290 カマド付近焼土	14.8	-	(3.9)	ロクロナデ			ロクロナデ		良好・橙			
305	赤焼坏	RA290 床面	14.5	5.4	4.3	ロクロナデ			ロクロナデ		やや甘い・ 浅黄色	底部回転糸切		
306	赤焼坏	RA290 ①	16.6	6.6	6.1	ロクロナデ			ロクロナデ		やや甘い・ 浅黄橙			
307	土師器高 台坏	RA290 煙出	14.0	-	(5.4)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理		やや甘い・ にぶい褐	胎土に砂と石 多		
308	土師器甕	RA290 ④	18.6	-	(11.0)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		良好・にぶ い橙		

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下	口縁部	体部	体部下			
309	土師器甕	RA291 1号カマド	19.0	-	(3.2)	ヨコナデ			ヨコナデ	ハラナデ		良好・浅黄 橙		
310	土師器坏	RA291 p351	-	6.4	(3.4)		ロクロナデ	ケズリ			ハラミガキ・黒色処理	良好・にぶ い黄橙	底面再調整	
311	土師器坏	RA291 5号煙出	13.7	5.3	5.0		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・橙	墨書「木」	
312	土師器坏	RA291 5号 カマド燃焼部付近	-	5.0	(4.5)		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・にぶ い黄橙	底面再調整・ 墨書「木」	
313	土師器坏	RA291 埋土上層	14.4	7.2	5.2		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・橙	底部再調整	
314	土師器坏	RA291 北西下層	-	5.2	(1.9)		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・にぶ い黄橙	底面再調整	
315	赤焼坏	RA291 6号 カマド燃焼部	14.4	5.2	5.4		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・浅黄 橙	底部回転糸切	
316	赤焼坏	RA291 4号 カマド燃焼部	14.2	5.8	4.9		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 浅黄橙	線刻「×」	
317	赤焼坏	RA291 埋土	14.0	5.4	4.7		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・橙	底部回転糸切	
318	赤焼坏	RA291 埋土	14.2	4.6	5.4		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 黄橙	底部回転糸切	
319	赤焼坏	RA291 北壁際埋土上層	15.0	6.0	5.3		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・灰白	底部回転糸切	
320	赤焼坏	RA291 煙道	14.6	5.3	4.8		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 淡黄	底部回転糸切	
321	赤焼坏	RA291 中央部北側	14.2	7.4	4.8		ロクロナデ				ロクロナデ	甘い・灰白	底部回転糸切	
322	赤焼坏	RA291 南東壁際	14.0	5.8	4.6		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・橙	胎土に砂と石多 、底部回転糸切	
323	須恵器坏	RA291 南西部	13.6	7.0	3.5		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・灰白	底部回転糸切	
324	土師器高 台坏	RA291 3号 カマド煙出		7.0	(2.0)			ロクロナデ				良 好 ・ オ リーフ黒		
325	須恵器坏	RA291 埋土	14.9	5.0	4.3		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 灰白	胎土に砂と石多 、底部回転糸切	
326	須恵器坏	RA291 5号 カマド煙出	13.7	4.9	5.0		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・灰黄	底部回転糸切	
327	須恵器坏	RA291 北東下層	14.2	5.5	5.0		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 灰白	底部回転糸切	
328	須恵器坏	RA291 4号 カマド燃焼部	13.9	6.2	6.0		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・灰白	底部回転糸切	
329	須恵器坏	RA291 埋土	13.8	5.2	4.2		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 灰黄	底部回転糸切	
330	土師器鉢	RA291 床面	25.0	-	(9.7)	ロクロナデ	ハラケズリ		ロクロナデ	カキメ		良好・にぶ い黄褐		
331	土師器甕	RA291 北西上層	31.0	-	(9.8)	ロクロナデ	カキメ、ハ ラケズリ		ロクロナデ			やや甘い・ 浅黄橙		
332	土師器甕	RA291 1号煙出	21.4	-	(14.1)	ロクロナデ	ハラケズリ		ロクロナデ			良好・褐		
333	土師器甕	RA291 p354	11.4	-	(4.4)	ヨコナデ	ハラケズリ		ハケメ?	ハラナデ		良好・浅黄 橙		
334	土師器甕	RA291 南西上層	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・黄褐		
335	土師器甕	RA291 南西上層	13.8	-	(3.5)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・浅黄 橙	120 と同一	
336	須恵器甕	RA291 6号 カマド煙出	-	-	(8.2)		ロクロナデ			ロクロナデ		良好・黒		
337	須恵器甕	RA291 1号カマド 煙出	-	-	-		タタキ				アテ具	良好・灰白		
338	土師器坏	RA292 床直	14.0	-	(4.0)		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・黄橙	墨書「木」	
339	須恵器坏	RA292 埋土下層	14.8	5.6	5.0		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 灰白	底部回転糸切	
340	土師器甕	RA292 埋土下層	13.0	-	(5.4)	ヨコナデ	ハラナデ		ヨコナデ	ハケメ		良好・暗褐		
341	土師器甕	RA292 燃焼部	-	6.7	(13.5)		ヨコナデ	ハラケズリ・ ハラミガキ		ヨコナデ	ハラナデ	良好・にぶ い橙		
342	土師器甕	RA292 南袖芯材	19.4	8.0	27.2	ヨコナデ	ハラケズリ、ハラミガキ		ヨコナデ		ハラナデ	良好・にぶ い黄橙		
343	須恵器甕	RA292 床直	-	-	-		タタキ				アテ具	良好・灰	断面の傾き不 明	
344	土師器坏	RA293 南西壁床面	13.0	5.2	5.2		ロクロナデ	ハラケズリ			ハラミガキ・黒色処理	やや甘い・ にぶい橙	墨書「木」、底 面再調整	
345	土師器坏	RA293 南西壁際床面	15.7	8.2	4.8		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・にぶ い黄橙	墨書「木」、底 面再調整	
346	赤焼坏	RA293 北袖	14.3	6.6	5.0		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・橙	線刻「木」	
347	土師器坏	RA293 南西壁床直	13.3	5.5	5.5		ロクロナデ	手持ハラ ケズリ			ハラミガキ・黒色処理	良好・にぶ い黄橙	底部回転糸切	
348	土師器坏	RA293 南西壁際床面	13.3	5.4	4.8		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・橙	底部回転糸切	
349	赤焼坏	RA293 pit 1	16.3	6.8	5.6		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い・ 浅黄橙		
350	須恵器坏	RA293 カマド付近	14.8	7.2	5.3		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・灰オ リーフ		
351	土師器甕	RA293 北側床直	16.2	7.0	12.9		ロクロナデ				ロクロナデ	やや甘い にぶい橙		
352	土師器甕	RA293 pit 1	13.0	-	(5.4)	ヨコナデ	ハラナデ		ヨコナデ	ハケメ		良好・暗褐		
353	土師器坏	RA294 埋土	14.3	-	(3.4)		ロクロナデ				ハラミガキ・黒色処理	良好・浅黄 橙		
354	須恵器坏	RA294 南東下層	13.6	-	(4.6)		ロクロナデ				ロクロナデ	良好・灰		

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
355	土師器甕	RA294 北壁中央床直	28.6	-	(16.6)	ロクロナデ	ヘラナデ		ロクロナデ	ヘラナデ		良好・浅黄 橙		
356	土師器甕	RA294 南西上層	21.4	-	(7.4)	ロクロナデ			ロクロナデ	カキメ		良好・にぶ い橙		
357	土師器甕	RA294 床直	26.0	-	(5.8)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・明赤 褐		
358	土師器甕	RA294 床直	-	14.4	(4.3)			ヘラケズリ			ヘラナデ	良好・にぶ い橙	底面砂	
359	須恵器 長頸壺?	RA294 南西下層	-	14.1	(2.0)			ロクロナデ			ロクロナデ	良好・灰		
360	土師器坏	RA295 埋土上層	14.2	5.4	4.8	ロクロナデ		ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・ 浅黄橙	底面再調整ヘ ラケズリか	
361	土師器坏	RA295 埋土	-	7.0	(2.2)	調整不明瞭			ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・ にぶい黄橙	底面再調整	
362	赤焼坏	RA295 埋土上層	14.1	5.8	5.2	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	底部回転糸切	
363	赤焼坏	RA295 埋土南西	13.4	6.3	4.5	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・にぶ い橙	内外面摩滅	
364	土師器高 台坏	RA295 埋土	-	7.4	(3.4)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙		
365	土師器高 台坏	RA295 カマド燃焼部	15.8	9.0	6.0	ロクロナデ・ヘラミガキ・黒色処理			ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・ 灰黄褐	線刻「木」胎土 に砂と石多	
367	土師器甕	RA295 カマド燃焼部	20.6	-	(19.7)	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙		
368	土師器甕	RA295 カマド燃焼部	17.4	-	(12.8)	ヨコナデ	ヘラケズリ		ヘラナデ	ハケメ		やや甘い・ 浅黄橙		
369	須恵器甕	RA295 埋土下層	-	-	-		タキ			アテ具		やや甘い・ 灰白		
370	赤焼坏	RA297 カマド燃焼部	15.2	7.4	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	底部回転糸切	
371	赤焼坏	RA297 北袖埋土上層	14.1	7.5	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	底部回転糸切	
372	赤焼坏	RE029 埋土	15.8	-	(3.9)	ロクロナデ			ロクロナデ			黄橙		
373	土師器甕	RE029 埋土	-	8.0	(23.0)	ヨコナデ	ハケメ		ハケメ			やや甘い・ 橙		I A
374	土師器甕	RE029 埋土									ハケメ	良好・にぶ い黄橙		
375	土師器甕	RE029 埋土						ハケメ			ハケメ	良好・浅黄 橙		
376	土師器大 型坏	RE038 南西部床直	22.4	-	6.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ハケメ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙		M II B
377	土師器坏	RE038 西壁側床直	14.8		4.9	ヘラミガキ		ナデ	ヘラミガキ・黒色処理			良好・黒	底部線刻「×」	M II B 2
378	土師器坏	RE038 南西部床直	17.0	-	6.2	ヘラミガキ・ハケメ	ハケメ		ナデ・ヘラミガキ・黒色処理			良好・橙		M II B 2
379	土師器坏	RE038 埋土中層	14.8	-	5.4	ヨコナデ	ヘラミガキ		ヨコナデ・ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙	底部線刻「×」	M II B 2
380	土師器坏	RE038 床直	14.6		5.0	ヘラミガキ・ハケメ	ハケメ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙		M II B 1
381	土師器坏	RE038 床直	13.6	-	3.0	ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラミガキ・ ハケメ		ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い橙		M III B
382	土師器高 坏	RE038 埋土下層	-	-	(4.8)						ヘラミガキ・ 黒色処理	良好・にぶ い黄橙		
383	土師器甕	RE038 西壁側床直	24.2	7.8	29.2	ヨコナデ	ハケメ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ		良好・にぶ い赤褐	口唇部浅い沈 線	I B 1
384	土師器坏	RE042 埋土	10.4	-	3.5					ヘラミガキ		やや甘い・ にぶい黄橙	底部線刻「×」	H II B 1
385	土師器坏	RE042 埋土	9.0	6.0	2.8	ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色処理、ヨコナデ			良好・橙		H III
386	土師器甕	RE042 埋土	16.0	-	(5.7)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ			良好・明赤 褐色		I 1
387	手づくね 土器	RD265 埋土	6.9	-	4.2	ヘラナデかケズリ			ヘラナデかケズリ			良好・にぶ い橙		
388	土師器球 胴甕か?	RD286 埋土	18.6	-	(2.8)	ヨコナデ			ヨコナデ			良好・橙		
389	土師器甕	RD286 埋土	-	-	-							良好・浅黄 橙		
390	須恵器壺	RD309 埋土下層	-	-	-		ロクロナデ			ロクロナデ		良好・黒	傾き不明	
391	土師器 甕?	RD344 埋土	17.4	-	(2.7)							良好・にぶ い黄褐		
392	土師器球 胴甕か?	RD382 埋土	21.4	-	(3.6)	ヨコナデ			ヨコナデ			良好・にぶ い黄橙	* 431 と同一個 体	
393	土師器 甕?	RD396 埋土	-	-	(3.8)	ヨコナデ	ヘラナデ			ヘラナデ		やや甘い・ 灰白		
394	土師器坏	RD399 西側下焼土	20.0	-	(4.9)	ヘラミガキ・黒色処理			ヘラミガキ・黒色処理			良好・黒		M III
395	土師器坏	RD399 埋土下層	14.6	-	(2.7)	ヘラミガキ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙		M III
396	土師器坏	RD399 埋土下層	13.6	-	3.2	ヘラミガキ・黒色処理 ヨコナデ		ハケメ・ 黒色処理	ヘラミガキ・黒色処理			良好・黒		M II B
397	土師器甕	RD399 焼土内	17.8	-	(7.9)	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・にぶ い黄褐		I 1
398	須恵器甕	RD428 埋土	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰白		
399	須恵器甕	RD428 埋土	-	-	-		タキ					良好・灰白		

番号	種類 器種	出土位置	法量 (cm)			外面調整			内面調整			焼成 色調	その他	分類
			口径	底径	器高	口縁部	体部	体部下半	口縁部	体部	体部下半			
400	土師器甕	RD577 埋土	19.0	-	(13.1)	ハケメ、 ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	ハケメ		良好・橙		I 2
401	土師器坏	RD608 埋土	13.8	5.1	4.8	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・にぶ い黄橙	底部回転糸切	
402	須恵器甕	RD608 検出面	-	-	-		タタキ			タタキ		良好・灰	傾き自信ない	
403	土師器坏	RD614 埋土中層	11.9	-	(4.3)	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・黒	外面線刻	
404	赤焼坏	RD614 埋土	13.0	-	4.6	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙		
405	赤焼坏	RD614 埋土	-	5.5	(3.8)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	底部回転糸切	
406	赤焼坏	RD614 埋土中層	14.0	5.1	4.4	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・橙	底部回転糸切	
407	土師器高 台坏	RD614 埋土中層	-	8.3	(3.4)		ヘラミガキ・黒色処理		ヘラミガキ・黒色処理			良好・黒		
408	土師器長 胴甕	RD614 2層	26.7	9.2	31.8	ヨコナデ	ヘラナデ・ ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ		良好・橙	底木葉痕	
409	土師器甕	RD614 2層	22.0	-	(24.4)	ロクロナデ	ヘラケズリ		ロクロナデ			良好・にぶ い橙		
410	須恵器 長頸壺?	RD614 埋土中層	-	-	(21.8)		ロクロ、ヘラナデ		カキメ?			やや甘い・ 灰		
411	土師器坏	RD630 埋土	13.2	-	(4.2)	ロクロナデ			ミガキ・ 黒色処理			良好・にぶ い黄橙		
412	土師器甕	RD630 埋土	17.0	-	(4.3)				ヨコナデ			甘い・赤褐		
413	土師器甕	RD631・632 焼土	21.6	-	(9.8)	ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ		やや甘い・橙		
414	須恵器坏	RD632 埋土	13.0	-	(3.6)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・にぶ い褐		
415	須恵器坏	RD641 埋土	14.6	-	(4.2)	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰白		
416	須恵器坏	RD614 埋土	13.8	5.0	4.6	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰	底部回転糸切	
417	土師器高 台坏	RD642 埋土中位	13.3	7.5	3.4	ロクロナデ			ヘラミガキ・黒色処理			良好・浅黄 橙	内面剥落	
418	須恵器甕	RD646 埋土	-	-	-		タタキ					やや甘い・ 灰白		
419	須恵器甕	RD647 埋土	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
420	土師器高 坏?	RD742 埋土	-	13.5	(4.6)					ヘラナデ		良好・浅黄 橙		
421	土師器高 坏	RD744 埋土	-	-	(1.9)		ヘラケズリ		ヘラミガキ・ 黒色処理			やや甘い・ にぶい黄褐		
422	土師器甕	RD773 埋土上～中層	-	8.8	(11.0)		ハケメ			ハケメ		やや甘い・ 淡黄		I A
423	赤焼坏	RD808 埋土		5.8	(2.7)	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い・橙	底部回転糸切	
424	須恵器坏	RD808 埋土		6.1	4.8	ロクロナデ			ロクロナデ			甘い・灰白	糸切痕不明瞭	
425	赤焼坏	RD809 埋土				ロクロナデ			ロクロナデ				底部回転糸切	
426	土師器坏	RG045 埋土	10.9	-	3.3	ヨコナデ			ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・ にぶい黄橙		
427	土師器坏	RG045 埋土	12.6	-	2.7	ヘラミガキ		ハケメ	ヘラミガキ・黒色処理			やや甘い・ 明黄褐	段は部分的に2 段になっている	
428	土師器球 胴甕	RG085 埋土	28.5	-	18.0	ヨコナデ	ハケメ		ヨコナデ	不明瞭		良好・橙	外：体部カキ も有り	I B 1
429	須恵器甕	RG203 埋土	-	-	-		タタキ			調整不明		良好・灰白		
430	須恵器甕	RZ004 埋土	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
431	須恵器甕	RZ011 埋土	-	-	-		タタキ						傾き自信ない	
432	須恵器甕	RZ019 埋土	-	-	-		タタキ					良好・灰白	傾き自信ない	
433	須恵器甕	RZ014 埋土	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
434	須恵器甕	RZ014 埋土	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰白		
435	須恵器甕	P 101 埋土	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
436	須恵器甕	RG083 埋土	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
437	須恵器甕	湿地帯 3層	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
438	須恵器甕	湿地帯 3層	-	-	-		タタキ			アテ具		良好・灰白		
439	須恵器甕	湿地帯	-	-	-		タタキ			調整不明		良好・灰白		
440	須恵器甕	湿地帯 3層	-	-	-		タタキ			ロクロナデ		良好・灰白		
441	須恵器甕	湿地帯 2層	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰白		
442	須恵器甕	湿地帯	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			良好・灰白		
443	須恵器	湿地帯 3層	-	-	-		タタキ			ロクロナデ		良好・灰白		
444	須恵器甕	湿地帯	-	-	-		ヘラケズリ			ロクロナデ		良好・灰白		
445	須恵器甕	1-C区検出面	-	-	-	ロクロナデ			ロクロナデ			やや甘い	調整不明	
446	須恵器不 明	2-C区表土	-	-	-	不明			不明			良好・灰白	調整不明	
447	須恵器甕	1-C区表土	-	-	-		ロクロナデ			ロクロナデ		やや甘い・ 灰白	調整不明	
448	須恵器甕	3-D区 3層	-	-	-			不明			ナデ	良好・灰白	調整不明	

陶磁器観察表

仮番	番号	器種	出土位置	法量 (cm)			胎土	釉薬・絵付	製作地	製作年代	その他
				口径	底径	器高					
627	450	青磁碗	3 B区Ⅲ層	-	-	(4.0)	灰白	鎬連弁文	中国産	13C後～14C	
640	451	青磁碗	p 1257	-	5.8	(2.5)	灰白	鎬連弁文	中国産	13C後～14C	
617	452	青磁碗	1 C区Ⅲ層	-	-	-	灰白	鎬連弁文	中国産	15C	
546	453	青磁碗	RD460埋土中層	-	-	(1.5)	灰白	連弁文	中国	14C後半～15C	
574	454	磁器碗	RG239埋土	-	-	-	灰白	青磁	中国	14C	連弁文
607	455	白磁碗	1 - C区表土	-	4.6	(4.9)	灰白		中国産	15C	青白磁か
628	456	陶器鉢類	3 B区Ⅲ層	-	-	(4.2)	黄灰	鉄釉	東北産か	19C～	
550	457	青磁	RD789埋土	-	6.6	(1.8)	淡橙	焼成甘い	中国	15C	
598	458	磁器皿	RZ002床土	10.4	-	(1.8)	灰白	白磁?			
626	459	青磁盤	3 B区Ⅰ～Ⅲ層	19.0	-	(1.1)	灰白	青磁	中国産	13C後～14C	深めの坏か
612	460	磁器皿	3 - D区北半Ⅰ層	-	-	-	白色	染付	中国産か	17C前半か	
662	461	磁器碗	p 2 1 8	-	4.8	(2.1)	灰白	染付	肥前	17Cか	畳付汚
645	462	磁器皿	遺構外Ⅰ層	10.0	-	(1.9)	灰白	染付	中国産?	16C前か	
600	463	陶器瓶類	R G 264埋土	-	-	-	灰白	外：灰釉、 内：無釉	瀬戸	13C末～14C初	中Ⅰ - Ⅱ
630	464	陶器平碗	3 B区Ⅲ層	-	-	-	灰白	灰釉	瀬戸	15C前半	後Ⅱ
506	465	陶器卸皿	RA207埋土	-	-	-	灰白	灰釉	瀬戸	14C頃	
629	466	陶器卸皿	3 B区Ⅱ層	-	-	-	灰白	灰釉	瀬戸	13C末～14C初	中Ⅰ～Ⅱ?
556	467	陶器碗	RZ016埋土	-	-	-	灰白	鉄釉	瀬戸	15C	天目碗
593	468	陶器瓶類	3 A区Ⅰ層	-	-	-	褐灰	鉄釉	不明	中世	中国産か
589	469	陶器瓶類	4 B区湿地帯	-	-	-		灰釉	瀬戸	14C後葉～15C初	後Ⅰ～Ⅱ
790	470	陶器碗	R E 037埋土	9.4	-	(3.8)	灰	灰釉	大堀相馬	18C	
641	471	陶器片口鉢	4 E区Ⅲ層	36.2	-	(11.3)	灰	無釉	常滑	13C後～13C末か	常滑Ⅱ類
568	472	陶器甕類	RG203埋土	-	-	-	褐灰	自然釉か	常滑か	中世	傾きは推定
601	473	陶器挿鉢	R G 264埋土中層	-	-	-	灰白	無釉	北陸産	15Cか	挿面摩耗、珠洲か環濠
576	474	陶器挿鉢	RZ016埋土	-	-	-	明褐灰	無釉	北陸産	中世	内面使い込まれている
620	475	陶器器種不明	2 C区Ⅰ層	-	-	-		自然釉か	不明	中世か	常滑か
515	476	陶器挿鉢	RA240埋土	-	9.6	(5.7)	にぶい橙	無釉	不明	中世か	
616	477	陶器挿鉢	3 - D区東半Ⅰ層	26.4	-	(6.8)	明赤褐	無釉	不明	不明	挿面摩耗顕著
619	478	陶器挿鉢	2 C区Ⅰ層	-	-	-	にぶい橙	無釉	不明	不明	挿面摩耗顕著
596	479	陶器挿鉢	R G 084埋土	-	-	-	灰	無釉	不明	不明	挿面摩耗
488	480	陶器鉢類	RZ004埋土	-	-	-	青灰	自然釉か	不明	中世か	
577	481	陶器挿鉢	RZ004埋土	-	15.8	(7.7)	赤褐	無釉	不明	不明	
681	482	陶器挿鉢	P 5 4 2	28.4	-	(7.3)	褐灰	無釉	北陸産か		中世か
586	708	陶器碗	R G 264埋土	-	5.2	(2.3)	灰白	透明釉	肥前	18C前半	呉器手碗
783	709	陶器碗	R D 649埋土	-	5.0	(3.3)	黄白	透明釉	肥前	18C前半	呉器手碗
615	710	陶器碗	3-D区南東部	-	5.0	(4.1)	にぶい黄	灰釉	肥前	18C前半	呉器手碗
514	711	陶器碗	RA238埋土	-	4.6	(2.7)	灰白	透明釉	肥前	18C前	呉器手碗
776	712	陶器碗	p 1066	-	4.8	(2.9)	黄白	透明釉か	肥前か	17C頃か	畳付に3点の目跡
792	713	陶器碗	R D 649埋土	10.2	-	(5.5)	黒褐	鉄釉・白化粧	肥前	17C後～	
791	714	陶器碗	R D 649埋土	-	3.6	(3.4)	赤褐	透明釉・白化粧	肥前か	18C前～	
669	715	陶器碗	p 239	12.0	-	(3.8)	灰赤	白化粧、透明釉	肥前	17C後～	
583	716	陶器碗	RZ004埋土上層	-	-	-	灰白	外：鉄・藁灰、 内：藁灰	大堀相馬	19Cか	
611	718	陶器碗	3 - D区検出面	-	3.9	(2.6)	灰白	灰釉、鉄釉	大堀相馬	18C	外面上半灰釉、下半鉄釉
614	717	陶器碗	3 - D区南半Ⅰ層	-	4.4	(2.5)	灰白	灰釉、鉄釉	大堀相馬	18C	外面上半灰釉、下半鉄釉
653	719	陶器碗	p 632 (R B 028)	-	4.0	(1.6)	灰白	灰釉	大堀相馬	18C	
668	720	陶器碗	p 216	10.8	-	(4.4)	灰白	灰釉	大堀相馬	18C	
572	721	陶器碗	RG205埋土	10.8	-	(4.4)	灰白	灰釉	大堀相馬	18C	
525	722	陶器碗	RD302埋土	-	-	-	灰黄	灰釉	大堀相馬	18C	漆付着
684	723	陶器碗	p 1	-	-	-	灰白	褐釉	大堀相馬か	18C	
582	724	陶器碗	RZ004埋土上層	-	-	-	灰白	外：鉄・藁灰、 内：藁灰	大堀相馬	19Cか	
793	725	陶器碗	R E 044埋土	-	3.6	(2.7)	灰	藁灰釉	大堀相馬	19C	
679	726	陶器碗	p 209	-	-	-	灰白	藁灰、銅緑釉	大堀相馬	19C	
578	727	陶器碗	RZ005埋土	-	-	-	灰白	藁灰	相馬?	19Cか	拳骨形か
560	728	陶器碗	RG198埋土	11.5	-	(2.4)	灰白	鉄釉	瀬戸・美濃	近世か	天目碗
775	729	陶器器種不明	3 - AⅠ～Ⅲ層	-	4.4	(1.8)	灰	内：灰釉、 外：無釉	瀬戸・美濃か		見込みに目跡?
603	730	陶器御室茶碗	3 B区Ⅰ～Ⅲ層	-	5.2	(1.0)	浅黄	灰釉	瀬戸か	18C前葉	
665	731	陶器碗	p 175	-	4.0	(2.8)	淡黄	鉄釉	不明	18C後～	
526	732	陶器碗	RD320埋土	-	-	-	灰白	灰釉	京焼風	18C後～19Cか	

仮番	番号	器種	出土位置	法量 (cm)			胎土	釉薬・絵付	製作地	製作年代	その他
				口径	底径	器高					
561	733	陶器碗	RG198埋土	-	-	-	灰白	京焼き風		18C後～19Cか	
654	734	陶器碗	p 517	-	-	-	灰白	白化粧、透明釉	不明	18C後～	
781	736	陶器碗	R D 649埋土	7.2	-	(2.6)	赤灰	褐・鉄釉	不明	19C以降か	
575	737	瓦?	RZ016埋土				にぶい黄橙				
788	738	陶器丸皿?	R G 073埋土	13.4	-	(2.3)	灰	灰釉	美濃か	17C末	外面は口縁付近にのみ施釉
690	739	陶器鉢類	2 C区遺構外	-	11.6	(2.5)	灰白	外:鉄釉、 内:藁灰	東北在地か	19C～	
791	740	陶器鉢類	R E 028埋土	-	8.2	(6.3)	灰	透明釉	在地産か	19C以降か	内面に目跡
523	741	陶器火入か	RA285埋土	-	14.4	(7.3)	灰白	鉄釉	瀬戸	18後～19C	
774	742	陶器小甕	2号近世墓	6.0	3.2	4.7	灰	内と外の口縁付 近に灰釉か	唐津か	17C頃か	被熱のためか釉風化
784	743	陶器器種不明	R D 649埋土	7.8	-	(2.5)	灰白	外:褐釉、 内:藁灰釉	不明	19C以降か	
639	744	陶器甕類	4 B区I～IV層	-	-	-	灰白	無釉	東北在地	中世	天地も自信ない
504	745	陶器甕類	RD654埋土	-	-	-	にぶい橙	無釉	不明	不明	
792	746	陶器甕類	R E 044埋土	-	4.6	(2.6)	灰	鉄釉・黄土色の釉	不明	19C以降か	
604	747	陶器茶壺	遺構外	-	-	-	灰白	外:鉛色の釉	信楽	18C頃	内:無釉
625	748	陶器壺	3 A区III層	-	16.0	(2.9)	にぶい黄橙	鉄釉	信楽	近世	
632	749	陶器瓶類	3 C区I層	-	-	-	灰白	外:鉄釉?	不明	19C～	
634	750	陶器徳利	3 C区I層	-	-	-	灰黄	鉛釉	美濃	17C末～18C初	
524	751	陶器徳利か	RA295	-	8.0	(4.3)	淡黄	灰釉	瀬戸・美濃か	19C	
638	752	陶器器種不明	4 B区I層	-	-	-	軟質、灰白	緑釉	不明	近世	中国緑釉ではない
786	753	陶器器種不明	R D 649埋土	-	-	-	灰	外:灰・褐、 内:鉄釉	不明	19C以降か	天地不明
683	754	陶器?	p 331	-	-	-	灰黄	外面自然釉?	不明	不明	
786	755	陶器器種不明	R D 649埋土	-	-	-	灰	灰釉	不明	19C以降か	
674	756	陶器器種不明	p 180	-	-	-	橙	釉不明	不明	不明	天地不明
622	757	陶器製品	2 C区III層	-	-	-	灰白	無釉	不明	不明	器ではない
621	758	陶器器種不明	2 C区I層	-	-	-	黄灰	無釉	東北産か	不明	傾きは推定
606	759	陶器?	1-C区表土	-	-	-	灰白	無釉	不明	不明	
543	760	陶器挿鉢	RD385埋土	29.0	12.3	12.5	暗赤褐	鉄釉	東北産か	19C～	
602	761	陶器挿鉢	R G 264埋土	32.8	-	(11.2)	明褐灰	鉛色の釉	不明	18C後～	
618	762	陶器挿鉢	1 C区I～III層	-	-	-	灰白	無釉	東北産か	19C～	
651	763	陶器挿鉢	遺構外III層	-	-	-	灰白	無釉	北陸産か	中世か	
676	764	陶器挿鉢	p 180	28.8	-	(4.9)	暗赤褐	鉄釉	不明	19C～	
610	765	陶器挿鉢	3-D区III層	31.1	-	(3.5)	赤灰	無釉	東北産か	19C～	
623	766	陶器挿鉢	2 C区I～III層	-	15.0	(4.3)	灰白	鉄釉	東北産か	19C～	
557	767	陶器挿鉢	RG243埋土	-	-	-	褐	鉄釉	不明	近世～	
595	768	磁器碗	4 A 20n区III層	-	4.8	(3.1)	灰白	染付	肥前か	17C前か	出土地点は湿地になっていた
670	769	磁器碗	p 239	-	-	-	灰白	染付	肥前	1690～1780	
659	770	磁器碗	p 204	10.0	-	(4.3)	灰白	染付	肥前	1690～1780	
578	771	磁器碗	RZ004埋土・R D 649	11.0	-	(4.5)	灰白	染付	肥前	1690～1780	788と接合
671	772	磁器碗	p 239	9.4	-	(4.3)	灰白	染付	肥前	1690～1780	
580	773	磁器碗	RZ004埋土上層	10.6	-	(4.6)	灰白	染付	肥前	1690～1780	
794	774	磁器碗	R E 044埋土	-	-	-	灰白	染付	肥前か	18Cか	
549	775	磁器碗	RD608埋土	-	-	-	灰白	染付	肥前	1690～1780	
551	776	磁器碗	RD814埋土	10.4	-	(2.0)	灰白	染付	肥前	1690～1780	
579	777	磁器碗	RZ004埋土	-	4.4	(4.5)	灰白	染付	肥前	18C	
649	778	磁器碗	遺構外III層	-	3.8	(3.3)	灰白	染付	肥前	1690～1780	
552	779	磁器碗	RD814埋土	-	3.0	(2.5)	灰白	染付	肥前	1690～1780	漆継
782	780	磁器碗	R D 649埋土	-	-	-	白	染付	肥前	18C	傾き不明
663	781	磁器碗	P 1 9 9	-	-	-	灰白	染付	肥前	1690～1780	
778	782	磁器碗	R D 649埋土	10.7	4.2	5.3	白	染付	肥前	18後～19C	
787	783	磁器碗	R D 744埋土	-	2.8	(2.3)	灰白	染付	肥前	18C後～19C	
570	784	磁器碗	RG205埋土	-	-	-	灰白で粗	染付	瀬戸・美濃か	19Cか	
636	785	磁器碗	3 C区III層	8.8	-	(2.0)	灰白	染付	肥前	19C	
678	786	磁器碗	p 186	9.8	-	(3.1)	灰白	染付	不明	19C～	
548	787	磁器碗	RD473埋土	-	5.0	(5.1)	白	染付	不明	19C～	
682	788	磁器碗	p 333	-	-	-	灰白	染付	肥前か	18C～19C	
508	789	磁器碗	p 72	-	-	-	灰白	染付	不明	19C～	
644	790	磁器碗	遺構外I層	-	-	(1.6)	灰白	色絵	不明	不明	
540	791	陶器碗	RD380埋土	-	-	-	灰白	外:鉄釉、 内:灰釉	瀬戸	18C後～19C	腰鍔碗

仮番	番号	器種	出土位置	法量 (cm)			胎土	釉薬・絵付	製作地	製作年代	その他
				口径	底径	器高					
554	792	磁器碗	RE044埋土	-	(2.1)	(1.6)	灰白	染付	肥前	1690~1780	
660	793	陶器碗	p 242	-	-	-	灰白	褐釉	不明	19C~	
507	794	磁器碗	RA219 内の柱穴	-	-	-	灰白		不明	不明	
531	795	陶器碗	RD311北集中埋土 中~下	10.2	-	(3.6)	白	染付	不明	19C~	
567	796	磁器皿	R G 198埋土	-	6.0	(1.0)	灰白	染付			畳付に砂
779	797	磁器皿	R D 649埋土	-	6.8	(1.7)	灰白	染付	肥前	1690~1780	見込みにコンニャク印判
789	798	磁器皿	RG205埋土	19.1	11.8	3.1	灰白	染付	肥前	1690~1780	
789	798	陶器碗	RD649埋土	11.4	-	(3.6)	灰白	鉄釉	不明	不明	
657	799	磁器皿	p 144	-	7.4	1.9	灰白	染付	肥前	1690~1780	
791	800	磁器皿	R D 649埋土	-	8.4	(1.4)	白	染付	肥前	1690~1780	
792	801	磁器皿	RD649埋土	14.4	8.6	4.1	白	染付	肥前	1690~1780	
613	802	磁器皿	3-D区 I 層	11.8	3.7	3.6	明緑灰	染付	肥前	1690~1780	
667	803	磁器皿	p 179	-	4.1	(2.2)	灰白	透明釉	肥前	1690~1780	
581	804	磁器皿	RZ004埋土上層	-	-	-	明赤灰		肥前か	18C~	
584	805	陶器皿	RZ004埋土上層	-	-	-	灰オリーブ	灰釉か	大塚相馬か	18C~19C	
675	806	磁器皿	p 180	-	-	-	灰白	染付	肥前	1690~1780	
605	807	磁器皿	R G 093埋土	12.4	-	2.7	灰白	染付	肥前か	19C?	
672	808	磁器皿	p 288	-	-	-	灰白	染付	不明	19C~	
542	809	磁器皿	p 1066	-	-	(3.4)	灰	染付	不明	不明	
532	810	磁器皿	RD331埋土中~下層	-	-	-	灰白	染付	不明	19C~	
631	811	磁器皿	3 B区 III~IV層	-	-	-	灰白				
685	812	磁器紅皿	p 3	5.7	-	(1.4)	灰白	透明釉		18C後~	
505	813	磁器紅皿	RA207	4.2	1.7	1.4	白	口縁と内面に釉		18C後~	
43	814	磁器鉢類	RA211埋土下層	16.0	-	(2.7)	灰白	染付	不明	19C~	
527	815	陶器? 器種不明	RD322埋土				灰白	透明釉	不明	近代か	
650	816	磁器香炉類	遺構外III層	6.4	-	(6.1)	灰白	青磁?		近世か	
687	817	磁器甕類か	p 10	10.0	-	(2.8)	灰白	内面も施釉	不明	19C~	
609	818	磁器瓶類	2 C区 III層	-	3.1	(2.7)	灰白	施釉	不明	19C~	
555	819	磁器瓶類	RE044埋土	-	5.4	(1.4)	灰白	染付	肥前	18Cか	
790	820	磁器器種不明	R D 649埋土	-	-	-	白色ガラス質	染付、内面無釉	不明	19C以降か	天地不明

木製品観察表

仮番	番号	器種	出土位置	計測値 (cm)			その他
				長さ	幅	厚さ	
11	486	漆器椀	RD789埋土	15.5	7.1	6.2	保存処理中
8	487	下駄	RD789埋土	21.0	10.6	2.8	
2	488	不明	RD789埋土	10.3	3.0	0.2	
9	489	加工材	RD789埋土	11.9	1.8	1.9	
1	490	箸	RD789埋土	16.5	0.8	5.5	
18	491	加工材	RD789埋土	17.7	3.5	1.5	
19	492	加工材	RD789埋土	13.5	2.2	2.4	
12	493	漆器椀か	RZ014埋土	4.8	7.2	0.7	保存処理中
13	494	木槌	RZ014埋土	58.3	26.2	10.5	保存処理中
21	495	加工材	RZ014埋土	19.2	4.4	4.7	柄の部分か
10	496	瓢箪	RZ014埋土	4.4	6.7	0.3	
16	497	樹皮	RZ014埋土	8.0	4.5	0.1	
14	498	樹皮	RZ014埋土	3.6	3.9	0.1	
25	499	杭	RZ014埋土	14.9	6.3	5.6	
15	500	杭	RZ014埋土	47.1	4.7	3.5	
24	501	杭	RZ014埋土	36.0	3.5	3.5	
26	502	加工材	RZ014埋土	34.9	3.8	0.6	
3	503	不明	4 B区湿地帯	16.3	3.0	0.9	
4	504	曲物か	3 C区窪地	3.9	6.0	0.7	
17	505	加工材		12.2	2.3	0.8	
31	506	杭	R Z 001埋土	76.7	4.0	3.9	
32	507	杭	R Z 001埋土	60.0	3.9	3.1	
29	508	不明	R Z 001埋土	6.2	1.5	1.1	
5	509	下駄	R G 264埋土	14.8	6.4	1.9	
7	510	下駄菌	R G 264埋土	4.2	9.5	0.6	
6	511	下駄菌	R G 264埋土	3.1	6.7	0.6	
27	512	桶か	RD331埋土	20.7	9.8	2.5	
28	513	栓	RD331埋土	6.7	4.5	4.2	512に伴う
20	514	板材	RD331埋土	21.2	6.7	1.0	
30	515	加工材	RD331埋土	53.8	6.5	4.8	
22		加工材	RA238埋土	23.1	6.0	3.6	
23		杭	RA238埋土	31.5	4.5	3.5	

金属製品観察表

仮番	番号	種類	出土位置	金属の種類	計測値 (cm)			重量 (g)	その他
					長さ	幅	厚さ		
鉄 3	516	鋏先	RA291埋土	鉄	11.2	13.3	1.0	83.7	
鉄 1	517	鋏先	RA291埋土	鉄	11.0	15.2	1.4	105.9	
鉄 4	518	鋏先	RA291埋土	鉄	13.5	13.7	1.0	86.9	
鉄 40	519	釘	RD322埋土	鉄	2.7	0.7	0.4	1.1	
鉄 40	520	釘	RD322埋土	鉄	4.2	1.0	0.7	3.6	
711	522	鉄釘	R D 616埋土中	鉄	7.3	2.3	0.5	2.2	
鉄 44	523	釘	RD302埋土	鉄	7.3	0.7	0.4	4.1	
鉄 27	524	釘	RA285埋土	鉄	4.3	1.0	0.7	2.0	
699	525	鉄釘	p 128	鉄	5.1	1.6	0.4	6.3	
709	526	鉄釘	p 504	鉄	4.7	1.3	0.6	3.1	
700	527	鉄釘	p 128	鉄	2.9	0.9	1.0	3.0	
708	528	鉄釘	2号近世墓骨片埋土中	鉄	4.2	1.1	0.5	8.3	
707	529	鉄釘	3号近世墓骨片中	鉄	2.4	0.8	0.4	0.7	
693	530	鉄釘	3号近世墓埋土骨片中	鉄	6.6	0.8	0.4	4.1	
692	531	鉄釘	3号近世墓埋土骨片中	鉄	6.4	1.5	0.7	5.6	
536	532	鏝?	R D 331埋土	鉄	6.6	1.4	1.1	13.1	
鉄 52	533	刀子	R G 264埋土	鉄	6.5	1.8	0.8	6.5	
701	534	種類不明	R A 206埋土	鉄	3.3	1.9	1.3	11.0	
鉄 21	535	不明	RA285埋土下層	鉄	5.4	2.6	0.3	3.7	
鉄 21	536	不明	RA285埋土下層	鉄	5.0	1.0	0.4	2.0	
鉄 28	537	不明	RA291埋土上層	鉄	5.6	0.6	0.3	2.0	
鉄 25	538	不明	RA295検出面	鉄	4.9	1.5	0.6	6.3	
鉄 26	539	不明	I C 区 I ~ III 層	鉄	6.0	1.0	0.8	3.5	
鉄 46	540	不明	RD574埋土	鉄	5.5	2.1	1.0	7.5	
691	541	種類不明	3号近世墓埋土骨片中	鉄	3.2	1.5	0.9	3.4	
鉄 47	542	不明	RZ005埋土	鉄	5.7	3.1	1.6	346.5	
鉄 43	543	不明	RD302埋土	鉄	2.8	0.7	0.2	1.9	
713	544	種類不明	RD597埋土	鉄	4.7	4.7	1.3	11.1	
714	545	種類不明	RD597埋土	鉄	4.6	4.3	0.8	10.3	
717	546	煙管	4 B 区 I 層	銅	8.3	2.5	-	8.0	
718	547	煙管	出土地点不明	銅	8.2	1.0	-	9.1	
721	548	煙管	3 B III 層	銅	5.1	1.0	-	3.9	
719	549	煙管	RE044埋土	銅	4.6	1.0	-	2.7	
710	550	煙管か	RD635埋土上層	銅	2.4	1.0	0.1	0.6	
720	551	銅板?	3 C 区 III 層	銅	4.2	2.6	0.1	4.0	
722	552	簪?	3 - A 区 I ~ III 層	銅	13.3	1.3	0.2	13.9	
694		鉄滓か	R D 6 1 7 埋土上層	鉄	-	-	-	71.0	
695		鉄滓	R A 不明		-	-	-	53.2	
696		鉄滓	R A 不明		-	-	-	80.6	
697		鉄滓	R A 2 8 9 1 6		-	-	-	221.6	
698		鉄滓	R A 2 8 8 2 号土坑		-	-	-	298.6	
712		種類不明	R A 3 2 4 R E 0 2 9	鉄	-	-	-	26.6	
715		鉄滓	R D 6 9 7 埋土上層		-	-	-	163.2	
716		鉄滓	R G 1 9 8 埋土		-	-	-	371.6	

銭貨観察表 文献：日本出土銭総覧 1996 兵庫埋蔵銭調査会

仮番	番号	種類	出土位置	計測値(cm)	重さ(g)	金属の種類	鋳造年代	その他
724	553	景德元寶	R D 2 9 8 埋土	2.4	3.6	銅	1004	
726	554	天喜通寶	R D 2 9 8 埋土	2.5	4.7	銅	1017	2枚着
729	555	天聖元寶	R D 2 9 8 埋土	2.5	3.1	銅	1023	
728	556	熙寧元寶か	R D 2 9 8 埋土	2.5	3.4	銅	1068	
730	557	熙寧元寶	R D 2 9 8 埋土	2.3	3.3	銅	1068	
731	558	元豊通寶	R D 2 9 8 埋土	2.4	3.7	銅	1078	
722	559	元豊通寶	R D 2 9 8 埋土	2.4	3.4	銅	1078	
721	560	元祐通寶か	R D 2 9 8 埋土	2.5	1.3	銅	1086	
725	561	政和通寶	R D 2 9 8 埋土	2.4	2.7	銅	1111	
727	562	開喜通寶	R D 2 9 8 埋土	2.3	2.1	銅	1205	
723	563	不明	R D 2 9 8 埋土	2.4	2.8	銅		
774	564	元豊通寶	R D 7 1 2 埋土	2.5	1.9	銅	1078	
737	565	元豊通寶	R D 7 3 8 埋土上層	2.4	1.9	銅	1078	
738	566	不明	R D 7 3 8 埋土上層	-	-	銅		
740	567	祥符通寶	R D 7 8 9 埋土中	2.5	2.3	銅	1009	
739	568	不明	R D 7 8 9 埋土中	1.9	0.5	銅		鏹銭
743	569	元豊通寶	R E 0 3 6 埋土下層	2.4	2.3	銅	1078	
744	570	不明	R G 1 9 8 埋土(ベルト内)	2.4	2.4	銅		
748	571	咸平元寶	R G 2 0 3 東側に張り出す部分	2.4	2.3	銅	998	
747	572	天聖元寶	R G 2 0 3 埋土東側の張出し部分	2.5	3.5	銅	1023	二枚
747	572	元□□寶	R G 2 0 3 埋土東側の張出し部分	2.0	3.5	銅		二枚
749	573	不明	R G 2 0 3 東側に張り出す部分	2.3	2.5	銅		
750	574	不明	R G 2 0 3 東側に張り出す部分	2.3	3.2	銅		
746	575	寛永通寶	R G 2 0 3 埋土(ベルト内)	2.4	2.4	銅	1636~1659	古寛永か
759	576	洪武通寶	R Z 0 1 1 埋土上層	2.1	1.9	銅	1368	背一銭
760	577	至和元寶	R Z 0 1 4 埋土下層	2.4	2.8	銅	1054	
763	578	元祐通寶か	p1785	2.4	2.1	銅	1086	
768	579	熙寧元寶	4 B区南端湿地帯埋土	2.4	1.8	銅	1068	
769	580	洪武通寶	4 B区南端湿地帯埋土	2.1	1.7	銅	1368	
720	581	景德元寶	R A 2 4 8 p1995	2.5	2.2	銅	1004	
772	582	開元通寶	3 B区 III層	2.4	1.8	銅	960	
770	583	嘉祐通寶	3 B区中央黒色粘土質土層中	2.4	2.3	銅	1056	
771	584	元豊通寶	3 B区 IV層面	2.4	1.7	銅	1078	
719	585	不明	R A 2 4 4 検出面南端	2.4	5.5			2枚着
761	586	永樂通寶	3-A区I層(RG084堀付近)	2.3	1.9	銅	1408	
732	587	寛永通寶	R D 5 9 7 埋土	2.4	2.2	銅	1636~1659	古寛永か
733	588	寛永通寶	R D 5 9 7 埋土	2.4	2.1	銅	1636~1659	古寛永か
736	589	寛永通寶	R D 5 9 7 埋土	2.4	2.2	銅	1636~1659	古寛永か
735	590	寛永通寶	R D 5 9 7 埋土	2.5	2.7	銅	1668~1683	文銭
734	591	不明	R D 5 9 7 埋土	-	-	銅		
703	592	寛永通寶	2号近世墓埋土骨片中	2.4	2.3	銅	1636~1659	古寛永か
742	593	寛永通寶	R E 0 4 4 埋土	2.4	2.3	鉄か	不明	
741	594	不明	R E 0 4 4 埋土	2.1	0.7	銅	不明	鏹銭
751	595	寛永通寶	R G 2 2 3 埋土	2.4	3.2	銅	1636~1659	古寛永か
756	596	寛永通寶	R G 2 2 3 埋土	2.4	2.8	銅	1636~1659	古寛永か
755	597	寛永通寶	R G 2 2 3 埋土	2.5	4.0	銅	不明	
753	598	寛永通寶	R G 2 2 3 埋土	2.5	3.5	銅	1668~1683	文銭
754	599	不明	R G 2 2 3 埋土	2.3	1.1	銅		
752	600	不明	R G 2 2 3 埋土	2.4	2.6	銅		
757	601	寛永通寶	R Z 0 0 4 埋土	2.5	3.2	銅	1668~1683	文銭
758	602	寛永通寶	R Z 0 0 4 埋土	2.3	1.8	銅	不明	
704	603	寛永通寶	P 4 4 8 埋土中	2.4	2.6	銅	1636~1659	古寛永か
705	604	寛永通寶	P 4 4 8 埋土中	2.3	2.8	銅	1636~1659	古寛永か
762	605	寛永通寶	P1069	2.4	2.2	銅	1636~1659	古寛永か
718	606	寛永通寶	R A 2 4 4 検出面南端	2.4	3.8	銅	1636~1659	古寛永か

仮番	番号	種類	出土位置	計測値(cm)	重さ(g)	金属の種類	製造年代	その他
764	607	寛永通寶	3 A Ⅲ層	2.4	1.7	銅	1636～1659	古寛永か
702	608	寛永通寶	表土	2.4	2.3	銅	1668～1683	
773	609	寛永通寶	3 B区 Ⅲ層	2.5	3.9	銅	1636～1659	古寛永か
765	610	寛永通寶	3 A区 Ⅲ層	2.2	1.2	銅	1767～1781	
706	611	寛永通寶	C区南東部耕作土	2.4	1.8	銅	不明	
767	612	不明	3 A区 Ⅲ層	2.2	1.0	銅	不明	
766	613	不明	3 A区 Ⅲ層	2.5	1.7	鉄	不明	
716	その他	不明	R G 2 0 3 ベルト内埋土 焼土・炭とともに	-	-	銅	不明	細片
717	その他	不明	R D 7 3 8 埋土	-	-	銅	不明	細片
745	その他	不明	R G 2 0 3 埋土 ベルト内・炭・焼土とともに出土	-	-	銅	不明	細片

土製品観察表

仮番	番号	種類種類	出土位置	計測値 (cm)			重量	その他
				上幅	下幅	高さ		
510	614	土製紡錘車	R A 2 3 1 埋土	3.8	4.1	1.8	27.1	
511	615	土製紡錘車	R A 2 3 3 埋土	3.0	5.3	3.3	79.6	外面ヘラミガキ
512	616	土製紡錘車	R A 2 3 4 埋土	3.3	5.4	3.1	80.2	
513	617	土製紡錘車	R A 2 3 5 埋土	3.5	4.4	2.0	26.3	
516	618	土製紡錘車	R A 2 5 0 埋土	-	4.9	(1.5)	24.1	
517	619	土製紡錘車	R A 2 7 3 床面	2.7	4.7	2.6	51.5	側面ヘラミガキ
518	620	土製紡錘車	R A 2 7 3 床面	3.2	4.5	2.8	64.1	
519	621	土製紡錘車	R A 2 7 8 床面	2.5	4.7	2.5	46.0	
520	622	土製紡錘車	R A 3 3 5	3.4	5.4	2.2	64.7	RA281
仮5 7	623	羽口	RA319埋土					
586	624	羽口・支脚?	RA233埋土				214.5	
585	625	羽口・支脚?	RA233埋土				228.7	
538	626	土製勾玉	RD379埋土上層					
635	628	土人形	3C区Ⅱ層				17.1	近世

台太郎 2 3 次かわらけ観察表

仮番	番号	出土位置	整形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴など	図版	写真
3	483	R Z 012埋土	ロクロ整形	14.0	7.2	4.4	風化著しい。口唇部丸味。	315	
2	484	R Z 012埋土	ロクロ整形	14.2	7.2	3.7	風化著しい。口唇部丸味。	315	
1	485	R Z 012埋土	ロクロ整形	9.6	6.8	2.4	内面は見込みから口縁部へ緩やかに立ち上がる	315	

台太郎 2 3 次石器類観察表

仮番	番号	器種	出土地点	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴その他	石質 (産地)
				長さ	幅	厚さ			
60	629	砥石	R A201 Q2埋土下	6.9	4.6	3.6	119.9		デイサイト (奥羽山地)
59	630		R A206床直 S-6	16.1	7.0	4.6	797.0		デイサイト (奥羽山地)
57	631	磨石?	R A206 2号土坑	25.0	16.7	11.9	3520.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
77	632	磨石	R A231 S-8	17.6	12.4	8.0	2235.0		安山岩 (奥羽山地)
26	633	磨石	R A231 S-7	9.5	7.0	3.6	250.8		安山岩 (奥羽山地)
27	634	砥石	R A239	5.0	5.1	5.2	100.0		デイサイト (奥羽山地)
29	635	磨石?	R A273床直	10.9	5.8	6.0	536.7		安山岩 (奥羽山地)
30	636	磨石?	R A275埋土	17.4	5.4	4.6	485.2	被熱、付着物あり	泥岩 (盛岡近郊)
49	637	砥石	R A283 S-2	16.0	12.2	6.1	912.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
61	638	砥石	R A283 Q4埋土上	13.6	5.2	3.5	165.0		凝灰岩 (盛岡近郊)
51	639	砥石	R A285 S-8	15.2	9.0	6.9	990.0		凝灰岩 (盛岡近郊)
48	640	凹石	R A285 煙出し	15.7	13.6	8.8	2330.0		安山岩 (奥羽山地)
46	641	磨石?	R A286 カマド周辺	5.7	4.7	4.3	122.0		安山岩 (奥羽山地)
52	642	磨石?	R A287	6.6	2.9	6.5	141.0		デイサイト (奥羽山地)
53	643	砥石	R A291床直	11.0	8.0	6.3	653.0		凝灰岩 (盛岡近郊)
44	644	磨石	R A291 Q2埋土下	9.9	6.5	3.2	201.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
128	645	磨石?	R A236埋土	4.4	3.6	3.1	38.2	自然石か?	安山岩 (奥羽山地)
73	646	磨石?	R D399埋土中	6.2	2.5	3.0	22.9	被熱	頁岩 (盛岡近郊)
545	647		R D440-442	4.0	3.2	1.9	36.7		
76	648	石皿?	R D489埋土上	11.9	9.3	9.5	1608.0		安山岩 (奥羽山地)
31	649	磨石	R D657	9.1	6.9	1.9	110.0		安山岩 (奥羽山地)
32	650	凹石	R D737底面	16.1	14.0	8.8	2132.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
33	651	凹石	R D789 Q3埋土上	14.7	10.3	8.2	1218.0		安山岩 (奥羽山地)
136	652	剥片	R E027埋土	2.5	2.2	0.8	4.2		頁岩 (盛岡近郊)
22	653	石斧?	R E034埋土	19.5	14.4	4.6	1382.0		はんれい岩 (盛岡近郊)
23	654	磨石・敲石	R E034埋土	10.2	5.7	4.0	291.0		泥岩 (盛岡近郊)
137	655	原石	R E036埋土下	3.0	3.3	2.0	21.0	石質に注意して報告した	めのう〔玉ずい〕 (盛岡近郊)
71	656	石皿	R G084ベルト内	19.0	16.9	8.8	2631.0		安山岩 (奥羽山地)
50	657	R. F.	R G073	5.6	4.2	0.8	17.9		頁岩 (盛岡近郊)
38	658	U. F.	R G073埋土中	8.4	4.4	1.4	40.6		頁岩 (盛岡近郊)
63	659	R. F.	R G073	2.6	3.4	0.7	13.7		頁岩 (盛岡近郊)
39	660	U. F.	R G073埋土中	3.5	3.8	1.0	7.2		頁岩 (盛岡近郊)
13	661	石皿?	R G198埋土	14.1	8.9	8.5	1753.0		安山岩 (奥羽山地)
585	662		R G198埋土	10.6	8.9	4.7	572.0		
16	663	磨石?	R G198埋土	16.0	8.2	7.5	573.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
19	664	石皿	R G198埋土	13.4	14.1	8.2	839.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
74	665	石鏃	R G199ベルト内埋土上	1.8	0.9	0.4	0.6		頁岩 (盛岡近郊)
20	666	石皿	R G236埋土	24.4	16.7	9.4	2126.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
588	667	硯	ﾌﾞﾚｯﾄﾞ前溝	9.7	9.8	6.4	150.0		
126	668	石皿?	R I002埋土下	11.4	7.3	9.7	570.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
78	669	磨石・凹石	R I005埋土上~中	11.7	10.0	4.6	585.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
75	670	磨石?	R I006埋土中	15.7	14.1	9.7	2298.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
80	671	石皿	R I006埋土中	20.1	15.7	9.9	1904.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
68	672	磨石?	R Z012 S-23	18.0	13.4	9.2	2928.0	被熱	安山岩 (奥羽山地)
66	673	磨石	R Z012 S-19	7.9	4.9	3.0	158.0		安山岩 (奥羽山地)
70	674	石皿?	R Z012 S-18+24	20.3	14.7	9.4	3295.0	被熱	安山岩 (奥羽山地)
65	675	自然礫	R Z012 S-3	11.8	9.5	4.4	642.0	被熱・付着物あり	デイサイト (奥羽山地)
82	676	自然礫	R Z012 S-20	17.5	12.8	8.5	1801.0	被熱・付着物あり	デイサイト (奥羽山地)
67	677	磨石?	R Z012 S-22	14.2	7.7	8.5	1015.0	被熱	安山岩 (奥羽山地)
21	678	凹石	R Z014埋土	18.5	19.0	10.4	2741.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
1	679	敲石	R G198・R Z016内集石 S-13	17.9	9.5	5.1	1112.3		ホルンフェルス (盛岡近郊)
36	680	磨石	R G198・R Z016内集石 S-48	8.6	7.3	4.5	332.0		安山岩 (奥羽山地)
5	681	磨石	R G198・R Z016内集石 S-46	10.3	7.6	3.7	377.0		安山岩 (奥羽山地)
37	682	石皿	R G198・R Z016内集石 S-73	13.4	14.7	8.1	864.1		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
7	683	磨石	R G198・R Z016内集石 S-27	12.5	8.3	4.6	659.6	付着物あり	安山岩 (奥羽山地)
14	684	磨石	R G198・R Z016内集石 S-57	15.4	11.1	7.8	1830.0	被熱	安山岩 (奥羽山地)
3	685	磨石	R G198・R Z016内集石 S-38	11.3	9.7	7.3	960.4		安山岩 (奥羽山地)
18	686	磨石	R G198・R Z016内集石 S-69	12.4	12.3	8.5	1525.0	被熱	安山岩 (奥羽山地)

仮番	番号	器種	出土地点	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴その他	石質 (産地)
				長さ	幅	厚さ			
2	687	磨石	R G198・R Z016内集石 S-17	13.9	8.9	7.4	1017.7		安山岩 (奥羽山地)
6	688	砥石	R G198・R Z016内集石 S-21	15.5	14.3	10.4	1870.6	被熱	デイサイト (奥羽山地)
9	689	磨石	R G198・R Z016内集石 S-53	10.0	9.8	7.3	871.4		安山岩 (奥羽山地)
161	690	磨石	R G198・R Z016内集石 S-60	12.7	13.3	8.0	1380.0		安山岩 (奥羽山地)
10	691	石皿	R G198・R Z016内集石 S-67	21.8	12.9	13.6	3428.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
81	692	自然礫	R G198・R Z016内集石 S-75	13.6	6.7	4.6	3633.0	被熱・付着物あり	デイサイト (奥羽山地)
17	693	石皿?	R G198・R Z016内集石 S-68	22.7	15.3	9.1	3249.0	付着物あり	安山岩 (奥羽山地)
8	694	磨石?	R G198・R Z016内集石 S-49	14.2	9.9	6.6	658.6	付着物あり	砂岩 (盛岡近郊)
15	695	石皿?	R G198・R Z016内集石 S-3	14.1	11.8	7.3	2065.0	被熱	安山岩 (奥羽山地)
35	696	石皿	R G198・R Z016内集石 S-14	16.7	9.8	8.2	876.4		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
4	697	蔽石	R G198・R Z016内集石 S-41	12.3	4.6	3.1	215.0		安山岩 (奥羽山地)
12	698	磨石?	R Z018 S-3	15.7	4.4	3.3	272.2	付着物あり	デイサイト (奥羽山地)
11	699	磨石?	R Z018 S-2	16.0	5.4	5.4	570.2		閃緑岩 (盛岡市近郊)
41	700	U. F.	P343埋土中	6.9	2.4	0.9	12.2		頁岩 (盛岡近郊)
597	701		埋土上~中	5.4	3.6	2.9	43.7		
47	702	磨石	P389埋土中	8.1	9.9	5.1	327.9		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
58	703	石臼	P602	19.9	11.1	11.2	1284.0		安山岩質溶岩 (奥羽山地)
72	704	剥片	4 B Ⅲ層	10.5	8.8	3.0	211.4		頁岩 (盛岡近郊)
62	705	スクレイパー	1-C Ⅲ層	6.0	5.6	1.4	46.0		頁岩 (奥羽山地)
40	706	剥片	2-C Ⅲ層	1.8	2.1	0.7	1.8		黒曜石 (産地不明)
55	707	砥石	2-C ネコ山	13.0	6.7	5.6	679.0		デイサイト (奥羽山地)

V まとめ

23・26次の調査は台太郎遺跡の中央から南側半分を部分的に発掘したことになる。本遺跡の南側は調査の結果湿地となっていることが判明し、この湿地が遺跡としての南端部に相当することが明らかになったが、調査区の東西端は遺跡自体の東西端にそれぞれ約50m届かない。それでも広大な面積を対象とした調査であったため、遺跡南半部の様相はかなりの程度把握できると考える。ここでは代表的な遺構を中心に概説し、出土遺物の考察については26次調査の報告書に記載した。

遺 構

(1) 古代の遺構

[古墳時代末～奈良時代の竪穴住居跡]

今回の調査で検出された竪穴住居跡は23次が74棟、26次も74棟である。その時期は次のように分けられた。以下各時代毎にその特徴をまとめたい。

	古墳末～奈良時代	平安時代	中 世	不 明
23次調査	35	22	12	5
26次調査	34	34	4	2
合 計	69	56	16	7

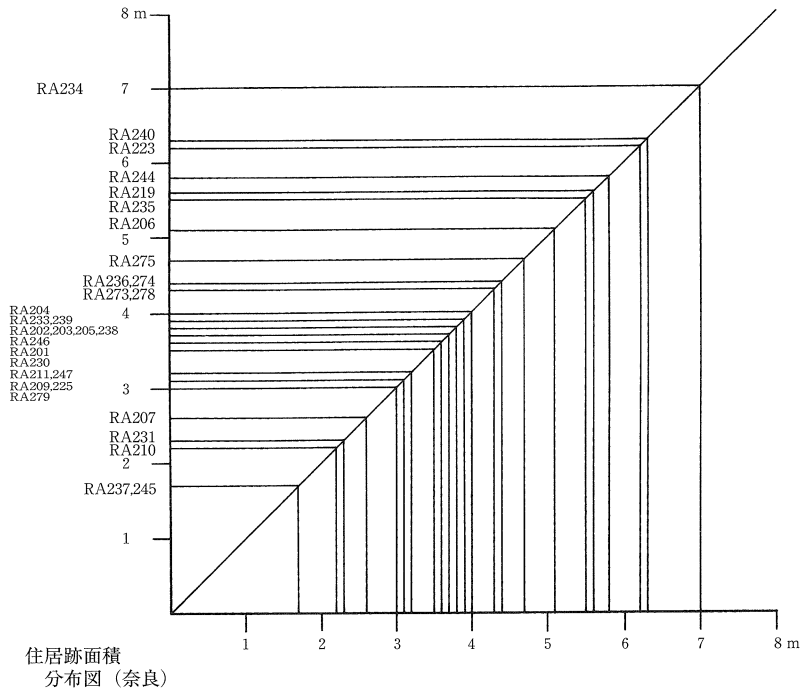
<占地>この時期の竪穴住居跡は大きく分けて遺跡西部と東部～南東部にかけて多く検出され、中央部及び南側中央部では分布が薄い。2～9棟の住居跡が一つのグループとなって分布しているように見え、そうした視点で見ると7～8の小群が想定される。相互の重複は見られず隣り合う住居跡間の距離は最小で1.5m程である。このことや出土した土器の形態的特徴から何時期かの変遷が考えられる。

<平面形・規模>長辺と短辺の差があまりなく、ほぼ正方形を呈している。規模については各住居跡の床面積の分布を下表に示した。最大はR A441の57.2㎡、最小はR A414の4.9㎡である。30㎡を超える大型の住居と8㎡に満たない小型のもの、その中間の8㎡以上30㎡未満の住居に大別され、その中でも9㎡から20㎡規模の住居が最も多い。

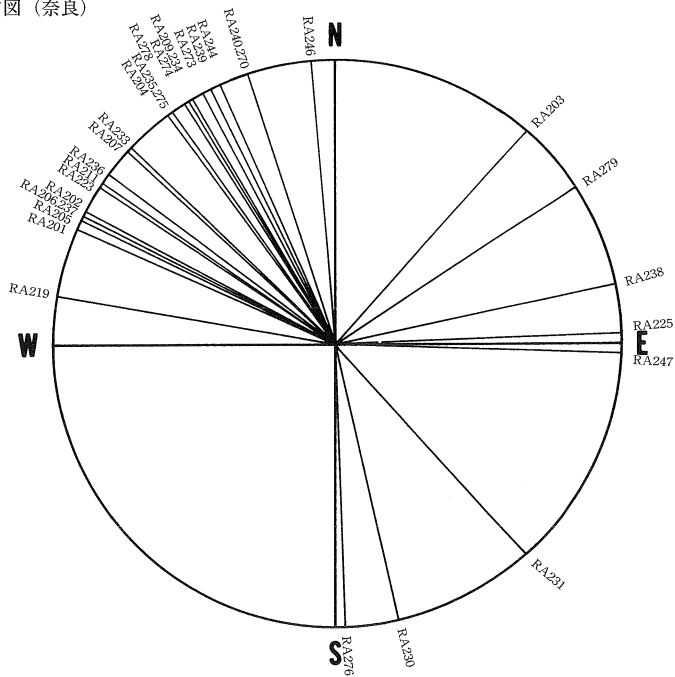
<軸方向>カマド煙道部の向きと、座標軸との角度を軸方向としている。その殆どが北西を向いており、住居を構築する際に、この方向が意識されていたようである。その一方で南東に向くものが4棟、北東に向くものが4棟みられるがバラツキが著しく例外的な存在と思われる。当初はこうした軸方向が時期的な違いを反映しているとも考えたが、出土遺物にはそういった傾向を読み取ることはできなかった。

<柱穴>確実な柱穴が検出された住居を見ると4本の柱が方形若しくは長方形に近い配置を呈する他に、不規則な場所からも柱穴が検出される例が多かった。不規則な配置をする柱穴は天井を支えること以外の機能を有していた可能性がある。

床面からも、貼床を除去してからも柱穴が全く検出されない住居も数多く存在する（R A205・207・208・209・225・231・233・402・414・448・449・458など）。とくに小型の住居に多く見られるようである。



住居跡の軸方向
分布図 (奈良)



第367図 住居跡床面積・軸方向分布図(1)

柱穴を掘らず床面に柱を据えただけとも考えられるが何れにせよ屋根を支えるために少なくとも2つの工法が用いられていたと推定される。

<カマド>基本的には北西壁の中央部に設置されている。例外的なものとしてR A 230では南東壁の南西側に、R A 231は南東壁の北東側に作られている。R A 234では作り替えが行われている。カマド本体は住居を構築する際に、カマドとなる部分を掘り残して作るものと、袖部に長さ30cm前後の河原石を2～4個立てたり土師器甕の破片を用い、これを黄褐色土で覆って作られているものがある。殆どの場合天井部は残存しないが、R A 235・442では天井部がその場で潰れたような状況で検出された。天井石が残存していた住居跡はR A 223・244である。

煙道の形態は、上部を削平され判然としないものが多いが、削り貫き式（トンネル）式の構造をもつものが主体であったと思われる。煙出し部に向かって緩やかに降下するように掘られており、煙出し部の底面は更に10～20cm深く掘り込まれているものもある。

<その他>R A 234では北東壁と南東壁にそれぞれ一つずつ不整形な掘り込みが認められた。一見土坑が重複しているようにも見えるが、このR A 234は焼失住居で焼土・炭粒の広がりがこの遺構にも同じように認められたため、住居に伴った施設であると解釈した。住居の壁とこれらの掘り込みの軸線とは方向が異なるため現時点では入り口とは考えておらず、性格不明としている。

R A 447では床面のほぼ中央を隅丸長方形に掘り込んでいる（R E 050）。床下収納的な施設と思われ、この掘り込みの南壁には階段状の施設もみられた。斯波郡では稲村遺跡にも類例がある。

<時期的変遷>この時期の住居跡から出土した土師器について、従来の土器編年を参考にしつつ形態分類を試みた。その結果大きくⅠ～Ⅳ群に分けられ、これが即ち時期差を反映していると考えられるに到った。そこで4つの群をそのままⅠ～Ⅳ期と呼び名を変え、それぞれの時期をⅠ期（7世紀代、その中でも後半が中心か）、Ⅱ期（8世紀初頭～中葉）、Ⅲ期（8世紀後葉）、Ⅳ期（8世紀末葉頃）と位置付け、該当する住居跡の分布を見たい。その際に以前実施された15・18次調査の成果も含めて見てみたい（付図）。主に遺跡北半部と南西部の広大な範囲を対象とした15・18次調査を加えることで遺跡のほぼ全域を網羅することになり、遺跡全体の集落変遷を概観する事が可能である。

この台太郎遺跡に集落が営まれる最初の段階に相当するⅠ期は、遺跡の南側と南西側を除いた地域に点在して現れる。それらの住居跡は中規模及び小規模なものを主体とし、最も大きな竪穴住居跡はR A 155竪穴住居跡（18次調査で検出）が1棟のみで、遺跡の中央部やや北東側に位置し、規模は9.0×8.3mある。各住居跡間の距離も50～80m程とやや離れて立地し、寄り添って建っているものはない。最も大きなR A 155竪穴住居跡がこの時期の住居跡の中心に位置しているわけではないが、須恵器の提瓶を伴っていることから有力者の住居と理解して大過無いであろう。次のⅡ期にはⅠ期の住居の傍やその周辺に展開していくように見られ、規模の大きな住居跡も複数出現する。本遺跡における古墳時代末から奈良時代の住居跡は決して重複することはないためⅢ期・Ⅳ期の住居跡もなるべく近くで空いている場所に建てられていくようである。また、基本的に孤立して立地している住居跡は少なく、これは例外的な存在なのであろう。

15・18・23・26次調査で検出された古墳時代末から奈良時代にかけての住居跡は7世紀代（その中でも後半が中心か）の住居跡を起点とし、そこから集落が形作られていくような分布を示す。大きく見れば遺跡の北側と東側、西側の集落に分けられ、それらはさらに各期2～5棟程の住居跡からなる4～6の小群によって形成され変遷すると推察される。

[斯波地域の遺跡分布]

あくまで位置関係で見ると、7～8世紀代の遺跡としては盛岡市百目木遺跡・西鹿渡遺跡の近くに大道西古墳群、矢町高田館遺跡・館畑遺跡・徳丹城跡の近くに藤沢えぞ森古墳群・白沢えぞ森古墳群がある。その一方、台太郎遺跡他隣接する該期の遺跡群（野古A・熊堂B遺跡など）の近くでは飯岡沢田遺跡から多数の円形周溝が検出された他、飯岡才川遺跡も近く、大いに関係があると思われる。台太郎遺跡の西方には太田蝦夷森古墳群が知られるが、この古墳群の近くにはある程度の規模を持つ集落の調査事例は今のところない。

[平安時代の竪穴住居跡]

＜占地＞検出された56棟は全て遺跡の西端に近い地点（3-D区周辺）及びその南側（4-C～5-B区）から密集して検出されている。この地区は他の調査区よりも標高にして1m弱だが高い面である。なお、この時期の住居跡は遺跡南半部に於いては中央より南側及び東側には殆ど展開しないといった傾向がみられる。相互の重複も何例か認められ、この場所にこだわって暮らしていたという印象を持つ。

＜平面形・規模＞ほぼ正方形を呈しており、長辺と短辺の差があまりない。規模については各住居跡の床面積の分布を下表に示した。最大はR A 430の50.0㎡、最小はR A 422の4.7㎡である。35㎡を超える大型の住居と10㎡に満たない小型のもの、その中間の10㎡以上35㎡未満の住居に大別される。時期的な変遷を度外視してみれば大型の住居1棟に対し中・小型の住居が各2棟前後で構成されていたように分布している。

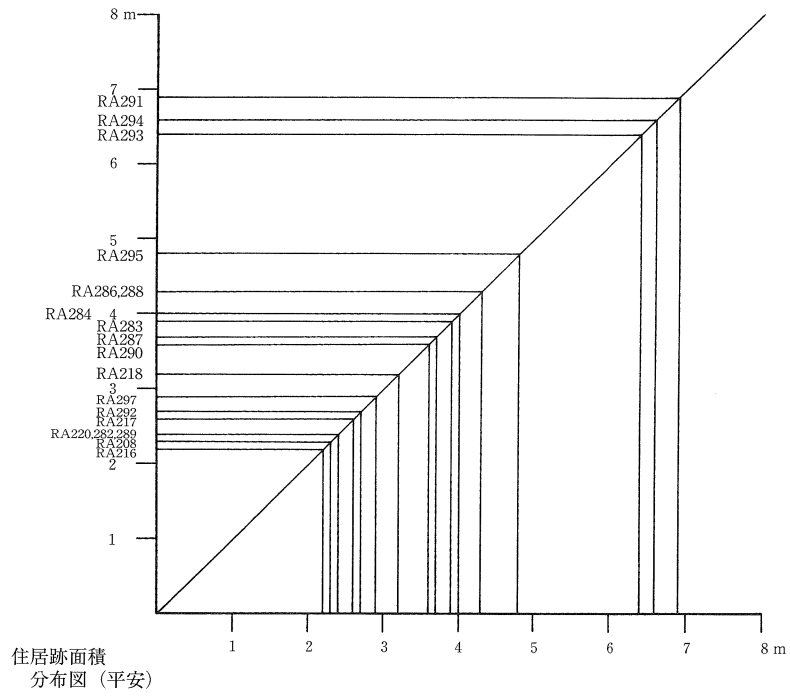
＜軸方向＞カマド煙道部の向きと、座標軸との角度を軸方向としている。北西を向いているもの、北東を向くもの、南東壁に設置されているものとに大別される。当初はこうした軸方向が時期的な違いを反映しているとも考えたが、住居間の重複のため出土遺物も互いに混じった可能性があり、そういった傾向を把握することができなかった。

＜柱穴＞確実な柱穴が検出されなかった住居跡は14棟あり、小型の住居跡に多い傾向がある。その他の住居跡からは床面若しくは貼床を下げた段階で複数の柱穴を検出した。R A 282・297では柱穴は壁に接する4隅から検出されているが、その他の住居跡では配置が乱れておりどれが主柱穴なのか判別できないものが多い。この中には時代の違う柱穴が含まれているが区別はできなかった。

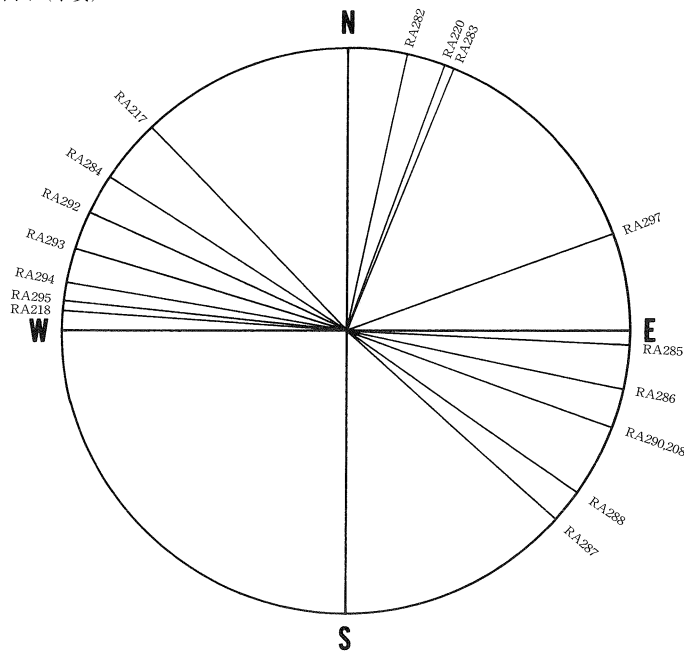
＜カマド＞基本的には壁の中央部に設置されているが、そうでない住居跡も多く見られる。R A 291では6基作り替えが行われているし、R A 403・415・430など大型の住居跡での作り替えが多いようである。カマド本体は住居を構築する際に、カマドとなる部分を掘り残して作るものと、袖部に長さ30cm前後の河原石を2～4個据え付けたり土師器甕の破片を用い、これを黄褐色土と黒褐色土の混合土で覆って作られているものがある。今回の23・26次調査では後者が多かった。殆どの場合天井部は残存せず天井石が確認できたものはない。

煙道の形態は、上部を削平され判然としないものが多いが、削り抜き式（トンネル）式の構造をもつものが主体であったと思われる。煙出し部に向かって緩やかに下るように掘られており、煙出し部の底面は更に10～20cm深く掘り込まれているものがある。煙出し部の埋土中には10～30cm程の河原石や須恵器甕の破片が多く含まれている場合もあり、これに関しては地表に組まれていたものが廃絶時に中へ落ちたと思われる。

＜埋土＞埋土中に白色の火山灰（T o - a）を含んでいたものはR A 215・220・282・285・288・291・295・403・415・437・440がある。廃絶し埋まりかけた住居に直接降下しレンズ状に堆積したのではなく二次的な堆積と判断される。何れも十和田a火山灰の降下年代より新しい。



住居跡の軸方向
分布図 (平安)



第368図 住居跡床面積・軸方向分布図(2)

<時期変遷> 今回の23・26次調査に加え当センターで実施した15・18次調査に於いても9世紀初頭に位置付けられそうな遺物を有する住居跡は検出されていない。遺跡全域を調査したわけではないが広大な面積を調査し300棟以上の平安時代の住居跡を検出していることから8世紀末以降に一旦、集落の断絶が想定されそうである。出土した土師器・須恵器の特徴から9世紀後半-R A 283・284・287・288・293、9世紀後半～10世紀前半-R A 291、10世紀前半-290と想定されたが他の住居跡については出土遺物が少なく時期の特定を控えた。

[古代の掘立柱建物跡]

出土遺物は無いものの形態と周囲の遺構分布からR B 029・040を平安時代の掘立柱建物跡と判断した。

<位置> 平安時代の住居跡が密に分布する遺跡西側と南西側から各1棟が検出された。R B 029は、すぐ西側と南側が未調査区であるため、そちらに同様の遺構が展開している可能性がある。

<形態> 2間×2間で中央に2本ないし1本の柱を配す総柱の建物跡を想定している。円形の比較的大きな掘り方を持ち、R B 029では何れからも柱痕が確認され、その柱痕は径20cm前後である。R B 040では北側に入り口とみられる梯子の柱穴も確認された。

<柱間寸法> R B 029では7.2尺から7.6尺が用いられているが、恐らく15尺四方の建物を意識して構築されているのだと思われる。R B 040は6.0尺を基準としている。

<軸方向> 平安時代の住居跡と基本的に同じである。R B 029の場合、北東方向であればR A 220・283・295などが該当する。

(2) 中世の遺構について

今回の調査で中世に属する遺構は竪穴建物跡16棟、掘立柱建物跡9棟、墓壙366基、竪穴状遺構6棟、焼土・炉跡32基、堀跡3条、井戸跡4～5基、性格不明遺構5～7基である。時期を特定できなかった遺構の中にも中世に属するものが多々あると思われる。

先述したように23・26次の調査は台太郎遺跡の中央から南側半分を部分的に発掘したことになる。本遺跡の南端は調査の結果湿地となっていることが明らかとなり、調査区の東西端は遺跡自体の東西端にそれぞれ約50m届かない。ただし広大な面積を対象とした調査であったため、遺跡南半部の様相は概観できると考える。

[各遺構の相互関係]

<堀に囲まれた施設>

本遺跡の南端中央部、グリッドでいうなら4 A区に諏訪神社の小さな社がある。(時期ははっきりしないが隣接する家で個人的に祀ったものようである。それが今ではこの地区の社となっており、お盆には神楽を催されたりしている) この諏訪神社の周辺を発掘したところ、あたかも神社を取り囲むかのように堀跡R G 083・084が検出された。遺跡の南端に広がる湿地からコの字形に堀を巡らせており、自然地形を生かしつつ堀で区画された空間を作りだしていた。2条の堀には時期差が存在すると考えられR G 083よりR G 084が新しい。基本的に湿地の広がる南側からは人の出入りはないと思われ、仮にこの湿地に面した南西側を裏手と見れば、正面は反対の北東側ということになる。この北東側を走る堀のほぼ中央部だけ未調査区域として残っているが、この部分が堀に囲まれた空間への入り口(橋)の可能性はある。因みにこの未調査区域は現在も諏訪神社に通じる小さな道路となっている。

堀に囲まれた内部からはR B022が検出された。その殆どが現在諏訪神社の建っている未調査区に延びているため詳細は不明であるが、建物の南西隅を調査したといえそうである。堀の内部に位置していること、2条の堀との位置関係、建物の軸方向は堀の走る方向とほぼ同じであることなどから。堀R G084と同時存在の遺構と考えたい。

堀の深さは現地表面からでも1.2～1 m程と浅い。堀内部も約1000～1500㎡しかなく方形居館とは考え難い。現時点では堀には俗世と堀内部との境界という意味を持ち堀内部に建てられたR B022は外界から区画された御堂のような性格を想定している。

<共同墓地>

前述した堀に囲まれた施設から東側約50mのところ（調査区でいうと3 B・4 B区を中心とした地点）から多数の墓壙が検出された。この地域の現況は休耕田で石塔や墳丘といった痕跡が一切残っていなかった。平面形は方形或いは長方形を呈する土壙墓が主体を占める他、火葬墓も3基検出されている。埋土は何れも人為堆積で、銭貨を伴っているものもある（R D298）。366基もの墓壙は3 B区を中心に密集して検出され、互いに激しく重複していた。長軸方向も概ね南北方向か東西のどちらかを向くものが殆どで、埋葬する際には方位を意識していたと推測される。上記のことから、この場所を墓地として利用していたと思われる。墓地の範囲は当初、西側は堀R G083・084のあたり、東側はR G203まで、南側はR A241・243・248・249などが並んで検出されるところ、北側はR Z001の南側約5 mに見られる柱穴群、これらに囲まれた内側であったと思われる。それが次第に飽和状態となっていくR G203の東側やR A241・243・248・249の南側といった周辺にも展開していくのか或いはまた、R G203を境界としてその東西に墓地が分かれて使われていた可能性とが推測される。但し共に考古学的根拠は乏しい。検出された墓壙の数は埋葬された人が多かったこと、長い期間にわたって墓地として利用されていたことを反映するものと思われる。また墓壙には殆ど遺物が副葬されていない。銭を伴っていたものが3例あるだけで、陶磁器類も墓壙群の近辺及び埋土に混入したような出土状況を呈する。こうしたことから、複数集落の一般庶民が利用していた墓地であったと解釈したい。時期については墓壙から出土した銭貨は北宋銭が多く中世後半の明銭は出土していないこと、墓壙近辺から出土した陶磁器の年代観から13世紀後半～15世紀代と広く捉え、その中でも14・15世紀が中心と考えたい。

<建物跡ほか>

墓壙群のすぐ南側と東側からは合わせて12棟の竪穴建物跡が検出されている。分布を細かく見ると大きくは3地点にわかれ2～5棟の小群をなしている。相互に重複もしていることなどからほぼ同じところで作り替えが行われ、一時期3～4棟程度で構成されていたと推測される。

墓壙群より南側・南東側からは竪穴建物跡の他に、炉跡や性格不明遺構などが検出されており、更に南側は湿地となって遺構は見られなくなる。R Z012からはロクロかわらけが出土している。

R B026も墓壙群のすぐ南側にあつて、R A241・243・248・249の並びに位置している。周囲には多数の柱穴が密に分布しており、建物跡がもっとあつた可能性が高い。

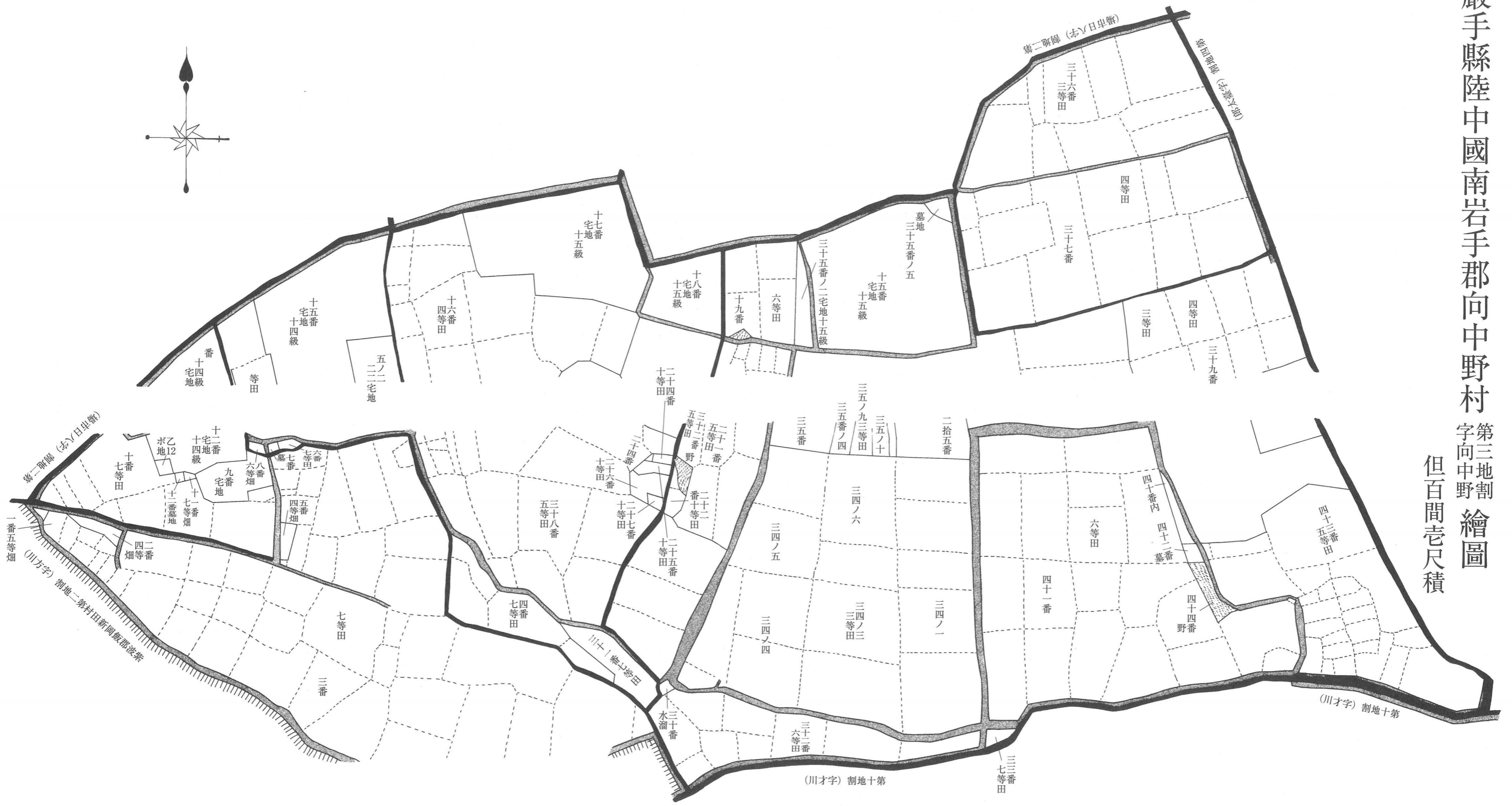
本遺跡は奈良・平安時代の大集落でR Z018・027のような遺構を検出すると古代の円形周溝と考えてしまう。中世のある段階において円形に巡る溝の内側に御堂のような建物をもつた遺構ではないかとも思ったが、柱穴の配置は規則性を見出せず、建物を推定できなかった。

このように墓壙群の南側及び南東側には中世のある段階には竪穴建物跡や掘立柱建物跡、炉跡、井戸跡などが存在し人が住んでいた可能性がある。

墓壙群から東へ約120mとやや離れたところ（調査区でいうと4 E区を中心とした地点）にも柱穴群や土

巖手縣陸中國南岩手郡向中野村 第三地割繪圖

字向中野 但百間壹尺積



第369図 明治前半頃の繪圖

坑が検出された（451青磁碗が出土）。その分布はすぐ西側の未調査区域に広がっていくと推測される。

同じく墓壙群から北東へ150m程離れたところ（調査区でいうと2E区を中心とした地点）からはR B027が検出されている。本遺跡の15次調査ではこのR B027の北側約50mの地点に於いてR B002・003・004を検出している。棟方向は概ね直交するようで両遺構の間に残る未調査区域にも同様の遺構が点在していると思われる。

26次調査では遺跡南西部にあたる5-Bグリッドを中心とした地区から、中世の遺構群が確認された。規模の大きな掘立柱建物跡R B035・037・038・039とそれに付属する小型の掘立柱建物跡R B036・041がある。プラン的には重複する建物もあることから最低2期以上の変遷が想定できるが、建物に使った柱穴が重複しているわけではないので具体的に示すことは困難である。恐らくこれらにR I012井戸跡が伴う他、何らかの宗教的施設と考えられるR Z027が建物群のすぐ西側から検出されている。何れの遺構からも遺物は出土せず時期を特定できないものの、遺構の規模から推測して地元有力者の屋敷跡と思われる。ほぼ全域を調査したことになると考えているが、未調査区域である西側のにも遺構群は展開するかもしれない。

<環濠>

R G264堀跡は本遺跡のほぼ中央2A～1C区にて検出された。途中未調査部分もあるが西南西-東北東方向へほぼ直線的に98m程検出され両端は更に調査区外に延びている。遺構の時期を特定できるような遺物の出土はなかったが本遺跡の第15次・18次等では中世の環濠と見られるR G042に囲まれた集落が検出されており、本堀跡はこの環濠南辺の外側（南側）約20mに位置し、並行して走っている。このことからR G264もR G042と同様に環濠で同時存在或いは作り替えられたと考えられる。つまりは環濠R G042の南側にもう一条本堀跡R G264が巡っていたか、或いは環濠の拡張・縮小によるもの等が考えられる。

<地籍図から>

本遺跡の位置する盛岡市向中野地域の地籍図（第369図）と検出された遺構とを見比べてみたい。地籍図は明治12年から22年頃のものと思われるが宅地、耕作地、道路、水路などは基本的に現在と変わっていないことが見て取れる。

現在、諏訪神社の小さな社の建っているのは向中野村字向中野の二十五番・二十六番のあたりになるはずだがこの地籍図には田畑としか記載されていない。この神社を取り囲むように検出されたR G083・084堀跡は字向中野の二十二番（田）、二十三番、二十四番（畑）、二十五番（田）、二十六番（畑）、二十七番（田）に位置し、この部分だけが他と異なり細かく地割されている。中世の墓壙群は三四ノ五の北側に相当しこの時点で既に今と同じ水田となっている。環濠の一部と思われるR G264は十九番（田）と十五番（宅地）の共に北端部と道路との境部分にて検出されたことになる。本遺跡の南端部は湿地であることが確認されたが、この地籍図では二十八番、二十九番、三十四番ノ三、三十四番ノ四などになり、当時も水田として利用されていたことがわかる。

中世の遺物が少ない上に遺構に伴っているものが少ないため具体的な年代観を示せないが、今回の調査で検出された当該期の遺構の位置関係と変遷を推定してみた。北半部の様相は他の報告書の発刊を待ちたい。

[中世の墓壙について]

本遺跡南側の中央部から南端にかけて、今回の調査区で言えば3B・4B区にあたる地点を中心に330基の墓壙が検出された（第16図・写真図版101）。本遺跡の中央部南端には湿地が広がっており、この湿地のすぐ北側に多数の墓壙が密集する場所（3B・4B区）がある。出土遺物、密集して分布する状況と互いに激しく重複するさまからこの地が中世の墓域であったことが明らかとなった。今回の調査は広い範囲を対象と

していたため結果、墓域のほぼ全域を発掘することとなり、東西及び南北側への墓壙群の展開は殆ど把握できたことになる。北側に未調査区域が残っているが墓壙はそれほど分布しないと思われ、むしろここには建物跡や田畠が展開するのではないかという印象を持つ。

検出された中世の墓壙は土坑墓と火葬墓（茶毘施設の可能性もある）で、9割以上が土坑墓である。静岡県一の谷中世墳墓群では888基の墓が検出されている。墓の種類も墳墓、「コ」の字形区画墓、土坑墓、集石墓などがあり、その種類・葬法は中世における墓制の大半が営まれていたといっても過言ではない遺跡である。この遺跡では集石墓が約半数にあたる429基検出されており、集石墓こそ中世における基本的な墓制であったと位置付けている。台太郎遺跡では明らかに集石墓と認定できる遺構は検出されておらず、今後未調査区を調査したとしても集石墓はないであろう。耕作地として近年利用されていたために墓の上部構造について何一つ成果を挙げることはできないが、本遺跡では集石墓、「コ」の字形区画墓といった墓制の営まれた形跡は認められなようである。

<墓壙の分類>

これらの墓壙を規模、形状から次のように分類してみた。（分類は全体規模を把握できる土坑墓を中心とし、各分類は観察表にも記載した）はじめに墓壙検出面での規模（面積：m²）をもとに以下のように大別した。

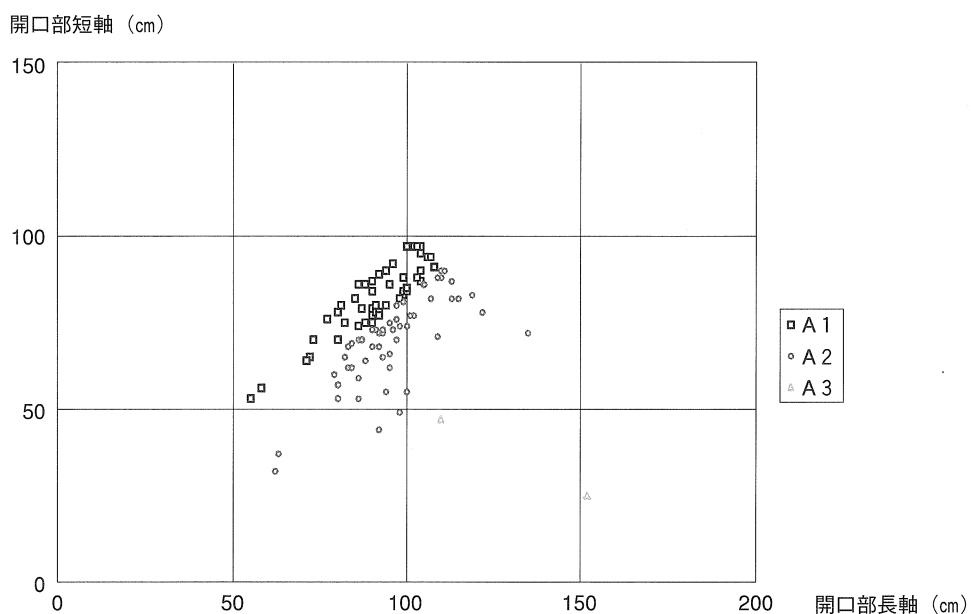
A類…小型のもの（規模が1 m²未満の墓壙）

B類…中型のもの（規模が1～2.5m²の墓壙）

C類…大型のもの（規模が2.5m²以上の墓壙）

これらを更に形態により次のように細分した。

中世墓壙計測値（小型）



- 1 類…方形（円形や不整形を一部含む。長軸／短軸が1.0～1.2未満）
- 2 類…長方形（楕円形や不整形を一部含む。長軸／短軸1.2～2.2）
- 3 類…短軸に対し長軸の割合の大きい長方形（長軸／短軸2.2～）

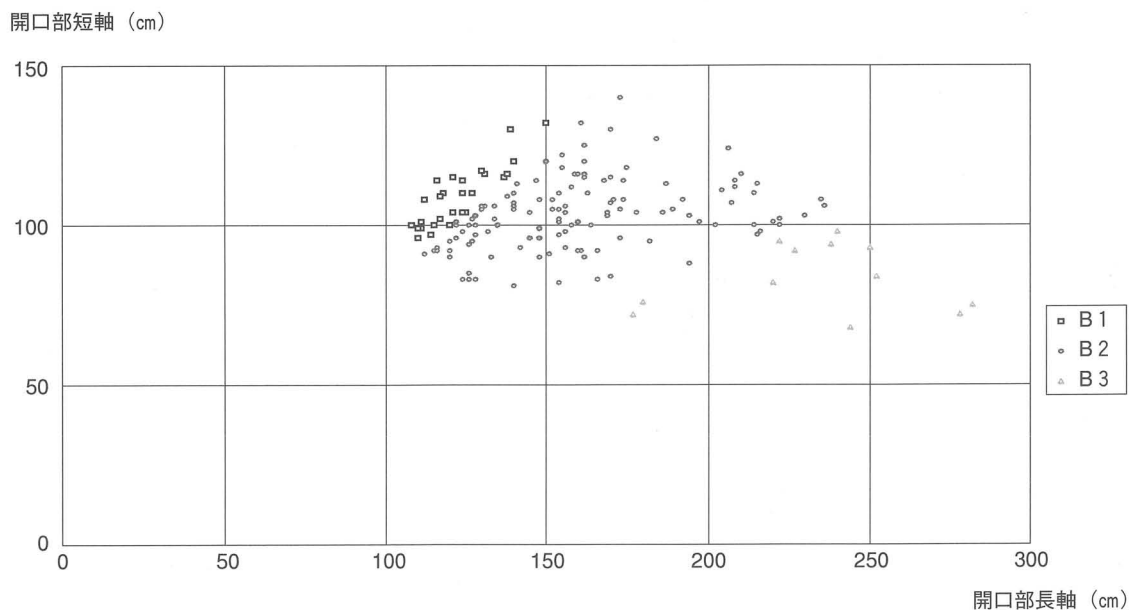
A 類…小型の墓壙であるため、重複により分類不能になったり、失われたりしているものもあると思われる。A 1 類は基本的に隅丸方形プランが主体である。円形プランの R D 713 は火葬墓であった。今回の調査で検出された中世の火葬墓は何れも A 類に分類された。A 1 類（方形基調）と A 2 類（長方形基調）の数はやや A 2 類が多い程度である。これは B 2 類が B 1 類より圧倒的に多いこと、C 類でもそうした傾向が見られることとは若干異なった特徴といえる。

B 類…中型の墓壙と分類した本類の中でも B 2 類（長方形基調）のものが、分類可能な墓壙全体の約半数を占めている。B 2 類と次に数の多い A 2 類とが本遺跡で検出された中世墓の最も代表的な形状といえ、規格性も強い。他の事例を見てもこうした形状の墓壙が一般的であるといえる。

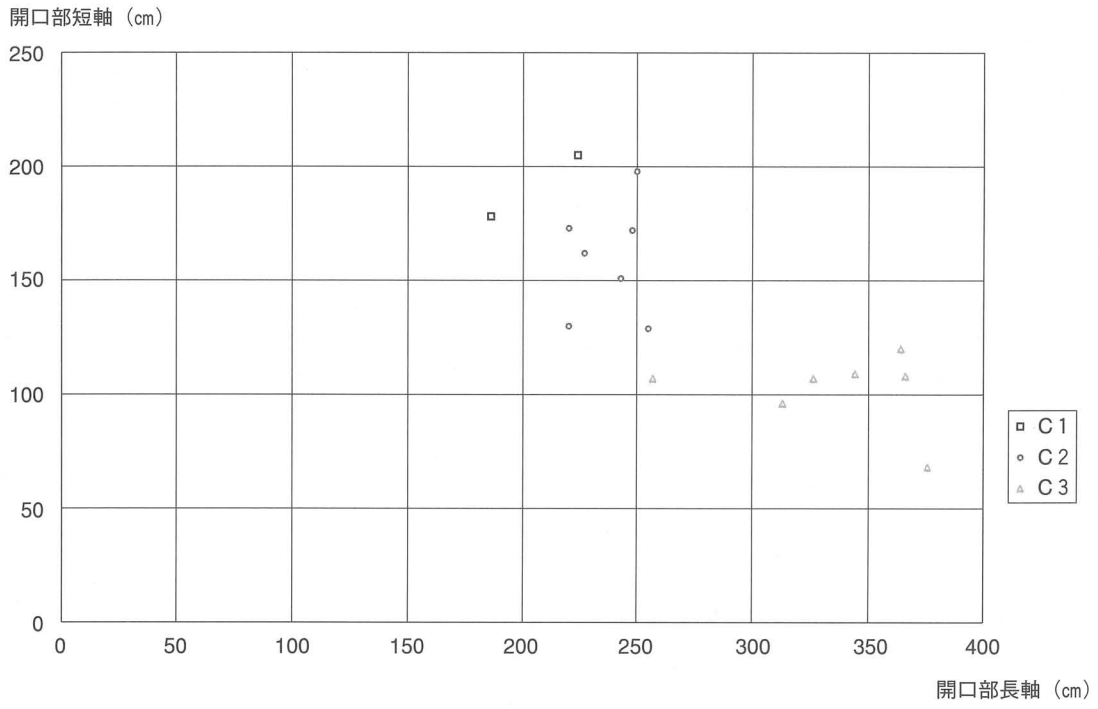
C 類…A・B 類に比べて検出数が少なく本遺跡では例外的な存在である。C 1 類・C 2 類などは基本的に B 1 類・B 2 類をひとまわり大きくした形状である。単純に一人を埋葬するのに墓壙 1 基とするならば C 類はやや大きな墓壙といえる。

A 3・B 3・C 3 類…短軸に比べて長軸が極端に長いという特徴をもつ墓壙は、本遺跡の中でも 21 基検出されている。形状は隅丸の長方形或いは長軸の細長い楕円形が主体である。検出面は他の墓壙と同一であるのに極端に掘り込みが浅い。掘り込みの浅い墓壙は他にも見られるが、本類の墓壙は一様に浅く 30cm 以下のものでも占められ、中には R D 303・304 のように 10cm に満たないものも目立つ。このような墓壙は仙台市柳生台畑遺跡や栃木県の田間東道北遺跡や横倉宮ノ内遺跡などで検出されたものに類似しているが、本遺跡のものより掘り込みの深い事例もあるようである。

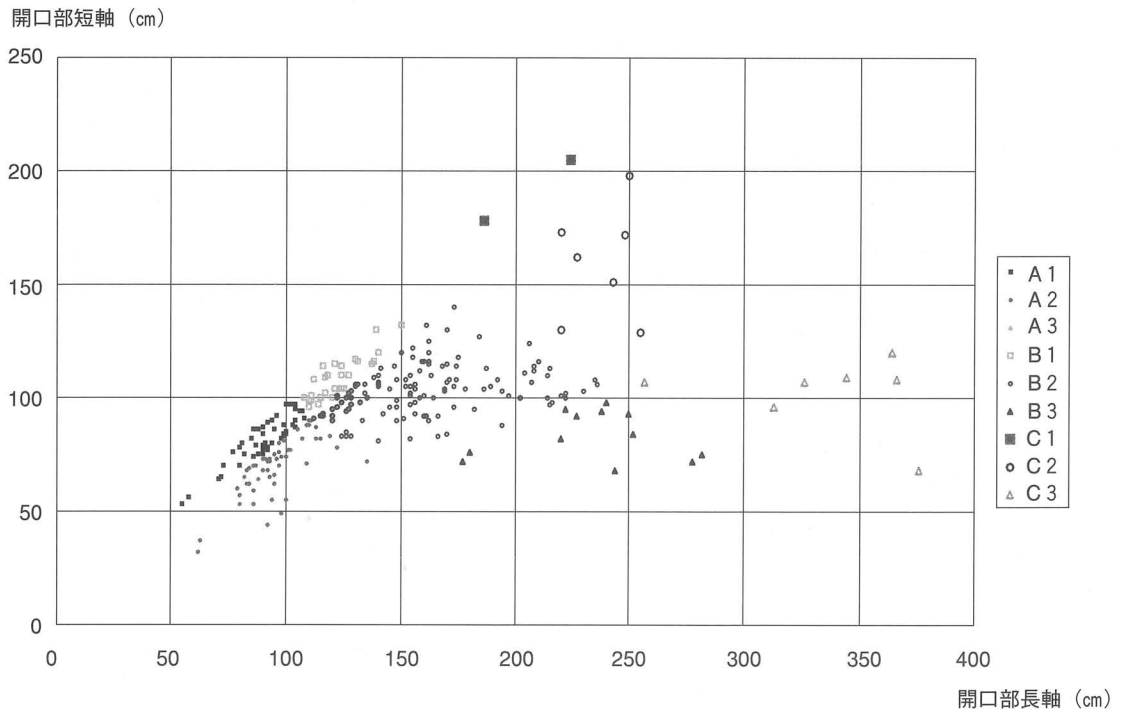
中世墓壙計測値（中型）



中世墓壇計測値 (大型)



墓壇計測値



墓壙の形態や規模の違いが埋葬のされかた及び埋葬された人の体格などによって変化するのであれば、形態の違いは埋葬方法に、大きさは被葬者に関連があるのであろうか。そうするとA3・B3・C3類といった短軸に比べて長軸が極めて長いという特徴をもつ墓壙は、基本的に遺体の足を延ばしてそのまま寝かせたものと考えられ、掘り込みが浅いのもそのためであらうと推察される。

<方向性>

墓壙の長軸方向で計測した方向は第371・372図に示した。概ね南北あるいは東西方向を向いているものが主体を占めており、それから外れるものは例外的である。方向についてより具体的に見ると、厳密に南-北あるいは東-西方向を指すのではない。南-北方向でいうなら東西に20°程幅をもった中に入る感じで、東-西方向も同様である。南北と東西方向のものはほぼ同じ割合のようで、分布にも傾向を見出せない。ただA3・B3・C3類（長軸が極めて長い墓壙）などは南北方向を向くものがやや多い傾向がある。墓壙の方向性については墓域内を南北に走るRG203溝跡や墓域のすぐ西側で検出された「コ」字状に巡る中世の堀（RG083・084）の軸線と共通する印象を持つ。それに隣接する竪穴建物跡の長軸方向も同様である。何れにせよ墓壙を造る際には方位を意識していたとみられるが、それは厳密な東西南北ではなく当時の地形やこの地の景観にも影響された感覚的な方位であったと思われる。

<時期>

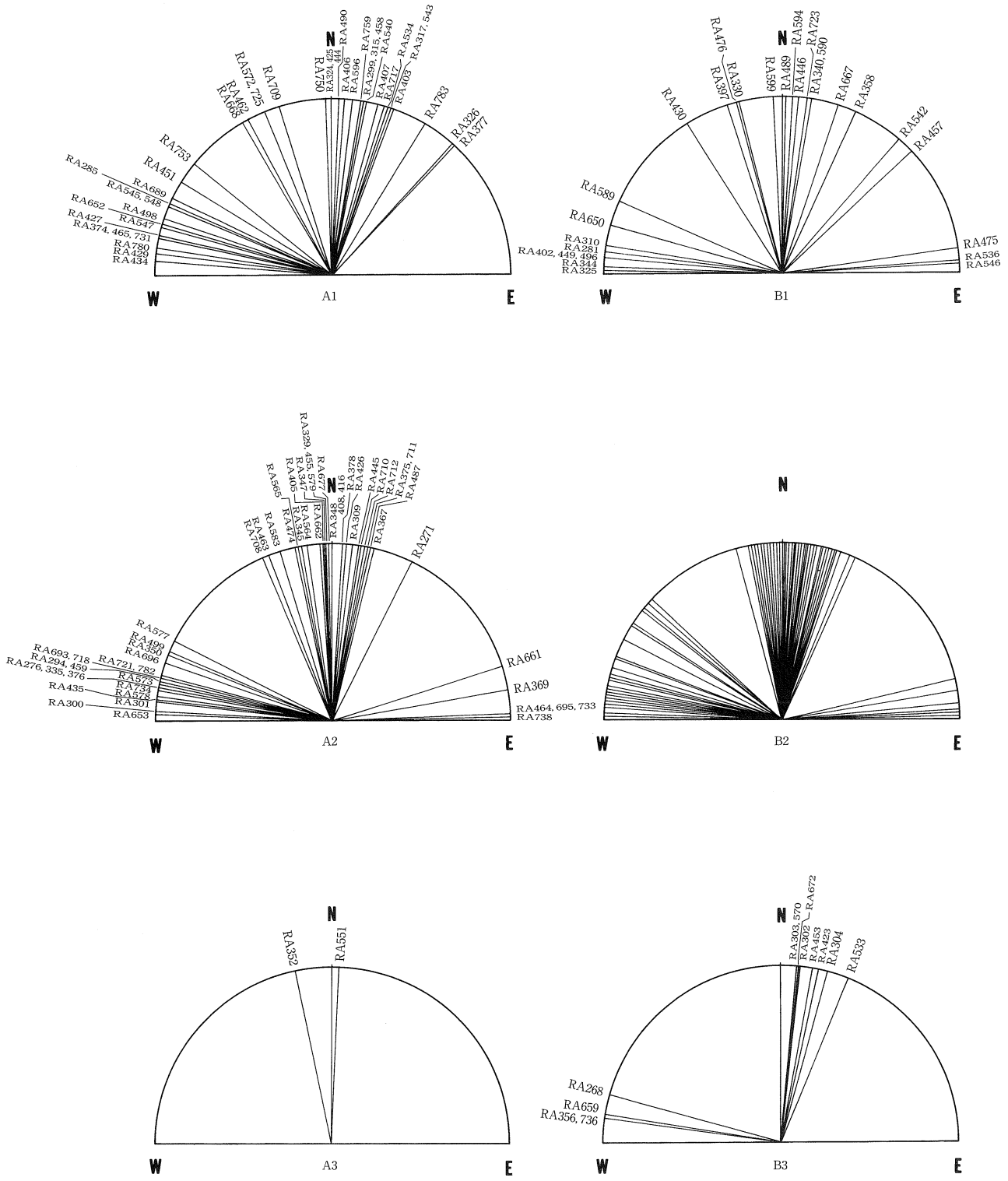
これらの墓壙の時期を判断する遺物、とくに陶磁器類の出土は皆無といって良い状況である。但し出土した銭貨をみると「永楽通寶」など一般に15世紀以降に多く流通する明銭を伴った墓壙はみられなかった。墓壙群が密に分布する3B・4B区で出土した陶磁器類は主に13世紀後半から15世紀代のもので占められ、染付は出土していない。こうしたことと、墓壙の数や激しく重複する様相から土坑墓群は年代幅を持たせて14・15世紀を中心とし、13世紀後半から15世紀代にかけて営まれ続けたものと解釈したい。

<墓壙の性格>

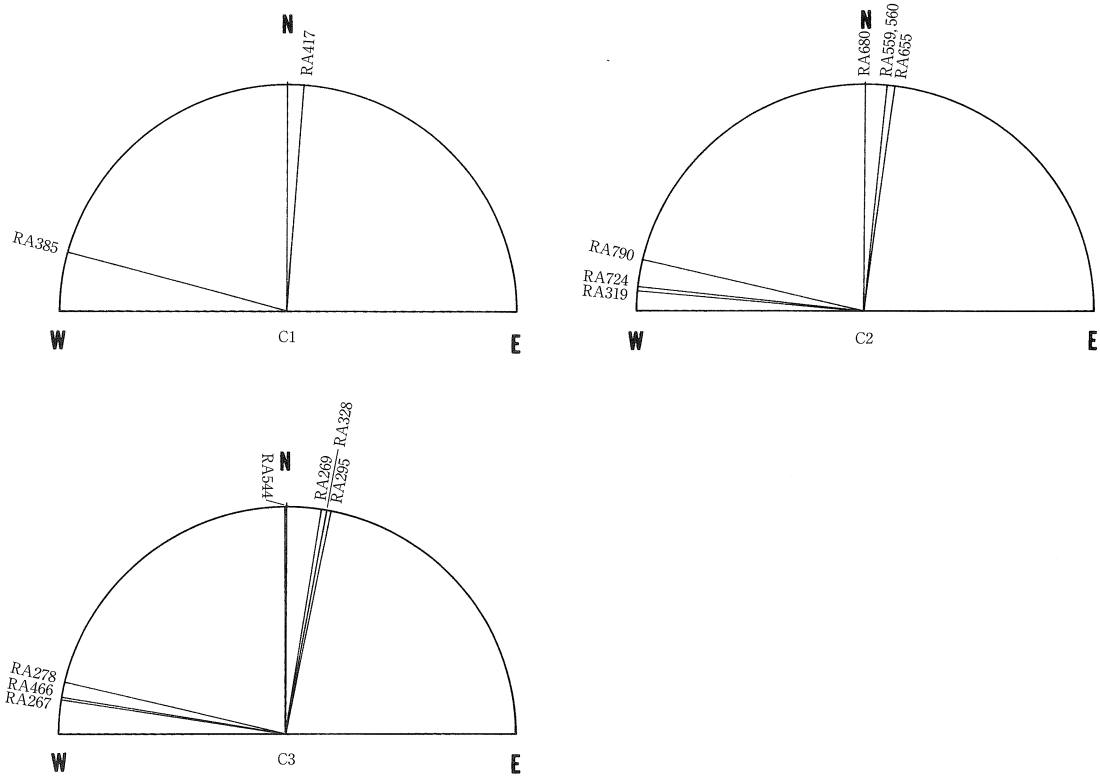
先にも触れたが、検出された墓壙からの副葬品の出土は基本的に皆無といって良く、数基において北宋銭の出土が認められたに過ぎず甚だ寂しい状況であった。埋葬形態をみると、基本的には掘り下げた墓の中に遺体をそのまま埋葬していたようで、墓壙底面に何か敷いていたとか、棺に納められていたような状況を示すものは確認できなかった。こうしたことから、ここでの被葬者は一般の庶民で、近隣の村落で使われた共同墓地的性格のもとして大過ないであろう。

墓壙の形態分類、方向性、重複関係等を整理することで墓域内での変遷や同族単位的なものを示せないかと取り組んでみたが、上手く行かず、これといった特徴を見出すことはできなかった。

岩手県内で中世のものとする墓壙の検出は紫波町墳館跡・柳田館跡、金ヶ崎町柏山館跡・館山遺跡、大東町伊勢館跡、一戸町一戸城跡・姉帯城跡、安代町水神遺跡など何例か認められるが、本遺跡のように数百基の墓がまとまって大規模な共同墓地を形成している事例は調査範囲の制約があるにしろほとんど無い。こうしたことから中世の共同墓地という性格を持つ本遺跡の例は珍しく、その上、周辺には竪穴建物跡や掘立柱建物跡、それに「コ」字状に堀を巡らせる施設など、中世の遺構が多く検出されている。城館以外の調査が少ない本県にあって城館以外の中世景観を推測することのできる例として貴重な成果といえる。



第370図 中世墓壇の軸方向分布図(1)



第371図 中世墓壙の軸方向分布図(2)

引用・参考文献

- 井上喜久男 1992 「尾張陶磁」 ニュー・サイエンス社
- 宇部 則保 1989 「青森県における7・8世紀の土師器－馬淵川下流域を中心として」北海道考古学第25
- 宇部 則保 2000 「古代東北地方北部の沈線文のある土師器」 考古学ジャーナル462
- 大橋 康二 1993 「肥前陶磁」考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
- 草間 俊一 昭和40年 「岩手県福岡町 堀野遺跡」 福岡町教育委員会
- 工藤 雅樹 平成10年 「古代蝦夷の考古学」 吉川弘文館
- 笹生 衛 平成7年 「東国における中世墓地の諸相」研究紀要16 財団法人千葉県文化財センター
- 永井久美男 1994 「中世の出土銭」－出土銭の調査と分類－ 兵庫埋蔵銭調査会
- 村田 晃一 2000 「宮城県における8世紀前後の土器」 第3回東北古代土器研究会（宮城大会）資料
- 一戸町教育委員会 1982 「一戸バイパス関係埋蔵文化財報告書Ⅱ」一戸町文化財調査報告書第2集
- 一戸町教育委員会 1999 「姉帯城跡」一戸町文化財調査報告書第41集
- 磐田市教育委員会 1993 「一の谷中世墳墓群遺跡」本文編
- 岩手県教育委員会 1980 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」岩手県文化財調査報告書第52集
- 岩手県教育委員会 1980 「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」岩手県文化財調査報告書第53集
- 岩手県文化財愛護協会 昭和49年 「内史略（1）～（4）」岩手史叢 第3巻
- （財）岩手県埋文センター 昭和52・53・54年度 「二戸バイパス関連 上田面・大淵・火行塚遺跡」岩手県埋文センター文化財調査報告書第23集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1983「館山遺跡第2次発掘調査報告書」岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986「水神遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第96集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999「台太郎遺跡第15次調査発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001「台太郎遺跡第18次調査発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第369集
- 金ヶ崎町教育委員会 1990 「柏山館跡遺跡」金ヶ崎町文化財報告書第18集
- 古代城柵官衙遺跡検討会 1992 「古代斯波郡と爾薩体の土器様相」第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料
- 古代城柵官衙遺跡検討会 1998 「東北地方の古代集落」第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料
- 古代の土器研究会第4回シンポジウム 1996「古代の土器研究－律令土器様式の西・東4 煮炊具－」古代の土器研究会
- 古代の土器研究会第5回シンポジウム 1997「古代の土器研究－律令土器様式の西・東5 7世紀の土器－」古代の土器研究会
- （財）瀬戸市埋蔵文化財センター 2001「戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品」（財）瀬戸市埋蔵文化財センター設立10周年記念シンポジウム・講演会資料集
- 仙台市教育委員会 昭和57年 「栗遺跡」仙台市文化財調査報告書第43集
- 仙台市教育委員会 1998年 「柳生台畑遺跡」仙台市文化財調査報告書第230集
- 大東町教育委員会 1984 「伊勢館－昭和57年度伊勢館遺跡発掘調査報告書」大東町文化財調査報告書第8集
- 滝沢村教育委員会 昭和62年 「諸葛川遺跡」滝沢村文化財調査報告書第4集
- 滝沢村教育委員会 昭和62年 「高柳遺跡」岩手県滝沢村文化財調査報告書第7集
- 滝沢村教育委員会 平成元年 「高柳遺跡 室小路Ⅱ遺跡」岩手県滝沢村文化財調査報告書第9集
- 東北中世考古学会 平成11年 「東北地方の中世出土貨幣」東北中世考古学会第5回研修集会資料集
- 都南村教育委員会 1979 「岩手県紫波郡都南村 百目木遺跡発掘調査報告書」
- 都南村教育委員会 1981 「西鹿渡遺跡発掘調査報告書」
- 都立学校遺跡調査会 1990 「白鷗」
- 南部叢書刊行会 昭和三・四年 「南部叢書」第2・5冊
- 日本考古学協会1997年度秋田大会「蝦夷・律令国家・日本海」－シンポジウムⅡ・資料集－ 日本考古学協会1997年度秋田大会実行委員会
- 日本貿易陶磁研究会 1998 「貿易陶磁研究 No1-5」 六一書房
- 八戸市教育委員会 昭和63年 「田面木平遺跡（1）八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ」八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 八戸市教育委員会 平成元年 「八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ 田面木平(1)遺跡」八戸市埋蔵文化財調査報告書第34集
- 八戸市教育委員会 平成2年 「丹後平古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ 八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集
- 八戸市教育委員会 平成7年 「丹後平（1）遺跡 丹後平古墳 八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書」八戸市埋蔵文化財調査報告書第66集
- 盛岡市 平成2年 「もりおかの地名」
- 盛岡市 昭和54年 「盛岡市史 近世期上」復刻版第二巻
- 盛岡市教育委員会 1981 「志波城跡Ⅰ 太田方八丁遺跡範囲確認調査報告」
- 盛岡市教育委員会 2000 「竹鼻遺跡」『盛岡市内遺跡群』－盛岡市教育委員会－
- 昭和36・38年 「岩手県史 第三巻 中世篇下」・「岩手県史 第5巻 近世篇2」

VI 鑑定・分析

盛岡市 ^{だいたろう} 台太郎遺跡（23次調査）から出土した植物種子

^{よしぎまさかず} *吉崎昌一・^{つばさきかやすよ} **椿坂恭代

1. 遺跡と調査の概要

- 遺跡名 : ^{だいたろう} 台太郎遺跡
所在地 : 岩手県盛岡市向中野字向中野16-15他
調査期間 : 平成11年4月16日～11月15日
発掘調査面積 : 27,800m²
調査主体 : 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
調査担当者 : 杉沢昭太郎ほか
遺跡の立地 : 東日本旅客鉄道東北本線仙北町駅の南西約900mに位置し、雫石川南岸の河岸段丘に立地している。標高は120.28～122.12m、北緯39度8分付近に当たる。
検出遺構 : 竪穴住居跡（奈良時代・平安時代・中世）掘立柱建物跡（平安時代・中世・近世）、竪穴状遺構（奈良時代以降）、土坑、炉跡、堀跡、円形周溝、井戸跡、柱穴状土坑など。
遺構の年代 : 扱った資料は中世と考えられる

2. 扱った資料

分析資料として扱った植物種子は、北宋銭の共伴からみて中世（13世紀後半～15世紀ころ）の墓坑と考えられている。この墓坑の埋土下部の土壌を採取し、その土壌を水で溶き浮遊した遺物をガーゼですくい取った資料で送付されてきた。これらを実体顕微鏡を用いて分類と撮影を実施した。種子の検出された遺構と層準については、文末の表に示しておく。

3. 中世の墓坑から検出された種子について

イネ *Oryza sativa* L. (図版1-1)

すべて籾殻で検出されている。資料は酸化⁽¹⁾した状態で、その大半は破損していた。それらの中に芒の短い資料を観察されることから、出土した籾殻はおそらく短芒であると考えられる。図示した資料の計測値は長さ7.3mm、幅3.7mm、

アワ *Setaria italica* (L.) P. Beauv (図版1-2a, 2b)

穎果（内・外穎が伴う）の状態検出されている。資料は酸化しておりすべて破損していた。内・外穎の表面の各細胞の一端に乳頭状の組織が観察される。この組織は、エノコログサ *Setaria viridis* P. Beauv., キンエノコロ *Setaria glauca* Beauv.などが同一の構造を持つので、それだけでは分類が困難である。しかし、形態などの観察からはアワ *Setaria italica* (L.) P. Beauv.に分類されると考える。図示した資料の計測値は長さ1.95mm、幅1.1mm、

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv. (図版1-3a,3b)

穎果(内・外穎が伴う)が1粒出土している。酸化した状態で保存は悪い。内・外穎の表面にはヒエ属特有の「長細胞」が観察された。しかし、イヌビエなどは同一の組織を持つため栽培種、野生種の分類は困難である。資料は破損のため計測できなかったが穎果の形態・胴部のふくらみ、大きさから栽培型のヒエと考える。

キイチゴ属 (図版1-4)

酸化した状態で1粒出土している。種子は扁卵形。種皮の全面に大きな網状の模様がある。キイチゴ属種子の仲間には形態の類似したものが多く、種までの分類はできなかった。図示した資料の計測値は長さ2.0mm, 幅1.1mm, 厚さ1.0mm。

コメント

今回扱った資料は、これまで調べた他の遺跡出土の植物種子に比べて保存状態が異なっている。検出されたそれぞれの種子は、全て護穎、内外穎が残存するだけで、内部の胚乳部分がそっくり消失している。こうした現象は、旧墓墳のくぼみが脱穀後の残廢の投棄場所に利用されたのか、意図的にこうした残廢を土壌を埋める土壌に混じる習慣があったのか、あるいは胚乳だけがバクテリアの作用で消失してしまったのかなどの視点で、資料の詳細な検出状況についての考古学的に検証する必要があると考える。

(註)

1) 酸化状態で出土する種子

発掘で得られる種子の中には、褐色あるいは褐黄色の酸化状態を示すものが多数ある。特に水漬きや泥炭の層準から検出されるものの中には、葉緑素を残すものの短時間で黒変する状態のものがよく見られる。これらの資料は、加熱による炭化と言うより、むしろ未炭化あるいは酸化状態にあるものというべきであろう。通常、栽培植物種子は炭化した状態の出土を示すものが多いが、そのあり方は当該植物の利用方法の差にも関係するらしい。例えば、遺跡からよく検出されるニワトコの種子は、炭化せずに酸化状態で検出されることが多い。

こうした同層準から見いだされる酸化状態のものが、後世の混入でないかどうかを確認するべく、札幌市埋蔵文化財センターが炭化・酸化両タイプの植物標本の年代測定を行ったことがある(吉崎・椿坂1998)。得られた数値はほぼ同一であった。したがって、種子の性質によっては炭化の過程を経ないで残存するものもあることが確かである。

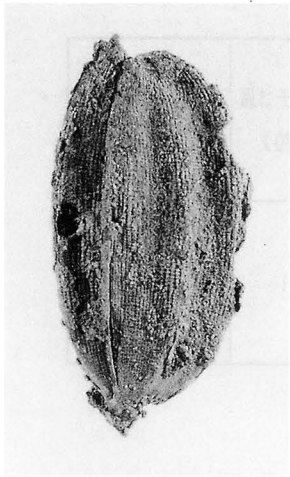
【引用文献】

吉崎昌一・椿坂恭代

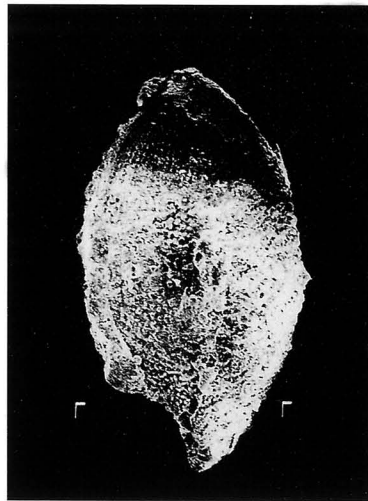
1998：札幌市N30遺跡から検出された植物種子「N30遺跡」札幌市文化財調査報告書58

本文編164-172, 図版編225-227, 札幌市教育委員会

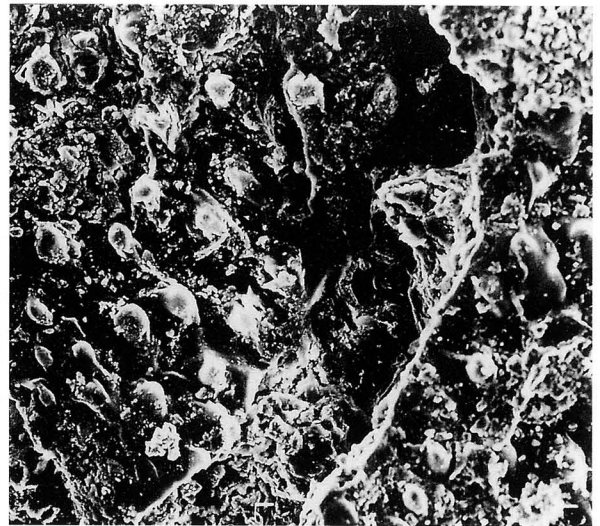
*札幌国際大学 **吉崎研究室/考古植物研究会



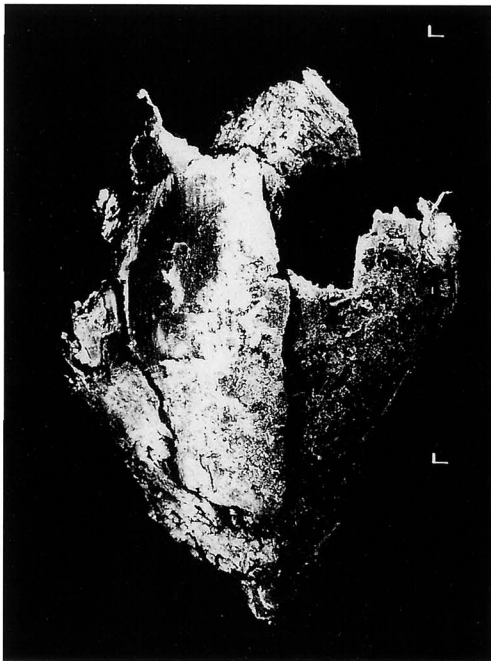
1 イネ



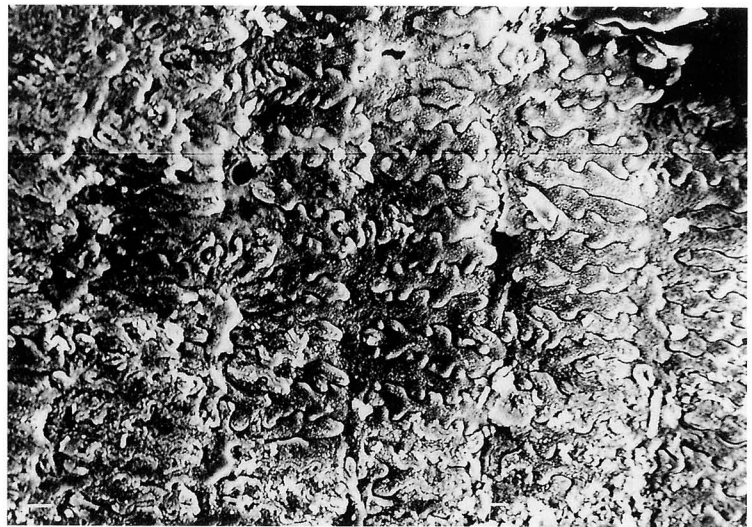
2a アワ ×35



2b 表面組織「乳頭突起」 ×500



3a ヒエ属 ×35



3b 表面組織「長細胞」 ×720



4 キイチゴ属 ×35

盛岡市台太郎遺跡種子出土表

遺構名	サンプル 採取位置	サンプル 採取量(g)	浮遊物 総量(g)	時 期	イ ネ (粒)	ア ワ (粒)	ヒ工属 (粒)	キイチゴ属 (粒)	
RD309墓壙	埋土下部	1.33	0.66	13世紀後半～ 15世紀	32	54	1	1	北宋銭と共伴

台太郎遺跡出土人骨報告

前田朋子・川久保善智・百々幸雄
東北大学大学院医学系研究科人体構造学講座

岩手県盛岡市台太郎遺跡から中世の墓壙が多数検出され、そのうち4基から焼土や炭粒に混じって骨片が出土した。これらの骨片の色は灰褐色ないし青灰白色を呈し、多数の亀裂が入り変形も著しいことから、焼骨であることは明らかである。また、骨片はいずれも細片化しているため、骨格中の部位の識別は困難であるが、ヒト以外の獣骨片は認められない。

RD433 (写真1-1・1-2)

成人男性の焼骨の総重量は2~3kgであるが(山口1983, 馬場・他1986)、本墓壙から検出された骨片の総重量は665gである。しかし、骨片は断片的ながら全身各部にわたって認められることや、部位の重複もみられないことから、ほぼ1体分と考えて良さそうである。

〈頭蓋骨〉

矢状縫合を含む幅5cm、長さ10cm程度の左右頭頂骨片を始め、乳様突起を含む右側頭骨、左側頭骨岩様部、後頭骨のそれぞれ小片が認められる。さらに、下顎骨では歯槽を含む前歯部破損、右下顎体後部片と下顎枝片、左関節頭を含む下顎枝破片が同定される。頭蓋骨の総重量は81g。

〈体幹骨〉

頸椎2点が認められるが、他は椎骨の小破片が認められるのみである。体幹骨の総重量は17gである。

〈四肢骨〉

右上腕骨遠位端1点、尺骨近位部破片1点、橈骨片1点、大腿骨体片2点、頸骨片1点、腓骨の近位端とみられる破片1点が同定された。四肢骨端では大腿骨または上腕骨の骨頭3点が認められた。また、指骨2点も認められた。その他、10cm程度の長さにも復元できた長骨骨体の断片が4点あるが、その何れも部位の同定が不可能であった。その他の小骨片は同定不能。四肢骨の総重量は361gである。

〈年齢と性の推定〉

この個体は大腿骨骨体の太さおよび筋付着部の発達程度や、大腿骨、上腕骨骨頭の大きさ、頭蓋冠の厚さ、さらに下顎歯槽の形成状態から考えて成人骨であることは明らかである。また、頭蓋の縫合に著しい癒着傾向が認められないため、老年に達している可能性は低く、壮~熟年程度と考えられる。

性別は右乳様突起の大きさと発達程度、大腿骨骨体の太さおよび筋付着部の発達程度、大腿骨・上腕骨骨頭の大きさから判断すると男性的だが、残存部位が断片的で変形が著しいため、明言はできない。

RD712 (写真2)

骨片の総重量は228gであり、これは成人1体分としては極めて少ない。骨片は大きいものでも5cmを超えず、2cm以下のものが大半をしめる。部位の重複は特にみられない。

〈頭蓋骨〉

頭蓋冠の破片が数点認められるが、何れも部位は不明である。

〈四肢骨〉

長骨骨体の破片が数十点認められるが、何れも詳細な部位の同定が不可能である。その他、大腿骨または

上腕骨の骨頭が1点認められる。

〈年齢と性の推定〉

頭骨・四肢骨片の厚さからみると、成人には達していたと考えられる。性別は不明。

RD713 (写真3)

骨片の総重量は110gであり、これは成人1体分としては極めて少ない。骨片は大きいものでも5cmを超えず、2cm以下のものが大半をしめる。部位の重複などは特にみられない。

〈頭蓋骨〉

外後頭隆起を含む幅4.5cm、長さ3cm程の大きさの後頭骨片が認められる。その他、頭蓋冠の破片が数点認められるが、詳細な部位は不明である。

〈体幹骨〉

椎骨の小破片が数点認められ、そのうちの1点は椎弓根の太さから腰椎、または下位の胸椎と考えられる。

〈四肢骨〉

長骨骨体の破片が数点認められるが、何れも詳細な部位の同定が不可能である。

〈年齢と性の推定〉

後頭骨及び頭蓋冠の破片が比較的厚いことから、少なくとも成人には達していたと考えられる。また、外後頭隆起から最上項線にかけての発達が比較的良く男性的だが、これだけでは性別を決定する材料として不足である。

RD738 (写真4)

骨片の総重量は165gであり、これは成人1体分としては極めて少ない。骨片は大きいものでも5cmを超えず、2cm以下のものが大半をしめる。部位の重複などは特にみられない。

〈頭蓋骨〉

左下顎頭、右錐体内耳孔付近の破片が認められる。その他、頭蓋冠の破片が1点認められるが、詳細な部位は不明である。

〈体幹骨〉

椎骨の関節突起の破片が数点認められる。

〈四肢骨〉

寛骨臼の破片が認められる。長骨骨体の破片が数点認められるが、何れも詳細な部位の同定が不可能である。

〈年齢と性の推定〉

下顎頭の大きさは小児より大きいですが、成人にしてはやや小さい。焼成による収縮を考慮すると、少年期以降とするのが妥当であろう。性別は不明。

〈参考文献〉

馬場 悠男・茂原 信生・阿部 修二・江藤 盛治 (1986) 霊山根古屋遺跡の研究, 第一編 根古屋遺跡出土の人骨・動物骨, 霊山根古屋遺跡調査団, 93-113

山口 敏 (1983) 竜ヶ池観音堂塚群 発掘調査報告書Ⅱ, 9 出土人骨についての分析, 小千谷市教育委員会, 41-43

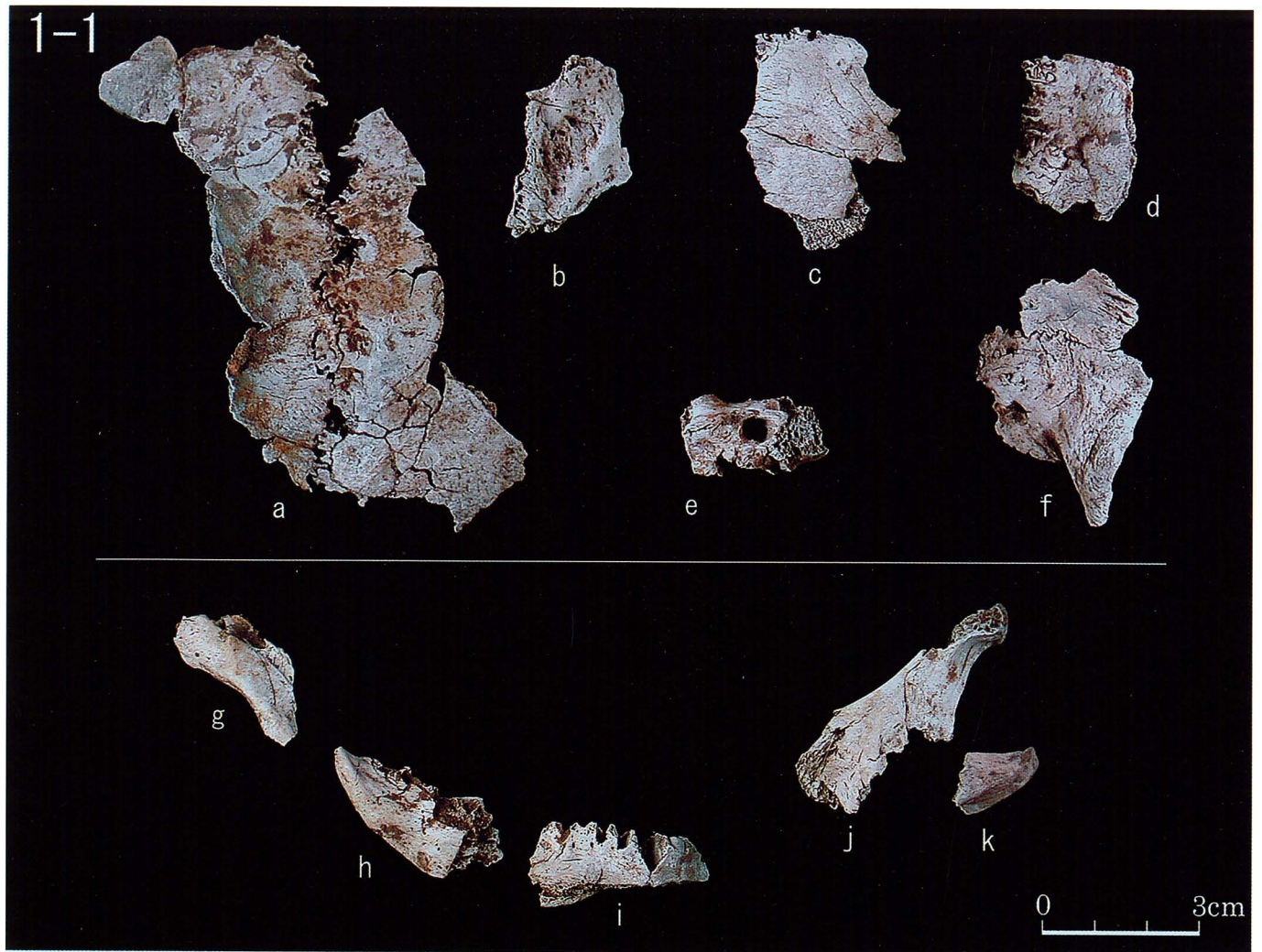


写真1-1 RD433 a 左右頭頂骨 b 後頭骨 c,d 頭骨片 e 左側頭骨岩様部 f 右乳様突起 g 右下顎枝
h 右下顎体後部 i 前歯槽部 j,k 左下顎枝

写真1-2 RD433 a 大腿骨 b 脛骨 c 尺骨 d 橈骨 e 右上腕遠位端 f 四肢骨片

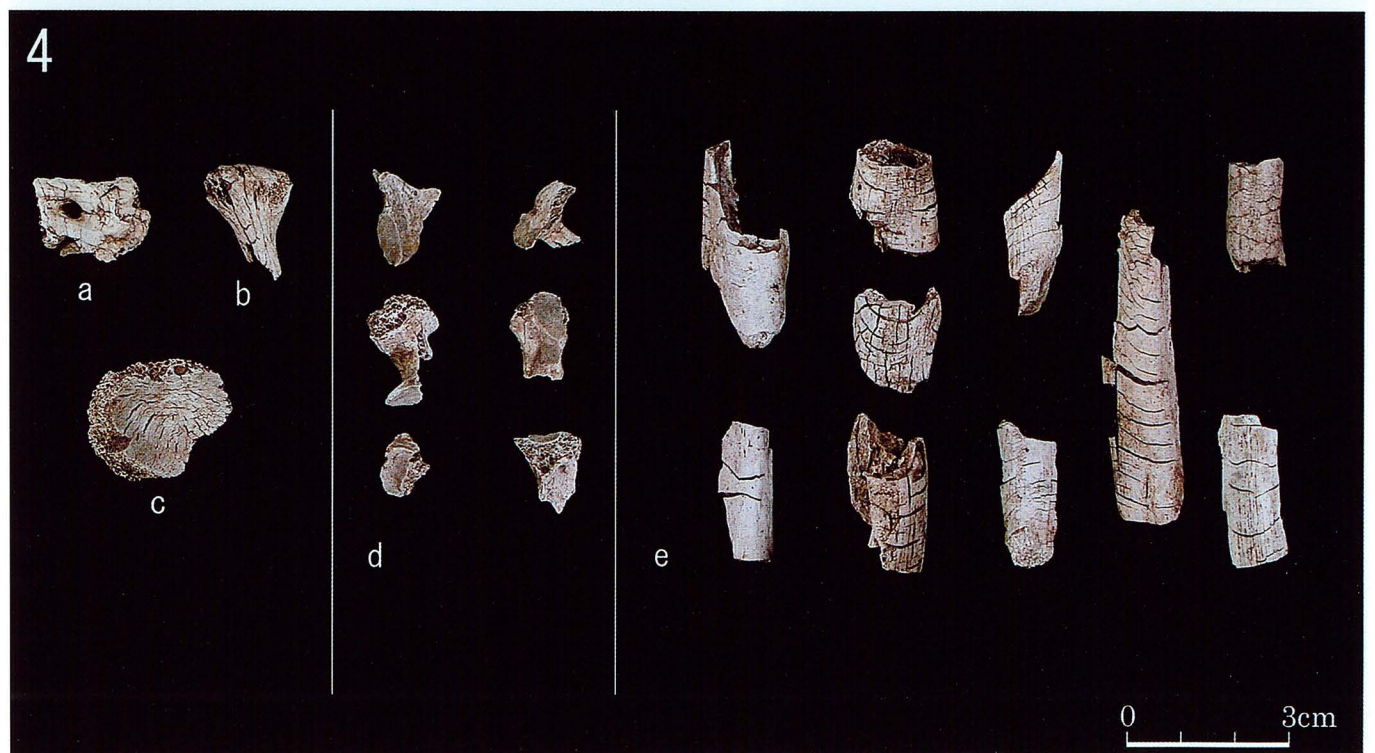
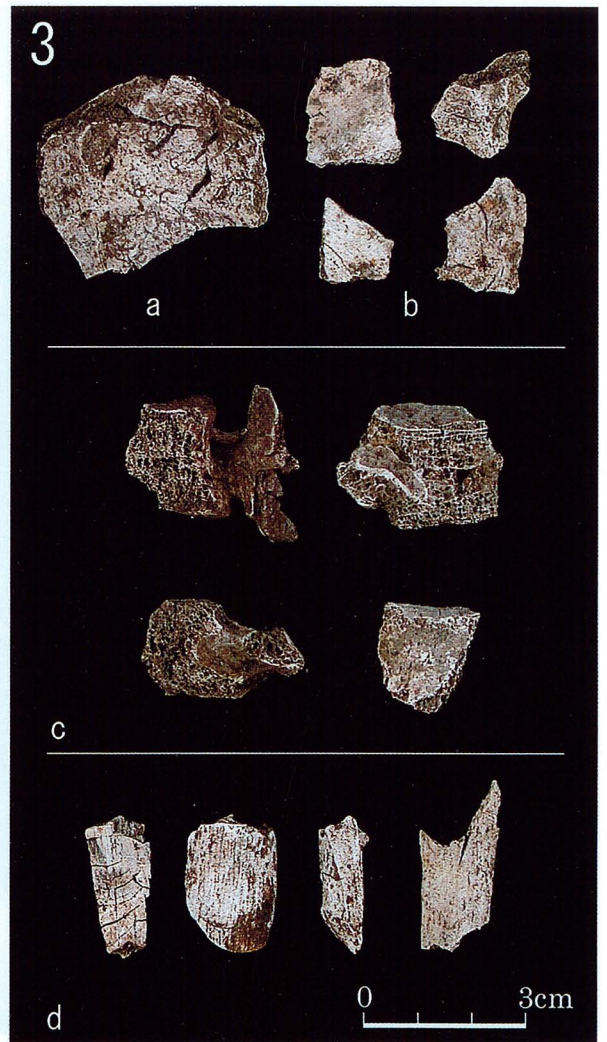
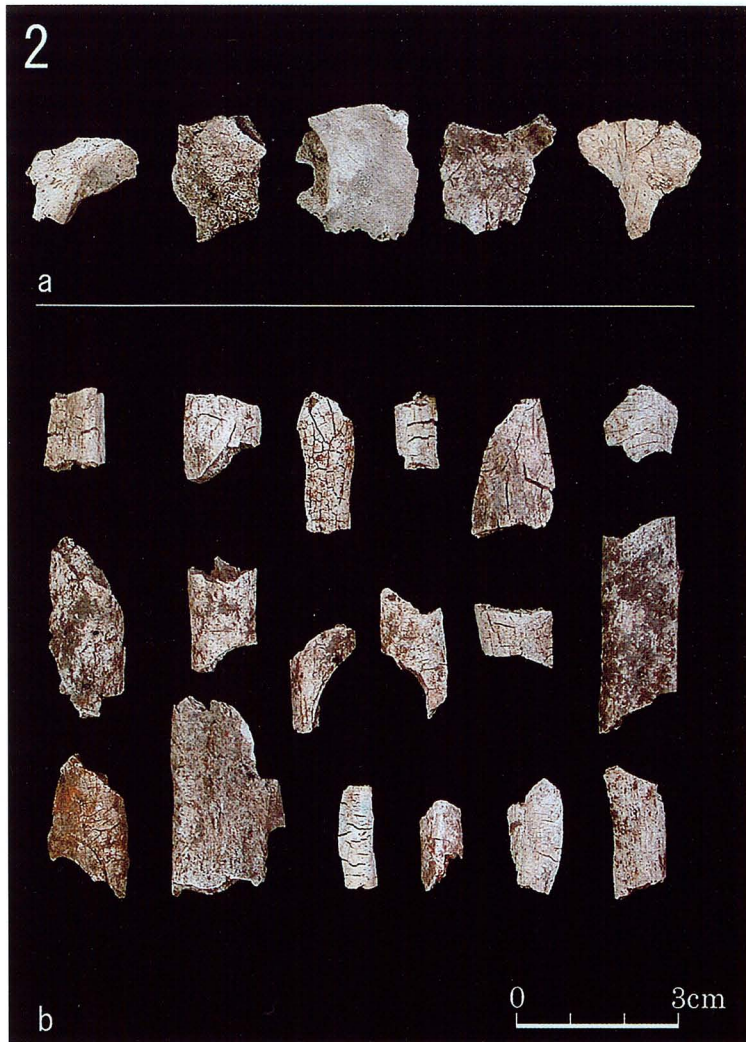


写真2 RD712 a 頭骨片 b 四肢骨片

写真3 RD713 a 後頭骨 b 頭骨片 c 椎骨片 d 四肢骨片

写真4 RD738 a 右錐体 b 左下顎頭 c 寛骨臼 d 椎体の関節突起 e 四肢骨片

報告書抄録

ふりがな	だいたろういせきだいにじゅうさんじはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	台太郎遺跡第23次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第415集							
編著者名	杉沢昭太郎 阿部真澄 北村忠昭							
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL 019-638-9001							
発行年月日	西暦 2003年3月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
だいたろう いせき 遺跡 第23次 ちようさ 調査	いわてけん もりおかし 盛岡市 むかいなかの 字向中野 16-15ほか	03201	LE16-2269	39度 40分 43秒	141度 8分 40秒	1999年 4月16日 から 11月15日	27,800	盛岡南新都市開発整備事業にともなう事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
台太郎遺跡 (23次)	集落	古墳時代末 ～奈良時代	竪穴住居跡35棟、竪穴状遺構2棟		土師器(坏、高坏、甕類、甌など) 須恵器(高台付坏)			
		平安時代	竪穴住居跡27棟、竪穴状遺構1棟、掘立柱建物跡1棟、溝3条、土坑3基、円形周溝ほか5基		土師器(墨書あり、坏、高台付坏、甕など) 須恵器、鉄器(鋤先)			
	墓地集落 ほか	中世	墓壙330基、竪穴建物跡12棟、掘立柱建物跡3棟、竪穴状遺構7棟、焼土・炉跡25基、堀3条、溝3条、井戸3基、土坑28基、その他6基		陶磁器(青磁、白磁、染付、瀬戸、常滑、東北在地など) かわらけ 銭貨(北宋ほか) 木製品(漆器、木槌など)			
			民家ほか	近世及びそれ以降等	掘立柱建物跡4棟、竪穴状遺構5棟、墓4基、土坑38基、井戸2基、溝3条、その他2基			陶磁器、銭貨、鉄器、木製品

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集

台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

分冊 I

印 刷 平成15年 3 月20日

発 行 平成15年 3 月28日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
T E L (019) 638-9001
F A X (019) 638-8563

印 刷 株式会社 杜陵印刷
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ2-22-50
T E L (019) 641-8000
F A X (019) 641-8085

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第415集

だいたろう
台太郎遺跡第23次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

折込図版（1枚）



1 : 1,000

付図 台太郎遺跡(15次・18次・23次・26次)遺構配置図

